

(案)

平成30年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査  
(令和元年度調査)

(2) 介護サービスにおける機能訓練の状況等に係る調査研究事業  
報 告 書  
第2分冊



# <第2分冊>

## 目 次

### 第2章 アンケート調査結果

4. 利用者に関するアンケート調査結果.....	455
(1) 通所介護.....	455
(2) 認知症対応型通所介護.....	501
(3) 短期入所生活介護.....	544
(4) 特定施設入居者生活介護.....	584
(5) 認知症対応型共同生活介護.....	627
(6) 介護老人福祉施設.....	673
(7) 訪問介護.....	715
(8) 小規模多機能型居宅介護.....	759
(9) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護.....	803

### 第3章 機能訓練指導員の確保に関するアンケート調査の結果.....841

1. 通所介護.....	841
2. 認知症対応型通所介護.....	864
3. 短期入所生活介護.....	881
4. 特定施設入居者生活介護.....	900
5. 介護老人福祉施設.....	923

### 第4章 介護保険総合データベース任意集計調査の調査結果.....941

1. 全体の状況.....	941
2. 都道府県別の状況.....	943
3. 法人種別の状況.....	952

### 第5章 ヒアリング調査結果.....959

1. 調査対象.....	959
2. 加算算定事業所への調査結果.....	960
3. 加算非算定事業所への調査結果.....	969

調査票



## (参考) 目 次

第1章 事業の概要.....	1
1. 事業の背景と目的.....	1
(1) 事業の背景.....	1
(2) 事業の目的.....	1
2. 事業の実施方法.....	2
(1) 調査検討委員会の設置と開催状況.....	2
(2) アンケート調査.....	3
(3) 介護保険総合データベース任意集計調査.....	6
(4) ヒアリング調査.....	6
第2章 アンケート調査結果.....	9
1. 事業所・施設に対する調査結果.....	9
(1) 通所介護.....	9
(2) 認知症対応型通所介護.....	42
(3) 短期入所生活介護.....	72
(4) 特定施設入居者生活介護.....	102
(5) 認知症対応型共同生活介護.....	134
(6) 介護老人福祉施設.....	161
(7) 訪問介護.....	192
(8) 小規模多機能型居宅介護.....	227
(9) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護.....	261
2. ケアマネジャーに対するアンケート調査結果.....	294
(1) 通所介護.....	294
(2) 認知症対応型通所介護.....	301
(3) 短期入所生活介護.....	308
(4) 特定施設入居者生活介護.....	315
(5) 認知症対応型共同生活介護.....	322
(6) 介護老人福祉施設.....	329
(7) 訪問介護.....	336
(8) 小規模多機能型居宅介護.....	343
(9) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護.....	350
3. リハビリテーション事業所・医療提供施設に対するアンケート調査結果.....	357
(1) 通所介護.....	357
(2) 認知症対応型通所介護.....	368
(3) 短期入所生活介護.....	378

(4) 特定施設入居者生活介護.....	387
(5) 認知症対応型共同生活介護.....	396
(6) 介護老人福祉施設.....	407
(7) 訪問介護.....	416
(8) 小規模多機能型居宅介護.....	428
(9) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護.....	442
4. 利用者に関するアンケート調査結果.....	455
(1) 通所介護.....	455
(2) 認知症対応型通所介護.....	501
(3) 短期入所生活介護.....	544
(4) 特定施設入居者生活介護.....	584
(5) 認知症対応型共同生活介護.....	627
(6) 介護老人福祉施設.....	673
(7) 訪問介護.....	715
(8) 小規模多機能型居宅介護.....	759
(9) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護.....	803
第3章 機能訓練指導員の確保に関するアンケート調査の結果.....	841
1. 通所介護.....	841
2. 認知症対応型通所介護.....	864
3. 短期入所生活介護.....	881
4. 特定施設入居者生活介護.....	900
5. 介護老人福祉施設.....	923
第4章 介護保険総合データベース任意集計調査の調査結果.....	941
1. 全体の状況.....	941
2. 都道府県別の状況.....	943
3. 法人種別の状況.....	952
第5章 ヒアリング調査結果.....	959
1. 調査対象.....	959
2. 加算算定事業所への調査結果.....	960
3. 加算非算定事業所への調査結果.....	969

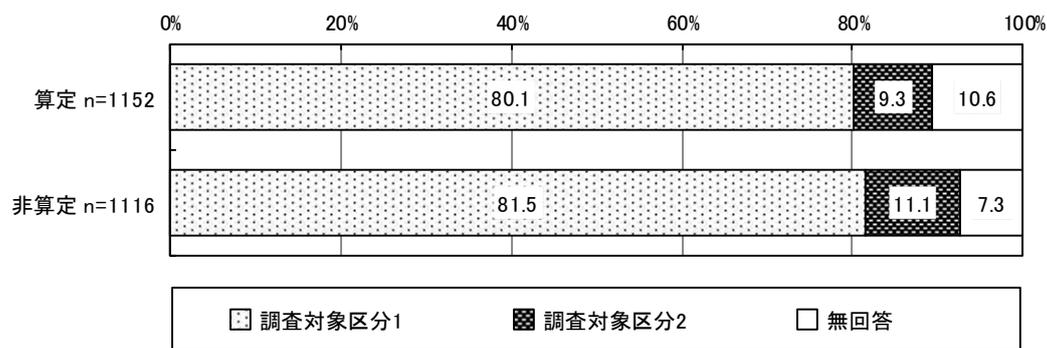
調査票

## 4. 利用者に関するアンケート調査結果

### (1) 通所介護

#### ア) 利用者の調査対象区分 (問0)

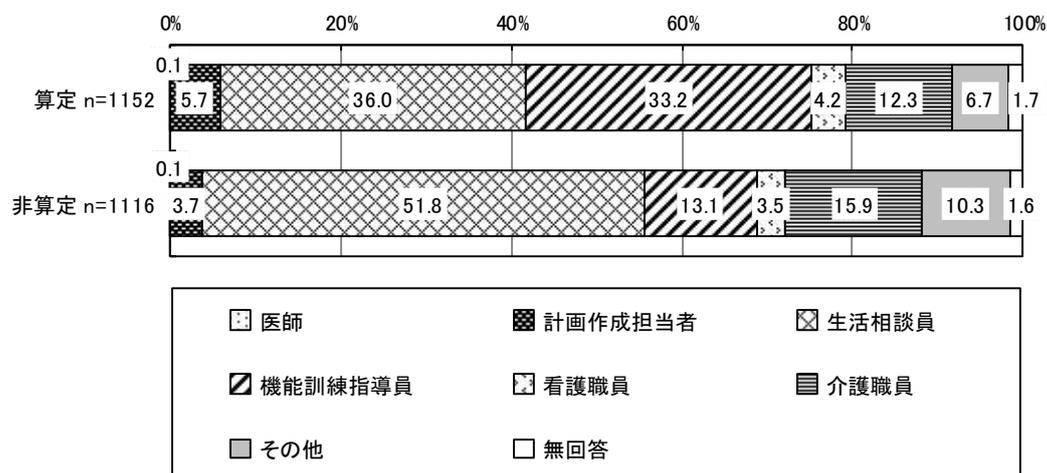
図表 774 利用者の調査対象区分



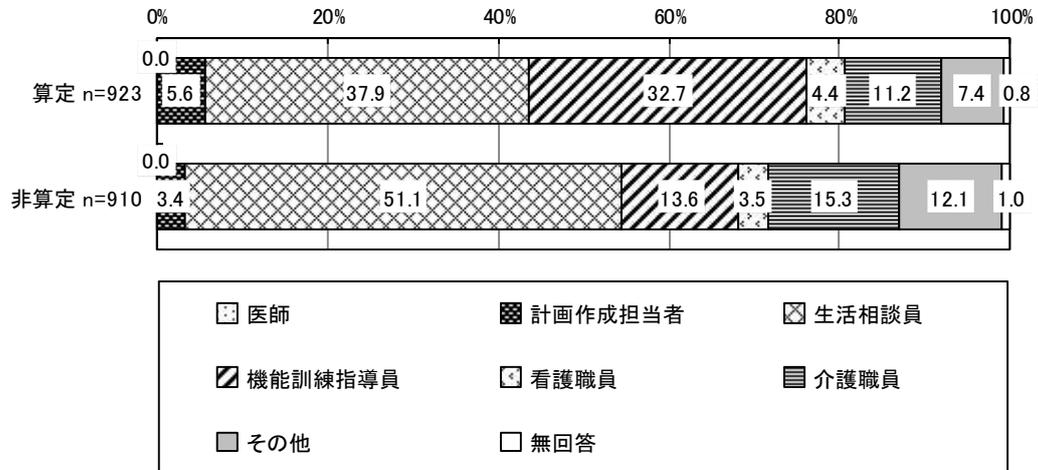
### I. 回答者の属性

#### ア) 回答者の職種 (問1)

図表 775 回答者の職種



図表 776 回答者の職種 区分1のみ



※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

- ・(算定) 管理者
- ・(非算定) 管理者

## II. 利用者の情報

### ア) 年齢 (問 2)

図表 777 年齢

(単位: 歳)

件数	平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
算定 n=1139	84.3	8.0	86	102	45
非算定 n=1100	85.2	7.5	86	103	37

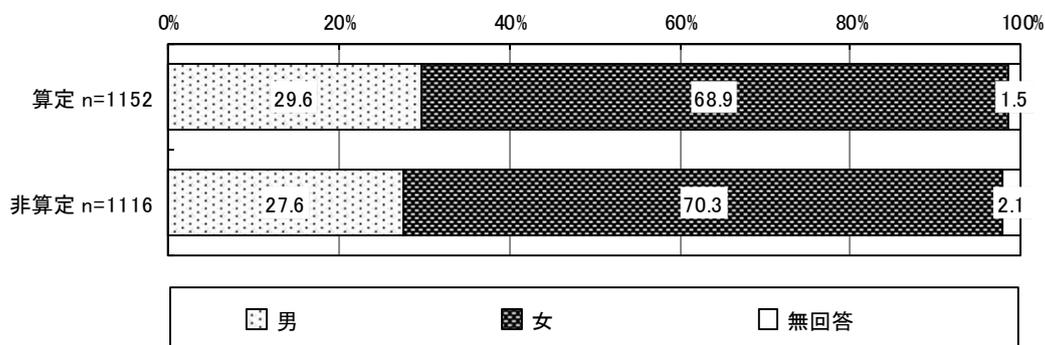
図表 778 年齢 区分 1 のみ

(単位: 歳)

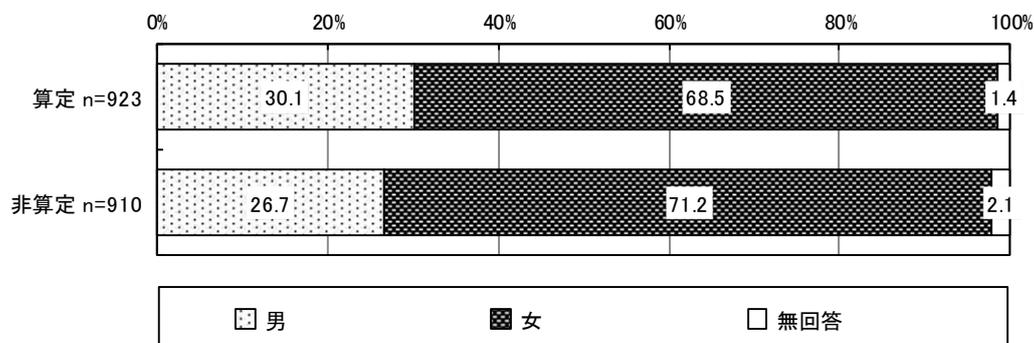
件数	平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
算定 n=914	84.3	8.1	86	101	45
非算定 n=899	85.4	7.3	86	103	54

### イ) 性別 (問 3)

図表 779 性別

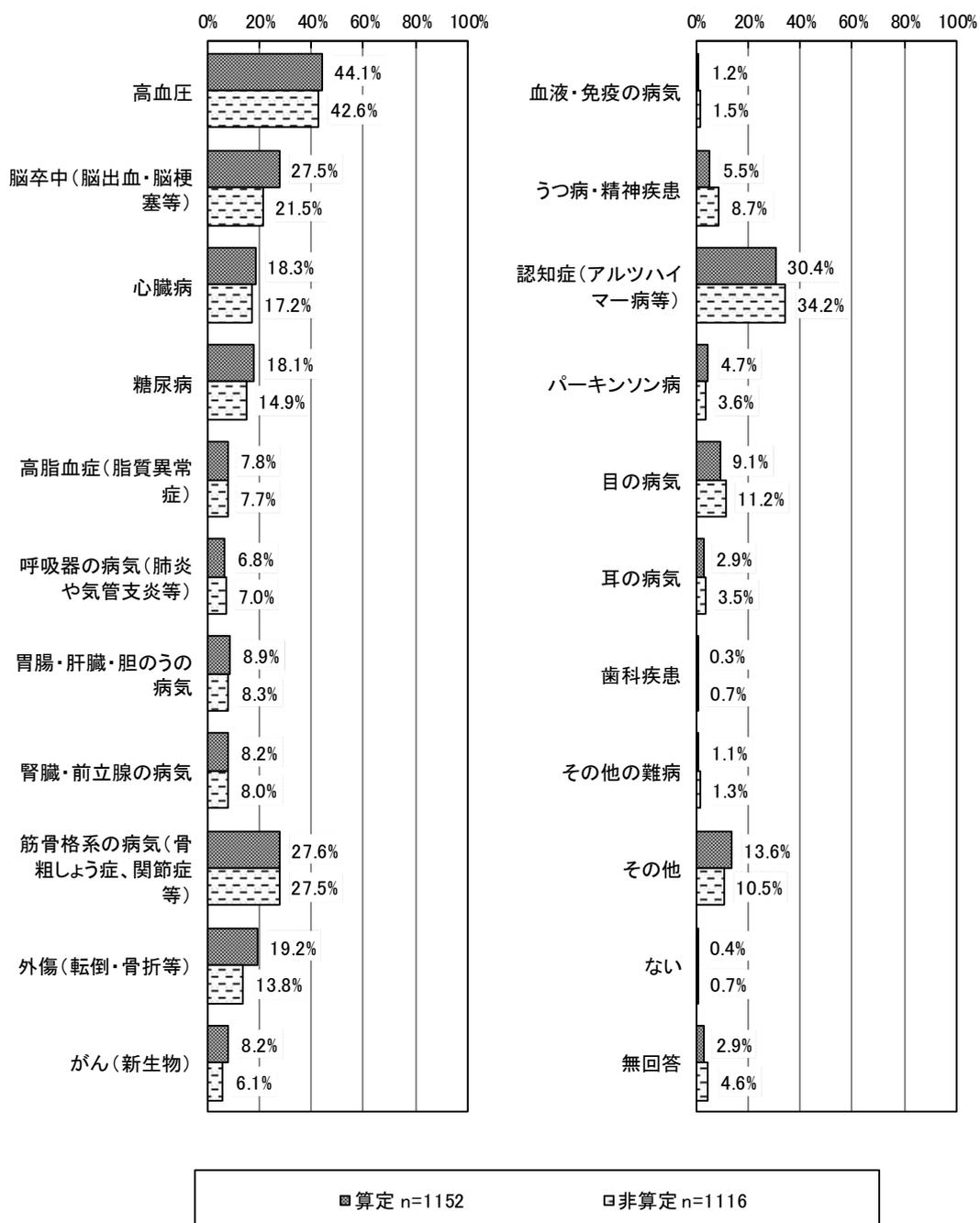


図表 780 性別 区分 1 のみ

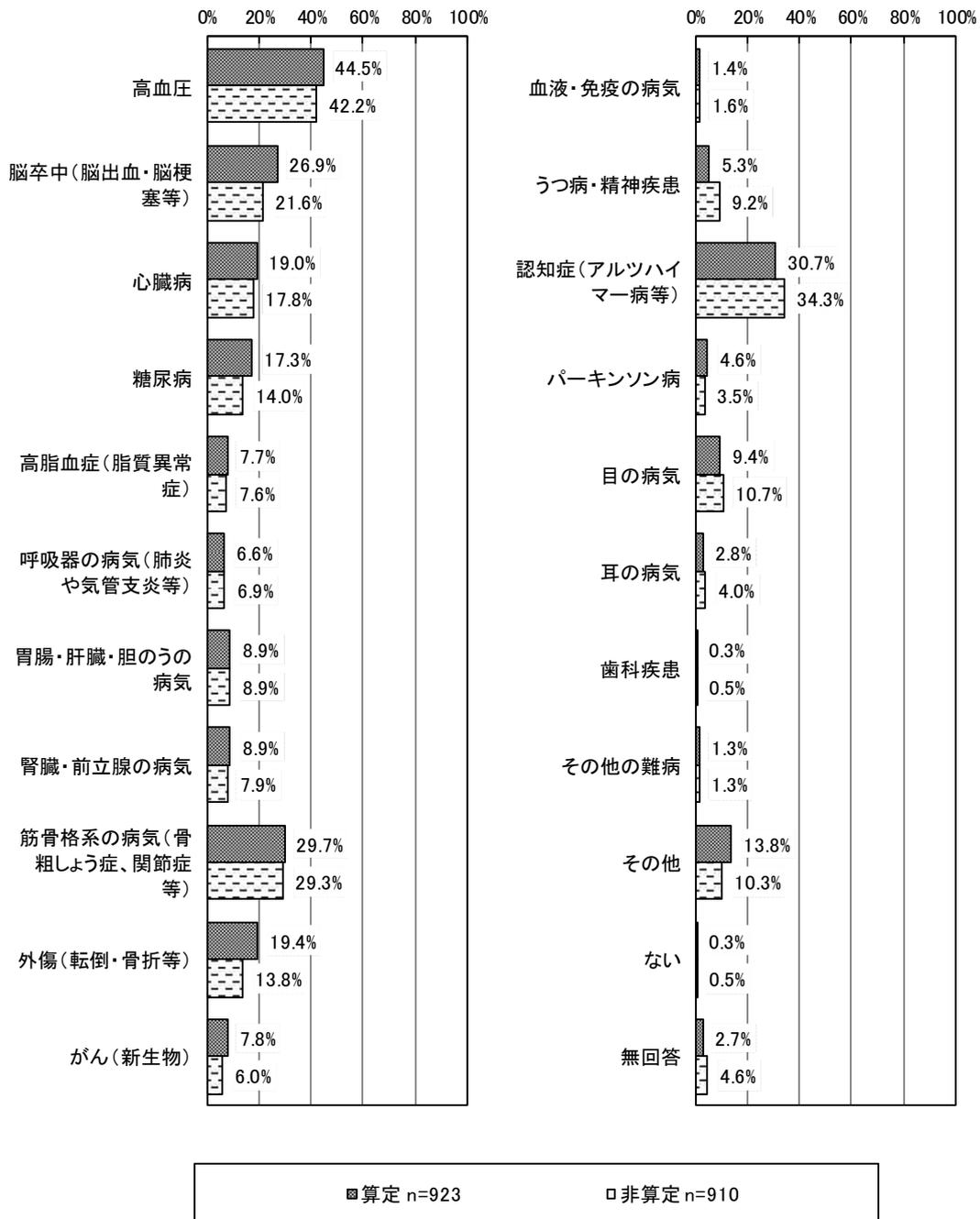


## ウ) 傷病名 (問 4)

図表 781 傷病名



図表 782 傷病名 区分1のみ

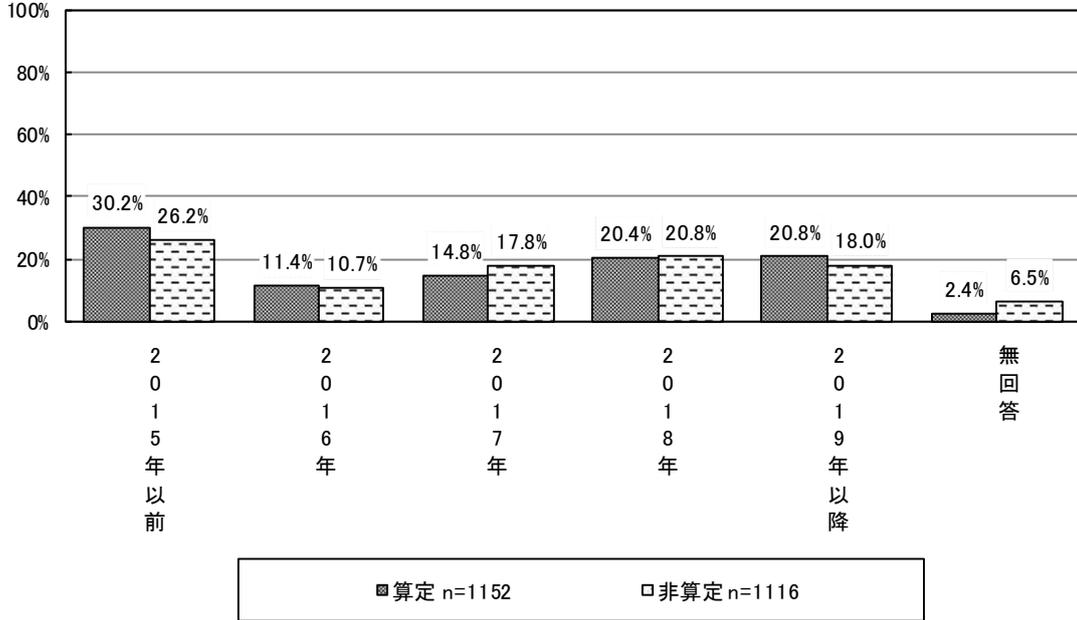


※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

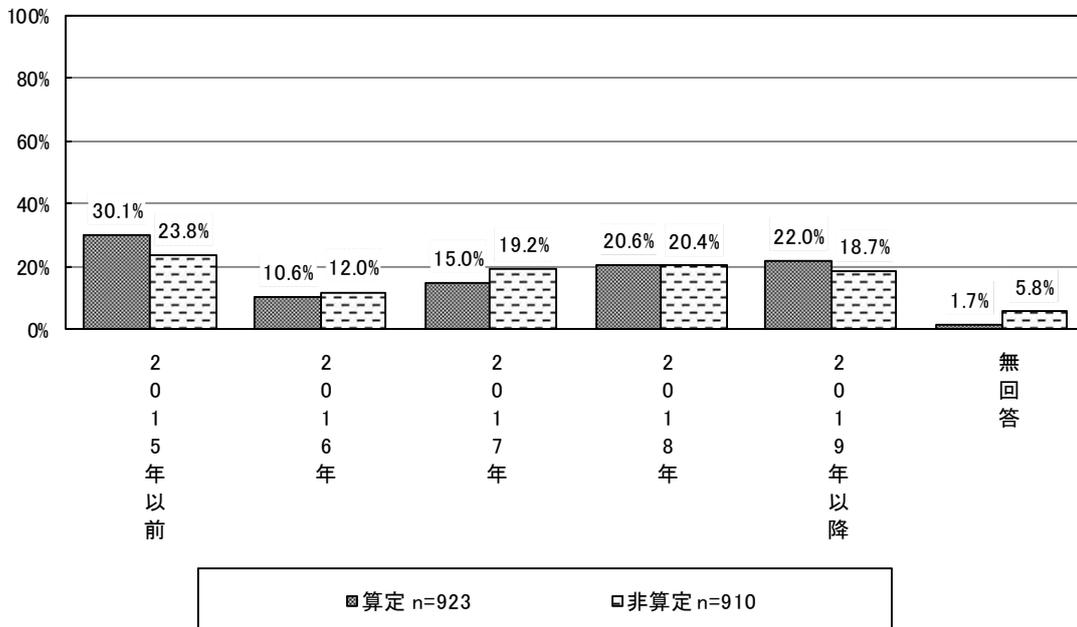
- ・(算定) 高尿酸血症
- ・(算定) 痛風
- ・(算定) 脊柱管狭窄症
- ・(非算定) 摂食障害
- ・(非算定) リウマチ

エ) 事業所・施設の利用開始時期（問 5）

図表 783 事業所・施設の利用開始時期

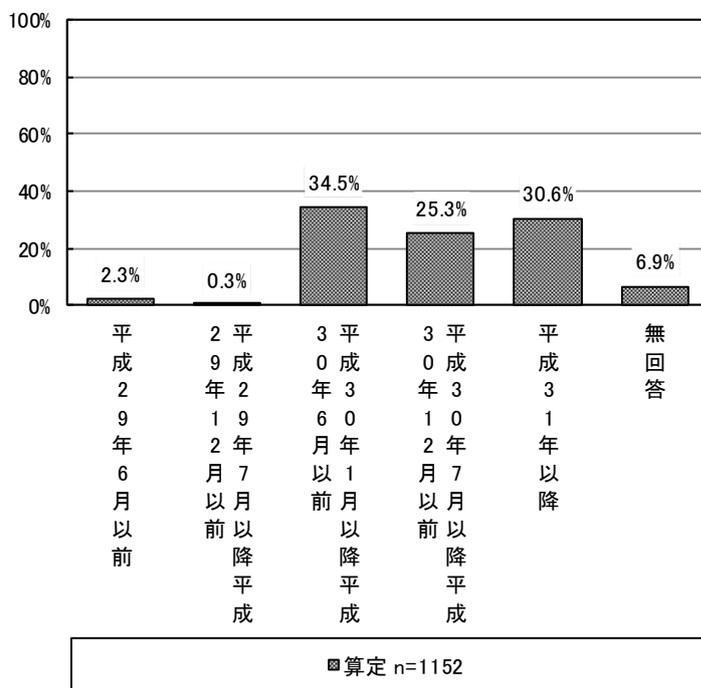


図表 784 事業所・施設の利用開始時期 区分1のみ

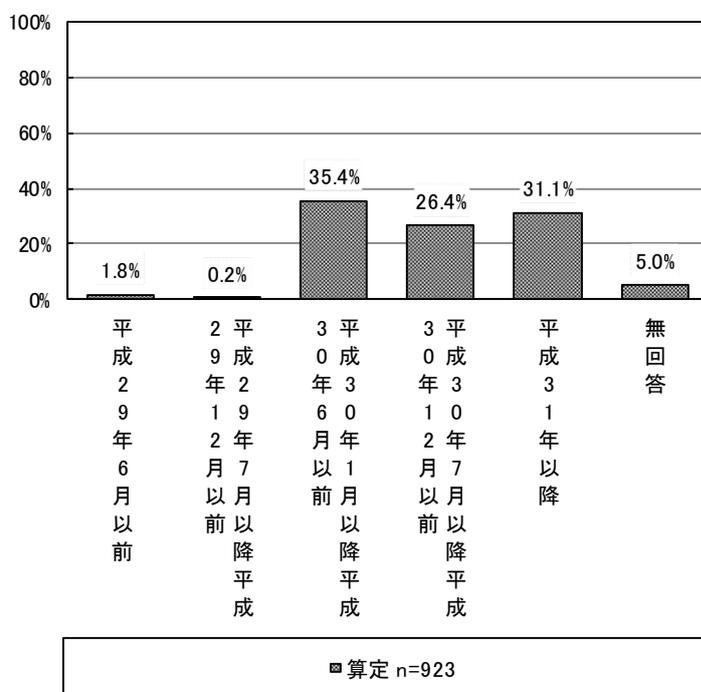


オ) 事業所・施設が加算算定に伴う連携を開始した時期（問 6）

図表 785 事業所・施設が加算算定に伴う連携を開始した時期

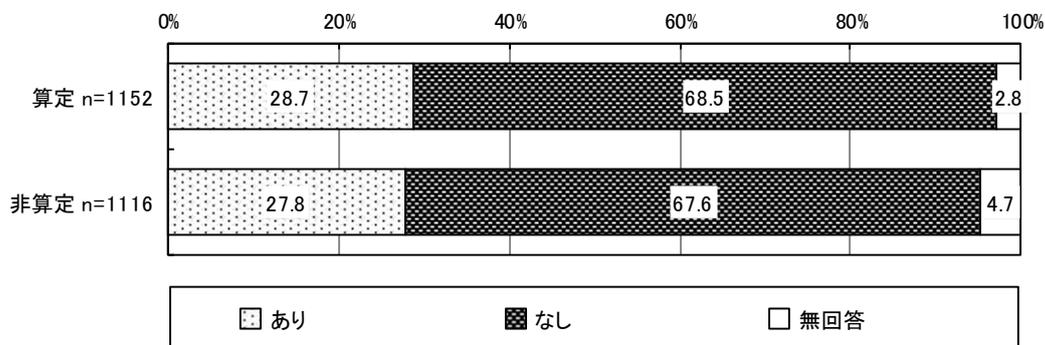


図表 786 事業所・施設が加算算定に伴う連携を開始した時期 区分1のみ

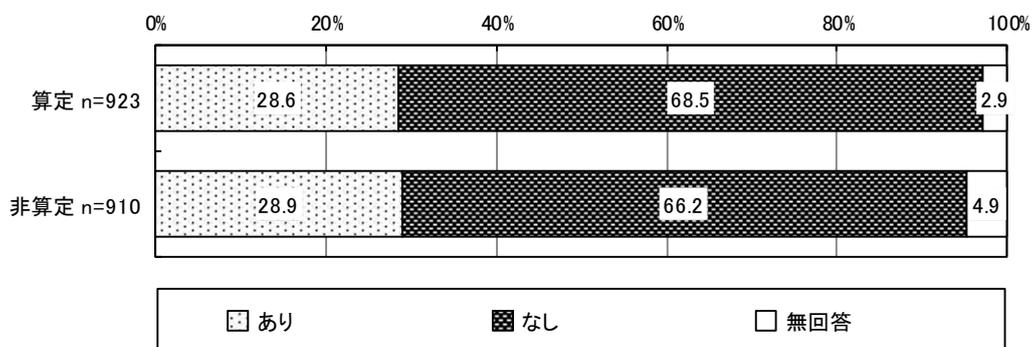


カ) 退院の有無と直近の入院期間（問 7）

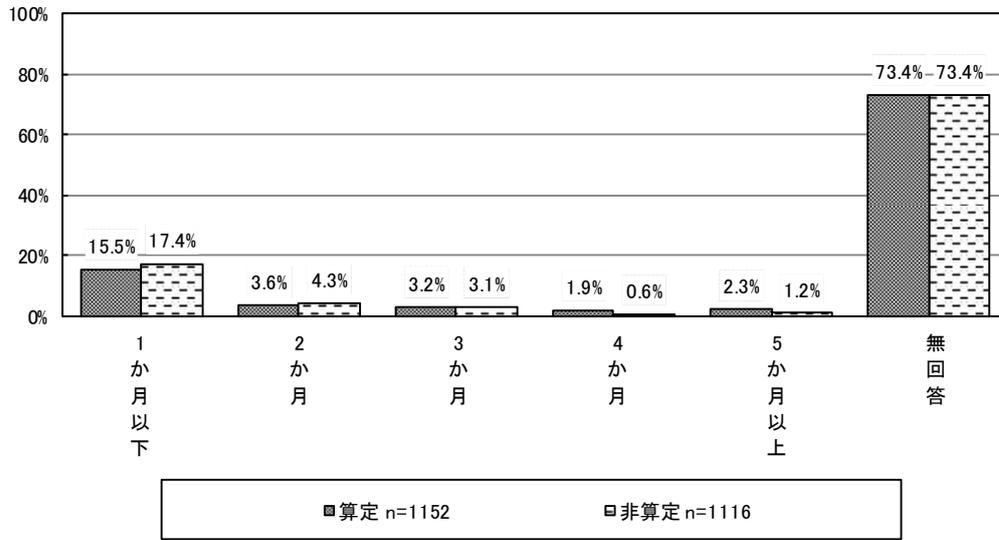
図表 787 退院の有無



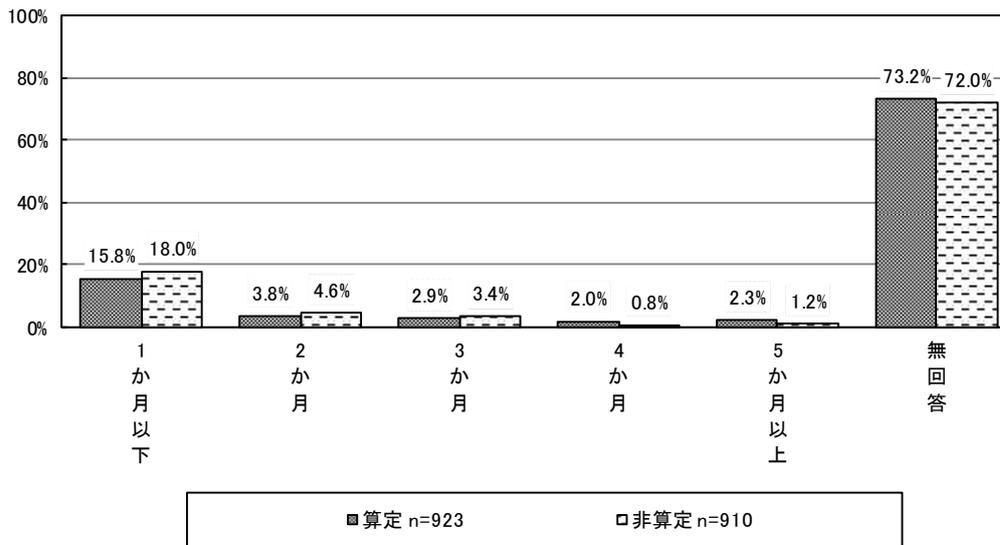
図表 788 退院の有無 区分 1 のみ



図表 789 直近の入院期間



図表 790 直近の入院期間 区分1のみ



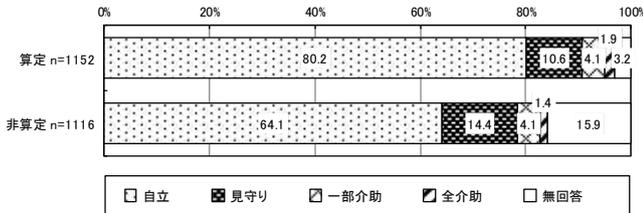
## キ) ADL・IADL の状況 (問 8)

図表 791 ADL・IADL の状況

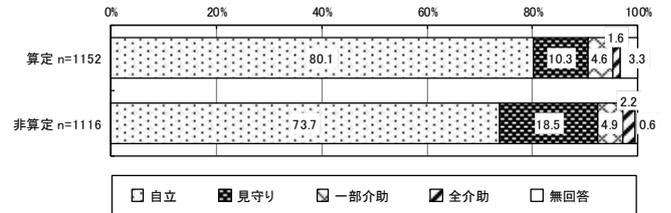
### 食事

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



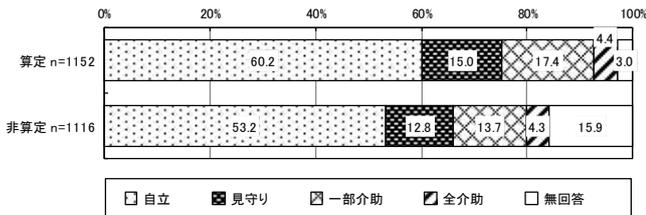
②令和元年 10 月 1 日時点



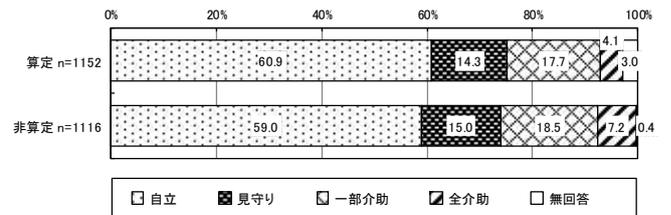
### 排泄

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



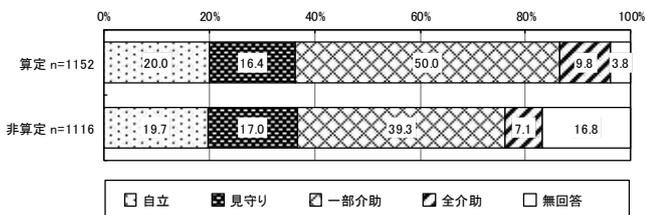
②令和元年 10 月 1 日時点



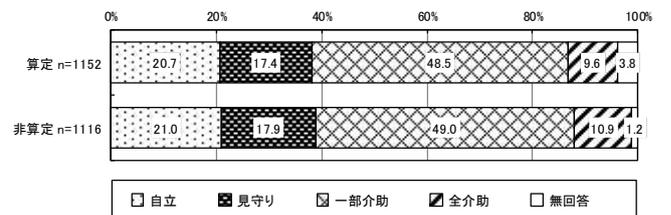
### 入浴

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



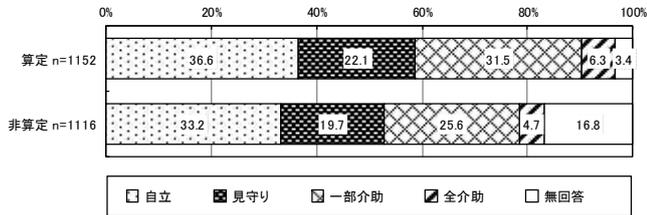
②令和元年 10 月 1 日時点



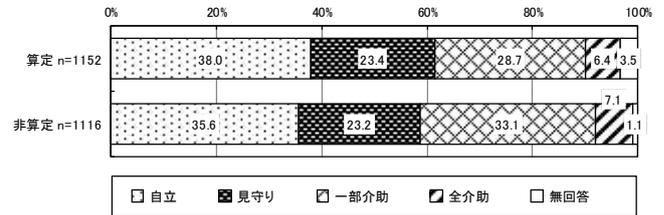
## 更衣

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



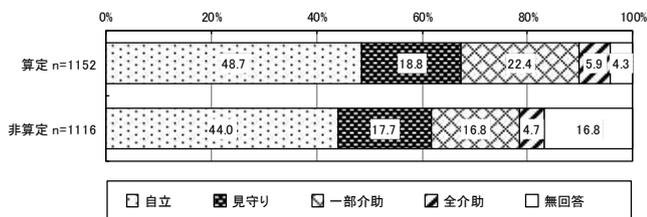
②令和元年10月1日時点



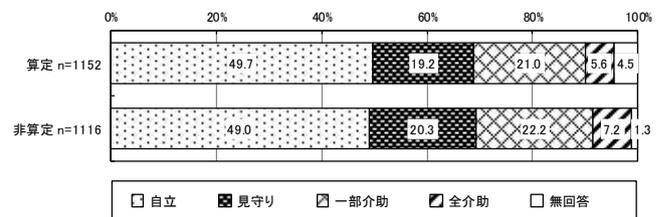
## 整容

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



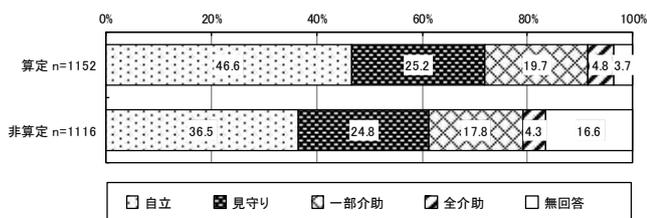
②令和元年10月1日時点



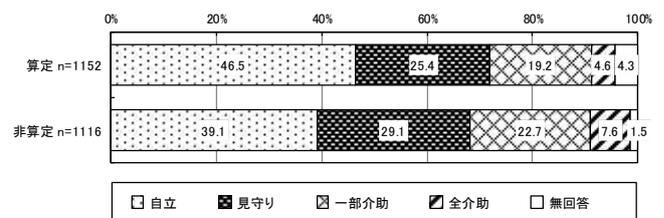
## 移乗

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



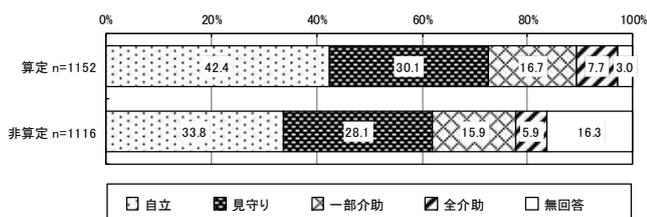
②令和元年10月1日時点



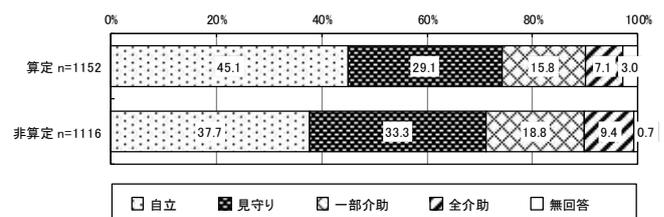
## 屋内移動

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



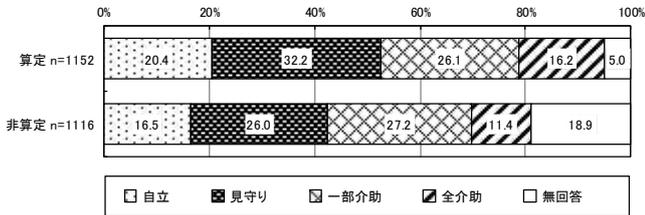
②令和元年10月1日時点



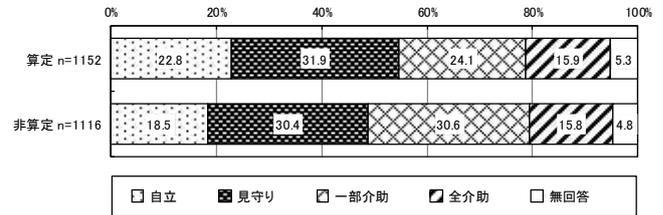
## 階段昇降

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



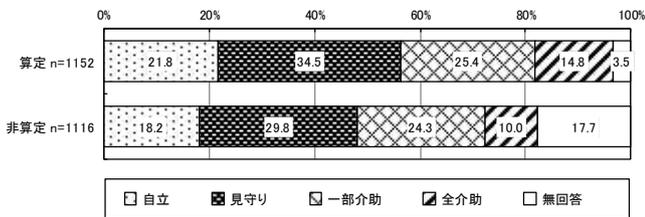
②令和元年10月1日時点



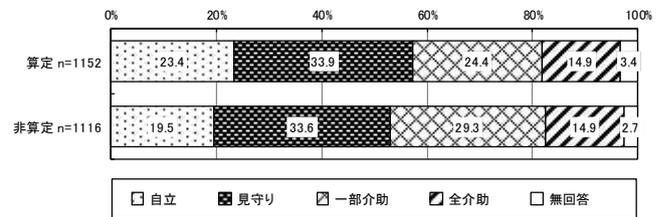
## 屋外移動

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



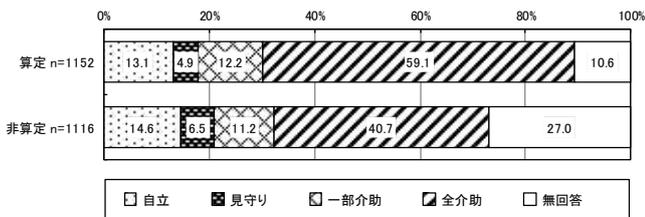
②令和元年10月1日時点



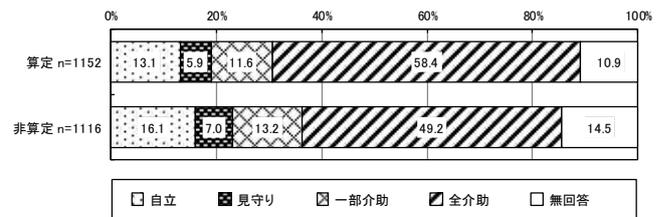
## 調理

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



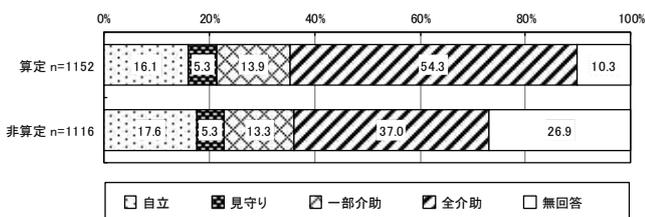
②令和元年10月1日時点



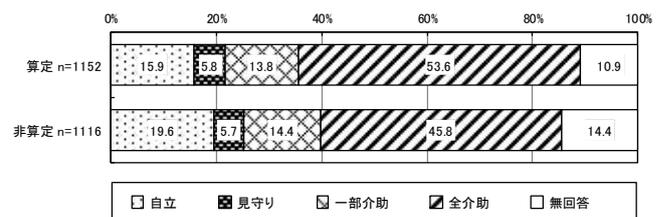
## 洗濯

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



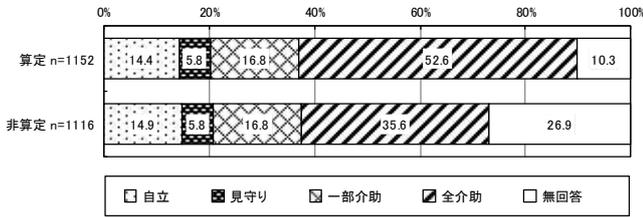
②令和元年10月1日時点



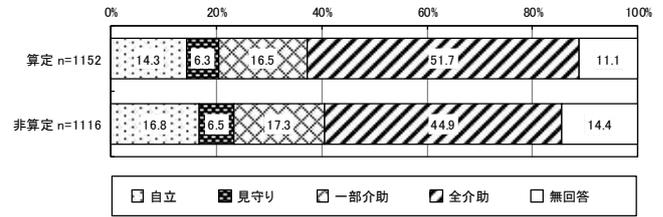
掃除

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



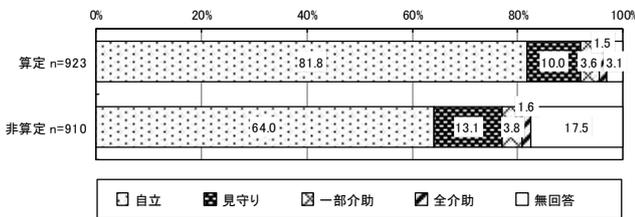
②令和元年10月1日時点



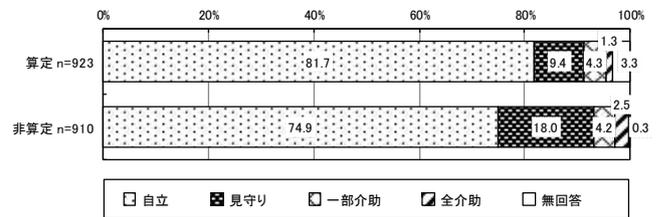
食事 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



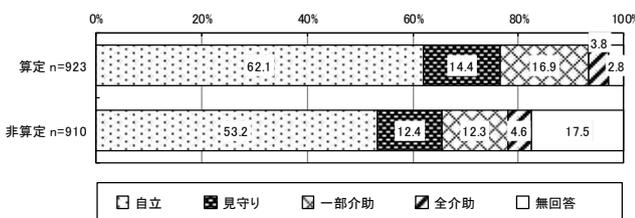
②令和元年10月1日時点



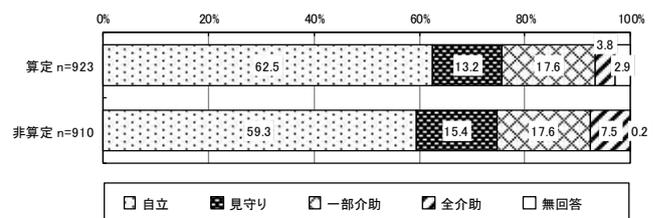
排泄 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



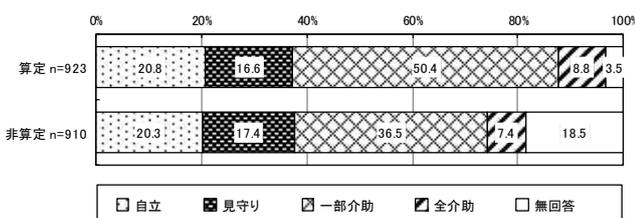
②令和元年10月1日時点



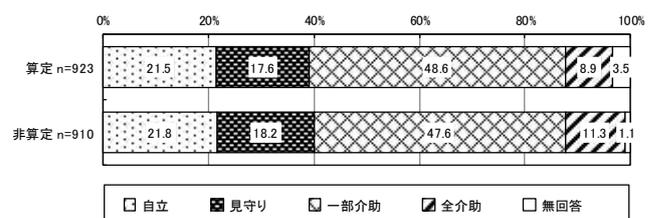
入浴 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



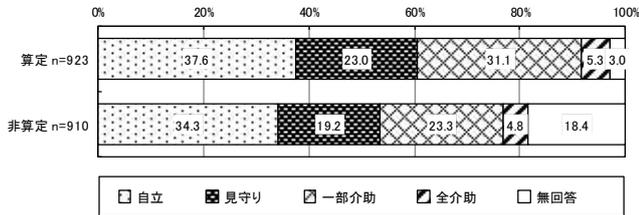
②令和元年10月1日時点



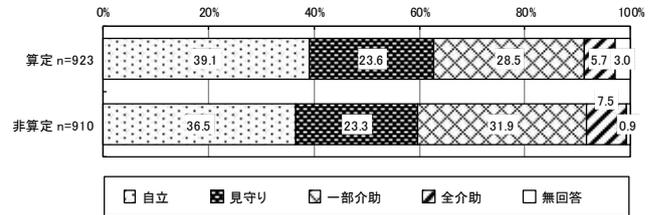
### 更衣 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



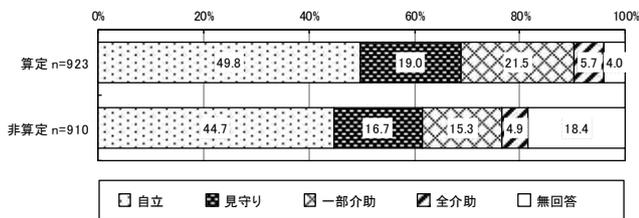
②令和元年10月1日時点



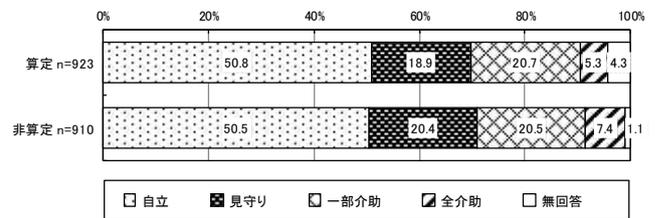
### 整容 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



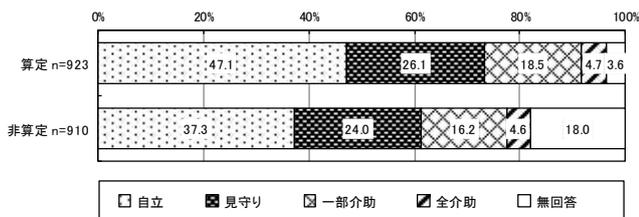
②令和元年10月1日時点



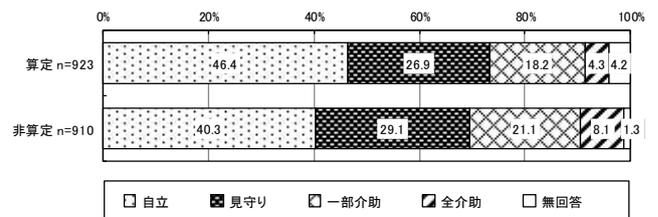
### 移乗 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



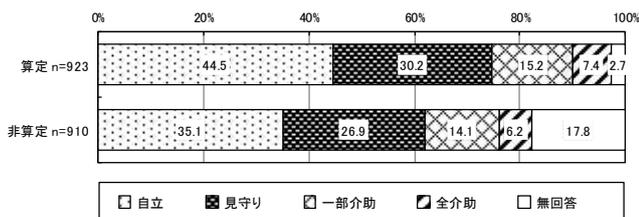
②令和元年10月1日時点



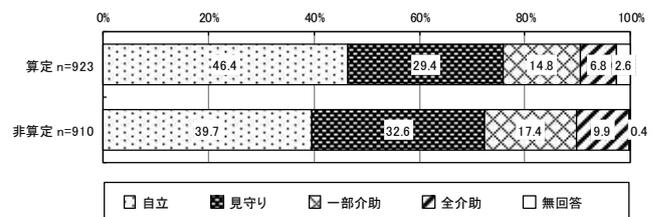
### 屋内移動 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



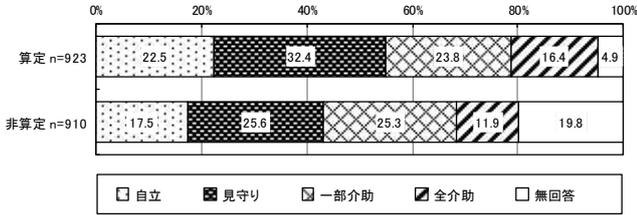
②令和元年10月1日時点



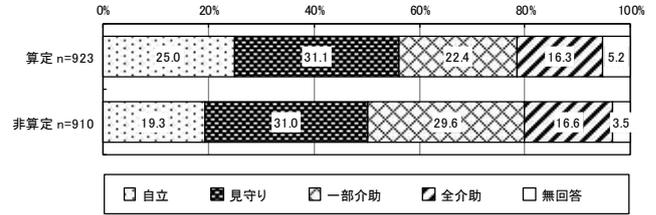
階段昇降 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



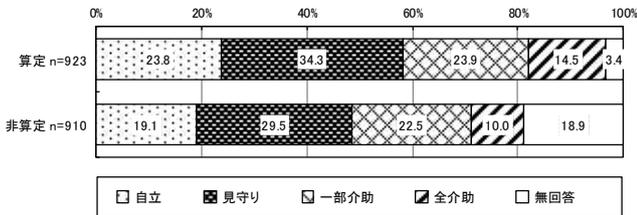
②令和元年10月1日時点



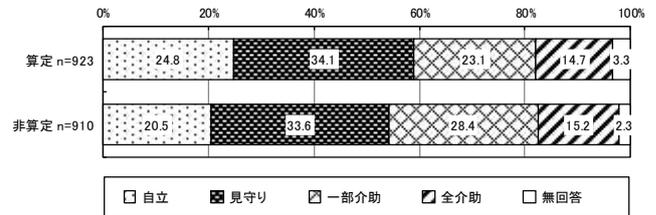
屋外移動 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



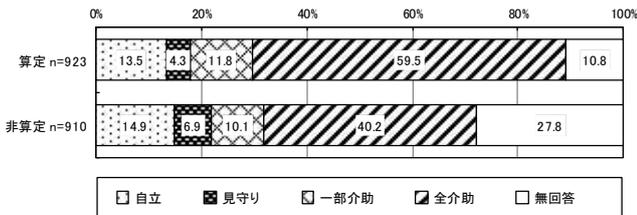
②令和元年10月1日時点



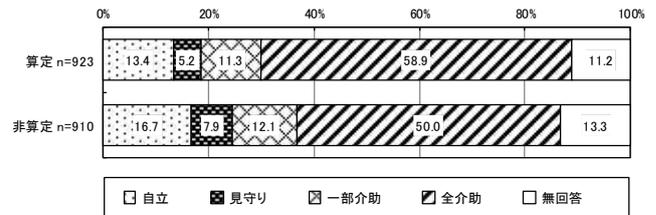
調理 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



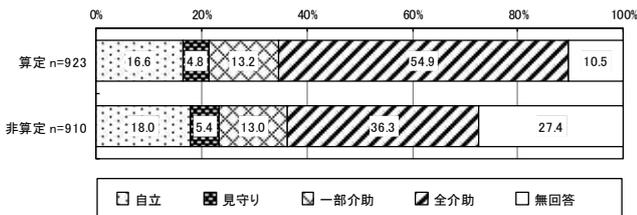
②令和元年10月1日時点



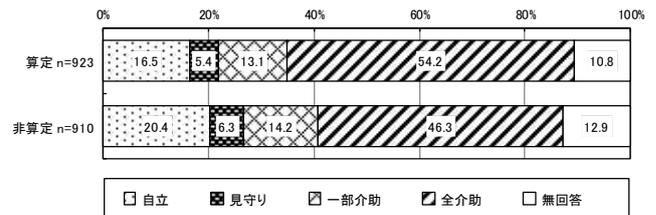
洗濯 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



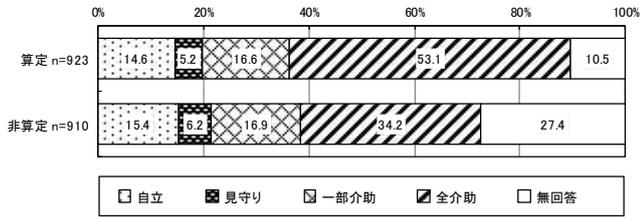
②令和元年10月1日時点



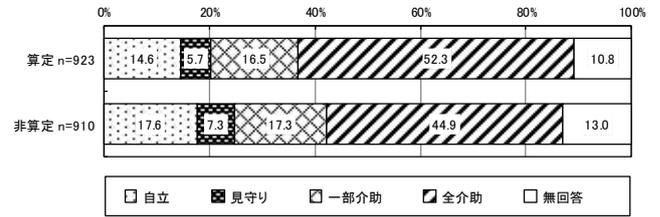
掃除 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点

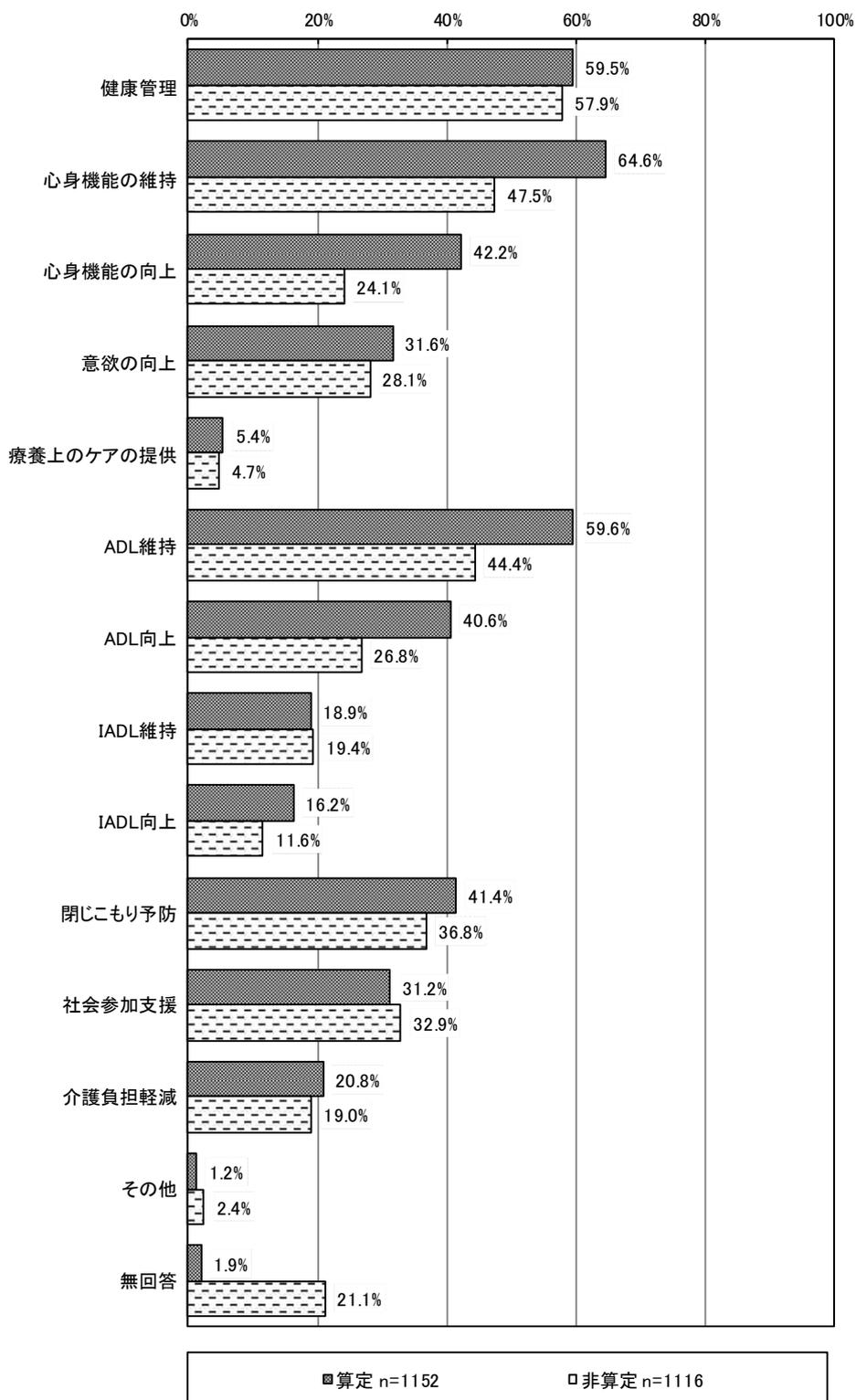


②令和元年10月1日時点

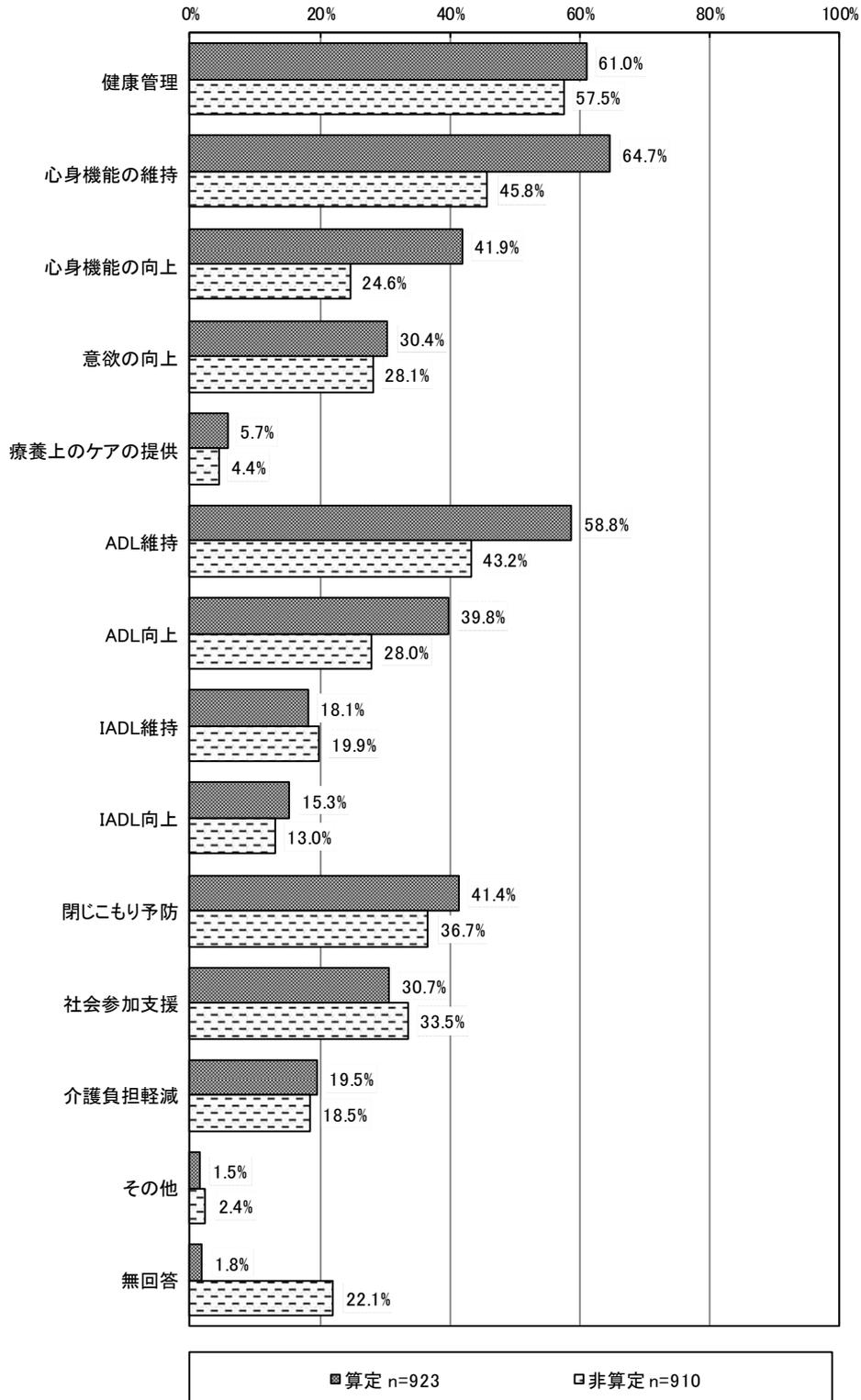


## ク) ケアプランの目標 (問 9)

図表 792 目標 ①加算算定に伴う連携の開始時点



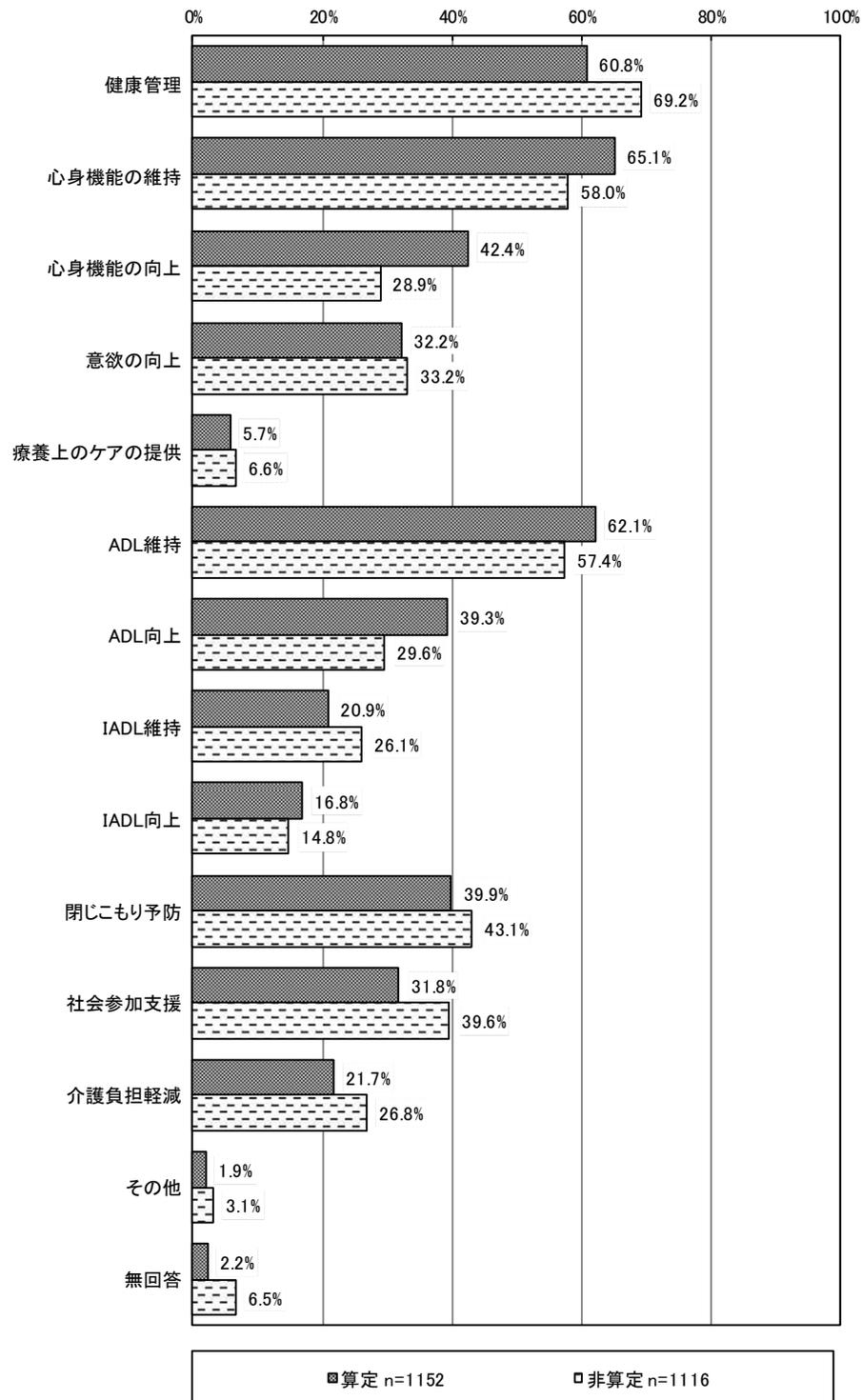
図表 793 目標 ①加算算定に伴う連携の開始時点 区分1のみ



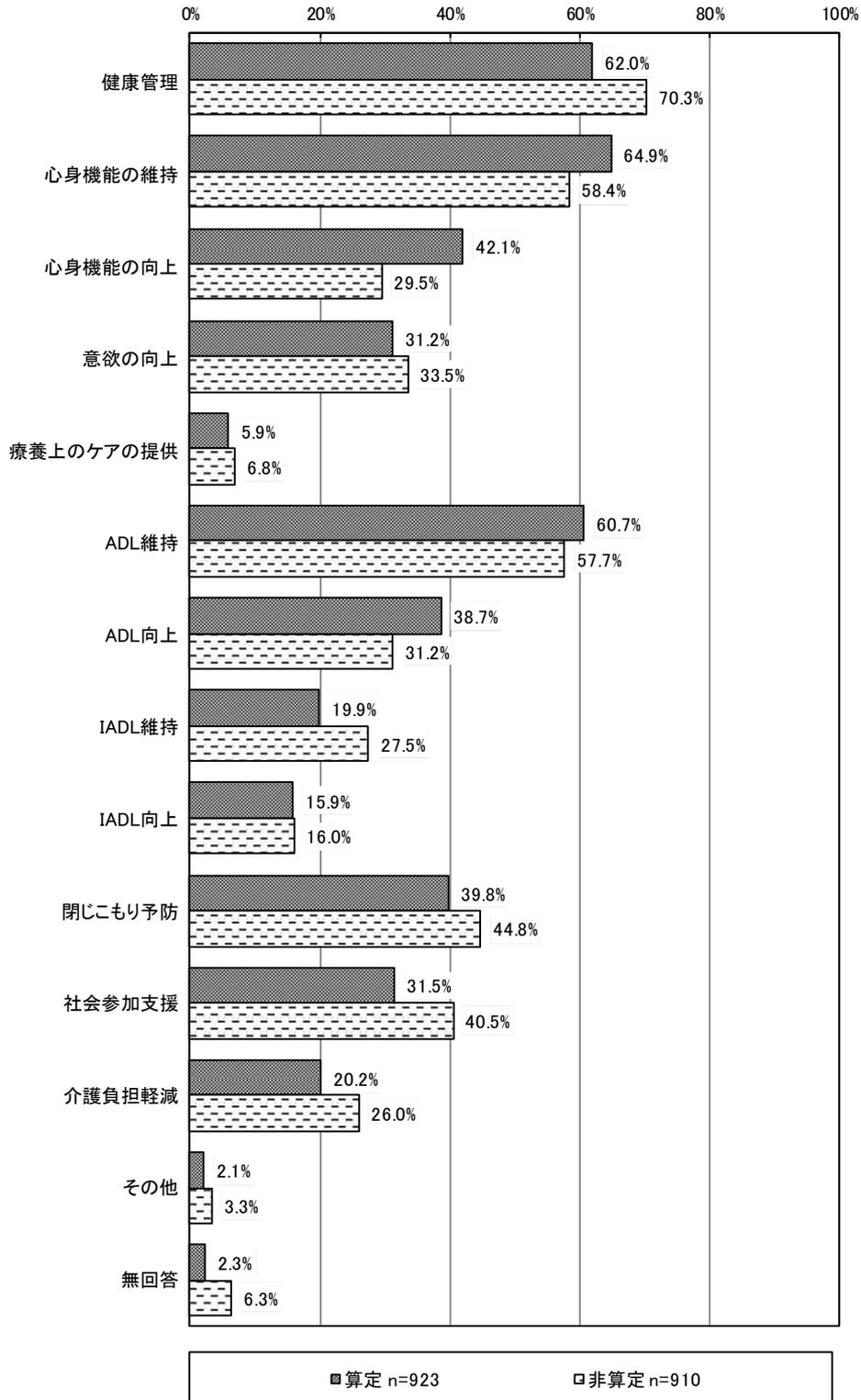
※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

- ・(算定) 入浴
- ・(算定) 認知症予防
- ・(非算定) 認知症の進行緩和
- ・(非算定) 入浴

図表 794 目標 ②令和元年 10 月 1 日時点



図表 795 目標 ②令和元年10月1日時点 区分1のみ



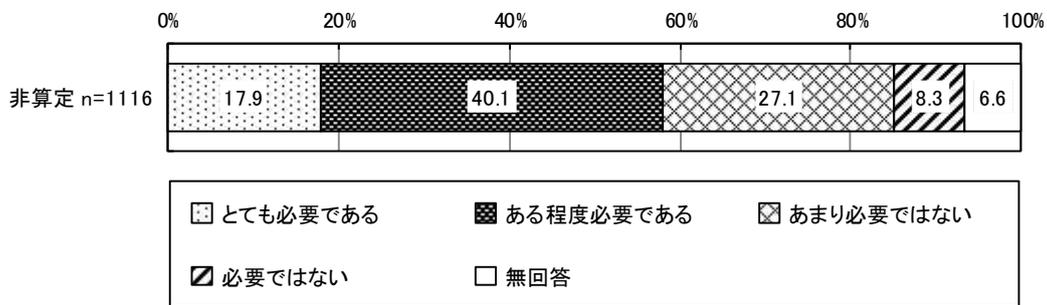
※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

- ・(算定) 入浴
- ・(算定) 認知症予防
- ・(非算定) 清潔保持
- ・(非算定) 入浴

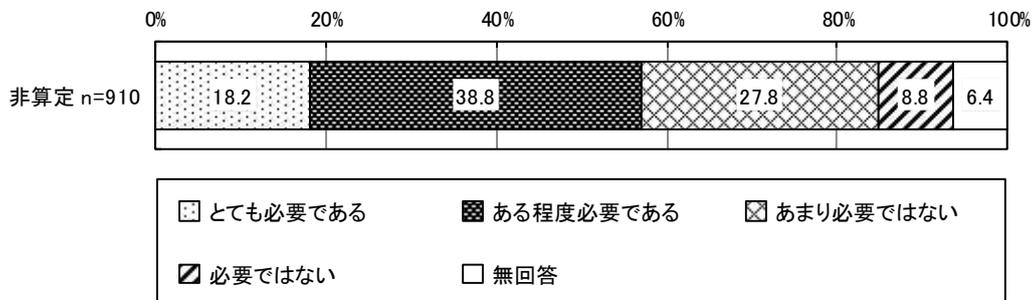
## ケ) 利用者の ADL、IADL の状況や課題から判断した、リハ専門職等<sup>※</sup>との連携の必要性 (問 10 (非算定事業所・施設利用者票))

※理学療法士、作業療法士、言語聴覚士又はリハビリテーション科専門医

図表 796 リハ専門職等との連携の必要性

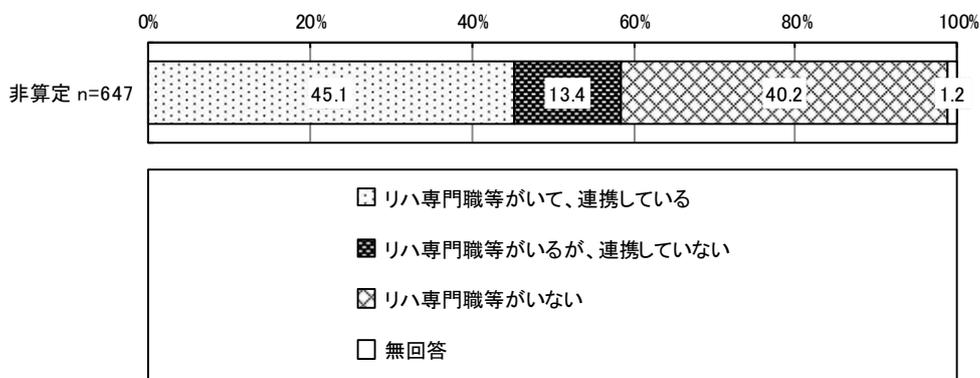


図表 797 リハ専門職等との連携の必要性 区分 1 のみ

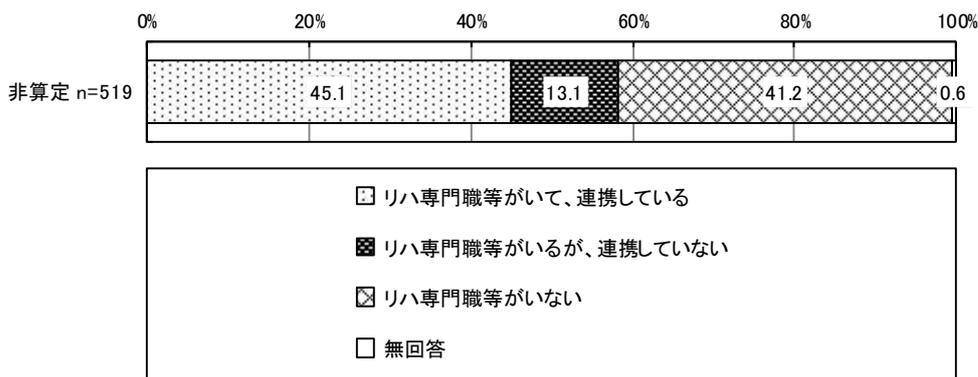


コ) 同一法人内のリハ専門職等の存在および連携の有無(問 11(非算定事業所・施設利用者票))

図表 798 同一法人内のリハ専門職等の存在および連携の有無

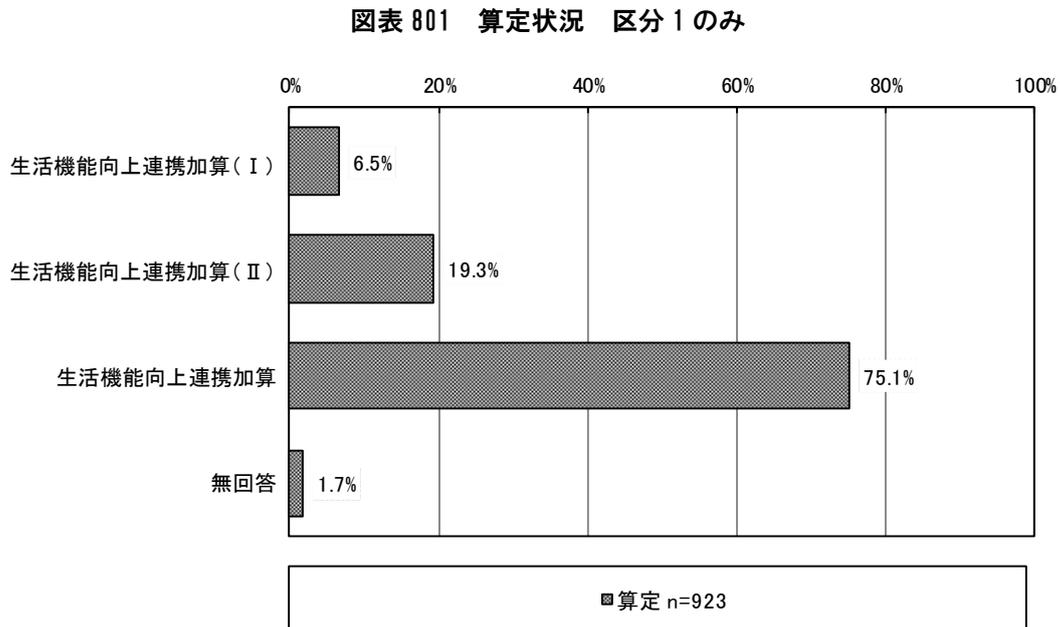
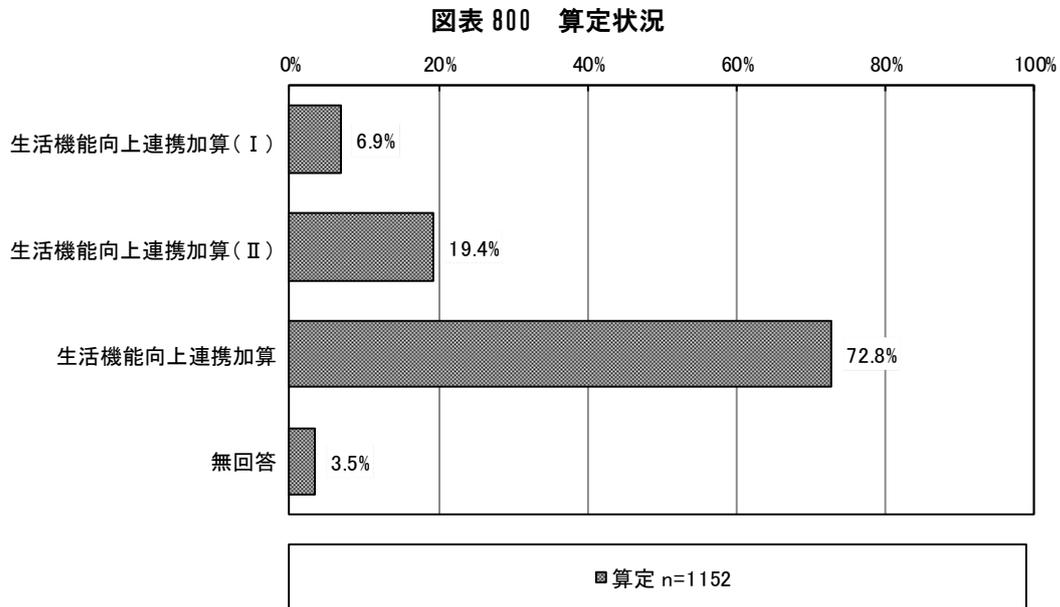


図表 799 同一法人内のリハ専門職等の存在および連携の有無 区分1のみ



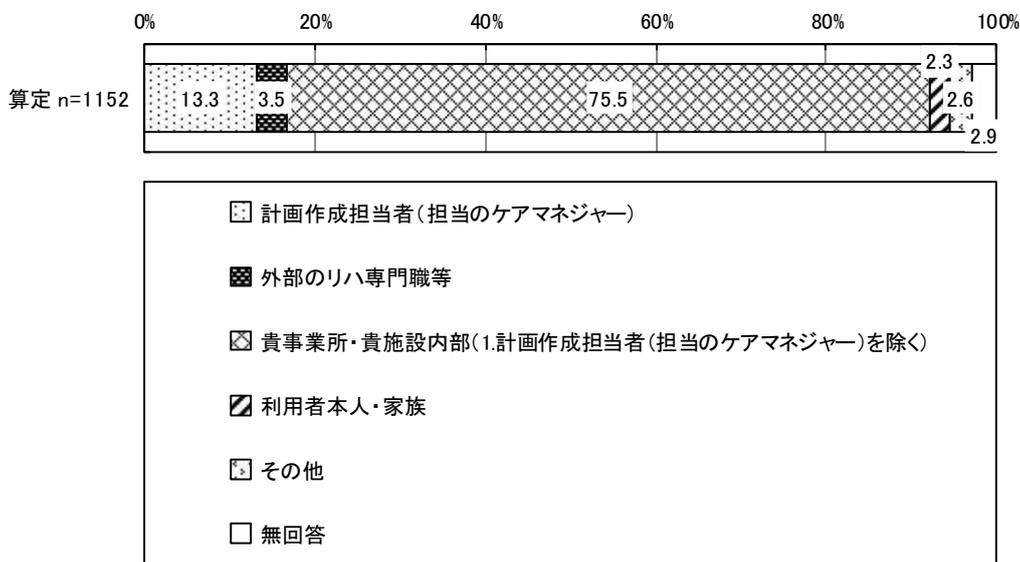
### Ⅲ. 生活機能向上連携加算の算定状況

#### ア) 算定状況 (問 10)

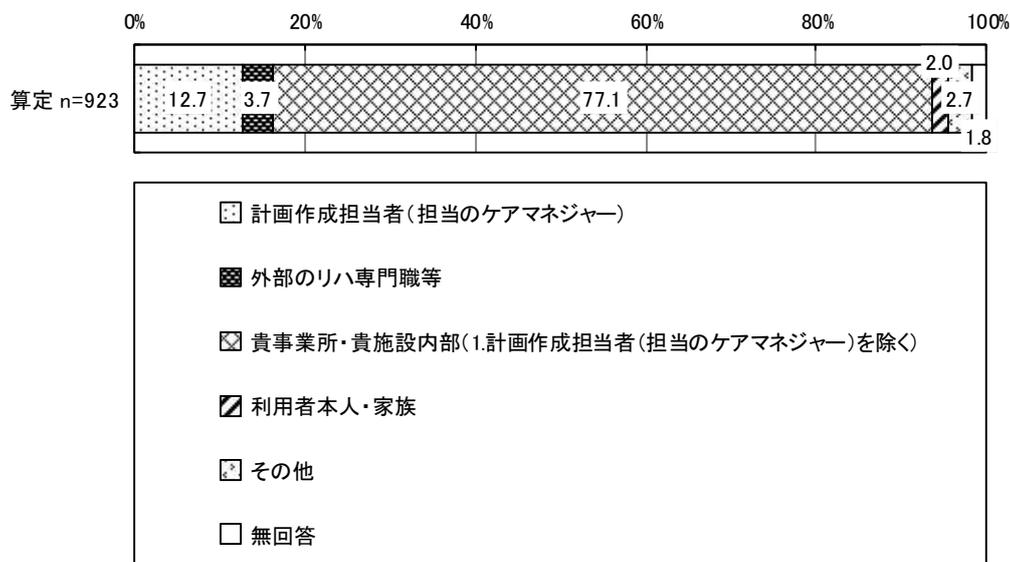


## イ) 算定の提案者 (問 11)

図表 802 算定の提案者



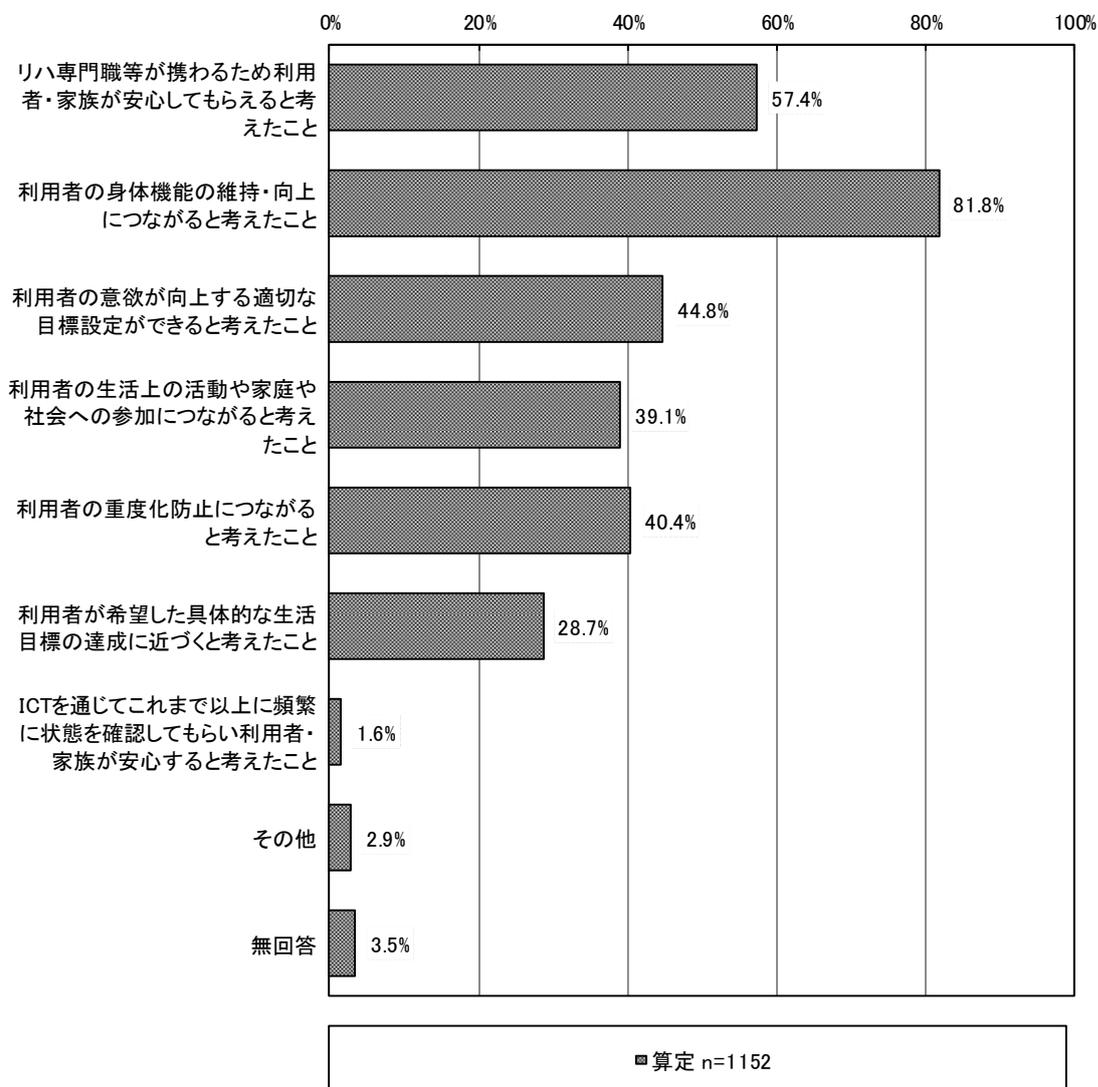
図表 803 算定の提案者 区分1のみ



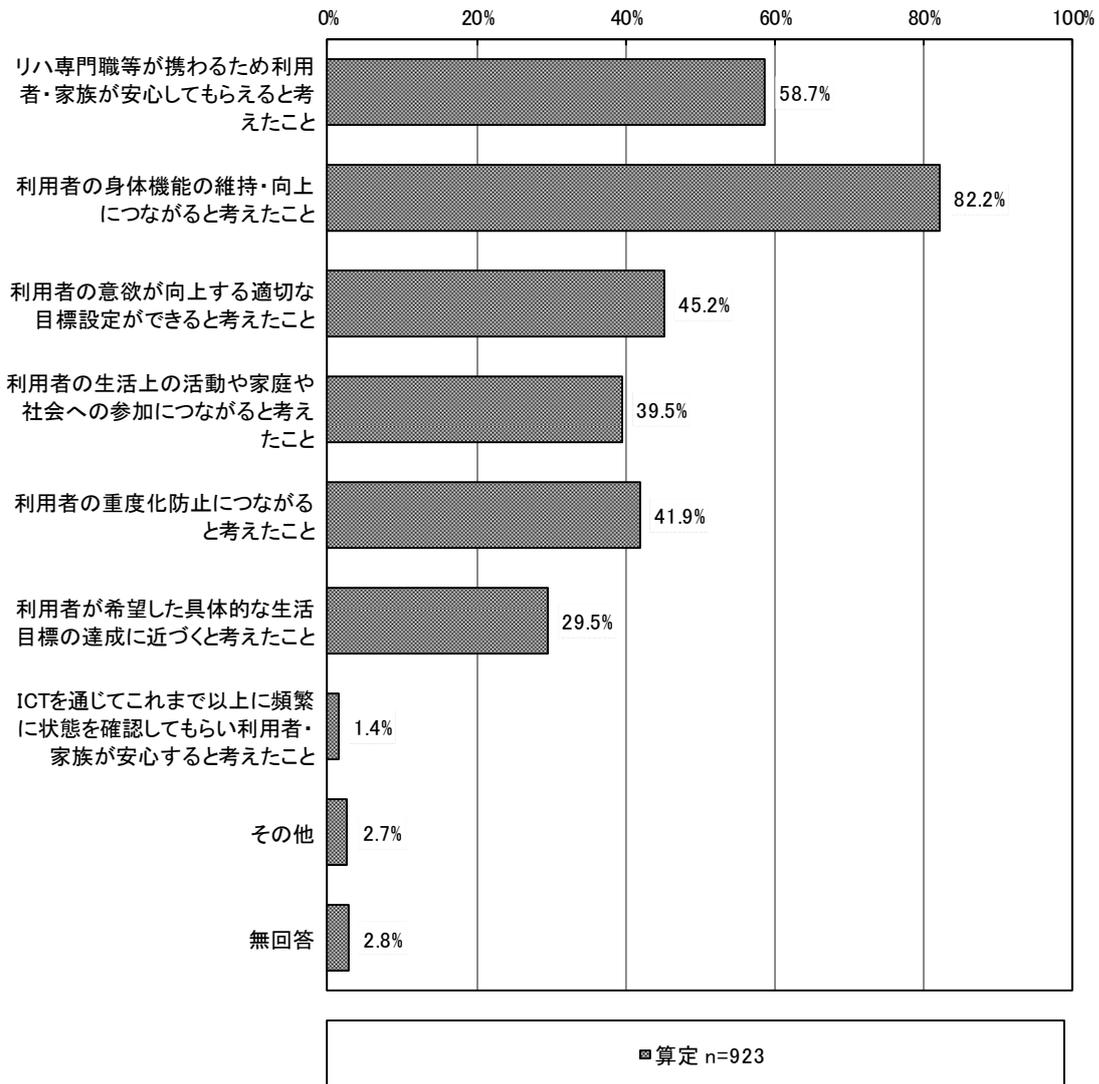
※その他として挙げられた有効な回答は無し。

## ウ) 算定を提案した理由 (問 11-2)

図表 804 算定を提案した理由

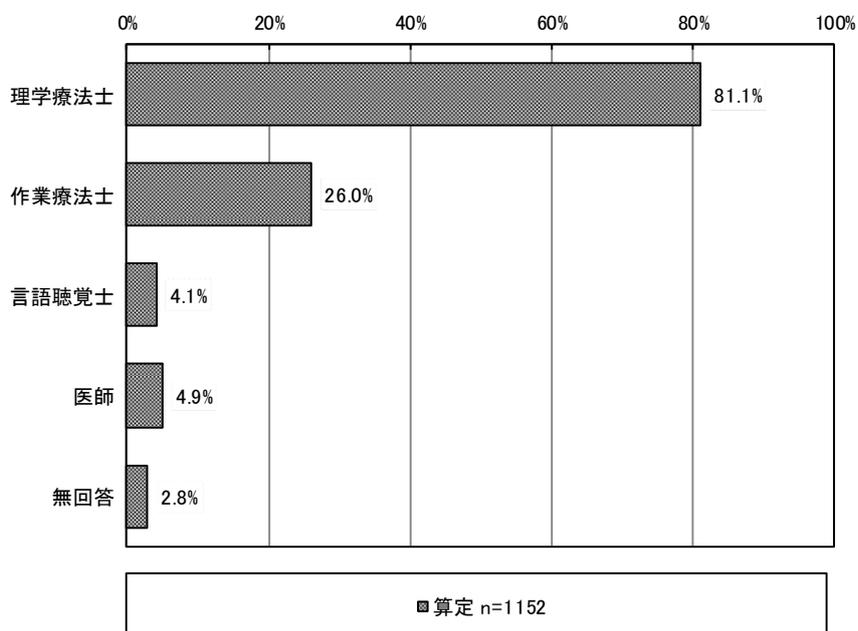


図表 805 算定を提案した理由 区分1のみ

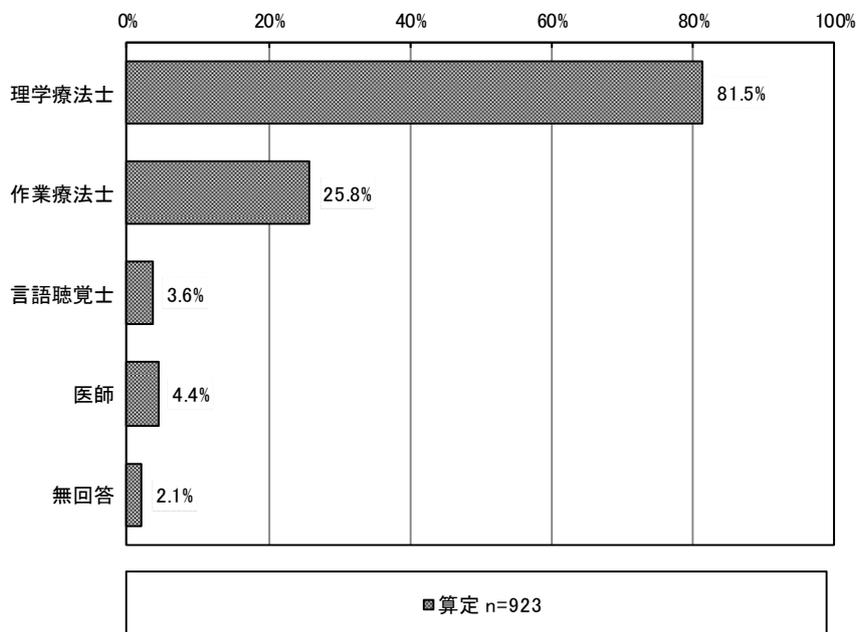


エ) 連携している外部の職種（問 12）

図表 806 連携している外部の職種

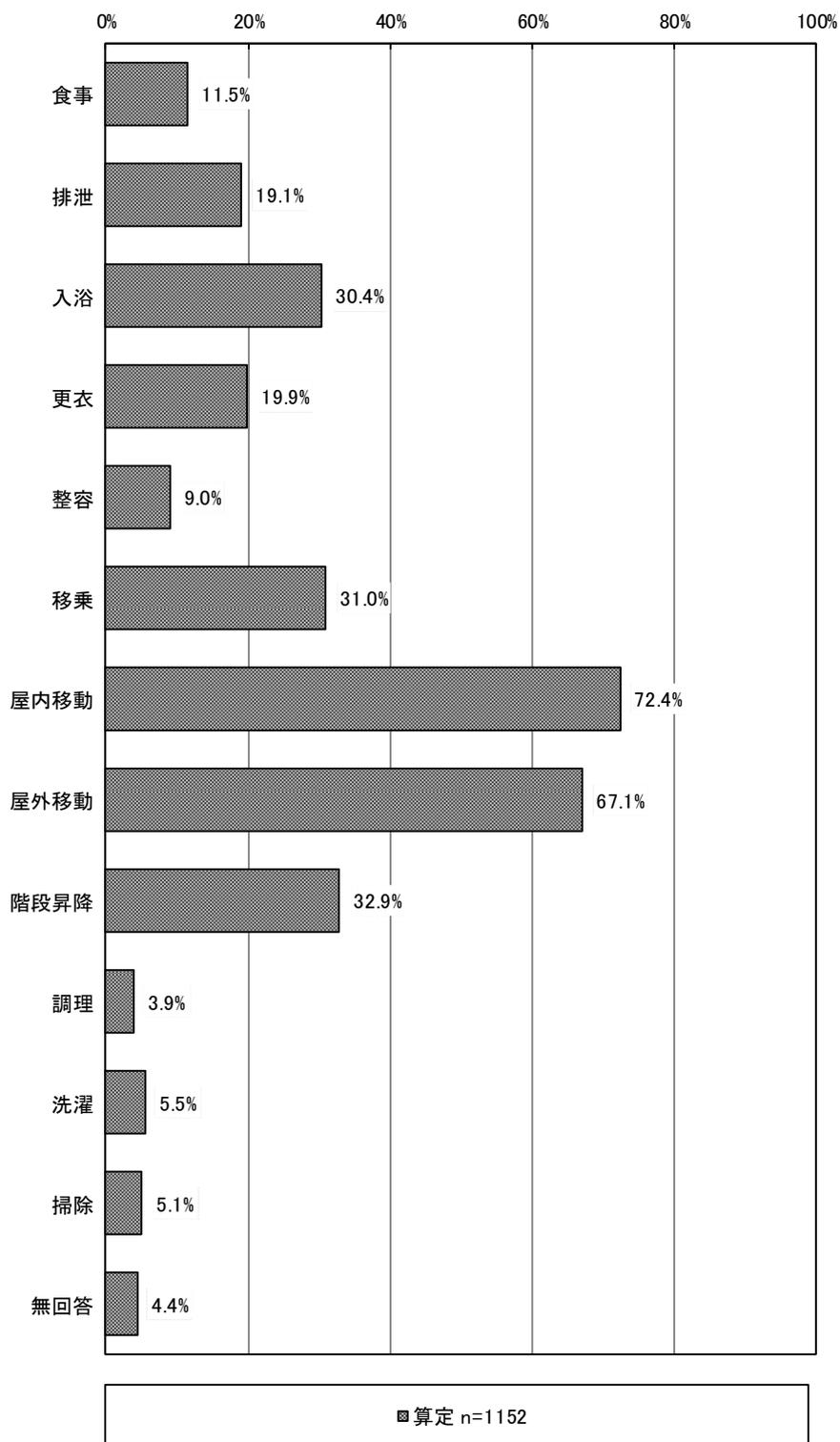


図表 807 連携している外部の職種 区分1のみ

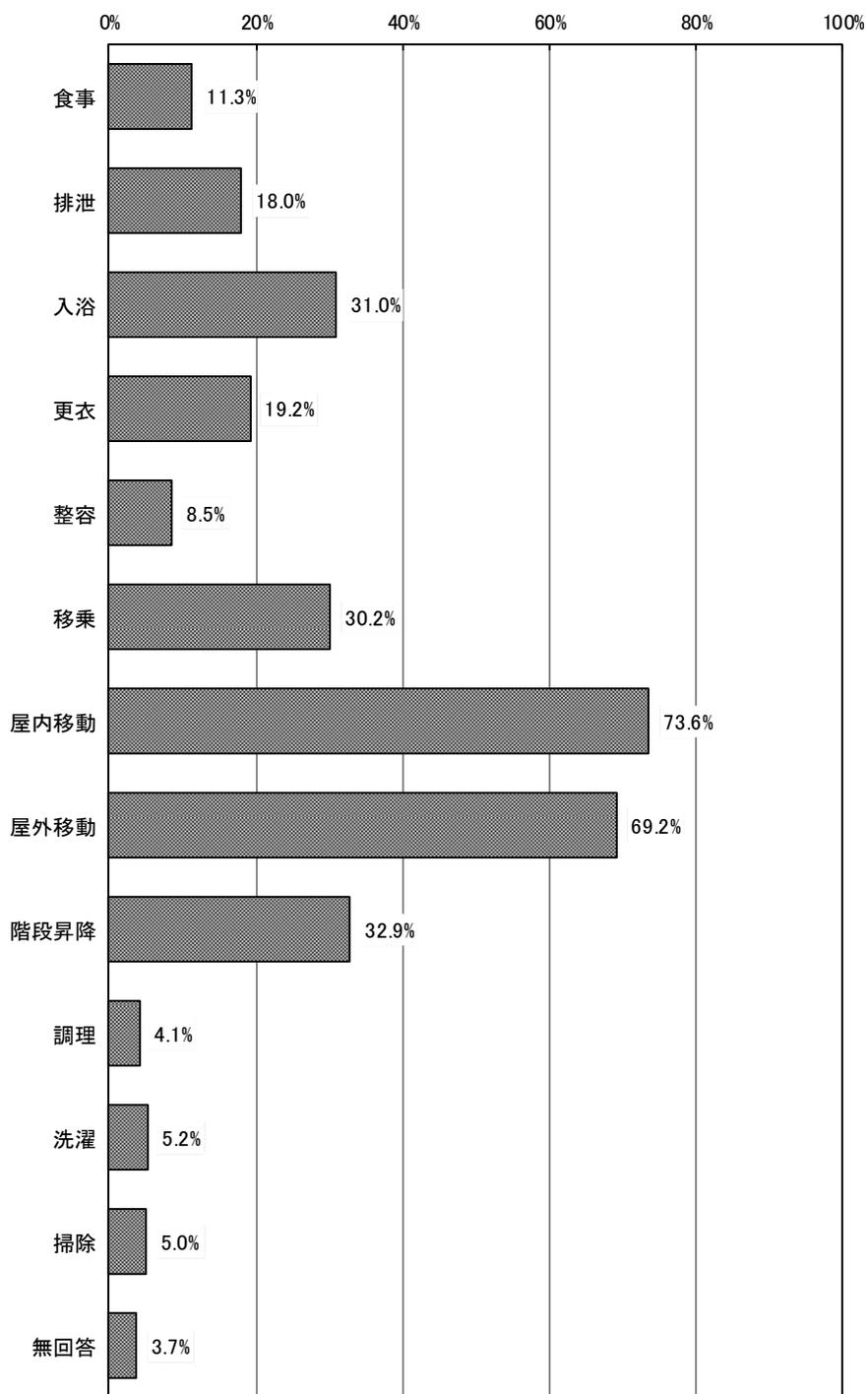


## 才) 利用者の課題 (問 13)

図表 808 利用者の課題



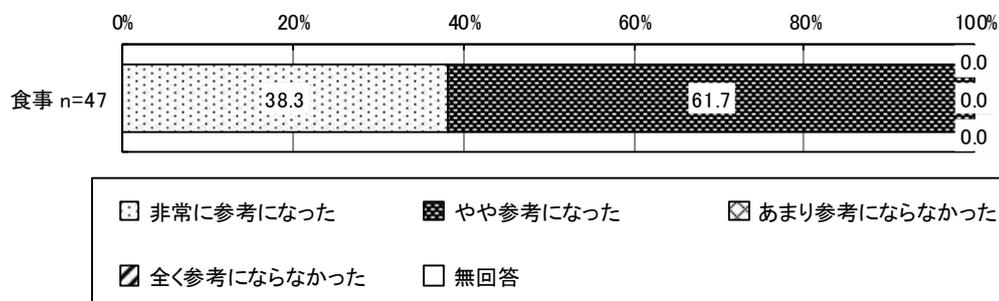
図表 809 利用者の課題 区分1のみ



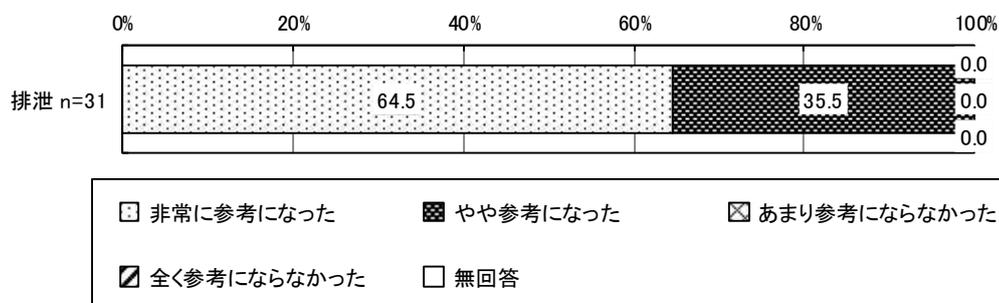
■算定 n=923

カ) 外部からの助言を計画に反映した内容について、課題、助言内容、また助言はどの程度参考になったか（問 14）

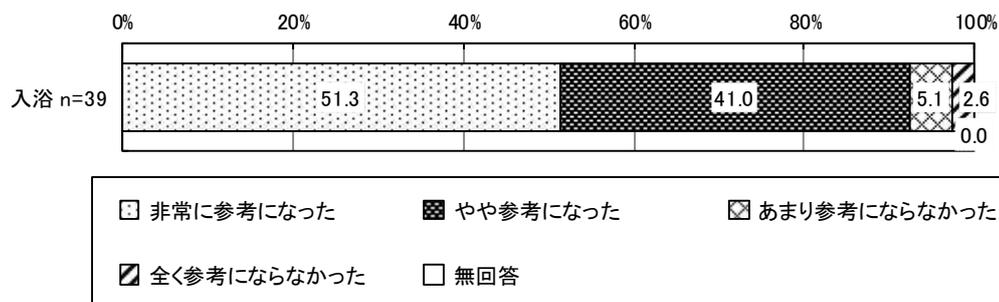
図表 810 食事



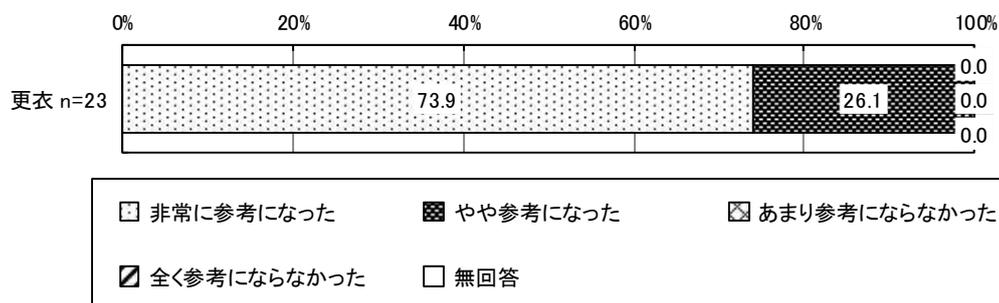
図表 811 排泄



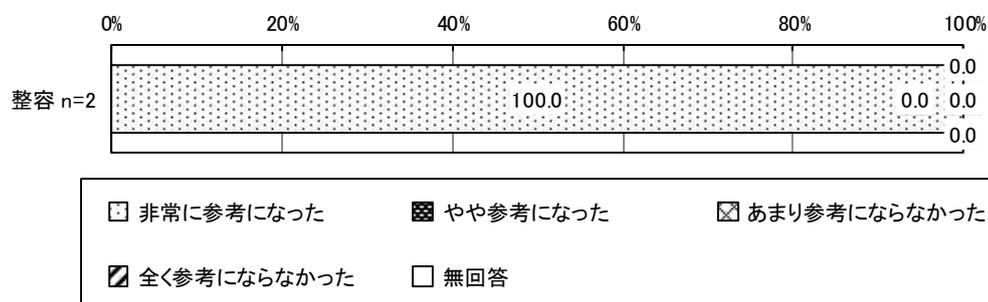
図表 812 入浴



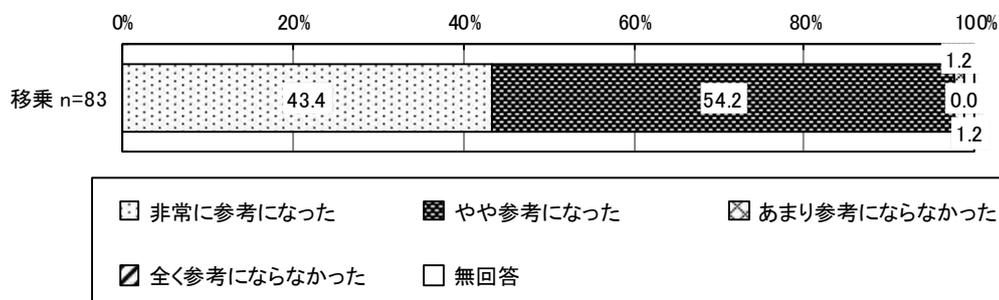
図表 813 更衣



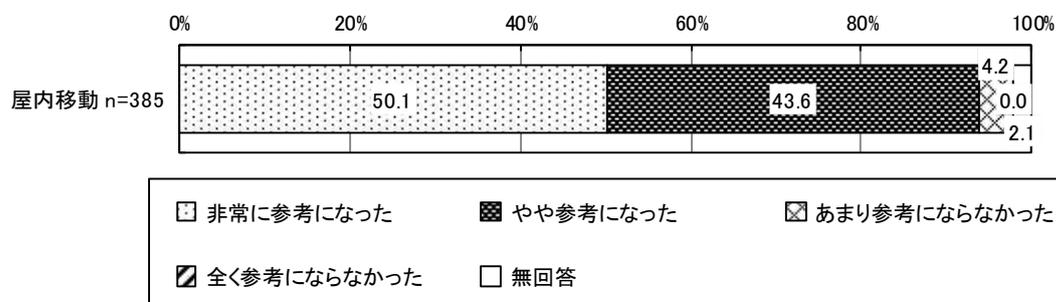
図表 814 整容



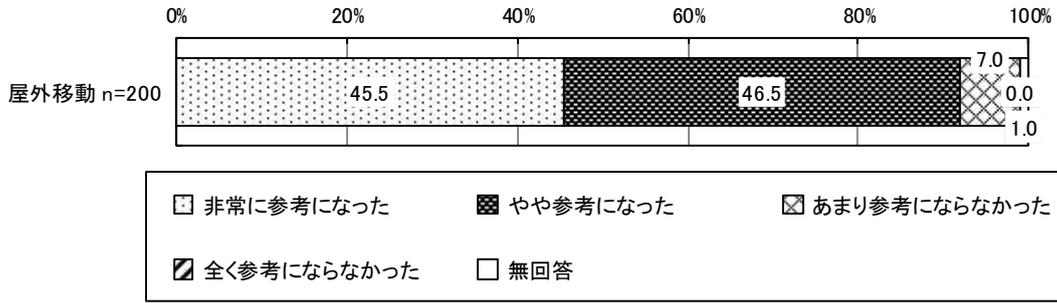
図表 815 移乗



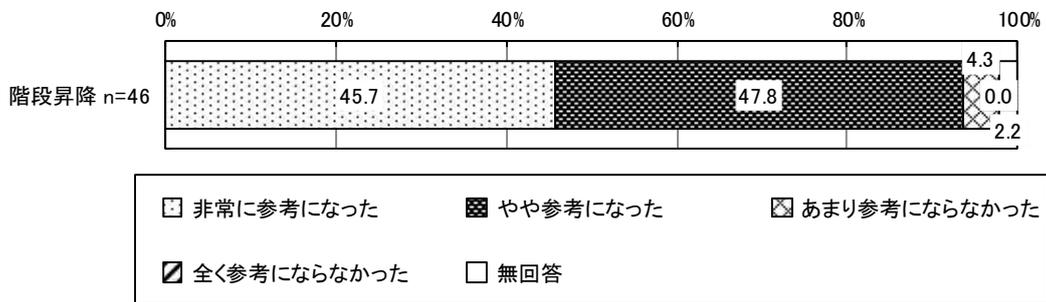
図表 816 屋内移動



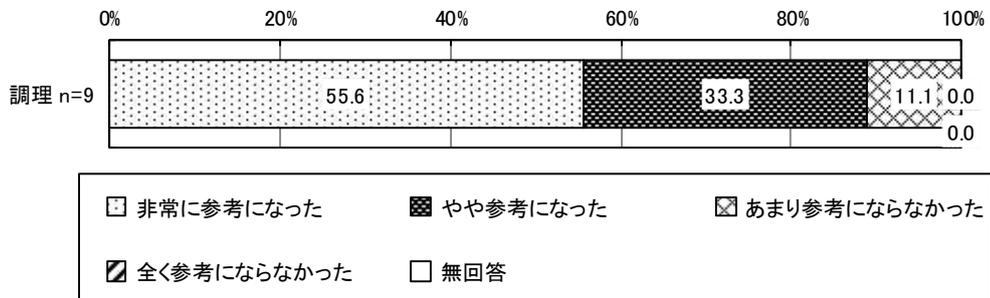
図表 817 屋外移動



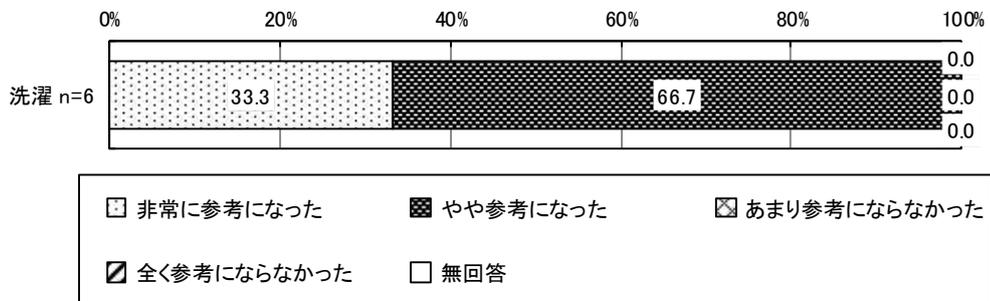
図表 818 階段昇降



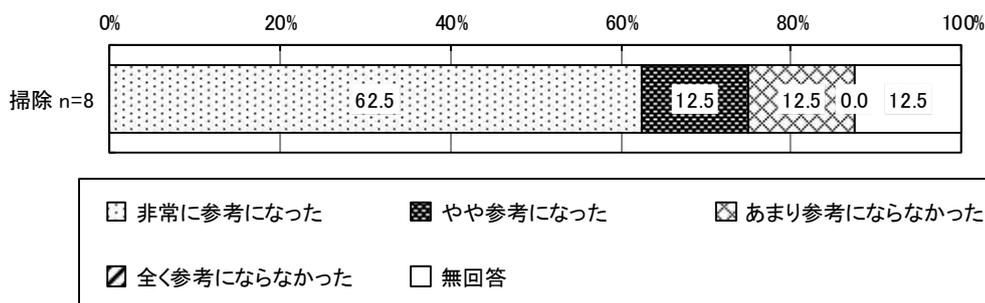
図表 819 調理



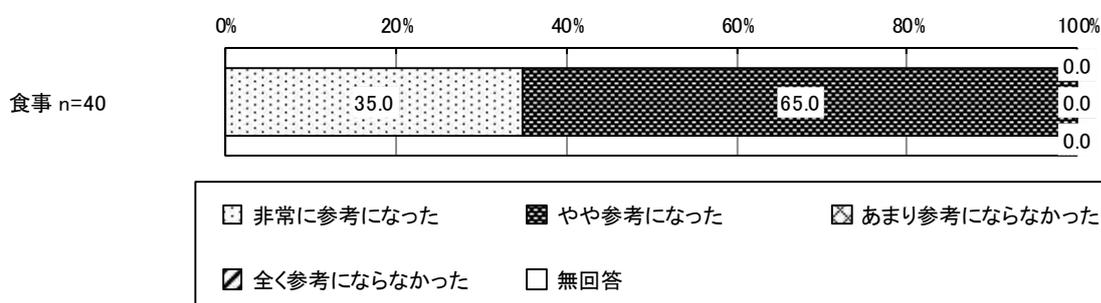
図表 820 洗濯



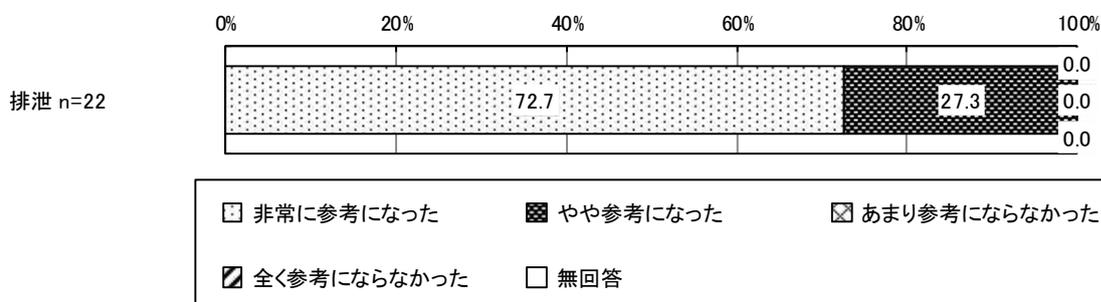
図表 821 掃除



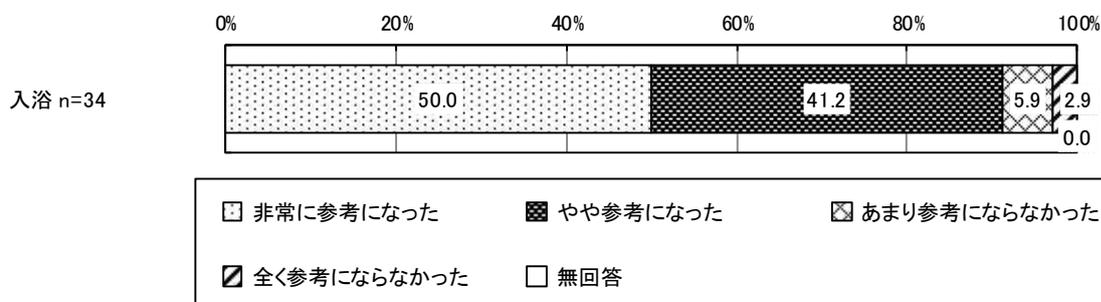
図表 822 食事 区分1のみ



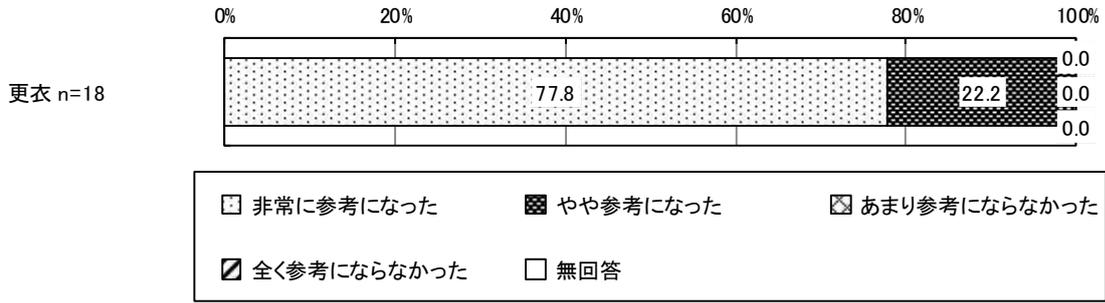
図表 823 排泄 区分1のみ



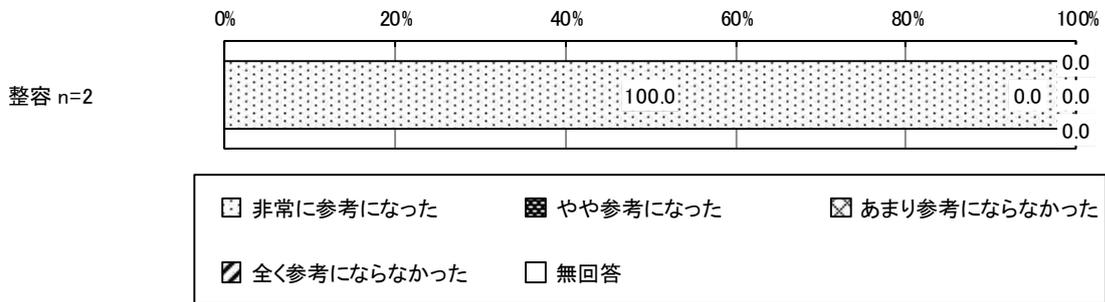
図表 824 入浴 区分1のみ



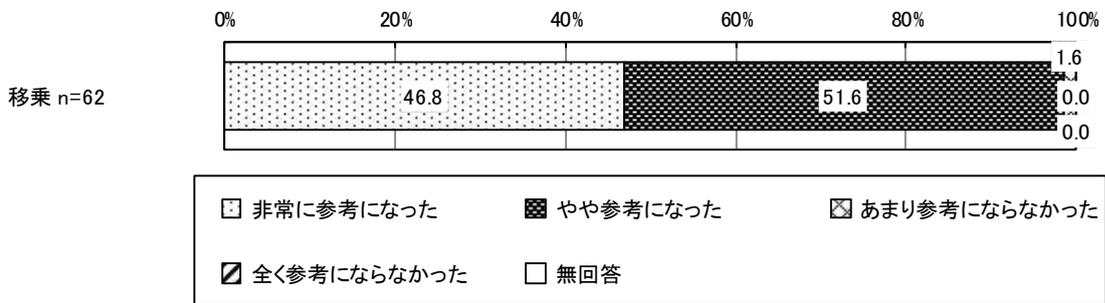
図表 825 更衣 区分1のみ



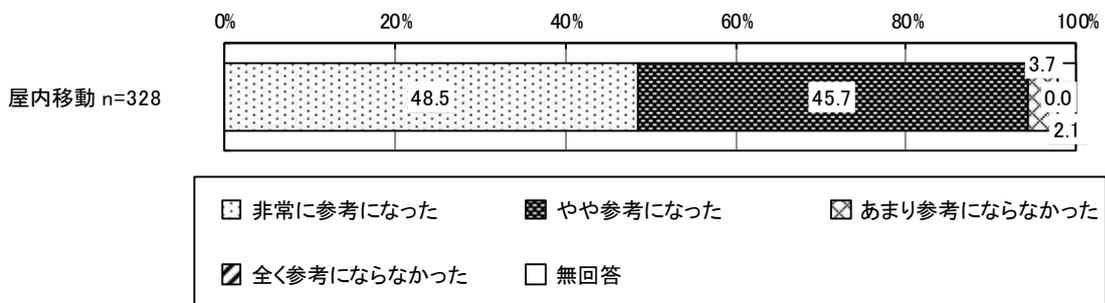
図表 826 整容 区分1のみ



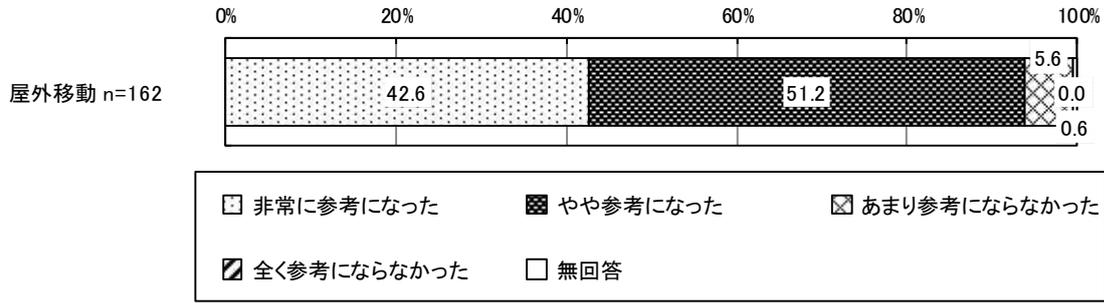
図表 827 移乗 区分1のみ



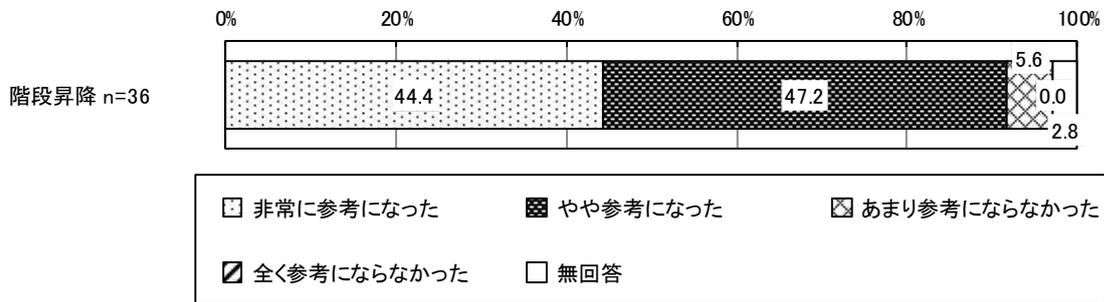
図表 828 屋内移動 区分1のみ



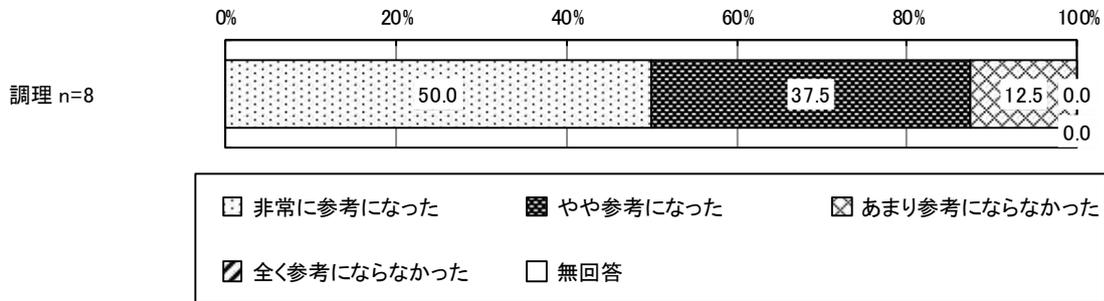
図表 829 屋外移動 区分1のみ



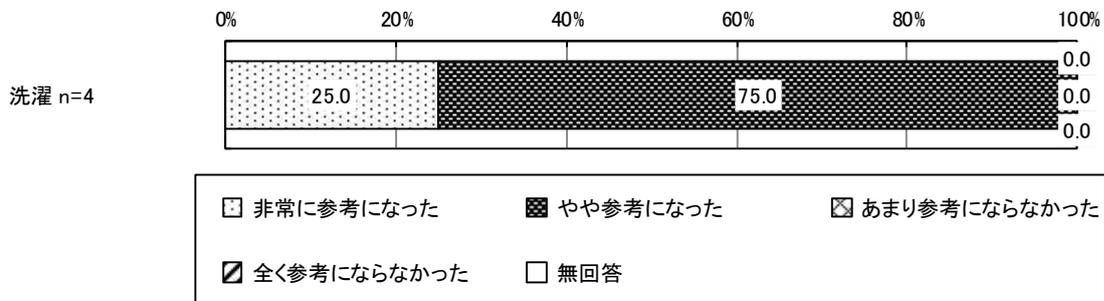
図表 830 階段昇降 区分1のみ



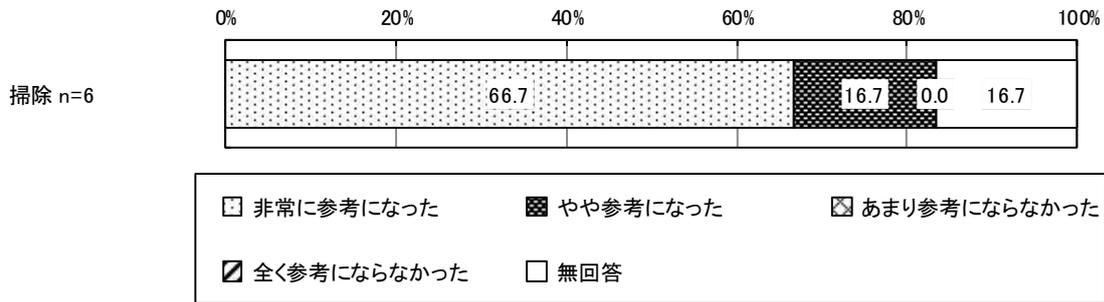
図表 831 調理 区分1のみ



図表 832 洗濯 区分1のみ



図表 833 掃除 区分1のみ



図表 834 課題別の助言内容

**○食事**

- ・ 噛む力を養うため、日中活動量を増やす
- ・ 左側が見えていないため、声掛けや食事際に位置に気をつける

**○排泄**

- ・ 手内筋の低下がみられるため、下位更衣動作ができにならないよう、手指の訓練を行う
- ・ 五感を使った刺激を入れ、覚醒レベルを上げる

**○入浴**

- ・ 入浴時の浴槽へのまたぎ動作において安全性を向上するため、動作指導と環境調整を行う
- ・ 足運びが悪いため、浴槽へのまたぎ動作で介護が必要とな

**○更衣**

- ・ 肩の周囲の筋力を効果する
- ・ 肩甲骨の筋肉をほぐす

**○整容**

- ・ 関節機能の維持・向上のためボールを使ったトレーニングを行う
- ・ 頸部や上胸背部・肩甲骨のトレーニングを行う

**○移乗**

- ・ 立位を安定を図るため、腸腰筋の筋力向上を目指す
- ・ 右足の動きをよくするために、右足関節の大腿の連動動作訓練を行う

### ○屋内移動

- ・腹圧を入れることで、歩行時のバランスの改善が図る
- ・障害物を避けるために目の訓練をすることで、物を認識する能力の向上につながる

### ○屋外移動

- ・注意力散漫になるので、一つ一つの行動を確実にこなす
- ・杖を正しく使用し、安定した歩行を行う

### ○階段昇降

- ・安全な階段昇降のため、両下肢の筋力訓練を行う
- ・自宅での生活環境を参考に、階段昇降のプログラムを作成する

### ○調理

- ・家事動作・調理動作に必要な筋力バランス・体力向上に繋がる訓練を行う
- ・食事を作る際、本人に少しでも役割をもってもらう

### ○洗濯

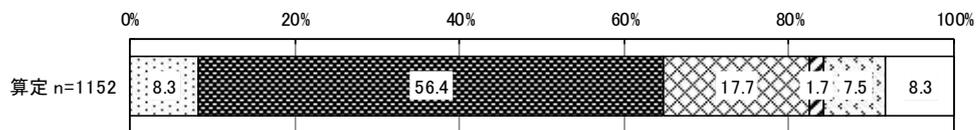
- ・上方へのリーチが難しいため、姿勢を修正する
- ・肩のインナーマッスルのトレーニングを行う

### ○掃除

- ・転倒しないよう、適度な運動を続ける
- ・安定した立位姿勢を獲得するため、スリングを使用した立位保持訓練を行う

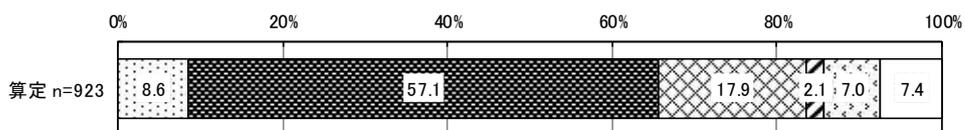
## キ) 助言により利用者の計画はどの程度改善したか（問 15）

図表 835 助言により利用者の計画はどの程度改善したか



- とても改善した
- ある程度改善した
- あまり改善していない
- 全く改善していない
- 連携する前は利用者の個別機能訓練計画等は作成していなかったためどの程度改善したかは回答できない
- 無回答

図表 836 助言により利用者の計画はどの程度改善したか 区分1のみ



- とても改善した
- ある程度改善した
- あまり改善していない
- 全く改善していない
- 連携する前は利用者の個別機能訓練計画等は作成していなかったためどの程度改善したかは回答できない
- 無回答

## ク) 助言による具体的な状況変化 (問 15-2)

図表 837 助言による具体的な状況変化

### ○訓練内容の変化

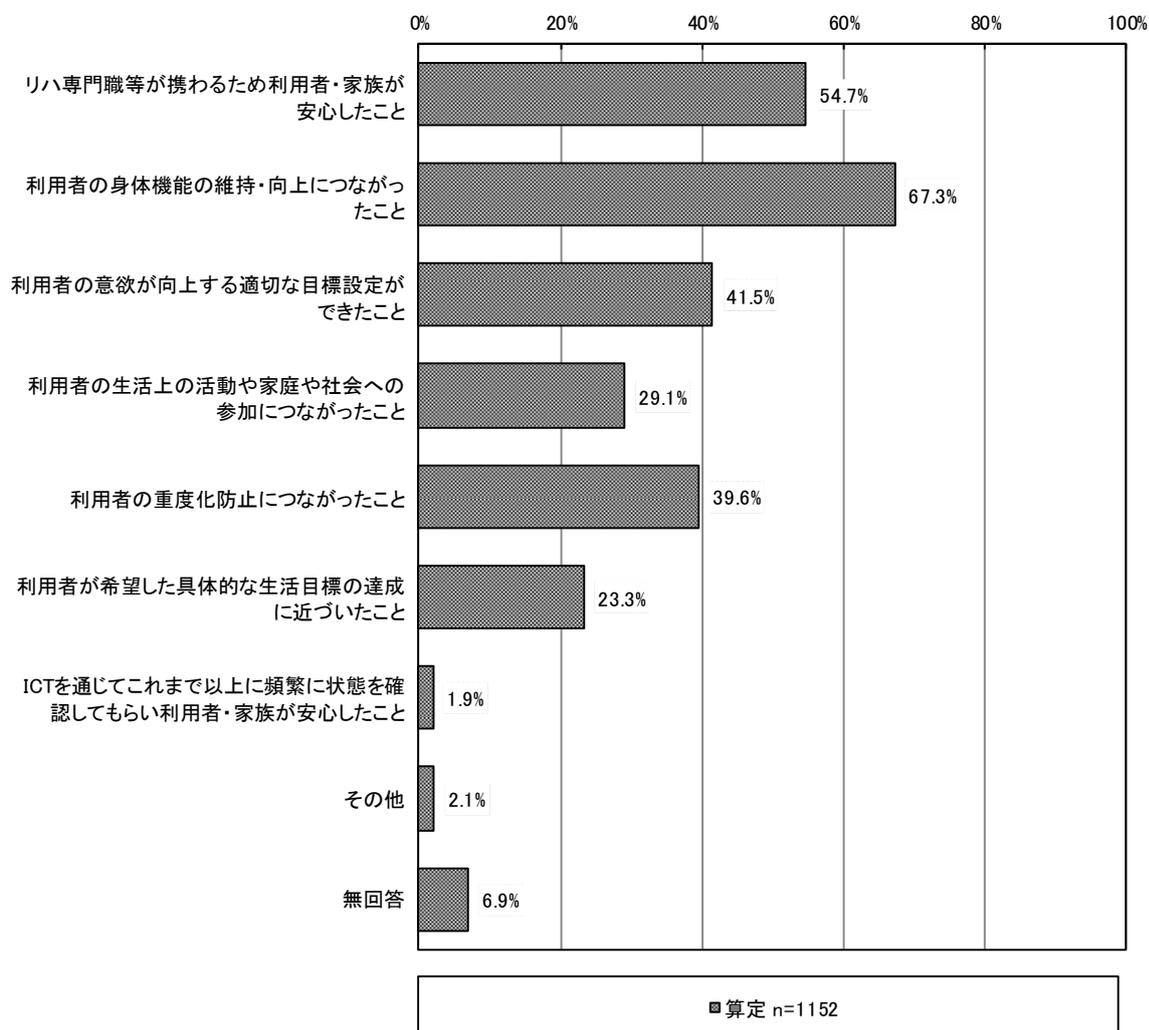
- ・ 1 つの問題点に対してアプローチの種類が増え、また目標を達成した時の予測できるリスクに対し先回りして対処できるようになった。
- ・ 訓練を行う上で注意すべき点などが、専門職の意見で理解できた。利用者様の自主トレ(自宅での)も実施できるようになっている。
- ・ 詳しい訓練内容が理解できた事と、専門的な意見で、訓練中の注意事項がわかった。

### ○本人の状態の変化

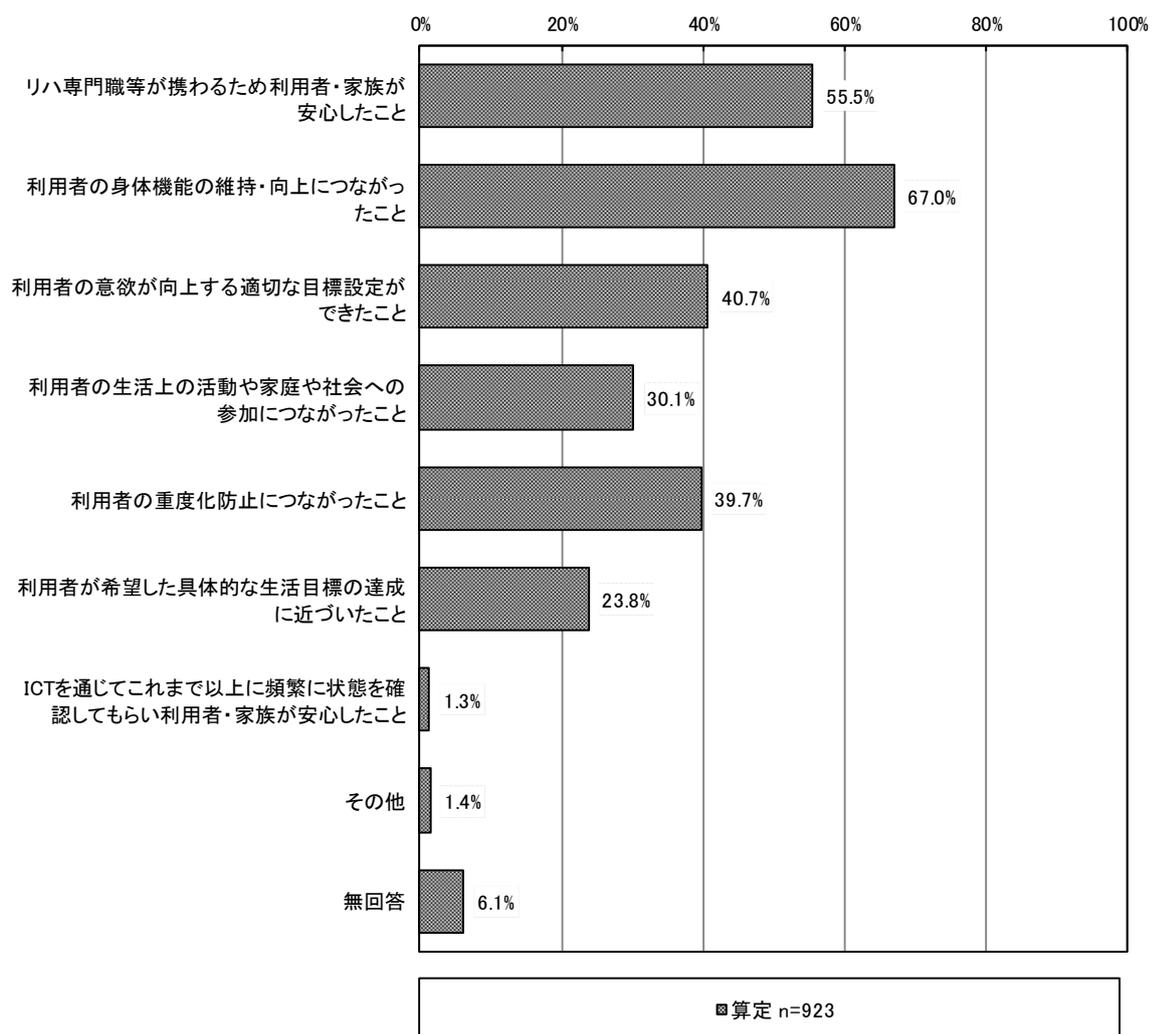
- ・ 足の上がりが悪いので下肢の強化を行っていたが、助言を受けて、体幹を強化したところ足の上がり良くなりました。
- ・ 平らな所での歩行訓練を、応用歩行ができるような感じで歩行はじめた。
- ・ 表情が明るくなり、意識レベルの向上や発語が聞かれるようになった。声掛けで立ち上がりなどの動作ができていることが増えた。

## ケ) 利用者が享受したメリット (問 16)

図表 838 利用者が享受したメリット



図表 839 利用者が享受したメリット 区分1のみ

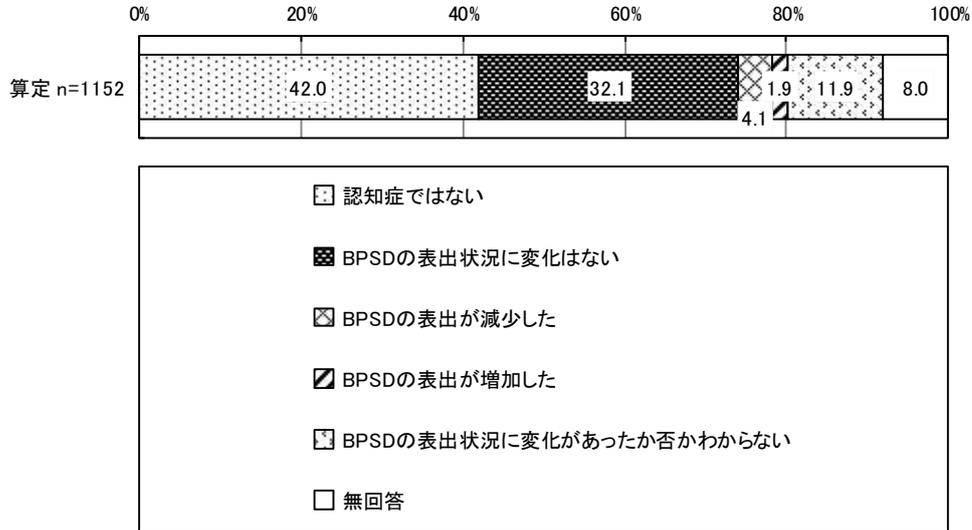


※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

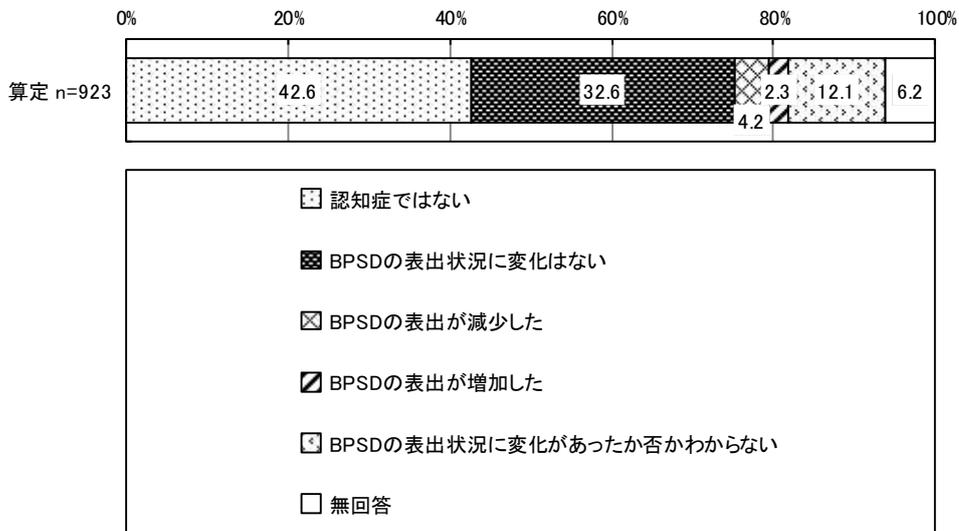
- ・内外のリハが連携することによる安心感

コ) 認知症の利用者の BPSD 表出状況の変化 (問 17)

図表 840 認知症の利用者の BPSD 表出状況の変化

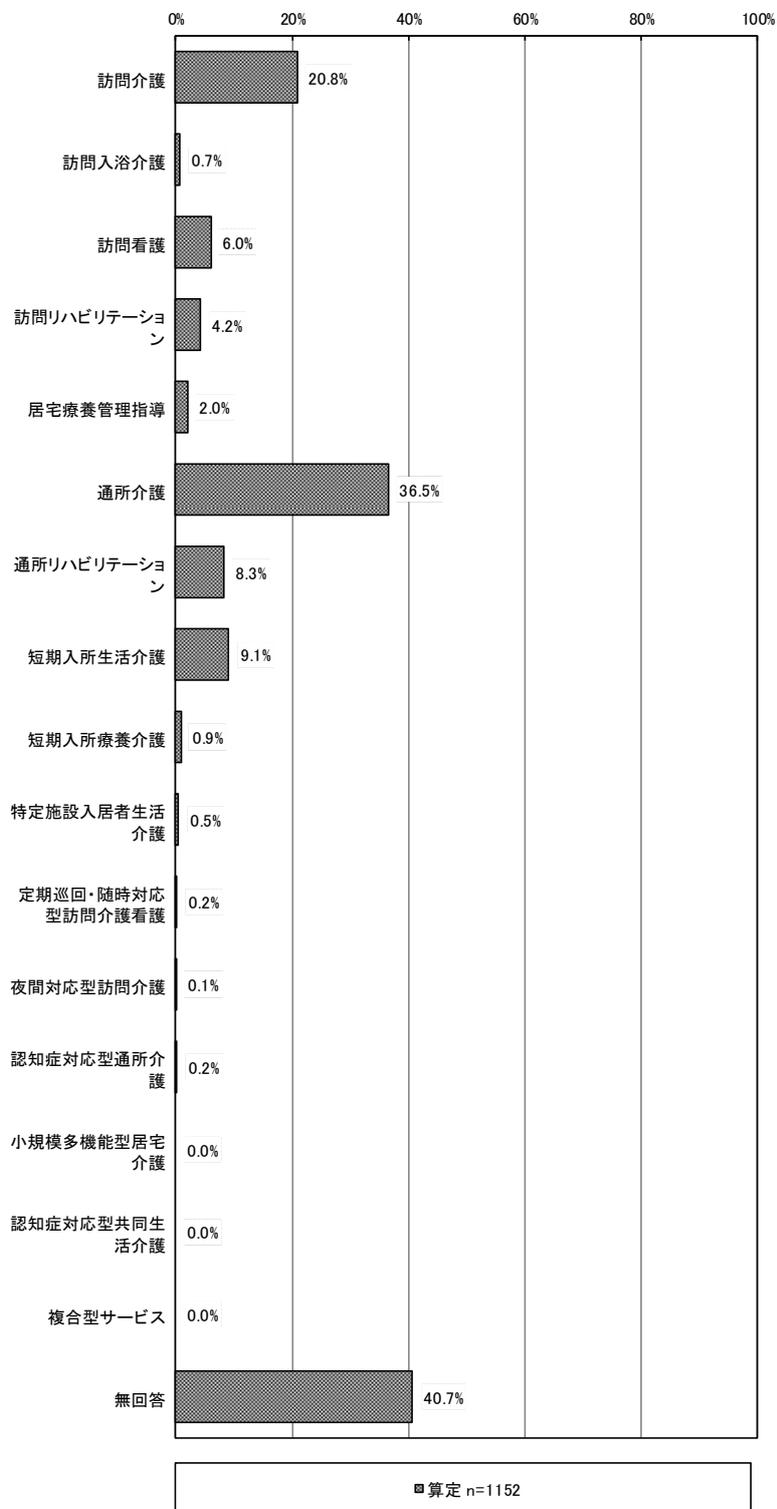


図表 841 認知症の利用者の BPSD 表出状況の変化 区分 1 のみ

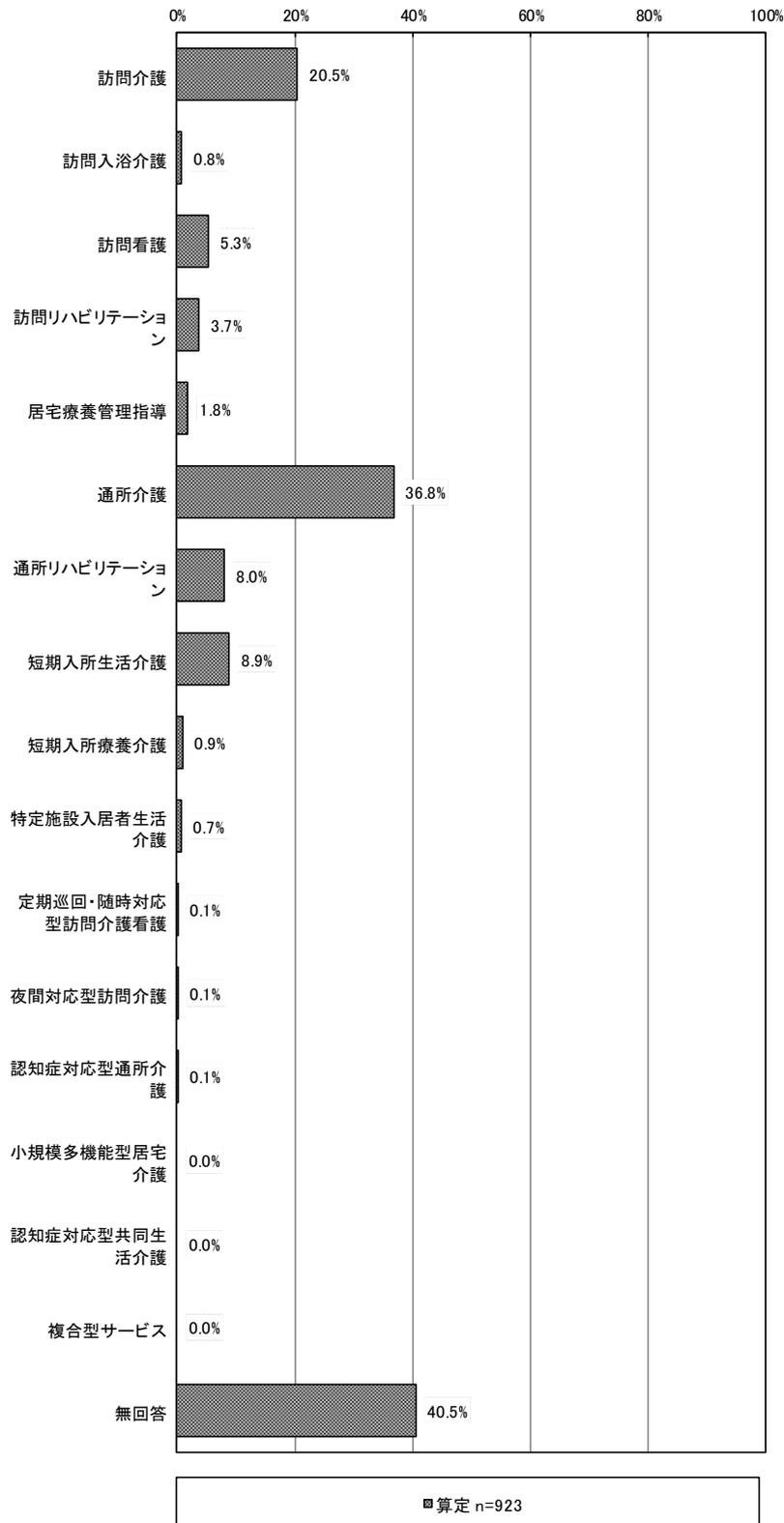


サ) 利用者が他に利用しているサービス（問 18（算定事業所・施設利用者票）・問 12（非算定事業所・施設利用者票））

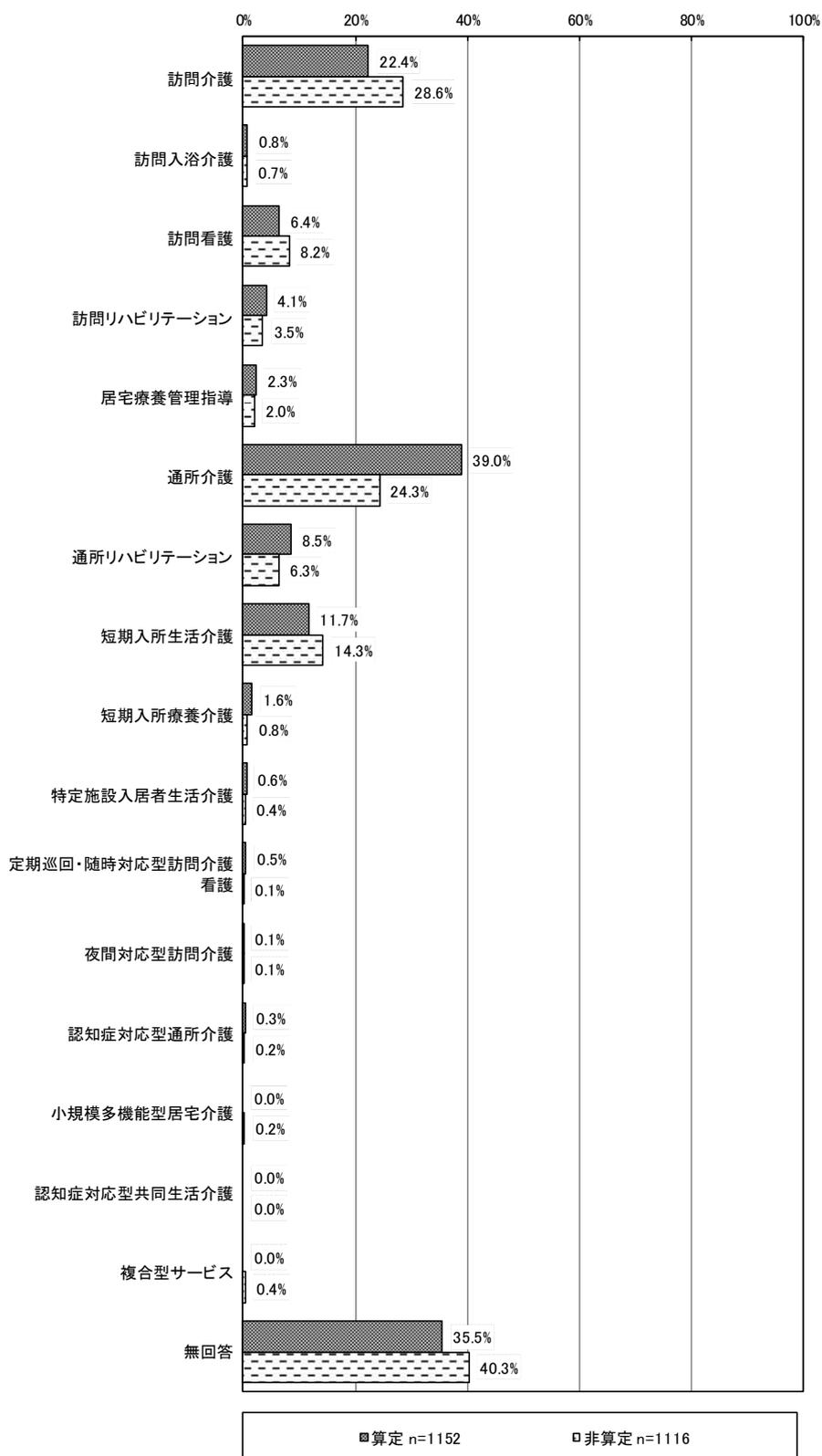
図表 842 利用者が他に利用しているサービス ①算定前



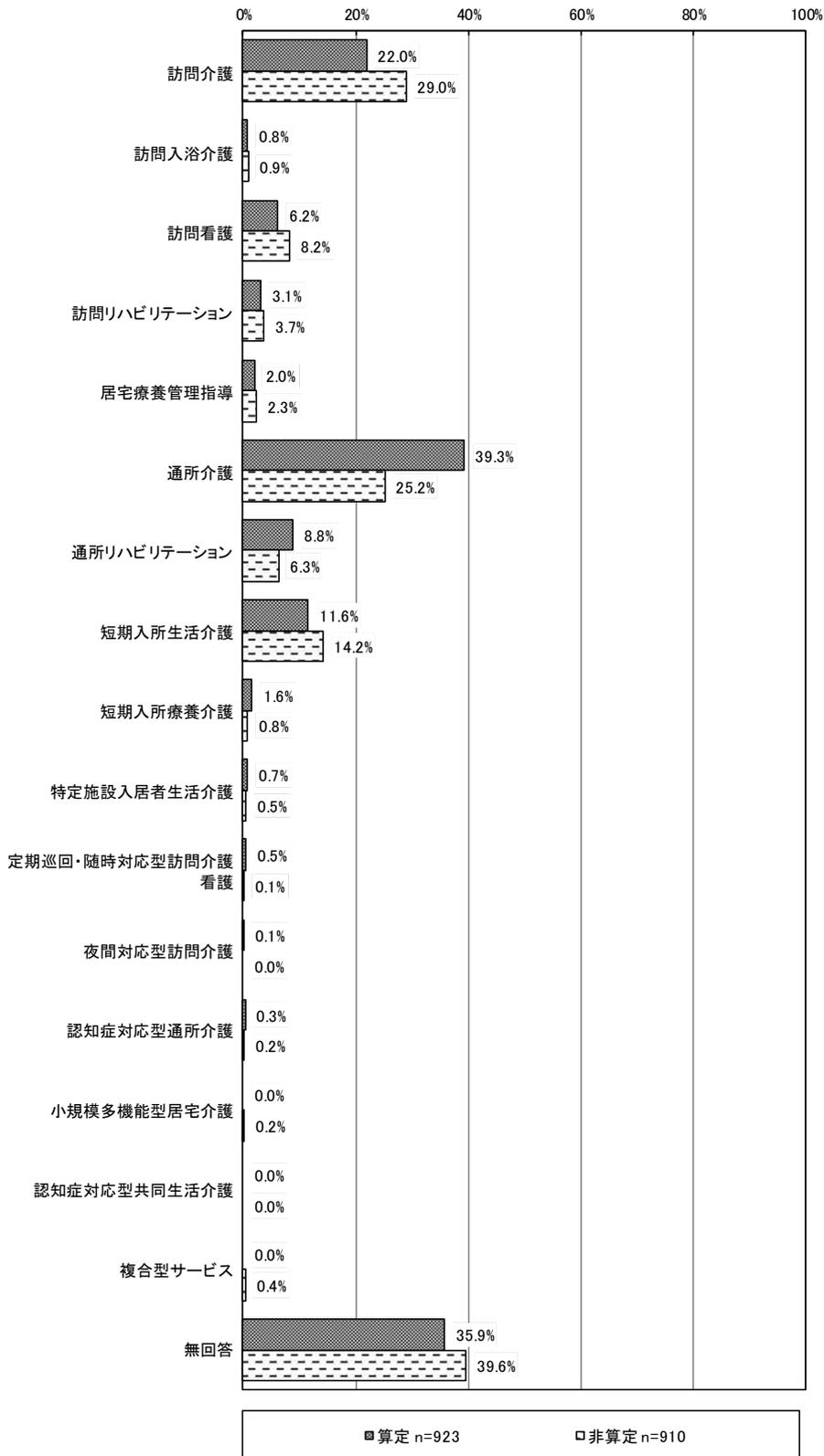
図表 843 利用者が他に利用しているサービス ①算定前 区分1のみ



図表 844 利用者が他に利用しているサービス ②算定以後



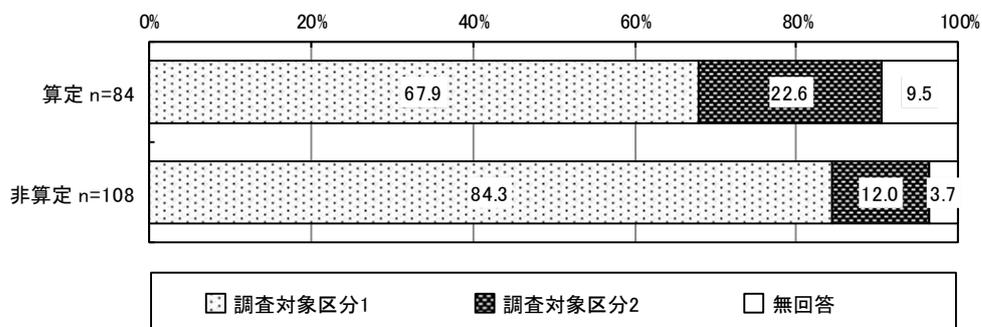
図表 845 利用者が他に利用しているサービス ②算定以後 区分1のみ



## (2) 認知症対応型通所介護

### ア) 利用者の調査対象区分 (問 0)

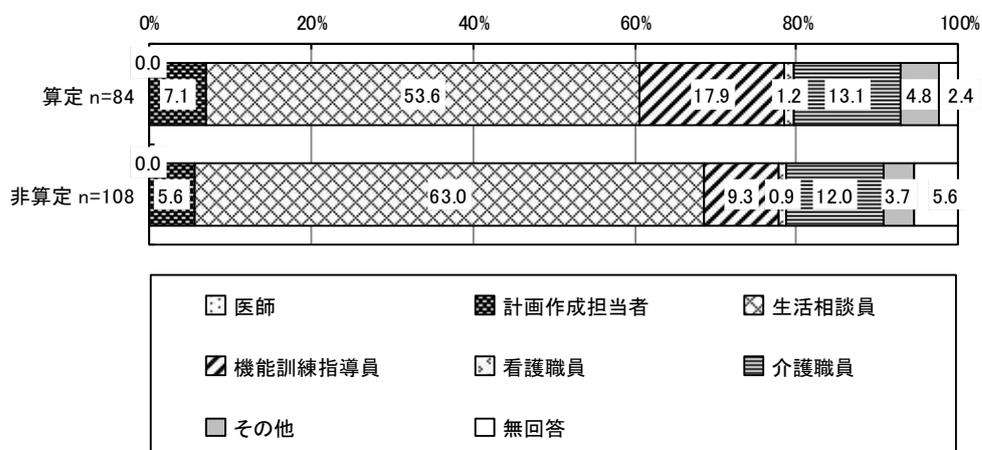
図表 846 利用者の調査対象区分



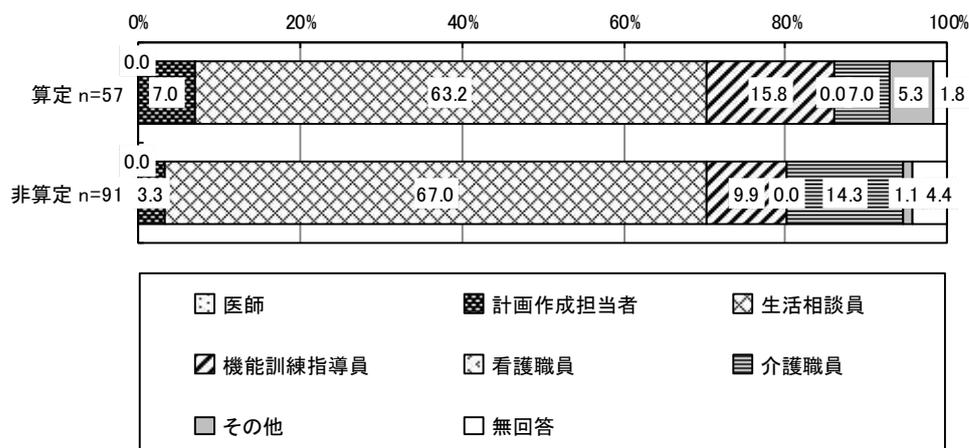
## I. 回答者の属性

### ア) 回答者の職種 (問 1)

図表 847 回答者の職種



図表 848 回答者の職種 区分1のみ



※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

- ・(算定) 管理者
- ・(非算定) 管理者
- ・(非算定) 施設長

## II. 利用者の情報

### ア) 年齢 (問 2)

図表 849 年齢

(単位: 歳)

件数	平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
算定 n=82	84.0	7.8	85	108	64
非算定 n=106	82.3	8.6	84.5	97	54

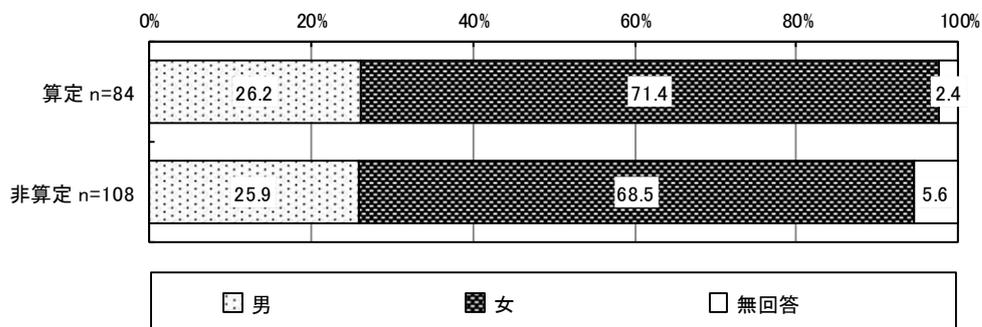
図表 850 年齢 区分1のみ

(単位: 歳)

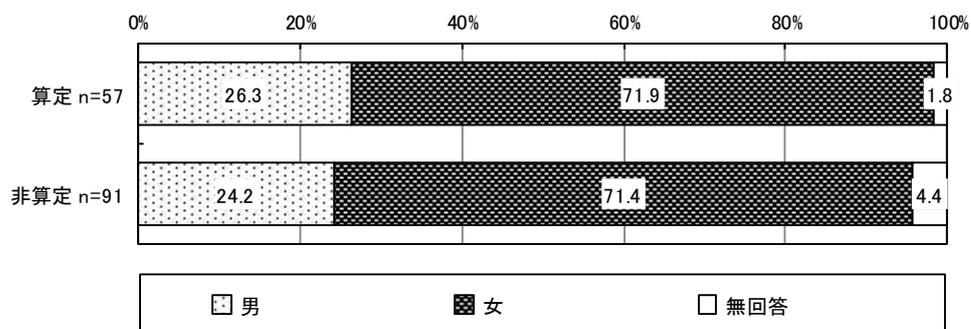
件数	平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
算定 n=56	82.9	7.5	85	97	64
非算定 n=91	82.2	8.7	84.5	97	54

## イ) 性別 (問 3)

図表 851 性別

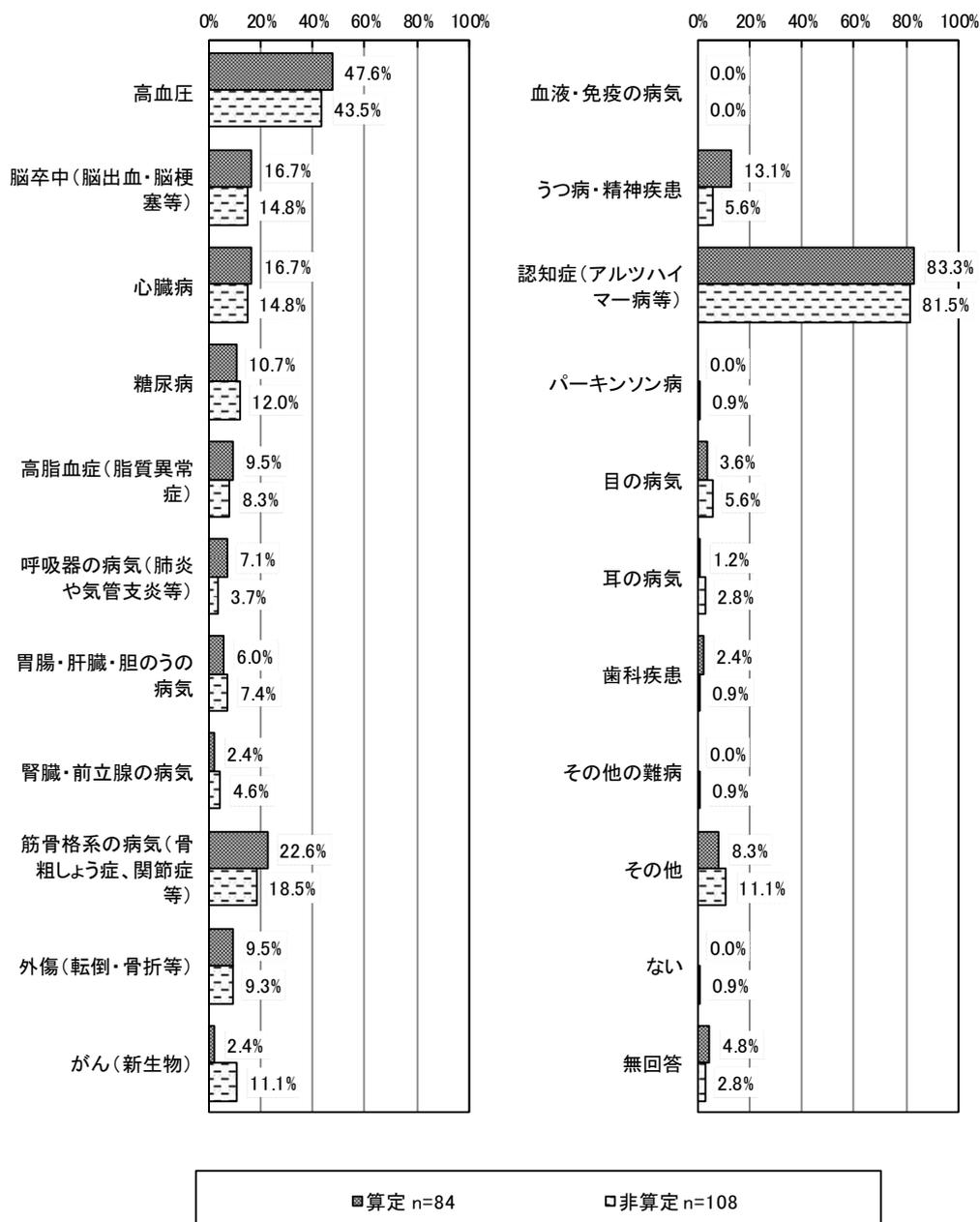


図表 852 性別 区分1のみ

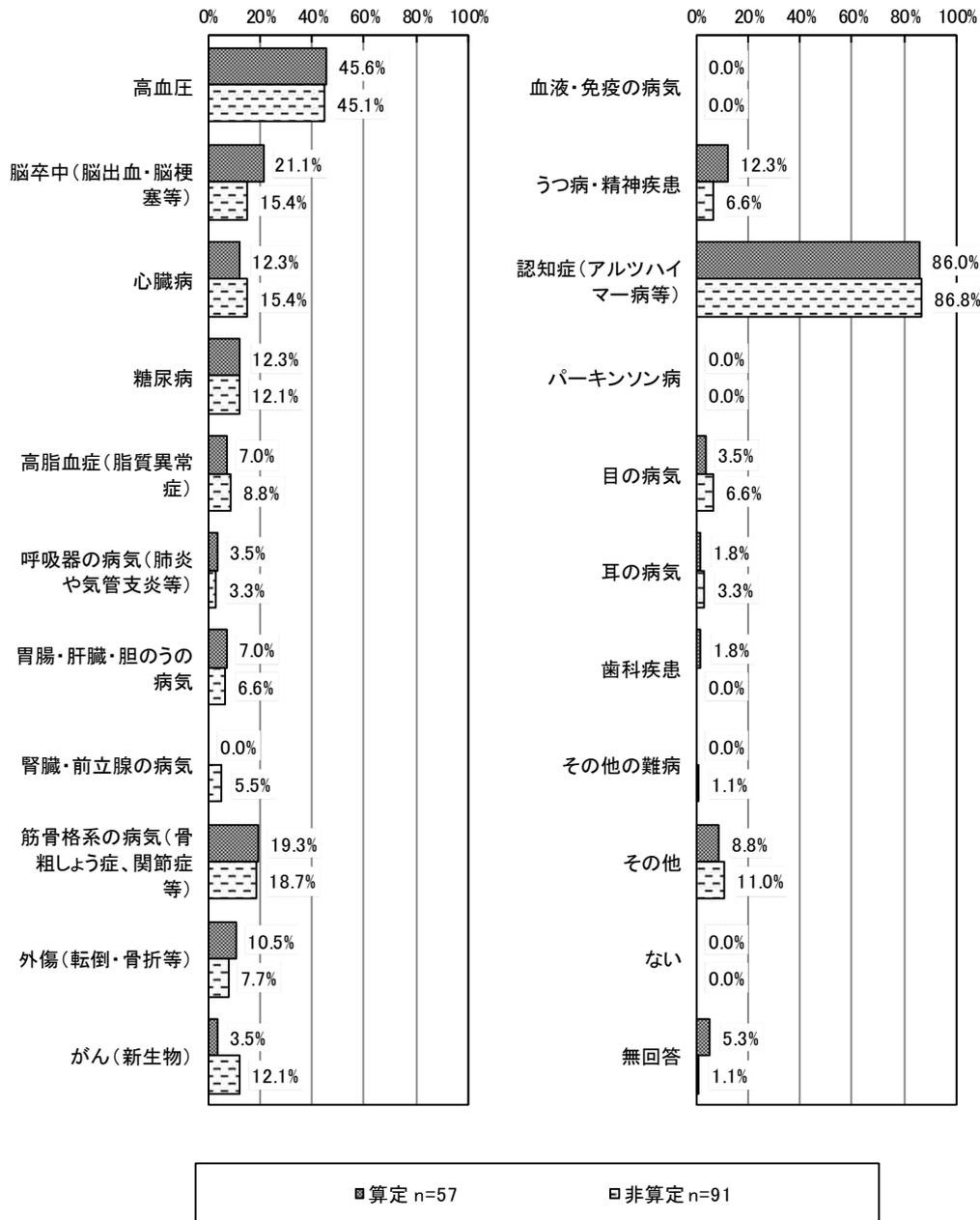


## ウ) 傷病名 (問 4)

図表 853 傷病名



図表 854 傷病名 区分1のみ

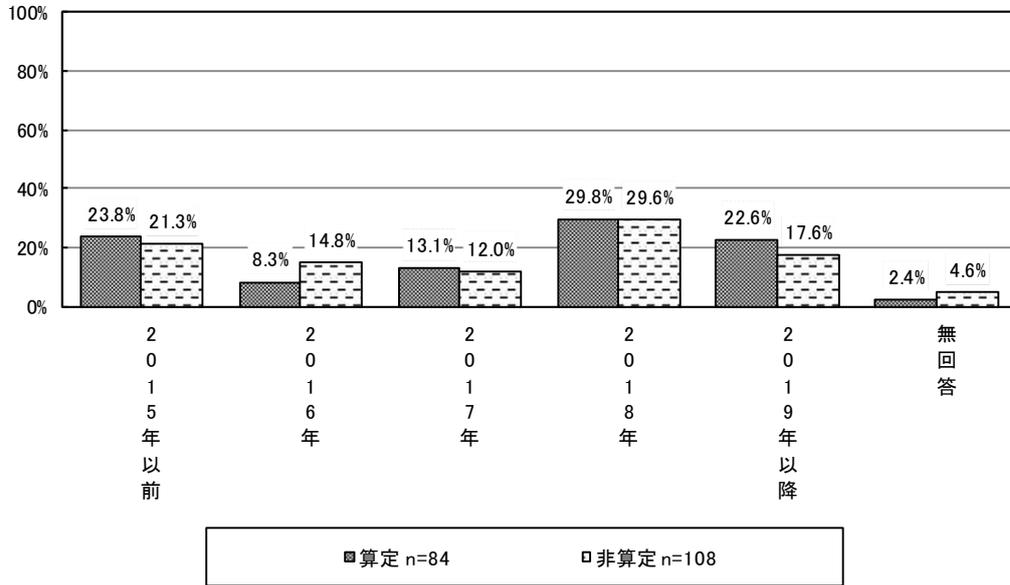


※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

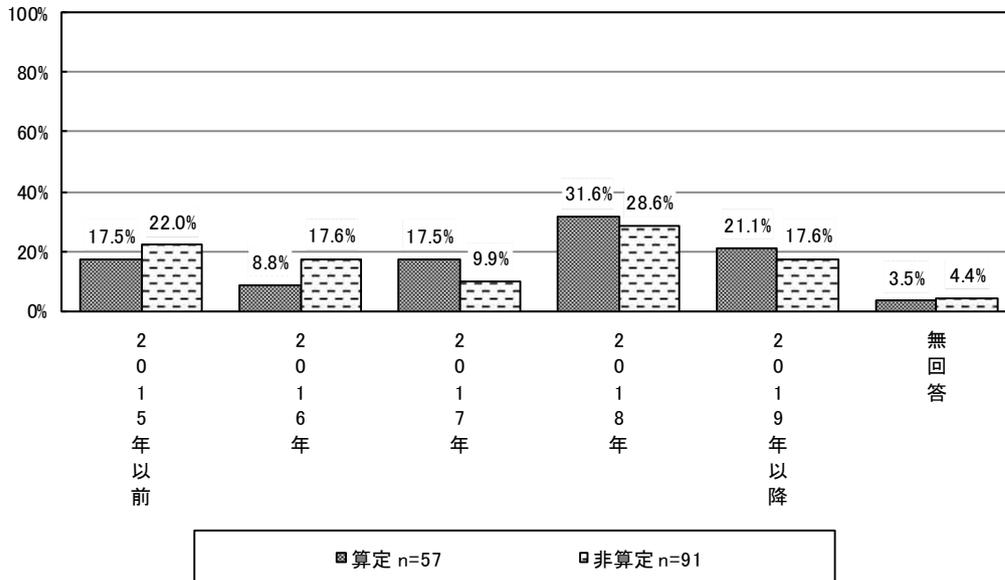
- ・(算定) 急性硬膜下血腫
- ・(算定) てんかん
- ・(非算定) 高尿酸血症
- ・(非算定) 不眠症

エ) 事業所・施設の利用開始時期 (問 5)

図表 855 事業所・施設の利用開始時期

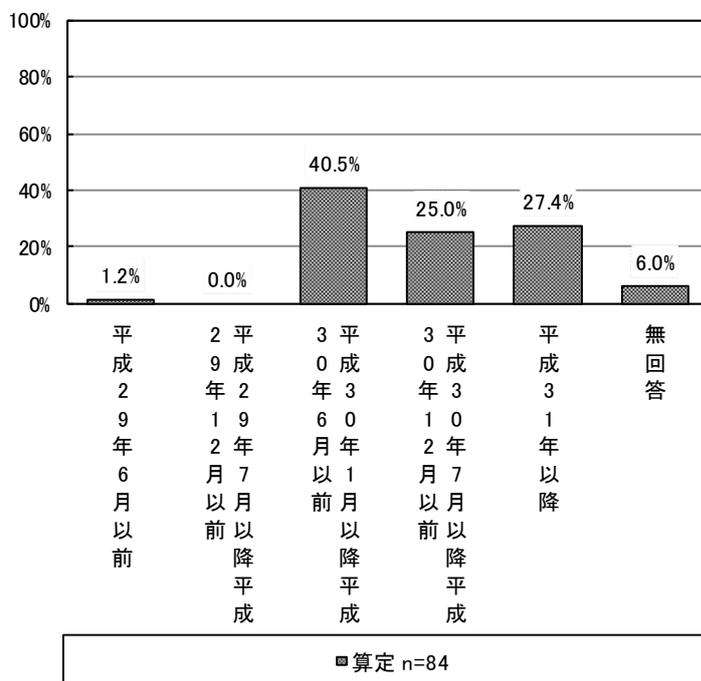


図表 856 事業所・施設の利用開始時期 区分1のみ

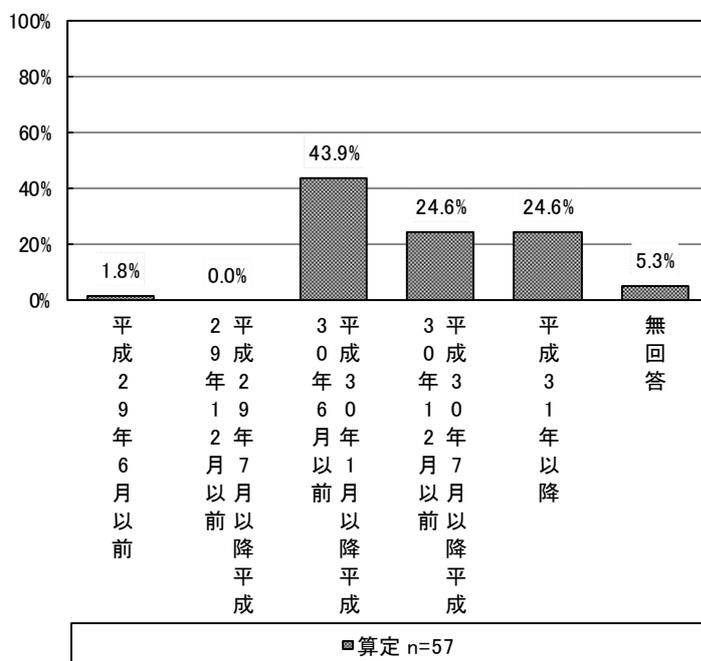


オ) 事業所・施設が加算算定に伴う連携を開始した時期（問 6）

図表 857 事業所・施設が加算算定に伴う連携を開始した時期

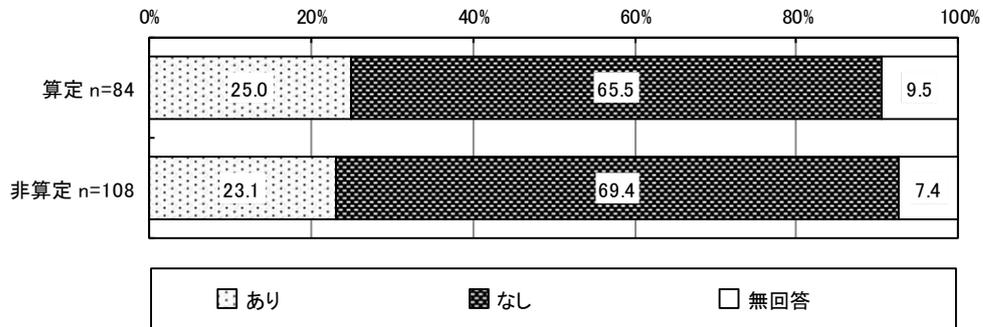


図表 858 事業所・施設が加算算定に伴う連携を開始した時期 区分1のみ

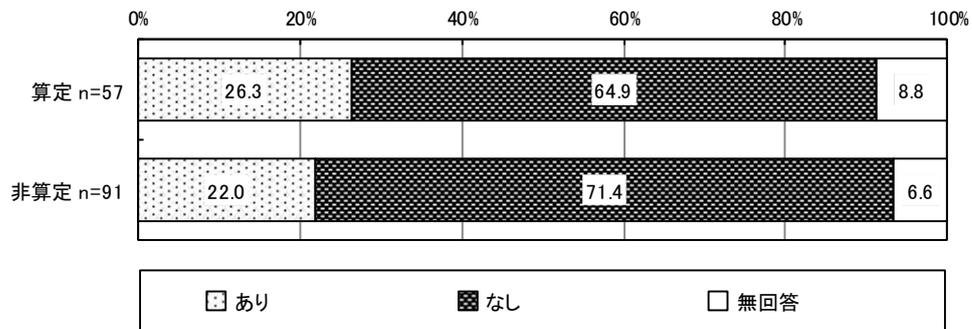


カ) 退院の有無と直近の入院期間（問 7）

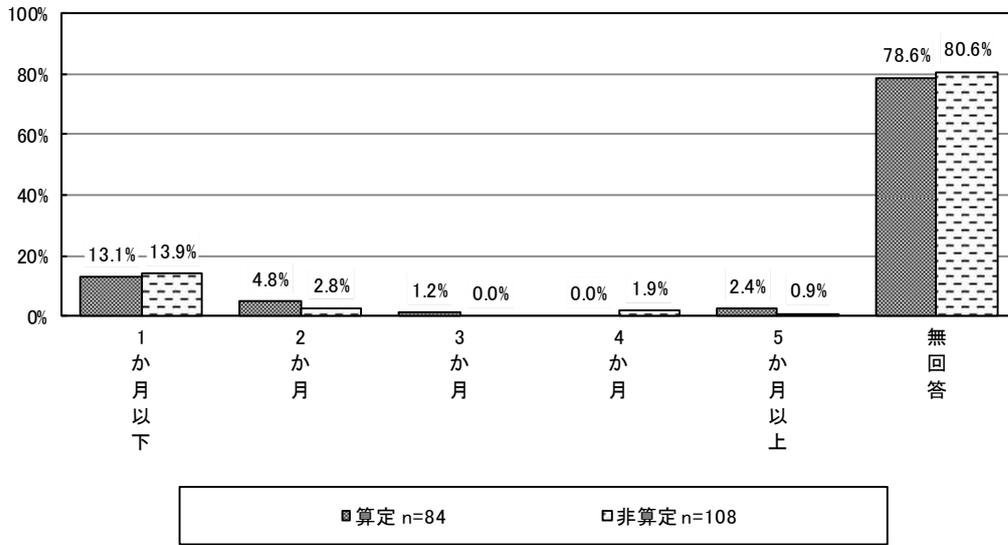
図表 859 退院の有無



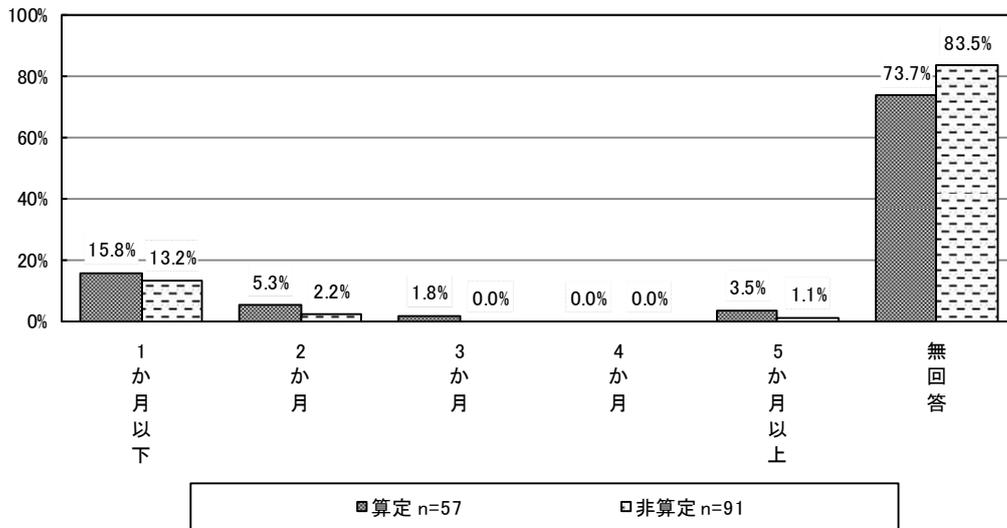
図表 860 退院の有無 区分 1 のみ



図表 861 直近の入院期間



図表 862 直近の入院期間 区分1のみ



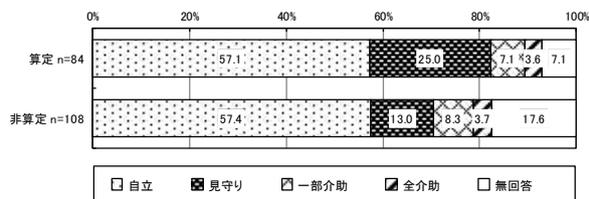
## キ) ADL・IADL の状況 (問 8)

図表 863 ADL・IADL の状況

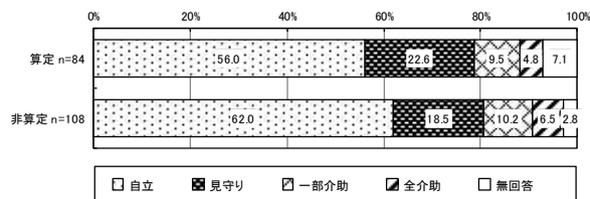
### 食事

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



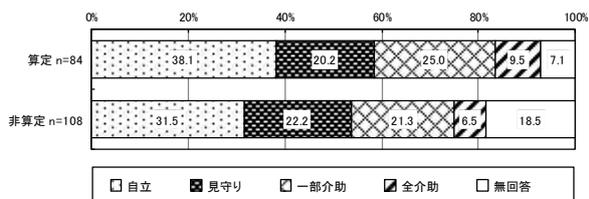
②令和元年 10 月 1 日時点



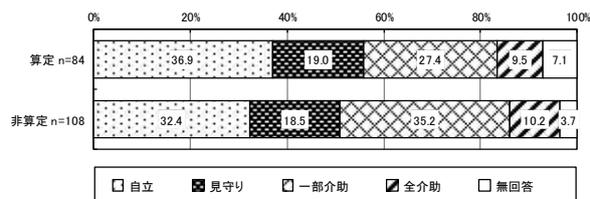
### 排泄

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



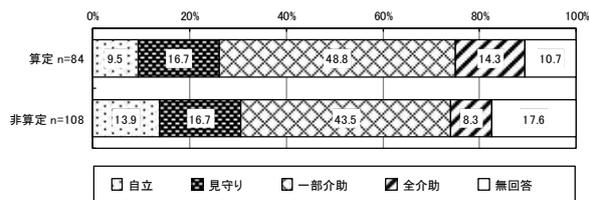
②令和元年 10 月 1 日時点



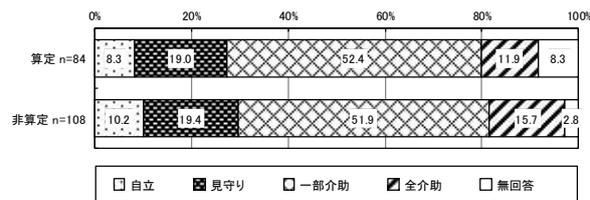
### 入浴

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



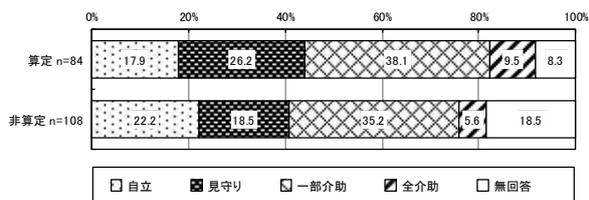
②令和元年 10 月 1 日時点



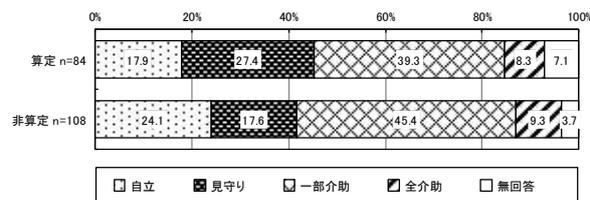
### 更衣

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



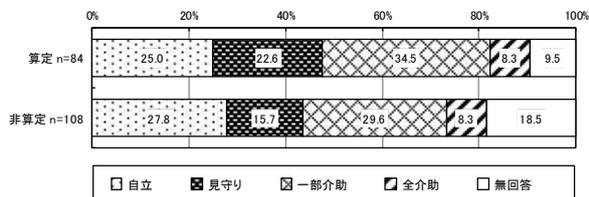
②令和元年 10 月 1 日時点



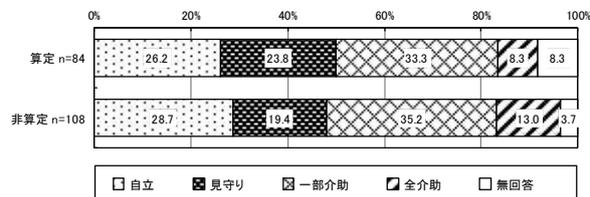
## 整容

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



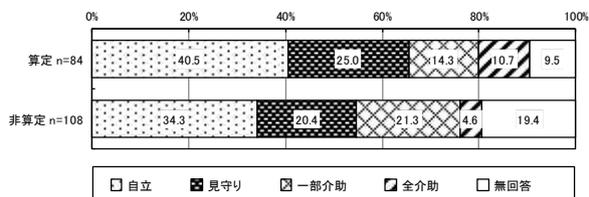
②令和元年10月1日時点



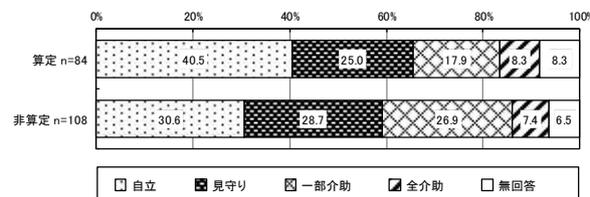
## 移乗

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



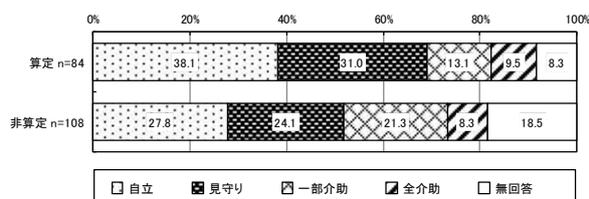
②令和元年10月1日時点



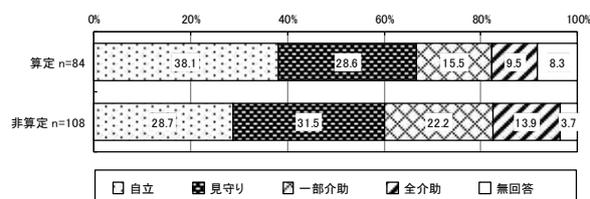
## 屋内移動

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



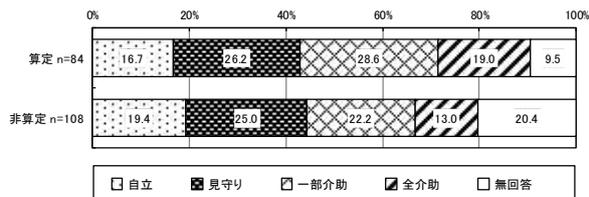
②令和元年10月1日時点



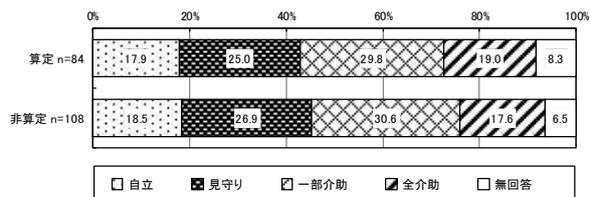
## 階段昇降

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



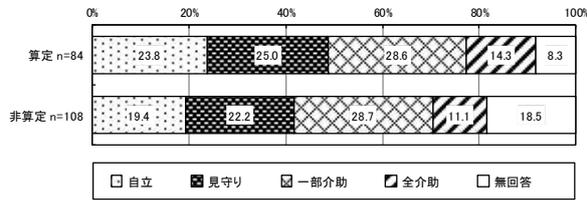
②令和元年10月1日時点



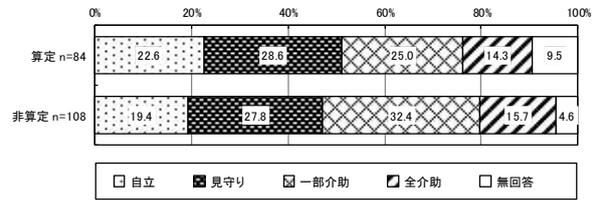
## 屋外移動

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



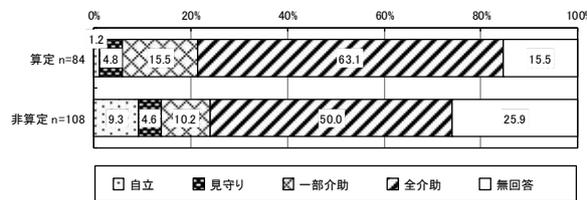
②令和元年10月1日時点



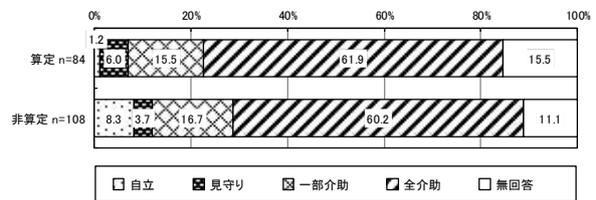
## 調理

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



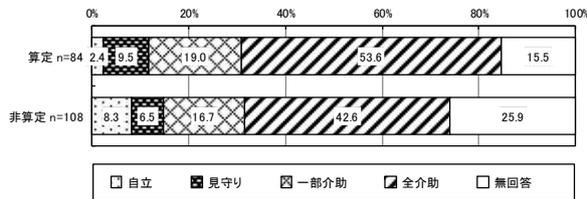
②令和元年10月1日時点



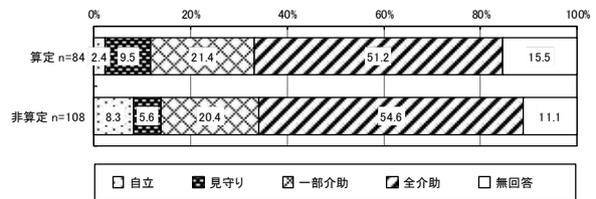
## 洗濯

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



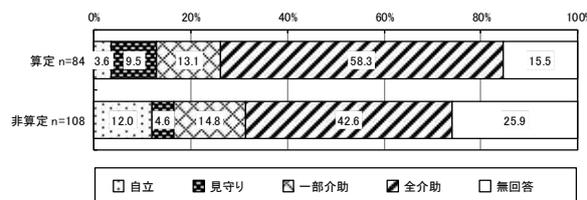
②令和元年10月1日時点



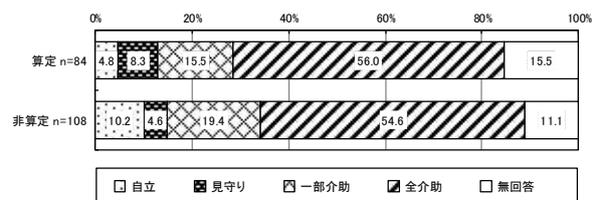
## 掃除

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



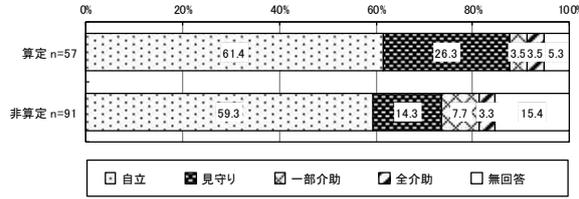
②令和元年10月1日時点



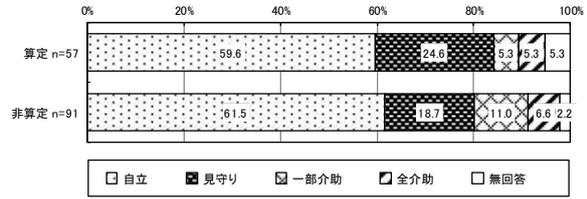
食事 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



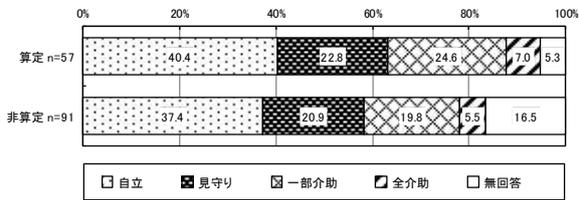
②令和元年10月1日時点



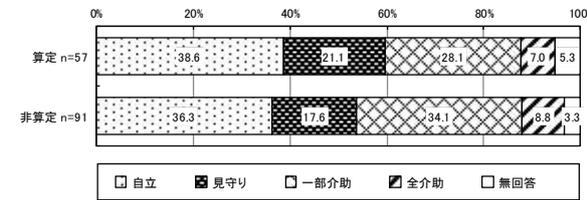
排泄 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



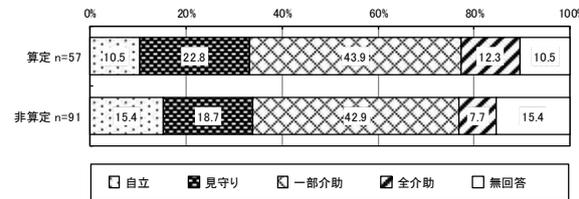
②令和元年10月1日時点



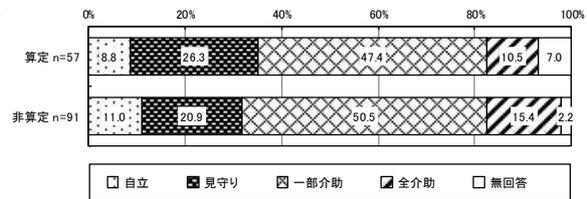
入浴 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



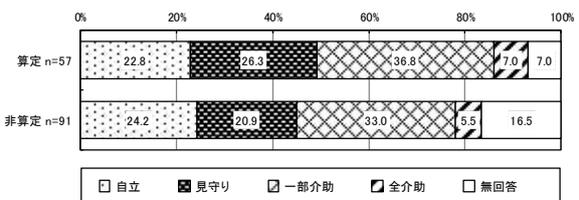
②令和元年10月1日時点



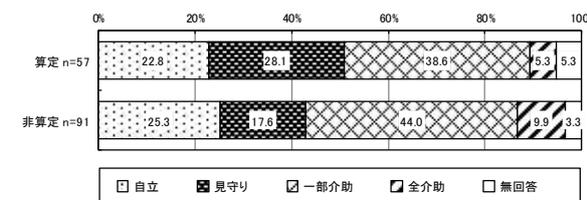
更衣 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



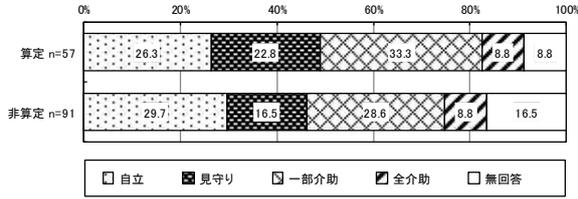
②令和元年10月1日時点



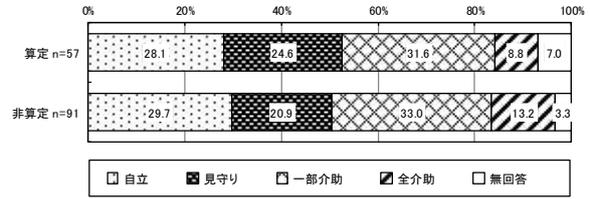
整容 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



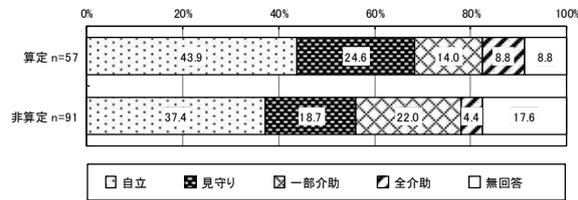
②令和元年10月1日時点



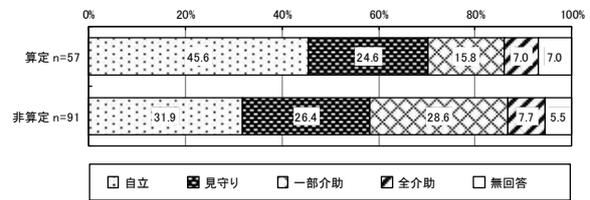
移乗 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



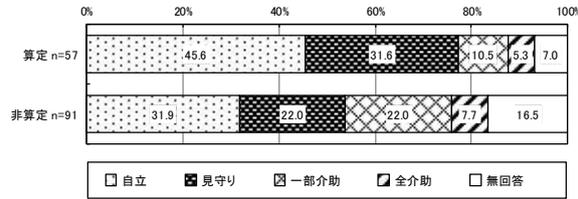
②令和元年10月1日時点



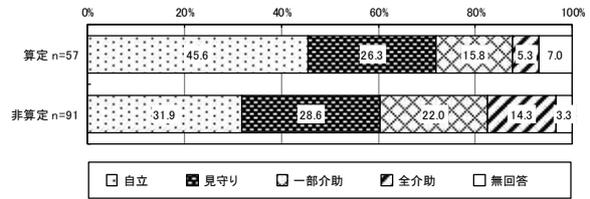
屋内移動 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



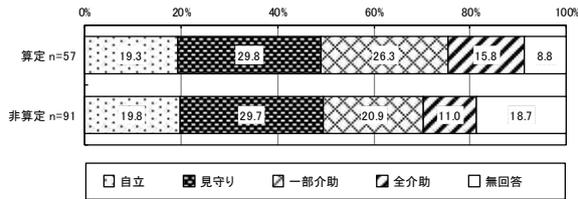
②令和元年10月1日時点



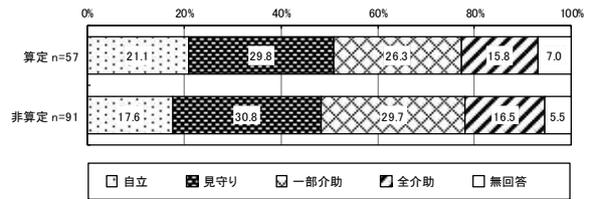
階段昇降 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



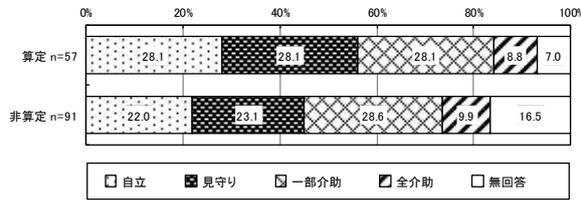
②令和元年10月1日時点



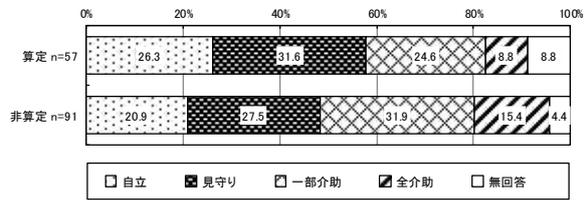
屋外移動 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



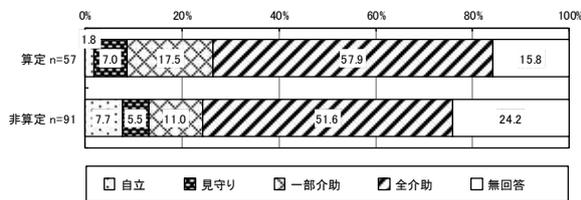
②令和元年10月1日時点



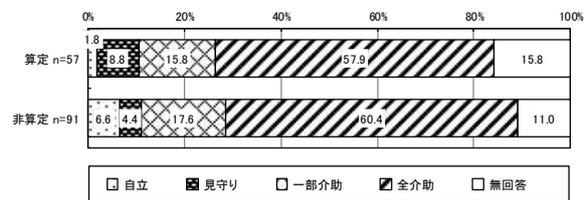
調理 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



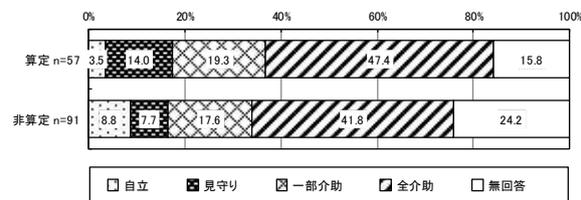
②令和元年10月1日時点



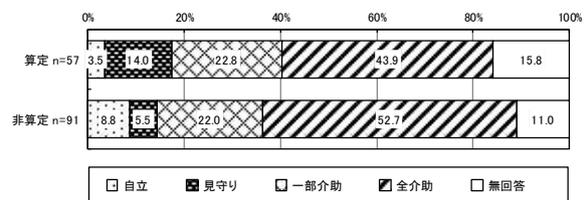
洗濯 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



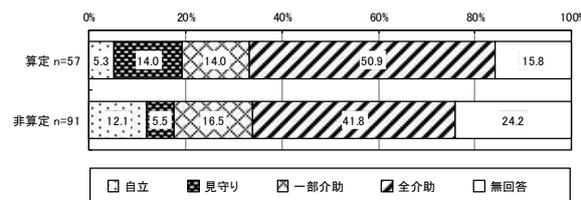
②令和元年10月1日時点



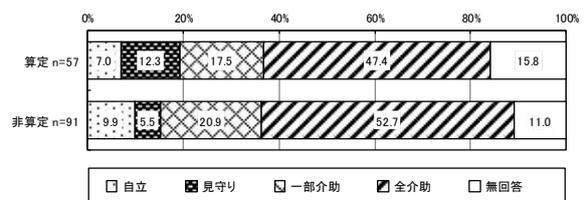
掃除 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点

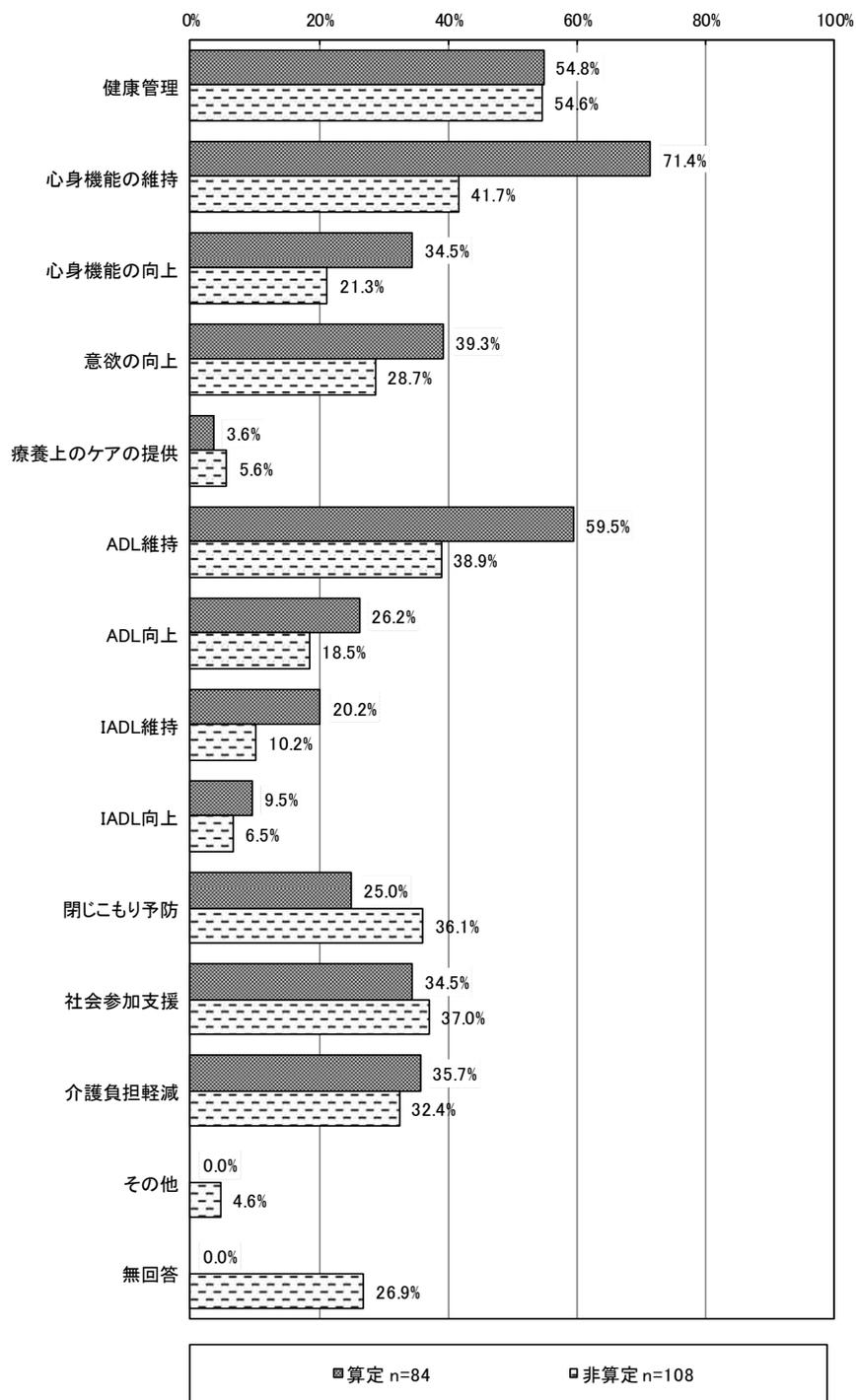


②令和元年10月1日時点

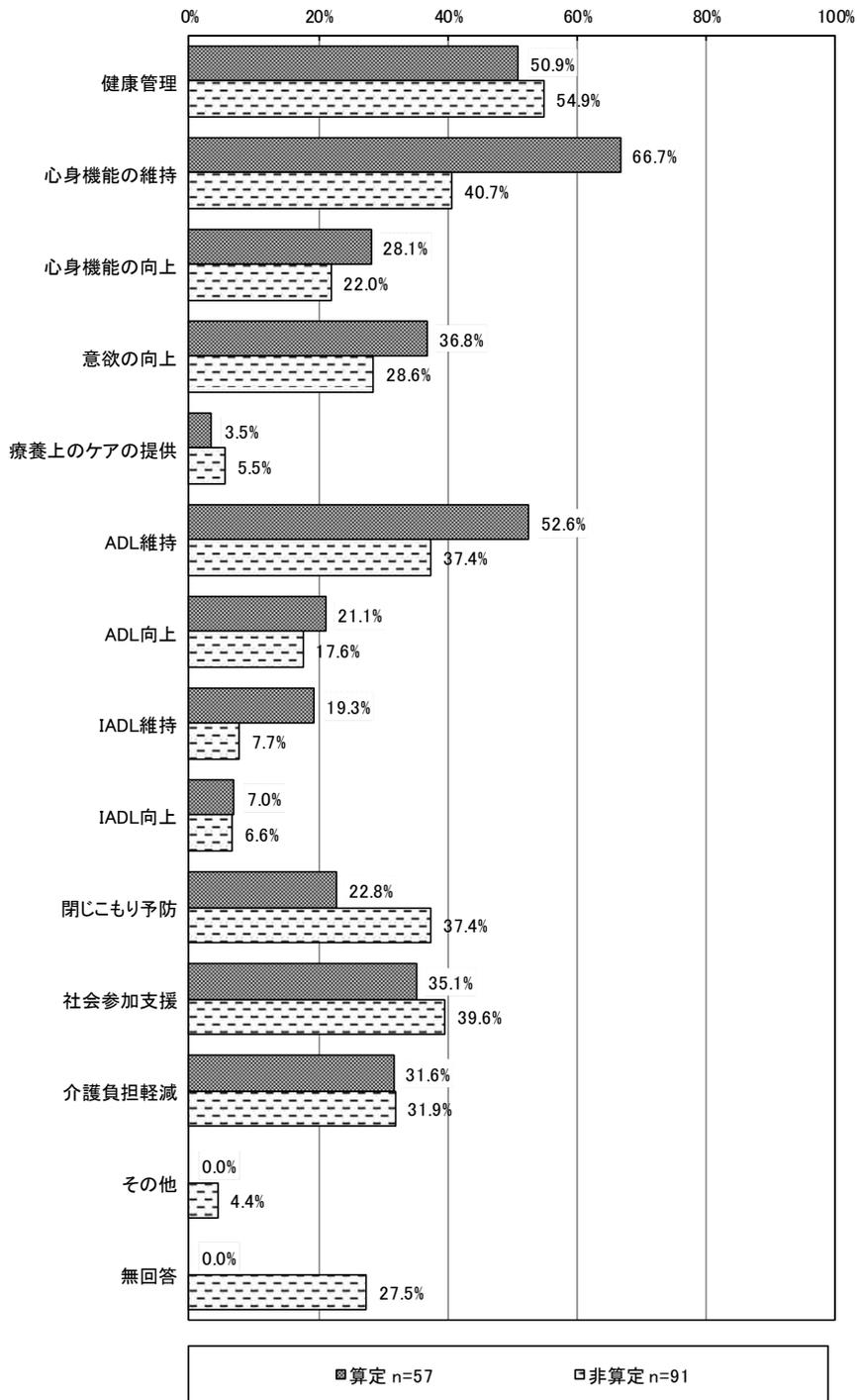


## ク) ケアプランの目標 (問 9)

図表 864 目標 ①加算算定に伴う連携の開始時点



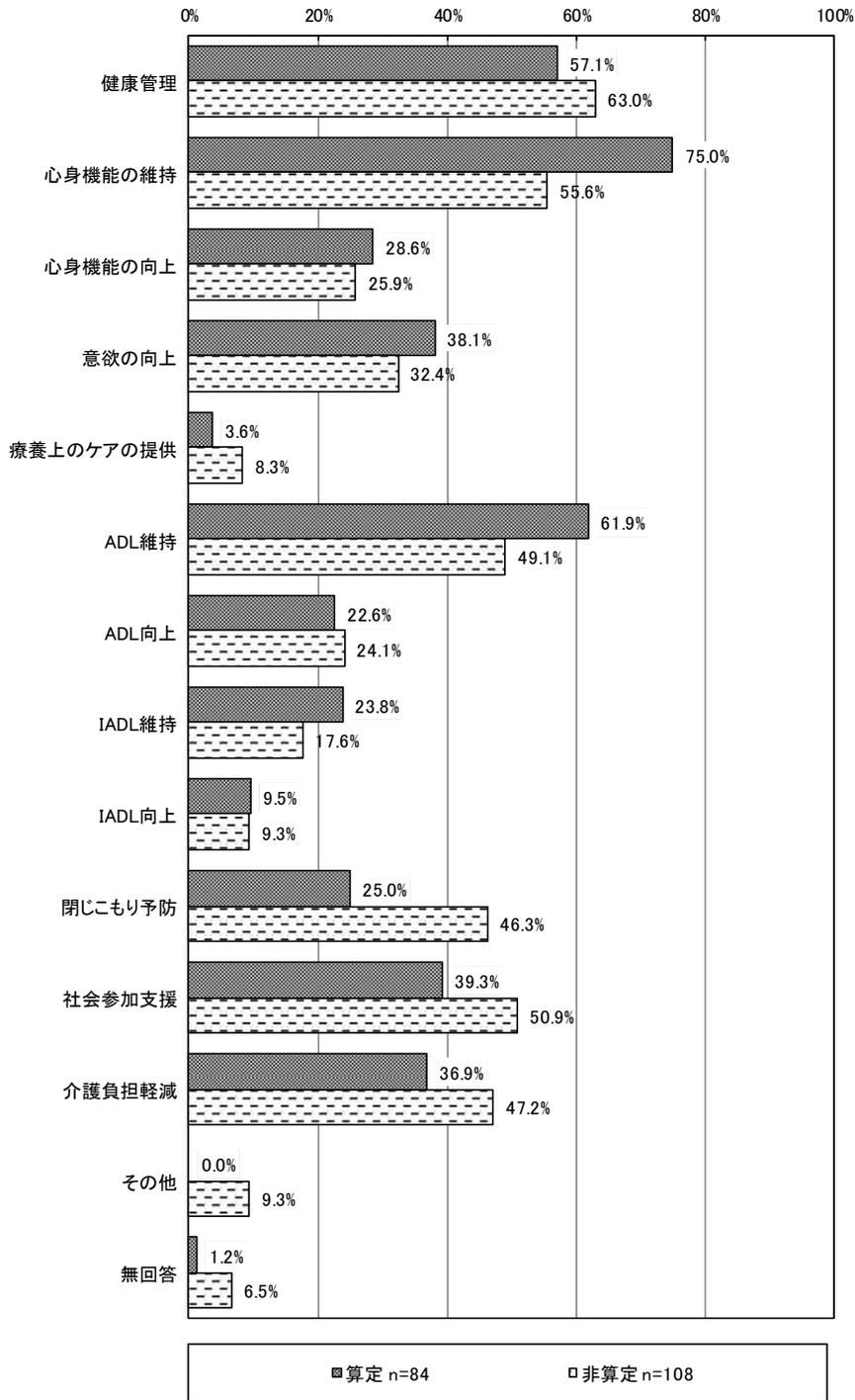
図表 865 目標 ①加算算定に伴う連携の開始時点 区分1のみ



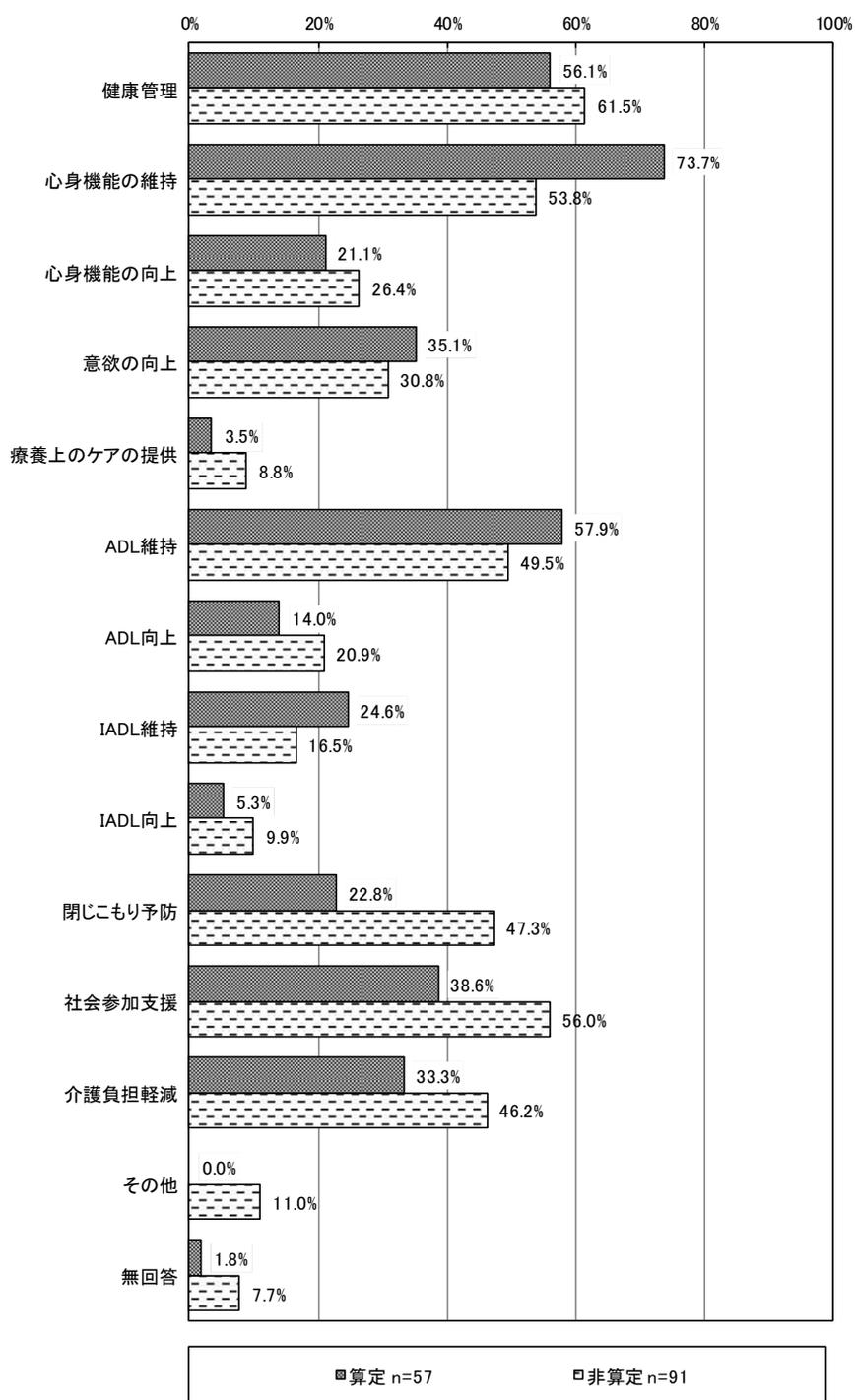
※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

- ・(非算定) 清潔保持
- ・(非算定) 認知症進行予防

図表 866 目標 ②令和元年 10 月 1 日時点



図表 867 目標 ②令和元年10月1日時点 区分1のみ



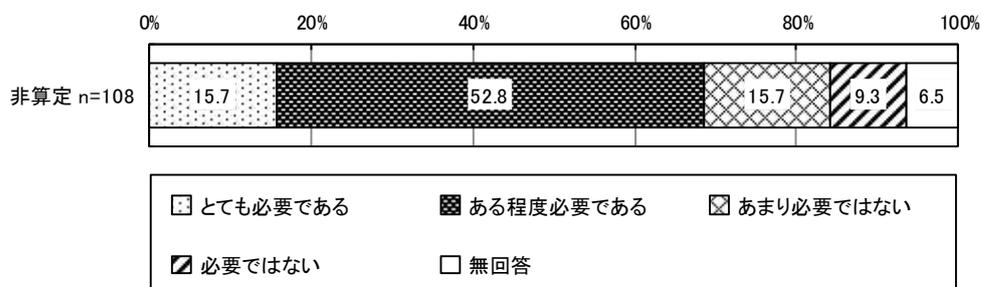
※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

- ・(非算定) 清潔保持
- ・(非算定) 認知症進行予防

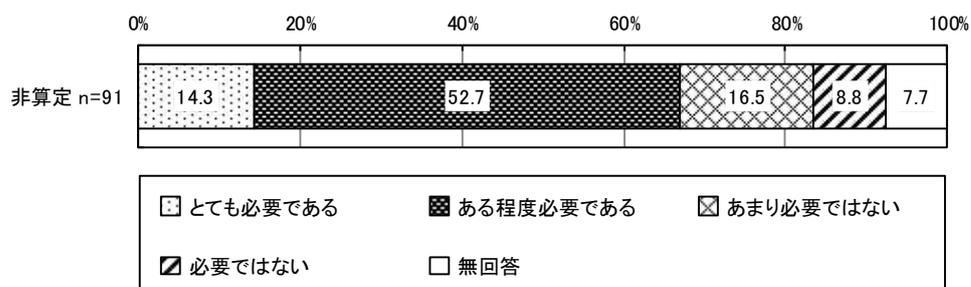
ケ) 利用者の ADL、IADL の状況や課題から判断した、リハ専門職等<sup>※</sup>との連携の必要性 (問 10 (非算定事業所・施設利用者票))

※理学療法士、作業療法士、言語聴覚士又はリハビリテーション科専門医

図表 868 リハ専門職等との連携の必要性

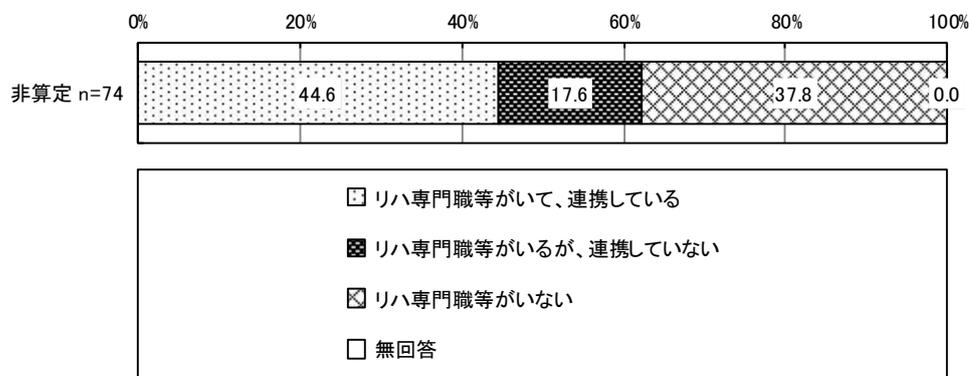


図表 869 リハ専門職等との連携の必要性 区分1のみ

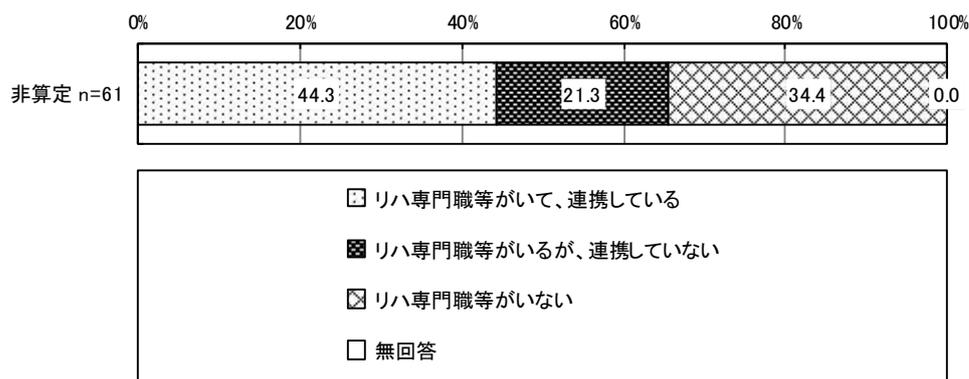


コ) 同一法人内のリハ専門職等の存在および連携の有無(問 11(非算定事業所・施設利用者票))

図表 870 同一法人内のリハ専門職等の存在および連携の有無



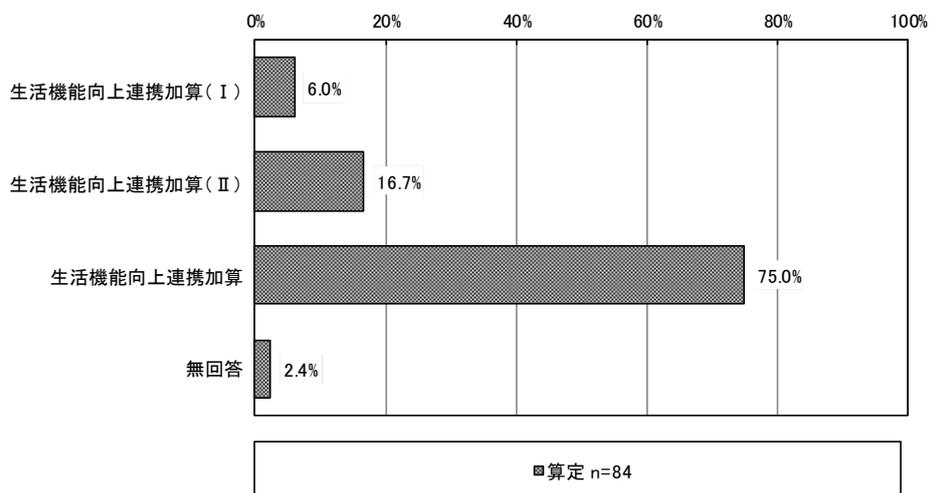
図表 871 同一法人内のリハ専門職等の存在および連携の有無 区分1のみ



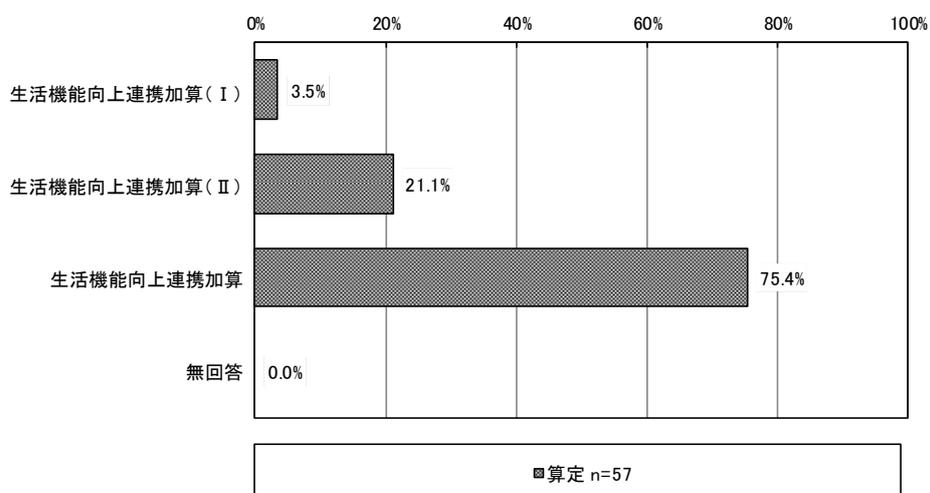
### Ⅲ. 生活機能向上連携加算の算定状況

#### ア) 算定状況 (問 10)

図表 872 算定状況

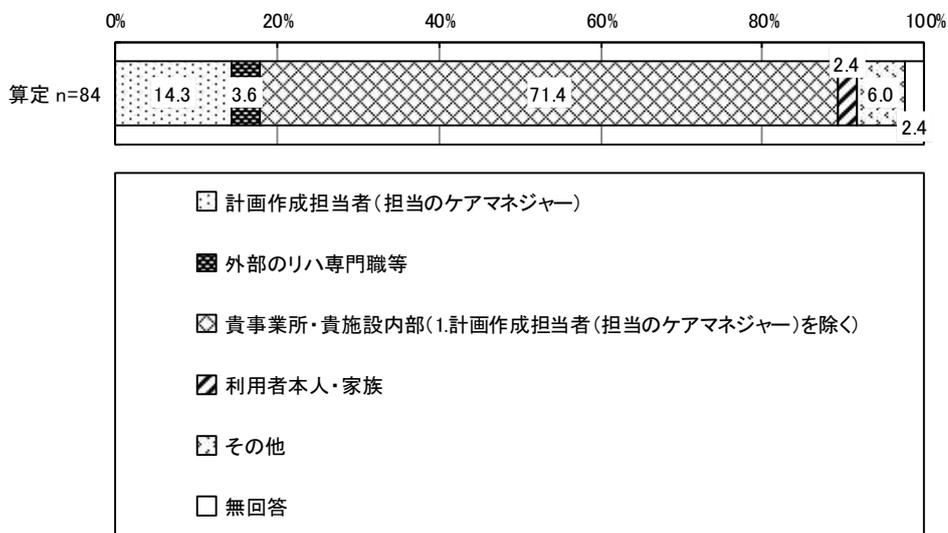


図表 873 算定状況 区分1のみ

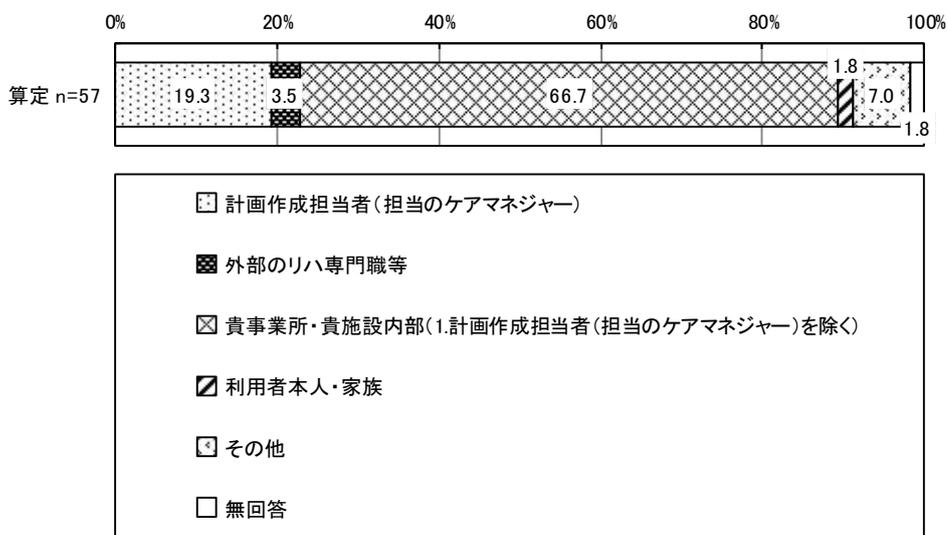


## イ) 算定の提案者 (問 11)

図表 874 算定の提案者



図表 875 算定の提案者 区分1のみ

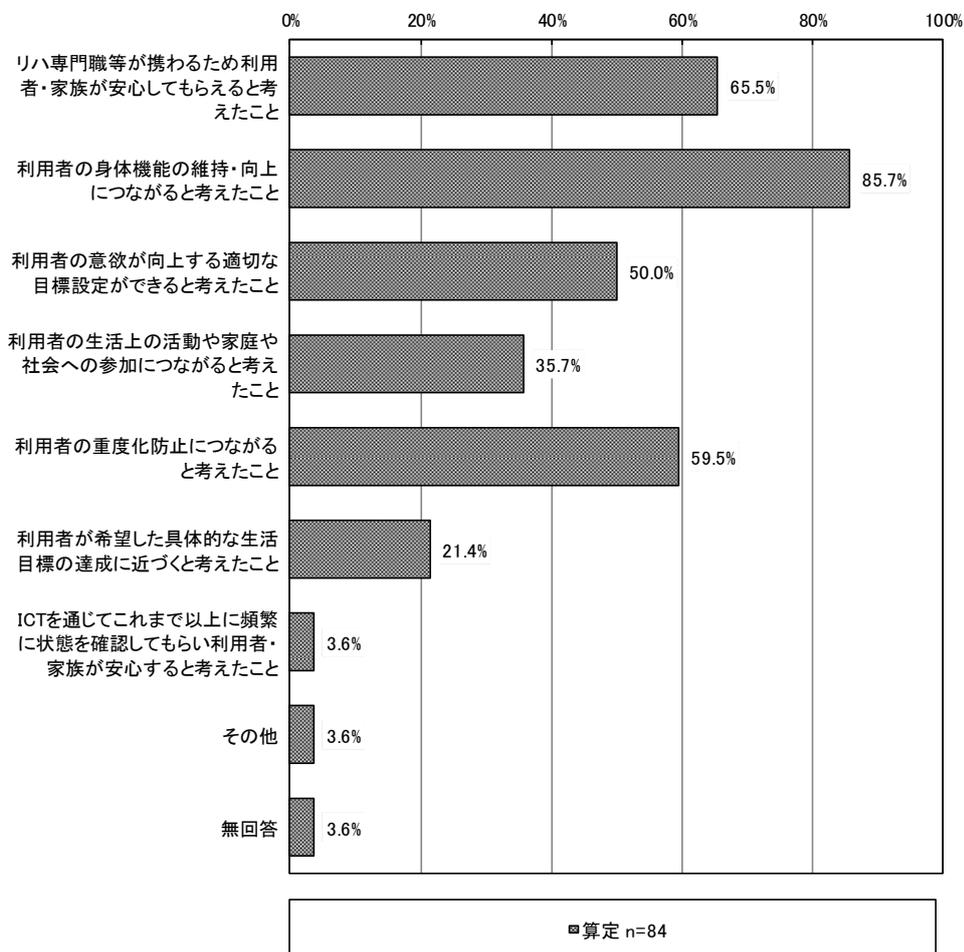


※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

- ・管理者

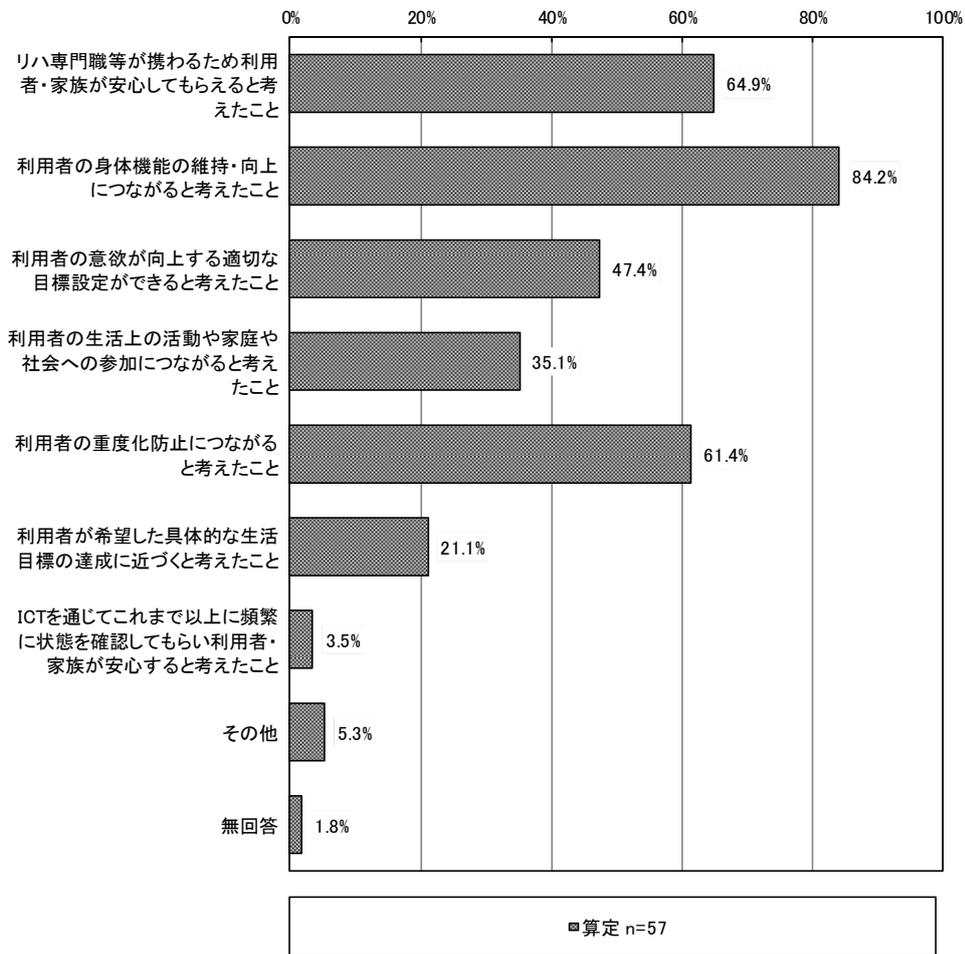
## ウ) 算定を提案した理由 (問 11-2)

図表 876 算定を提案した理由



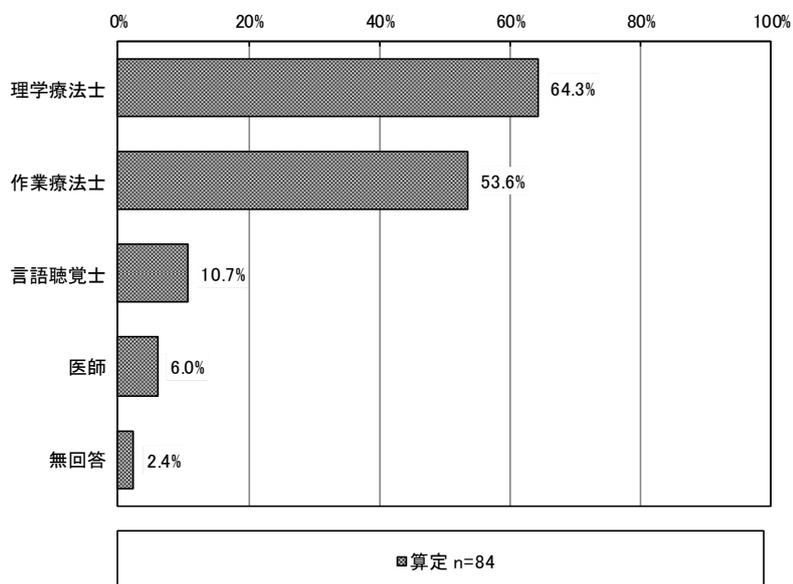
※その他として挙げられた有効な回答は無し。

図表 877 算定を提案した理由 区分1のみ

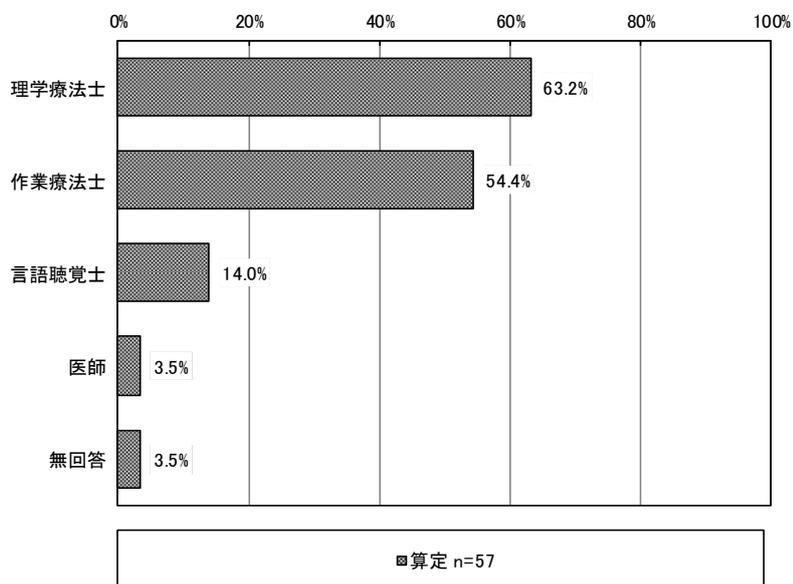


エ) 連携している外部の職種 (問 12)

図表 878 連携している外部の職種

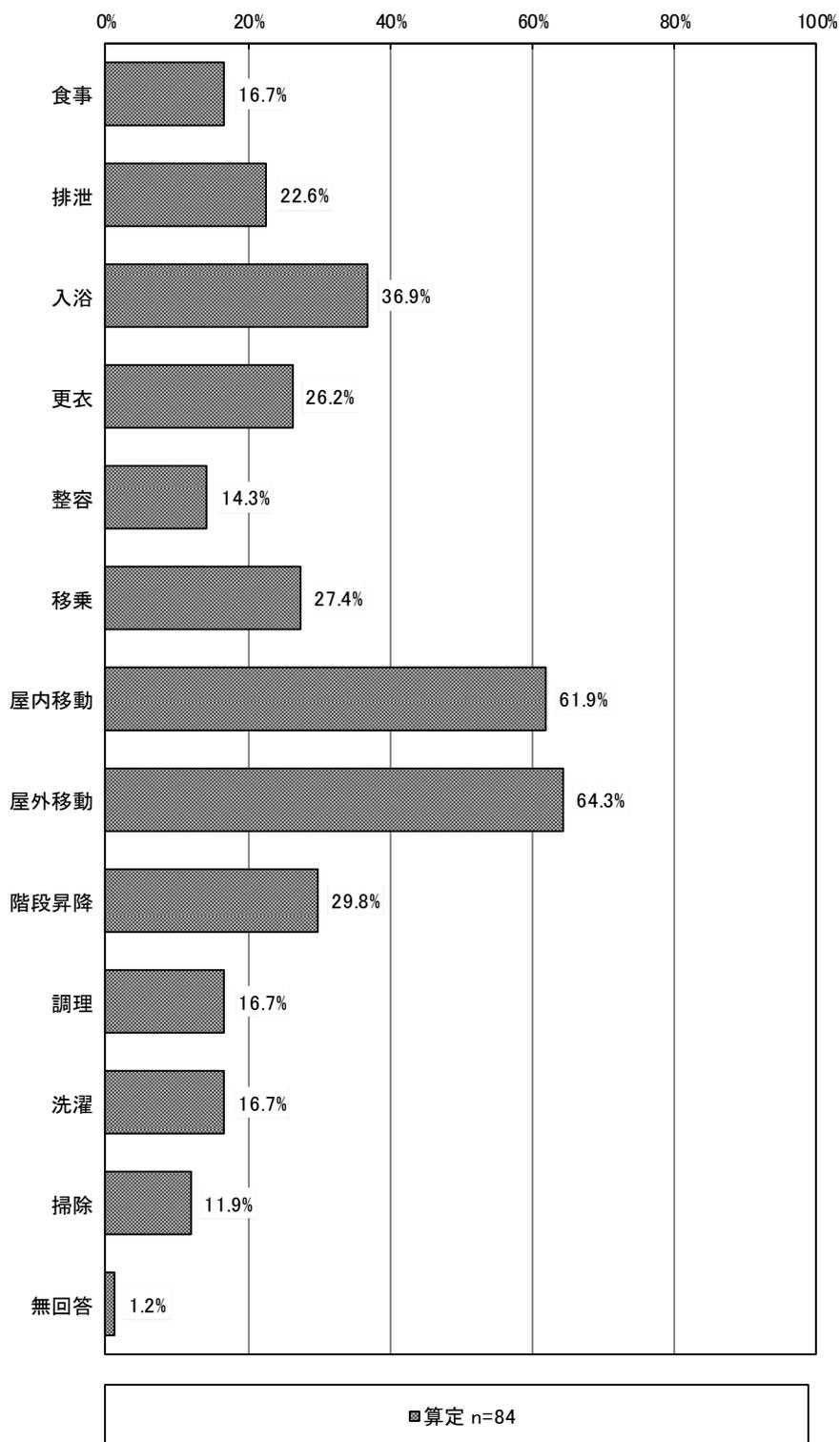


図表 879 連携している外部の職種 区分1のみ

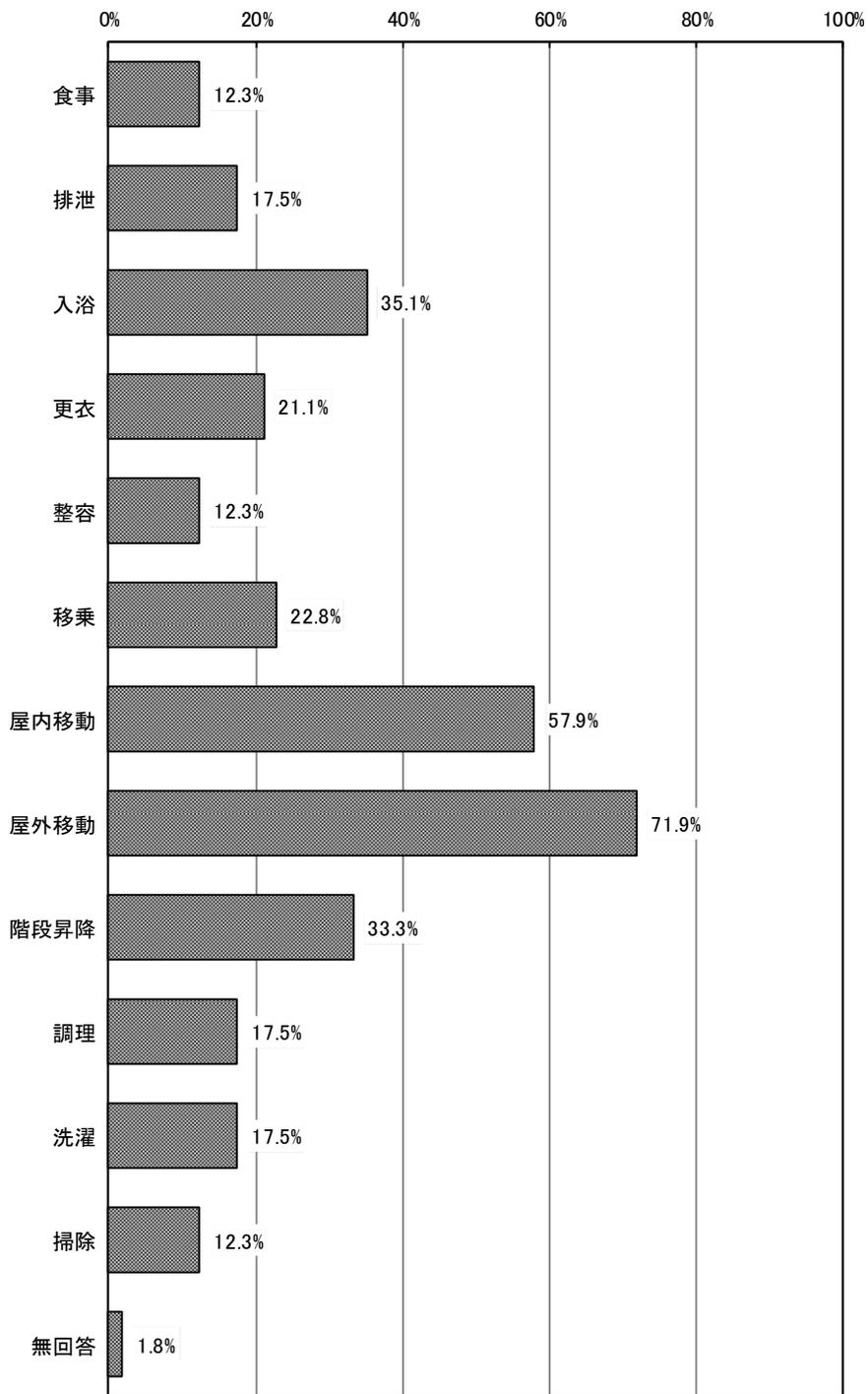


## 才) 利用者の課題 (問 13)

図表 880 利用者の課題



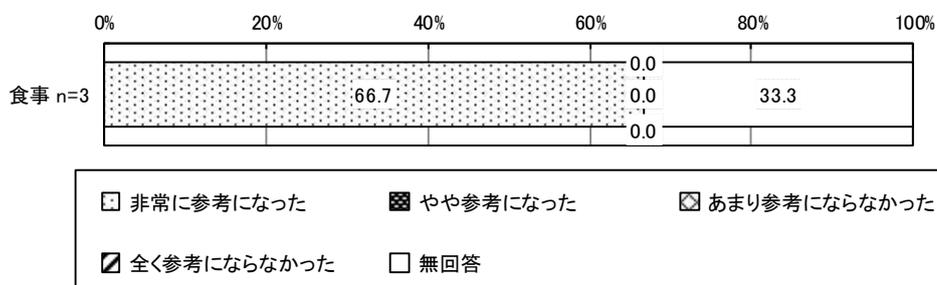
図表 881 利用者の課題 区分1のみ



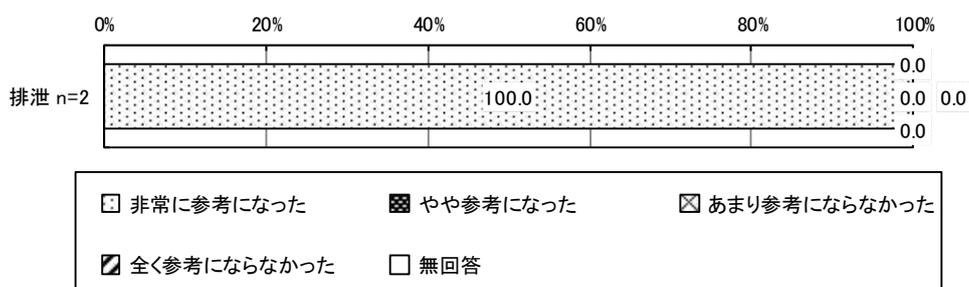
■算定 n=57

カ) 外部からの助言を計画に反映した内容について、課題、助言内容、また助言はどの程度参考になったか（問 14）

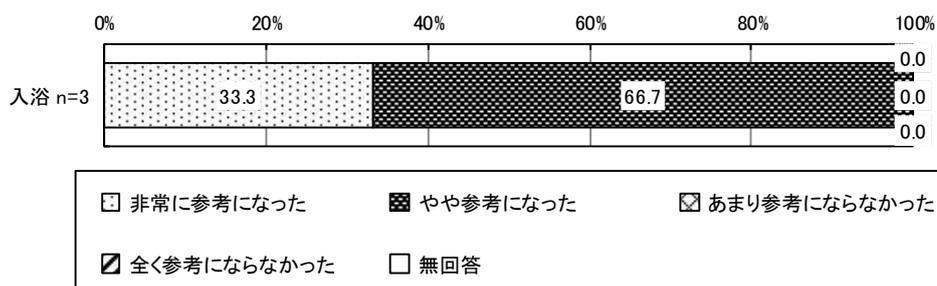
図表 882 食事



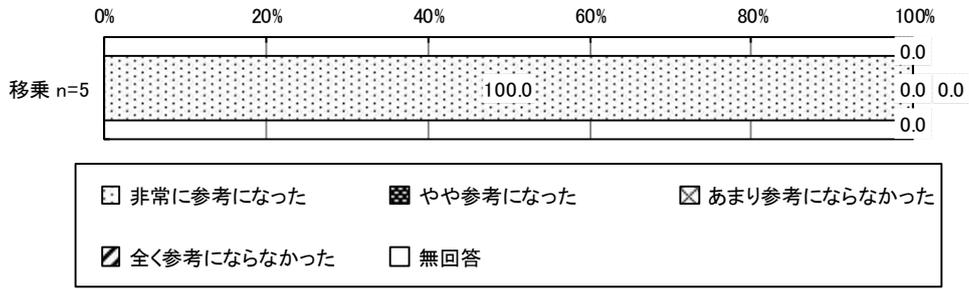
図表 883 排泄



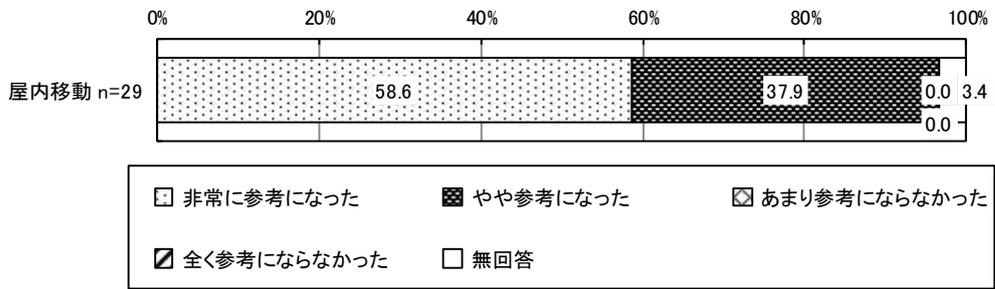
図表 884 入浴



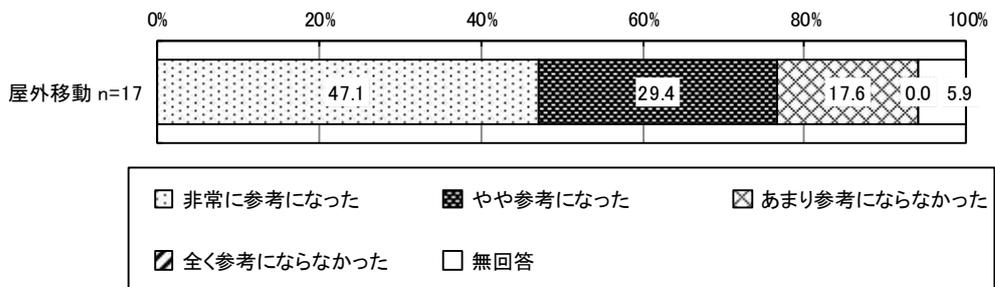
図表 885 移乗



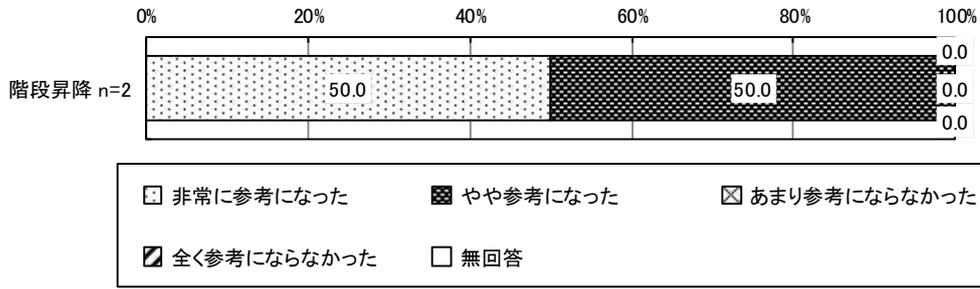
図表 886 屋内移動



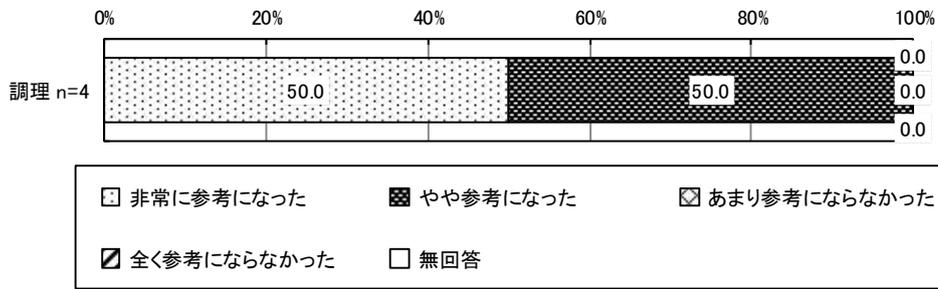
図表 887 屋外移動



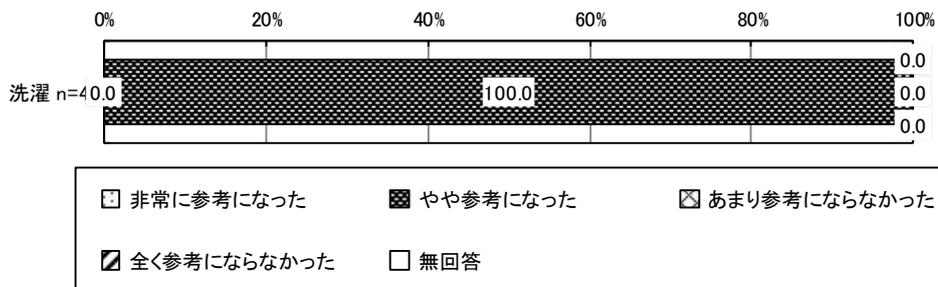
図表 888 階段昇降



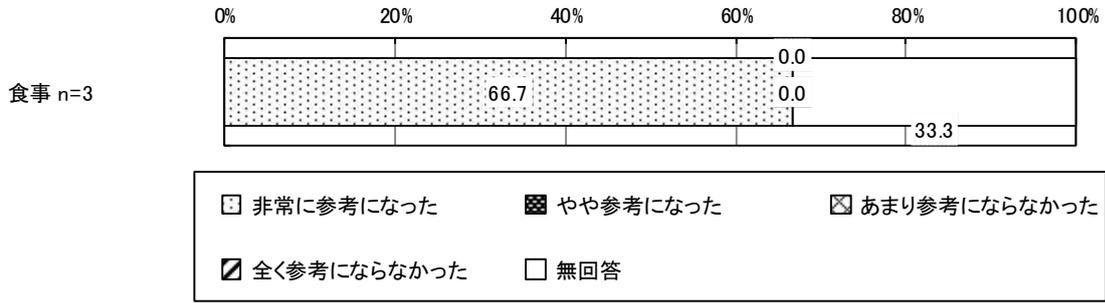
図表 889 調理



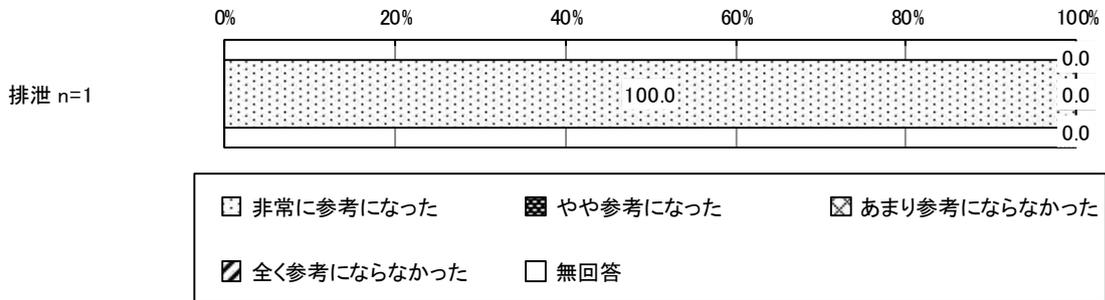
図表 890 洗濯



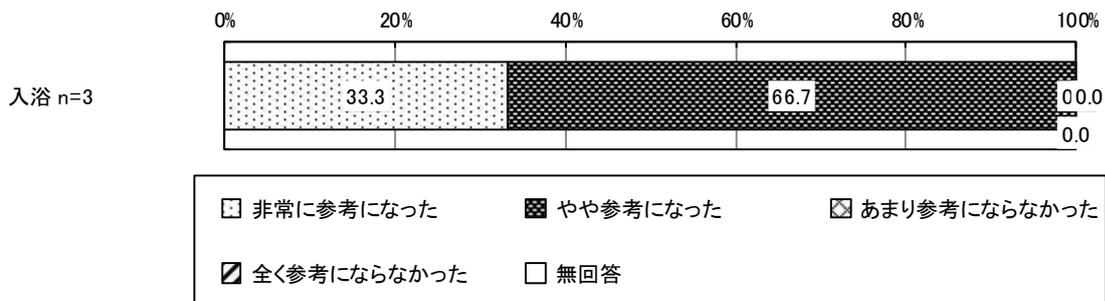
図表 891 食事 区分1のみ



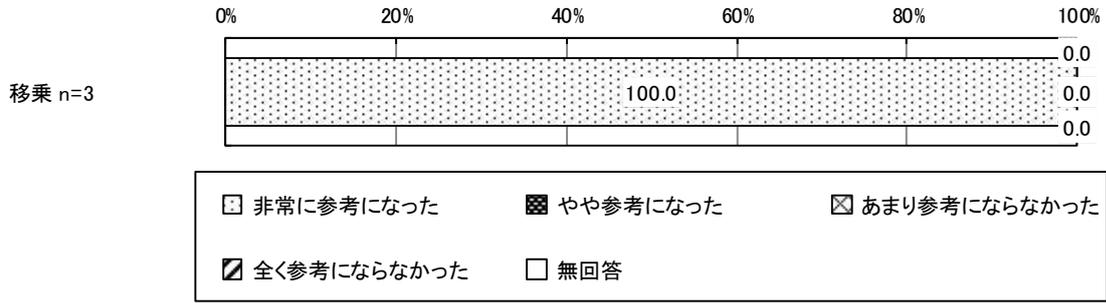
図表 892 排泄 区分1のみ



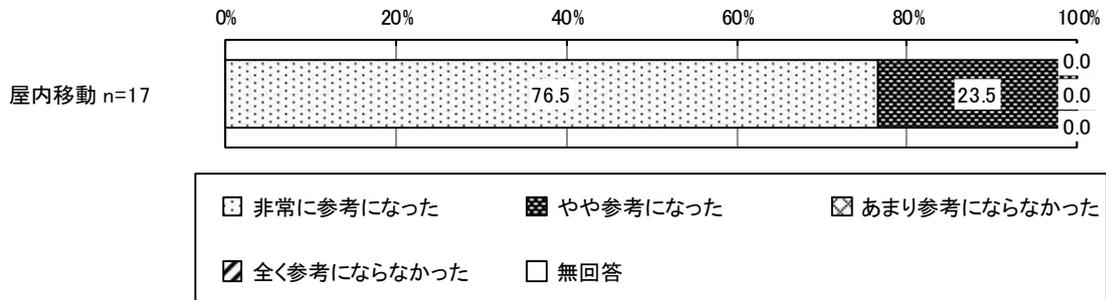
図表 893 入浴 区分1のみ



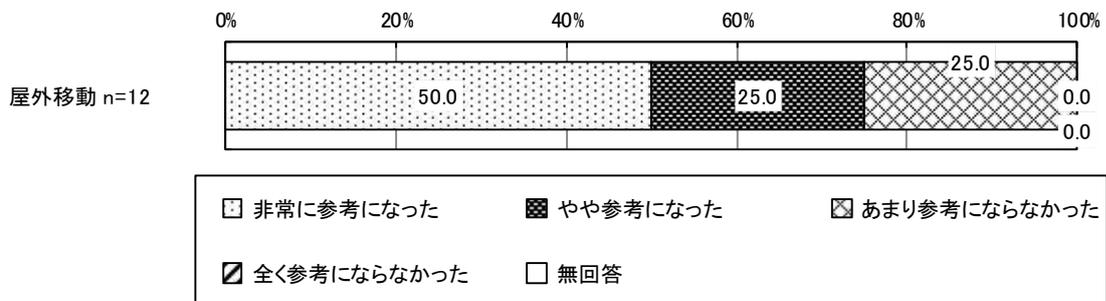
図表 894 移乗 区分1のみ



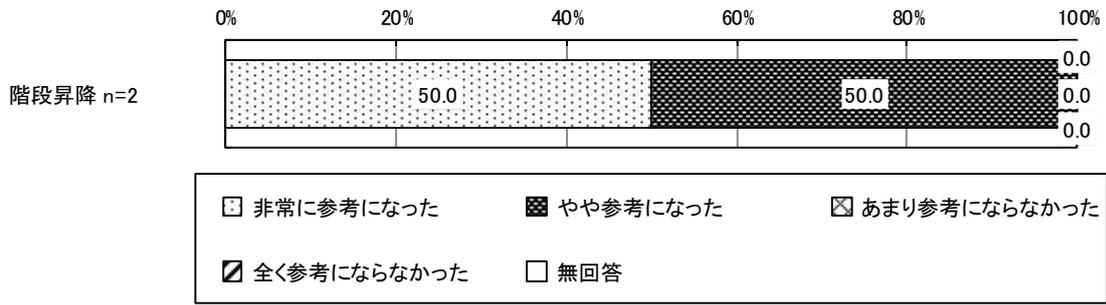
図表 895 屋内移動 区分1のみ



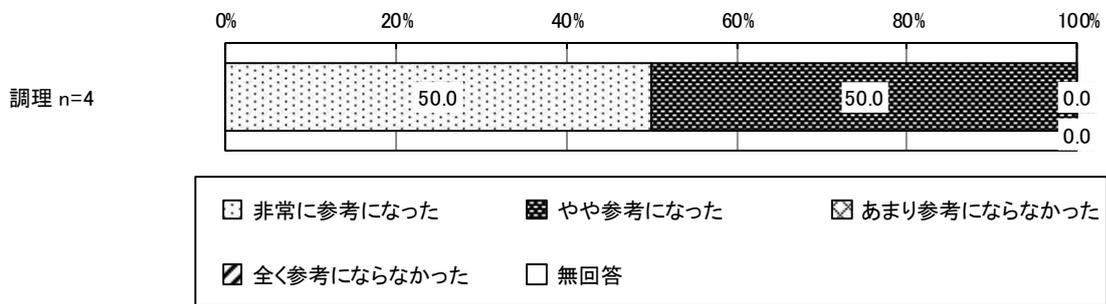
図表 896 屋外移動 区分1のみ



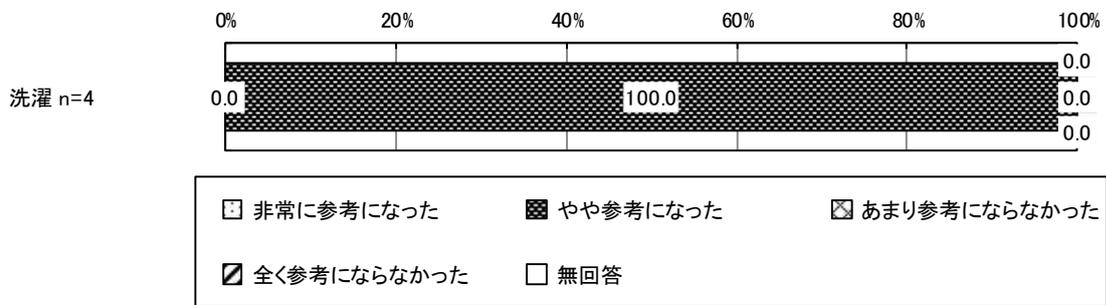
図表 897 階段昇降 区分1のみ



図表 898 調理 区分1のみ



図表 899 洗濯 区分1のみ



図表 900 課題別の助言内容

**○食事**

- ・ ゆっくりと楽しみながら食事出来るように環境を整える
- ・ ポジショニングについて

**○排泄**

- ・ 自身での動きを促す
- ・ 尿失禁予防体制の実施

**○入浴**

- ・ 浴槽への跨ぎ動作時、細かく声掛けをする
- ・ 自宅で同じように入浴するための介助方法

**○移乗**

- ・ 下肢筋力強化の運動
- ・ 負担をかけないようゆっくり体を動かす

**○屋内移動**

- ・ 心臓の負担を軽減するため、座ったままでできる体操を行う
- ・ 足の上がりが悪く、つまずきやすいため、筋力強化を行う 等

**○屋外移動**

- ・ 運動時に疲労感を確認しながら行う
- ・ サポーターの使用

**○階段昇降**

- ・ 自宅前の階段昇降の維持をする
- ・ 現機能を維持するという目標を変更する

**○調理**

- ・ 調理場や洗濯場の物が多いため、片付け・整理を行う
- ・ 自宅でもできるよう習慣づけを行う

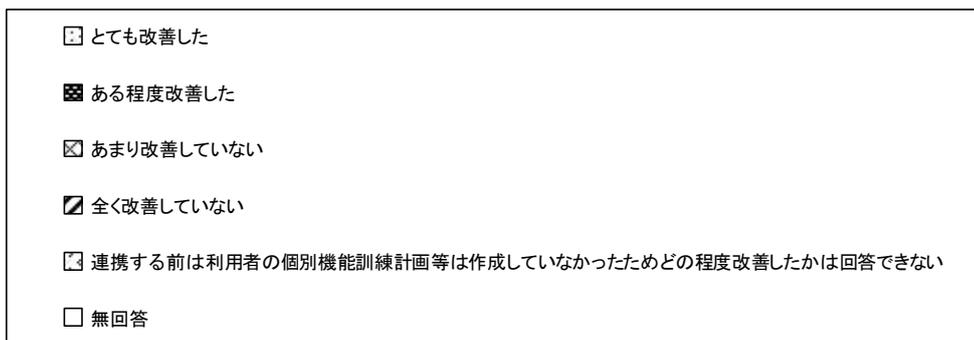
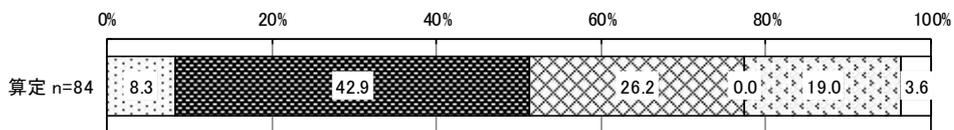
**○洗濯**

- ・ 動作手順を適宜声掛けする
- ・ 現状の力を維持する

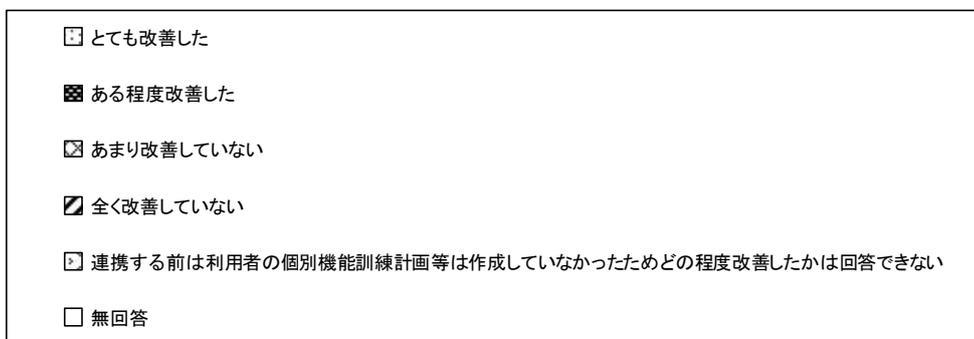
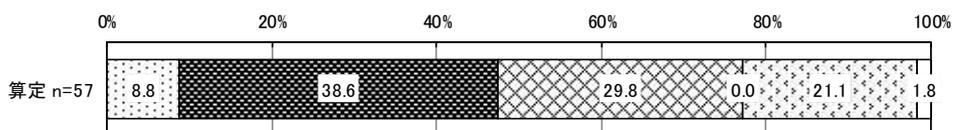
更衣、整容、掃除については回答は無し。

## キ) 助言により利用者の計画はどの程度改善したか（問 15）

図表 901 助言により利用者の計画はどの程度改善したか



図表 902 助言により利用者の計画はどの程度改善したか 区分 1 のみ



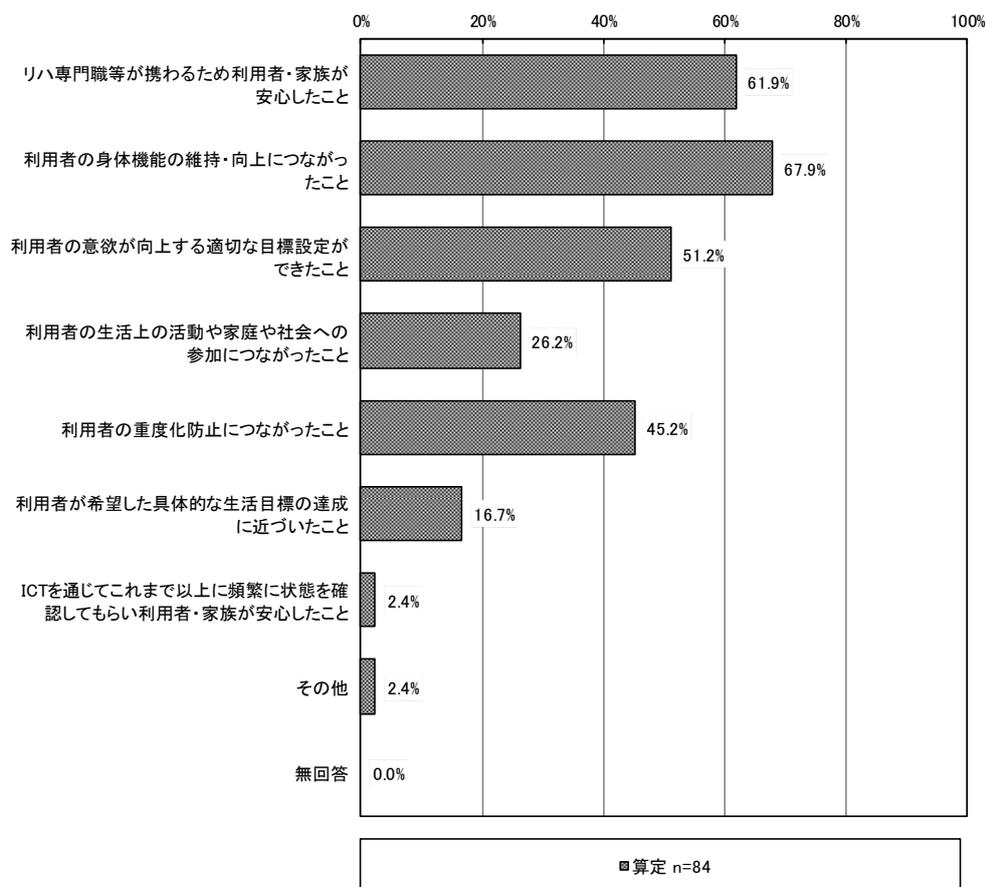
## ク) 助言による具体的な状況変化 (問 15-2)

図表 903 助言による具体的な状況変化

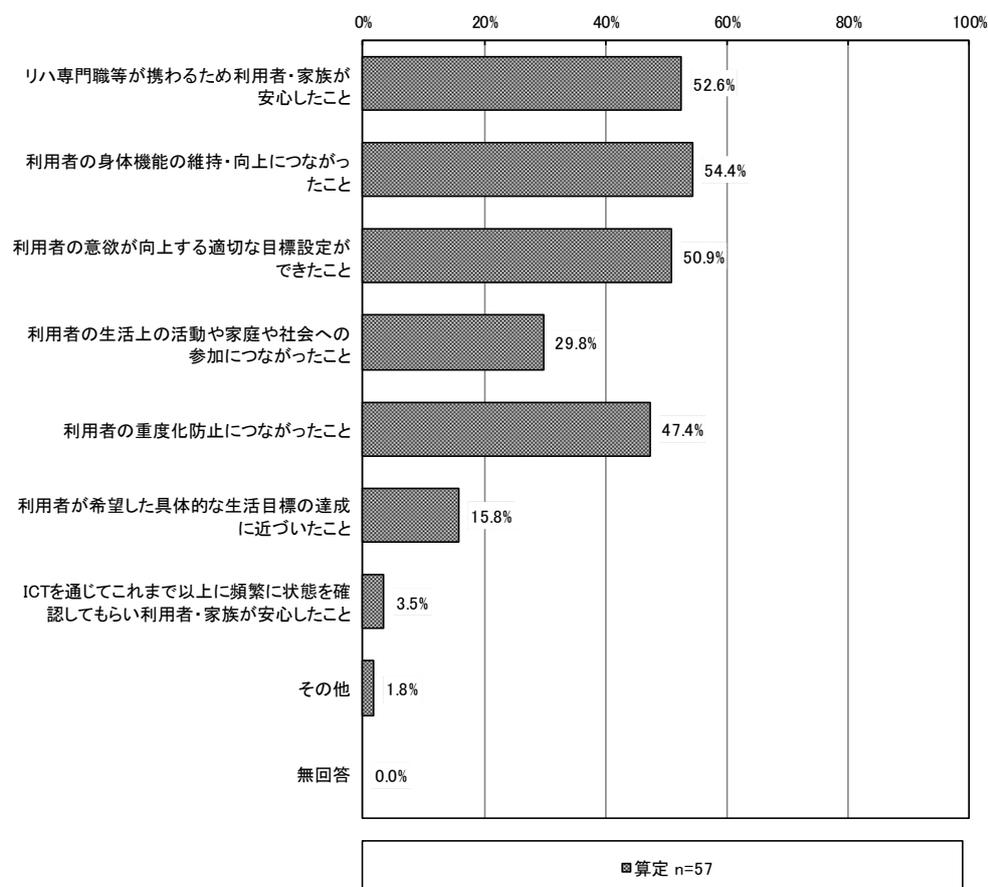
- ・ 転倒が防止でき、足の上がりと下肢筋力が強化された
- ・ PT による評価を参考に、説明がしやすくなった

## ケ) 利用者が享受したメリット (問 16)

図表 904 利用者が享受したメリット



図表 905 利用者が享受したメリット 区分1のみ

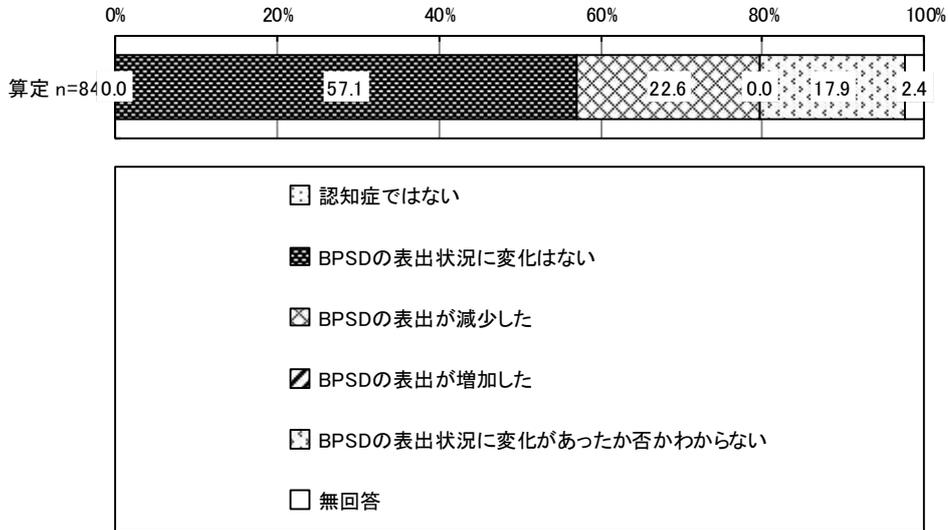


※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

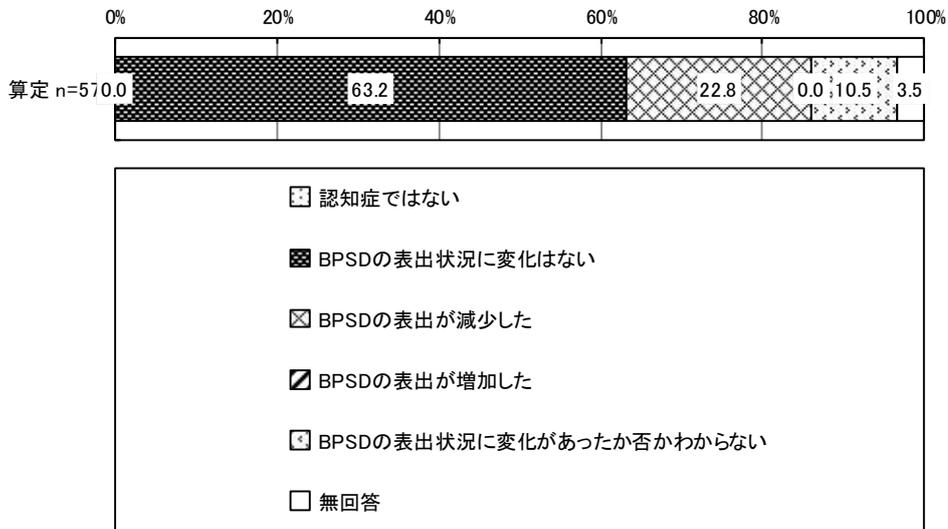
- ・骨折に対する医療管理が行えた
- ・わかりやすい評価が伝わり、本人や家族が納得しやすくなった

コ) 認知症の利用者の BPSD 表出状況の変化 (問 17)

図表 906 認知症の利用者の BPSD 表出状況の変化

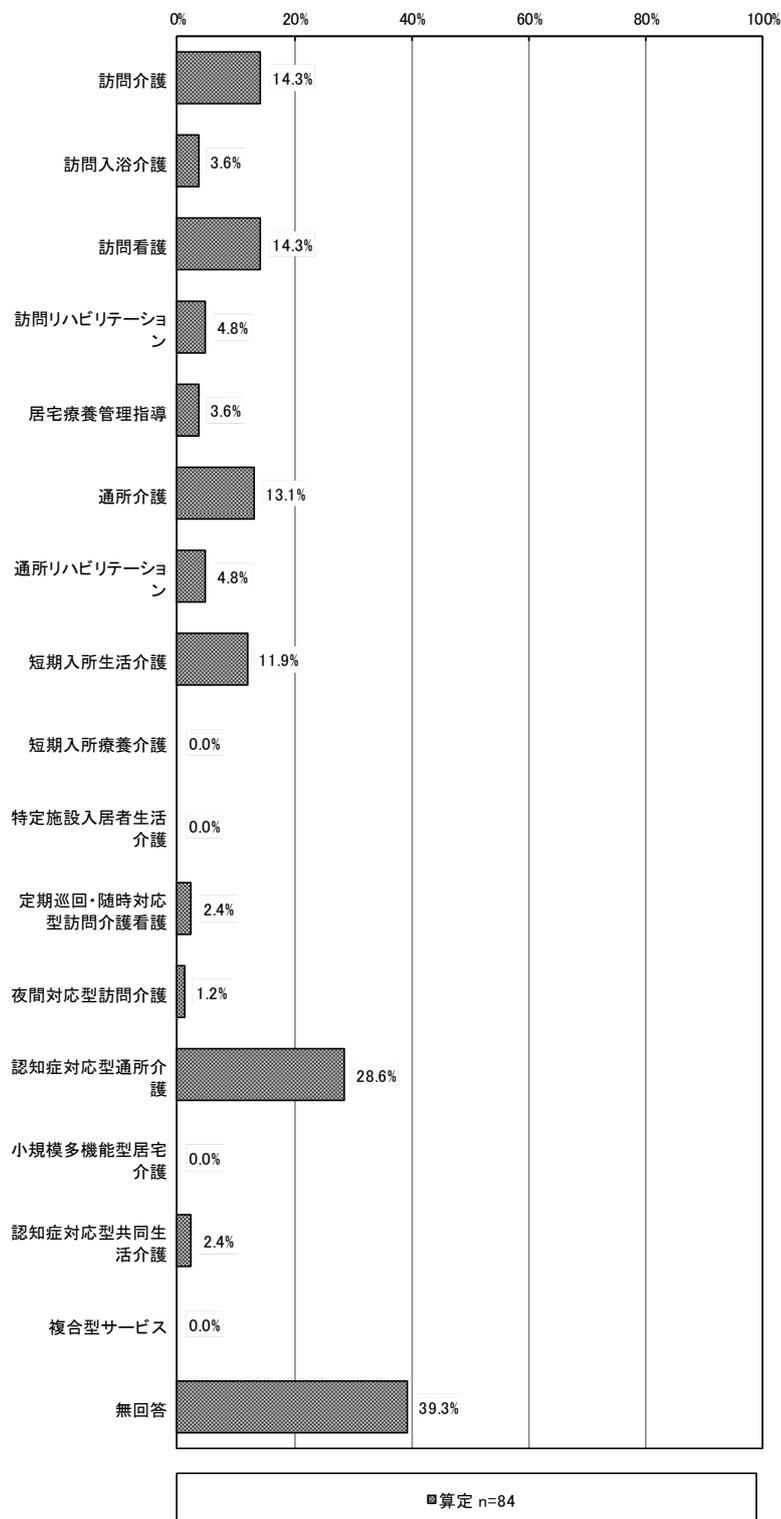


図表 907 認知症の利用者の BPSD 表出状況の変化 区分 1 のみ

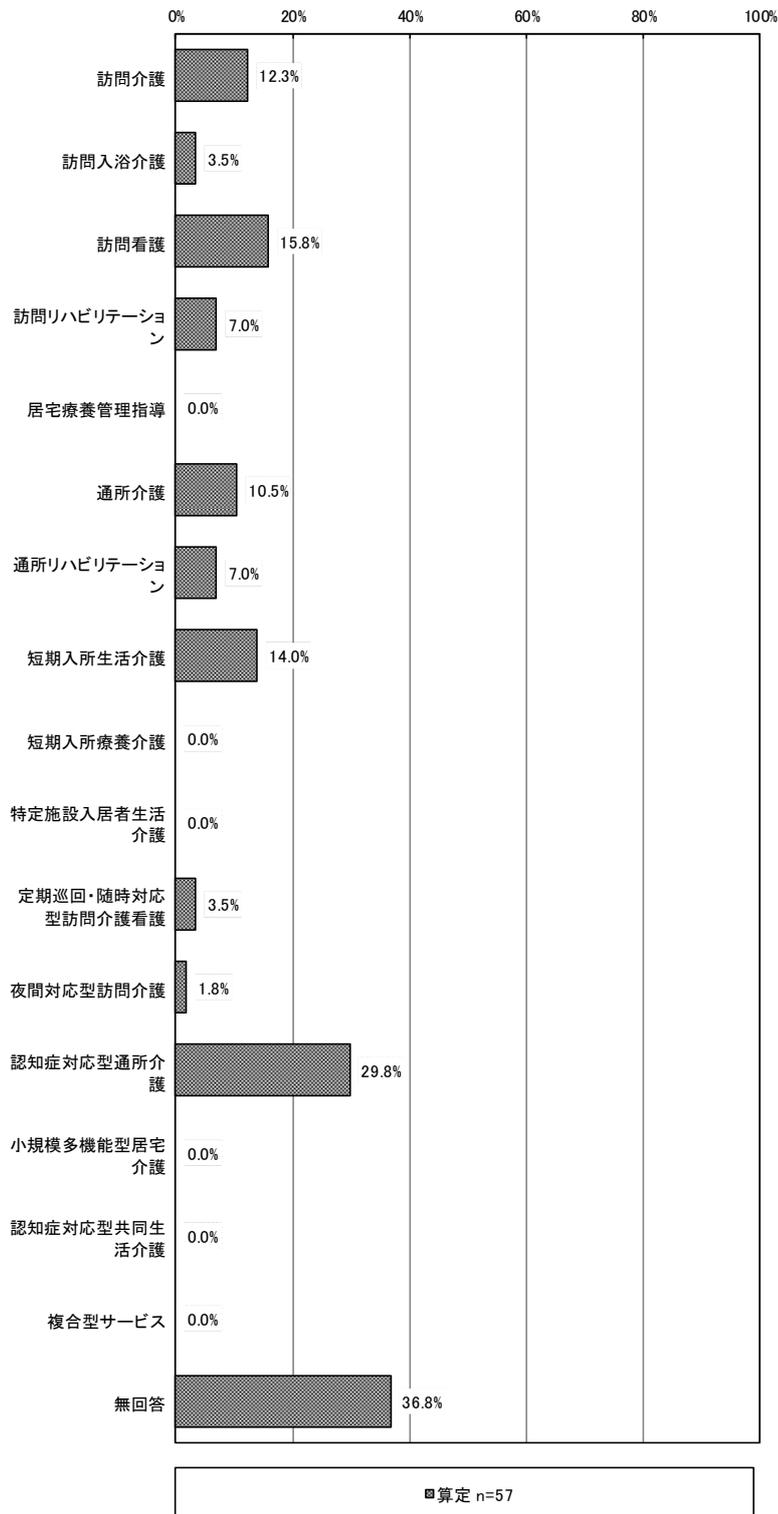


サ) 利用者が他に利用しているサービス（問 18（算定事業所・施設利用者票）・問 12（非算定事業所・施設利用者票））

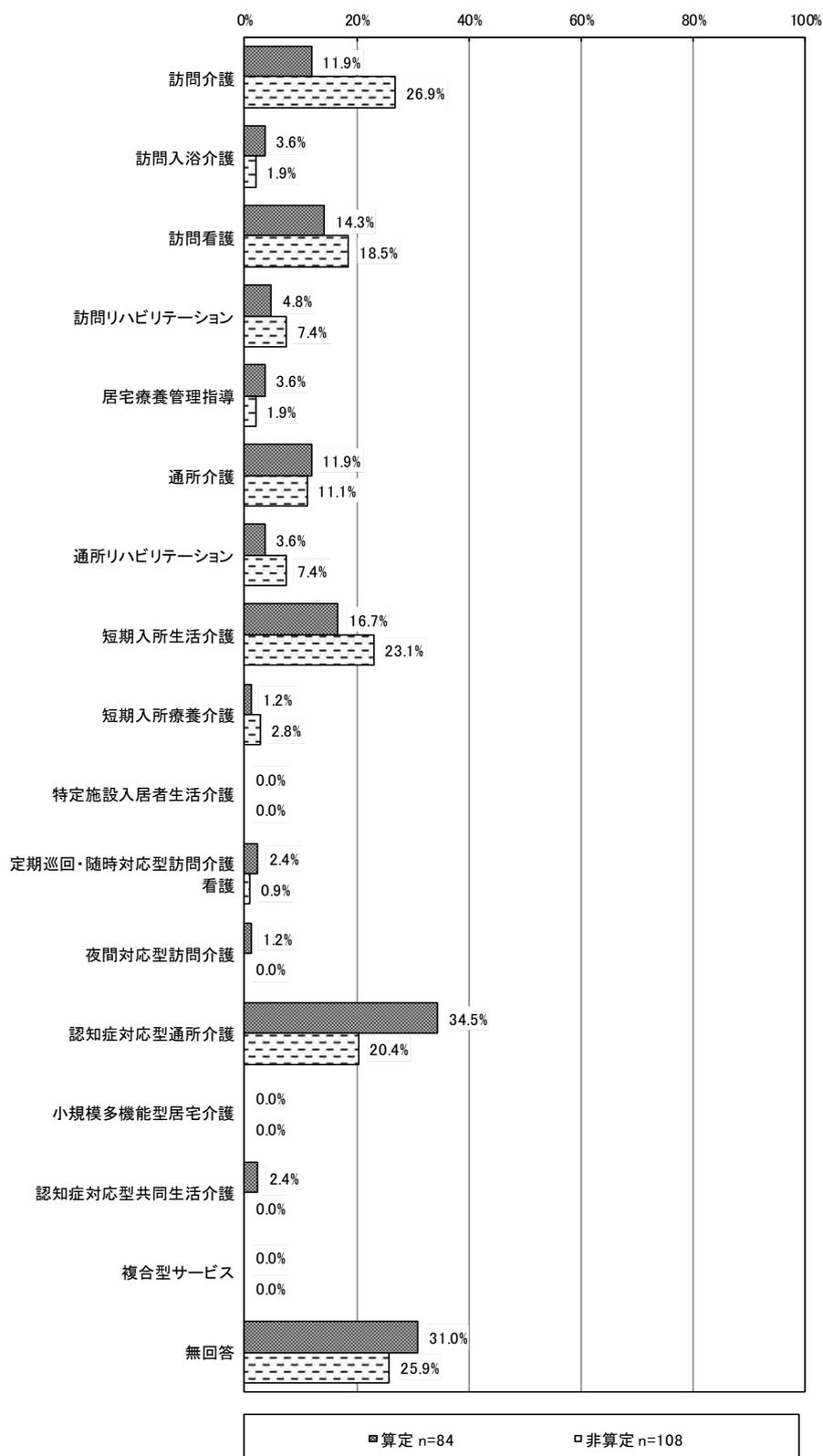
図表 908 利用者が他に利用しているサービス ①算定前



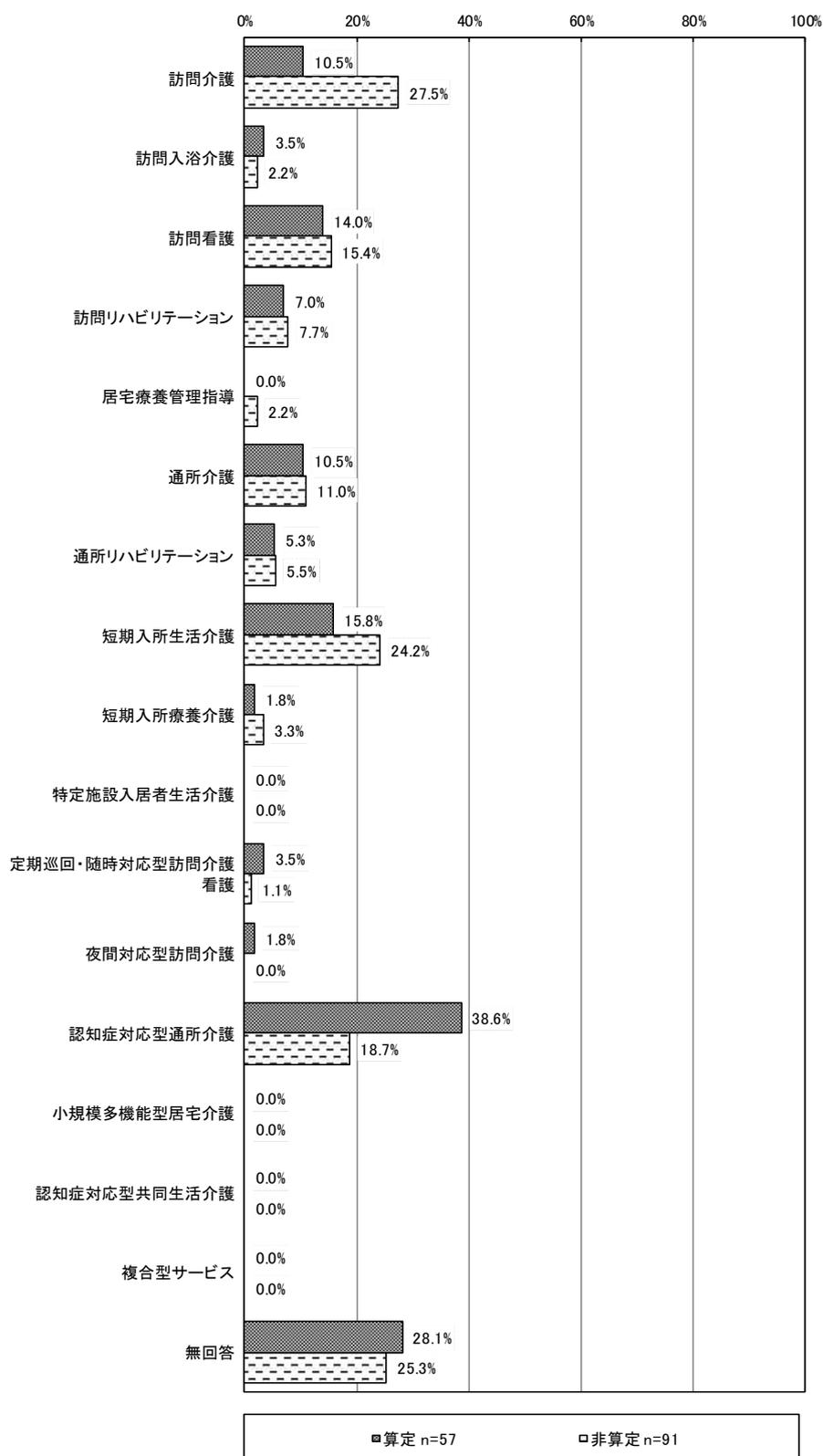
図表 909 利用者が他に利用しているサービス ①算定前 区分1のみ



図表 910 利用者が他に利用しているサービス ②算定以後



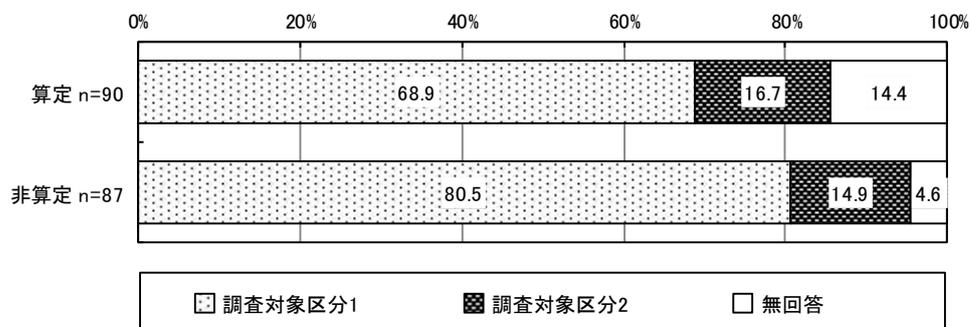
図表 911 利用者が他に利用しているサービス ②算定以後 区分1のみ



### (3) 短期入所生活介護

#### ア) 利用者の調査対象区分 (問 0)

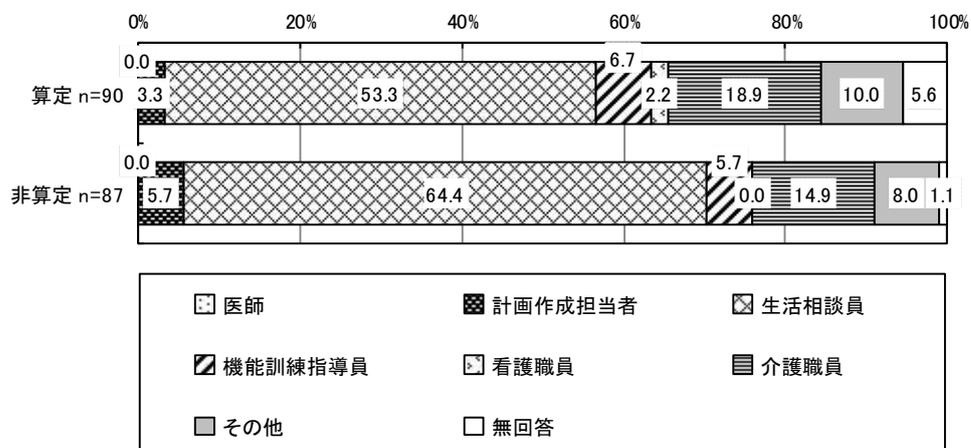
図表 912 利用者の調査対象区分



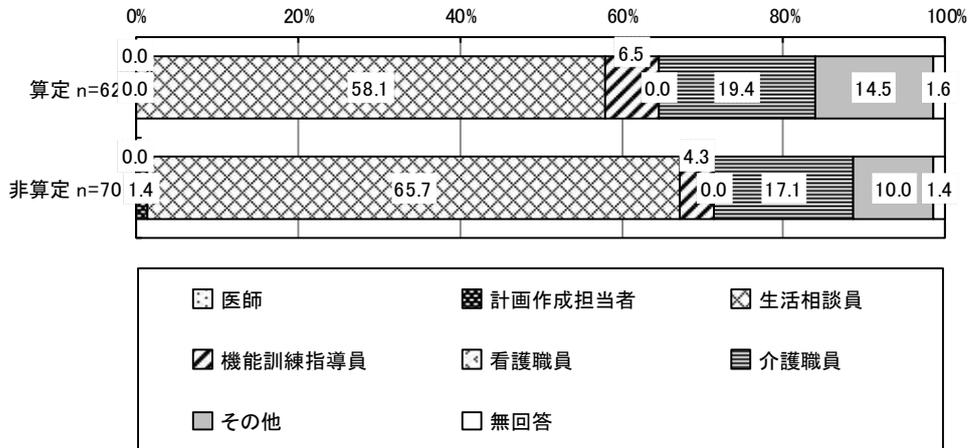
### I. 回答者の属性

#### ア) 回答者の職種 (問 1)

図表 913 回答者の職種



図表 914 回答者の職種 区分1のみ



※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

- ・(算定) 管理者
- ・(非算定) 管理者

## II. 利用者の情報

### ア) 年齢 (問 2)

図表 915 年齢

(単位: 歳)

件数	平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
算定 n=90	86.3	7.2	86.5	101	63
非算定 n=87	85.3	8.6	86	100	53

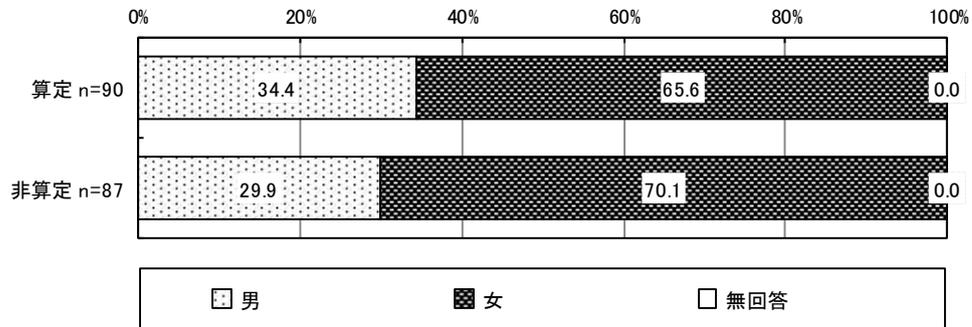
図表 916 年齢 区分1のみ

(単位: 歳)

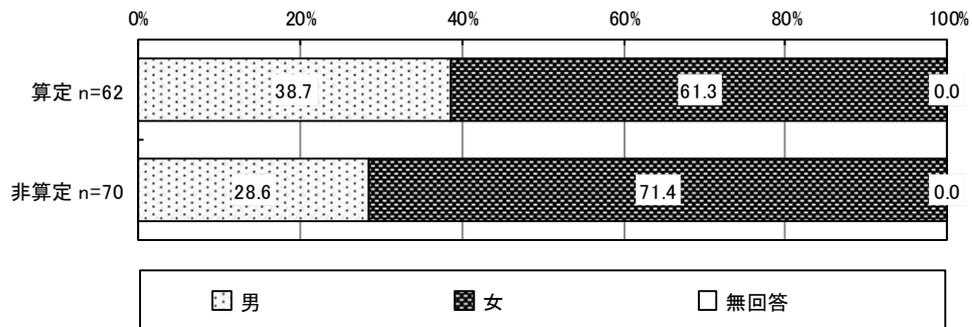
件数	平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
算定 n=62	86.3	7.2	86.5	99	68
非算定 n=70	85.3	8.4	86	100	61

イ) 性別 (問 3)

図表 917 性別

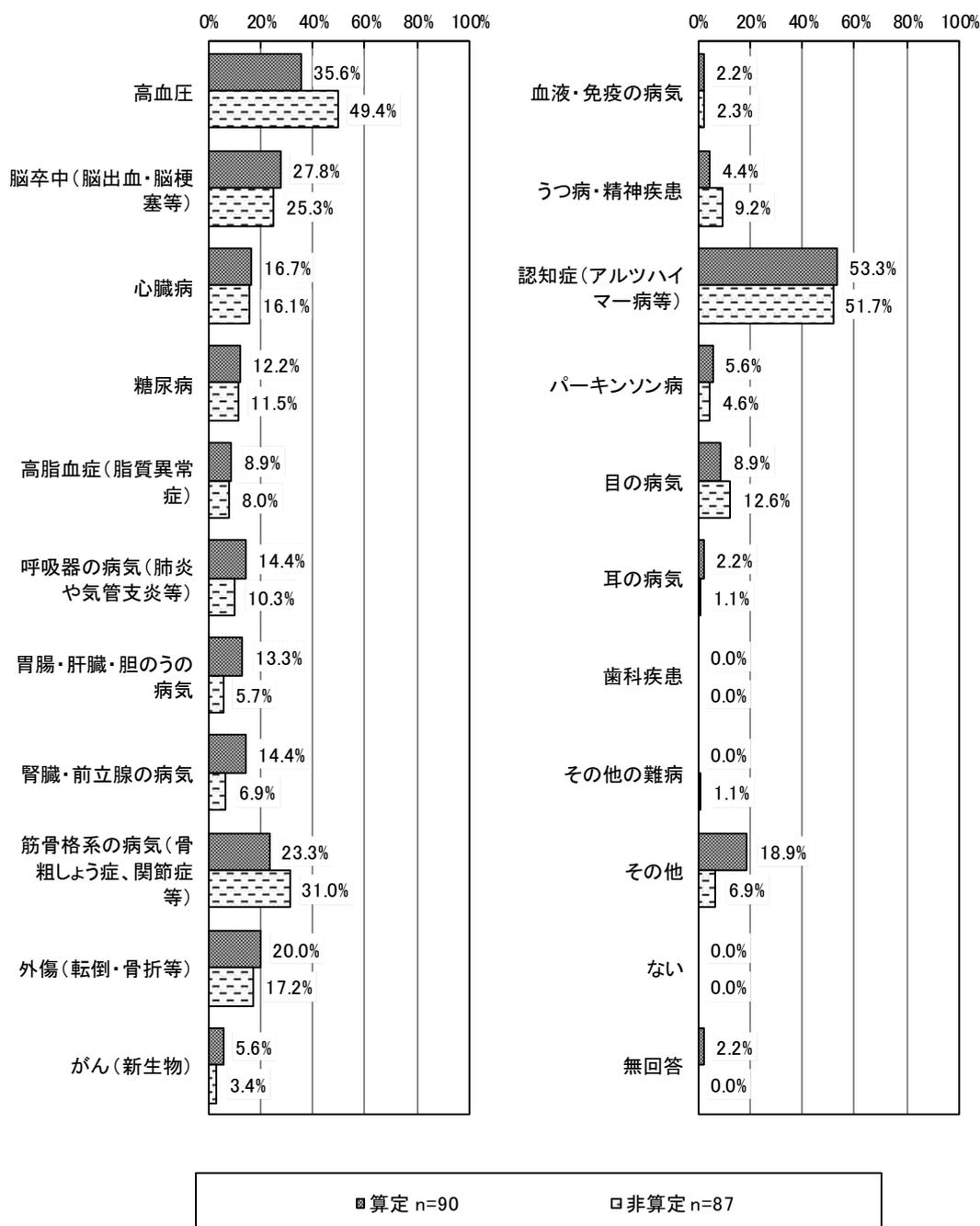


図表 918 性別 区分1のみ

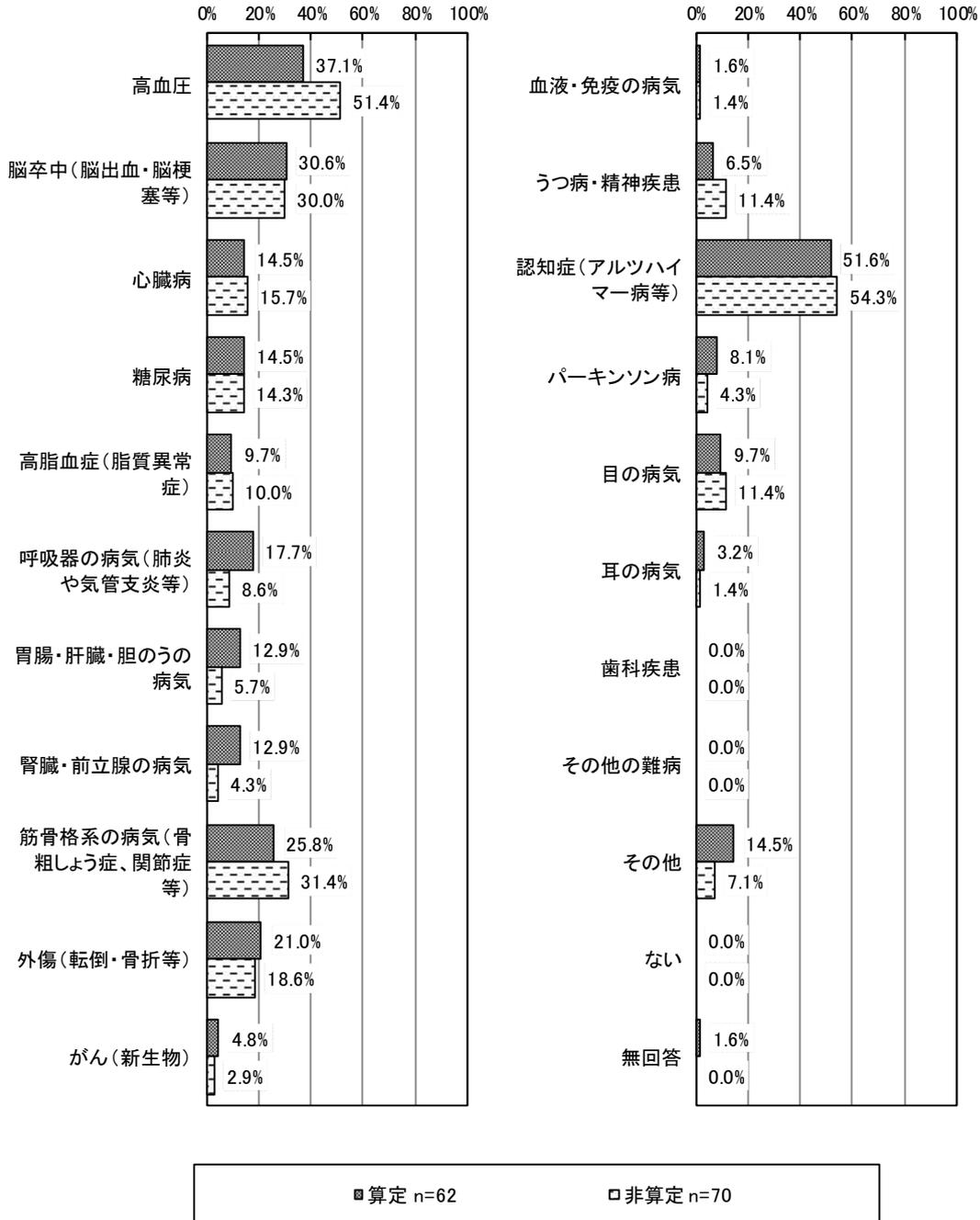


## ウ) 傷病名 (問 4)

図表 919 傷病名



図表 920 傷病名 区分1のみ

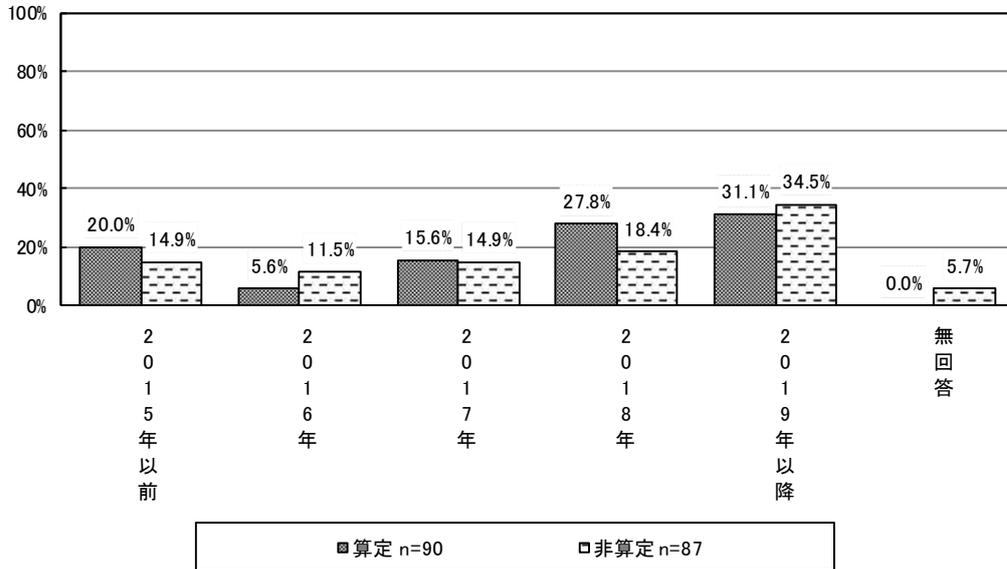


※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

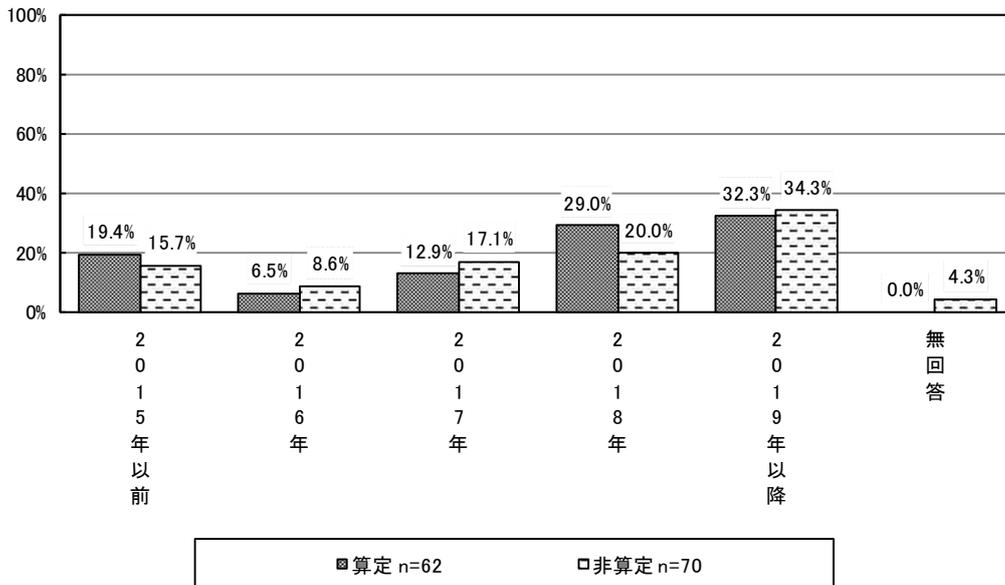
- ・(算定) 発達障害
- ・(算定) リウマチ
- ・(非算定) 脊柱管狭窄症
- ・(非算定) リウマチ性多発筋痛症

エ) 事業所・施設の利用開始時期（問5）

図表 921 事業所・施設の利用開始時期

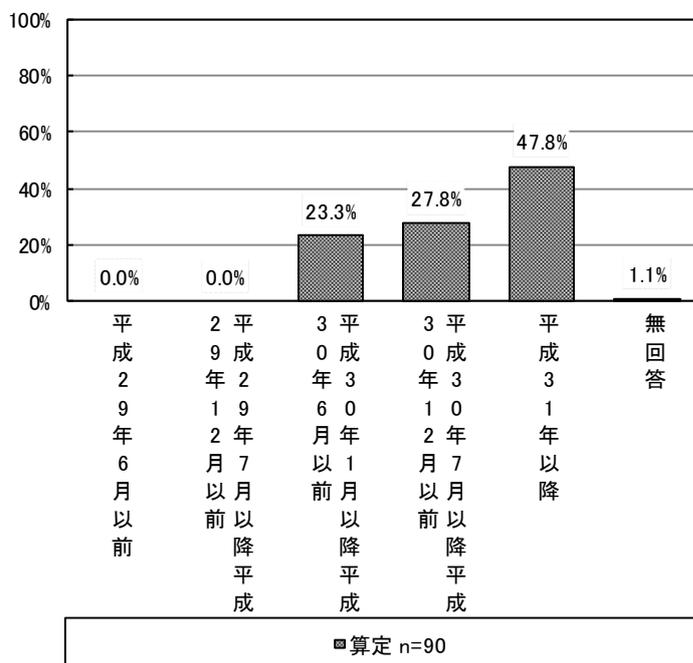


図表 922 事業所・施設の利用開始時期 区分1のみ

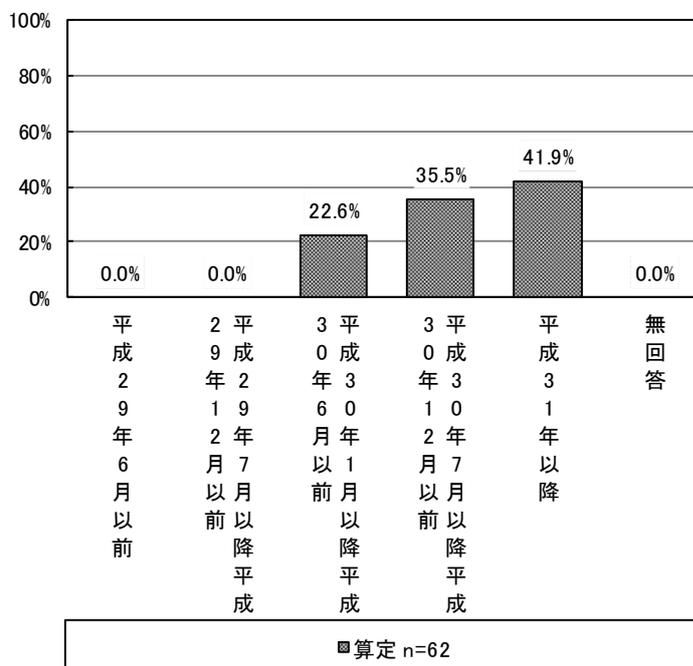


オ) 事業所・施設が加算算定に伴う連携を開始した時期（問6）

図表 923 事業所・施設が加算算定に伴う連携を開始した時期

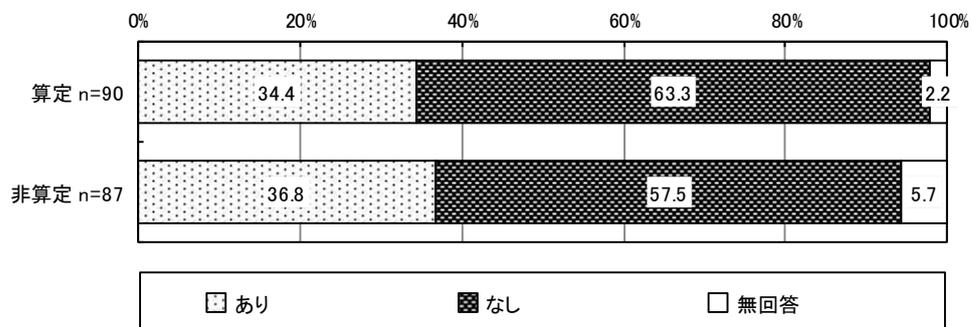


図表 924 事業所・施設が加算算定に伴う連携を開始した時期 区分1のみ

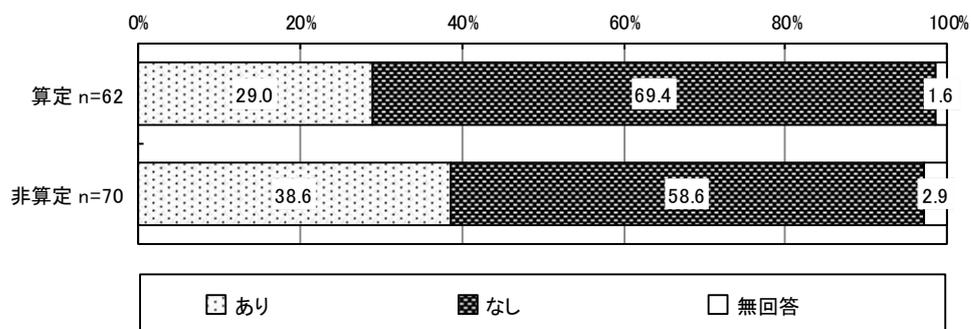


## カ) 退院の有無と直近の入院期間（問7）

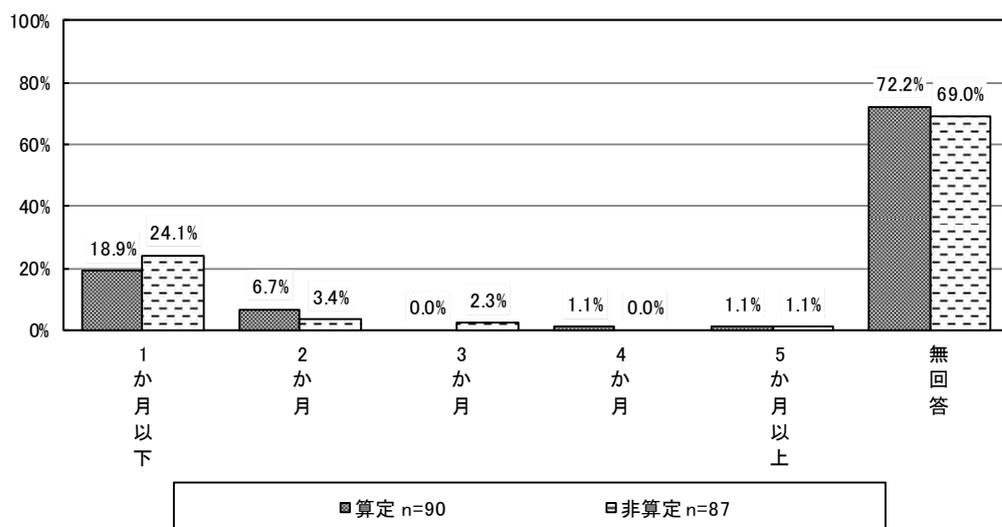
図表 925 退院の有無



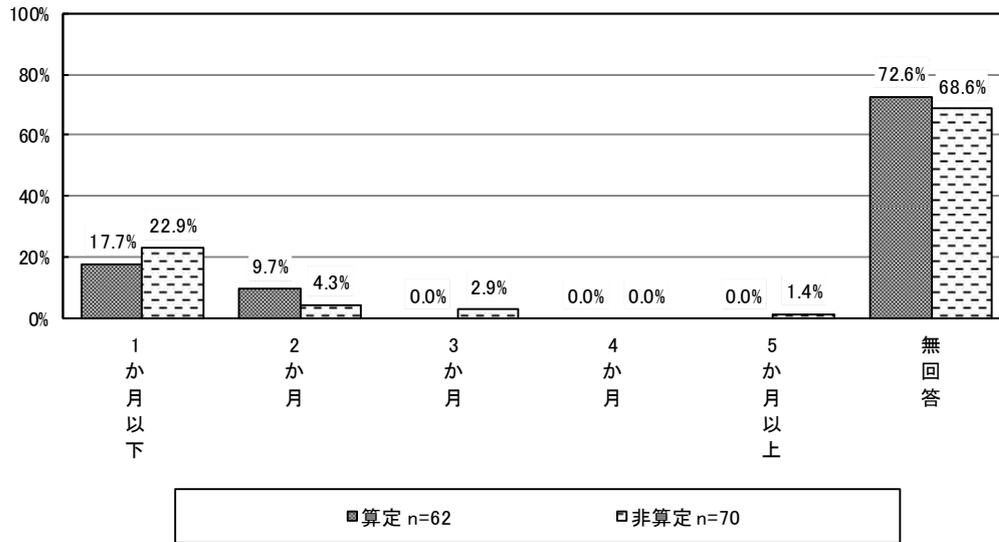
図表 926 退院の有無 区分1のみ



図表 927 直近の入院期間



図表 928 直近の入院期間 区分1のみ



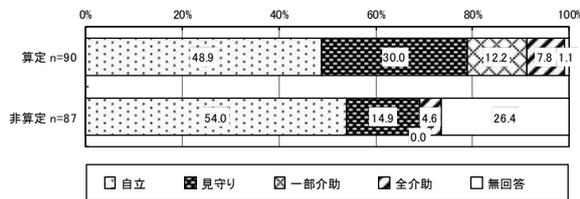
キ) ADL・IADL の状況 (問 8)

図表 929 ADL・IADL の状況

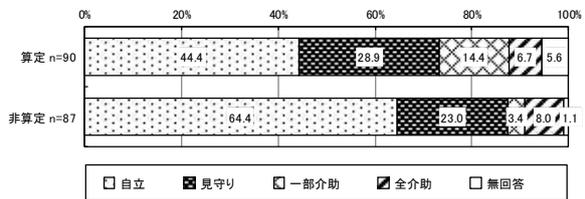
食事

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



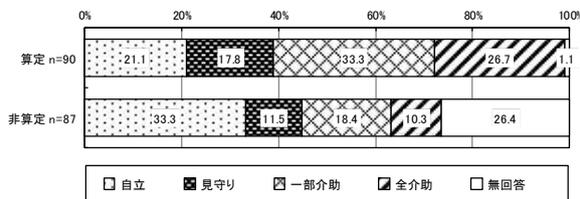
②令和元年 10 月 1 日時点



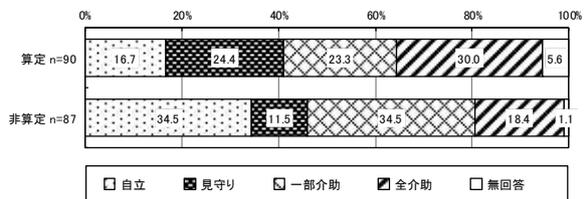
排泄

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



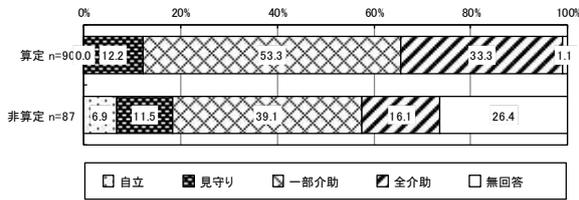
②令和元年 10 月 1 日時点



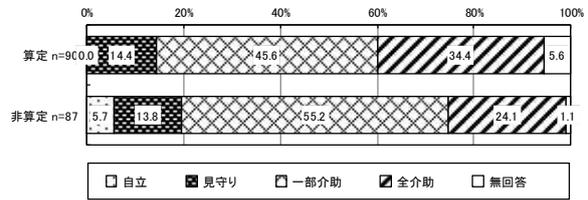
## 入浴

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



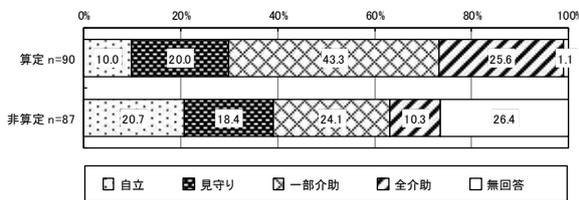
②令和元年10月1日時点



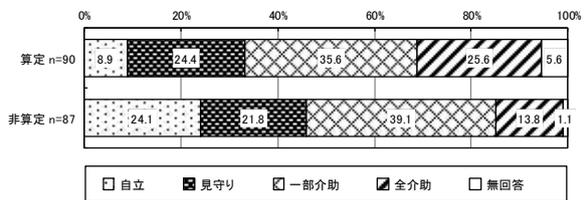
## 更衣

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



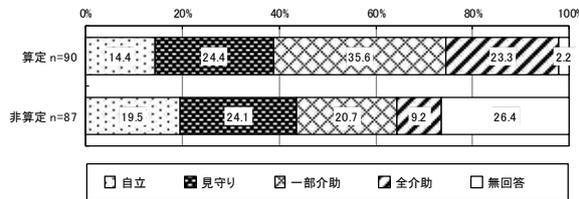
②令和元年10月1日時点



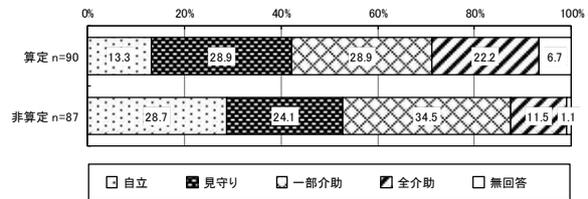
## 整容

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



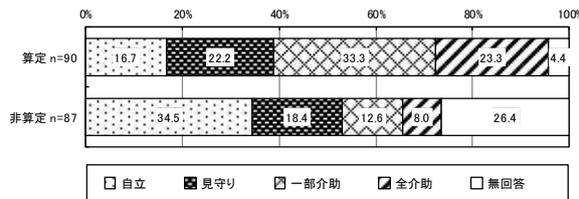
②令和元年10月1日時点



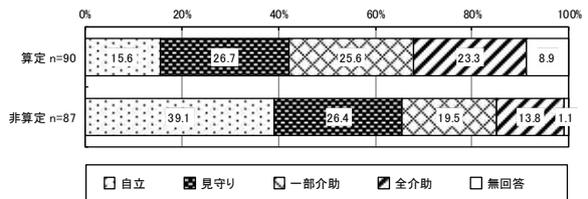
## 移乗

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



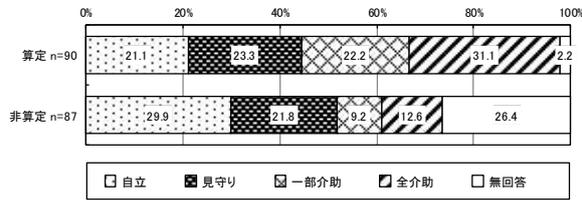
②令和元年10月1日時点



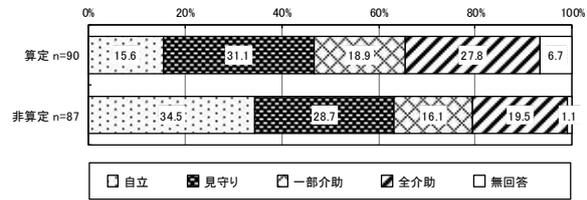
## 屋内移動

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



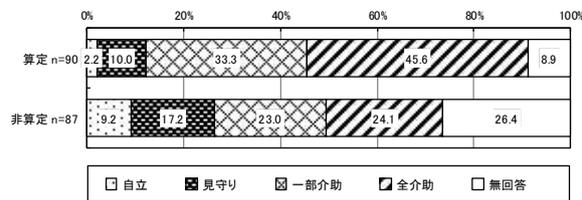
②令和元年10月1日時点



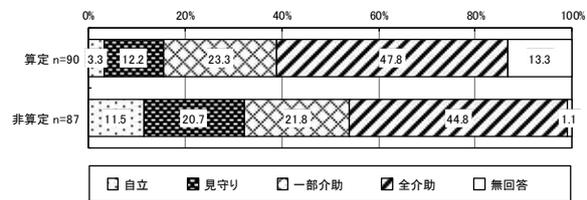
## 階段昇降

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



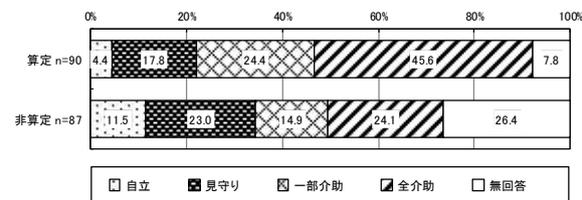
②令和元年10月1日時点



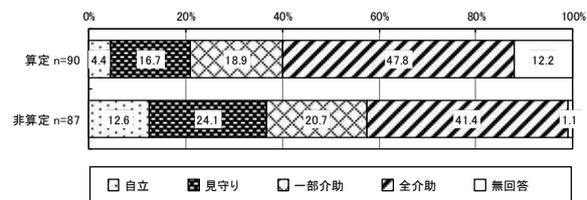
## 屋外移動

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



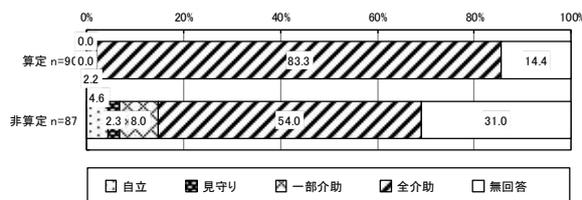
②令和元年10月1日時点



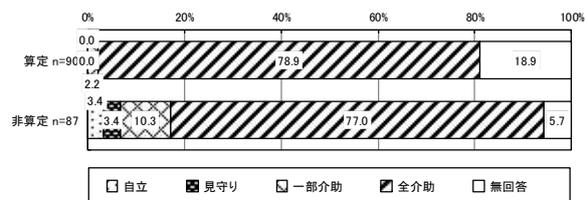
## 調理

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



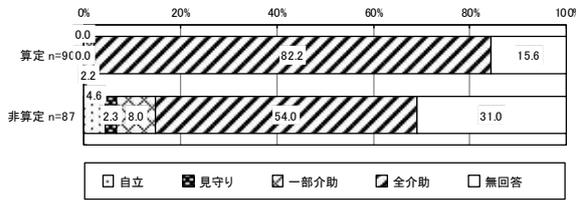
②令和元年10月1日時点



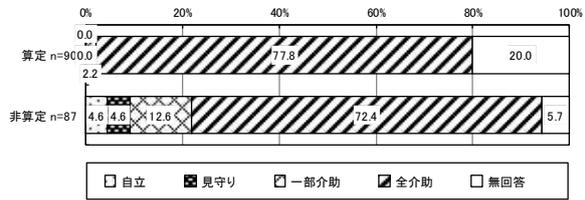
洗濯

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



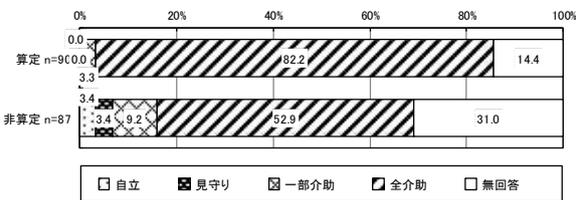
②令和元年10月1日時点



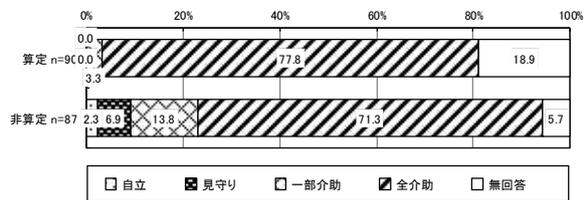
掃除

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



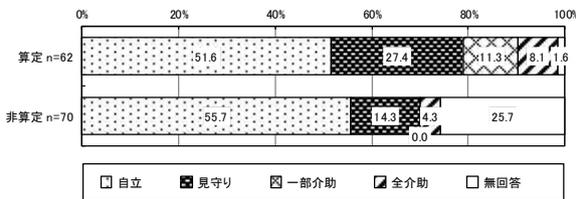
②令和元年10月1日時点



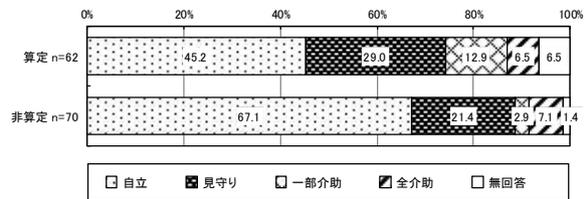
食事 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



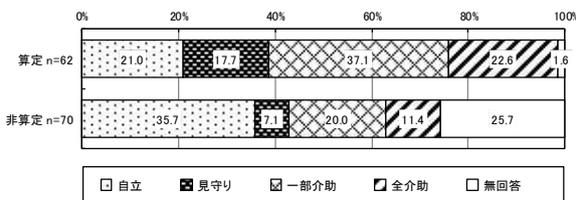
②令和元年10月1日時点



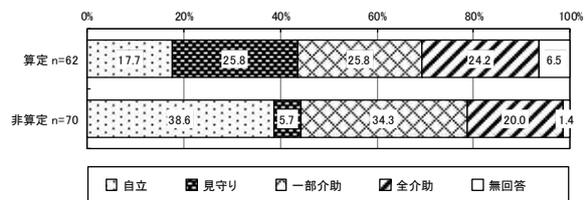
排泄 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



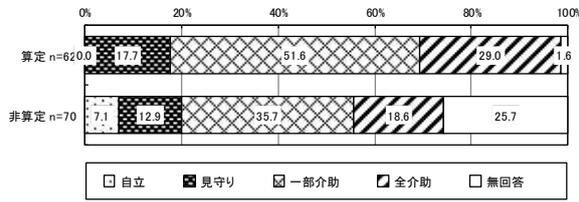
②令和元年10月1日時点



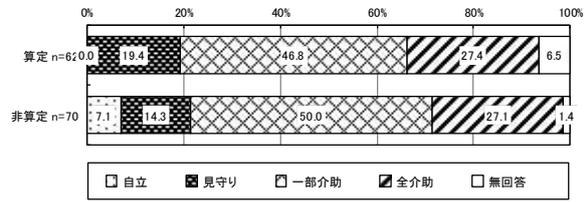
入浴 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



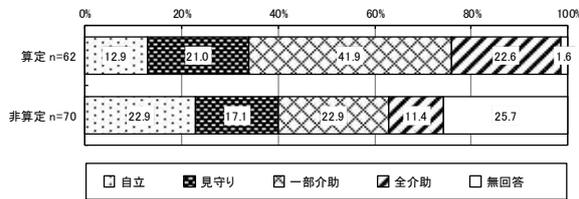
②令和元年10月1日時点



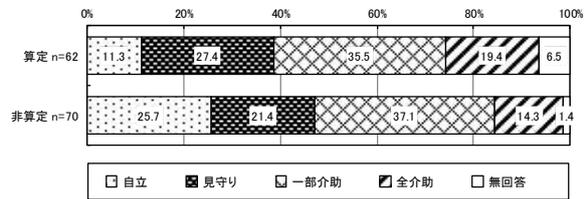
更衣 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



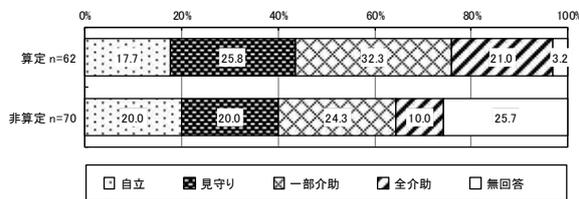
②令和元年10月1日時点



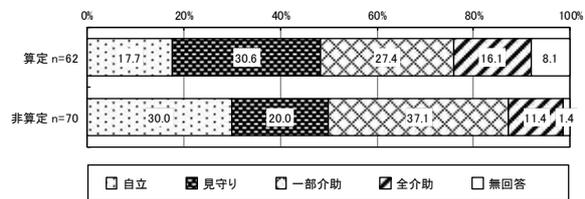
整容 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



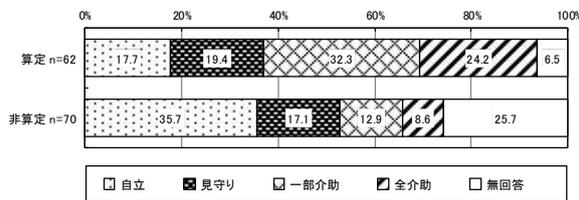
②令和元年10月1日時点



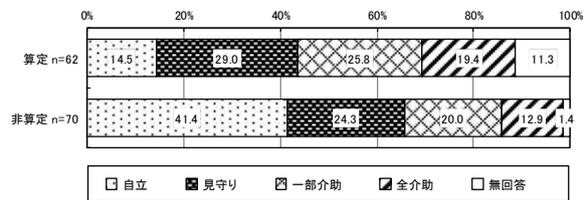
移乗 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



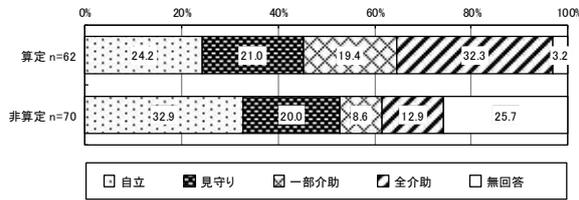
②令和元年10月1日時点



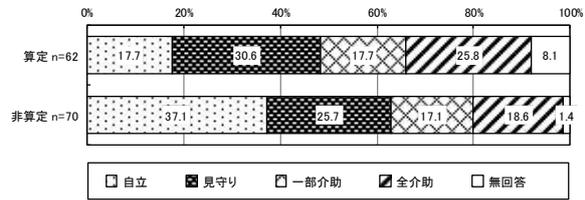
屋内移動 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



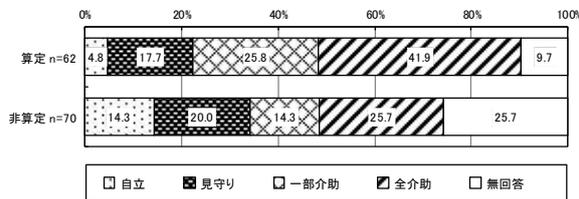
②令和元年10月1日時点



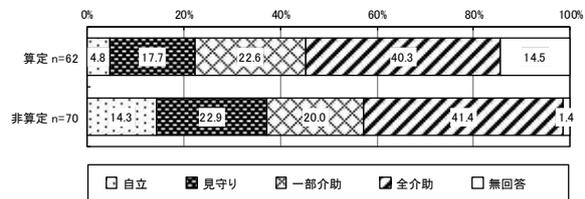
屋外移動 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



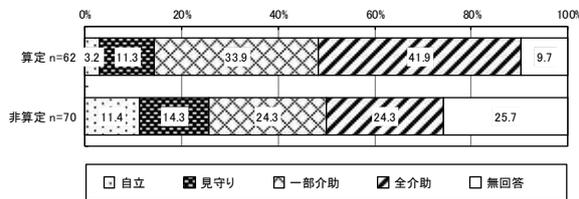
②令和元年10月1日時点



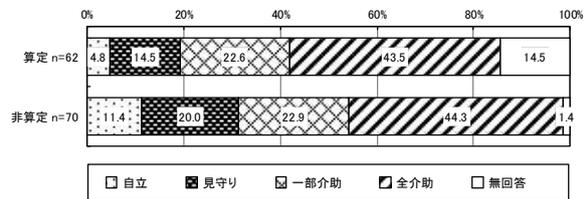
階段昇降 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



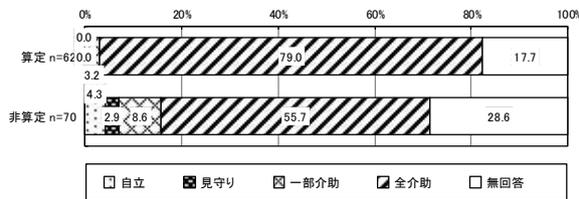
②令和元年10月1日時点



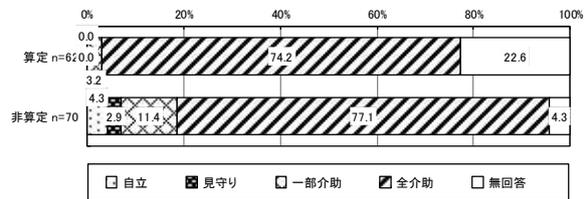
調理 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



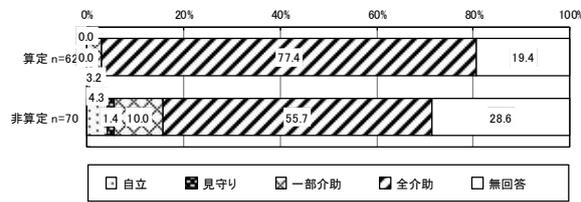
②令和元年10月1日時点



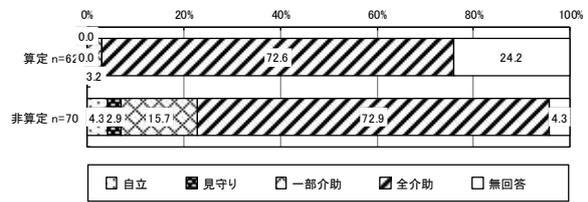
洗濯 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



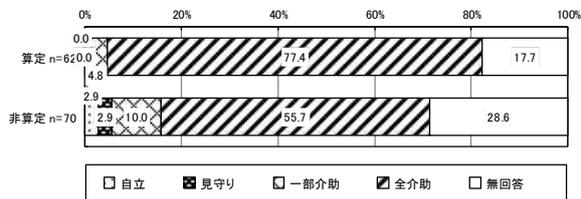
②令和元年10月1日時点



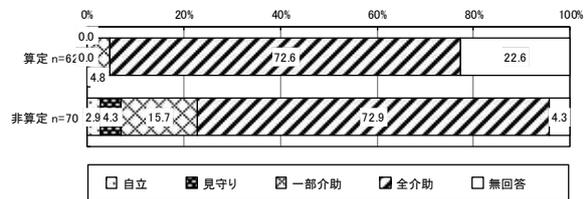
掃除 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点

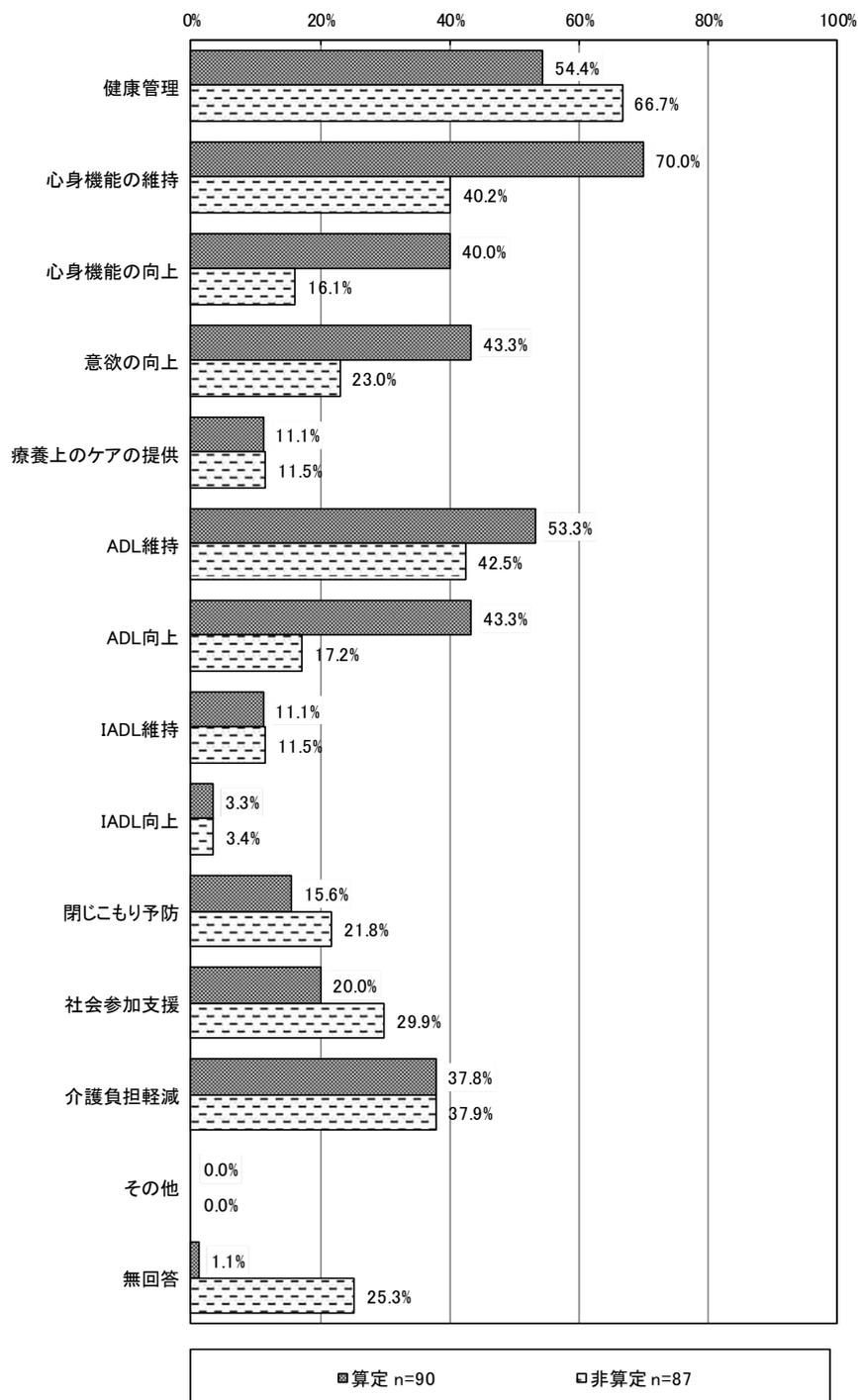


②令和元年10月1日時点

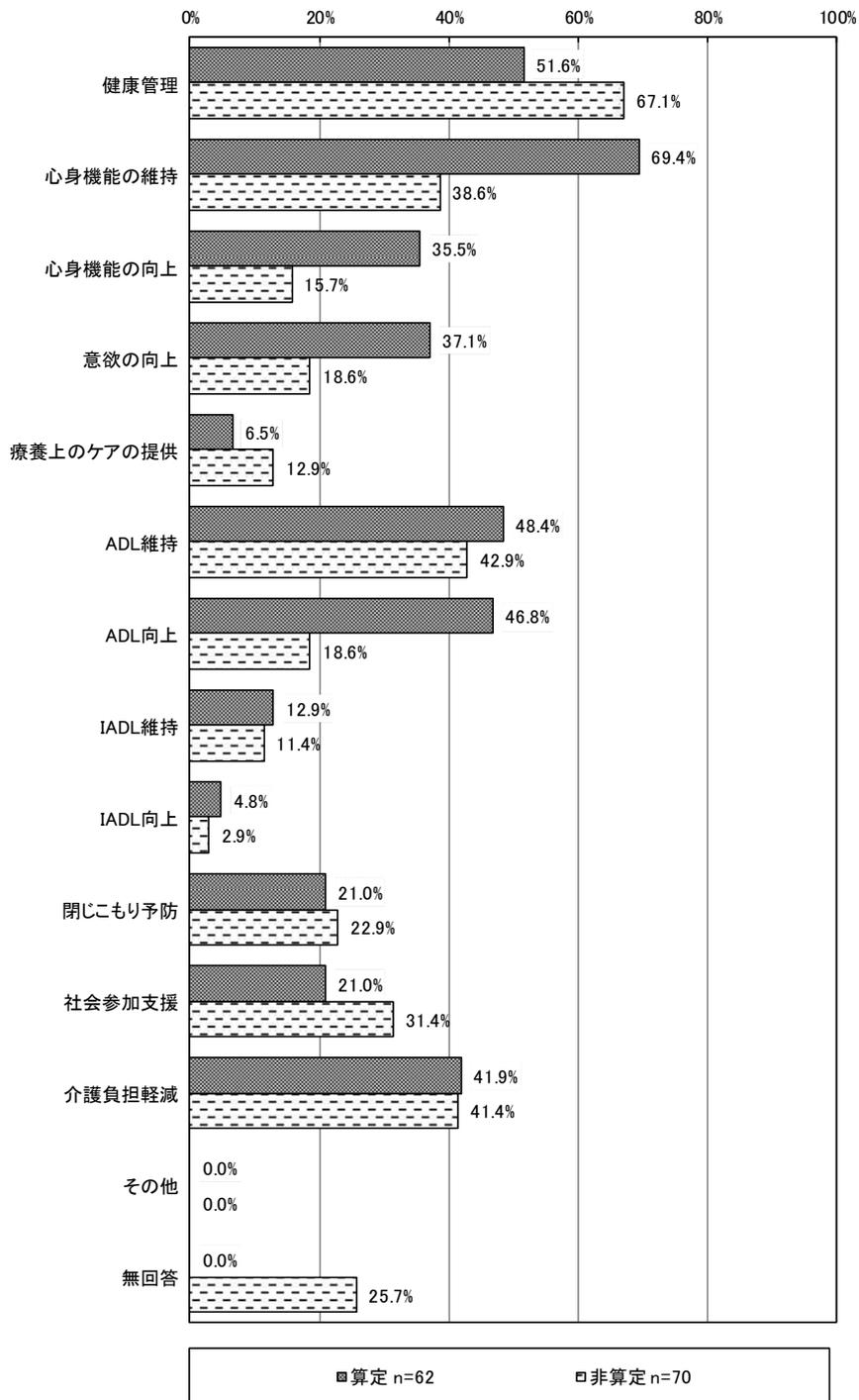


## ク) ケアプランの目標 (問 9)

図表 930 目標 ①加算算定に伴う連携の開始時点

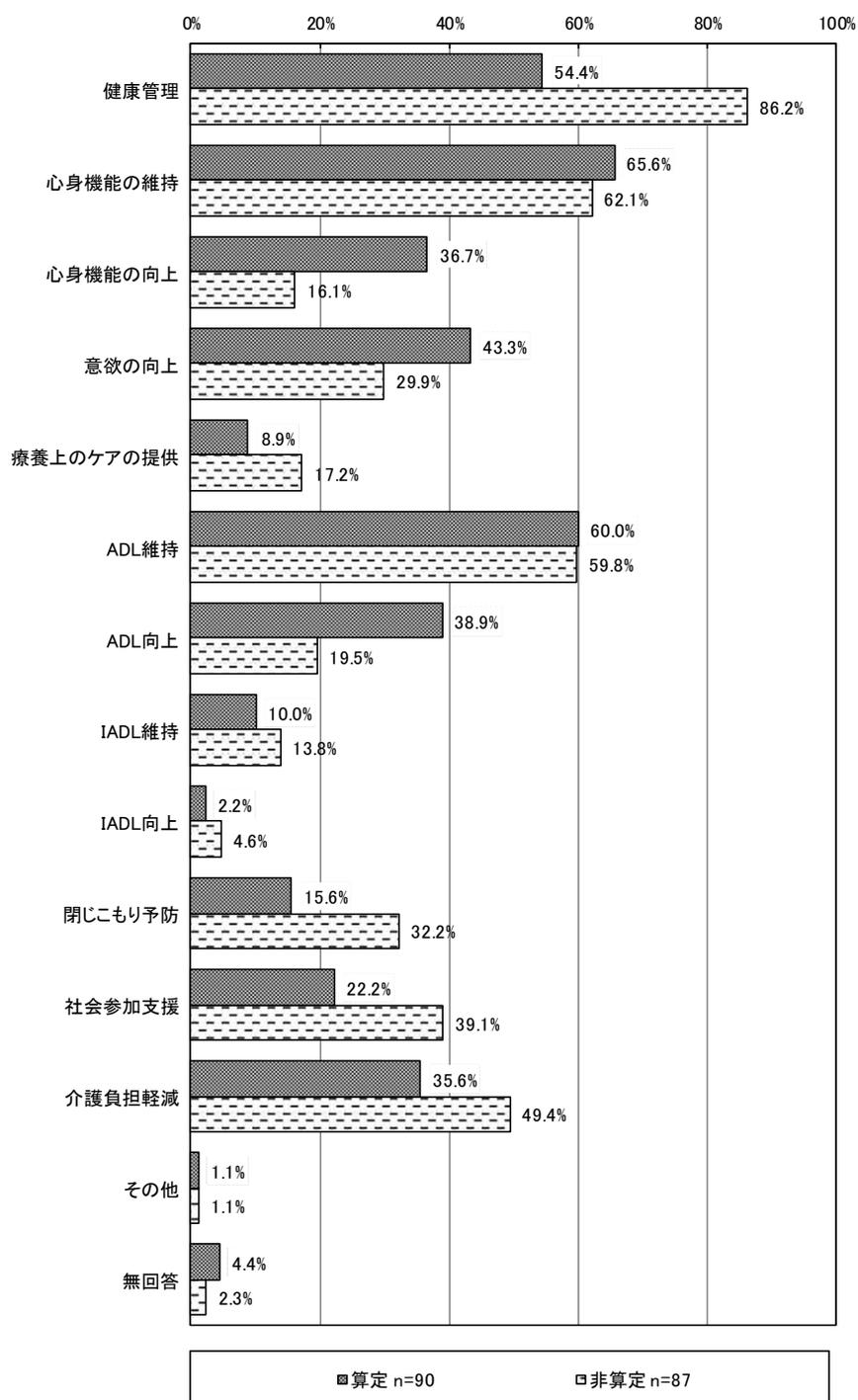


図表 931 目標 ①加算算定に伴う連携の開始時点 区分1のみ

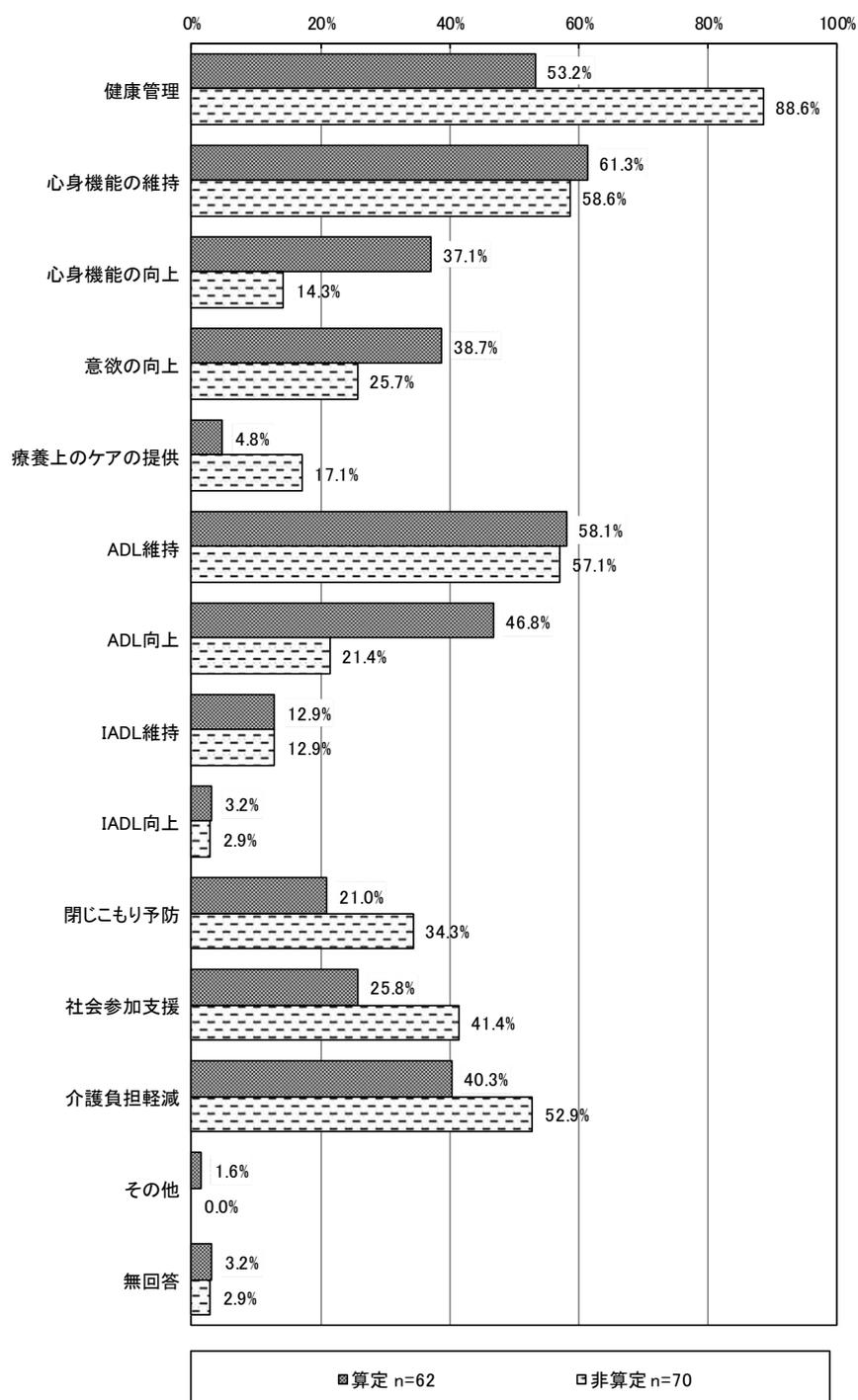


※その他として挙げられた有効な回答は無し。

図表 932 目標 ②令和元年 10 月 1 日時点



図表 933 目標 ②令和元年10月1日時点 区分1のみ



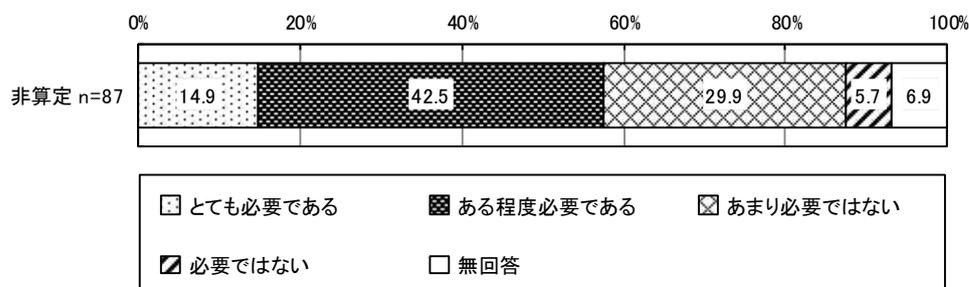
※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

- ・(算定) 退所
- ・(非算定) 虐待防止

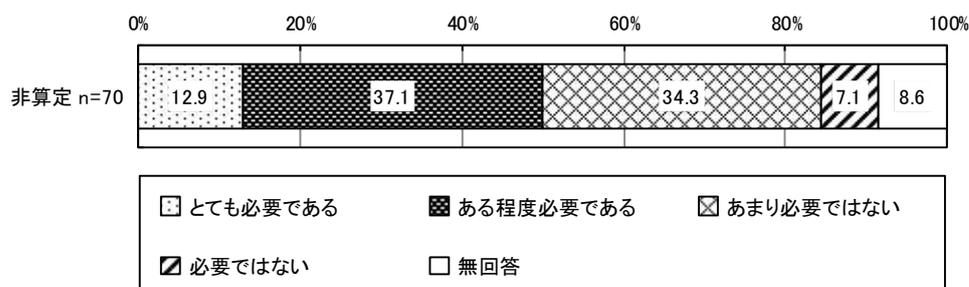
ケ) 利用者の ADL、IADL の状況や課題から判断した、リハ専門職等<sup>※</sup>との連携の必要性 (問 10 (非算定事業所・施設利用者票))

※理学療法士、作業療法士、言語聴覚士又はリハビリテーション科専門医

図表 934 リハ専門職等との連携の必要性

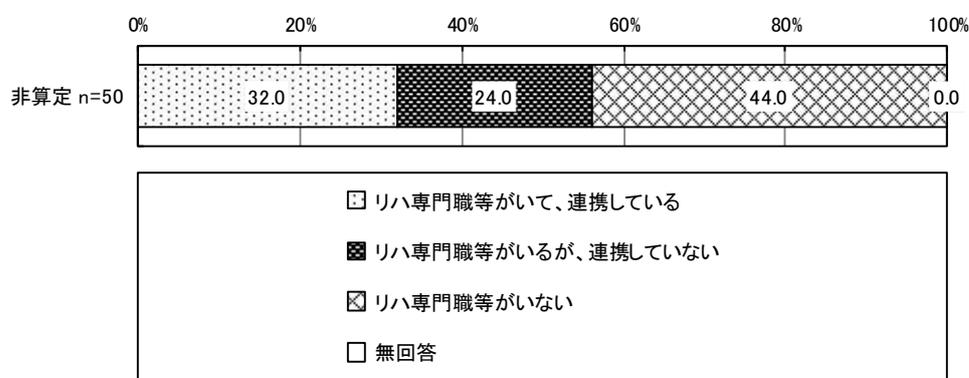


図表 935 リハ専門職等との連携の必要性 区分 1 のみ

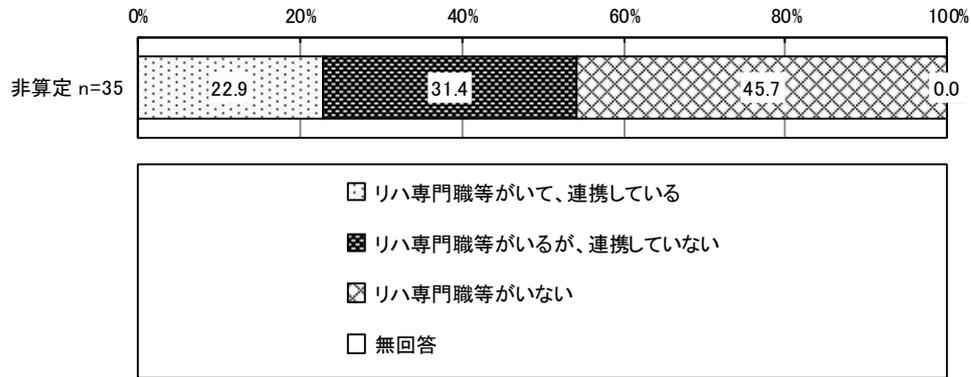


コ) 同一法人内のリハ専門職等の存在および連携の有無 (問 11 (非算定事業所・施設利用者票))

図表 936 同一法人内のリハ専門職等の存在および連携の有無



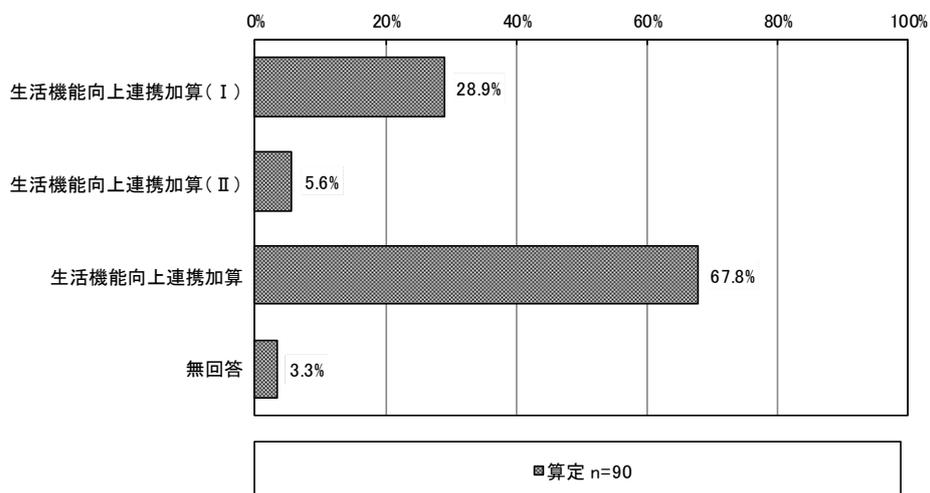
図表 937 同一法人内のリハ専門職等の存在および連携の有無 区分1のみ



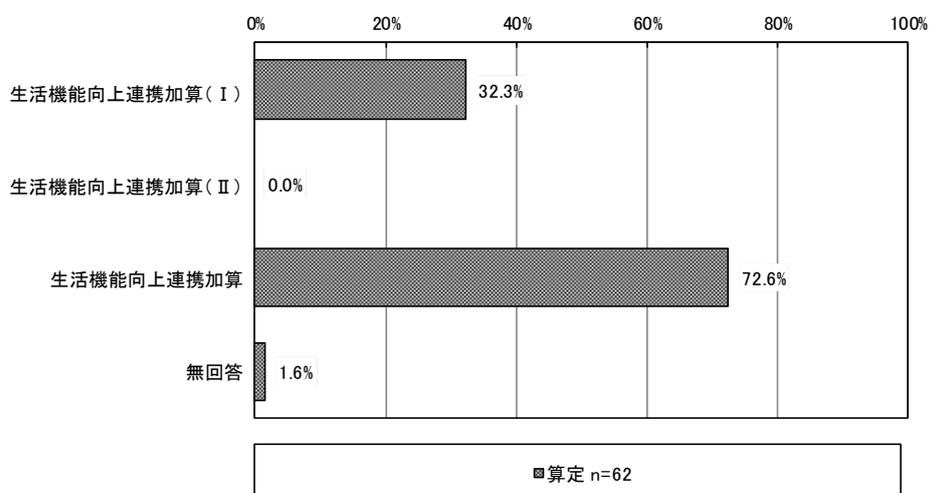
### Ⅲ. 生活機能向上連携加算の算定状況

#### ア) 算定状況 (問 10)

図表 938 算定状況

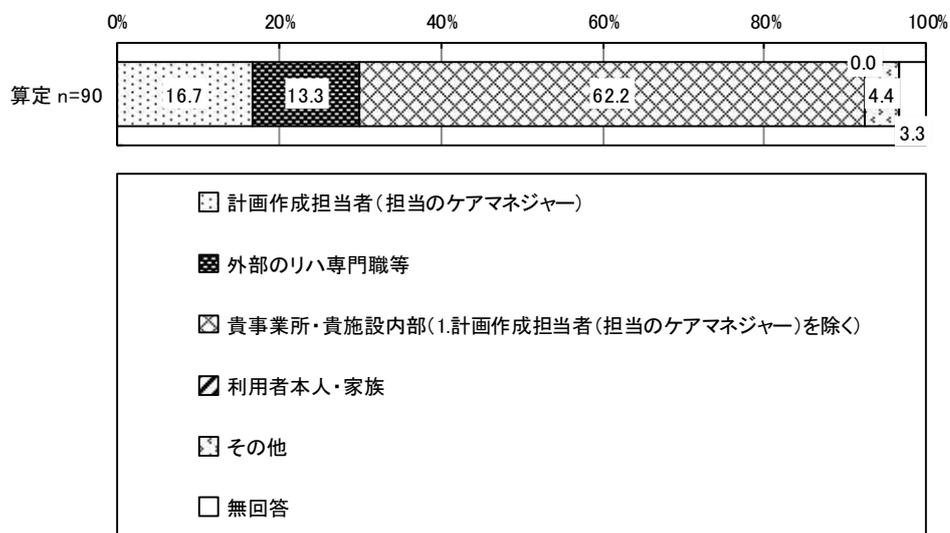


図表 939 算定状況 区分1のみ

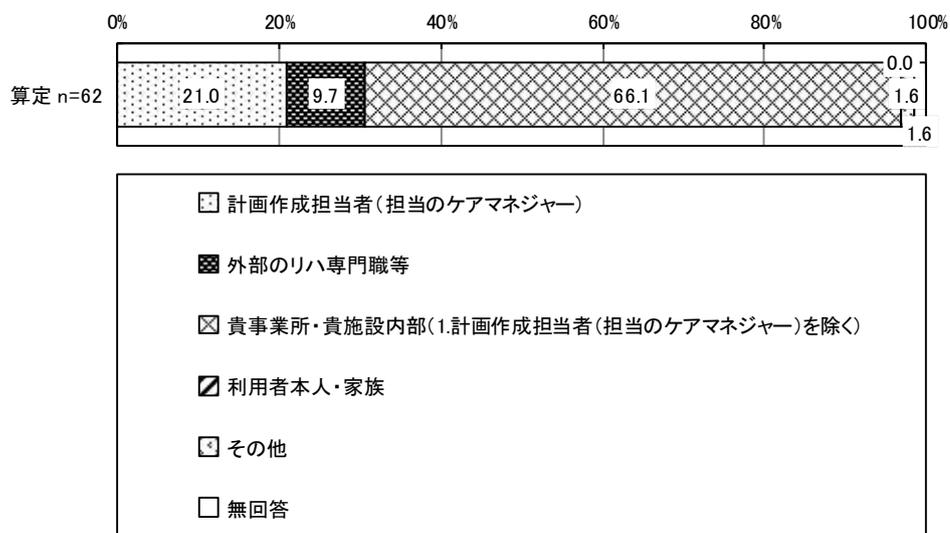


## イ) 算定の提案者 (問 11)

図表 940 算定の提案者



図表 941 算定の提案者 区分1のみ

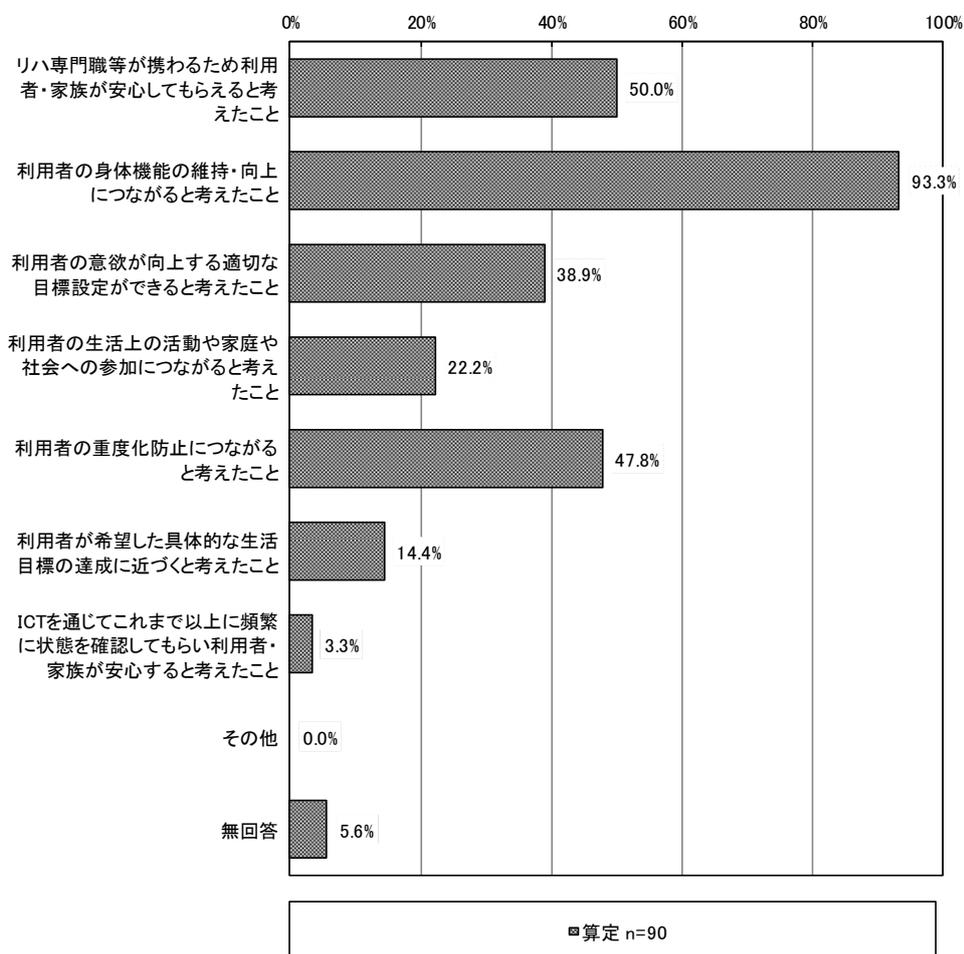


※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

- ・看護師

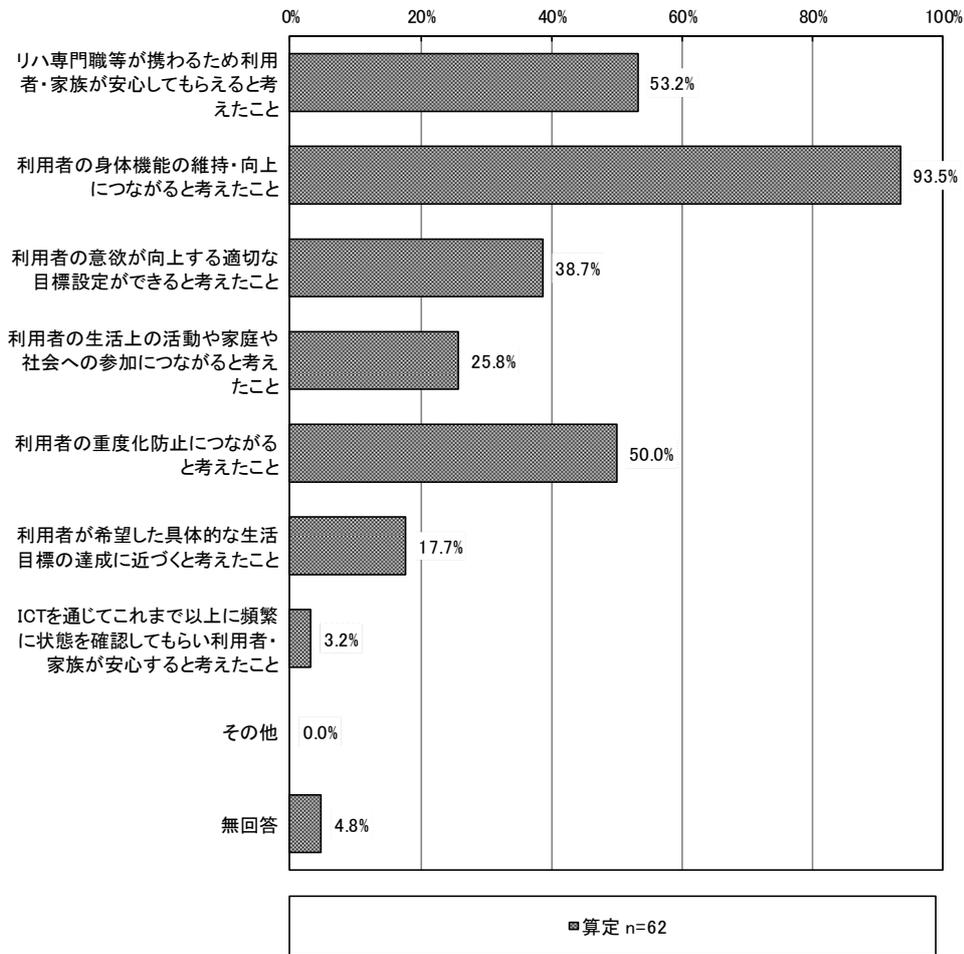
## ウ) 算定を提案した理由 (問 11-2)

図表 942 算定を提案した理由



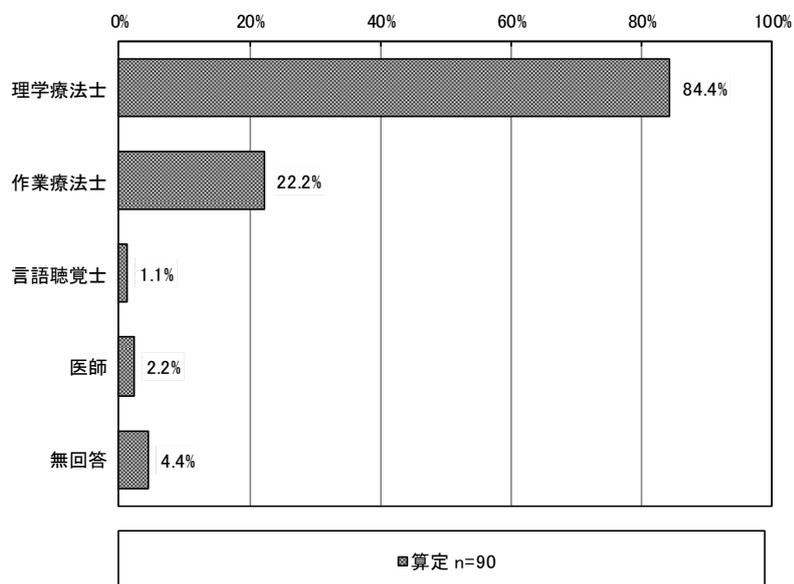
※その他として挙げられた有効な回答は無し。

図表 943 算定を提案した理由 区分1のみ

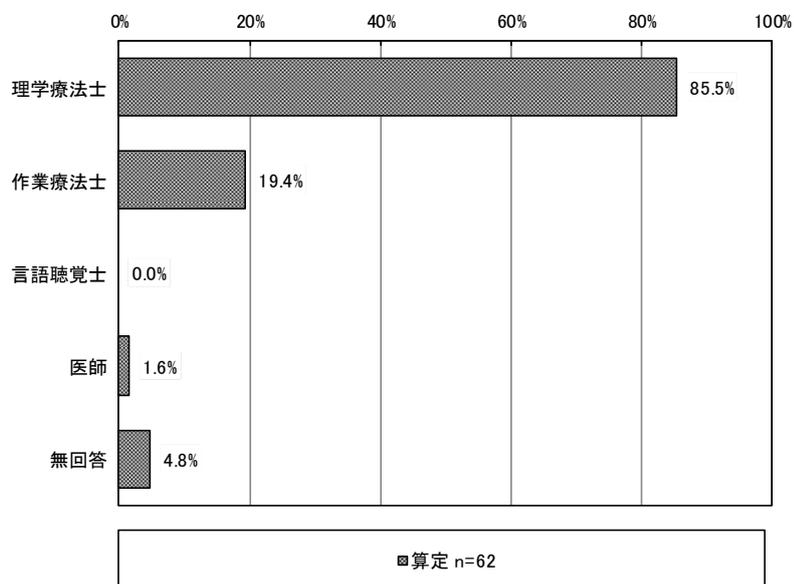


エ) 連携している外部の職種 (問 12)

図表 944 連携している外部の職種

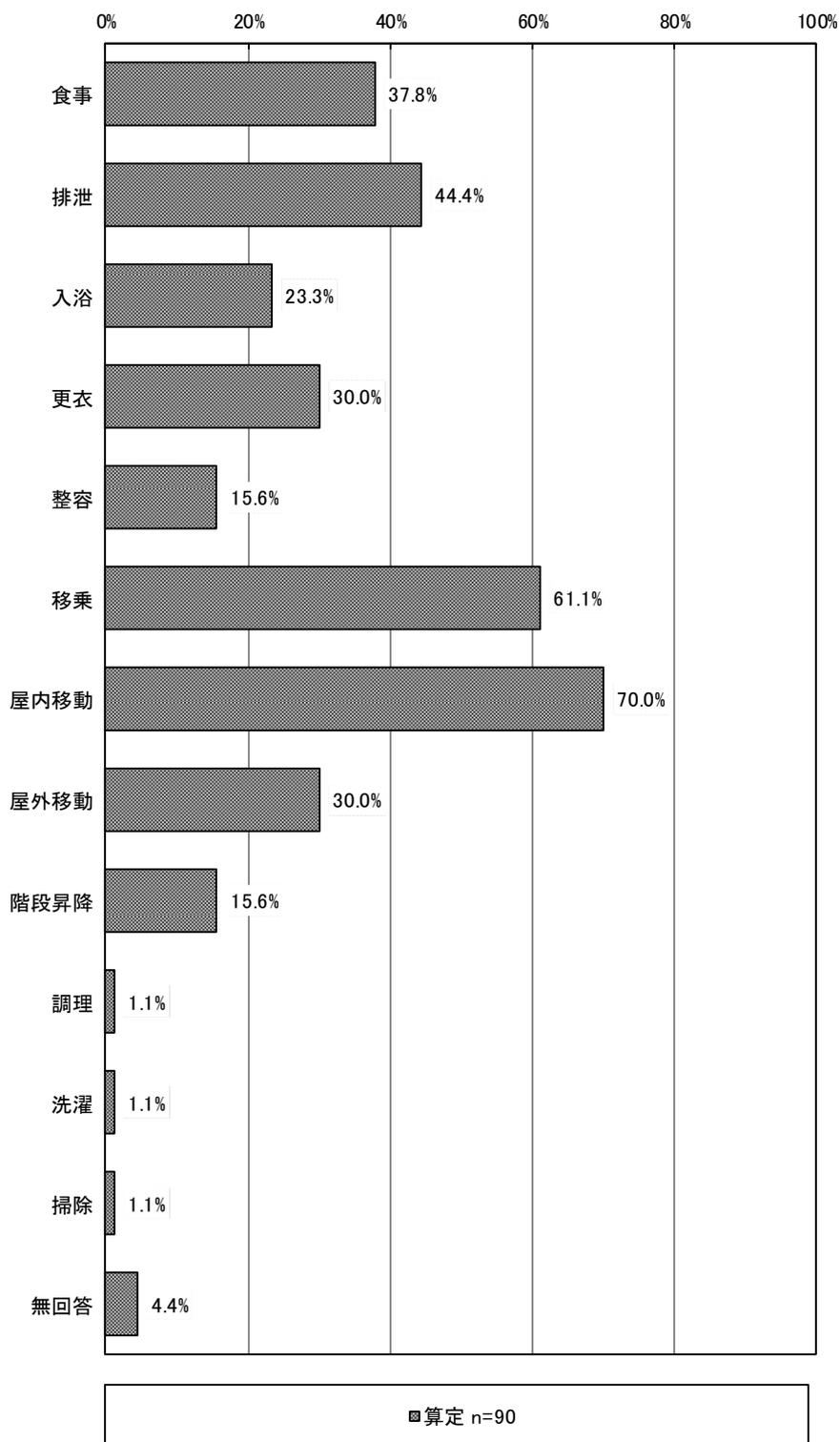


図表 945 連携している外部の職種 区分1のみ

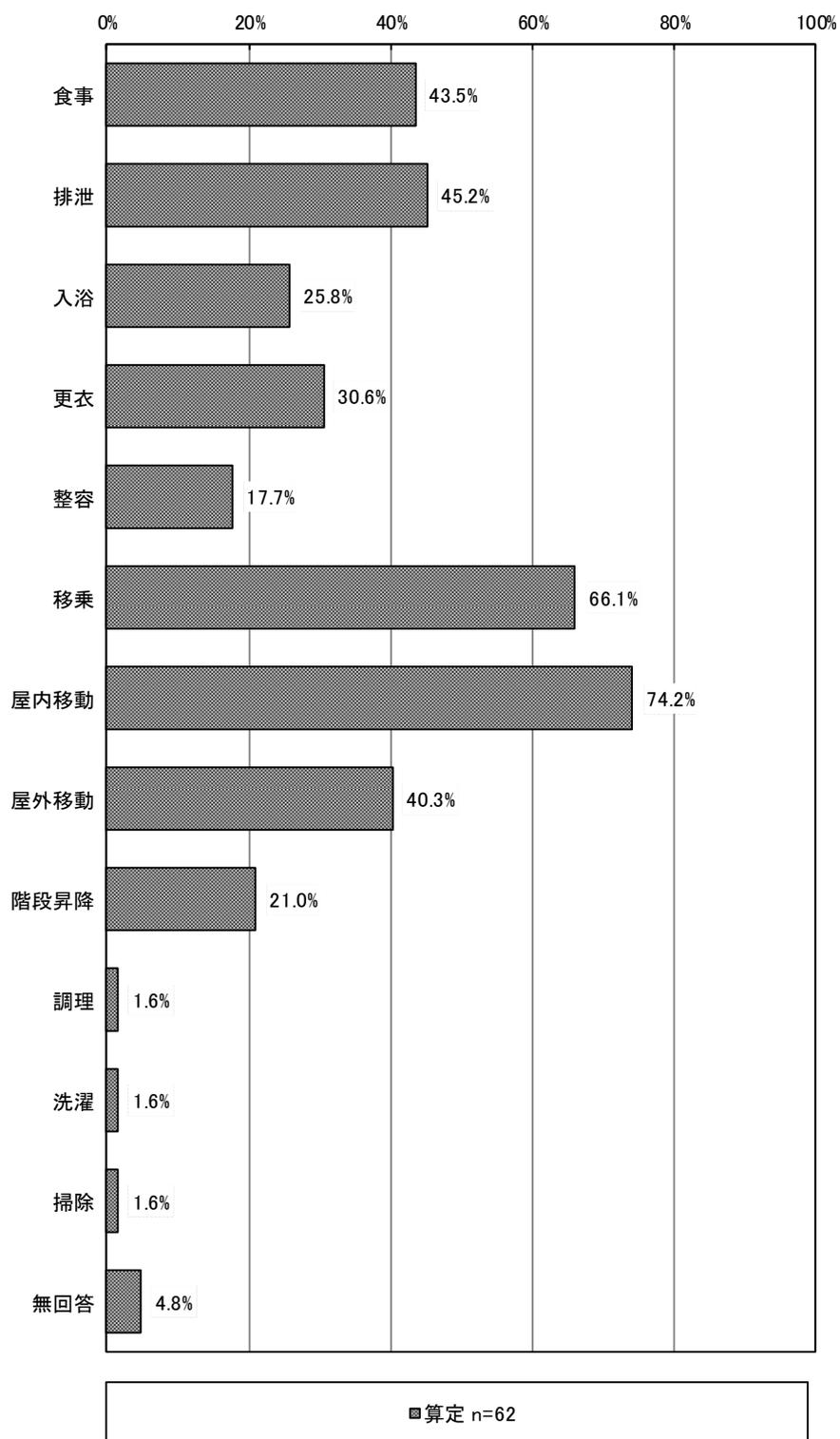


## 才) 利用者の課題 (問 13)

図表 946 利用者の課題

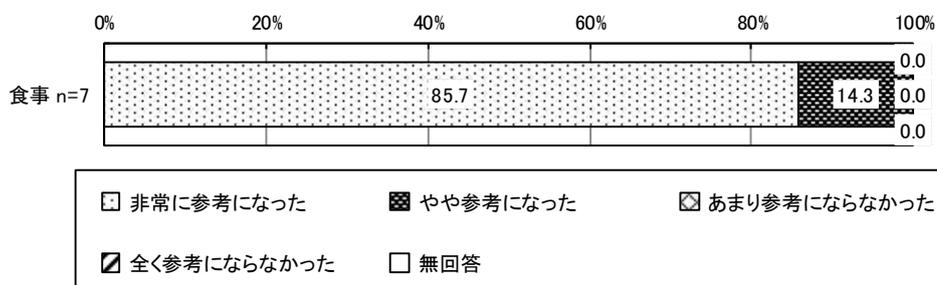


図表 947 利用者の課題 区分1のみ

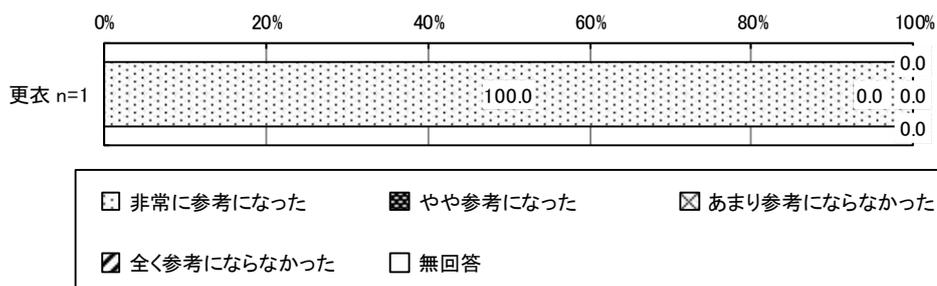


カ) 外部からの助言を計画に反映した内容について、課題、助言内容、また助言はどの程度参考になったか（問 14）

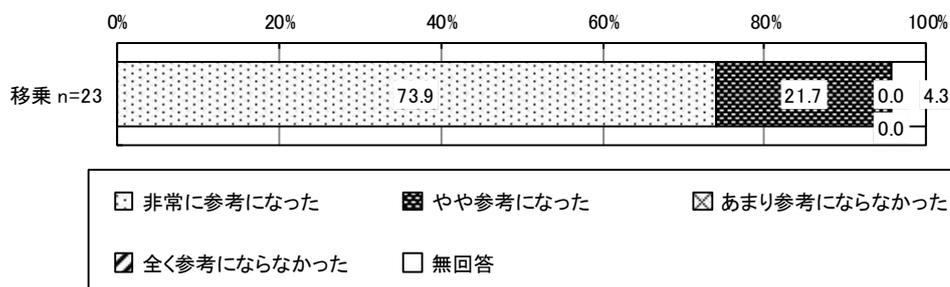
図表 948 食事



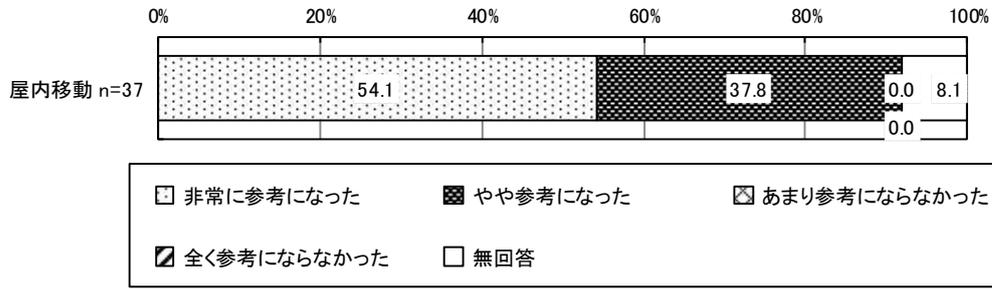
図表 949 更衣



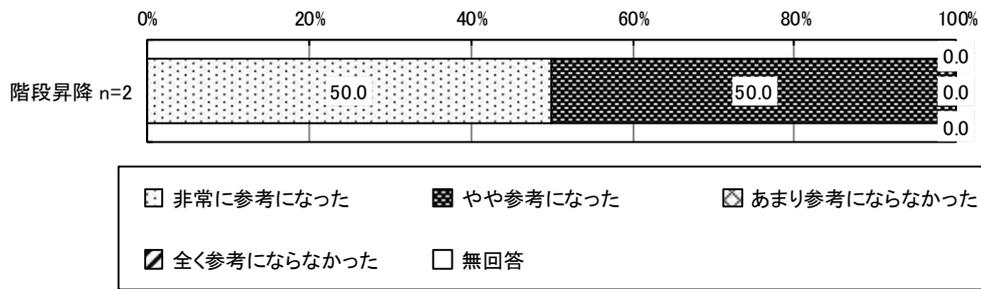
図表 950 移乗



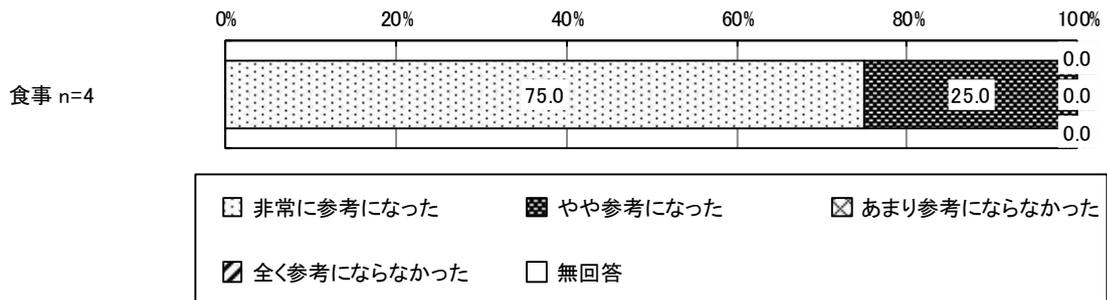
図表 951 屋内移動



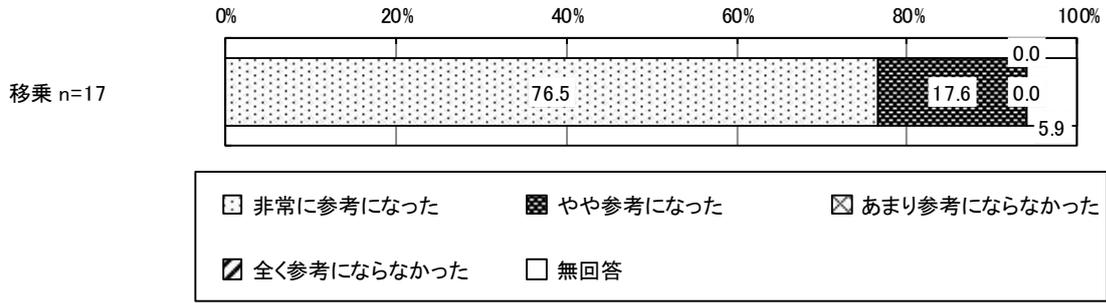
図表 952 階段昇降



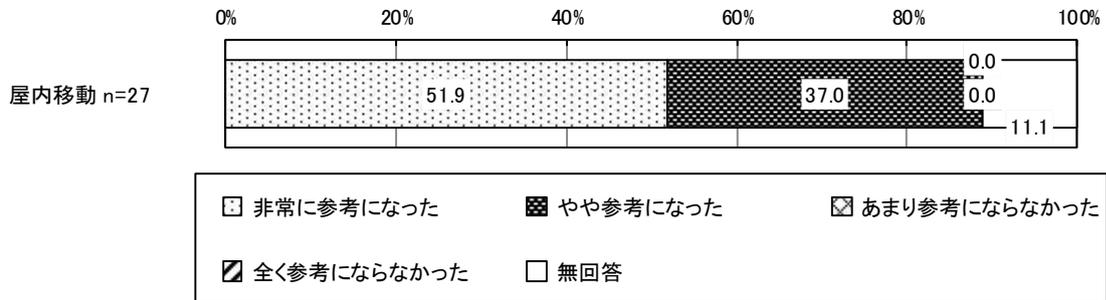
図表 953 食事 区分1のみ



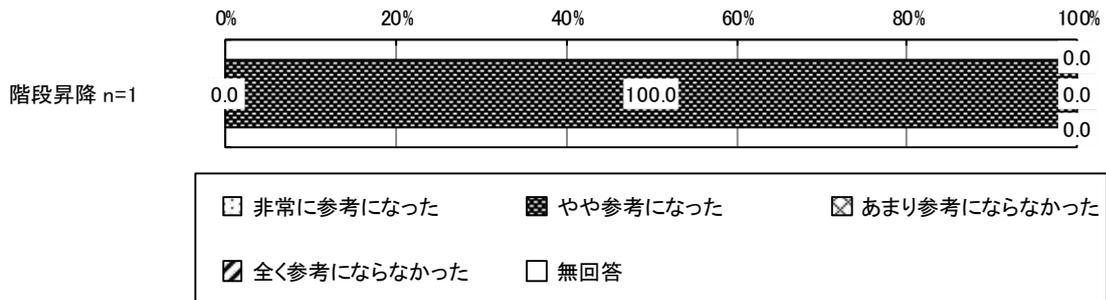
図表 954 移乗 区分1のみ



図表 955 屋内移動 区分1のみ



図表 956 階段昇降 区分1のみ



図表 957 課題別の助言内容

○食事

- ・ 食事の際のポジショニング
- ・ 嚥下の評価

○更衣

- ・ 上肢のストレッチを行い、可動域拡大を図る

### ○移乗

- ・ 立位保持練習を継続する
- ・ 筋力を維持できるよう体操・歌に参加する

### ○屋内移動

- ・ 押し車を使用し、足を高く上げて歩くよう促す
- ・ 全身持久力・下肢筋力の維持・向上のため、生活の中で歩行器使用を促す

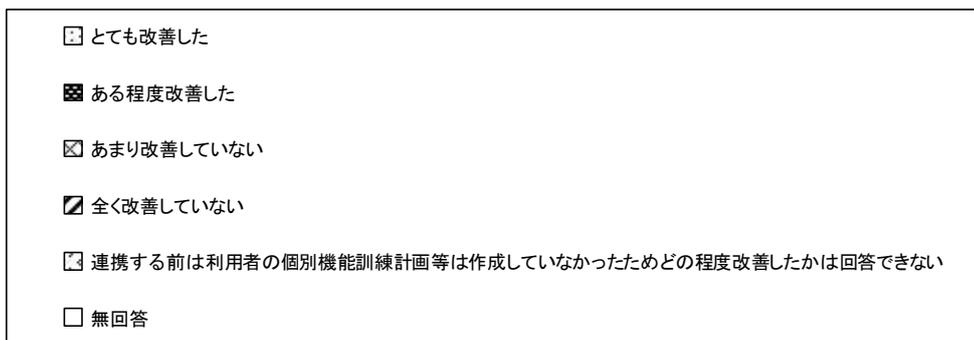
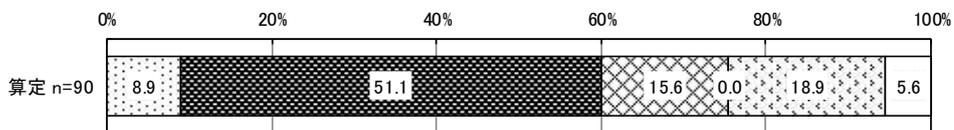
### ○階段昇降

- ・ 階段昇降を行い、下肢筋力の向上を図る
- ・ 筋力トレーニングだけでなく、バランストレーニングを行う

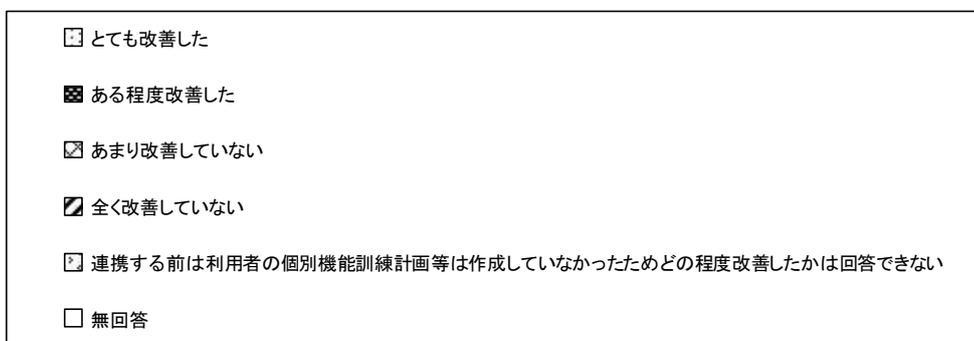
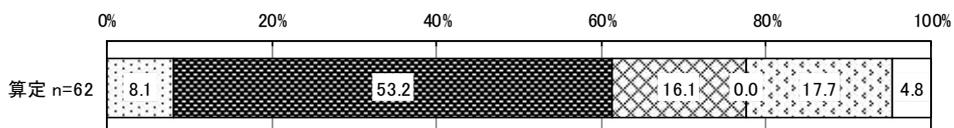
排泄、入浴、整容、屋外移動、調理、洗濯、掃除については、回答は無し。

## キ) 助言により利用者の計画はどの程度改善したか（問 15）

図表 958 助言により利用者の計画はどの程度改善したか



図表 959 助言により利用者の計画はどの程度改善したか 区分1のみ



## ク) 助言による具体的な状況変化 (問 15-2)

図表 960 助言による具体的な状況変化

### ○訓練内容の変化

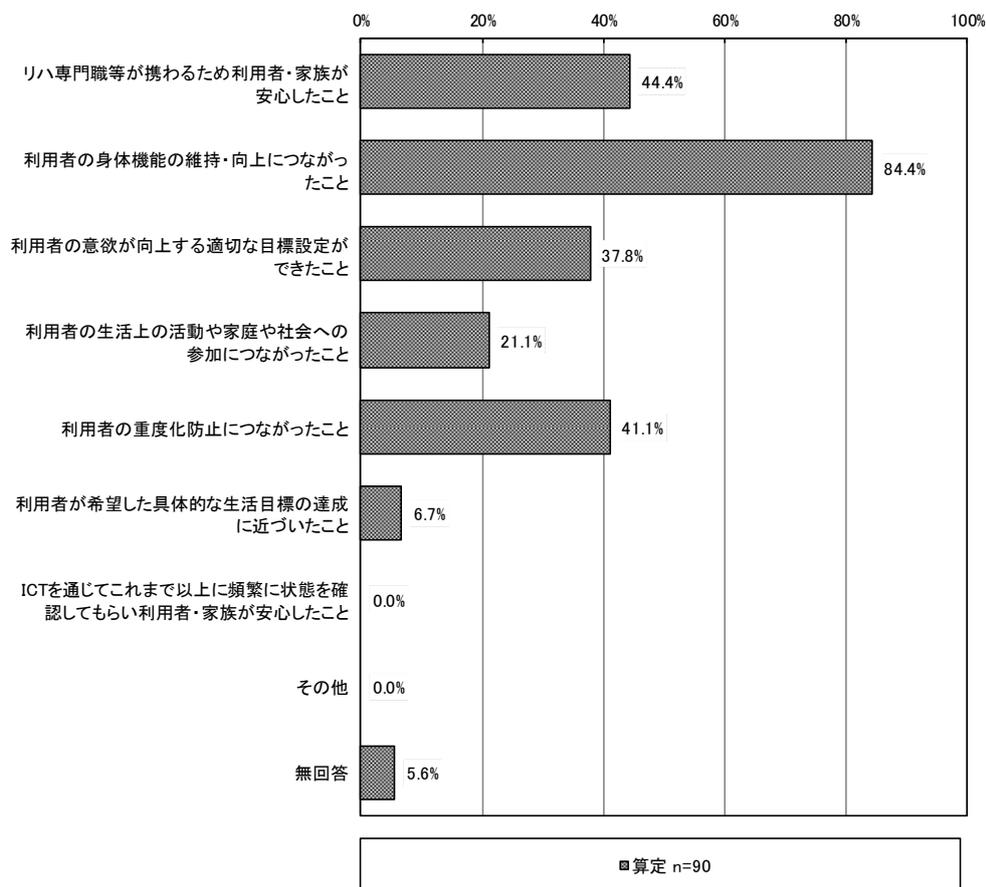
- ・ 指導を受けたことによって本人の自覚と意識付けができ、訓練がしやすくなってきた。
- ・ 本人に具体的にどこに気をつけるのか伝えることができた。

### ○本人の状態の変化

- ・ 機能が悪化したところと比較すると、とても状態が向上した。
- ・ 一時的にレベルが落ちてても回復できるレベルが見通せ、重度化を防ぐことができる。

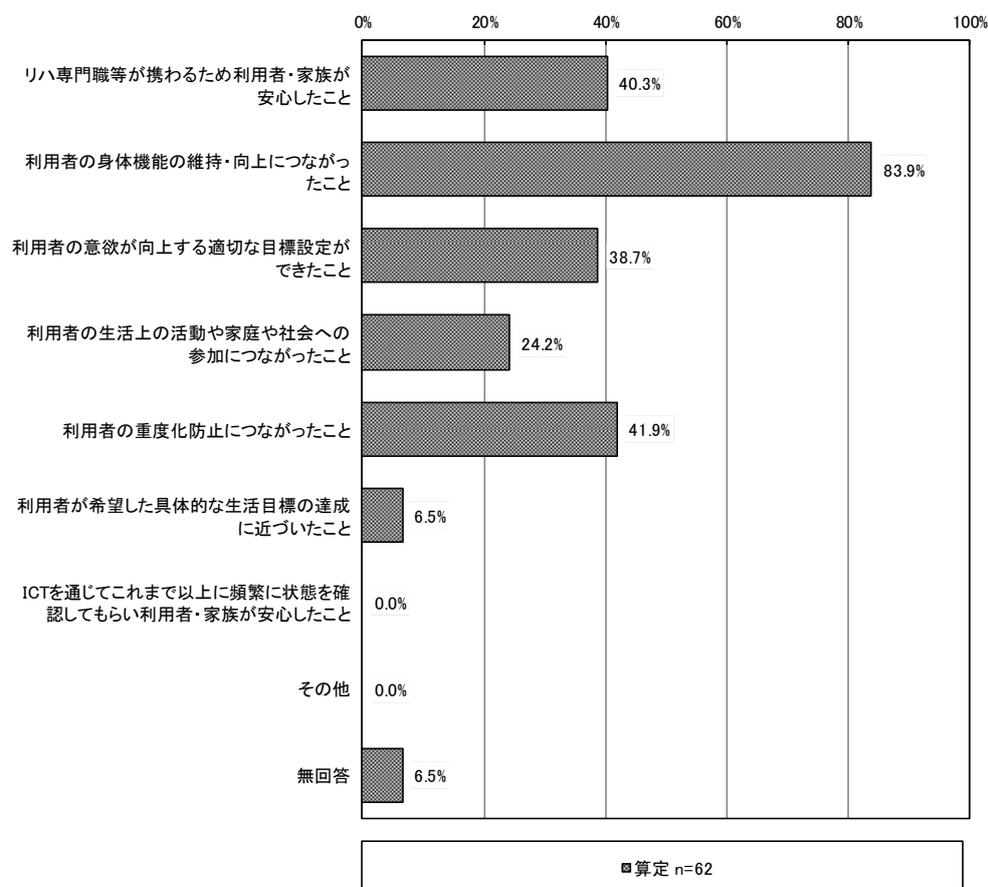
## ケ) 利用者が享受したメリット (問 16)

図表 961 利用者が享受したメリット



※その他として挙げられた有効な回答は無し。

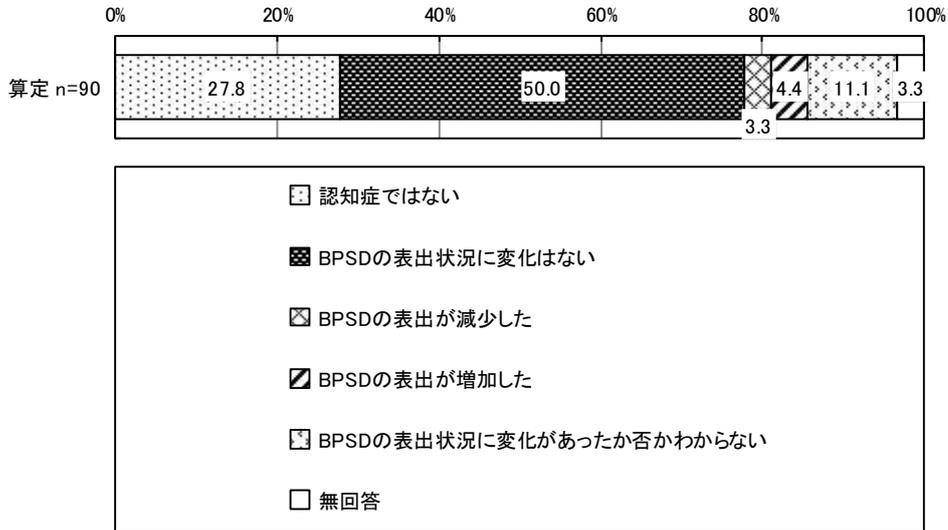
図表 962 利用者が享受したメリット 区分1のみ



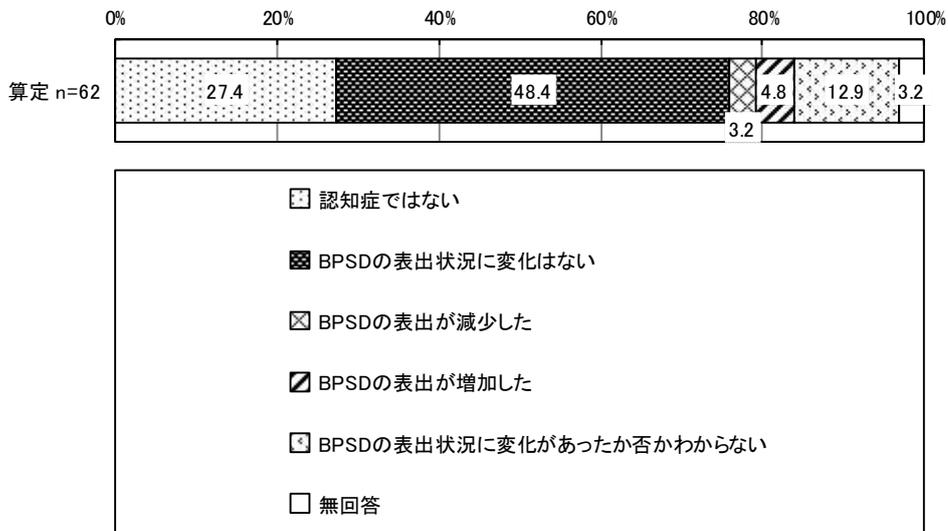
※その他として挙げられた有効な回答は無し。

コ) 認知症の利用者の BPSD 表出状況の変化 (問 17)

図表 963 認知症の利用者の BPSD 表出状況の変化

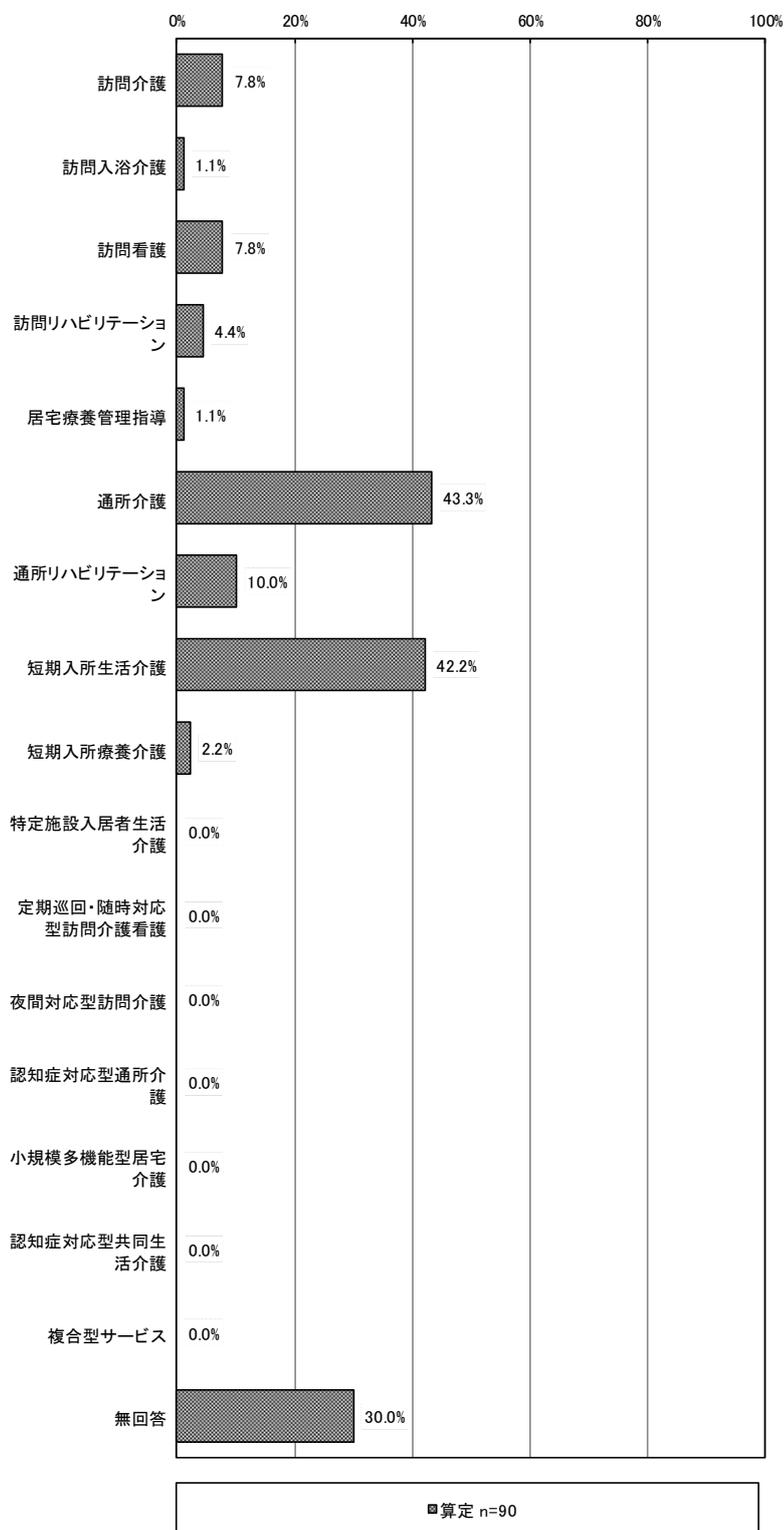


図表 964 認知症の利用者の BPSD 表出状況の変化 区分 1 のみ

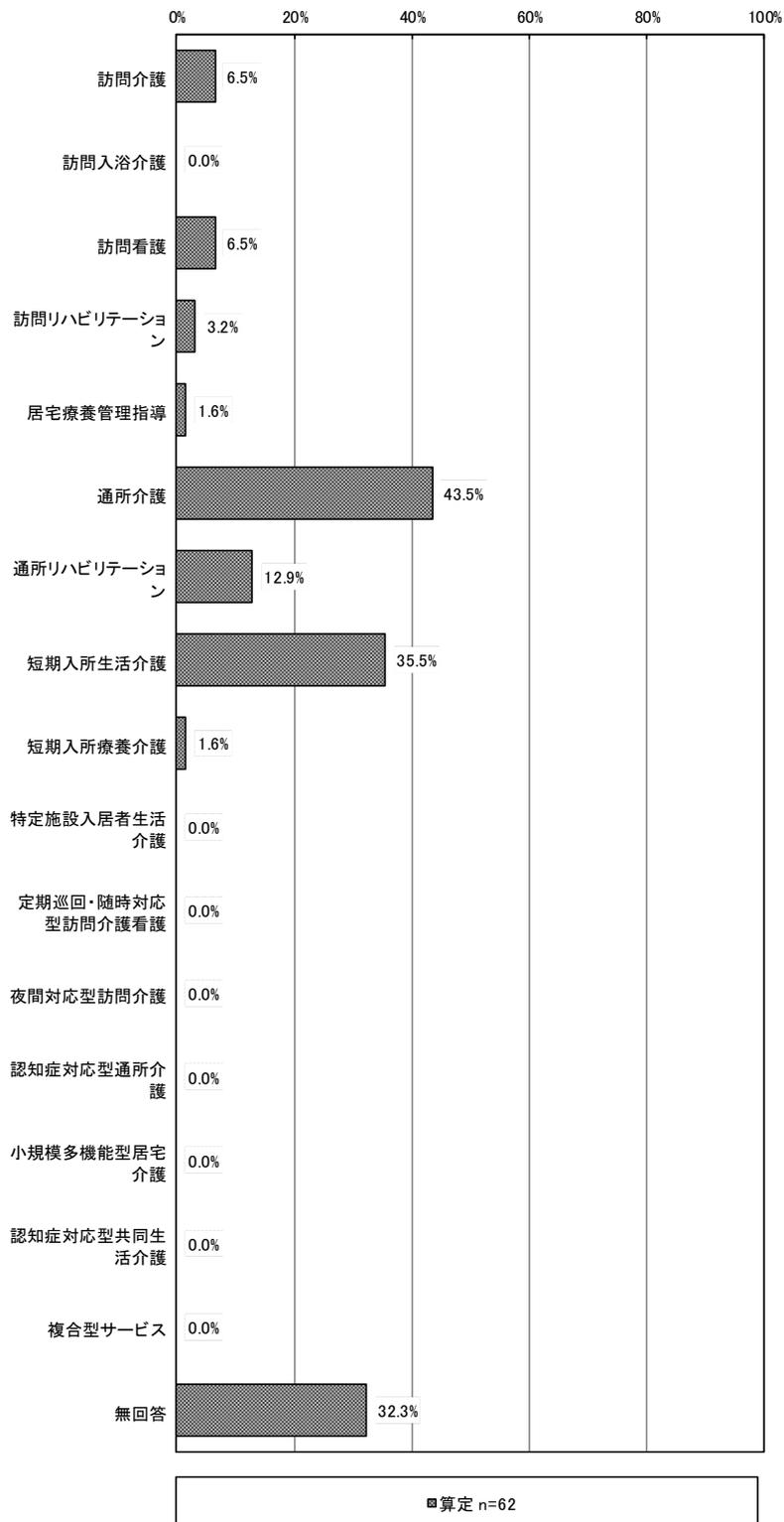


サ) 利用者が他に利用しているサービス（問 18（算定事業所・施設利用者票）・問 12（非算定事業所・施設利用者票））

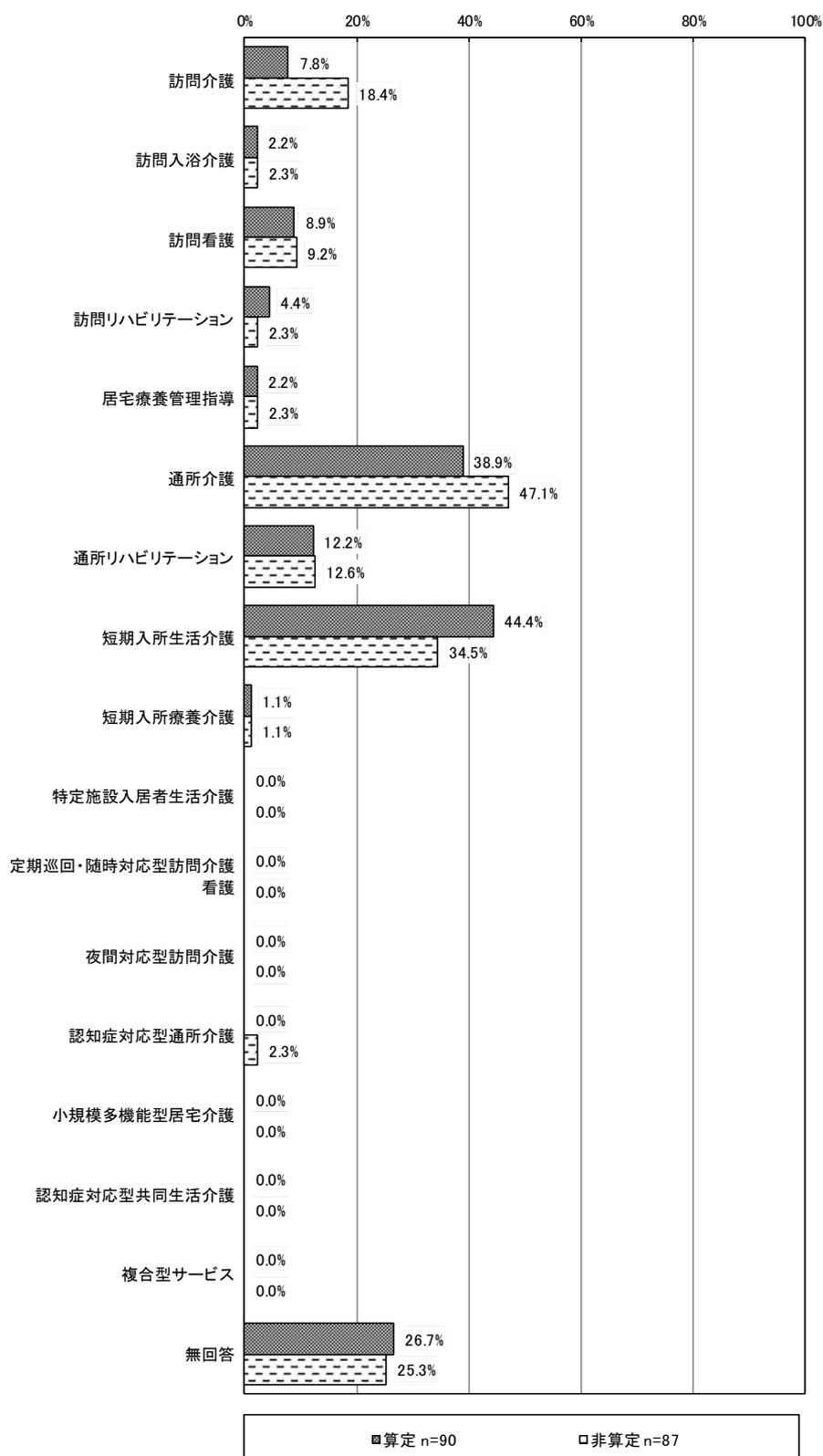
図表 965 利用者が他に利用しているサービス ①算定前



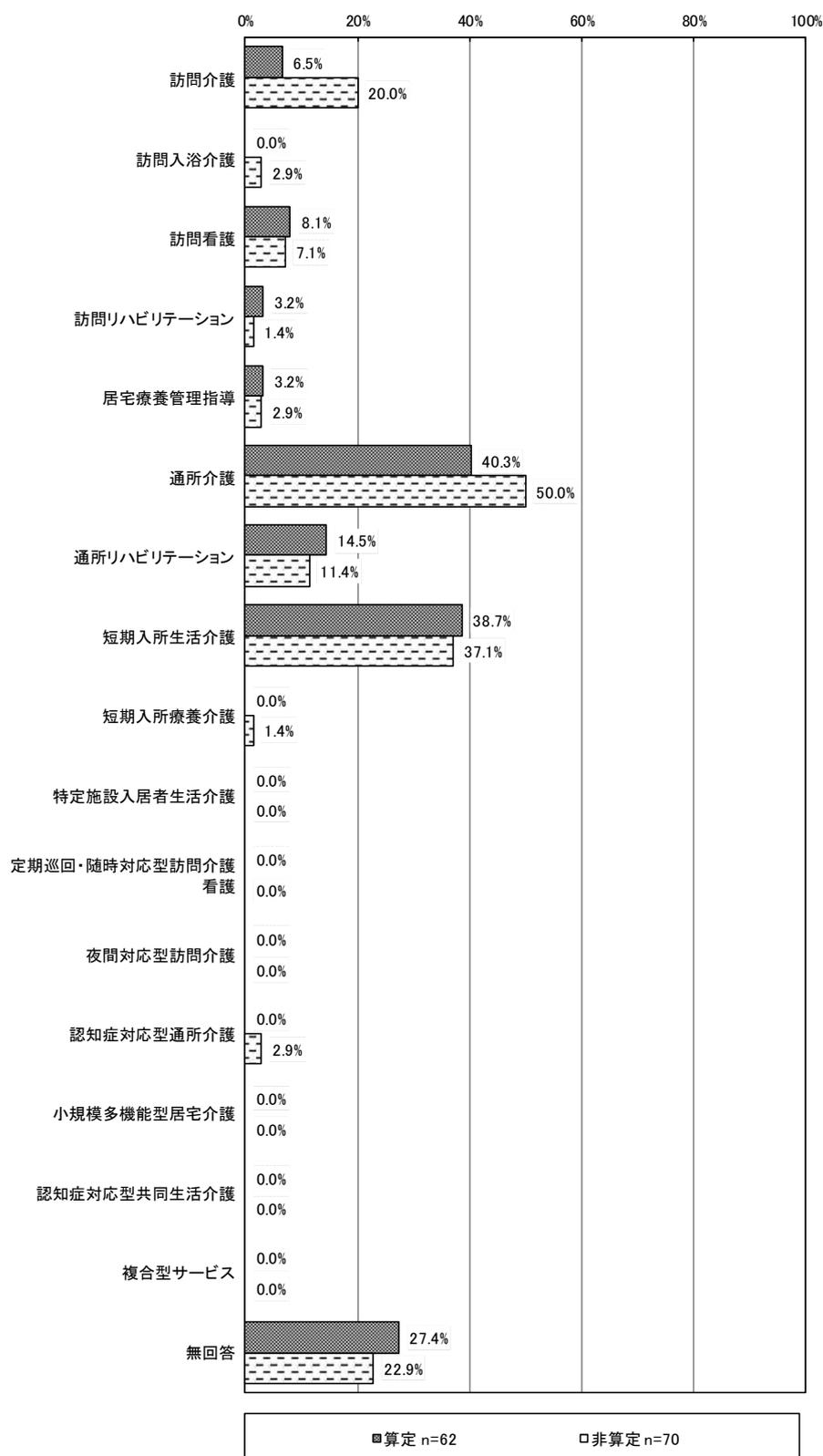
図表 966 利用者が他に利用しているサービス ①算定前 区分1のみ



図表 967 利用者が他に利用しているサービス ②算定以後



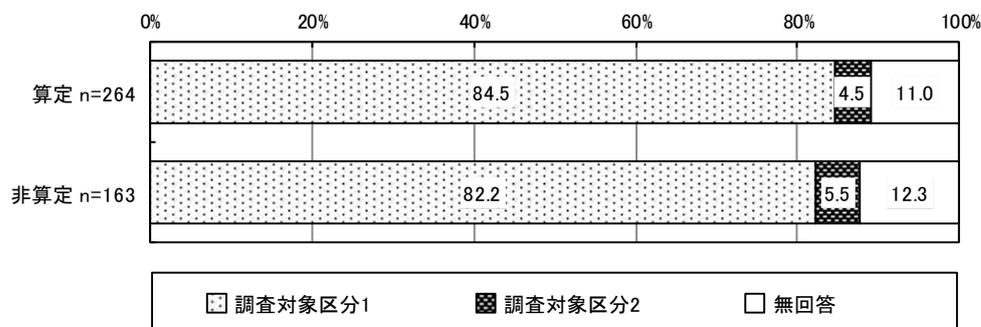
図表 968 利用者が他に利用しているサービス ②算定以後 区分1のみ



## (4) 特定施設入居者生活介護

### ア) 利用者の調査対象区分 (問 0)

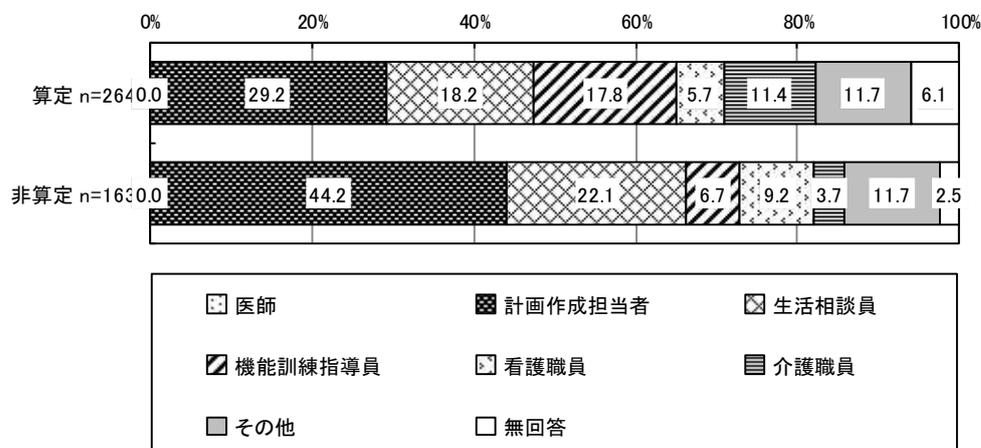
図表 969 利用者の調査対象区分



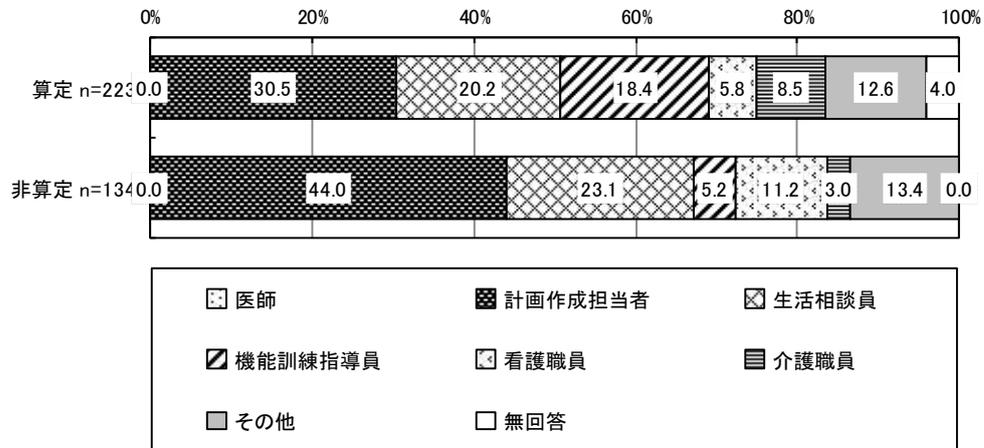
## I. 回答者の属性

### ア) 回答者の職種 (問 1)

図表 970 回答者の職種



図表 971 回答者の職種 区分1のみ



※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

- ・ (算定) 施設長
- ・ (非算定) 管理者

## II. 利用者の情報

### ア) 年齢 (問 2)

図表 972 年齢

(単位: 歳)

件数	平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
算定 n=260	88.4	6.6	89	104	67
非算定 n=162	87.5	7.0	89	100	52

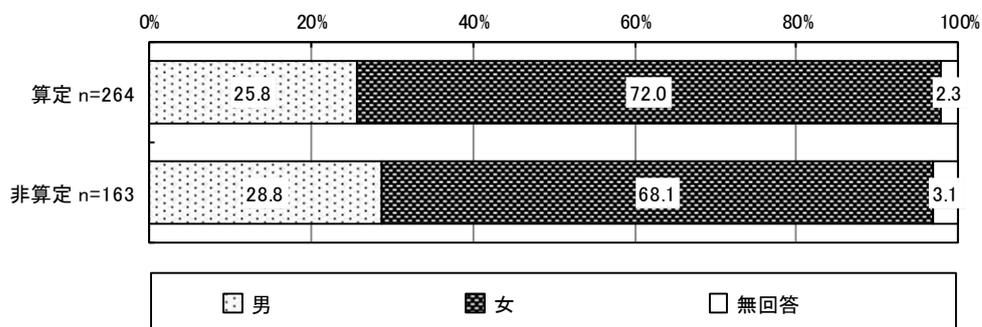
図表 973 年齢 区分 1 のみ

(単位: 歳)

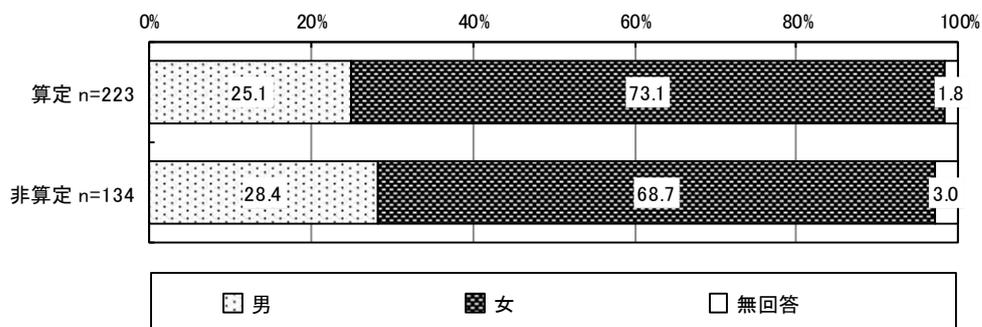
件数	平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
算定 n=221	88.4	6.7	89	103	67
非算定 n=133	87.5	7.3	89	100	52

### イ) 性別 (問 3)

図表 974 性別

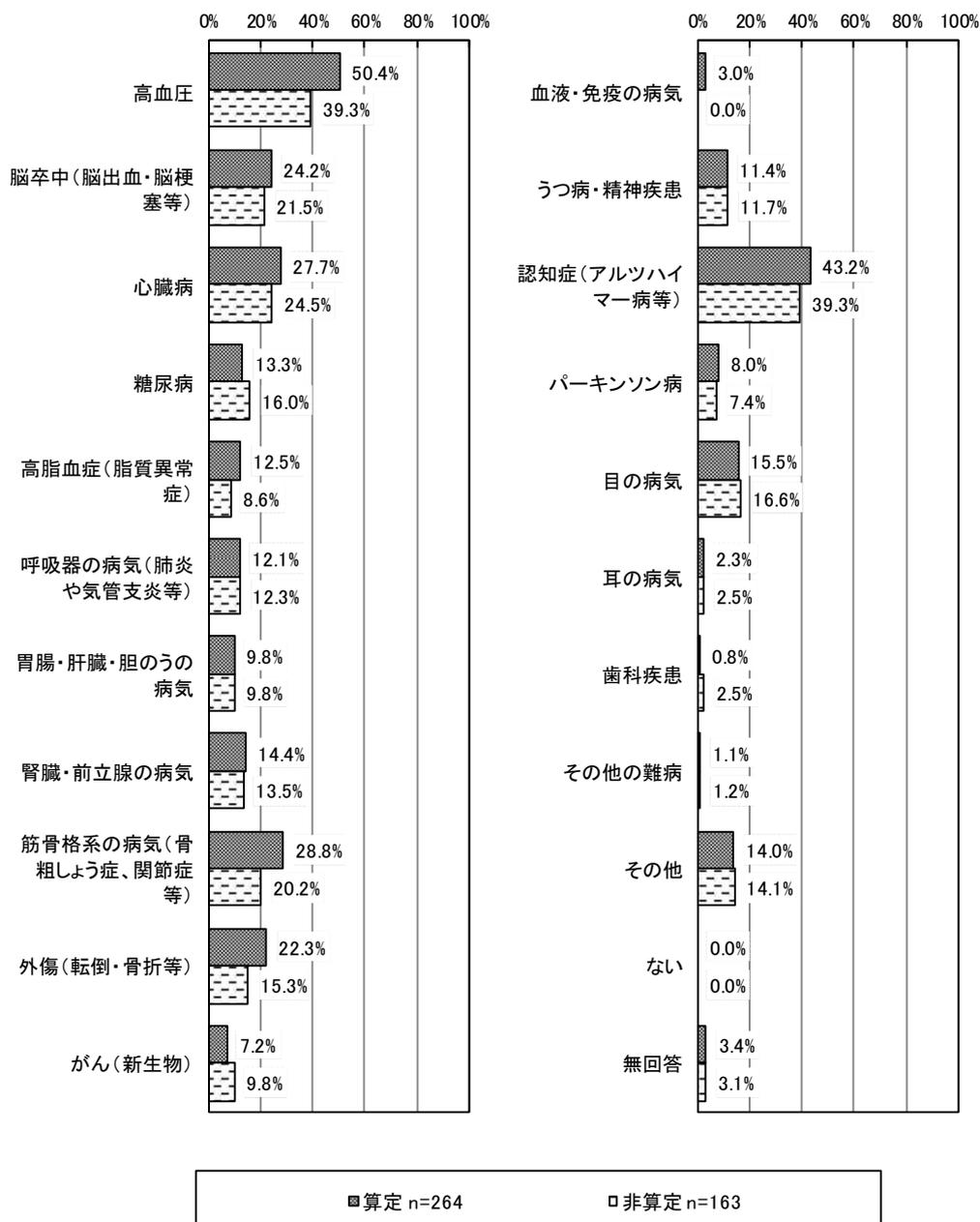


図表 975 性別 区分 1 のみ

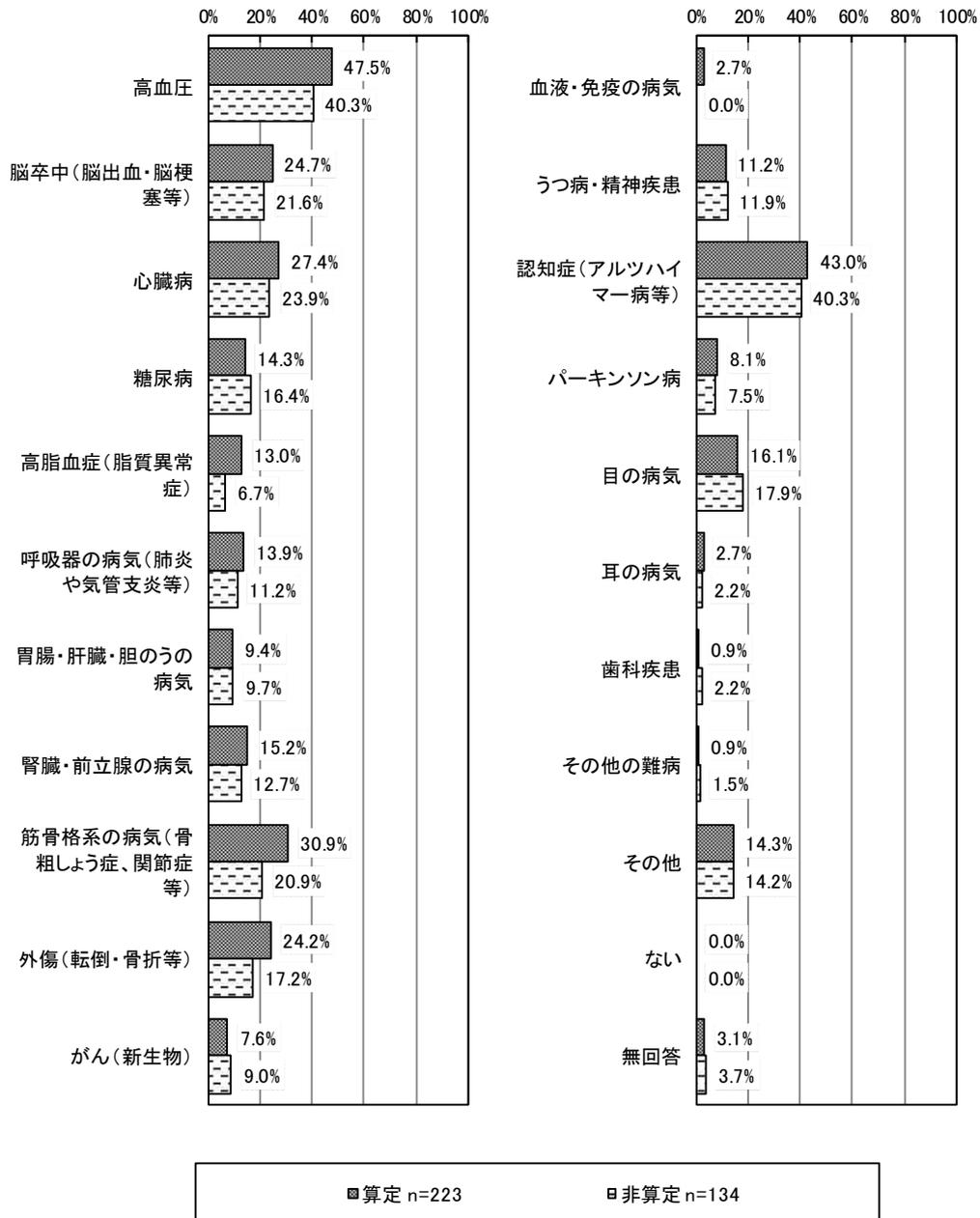


## ウ) 傷病名 (問 4)

図表 976 傷病名



図表 977 傷病名 区分1のみ

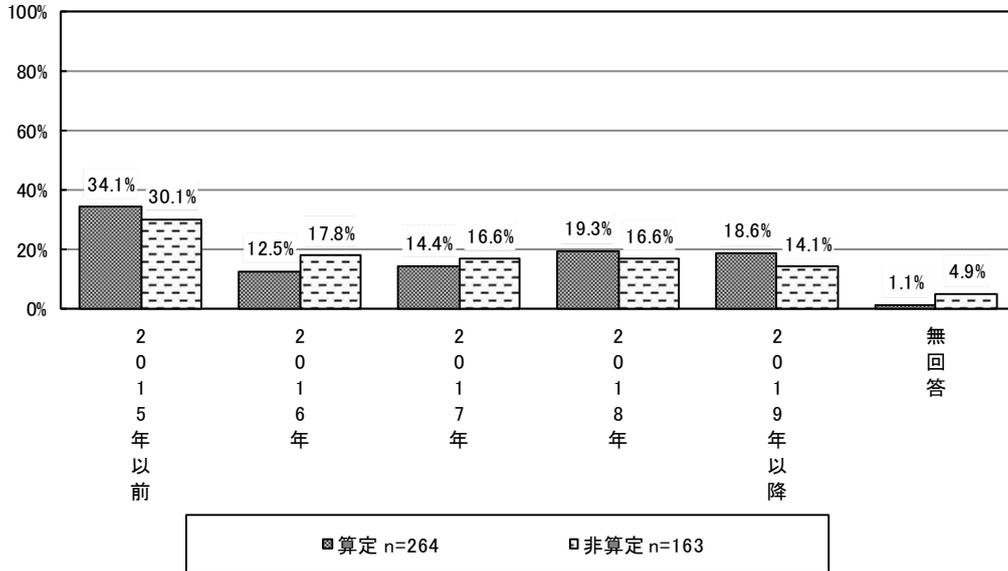


※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

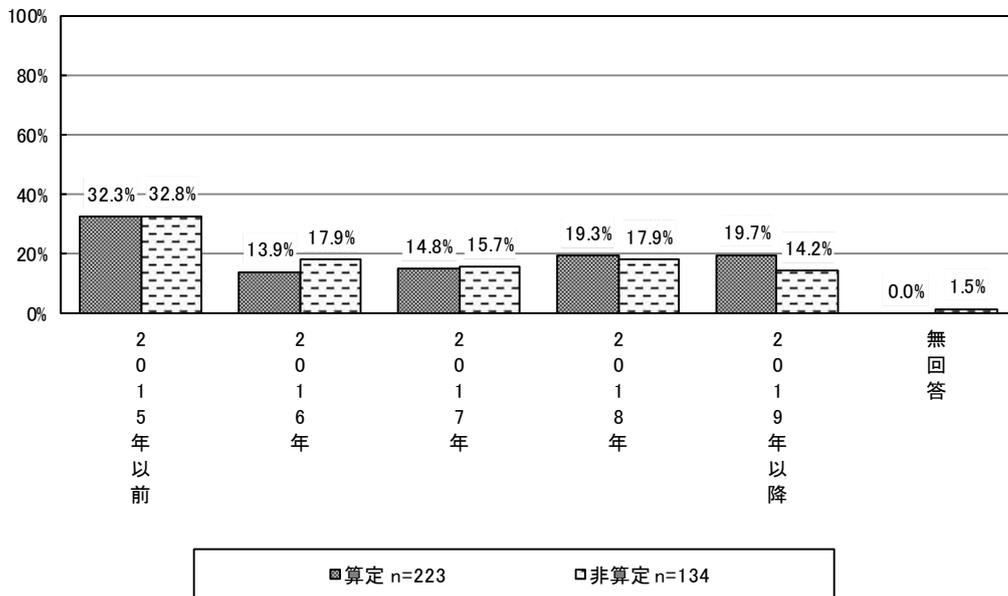
- ・(算定) 下肢麻痺
- ・(算定) 脳挫傷後遺症
- ・(非算定) 脳挫傷後遺症
- ・(非算定) 変形性頸椎症

エ) 事業所・施設の利用開始時期（問5）

図表 978 事業所・施設の利用開始時期

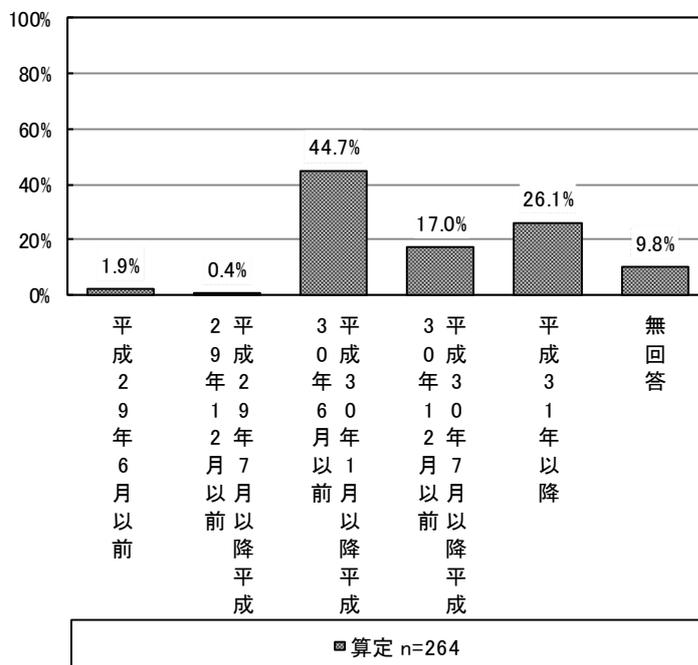


図表 979 事業所・施設の利用開始時期 区分1のみ

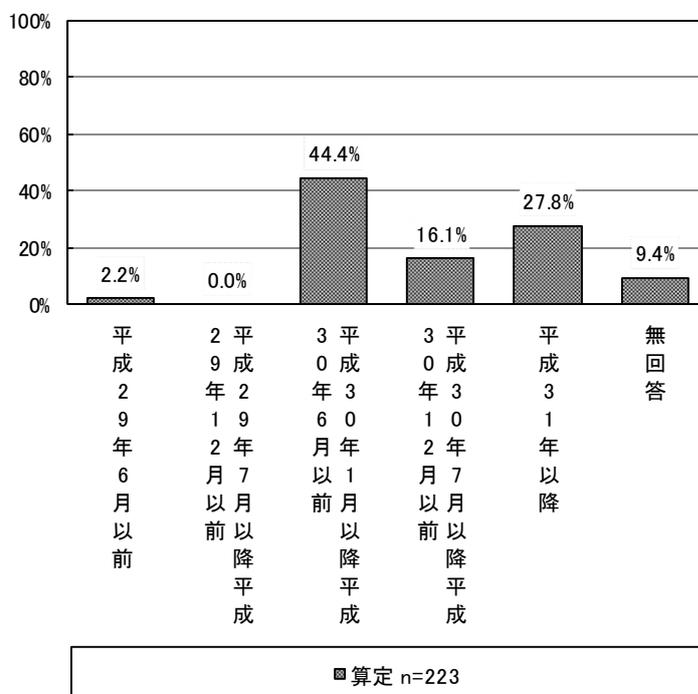


オ) 事業所・施設が加算算定に伴う連携を開始した時期（問 6）

図表 980 事業所・施設が加算算定に伴う連携を開始した時期

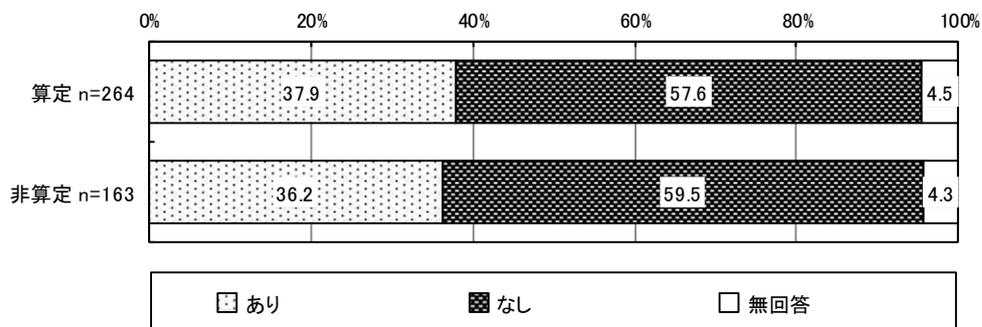


図表 981 事業所・施設が加算算定に伴う連携を開始した時期 区分1のみ

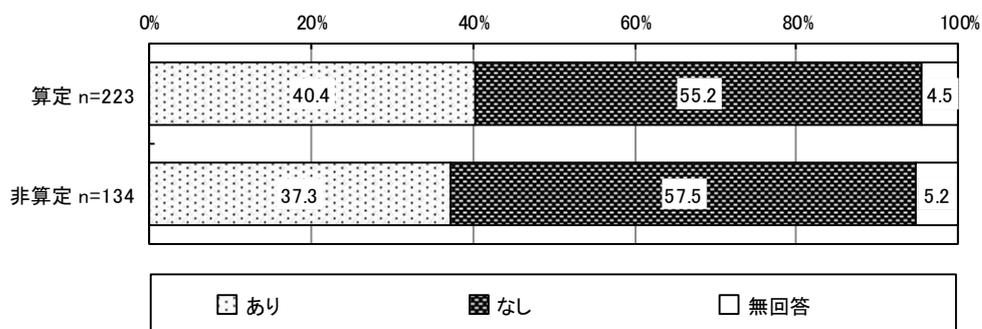


カ) 退院の有無と直近の入院期間（問 7）

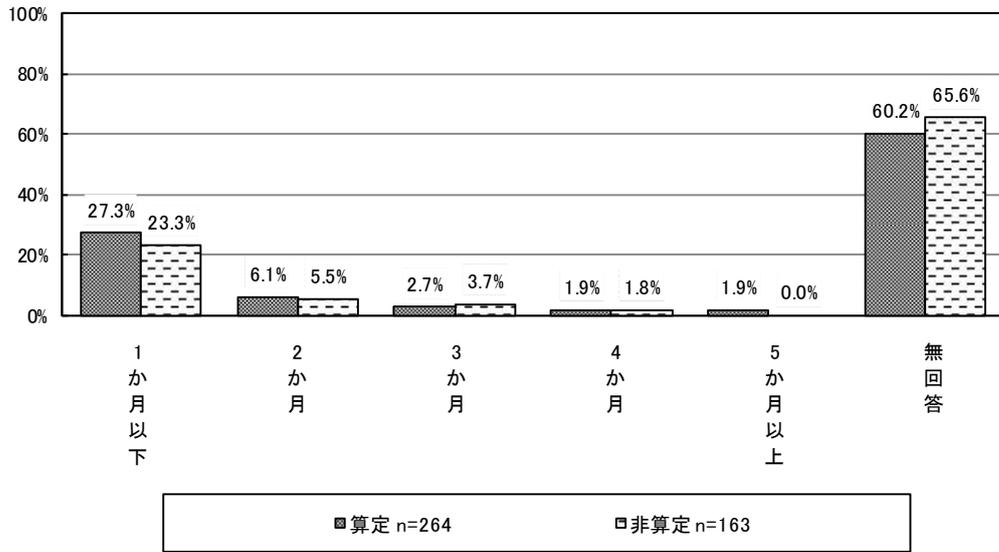
図表 982 退院の有無



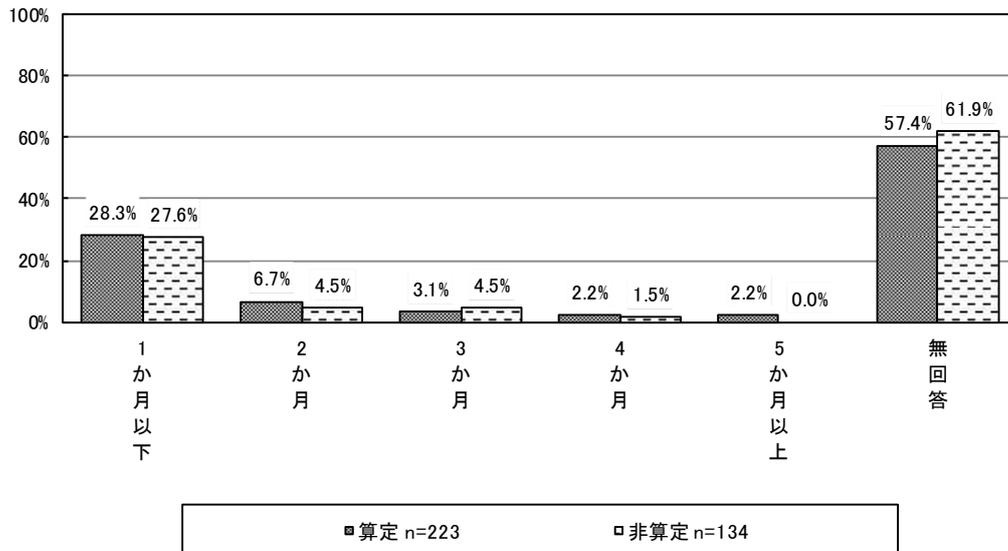
図表 983 退院の有無 区分 1 のみ



図表 984 直近の入院期間



図表 985 直近の入院期間 区分1のみ



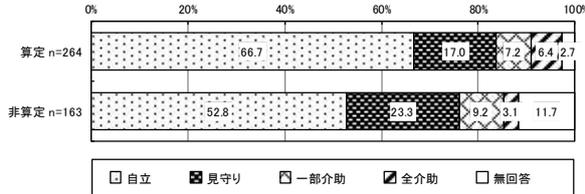
## キ) ADL・IADL の状況 (問 8)

図表 986 ADL・IADL の状況

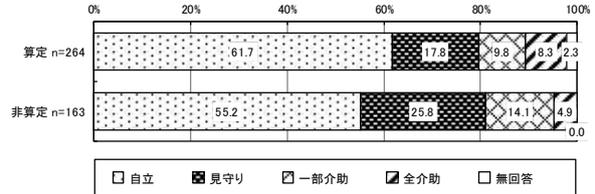
### 食事

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



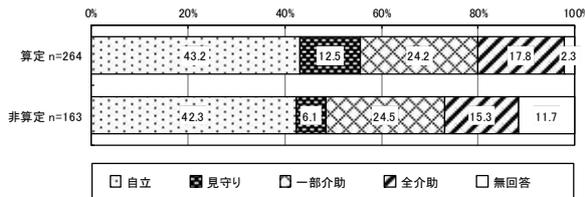
②令和元年 10 月 1 日時点



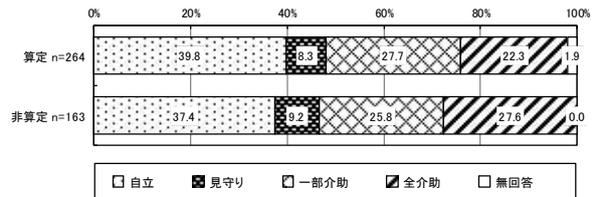
### 排泄

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



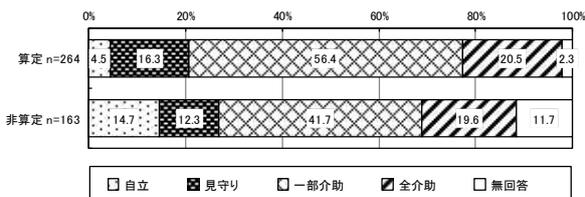
②令和元年 10 月 1 日時点



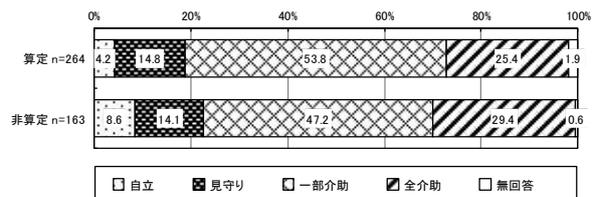
### 入浴

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



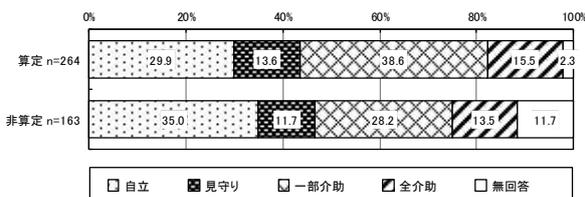
②令和元年 10 月 1 日時点



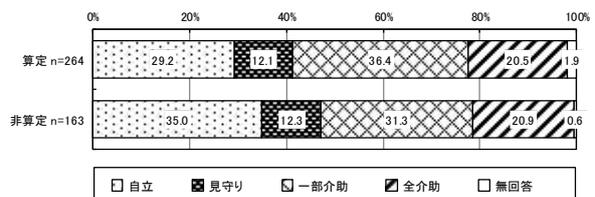
### 更衣

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



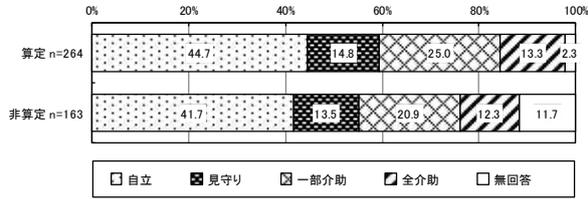
②令和元年 10 月 1 日時点



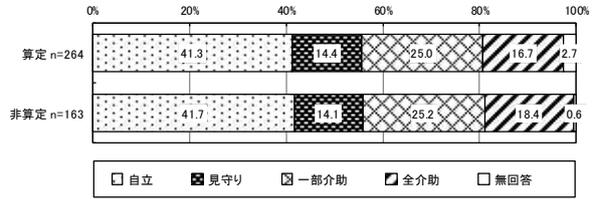
## 整容

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



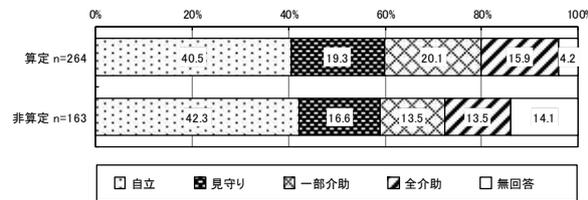
②令和元年10月1日時点



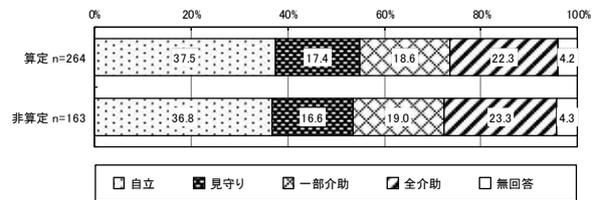
## 移乗

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



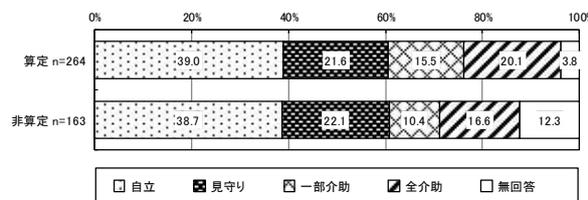
②令和元年10月1日時点



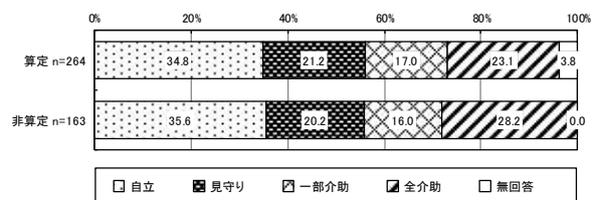
## 屋内移動

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



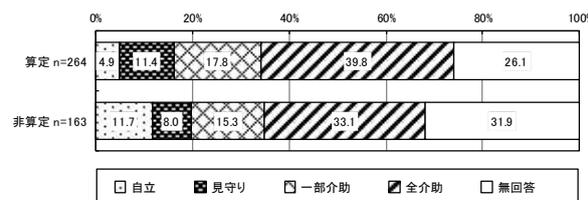
②令和元年10月1日時点



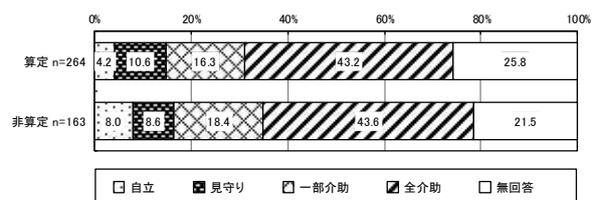
## 階段昇降

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



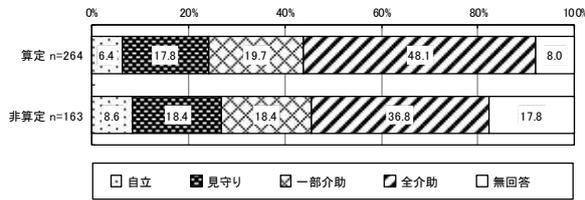
②令和元年10月1日時点



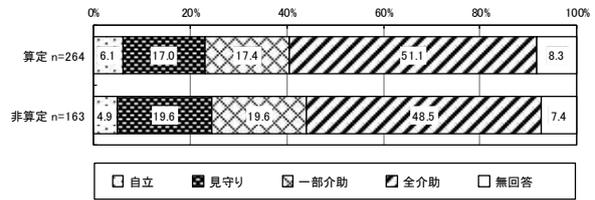
## 屋外移動

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



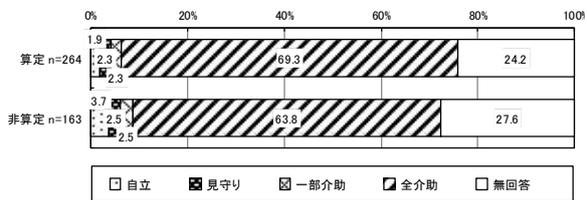
②令和元年10月1日時点



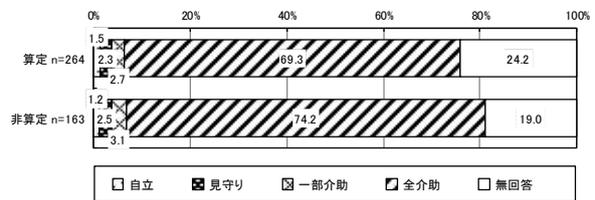
## 調理

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



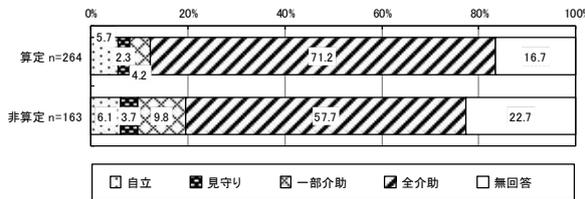
②令和元年10月1日時点



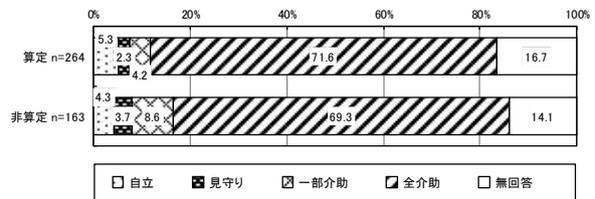
## 洗濯

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



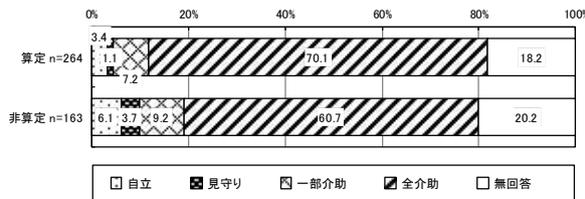
②令和元年10月1日時点



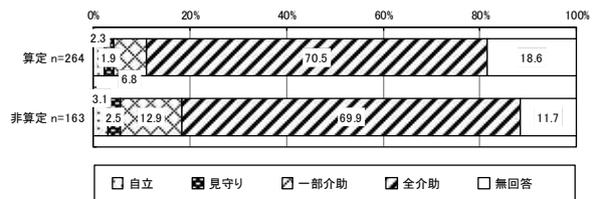
## 掃除

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



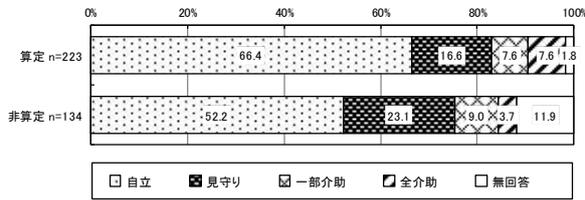
②令和元年10月1日時点



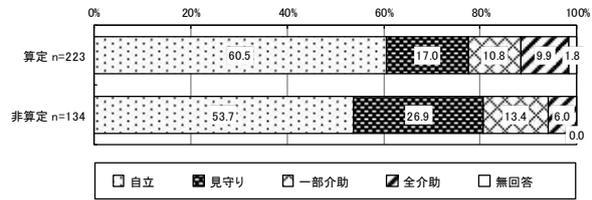
食事 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



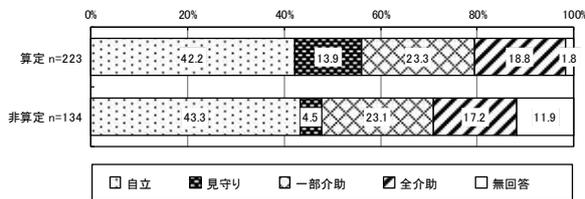
②令和元年10月1日時点



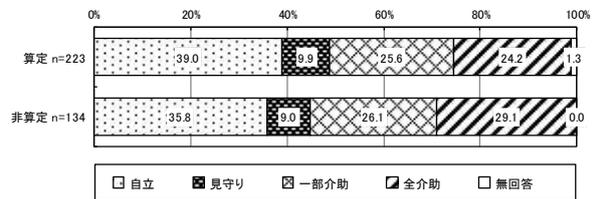
排泄 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



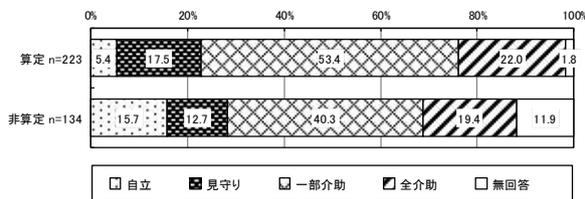
②令和元年10月1日時点



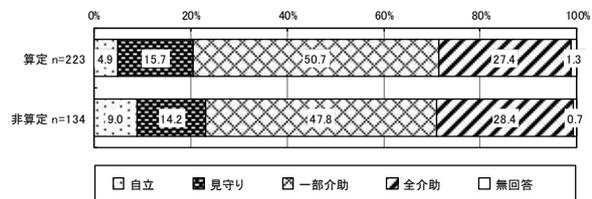
入浴 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



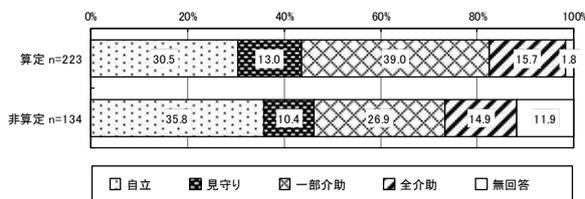
②令和元年10月1日時点



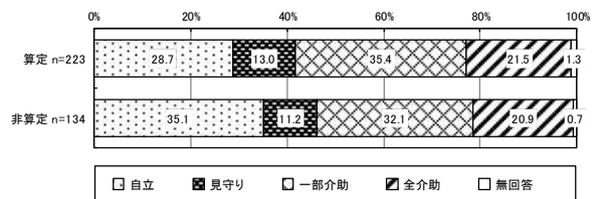
更衣 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



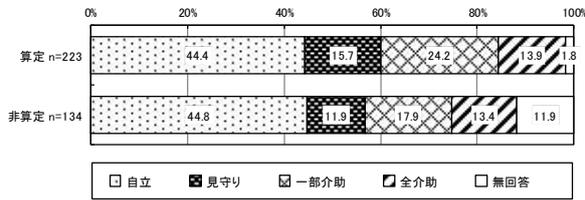
②令和元年10月1日時点



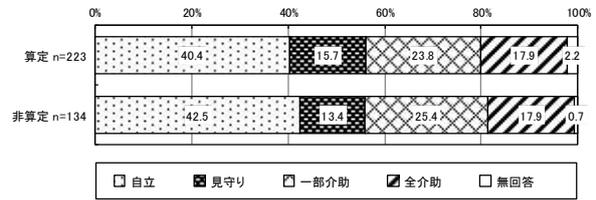
整容 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



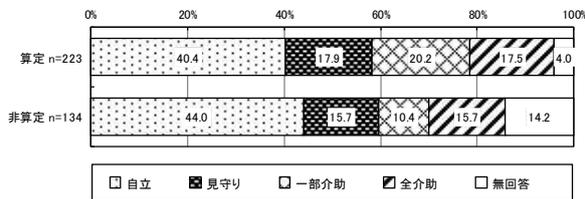
②令和元年10月1日時点



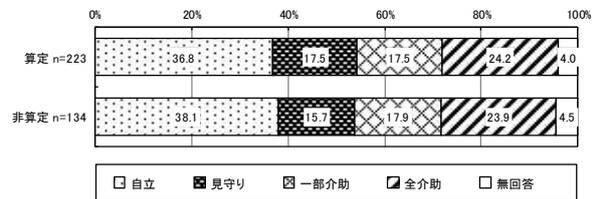
移乗 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



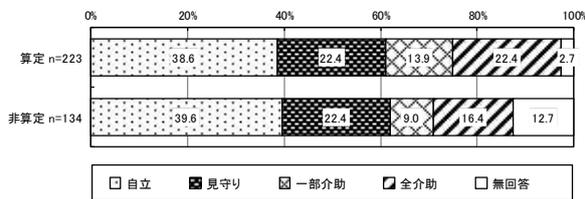
②令和元年10月1日時点



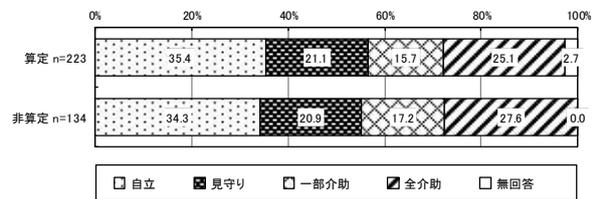
屋内移動 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



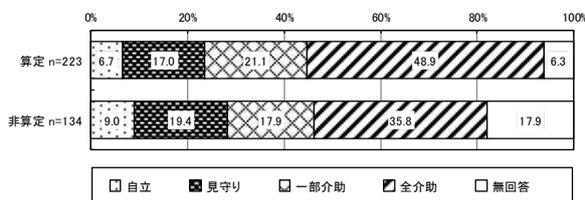
②令和元年10月1日時点



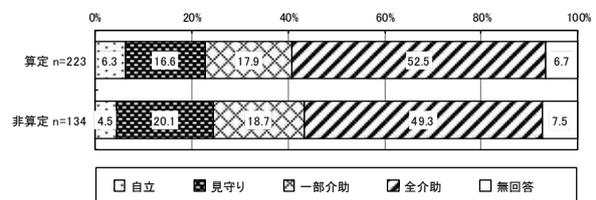
屋外移動 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



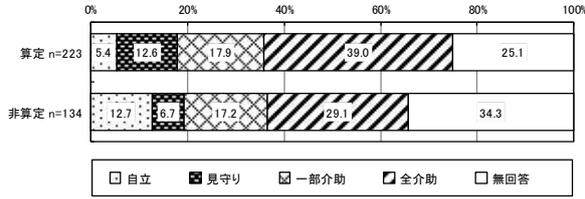
②令和元年10月1日時点



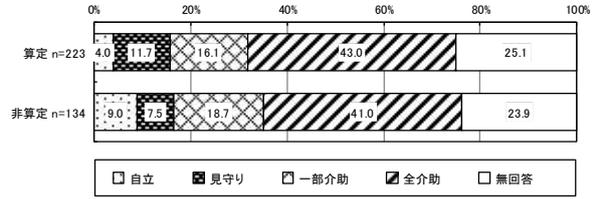
階段昇降 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



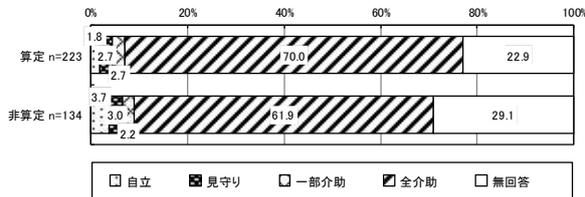
②令和元年10月1日時点



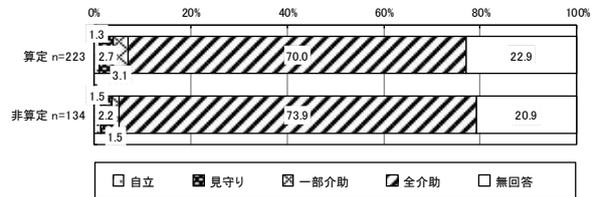
調理 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



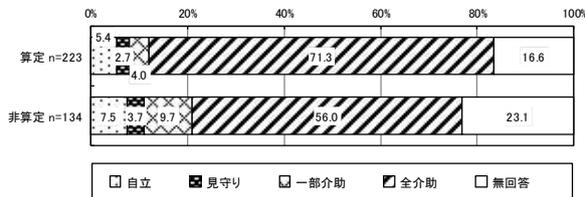
②令和元年10月1日時点



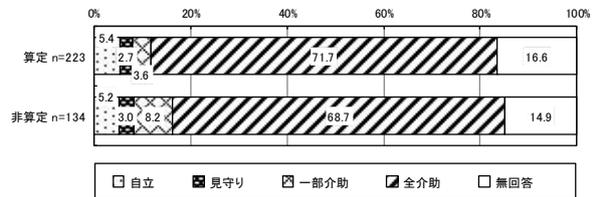
洗濯 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



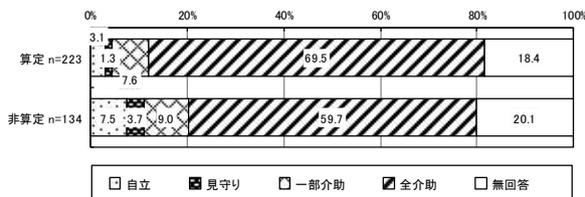
②令和元年10月1日時点



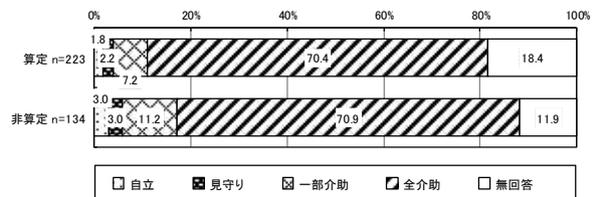
掃除 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点

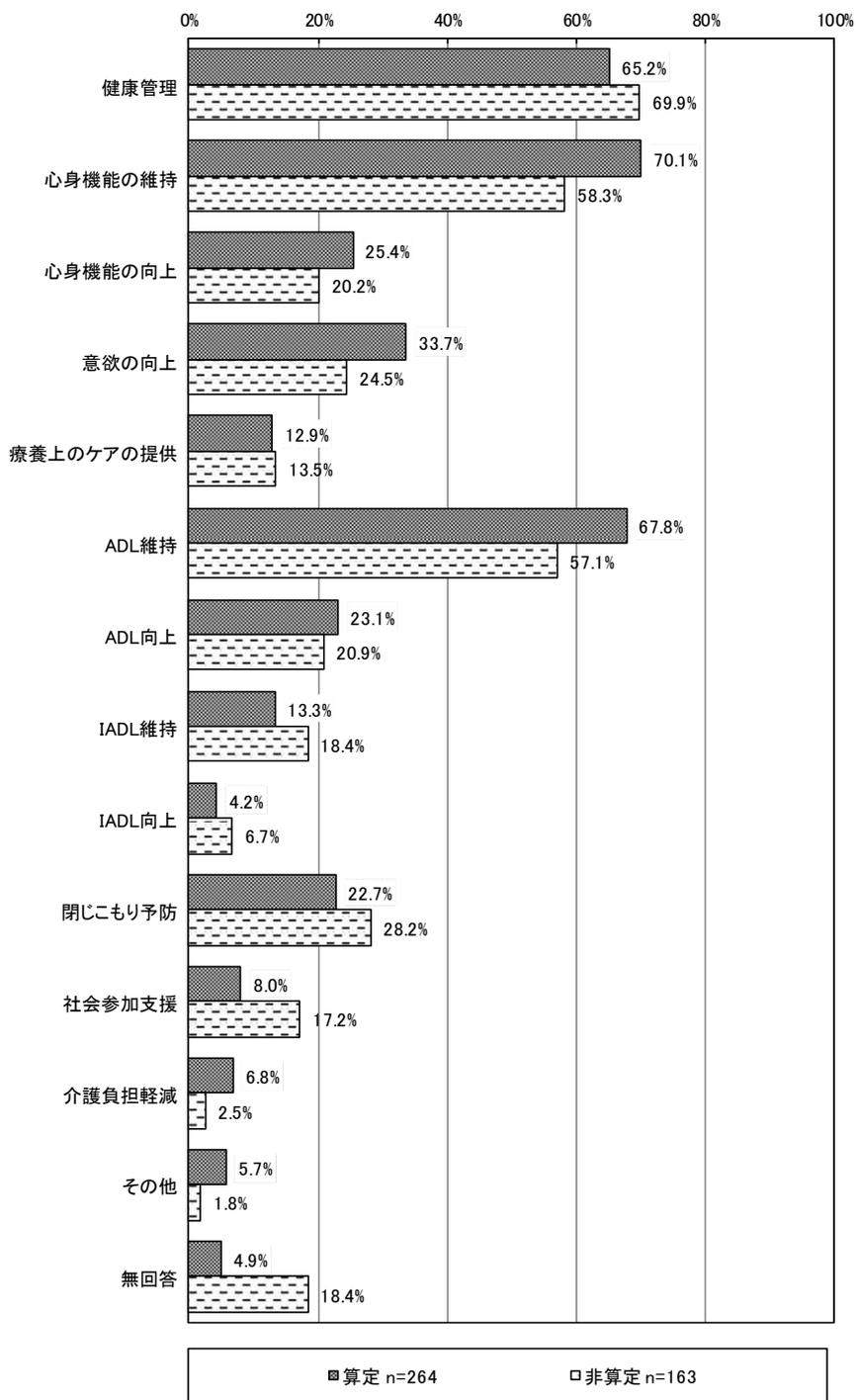


②令和元年10月1日時点

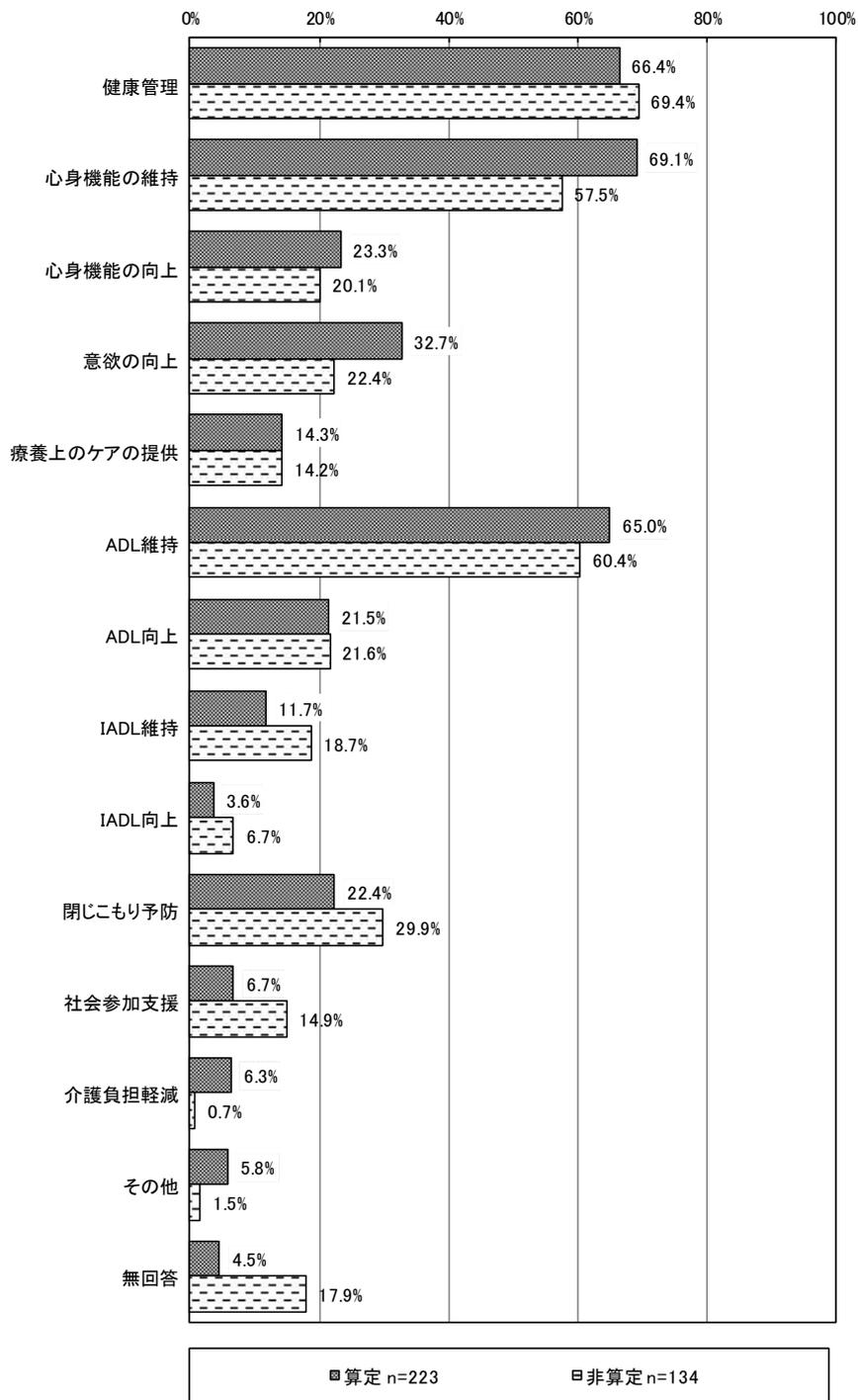


## ク) ケアプランの目標 (問 9)

図表 987 目標 ①加算算定に伴う連携の開始時点



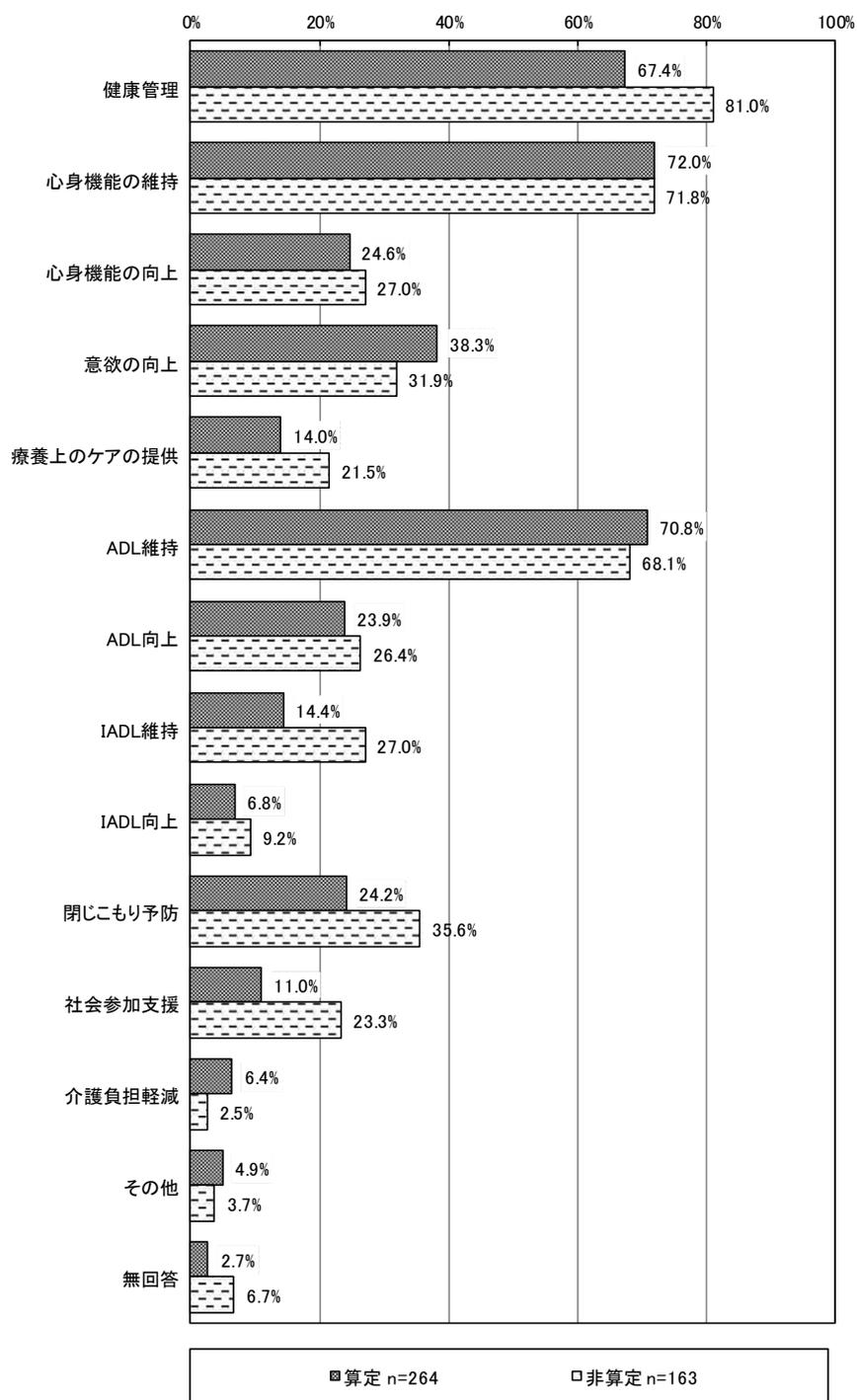
図表 988 目標 ①加算算定に伴う連携の開始時点 区分1のみ



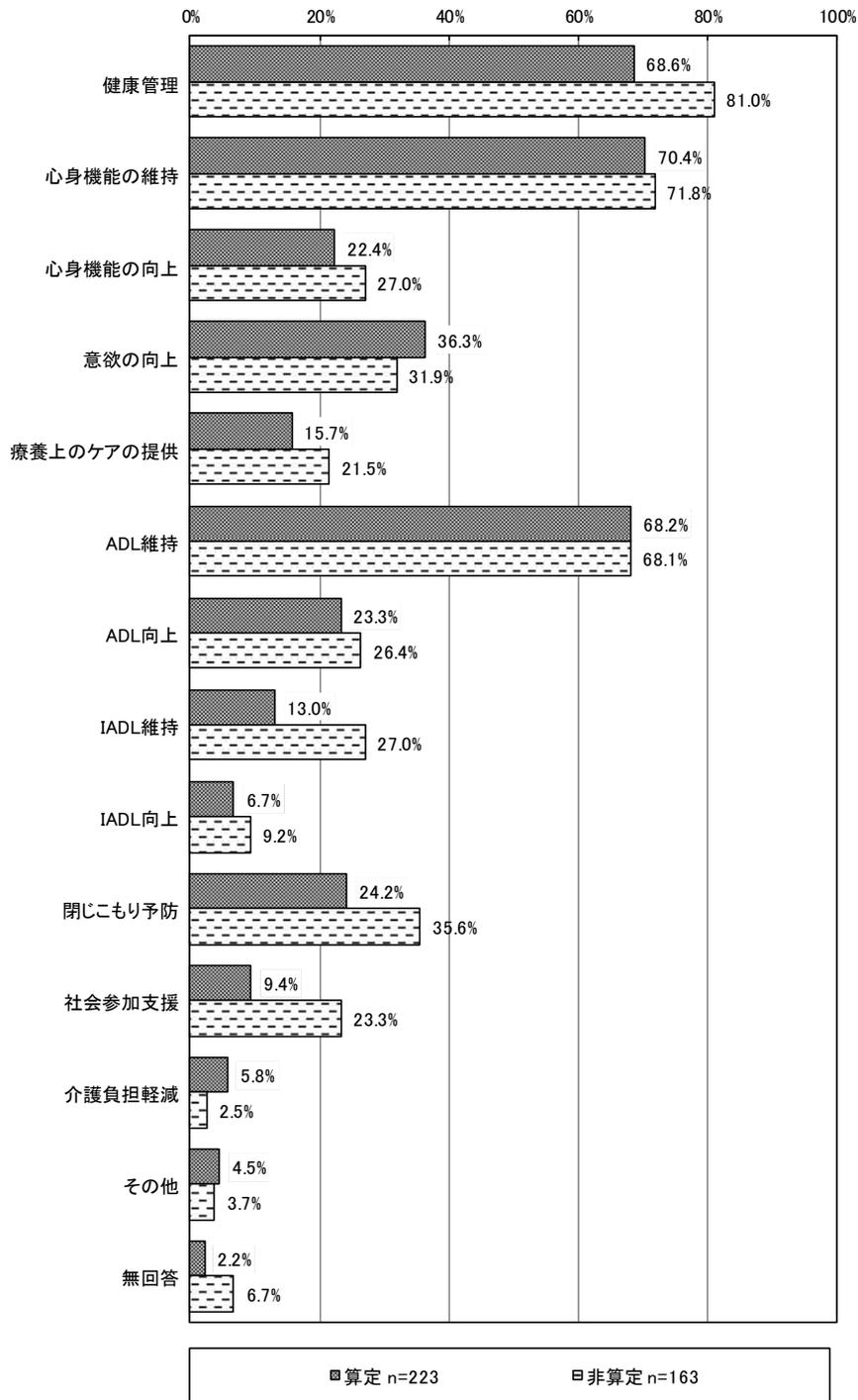
※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

- ・(算定) 服薬確認
- ・(算定) 不安やイライラの軽減
- ・(非算定) 生活環境の整備と維持
- ・(非算定) 他入居者との良好な関係作り

図表 989 目標 ②令和元年 10 月 1 日時点



図表 990 目標 ②令和元年10月1日時点 区分1のみ



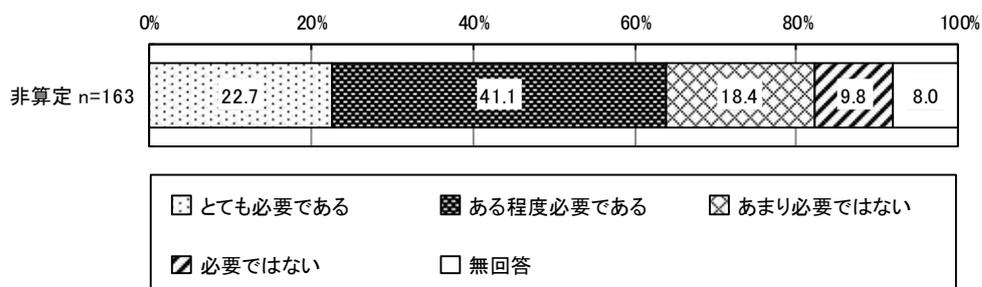
※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

- ・(算定) 服薬確認
- ・(算定) 不安やイライラの軽減
- ・(非算定) 褥瘡の完治
- ・(非算定) 認知・幻覚症状の緩和

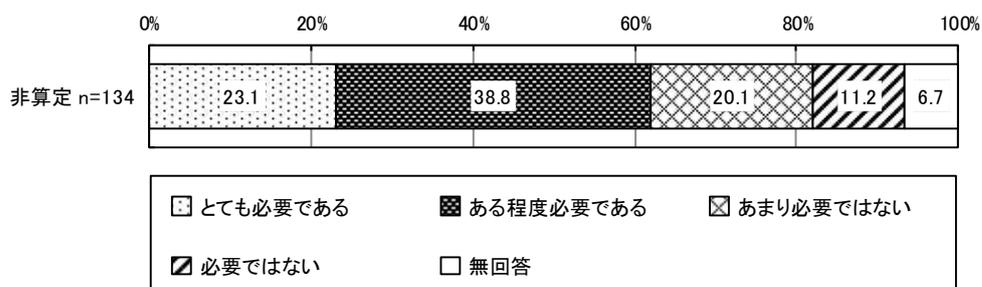
ケ) 利用者の ADL、IADL の状況や課題から判断した、リハ専門職等<sup>※</sup>との連携の必要性 (問 10 (非算定事業所・施設利用者票))

※理学療法士、作業療法士、言語聴覚士又はリハビリテーション科専門医

図表 991 リハ専門職等との連携の必要性

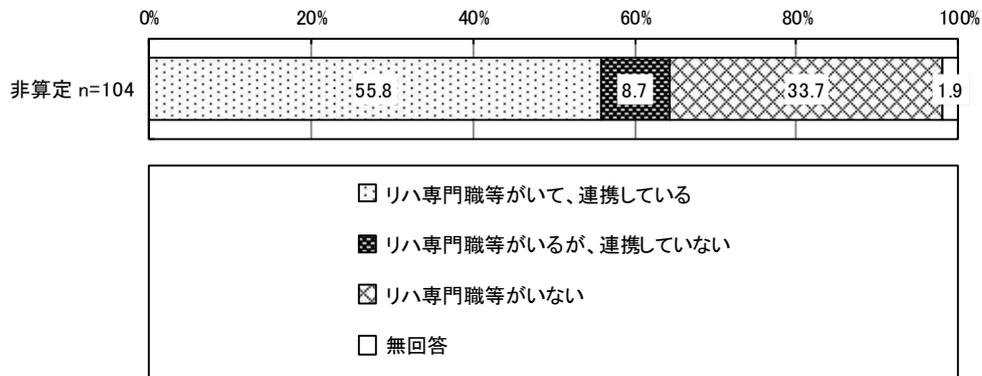


図表 992 リハ専門職等との連携の必要性 区分1のみ

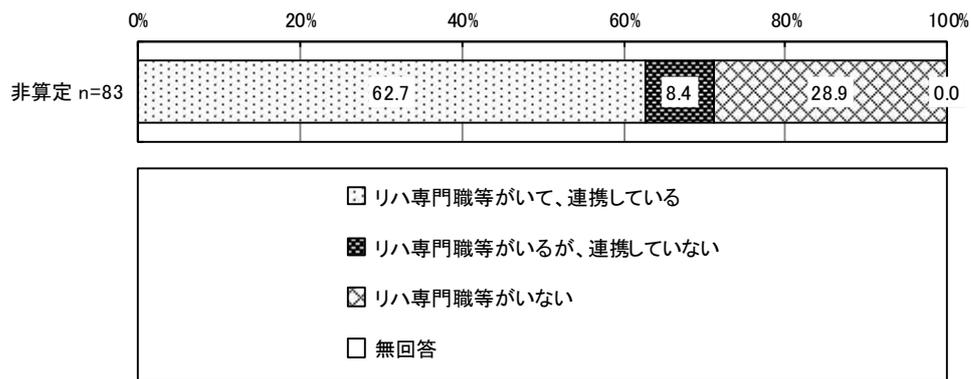


コ) 同一法人内のリハ専門職等の存在および連携の有無(問 11(非算定事業所・施設利用者票))

図表 993 同一法人内のリハ専門職等の存在および連携の有無



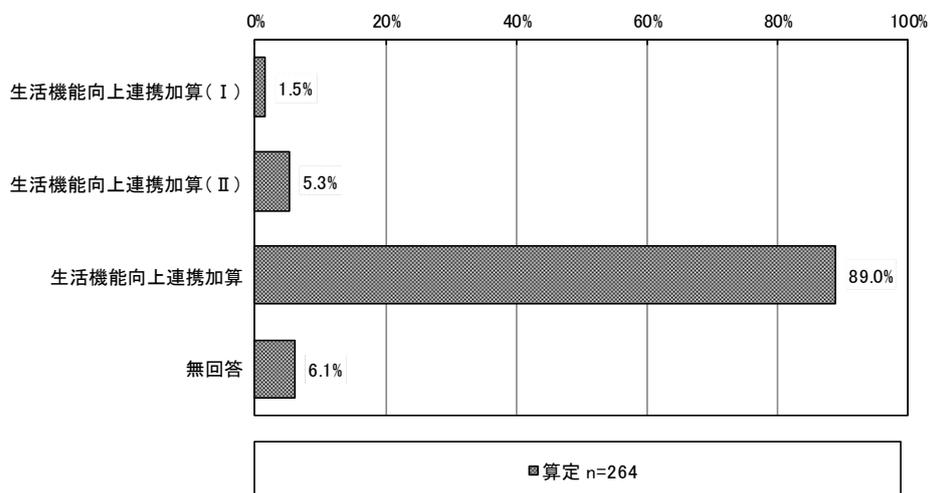
図表 994 同一法人内のリハ専門職等の存在および連携の有無 区分1のみ



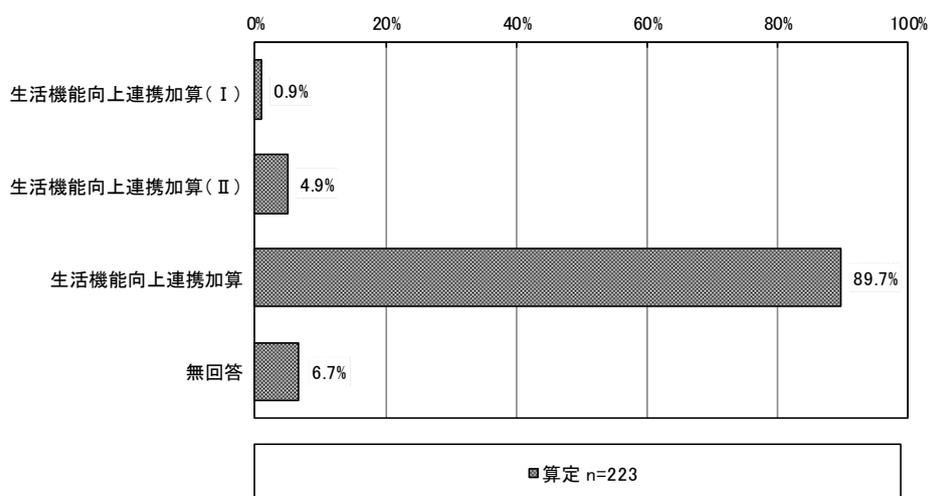
### Ⅲ. 生活機能向上連携加算の算定状況

#### ア) 算定状況 (問 10)

図表 995 算定状況

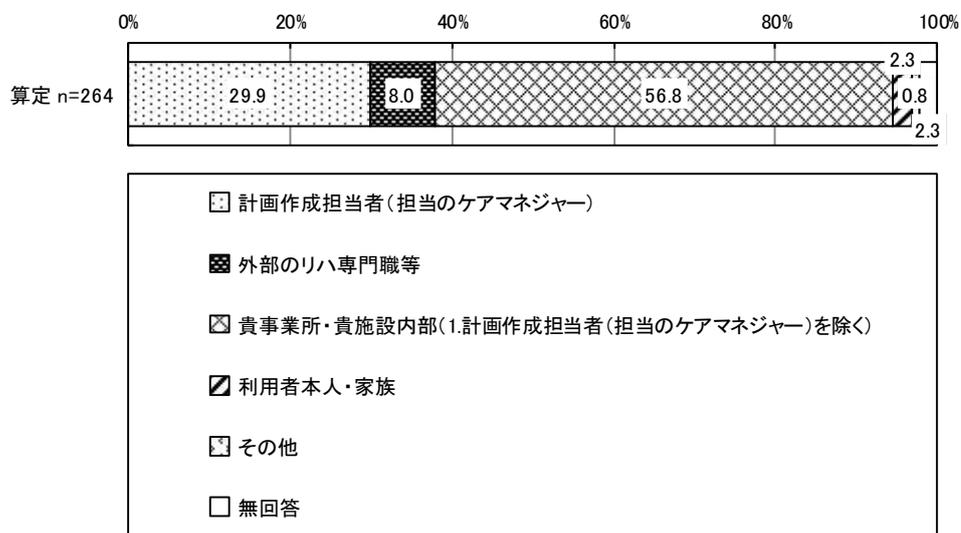


図表 996 算定状況 区分1のみ

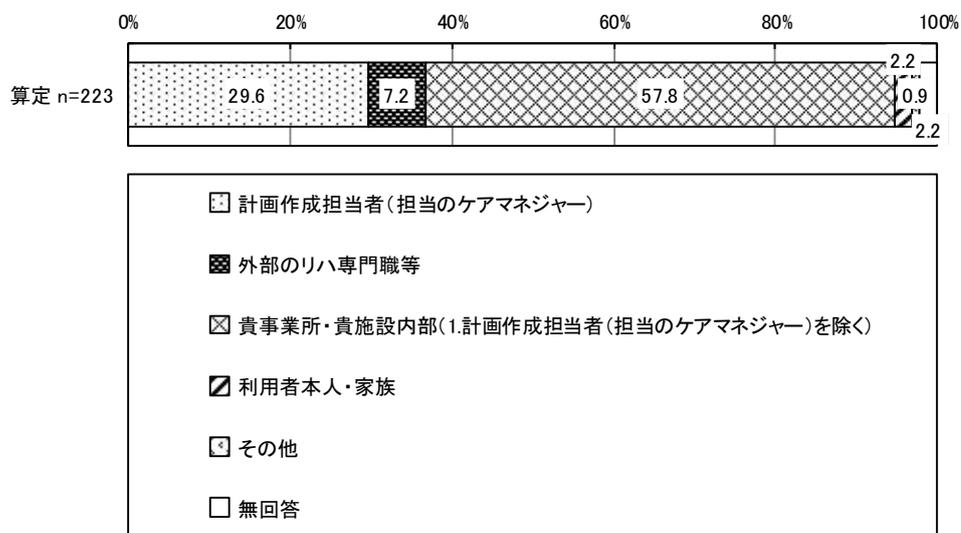


## イ) 算定の提案者 (問 11)

図表 997 算定の提案者



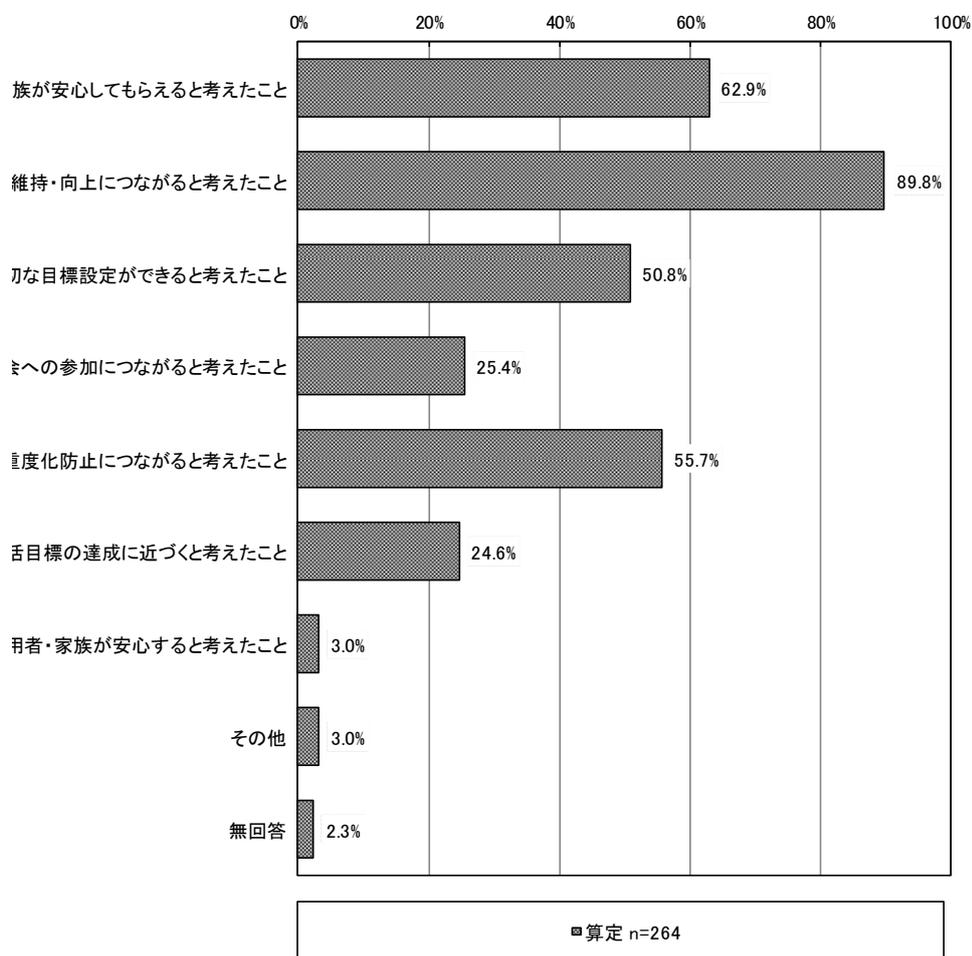
図表 998 算定の提案者 区分1のみ



※その他として挙げられた有効な回答は無し。

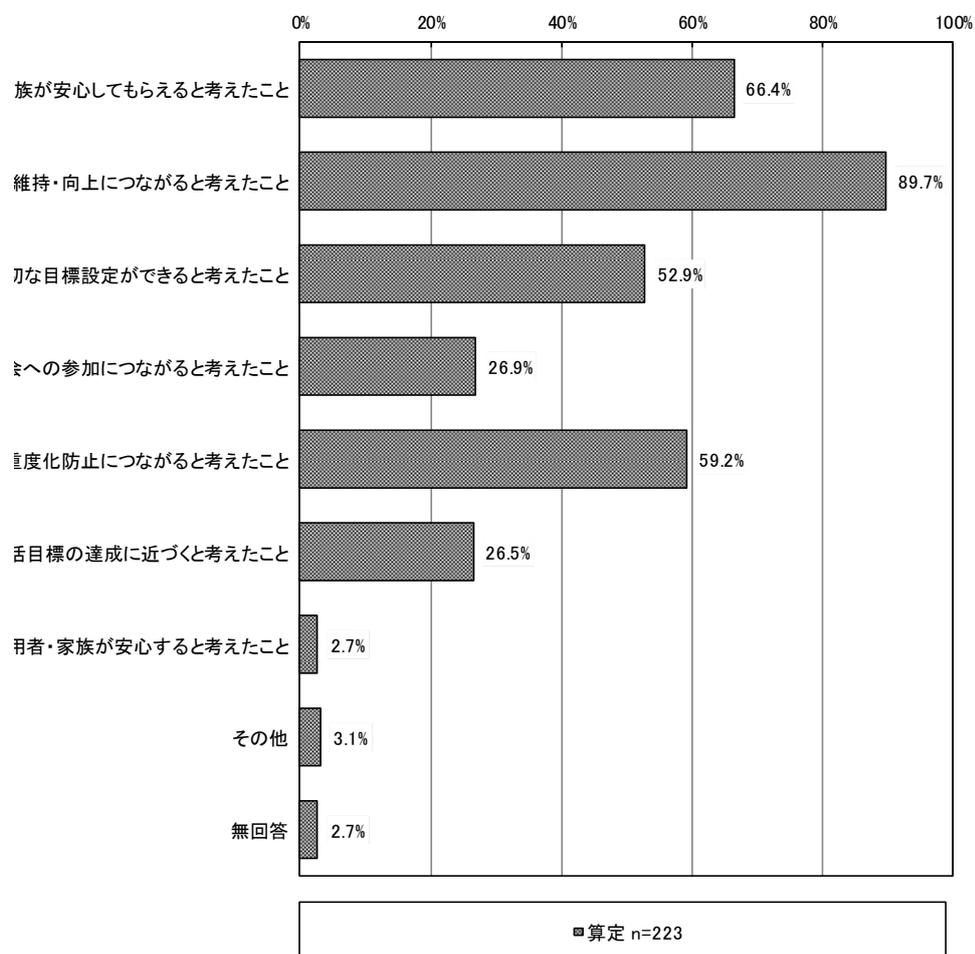
## ウ) 算定を提案した理由 (問 11-2)

図表 999 算定を提案した理由



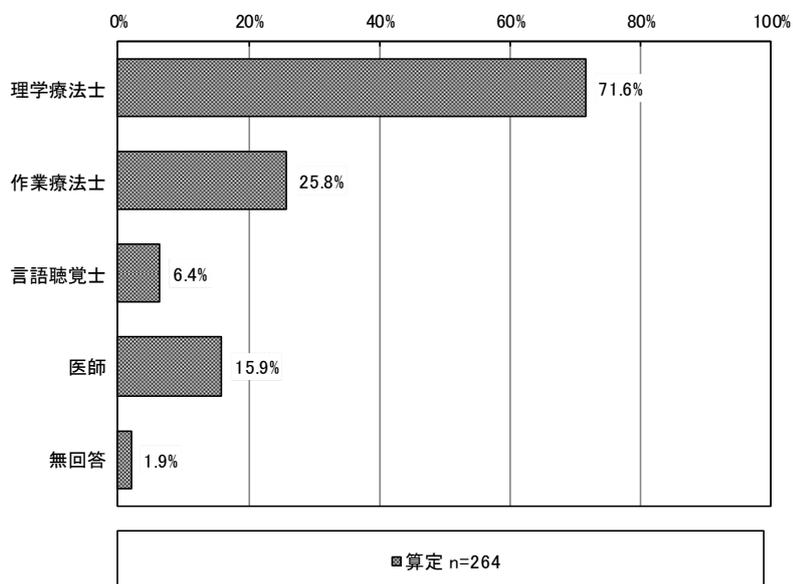
※その他として挙げられた有効な回答は無し。

図表 1000 算定を提案した理由 区分1のみ

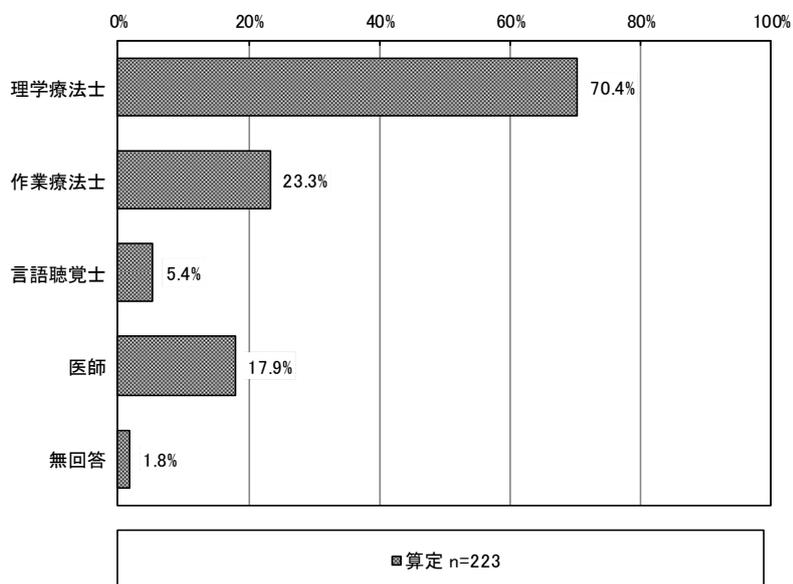


エ) 連携している外部の職種 (問 12)

図表 1001 連携している外部の職種

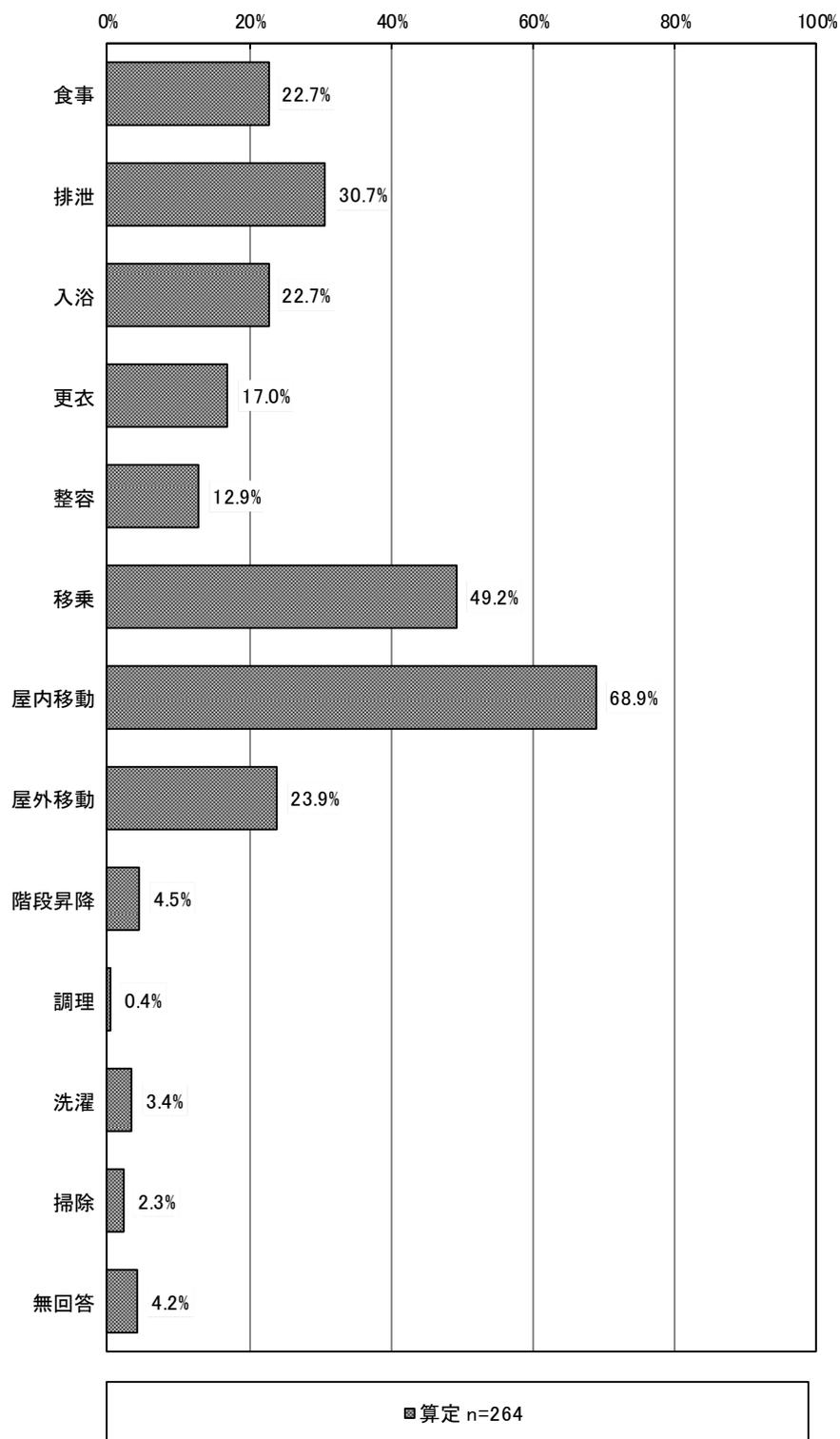


図表 1002 連携している外部の職種 区分1のみ

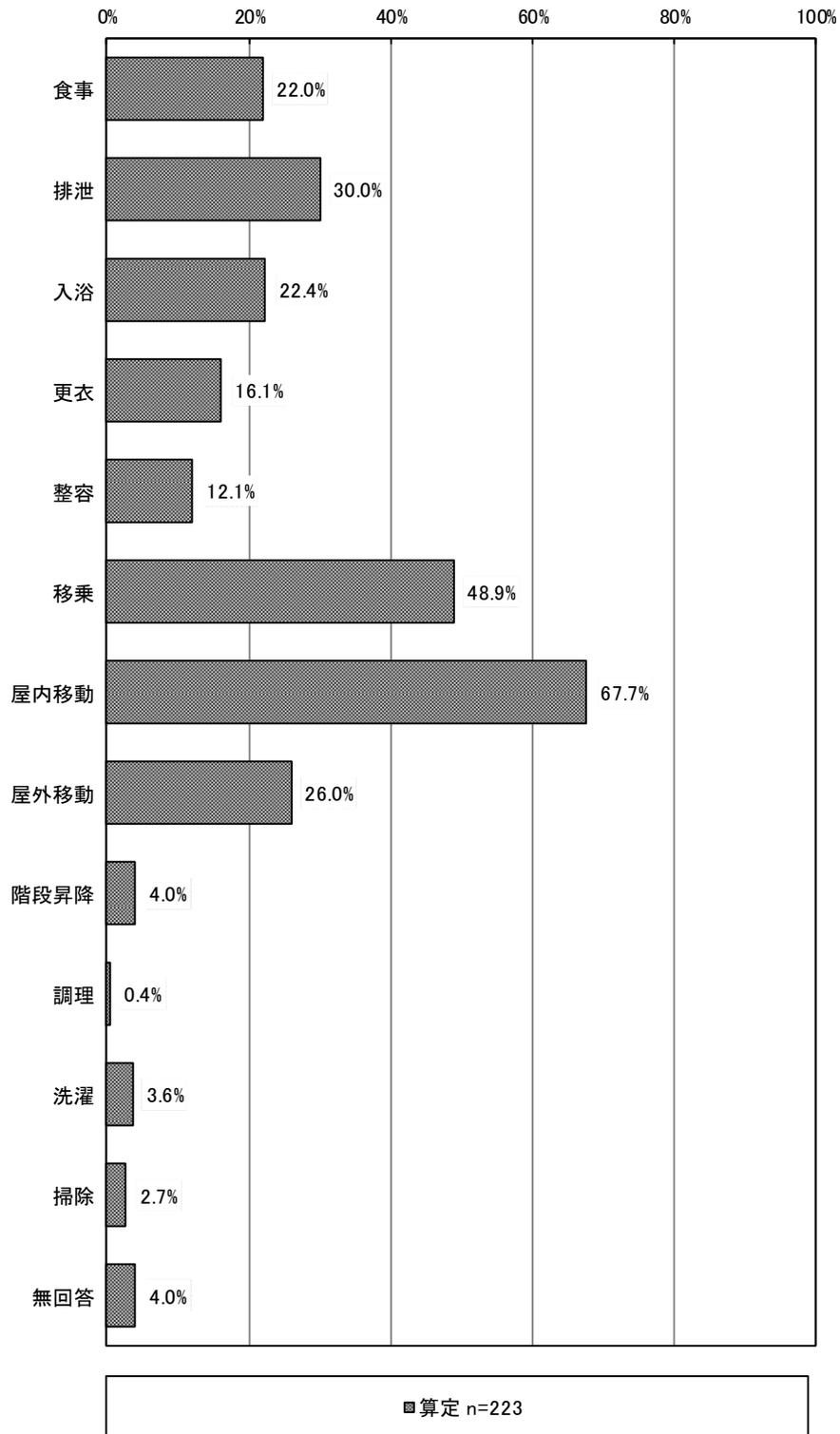


## 才) 利用者の課題 (問 13)

図表 1003 利用者の課題

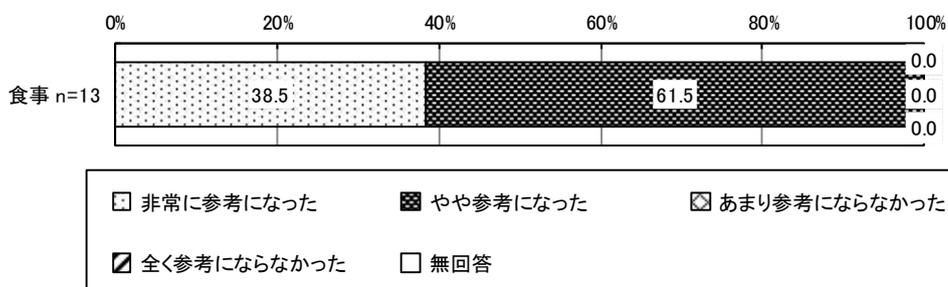


図表 1004 利用者の課題 区分1のみ

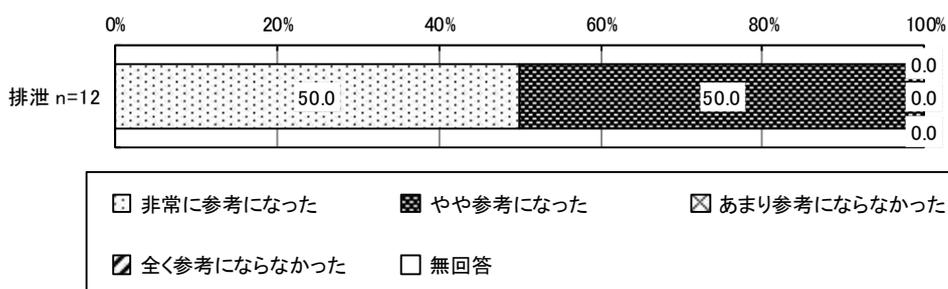


カ) 外部からの助言を計画に反映した内容について、課題、助言内容、また助言はどの程度参考になったか（問 14）

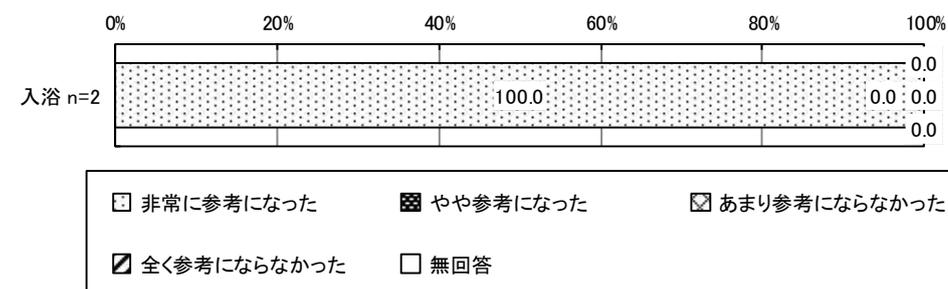
図表 1005 食事



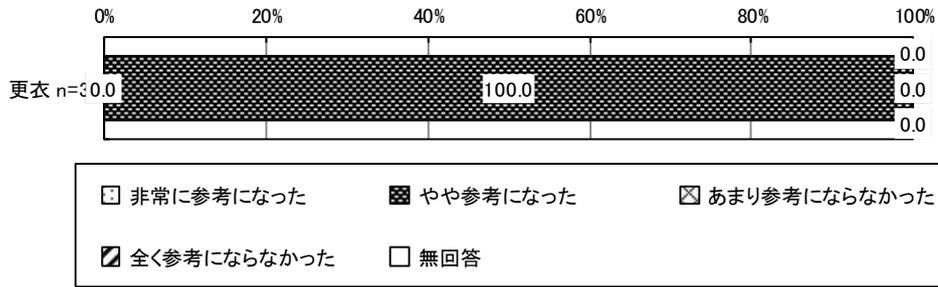
図表 1006 排泄



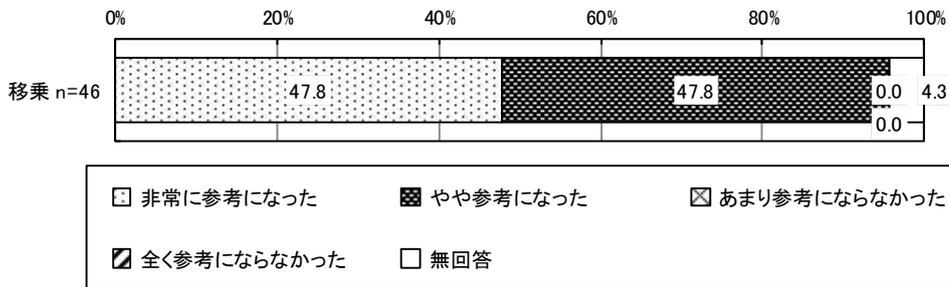
図表 1007 入浴



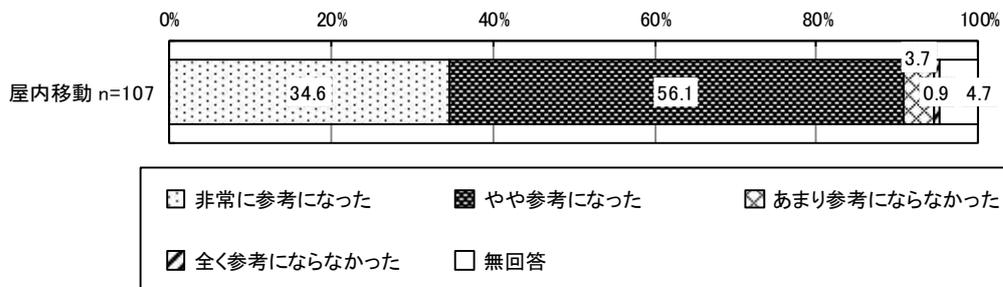
図表 1008 更衣



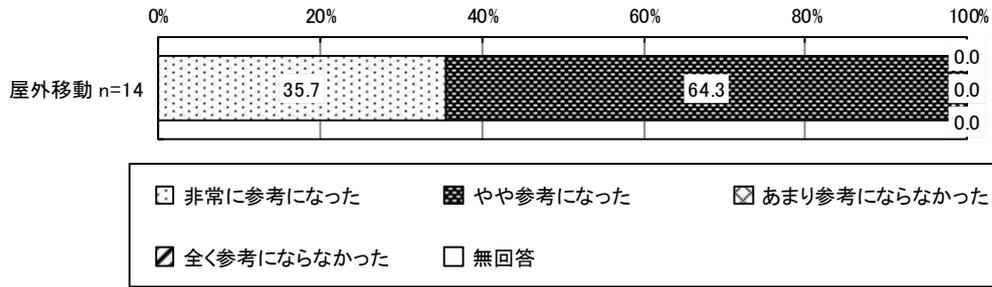
図表 1009 移乗



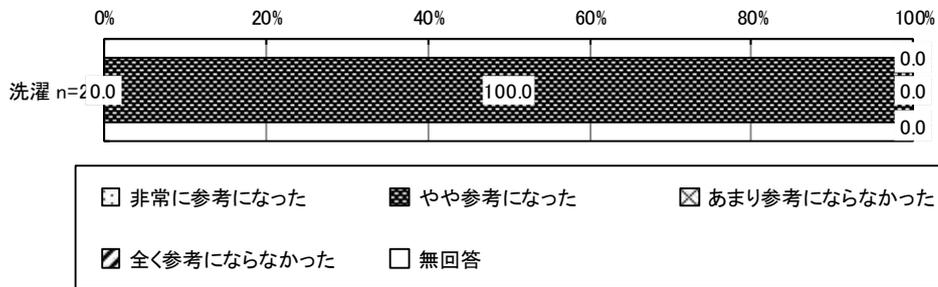
図表 1010 屋内移動



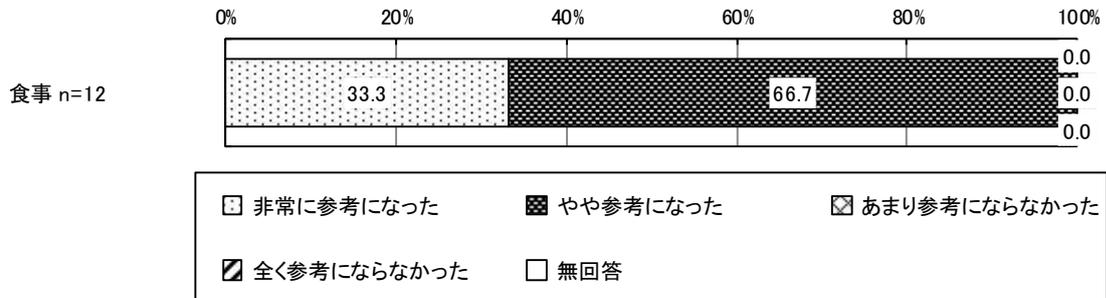
図表 1011 屋外移動



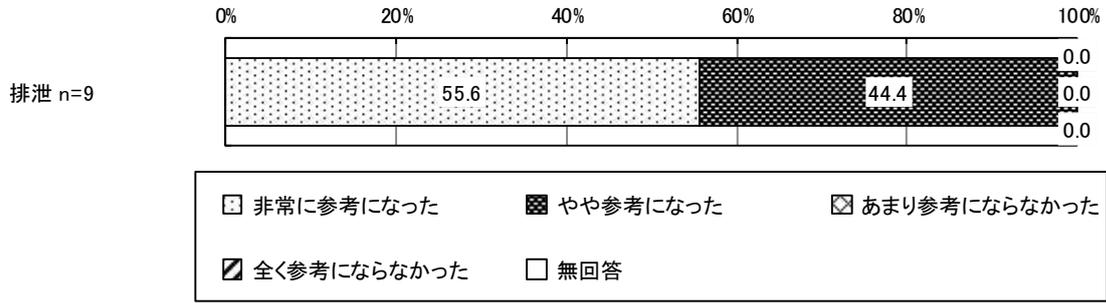
図表 1012 洗濯



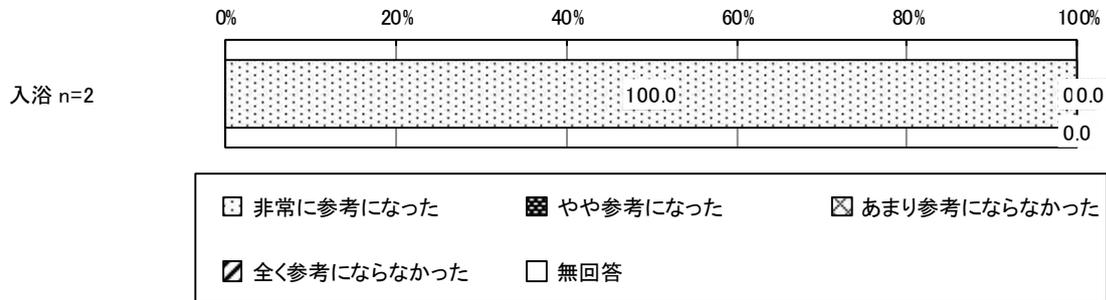
図表 1013 食事 区分1のみ



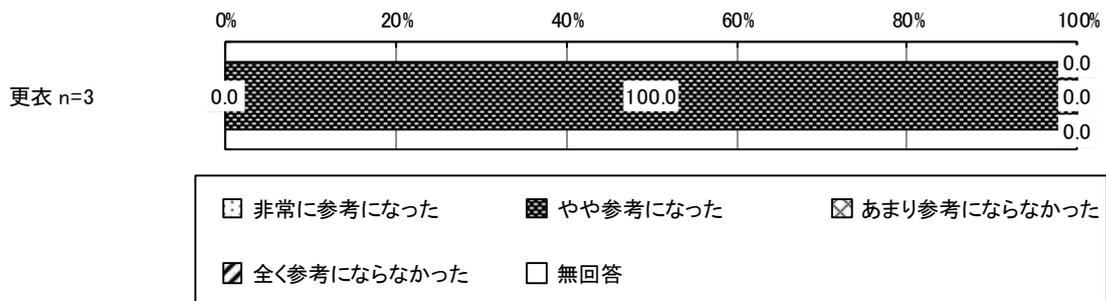
図表 1014 排泄 区分 1 のみ



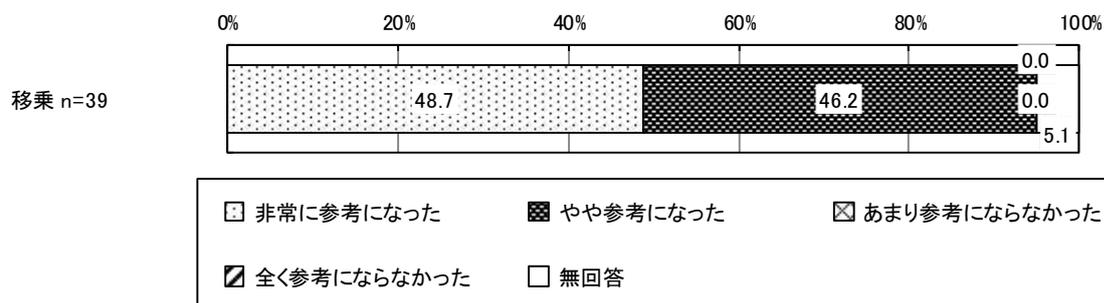
図表 1015 入浴 区分 1 のみ



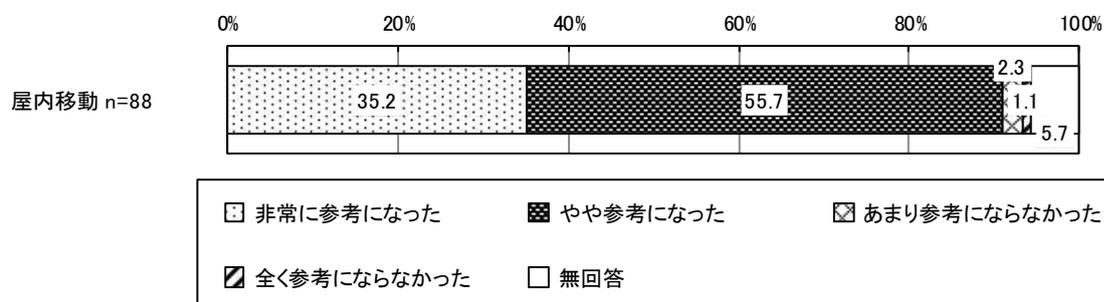
図表 1016 更衣 区分 1 のみ



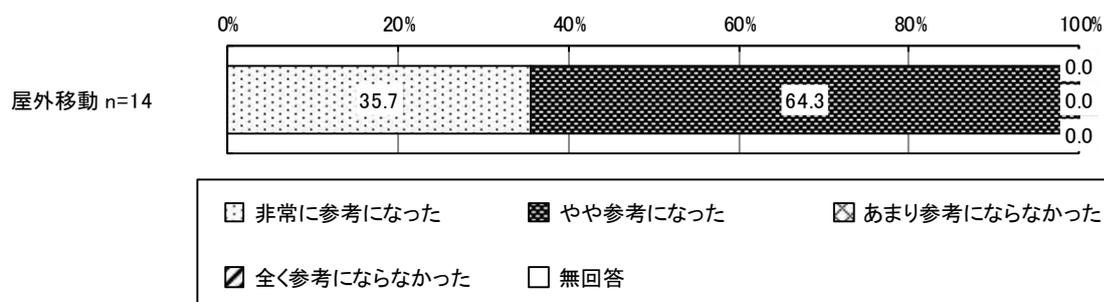
図表 1017 移乗 区分1のみ



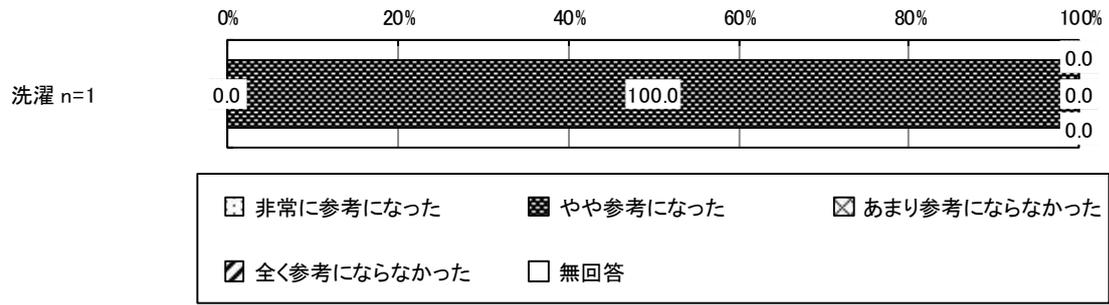
図表 1018 屋内移動 区分1のみ



図表 1019 屋外移動 区分1のみ



図表 1020 洗濯 区分 1 のみ



図表 1021 課題別の助言内容

**○食事**

- ・誤嚥に注意する
- ・ムセ等を確認する

**○排泄**

- ・手すりを使用する
- ・車椅子と便器の位置

**○入浴**

- ・タオルの絞りが自己でできるよう、手すりに引っ掛けてねじりながらタオルを絞る
- ・入浴時、自身で洗髪する

**○更衣**

- ・関節拘縮を予防する
- ・関節可動域制限の改善に向けてケアを行う

**○移乗**

- ・安定した移乗を行うための移乗方法の評価
- ・座位能力の維持のためのポジショニング

**○屋内移動**

- ・居室内での転倒への対策・環境整備
- ・居室からテーブルまで歩行の維持のための見守りのポイント

**○屋外移動**

- ・声掛けを行う
- ・活動を見出し、生活意欲を引き出す

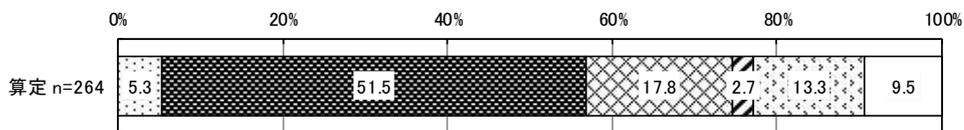
**○洗濯**

- ・居室内等の歩行は安定しているため、洗濯物干しは自身で行う
- ・洗濯を干す際、できるだけ立って行う

美容、階段昇降、調理、掃除、については、回答は無し。

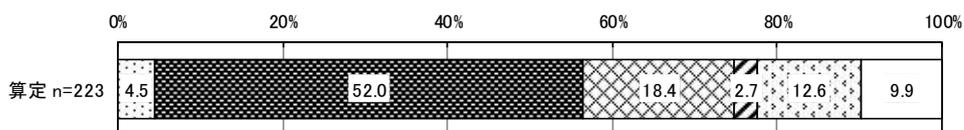
## キ) 助言により利用者の計画はどの程度改善したか（問 15）

図表 1022 助言により利用者の計画はどの程度改善したか



- とても改善した
- ある程度改善した
- あまり改善していない
- 全く改善していない
- 連携する前は利用者の個別機能訓練計画等は作成していなかったためどの程度改善したかは回答できない
- 無回答

図表 1023 助言により利用者の計画はどの程度改善したか 区分1のみ



- とても改善した
- ある程度改善した
- あまり改善していない
- 全く改善していない
- 連携する前は利用者の個別機能訓練計画等は作成していなかったためどの程度改善したかは回答できない
- 無回答

## ク) 助言による具体的な状況変化 (問 15-2)

図表 1024 助言による具体的な状況変化

### ○訓練内容の変化

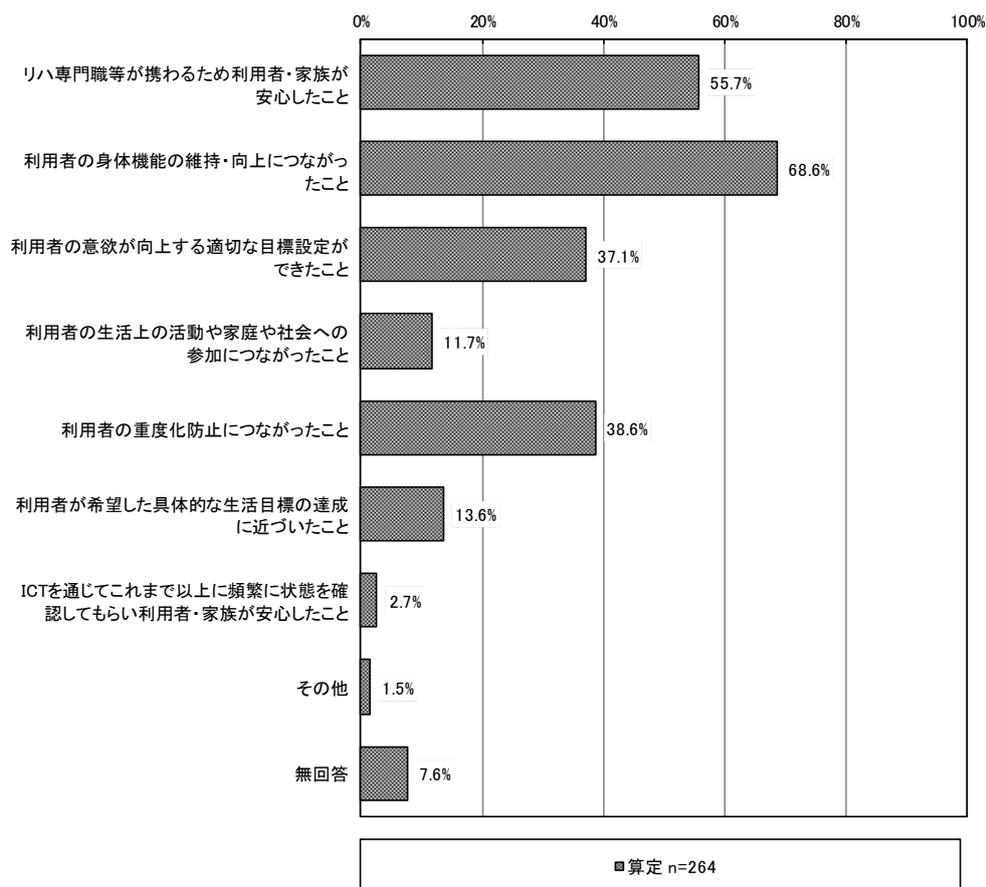
- ・歩行の様子や身体機能の面で疑問があった際に相談でき、適切なアドバイスを得られた。
- ・飲み込みやすいポジションの指示、ポジショニングの指示があり、より安全にケアできるようになった。

### ○本人の状態の変化

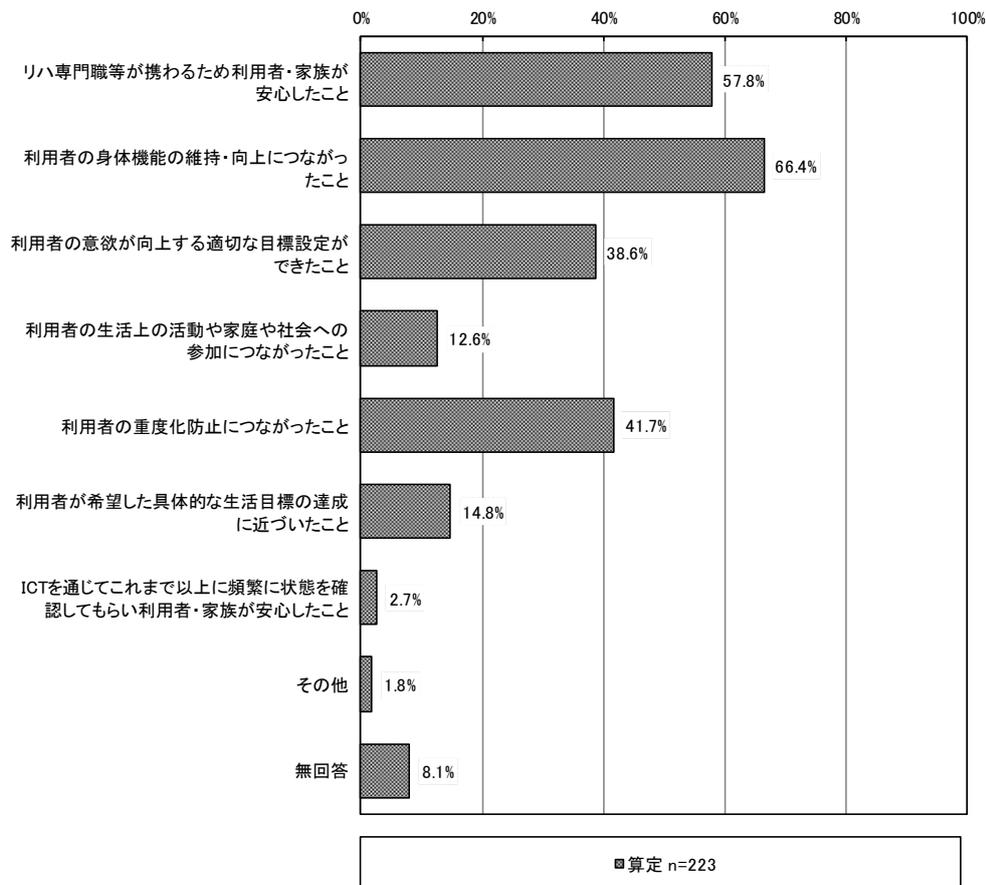
- ・移乗は安定し、車椅子座位も安定し、外に散歩も行けるようになった。
- ・介助少なく更衣や整容が行えるようになった。

## ケ) 利用者が享受したメリット (問 16)

図表 1025 利用者が享受したメリット



図表 1026 利用者が享受したメリット 区分1のみ

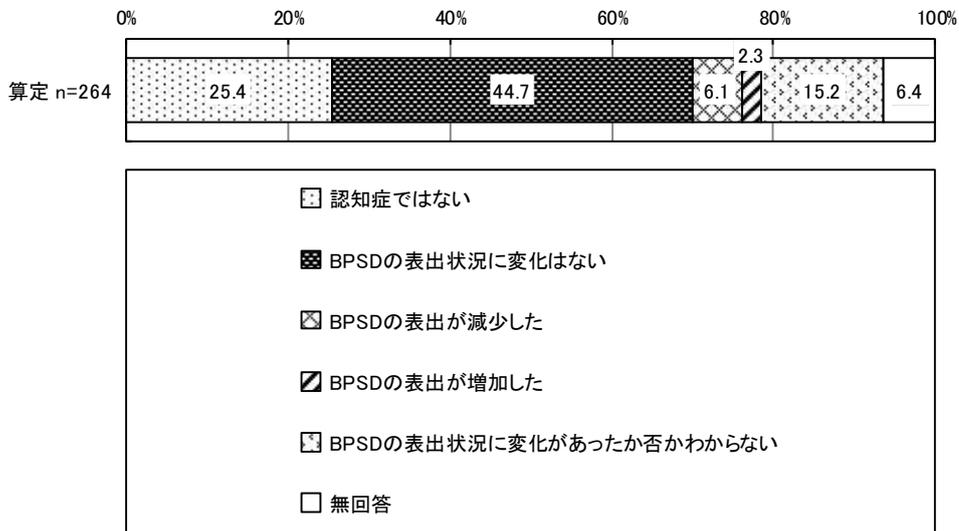


※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

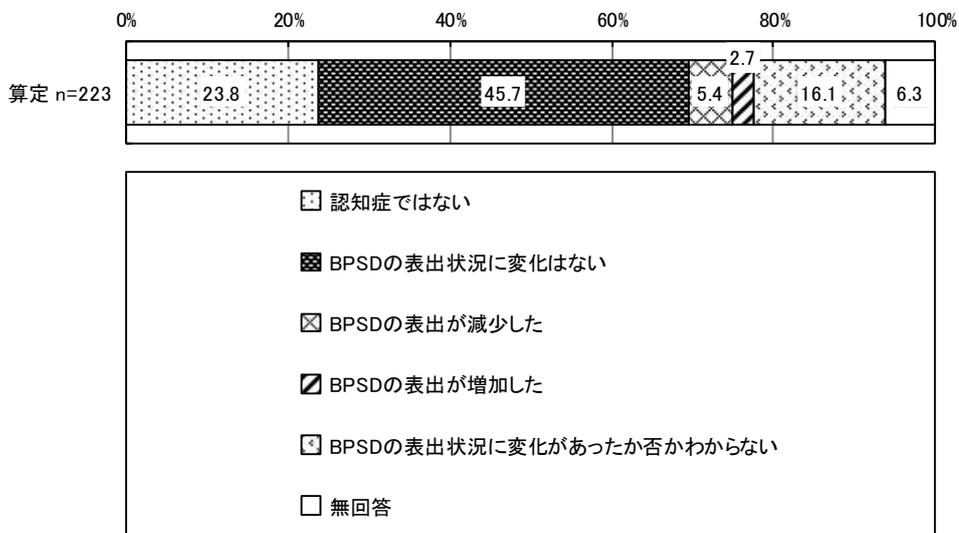
- ・家族と長時間外出ができるようになった
- ・家族の介助でトイレに行くようになった

コ) 認知症の利用者の BPSD 表出状況の変化 (問 17)

図表 1027 認知症の利用者の BPSD 表出状況の変化

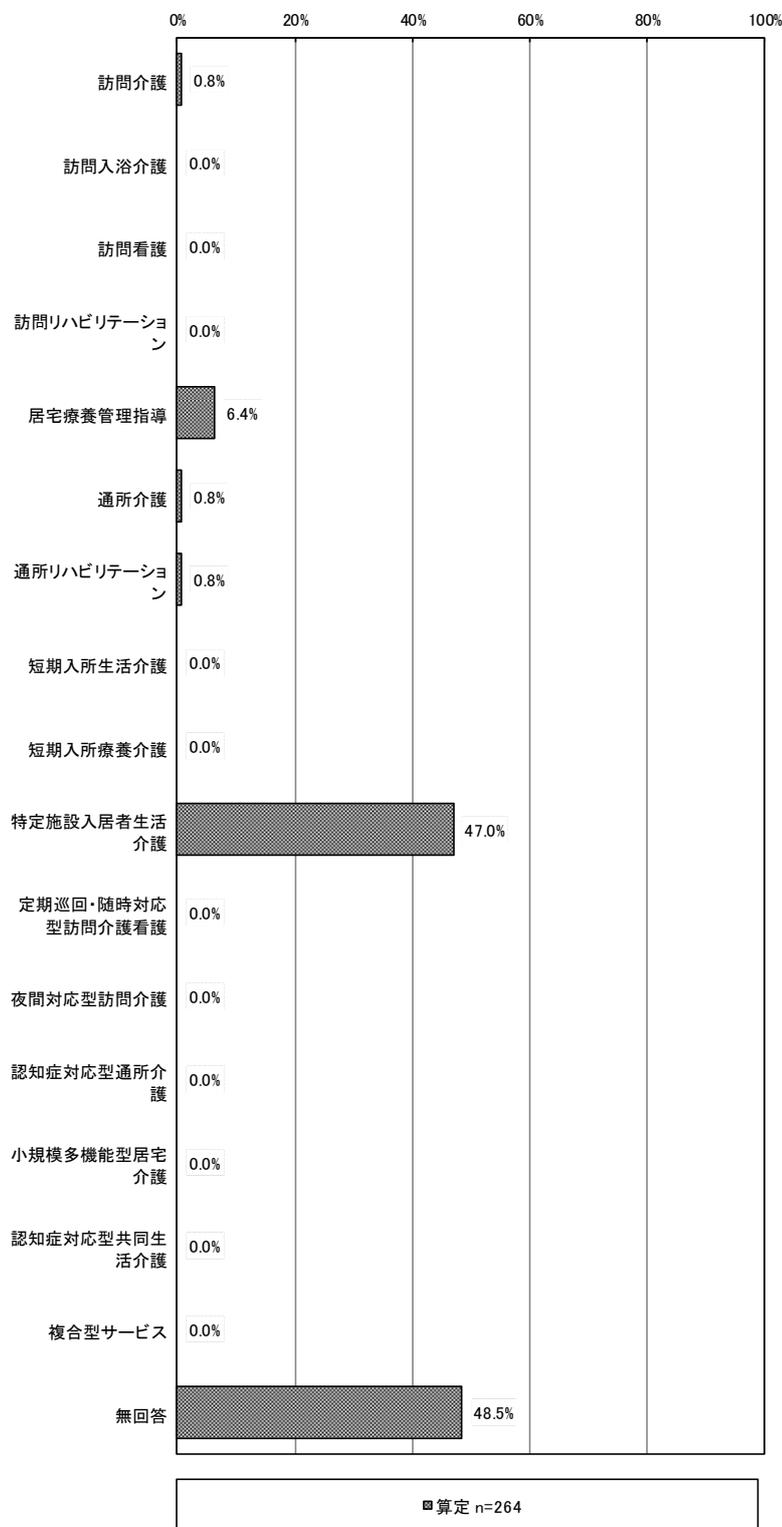


図表 1028 認知症の利用者の BPSD 表出状況の変化 区分 1 のみ

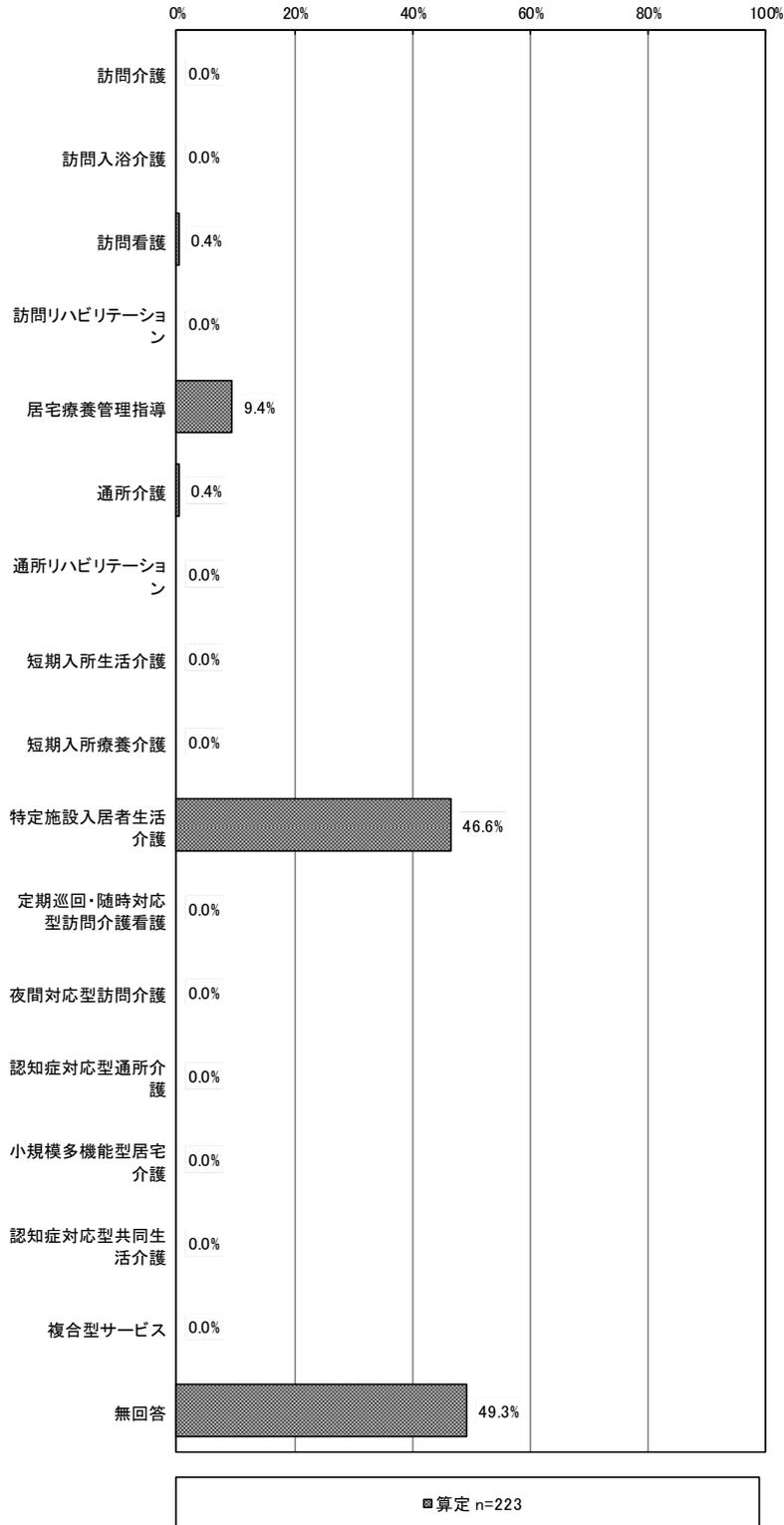


サ) 利用者が他に利用しているサービス（問 18（算定事業所・施設利用者票）・問 12（非算定事業所・施設利用者票））

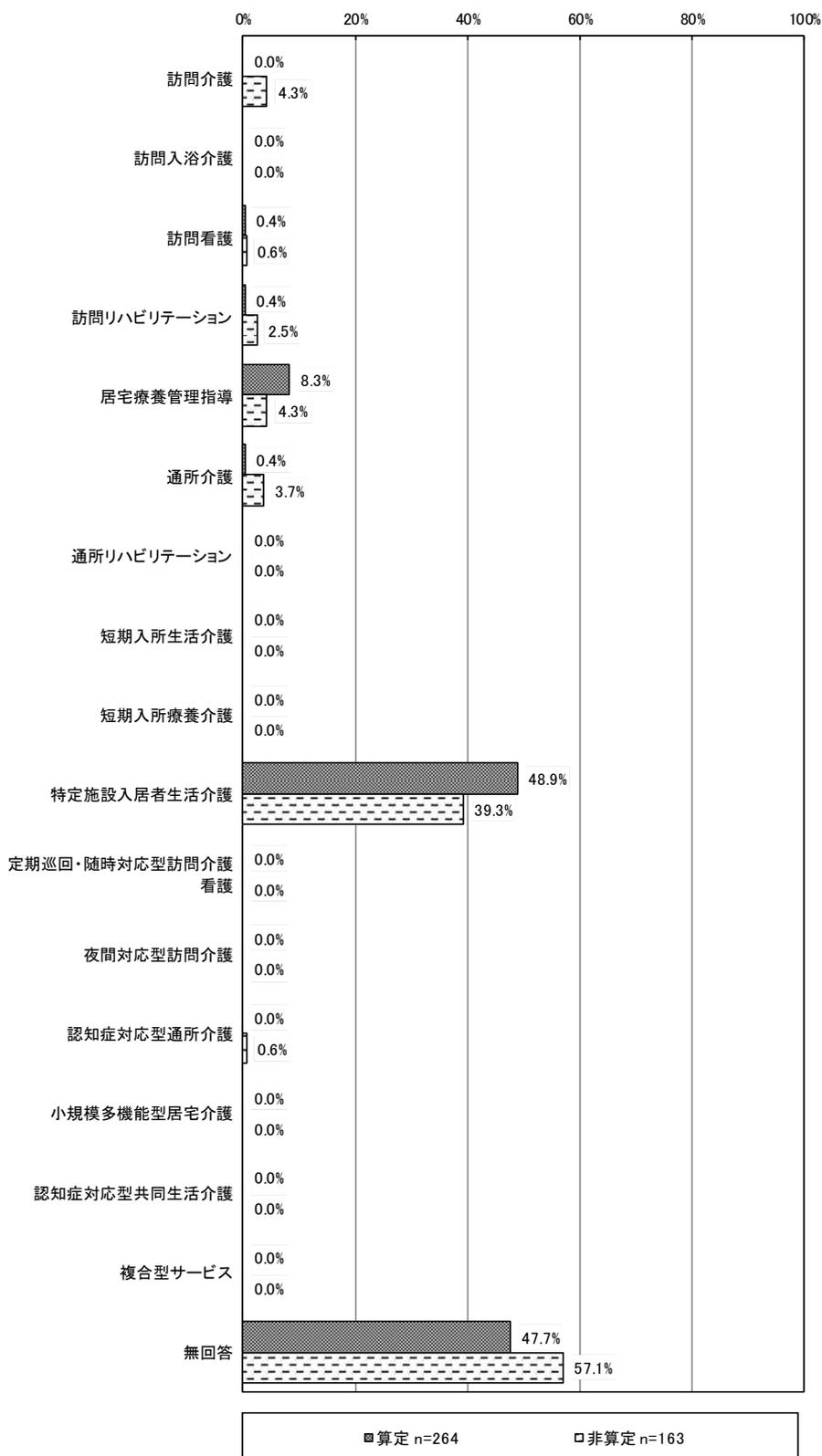
図表 1029 利用者が他に利用しているサービス ①算定前



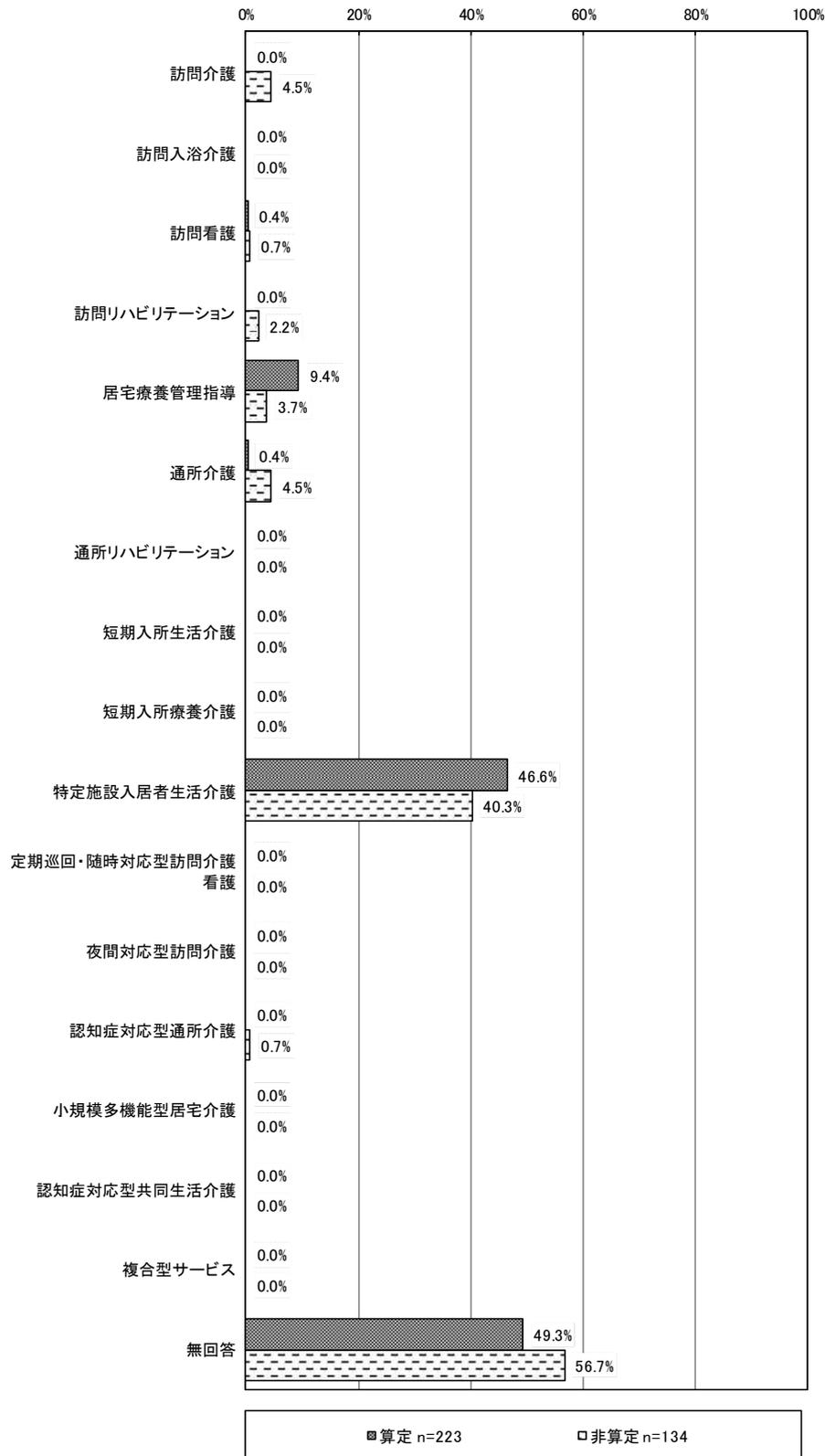
図表 1030 利用者が他に利用しているサービス ①算定前 区分1のみ



図表 1031 利用者が他に利用しているサービス ②算定以後



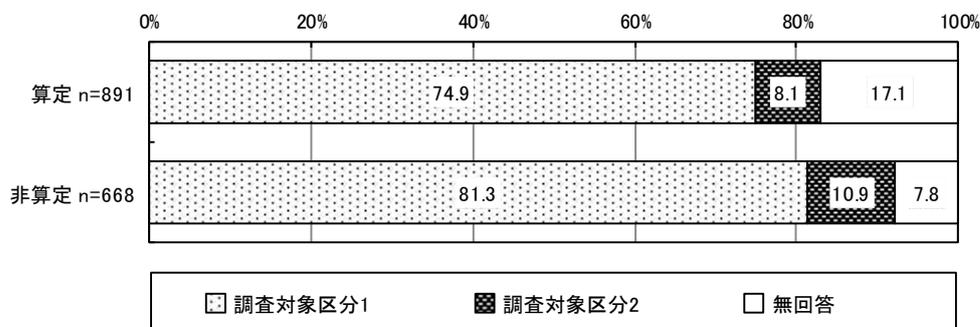
図表 1032 利用者が他に利用しているサービス ②算定以後 区分1のみ



## (5) 認知症対応型共同生活介護

### ア) 利用者の調査対象区分 (問 0)

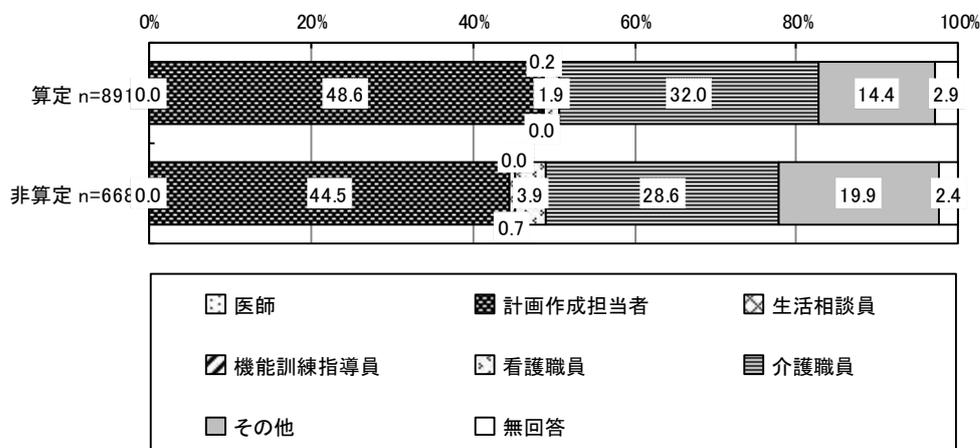
図表 1033 利用者の調査対象区分



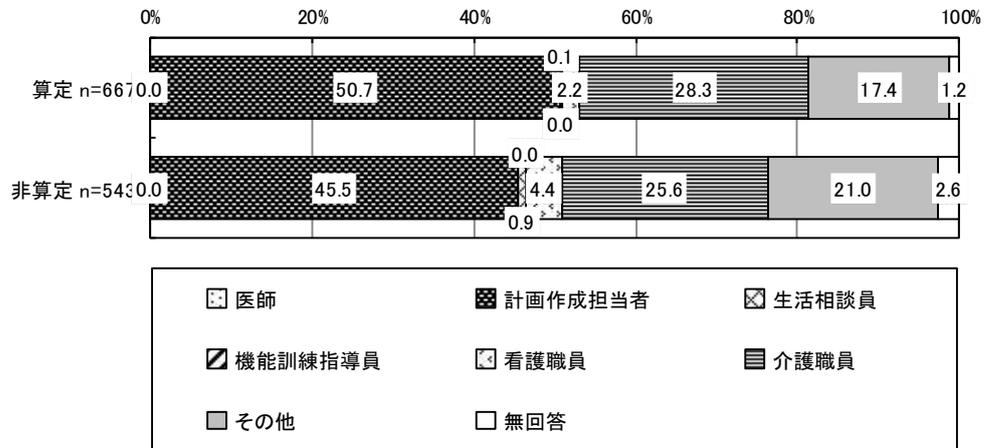
## I. 回答者の属性

### ア) 回答者の職種 (問 1)

図表 1034 回答者の職種



図表 1035 回答者の職種 区分1のみ



※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

- ・ (算定) 管理者
- ・ (非算定) 管理者

## II. 利用者の情報

### ア) 年齢 (問 2)

図表 1036 年齢

(単位: 歳)

件数	平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
算定 n=879	86.9	6.7	87	104	49
非算定 n=663	87.0	6.6	88	104	62

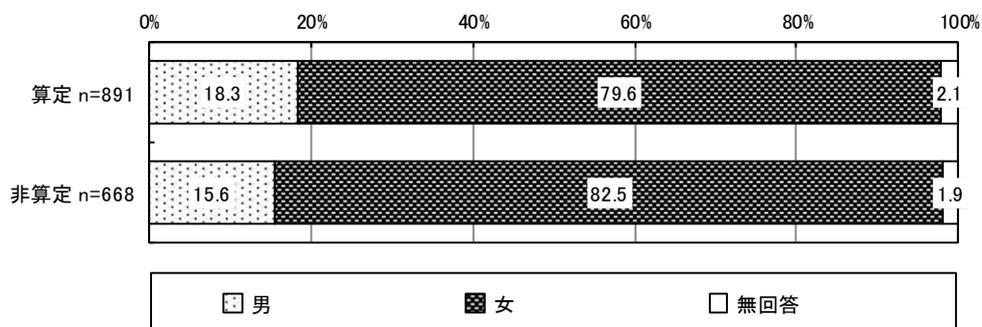
図表 1037 年齢 区分 1 のみ

(単位: 歳)

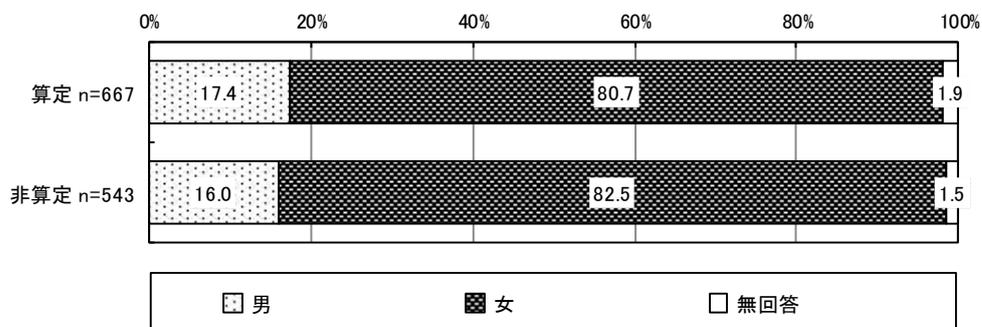
件数	平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
算定 n=662	87.2	6.6	87	103	49
非算定 n=540	87.0	6.6	88	104	63

### イ) 性別 (問 3)

図表 1038 性別

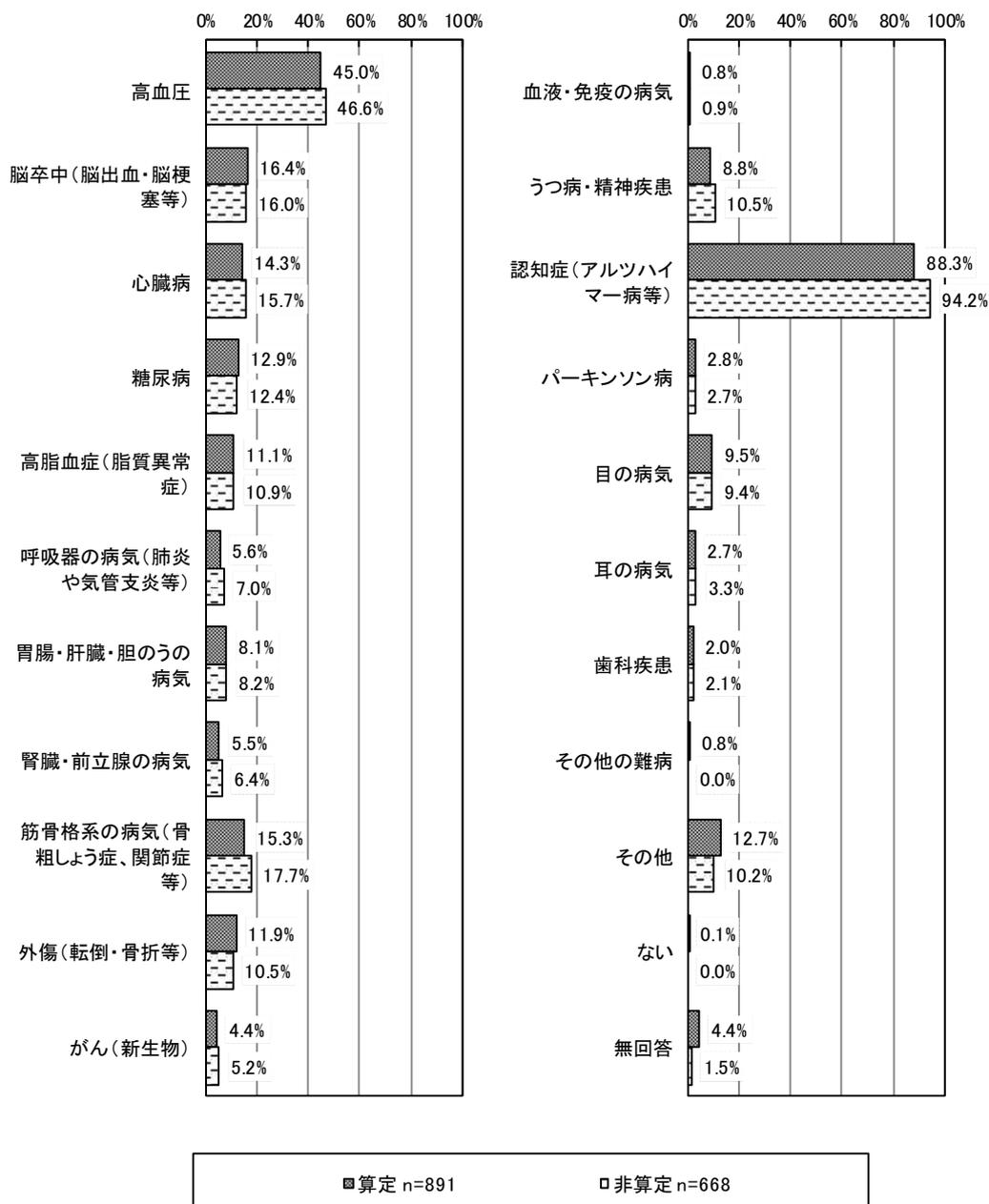


図表 1039 性別 区分 1 のみ

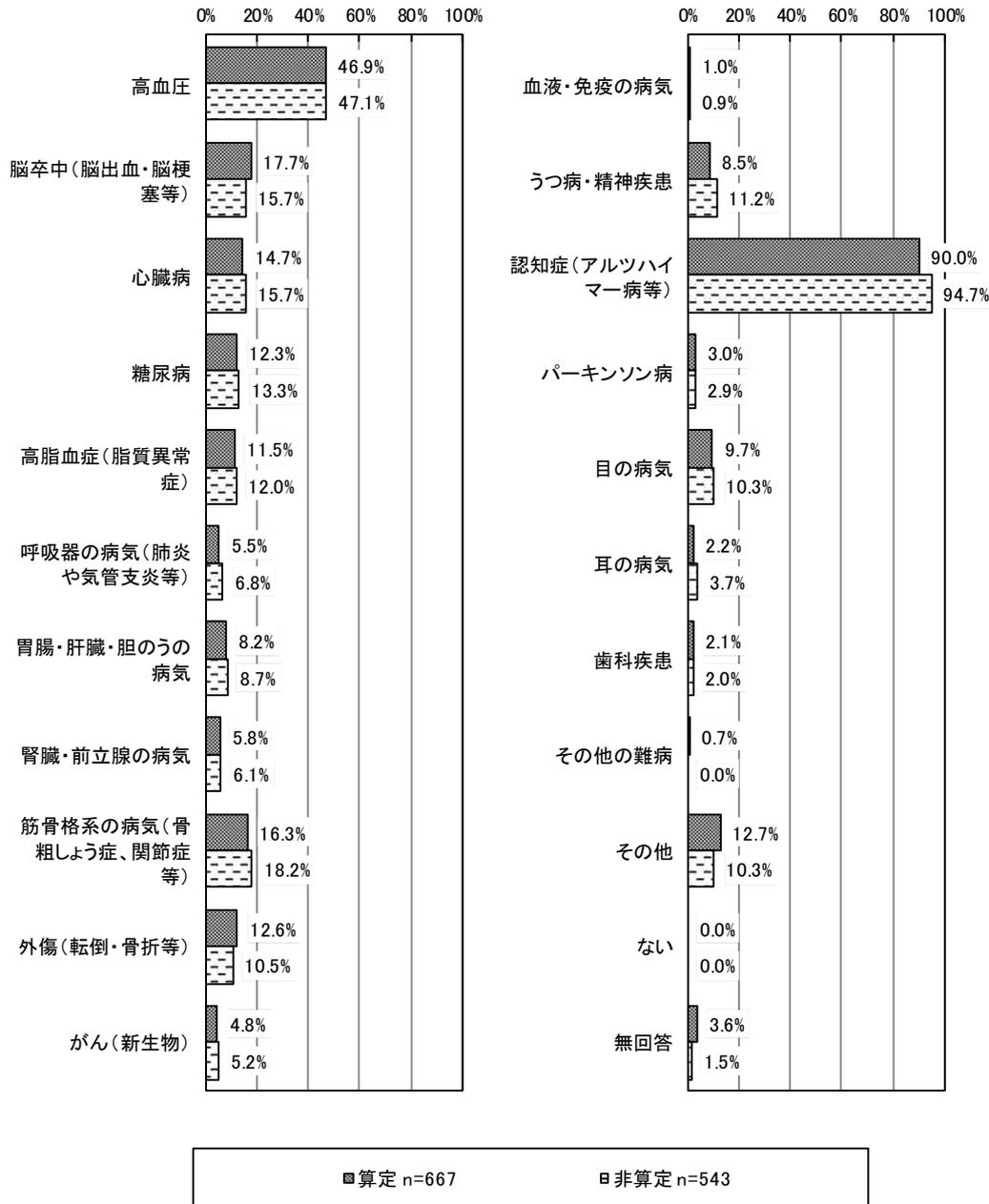


## ウ) 傷病名 (問 4)

図表 1040 傷病名



図表 1041 傷病名 区分1のみ

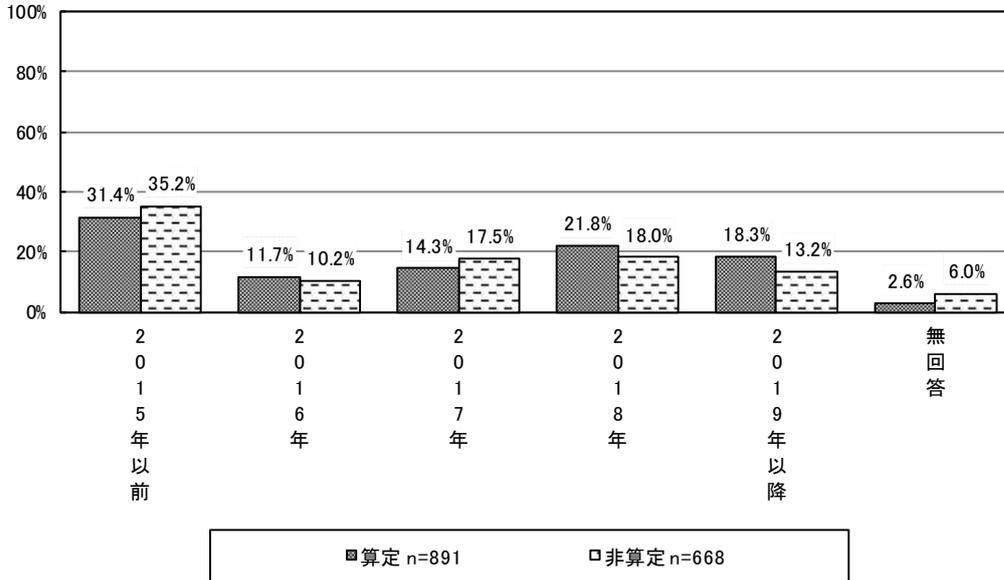


※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

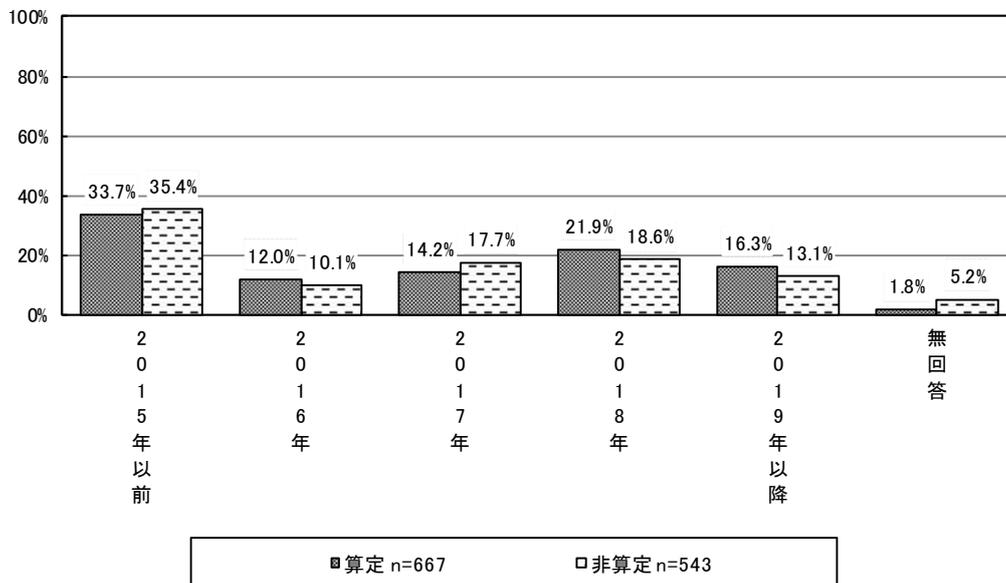
- ・(算定) 膀胱炎
- ・(算定) てんかん
- ・(非算定) リウマチ
- ・(非算定) 統合失調症

エ) 事業所・施設の利用開始時期（問5）

図表 1042 事業所・施設の利用開始時期

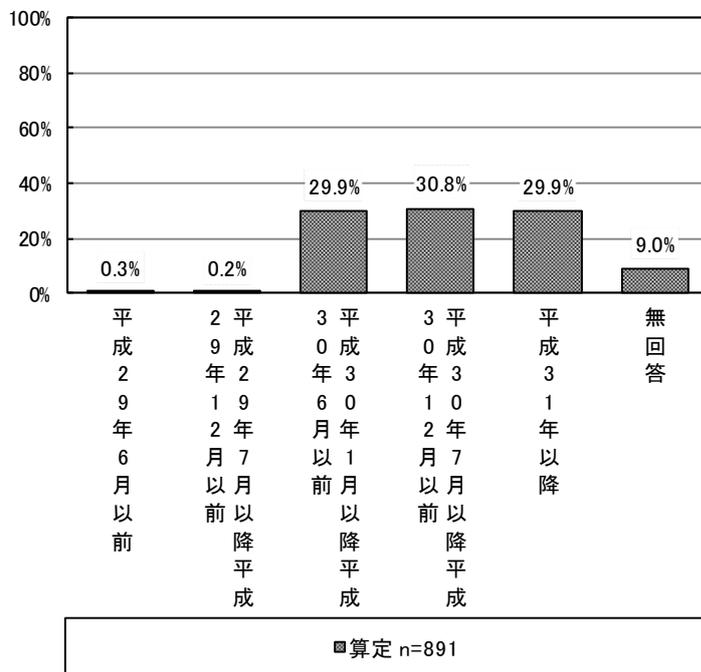


図表 1043 事業所・施設の利用開始時期 区分1のみ

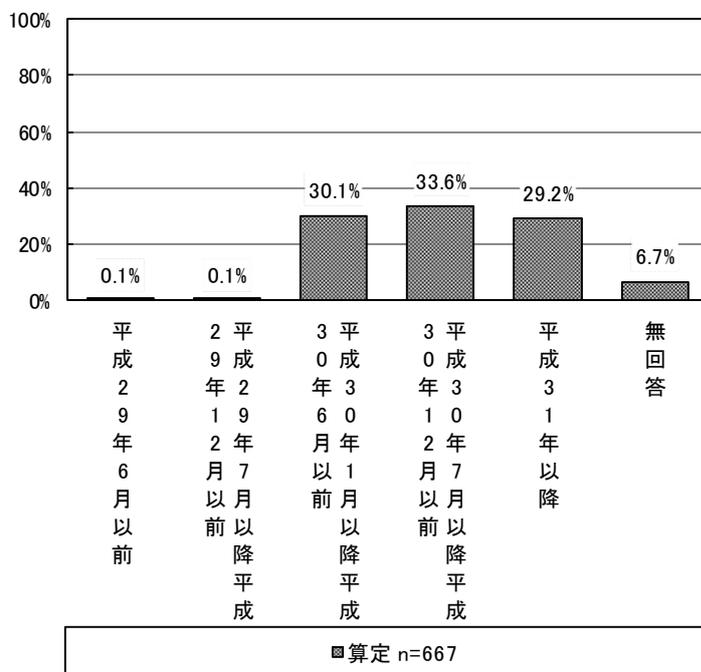


才) 事業所・施設が加算算定に伴う連携を開始した時期 (問 6)

図表 1044 事業所・施設が加算算定に伴う連携を開始した時期

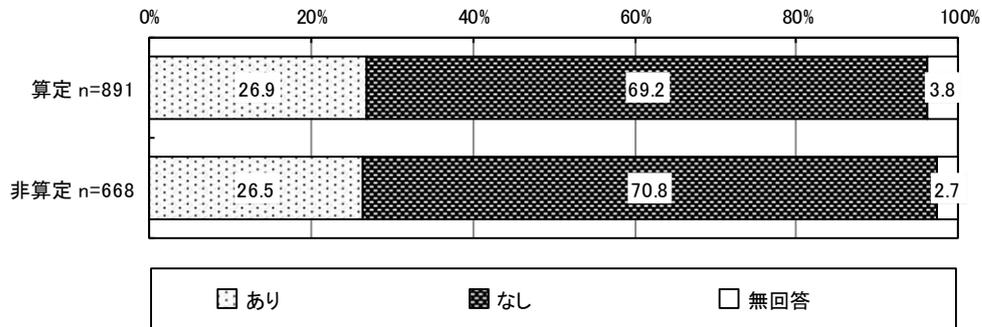


図表 1045 事業所・施設が加算算定に伴う連携を開始した時期 区分1のみ

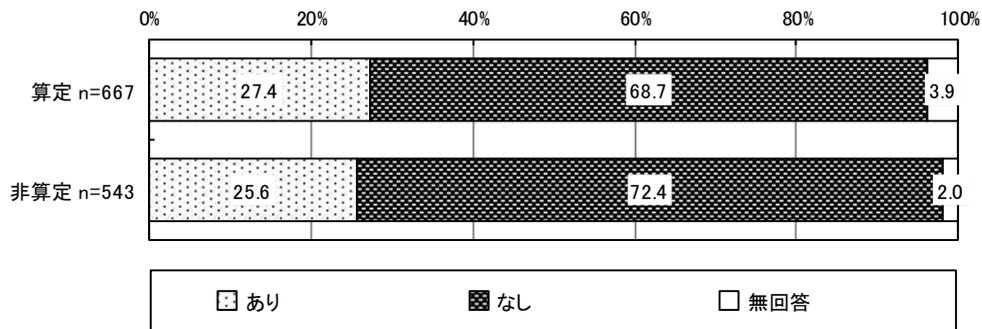


カ) 退院の有無と直近の入院期間（問7）

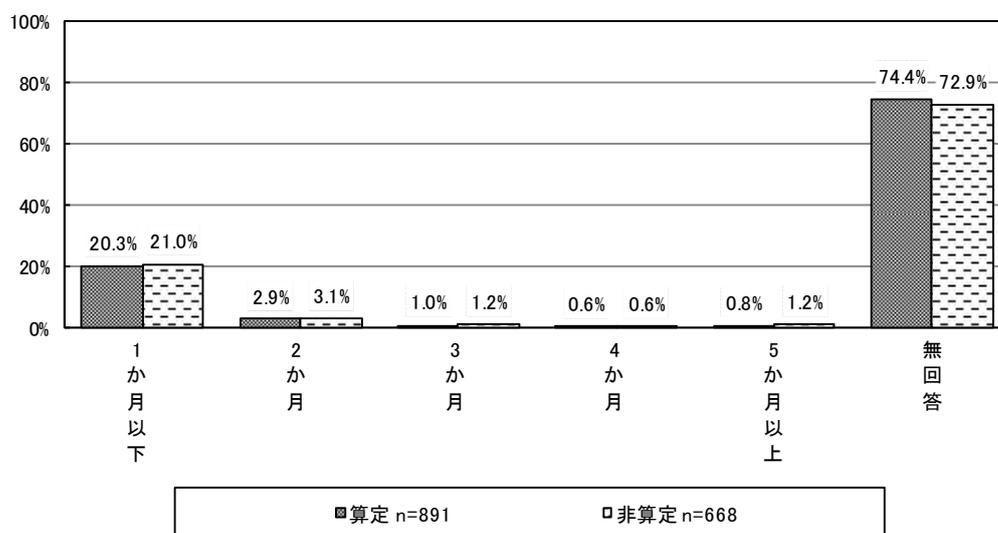
図表 1046 退院の有無



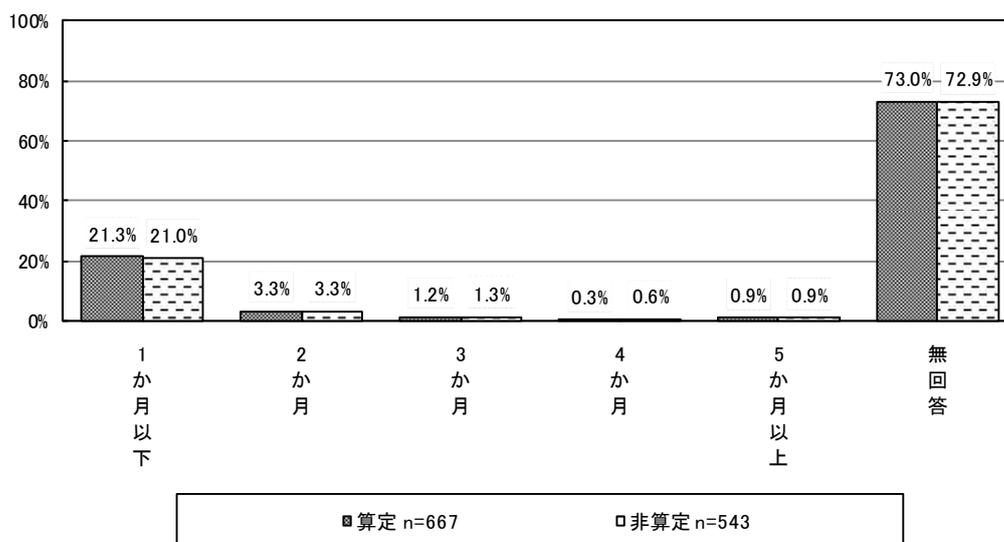
図表 1047 退院の有無 区分1のみ



図表 1048 直近の入院期間



図表 1049 直近の入院期間 区分1のみ



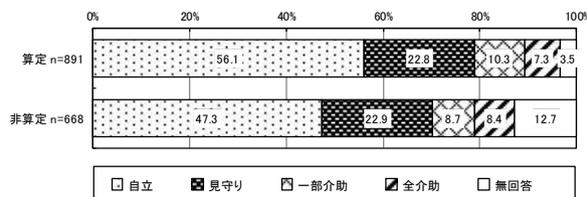
## キ) ADL・IADL の状況 (問 8)

図表 1050 ADL・IADL の状況

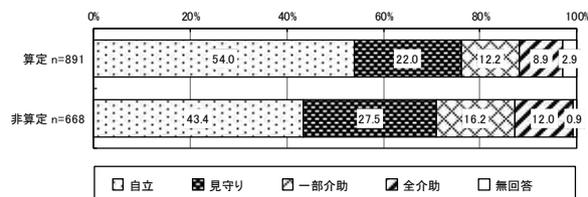
### 食事

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



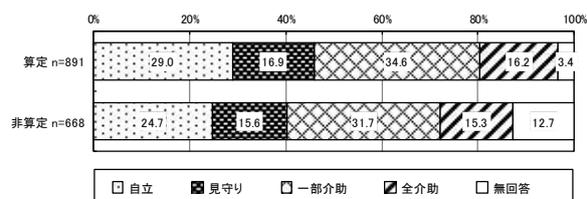
②令和元年 10 月 1 日時点



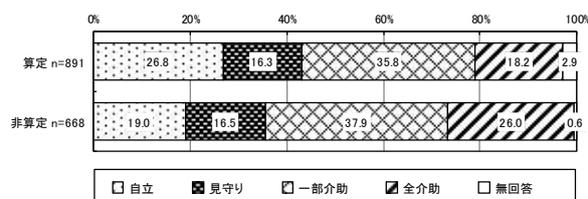
### 排泄

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



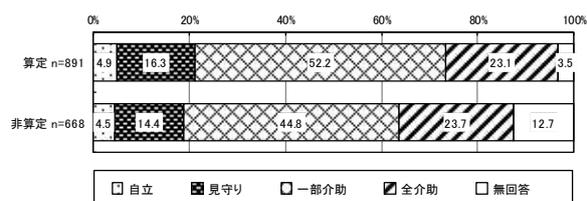
②令和元年 10 月 1 日時点



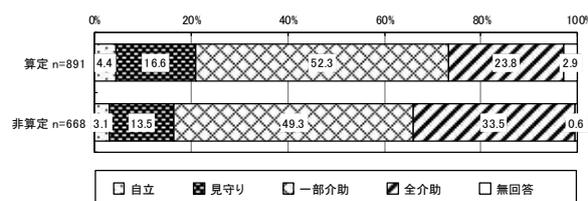
### 入浴

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



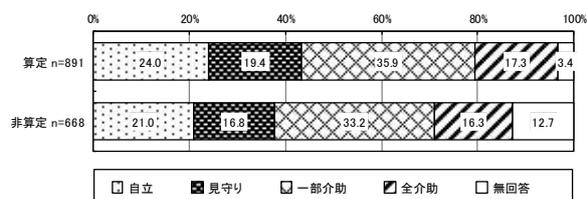
②令和元年 10 月 1 日時点



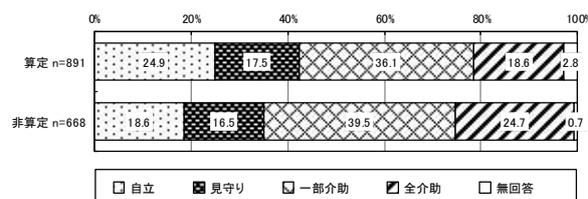
### 更衣

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



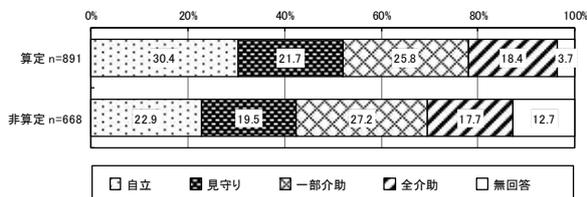
②令和元年 10 月 1 日時点



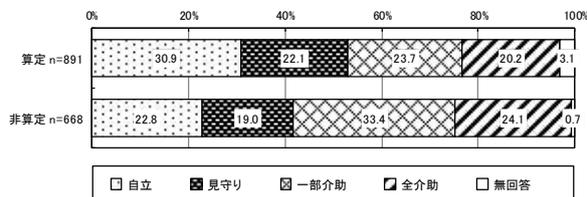
## 整容

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



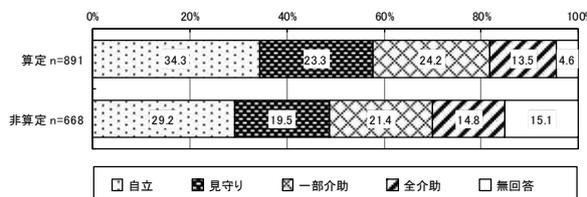
②令和元年10月1日時点



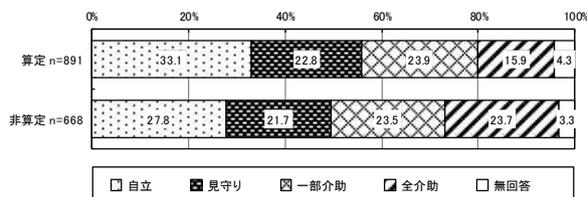
## 移乗

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



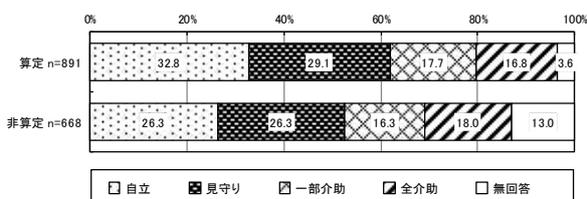
②令和元年10月1日時点



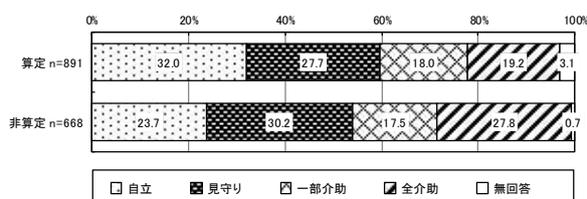
## 屋内移動

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



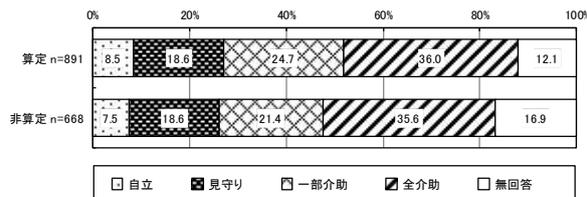
②令和元年10月1日時点



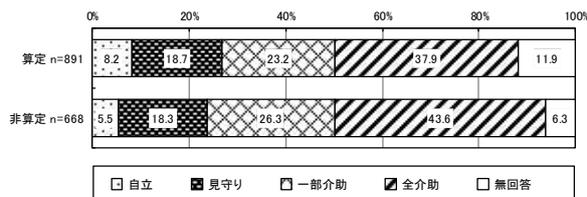
## 階段昇降

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



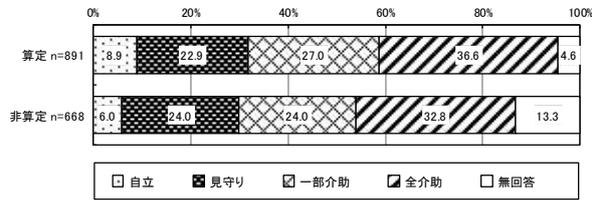
②令和元年10月1日時点



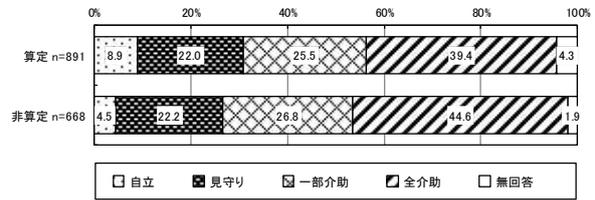
## 屋外移動

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



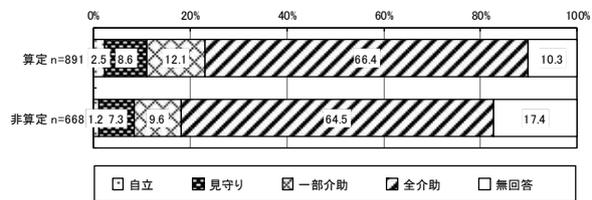
②令和元年10月1日時点



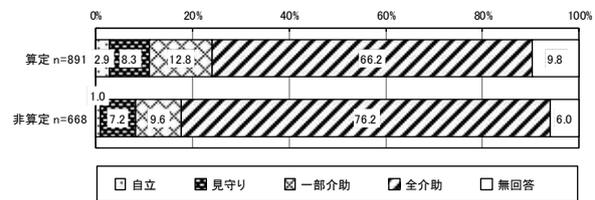
## 調理

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



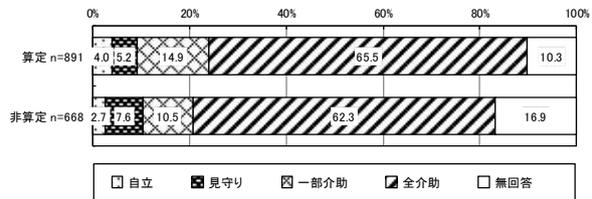
②令和元年10月1日時点



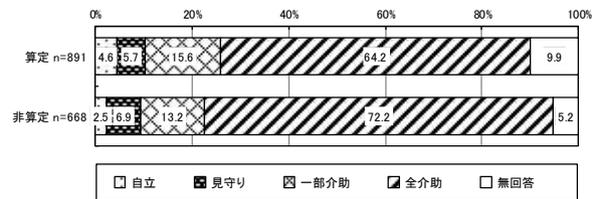
## 洗濯

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



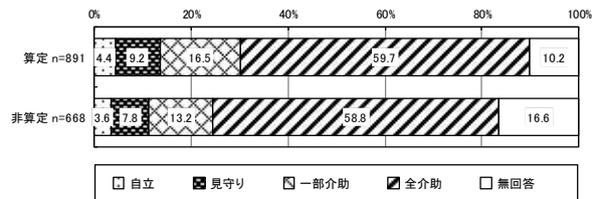
②令和元年10月1日時点



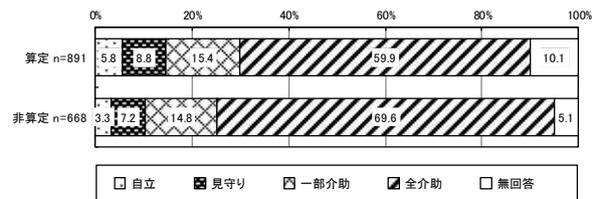
## 掃除

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



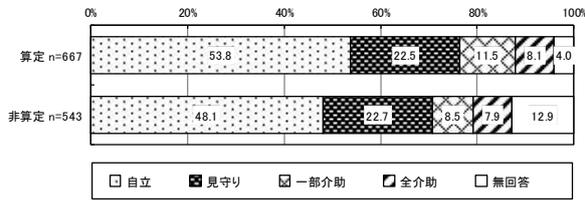
②令和元年10月1日時点



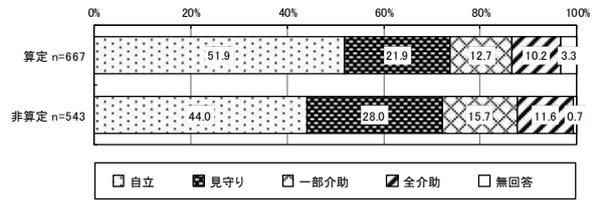
食事 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



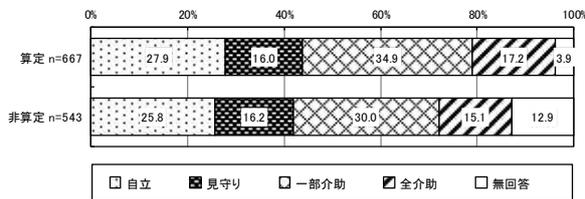
②令和元年10月1日時点



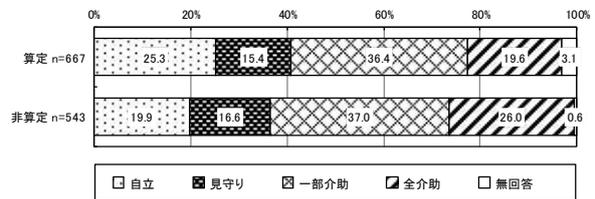
排泄 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



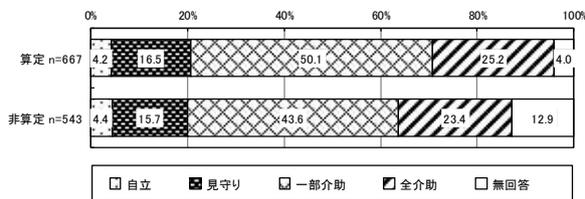
②令和元年10月1日時点



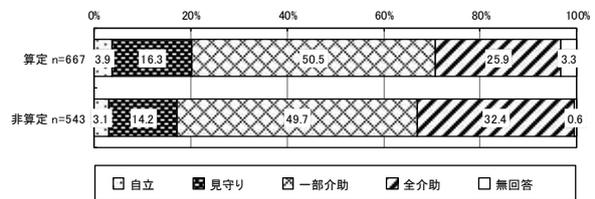
入浴 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



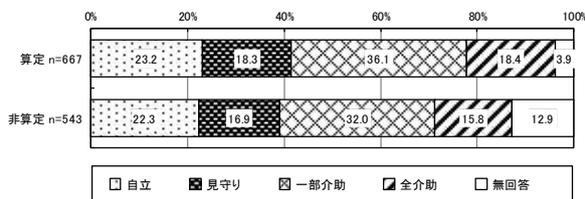
②令和元年10月1日時点



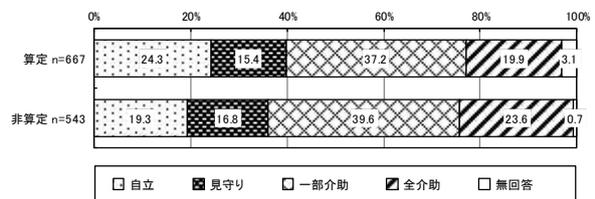
更衣 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



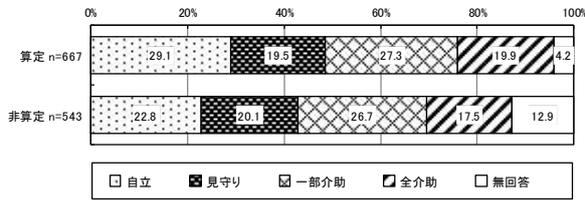
②令和元年10月1日時点



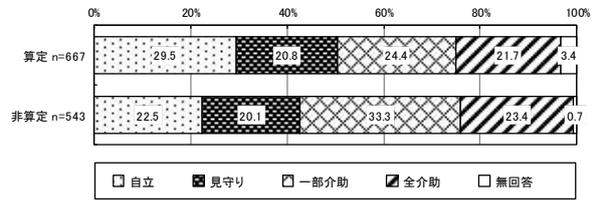
整容 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



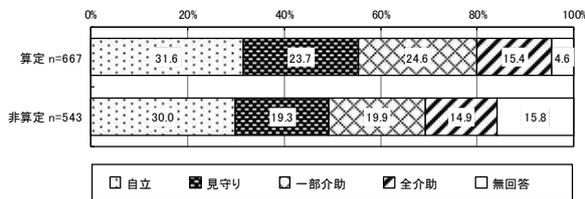
②令和元年10月1日時点



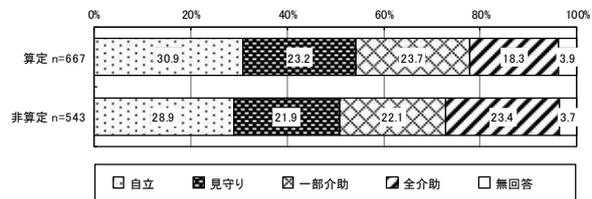
移乗 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



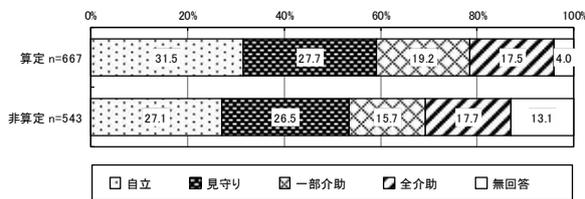
②令和元年10月1日時点



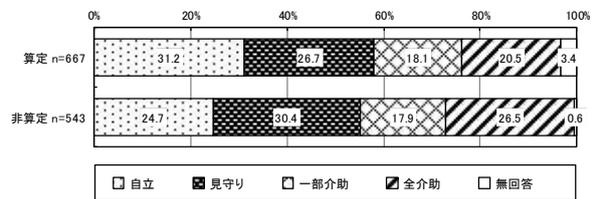
屋内移動 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



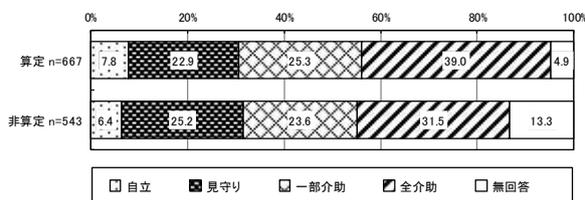
②令和元年10月1日時点



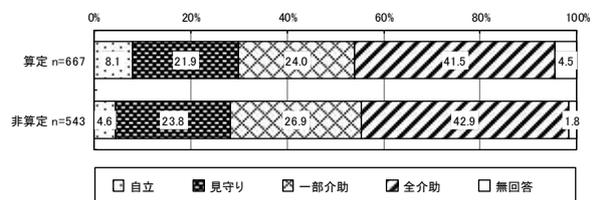
屋外移動 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



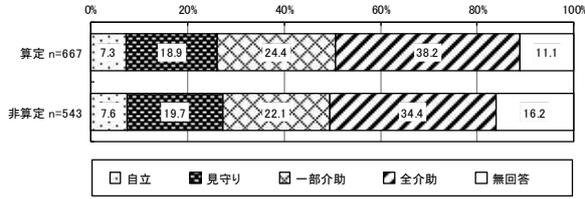
②令和元年10月1日時点



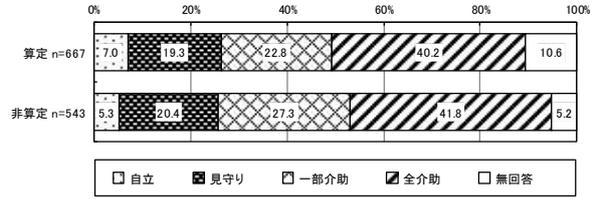
階段昇降 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



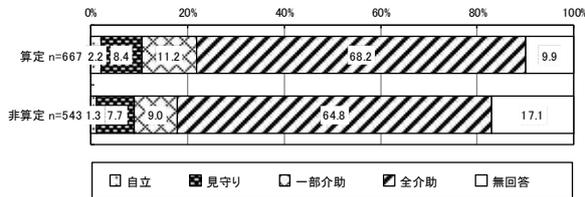
②令和元年10月1日時点



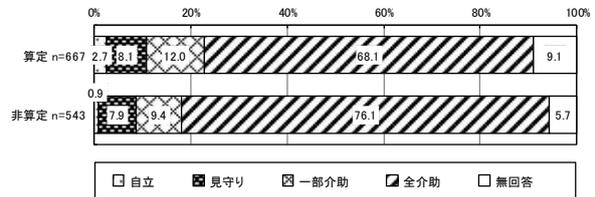
調理 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



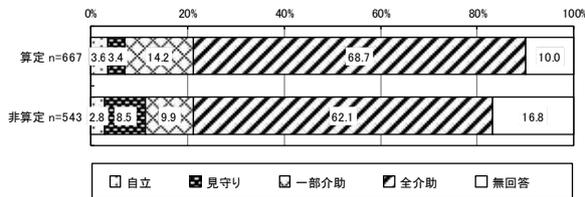
②令和元年10月1日時点



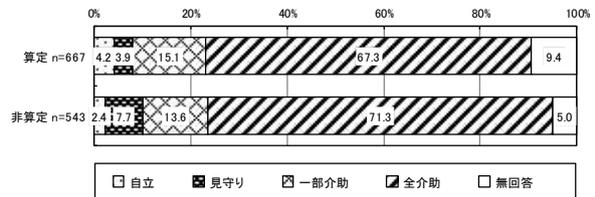
洗濯 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



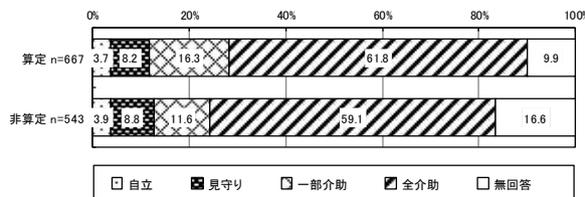
②令和元年10月1日時点



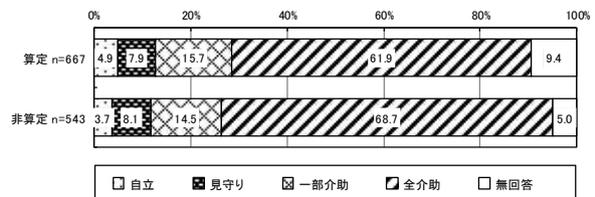
掃除 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点

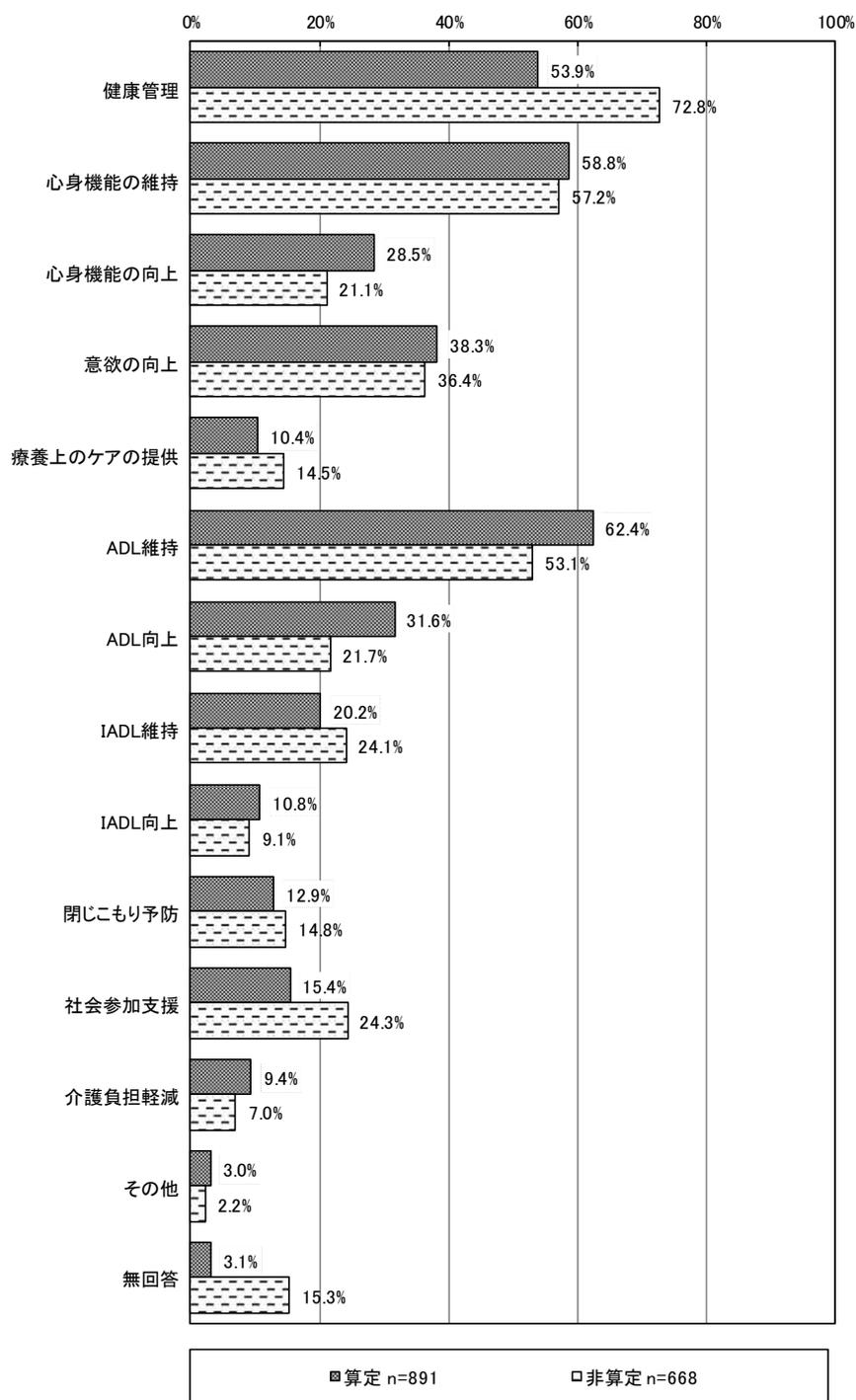


②令和元年10月1日時点

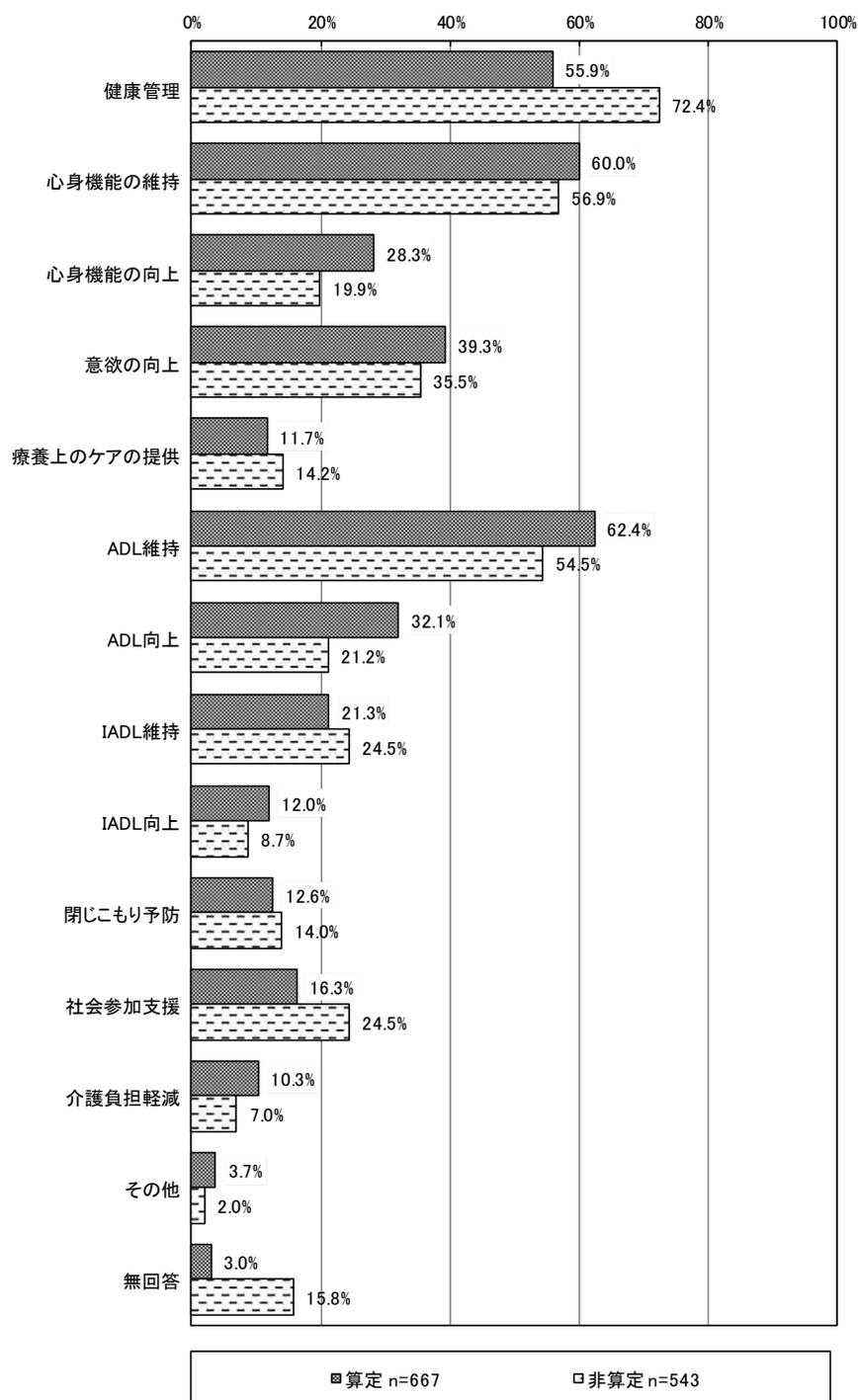


## ク) ケアプランの目標 (問 9)

図表 1051 目標 ①加算算定に伴う連携の開始時点



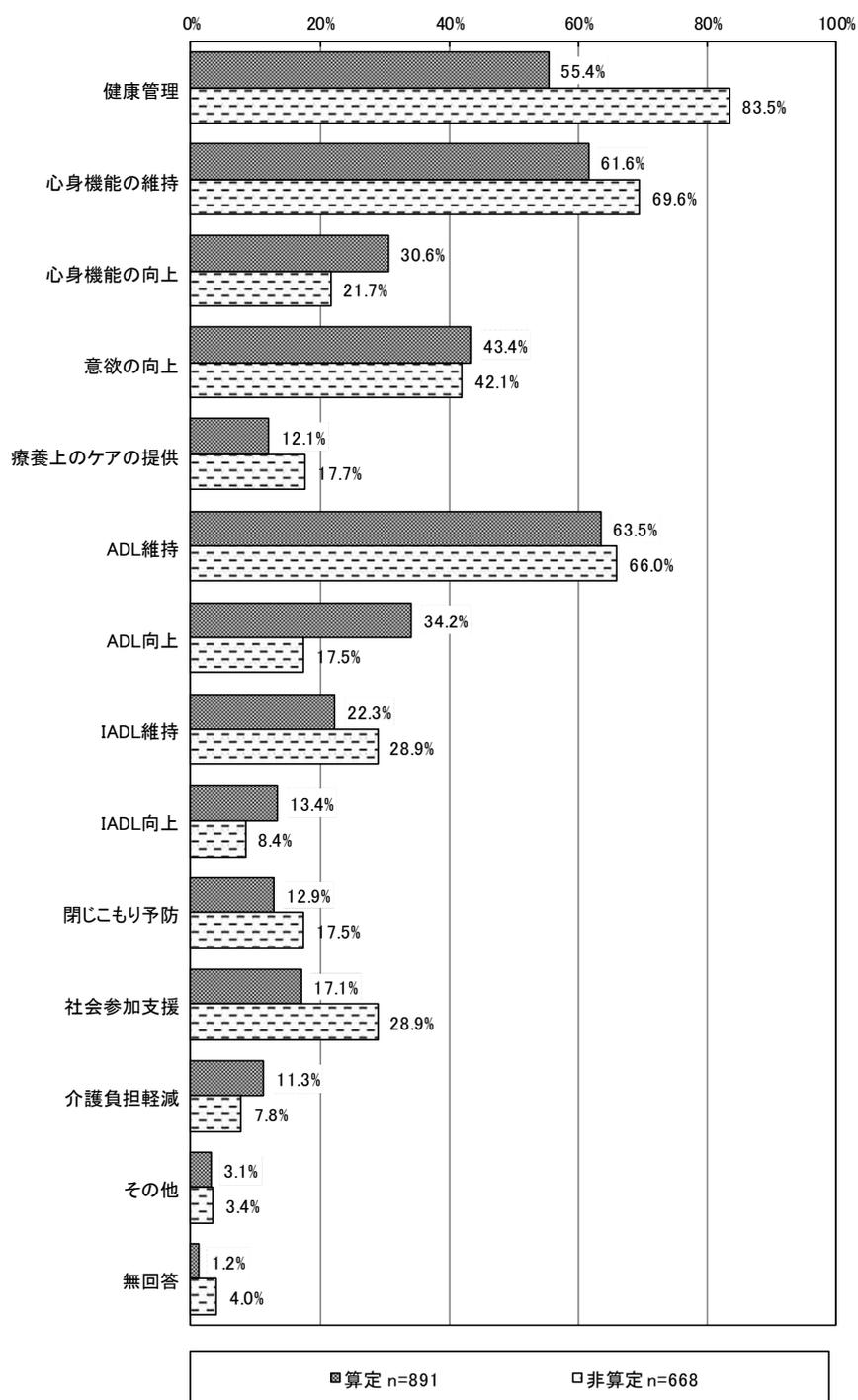
図表 1052 目標 ①加算算定に伴う連携の開始時点 区分 1 のみ



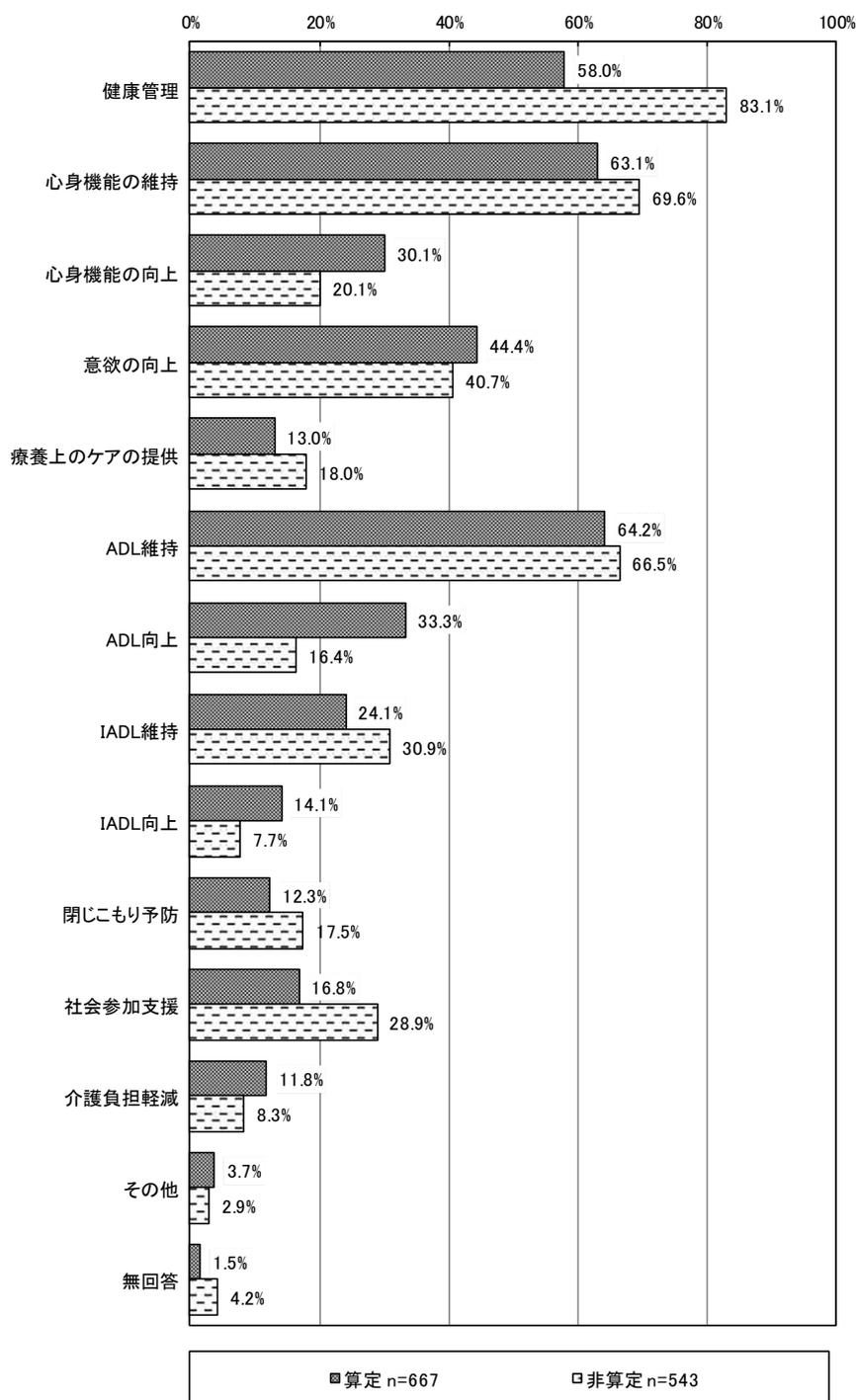
※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

- ・(算定) BPSD の軽減
- ・(算定) 清潔保持
- ・(非算定) 精神的な落ち込みの解消
- ・(非算定) 生活リズムの安定

図表 1053 目標 ②令和元年 10 月 1 日時点



図表 1054 目標 ②令和元年 10 月 1 日時点 区分 1 のみ



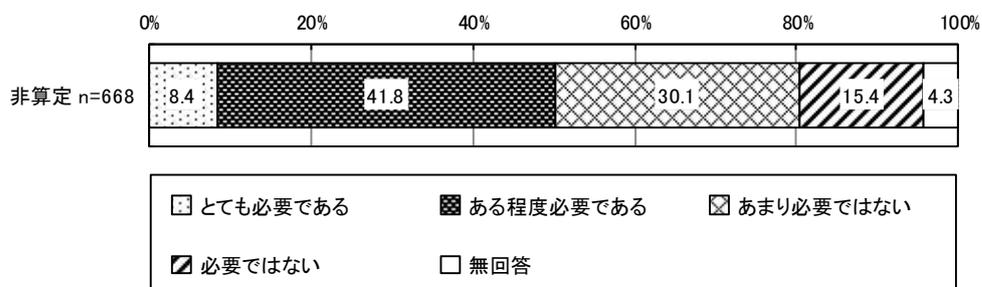
※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

- ・(算定) BPSD の軽減
- ・(算定) 清潔保持
- ・(非算定) 精神的な落ち込みの解消
- ・(非算定) 在宅生活の継続

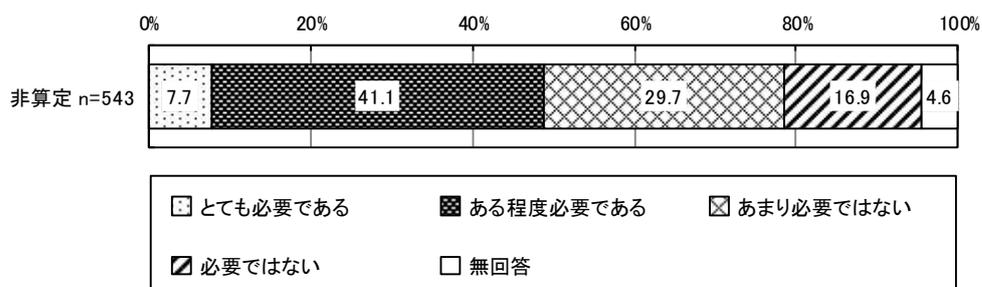
ケ) 利用者の ADL、IADL の状況や課題から判断した、リハ専門職等<sup>※</sup>との連携の必要性 (問 10 (非算定事業所・施設利用者票))

※理学療法士、作業療法士、言語聴覚士又はリハビリテーション科専門医

図表 1055 リハ専門職等との連携の必要性

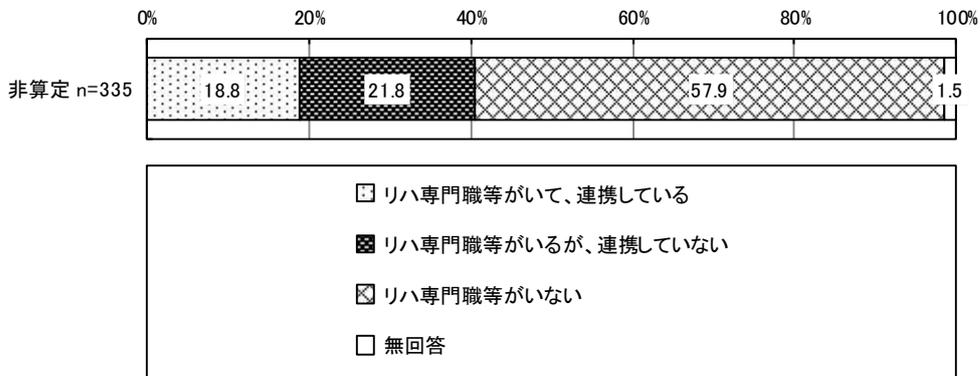


図表 1056 リハ専門職等との連携の必要性 区分1のみ

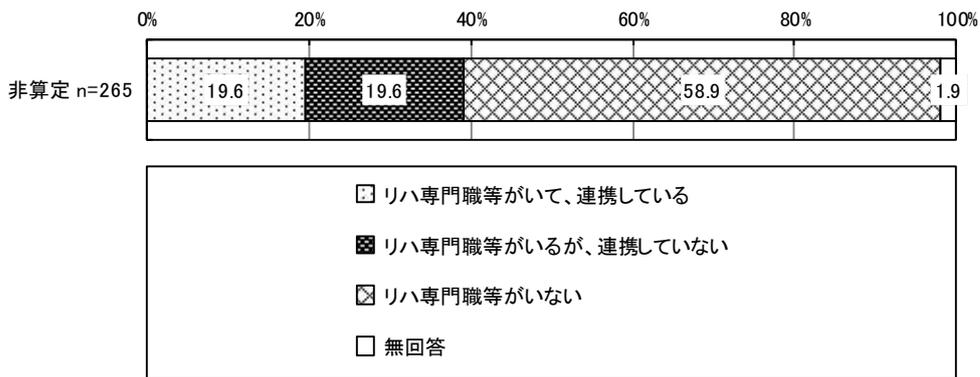


コ) 同一法人内のリハ専門職等の存在および連携の有無(問 11(非算定事業所・施設利用者票))

図表 1057 同一法人内のリハ専門職等の存在および連携の有無



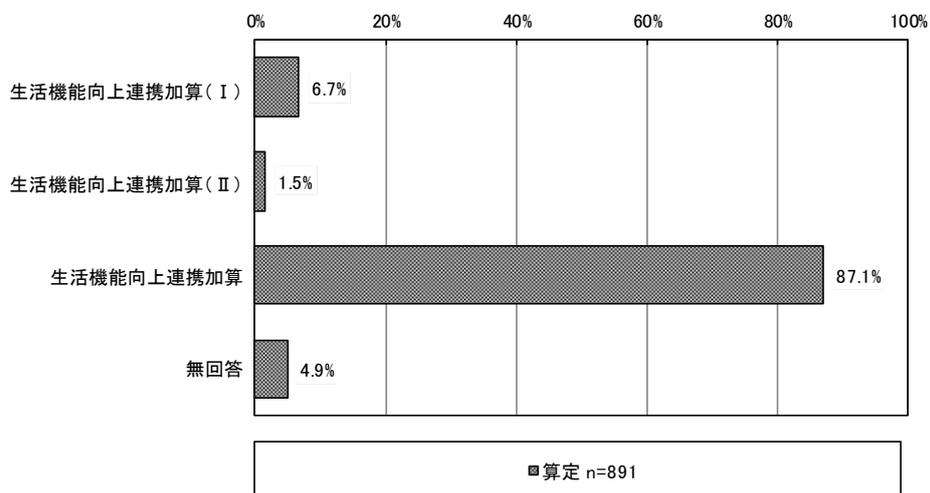
図表 1058 同一法人内のリハ専門職等の存在および連携の有無 区分1のみ



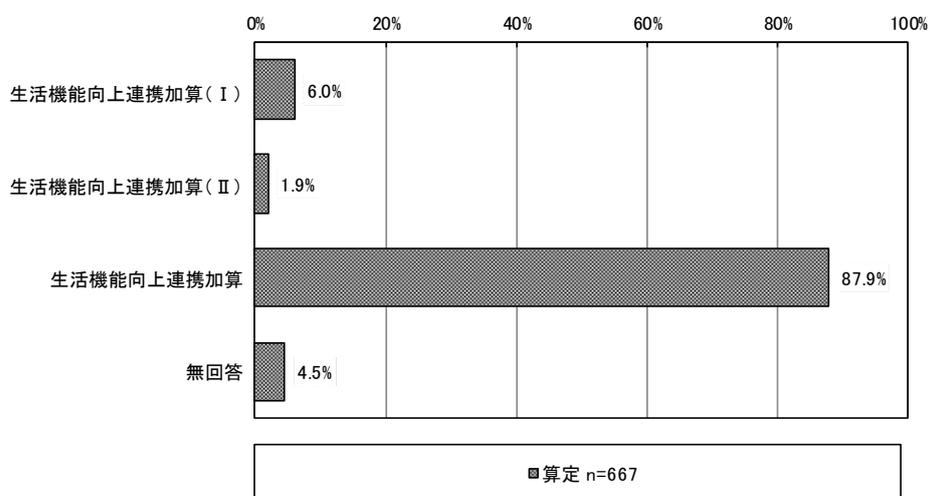
### Ⅲ. 生活機能向上連携加算の算定状況

#### ア) 算定状況 (問 10)

図表 1059 算定状況

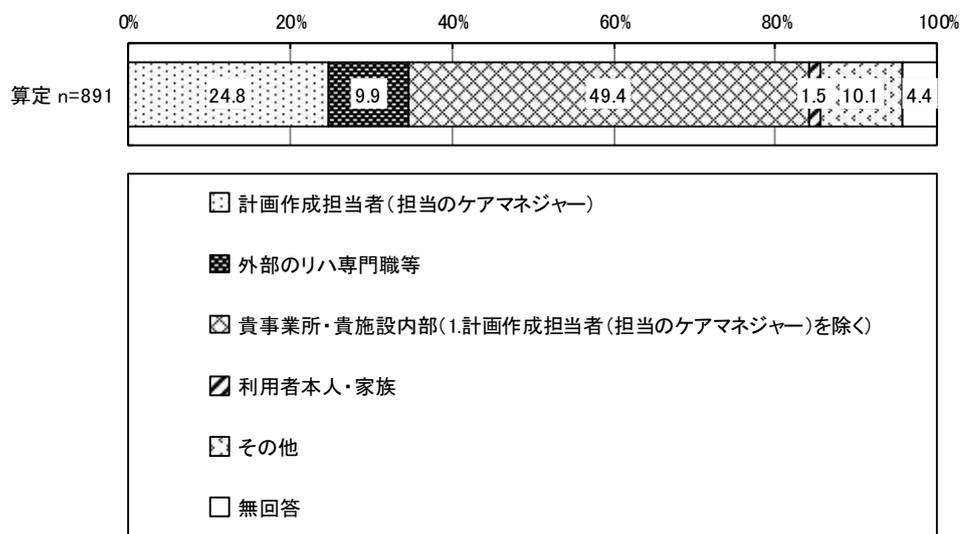


図表 1060 算定状況 区分1のみ

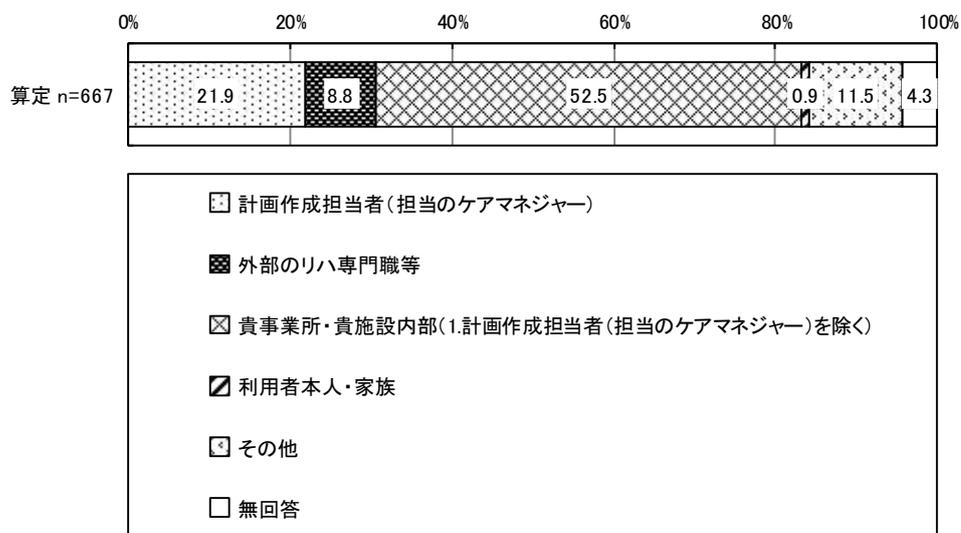


## イ) 算定の提案者 (問 11)

図表 1061 算定の提案者



図表 1062 算定の提案者 区分1のみ

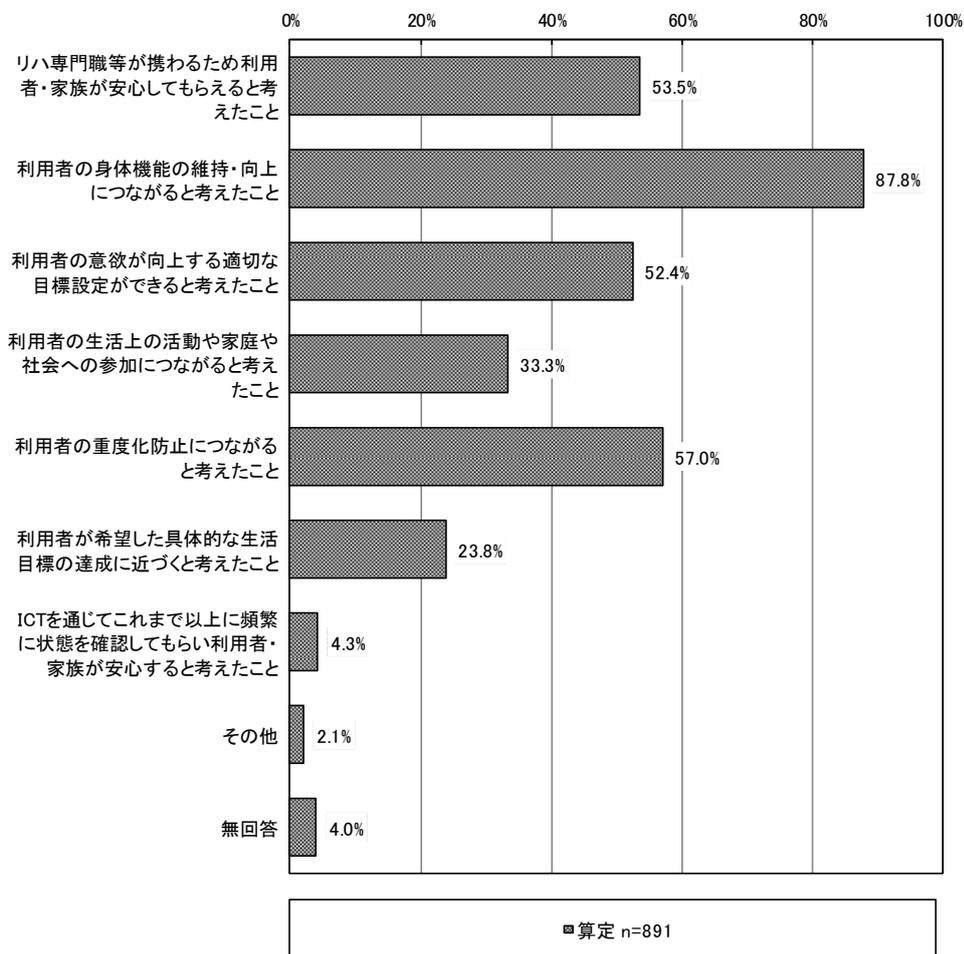


※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

- ・本社

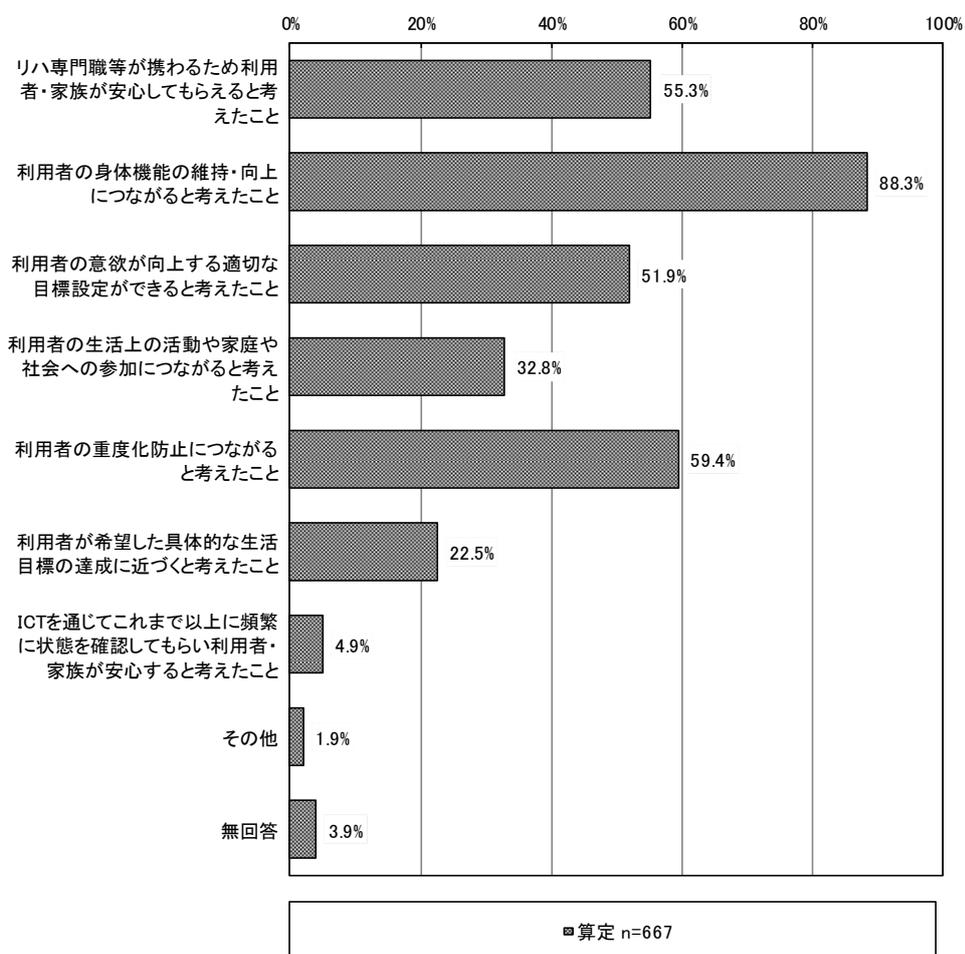
## ウ) 算定を提案した理由 (問 11-2)

図表 1063 算定を提案した理由



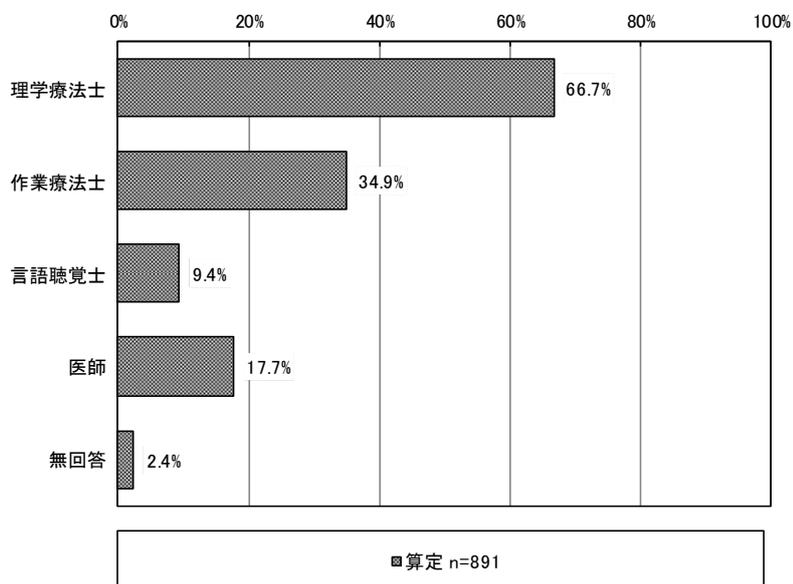
※その他として挙げられた有効な回答は無し。

図表 1064 算定を提案した理由 区分1のみ

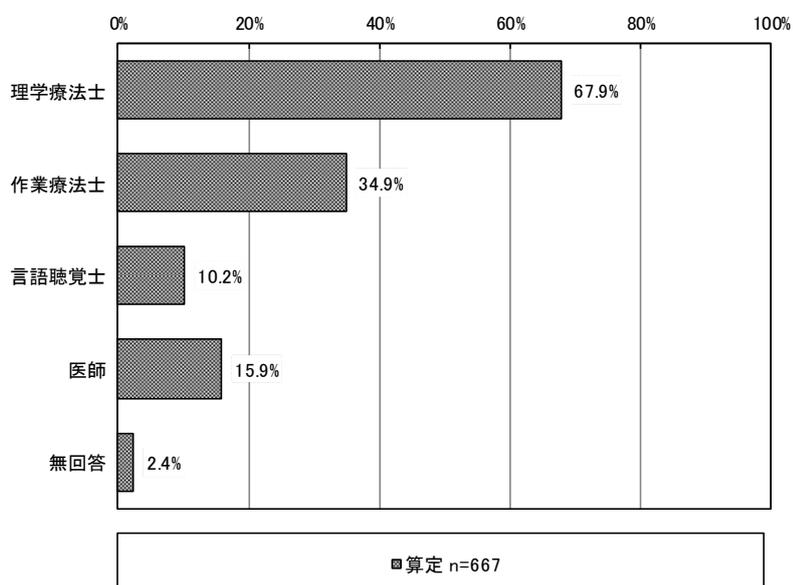


エ) 連携している外部の職種 (問 12)

図表 1065 連携している外部の職種

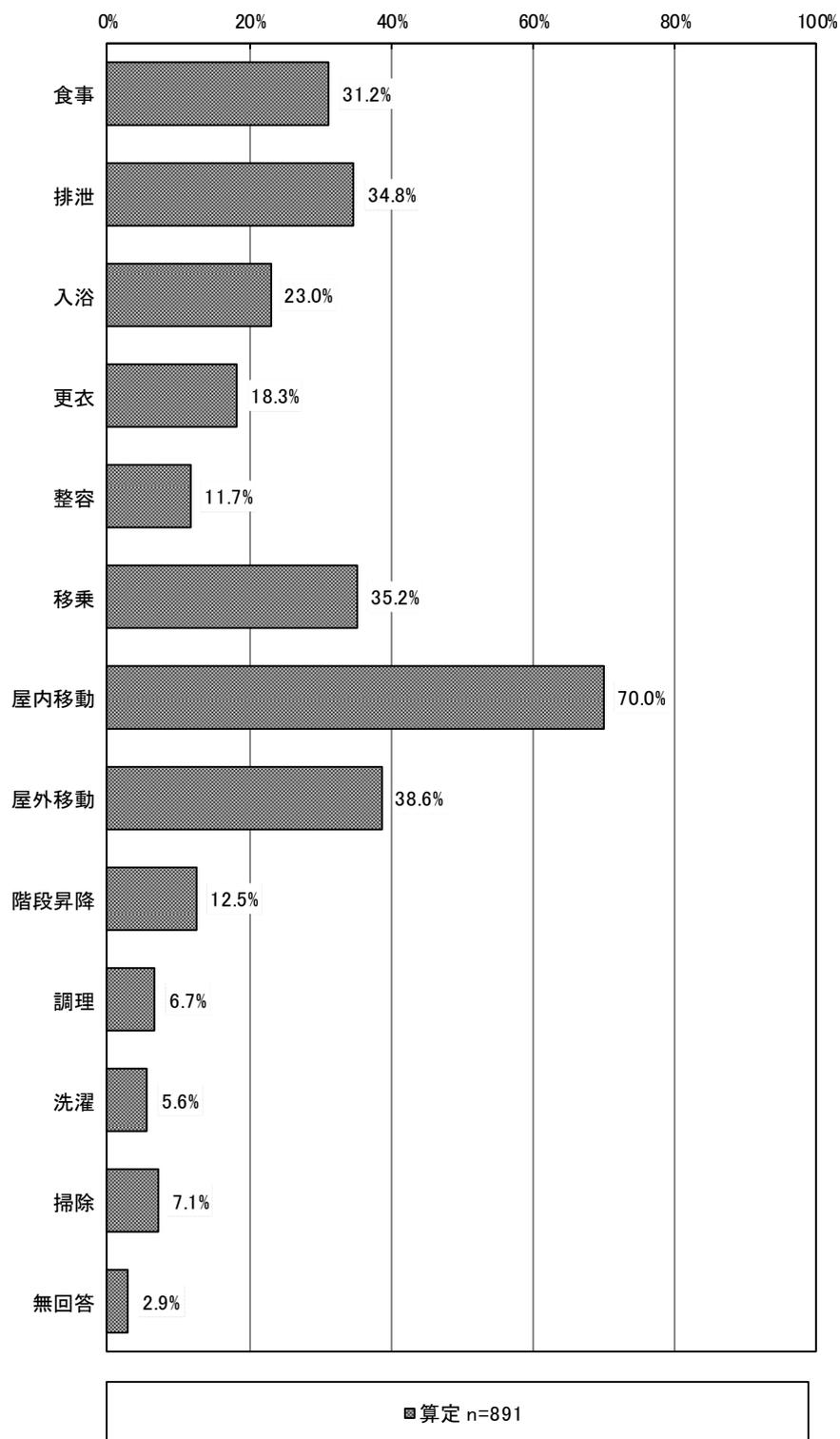


図表 1066 連携している外部の職種 区分1のみ

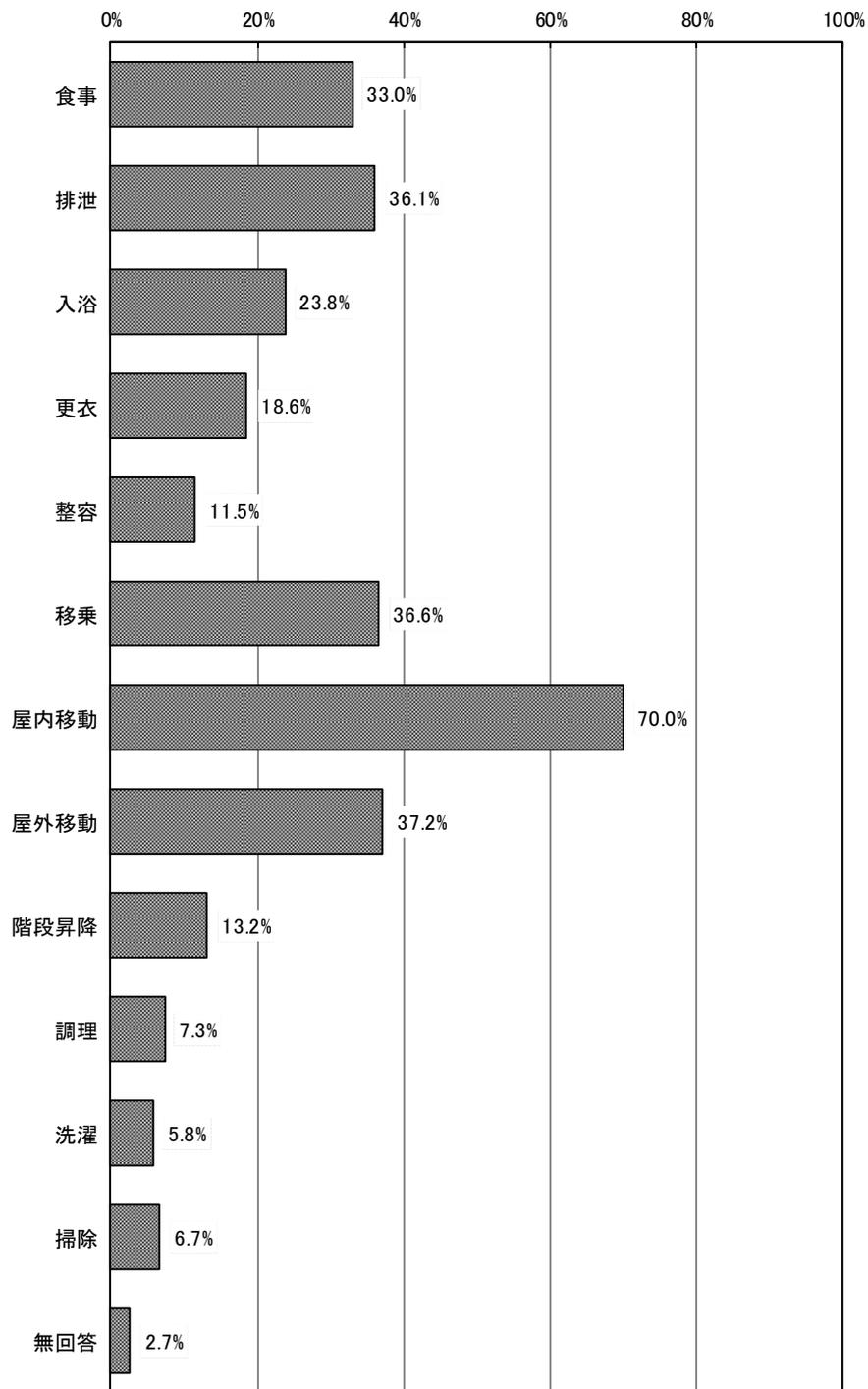


## 才) 利用者の課題 (問 13)

図表 1067 利用者の課題



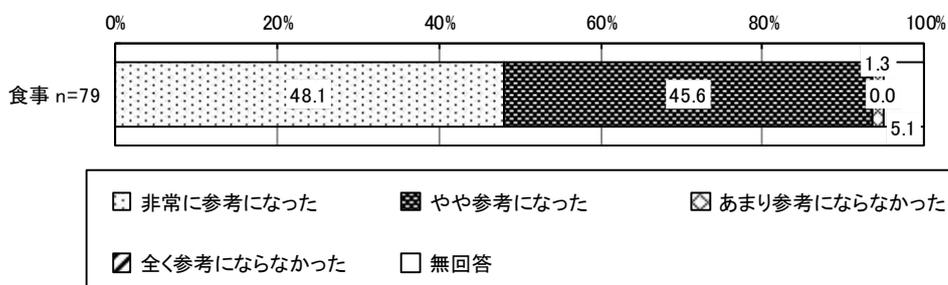
図表 1068 利用者の課題 区分1のみ



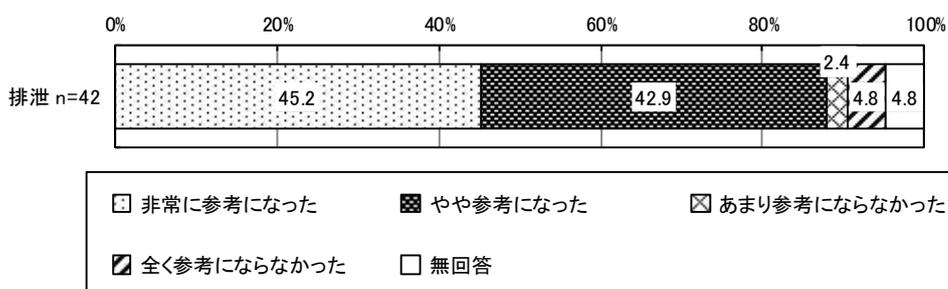
■算定 n=667

カ) 外部からの助言を計画に反映した内容について、課題、助言内容、また助言はどの程度参考になったか（問 14）

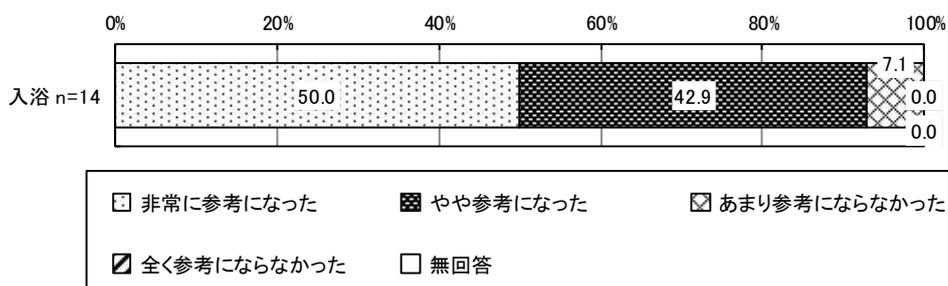
図表 1069 食事



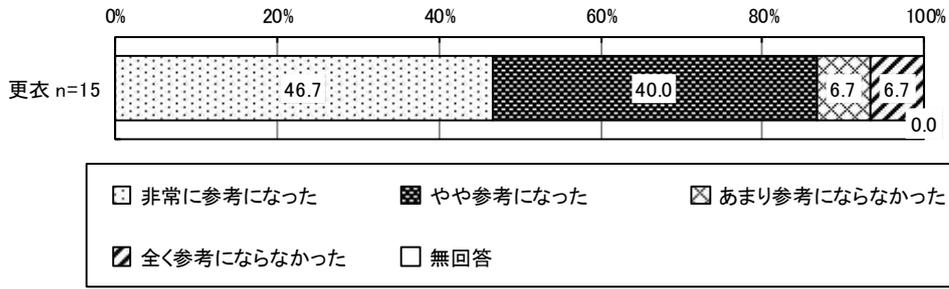
図表 1070 排泄



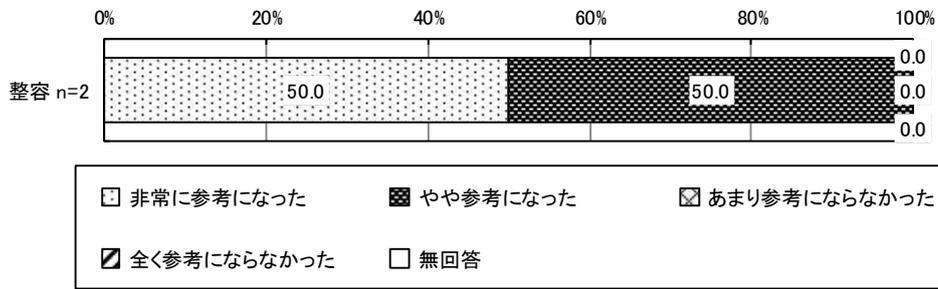
図表 1071 入浴



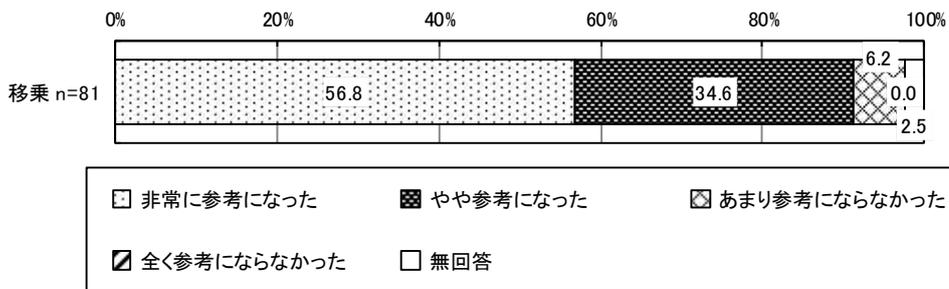
図表 1072 更衣



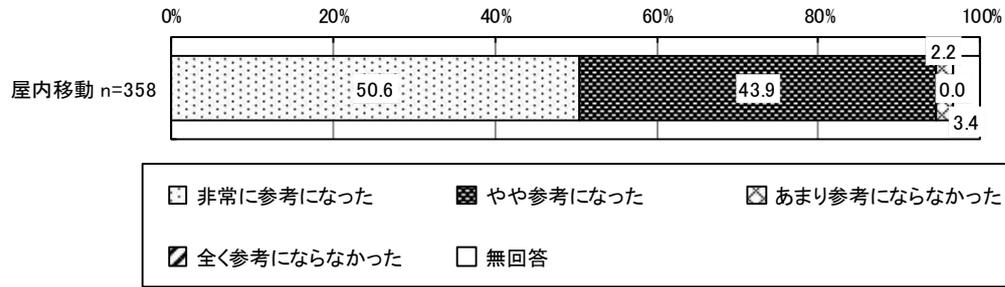
図表 1073 整容



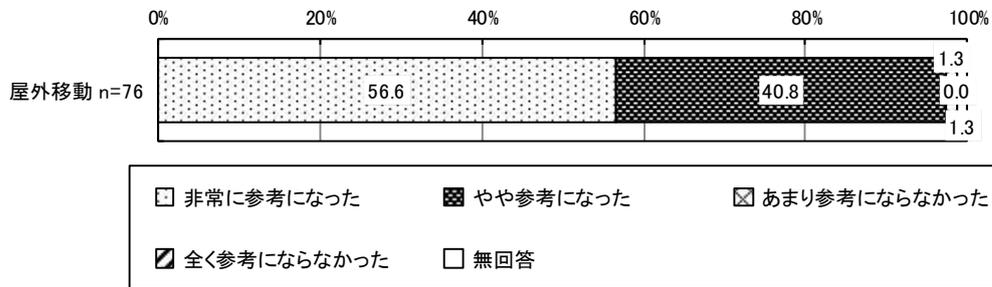
図表 1074 移乗



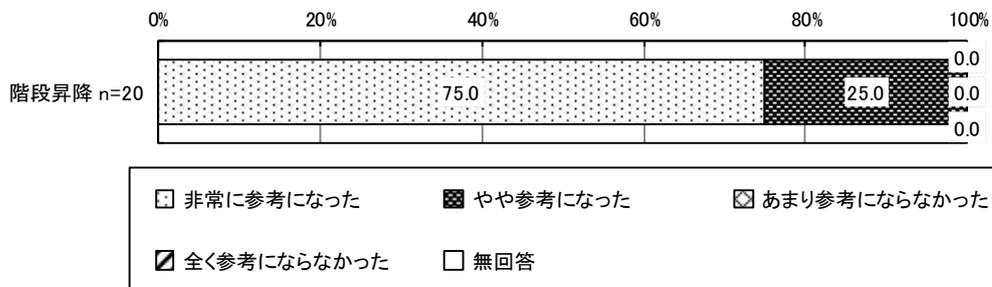
図表 1075 屋内移動



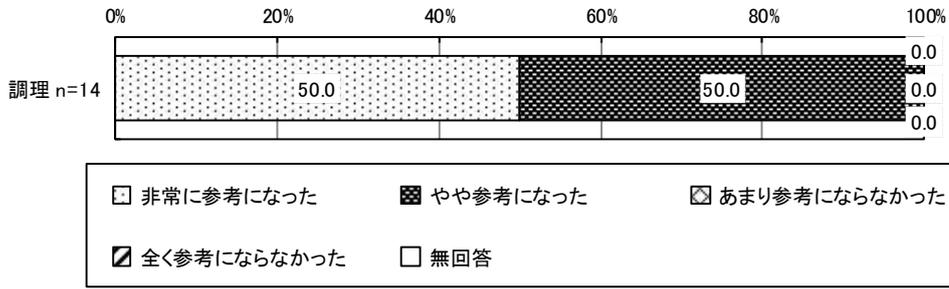
図表 1076 屋外移動



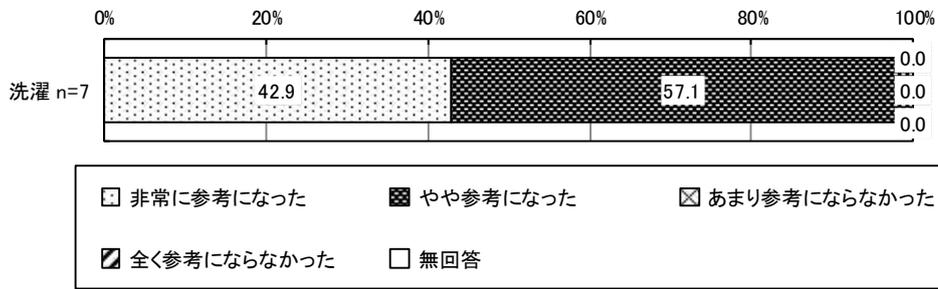
図表 1077 階段昇降



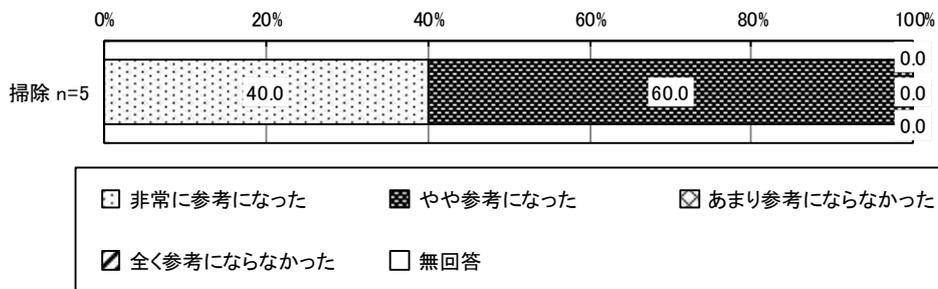
図表 1078 調理



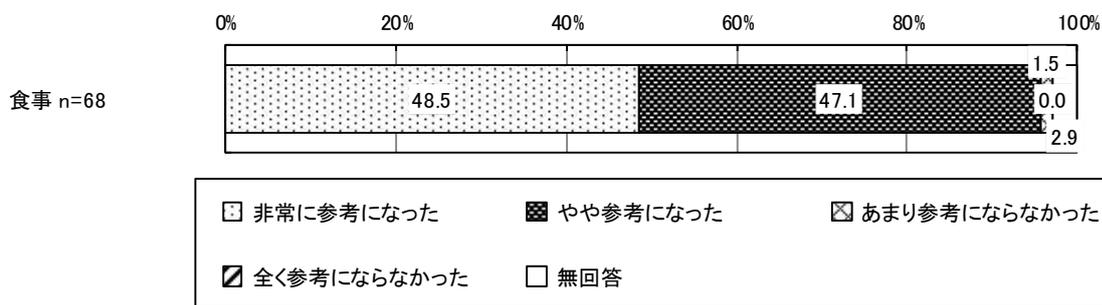
図表 1079 洗濯



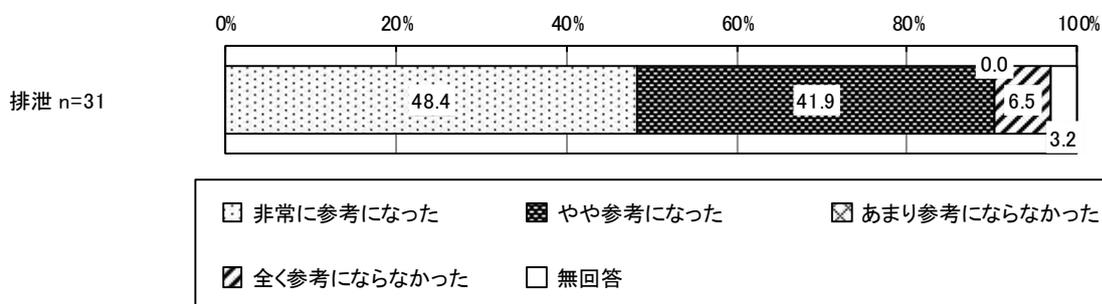
図表 1080 掃除



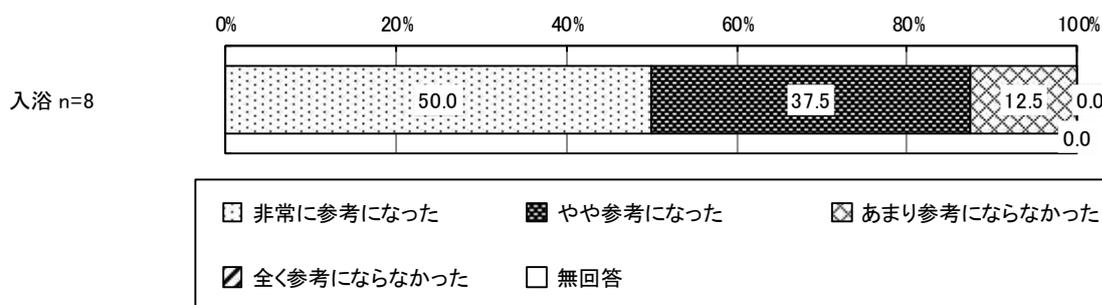
図表 1081 食事 区分 1 のみ



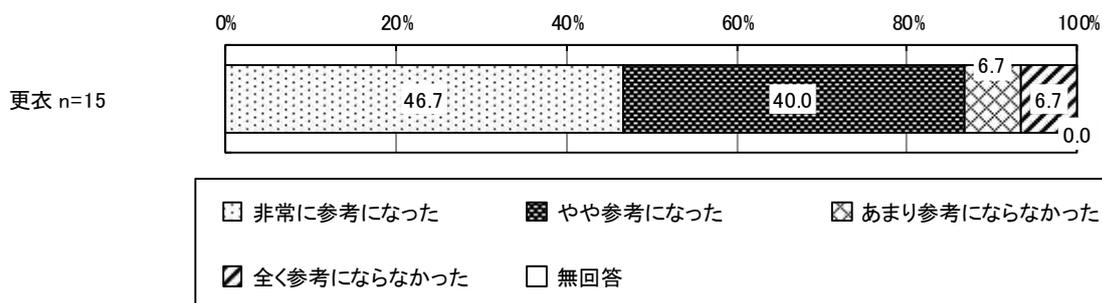
図表 1082 排泄 区分 1 のみ



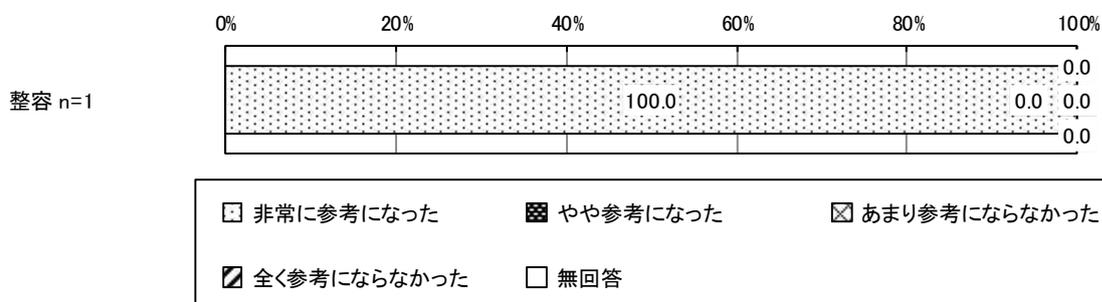
図表 1083 入浴 区分 1 のみ



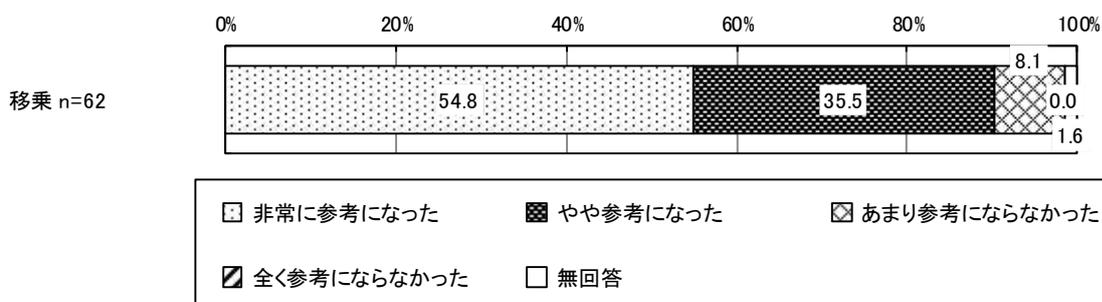
図表 1084 更衣 区分1のみ



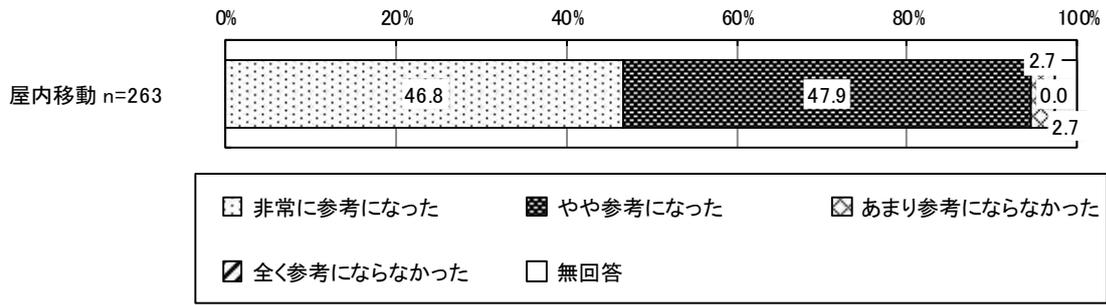
図表 1085 整容 区分1のみ



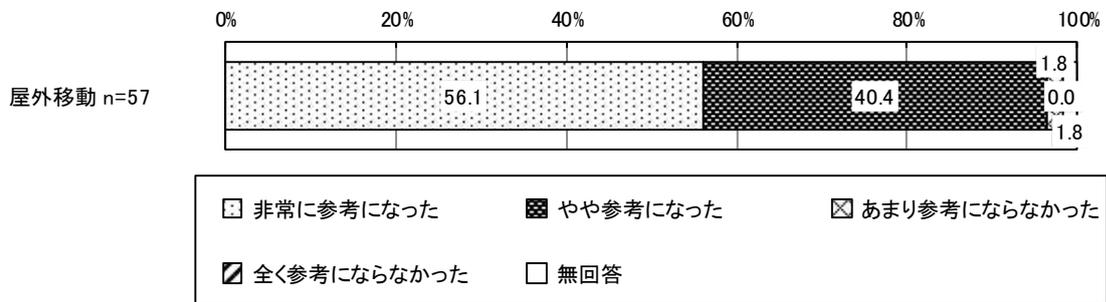
図表 1086 移乗 区分1のみ



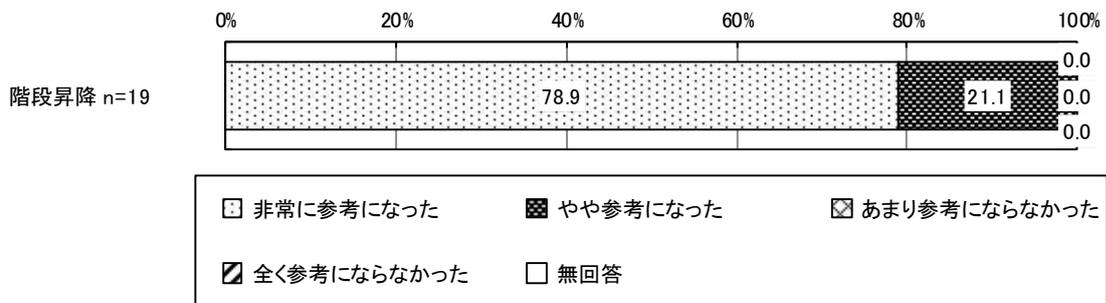
図表 1087 屋内移動 区分1のみ



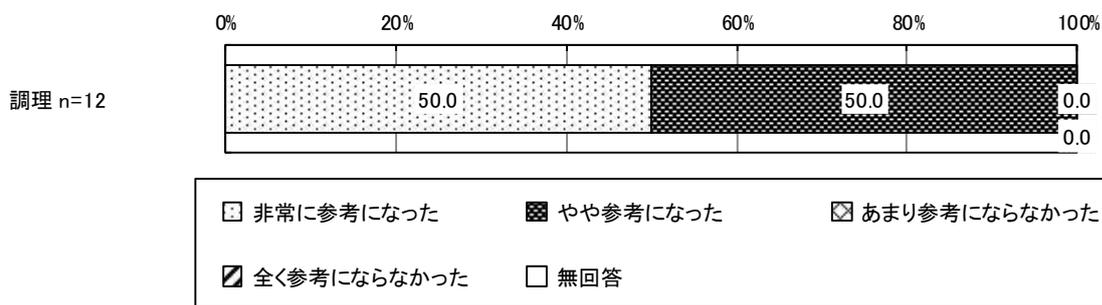
図表 1088 屋外移動 区分1のみ



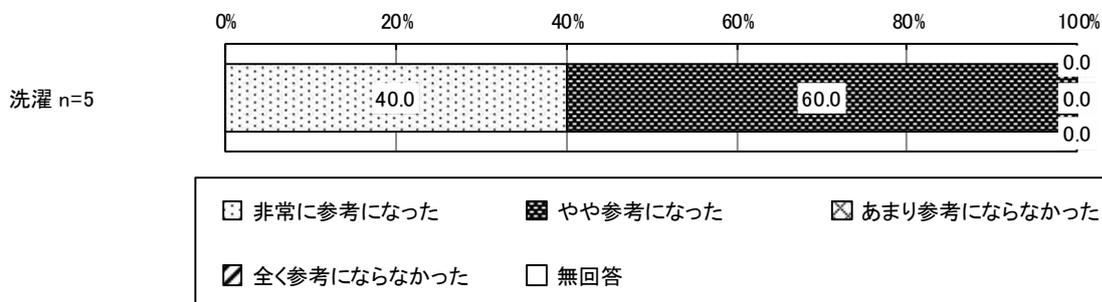
図表 1089 階段昇降 区分1のみ



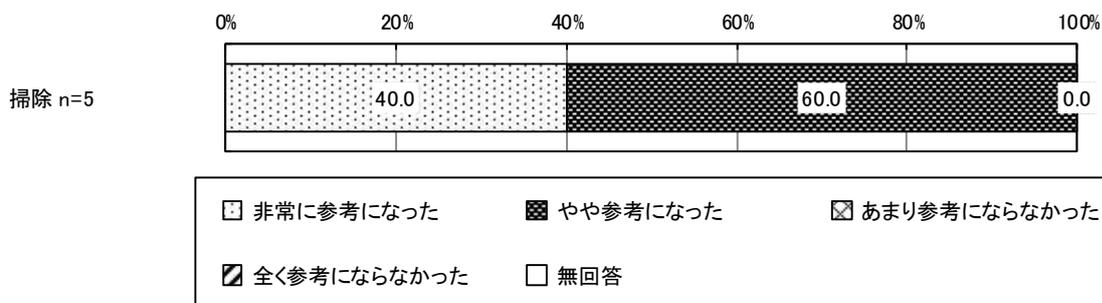
図表 1090 調理 区分 1 のみ



図表 1091 洗濯 区分 1 のみ



図表 1092 掃除 区分 1 のみ



図表 1093 課題別の助言内容

**○食事**

- ・福祉用具のカップを使って飲水する
- ・嚥下体操

**○排泄**

- ・排泄に対しての認識確認を行う
- ・声掛けを行う

**○入浴**

- ・膝関節が拘縮しないよう、1日20分足を伸ばす
- ・食事時の施設について

**○更衣**

- ・自身で可能なことは積極的に行い、能力の維持を図る
- ・肩甲骨周辺の関節の拘縮予防に継続して務める必要性を伝える

**○整容**

- ・やれることからやり、自信を持たせる
- ・全身の皮膚状態を確認する

**○移乗**

- ・立位保持訓練をして、下肢筋力の維持を行う
- ・より楽な姿勢で起立を促す

**○屋内移動**

- ・転倒しないよう移動時に介助する
- ・歩行を積極的に行う

**○屋外移動**

- ・散歩や買い物等の外出時にできるだけ歩く
- ・外出機会を設け、外気に触れ、刺激を受けられるよう配慮する

**○階段昇降**

- ・高血圧時の運動を控える
- ・つま先を上げることを意識する

## ○調理

- ・できることから自ら関われることを増やしていく
- ・調理にこだわらず、家事として今できること・できそうなことをプランへ反映する

## ○洗濯

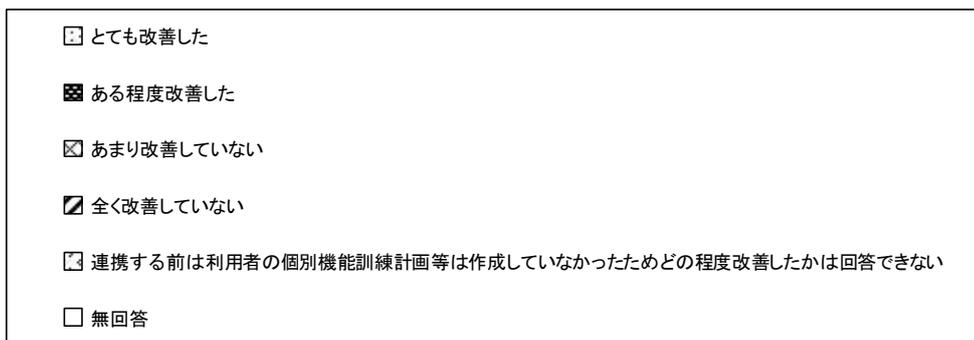
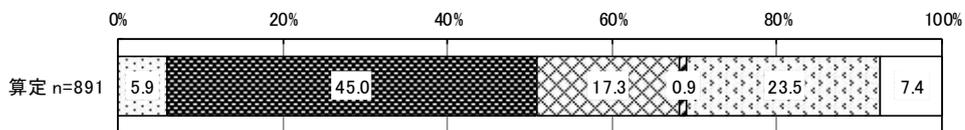
- ・調子が良いときに他の利用者と一緒に手伝い、会話の機会を持つ
- ・ホームでの役割を持つことで生活遂行能力を維持する

## ○掃除

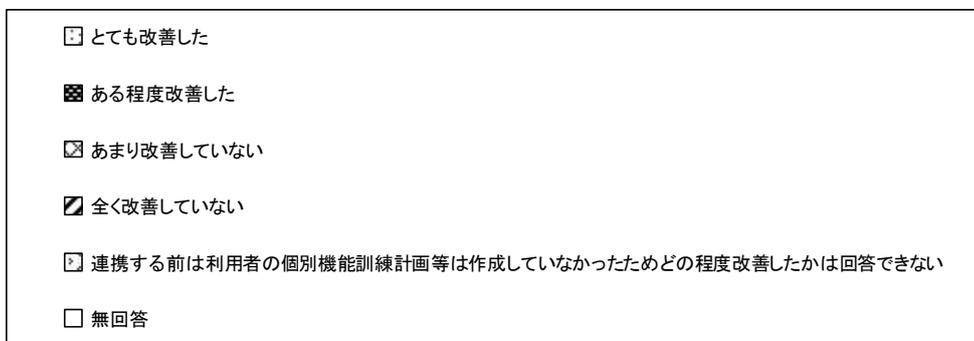
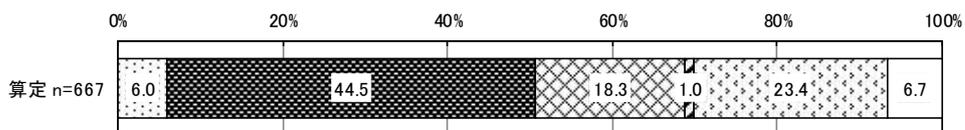
- ・簡単な役割を提供し、自尊心や認知機能を維持する
- ・毎日モップかけの声掛けをする

## キ) 助言により利用者の計画はどの程度改善したか（問 15）

図表 1094 助言により利用者の計画はどの程度改善したか



図表 1095 助言により利用者の計画はどの程度改善したか 区分1のみ



## ク) 助言による具体的な状況変化 (問 15-2)

図表 1096 助言による具体的な状況変化

### ○訓練内容の変化

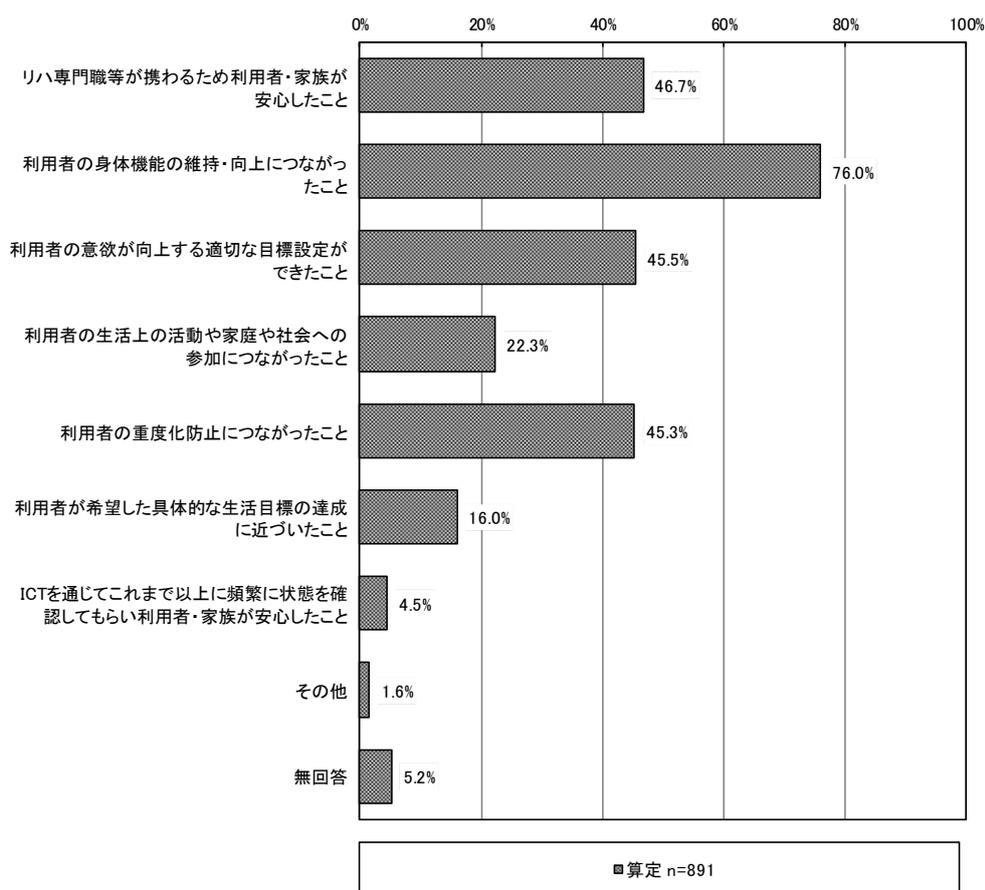
- ・ チームケアができるようになった
- ・ 運動機会を作るよう意識するようになった

### ○本人の状態の変化

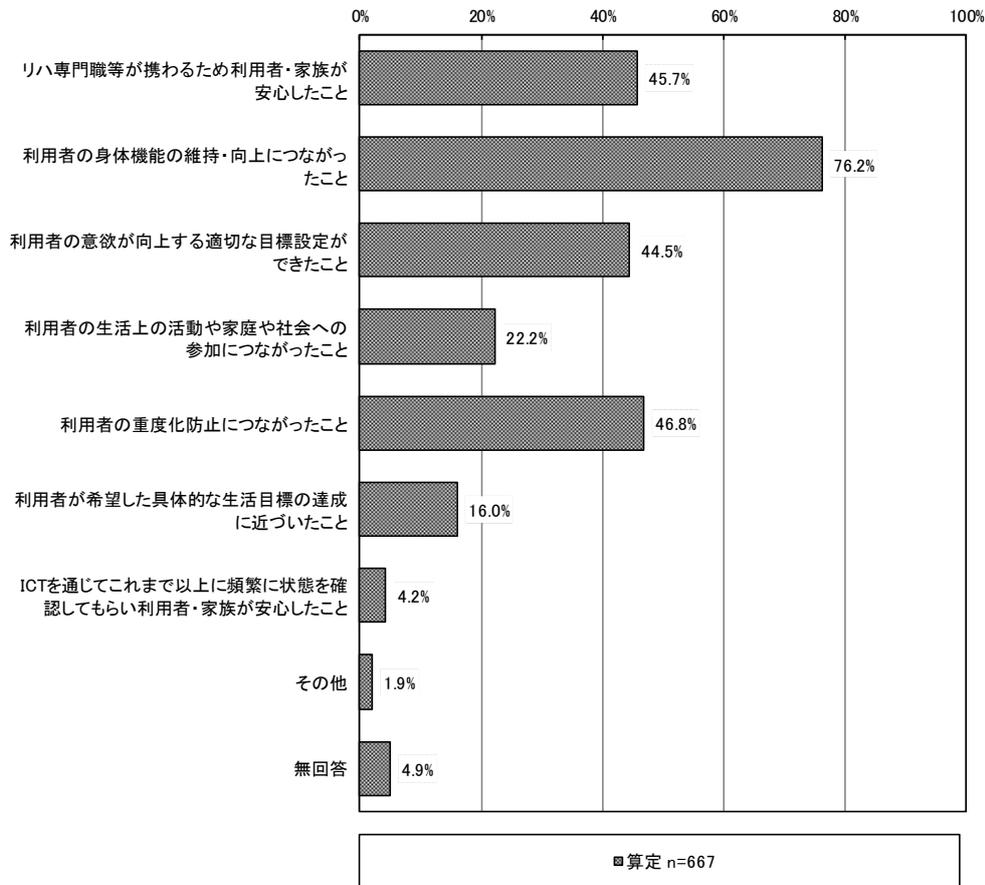
- ・ バランスを崩さず上げ下げができています
- ・ 興奮せず、ケアを受けるようになった
- ・ 歩行器使用しても歩行が安定してきた

## ケ) 利用者が享受したメリット (問 16)

図表 1097 利用者が享受したメリット



図表 1098 利用者が享受したメリット 区分1のみ

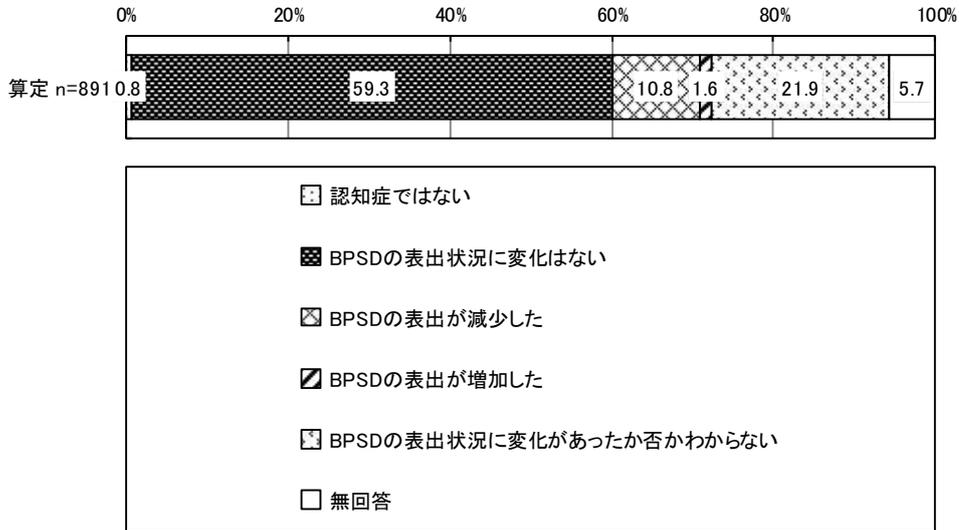


※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

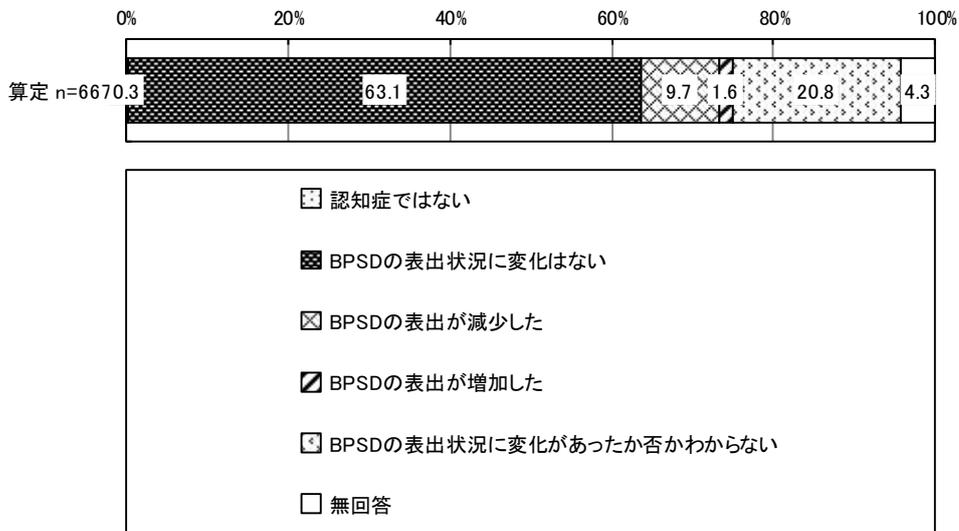
- ・介護にあたるスタッフが変わっても同じ対応を受けることができる

コ) 認知症の利用者の BPSD 表出状況の変化 (問 17)

図表 1099 認知症の利用者の BPSD 表出状況の変化

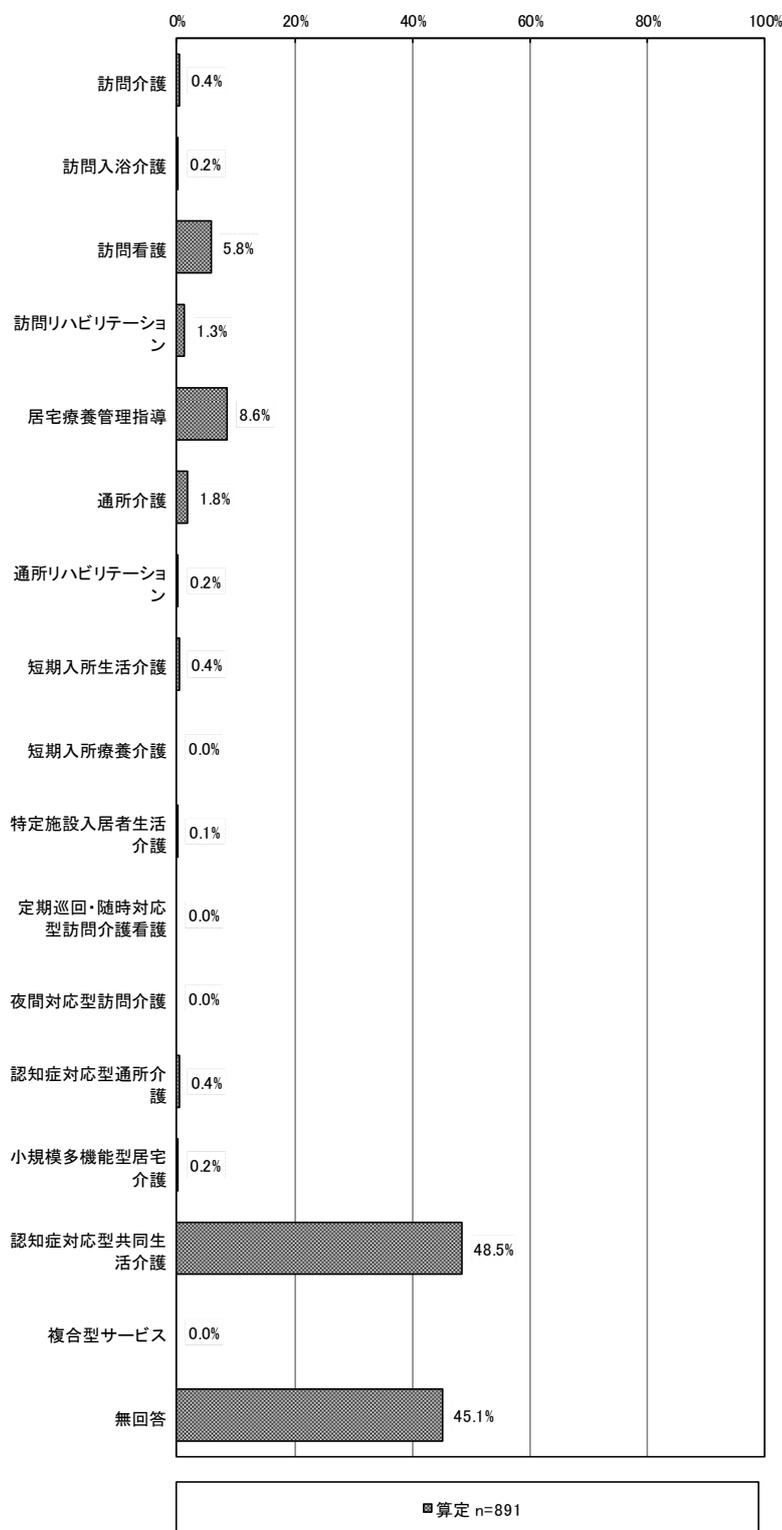


図表 1100 認知症の利用者の BPSD 表出状況の変化 区分 1 のみ

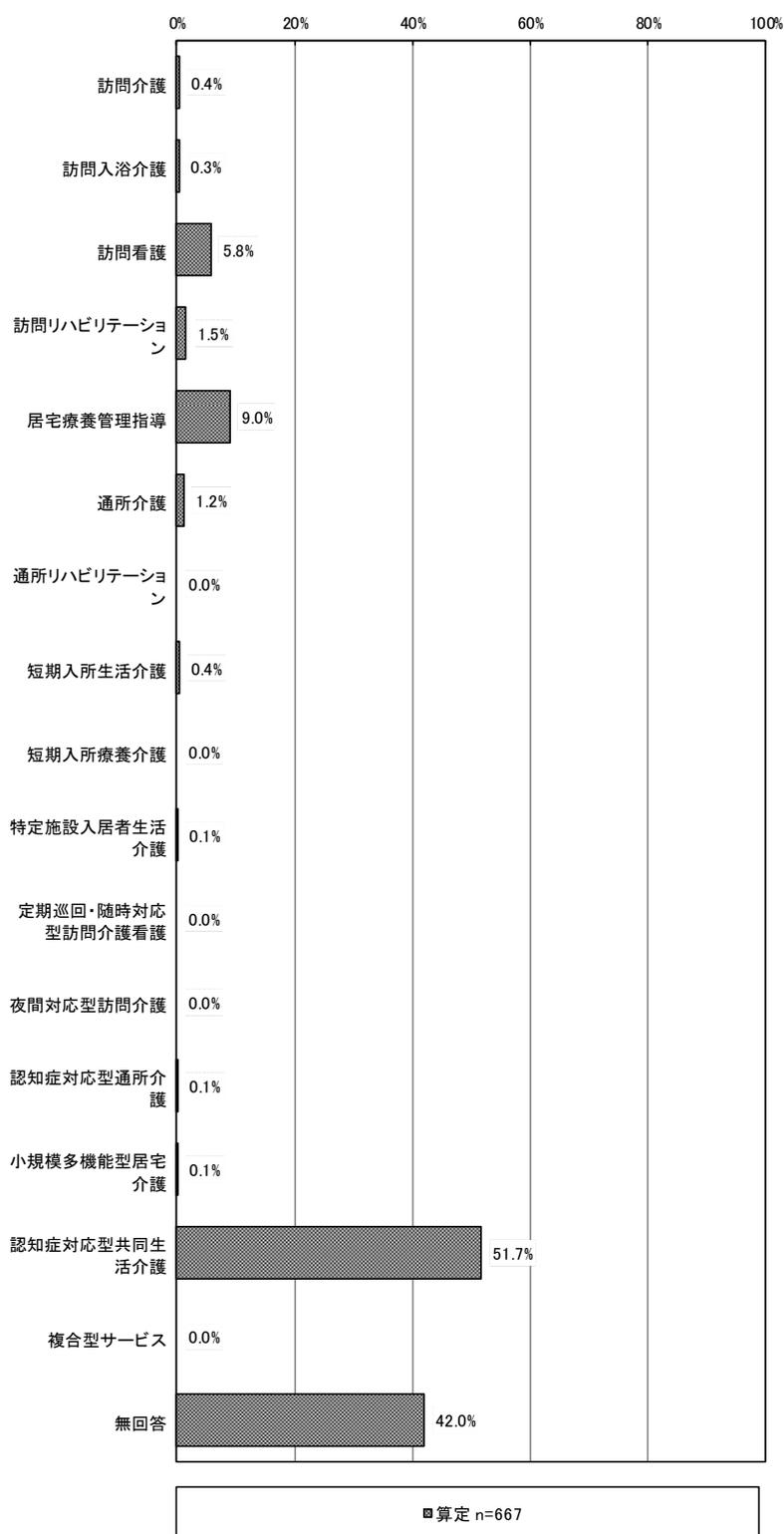


サ) 利用者が他に利用しているサービス（問 18（算定事業所・施設利用者票）・問 12（非算定事業所・施設利用者票））

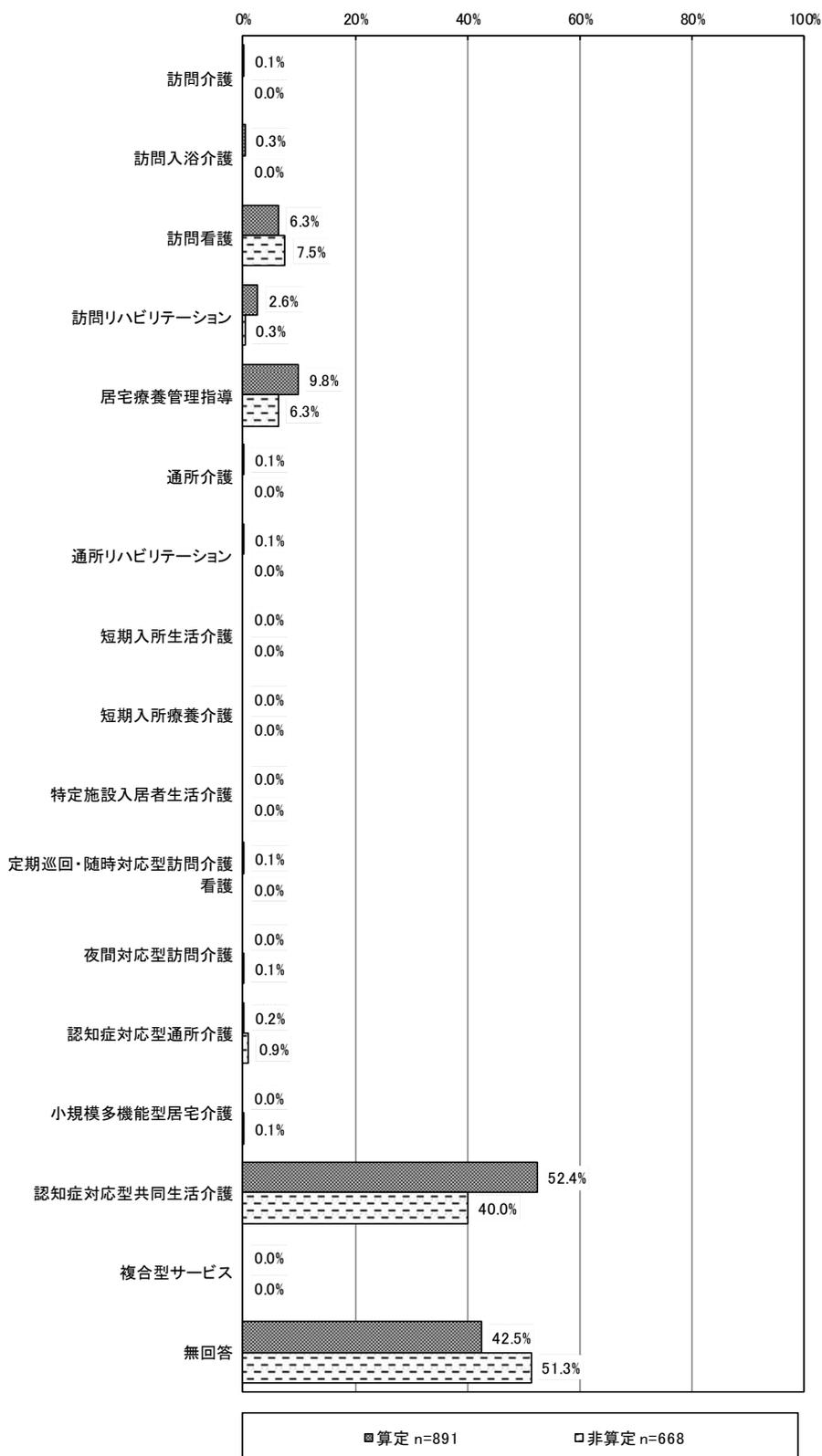
図表 1101 利用者が他に利用しているサービス ①算定前



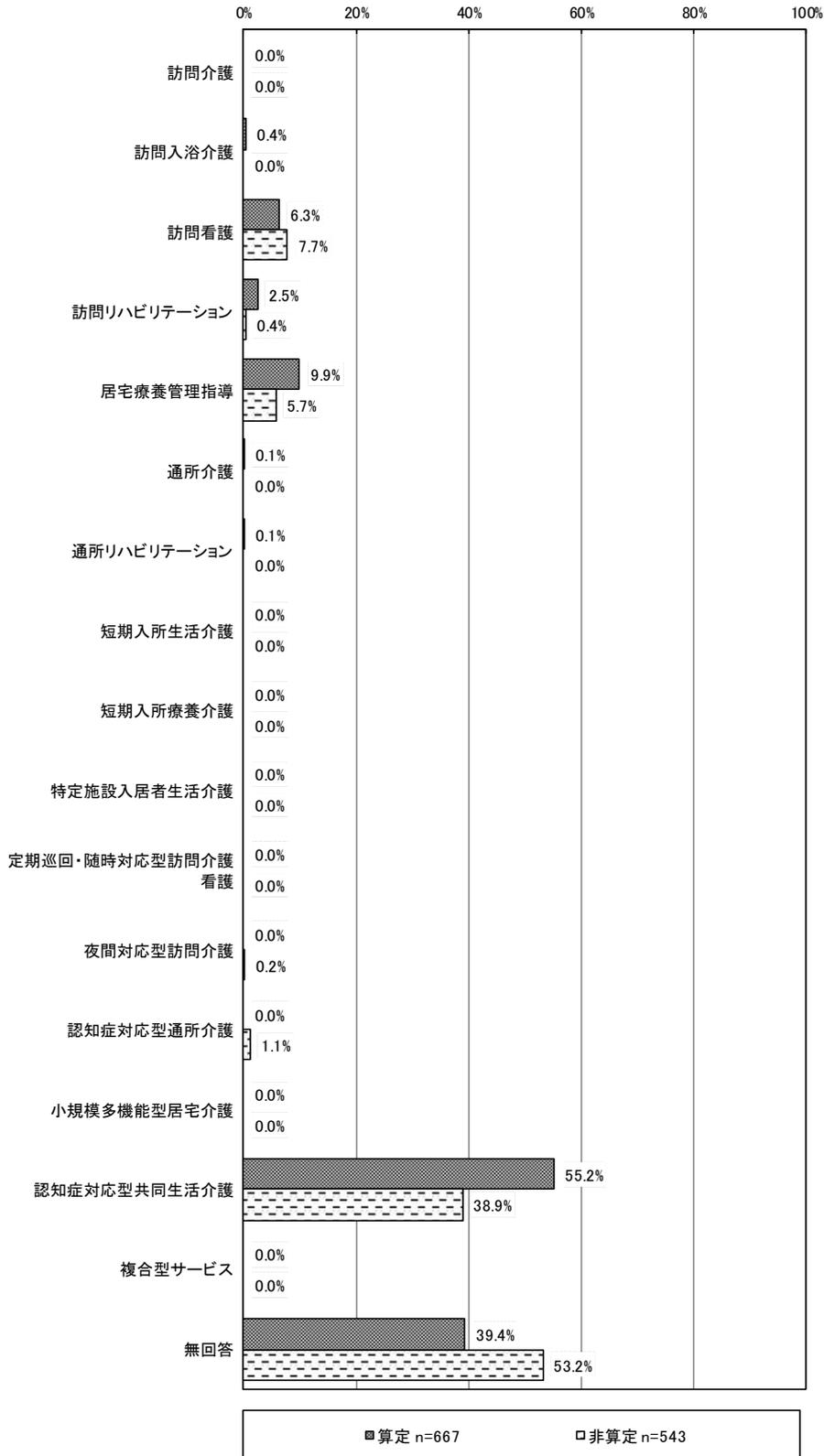
図表 1102 利用者が他に利用しているサービス ①算定前 区分1のみ



図表 1103 利用者が他に利用しているサービス ②算定以後



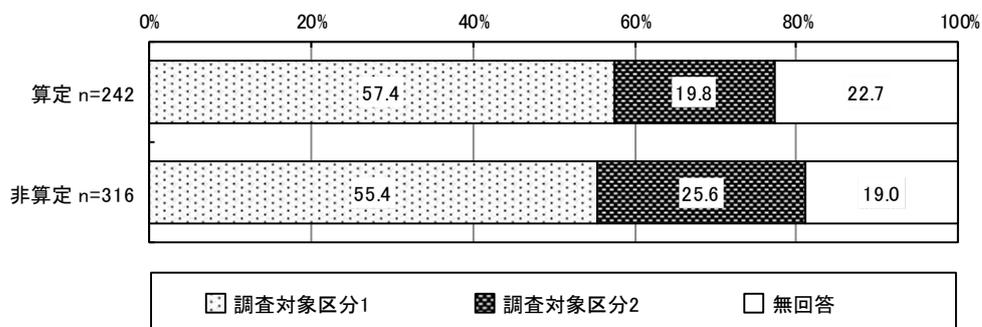
図表 1104 利用者が他に利用しているサービス ②算定以後 区分1のみ



## (6) 介護老人福祉施設

### ア) 利用者の調査対象区分 (問 0)

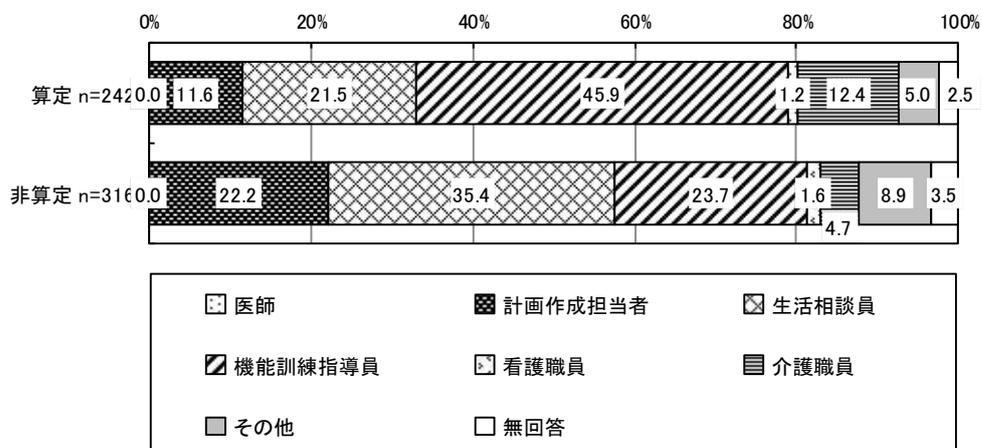
図表 1105 利用者の調査対象区分



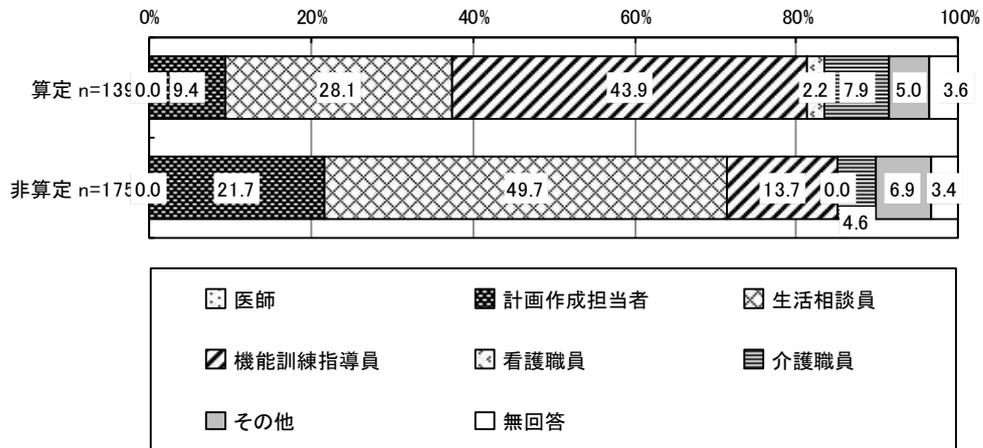
## I. 回答者の属性

### ア) 回答者の職種 (問 1)

図表 1106 回答者の職種



図表 1107 回答者の職種 区分1のみ



※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

- ・ (算定) 施設長
- ・ (算定) 施設管理者
- ・ (非算定) 管理者
- ・ (非算定) 施設長

## Ⅱ. 利用者の情報

### ア) 年齢 (問 2)

図表 1108 年齢

(単位: 歳)

件数	平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
算定 n=242	87.3	7.5	88	102	59
非算定 n=312	87.1	7.9	88	108	55

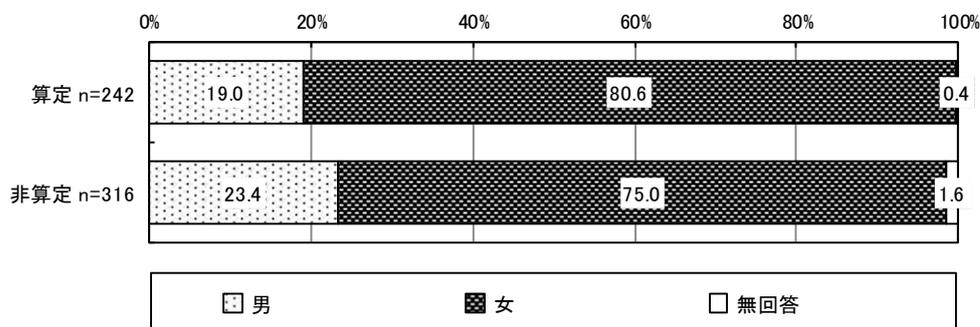
図表 年齢 区分 1 のみ

(単位: 歳)

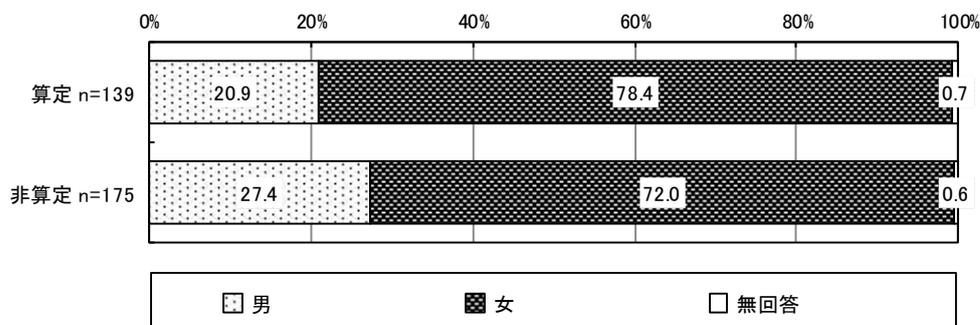
件数	平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
算定 n=139	86.8	7.6	88	101	59
非算定 n=175	87.3	8.0	88	108	65

### イ) 性別 (問 3)

図表 1109 性別

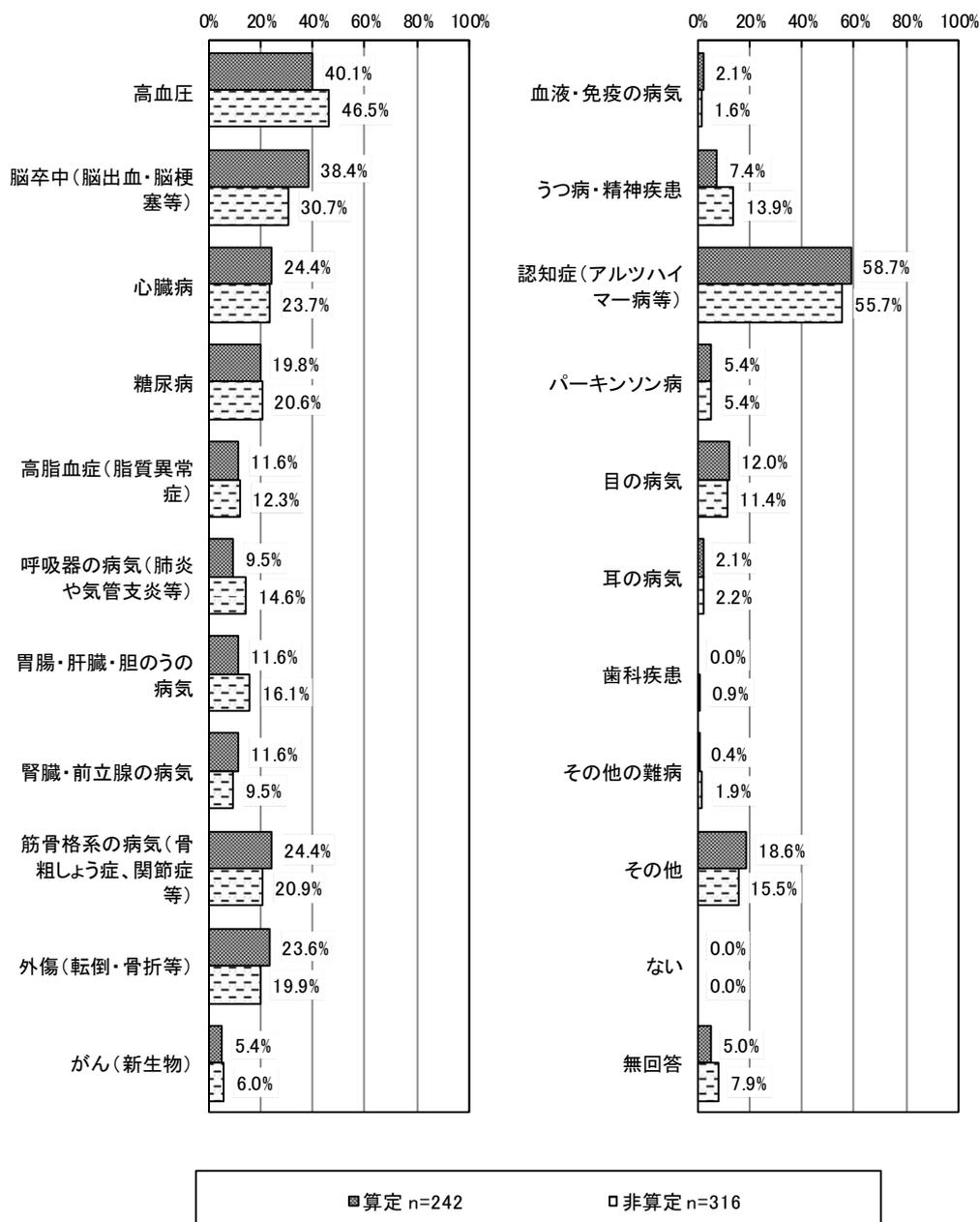


図表 1110 性別 区分 1 のみ

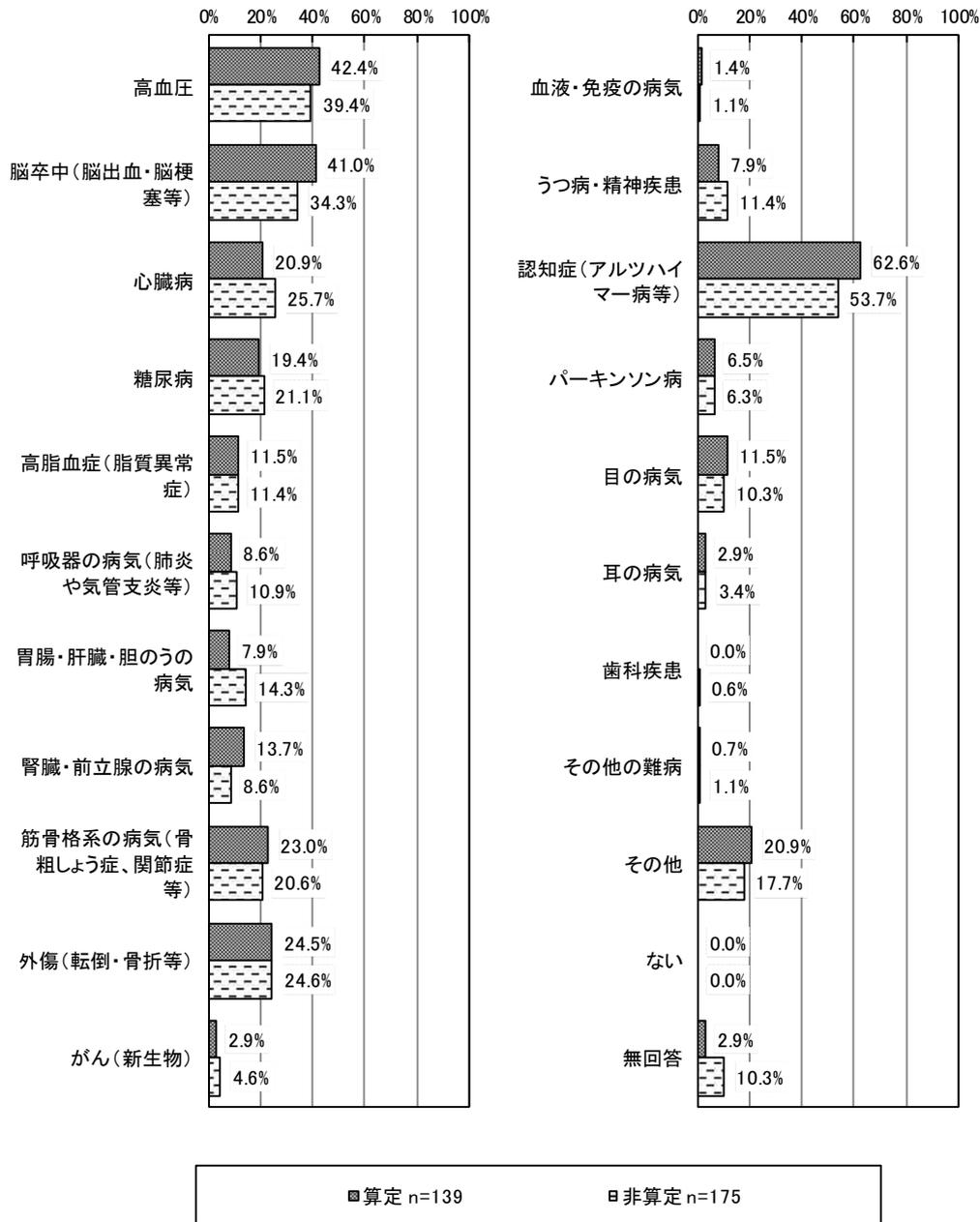


## ウ) 傷病名 (問 4)

図表 1111 傷病名



図表 1112 傷病名 区分1のみ

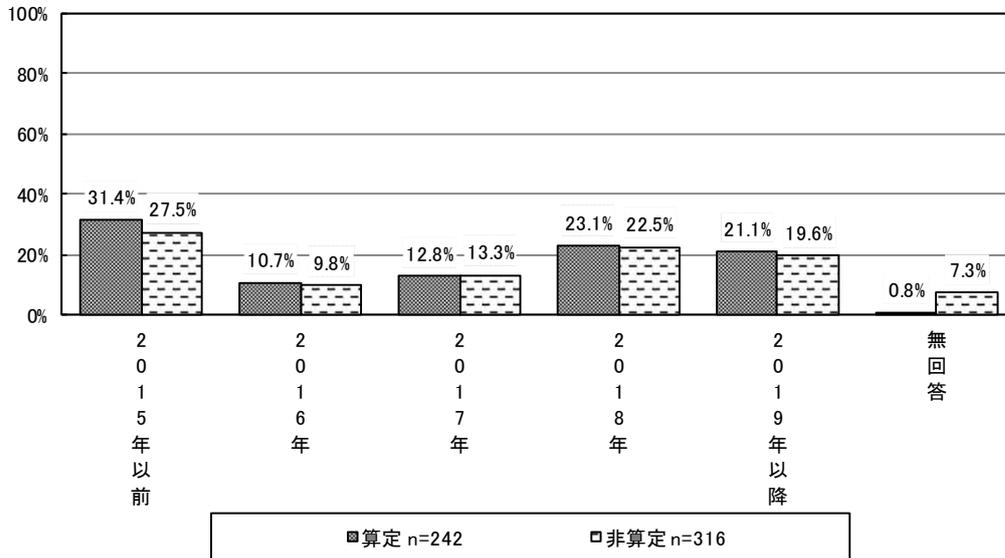


※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

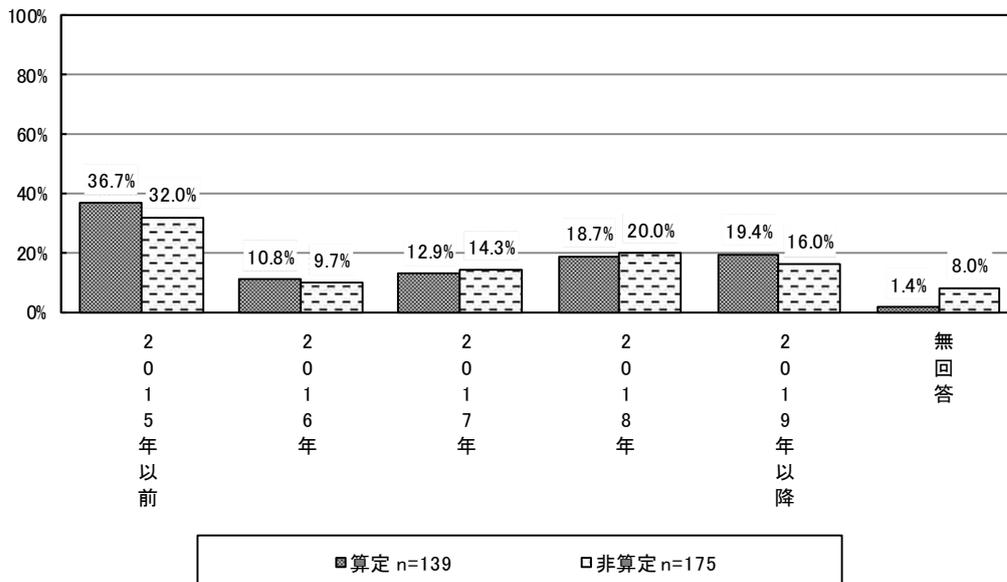
- ・(算定) 動脈瘤
- ・(算定) 脱水症
- ・(非算定) リウマチ
- ・(非算定) 短観閉鎖

エ) 事業所・施設の利用開始時期（問5）

図表 1113 事業所・施設の利用開始時期

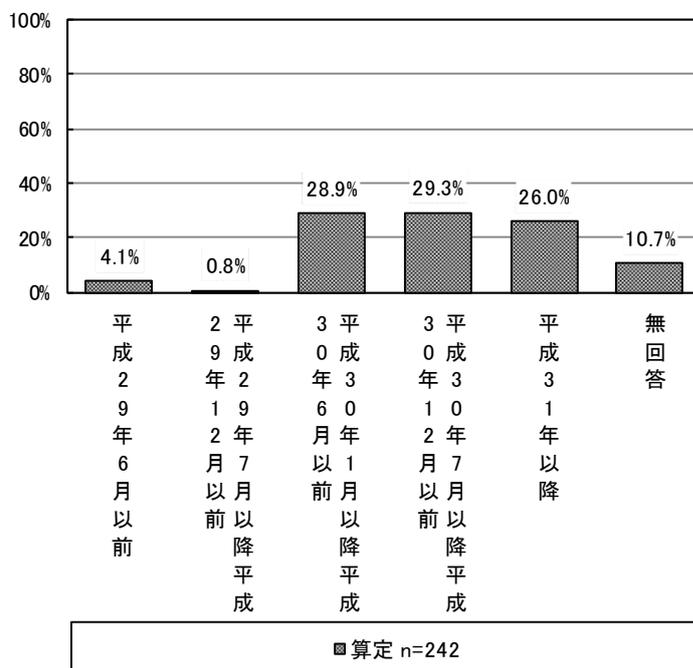


図表 1114 事業所・施設の利用開始時期 区分1のみ

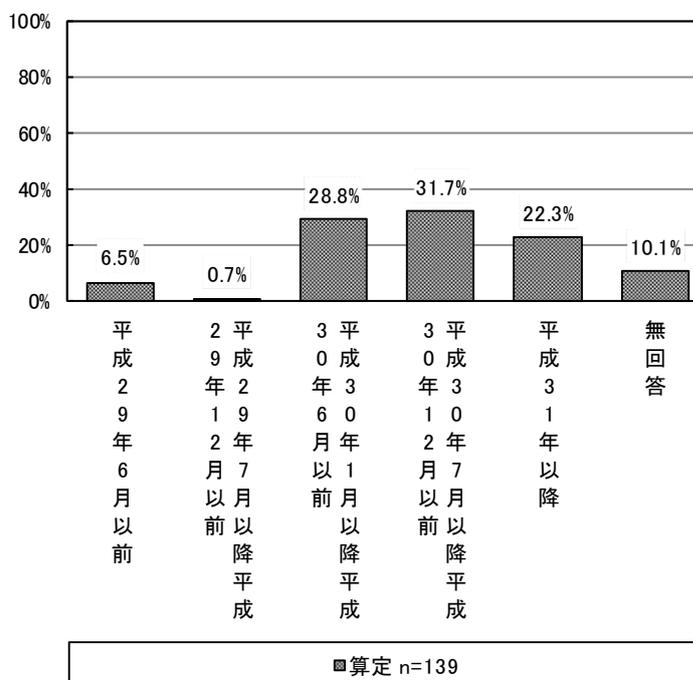


オ) 事業所・施設が加算算定に伴う連携を開始した時期（問 6）

図表 1115 事業所・施設が加算算定に伴う連携を開始した時期

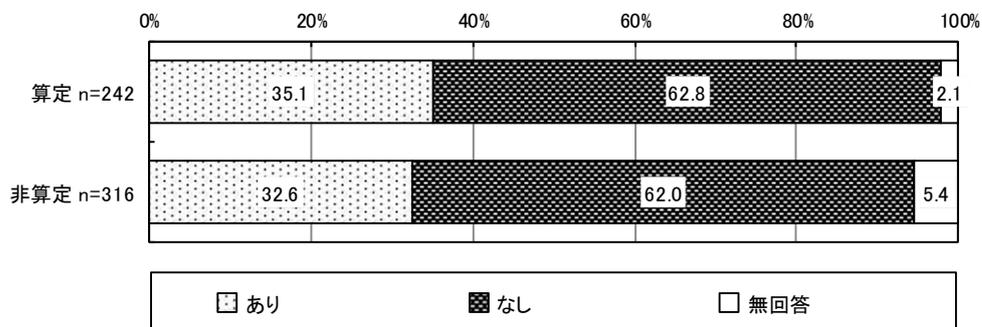


図表 1116 事業所・施設が加算算定に伴う連携を開始した時期 区分1のみ

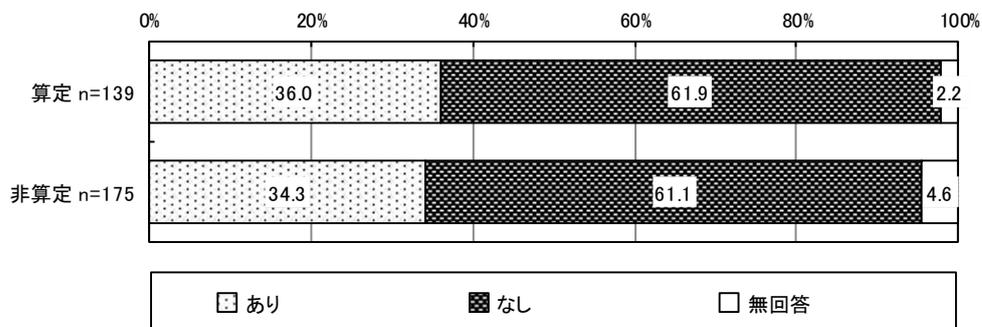


カ) 退院の有無と直近の入院期間（問7）

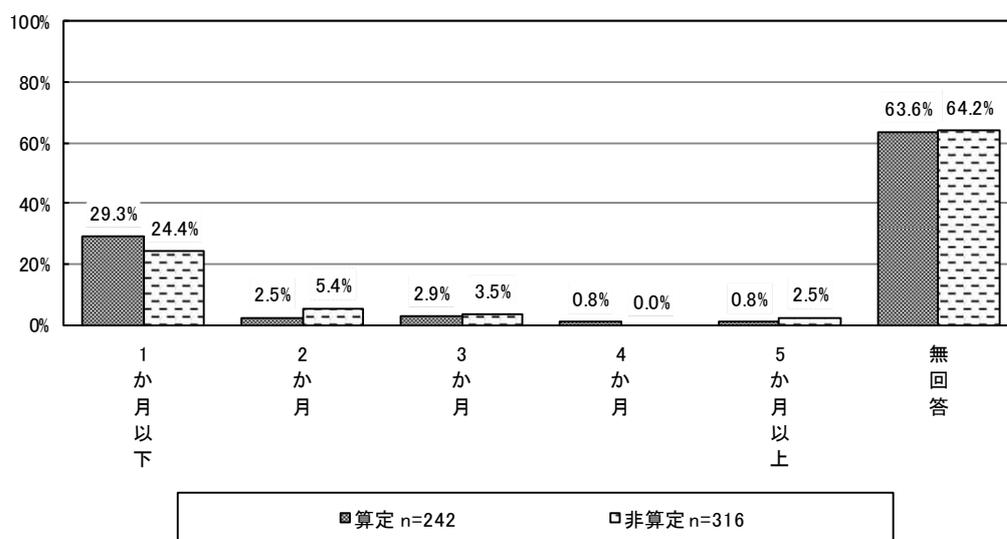
図表 1117 退院の有無



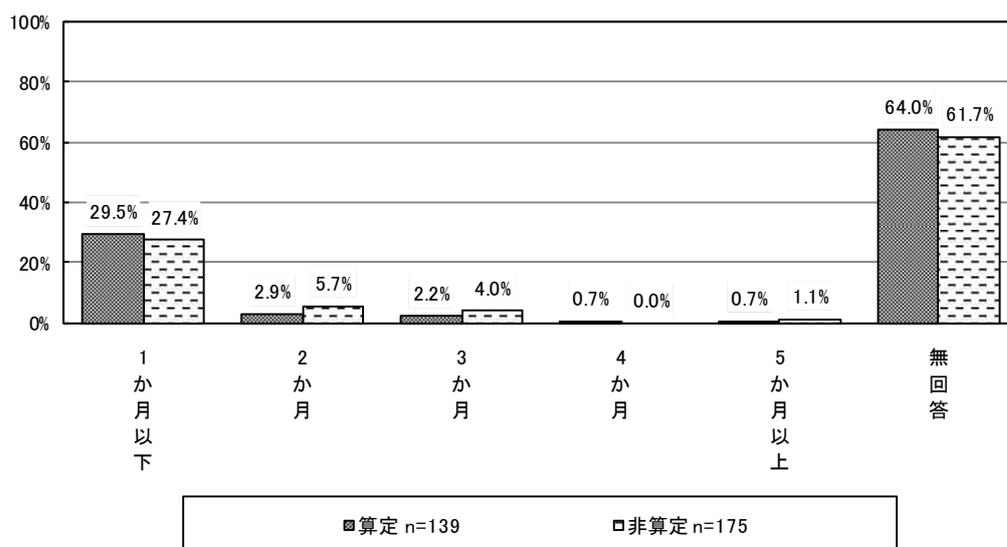
図表 1118 退院の有無 区分1のみ



図表 1119 直近の入院期間



図表 1120 直近の入院期間 区分1のみ



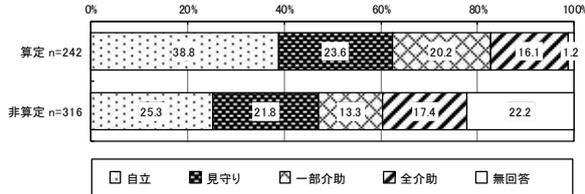
# キ) ADL・IADL の状況 (問 8)

図表 1121 ADL・IADL の状況

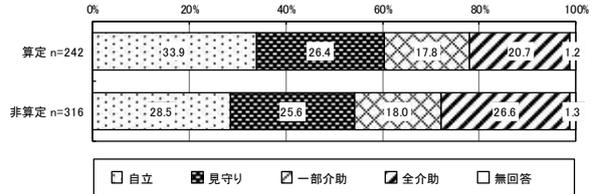
## 食事

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



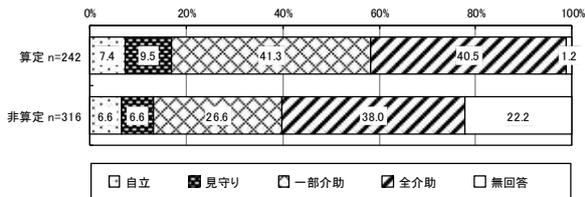
②令和元年 10 月 1 日時点



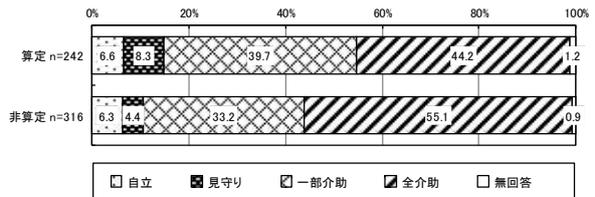
## 排泄

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



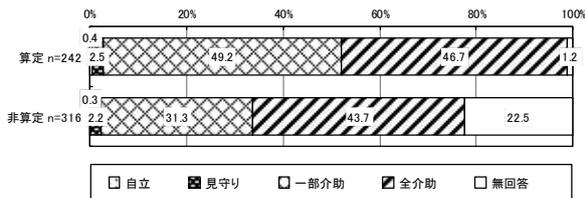
②令和元年 10 月 1 日時点



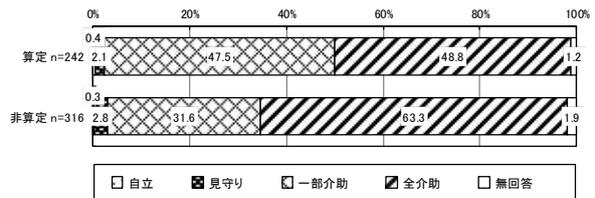
## 入浴

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



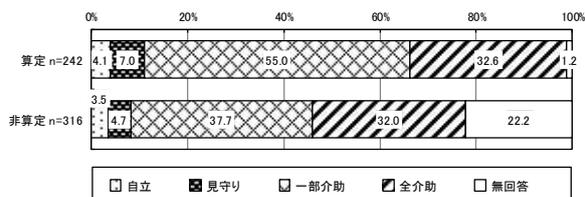
②令和元年 10 月 1 日時点



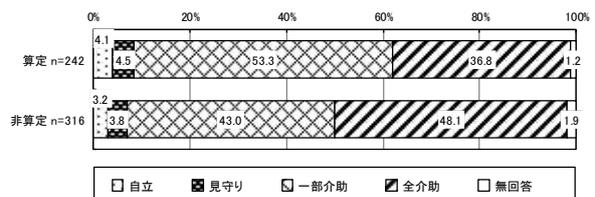
## 更衣

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



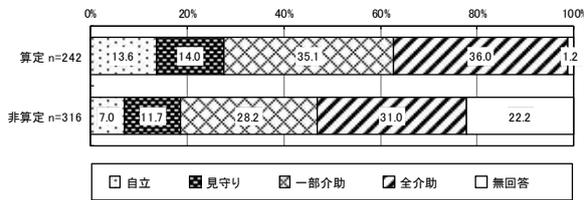
②令和元年 10 月 1 日時点



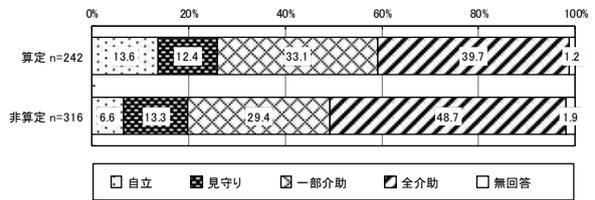
## 整容

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



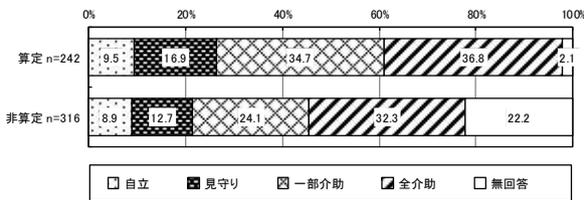
②令和元年10月1日時点



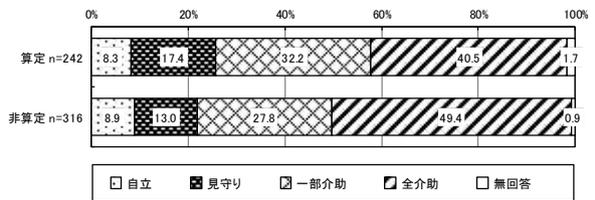
## 移乗

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



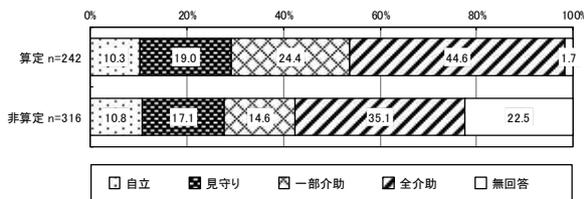
②令和元年10月1日時点



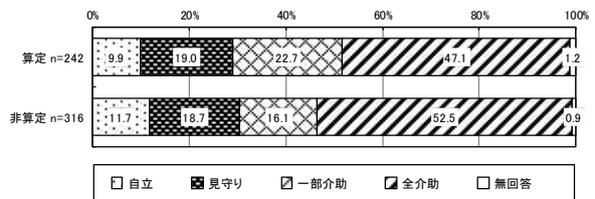
## 屋内移動

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



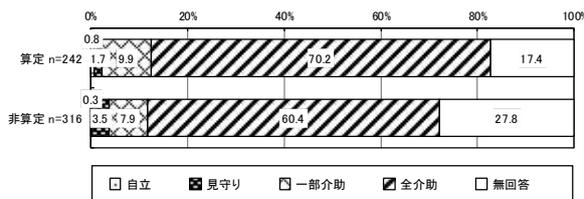
②令和元年10月1日時点



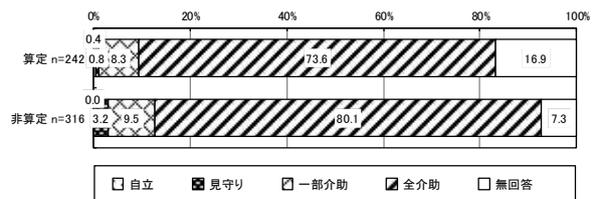
## 階段昇降

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



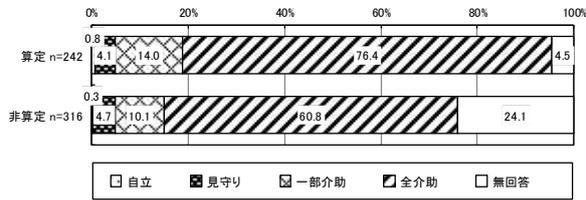
②令和元年10月1日時点



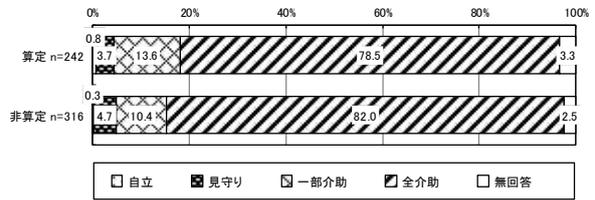
## 屋外移動

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



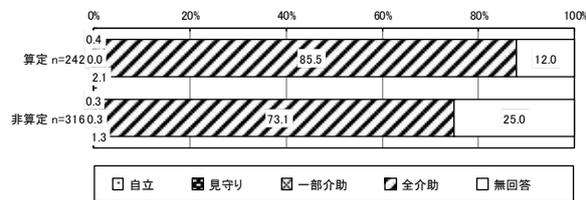
②令和元年10月1日時点



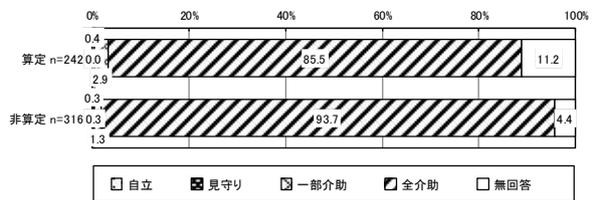
## 調理

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



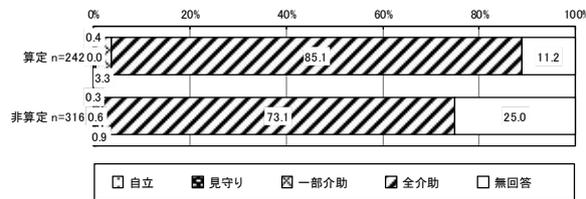
②令和元年10月1日時点



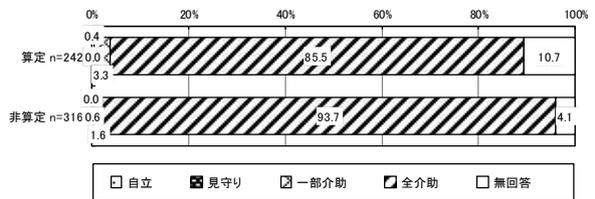
## 洗濯

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



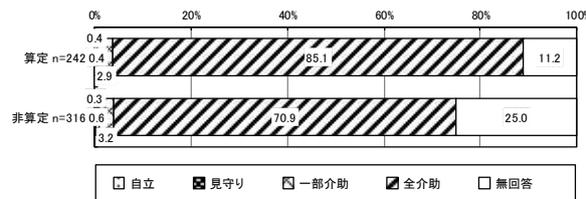
②令和元年10月1日時点



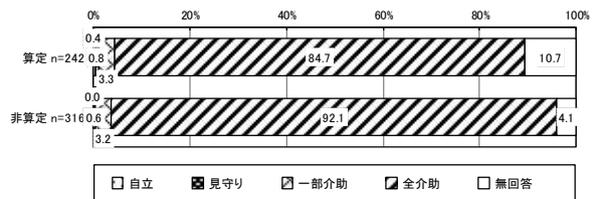
## 掃除

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



②令和元年10月1日時点

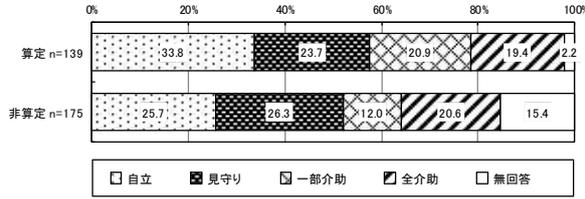


\*\*\*\*\*

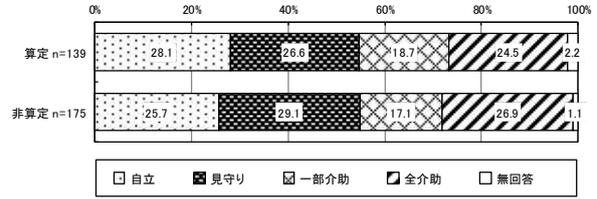
食事 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



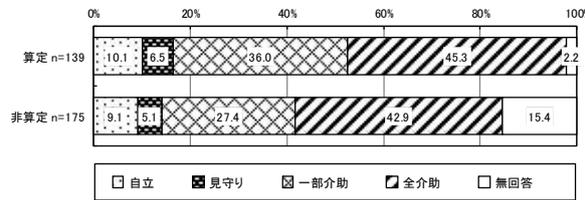
②令和元年10月1日時点



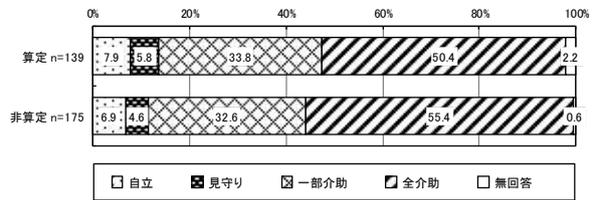
排泄 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



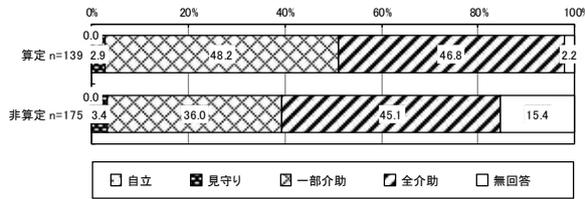
②令和元年10月1日時点



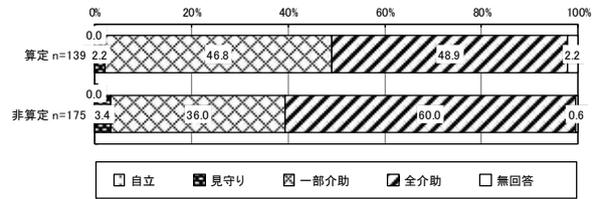
入浴 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



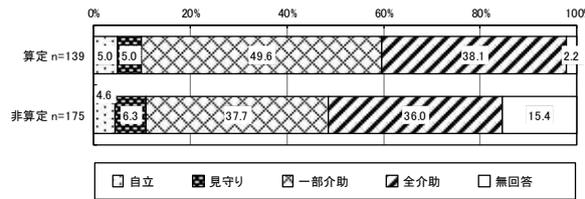
②令和元年10月1日時点



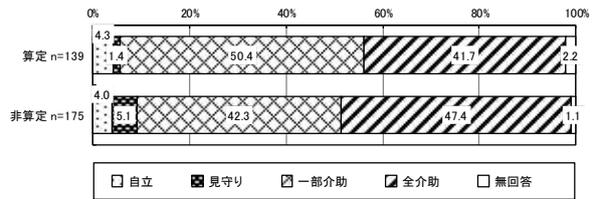
更衣 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



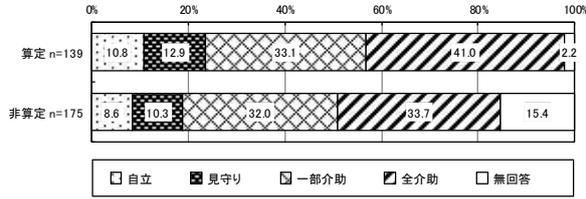
②令和元年10月1日時点



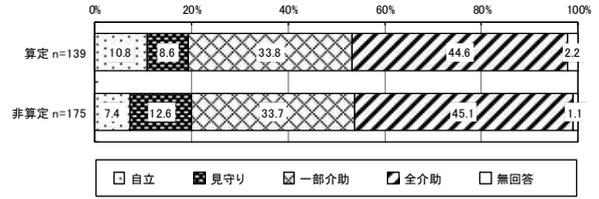
整容 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



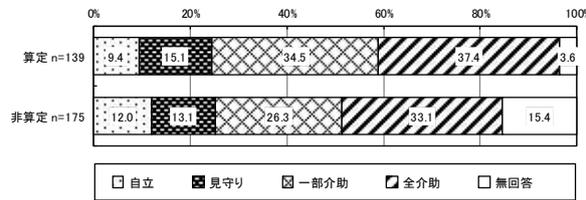
②令和元年10月1日時点



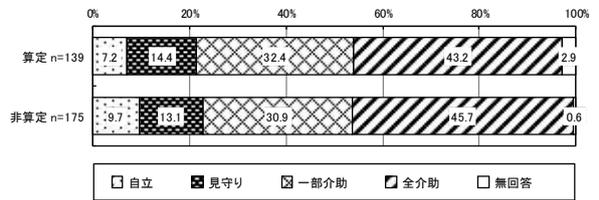
移乗 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



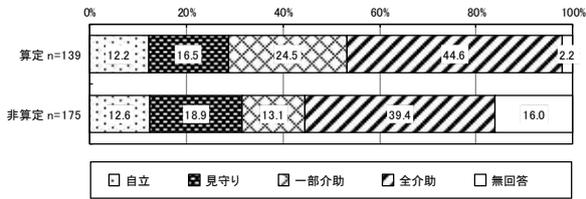
②令和元年10月1日時点



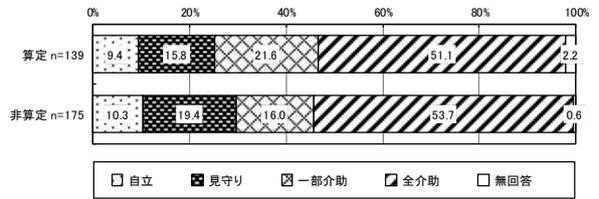
屋内移動 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



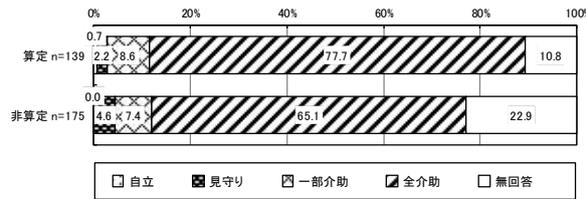
②令和元年10月1日時点



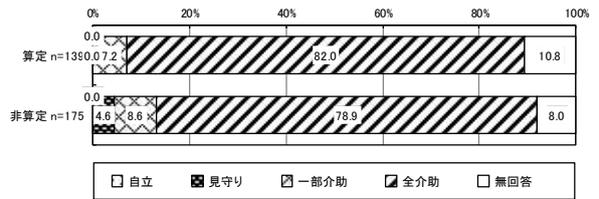
階段昇降 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



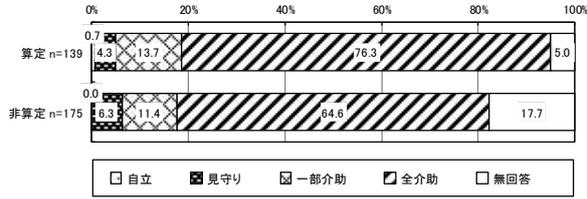
②令和元年10月1日時点



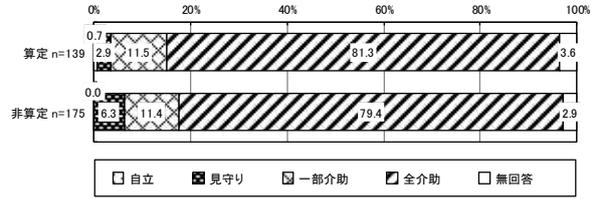
屋外移動 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



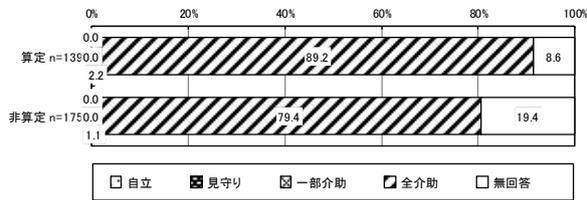
②令和元年10月1日時点



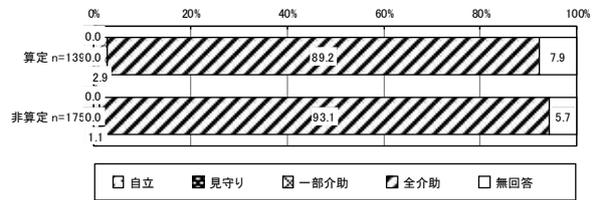
調理 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



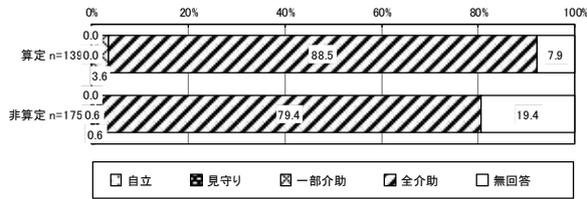
②令和元年10月1日時点



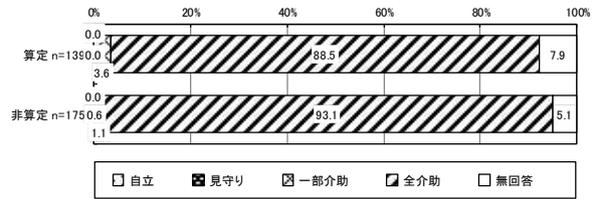
洗濯 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



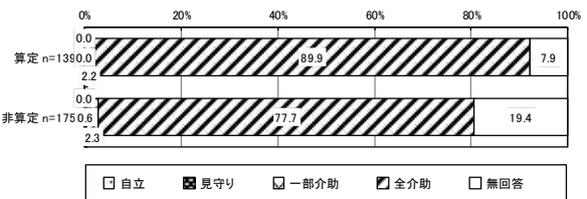
②令和元年10月1日時点



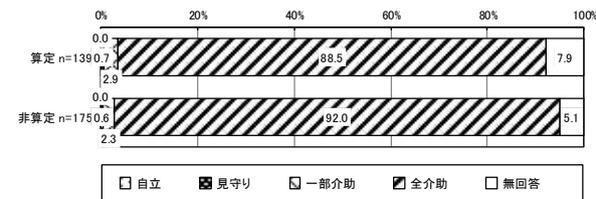
掃除 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点

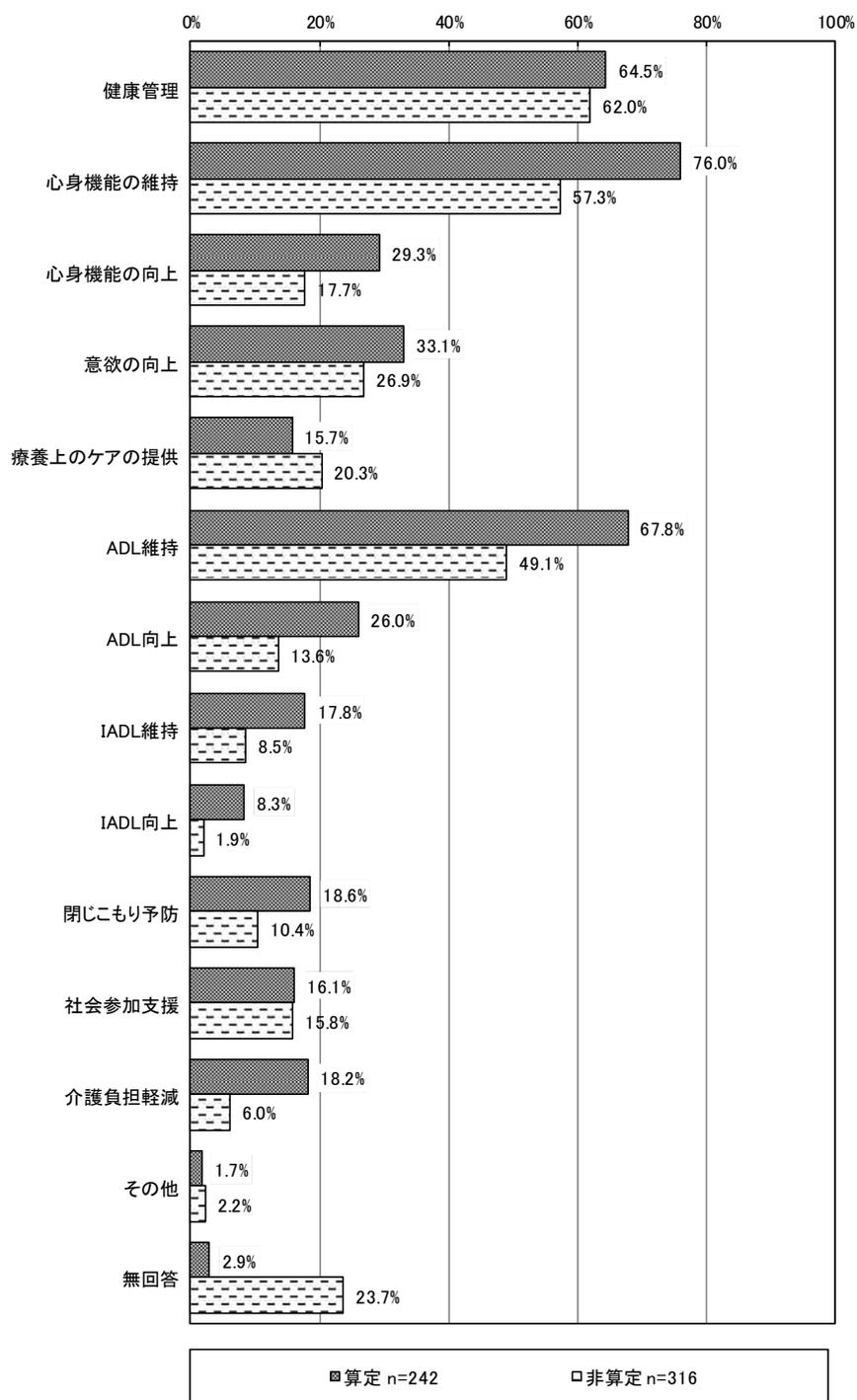


②令和元年10月1日時点

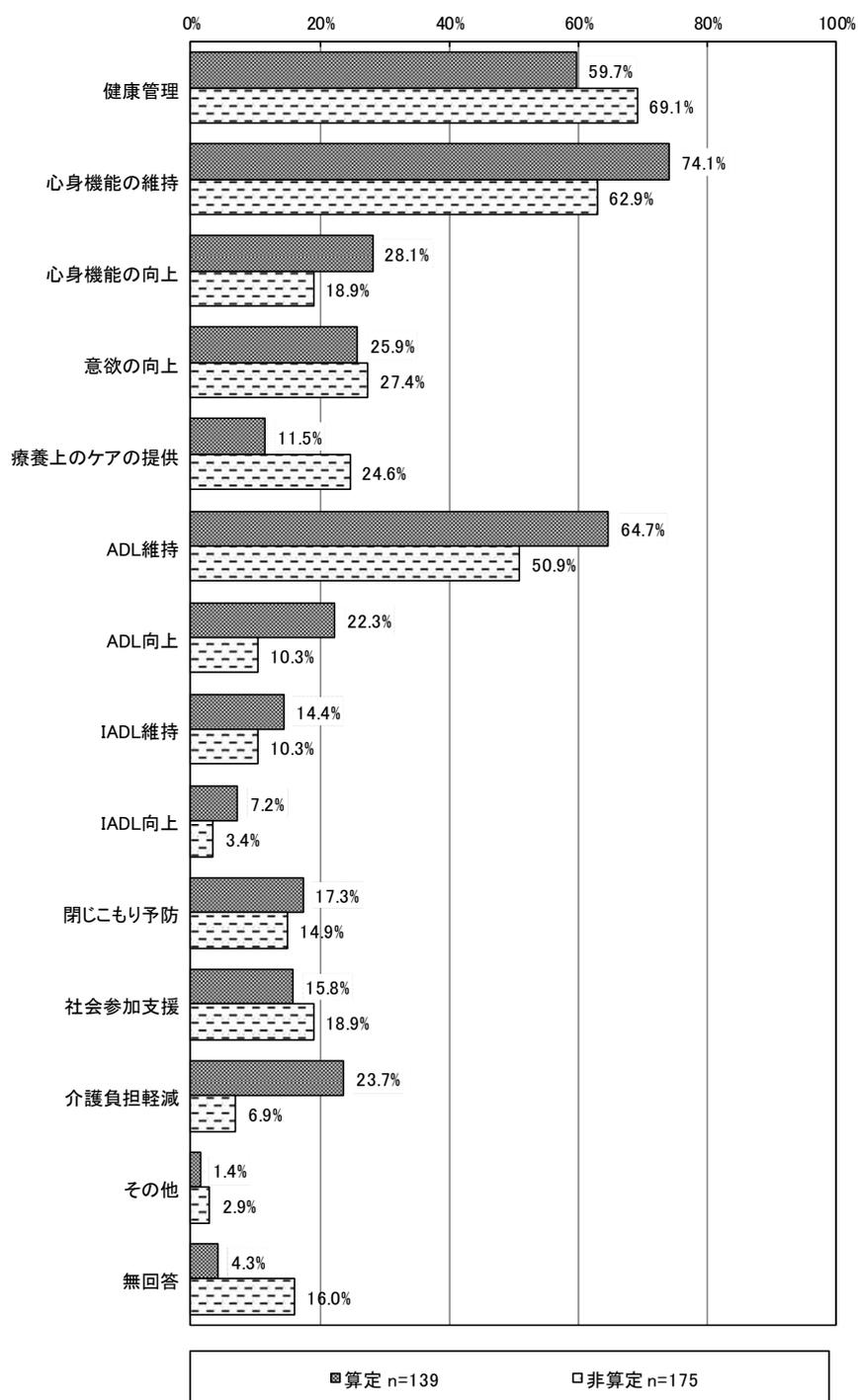


## ク) ケアプランの目標 (問 9)

図表 1122 目標 ①加算算定に伴う連携の開始時点



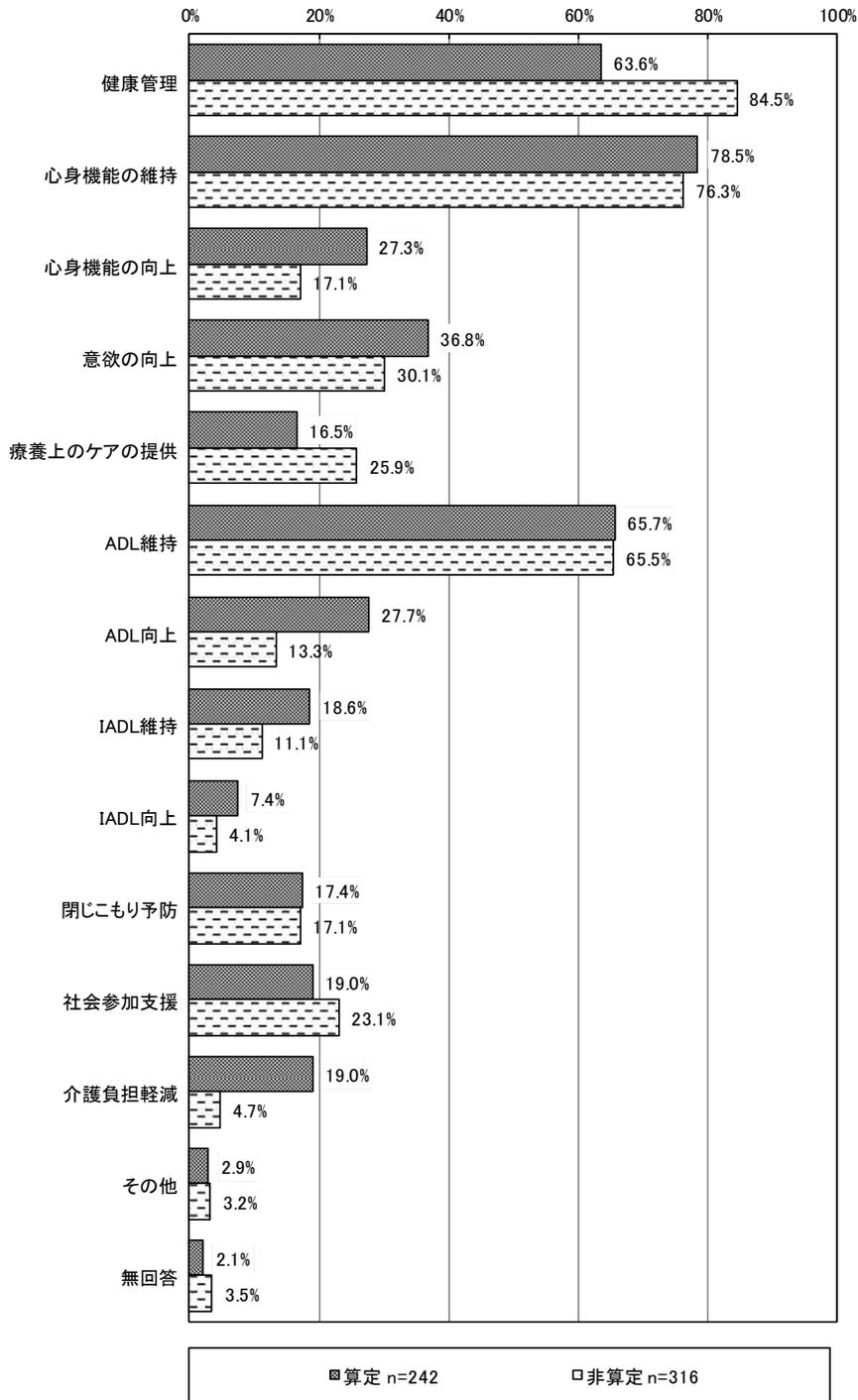
図表 1123 目標 ①加算算定に伴う連携の開始時点 区分1のみ



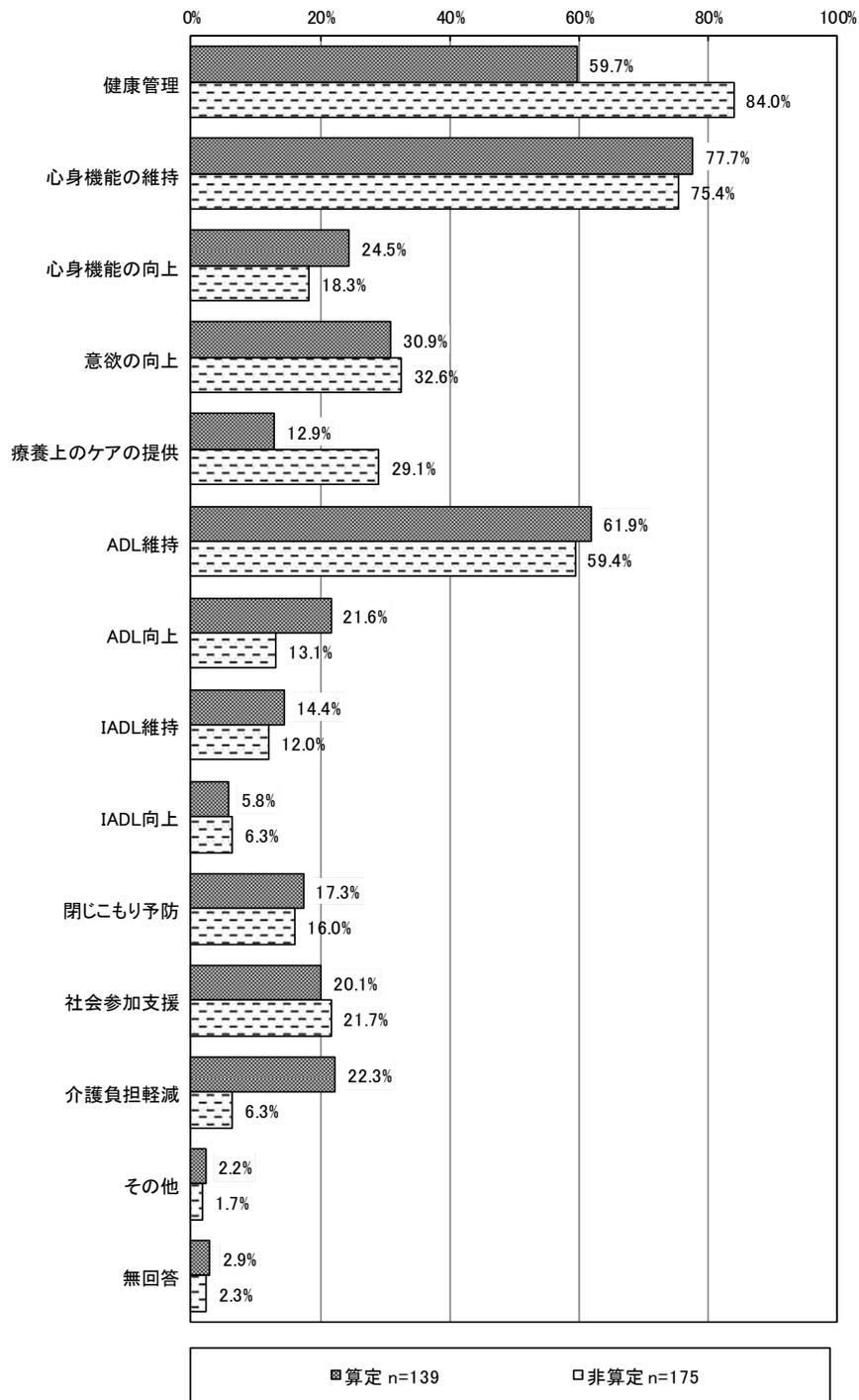
※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

- ・(算定) 拘縮予防
- ・(算定) 転倒リスク軽減
- ・(非算定) 皮膚トラブルの回避
- ・(非算定) 痛みの軽減

図表 1124 目標 ②令和元年 10 月 1 日時点



図表 1125 目標 ②令和元年10月1日時点 区分1のみ



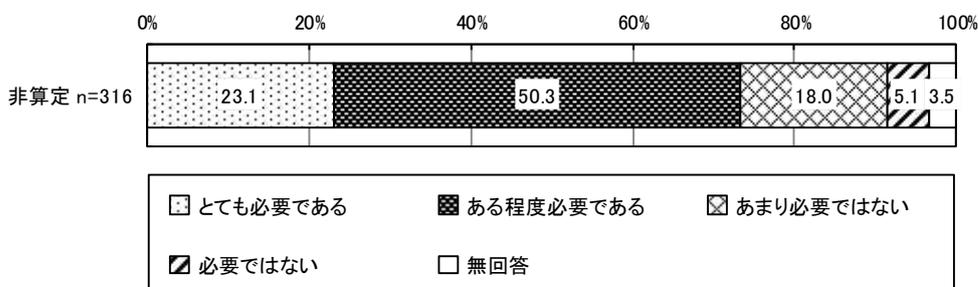
※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

- ・(算定) 拘縮予防
- ・(算定) 栄養状態の維持
- ・(非算定) 安全な施設生活
- ・(非算定) 不安の解消

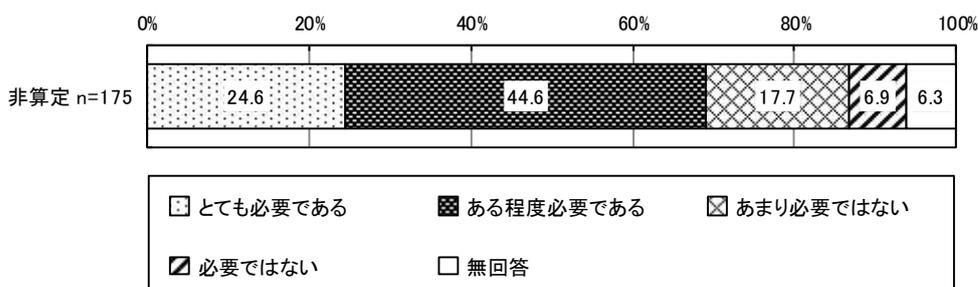
ケ) 利用者の ADL、IADL の状況や課題から判断した、リハ専門職等<sup>※</sup>との連携の必要性 (問 10 (非算定事業所・施設利用者票))

※理学療法士、作業療法士、言語聴覚士又はリハビリテーション科専門医

図表 1126 リハ専門職等との連携の必要性

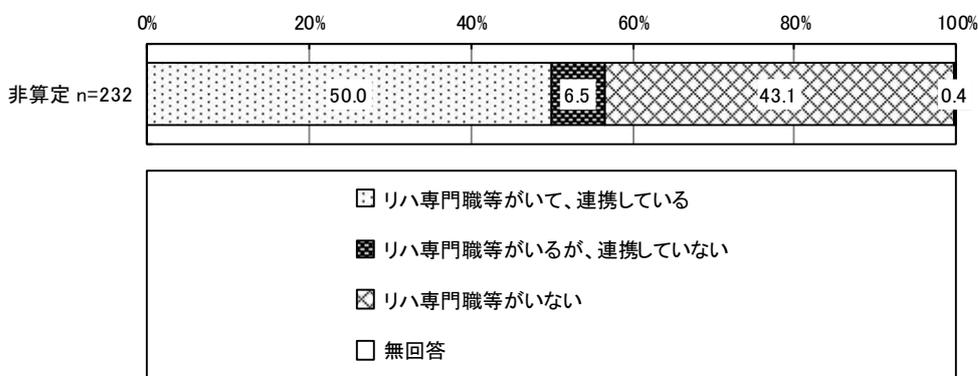


図表 1127 リハ専門職等との連携の必要性 区分1のみ

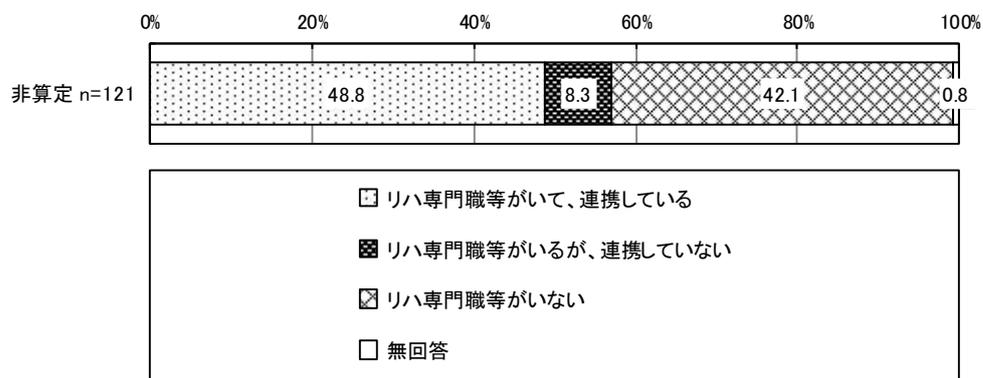


コ) 同一法人内のリハ専門職等の存在および連携の有無 (問 11 (非算定事業所・施設利用者票))

図表 1128 同一法人内のリハ専門職等の存在および連携の有無



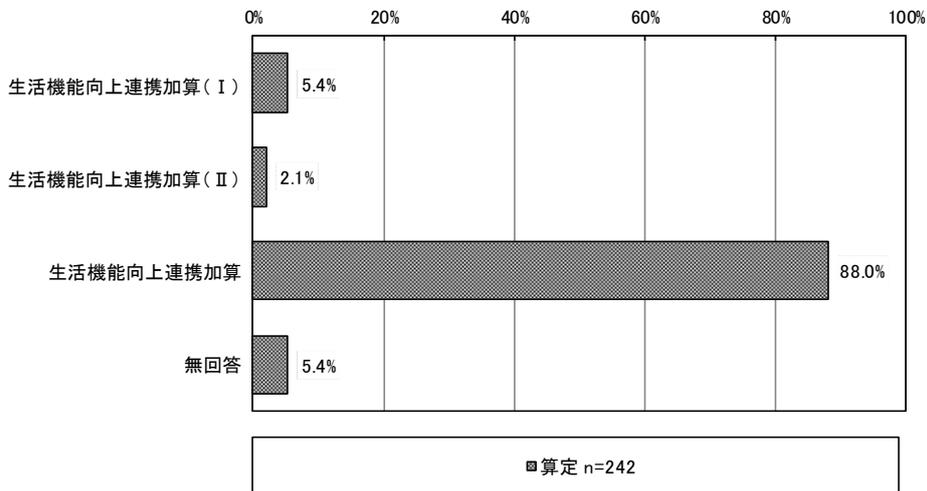
図表 1129 同一法人内のリハ専門職等の存在および連携の有無 区分1のみ



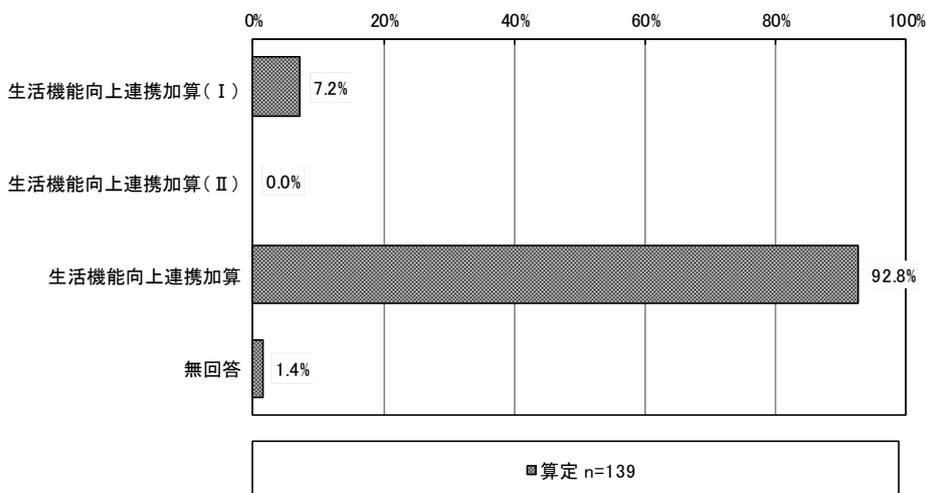
### Ⅲ. 生活機能向上連携加算の算定状況

#### ア) 算定状況 (問 10)

図表 1130 算定状況

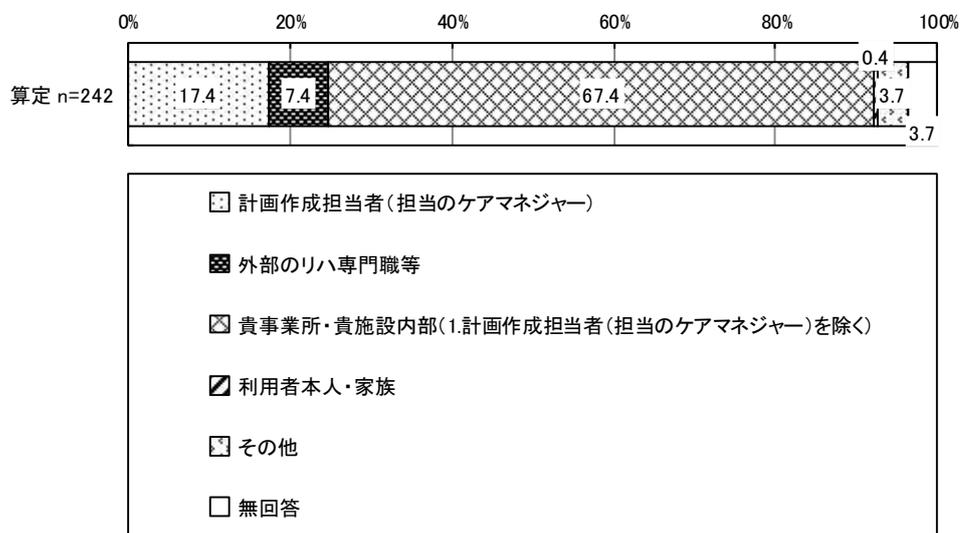


図表 1131 算定状況 区分1のみ

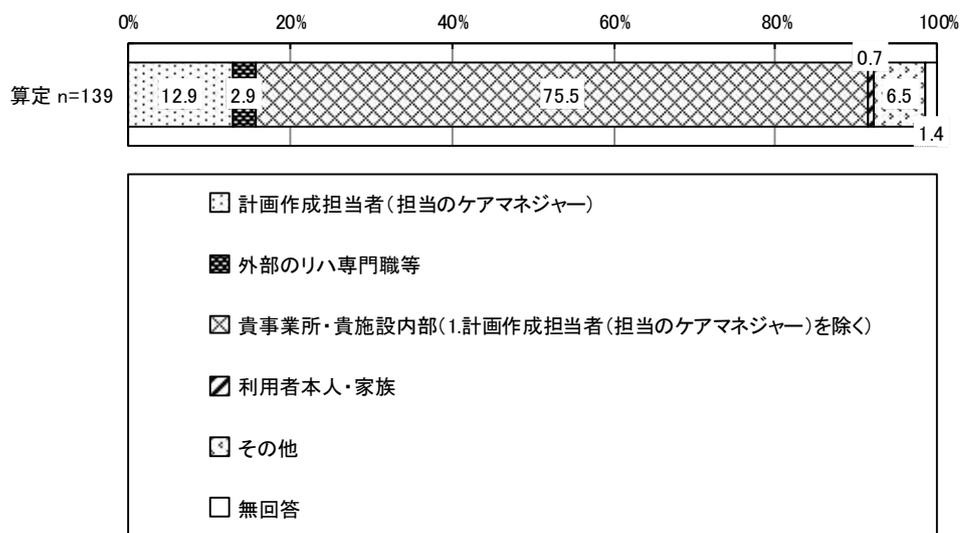


## イ) 算定の提案者 (問 11)

図表 1132 算定の提案者



図表 1133 算定の提案者 区分1のみ

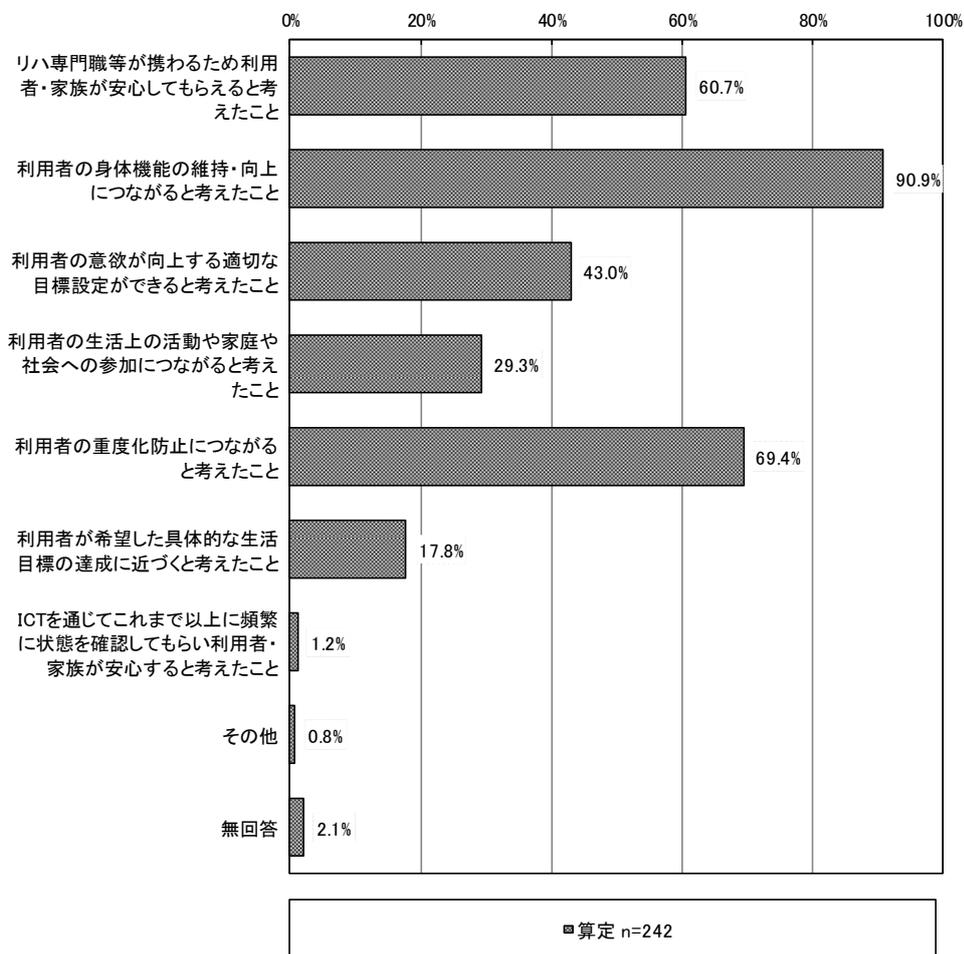


※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

・法人

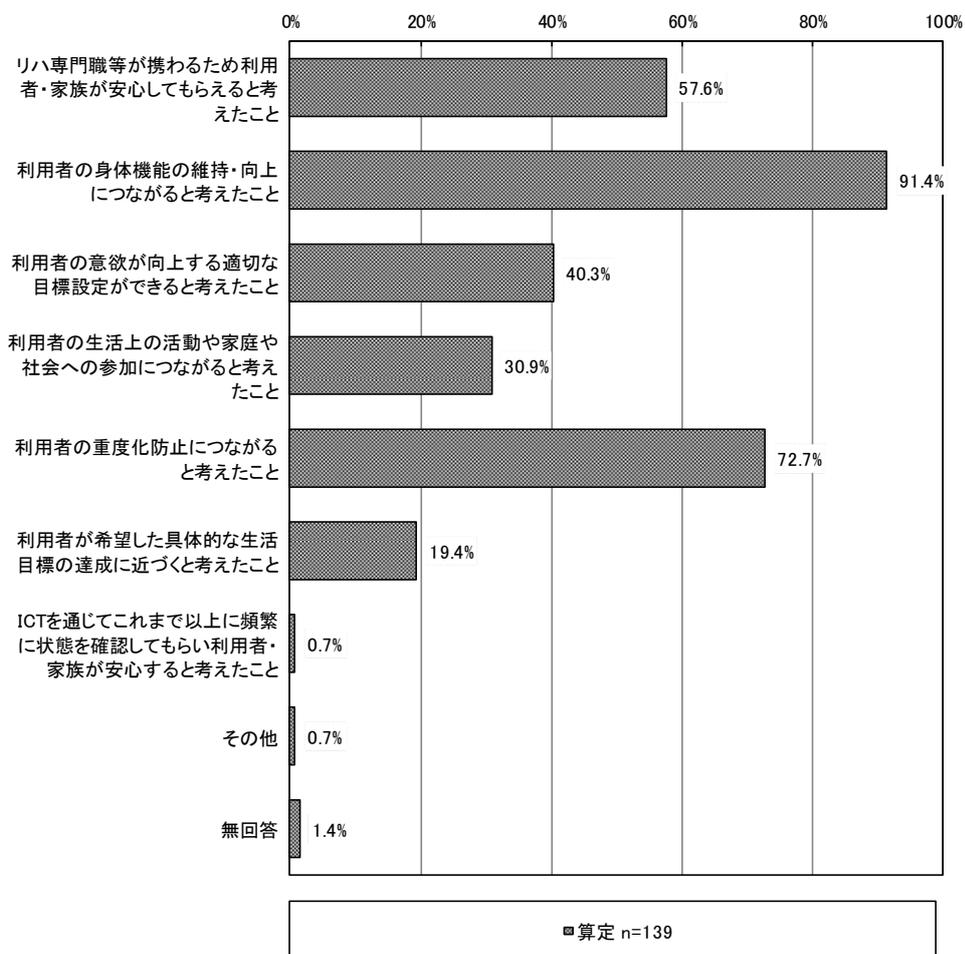
## ウ) 算定を提案した理由 (問 11-2)

図表 1134 算定を提案した理由



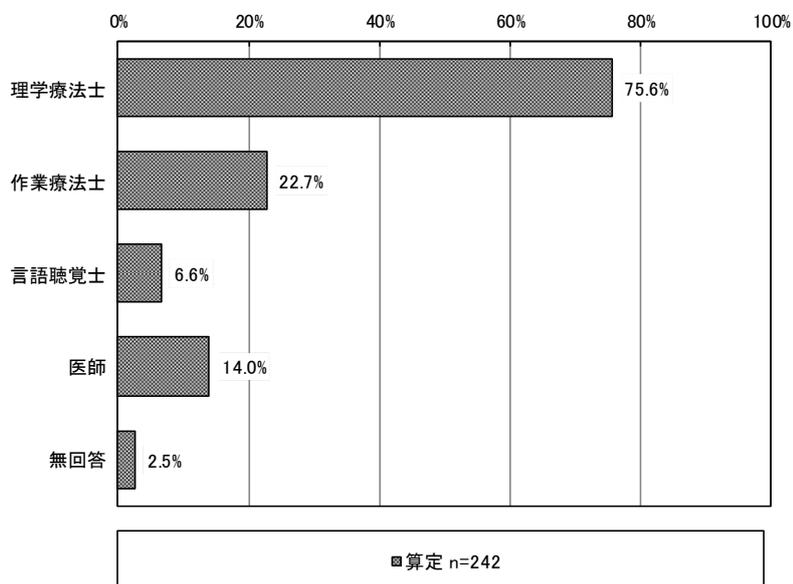
※その他として挙げられた有効な回答は無し。

図表 1135 算定を提案した理由 区分1のみ

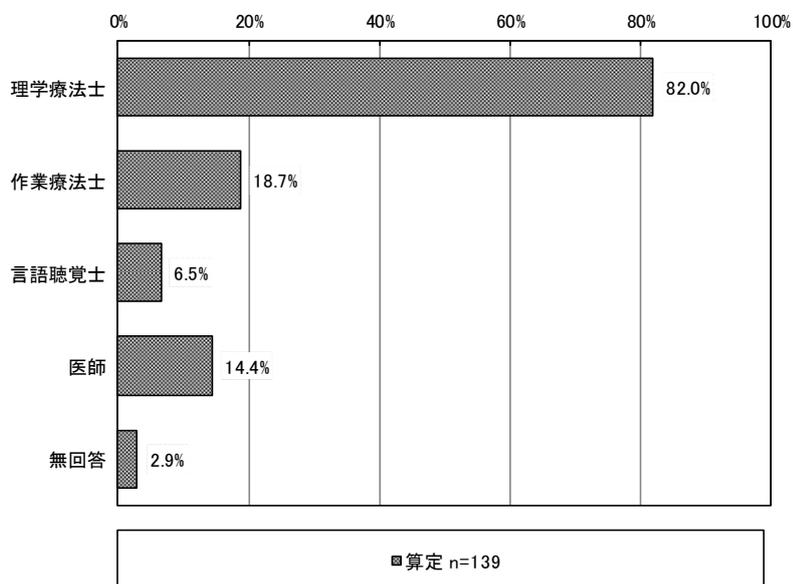


エ) 連携している外部の職種 (問 12)

図表 1136 連携している外部の職種

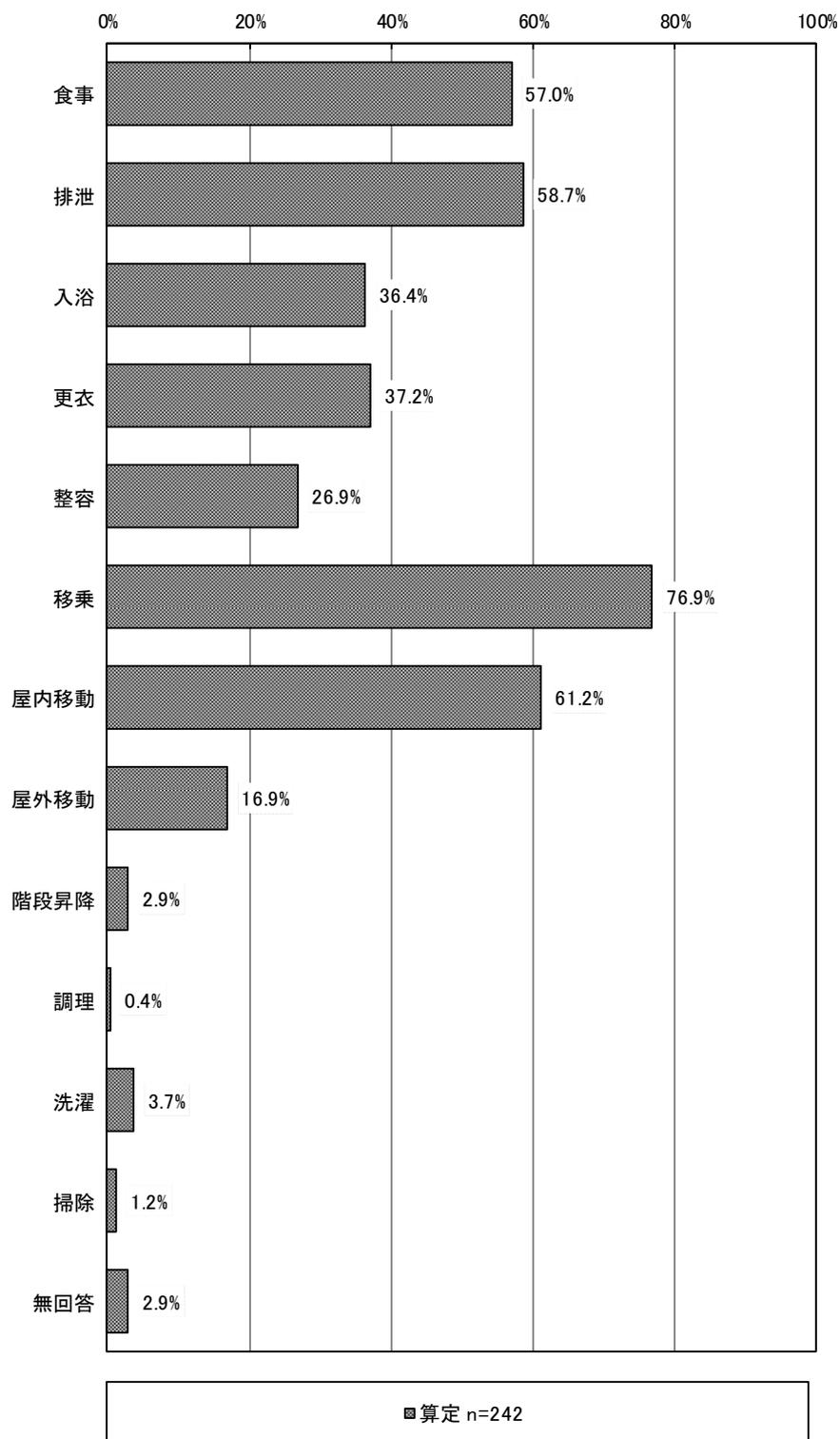


図表 1137 連携している外部の職種 区分1のみ

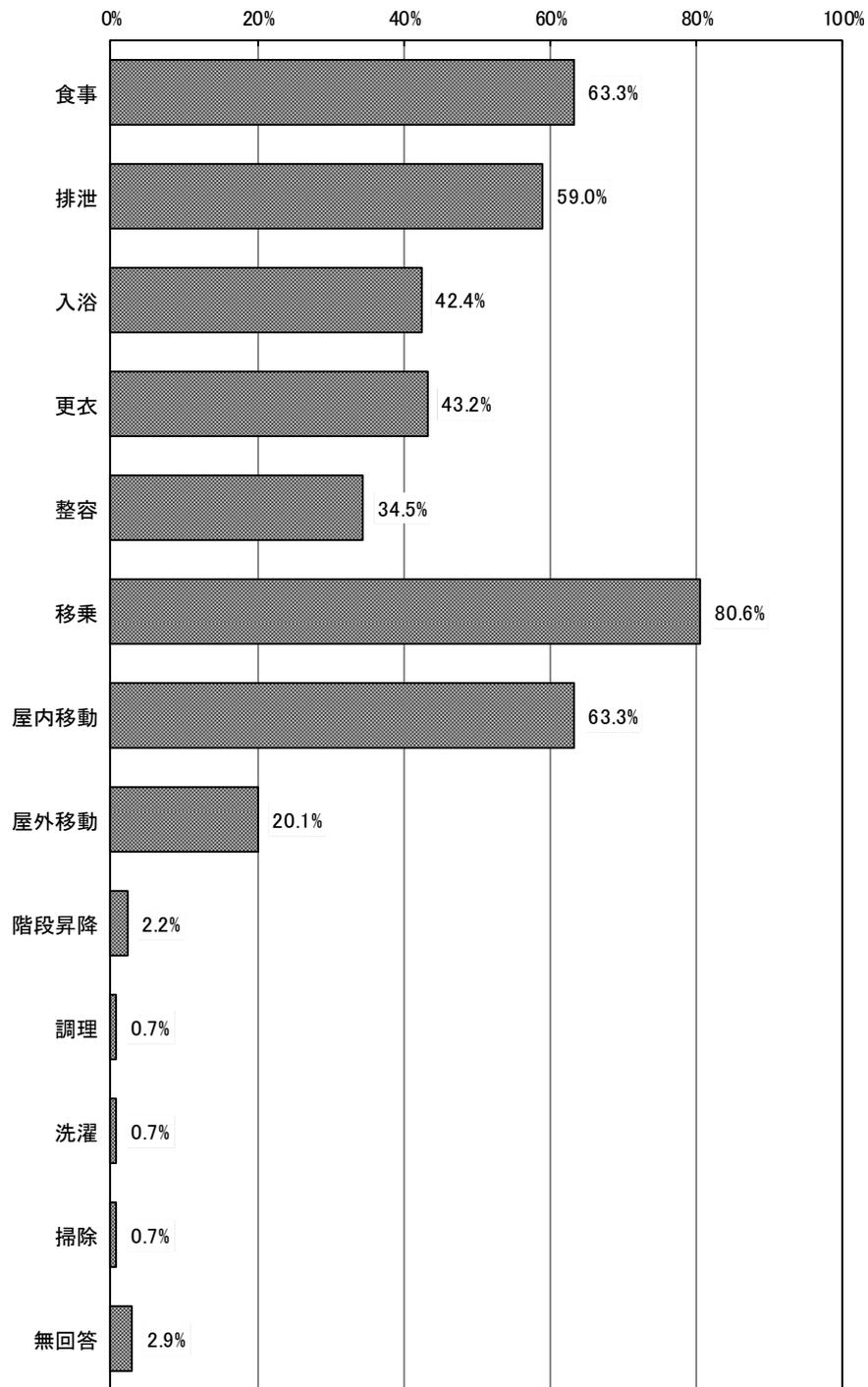


## 才) 利用者の課題 (問 13)

図表 1138 利用者の課題



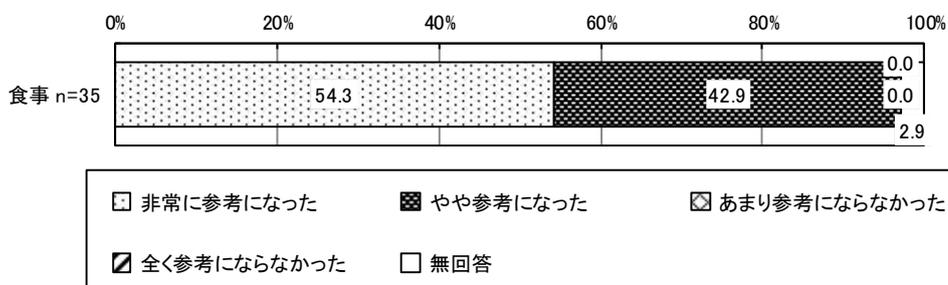
図表 1139 利用者の課題 区分1のみ



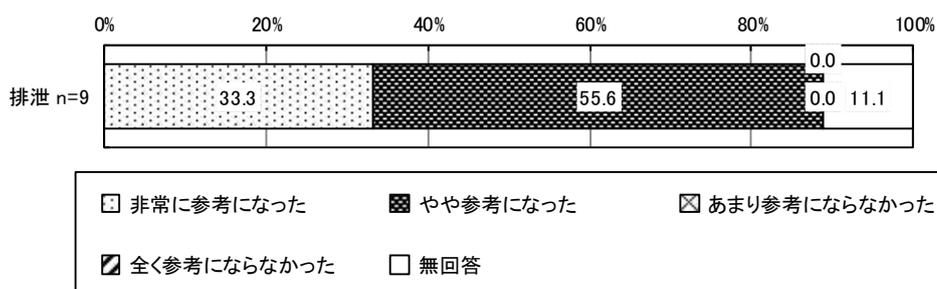
■算定 n=139

カ) 外部からの助言を計画に反映した内容について、課題、助言内容、また助言はどの程度参考になったか（問 14）

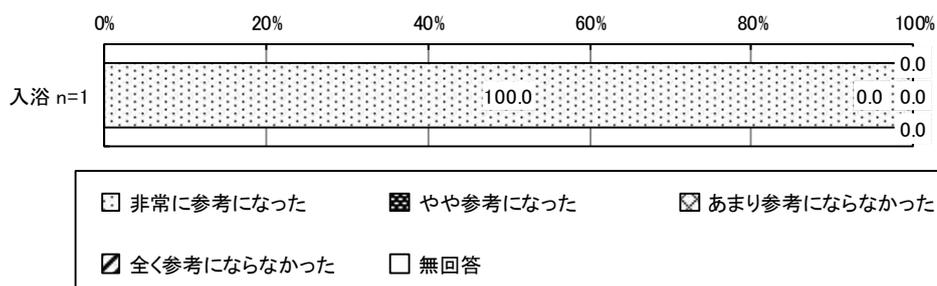
図表 1140 食事



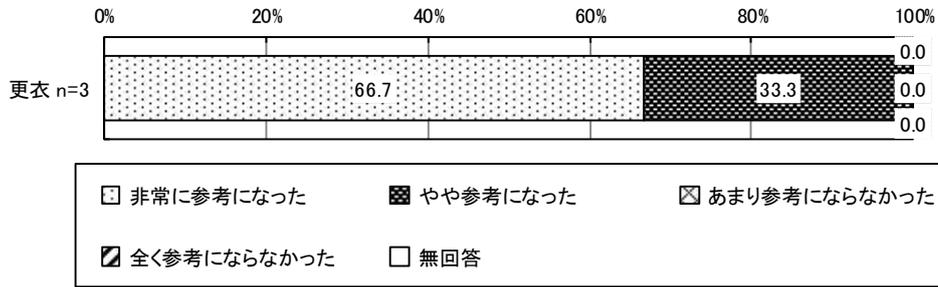
図表 1141 排泄



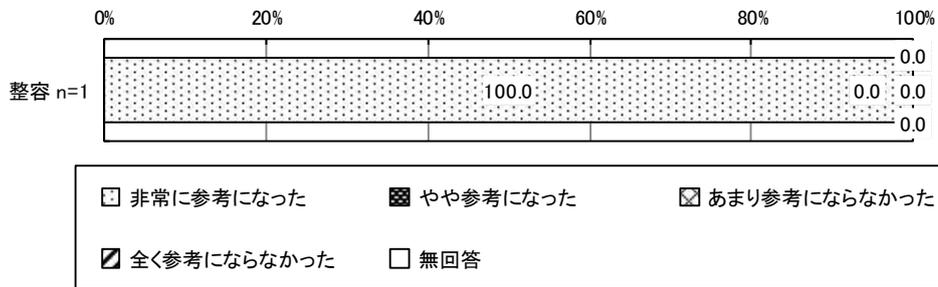
図表 1142 入浴



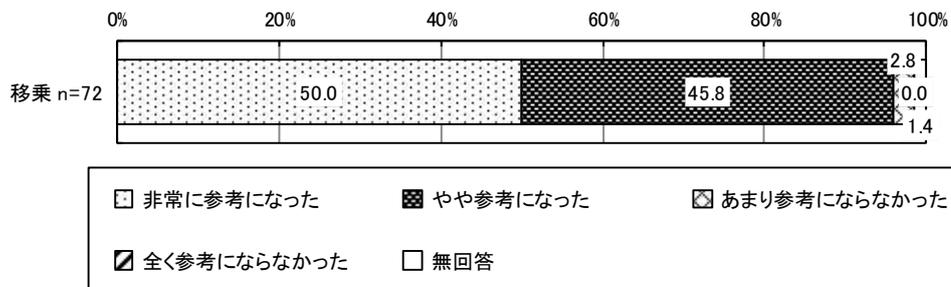
図表 1143 更衣



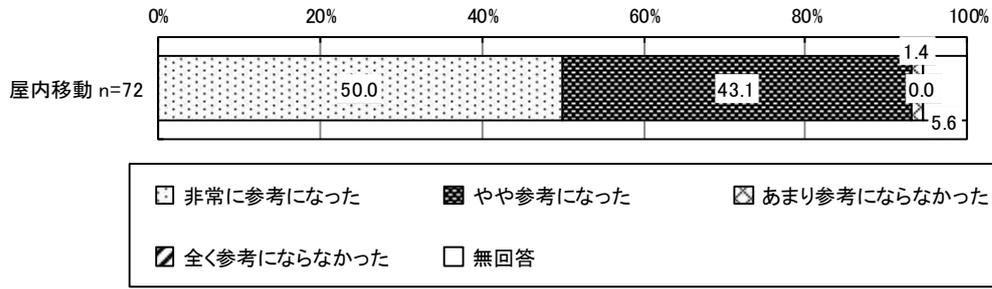
図表 1144 整容



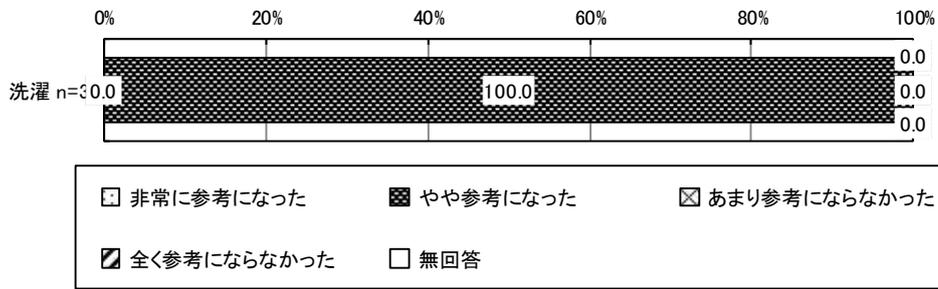
図表 1145 移乗



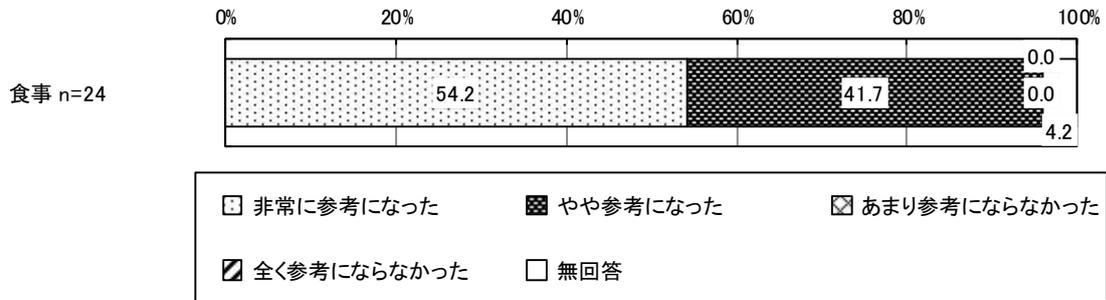
図表 1146 屋内移動



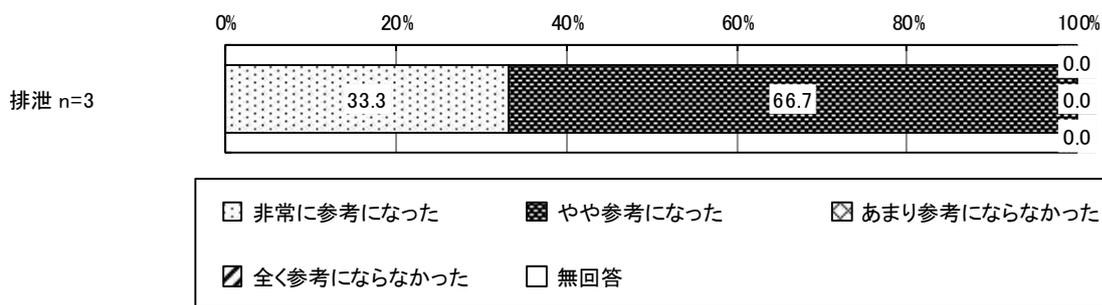
図表 1147 洗濯



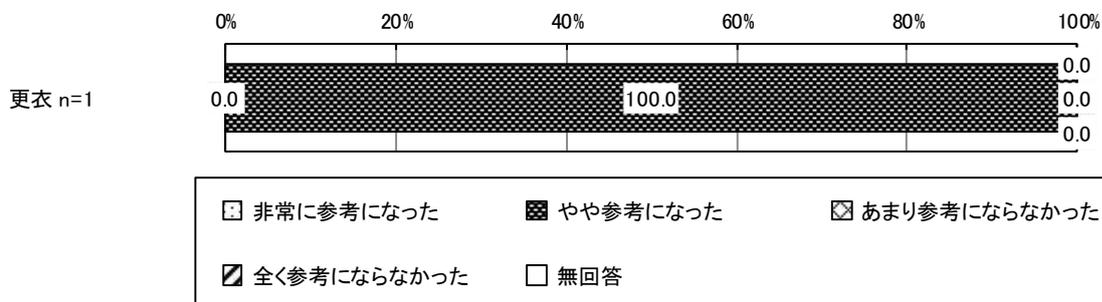
図表 1148 食事 区分1のみ



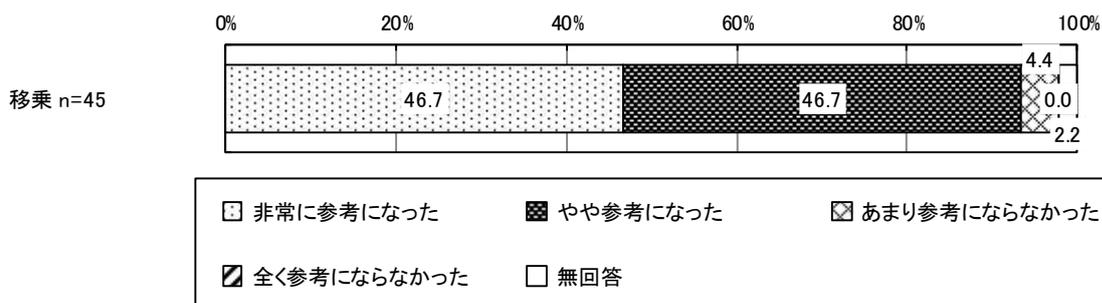
図表 1149 排泄 区分1のみ



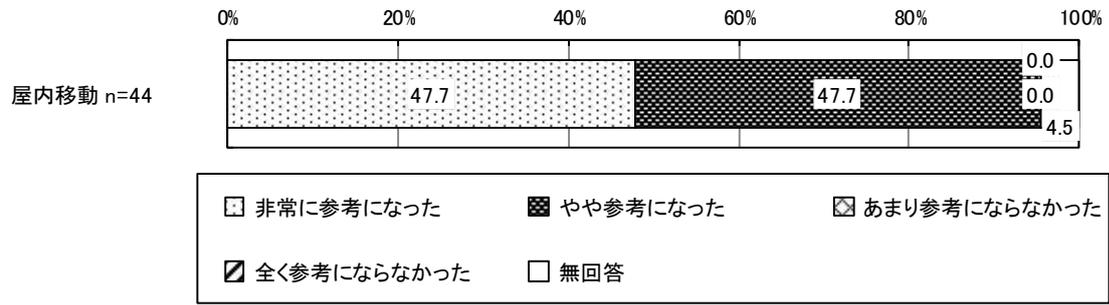
図表 1150 更衣 区分1のみ



図表 1151 移乗 区分1のみ



図表 1152 屋内移動 区分1のみ



図表 1153 課題別の助言内容

**○食事**

- ・車椅子上での姿勢
- ・誤嚥しにくい体位を保ち、食事動作を行う

**○排泄**

- ・セルフケアの行動を維持する
- ・食堂の席からトイレまで、手引き歩行を行う

**○入浴**

- ・ベッド上のポジショニングについて
- ・可動域の訓練方法について

**○更衣**

- ・肩関節の90度の挙上を維持する
- ・上肢の可動域訓練を行う

**○整容**

- ・上肢の挙上運動をする

**○移乗**

- ・移動動作時には介助バーを利用する
- ・立位場面を多くし、下肢筋力を維持する

**○屋内移動**

- ・本人が動ける範囲内でのレク参加
- ・安定した歩行のため歩行訓練を行う

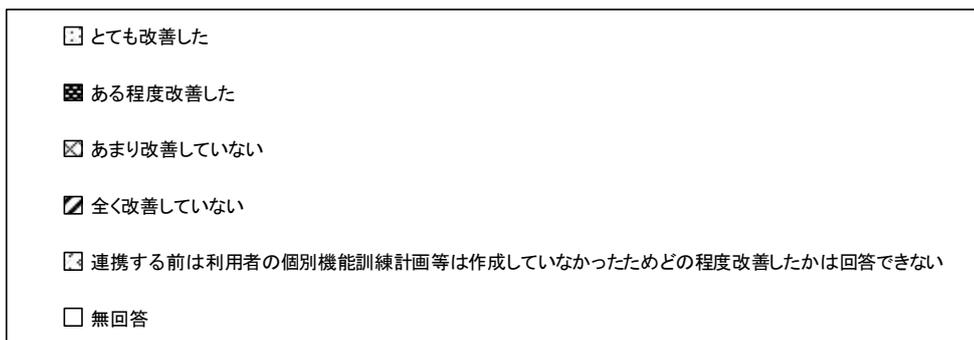
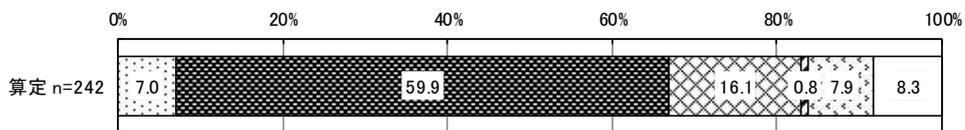
**○洗濯**

- ・生活の中でリハビリを取り入れる。
- ・家庭的雰囲気を感じてもらえるよう、家庭的作業療法を取り入れる

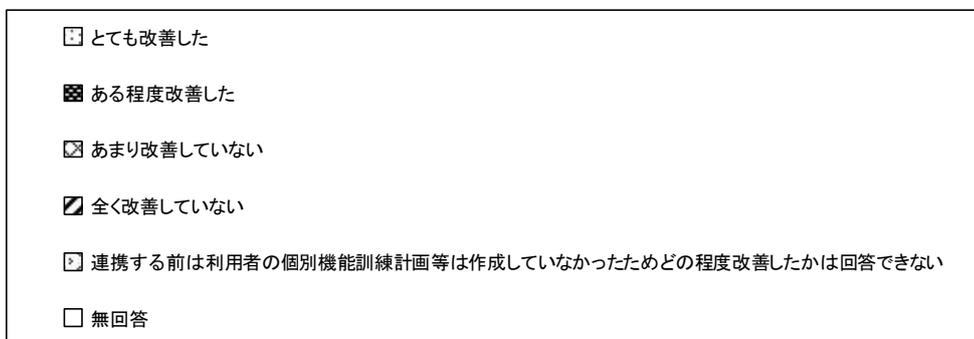
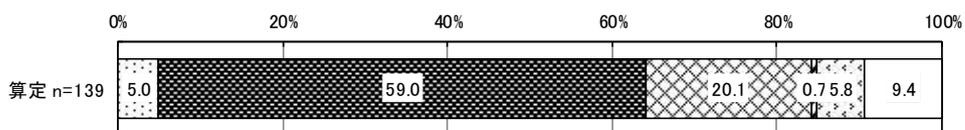
屋外移動、階段昇降、調理、掃除については、回答は無し。

## キ) 助言により利用者の計画はどの程度改善したか（問 15）

図表 1154 助言により利用者の計画はどの程度改善したか



図表 1155 助言により利用者の計画はどの程度改善したか 区分1のみ



## ク) 助言による具体的な状況変化 (問 15-2)

図表 1156 助言による具体的な状況変化

### ○訓練内容の変化

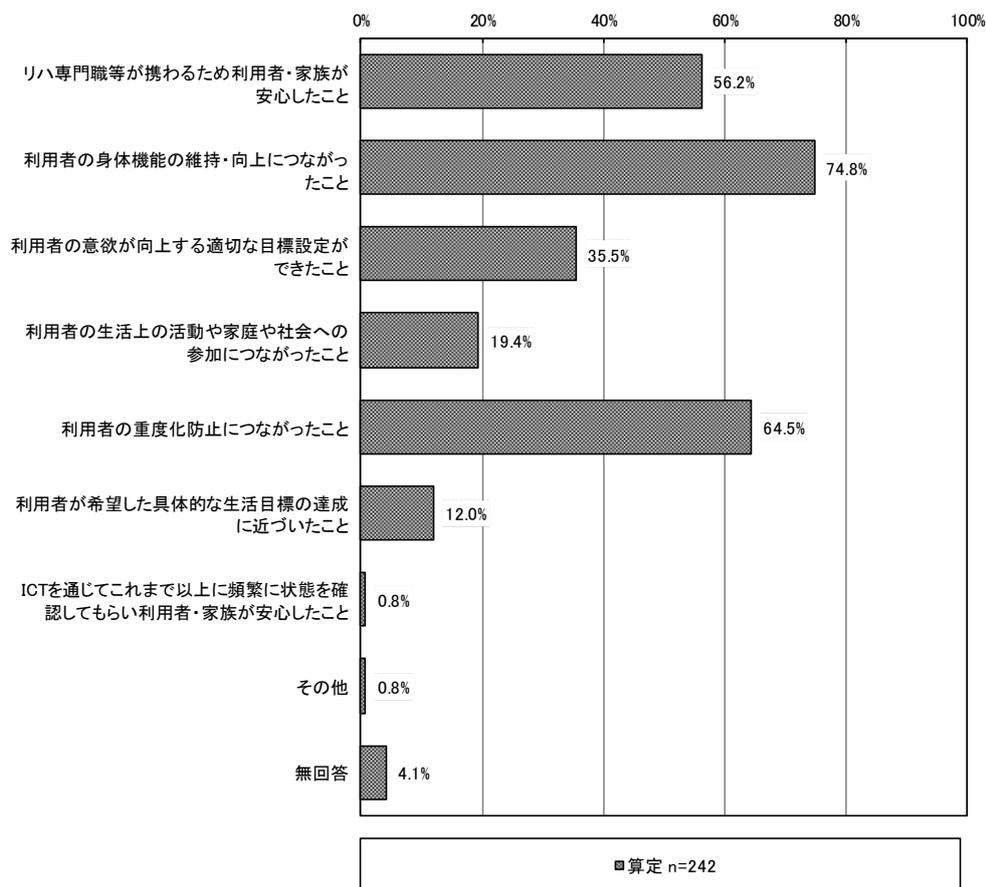
- ・ 根拠を持った支援につながった
- ・ 本人の状態に合わせた介助が行えた

### ○本人の状態の変化

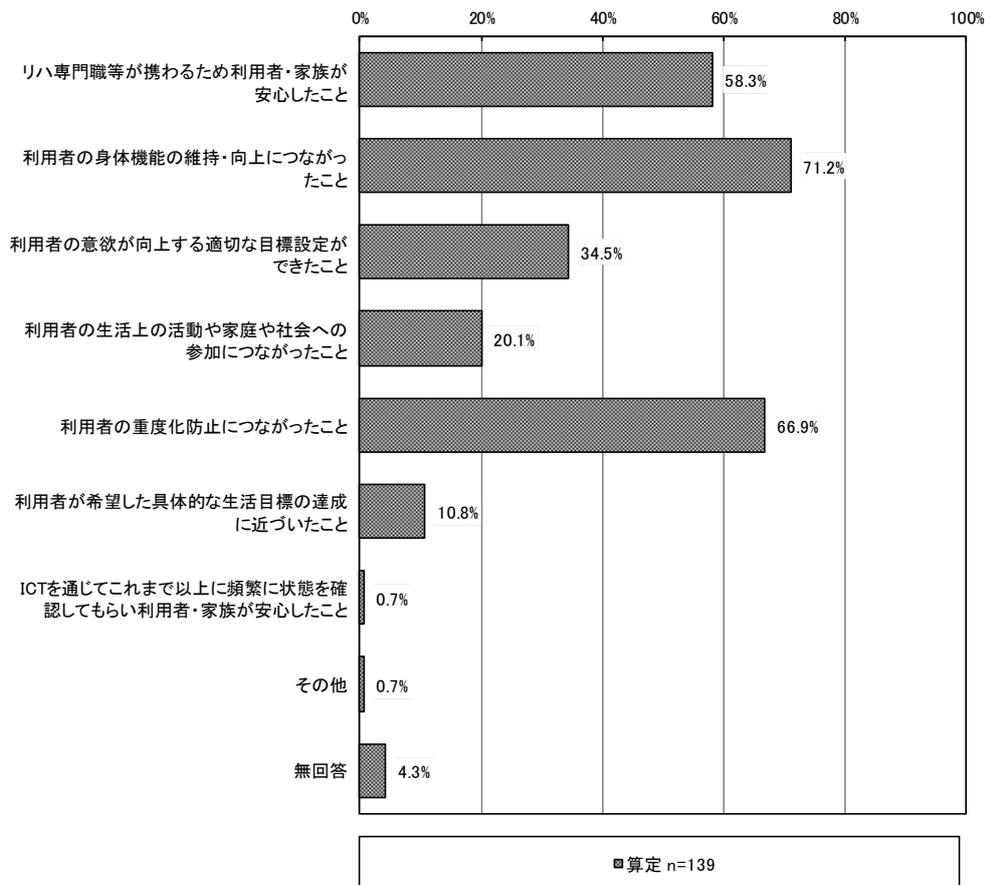
- ・ 本人の行いたいことがしやすくなった
- ・ 嚙下力がよくなった

## ケ) 利用者が享受したメリット (問 16)

図表 1157 利用者が享受したメリット



図表 1158 利用者が享受したメリット 区分1のみ

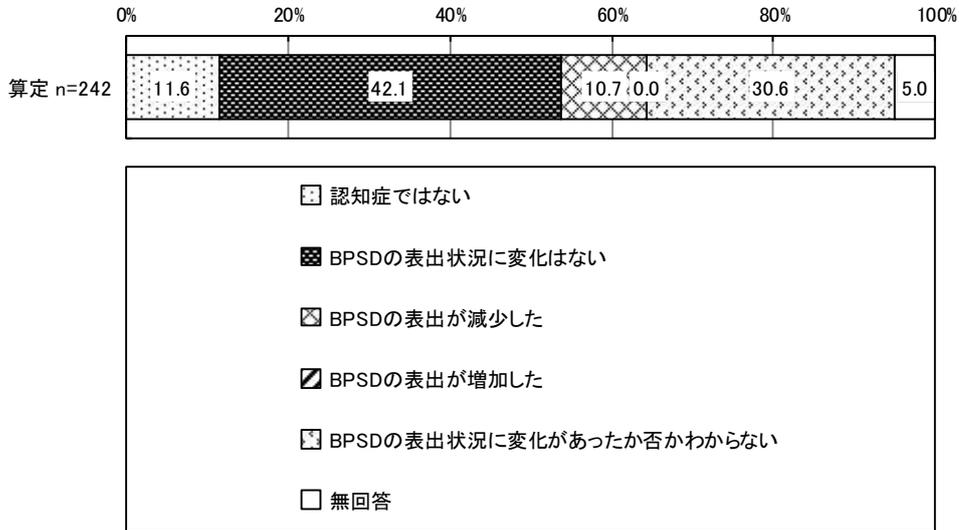


※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

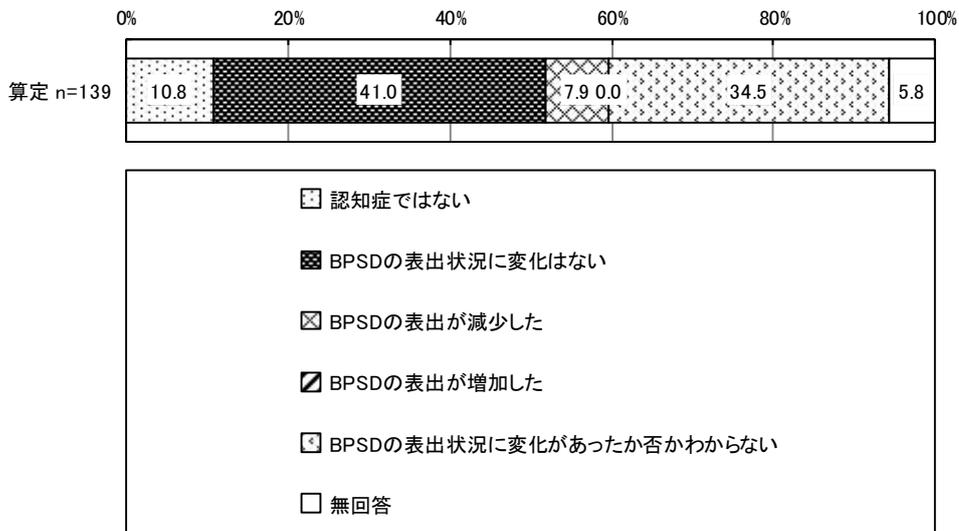
- ・安全な見守りのための工夫への意欲が上がった

コ) 認知症の利用者の BPSD 表出状況の変化 (問 17)

図表 1159 認知症の利用者の BPSD 表出状況の変化

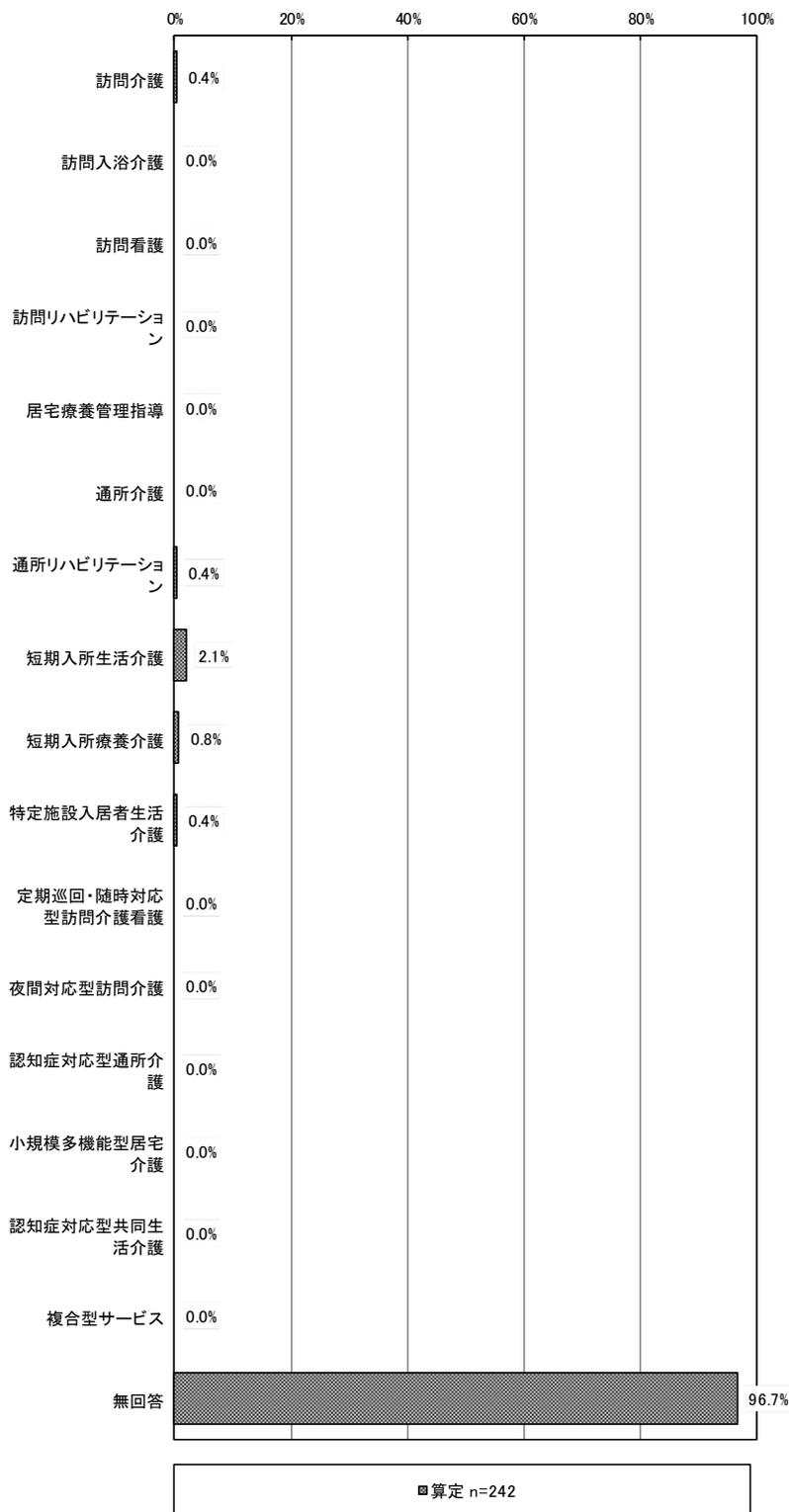


図表 1160 認知症の利用者の BPSD 表出状況の変化 区分 1 のみ

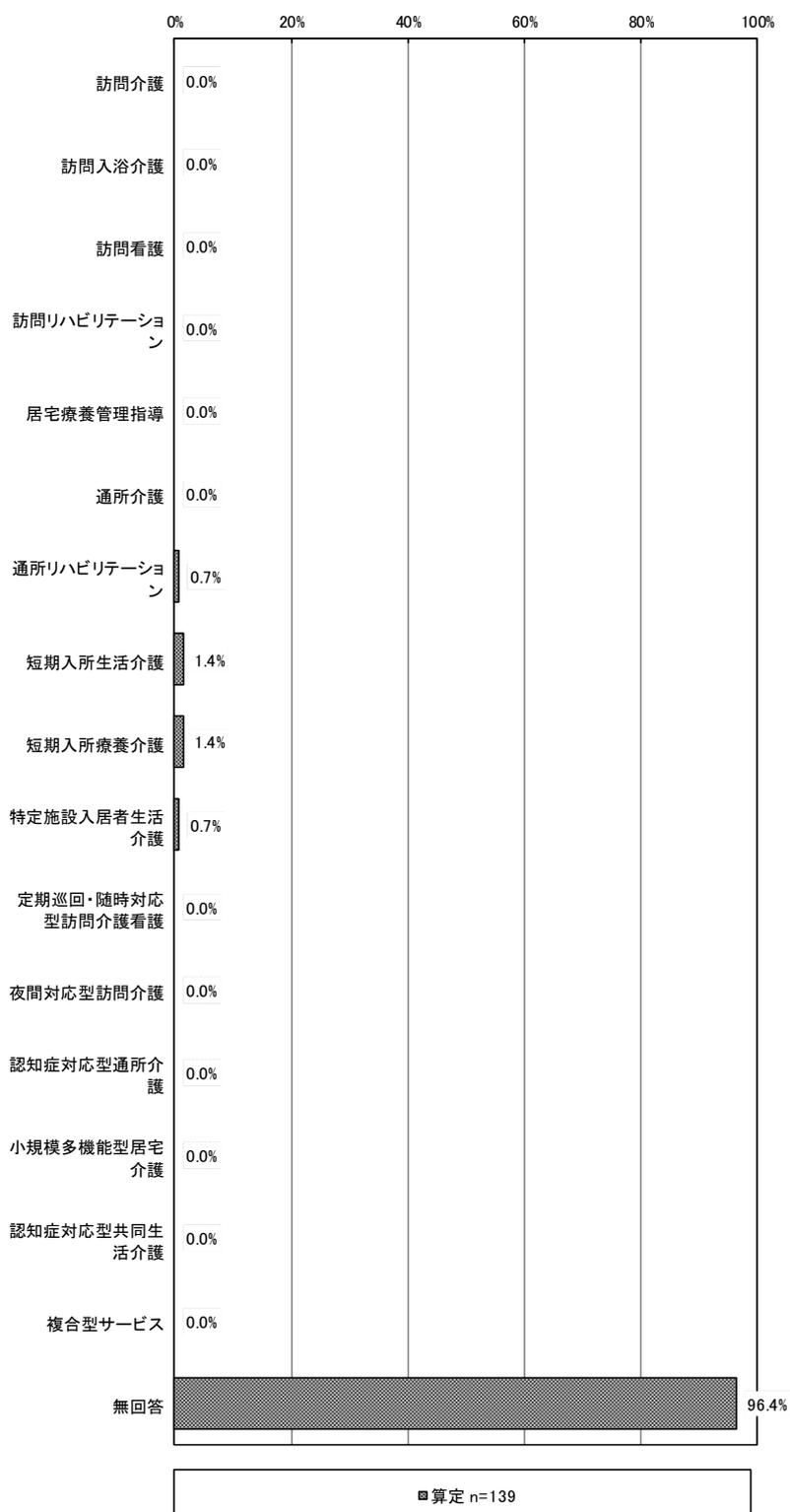


サ) 利用者が他に利用しているサービス（問 18（算定事業所・施設利用者票）・問 12（非算定事業所・施設利用者票））

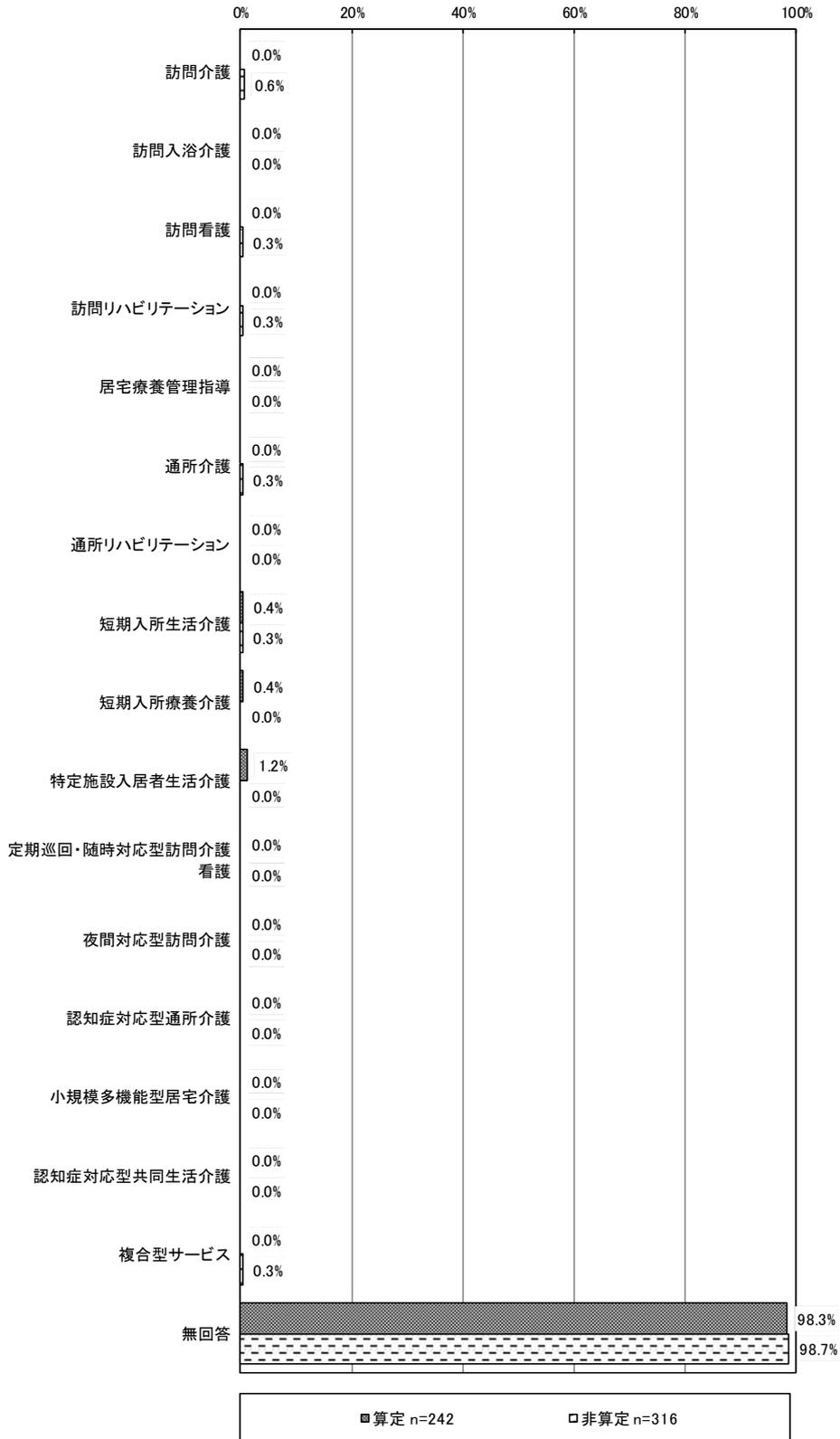
図表 1161 利用者が他に利用しているサービス ①算定前



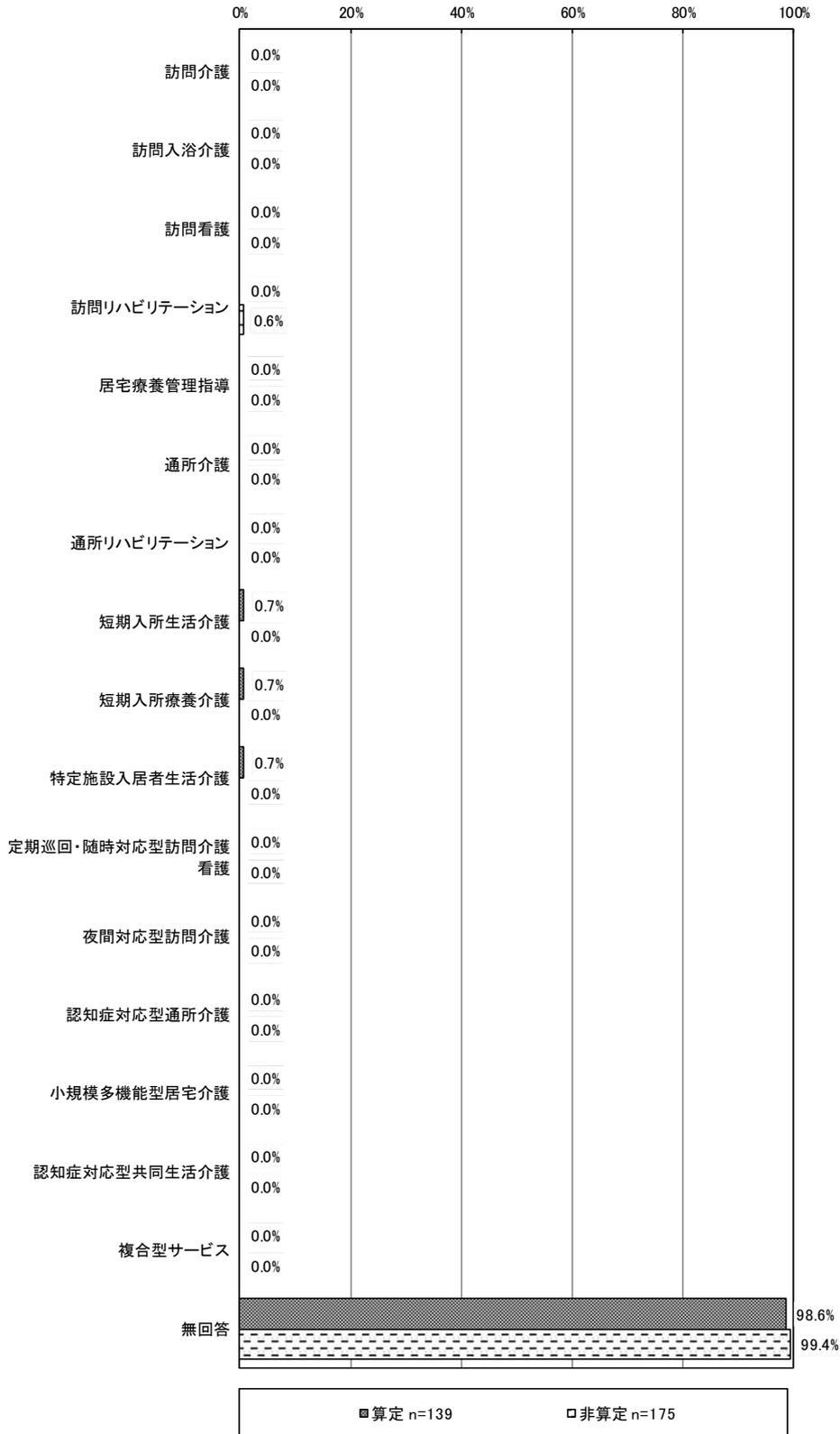
図表 1162 利用者が他に利用しているサービス ①算定前 区分1のみ



図表 1163 利用者が他に利用しているサービス ②算定以後



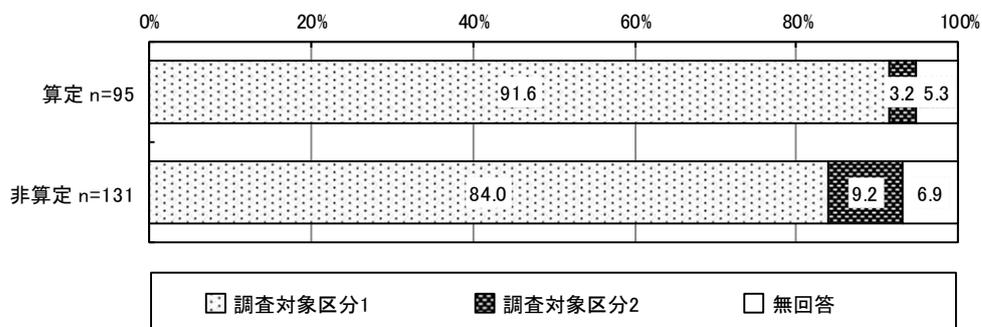
図表 1164 利用者が他に利用しているサービス ②算定以後 区分1のみ



## (7) 訪問介護

### ア) 利用者の調査対象区分 (問 0)

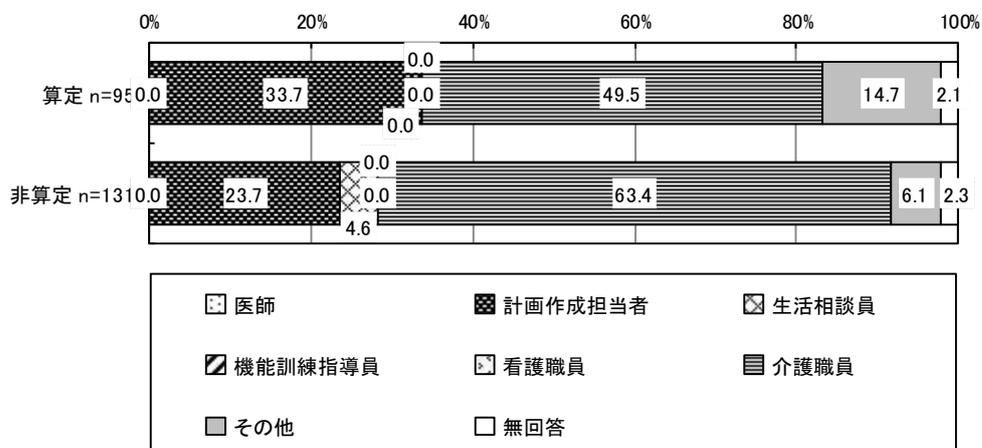
図表 1165 利用者の調査対象区分



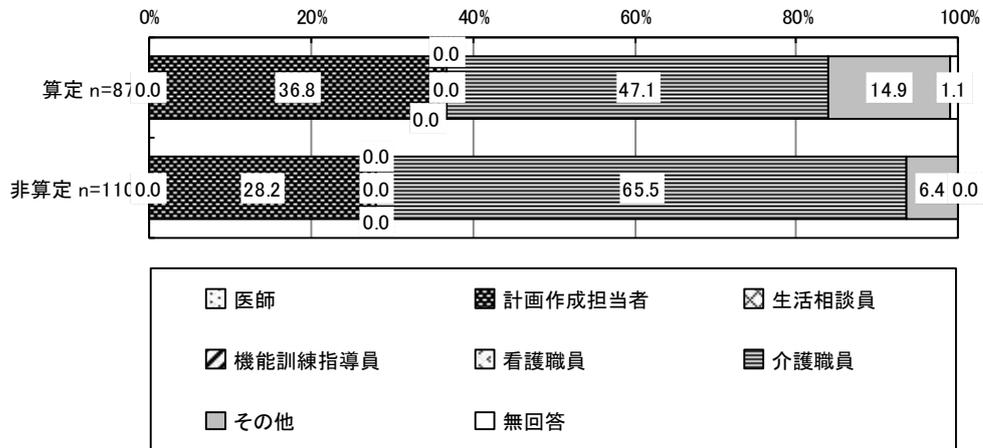
## I. 回答者の属性

### ア) 回答者の職種 (問 1)

図表 1166 回答者の職種



図表 1167 回答者の職種 区分1のみ



※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

- ・ (算定) サービス提供責任者
- ・ (算定) 管理者
- ・ (非算定) 管理者
- ・ (非算定) 施設長

## Ⅱ. 利用者の情報

### ア) 年齢 (問 2)

図表 1168 年齢

(単位: 歳)

件数	平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
算定 n=93	81.4	10.1	84	96	51
非算定 n=129	83.2	9.2	85	107	54

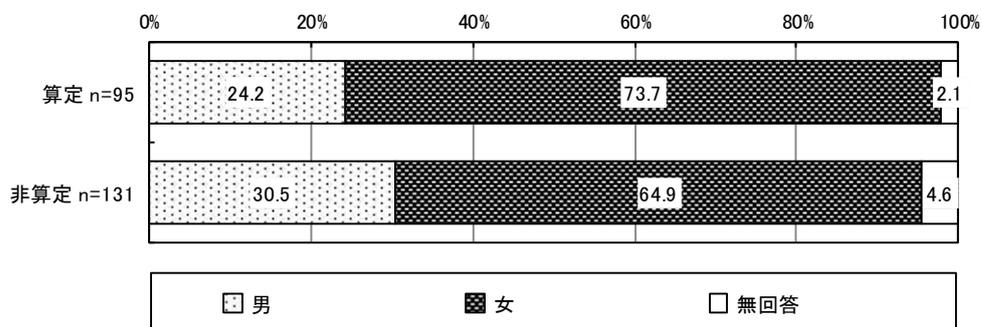
図表 1169 年齢 区分 1 のみ

(単位: 歳)

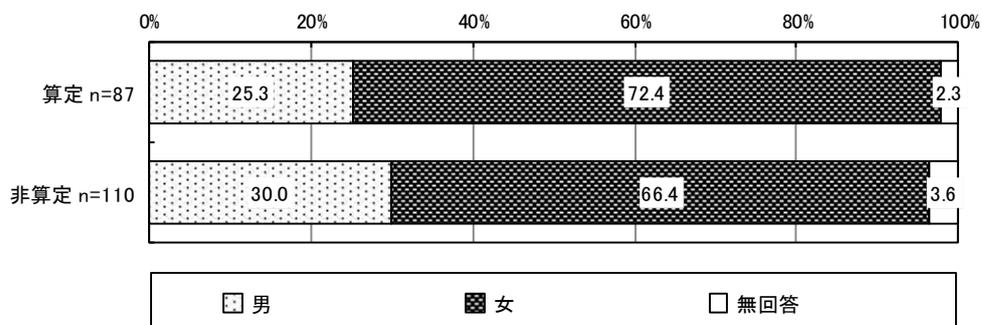
件数	平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
算定 n=85	82.2	9.1	84	96	51
非算定 n=110	83.6	8.4	85	98	54

### イ) 性別 (問 3)

図表 1170 性別

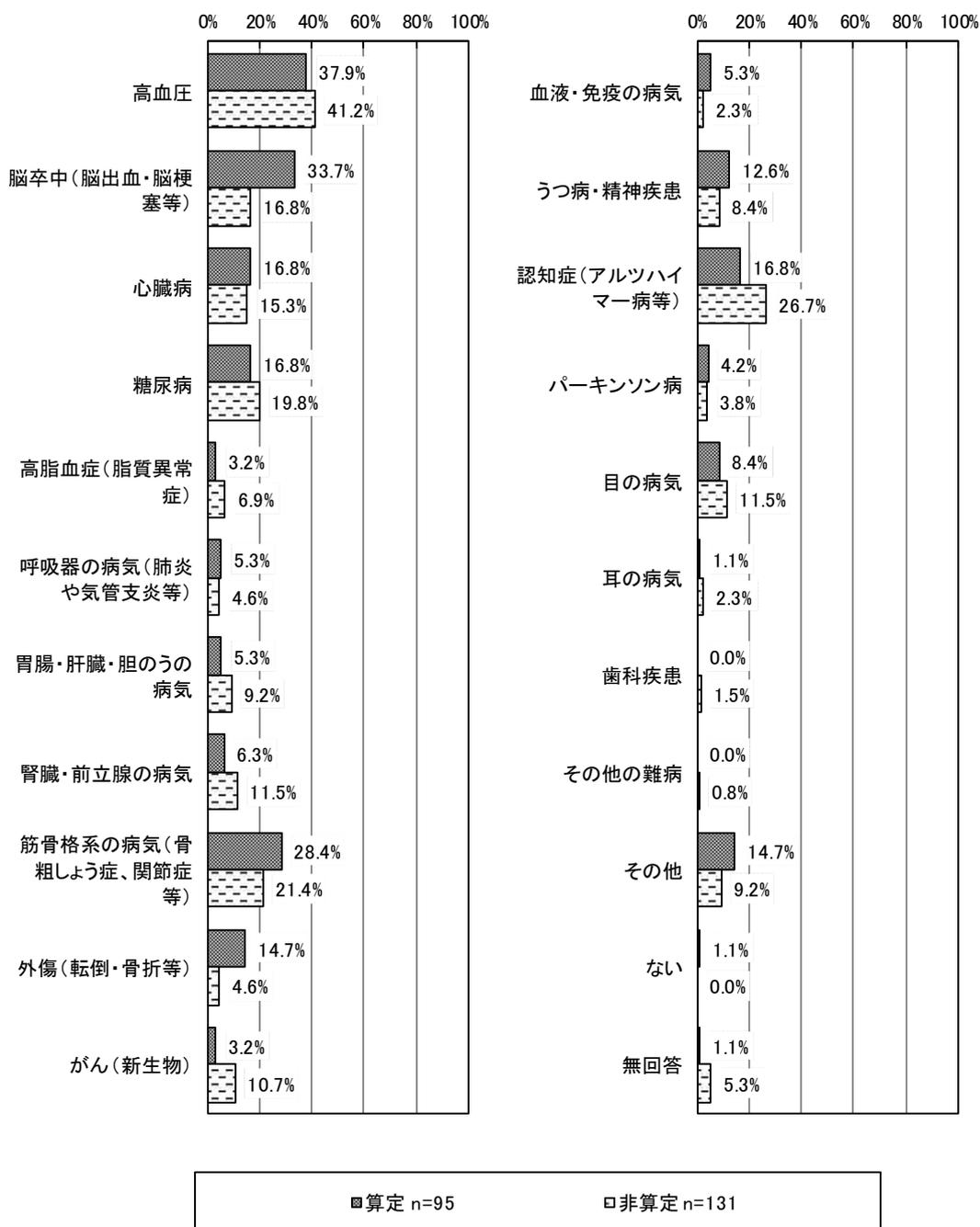


図表 1171 性別 区分 1 のみ

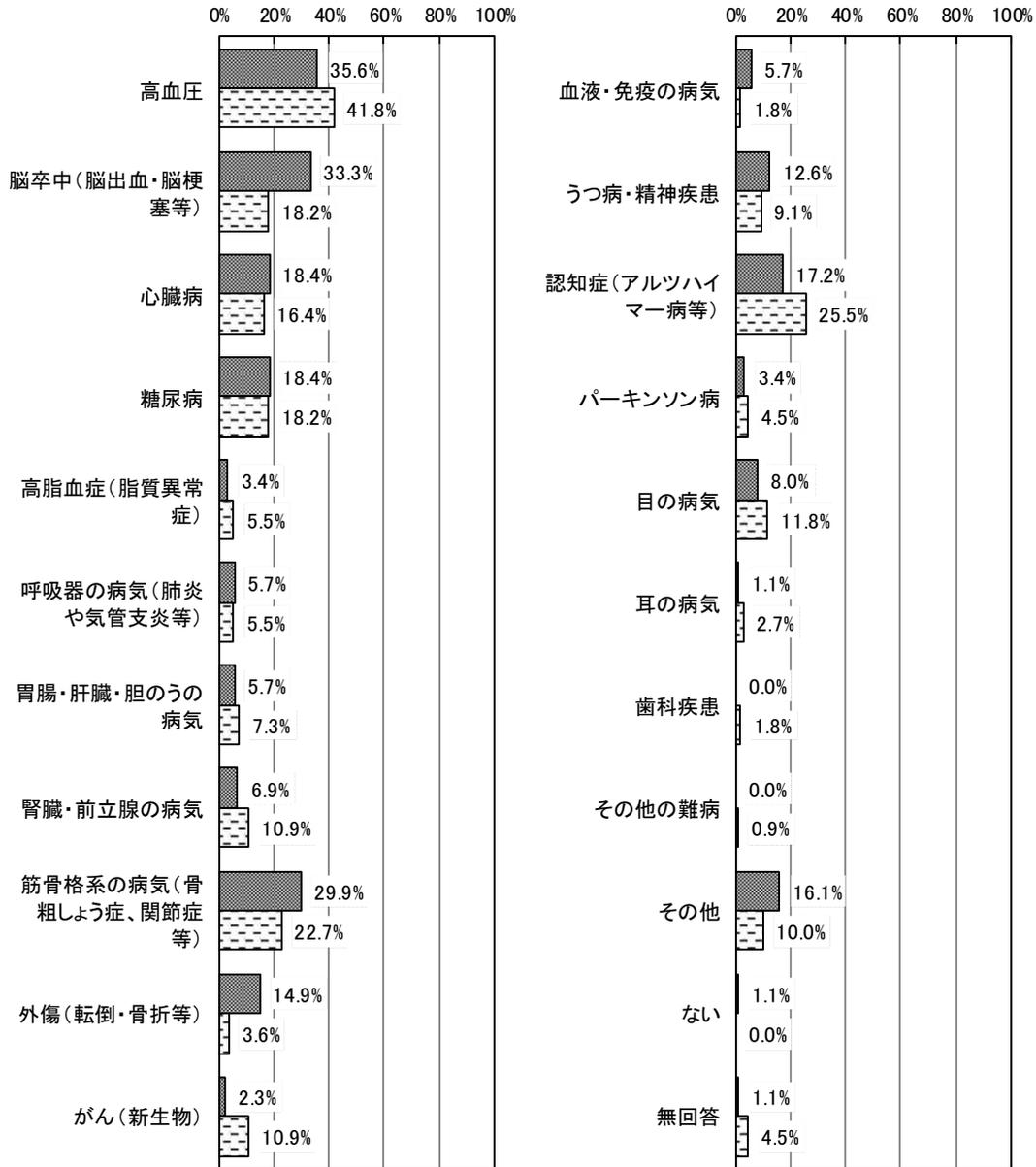


## ウ) 傷病名 (問 4)

図表 1172 傷病名



図表 1173 傷病名 区分1のみ

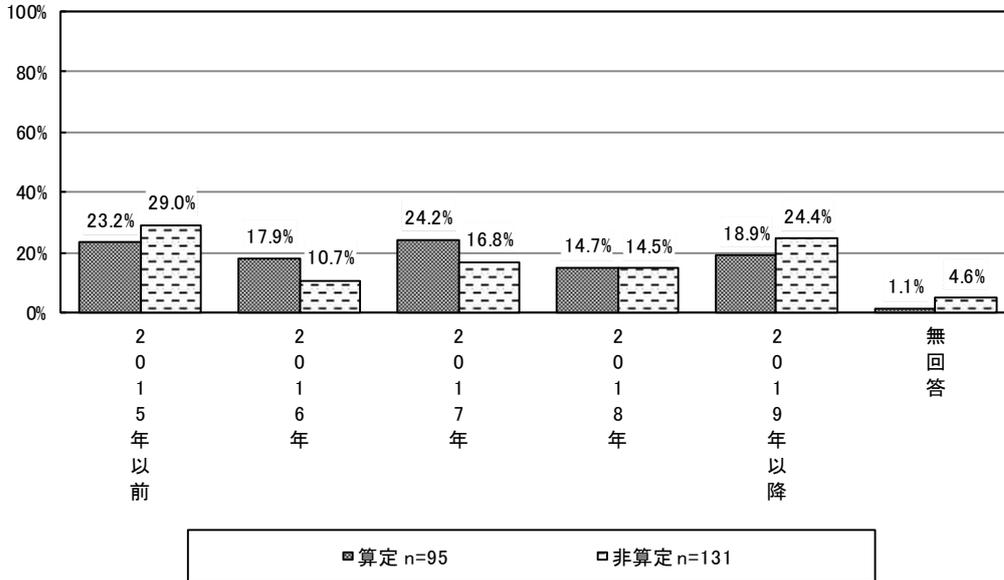


※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

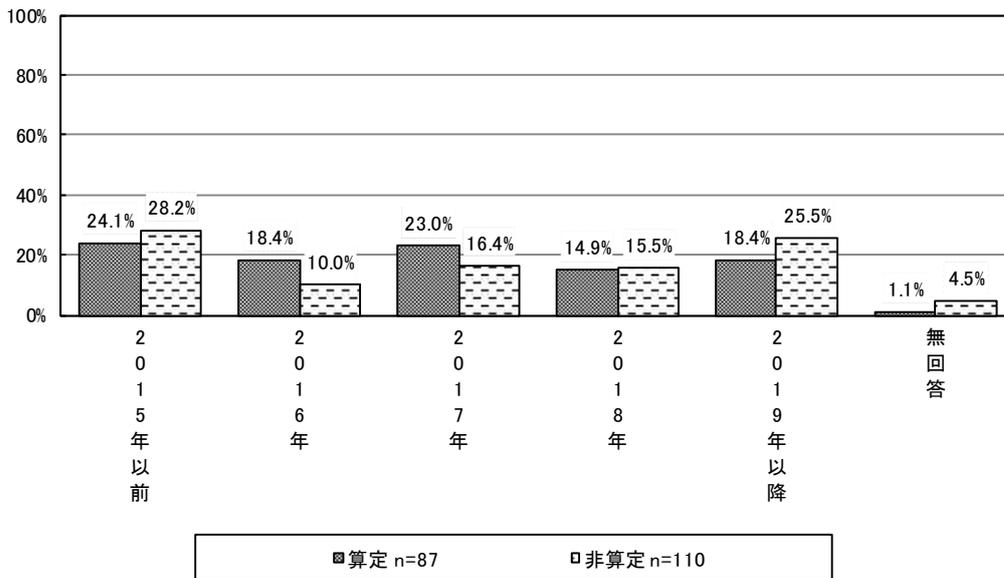
- ・(算定) メニエール病
- ・(算定) 慢性貧血
- ・(非算定) リウマチ
- ・(非算定) 胆管閉鎖

エ) 事業所・施設の利用開始時期（問5）

図表 1174 事業所・施設の利用開始時期

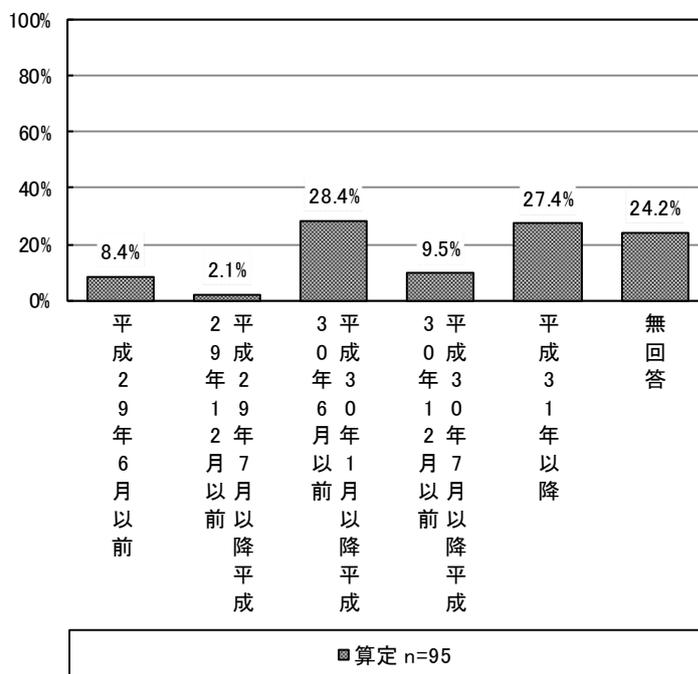


図表 1175 事業所・施設の利用開始時期 区分1のみ

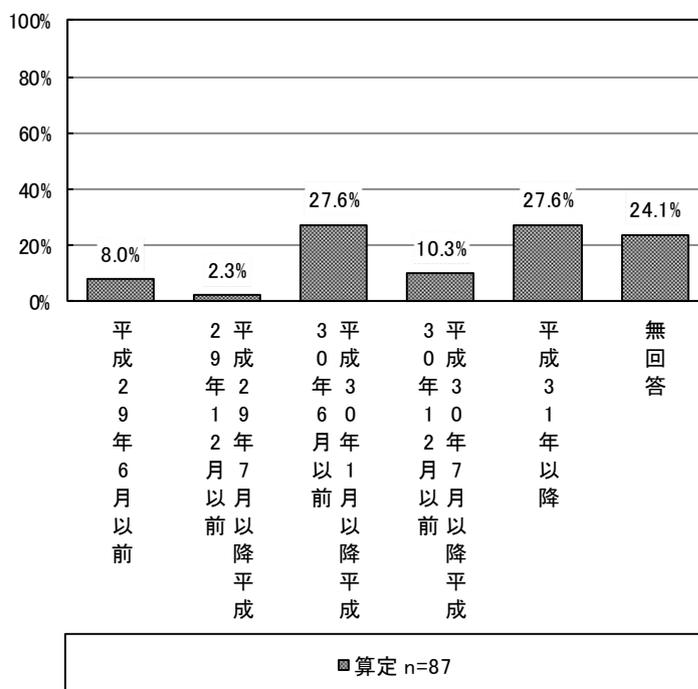


オ) 事業所・施設が加算算定に伴う連携を開始した時期（問6）

図表 1176 事業所・施設が加算算定に伴う連携を開始した時期

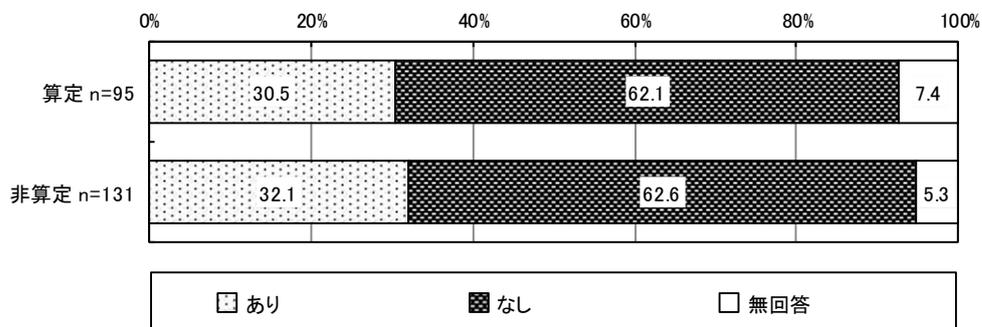


図表 1177 事業所・施設が加算算定に伴う連携を開始した時期 区分1のみ

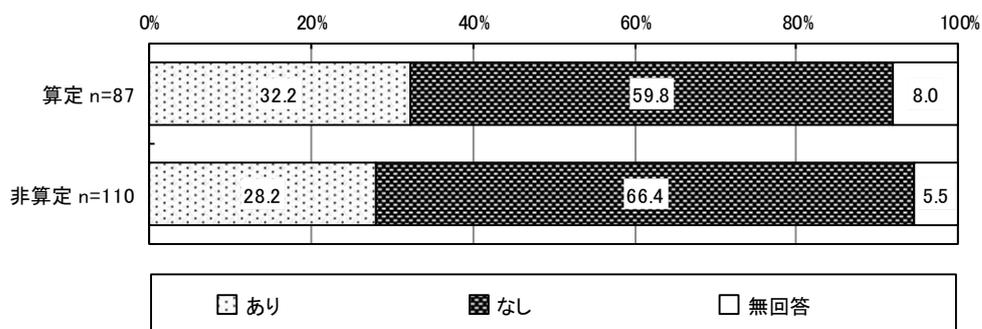


カ) 退院の有無と直近の入院期間（問 7）

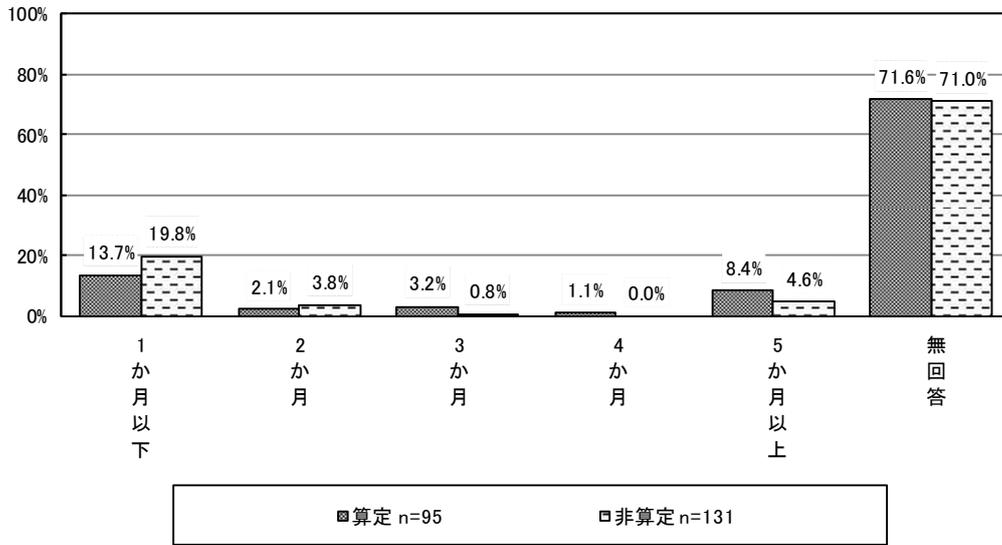
図表 1178 退院の有無



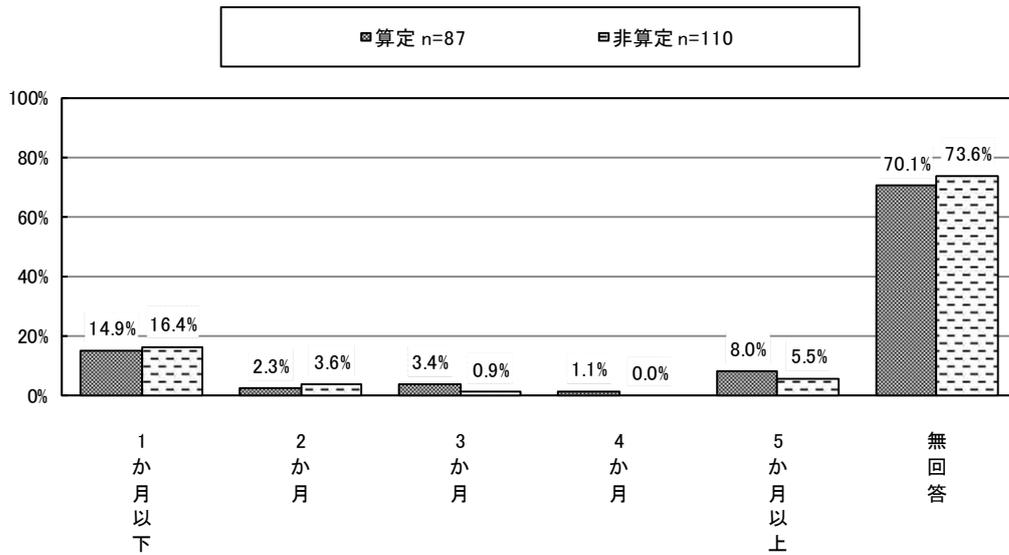
図表 1179 退院の有無 区分1のみ



図表 1180 直近の入院期間



図表 1181 直近の入院期間 区分1のみ



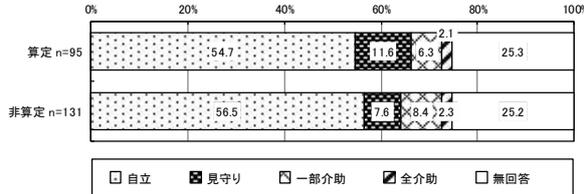
## キ) ADL・IADL の状況 (問 8)

図表 1182 ADL・IADL の状況

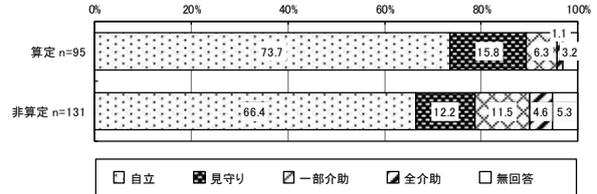
### 食事

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



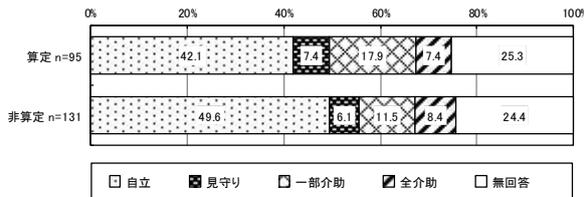
②令和元年 10 月 1 日時点



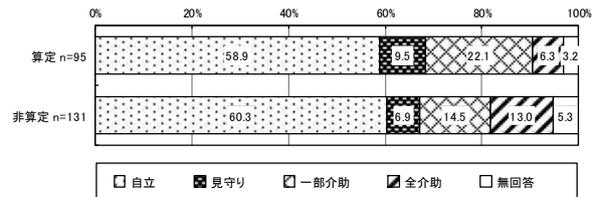
### 排泄

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



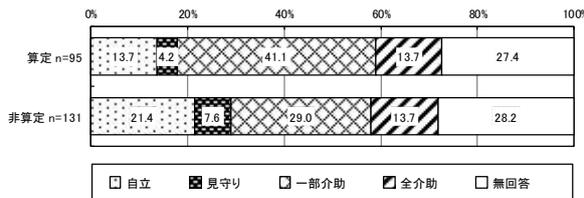
②令和元年 10 月 1 日時点



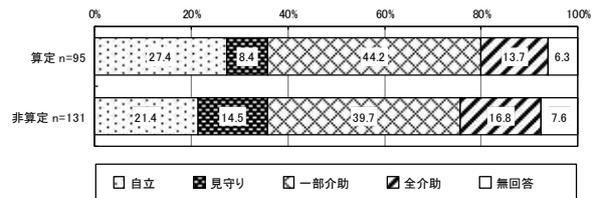
### 入浴

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



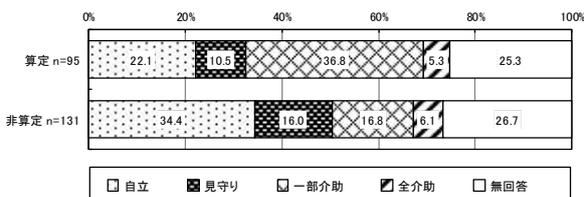
②令和元年 10 月 1 日時点



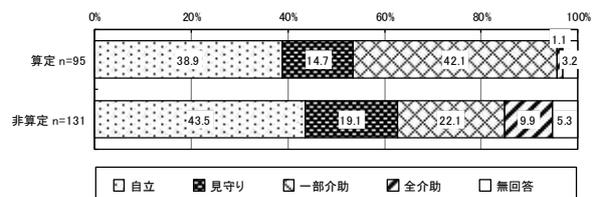
### 更衣

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



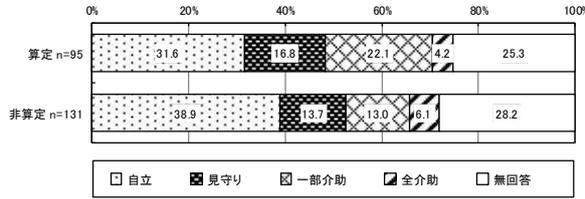
②令和元年 10 月 1 日時点



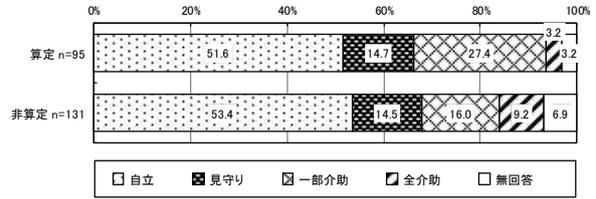
## 整容

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



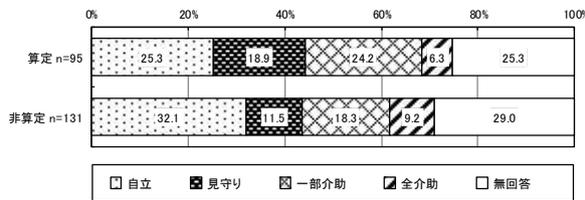
②令和元年10月1日時点



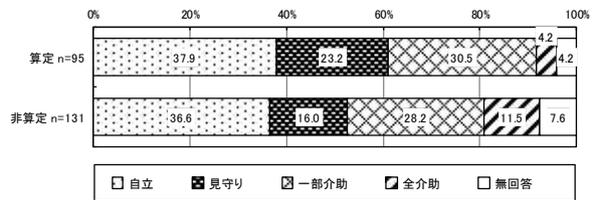
## 移乗

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



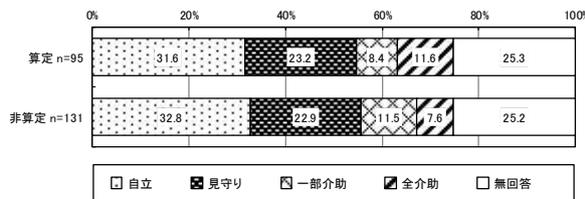
②令和元年10月1日時点



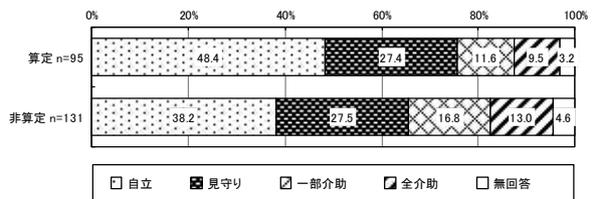
## 屋内移動

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



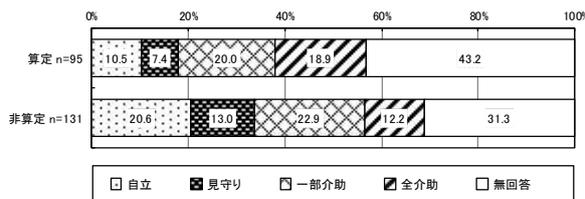
②令和元年10月1日時点



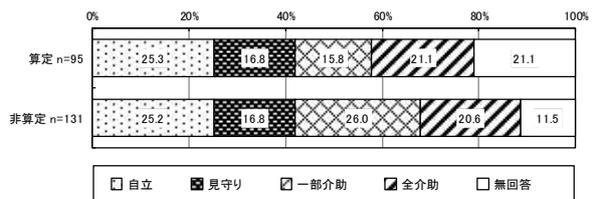
## 階段昇降

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



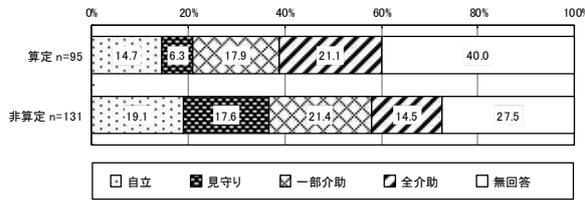
②令和元年10月1日時点



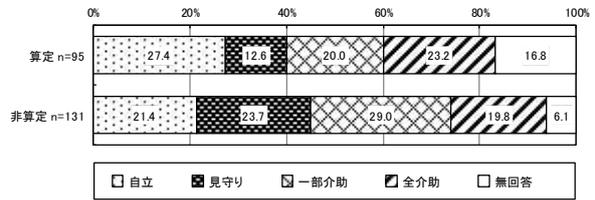
## 屋外移動

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



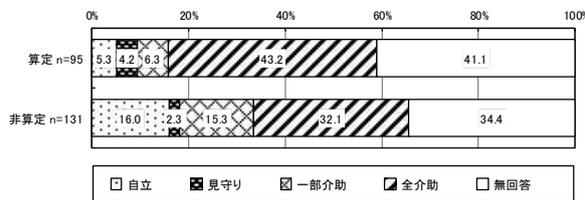
②令和元年10月1日時点



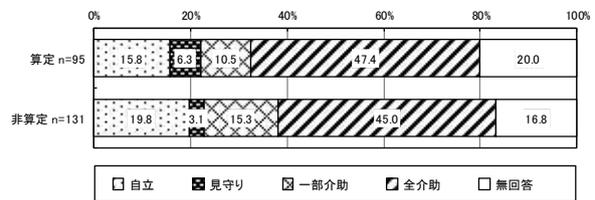
## 調理

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



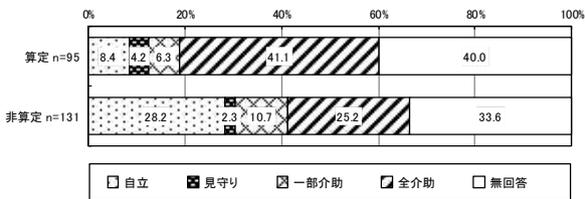
②令和元年10月1日時点



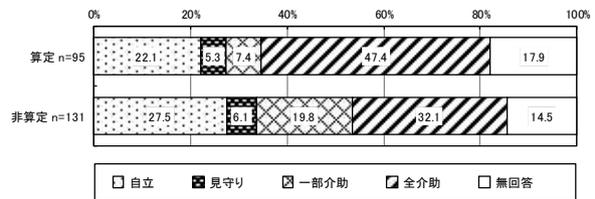
## 洗濯

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



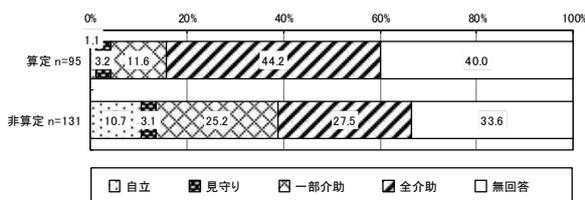
②令和元年10月1日時点



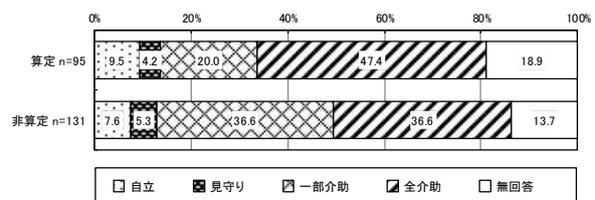
## 掃除

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



②令和元年10月1日時点

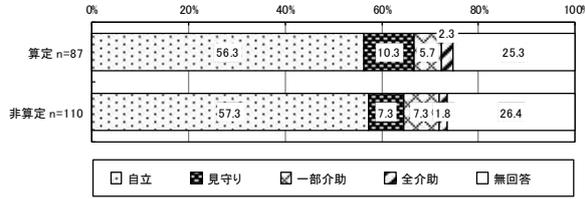


\*\*\*\*\*

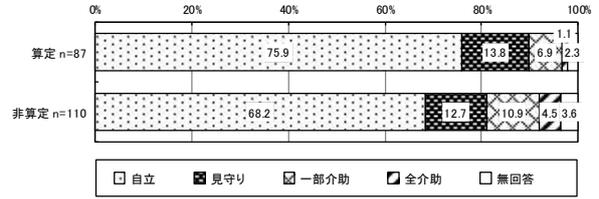
食事 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



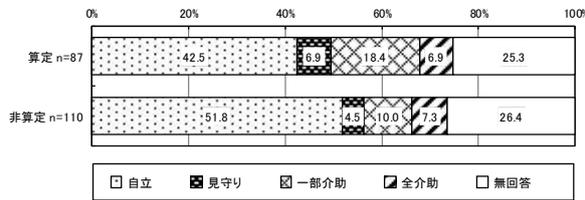
②令和元年10月1日時点



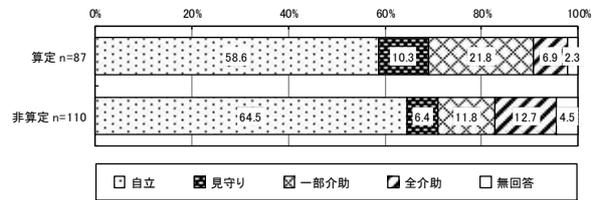
排泄 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



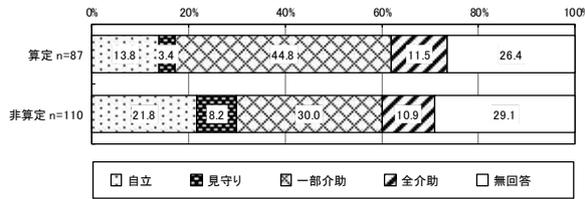
②令和元年10月1日時点



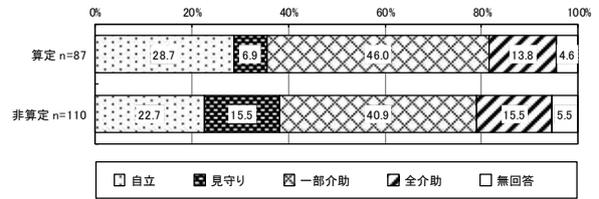
入浴 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



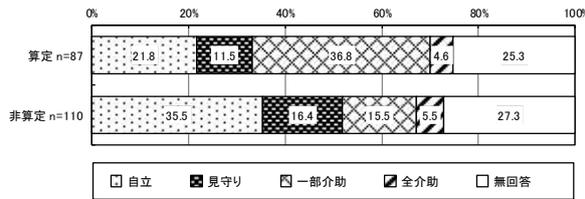
②令和元年10月1日時点



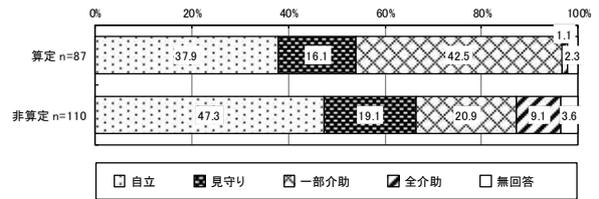
更衣 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



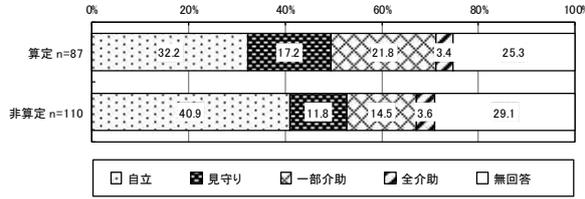
②令和元年10月1日時点



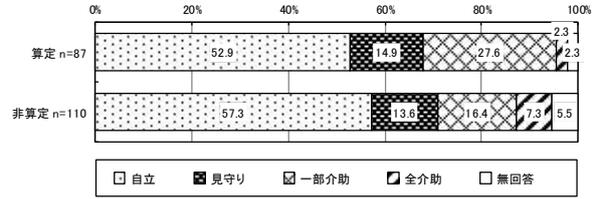
整容 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



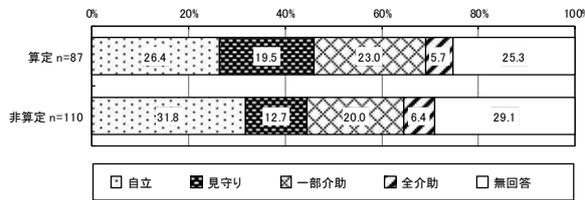
②令和元年10月1日時点



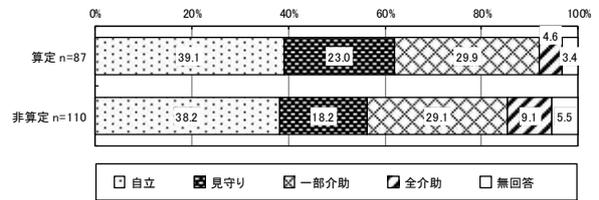
移乗 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



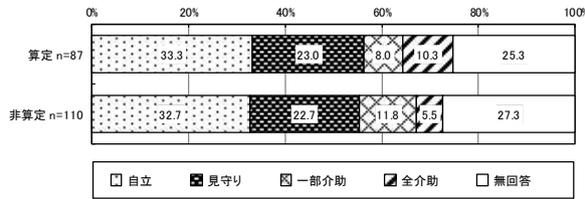
②令和元年10月1日時点



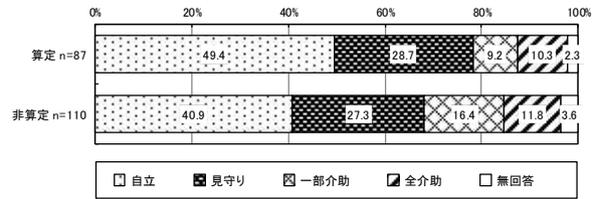
屋内移動 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



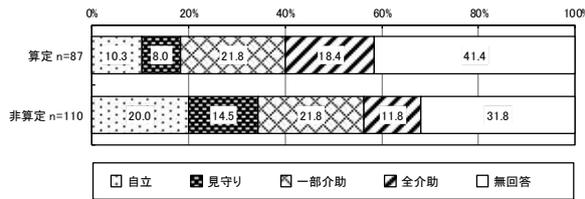
②令和元年10月1日時点



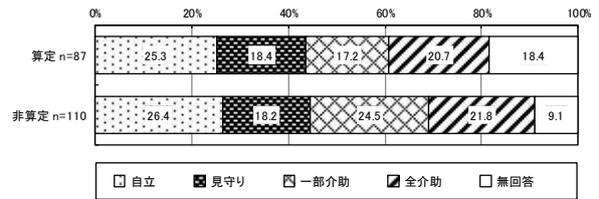
階段昇降 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



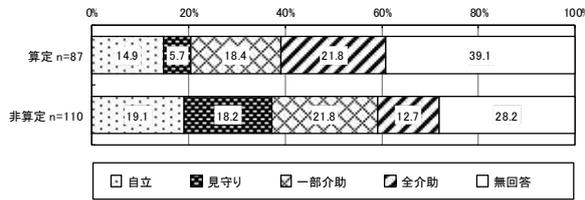
②令和元年10月1日時点



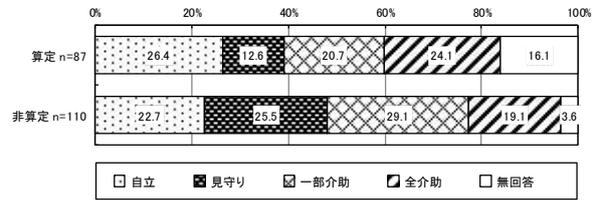
屋外移動 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



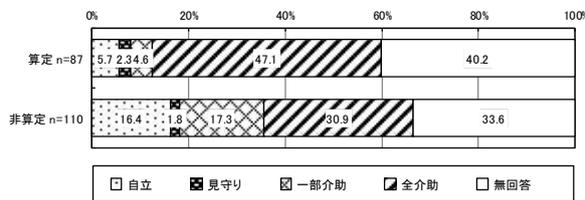
②令和元年10月1日時点



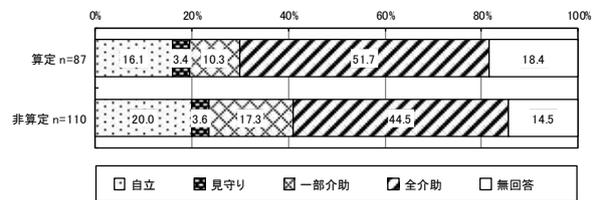
調理 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



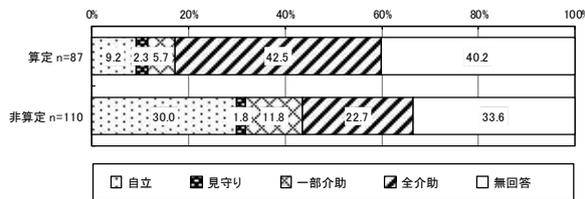
②令和元年10月1日時点



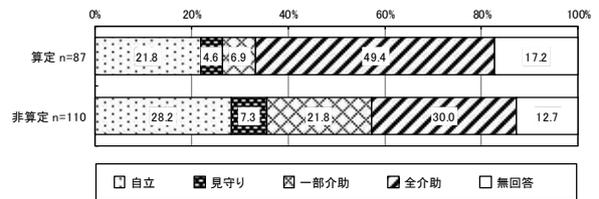
洗濯 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



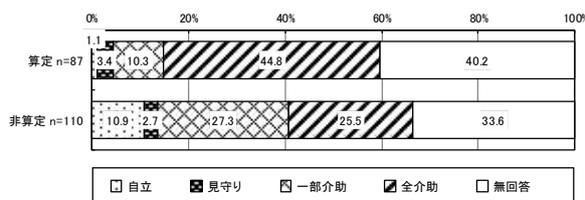
②令和元年10月1日時点



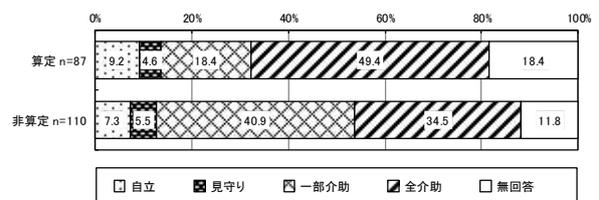
掃除 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点

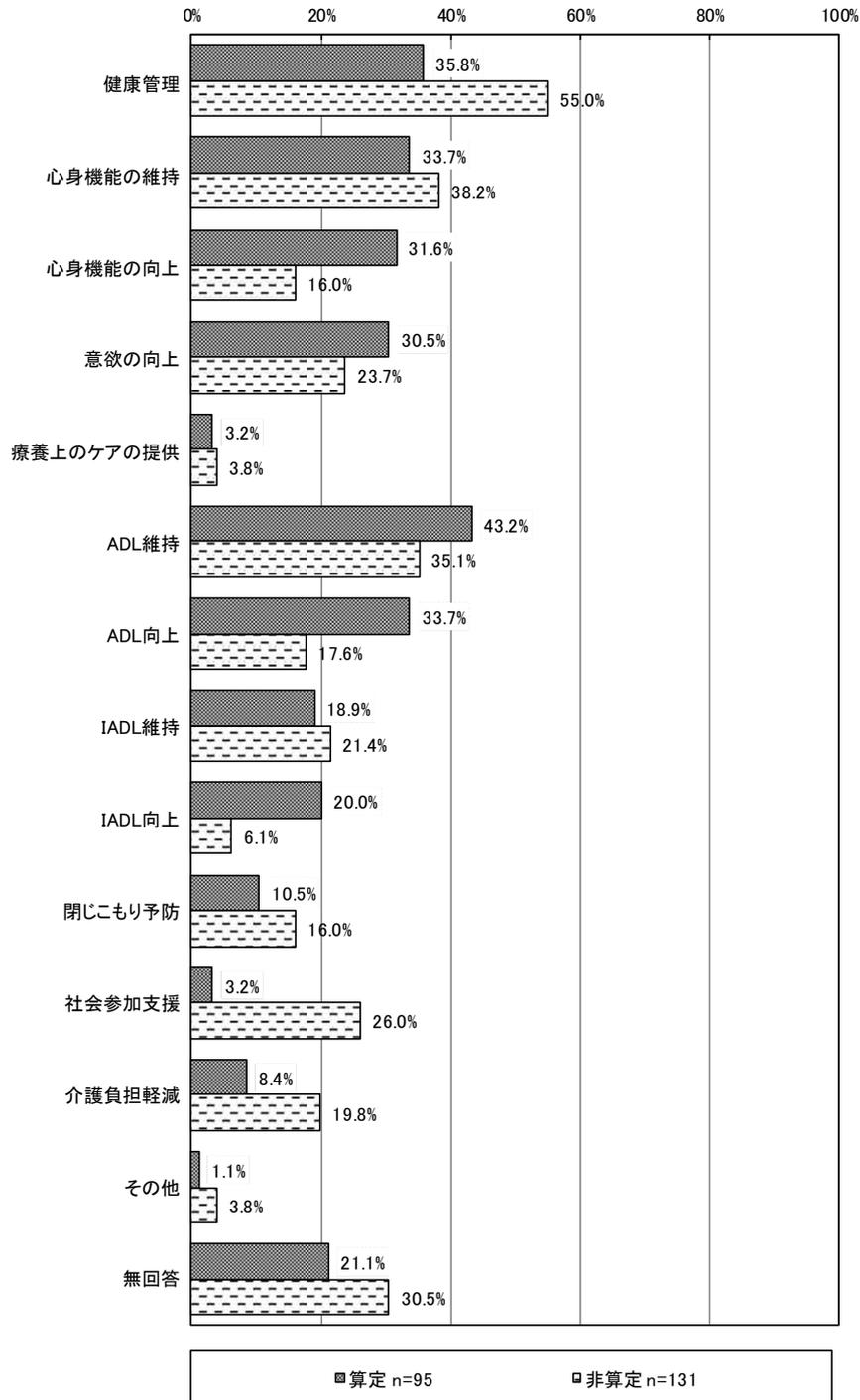


②令和元年10月1日時点

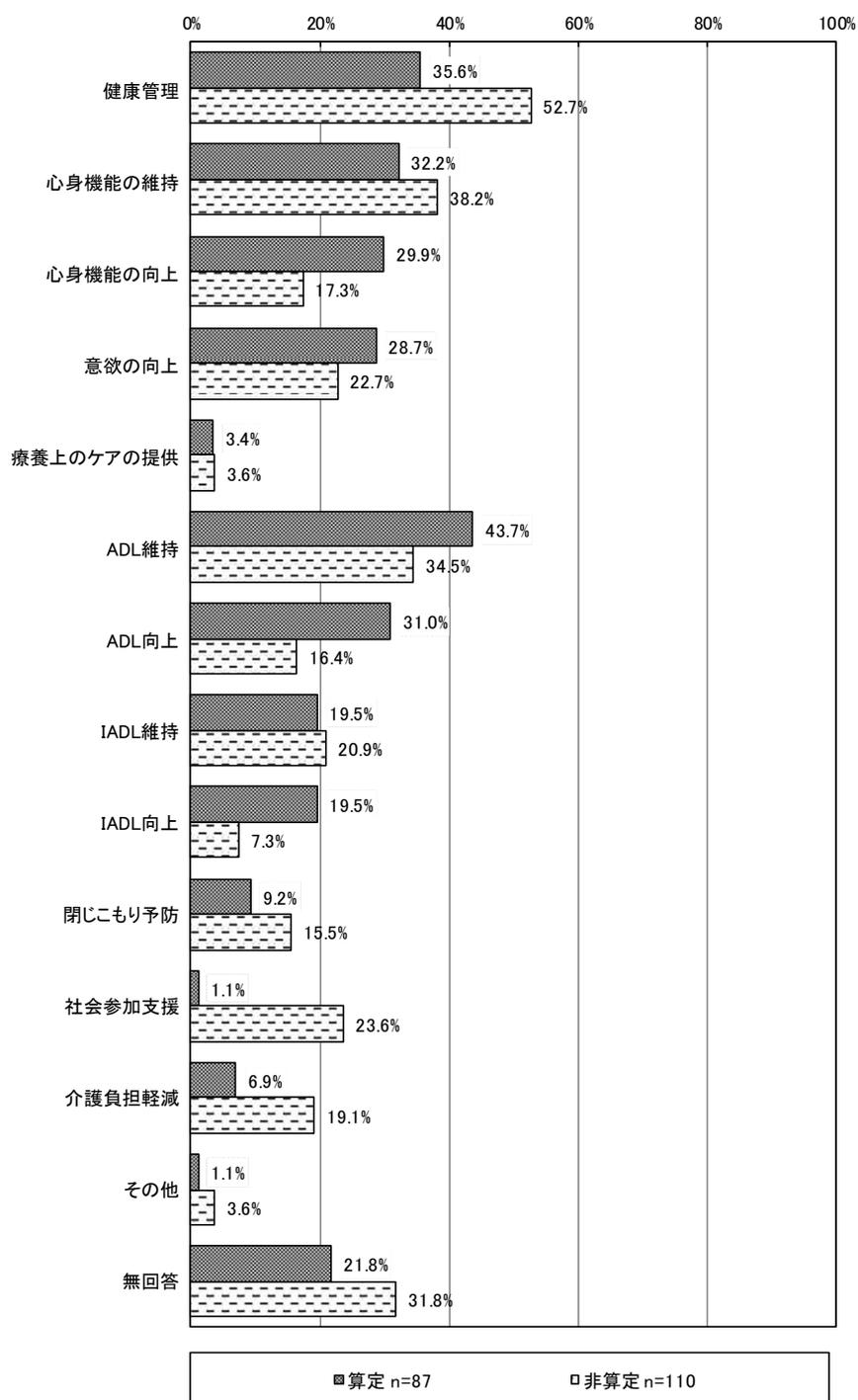


## ク) ケアプランの目標 (問 9)

図表 1183 目標 ①加算算定に伴う連携の開始時点



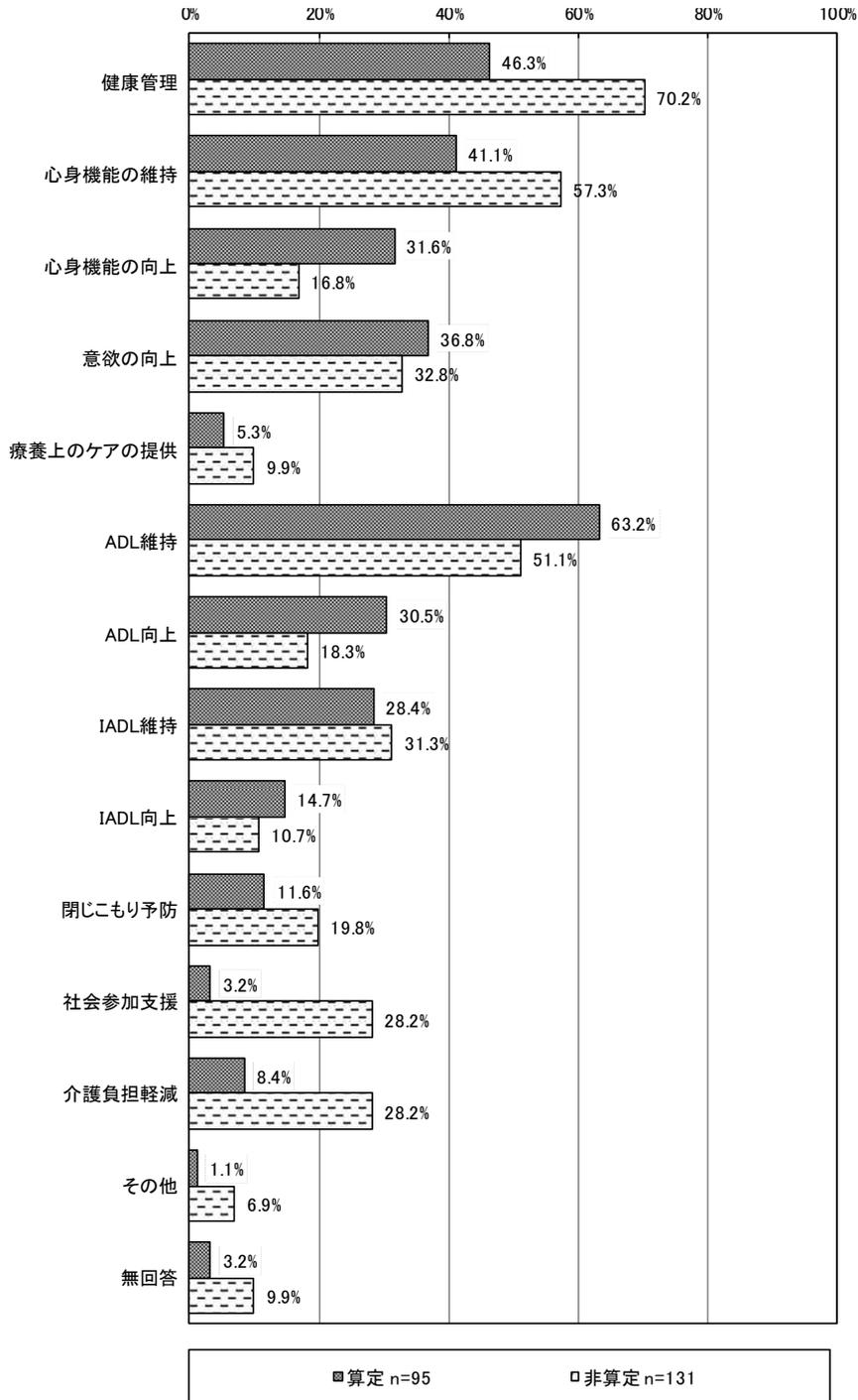
図表 1184 目標 ①加算算定に伴う連携の開始時点 区分1のみ



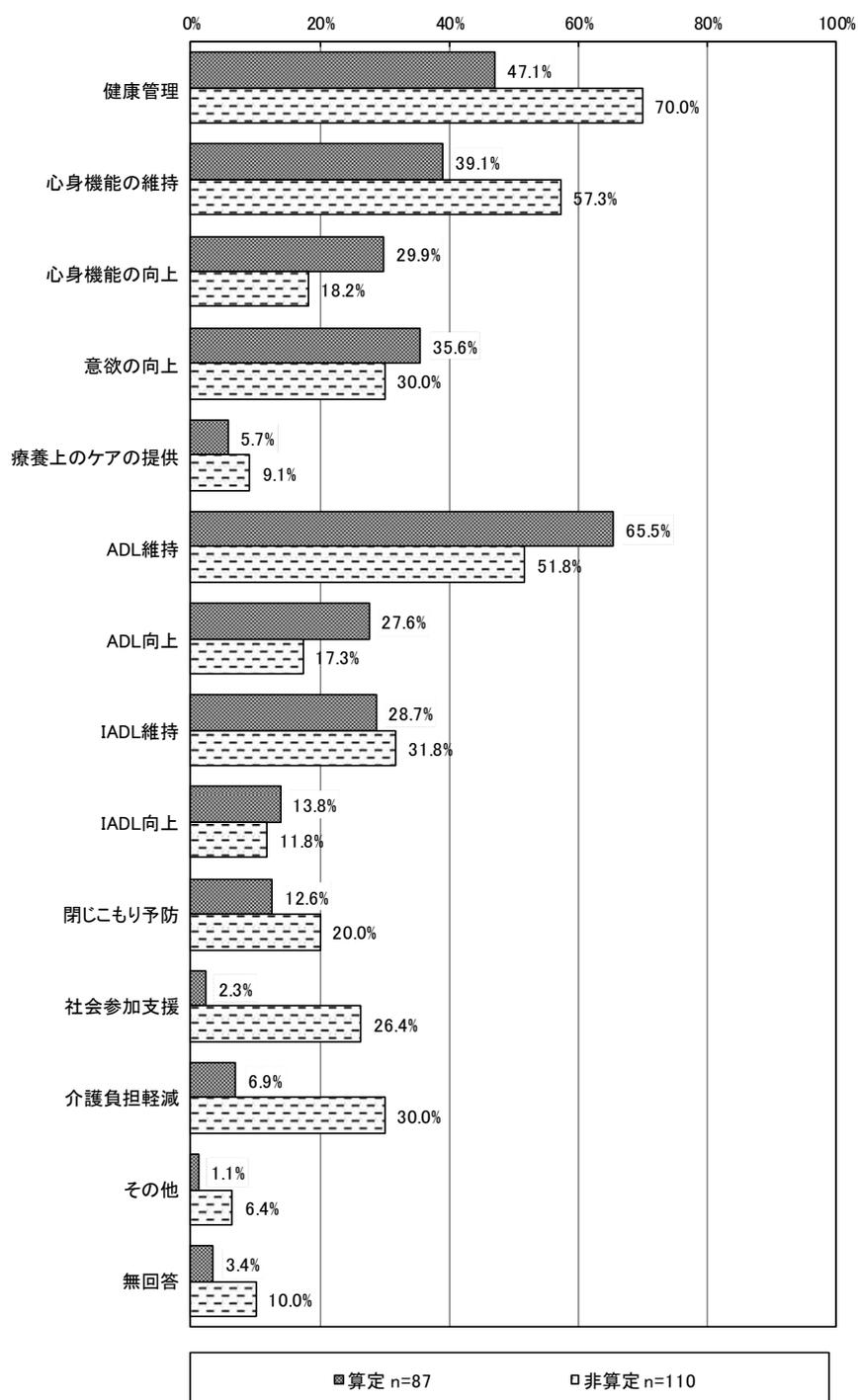
※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

- ・(算定) 清潔保持
- ・(算定) 自立支援
- ・(非算定) 皮膚トラブルの回避
- ・(非算定) 痛みの軽減

図表 1185 目標 ②令和元年 10 月 1 日時点



図表 1186 目標 ②令和元年10月1日時点 区分1のみ



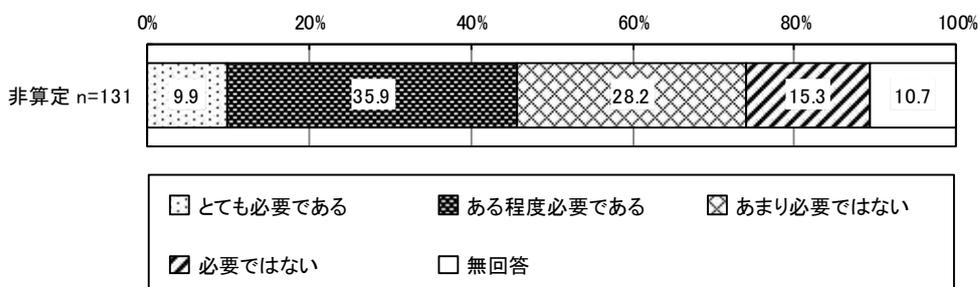
※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

- ・(算定) 清潔保持
- ・(算定) 自立支援
- ・(非算定) 安全な施設生活
- ・(非算定) 不安の解消

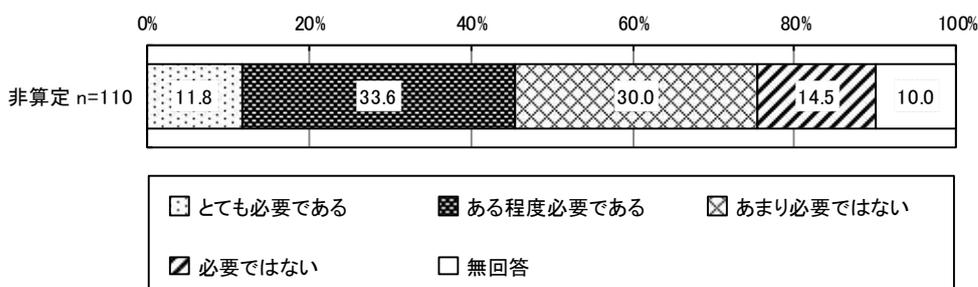
ケ) 利用者の ADL、IADL の状況や課題から判断した、リハ専門職等<sup>※</sup>との連携の必要性 (問 10 (非算定事業所・施設利用者票))

※理学療法士、作業療法士、言語聴覚士又はリハビリテーション科専門医

図表 1187 リハ専門職等との連携の必要性

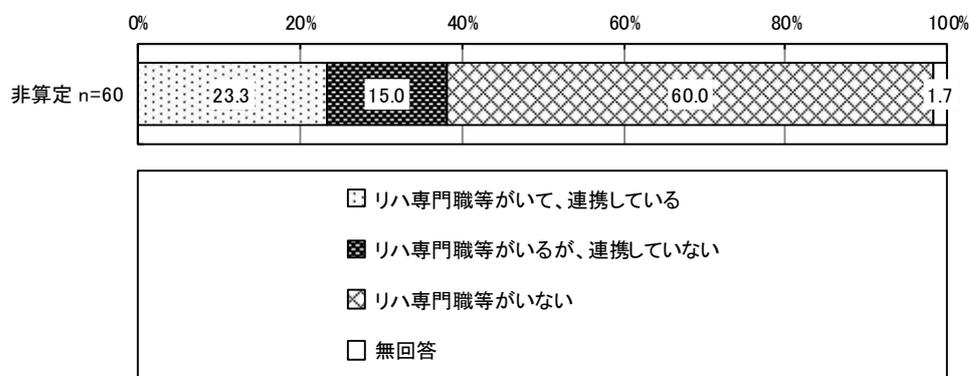


図表 1188 リハ専門職等との連携の必要性 区分1のみ

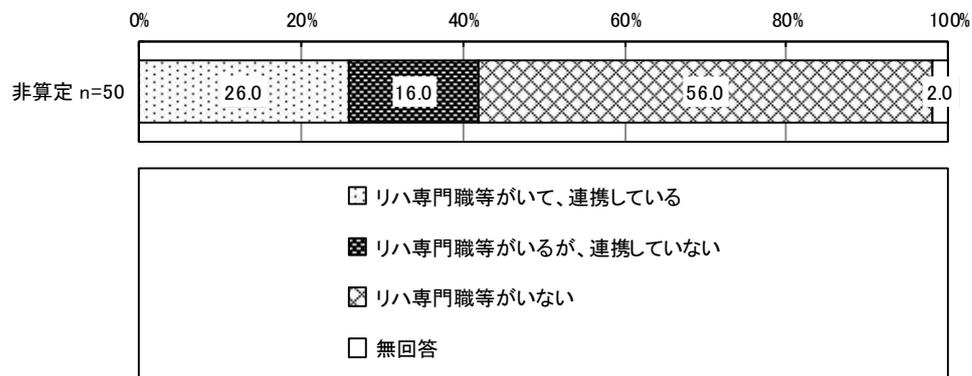


コ) 同一法人内のリハ専門職等の存在および連携の有無 (問 11 (非算定事業所・施設利用者票))

図表 1189 同一法人内のリハ専門職等の存在および連携の有無



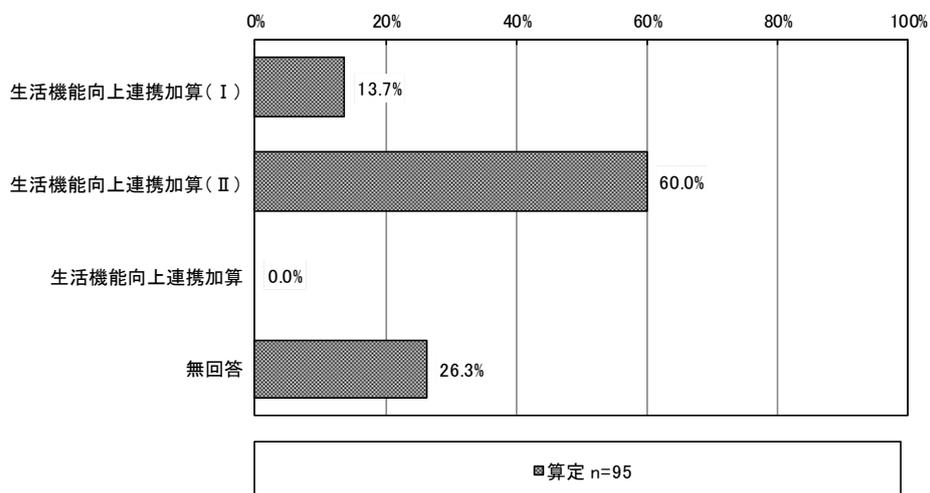
図表 1190 同一法人内のリハ専門職等の存在および連携の有無 区分1のみ



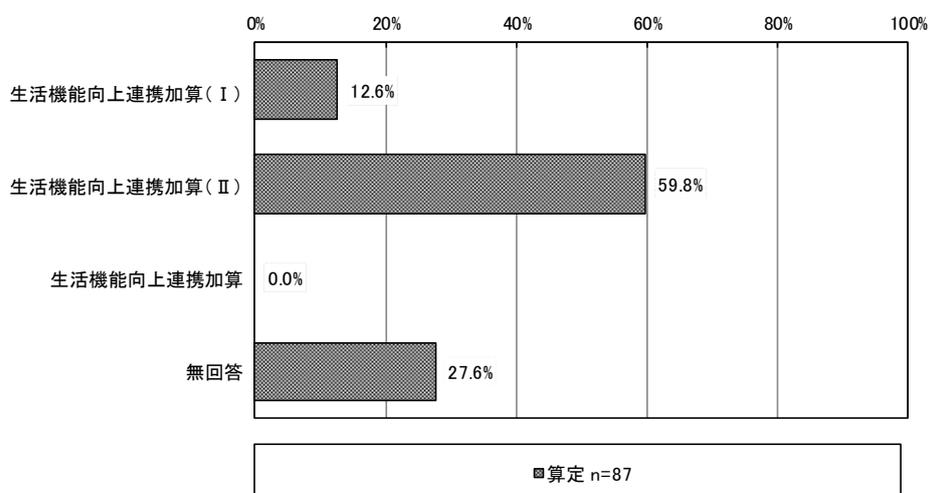
### Ⅲ. 生活機能向上連携加算の算定状況

#### ア) 算定状況 (問 10)

図表 1191 算定状況

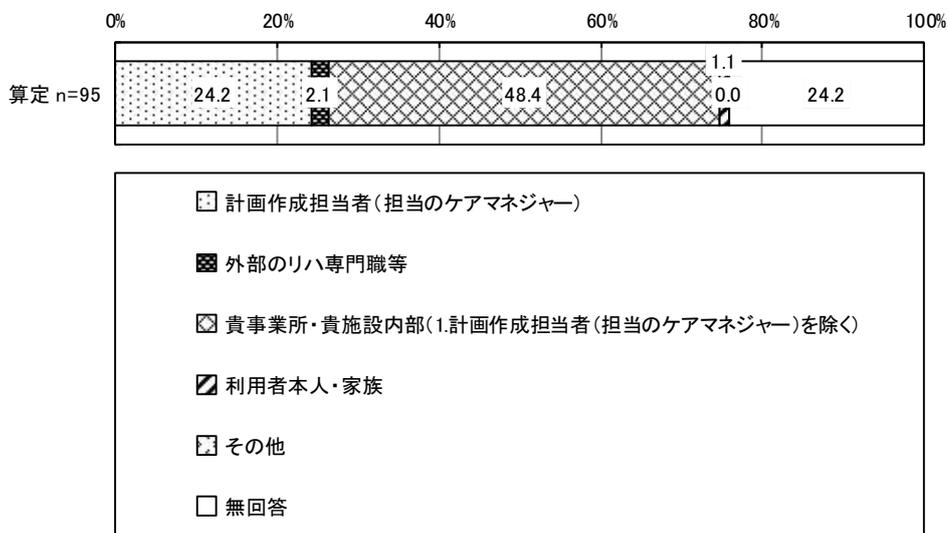


図表 1192 算定状況 区分1のみ

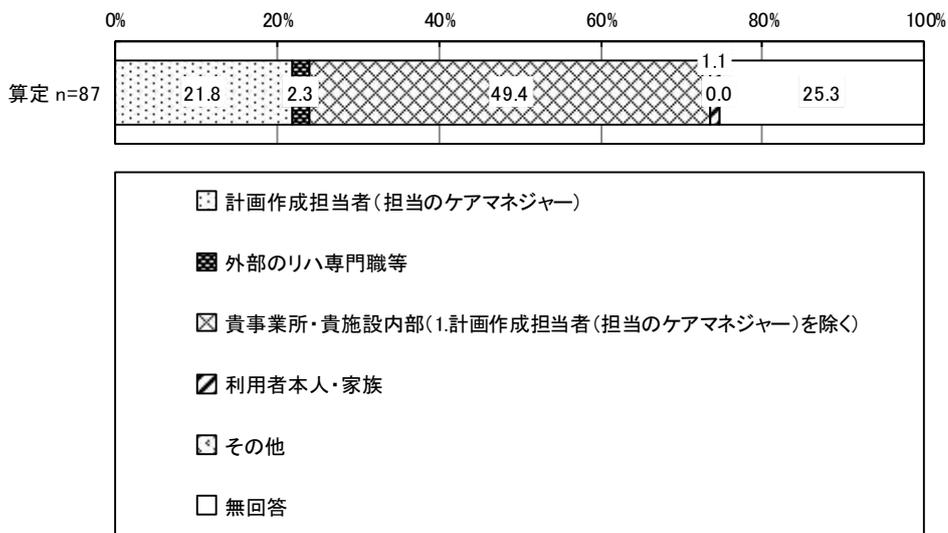


## イ) 算定の提案者 (問 11)

図表 1193 算定の提案者



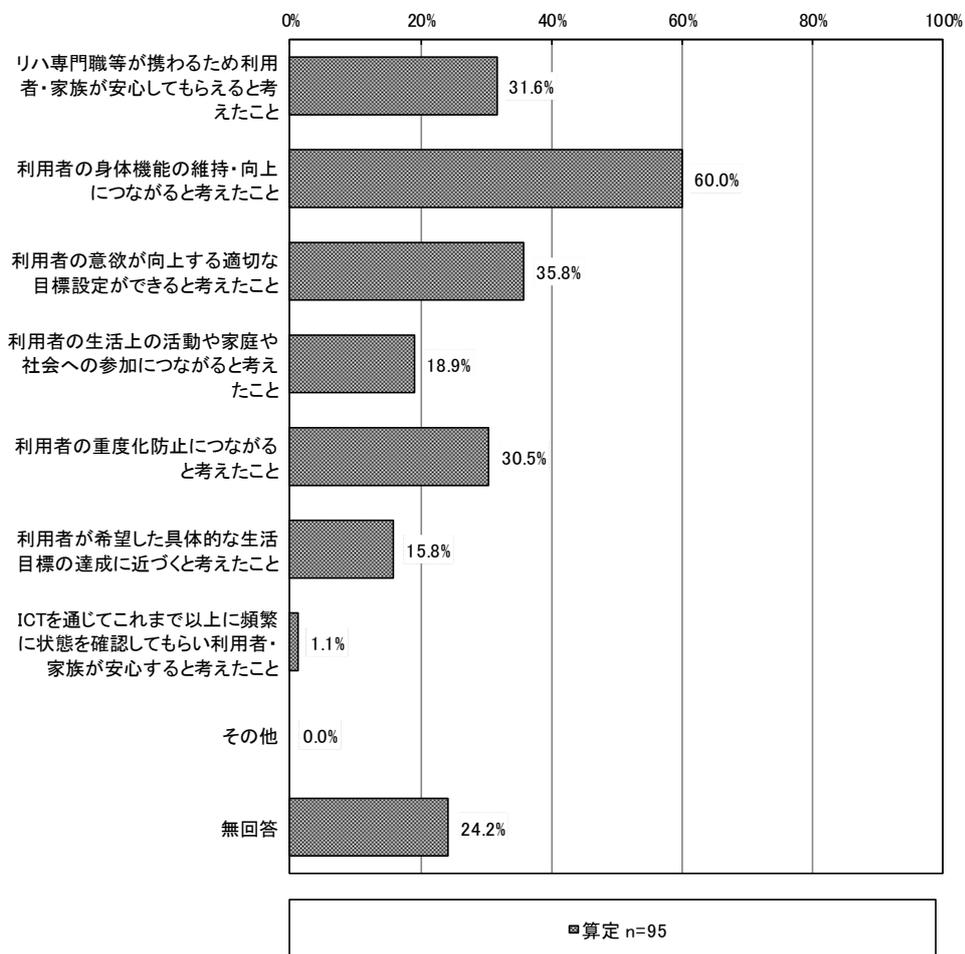
図表 1194 算定の提案者 区分1のみ



※その他として挙げられた有効な回答は無し。

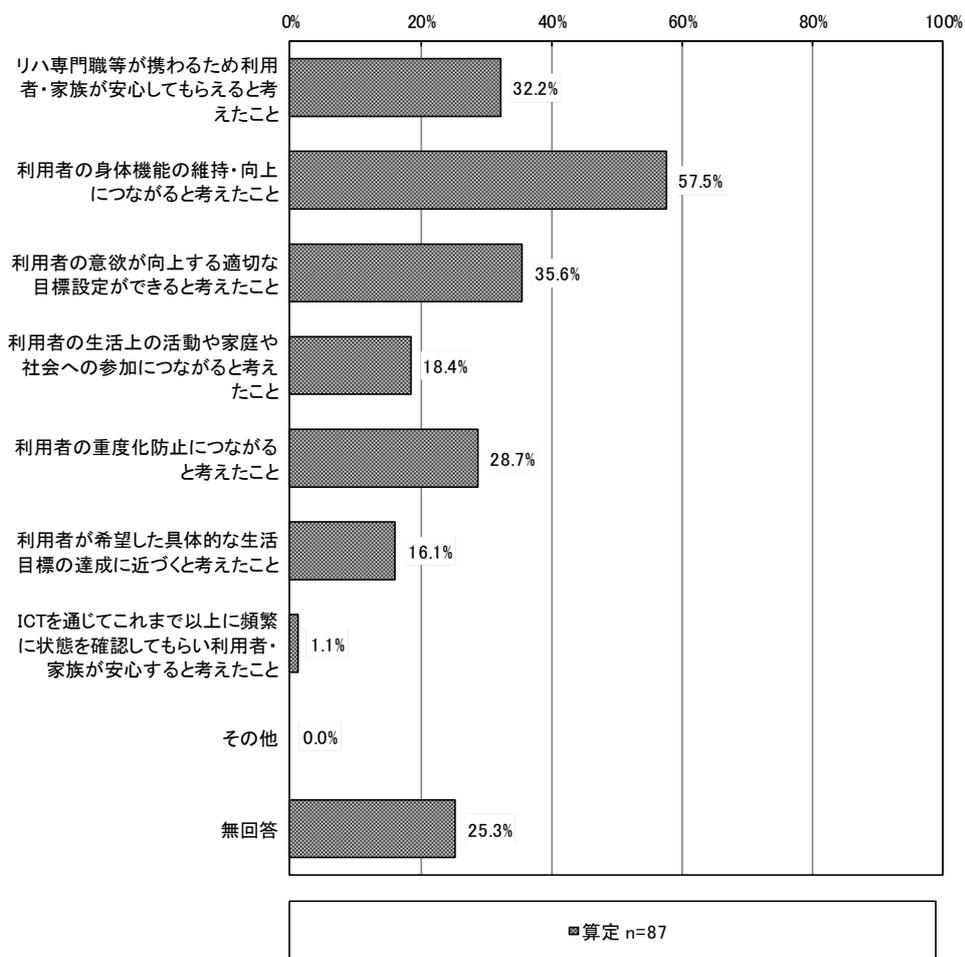
## ウ) 算定を提案した理由 (問 11-2)

図表 1195 算定を提案した理由



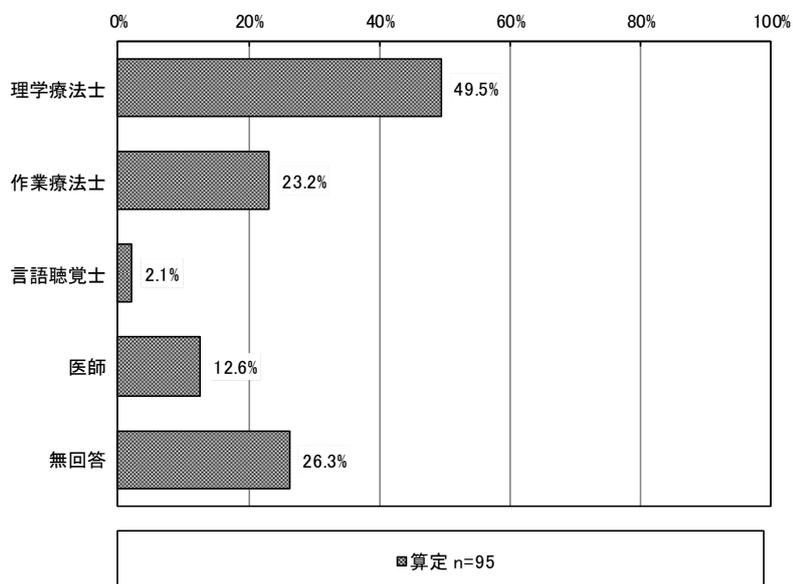
※その他として挙げられた有効な回答は無し。

図表 1196 算定を提案した理由 区分1のみ

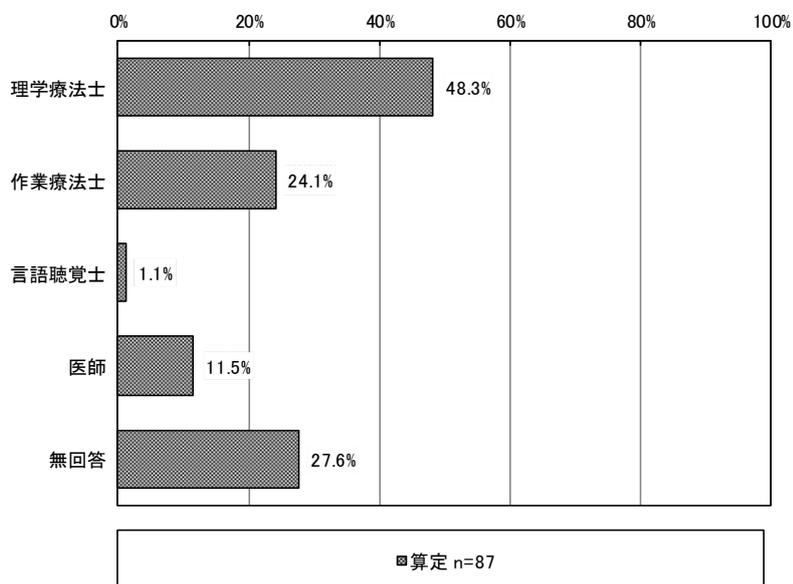


エ) 連携している外部の職種（問 12）

図表 1197 連携している外部の職種

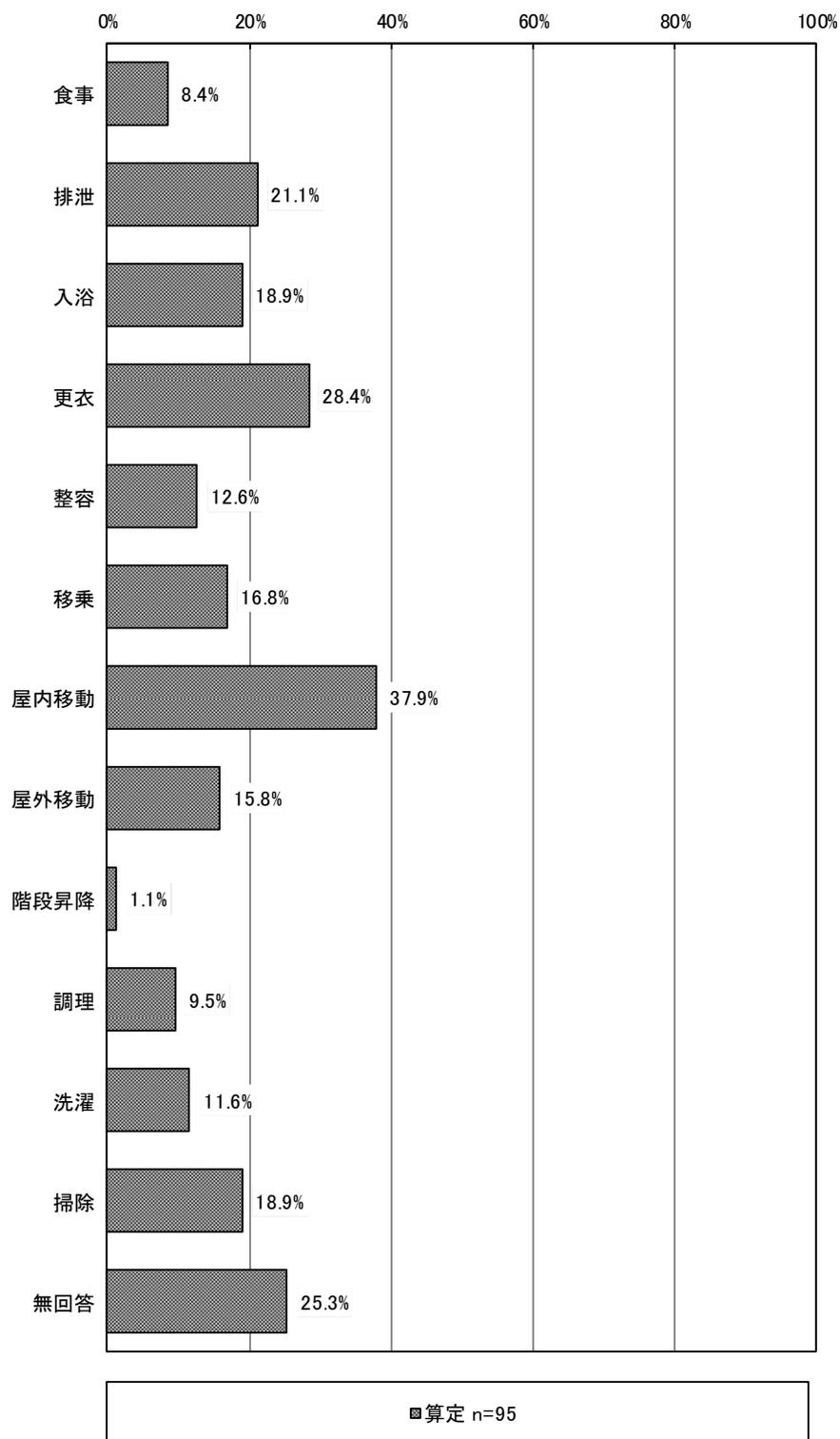


図表 1198 連携している外部の職種 区分1のみ

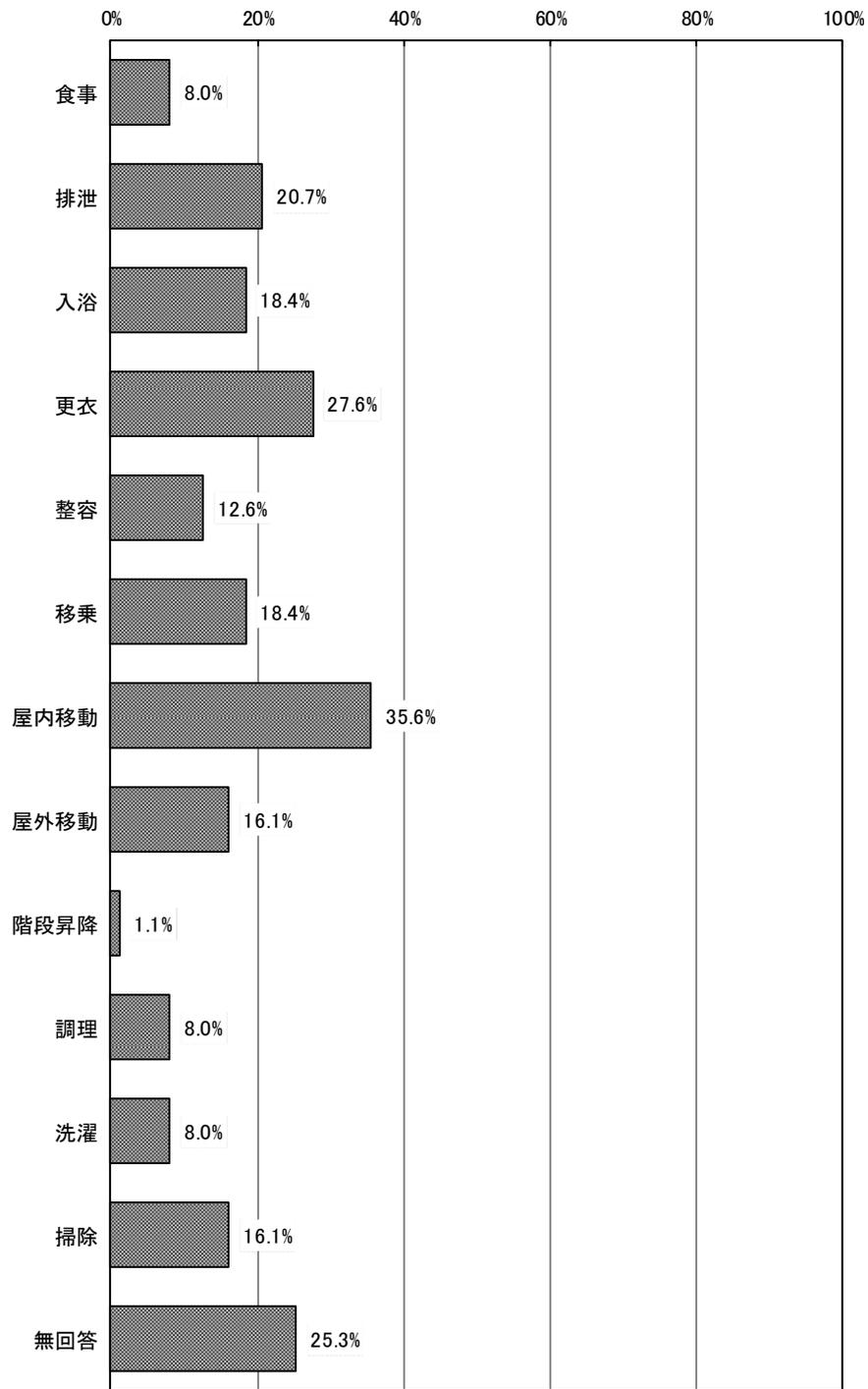


## 才) 利用者の課題 (問 13)

図表 1199 利用者の課題



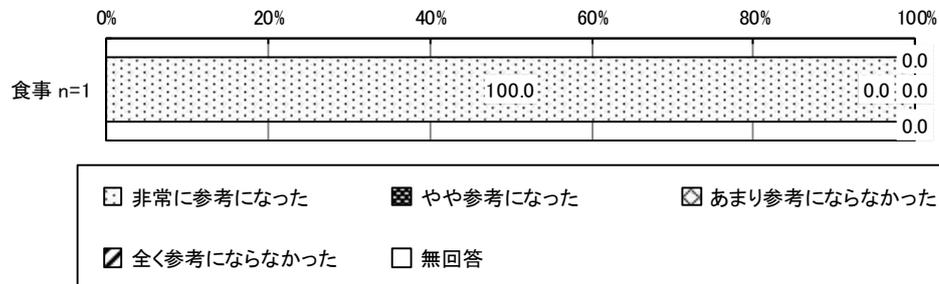
図表 1200 利用者の課題 区分1のみ



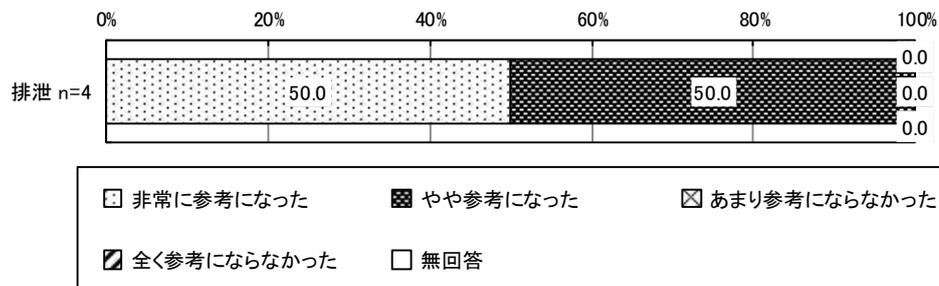
■算定 n=87

カ) 外部からの助言を計画に反映した内容について、課題、助言内容、また助言はどの程度参考になったか（問 14）

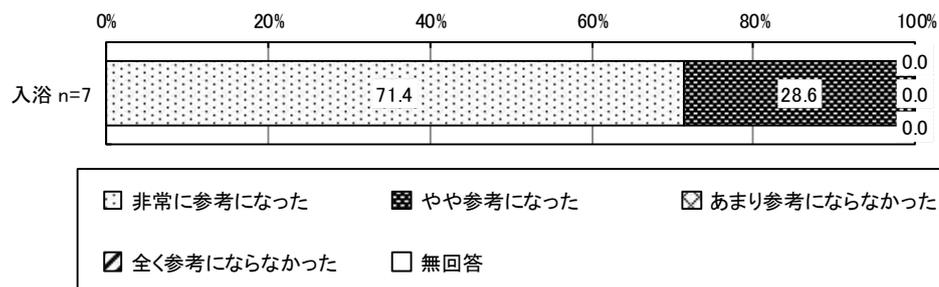
図表 1201 食事



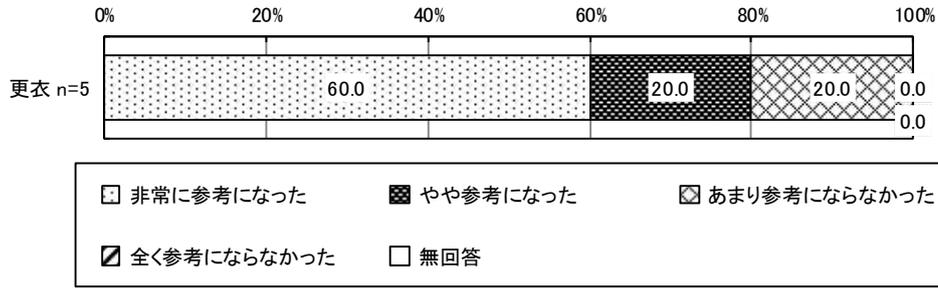
図表 1202 排泄



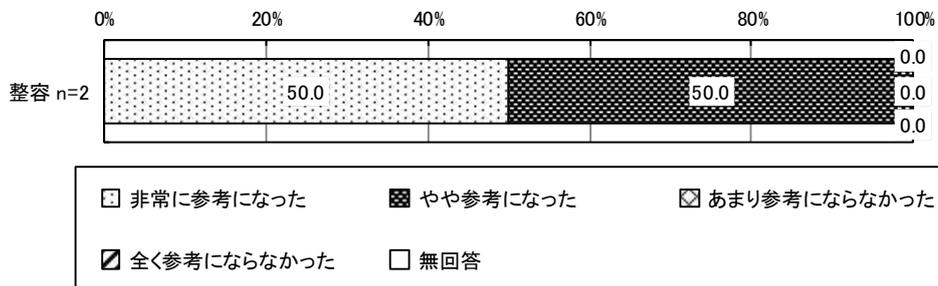
図表 1203 入浴



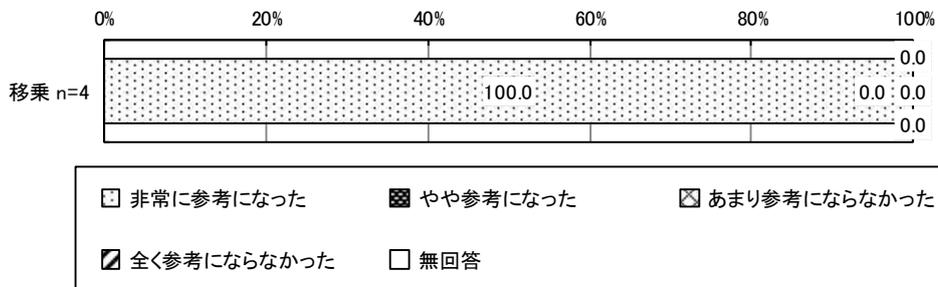
図表 1204 更衣



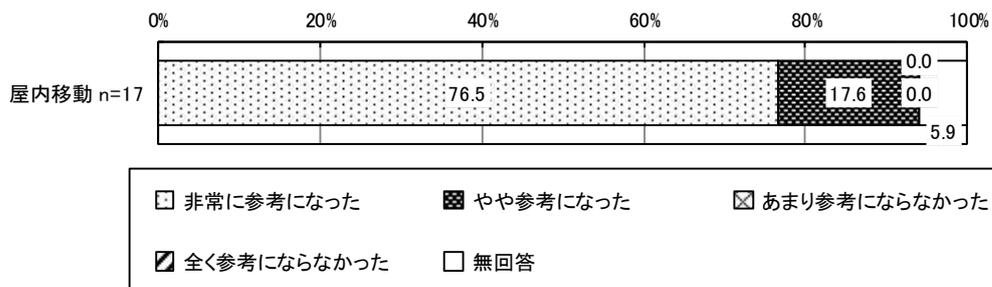
図表 1205 整容



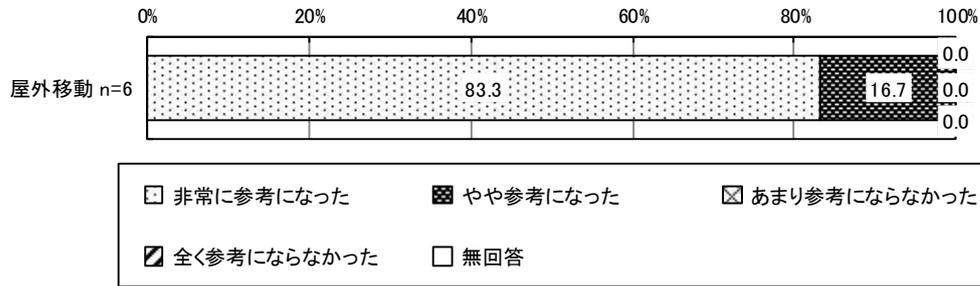
図表 1206 移乗



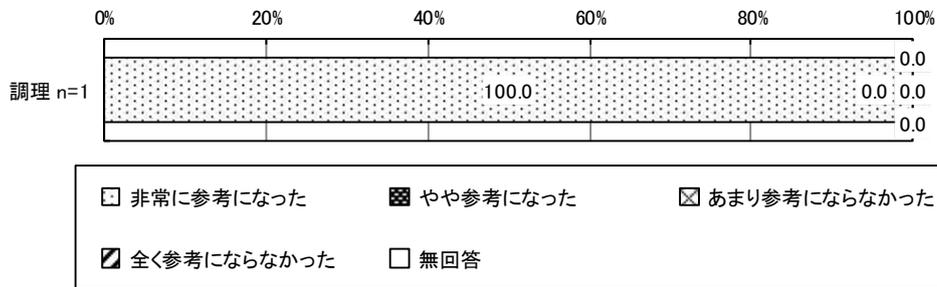
図表 1207 屋内移動



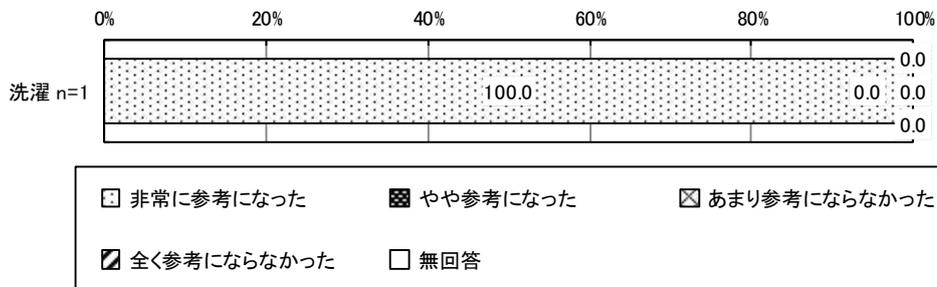
図表 1208 屋外移動



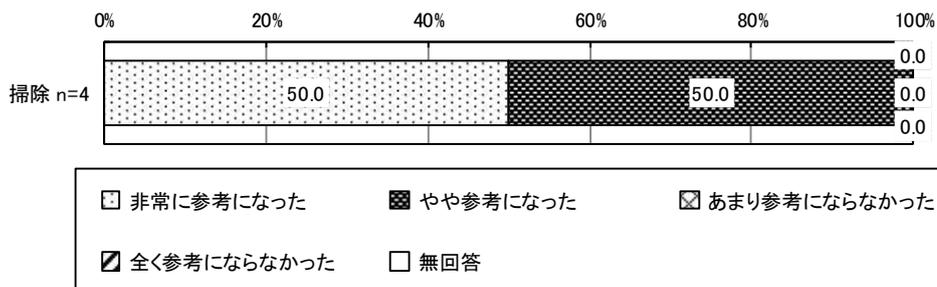
図表 1209 調理



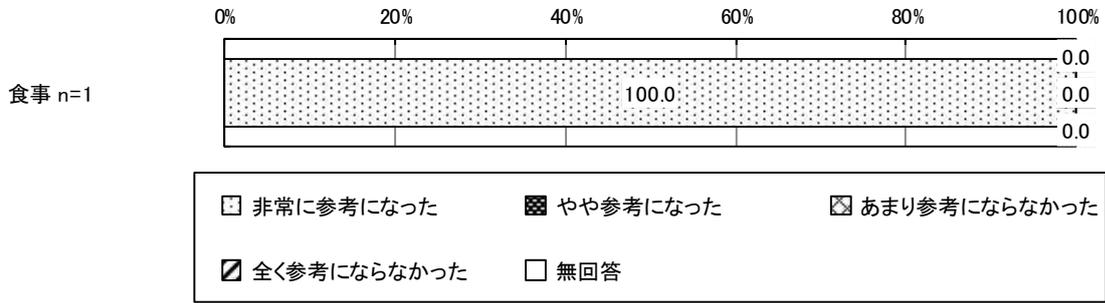
図表 1210 洗濯



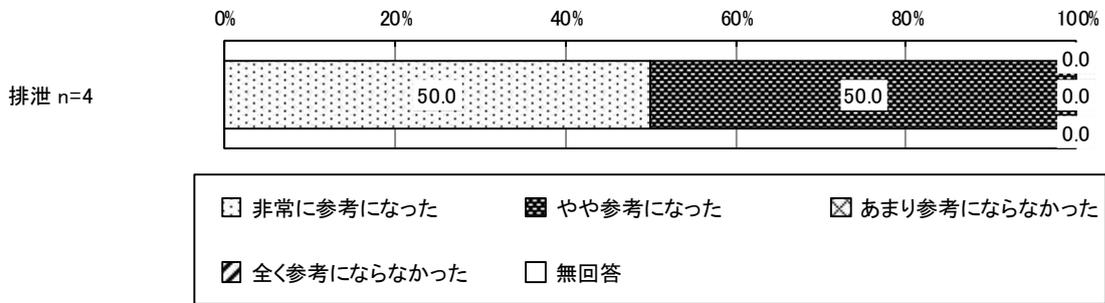
図表 1211 掃除



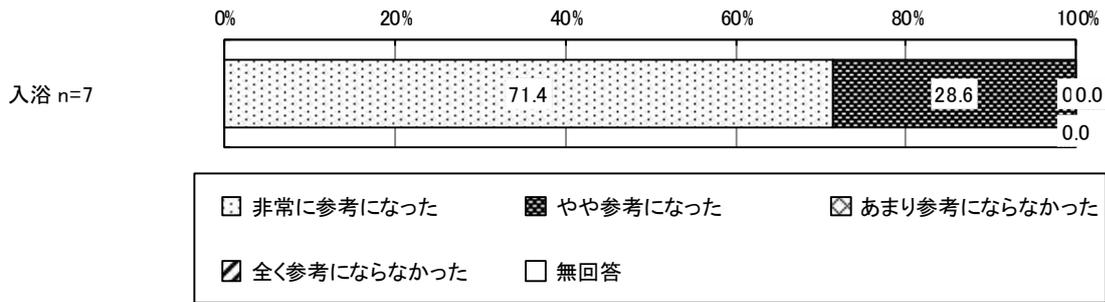
図表 1212 食事 区分1のみ



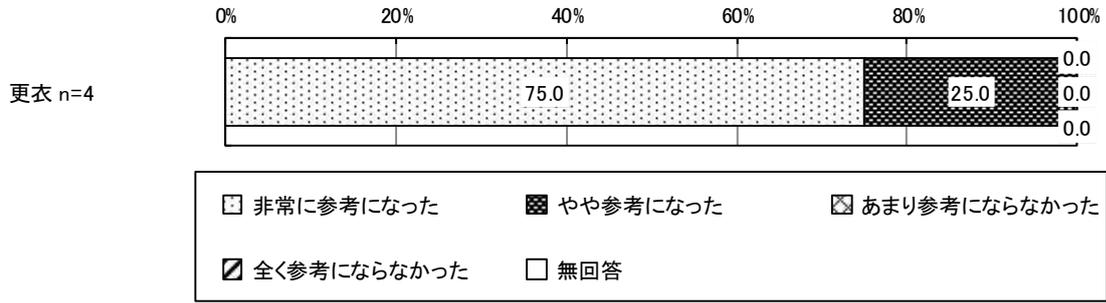
図表 1213 排泄 区分1のみ



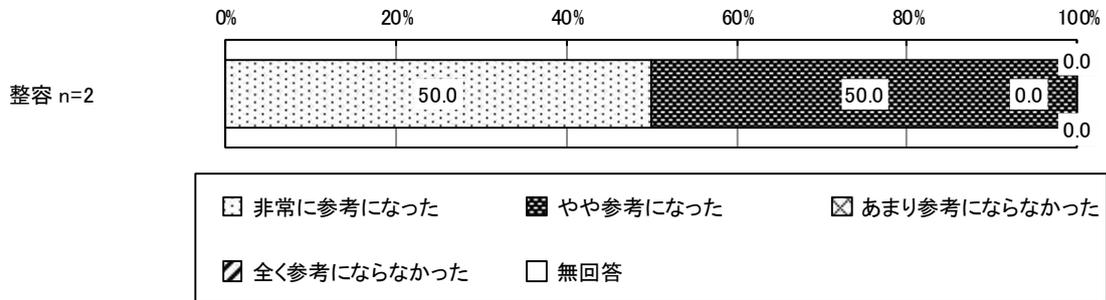
図表 1214 入浴 区分1のみ



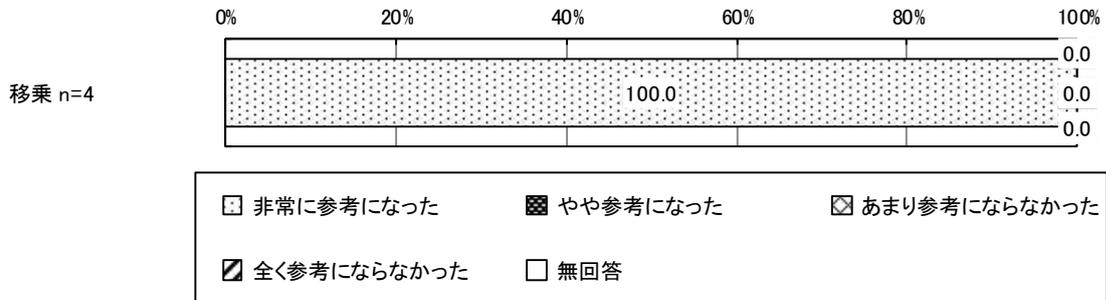
図表 1215 更衣 区分1のみ



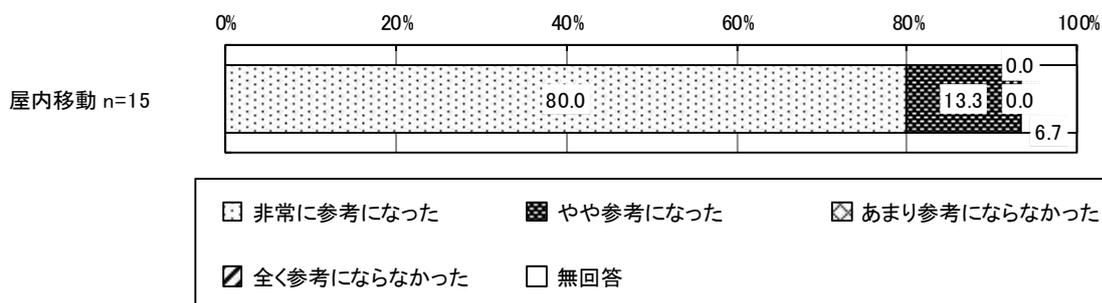
図表 1216 整容 区分1のみ



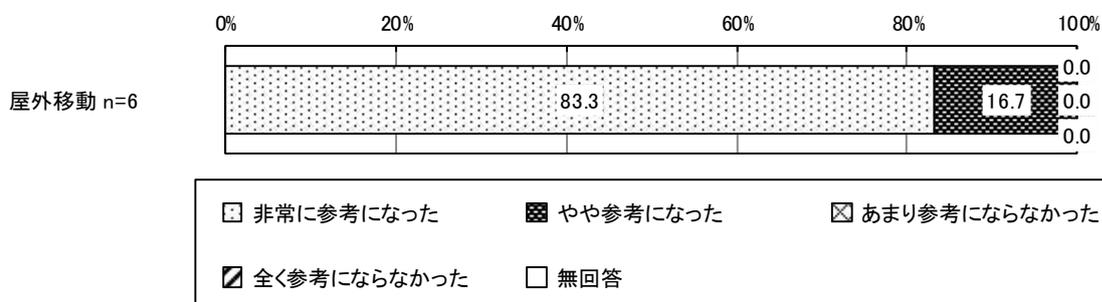
図表 1217 移乗 区分1のみ



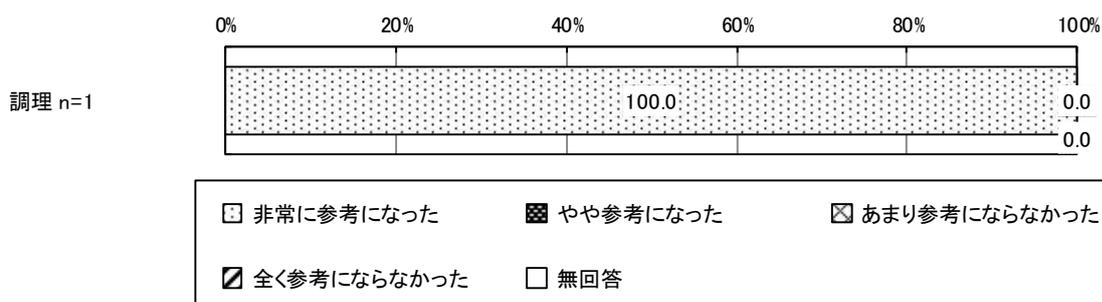
図表 1218 屋内移動 区分1のみ



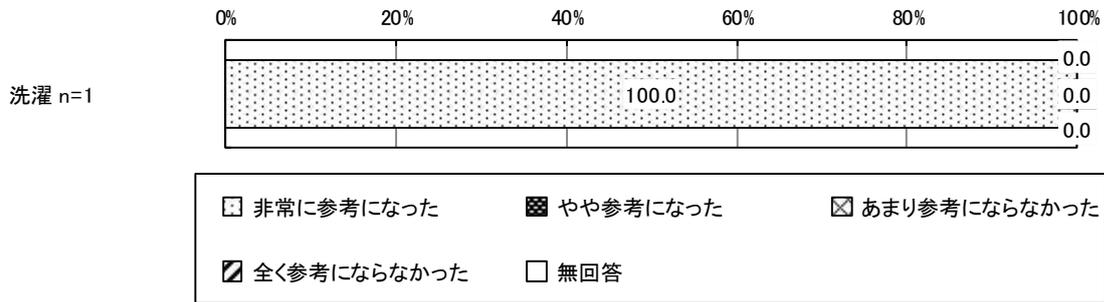
図表 1219 屋外移動 区分1のみ



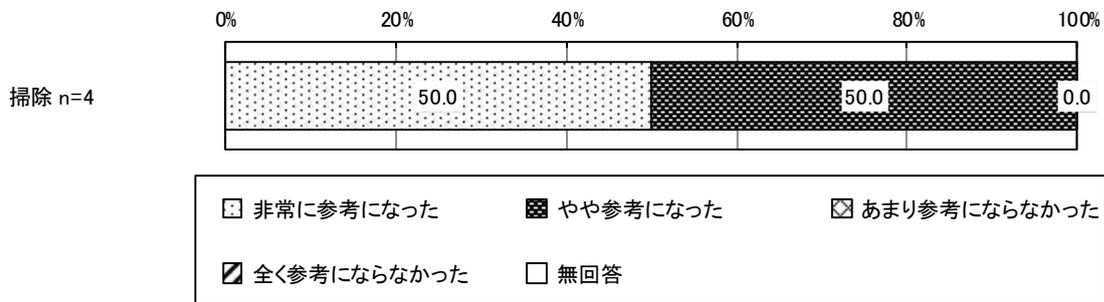
図表 1220 調理 区分1のみ



図表 1221 洗濯 区分 1 のみ



図表 1222 掃除 区分 1 のみ



図表 1223 課題別の助言内容

**○食事**

- ・ 食事介助の際、安定姿勢をとる

**○排泄**

- ・ 紙パンツの交換が習慣化できるよう、声かけと紙パンツの準備をしっかりと行う。
- ・ 本人の足を少し支えておくことで本人が力を入れやすくなる

**○入浴**

- ・ 身体が斜めにならないように、奥の手すりを持つ前に近くの取っ手を使用し、移動する。
- ・ 洗身時はフェイスタオルなどで行っていたが、ボディタオルなど軽い物へ変更することで、本人も痛みを感じず、自己にて洗身可能となる

**○更衣**

- ・ できることを自分で行えるように配慮する
- ・ 右袖を通し、左袖を通した後、再度右袖を肘関節まで引き上げると、肩の引っかかりが軽減できる

### ○整容

- ・姿勢・つかまるところ・立位保持可能時間について
- ・可動域が狭くならないようリハビリを行う

### ○移乗

- ・立ち上がりの際、膝折れの可能性があるため、転倒に注意する。
- ・移乗時、後方から体幹を指示する

### ○屋内移動

- ・肩の脱臼があるため、注意・配慮する
- ・覚醒等により、動作遂行にムラがあるため、起き上がり・独歩に注意する

### ○屋外移動

- ・転倒防止と家事遂行の安定性を図るため、腰痛予防の体操を行う
- ・歩行時、背中を伸ばして姿勢を正す

### ○調理

- ・今まで行っていた方法で安全に動く

### ○洗濯

- ・洗濯を干す際の干す立ち位置、手法について

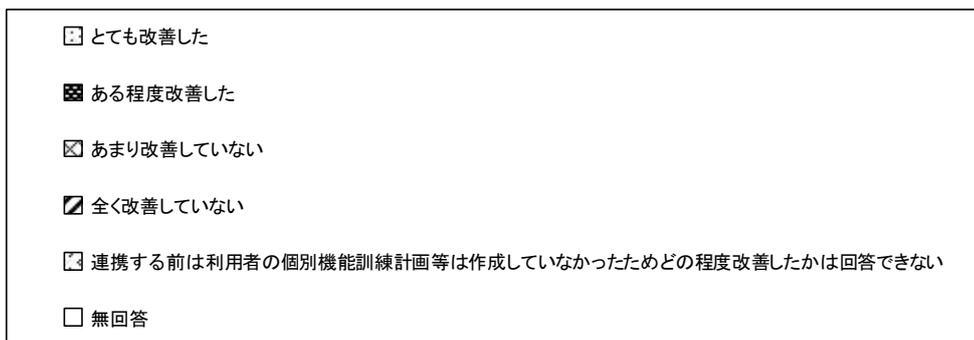
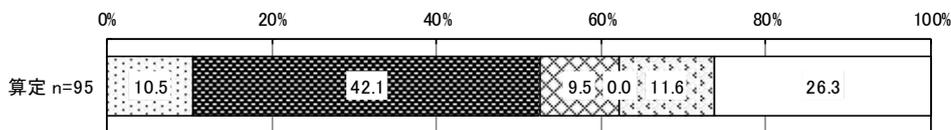
### ○掃除

- ・本人の意欲向上と下肢筋力低下を予防するため、室内拭き掃除等で状態維持を保つ。
- ・下肢筋力低下により、しゃがみ動作等全般が困難なため、家事動作で状態維持を保つ

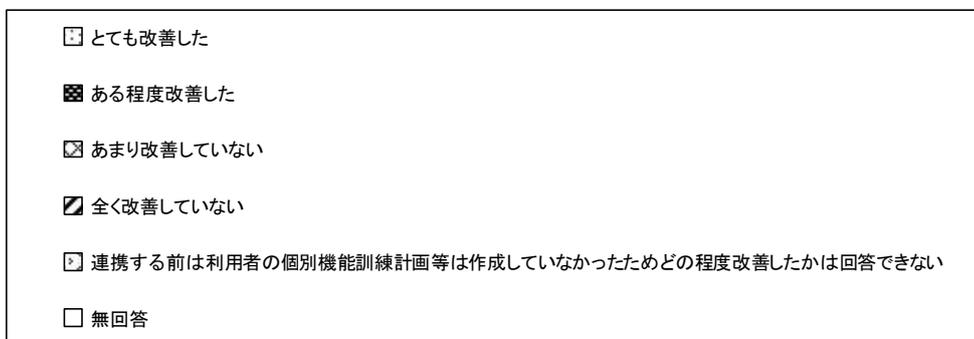
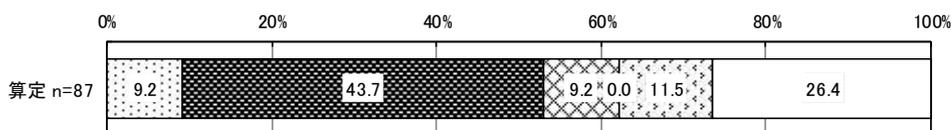
階段昇降については、回答は無し。

## キ) 助言により利用者の計画はどの程度改善したか（問 15）

図表 1224 助言により利用者の計画はどの程度改善したか



図表 1225 助言により利用者の計画はどの程度改善したか 区分1のみ



## ク) 助言による具体的な状況変化（問 15-2）

図表 1226 助言による具体的な状況変化

### ○訓練内容の変化

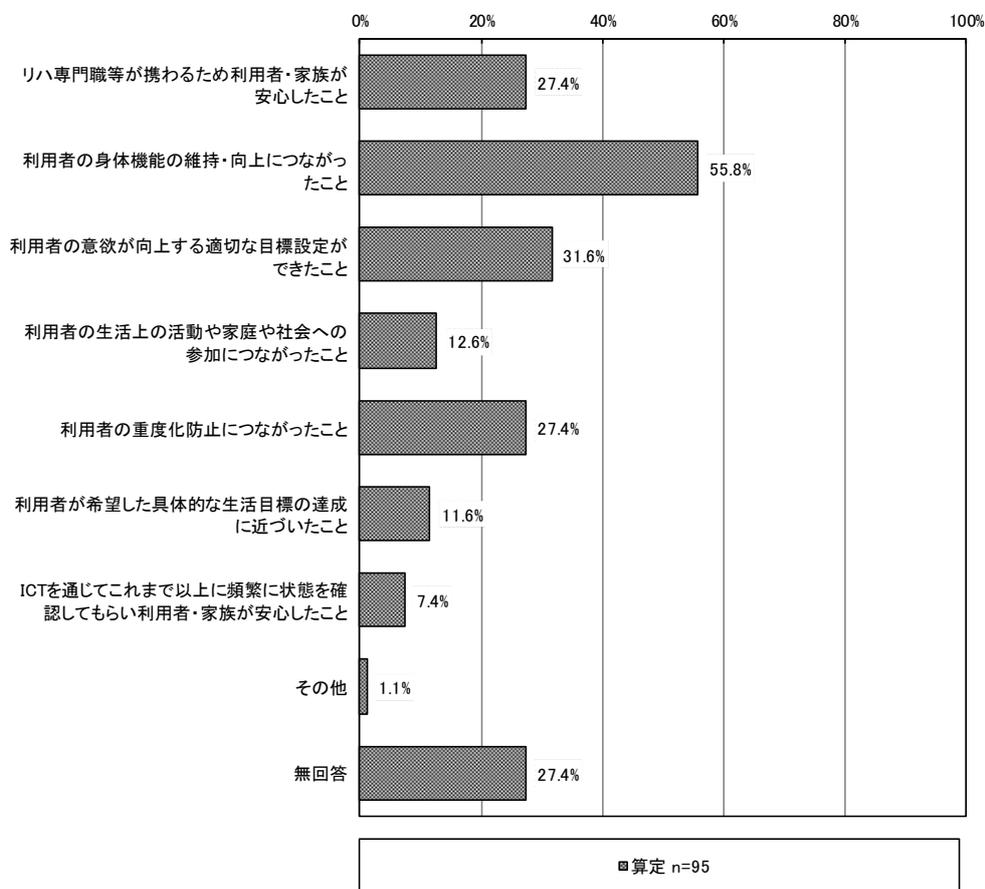
- ・ヘルパー全員が同じやり方で統一できた
- ・落ち着いて動作を行えるようになった

### ○本人の状態の変化

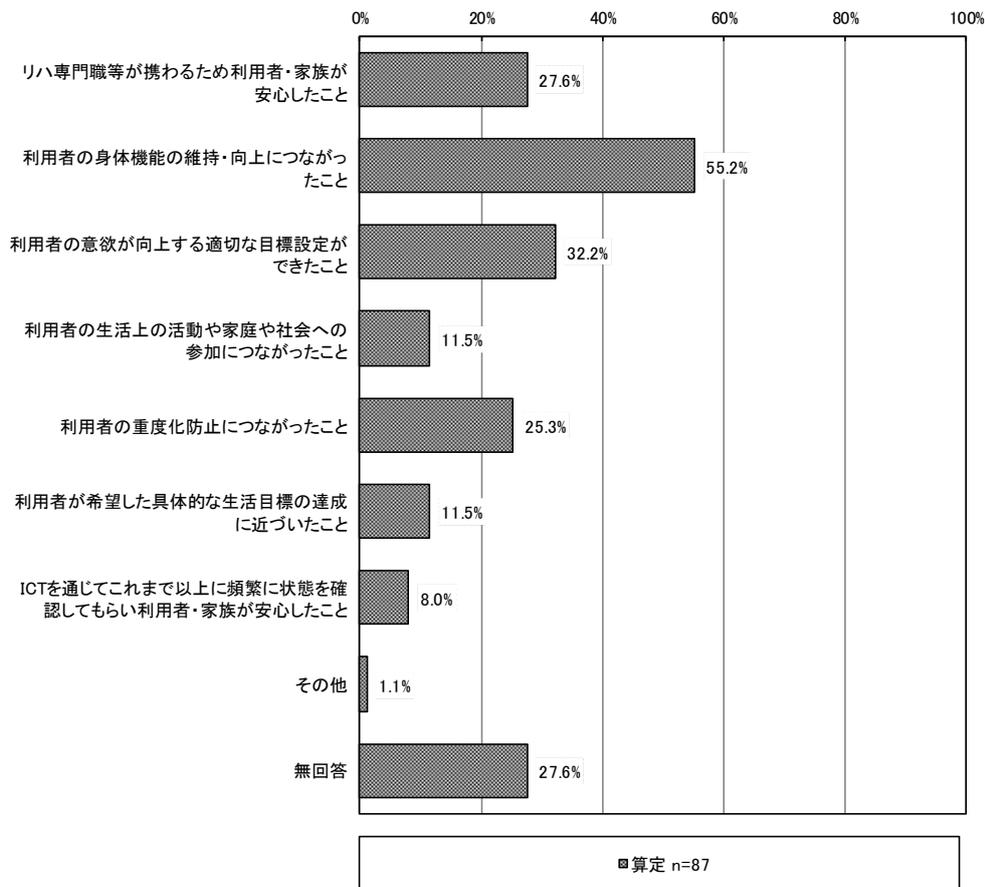
- ・洗髪・洗身が自分でできるようになった

## ケ) 利用者が享受したメリット (問 16)

図表 1227 利用者が享受したメリット



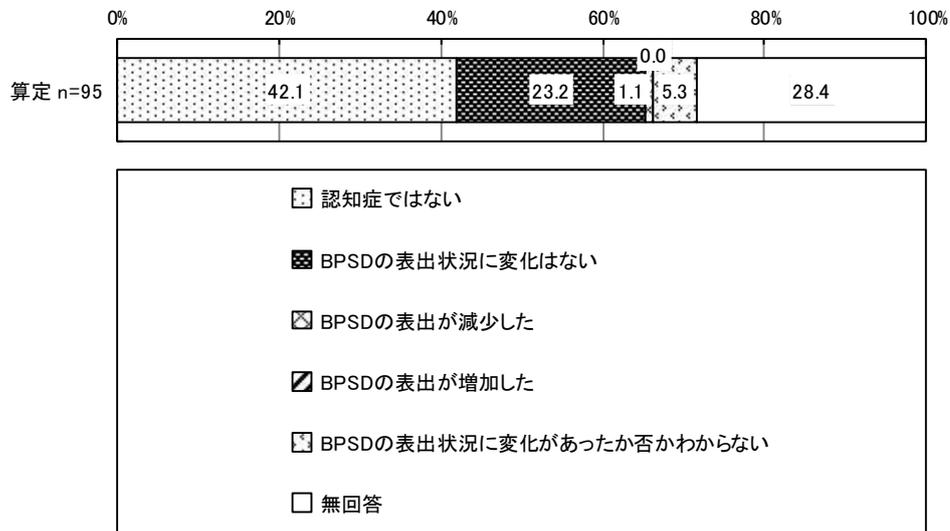
図表 1228 利用者が享受したメリット 区分1のみ



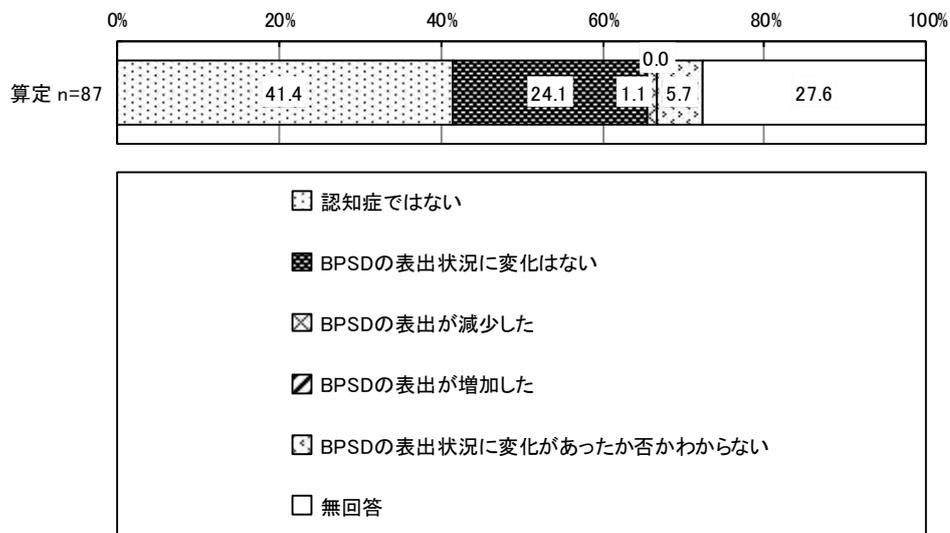
※その他として挙げられた有効な回答は無し。

コ) 認知症の利用者の BPSD 表出状況の変化 (問 17)

図表 1229 認知症の利用者の BPSD 表出状況の変化

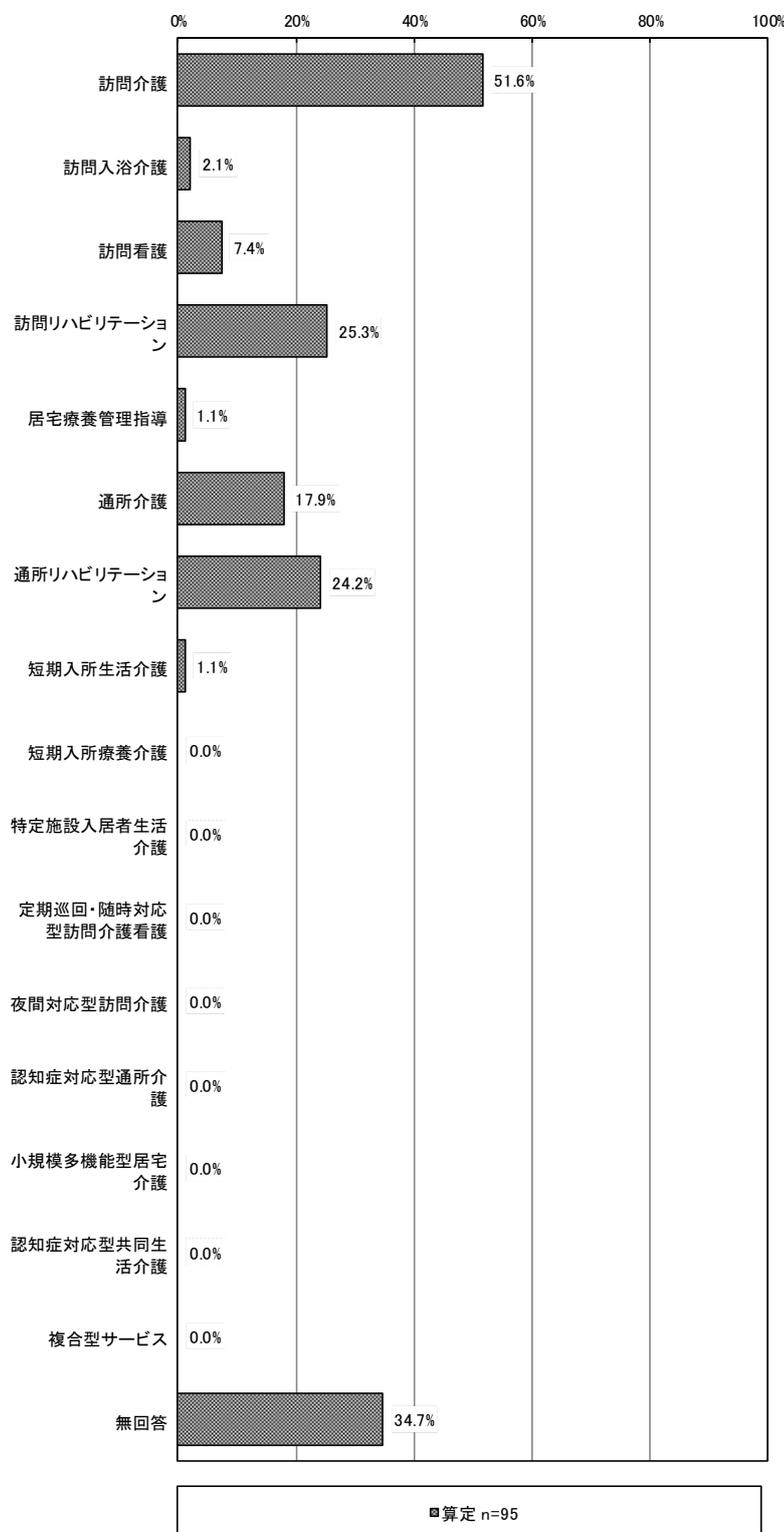


図表 1230 認知症の利用者の BPSD 表出状況の変化 区分 1 のみ

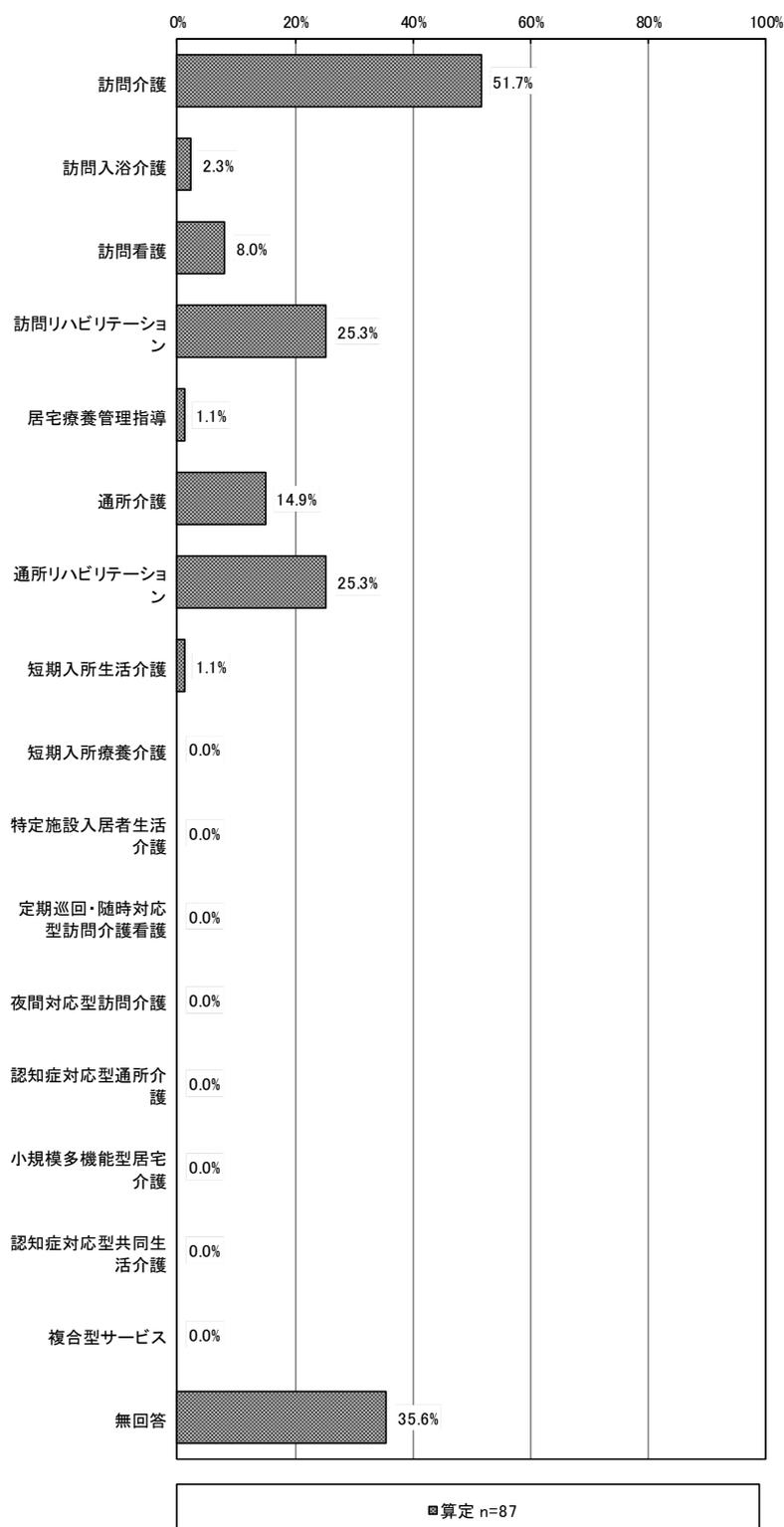


サ) 利用者が他に利用しているサービス（問 18（算定事業所・施設利用者票）・問 12（非算定事業所・施設利用者票））

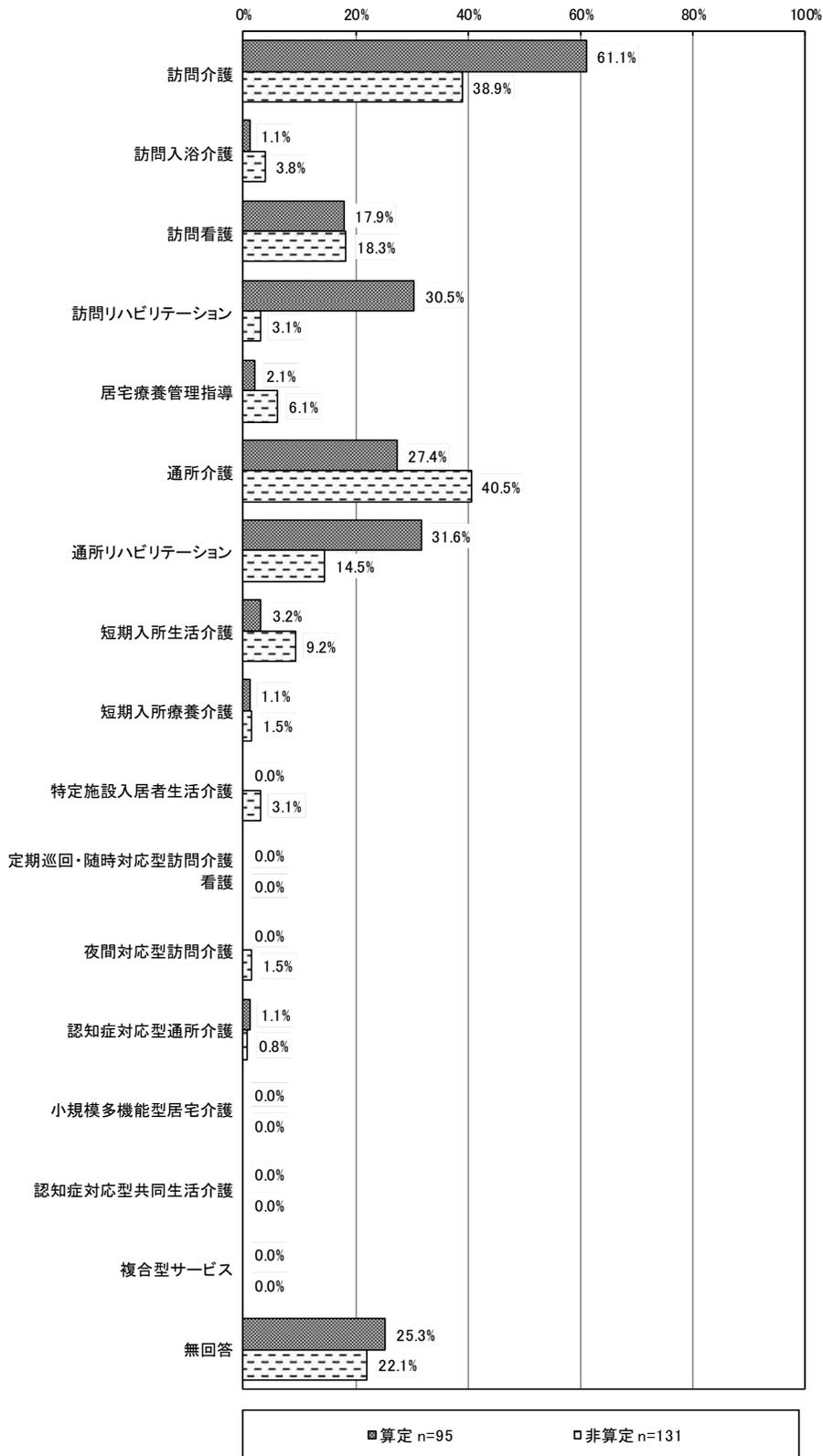
図表 1231 利用者が他に利用しているサービス ①算定前



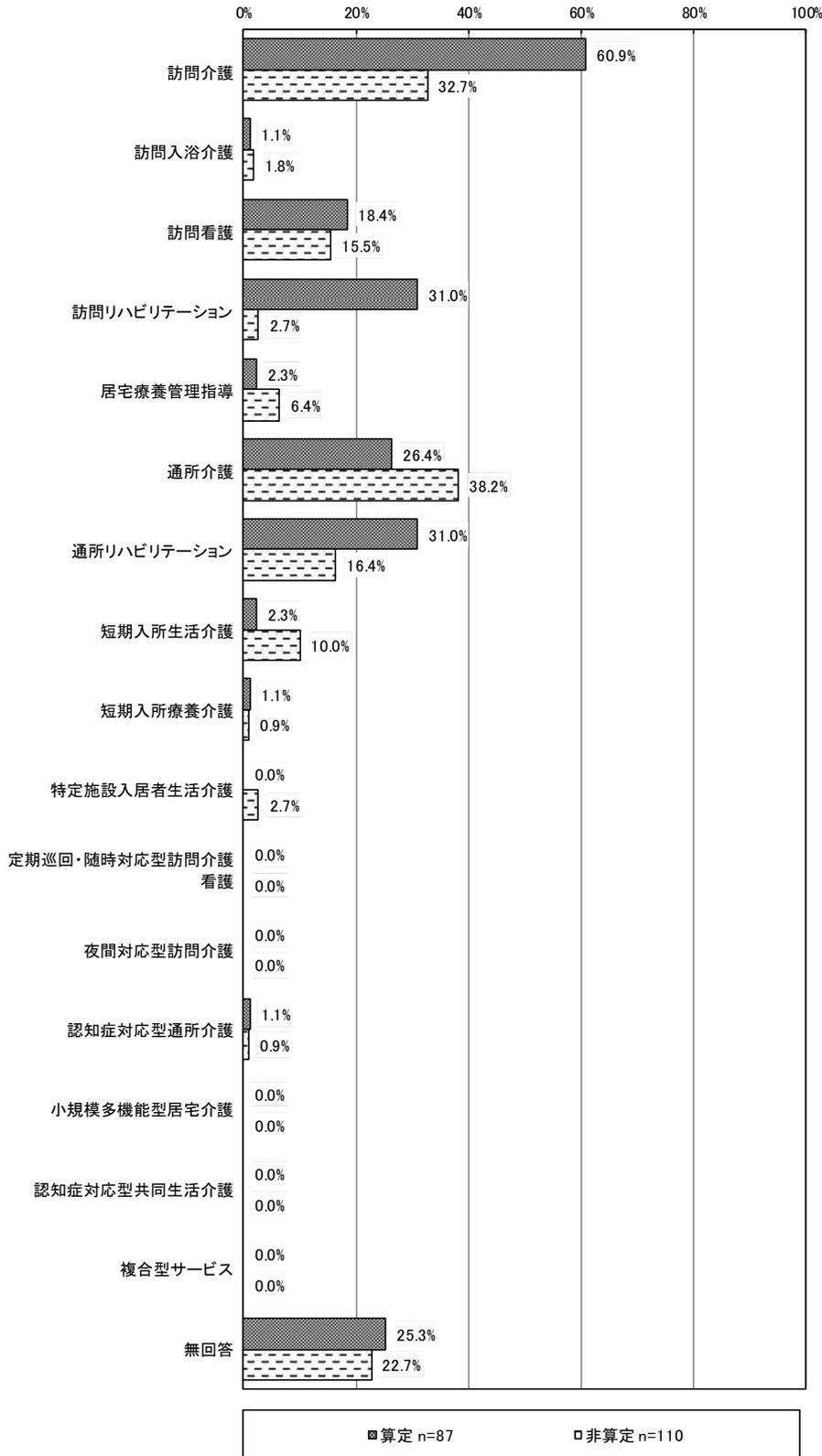
図表 1232 利用者が他に利用しているサービス ①算定前 区分1のみ



図表 1233 利用者が他に利用しているサービス ②算定以後



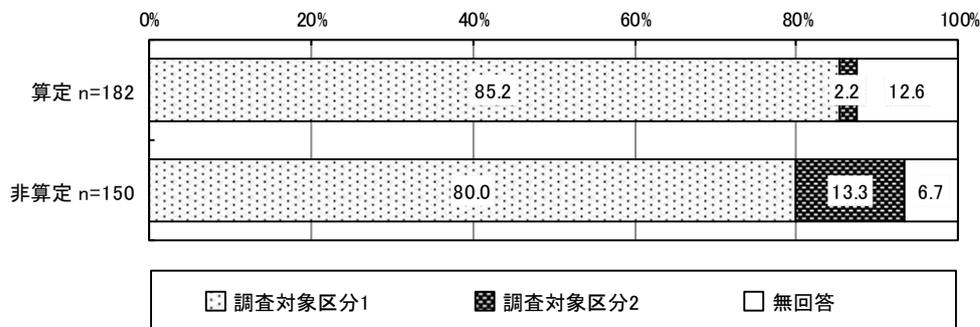
図表 1234 利用者が他に利用しているサービス ②算定以後 区分1のみ



## (8) 小規模多機能型居宅介護

### ア) 利用者の調査対象区分 (問 0)

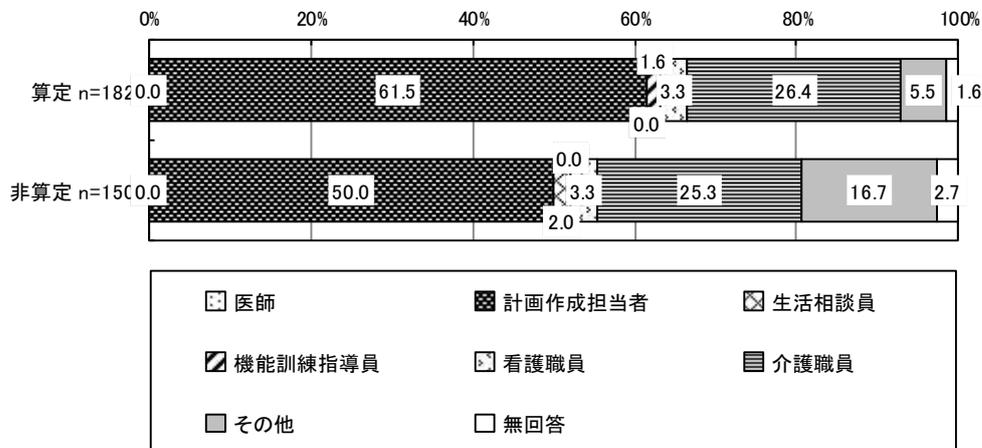
図表 1235 利用者の調査対象区分



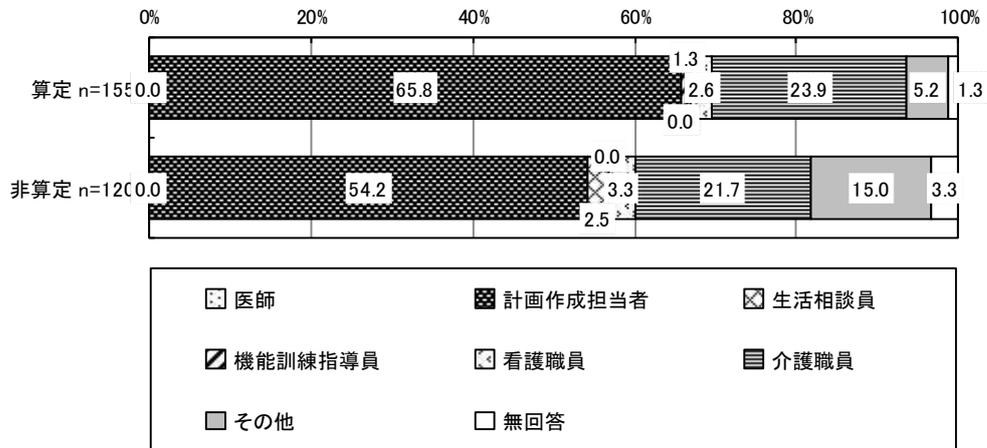
## I. 回答者の属性

### ア) 回答者の職種 (問 1)

図表 1236 回答者の職種



図表 1237 回答者の職種 区分1のみ



※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

- ・ (算定) 施設長
- ・ (算定) 管理者
- ・ (非算定) 管理者

## II. 利用者の情報

### ア) 年齢 (問 2)

図表 1238 年齢

(単位: 歳)

件数	平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
算定 n=180	85.4	7.8	86.5	106	58
非算定 n=148	87.4	6.0	87	101	72

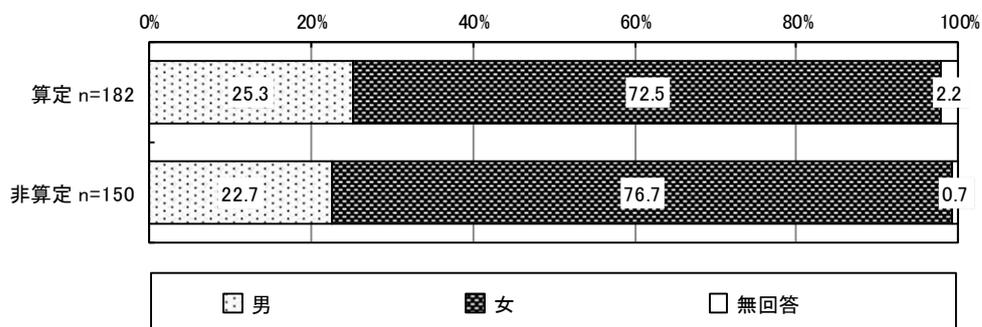
図表 1239 年齢 区分 1 のみ

(単位: 歳)

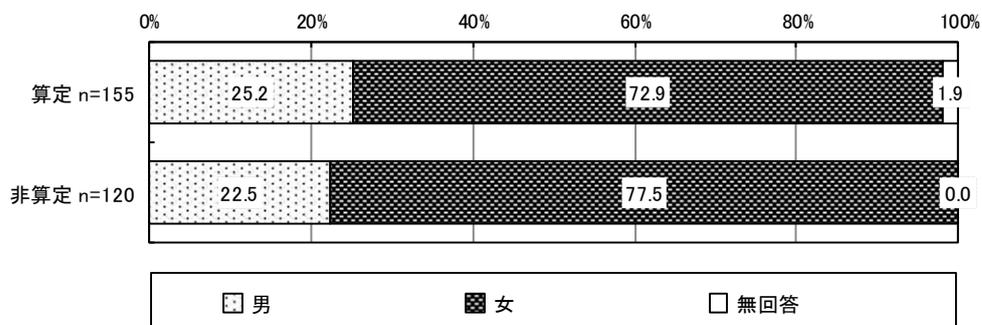
件数	平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
算定 n=153	85.2	8.0	86.5	106	58
非算定 n=119	87.4	5.9	87	101	72

### イ) 性別 (問 3)

図表 1240 性別

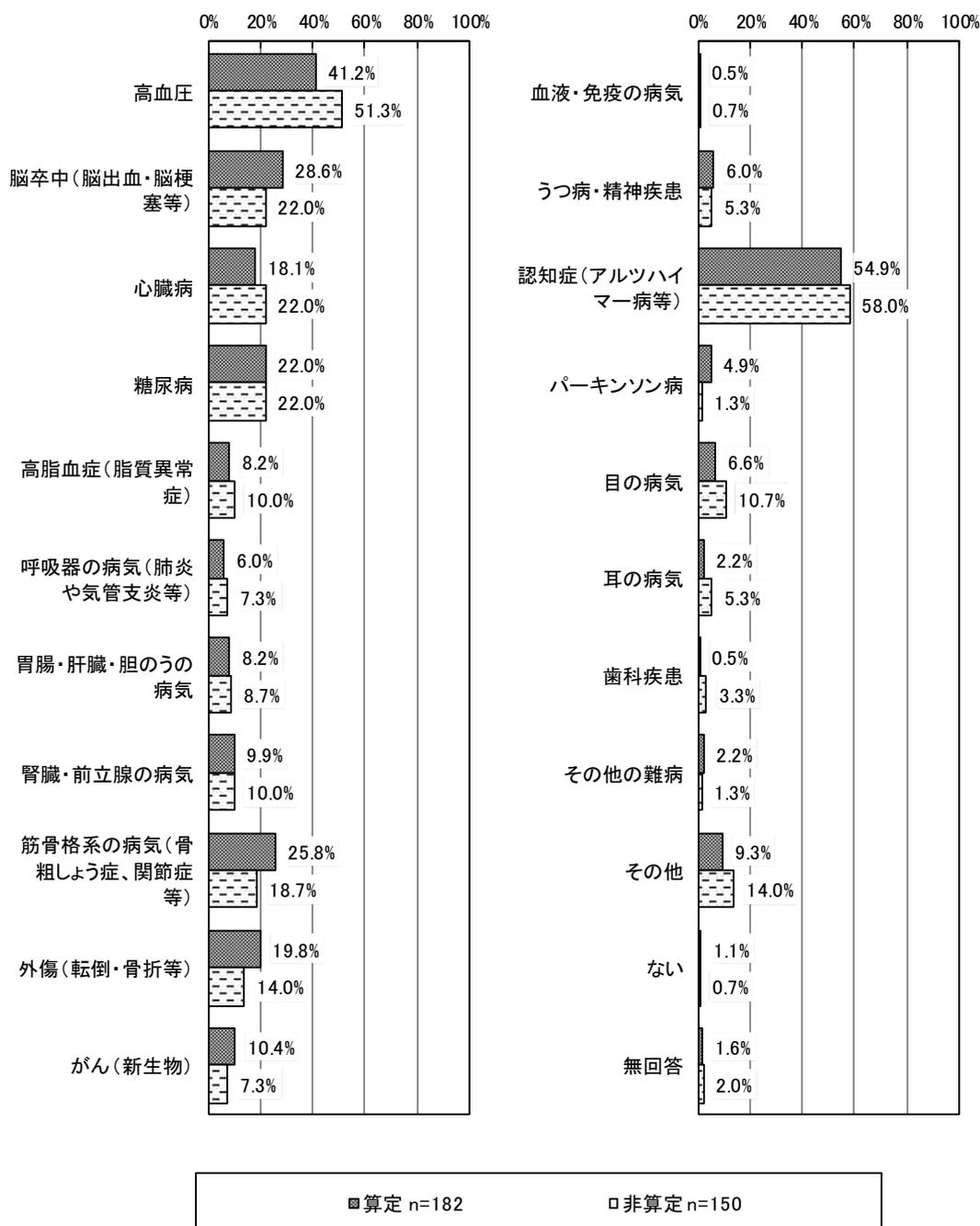


図表 1241 性別 区分 1 のみ

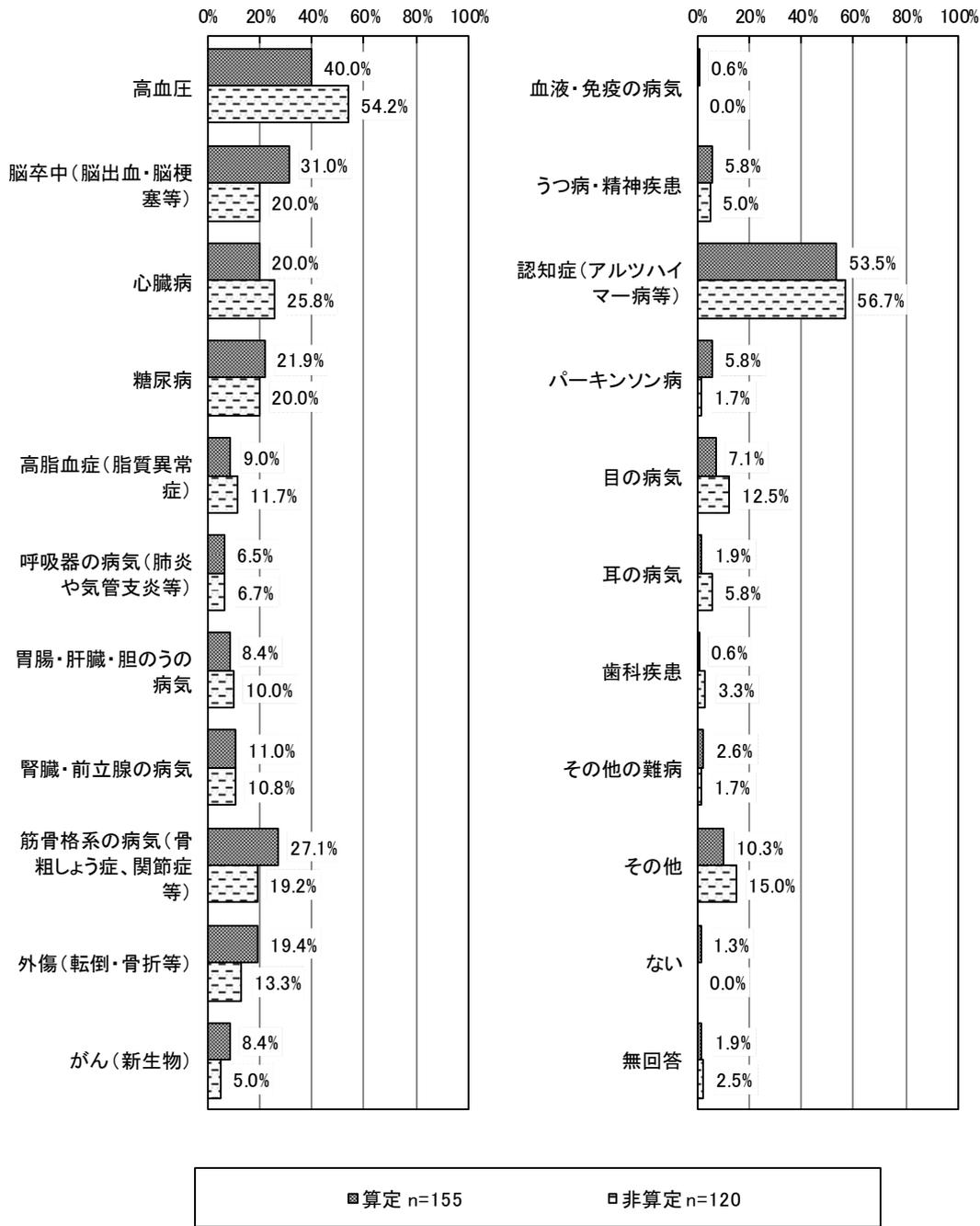


## ウ) 傷病名 (問 4)

図表 1242 傷病名



図表 1243 傷病名 区分1のみ

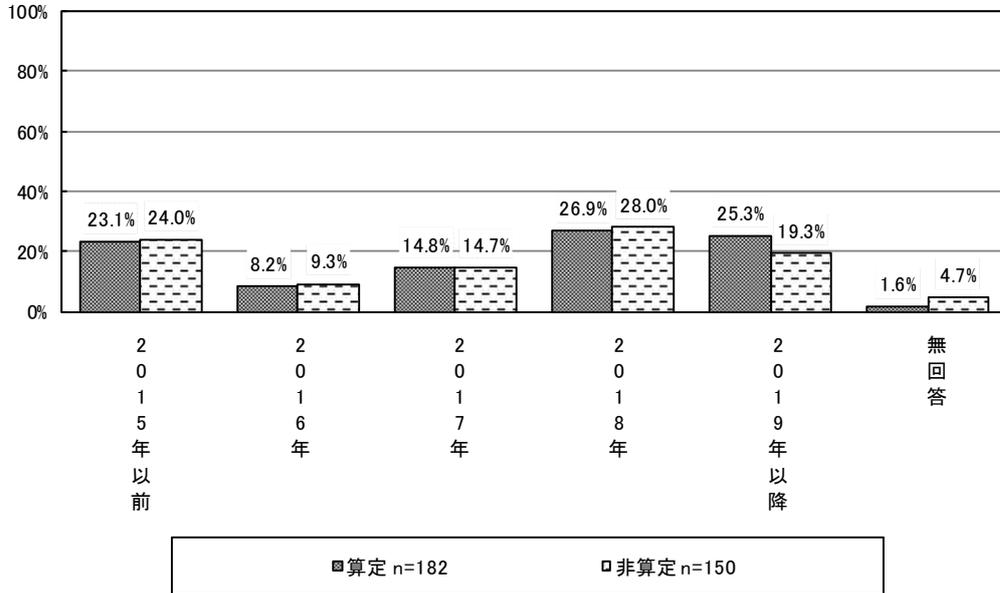


※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

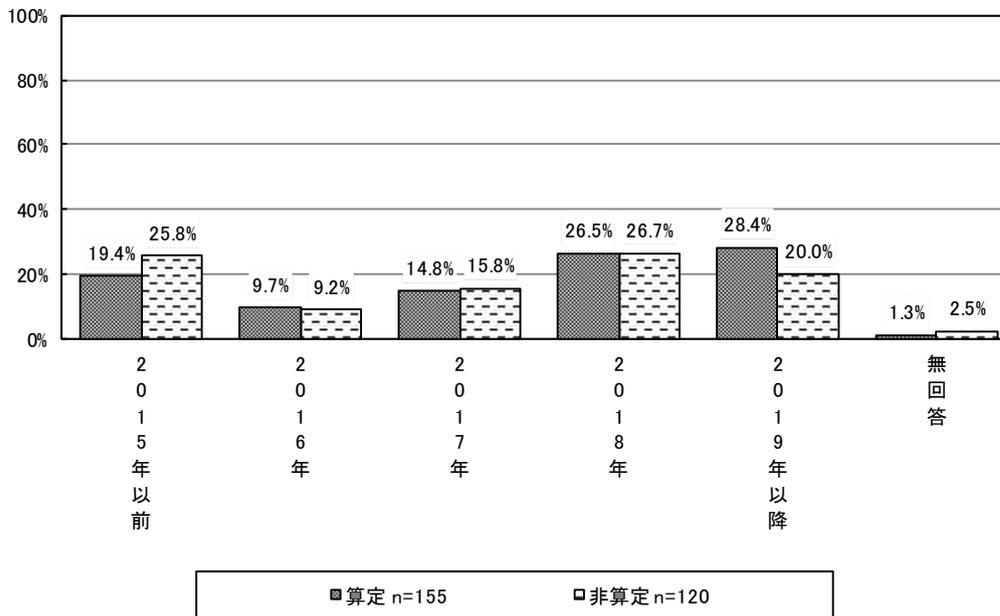
- ・(算定) 進行性核上性麻痺
- ・(算定) 水頭症
- ・(非算定) 潰瘍性大腸炎
- ・(非算定) 四肢レイノー病

エ) 事業所・施設の利用開始時期 (問 5)

図表 1244 事業所・施設の利用開始時期

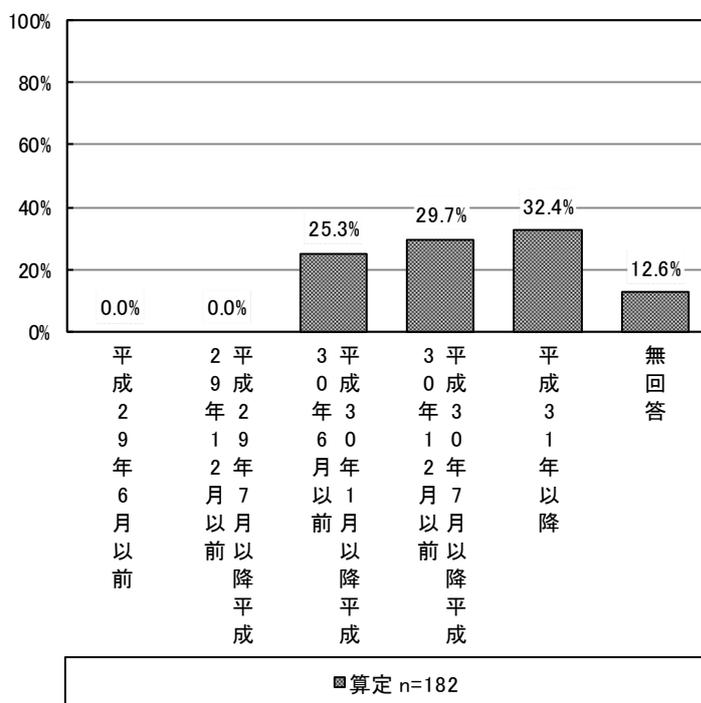


図表 1245 事業所・施設の利用開始時期 区分1のみ

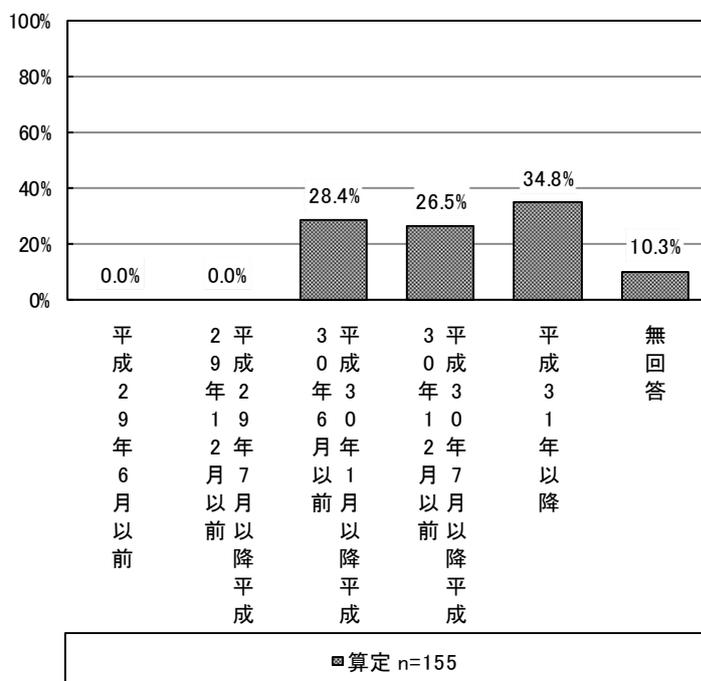


オ) 事業所・施設が加算算定に伴う連携を開始した時期（問 6）

図表 1246 事業所・施設が加算算定に伴う連携を開始した時期

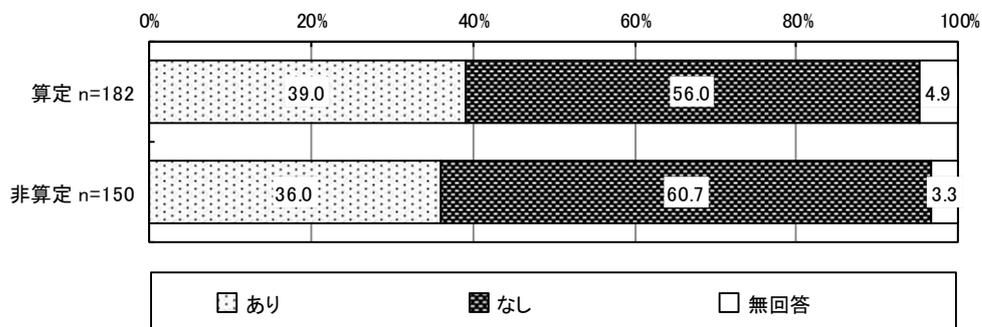


図表 1247 事業所・施設が加算算定に伴う連携を開始した時期 区分1のみ

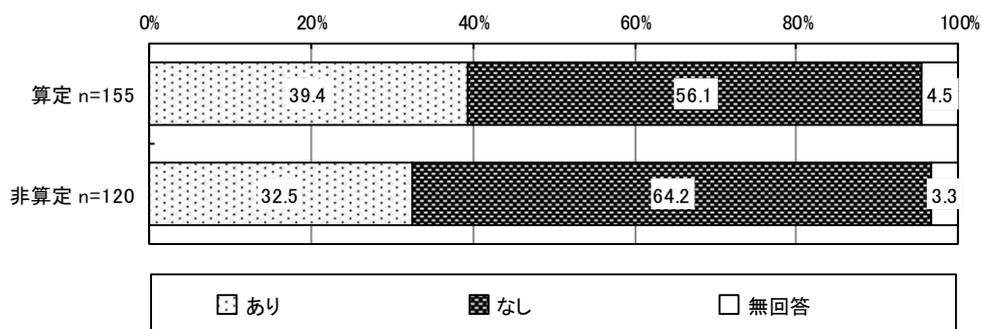


## カ) 退院の有無と直近の入院期間（問7）

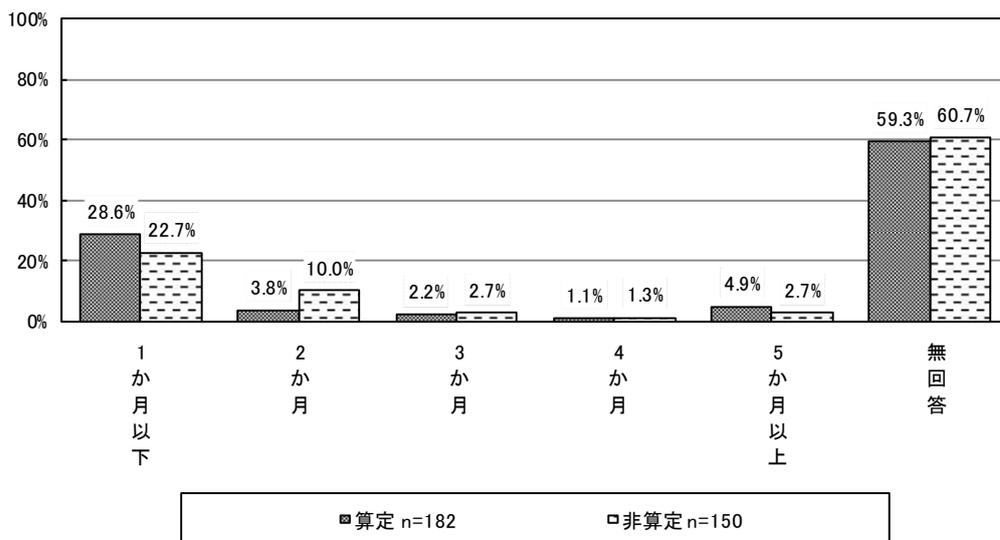
図表 1248 退院の有無



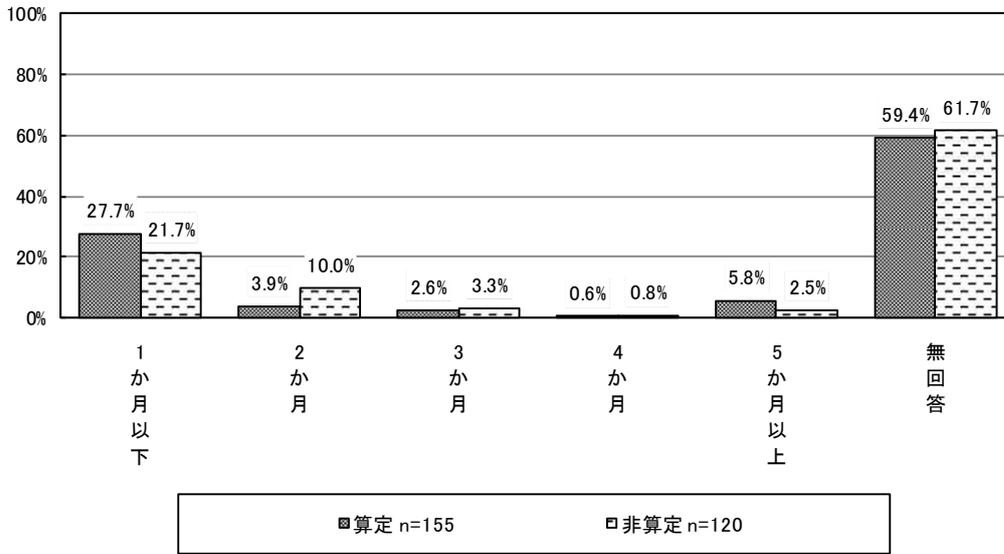
図表 1249 退院の有無 区分1のみ



図表 1250 直近の入院期間



図表 1251 直近の入院期間 区分1のみ



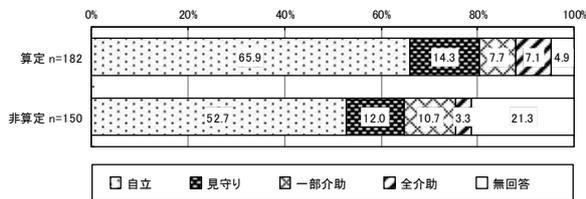
キ) ADL・IADL の状況 (問 8)

図表 1252 ADL・IADL の状況

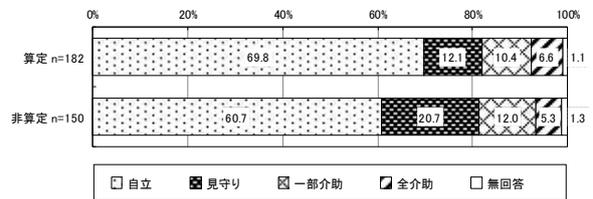
食事

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



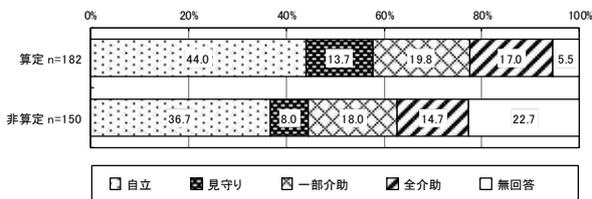
②令和元年 10 月 1 日時点



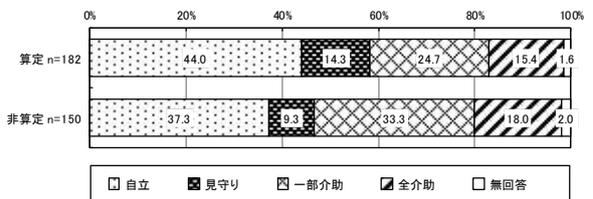
排泄

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



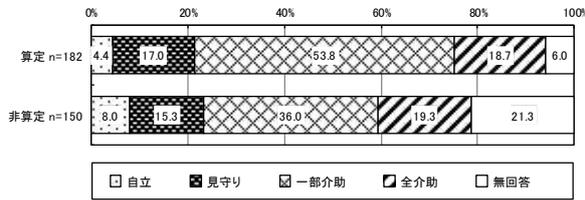
②令和元年 10 月 1 日時点



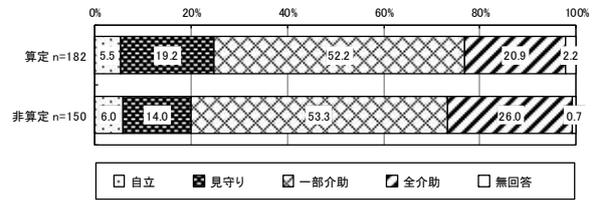
## 入浴

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



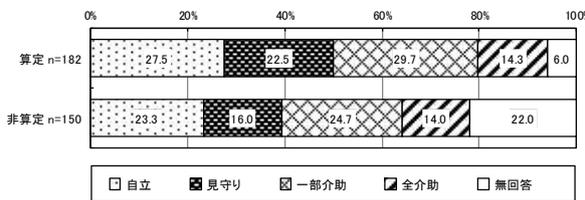
②令和元年10月1日時点



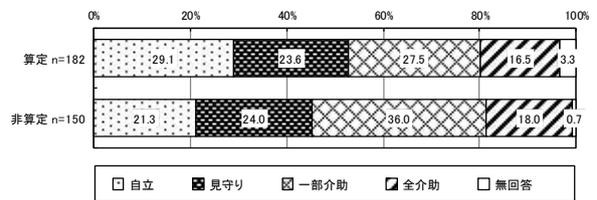
## 更衣

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



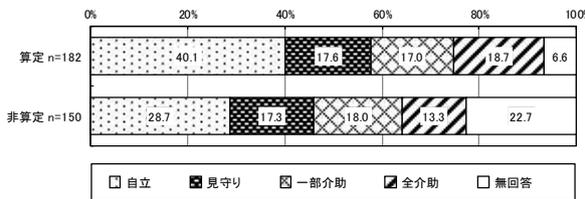
②令和元年10月1日時点



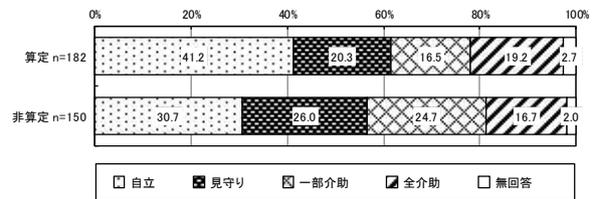
## 整容

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



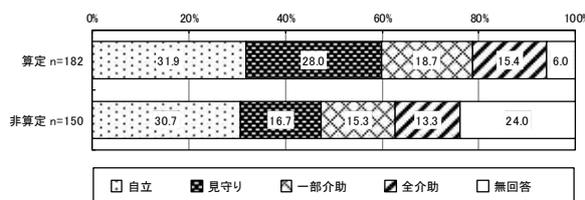
②令和元年10月1日時点



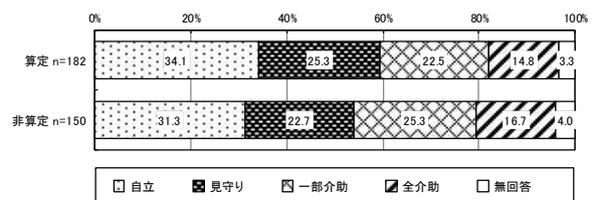
## 移乗

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



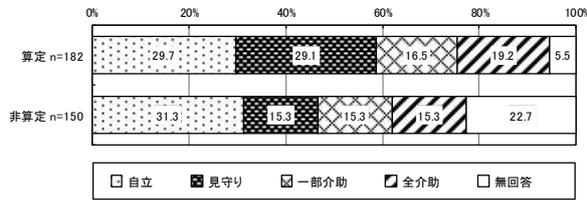
②令和元年10月1日時点



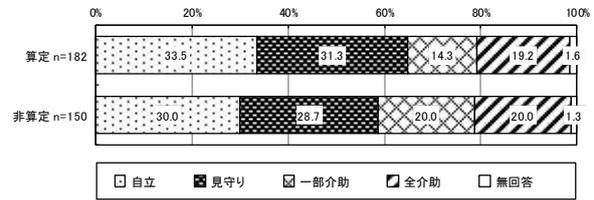
## 屋内移動

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



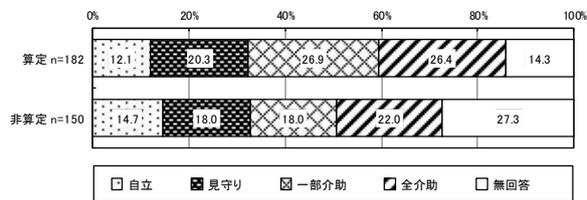
②令和元年10月1日時点



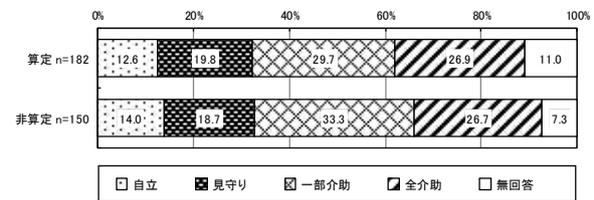
## 階段昇降

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



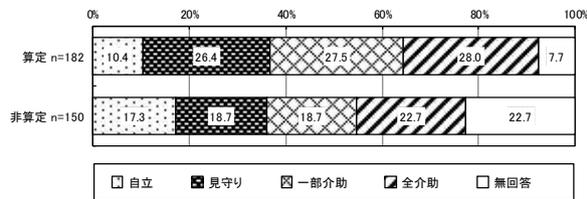
②令和元年10月1日時点



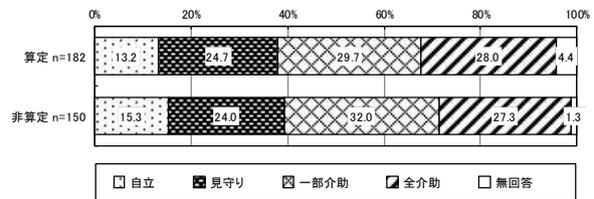
## 屋外移動

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



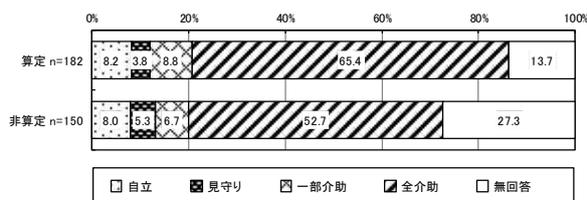
②令和元年10月1日時点



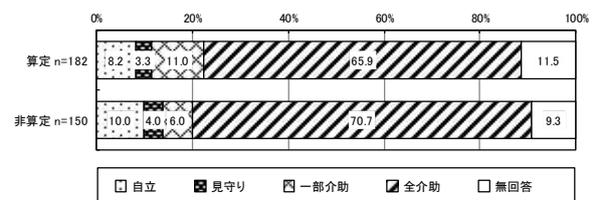
## 調理

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



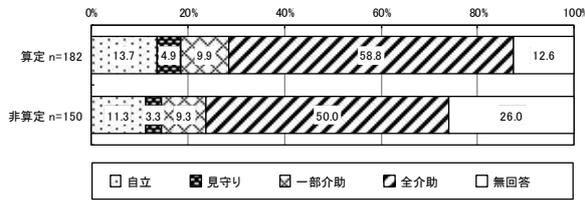
②令和元年10月1日時点



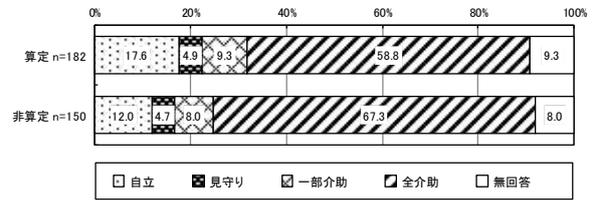
洗濯

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



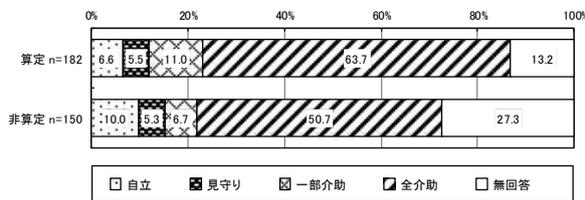
②令和元年10月1日時点



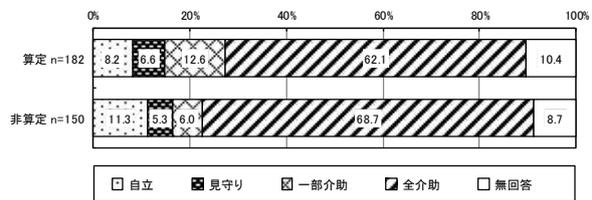
掃除

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



②令和元年10月1日時点

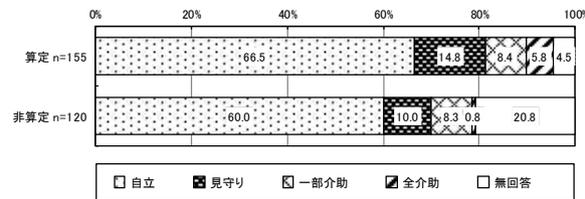


\*\*\*\*\*

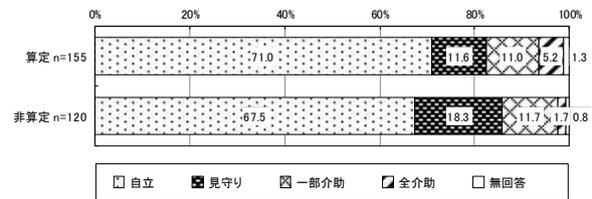
食事 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



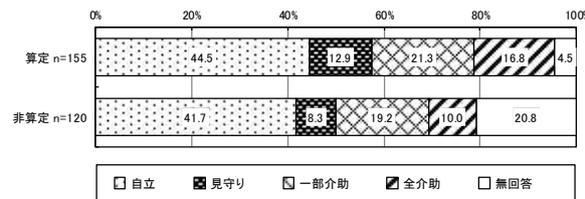
②令和元年10月1日時点



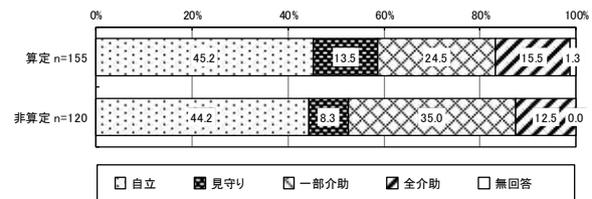
排泄 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



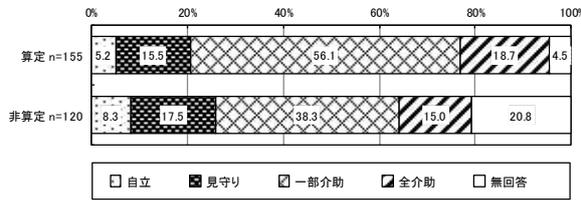
②令和元年10月1日時点



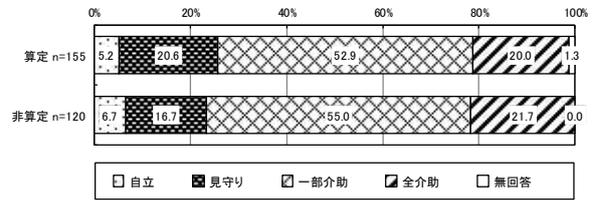
入浴 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



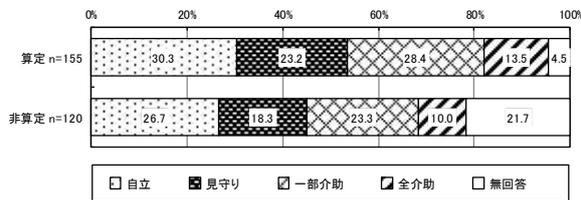
②令和元年10月1日時点



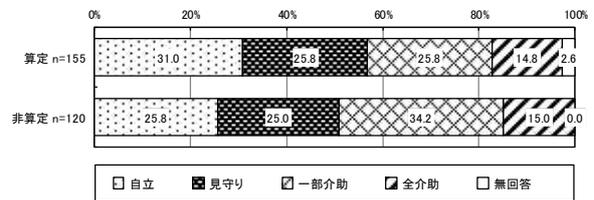
更衣 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



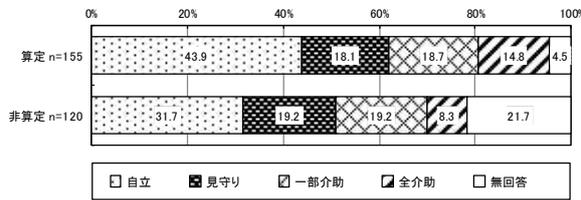
②令和元年10月1日時点



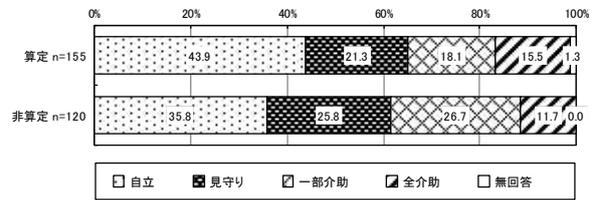
整容 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



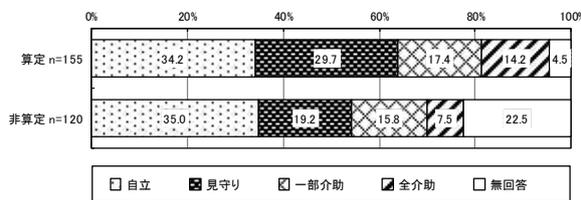
②令和元年10月1日時点



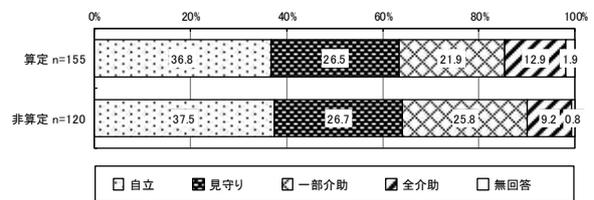
移乗 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



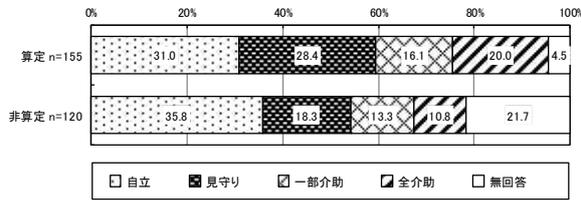
②令和元年10月1日時点



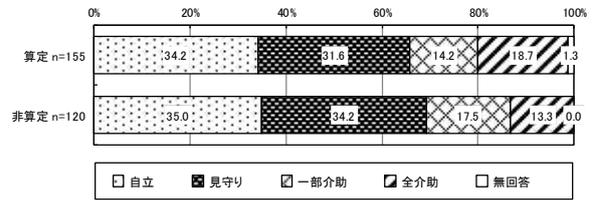
屋内移動 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



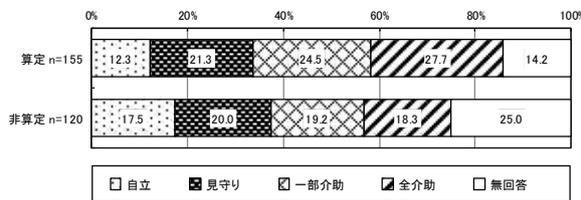
②令和元年10月1日時点



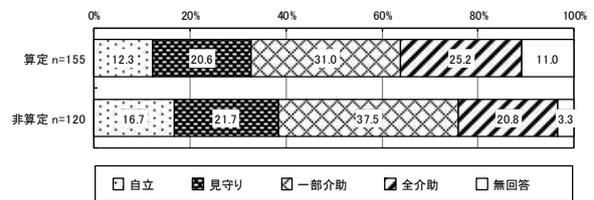
階段昇降 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



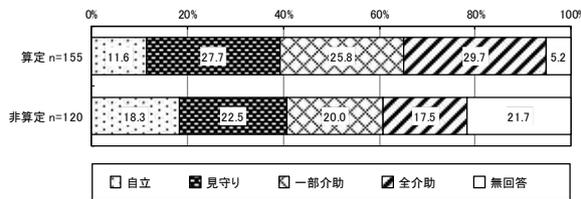
②令和元年10月1日時点



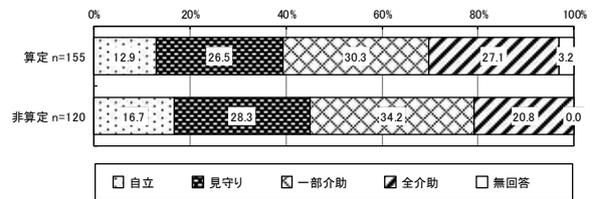
屋外移動 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



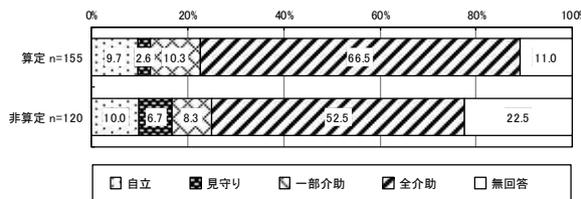
②令和元年10月1日時点



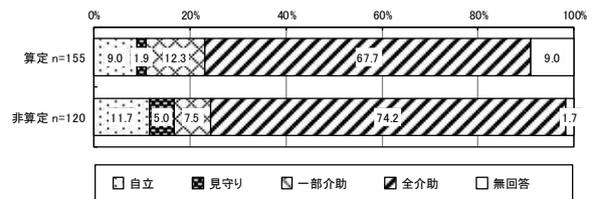
調理 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



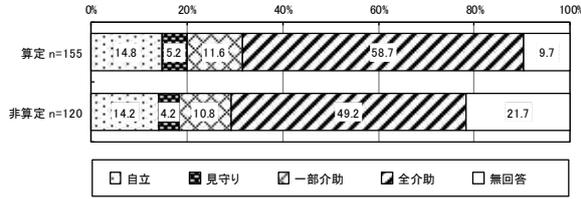
②令和元年10月1日時点



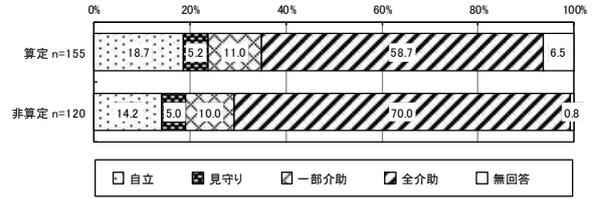
洗濯 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



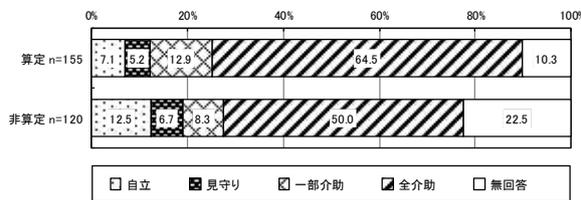
②令和元年10月1日時点



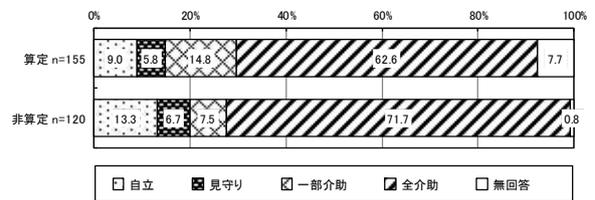
掃除 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点

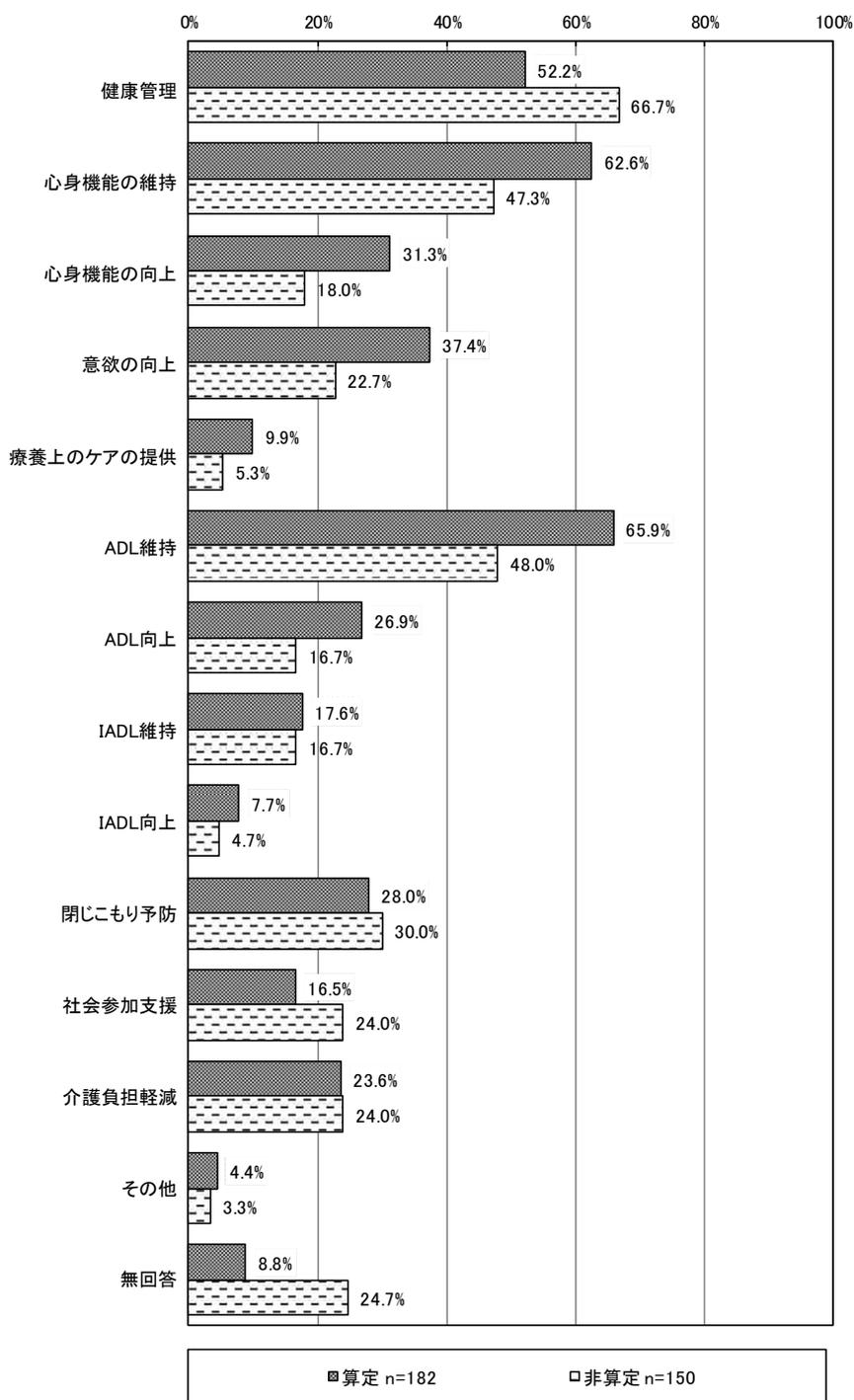


②令和元年10月1日時点

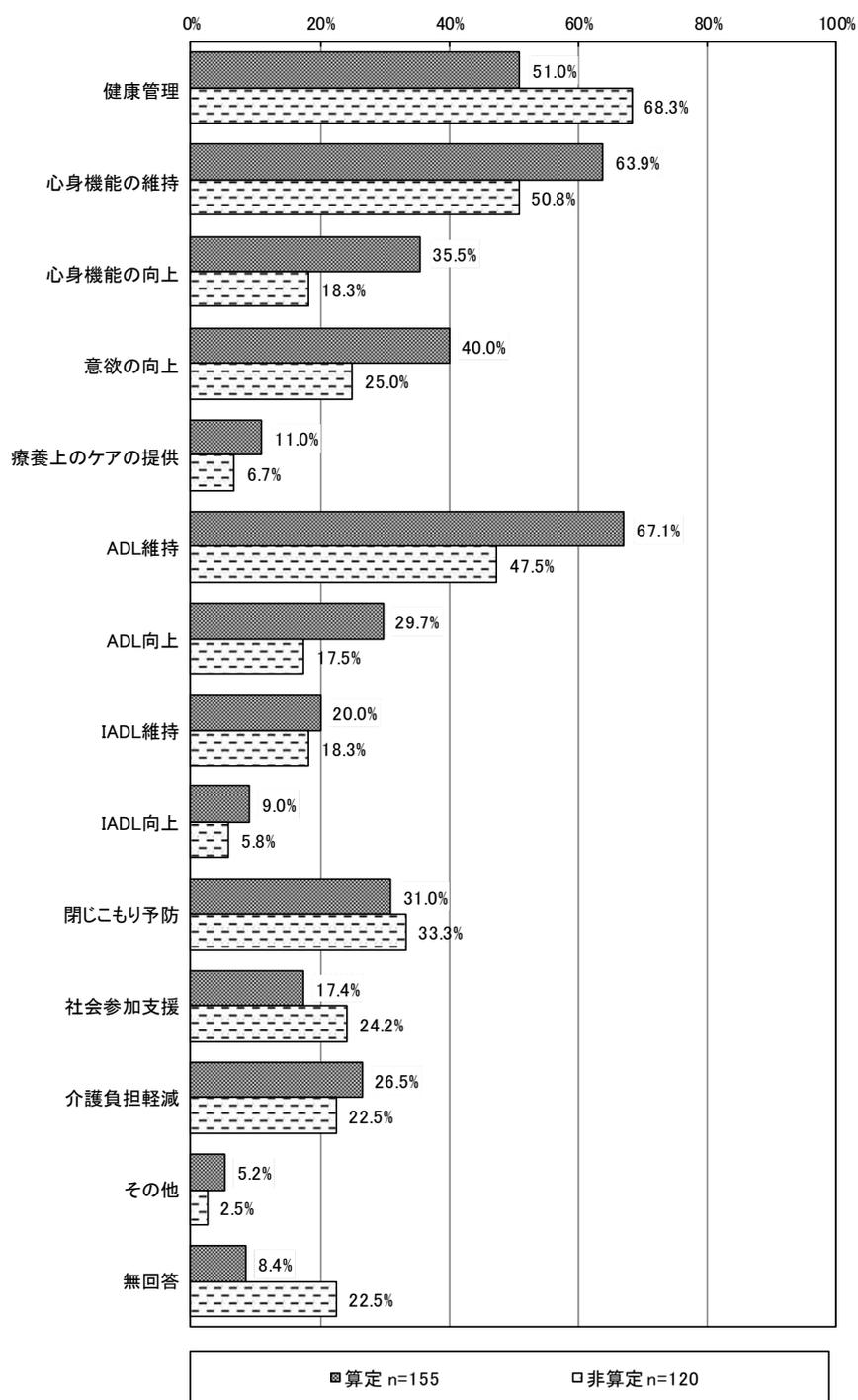


## ク) ケアプランの目標 (問 9)

図表 1253 目標 ①加算算定に伴う連携の開始時点



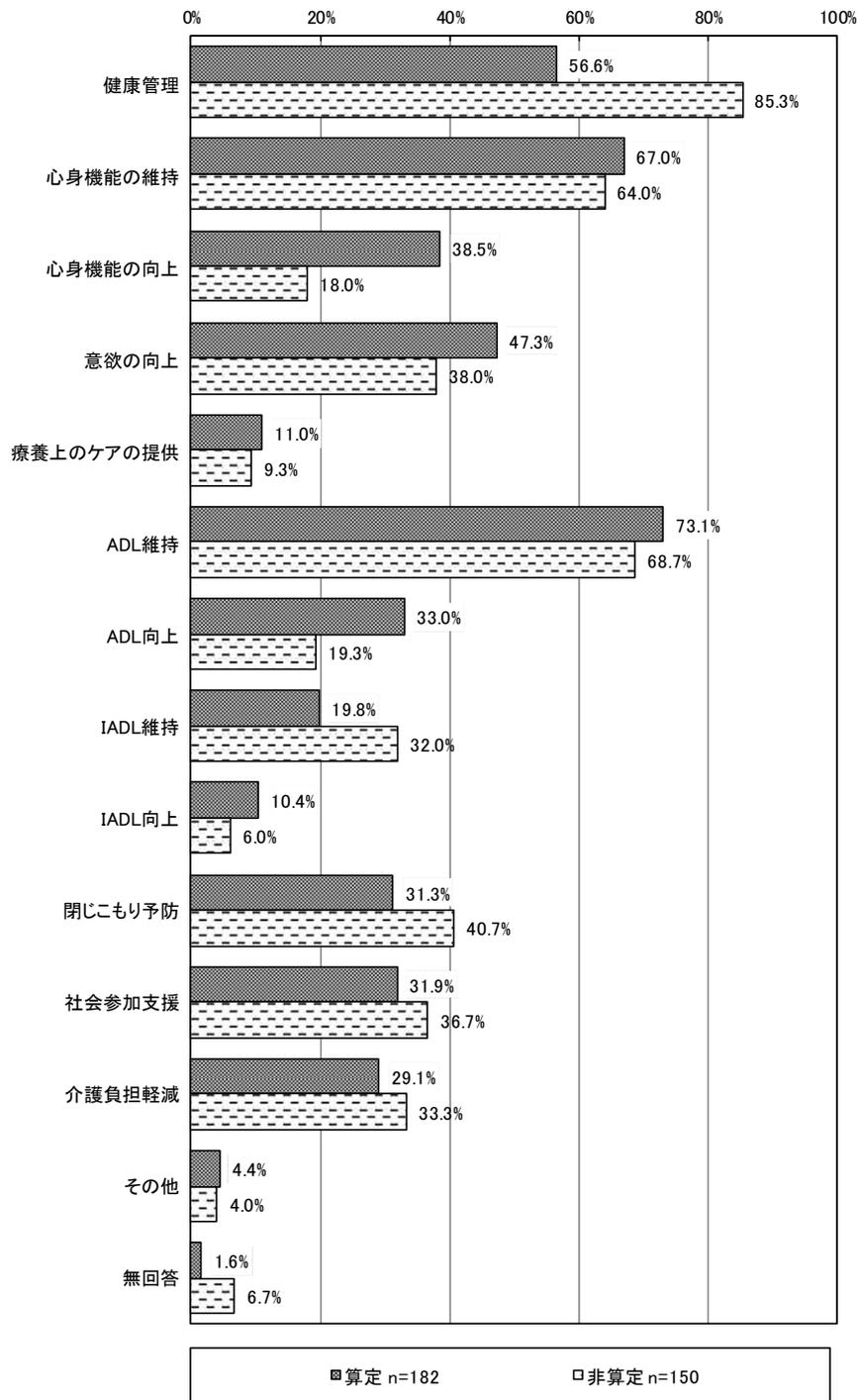
図表 1254 目標 ①加算算定に伴う連携の開始時点 区分1のみ



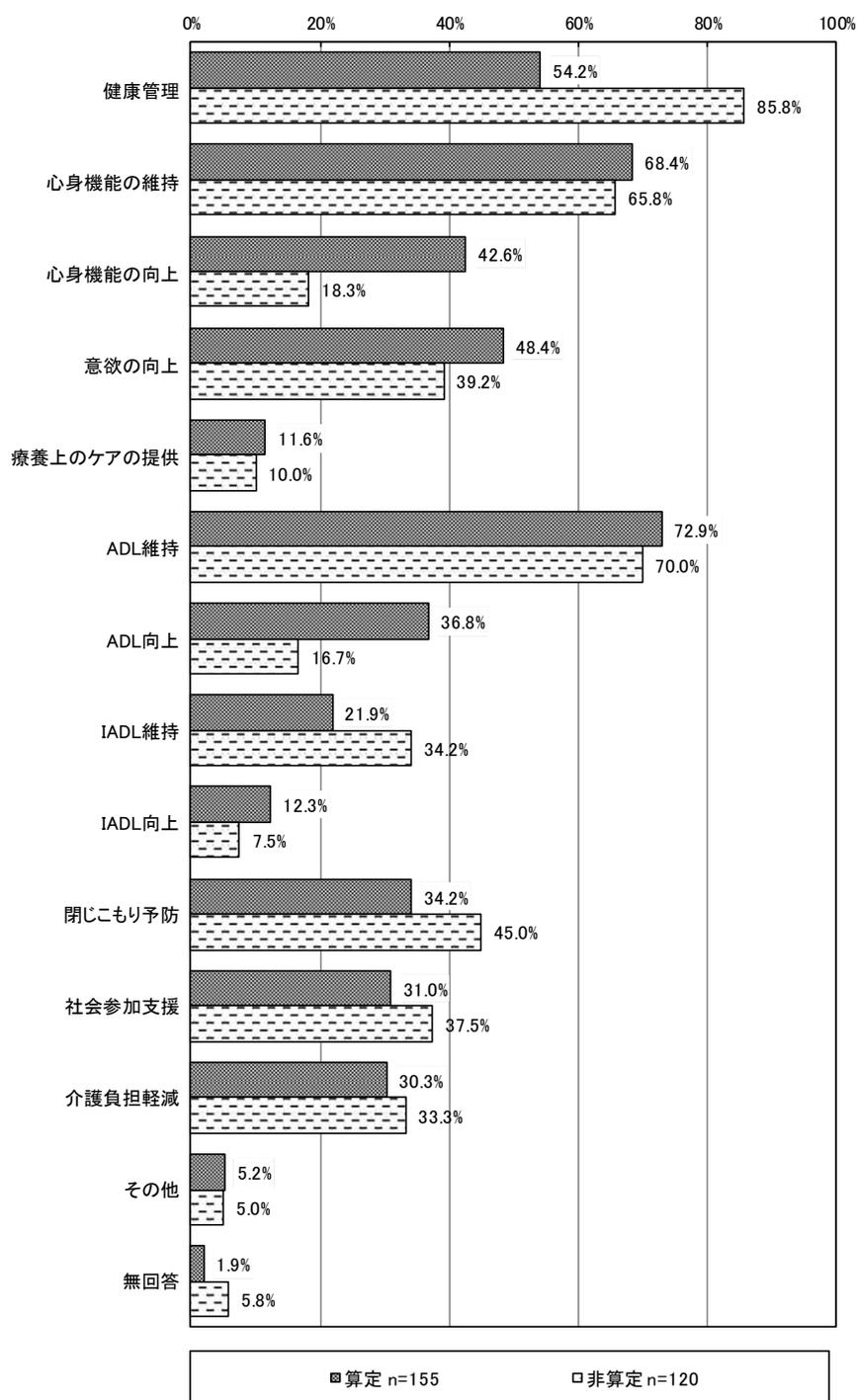
※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

- ・(算定) 夜間の良眠
- ・(算定) 拘縮緩和
- ・(非算定) 落ち着いて穏やかに過ごす
- ・(非算定) 生活リズムの安定

図表 1255 目標 ②令和元年 10 月 1 日時点



図表 1256 目標 ②令和元年10月1日時点 区分1のみ



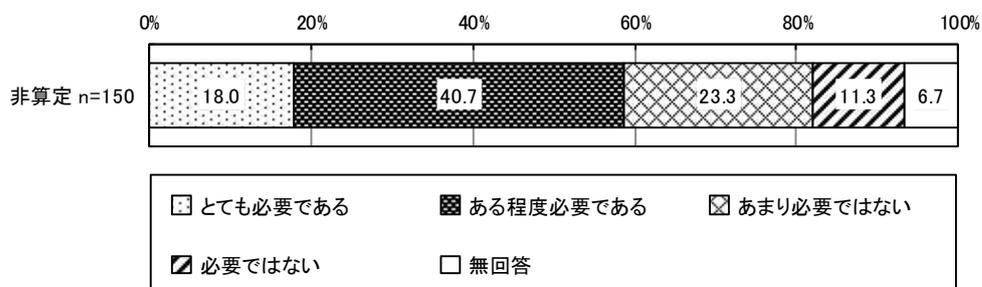
※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

- ・(算定) 夜間の良眠
- ・(算定) 転倒予防
- ・(非算定) 在宅生活の継続
- ・(非算定) 清潔の保持

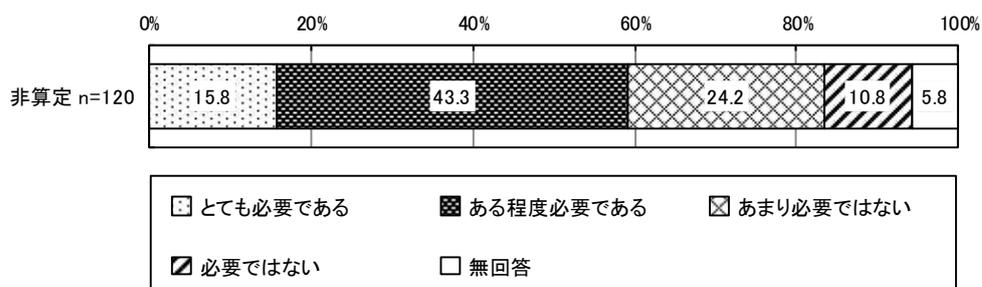
ケ) 利用者の ADL、IADL の状況や課題から判断した、リハ専門職等<sup>※</sup>との連携の必要性 (問 10 (非算定事業所・施設利用者票))

※理学療法士、作業療法士、言語聴覚士又はリハビリテーション科専門医

図表 1257 リハ専門職等との連携の必要性

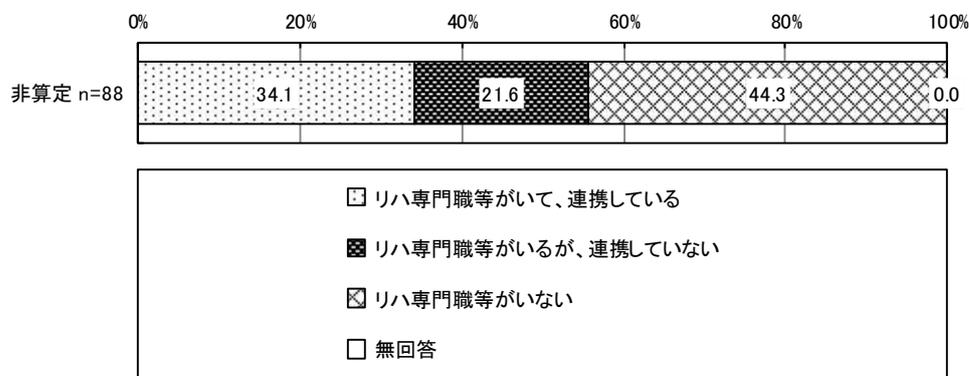


図表 1258 リハ専門職等との連携の必要性 区分1のみ

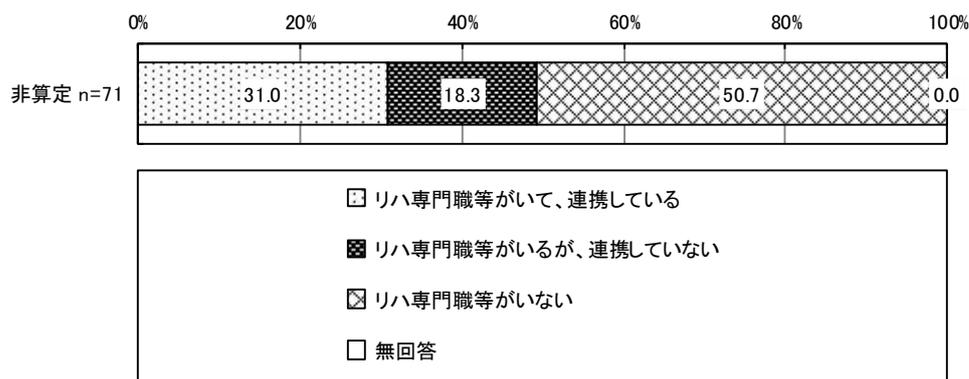


コ) 同一法人内のリハ専門職等の存在および連携の有無(問 11(非算定事業所・施設利用者票))

図表 1259 同一法人内のリハ専門職等の存在および連携の有無



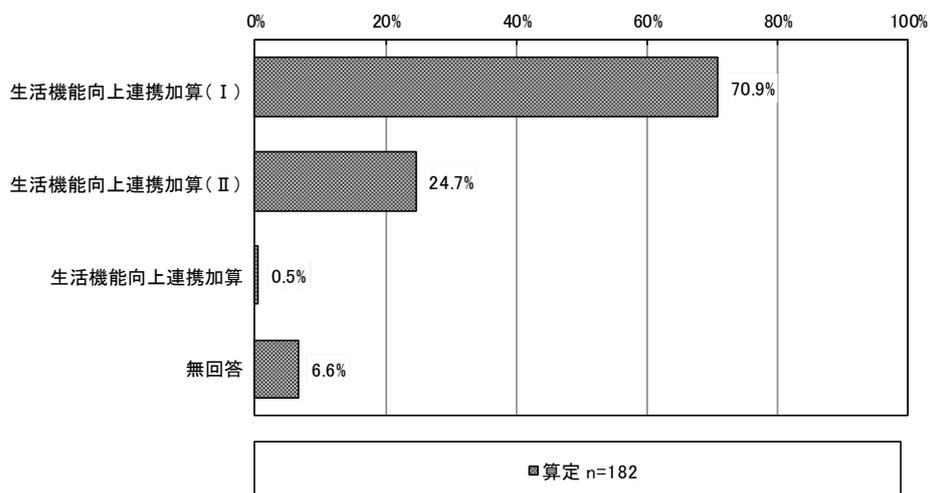
図表 1260 同一法人内のリハ専門職等の存在および連携の有無 区分1のみ



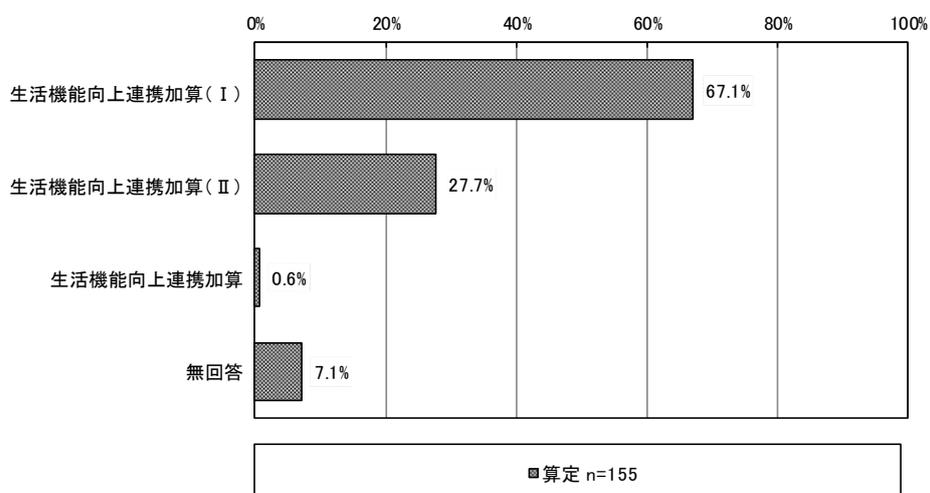
### Ⅲ. 生活機能向上連携加算の算定状況

#### ア) 算定状況 (問 10)

図表 1261 算定状況

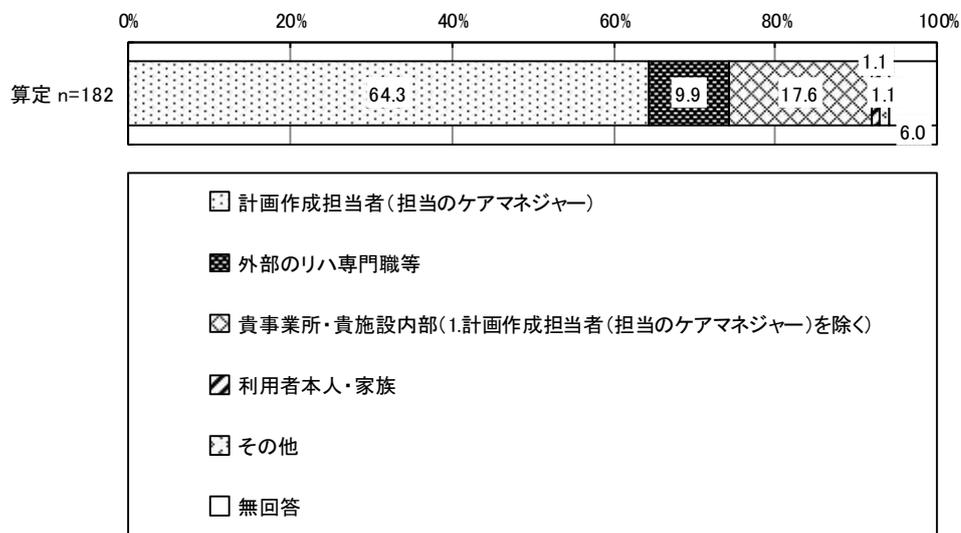


図表 1262 算定状況 区分1のみ

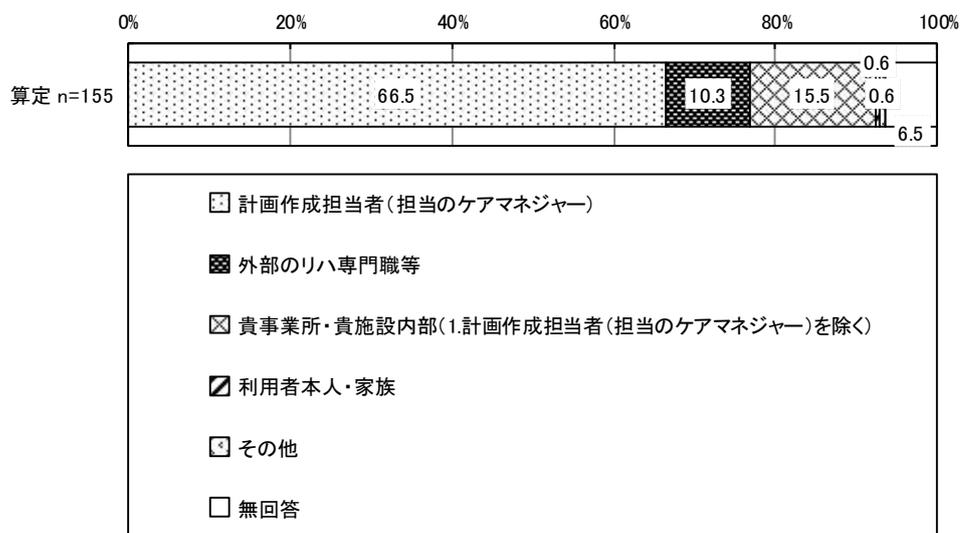


## イ) 算定の提案者 (問 11)

図表 1263 算定の提案者



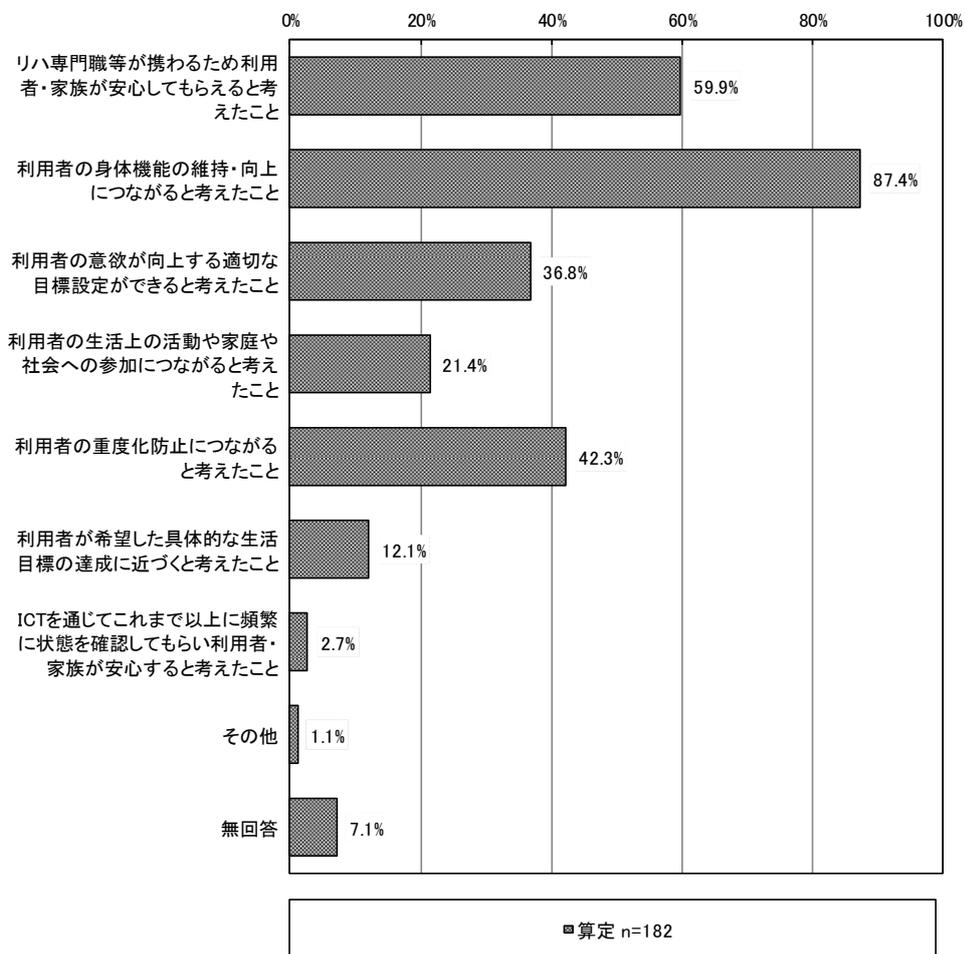
図表 1264 算定の提案者 区分1のみ



※その他として挙げられた有効な回答は無し。

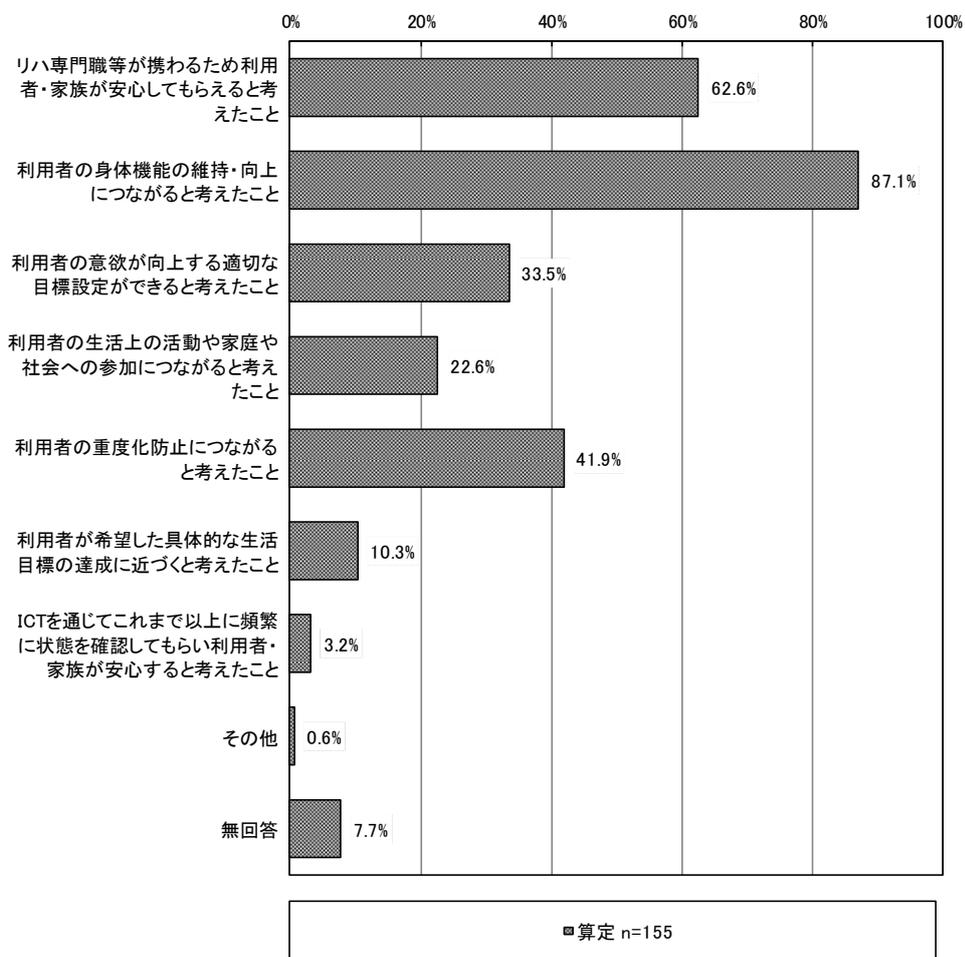
## ウ) 算定を提案した理由 (問 11-2)

図表 1265 算定を提案した理由



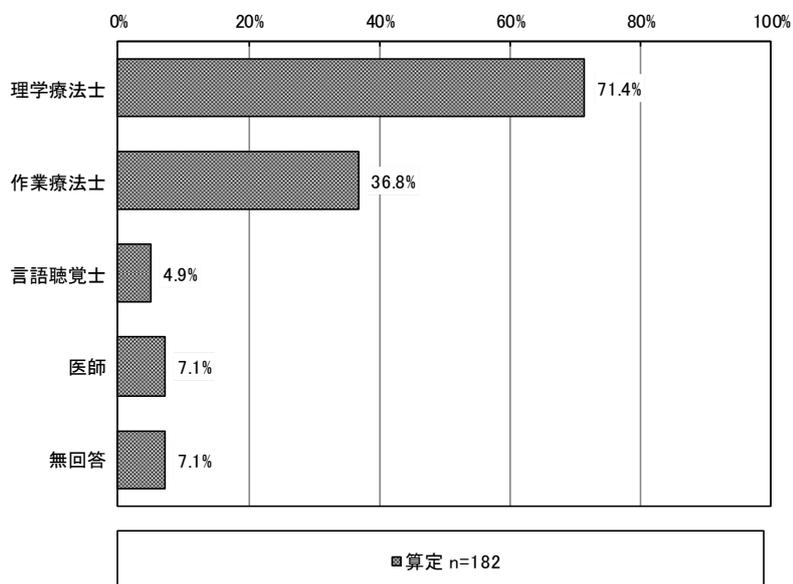
※その他として挙げられた有効な回答は無し。

図表 1266 算定を提案した理由 区分1のみ

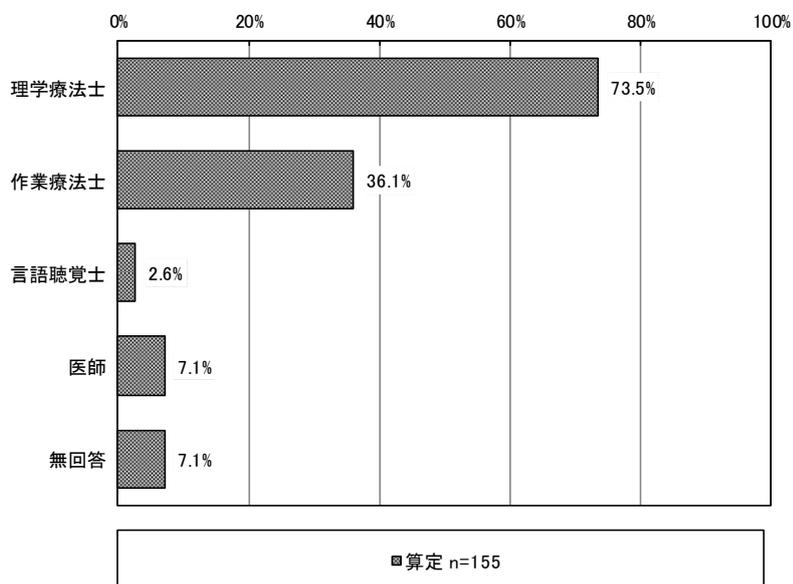


エ) 連携している外部の職種 (問 12)

図表 1267 連携している外部の職種

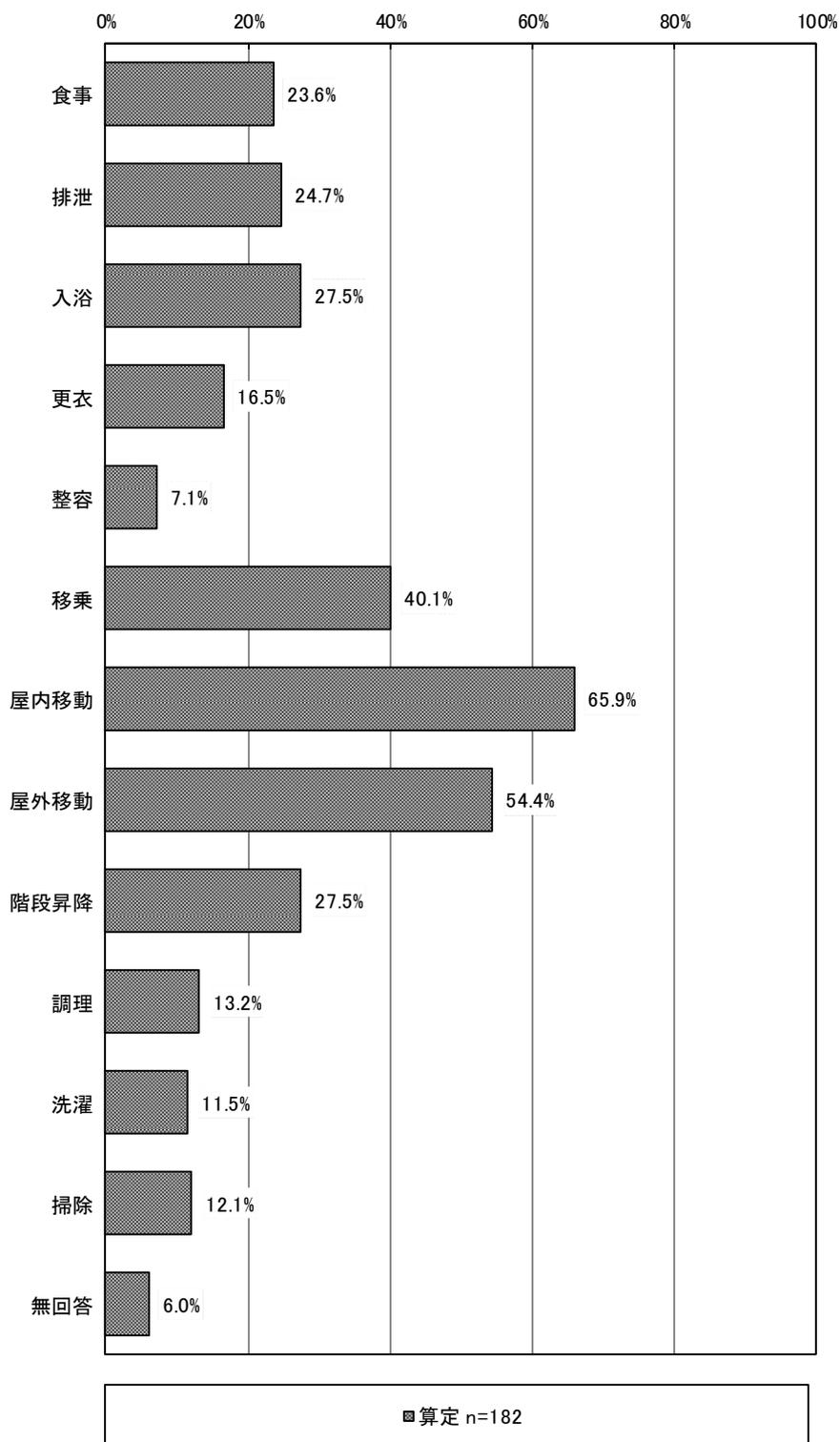


図表 1268 連携している外部の職種 区分1のみ

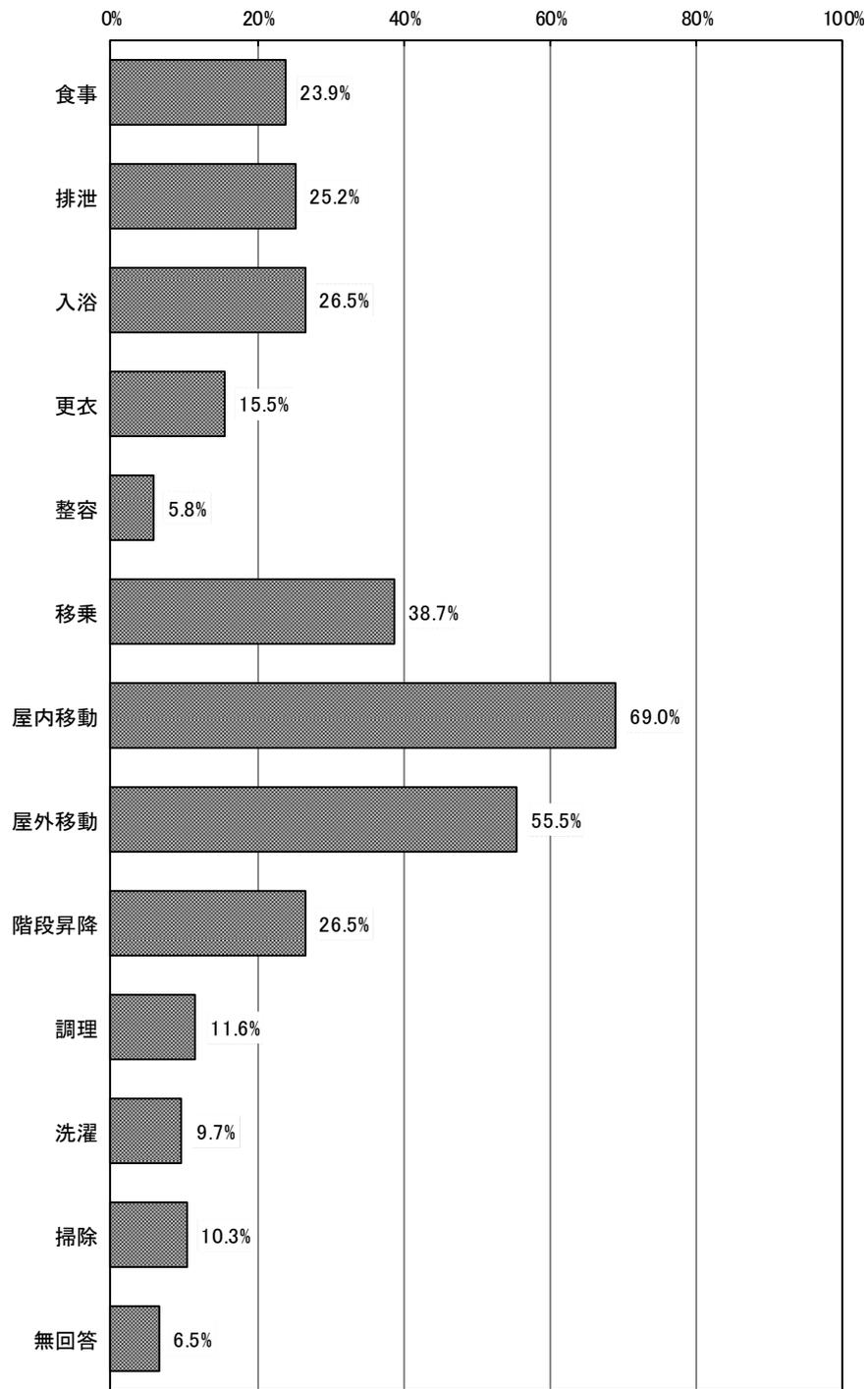


## 才) 利用者の課題 (問 13)

図表 1269 利用者の課題



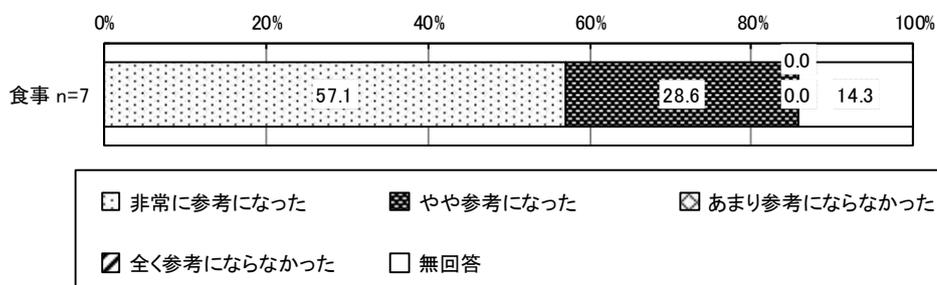
図表 1270 利用者の課題 区分1のみ



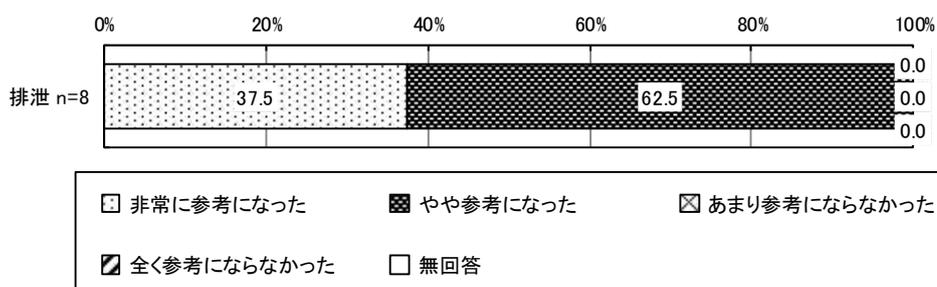
■算定 n=155

カ) 外部からの助言を計画に反映した内容について、課題、助言内容、また助言はどの程度参考になったか（問 14）

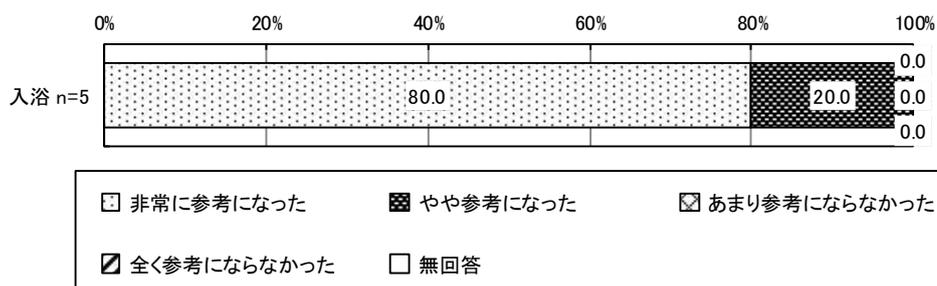
図表 1271 食事



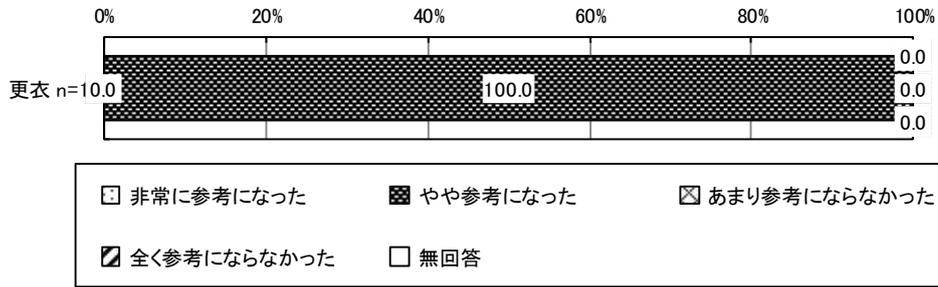
図表 1272 排泄



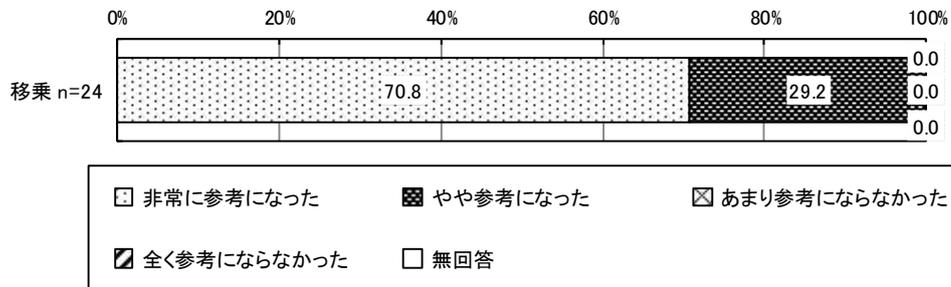
図表 1273 入浴



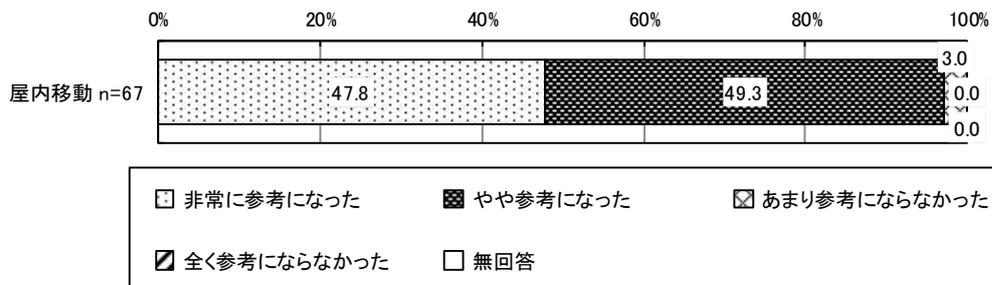
図表 1274 更衣



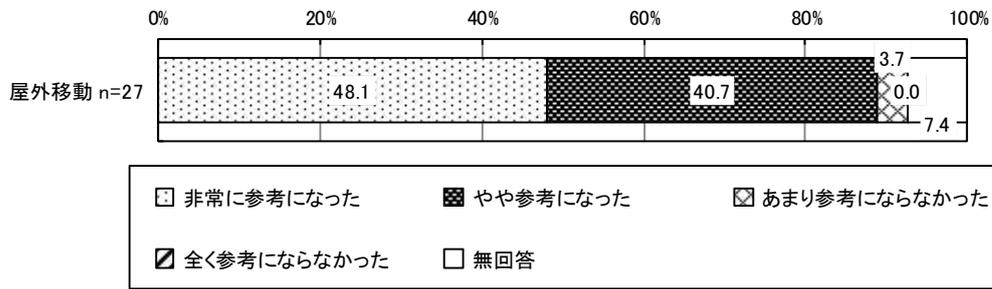
図表 1275 移乗



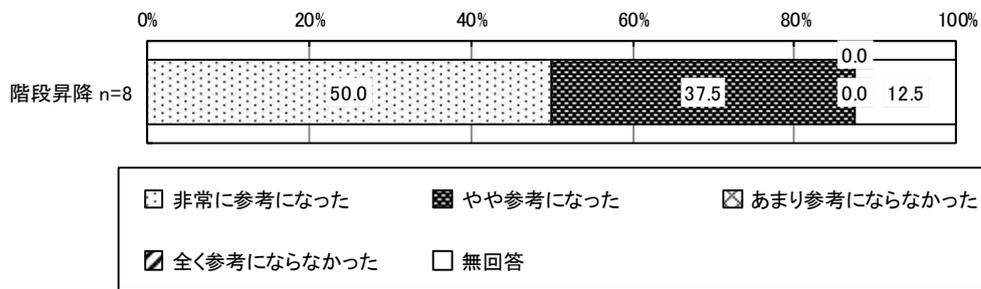
図表 1276 屋内移動



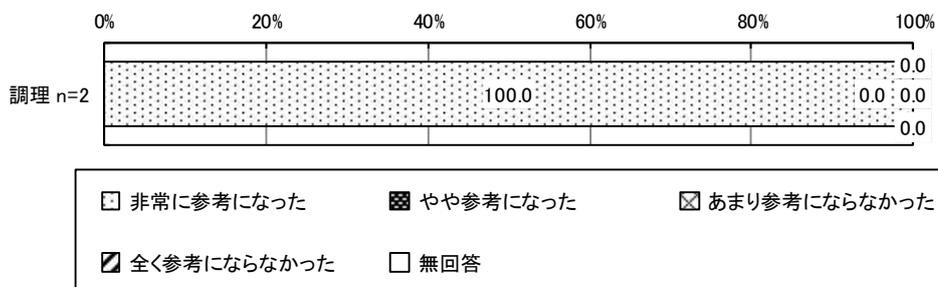
図表 1277 屋外移動



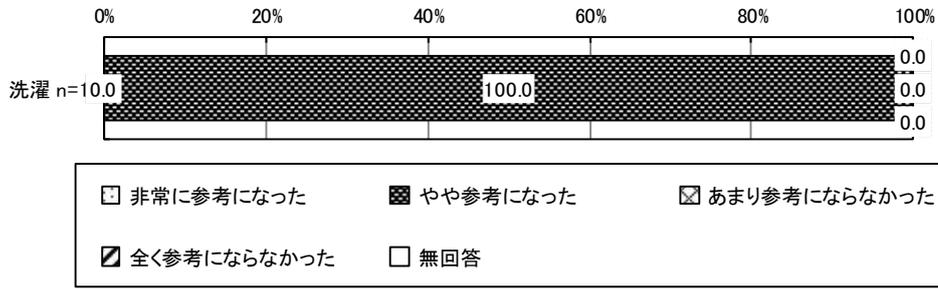
図表 1278 階段昇降



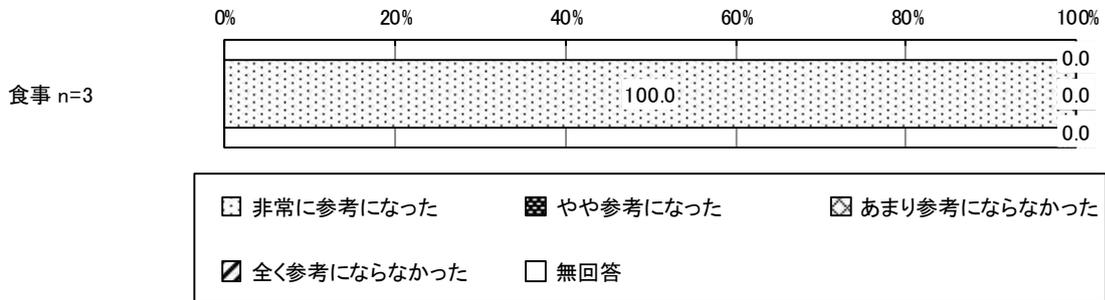
図表 1279 調理



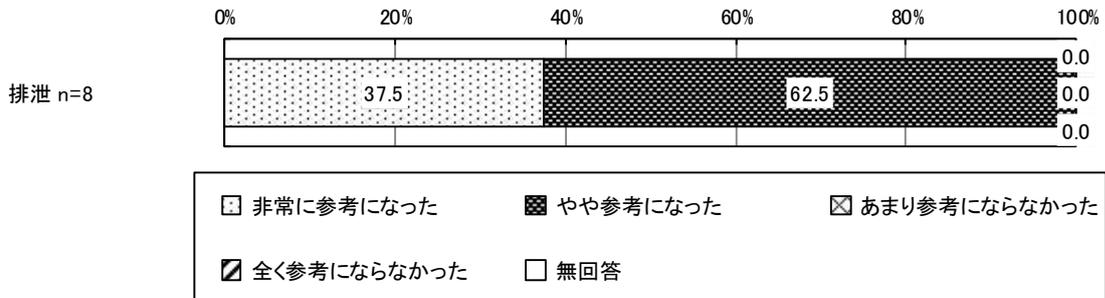
図表 1280 洗濯



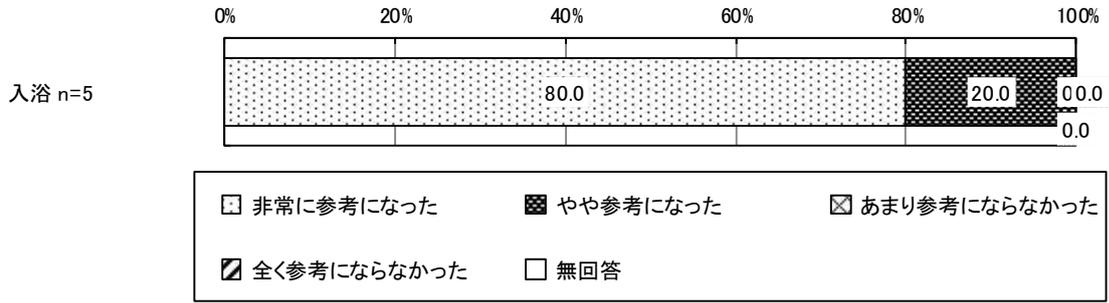
図表 1281 食事 区分1のみ



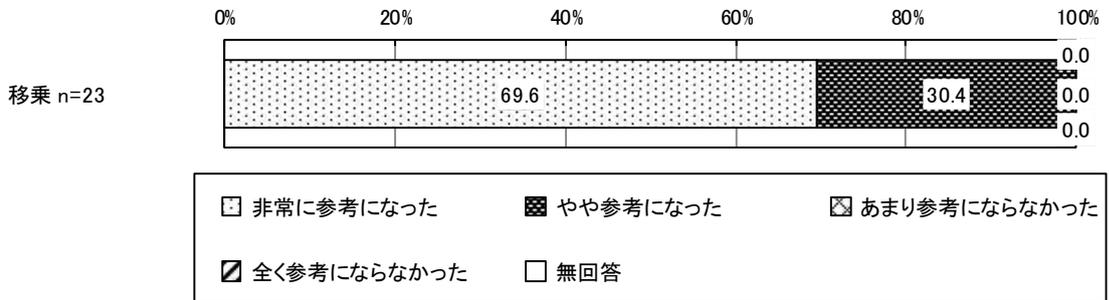
図表 1282 排泄 区分1のみ



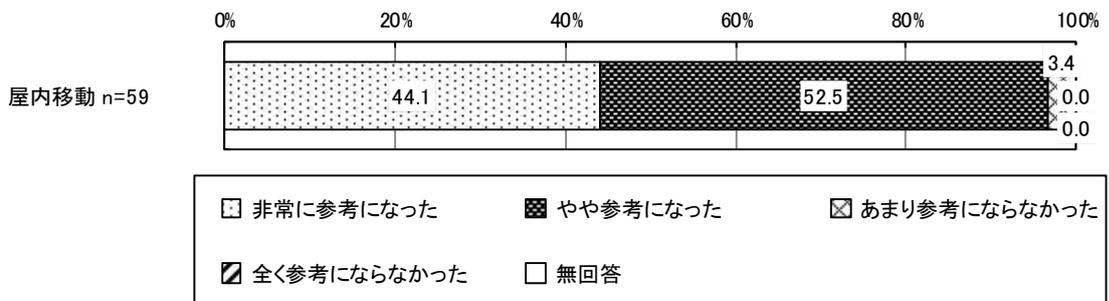
図表 1283 入浴 区分 1 のみ



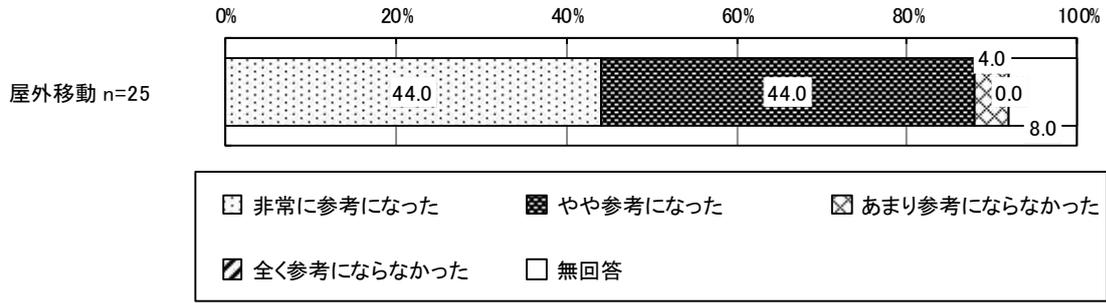
図表 1284 移乗 区分 1 のみ



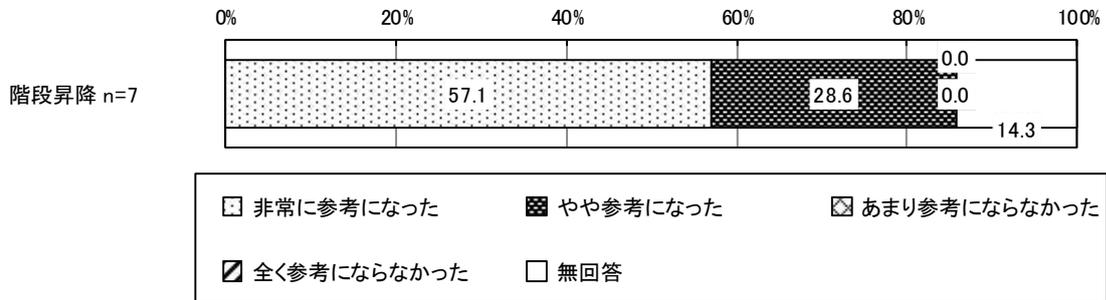
図表 1285 屋内移動 区分 1 のみ



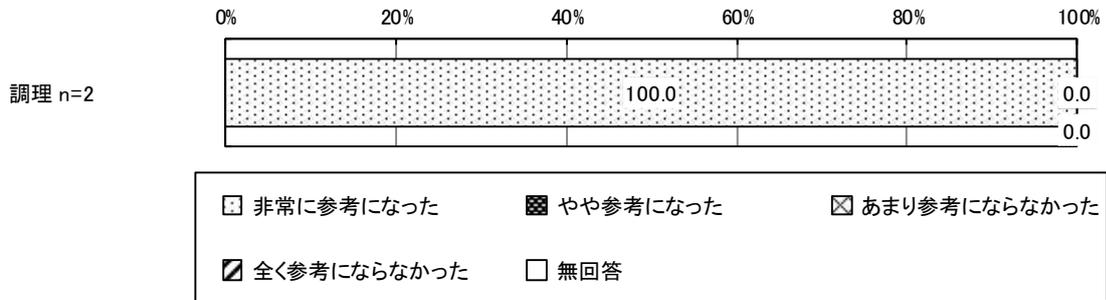
図表 1286 屋外移動 区分1のみ



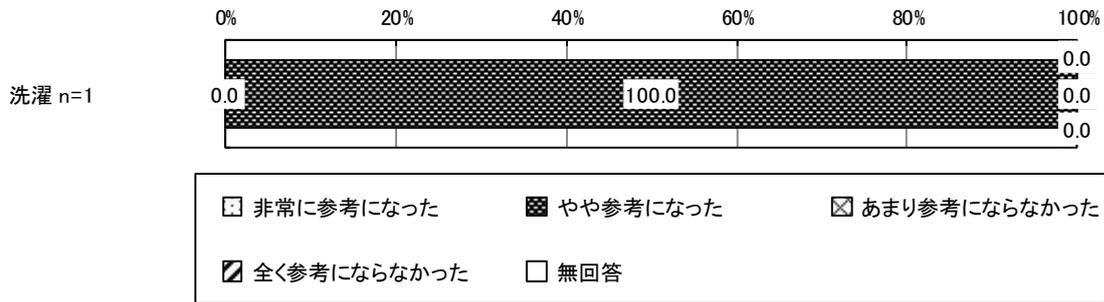
図表 1287 階段昇降 区分1のみ



図表 1288 調理 区分1のみ



図表 1289 洗濯 区分 1 のみ



図表 1290 課題別の助言内容

**○食事**

- ・水分 180ml に対しトロ剤 5cc、1 口ずつ確実に飲んでもらう
- ・あごを引いて飲んでもらう

**○排泄**

- ・トイレで排泄をするために、立ち上がる筋力をつけることから始める
- ・手すりを使って動作を行うにあたり、下肢筋力訓練・起立訓練を行う

**○入浴**

- ・体調を伺いながら、安全な入浴動作の安定を図る
- ・浴室内に手すりなどの支持物があれば、支持物を使用して見守りを行う

**○更衣**

- ・関節が硬くならないようにストレッチをする

**○移乗**

- ・ゆっくり移乗する
- ・不良姿勢時の修正

**○屋内移動**

- ・手すりなど、物をつかまえて移動する。
- ・足・腰の筋力をつけて、家の中でも歩行器を押して歩けるようにする

**○屋外移動**

- ・意欲向上のための目的づくり

- ・歩行器の使用について

### ○階段昇降

- ・転倒に注意し、楽しく行う
- ・可能な範囲での階段昇降を行う

### ○調理

- ・自宅で一緒に調理を行う
- ・下肢筋力低下予防プログラムを実施する

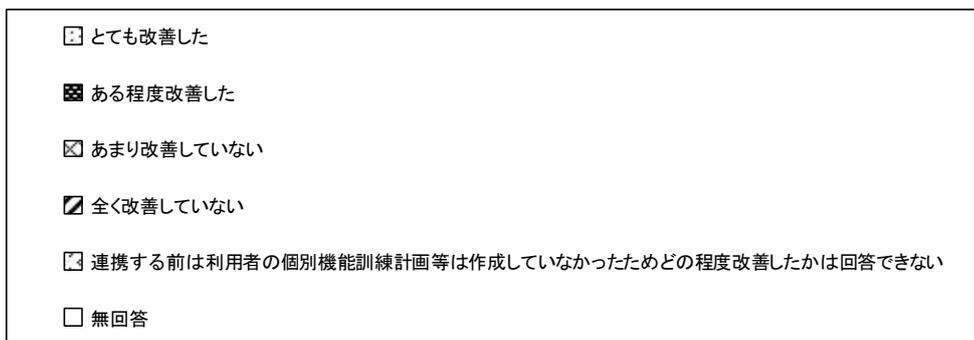
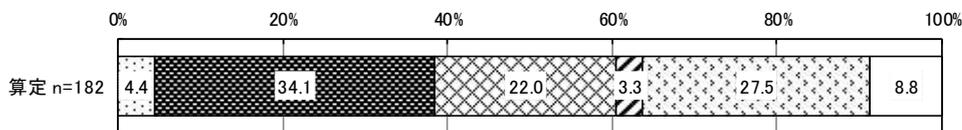
### ○洗濯

- ・洗濯たたみや食器の片づけなど、役割を持って生活する

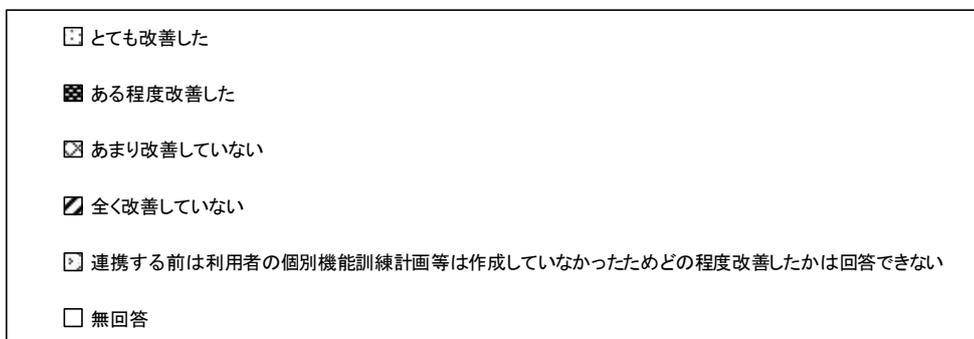
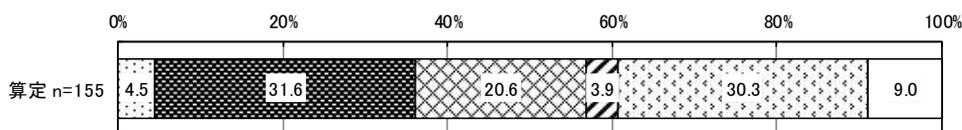
整容、掃除、については、回答は無し。

## キ) 助言により利用者の計画はどの程度改善したか（問 15）

図表 1291 助言により利用者の計画はどの程度改善したか



図表 1292 助言により利用者の計画はどの程度改善したか 区分1のみ



## ク) 助言による具体的な状況変化 (問 15-2)

図表 1293 助言による具体的な状況変化

### ○訓練内容の変化

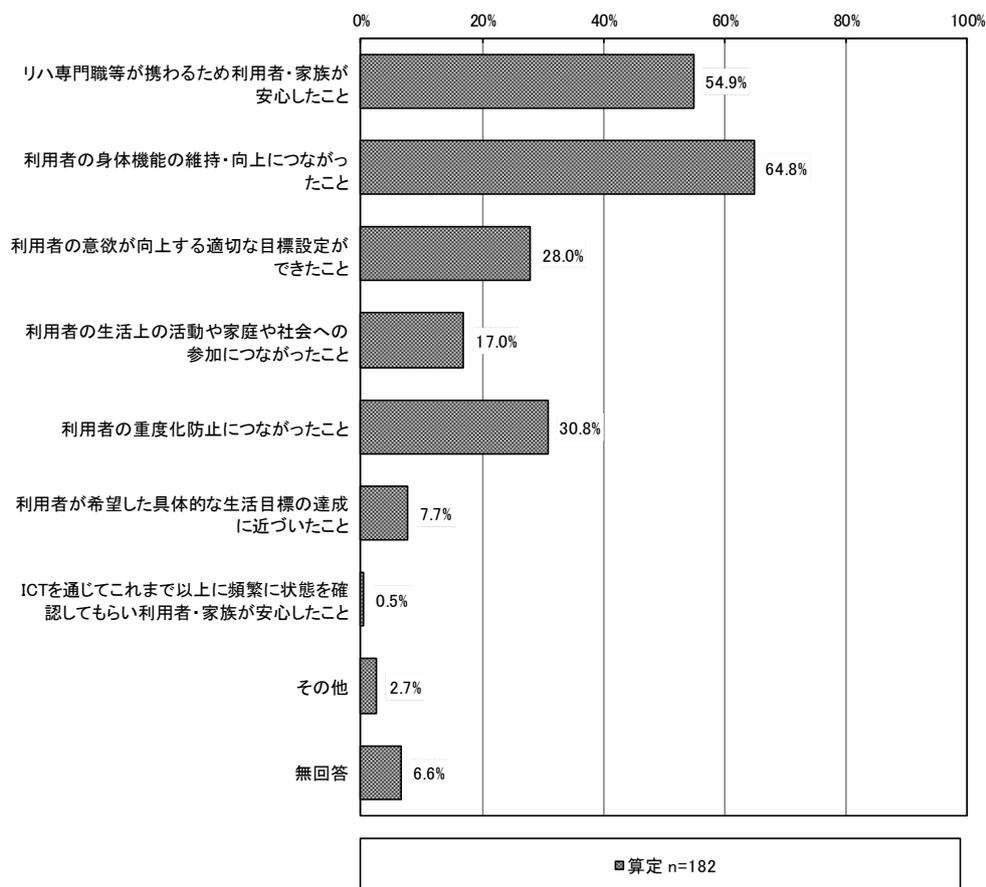
- ・ 周囲を確認しながら歩行車を操作するようになった
- ・ 移乗前に確認するようになった

### ○本人の状態の変化

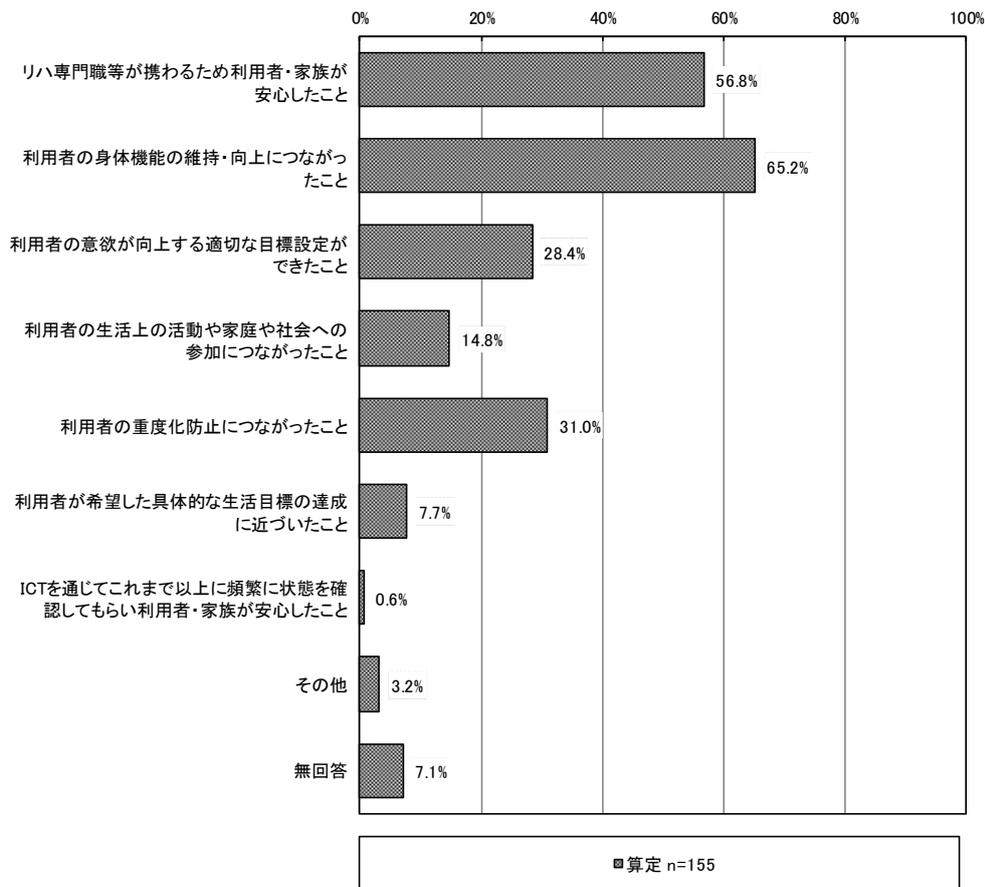
- ・ 身体機能の改善がやや見られる
- ・ 普通浴・一部介助レベルで安全に入浴できるようになった

## ケ) 利用者が享受したメリット (問 16)

図表 1294 利用者が享受したメリット



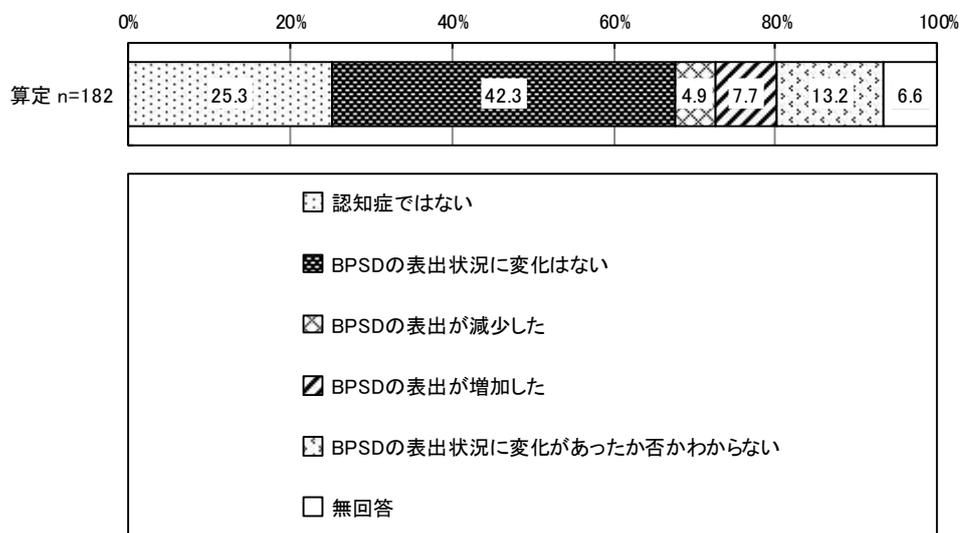
図表 1295 利用者が享受したメリット 区分1のみ



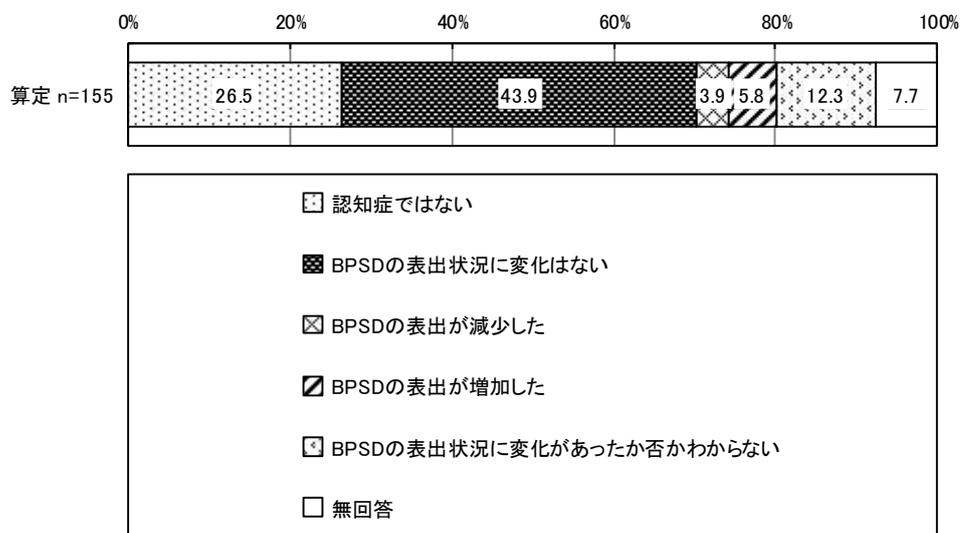
※その他として挙げられた有効な回答は無し。

コ) 認知症の利用者の BPSD 表出状況の変化 (問 17)

図表 1296 認知症の利用者の BPSD 表出状況の変化

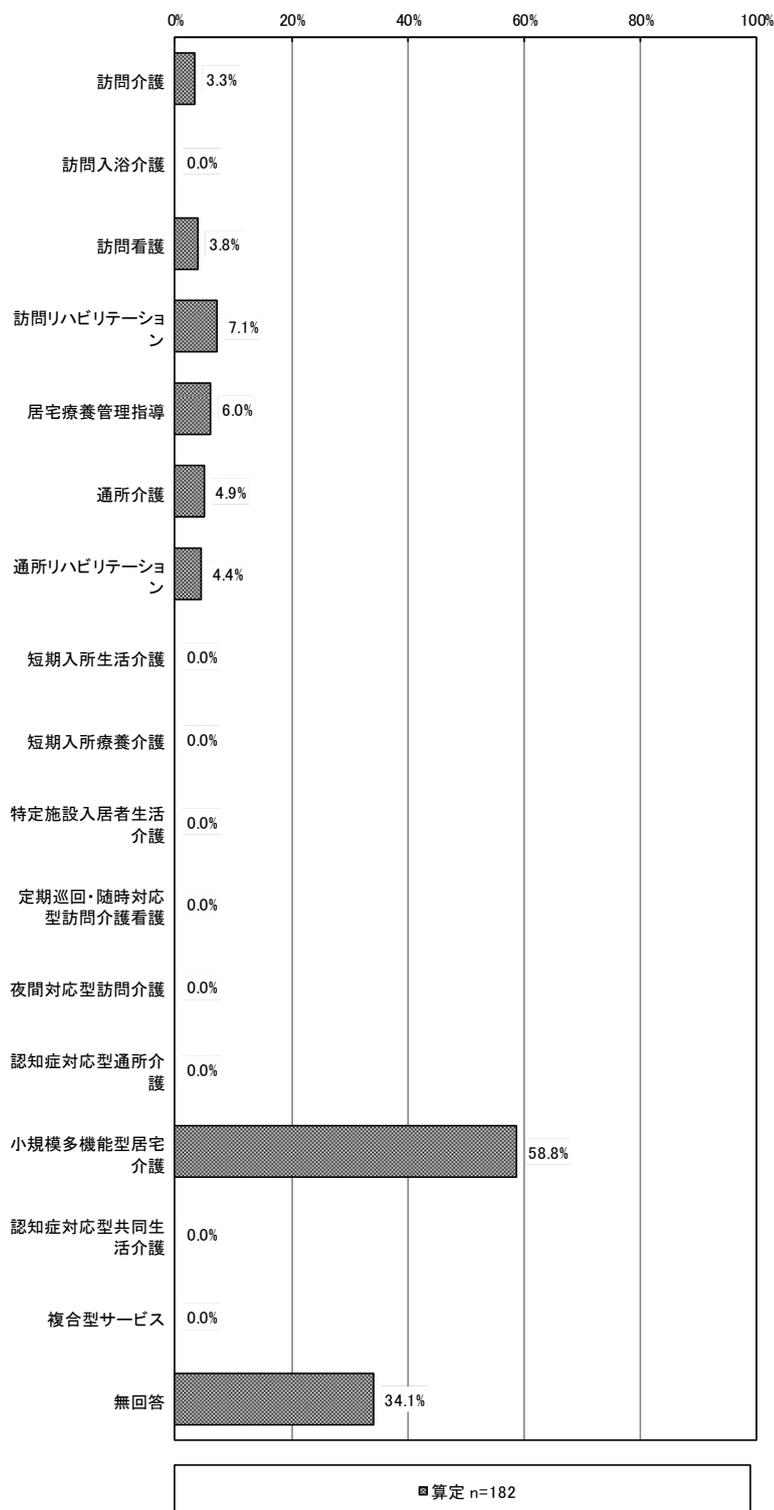


図表 1297 認知症の利用者の BPSD 表出状況の変化 区分 1 のみ

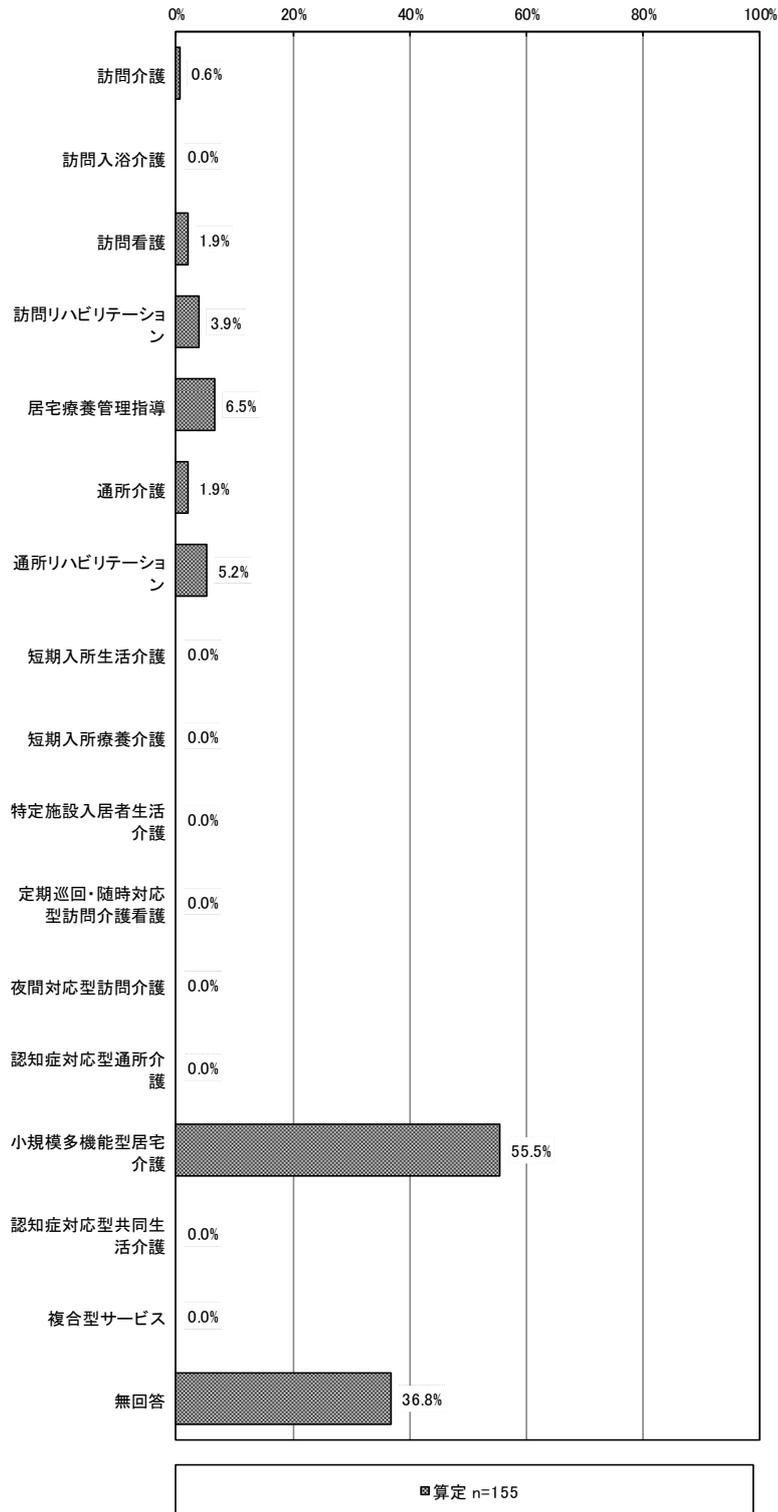


## サ) 利用者が他に利用しているサービス（問 18）

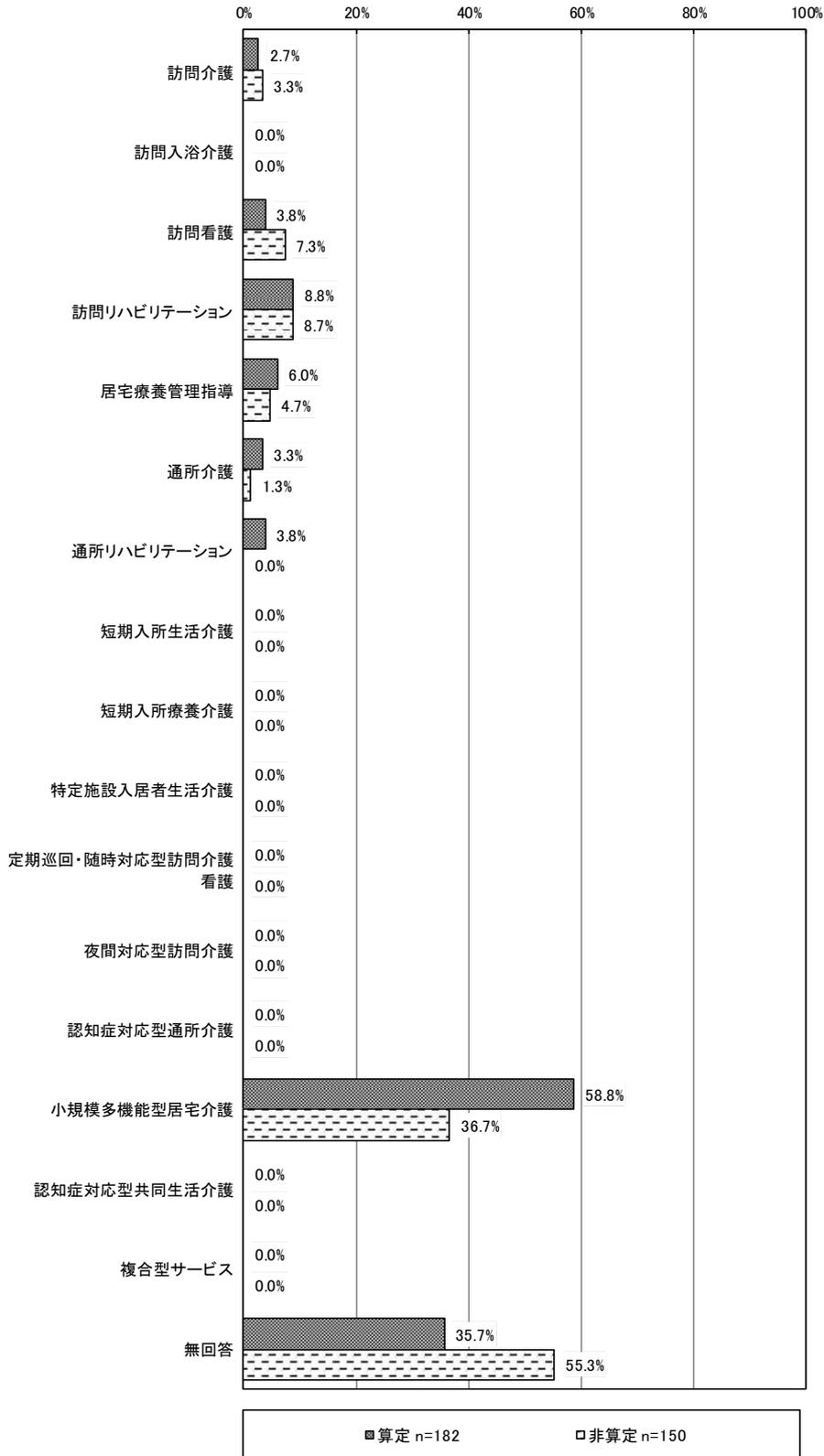
図表 1298 利用者が他に利用しているサービス ①算定前



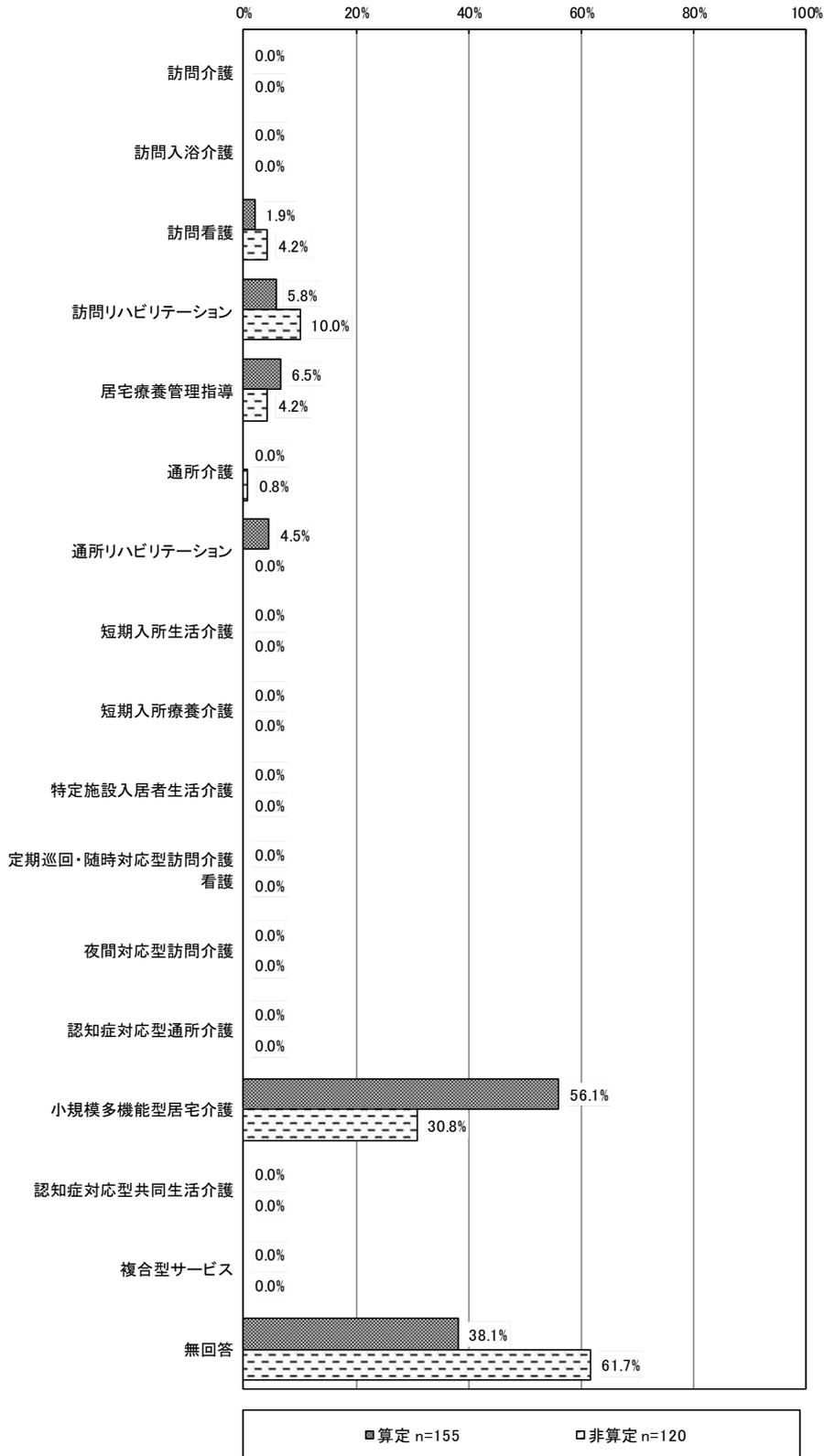
図表 1299 利用者が他に利用しているサービス ①算定前 区分1のみ



図表 1300 利用者が他に利用しているサービス ②算定以後



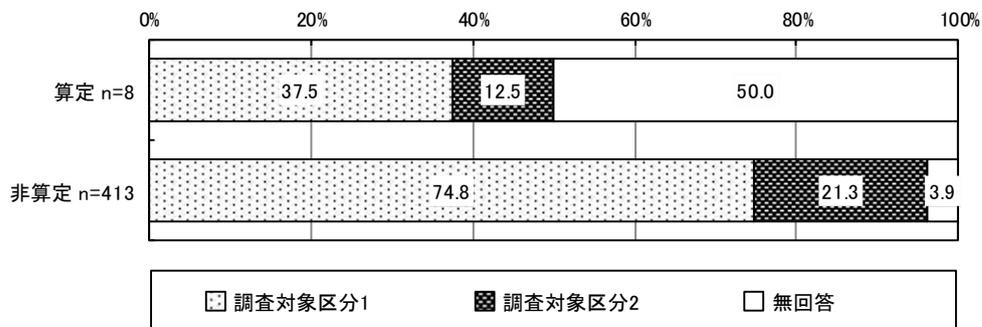
図表 1301 利用者が他に利用しているサービス ②算定以後 区分1のみ



## (9) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護

### ア) 利用者の調査対象区分 (問 0)

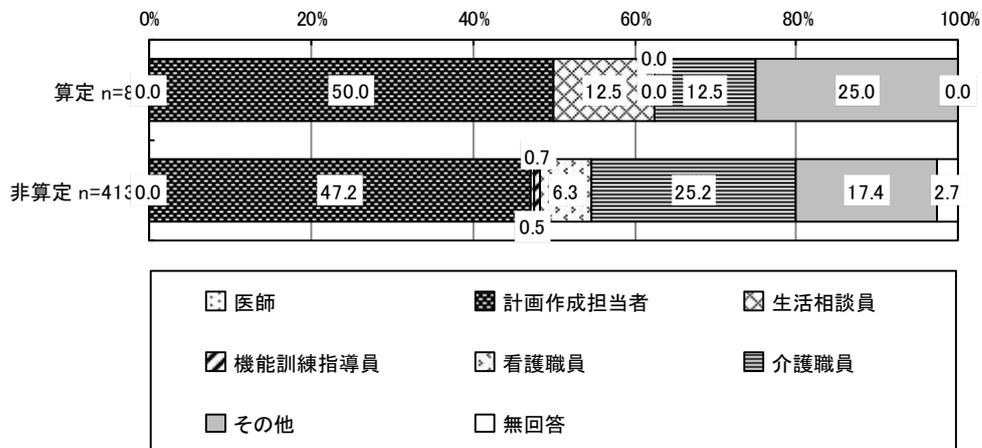
図表 1302 利用者の調査対象区分



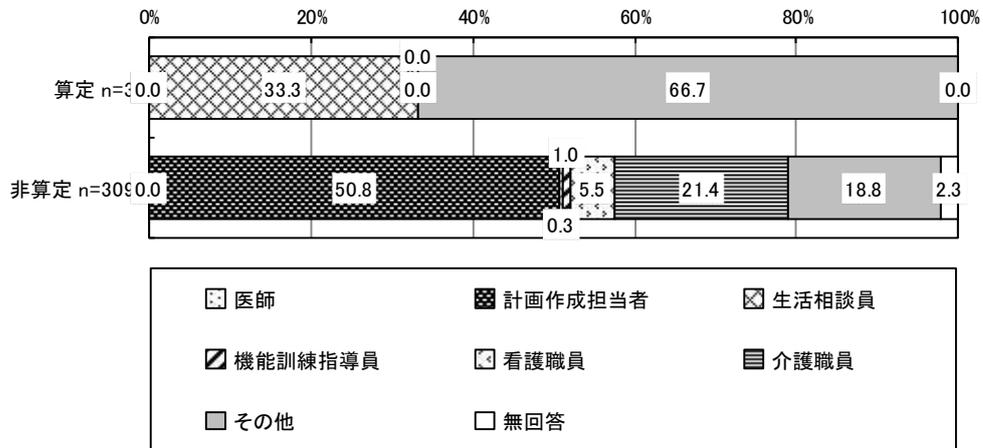
## I. 回答者の属性

### ア) 回答者の職種 (問 1)

図表 1303 回答者の職種



図表 1304 回答者の職種 区分1のみ



※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

- ・ (算定) 管理者
- ・ (非算定) 管理者
- ・ (非算定) 事務

## Ⅱ. 利用者の情報

### ア) 年齢 (問 2)

図表 1305 年齢

(単位: 歳)

件数	平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
算定 n=8	81.4	4.6	81	88	75
非算定 n=410	84.7	8.4	86	104	44

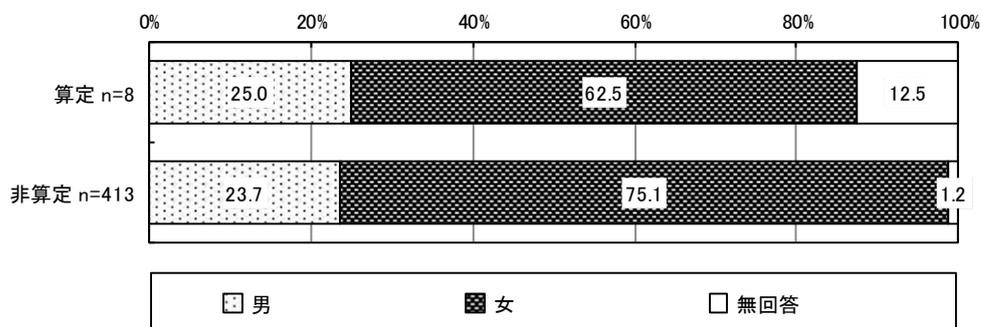
図表 1306 年齢 区分 1 のみ

(単位: 歳)

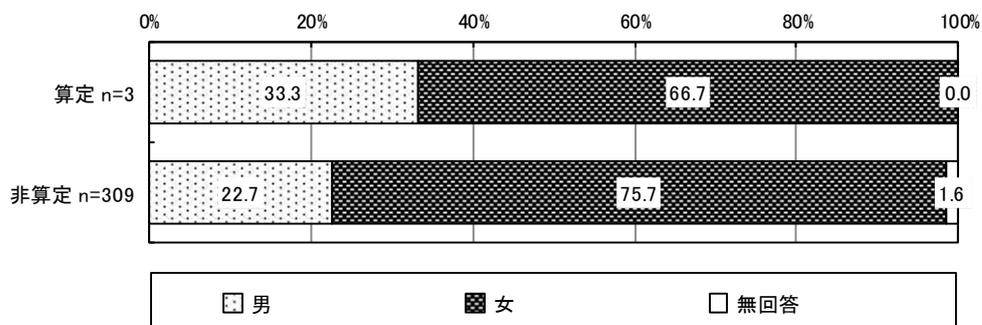
件数	平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
算定 n=3	79.3	4.8	81	86	75
非算定 n=307	85.0	8.4	86	104	44

### イ) 性別 (問 3)

図表 1307 性別

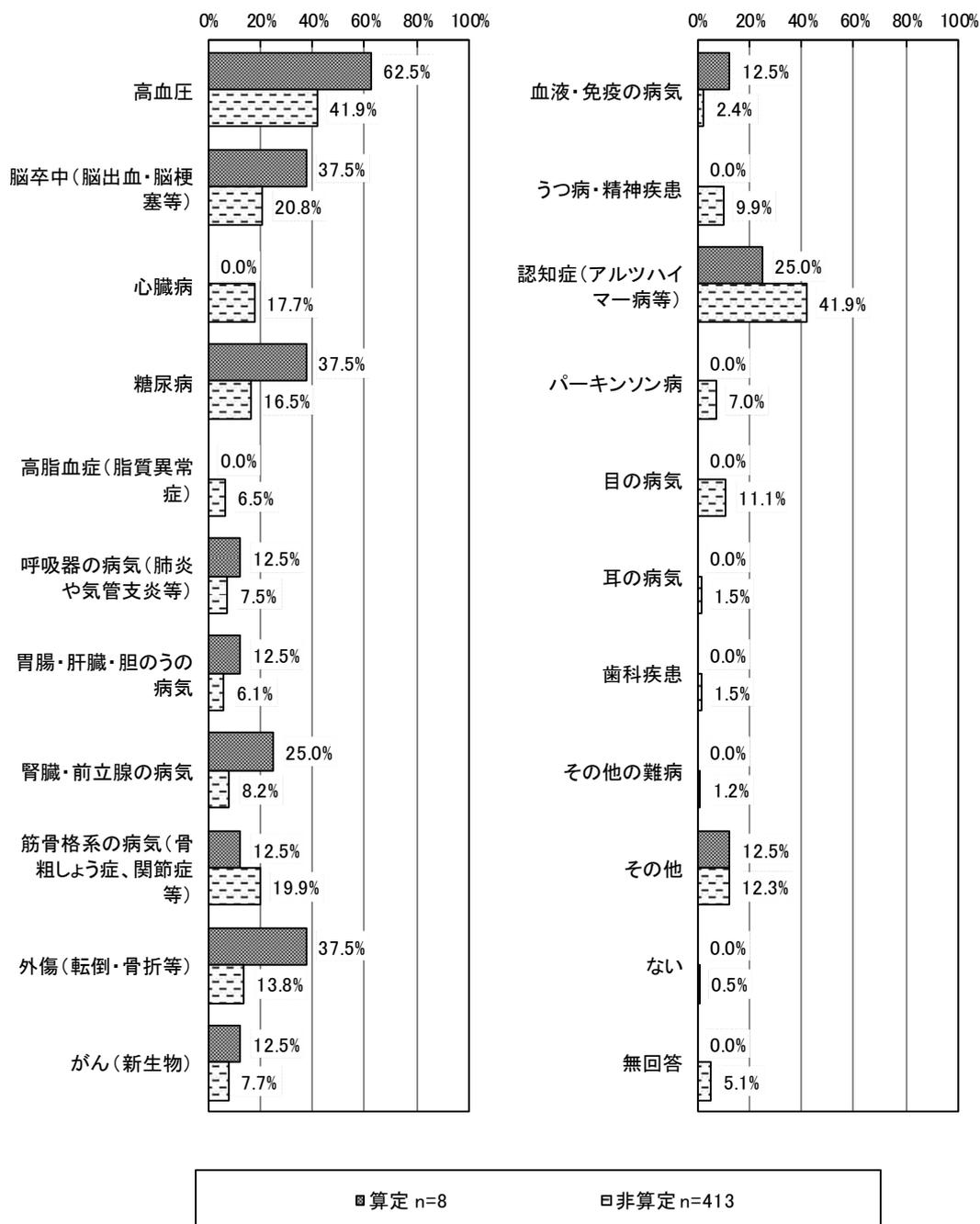


図表 1308 性別 区分 1 のみ

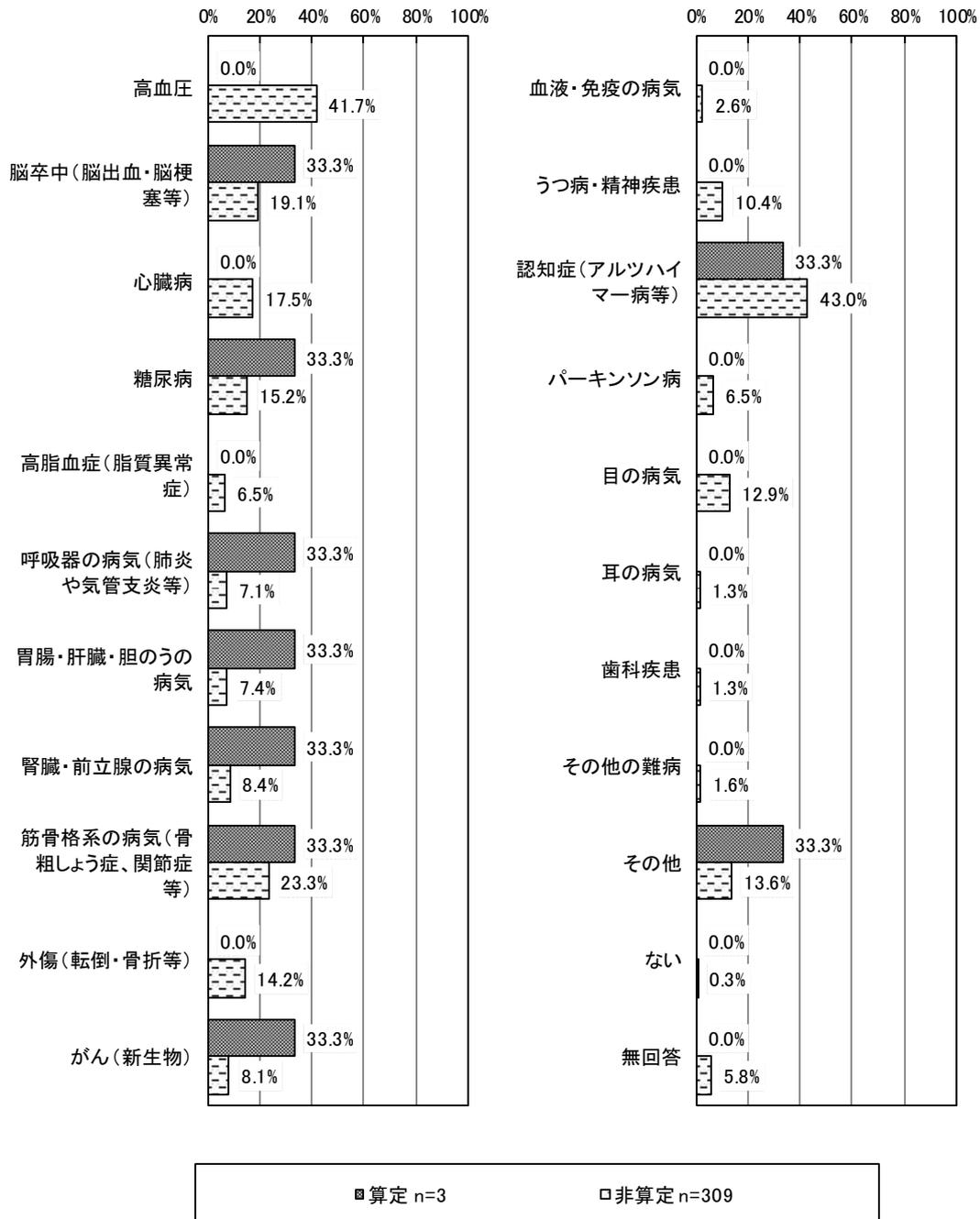


## ウ) 傷病名 (問 4)

図表 1309 傷病名



図表 1310 傷病名 区分1のみ

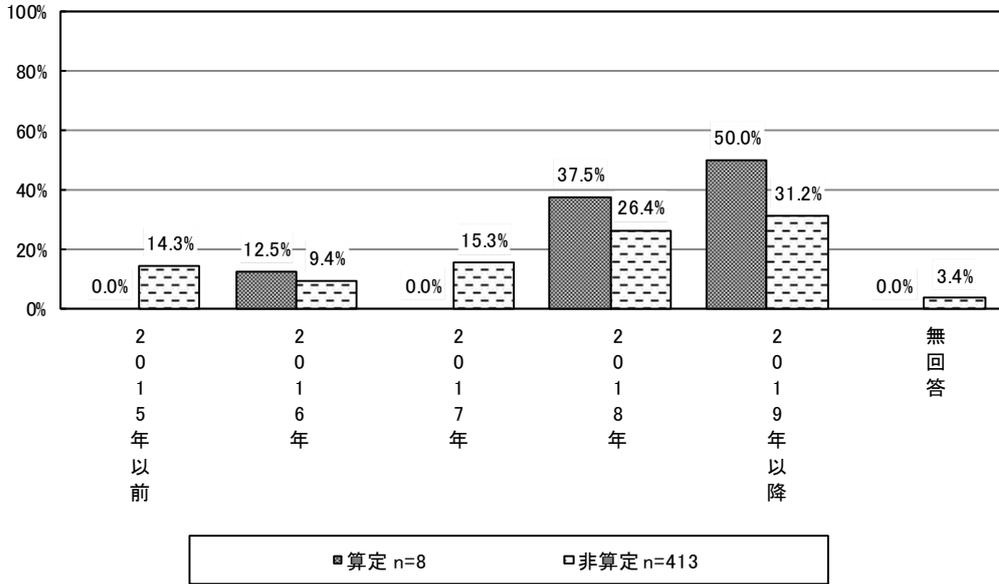


※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

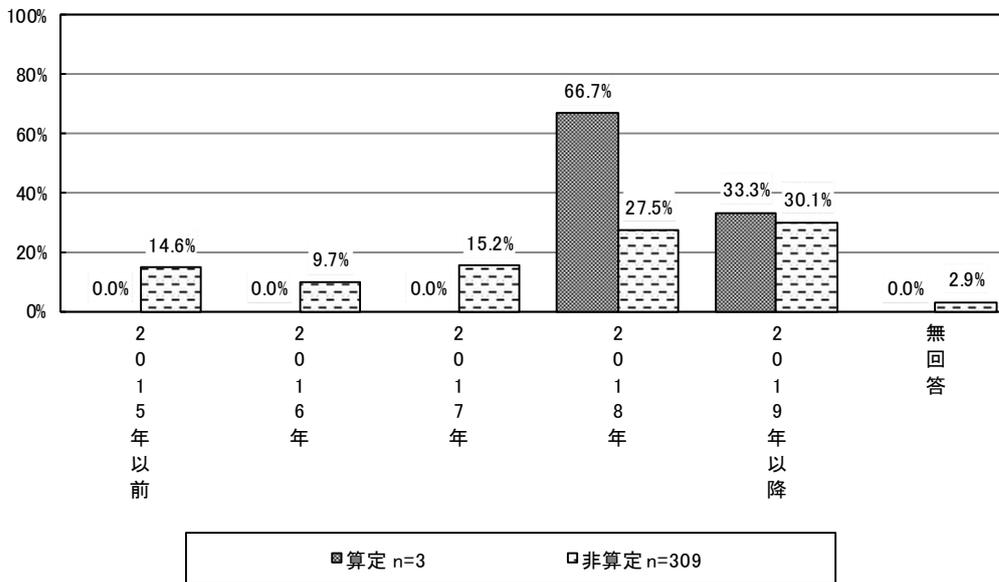
- ・(算定) 発作性心房細動
- ・(非算定) 心房細動
- ・(非算定) 進行性核上性麻痺

エ) 事業所・施設の利用開始時期 (問 5)

図表 1311 事業所・施設の利用開始時期

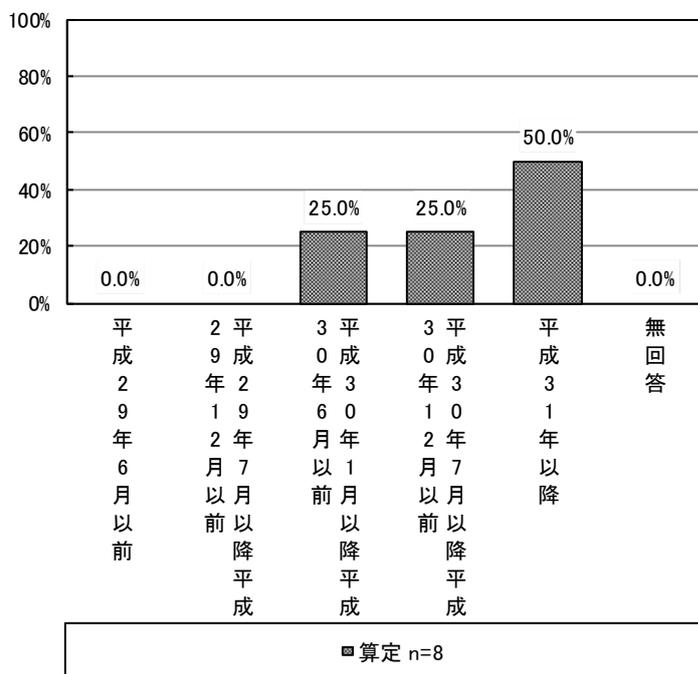


図表 1312 事業所・施設の利用開始時期 区分1のみ

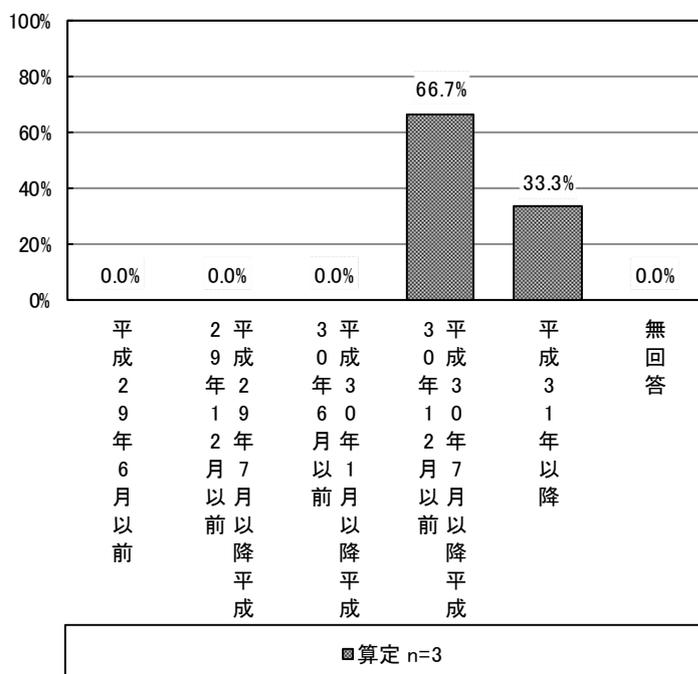


オ) 事業所・施設が加算算定に伴う連携を開始した時期（問6）

図表 1313 事業所・施設が加算算定に伴う連携を開始した時期

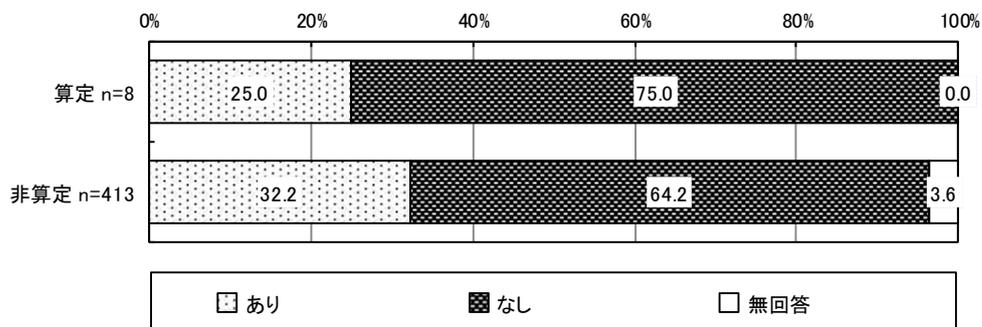


図表 1314 事業所・施設が加算算定に伴う連携を開始した時期 区分1のみ

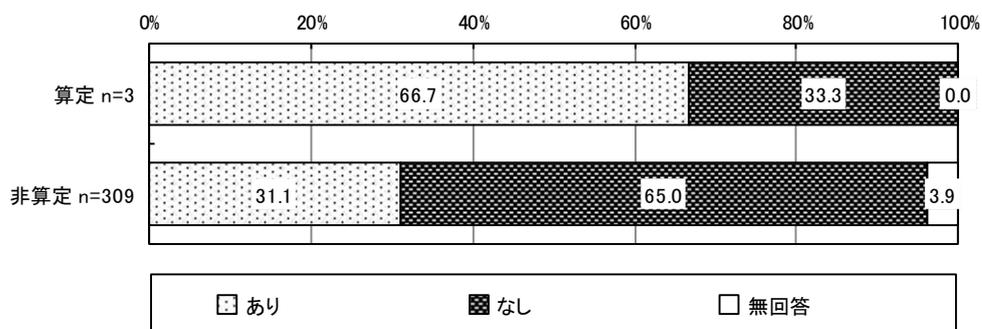


## カ) 退院の有無と直近の入院期間（問7）

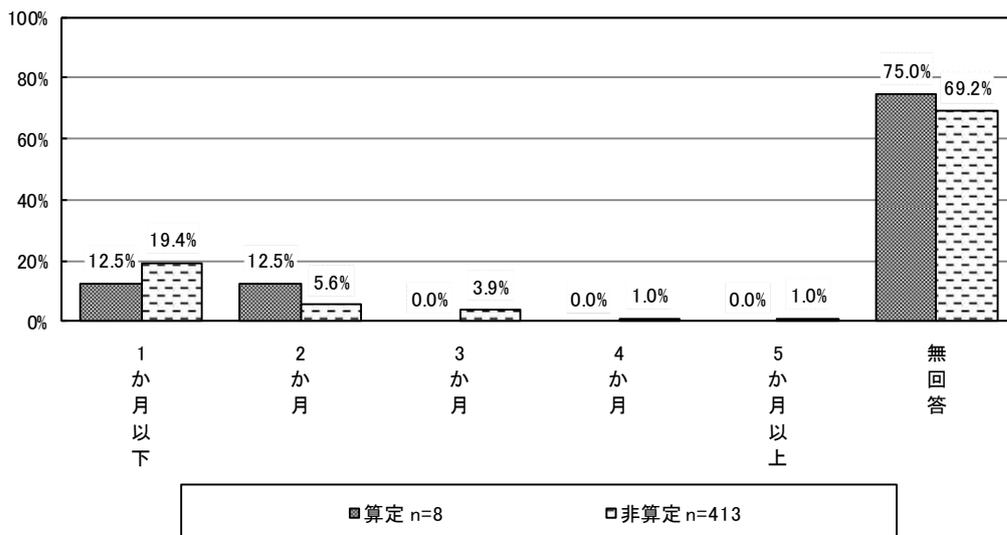
図表 1315 退院の有無



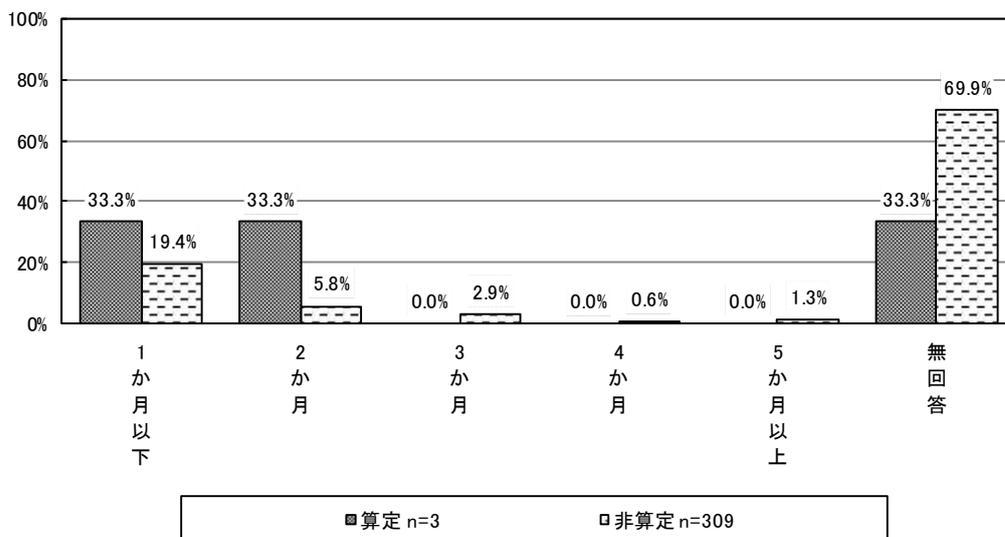
図表 1316 退院の有無 区分1のみ



図表 1317 直近の入院期間



図表 1318 直近の入院期間 区分1のみ



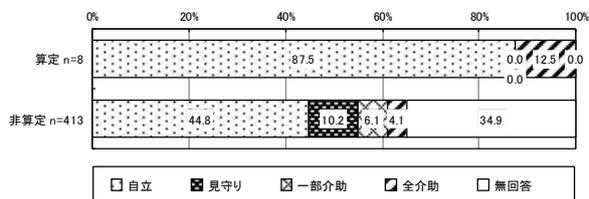
キ) ADL・IADL の状況 (問8)

図表 1319 ADL・IADL の状況

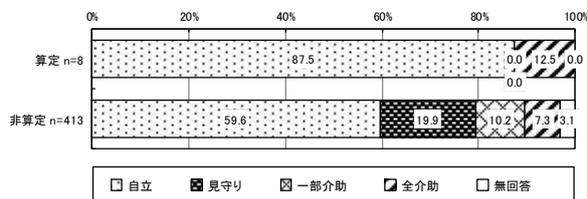
食事

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



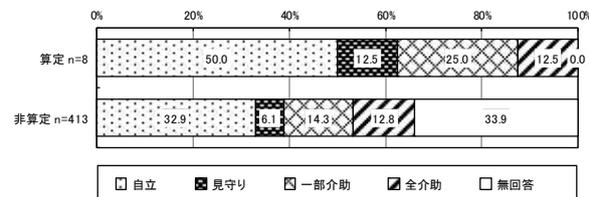
②令和元年10月1日時点



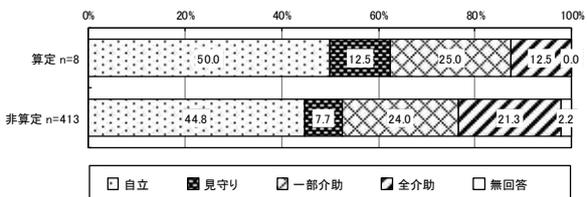
排泄

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



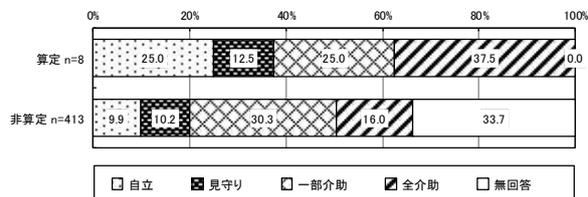
②令和元年10月1日時点



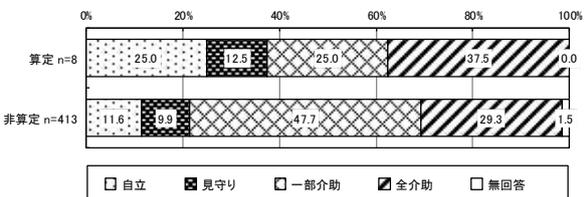
## 入浴

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



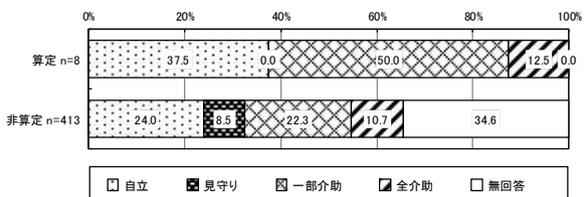
②令和元年 10 月 1 日時点



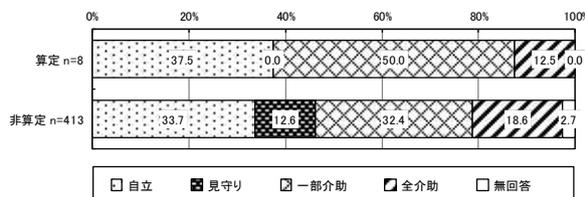
## 更衣

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



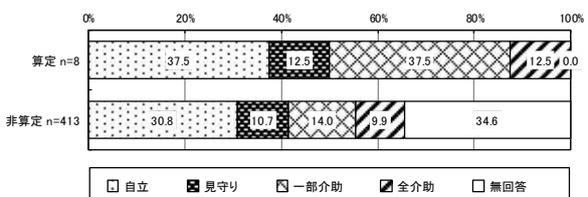
②令和元年 10 月 1 日時点



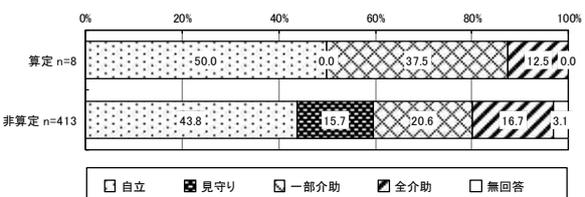
## 整容

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



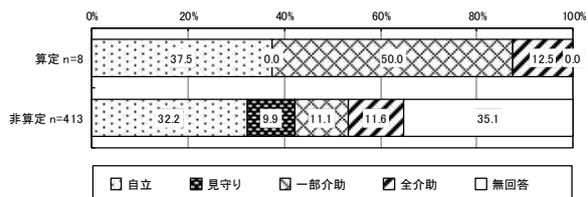
②令和元年 10 月 1 日時点



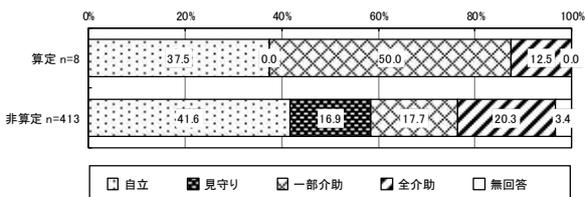
## 移乗

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



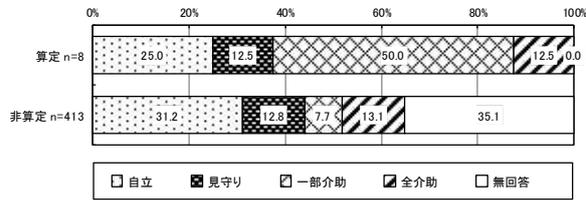
②令和元年 10 月 1 日時点



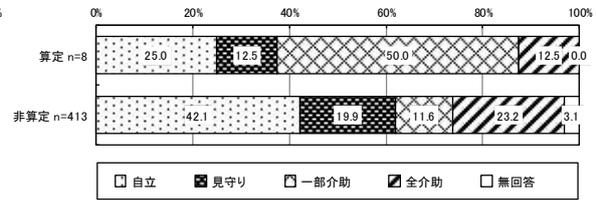
## 屋内移動

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



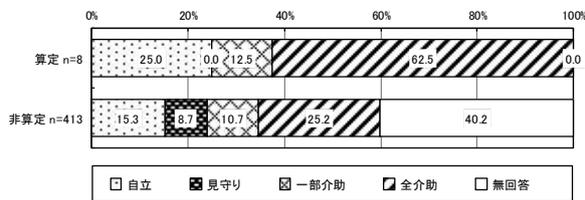
②令和元年10月1日時点



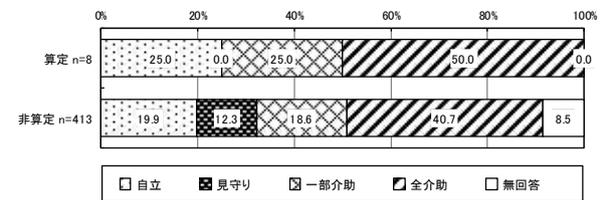
## 階段昇降

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



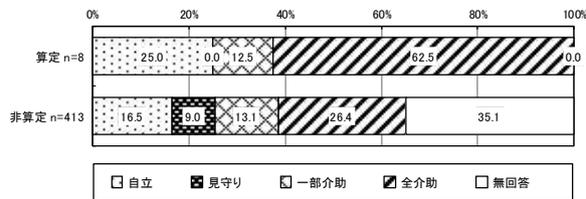
②令和元年10月1日時点



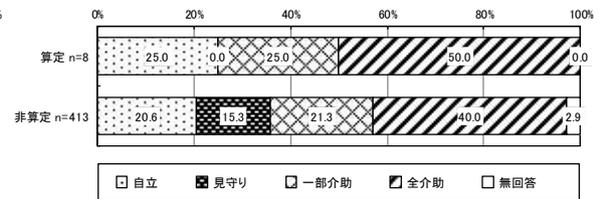
## 屋外移動

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



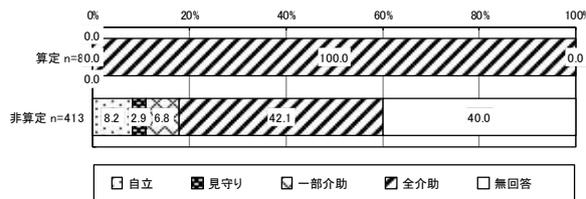
②令和元年10月1日時点



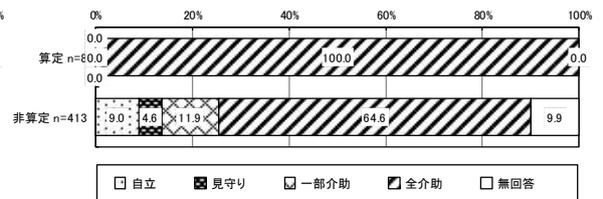
## 調理

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



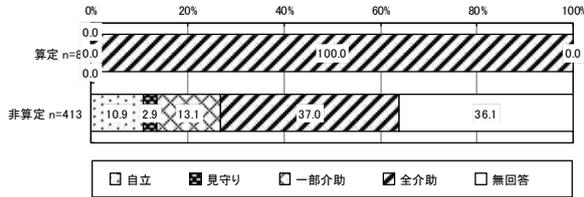
②令和元年10月1日時点



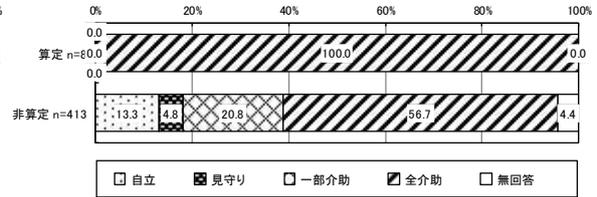
洗濯

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



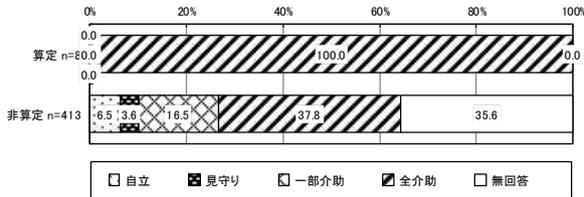
②令和元年 10 月 1 日時点



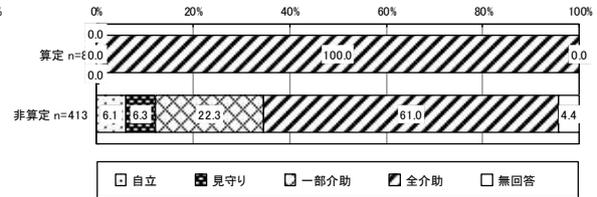
掃除

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



②令和元年 10 月 1 日時点

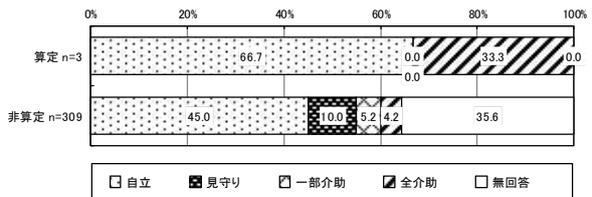


\*\*\*\*\*

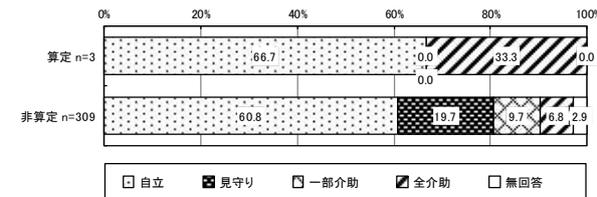
食事 区分 1 のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



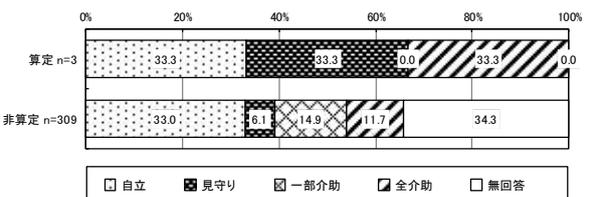
②令和元年 10 月 1 日時点



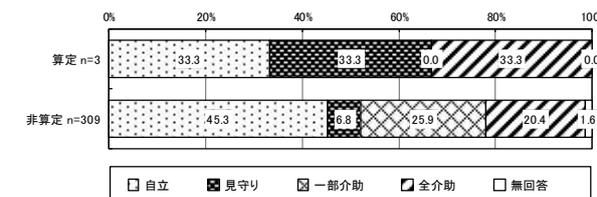
排泄 区分 1 のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成 30 年 4 月 1 日時点



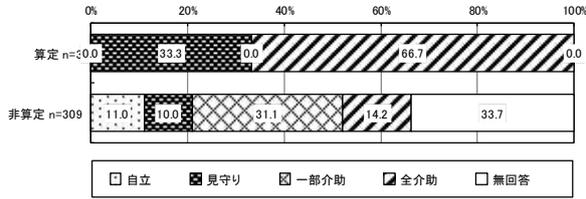
②令和元年 10 月 1 日時点



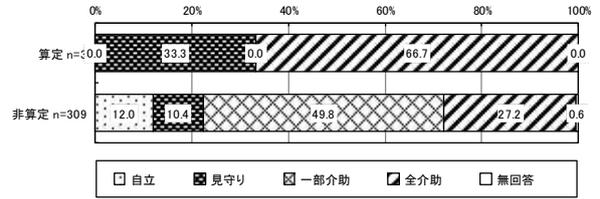
入浴 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



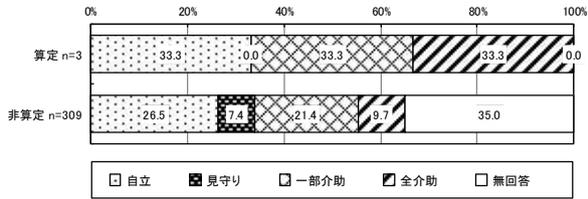
②令和元年10月1日時点



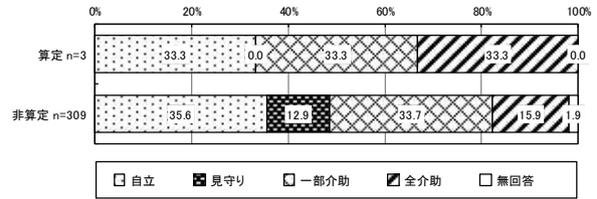
更衣 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



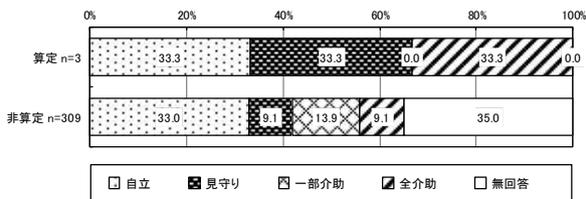
②令和元年10月1日時点



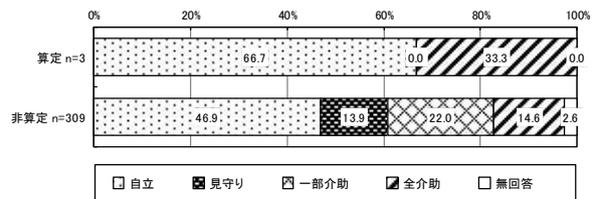
整容 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



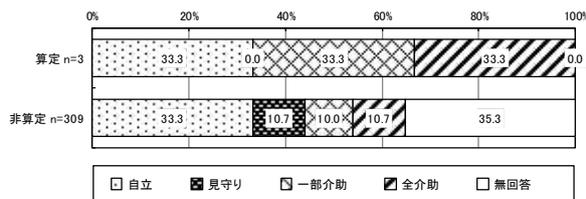
②令和元年10月1日時点



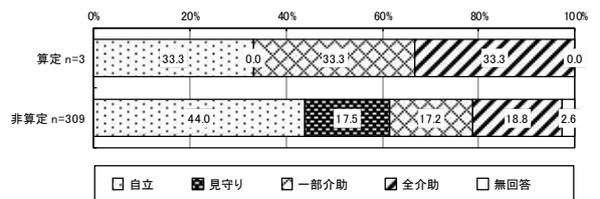
移乗 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



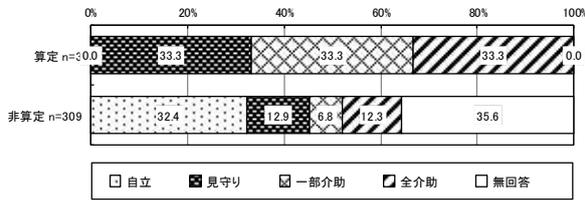
②令和元年10月1日時点



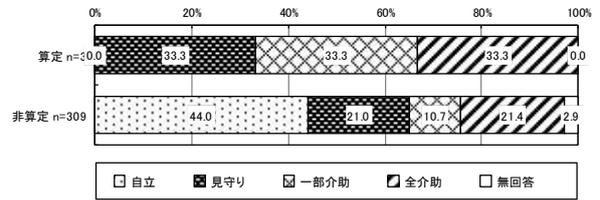
屋内移動 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



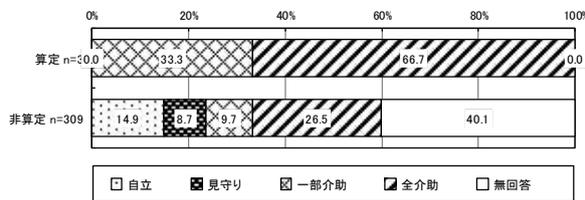
②令和元年10月1日時点



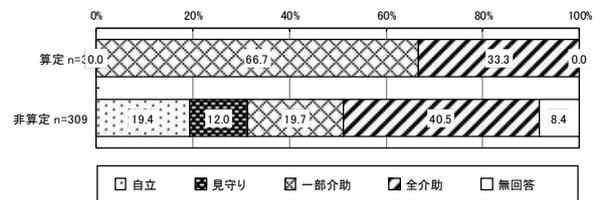
階段昇降 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



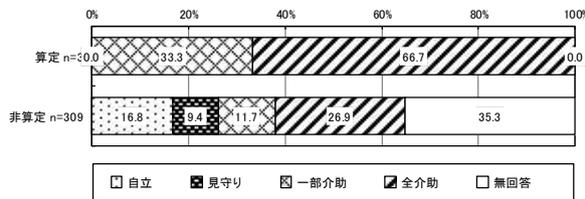
②令和元年10月1日時点



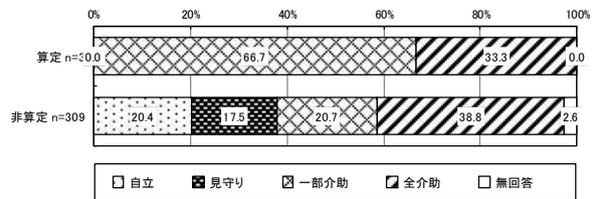
屋外移動 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



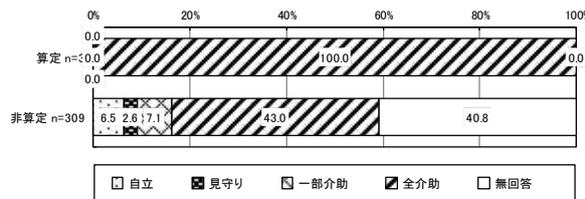
②令和元年10月1日時点



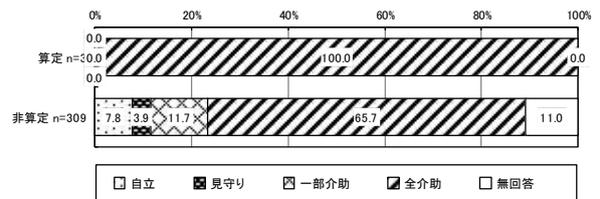
調理 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



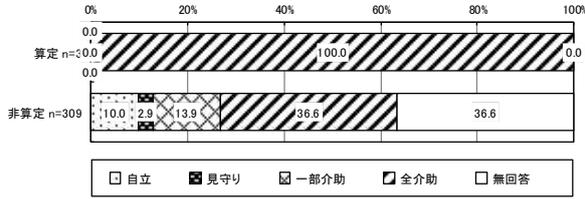
②令和元年10月1日時点



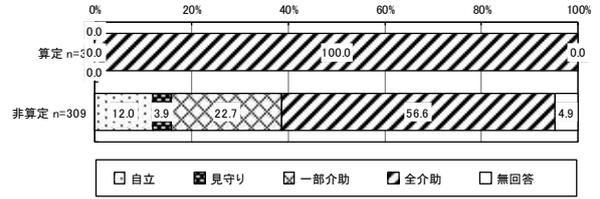
洗濯 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点



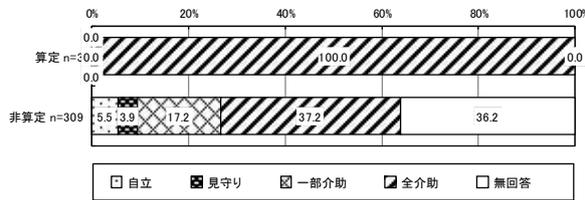
②令和元年10月1日時点



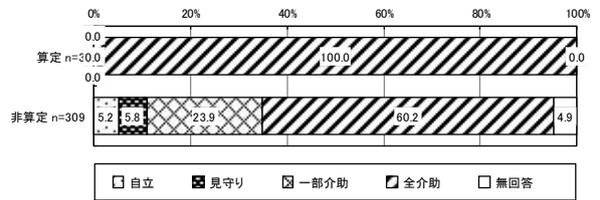
掃除 区分1のみ

①算定：加算算定に伴う連携の開始時点

非算定：平成30年4月1日時点

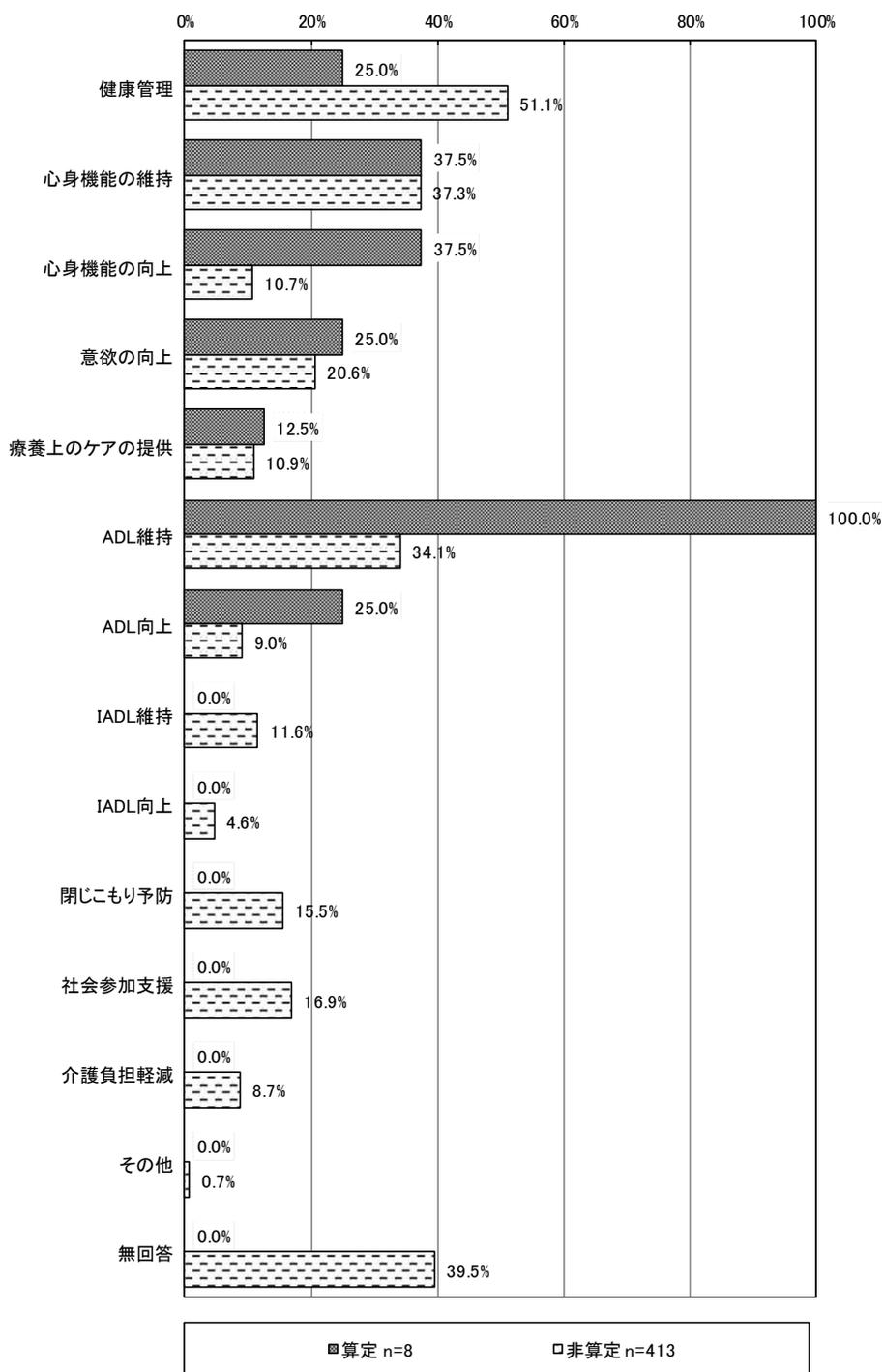


②令和元年10月1日時点

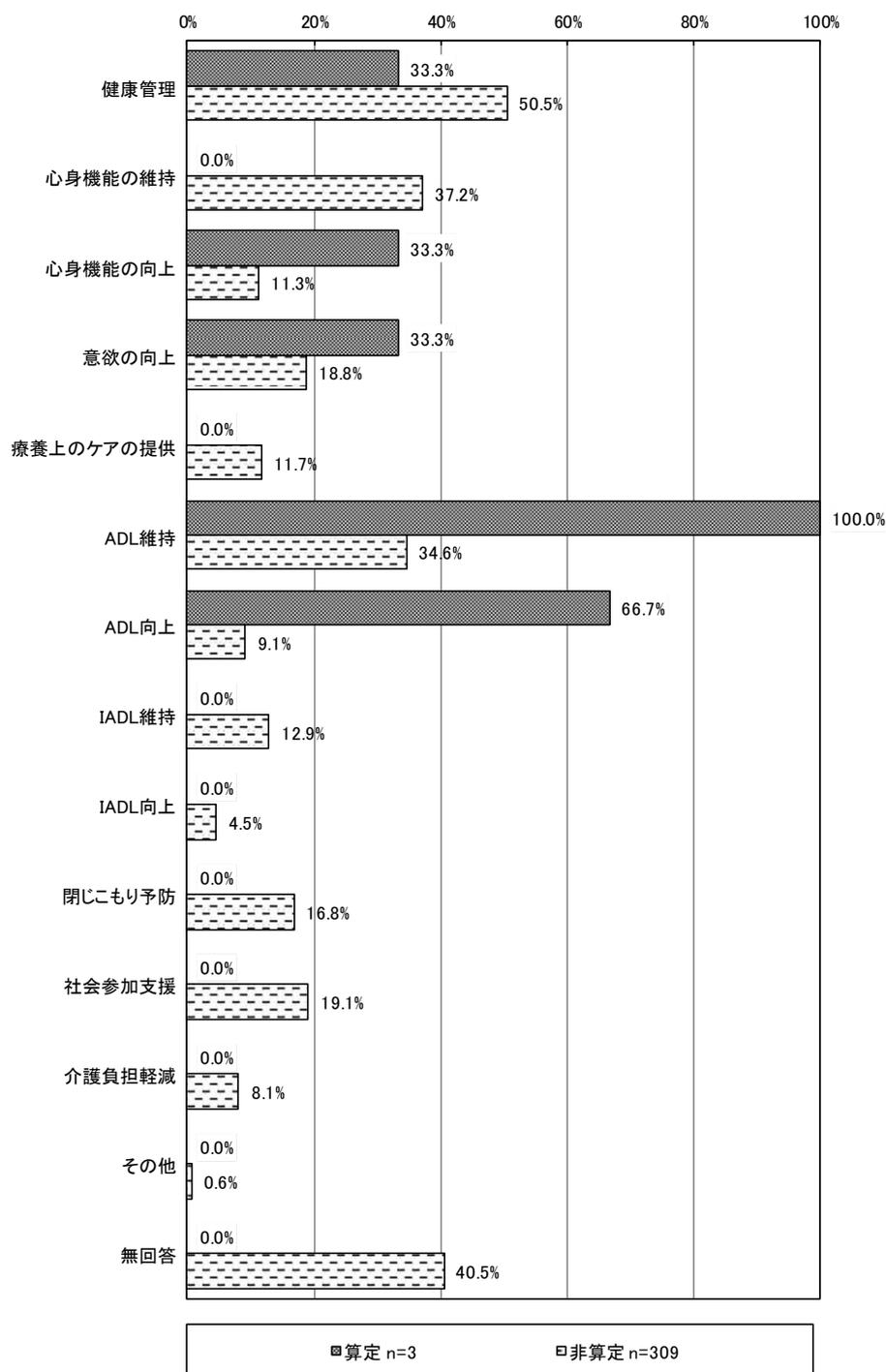


## ク) ケアプランの目標 (問 9)

図表 1320 目標 ①加算算定に伴う連携の開始時点



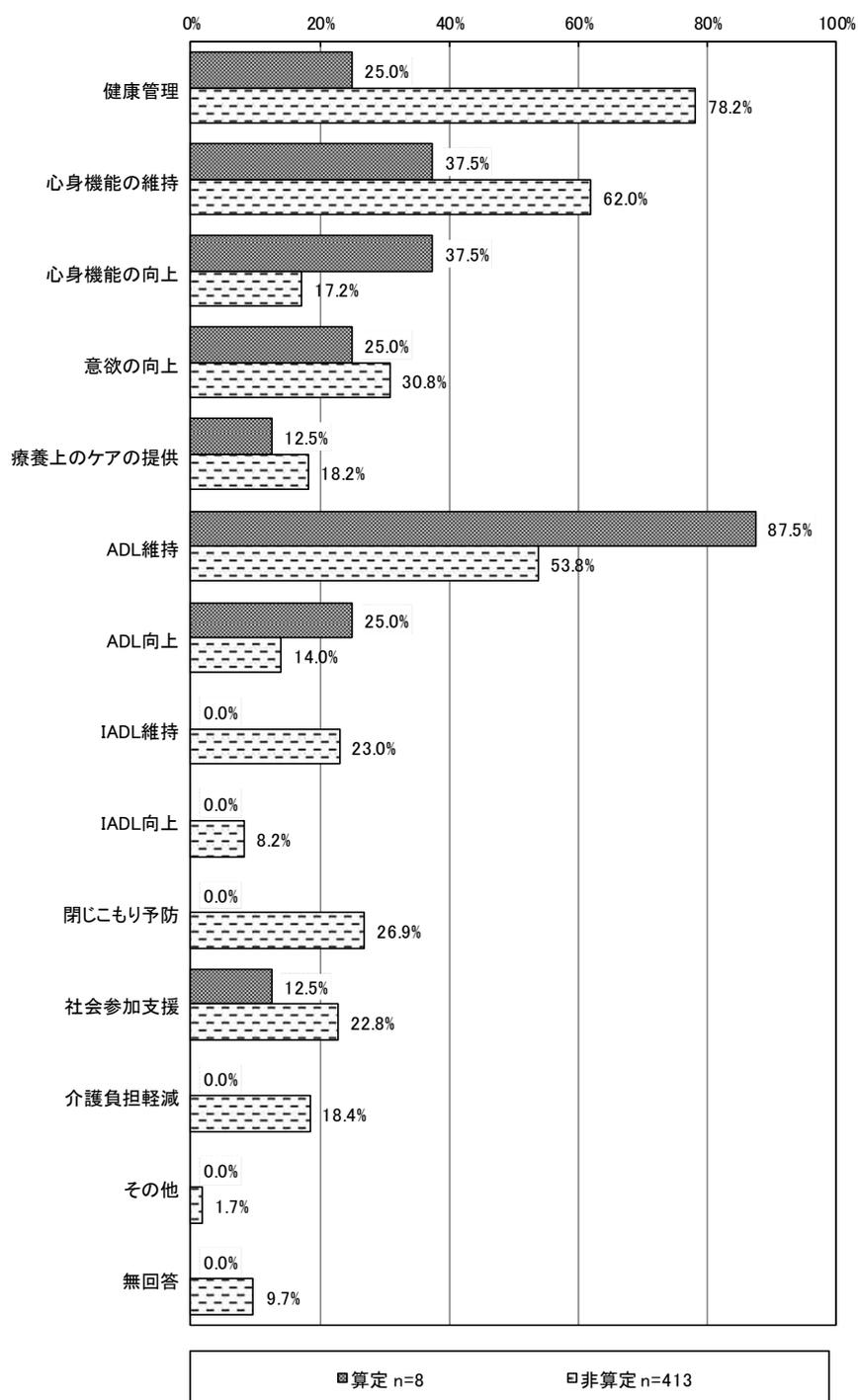
図表 1321 目標 ①加算算定に伴う連携の開始時点 区分1のみ



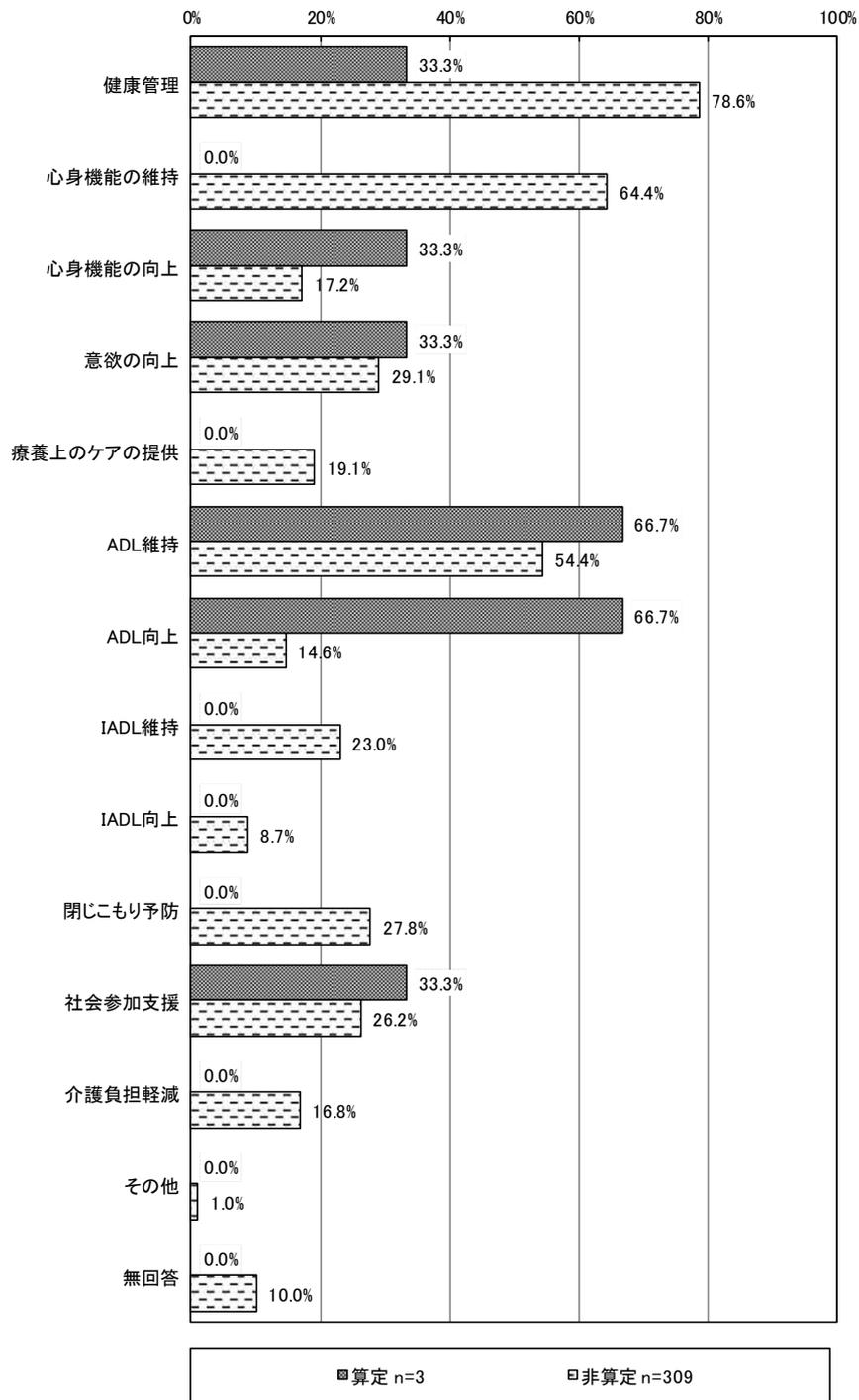
※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

- ・(非算定) 独居の不安軽減の支援
- ・(非算定) 掃除・洗濯・買い物の補助支援

図表 1322 目標 ②令和元年 10 月 1 日時点



図表 1323 目標 ②令和元年10月1日時点 区分1のみ



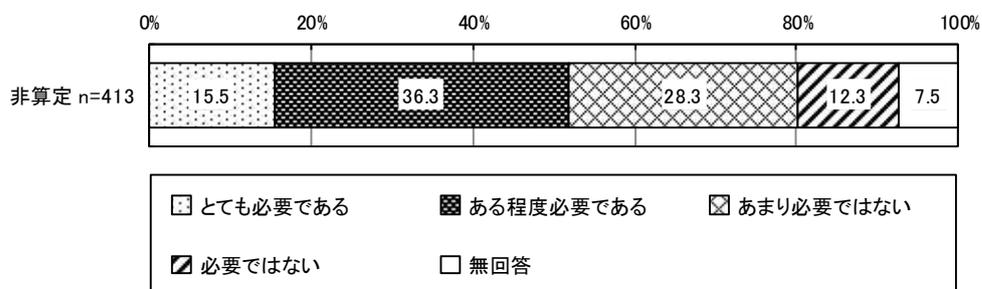
※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

- ・(非算定) 独居の不安軽減の支援
- ・(非算定) 掃除・洗濯・買い物の補助支援

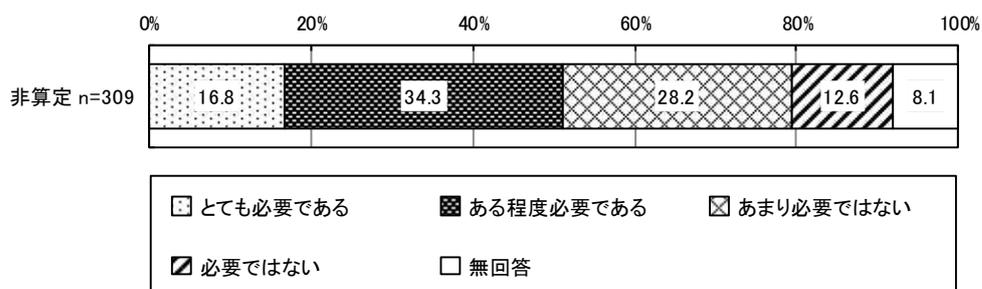
ケ) 利用者の ADL、IADL の状況や課題から判断した、リハ専門職等<sup>※</sup>との連携の必要性 (問 10 (非算定事業所・施設利用者票))

※理学療法士、作業療法士、言語聴覚士又はリハビリテーション科専門医

図表 1324 リハ専門職等との連携の必要性

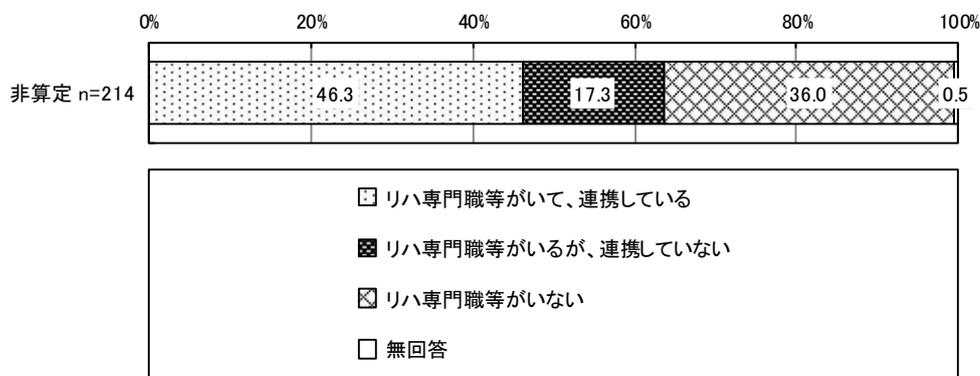


図表 1325 リハ専門職等との連携の必要性 区分1のみ

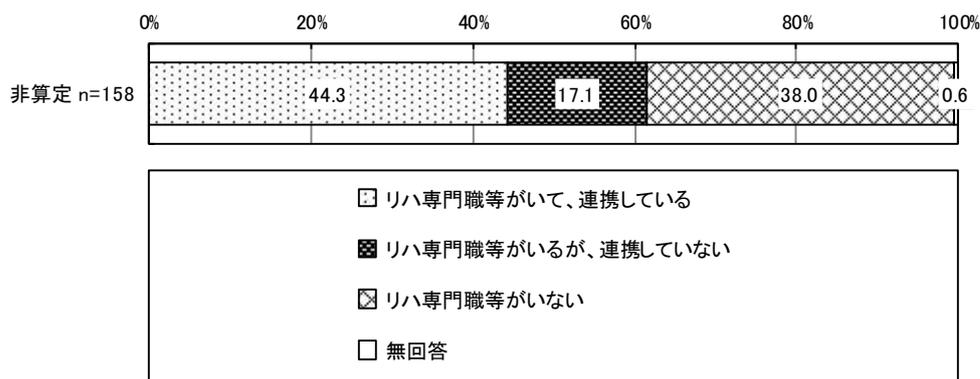


コ) 同一法人内のリハ専門職等の存在および連携の有無(問 11(非算定事業所・施設利用者票))

図表 1326 同一法人内のリハ専門職等の存在および連携の有無



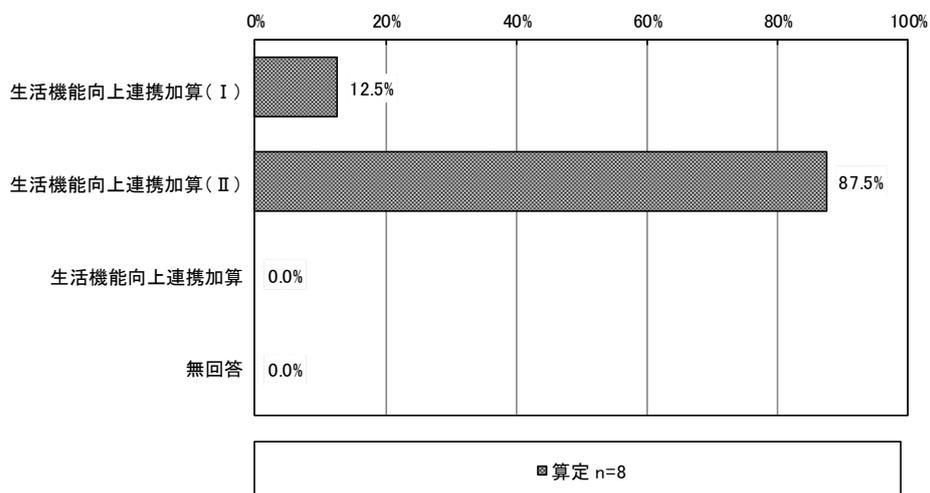
図表 1327 同一法人内のリハ専門職等の存在および連携の有無 区分1のみ



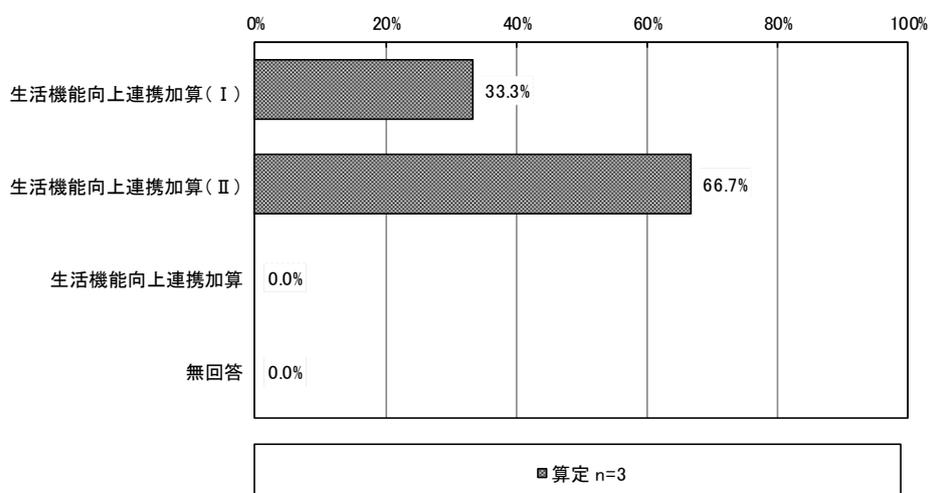
### Ⅲ. 生活機能向上連携加算の算定状況

#### ア) 算定状況 (問 10)

図表 1328 算定状況

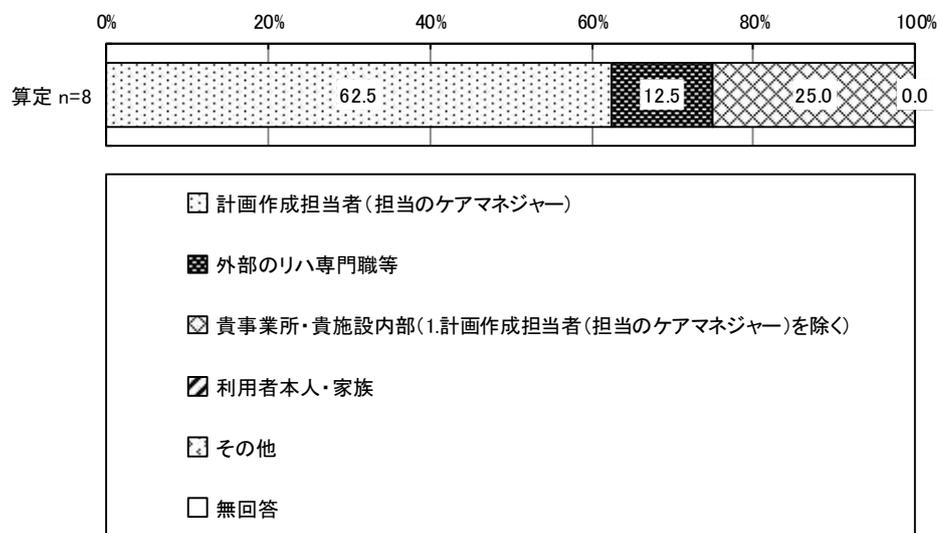


図表 1329 算定状況 区分1のみ

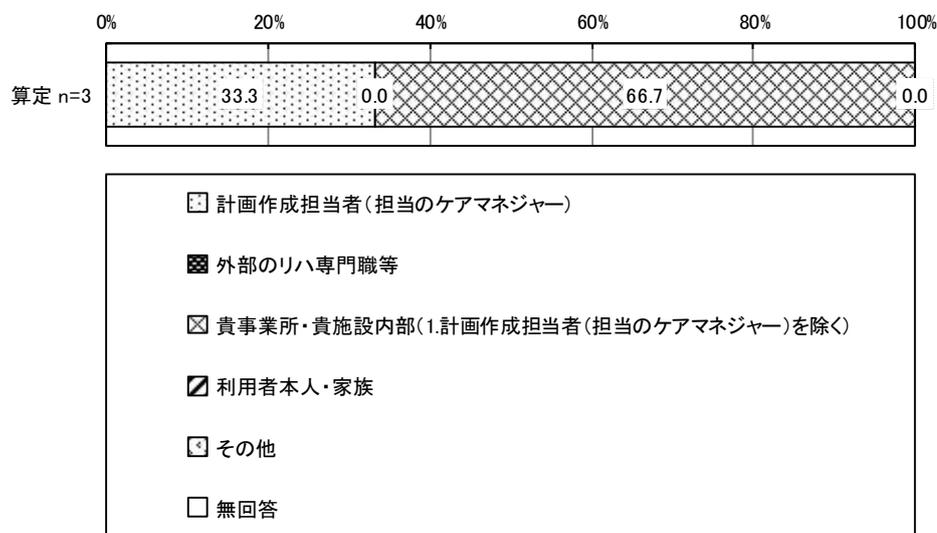


## イ) 算定の提案者 (問 11)

図表 1330 算定の提案者



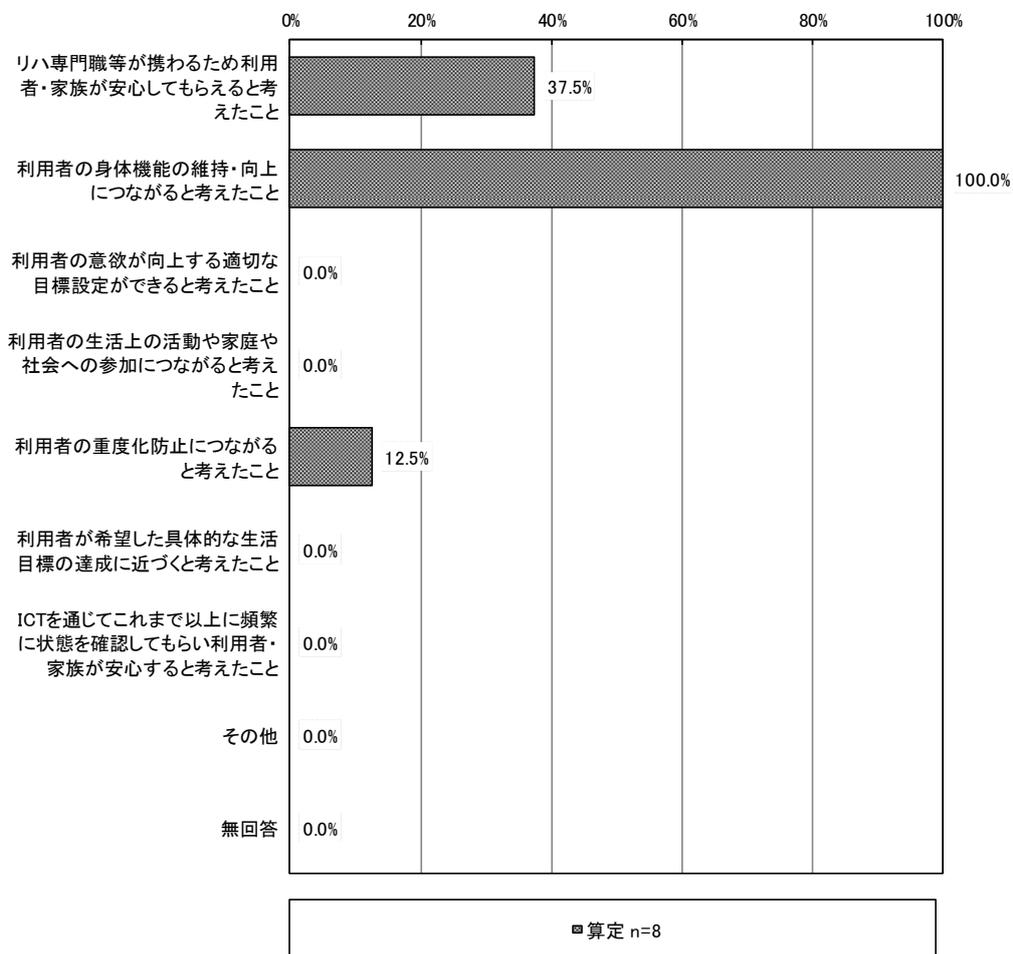
図表 1331 算定の提案者 区分1のみ



※その他として挙げられた有効な回答は無し。

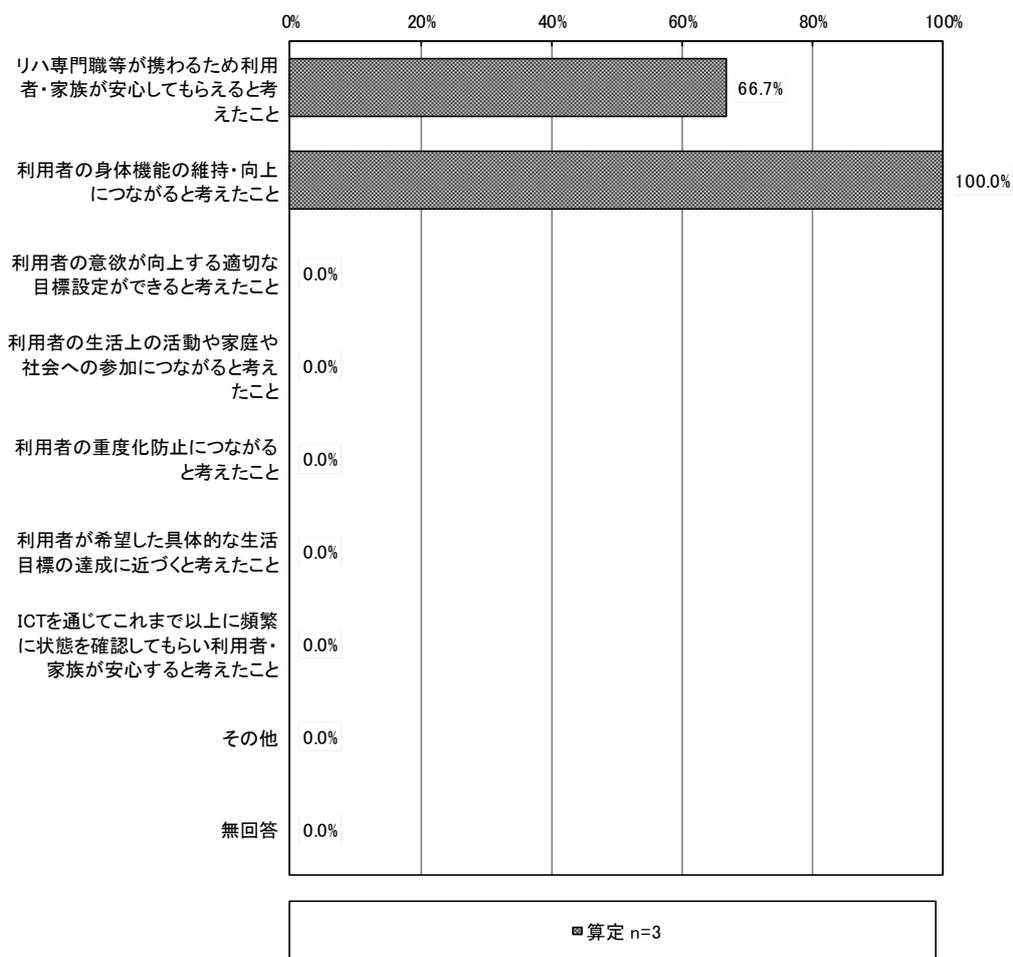
## ウ) 算定を提案した理由 (問 11-2)

図表 1332 算定を提案した理由



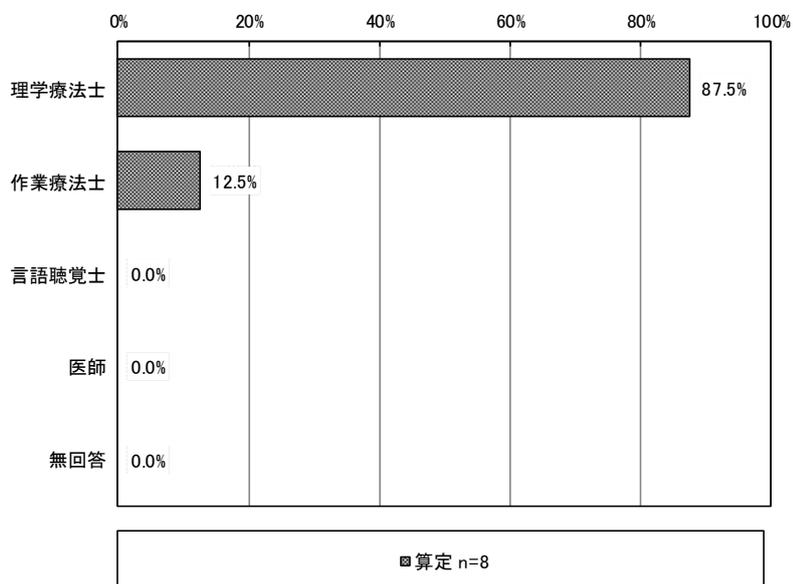
※その他として挙げられた有効な回答は無し。

図表 1333 算定を提案した理由 区分1のみ

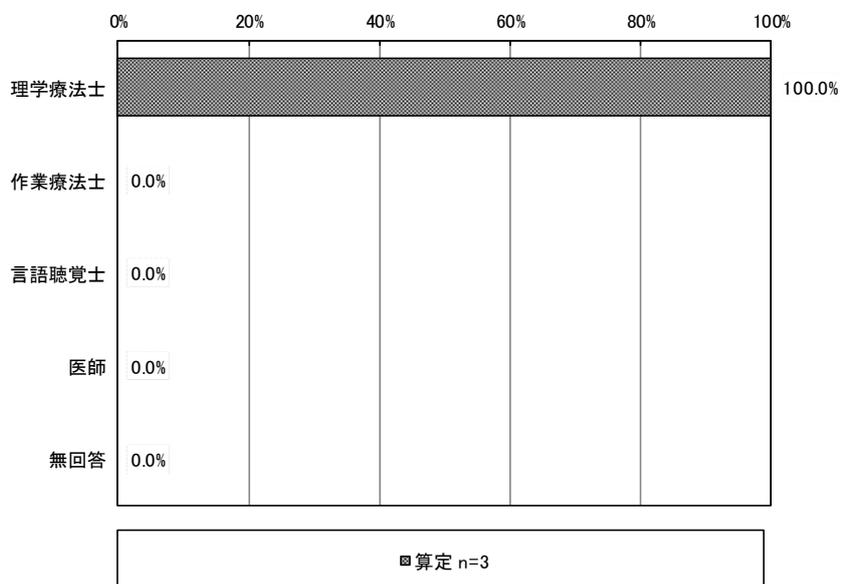


エ) 連携している外部の職種 (問 12)

図表 1334 連携している外部の職種

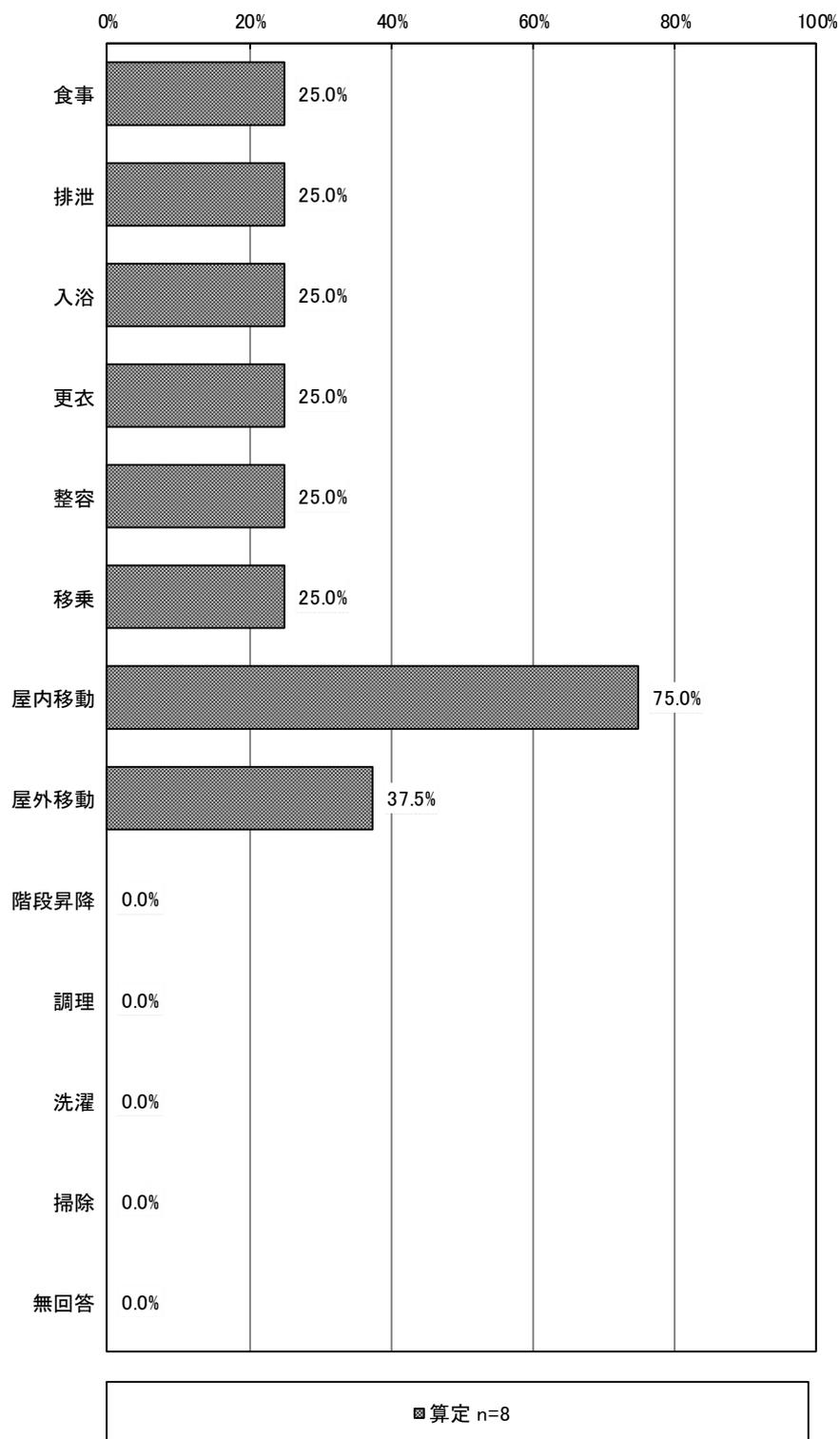


図表 1335 連携している外部の職種 区分 1 のみ

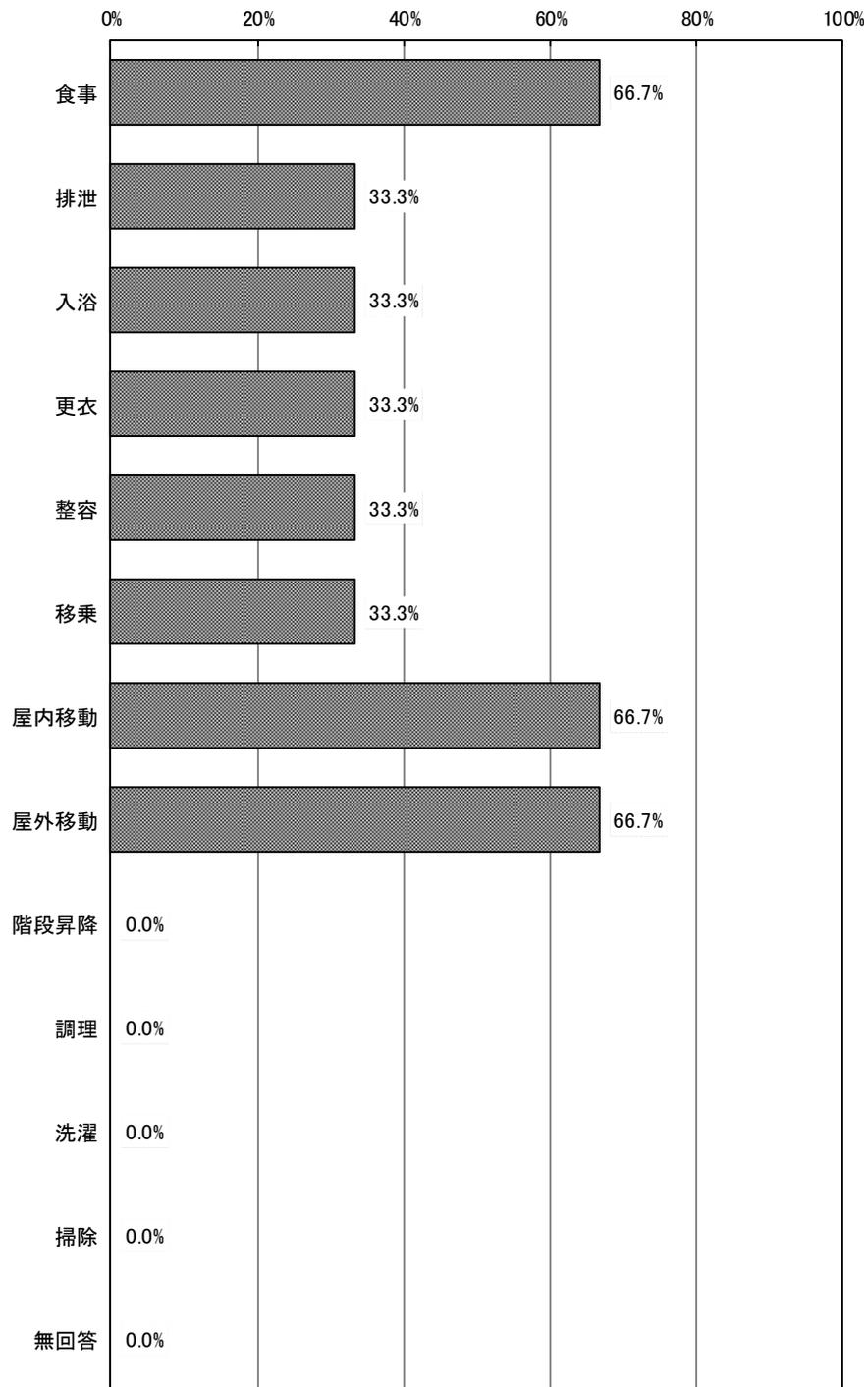


## 才) 利用者の課題 (問 13)

図表 1336 利用者の課題



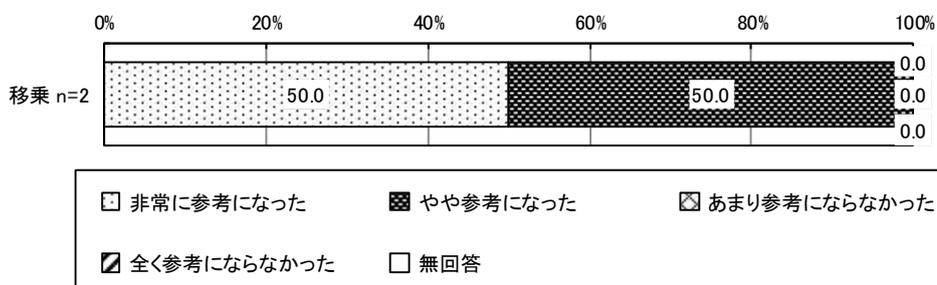
図表 1337 利用者の課題 区分1のみ



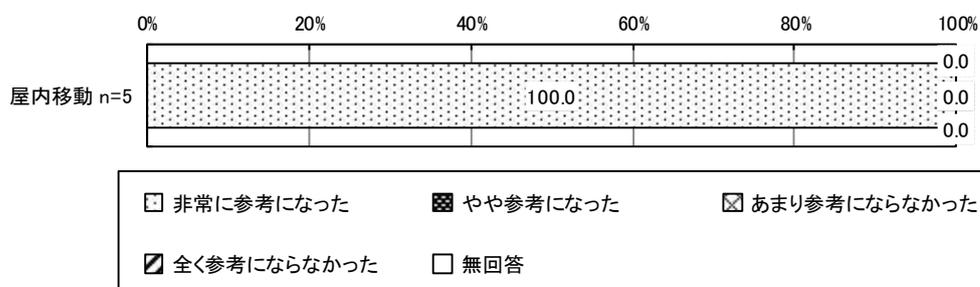
■算定 n=3

カ) 外部からの助言を計画に反映した内容について、課題、助言内容、また助言はどの程度参考になったか（問 14）

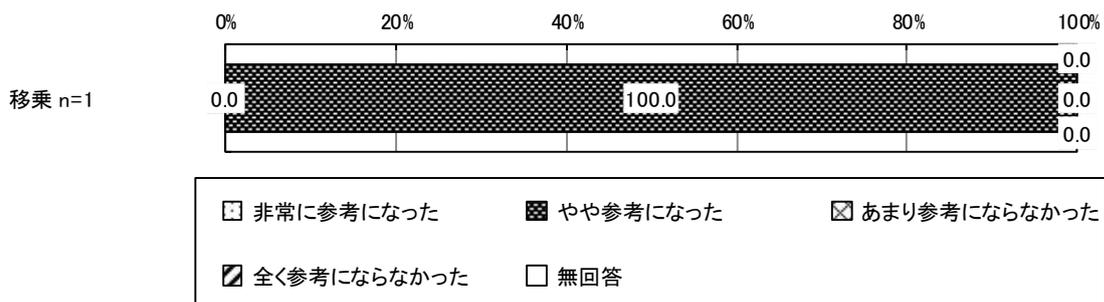
図表 1338 移乗



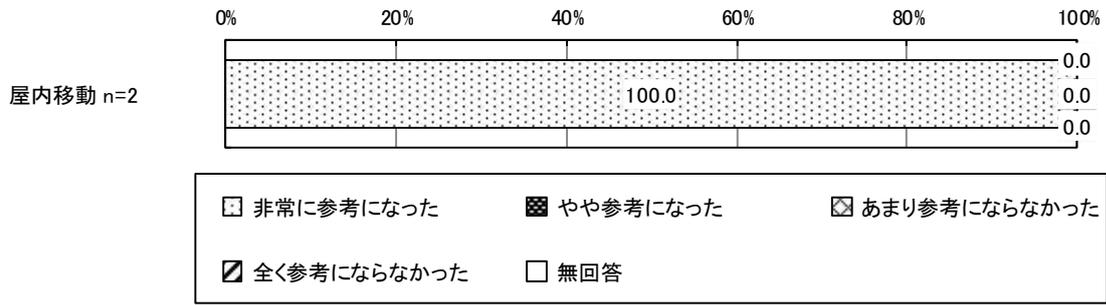
図表 1339 屋内移動



図表 1340 移乗 区分1のみ



図表 1341 屋内移動 区分1のみ



図表 課題別の助言内容

**○移乗**

- ・トイレの移乗介護時、車椅子の機能を活用する
- ・利用者の姿勢、声掛けの工夫

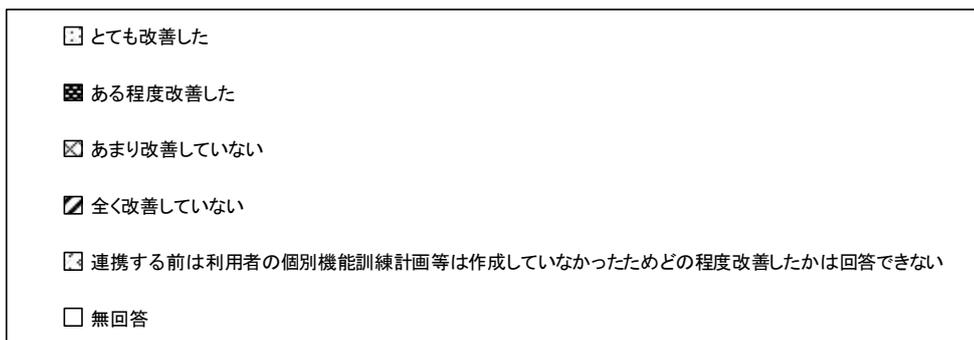
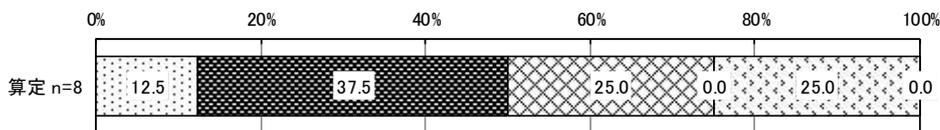
**○屋内移動**

- ・膝伸屈制限から、少しの負荷で膝折れリスクがあるため、歩行誘導はゆっくり行う
- ・歩行器を使用しての歩行の見守りを行う

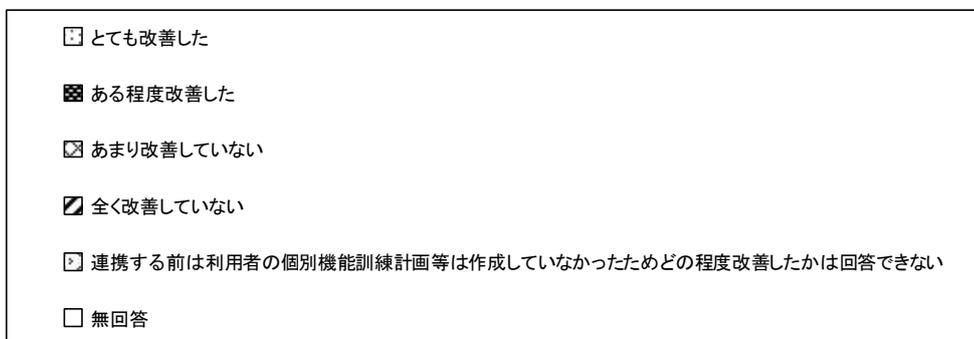
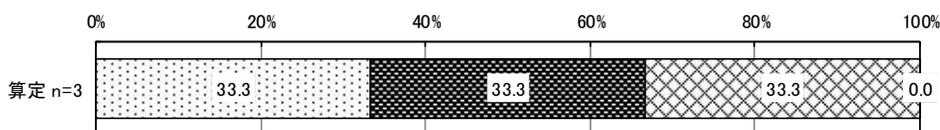
食事、排泄、入浴、更衣、整容、屋外移動、階段昇降、調理、洗濯、掃除については、回答は無し。

## キ) 助言により利用者の計画はどの程度改善したか (問 15)

図表 1342 助言により利用者の計画はどの程度改善したか



図表 1343 助言により利用者の計画はどの程度改善したか 区分1のみ



## ク) 助言による具体的な状況変化 (問 15-2)

図表 1344 助言による具体的な状況変化

### ○訓練内容の変化

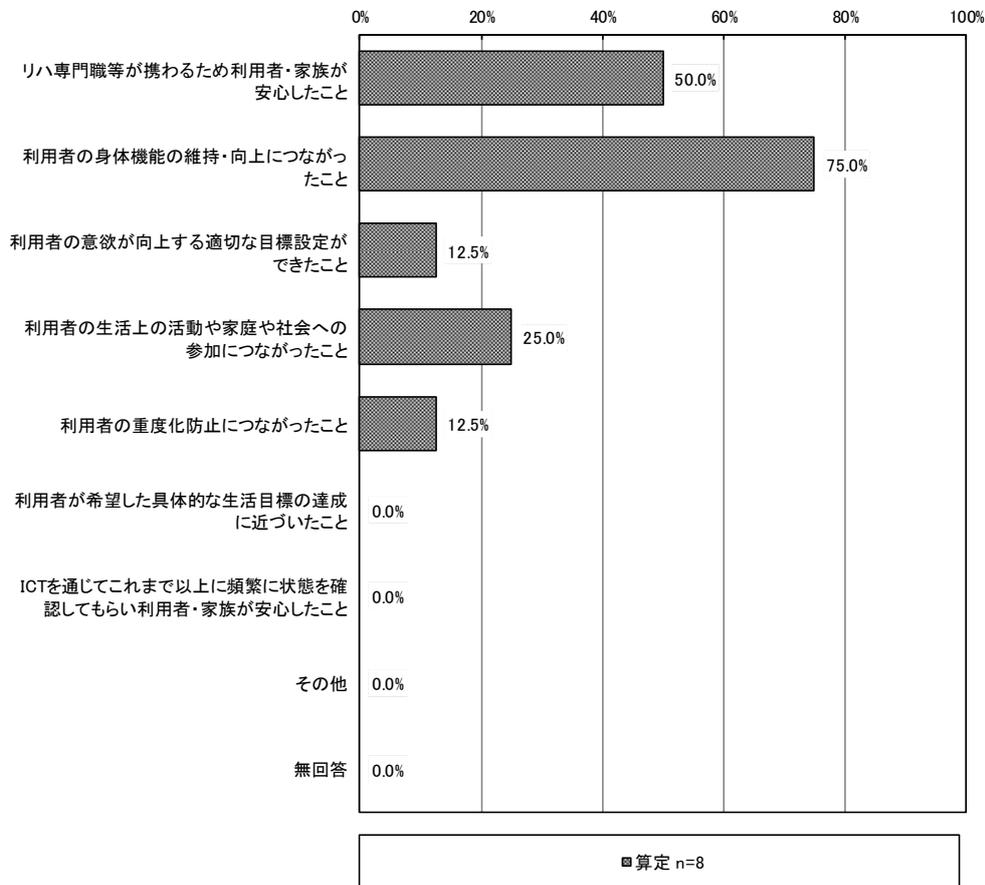
- ・ 職員の介助技術が向上した
- ・ 職員の目が行き届くようになった

### ○本人の状態の変化

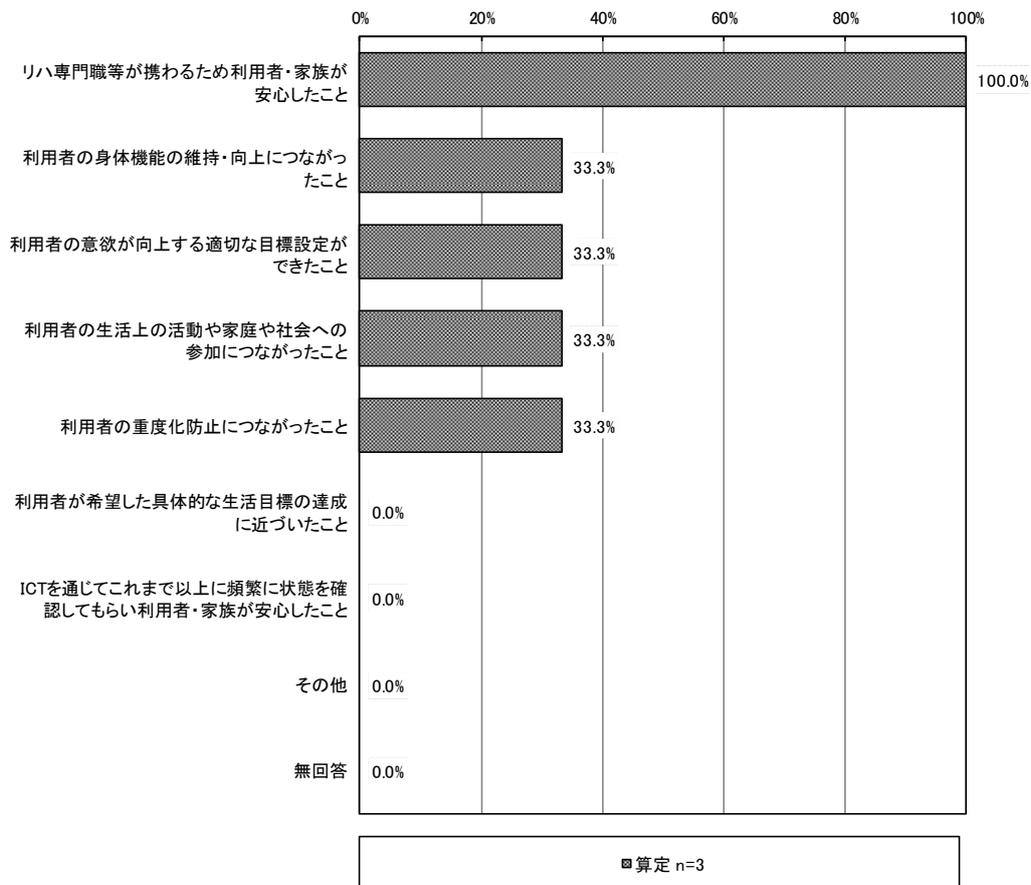
- ・ 怪我等がなくなった

## ケ) 利用者が享受したメリット (問 16)

図表 1345 利用者が享受したメリット



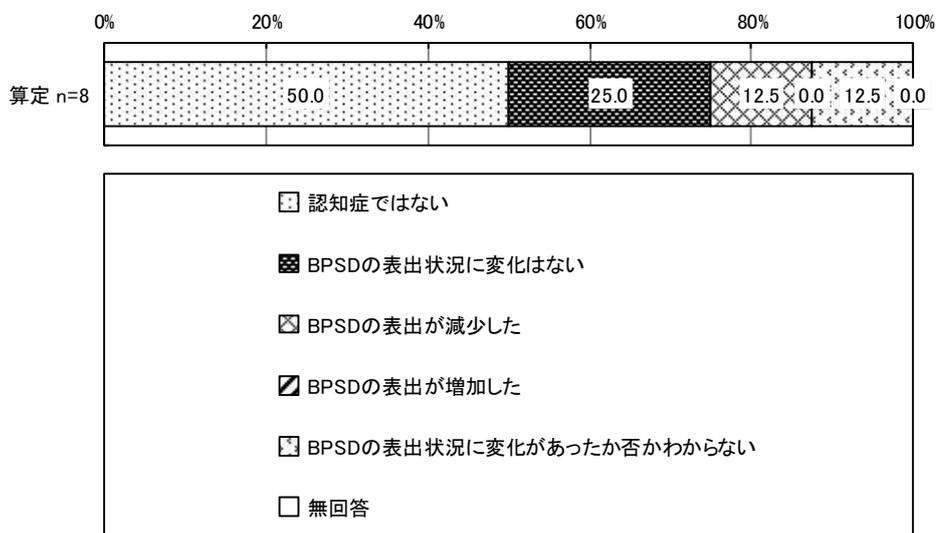
図表 1346 利用者が享受したメリット 区分1のみ



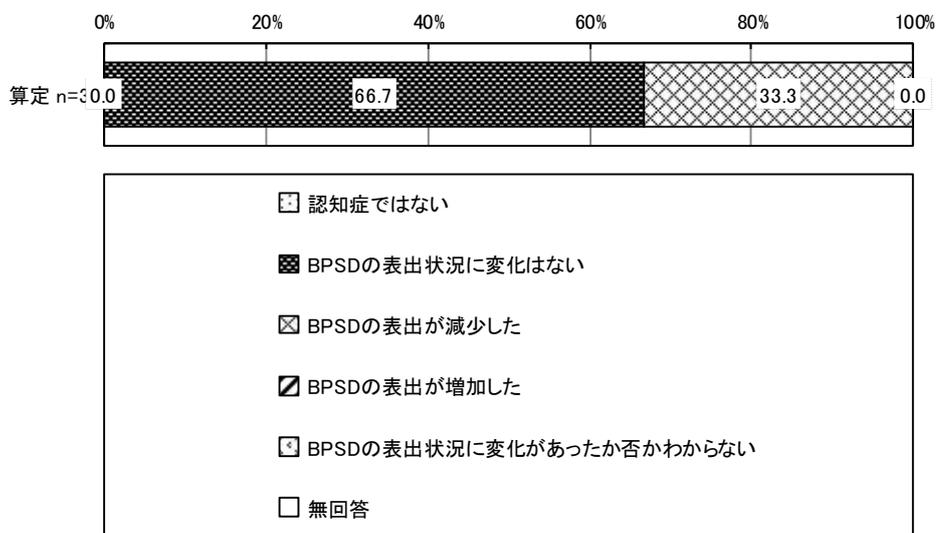
※その他として挙げられた有効な回答は無し。

コ) 認知症の利用者の BPSD 表出状況の変化 (問 17)

図表 1347 認知症の利用者の BPSD 表出状況の変化

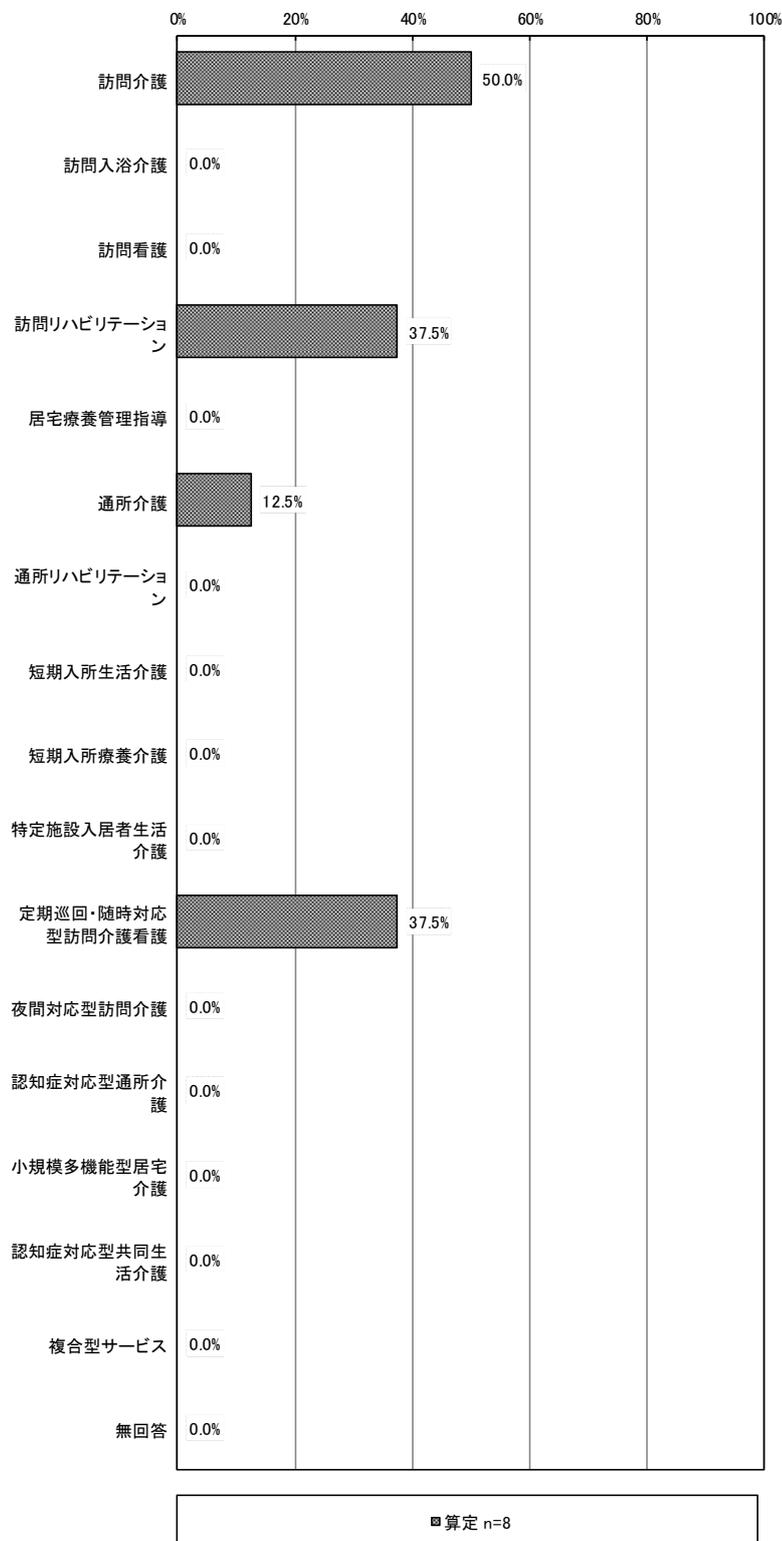


図表 1348 認知症の利用者の BPSD 表出状況の変化 区分 1 のみ

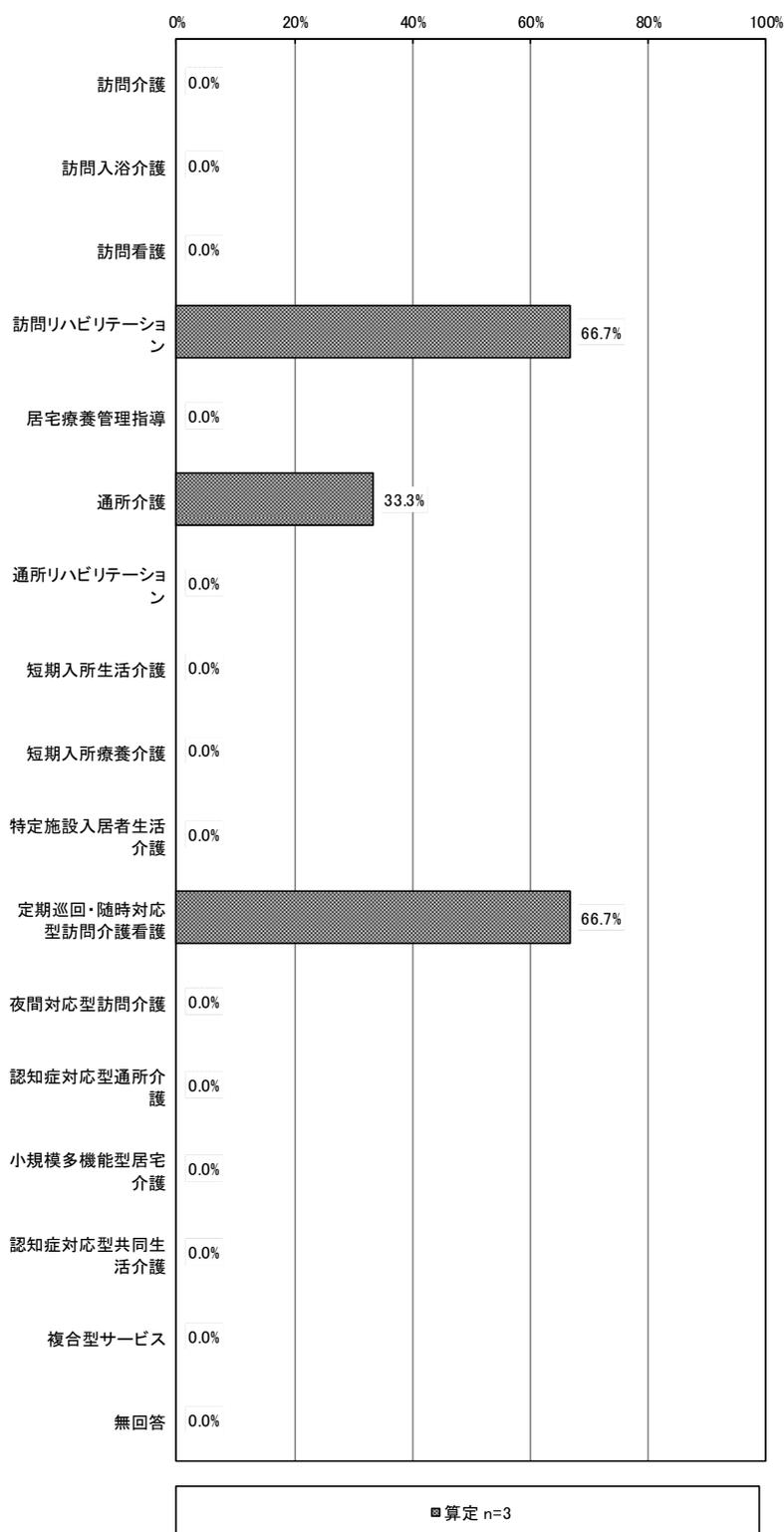


サ) 利用者が他に利用しているサービス（問 18（算定事業所・施設利用者票）・問 12（非算定事業所・施設利用者票））

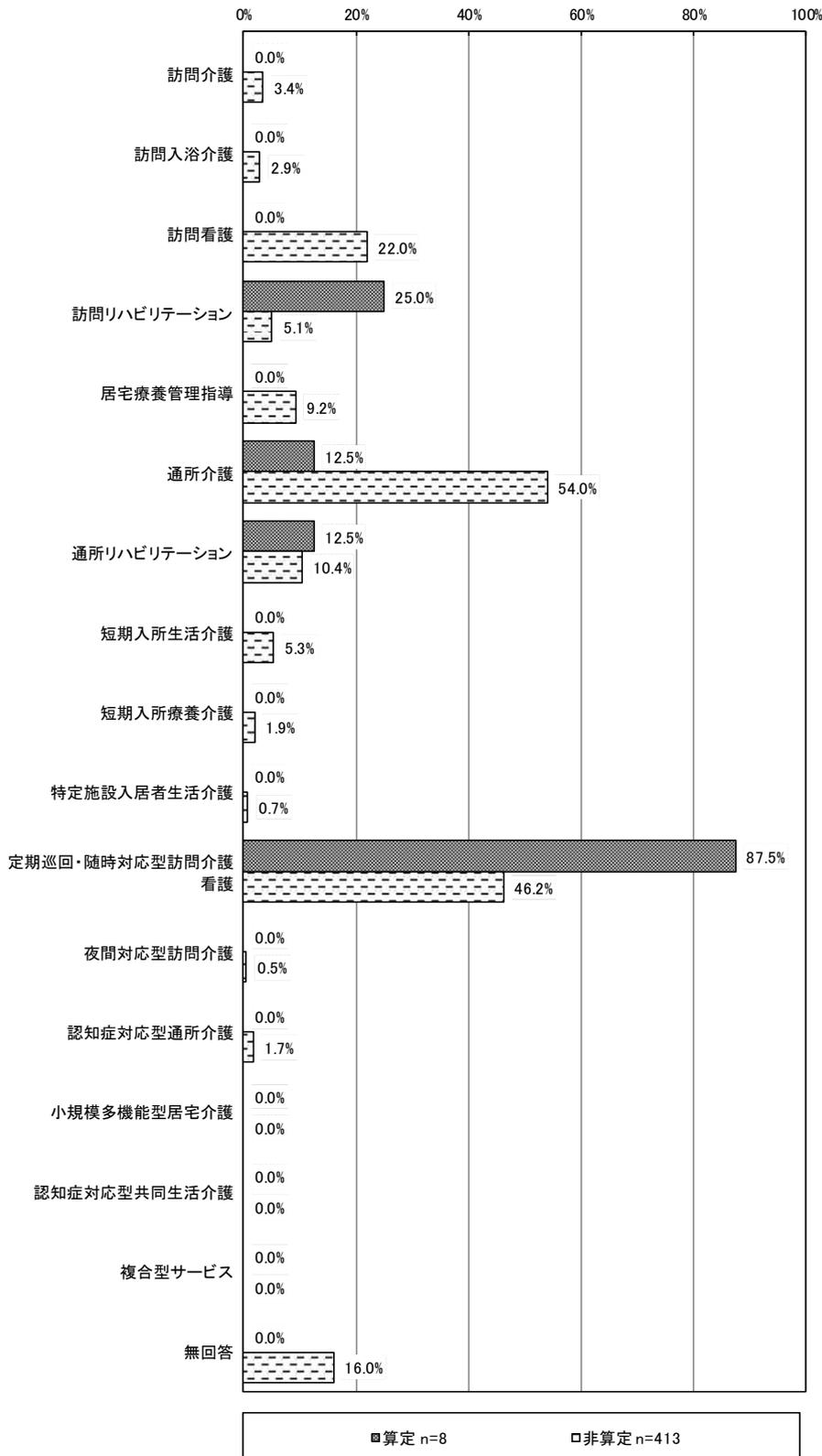
図表 1349 利用者が他に利用しているサービス ①算定前



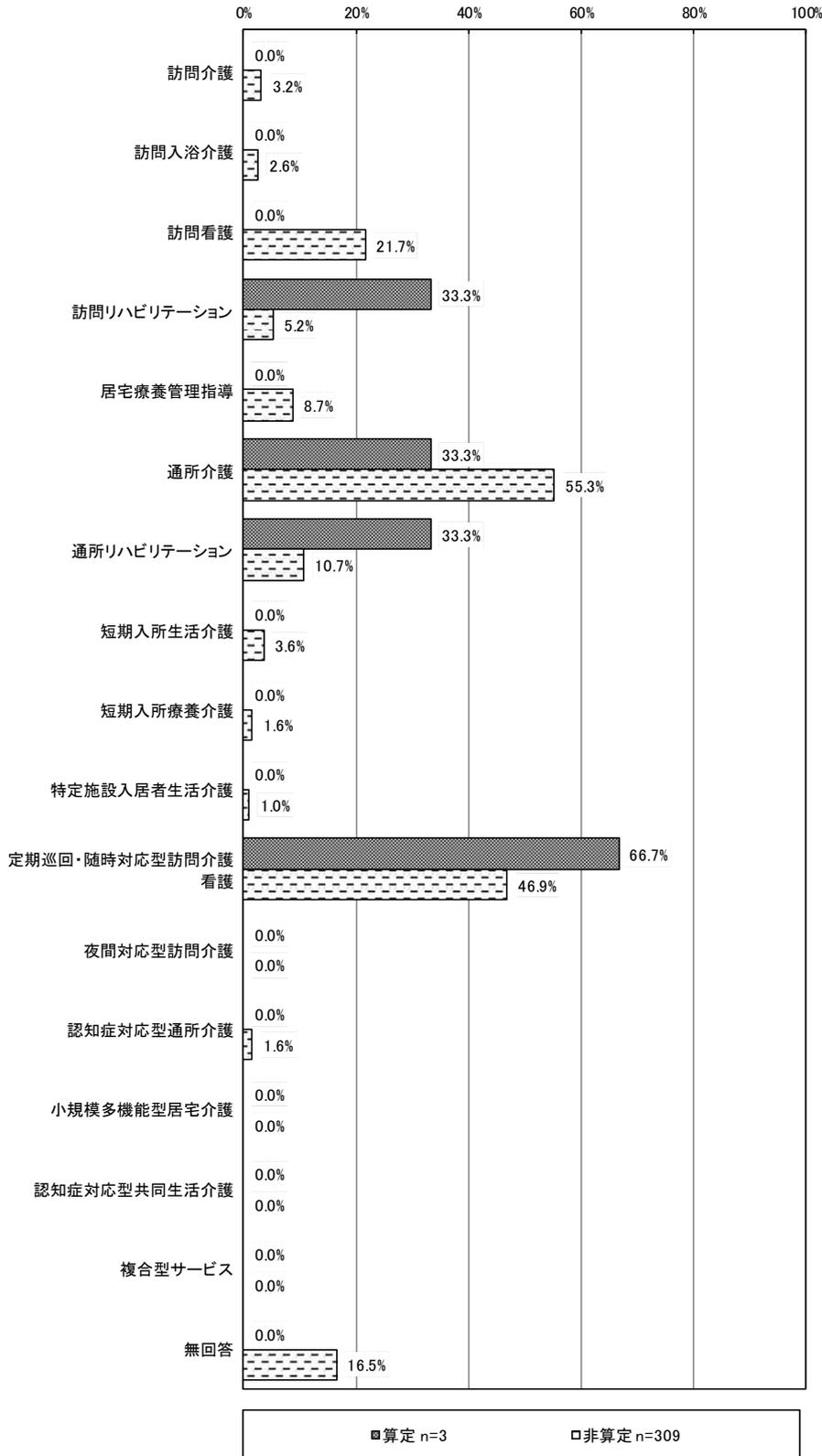
図表 1350 利用者が他に利用しているサービス ①算定前 区分1のみ



図表 1351 利用者が他に利用しているサービス ②算定以後



図表 1352 利用者が他に利用しているサービス ②算定以後 区分1のみ



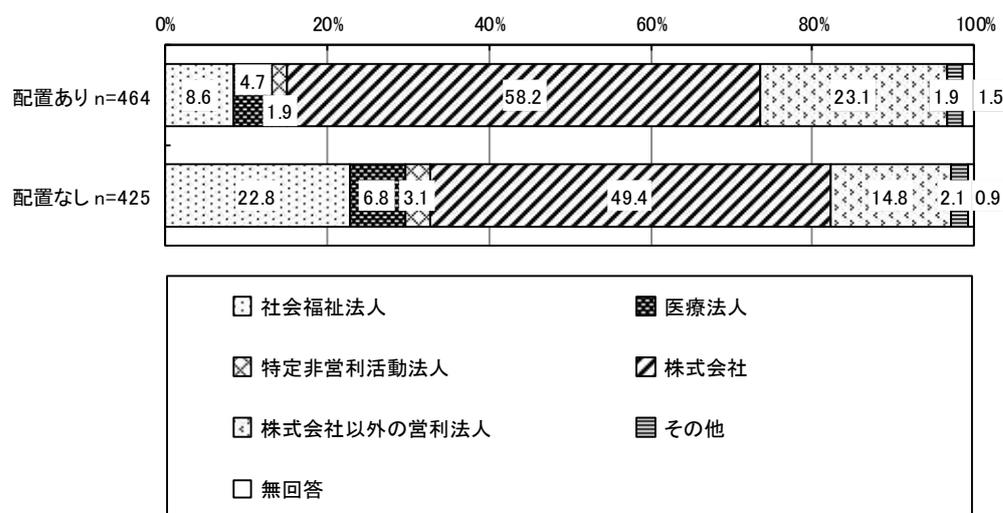
### 第3章 機能訓練指導員の確保に関するアンケート調査の結果

#### 1. 通所介護

##### I. 事業所・施設の基本属性

##### ア) 法人種別（問1）

図表 1353 法人種別

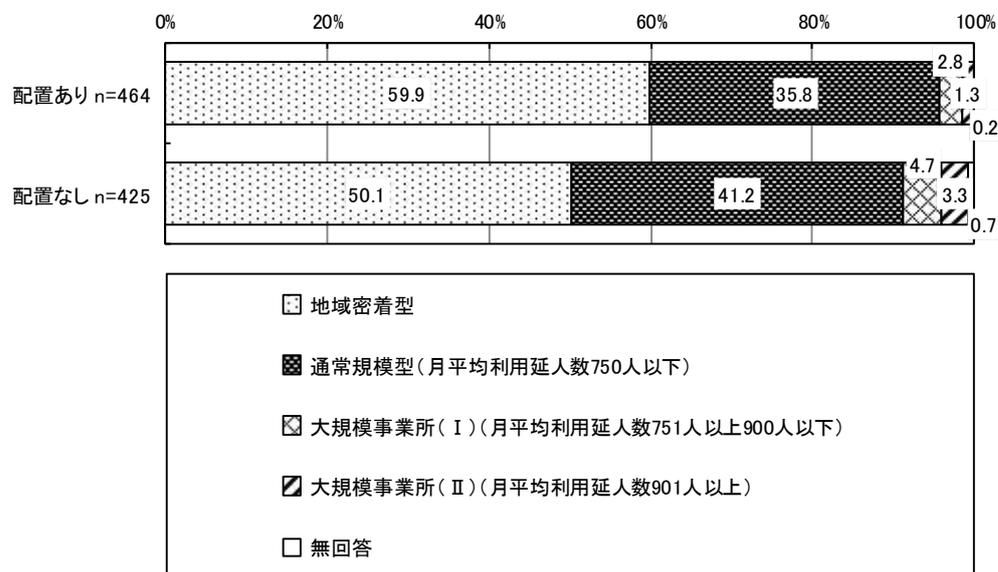


※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

- ・（配置あり）社会医療法人
- ・（配置あり）農業協同組合
- ・（配置なし）生協
- ・（配置なし）協同組合
- ・（配置なし）学校法人

## イ) 種類・施設区分 (問 2)

図表 1354 種類・施設区分



## ウ) 定員数 (問 5)

図表 1355 定員数

(単位: 人)

件数	平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
配置あり n=141	20.3	14.6	15	125	7
配置なし n=139	20.5	10.3	18	48	3

## エ) 通所介護の実施日数 (問 6)

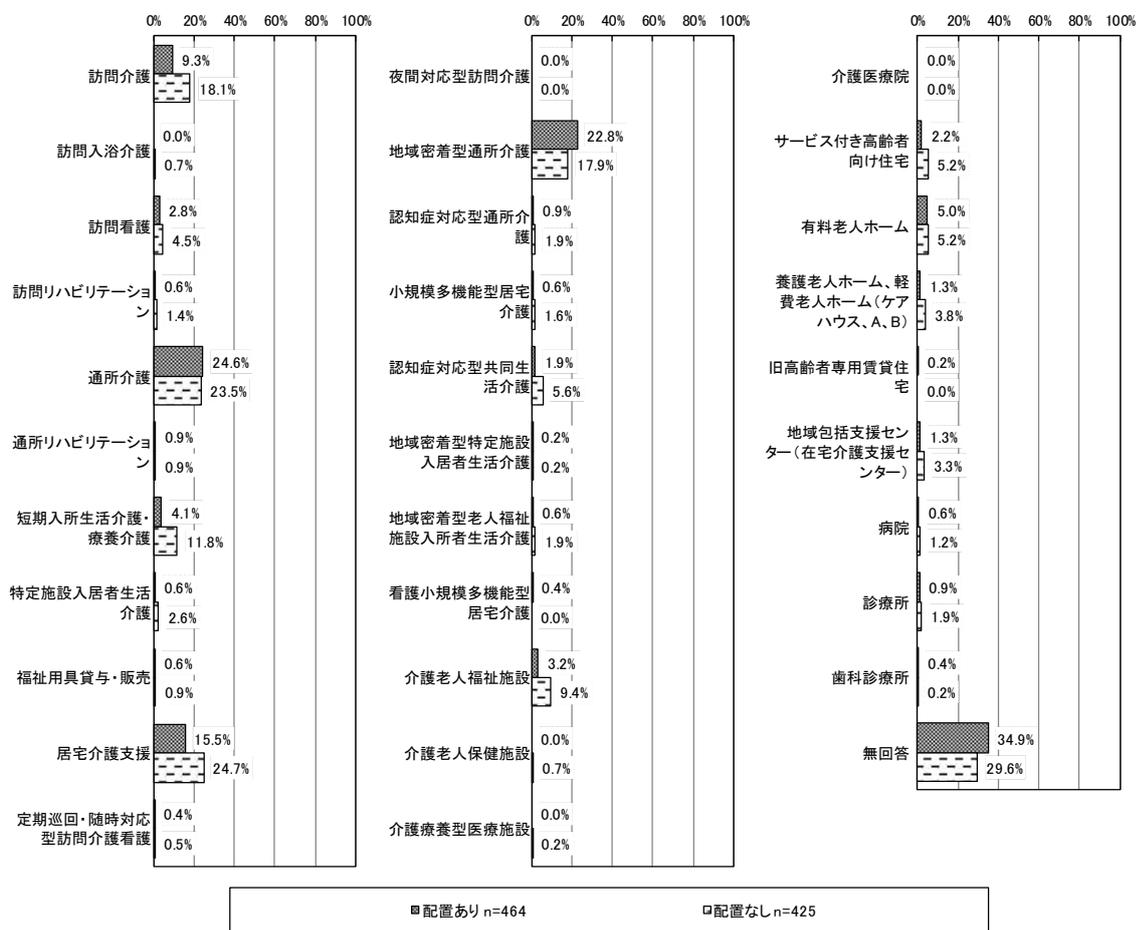
図表 1356 通所介護の実施日数

(単位: 日)

件数	平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
配置あり n=209	23.2	3.6	23	30	6
配置なし n=229	24.2	3.8	25	30	0

# オ) 併設施設サービス (問7)

図表 1357 併設施設サービス



力) 要介護度別利用者数 (問 8)

図表 1358 要介護度別利用者数

(単位:人)

件数		平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
合計	算定 n=453	43.7	64.6	31	821	2
	非算定 n=417	44.1	52.8	33	838	2
要介護1	算定 n=453	18.0	28.8	13	376	0
	非算定 n=417	16.3	15.7	12	155	0
要介護2	算定 n=453	14.1	20.3	10	291	0
	非算定 n=417	13.4	14.0	10	142	0
要介護3	算定 n=453	6.4	11.1	4	158	0
	非算定 n=417	7.5	15.4	5	290	0
要介護4	算定 n=453	3.2	5.5	2	81	0
	非算定 n=417	4.5	14.1	2	277	0
要介護5	算定 n=453	1.5	3.7	0	60	0
	非算定 n=417	2.1	4.3	1	50	0
申請中	算定 n=453	0.5	3.2	0	41	0
	非算定 n=417	0.3	1.8	0	35	0

キ) 認知症高齢者の日常生活自立度別利用者数 (問 9)

図表 1359 認知症高齢者の日常生活自立度別利用者数

(単位:人)

件数		平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
合計	算定 n=181	38.0	44.1	27	460	2
	非算定 n=191	38.8	34.3	29	320	2
自立	算定 n=181	10.7	22.2	4	200	0
	非算定 n=191	7.4	11.8	3	85	0
I	算定 n=181	9.0	11.9	5	105	0
	非算定 n=191	8.8	10.7	6	85	0
II a	算定 n=181	6.5	8.3	4	74	0
	非算定 n=191	7.3	7.9	5	64	0
II b	算定 n=181	5.9	9.2	3	98	0
	非算定 n=191	7.1	8.6	5	88	0
III a	算定 n=181	3.2	5.2	2	49	0
	非算定 n=191	5.1	14.1	3	187	0
III b	算定 n=181	1.1	2.2	0	18	0
	非算定 n=191	1.5	2.3	0	15	0
IV	算定 n=181	1.1	2.1	0	13	0
	非算定 n=191	1.4	2.5	0	24	0
M	算定 n=181	0.5	2.3	0	29	0
	非算定 n=191	0.2	0.7	0	4	0

ク) 職員数 (問 10)

図表 1360 職員数

(単位:人)

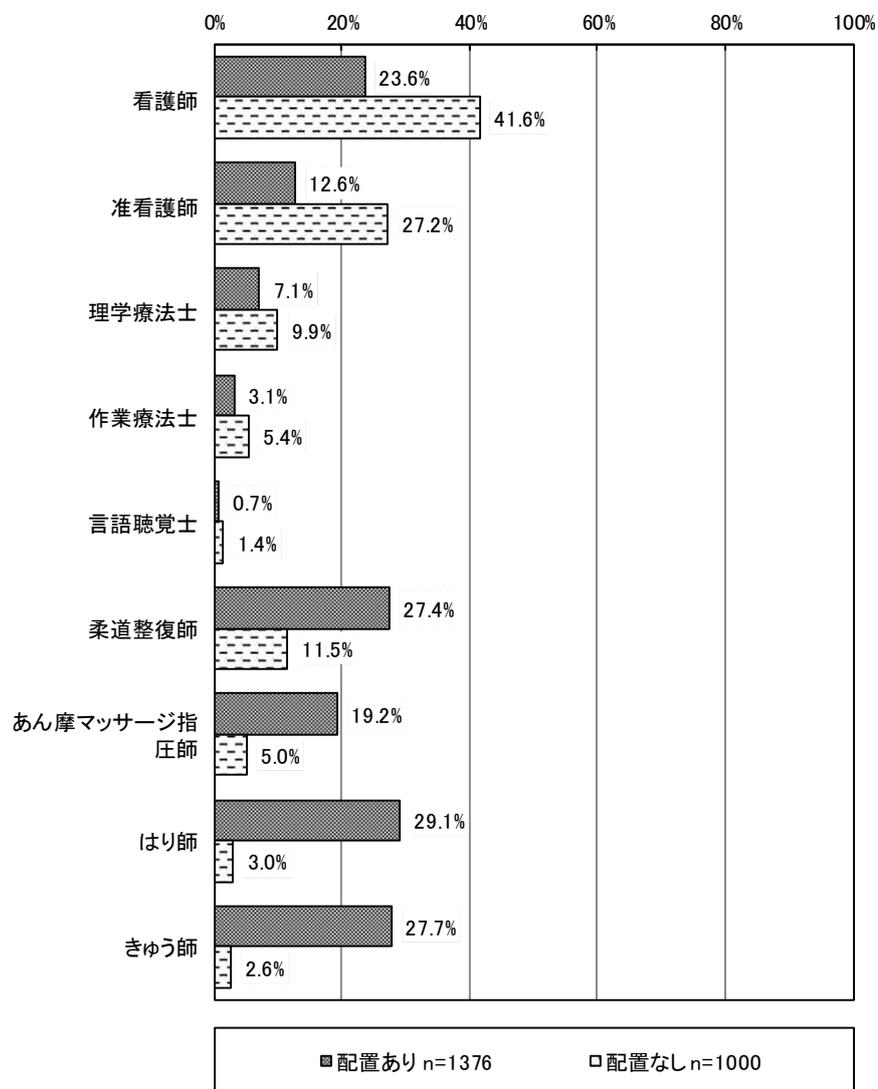
件数		平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値	
計画作成担当者	常勤職員	配置あり n=449	0.8	1.2	0	9	0
		配置なし n=408	0.7	1.1	0	7	0
	非常勤職員	配置あり n=418	0.3	1.0	0	10	0
		配置なし n=391	0.2	0.7	0	6	0
	常勤換算人数	配置あり n=325	0.8	1.3	0.0	9.0	0.0
		配置なし n=332	0.5	1.1	0.0	7.0	0.0
機能訓練指導員	常勤職員	配置あり n=449	1.3	1.2	1	6	0
		配置なし n=408	0.8	1.0	1	5	0
	非常勤職員	配置あり n=418	1.7	1.7	1	10	0
		配置なし n=391	1.5	1.6	1	10	0
	常勤換算人数	配置あり n=325	1.6	2.3	1.2	36.0	0.0
		配置なし n=332	0.9	1.0	0.8	9.0	0.0
生活相談員	常勤職員	配置あり n=449	1.6	0.9	1	5	0
		配置なし n=408	1.8	1.1	2	9	0
	非常勤職員	配置あり n=418	0.7	1.0	0	5	0
		配置なし n=391	0.5	0.9	0	7	0
	常勤換算人数	配置あり n=325	1.3	0.9	1.1	5.0	0.0
		配置なし n=332	1.3	1.0	1.2	9.0	0.0
サービス提供責任者	常勤職員	配置あり n=449	0.2	0.5	0	3	0
		配置なし n=408	0.2	0.5	0	3	0
	非常勤職員	配置あり n=418	0.0	0.2	0	2	0
		配置なし n=391	0.0	0.1	0	1	0
	常勤換算人数	配置あり n=325	0.2	0.6	0.0	8.0	0.0
		配置なし n=332	0.1	0.4	0.0	3.0	0.0
医師	常勤職員	配置あり n=449	0.0	0.1	0	1	0
		配置なし n=408	0.0	0.0	0	0	0
	非常勤職員	配置あり n=418	0.0	0.1	0	1	0
		配置なし n=391	0.0	0.1	0	1	0
	常勤換算人数	配置あり n=325	0.0	0.1	0.0	1.0	0.0
		配置なし n=332	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
看護職員	常勤職員	配置あり n=449	0.4	0.8	0	4	0
		配置なし n=408	0.5	0.8	0	4	0
	非常勤職員	配置あり n=418	1.3	1.5	1	6	0
		配置なし n=391	1.6	1.5	1	8	0
	常勤換算人数	配置あり n=325	0.8	1.0	0.6	10.6	0.0
		配置なし n=332	0.8	0.8	0.8	5.3	0.0

(単位:人)

件数		平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値	
介護支援専門員	常勤職員	配置あり n=449	0.2	0.5	0	6	0
		配置なし n=408	0.1	0.4	0	5	0
	非常勤職員	配置あり n=418	0.1	0.3	0	5	0
		配置なし n=391	0.0	0.4	0	7	0
	常勤換算人数	配置あり n=325	0.2	0.6	0.0	5.0	0.0
		配置なし n=332	0.2	1.7	0.0	30.0	0.0
介護職員	常勤職員	配置あり n=449	2.6	2.5	2	14	0
		配置なし n=408	3.1	2.9	2	24	0
	非常勤職員	配置あり n=418	4.0	3.6	3	20	0
		配置なし n=391	4.0	3.9	3	36	0
	常勤換算人数	配置あり n=325	4.0	3.8	3.0	30.2	0.0
		配置なし n=332	4.7	6.0	3.3	88.0	0.0
栄養士	常勤職員	配置あり n=449	0.0	0.2	0	1	0
		配置なし n=408	0.1	0.3	0	4	0
	非常勤職員	配置あり n=418	0.0	0.2	0	3	0
		配置なし n=391	0.0	0.2	0	1	0
	常勤換算人数	配置あり n=325	0.0	0.2	0.0	1.4	0.0
		配置なし n=332	0.0	0.3	0.0	4.0	0.0
調理員	常勤職員	配置あり n=449	0.1	0.4	0	4	0
		配置なし n=408	0.1	0.7	0	8	0
	非常勤職員	配置あり n=418	0.3	1.0	0	10	0
		配置なし n=391	0.5	1.3	0	7	0
	常勤換算人数	配置あり n=325	0.2	0.6	0.0	5.0	0.0
		配置なし n=332	0.3	0.8	0.0	8.9	0.0
オペレーター	常勤職員	配置あり n=449	0.0	0.2	0	3	0
		配置なし n=408	0.0	0.1	0	1	0
	非常勤職員	配置あり n=418	0.0	0.2	0	2	0
		配置なし n=391	0.0	0.3	0	4	0
	常勤換算人数	配置あり n=325	0.0	0.2	0.0	2.0	0.0
		配置なし n=332	0.0	0.1	0.0	1.5	0.0
全職員数	常勤職員	配置あり n=449	7.1	5.0	6	34	1
		配置なし n=408	7.2	5.2	6	46	1
	非常勤職員	配置あり n=418	8.4	6.3	7	48	0
		配置なし n=391	8.5	6.5	7	50	0
	常勤換算人数	配置あり n=325	9.1	7.8	7.2	93.4	0.0
		配置なし n=332	8.9	7.8	7.0	91.0	0.0

## ケ) 機能訓練指導員の保有する資格（問 11）

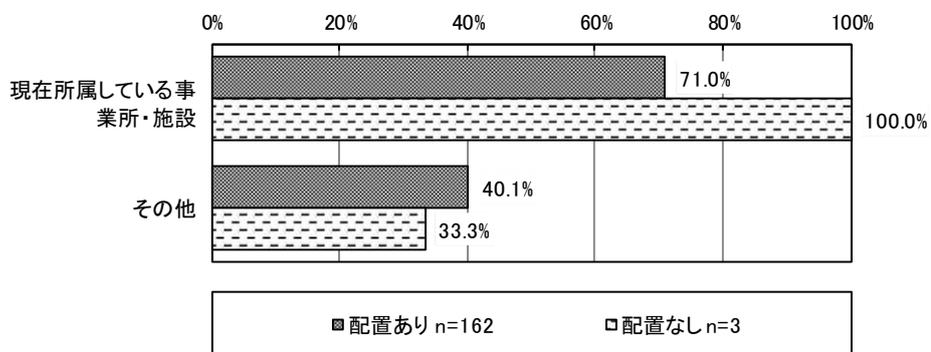
図表 1361 機能訓練指導員の保有する資格



※本設問の集計については、事業所・施設に登録されている機能訓練指導員の数を分母、その機能訓練指導員が保有する各資格の数を分子とし割合を算出した。

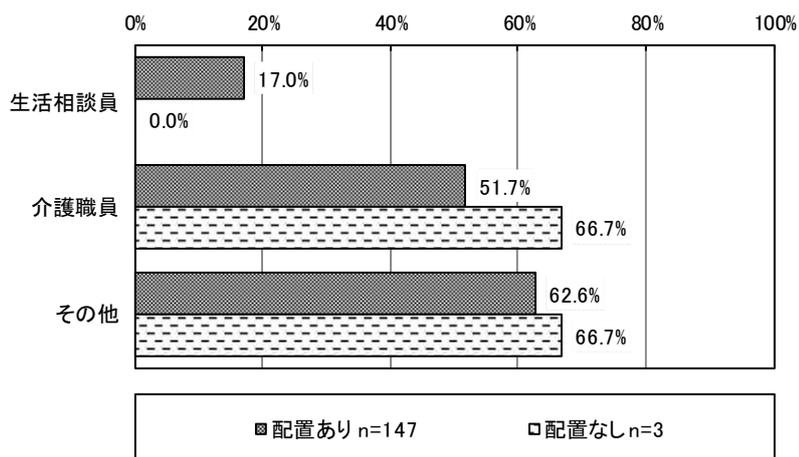
コ) 機能訓練指導員が過去に実務経験を積んだ事業所および職種(問11-2)

図表 1362 機能訓練指導員が過去に実務経験を積んだ事業所



※その他として挙げられた有効な回答は無し。

図表 1363 実務経験を積んだ職種

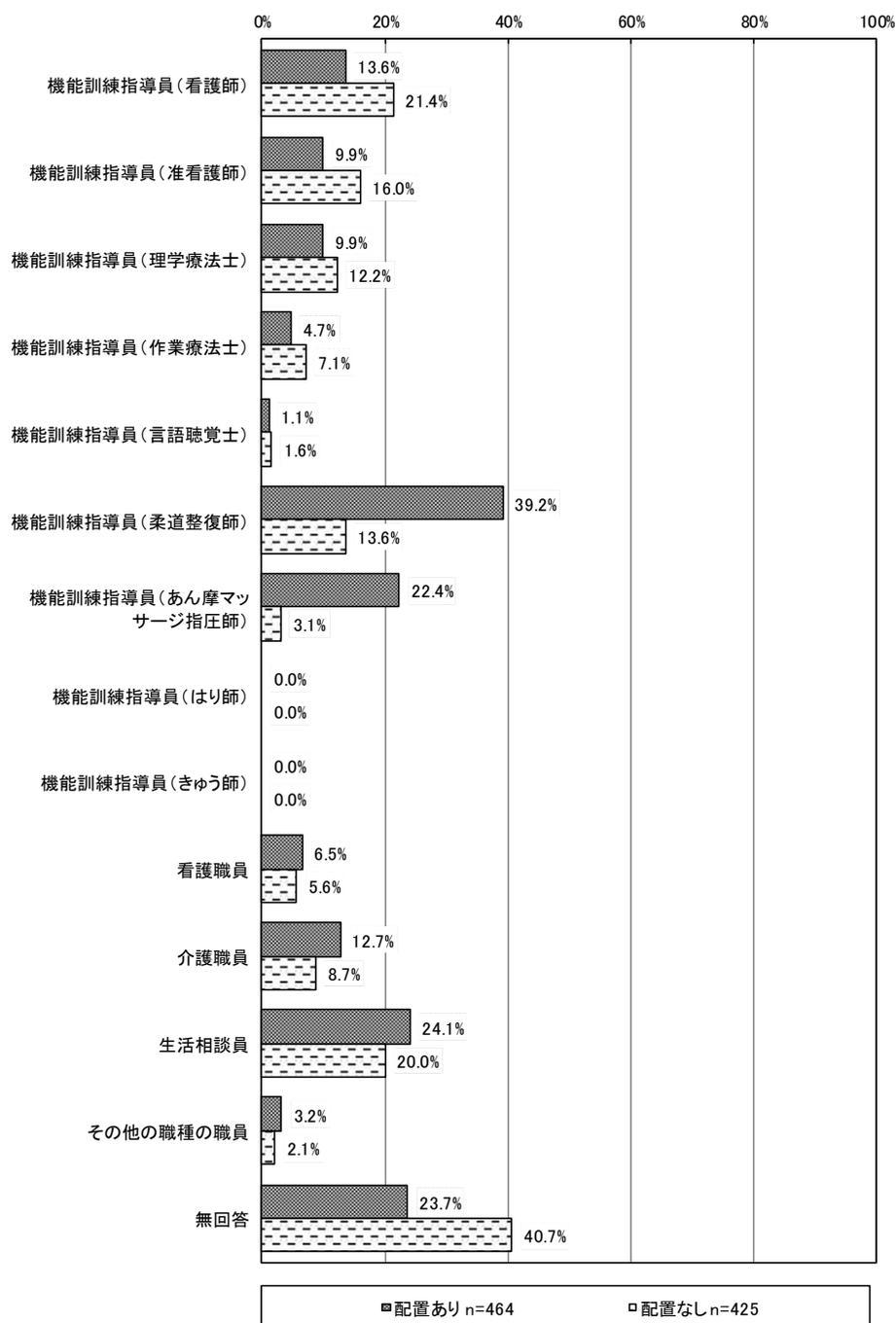


※その他として挙げられた有効な回答は無し。

## Ⅱ. 機能訓練指導員の状況

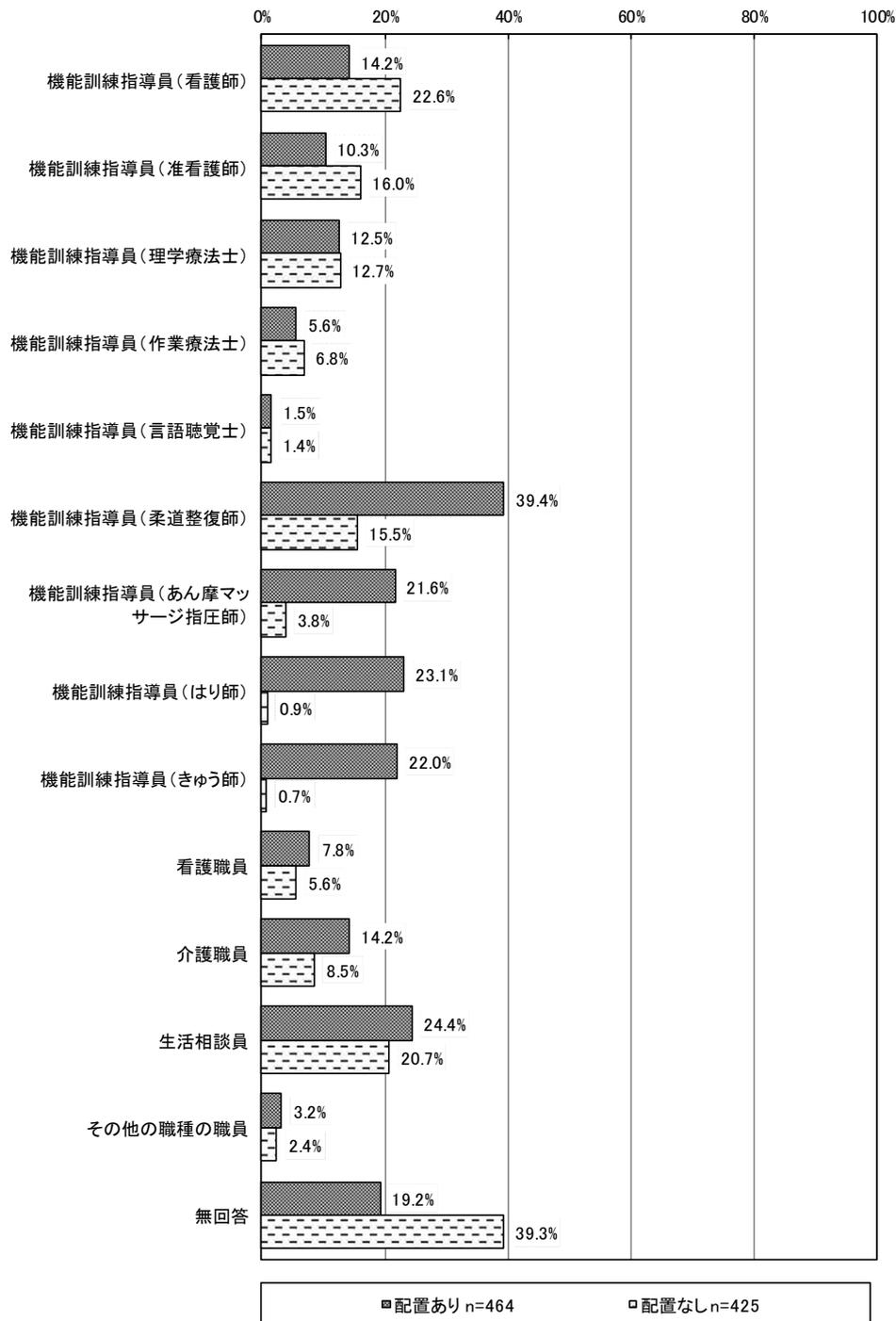
### ア) 平成30年3月と令和元年9月に個別機能訓練計画等を作成したことがある職種（問12）

図表 1364 平成30年3月に個別機能訓練計画等を作成したことがある職種



※その他の職種の職員として挙げられた有効な回答はなし。

図表 1365 令和元年9月に個別機能訓練計画等を作成したことがある職種



※その他の職種の職員として挙げられた回答はなし。

イ) 令和元年 9 月に計画を作成した機能訓練指導員と利用者の課題の組み合わせ (問 13)

図表 1366 令和元年 9 月に計画を作成した機能訓練指導員と利用者の課題の組み合わせ

(%)

	食事	排泄	入浴	更衣	整容	移乗	屋内移動	階段昇降	屋外移動
配置あり n=884	33.4	40.8	43.6	43.2	25.6	64.7	85.3	65.5	69.8
配置なし n=524	37.6	46.0	49.6	49.8	29.4	61.5	79.4	62.2	67.2

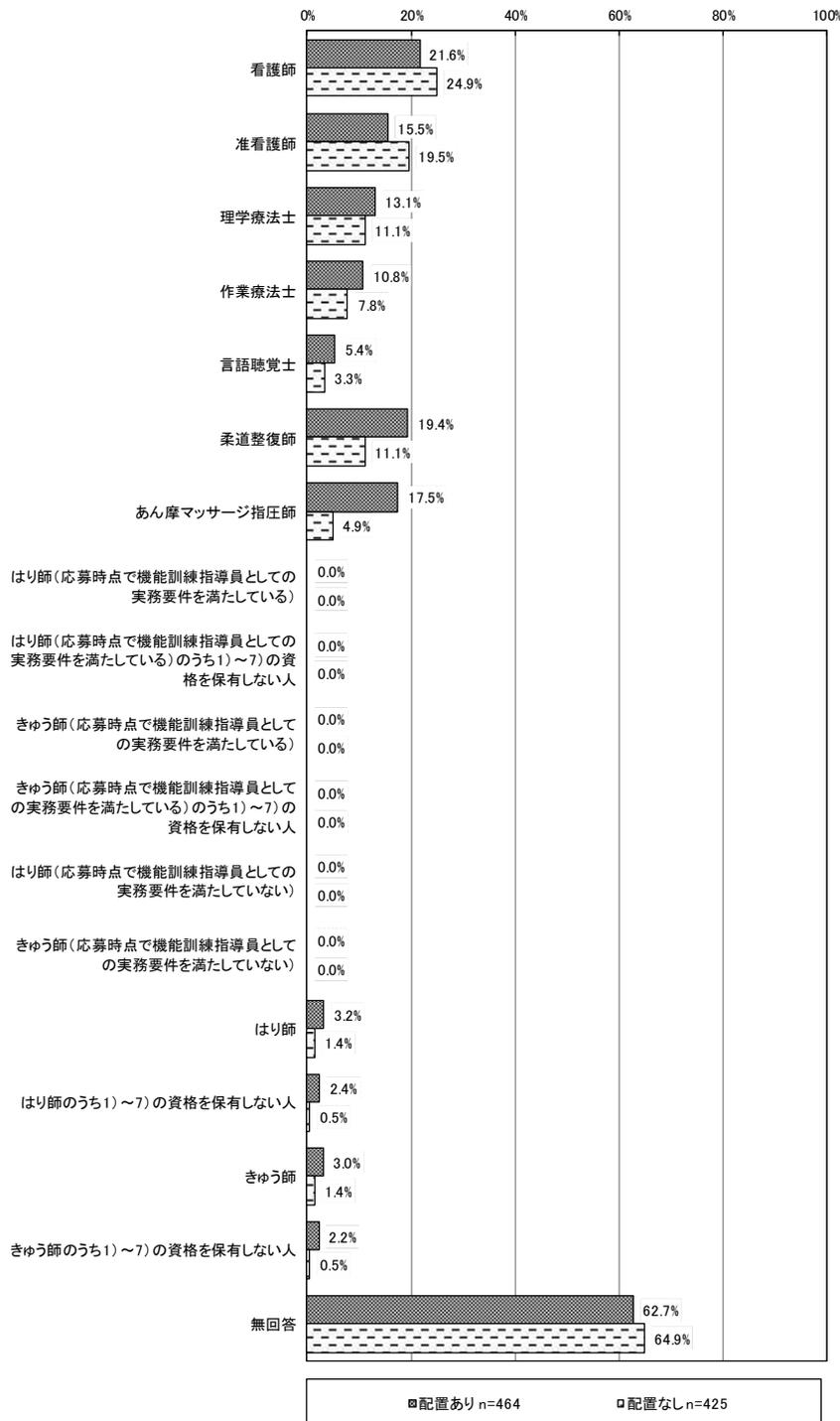
	調理	洗濯	掃除	起き上がり	座位	立ち上がり	立位	福祉用具の利用等による生活環境の改善	家族への介護方法の指導
配置あり n=884	18.1	26.8	23.8	72.6	66.1	83.0	76.2	35.0	27.0
配置なし n=524	19.5	25.6	26.0	60.3	56.7	76.7	70.2	34.2	26.3

※本設問の集計については、令和元年 9 月の 1 ヶ月間に個別機能訓練計画を作成した機能訓練指導員の人数を分母、その個別機能訓練計画の対象となった利用者の各課題の数を分子とし割合を算出した。

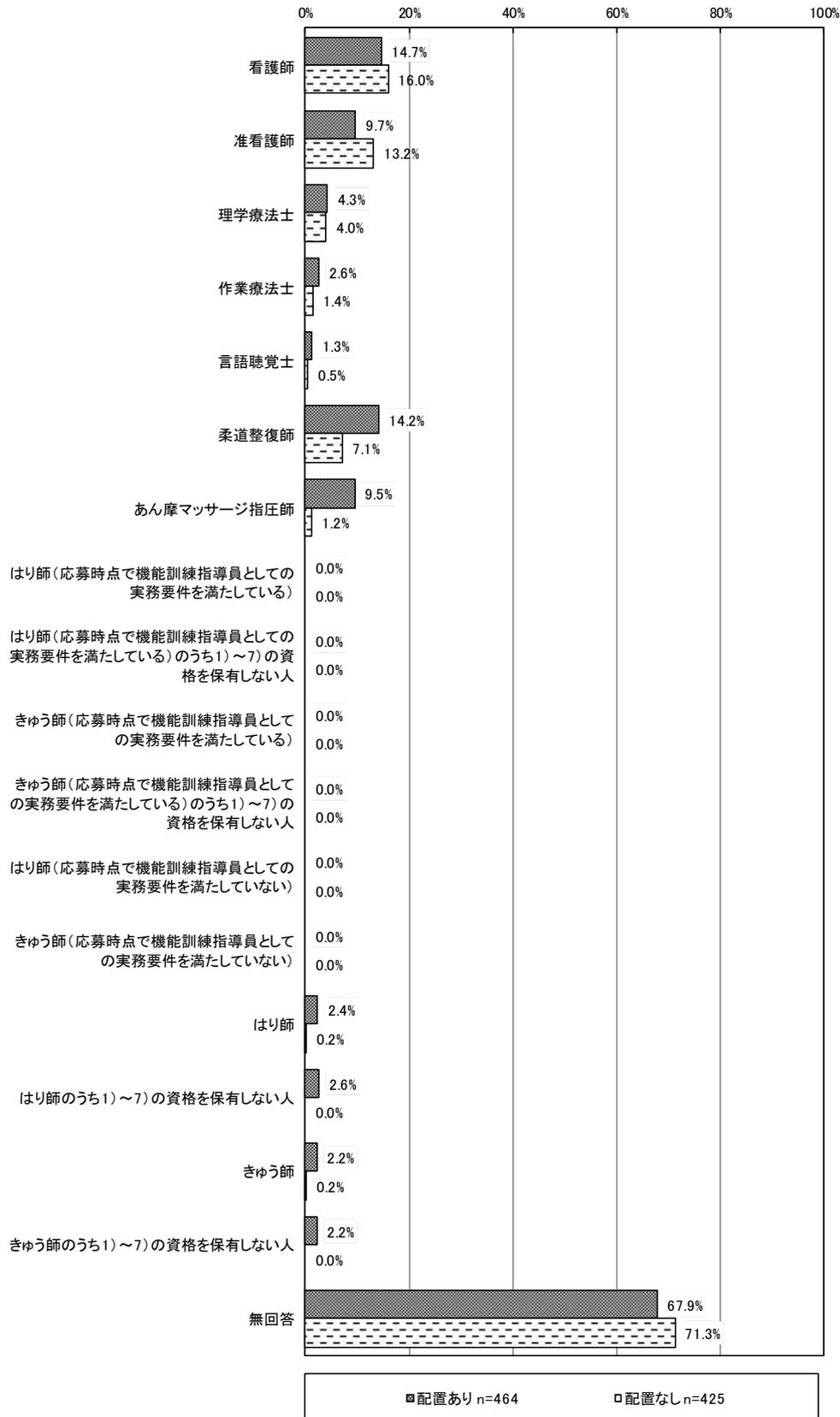
ウ) 機能訓練指導員または機能訓練指導員ではないはり師/きゅう師の募集の有無、応募の有無、および雇用人数(問14)

①平成28年10月～平成30年3月、②平成30年4月～令和元年9月

図表 1367 機能訓練指導員またははり師/きゅう師の募集の有無 ①



図表 1368 機能訓練指導員またははり師/きゅう師の応募の有無 ①

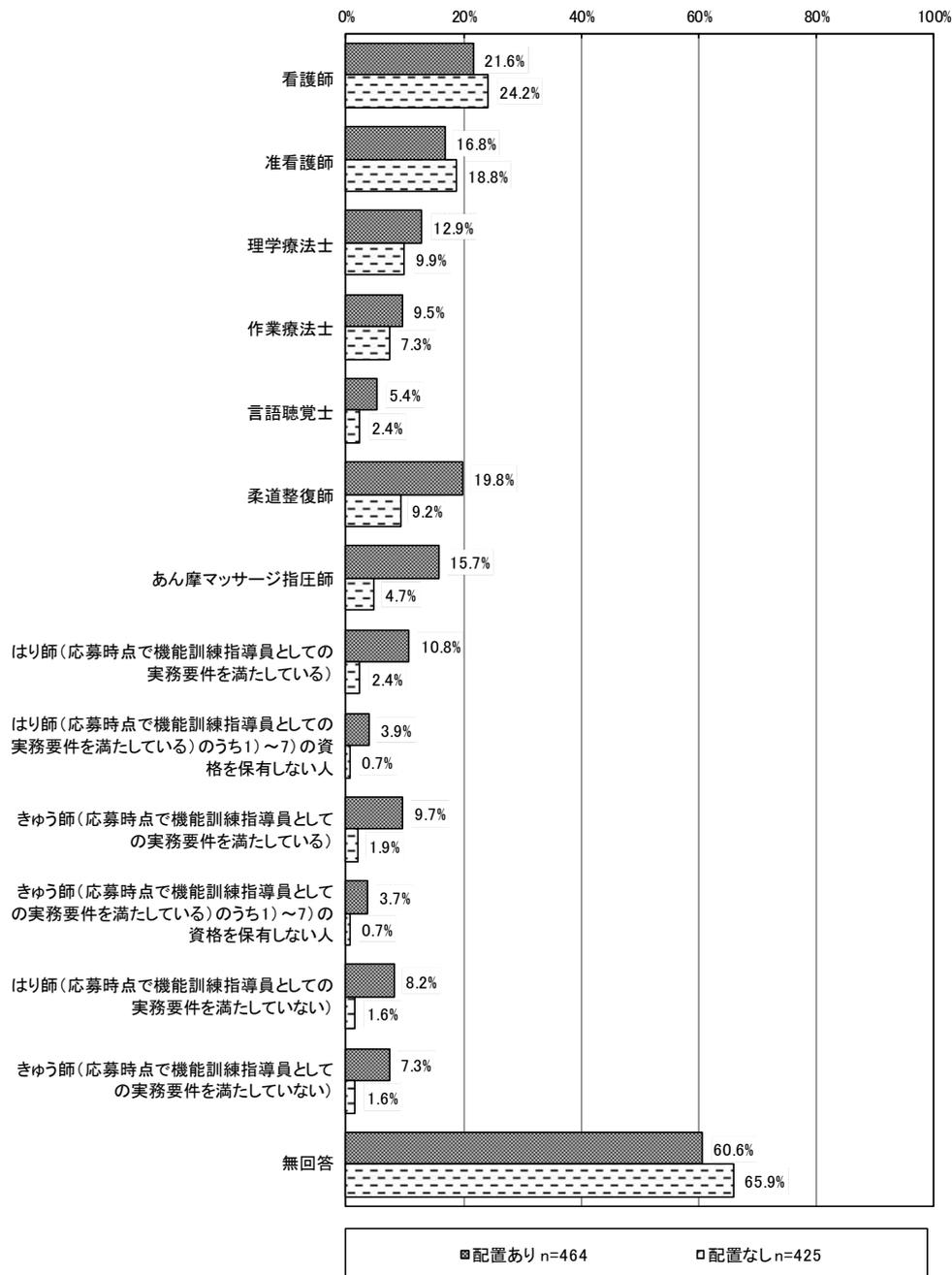


図表 1369 機能訓練指導員またははり師/きゅう師の雇用人数 ①

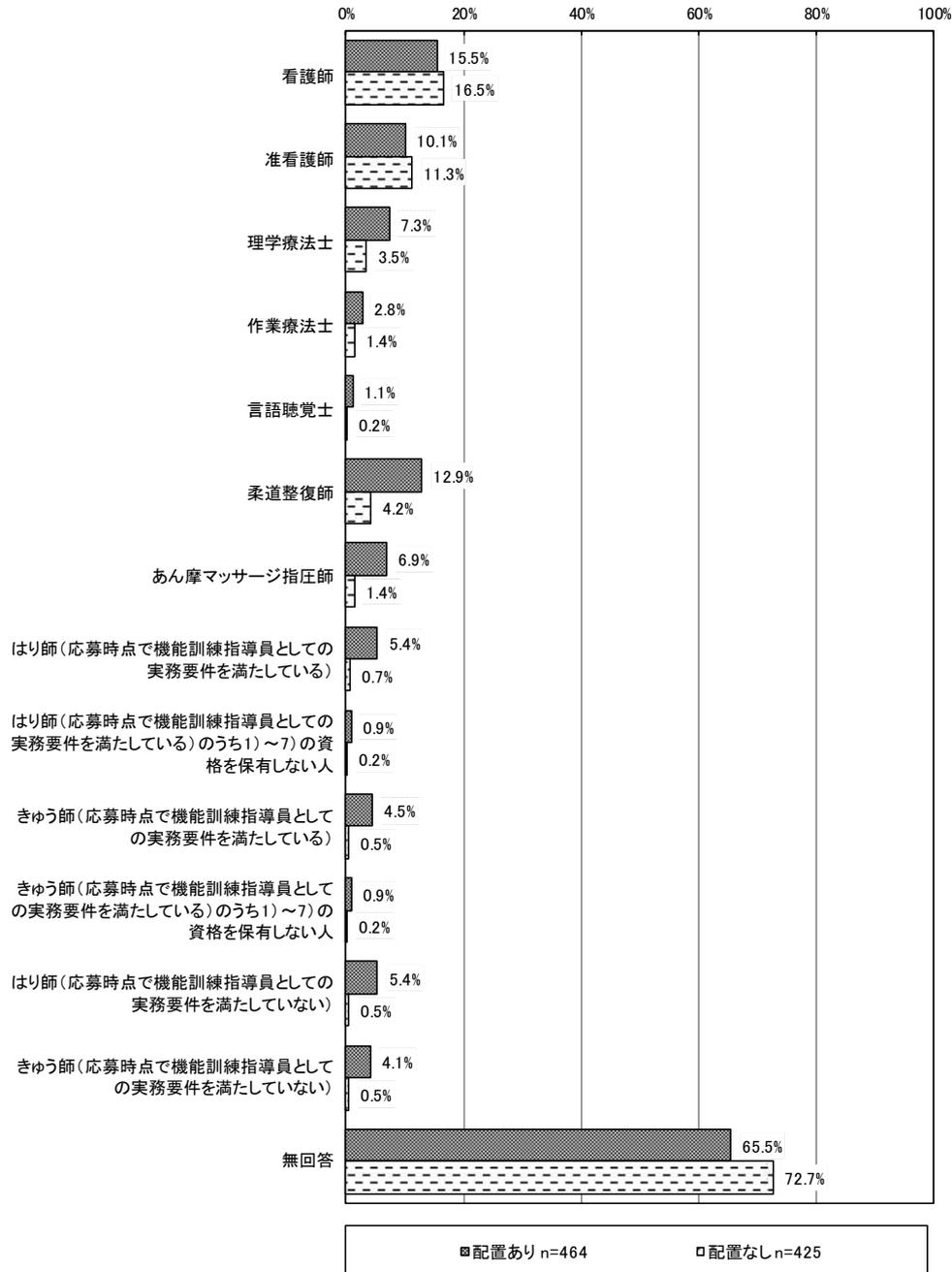
(単位:人)

件数		平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
1) 看護師	配置 n=74	1.4	1.0	1.0	5	0
	非配置 n=75	1.3	0.9	1.0	4	0
2) 准看護師	配置 n=43	1.0	0.8	1.0	4	0
	非配置 n=56	1.1	0.5	1.0	3	0
3) 理学療法士	配置 n=18	0.7	0.7	1.0	3	0
	非配置 n=20	1.1	0.8	1.0	3	0
4) 作業療法士	配置 n=13	0.5	0.5	0.0	1	0
	非配置 n=11	0.6	0.5	1.0	1	0
5) 言語聴覚士	配置 n=6	0.2	0.4	0.0	1	0
	非配置 n=4	0.5	0.5	0.5	1	0
6) 柔道整復師	配置 n=69	1.1	0.9	1.0	6	0
	非配置 n=28	1.3	0.9	1.0	4	0
7) あん摩マッサージ指圧師	配置 n=50	1.0	0.6	1.0	2	0
	非配置 n=3	0.7	0.5	1.0	1	0
14) はり師	配置 n=12	1.1	0.5	1.0	2	0
	非配置 n=2	0.5	0.5	0.5	1	0
15) はり師のうち1)～7)の資格を保有しない人	配置 n=9	0.9	0.3	1.0	1	0
	非配置 n=1	0.0	0.0	0.0	0	0
16) きゅう師	配置 n=10	1.1	0.5	1.0	2	0
	非配置 n=2	0.5	0.5	0.5	1	0
17) きゅう師のうち1)～7)の資格を保有しない人	配置 n=8	0.9	0.3	1.0	1	0
	非配置 n=1	0.0	0.0	0.0	0	0

図表 1370 機能訓練指導員またははり師/きゅう師の募集の有無 ②



図表 1371 機能訓練指導員またははり師/きゅう師の応募の有無 ②



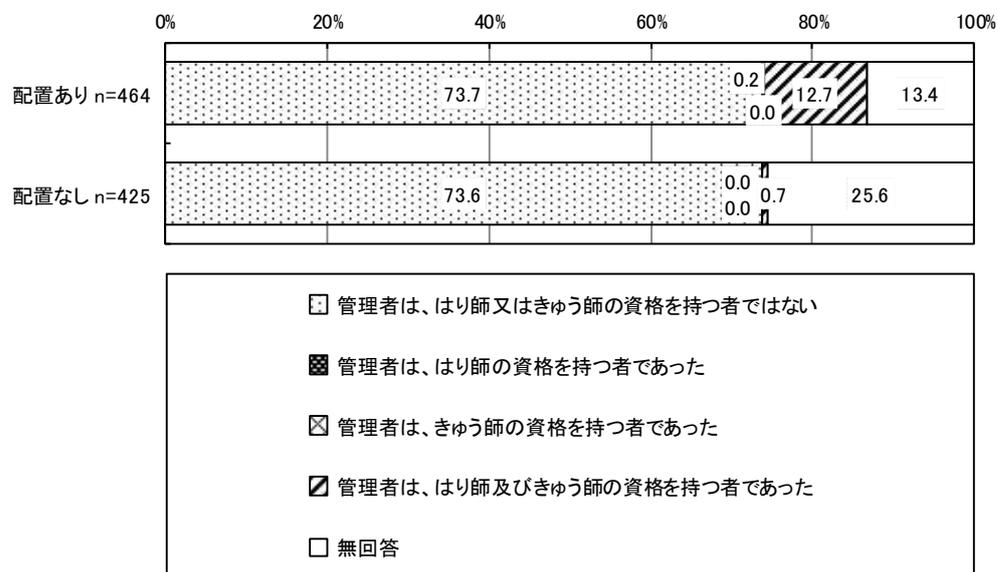
図表 1372 機能訓練指導員またははり師/きゅう師の雇用人数 ②

(単位:人)

件数		平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
1) 看護師	配置 n=80	1.4	1.2	1.0	6	0
	非配置 n=73	1.4	1.0	1.0	5	0
2) 准看護師	配置 n=49	0.9	0.6	1.0	2	0
	非配置 n=47	1.1	0.6	1.0	2	0
3) 理学療法士	配置 n=31	0.8	0.5	1.0	2	0
	非配置 n=20	1.0	0.7	1.0	2	0
4) 作業療法士	配置 n=14	0.7	0.6	1.0	2	0
	非配置 n=12	0.6	0.5	1.0	1	0
5) 言語聴覚士	配置 n=5	0.2	0.4	0.0	1	0
	非配置 n=3	0.3	0.5	0.0	1	0
6) 柔道整復師	配置 n=61	1.0	0.8	1.0	4	0
	非配置 n=22	0.8	0.5	1.0	2	0
7) あん摩マッサージ指圧師	配置 n=38	0.9	0.8	1.0	3	0
	非配置 n=6	0.8	0.4	1.0	1	0
8) はり師(応募時点で機能訓練指導員としての実務要件を満たしている)	配置 n=28	0.9	0.7	1.0	3	0
	非配置 n=4	0.3	0.4	0.0	1	0
9) はり師(応募時点で機能訓練指導員としての実務要件を満たしている)のうち1)~7)の資格を保有しない人	配置 n=4	0.3	0.4	0.0	1	0
	非配置 n=1	0.0	0.0	0.0	0	0
10) きゅう師(応募時点で機能訓練指導員としての実務要件を満たしている)	配置 n=23	0.9	0.7	1.0	3	0
	非配置 n=4	0.5	0.5	0.5	1	0
11) きゅう師(応募時点で機能訓練指導員としての実務要件を満たしている)のうち1)~7)の資格を保有しない人	配置 n=4	0.3	0.4	0.0	1	0
	非配置 n=1	0.0	0.0	0.0	0	0
12) はり師(応募時点で機能訓練指導員としての実務要件を満たしていない)	配置 n=23	0.9	0.5	1.0	2	0
	非配置 n=4	0.5	0.5	0.5	1	0
13) きゅう師(応募時点で機能訓練指導員としての実務要件を満たしていない)	配置 n=18	0.7	0.6	1.0	2	0
	非配置 n=4	0.5	0.5	0.5	1	0

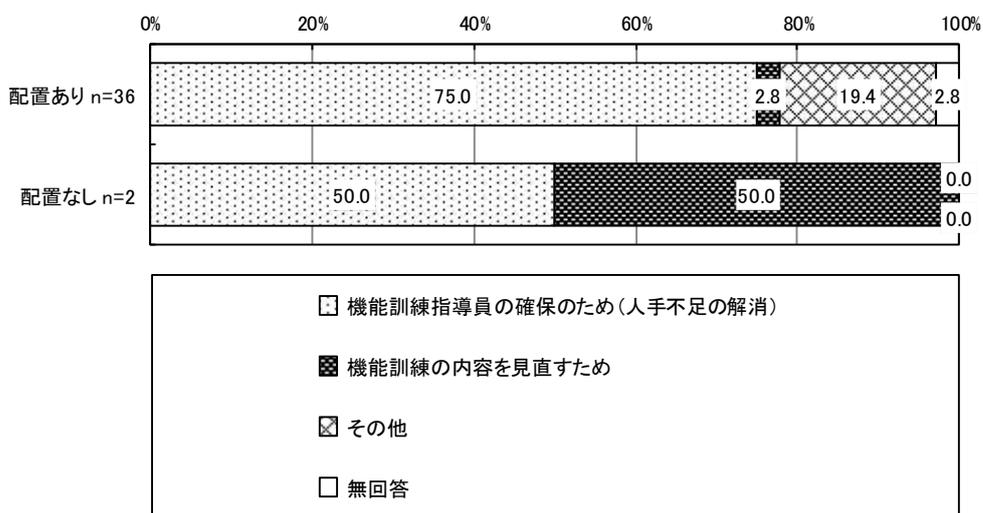
## エ) 平成 30 年 3 月時点の管理者のはり師/きゅう師資格 (問 15)

図表 1373 平成 30 年 3 月時点の管理者のはり師/きゅう師資格



## オ) 機能訓練指導員の資格があるはり師/きゅう師を雇用した理由 (問 16)

図表 1374 機能訓練指導員の資格があるはり師/きゅう師を雇用した理由

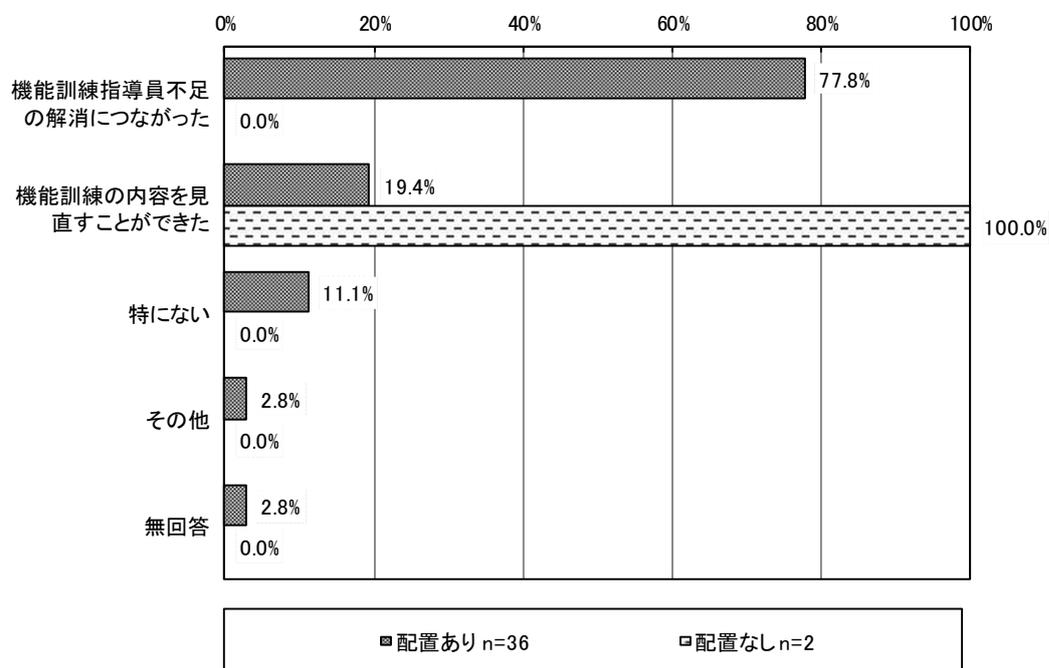


※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。(配置無しは有効な回答無し)

- ・(配置あり) マッサージ施術実施のため

## カ) はり師・きゅう師の追加によるメリット (問 17)

図表 1375 はり師・きゅう師の追加によるメリット



図表 1376 見直しで向上した内容

### ○配置あり

- ・機能訓練をする際に腰や肘の痛みを緩和して行うことができるためにトレーニングがしやすくなった。
- ・疼痛緩和の指導ができるようになった。

### ○配置なし

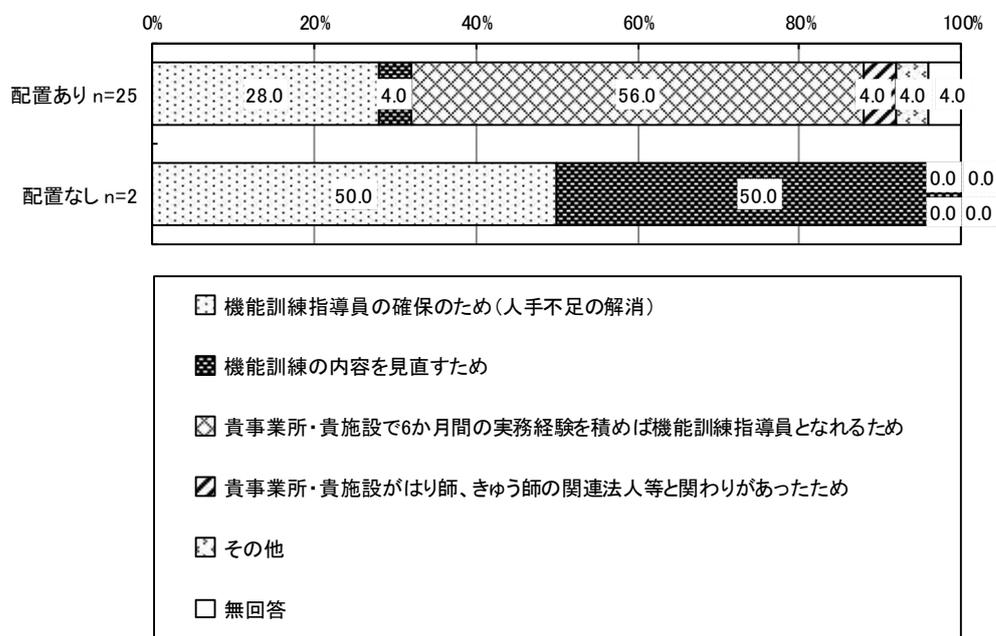
有効な回答はなし。

※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。(配置なしは有効な回答無し)

- ・(配置あり) 機能訓練とマッサージがセットで提供できるようになった
- ・(配置あり) 雇用できる職種の幅が広がった

キ) 機能訓練指導員としての実務要件を満たしていないはり師/きゅう師を雇用した理由 (問 18)

図表 1377 機能訓練指導員としての実務要件を満たしていないはり師/きゅう師を雇用した理由

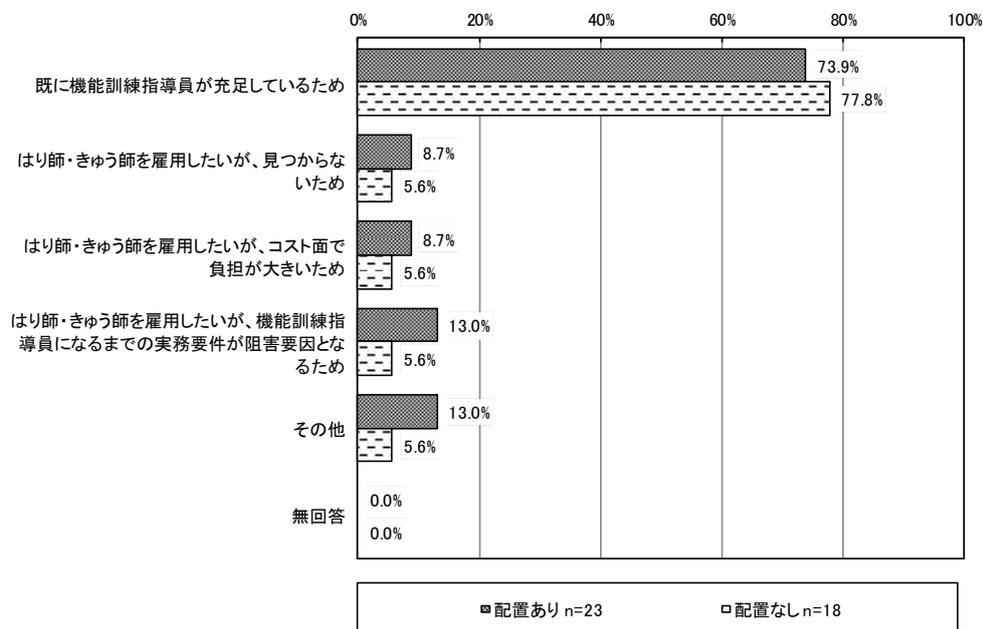


※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。(配置無しは有効な回答無し)

- ・(配置あり) 雇用していた職員が鍼灸師の資格を取得した

## ク) はり師/きゅう師の資格のみを有する者を雇用していない理由 (問 19)

図表 1378 はり師/きゅう師の資格のみを有する者を雇用していない理由

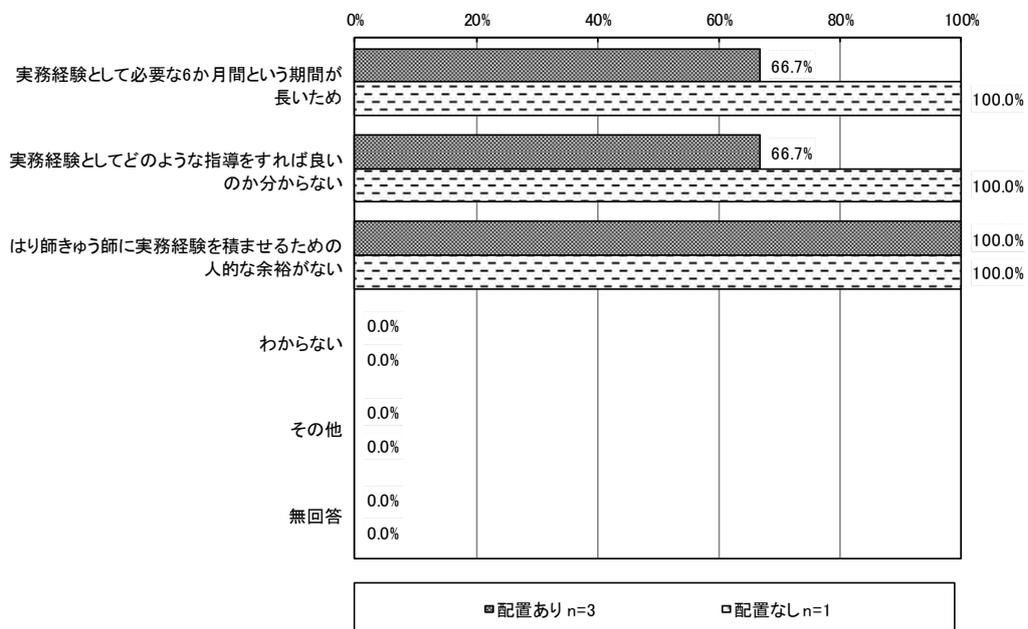


※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

- ・ (配置あり) 機能訓練指導の内容に不安がある
- ・ (配置なし) 介護士不足なので、非常勤等は兼務できる職員がよいため
- ・ (配置なし) はり・きゅうよりも、リハビリ的要素が必要であるから

## ケ) 阻害要因となった実務要件 (問 20)

図表 1379 阻害要因となった実務要件



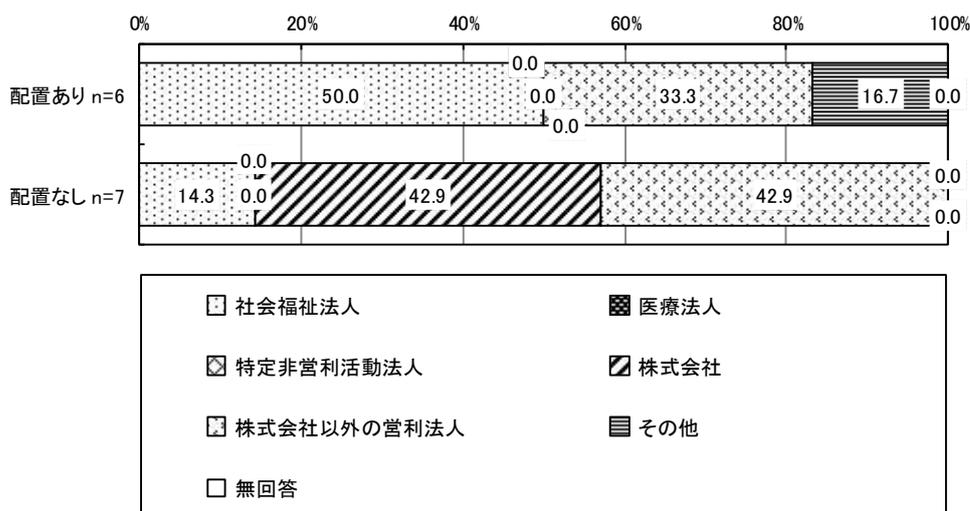
※その他として挙げられた有効な回答は無し。

## 2. 認知症対応型通所介護

### I. 事業所・施設の基本属性

#### ア) 法人種別 (問1)

図表 1380 法人種別

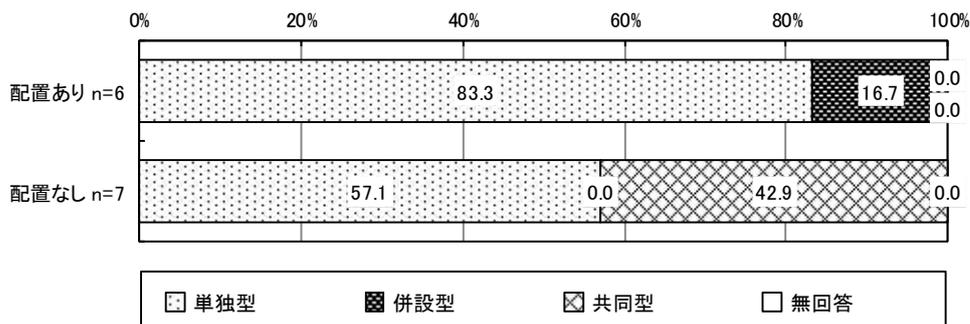


※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。(配置なしは有効な回答無し)

- ・(配置あり) 生協法人

#### イ) 種類・施設区分 (問2)

図表 1381 種類・施設区分



## ウ) 定員数 (問 5)

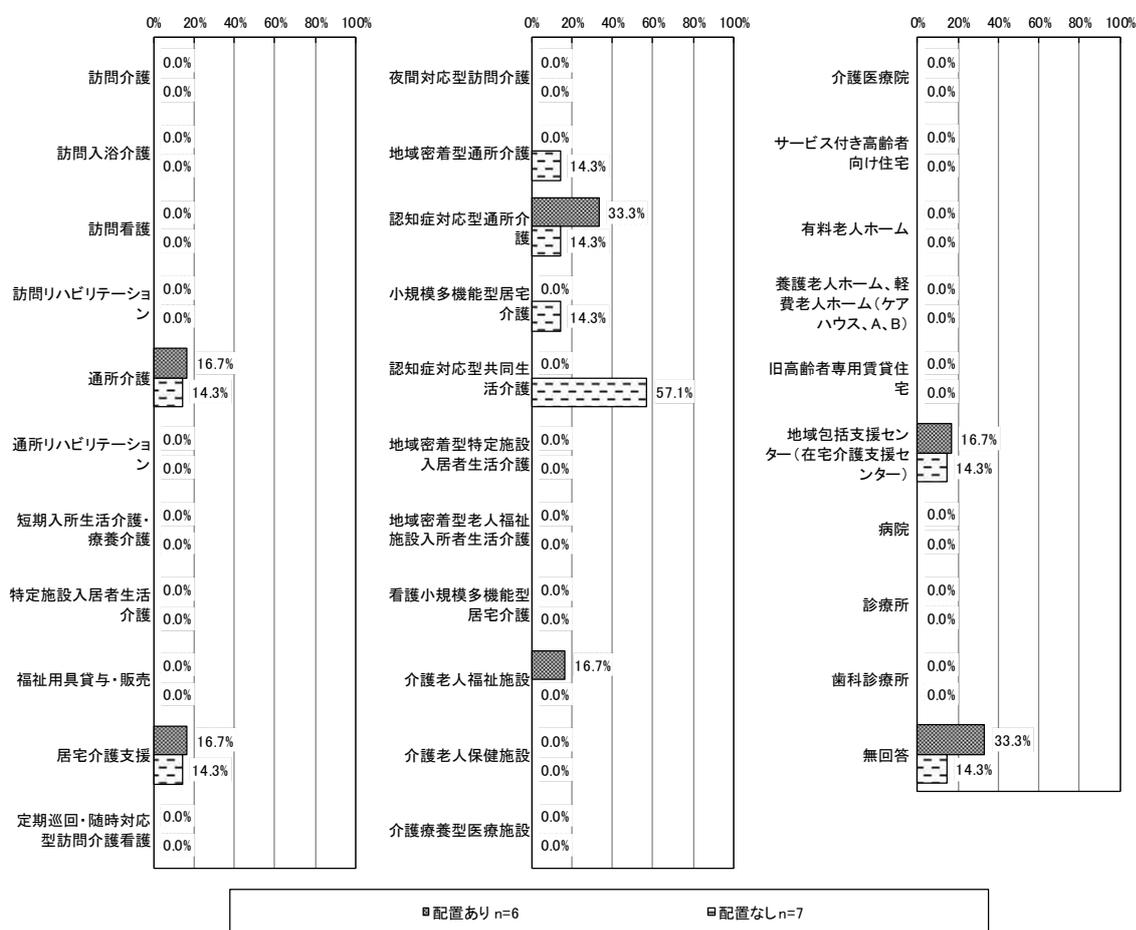
図表 1382 定員数

(単位:人)

件数	平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
配置あり n=2	24.0	12.0	24	36	12
配置なし n=2	9.0	3.0	9	12	6

## エ) 併設施設サービス (問 7)

図表 1383 併設施設サービス



才) 要介護度別利用者数 (問 8)

図表 1384 要介護度別利用者数

(単位:人)

件数		平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
合計	算定 n=6	35.3	18.9	28.5	76	22
	非算定 n=7	17.0	12.5	17	34	2
要介護1	算定 n=6	11.5	7.0	11.5	20	2
	非算定 n=7	5.3	5.2	2	15	0
要介護2	算定 n=6	9.3	4.4	7.5	19	6
	非算定 n=7	4.4	4.6	5	14	0
要介護3	算定 n=6	7.2	5.1	6	18	2
	非算定 n=7	4.1	4.2	1	11	0
要介護4	算定 n=6	5.5	5.3	3	17	2
	非算定 n=7	1.4	1.3	1	4	0
要介護5	算定 n=6	1.8	1.1	1.5	4	1
	非算定 n=7	1.6	1.4	1	4	0
申請中	算定 n=6	0.0	0.0	0	0	0
	非算定 n=7	0.1	0.4	0	1	0

力) 認知症高齢者の日常生活自立度別利用者数 (問 9)

図表 1385 認知症高齢者の日常生活自立度別利用者数

(単位:人)

件数		平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
合計	算定 n=5	35.6	20.7	23	76	22
	非算定 n=4	14.3	12.2	11	33	2
自立	算定 n=5	0.2	0.4	0	1	0
	非算定 n=4	0.0	0.0	0	0	0
I	算定 n=5	1.0	1.1	1	3	0
	非算定 n=4	0.0	0.0	0	0	0
II a	算定 n=5	7.6	7.9	5	23	0
	非算定 n=4	0.8	1.3	0	3	0
II b	算定 n=5	11.8	7.4	11	25	2
	非算定 n=4	5.5	5.7	3.5	15	0
III a	算定 n=5	8.8	2.9	8	14	5
	非算定 n=4	4.8	4.6	3.5	12	0
III b	算定 n=5	1.8	1.0	2	3	0
	非算定 n=4	2.3	1.8	2	5	0
IV	算定 n=5	2.2	1.7	2	5	0
	非算定 n=4	0.0	0.0	0	0	0
M	算定 n=5	2.2	1.6	2	4	0
	非算定 n=4	1.0	1.2	0.5	3	0

キ) 職員数 (問 10)

図表 1386 職員数

(単位:人)

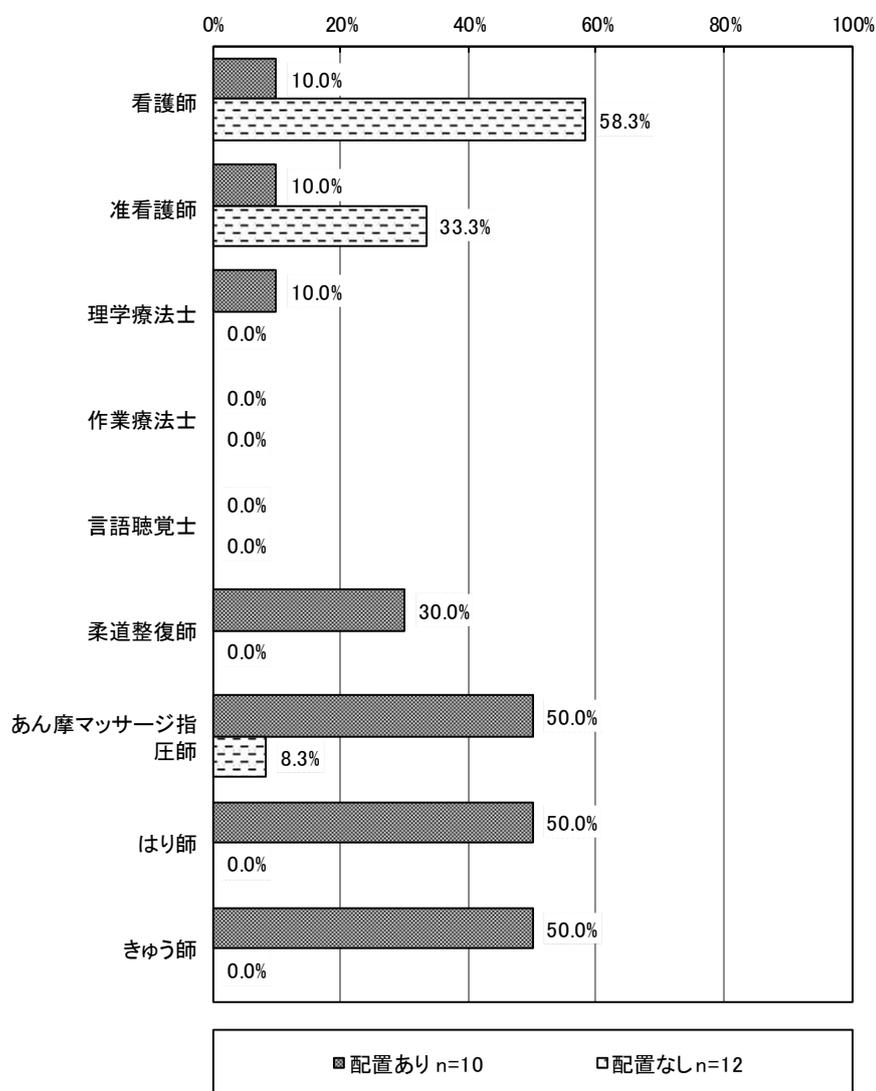
件数			平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
計画作成担当者	常勤職員	配置あり n=6	0.8	1.2	0	3	0
		配置なし n=6	0.8	0.9	0.5	2	0
	非常勤職員	配置あり n=6	0.0	0.0	0	0	0
		配置なし n=5	0.0	0.0	0	0	0
	常勤換算人数	配置あり n=3	0.2	0.3	0.0	0.7	0.0
		配置なし n=5	0.1	0.1	0.0	0.3	0.0
機能訓練指導員	常勤職員	配置あり n=6	0.5	0.8	0	2	0
		配置なし n=6	0.5	1.1	0	3	0
	非常勤職員	配置あり n=6	1.0	0.8	1	2	0
		配置なし n=5	1.8	1.8	1	4	0
	常勤換算人数	配置あり n=3	0.5	0.4	0.5	1.0	0.1
		配置なし n=5	1.2	1.5	0.1	3.0	0.0
生活相談員	常勤職員	配置あり n=6	1.8	0.7	2	3	1
		配置なし n=6	1.7	1.4	2	4	0
	非常勤職員	配置あり n=6	0.3	0.8	0	2	0
		配置なし n=5	0.2	0.4	0	1	0
	常勤換算人数	配置あり n=3	1.1	0.3	1.0	1.5	0.7
		配置なし n=5	1.0	1.6	0.0	4.0	0.0
サービス提供責任者	常勤職員	配置あり n=6	0.2	0.4	0	1	0
		配置なし n=6	0.0	0.0	0	0	0
	非常勤職員	配置あり n=6	0.0	0.0	0	0	0
		配置なし n=5	0.0	0.0	0	0	0
	常勤換算人数	配置あり n=3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		配置なし n=5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
医師	常勤職員	配置あり n=6	0.0	0.0	0	0	0
		配置なし n=6	0.0	0.0	0	0	0
	非常勤職員	配置あり n=6	0.0	0.0	0	0	0
		配置なし n=5	0.0	0.0	0	0	0
	常勤換算人数	配置あり n=3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		配置なし n=5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
看護職員	常勤職員	配置あり n=6	0.0	0.0	0	0	0
		配置なし n=6	0.5	1.1	0	3	0
	非常勤職員	配置あり n=6	0.3	0.8	0	2	0
		配置なし n=5	1.6	2.0	0	4	0
	常勤換算人数	配置あり n=3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		配置なし n=5	1.3	1.4	0.6	3.0	0.0

(単位:人)

件数			平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
介護支援専門員	常勤職員	配置あり n=6	0.2	0.4	0	1	0
		配置なし n=6	0.7	0.8	0.5	2	0
	非常勤職員	配置あり n=6	0.0	0.0	0	0	0
		配置なし n=5	0.0	0.0	0	0	0
	常勤換算人数	配置あり n=3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		配置なし n=5	0.1	0.1	0.0	0.3	0.0
介護職員	常勤職員	配置あり n=6	3.5	3.2	2.5	10	0
		配置なし n=6	4.7	1.8	4.5	8	2
	非常勤職員	配置あり n=6	3.2	2.7	2.5	7	0
		配置なし n=5	2.8	3.4	1	9	0
	常勤換算人数	配置あり n=3	6.8	3.7	5.0	11.9	3.4
		配置なし n=5	1.6	1.4	1.0	4.0	0.0
栄養士	常勤職員	配置あり n=6	0.0	0.0	0	0	0
		配置なし n=6	0.0	0.0	0	0	0
	非常勤職員	配置あり n=6	0.0	0.0	0	0	0
		配置なし n=5	0.0	0.0	0	0	0
	常勤換算人数	配置あり n=3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		配置なし n=5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
調理員	常勤職員	配置あり n=6	0.0	0.0	0	0	0
		配置なし n=6	0.0	0.0	0	0	0
	非常勤職員	配置あり n=6	0.7	1.1	0	3	0
		配置なし n=5	0.0	0.0	0	0	0
	常勤換算人数	配置あり n=3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		配置なし n=5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
オペレーター	常勤職員	配置あり n=6	0.0	0.0	0	0	0
		配置なし n=6	0.0	0.0	0	0	0
	非常勤職員	配置あり n=6	0.0	0.0	0	0	0
		配置なし n=5	0.0	0.0	0	0	0
	常勤換算人数	配置あり n=3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		配置なし n=5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
全職員数	常勤職員	配置あり n=6	7.0	4.2	6.5	14	1
		配置なし n=6	8.8	3.3	9	14	4
	非常勤職員	配置あり n=6	5.5	4.1	4.5	12	1
		配置なし n=5	6.4	4.7	8	13	1
	常勤換算人数	配置あり n=3	8.6	4.2	6.9	14.4	4.5
		配置なし n=5	5.3	4.7	3.8	14.0	1.0

## ク) 機能訓練指導員の保有する資格（問 11）

図表 1387 機能訓練指導員の保有する資格



※本設問の集計については、事業所・施設に登録されている機能訓練指導員の数を分母、その機能訓練指導員が保有する各資格の数を分子とし割合を算出した。

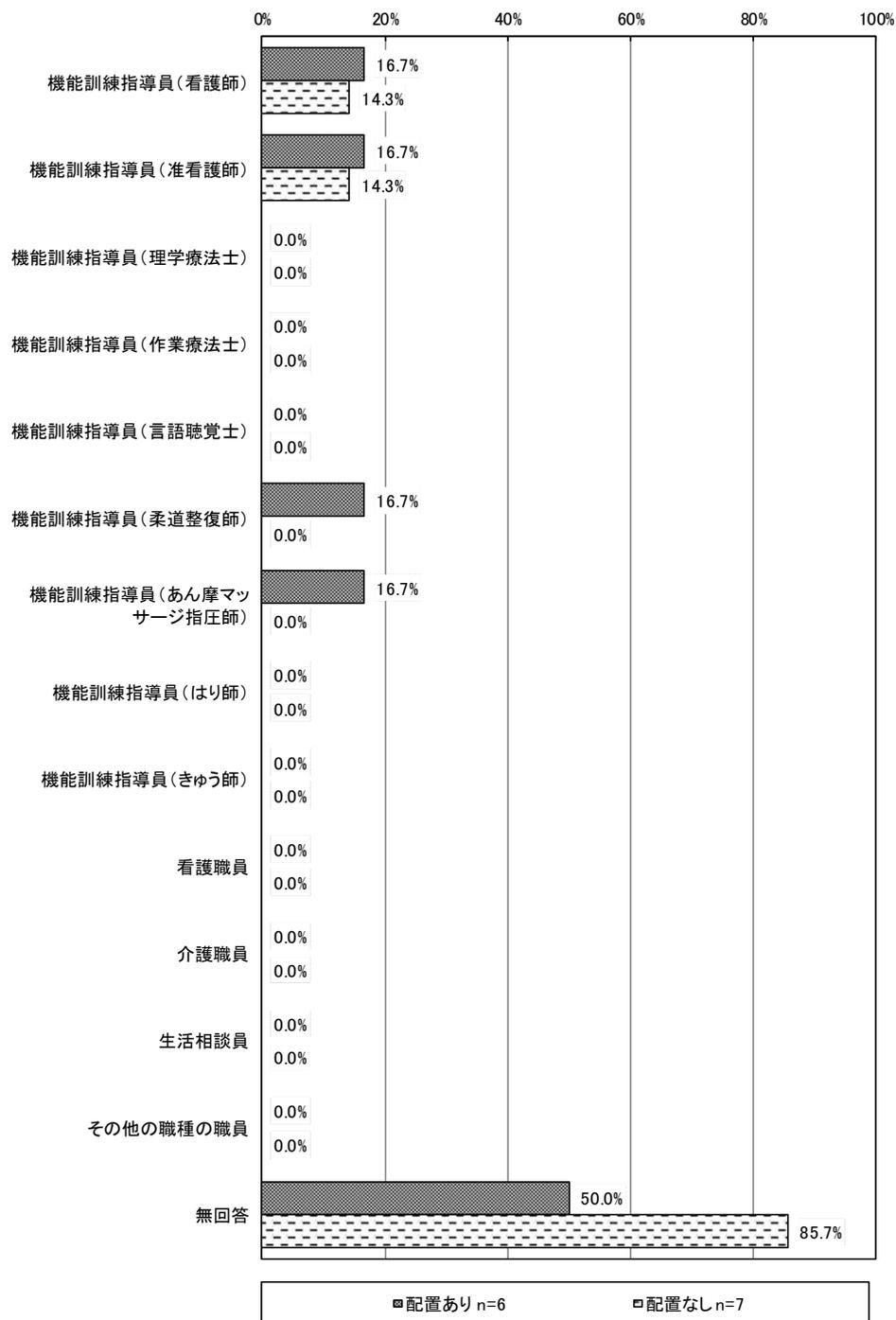
## ケ) 機能訓練指導員が過去に実務経験を積んだ事業所および職種(問 11-2)

回答は無し。

## II. 機能訓練指導員の状況

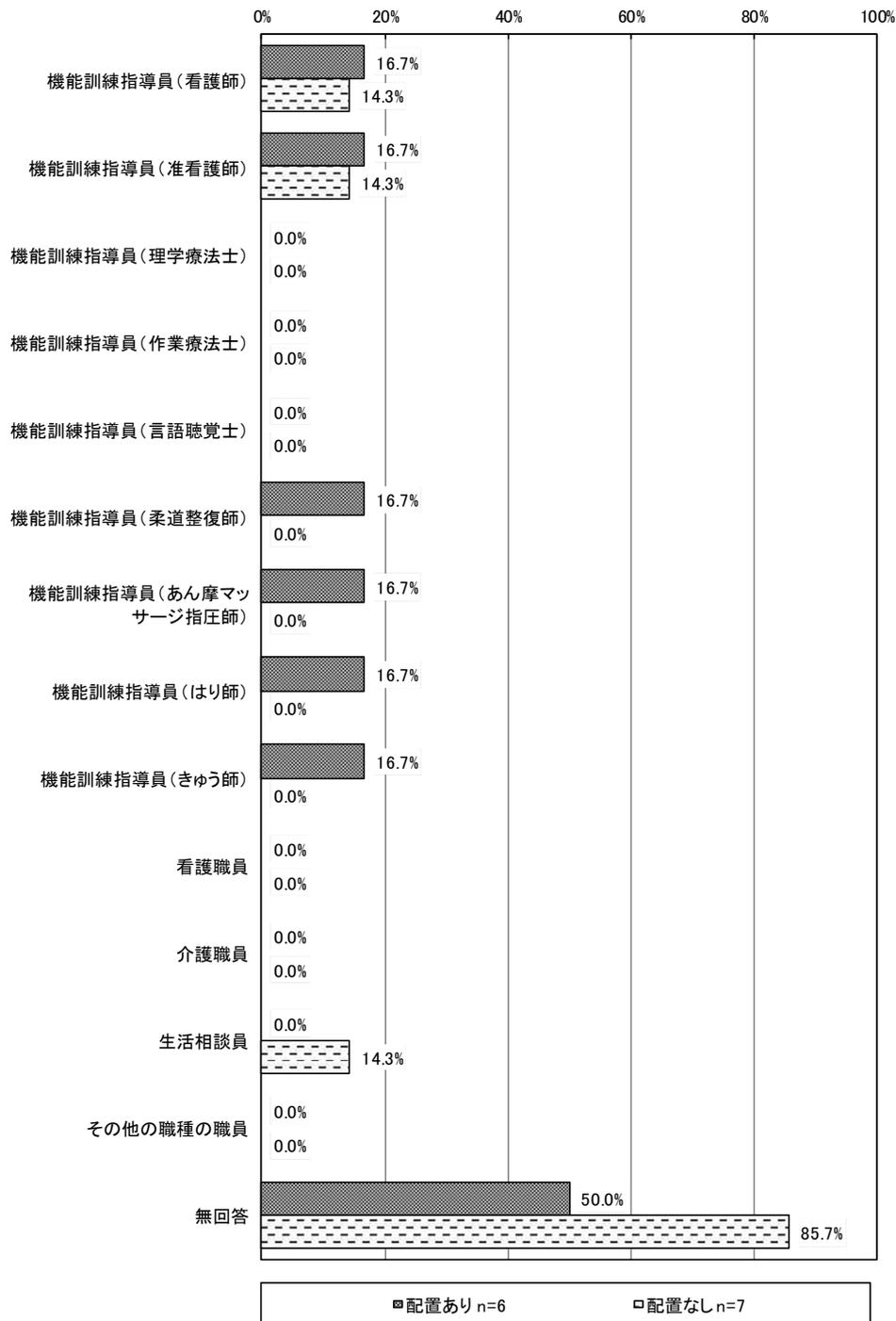
### ア) 平成30年3月と令和元年9月に個別機能訓練計画等を作成したことがある職種（問12）

図表 1388 平成30年3月に個別機能訓練計画等を作成したことがある職種



※その他の職種の職員として挙げられた有効な回答はなし。

図表 1389 令和元年9月に個別機能訓練計画等を作成したことがある職種



※その他の職種の職員として挙げられた有効な回答はなし。

イ) 令和元年 9 月に計画を作成した機能訓練指導員と利用者の課題の組み合わせ (問 13)

図表 1390 令和元年 9 月に計画を作成した機能訓練指導員と利用者の課題の組み合わせ

(%)

	食事	排泄	入浴	更衣	整容	移乗	屋内移動	階段昇降	屋外移動
配置あり n=5	60.0	80.0	40.0	60.0	40.0	80.0	100.0	80.0	80.0
配置なし n=3	-	-	-	66.7	66.7	100.0	100.0	100.0	100.0

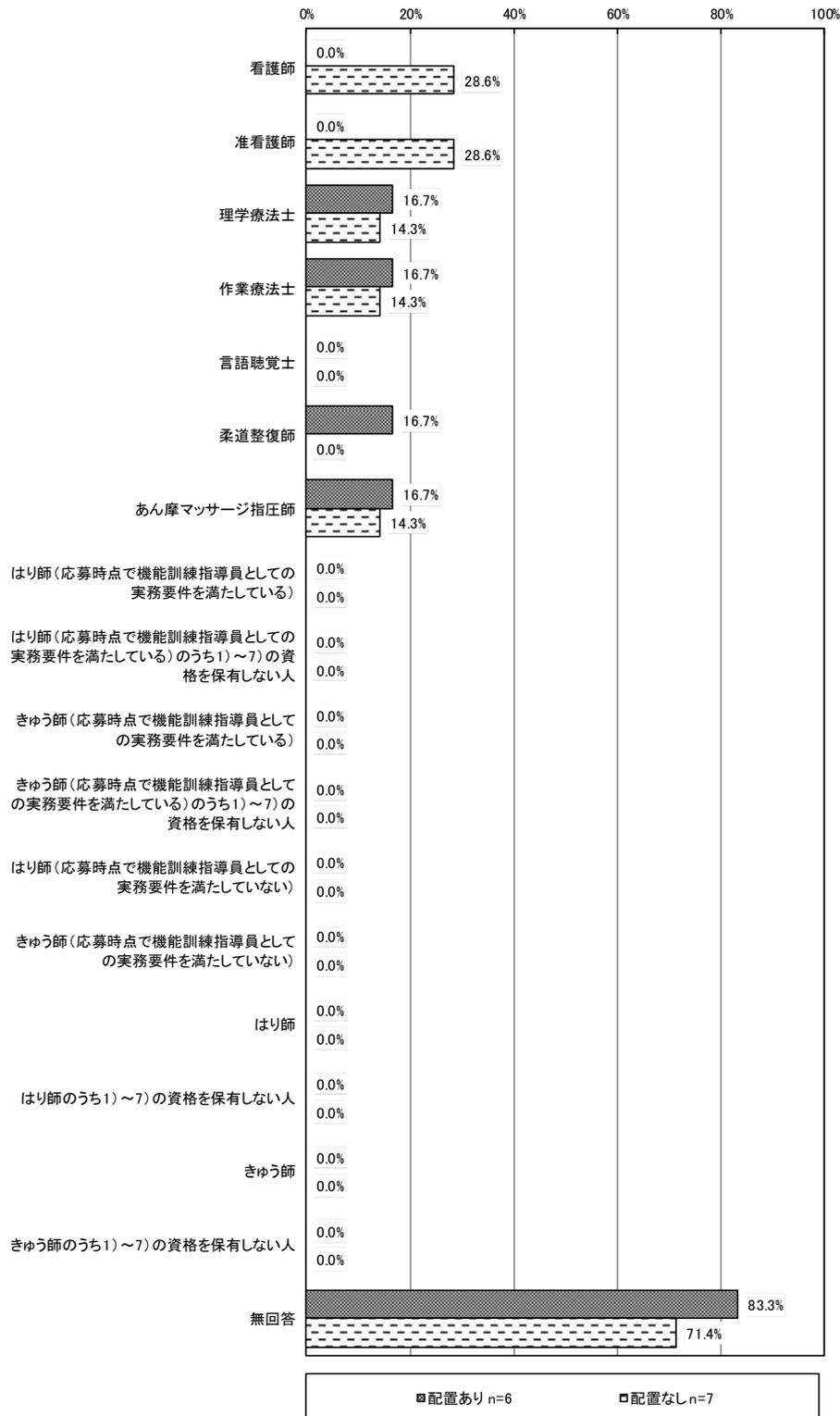
	調理	洗濯	掃除	起き上がり	座位	立ち上がり	立位	福祉用具の利用等による生活環境の改善	家族への介護方法の指導
配置あり n=5	60.0	40.0	40.0	80.0	80.0	100.0	100.0	60.0	40.0
配置なし n=3	-	100.0	-	100.0	100.0	100.0	100.0	-	100.0

※本設問の集計については、令和元年 9 月の 1 ヶ月間に個別機能訓練計画を作成した機能訓練指導員の人数を分母、その個別機能訓練計画の対象となった利用者の各課題の数を分子とし割合を算出した。

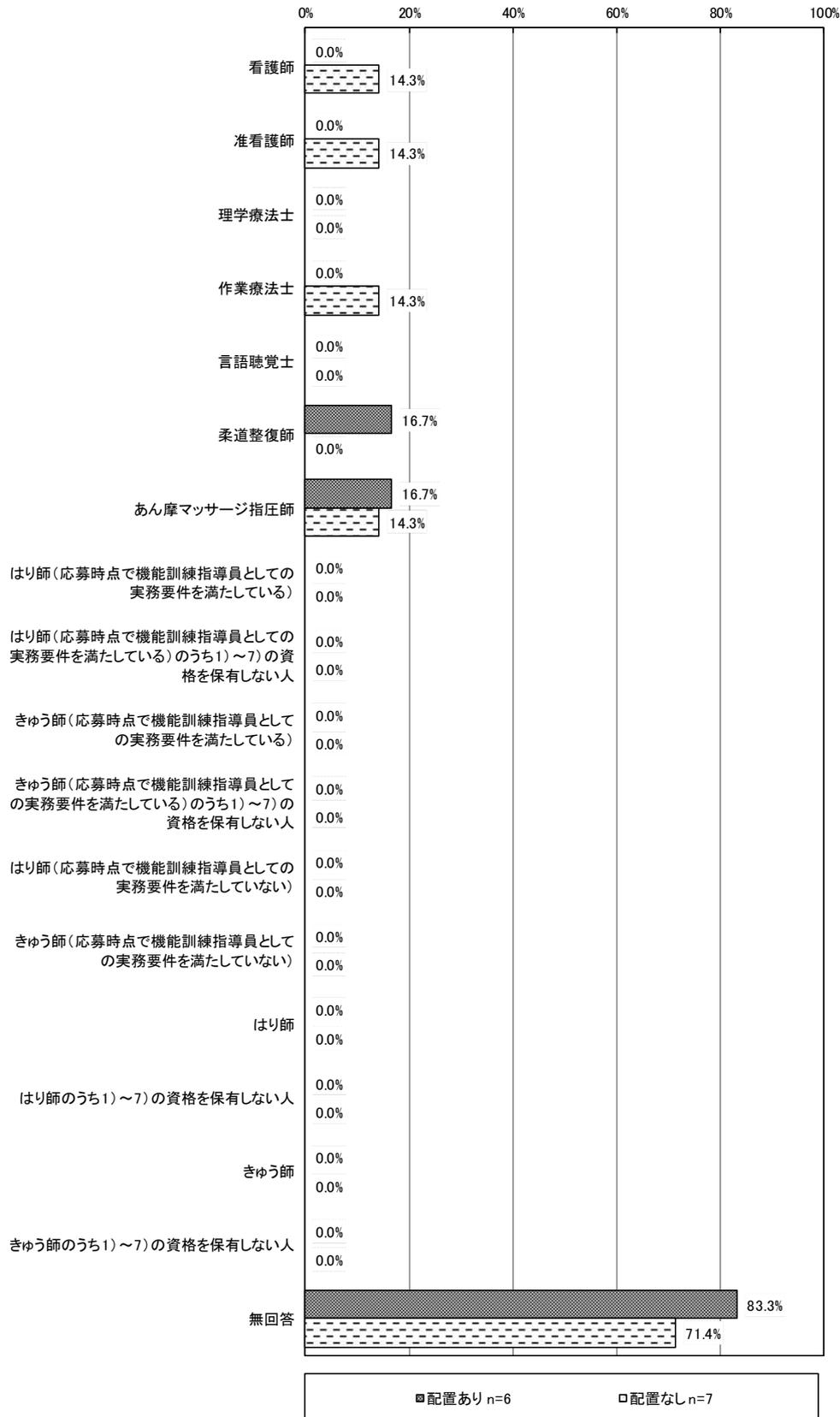
ウ) 機能訓練指導員または機能訓練指導員ではないはり師/きゅう師の募集の有無、応募の有無、および雇用人数(問14)

①平成28年10月～平成30年3月、②平成30年4月～令和元年9月

図表 1391 機能訓練指導員またははり師/きゅう師の募集の有無 ①



図表 1392 機能訓練指導員またははり師/きゅう師の応募の有無 ①

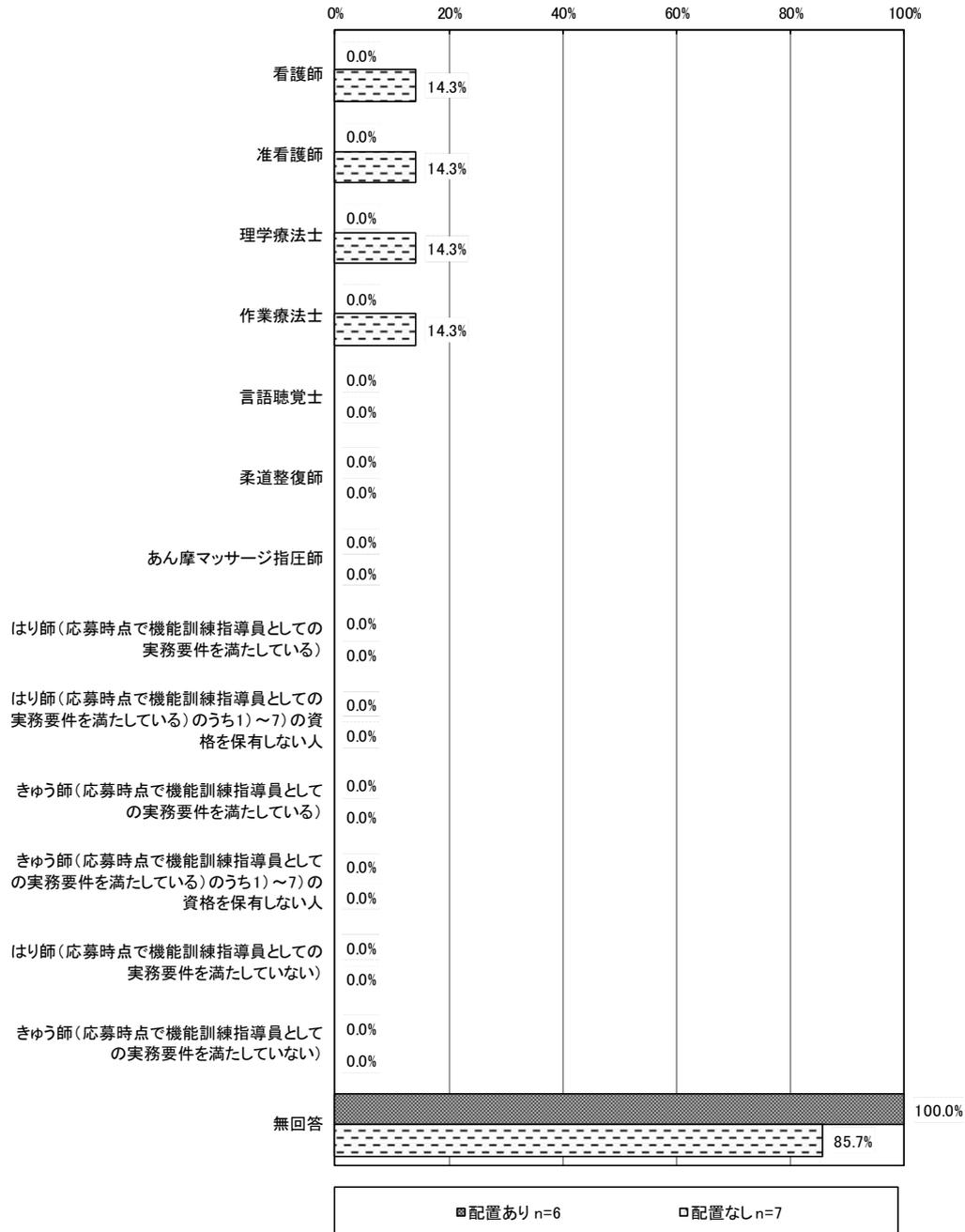


図表 1393 機能訓練指導員またははり師/きゅう師の雇用人数 ①

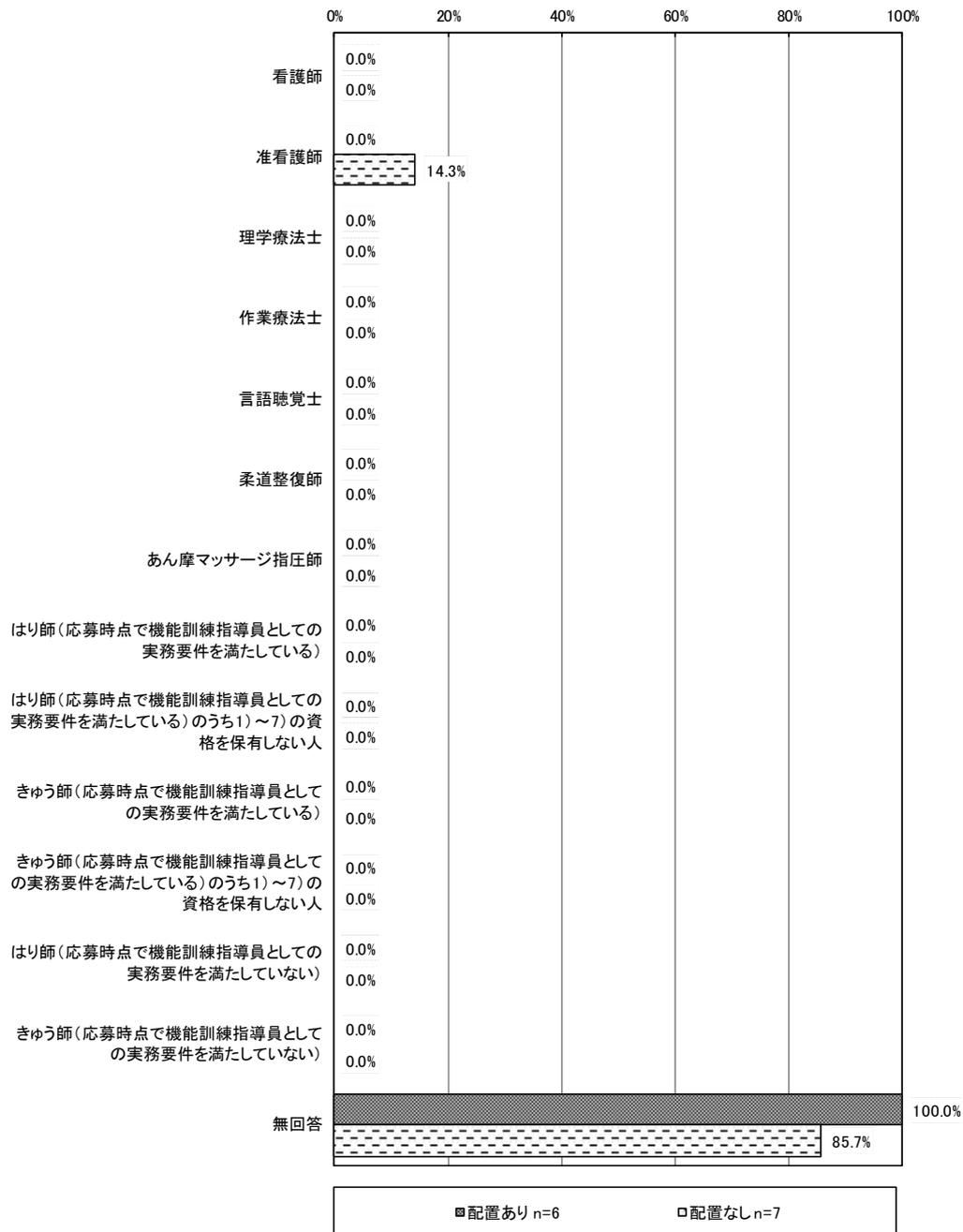
(単位:人)

件数		平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
1) 看護師	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=1	3.0	0.0	3.0	3	3
2) 准看護師	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=1	2.0	0.0	2.0	2	2
3) 理学療法士	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
4) 作業療法士	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=1	1.0	0.0	1.0	1	1
5) 言語聴覚士	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
6) 柔道整復師	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
7) あん摩マッサージ指圧師	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=1	1.0	0.0	1.0	1	1
14) はり師	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
15) はり師のうち1)～7)の資格を保有しない人	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
16) きゅう師	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
17) きゅう師のうち1)～7)の資格を保有しない人	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-

図表 1394 機能訓練指導員またははり師/きゅう師の募集の有無 ②



図表 1395 機能訓練指導員またははり師/きゅう師の応募の有無 ②



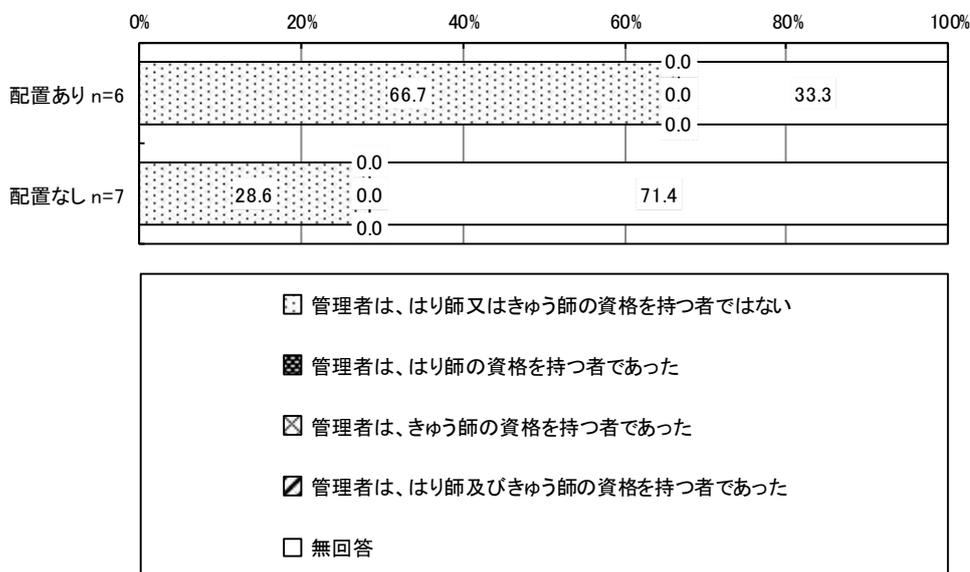
図表 1396 機能訓練指導員またははり師/きゅう師の雇用人数 ②

(単位:人)

件数		平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
1) 看護師	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
2) 准看護師	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=1	1.0	0.0	1.0	1	1
3) 理学療法士	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
4) 作業療法士	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
5) 言語聴覚士	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
6) 柔道整復師	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
7) あん摩マッサージ指圧師	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
8) はり師(応募時点で機能訓練指導員としての実務要件を満たしている)	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
9) はり師(応募時点で機能訓練指導員としての実務要件を満たしている)のうち1)～7)の資格を保有しない人	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
10) きゅう師(応募時点で機能訓練指導員としての実務要件を満たしている)	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
11) きゅう師(応募時点で機能訓練指導員としての実務要件を満たしている)のうち1)～7)の資格を保有しない人	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
12) はり師(応募時点で機能訓練指導員としての実務要件を満たしていない)	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
13) きゅう師(応募時点で機能訓練指導員としての実務要件を満たしていない)	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-

エ) 平成 30 年 3 月時点の管理者のはり師/きゅう師資格 (問 15)

図表 1397 平成 30 年 3 月時点の管理者のはり師/きゅう師資格



オ) 機能訓練指導員の資格があるはり師/きゅう師を雇用した理由 (問 16)

回答は無し。

カ) はり師・きゅう師の追加によるメリット (問 17)

回答は無し。

キ) 機能訓練指導員としての実務要件を満たしていないはり師/きゅう師を雇用した理由 (問 18)

回答は無し。

ク) はり師/きゅう師の資格のみを有する者を雇用していない理由 (問 19)

回答は無し。

ケ) 阻害要因となった実務要件 (問 20)

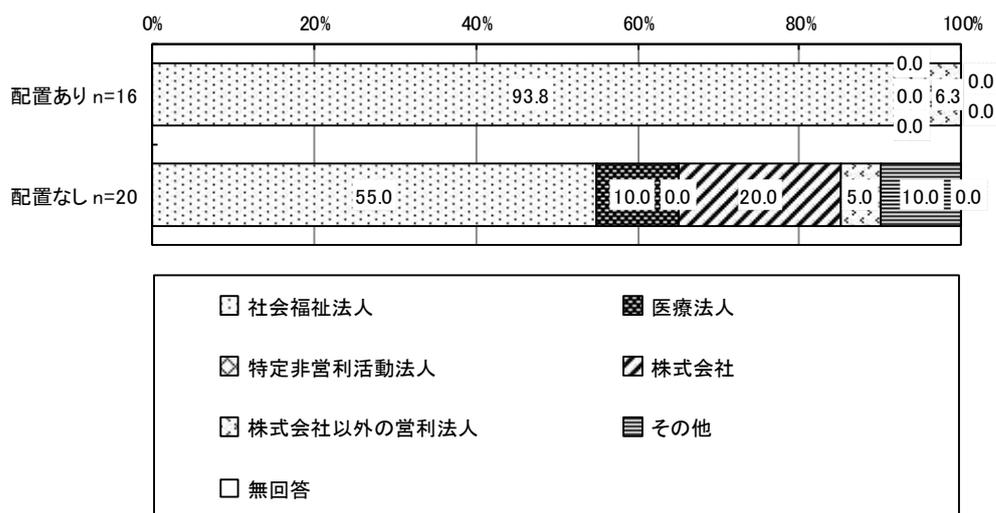
回答は無し。

### 3. 短期入所生活介護

#### I. 事業所・施設の基本属性

##### ア) 法人種別 (問 1)

図表 1398 法人種別

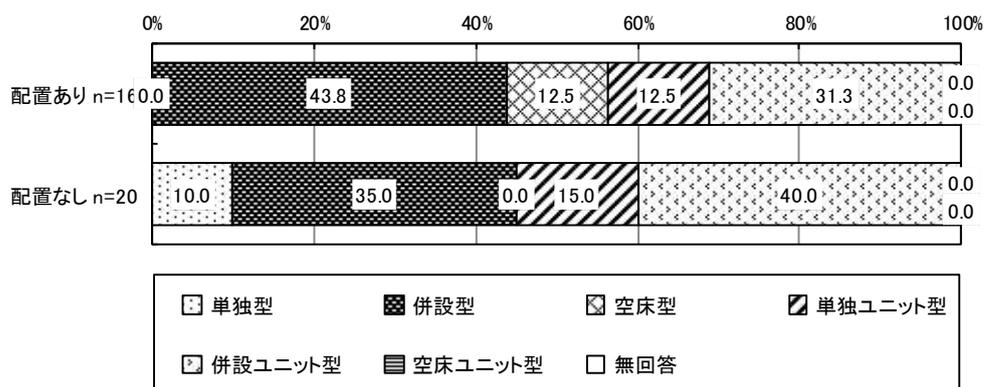


※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。(配置ありは回答無し)

- ・(配置なし) 一般財団法人

##### イ) 種類・施設区分 (問 2)

図表 1399 種類・施設区分



## ウ) 定員数 (問 5)

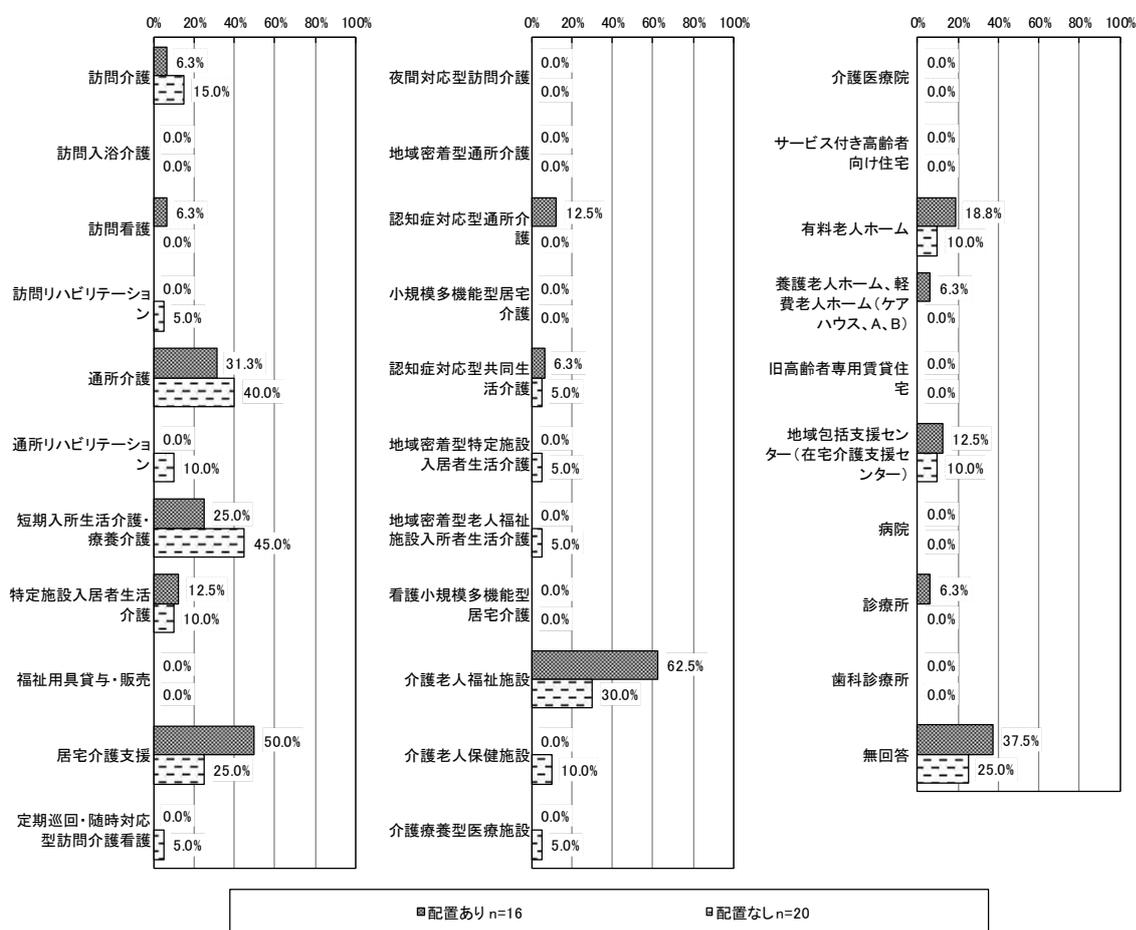
図表 1400 定員数

(単位:人)

件数	平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
配置あり n=5	15.4	6.1	19	21	5
配置なし n=9	22.7	10.4	20	50	10

## エ) 併設施設サービス (問 7)

図表 1401 併設施設サービス



才) 要介護度別利用者数 (問 8)

図表 1402 要介護度別利用者数

(単位:人)

件数		平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
合計	算定 n=14	31.3	27.1	22.5	90	1
	非算定 n=19	47.5	39.2	38	150	2
要介護1	算定 n=14	3.1	4.0	2	15	0
	非算定 n=19	5.4	8.0	4	36	0
要介護2	算定 n=14	6.5	6.4	4.5	20	0
	非算定 n=19	8.3	11.0	6	50	0
要介護3	算定 n=14	8.7	7.6	5.5	25	0
	非算定 n=19	11.0	7.9	8	29	1
要介護4	算定 n=14	7.1	9.5	3.5	36	0
	非算定 n=19	12.8	12.4	7	42	0
要介護5	算定 n=14	5.7	7.9	2.5	29	0
	非算定 n=19	9.9	11.8	3	35	0
申請中	算定 n=14	0.1	0.3	0	1	0
	非算定 n=19	0.1	0.5	0	2	0

力) 認知症高齢者の日常生活自立度別利用者数 (問 9)

図表 1403 認知症高齢者の日常生活自立度別利用者数

(単位:人)

件数		平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
合計	算定 n=6	29.0	34.9	8	90	1
	非算定 n=11	44.6	30.8	31	104	4
自立	算定 n=6	0.2	0.4	0	1	0
	非算定 n=11	1.0	1.8	0	6	0
I	算定 n=6	1.2	2.2	0	6	0
	非算定 n=11	3.6	2.6	3	8	0
II a	算定 n=6	2.0	2.8	0	6	0
	非算定 n=11	3.8	3.0	3	10	0
II b	算定 n=6	4.2	5.4	1.5	16	1
	非算定 n=11	8.6	6.1	6	21	2
III a	算定 n=6	8.3	6.9	6.5	18	0
	非算定 n=11	11.7	10.5	7	33	0
III b	算定 n=6	7.8	11.5	0	29	0
	非算定 n=11	9.5	12.3	3	41	0
IV	算定 n=6	4.8	8.8	0	24	0
	非算定 n=11	5.3	5.5	2	16	0
M	算定 n=6	0.5	0.8	0	2	0
	非算定 n=11	1.1	1.9	0	5	0

キ) 職員数 (問 10)

図表 1404 職員数

(単位:人)

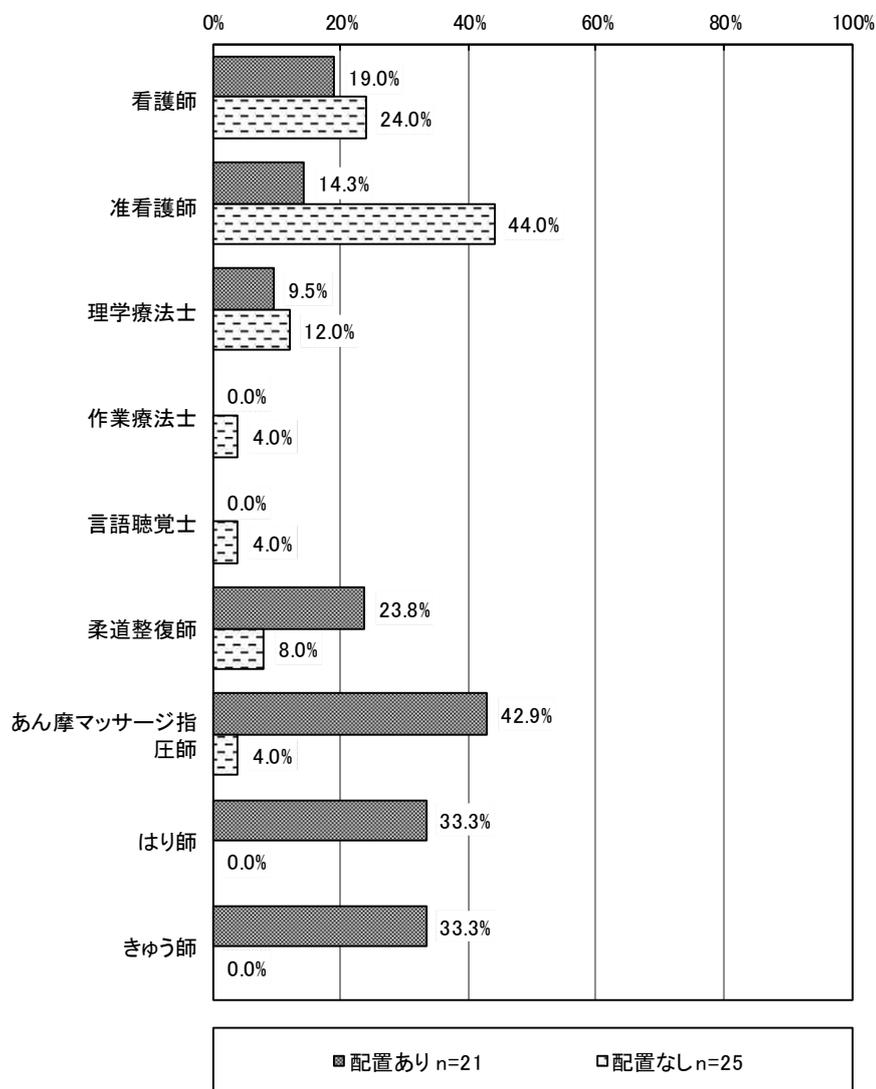
件数			平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
計画作成担当者	常勤職員	配置あり n=15	0.1	0.3	0	1	0
		配置なし n=17	0.4	0.6	0	2	0
	非常勤職員	配置あり n=14	0.0	0.0	0	0	0
		配置なし n=16	0.0	0.0	0	0	0
	常勤換算人数	配置あり n=14	0.1	0.3	0.0	1.0	0.0
		配置なし n=15	0.5	0.6	0.0	2.0	0.0
機能訓練指導員	常勤職員	配置あり n=15	1.0	0.4	1	2	0
		配置なし n=17	0.6	0.7	0	2	0
	非常勤職員	配置あり n=14	0.3	0.8	0	3	0
		配置なし n=16	0.7	1.0	0	4	0
	常勤換算人数	配置あり n=14	0.8	0.6	1.0	2.0	0.0
		配置なし n=15	0.8	0.6	0.8	2.0	0.0
生活相談員	常勤職員	配置あり n=15	1.3	0.7	1	3	0
		配置なし n=17	1.4	0.9	1	4	0
	非常勤職員	配置あり n=14	0.1	0.3	0	1	0
		配置なし n=16	0.1	0.3	0	1	0
	常勤換算人数	配置あり n=14	1.1	0.9	1.0	3.0	0.0
		配置なし n=15	1.2	0.9	1.0	4.0	0.0
サービス提供責任者	常勤職員	配置あり n=15	0.1	0.3	0	1	0
		配置なし n=17	0.0	0.0	0	0	0
	非常勤職員	配置あり n=14	0.0	0.0	0	0	0
		配置なし n=16	0.0	0.0	0	0	0
	常勤換算人数	配置あり n=14	0.1	0.3	0.0	1.0	0.0
		配置なし n=15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
医師	常勤職員	配置あり n=15	0.0	0.0	0	0	0
		配置なし n=17	0.1	0.3	0	1	0
	非常勤職員	配置あり n=14	0.7	0.5	1	1	0
		配置なし n=16	1.3	1.1	1	4	0
	常勤換算人数	配置あり n=14	0.1	0.3	0.1	1.0	0.0
		配置なし n=15	0.1	0.1	0.1	0.3	0.0
看護職員	常勤職員	配置あり n=15	3.4	1.7	3	6	1
		配置なし n=17	2.2	1.7	2	6	0
	非常勤職員	配置あり n=14	1.2	1.4	1	5	0
		配置なし n=16	2.1	2.1	2	9	0
	常勤換算人数	配置あり n=14	3.5	1.9	2.9	6.5	1.0
		配置なし n=15	3.4	2.3	3.3	8.5	0.0

(単位:人)

件数		平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値	
介護支援専門員	常勤職員	配置あり n=15	1.5	0.8	2	3	0
		配置なし n=17	1.0	1.8	0	7	0
	非常勤職員	配置あり n=14	0.0	0.0	0	0	0
		配置なし n=16	0.1	0.2	0	1	0
	常勤換算人数	配置あり n=14	1.0	0.8	1.0	2.0	0.0
		配置なし n=15	0.7	1.1	0.0	4.0	0.0
介護職員	常勤職員	配置あり n=15	26.3	14.4	26	55	0
		配置なし n=17	19.4	13.6	15	56	6
	非常勤職員	配置あり n=14	7.4	6.8	6.5	20	0
		配置なし n=16	4.6	4.4	3.5	15	0
	常勤換算人数	配置あり n=14	26.9	18.7	23.7	64.0	0.0
		配置なし n=15	19.8	14.7	17.3	61.0	0.0
栄養士	常勤職員	配置あり n=15	1.0	0.5	1	2	0
		配置なし n=17	0.7	1.0	1	4	0
	非常勤職員	配置あり n=14	0.0	0.0	0	0	0
		配置なし n=16	0.3	0.5	0	1	0
	常勤換算人数	配置あり n=14	0.5	0.5	0.7	1.0	0.0
		配置なし n=15	0.7	1.0	0.5	4.0	0.0
調理員	常勤職員	配置あり n=15	1.4	2.6	0	8	0
		配置なし n=17	1.4	2.7	0	8	0
	非常勤職員	配置あり n=14	0.5	1.4	0	5	0
		配置なし n=16	0.4	1.1	0	4	0
	常勤換算人数	配置あり n=14	1.6	3.2	0.0	9.0	0.0
		配置なし n=15	1.8	3.0	0.0	8.9	0.0
オペレーター	常勤職員	配置あり n=15	0.3	1.0	0	4	0
		配置なし n=17	0.0	0.0	0	0	0
	非常勤職員	配置あり n=14	0.0	0.0	0	0	0
		配置なし n=16	0.0	0.0	0	0	0
	常勤換算人数	配置あり n=14	0.3	1.0	0.0	4.0	0.0
		配置なし n=15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
全職員数	常勤職員	配置あり n=15	36.3	18.3	35	68	4
		配置なし n=17	27.2	17.5	21	68	7
	非常勤職員	配置あり n=14	10.2	7.6	9.5	24	0
		配置なし n=16	9.7	6.9	7.5	25	1
	常勤換算人数	配置あり n=14	35.9	24.2	31.8	83.9	3.0
		配置なし n=15	29.0	19.7	24.1	73.6	0.3

## ク) 機能訓練指導員の保有する資格（問 11）

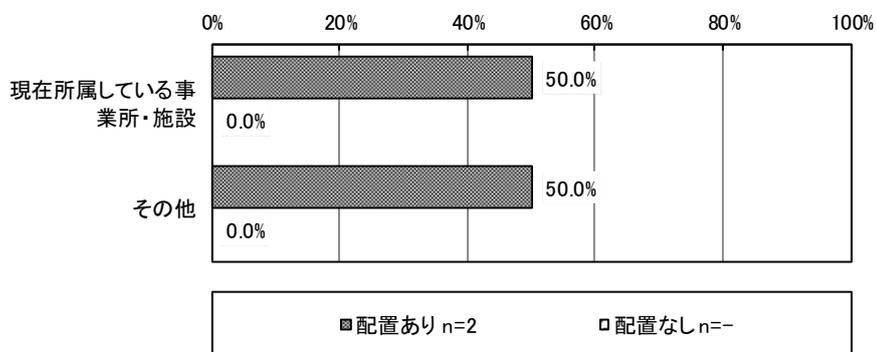
図表 1405 機能訓練指導員の保有する資格



※本設問の集計については、事業所・施設に登録されている機能訓練指導員の数を分母、その機能訓練指導員が保有する各資格の数を分子とし割合を算出した。

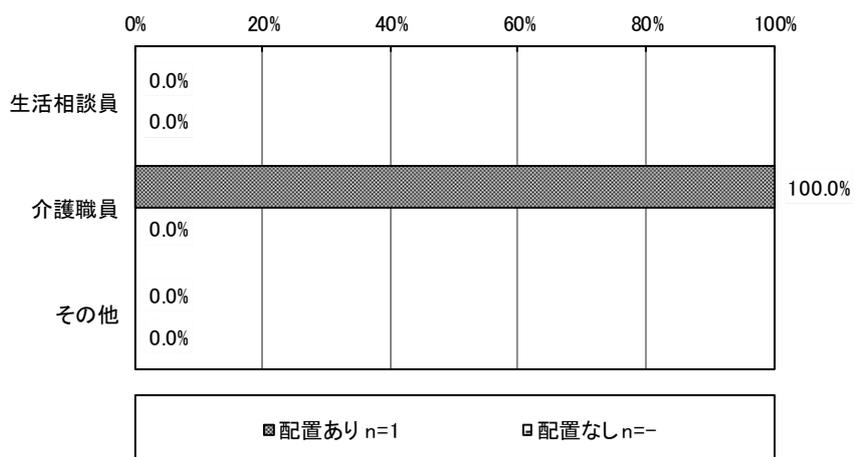
ケ) 機能訓練指導員が過去に実務経験を積んだ事業所および職種(問11-2)

図表 1406 機能訓練指導員が過去に実務経験を積んだ事業所



※その他として挙げられた有効な回答は無し。

図表 1407 実務経験を積んだ職種

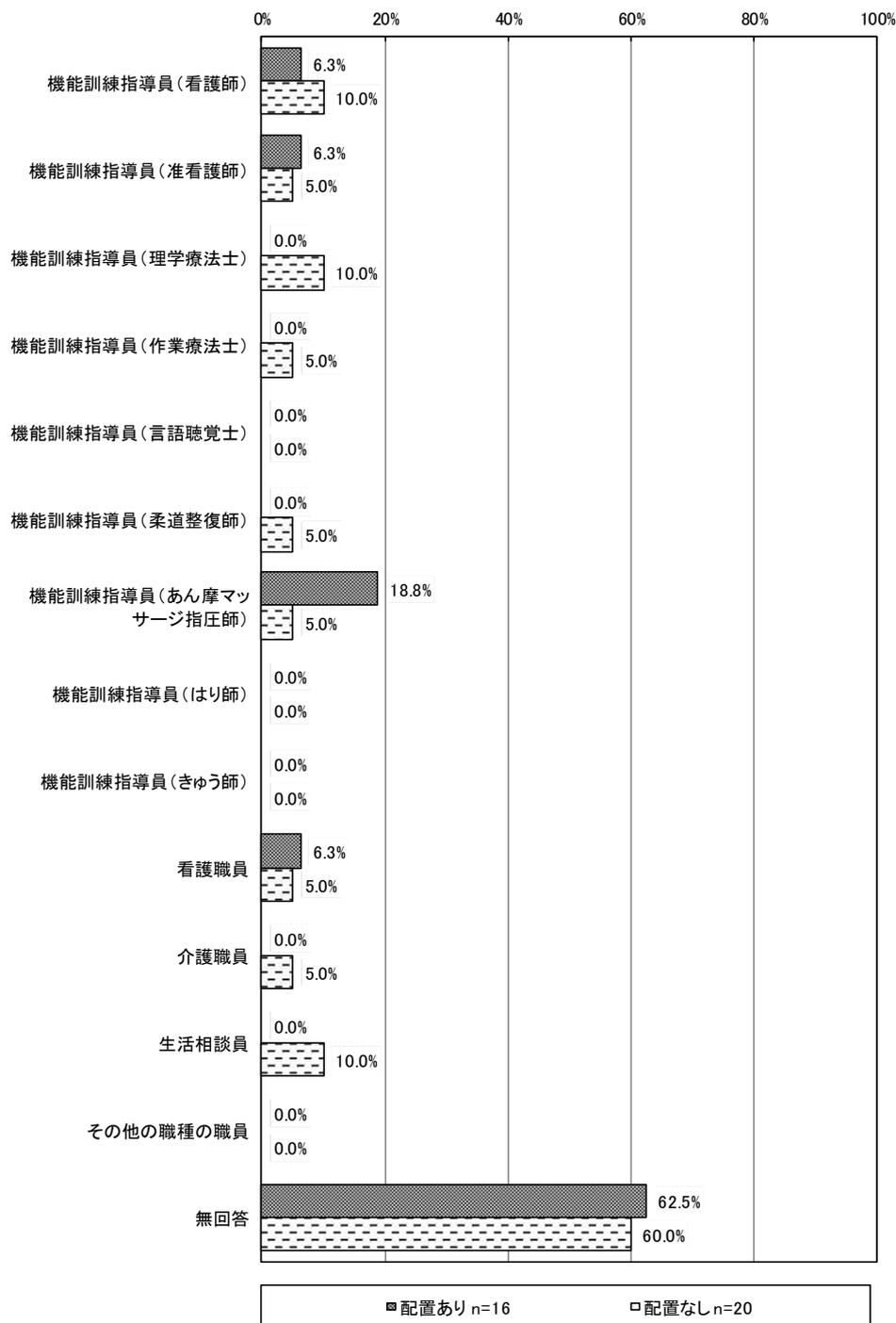


※その他として挙げられた有効な回答は無し。

## II. 機能訓練指導員の状況

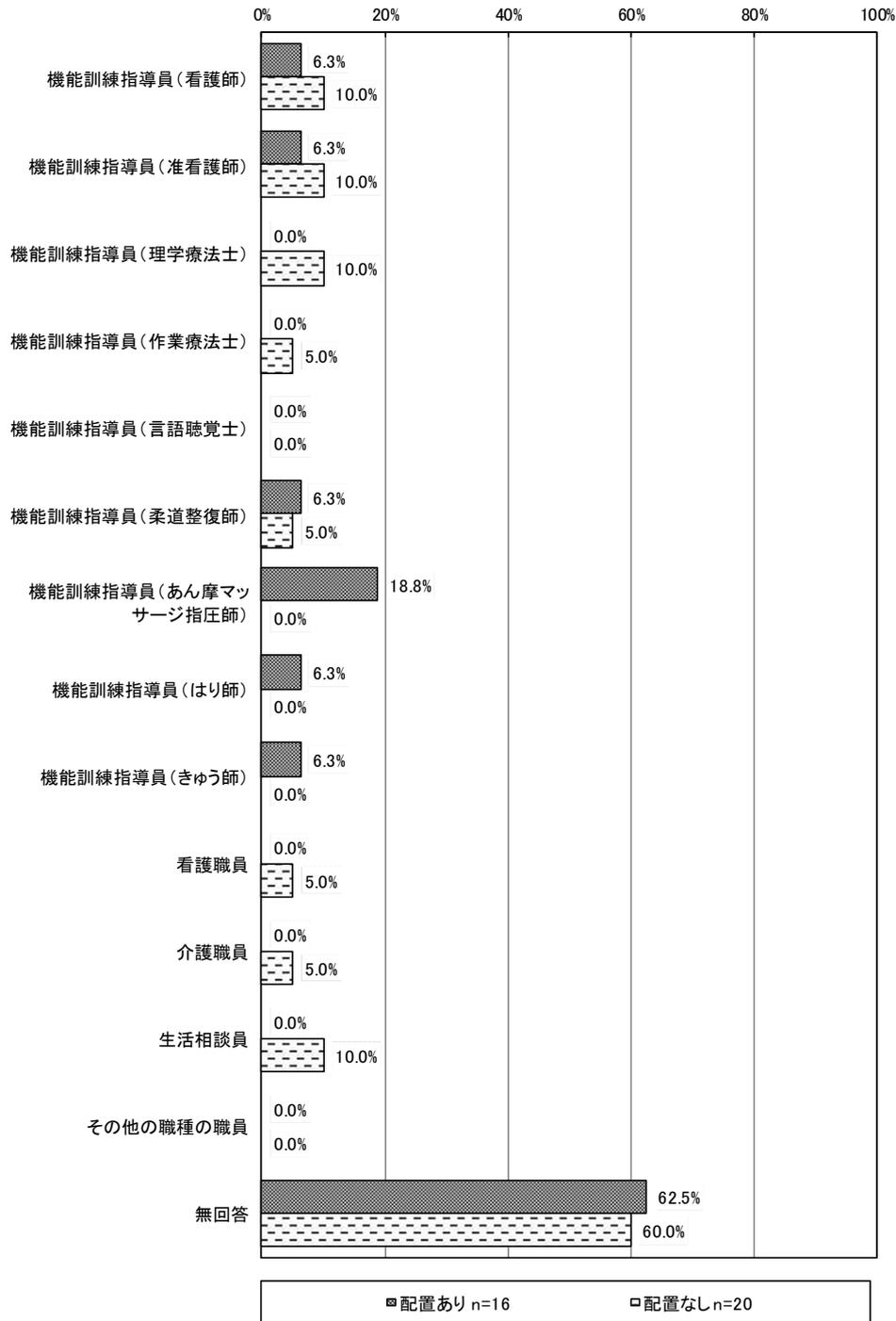
### ア) 平成30年3月と令和元年9月に個別機能訓練計画等を作成したことがある職種（問12）

図表 1408 平成30年3月に個別機能訓練計画等を作成したことがある職種



※その他の職種の職員として挙げられた有効な回答はなし。

図表 1409 令和元年9月に個別機能訓練計画等を作成したことがある職種



※その他の職種の職員として挙げられた有効な回答はなし。

イ) 令和元年 9 月に計画を作成した機能訓練指導員と利用者の課題の組み合わせ (問 13)

図表 1410 令和元年 9 月に計画を作成した機能訓練指導員と利用者の課題の組み合わせ

(%)

	食事	排泄	入浴	更衣	整容	移乗	屋内移動	階段昇降	屋外移動
配置あり n=7	42.9	28.6	28.6	28.6	28.6	57.1	85.7	14.3	42.9
配置なし n=10	50.0	60.0	50.0	50.0	50.0	70.0	70.0	30.0	40.0

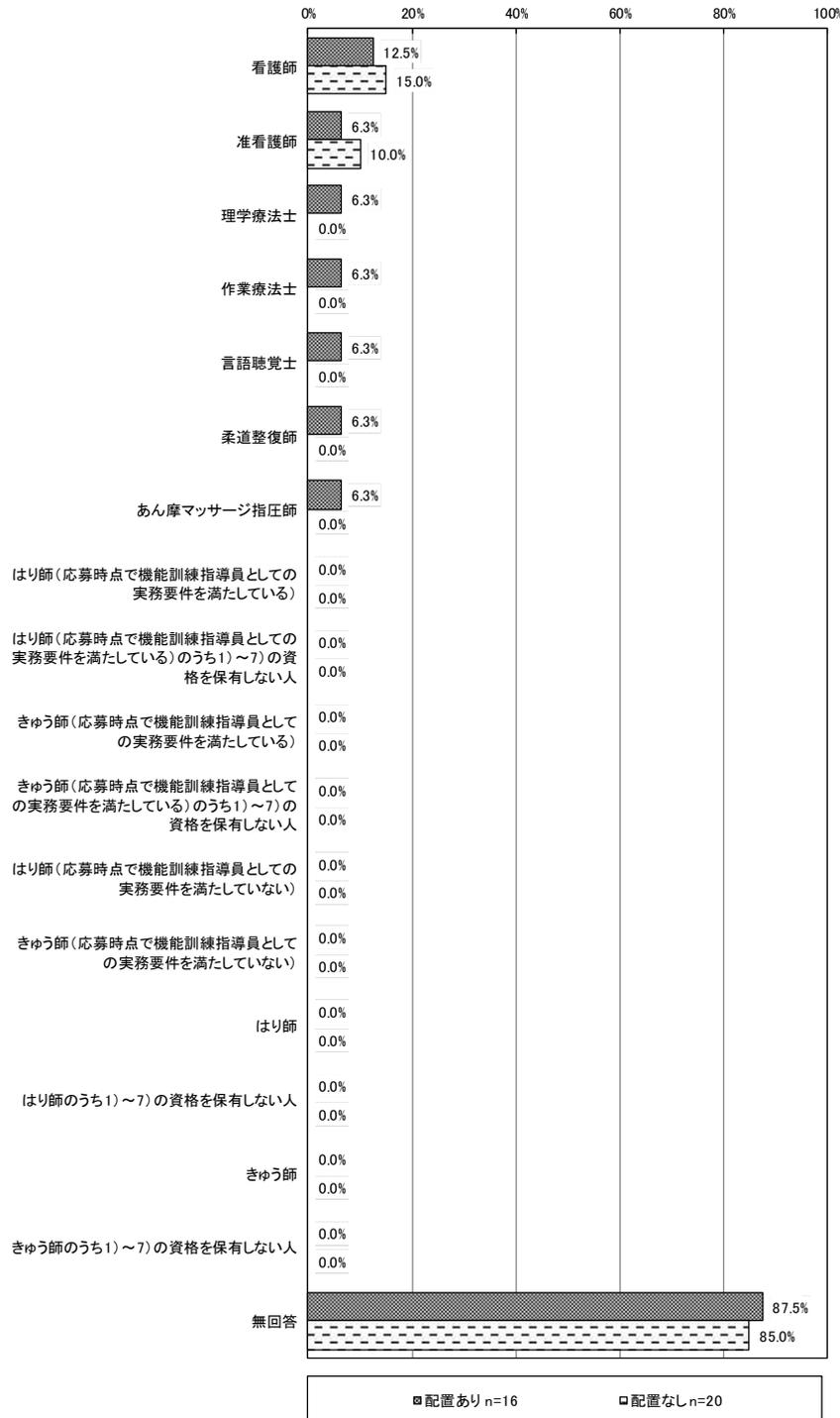
	調理	洗濯	掃除	起き上がり	座位	立ち上がり	立位	福祉用具の利用等による生活環境の改善	家族への介護方法の指導
配置あり n=7	-	-	-	85.7	100.0	100.0	85.7	42.9	-
配置なし n=10	10.0	20.0	20.0	70.0	50.0	80.0	60.0	40.0	30.0

※本設問の集計については、令和元年 9 月の 1 ヶ月間に個別機能訓練計画を作成した機能訓練指導員の人数を分母、その個別機能訓練計画の対象となった利用者の各課題の数を分子とし割合を算出した。

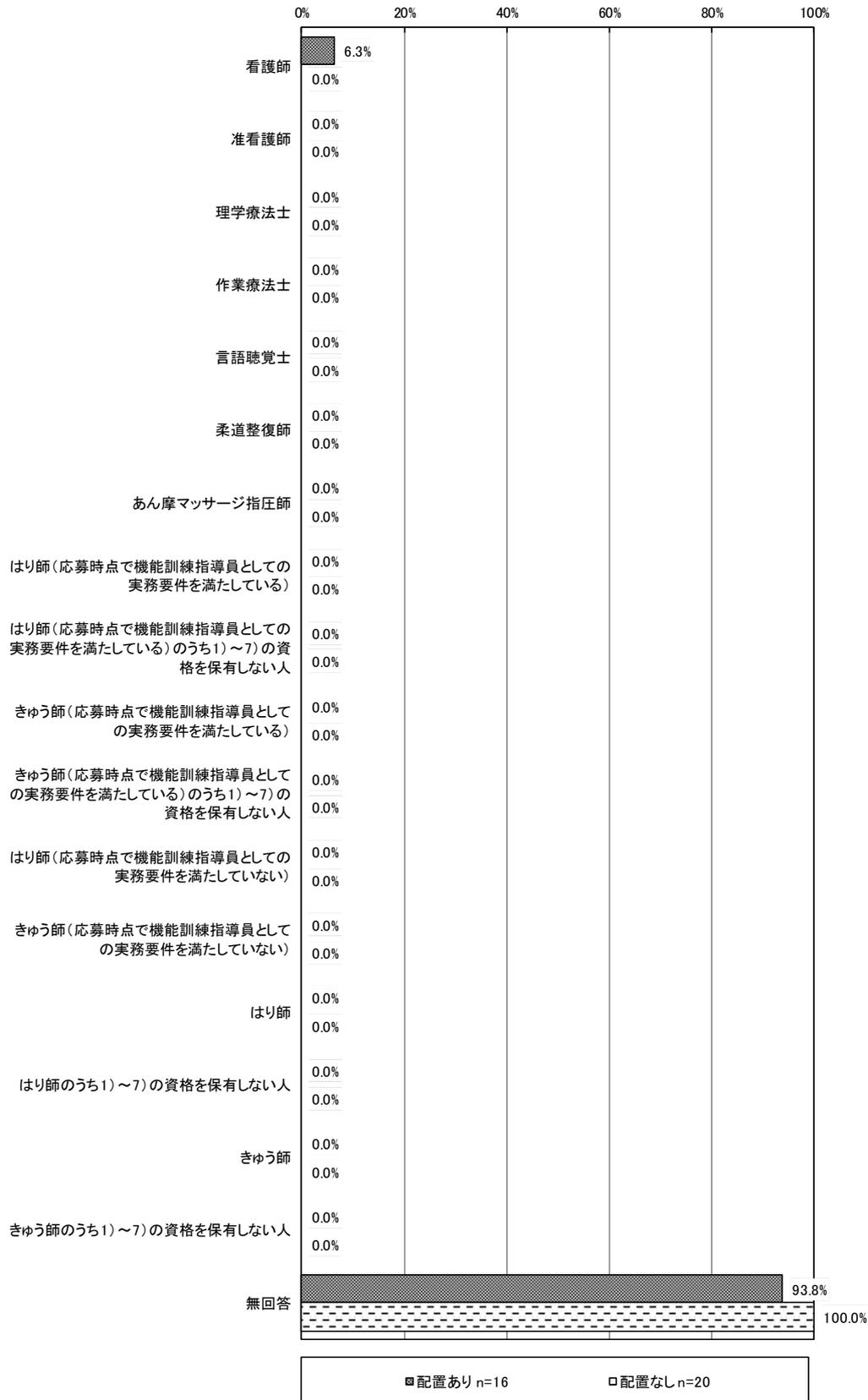
ウ) 機能訓練指導員または機能訓練指導員ではないはり師/きゅう師の募集の有無、応募の有無、および雇用人数(問14)

①平成28年10月～平成30年3月、②平成30年4月～令和元年9月

図表 1411 機能訓練指導員またははり師/きゅう師の募集の有無①



図表 1412 機能訓練指導員またははり師/きゅう師の応募の有無①

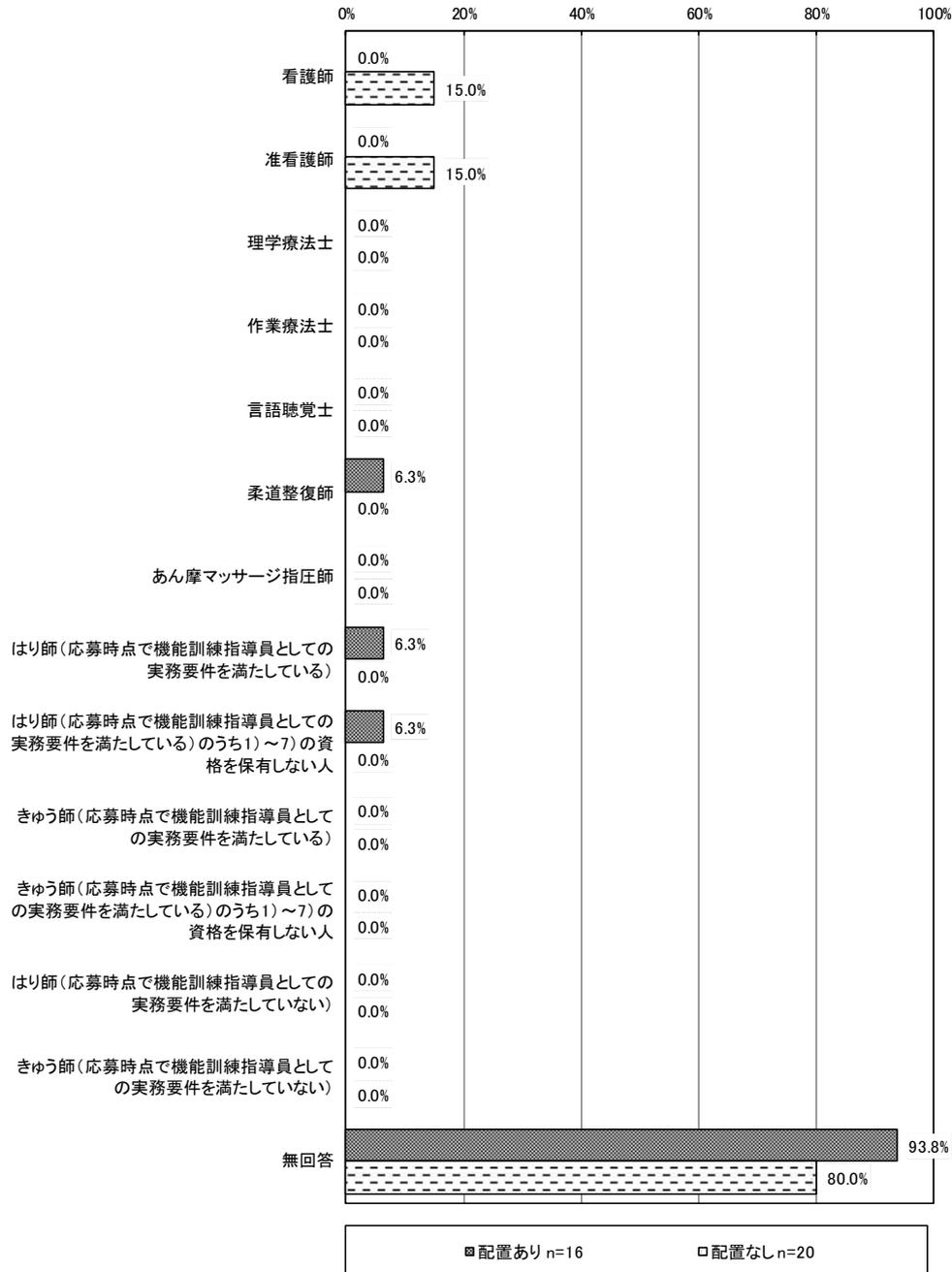


図表 1413 機能訓練指導員またははり師/きゅう師の雇用人数 ①

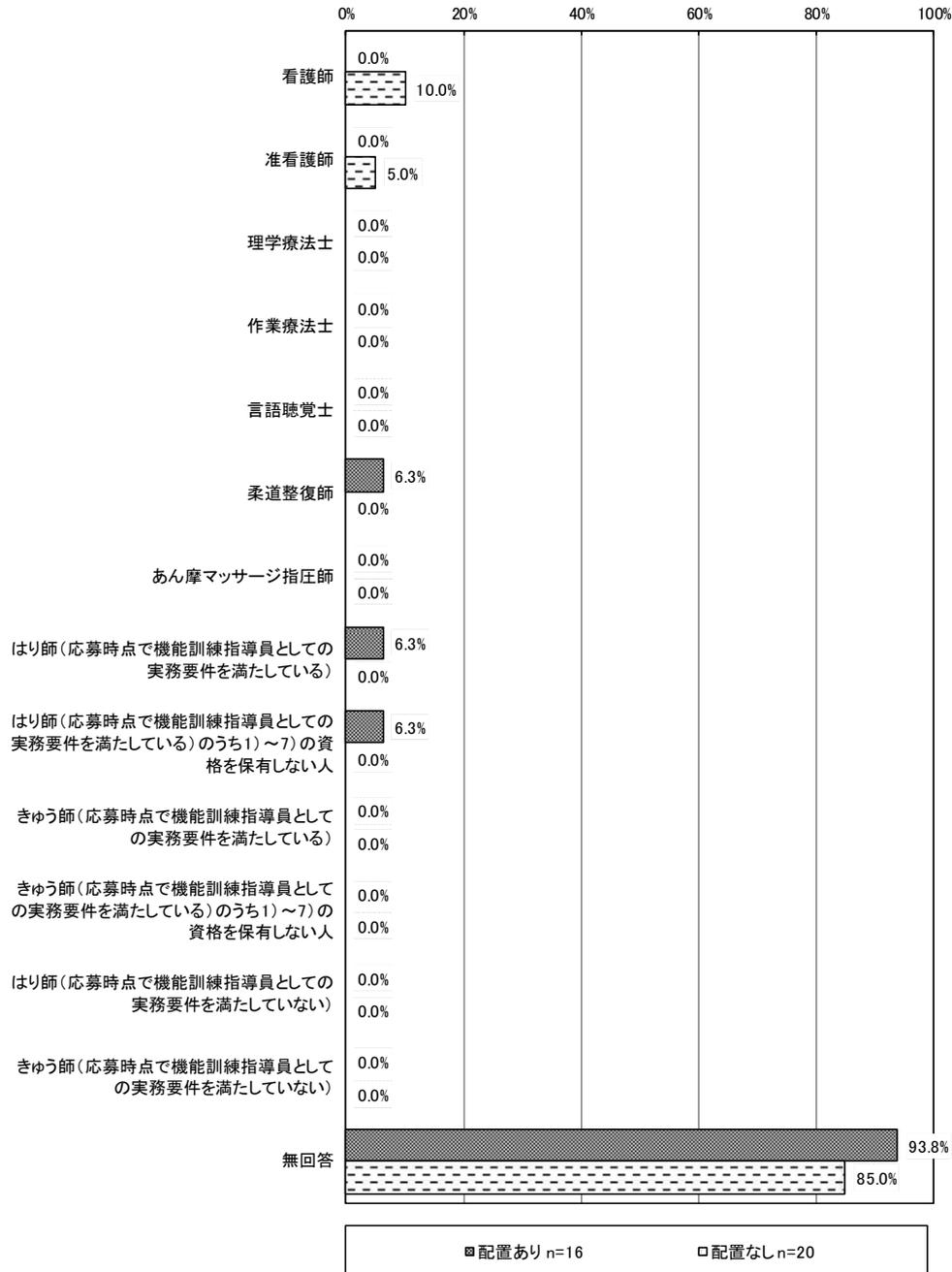
(単位:人)

件数		平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
1) 看護師	配置 n=1	0.0	0.0	0.0	0	0
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
2) 准看護師	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
3) 理学療法士	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
4) 作業療法士	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
5) 言語聴覚士	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
6) 柔道整復師	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
7) あん摩マッサージ指圧師	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
14) はり師	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
15) はり師のうち1)～7)の資格を保有しない人	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
16) きゅう師	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
17) きゅう師のうち1)～7)の資格を保有しない人	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-

図表 1414 機能訓練指導員またははり師/きゅう師の募集の有無②



図表 1415 機能訓練指導員またははり師/きゅう師の応募の有無②



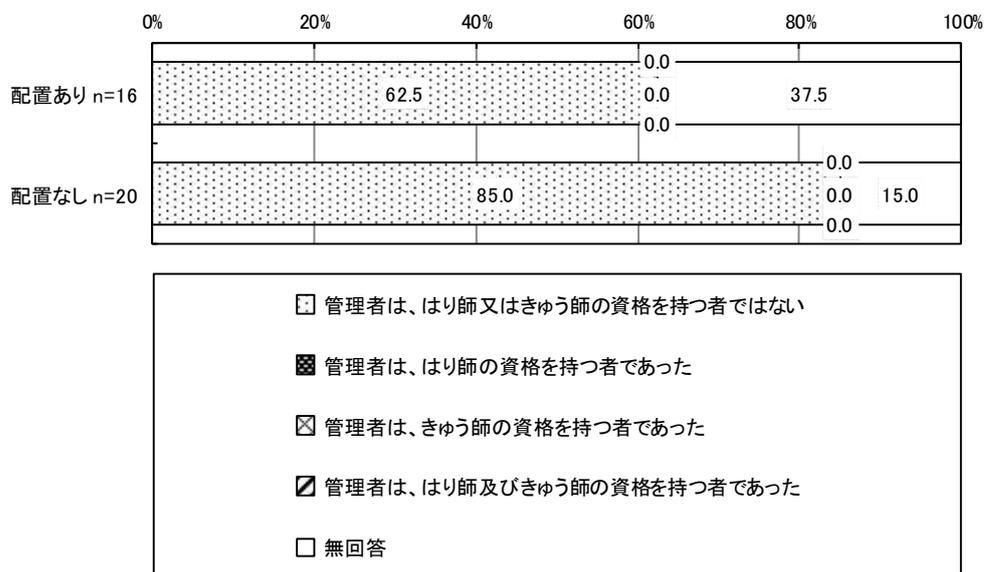
図表 1416 機能訓練指導員またははり師/きゅう師の雇用人数 ②

(単位:人)

件数		平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
1) 看護師	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=2	1.0	0.0	1.0	1	1
2) 准看護師	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=1	1.0	0.0	1.0	1	1
3) 理学療法士	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
4) 作業療法士	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
5) 言語聴覚士	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
6) 柔道整復師	配置 n=1	0.0	0.0	0.0	0	0
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
7) あん摩マッサージ指圧師	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
8) はり師(応募時点で機能訓練指導員としての実務要件を満たしている)	配置 n=1	0.0	0.0	0.0	0	0
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
9) はり師(応募時点で機能訓練指導員としての実務要件を満たしている)のうち1)~7)の資格を保有しない人	配置 n=1	0.0	0.0	0.0	0	0
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
10) きゅう師(応募時点で機能訓練指導員としての実務要件を満たしている)	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
11) きゅう師(応募時点で機能訓練指導員としての実務要件を満たしている)のうち1)~7)の資格を保有しない人	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
12) はり師(応募時点で機能訓練指導員としての実務要件を満たしていない)	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
13) きゅう師(応募時点で機能訓練指導員としての実務要件を満たしていない)	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-

エ) 平成 30 年 3 月時点の管理者のはり師/きゅう師資格 (問 15)

図表 1417 平成 30 年 3 月時点の管理者のはり師/きゅう師資格



オ) 機能訓練指導員の資格があるはり師/きゅう師を雇用した理由 (問 16)

回答は無し。

カ) はり師・きゅう師の追加によるメリット (問 17)

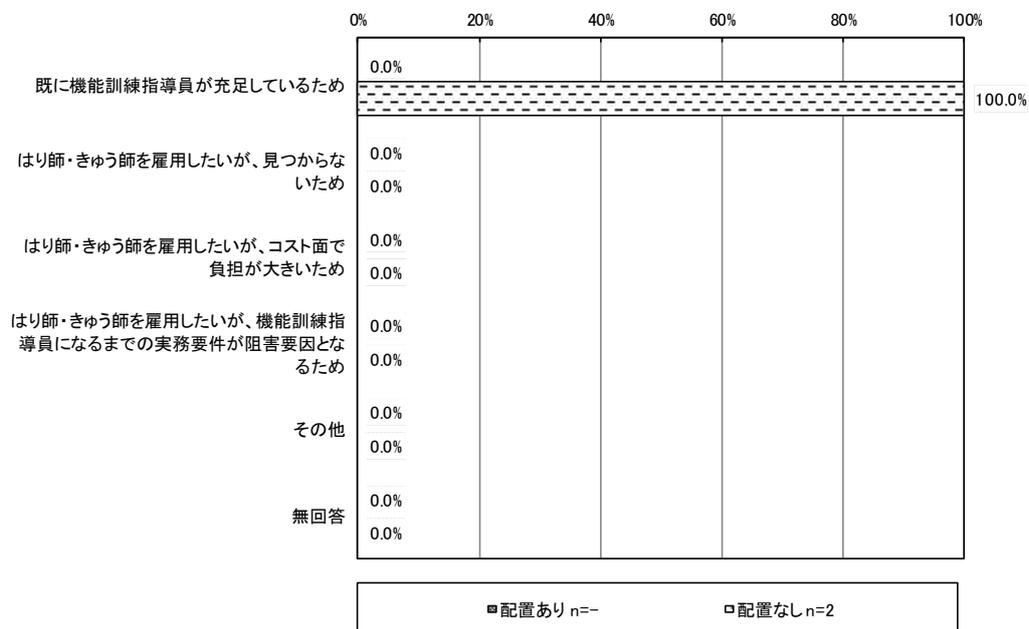
回答は無し。

キ) 機能訓練指導員としての実務要件を満たしていないはり師/きゅう師を雇用した理由 (問 18)

回答は無し。

## ク) はり師/きゅう師の資格のみを有する者を雇用していない理由 (問 19)

図表 1418 はり師/きゅう師の資格のみを有する者を雇用していない理由



※その他として挙げられた有効な回答は無し。

## ケ) 阻害要因となった実務要件 (問 20)

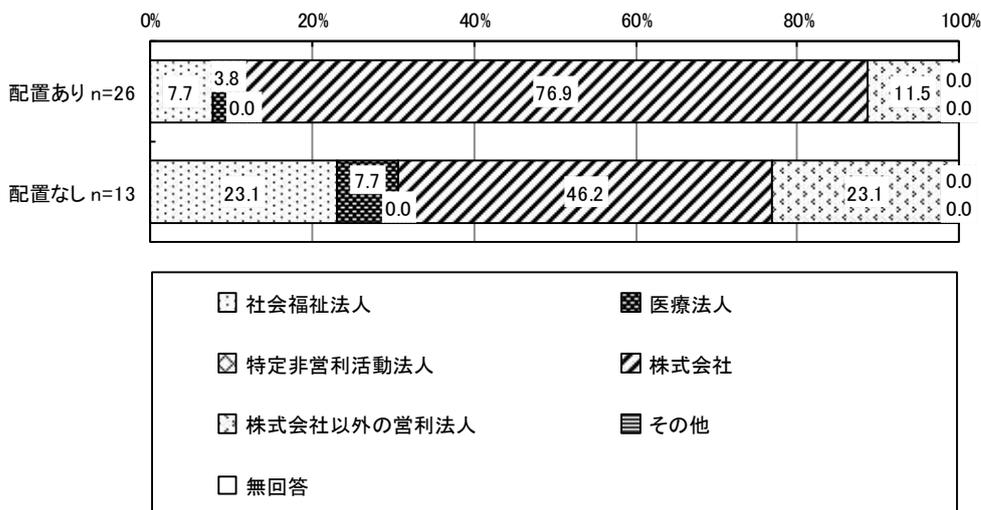
回答は無し。

## 4. 特定施設入居者生活介護

### I. 事業所・施設の基本属性

#### ア) 法人種別 (問 1)

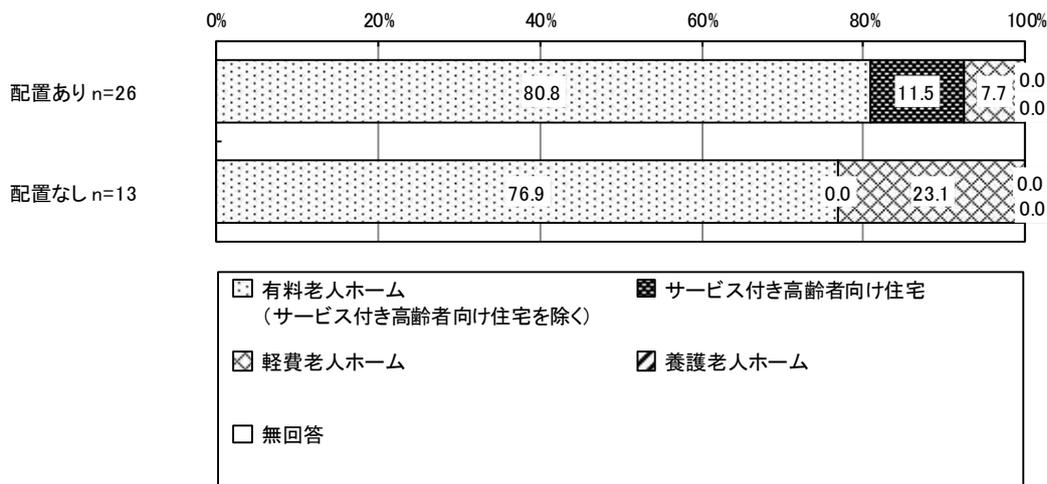
図表 1419 法人種別



※その他として挙げられた有効な回答は無し。

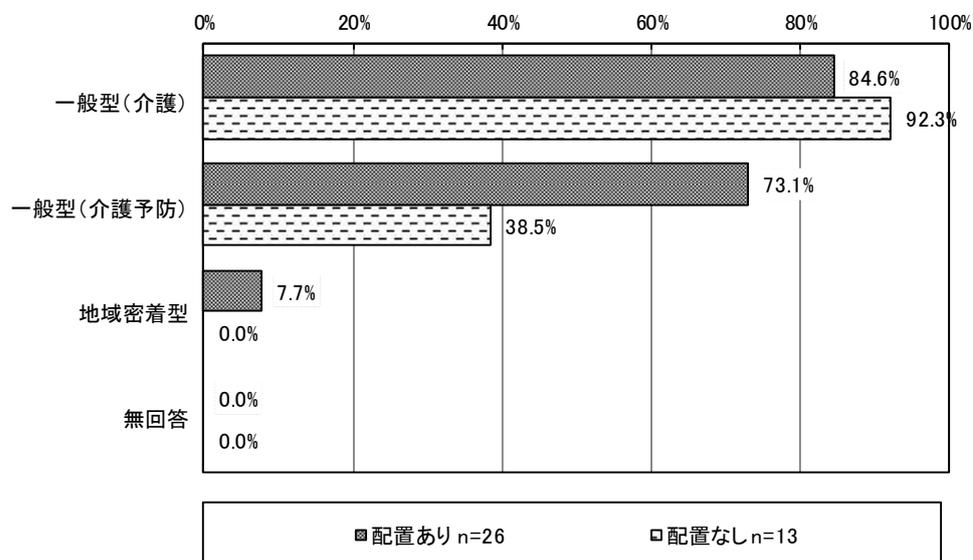
#### イ) 種類・施設区分 (問 2)

図表 1420 種類・施設区分



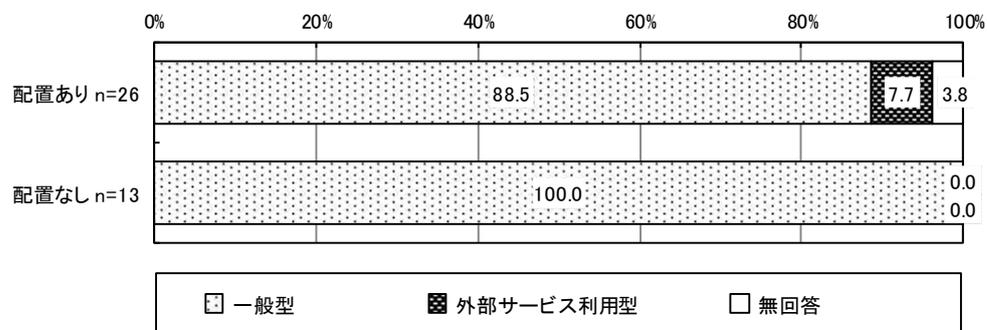
## ウ) 特定施設入居者生活介護の指定 (問 3)

図表 1421 特定施設入居者生活介護の指定



## エ) サービスの提供形態 (問 4)

図表 1422 サービスの提供形態



## オ) 定員数 (問 5)

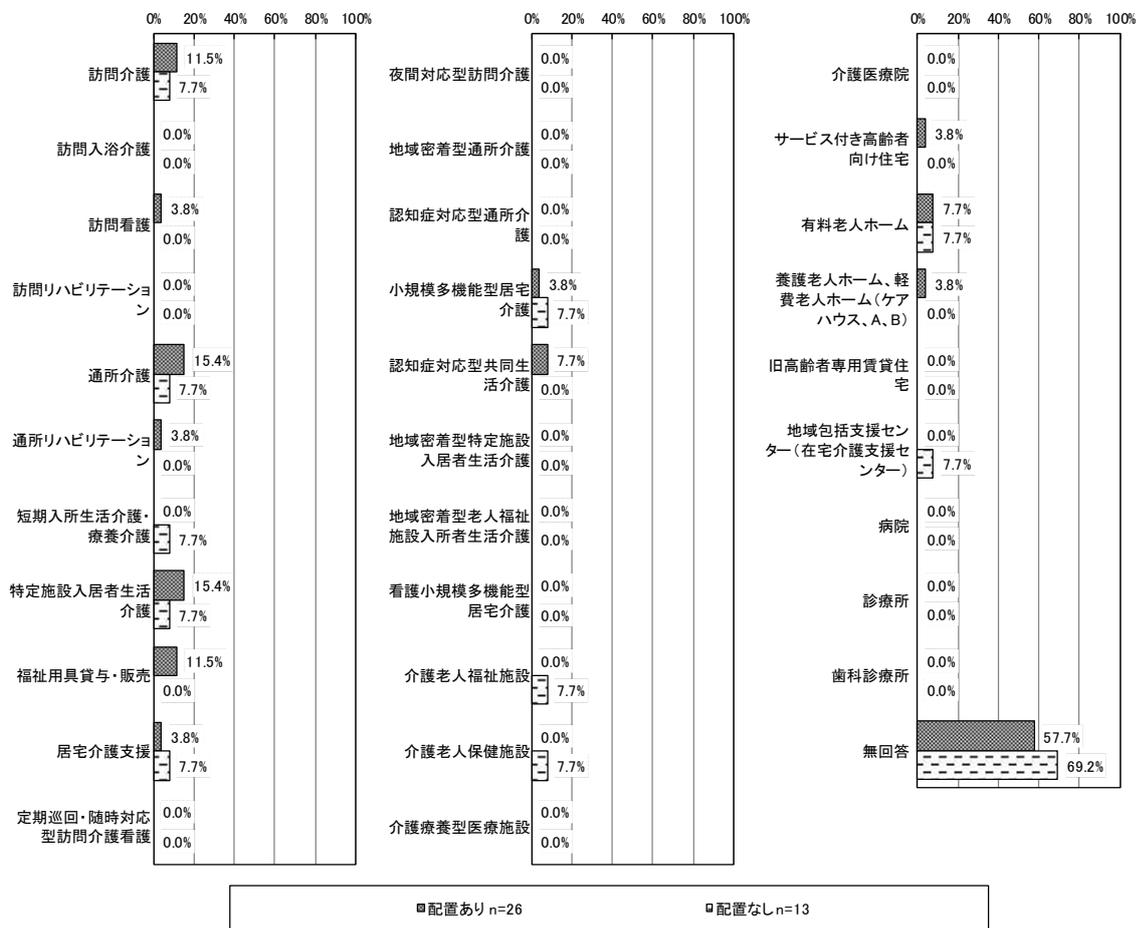
図表 1423 定員数

(単位:人)

件数	平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
配置あり n=24	56.3	32.4	47.5	174	16
配置なし n=12	52.4	29.4	38.5	111	14

# カ) 併設施設サービス (問7)

## 図表 1424 併設施設サービス



キ) 要介護度別利用者数 (問 8)

図表 1425 要介護度別利用者数

(単位:人)

件数		平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
合計	算定 n=25	47.2	28.7	42	160	15
	非算定 n=13	39.3	22.8	33	87	14
要介護1	算定 n=25	10.0	6.6	8	29	0
	非算定 n=13	9.2	5.9	9	23	1
要介護2	算定 n=25	9.8	6.9	8	32	1
	非算定 n=13	8.8	4.7	7	22	4
要介護3	算定 n=25	10.3	6.8	9	35	3
	非算定 n=13	8.9	5.4	7	20	1
要介護4	算定 n=25	9.9	8.8	8	48	0
	非算定 n=13	7.7	6.3	5	21	0
要介護5	算定 n=25	6.2	4.9	5	23	1
	非算定 n=13	4.5	5.0	3	16	0
申請中	算定 n=25	0.8	3.0	0	15	0
	非算定 n=13	0.2	0.6	0	2	0

ク) 認知症高齢者の日常生活自立度別利用者数 (問 9)

図表 1426 認知症高齢者の日常生活自立度別利用者数

(単位:人)

件数		平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
合計	算定 n=24	50.9	31.7	46	170	15
	非算定 n=9	37.0	16.4	33	78	14
自立	算定 n=24	3.5	5.4	1.5	25	0
	非算定 n=9	4.6	4.5	3	16	0
I	算定 n=24	8.0	6.3	7.5	24	0
	非算定 n=9	6.4	4.6	6	17	0
II a	算定 n=24	6.5	6.2	4	24	0
	非算定 n=9	5.4	4.9	5	14	0
II b	算定 n=24	10.7	7.8	10	33	0
	非算定 n=9	7.9	4.2	6	17	3
III a	算定 n=24	11.8	12.5	7	59	2
	非算定 n=9	5.3	4.2	4	13	0
III b	算定 n=24	4.2	4.7	3	19	0
	非算定 n=9	2.4	3.4	1	11	0
IV	算定 n=24	5.0	3.8	4	14	0
	非算定 n=9	4.1	5.8	2	19	0
M	算定 n=24	1.1	1.8	0	8	0
	非算定 n=9	0.8	1.1	0	3	0

ケ) 職員数 (問 10)

図表 1427 職員数

(単位:人)

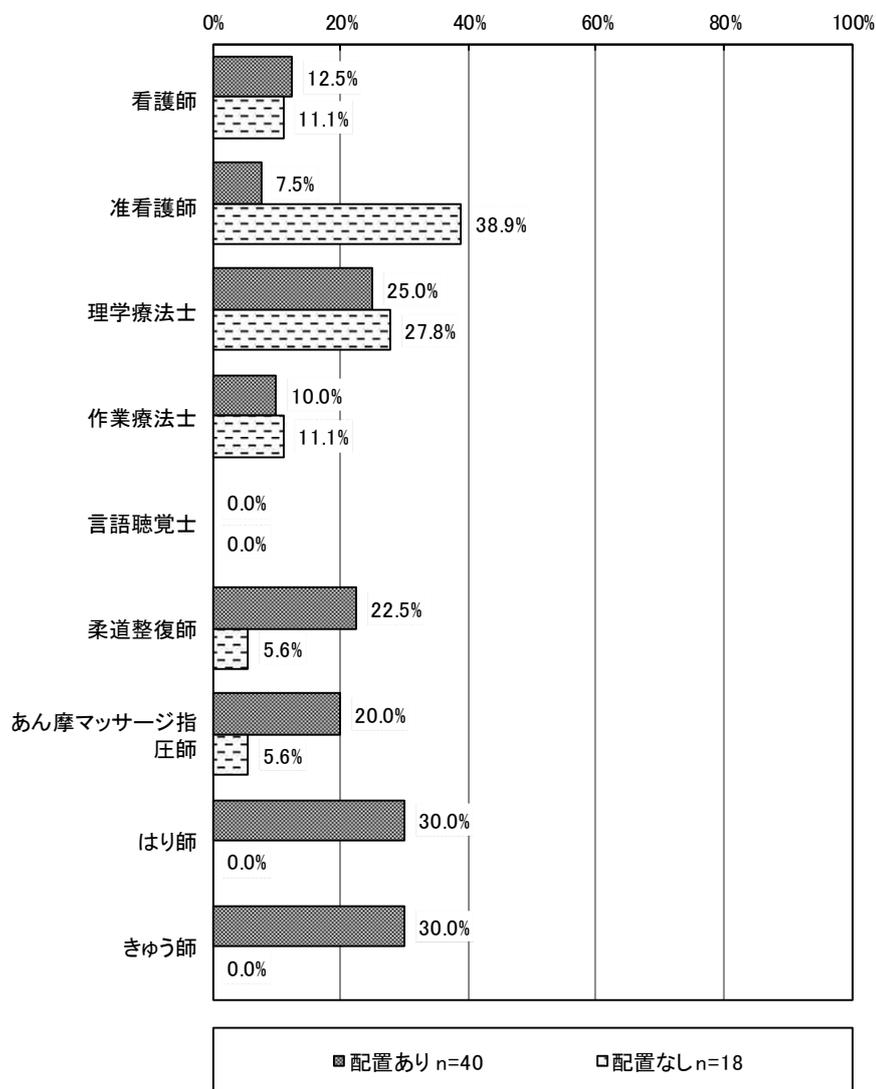
件数			平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
計画作成担当者	常勤職員	配置あり n=25	0.9	0.6	1	2	0
		配置なし n=13	0.9	0.7	1	2	0
	非常勤職員	配置あり n=23	0.2	0.6	0	2	0
		配置なし n=13	0.2	0.4	0	1	0
	常勤換算人数	配置あり n=25	0.7	0.7	0.5	2.1	0.0
		配置なし n=12	0.7	0.6	0.8	2.0	0.0
機能訓練指導員	常勤職員	配置あり n=25	0.8	0.8	1	3	0
		配置なし n=13	0.9	0.8	1	3	0
	非常勤職員	配置あり n=23	0.7	0.8	1	3	0
		配置なし n=13	0.4	0.6	0	2	0
	常勤換算人数	配置あり n=25	0.7	0.8	0.4	2.8	0.0
		配置なし n=12	0.6	0.8	0.4	3.0	0.0
生活相談員	常勤職員	配置あり n=25	1.2	0.5	1	2	0
		配置なし n=13	1.3	0.5	1	2	1
	非常勤職員	配置あり n=23	0.1	0.5	0	2	0
		配置なし n=13	0.0	0.0	0	0	0
	常勤換算人数	配置あり n=25	0.9	0.5	1.0	1.9	0.0
		配置なし n=12	1.0	0.6	1.0	2.0	0.0
サービス提供責任者	常勤職員	配置あり n=25	0.0	0.2	0	1	0
		配置なし n=13	0.1	0.3	0	1	0
	非常勤職員	配置あり n=23	0.0	0.0	0	0	0
		配置なし n=13	0.0	0.0	0	0	0
	常勤換算人数	配置あり n=25	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		配置なし n=12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
医師	常勤職員	配置あり n=25	0.0	0.0	0	0	0
		配置なし n=13	0.0	0.0	0	0	0
	非常勤職員	配置あり n=23	0.0	0.2	0	1	0
		配置なし n=13	0.1	0.3	0	1	0
	常勤換算人数	配置あり n=25	0.0	0.2	0.0	1.0	0.0
		配置なし n=12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
看護職員	常勤職員	配置あり n=25	1.8	1.2	2	5	0
		配置なし n=13	2.9	3.9	2	16	0
	非常勤職員	配置あり n=23	1.5	1.6	1	5	0
		配置なし n=13	1.5	1.6	1	5	0
	常勤換算人数	配置あり n=25	2.2	1.8	2.0	8.2	0.0
		配置なし n=12	3.4	4.2	2.2	16.8	0.0

(単位:人)

件数		平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値	
介護支援専門員	常勤職員	配置あり n=25	0.8	0.7	1	2	0
		配置なし n=13	1.0	0.8	1	2	0
	非常勤職員	配置あり n=23	0.4	0.7	0	2	0
		配置なし n=13	0.2	0.4	0	1	0
	常勤換算人数	配置あり n=25	0.6	0.6	0.5	2.1	0.0
		配置なし n=12	0.5	0.6	0.3	2.0	0.0
介護職員	常勤職員	配置あり n=25	13.1	6.7	13	26	0
		配置なし n=13	14.5	10.3	13	36	2
	非常勤職員	配置あり n=23	11.3	10.3	9	38	0
		配置なし n=13	7.6	5.4	6	24	2
	常勤換算人数	配置あり n=25	17.0	10.8	17.3	43.8	0.0
		配置なし n=12	14.9	12.6	9.5	41.4	0.0
栄養士	常勤職員	配置あり n=25	0.3	0.5	0	1	0
		配置なし n=13	0.5	0.8	0	3	0
	非常勤職員	配置あり n=23	0.0	0.2	0	1	0
		配置なし n=13	0.0	0.0	0	0	0
	常勤換算人数	配置あり n=25	0.3	0.5	0.0	1.0	0.0
		配置なし n=12	0.4	0.9	0.0	3.0	0.0
調理員	常勤職員	配置あり n=25	0.7	1.5	0	6	0
		配置なし n=13	0.5	1.1	0	3	0
	非常勤職員	配置あり n=23	2.1	3.5	0	12	0
		配置なし n=13	1.5	2.9	0	8	0
	常勤換算人数	配置あり n=25	0.8	1.9	0.0	6.5	0.0
		配置なし n=12	1.7	2.9	0.0	9.2	0.0
オペレーター	常勤職員	配置あり n=25	0.0	0.0	0	0	0
		配置なし n=13	0.2	0.5	0	2	0
	非常勤職員	配置あり n=23	0.1	0.6	0	3	0
		配置なし n=13	0.0	0.0	0	0	0
	常勤換算人数	配置あり n=25	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		配置なし n=12	0.2	0.6	0.0	2.0	0.0
全職員数	常勤職員	配置あり n=25	19.6	8.2	20	40	5
		配置なし n=13	22.9	14.4	21	59	7
	非常勤職員	配置あり n=23	16.6	11.5	12	47	2
		配置なし n=13	11.5	7.6	10	34	4
	常勤換算人数	配置あり n=25	23.1	13.2	23.2	59.2	1.5
		配置なし n=12	23.4	20.7	16.2	79.4	5.0

## コ) 機能訓練指導員の保有する資格（問 11）

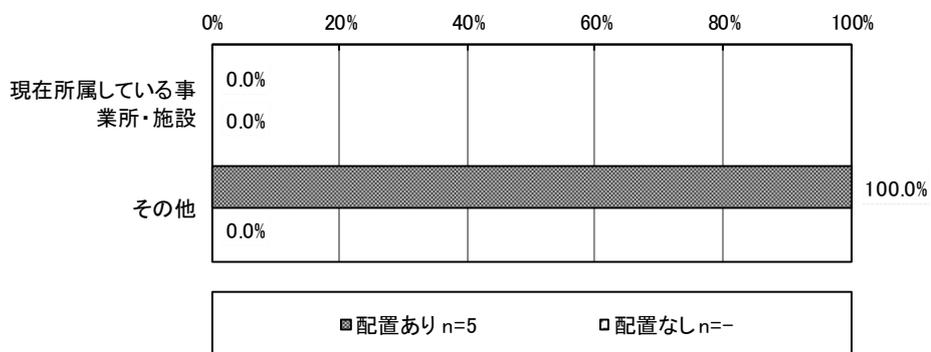
図表 1428 機能訓練指導員の保有する資格



※本設問の集計については、事業所・施設に登録されている機能訓練指導員の数を分母、その機能訓練指導員が保有する各資格の数を分子とし割合を算出した。

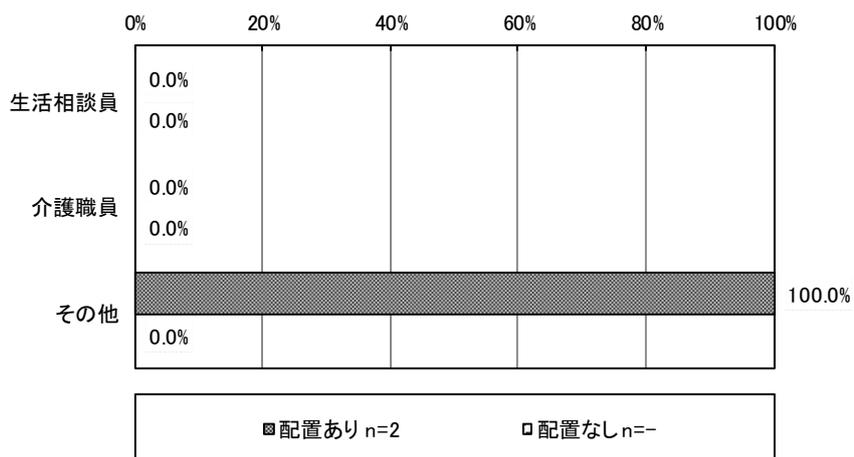
サ) 機能訓練指導員が過去に実務経験を積んだ事業所および職種(問11-2)

図表 1429 機能訓練指導員が過去に実務経験を積んだ事業所



※その他として挙げられた有効な回答は無し。

図表 1430 実務経験を積んだ職種

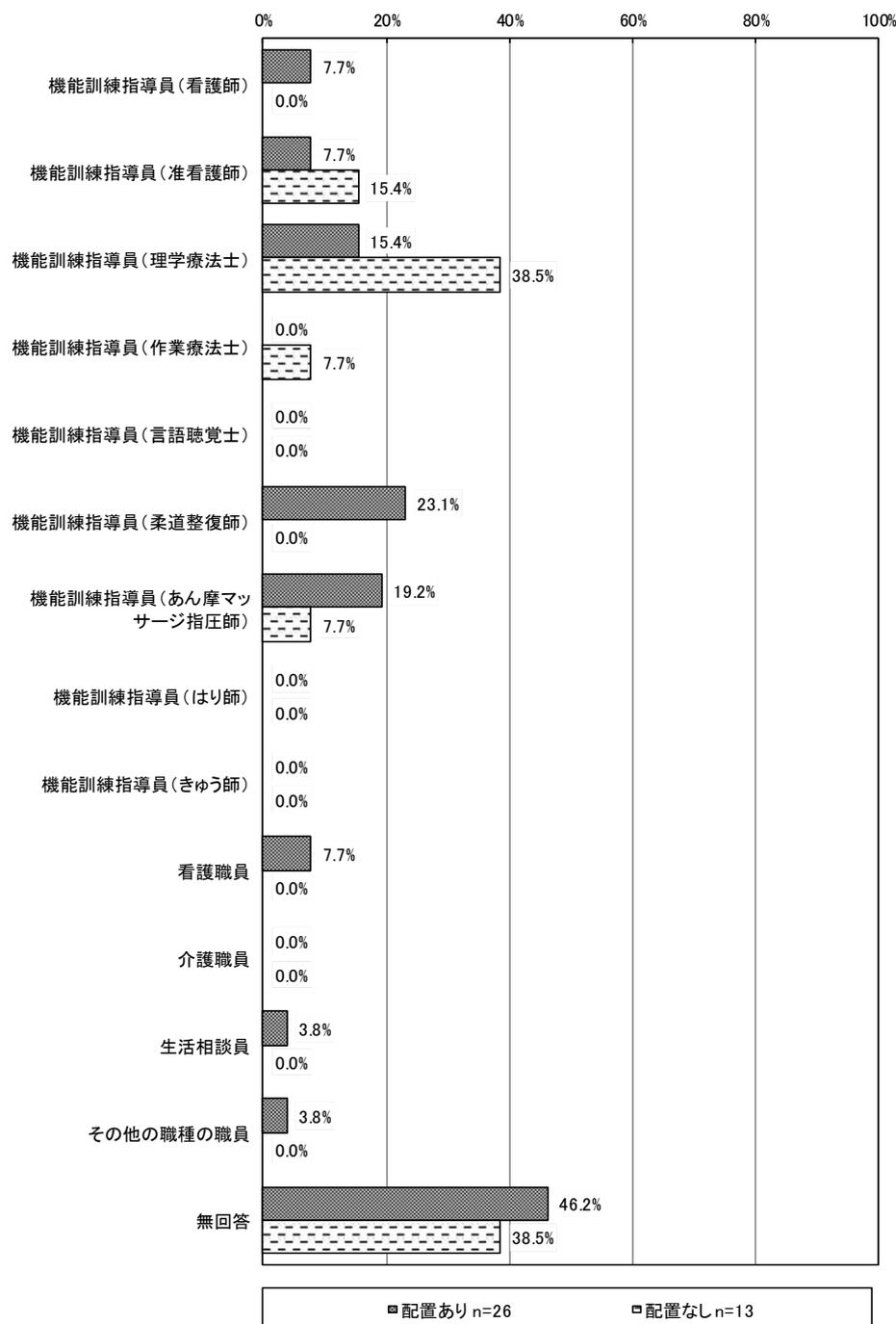


※その他として挙げられた有効な回答は無し。

## Ⅱ. 機能訓練指導員の状況

### ア) 平成30年3月と令和元年9月に個別機能訓練計画等を作成したことがある職種（問12）

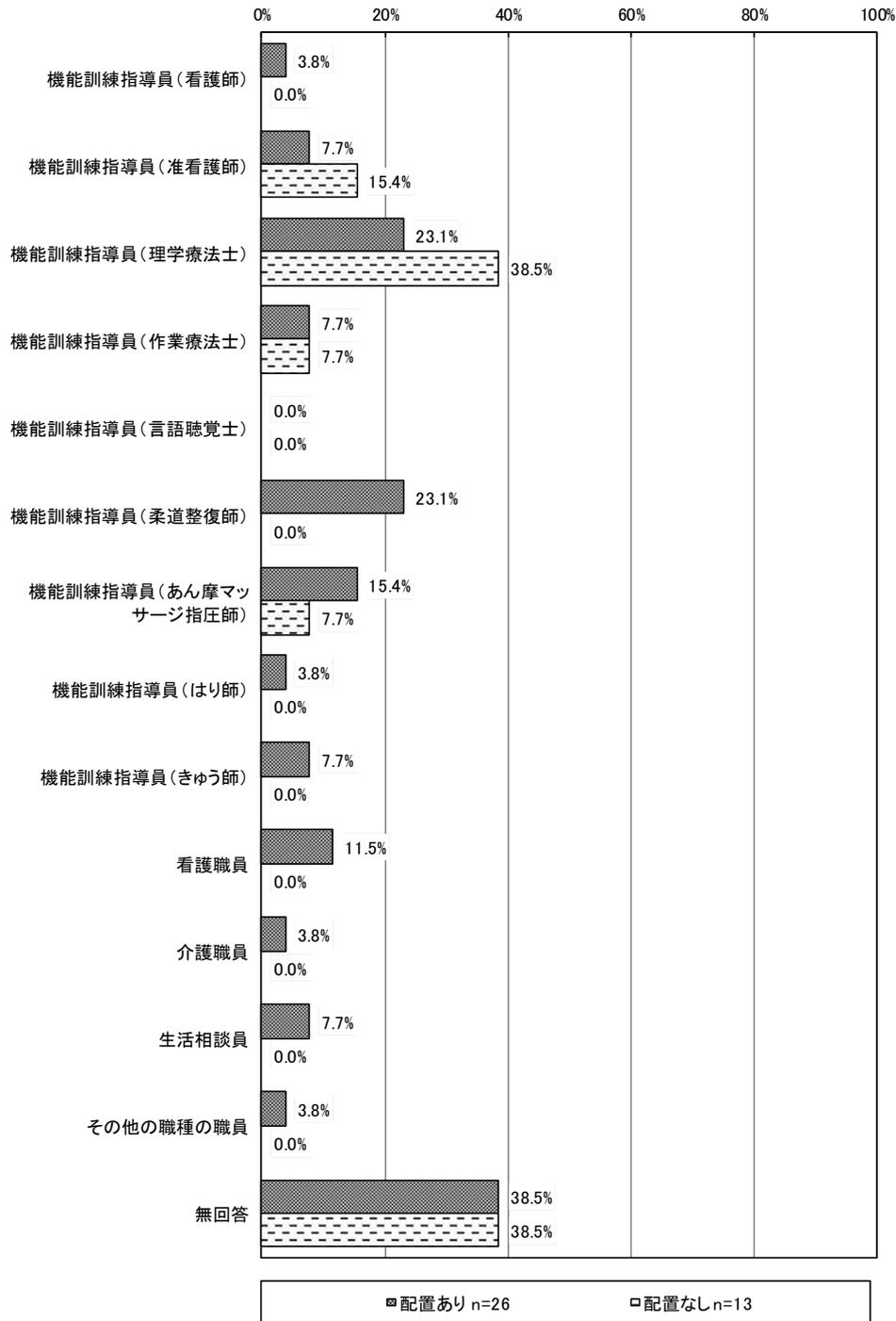
図表 1431 平成30年3月に個別機能訓練計画等を作成したことがある職種



※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。

- ・(配置あり) 介護支援専門員

図表 1432 令和元年9月に個別機能訓練計画等を作成したことがある職種



※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。(配置なしは有効な回答無し)

- ・(配置あり) 介護支援専門員

イ) 令和元年 9 月に計画を作成した機能訓練指導員と利用者の課題の組み合わせ (問 13)

図表 1433 令和元年 9 月に計画を作成した機能訓練指導員と利用者の課題の組み合わせ

(%)

	食事	排泄	入浴	更衣	整容	移乗	屋内移動	階段昇降	屋外移動
配置あり n=28	28.6	35.7	25.0	25.0	17.9	64.3	78.6	46.4	42.9
配置なし n=10	40.0	40.0	20.0	20.0	-	70.0	90.0	20.0	40.0

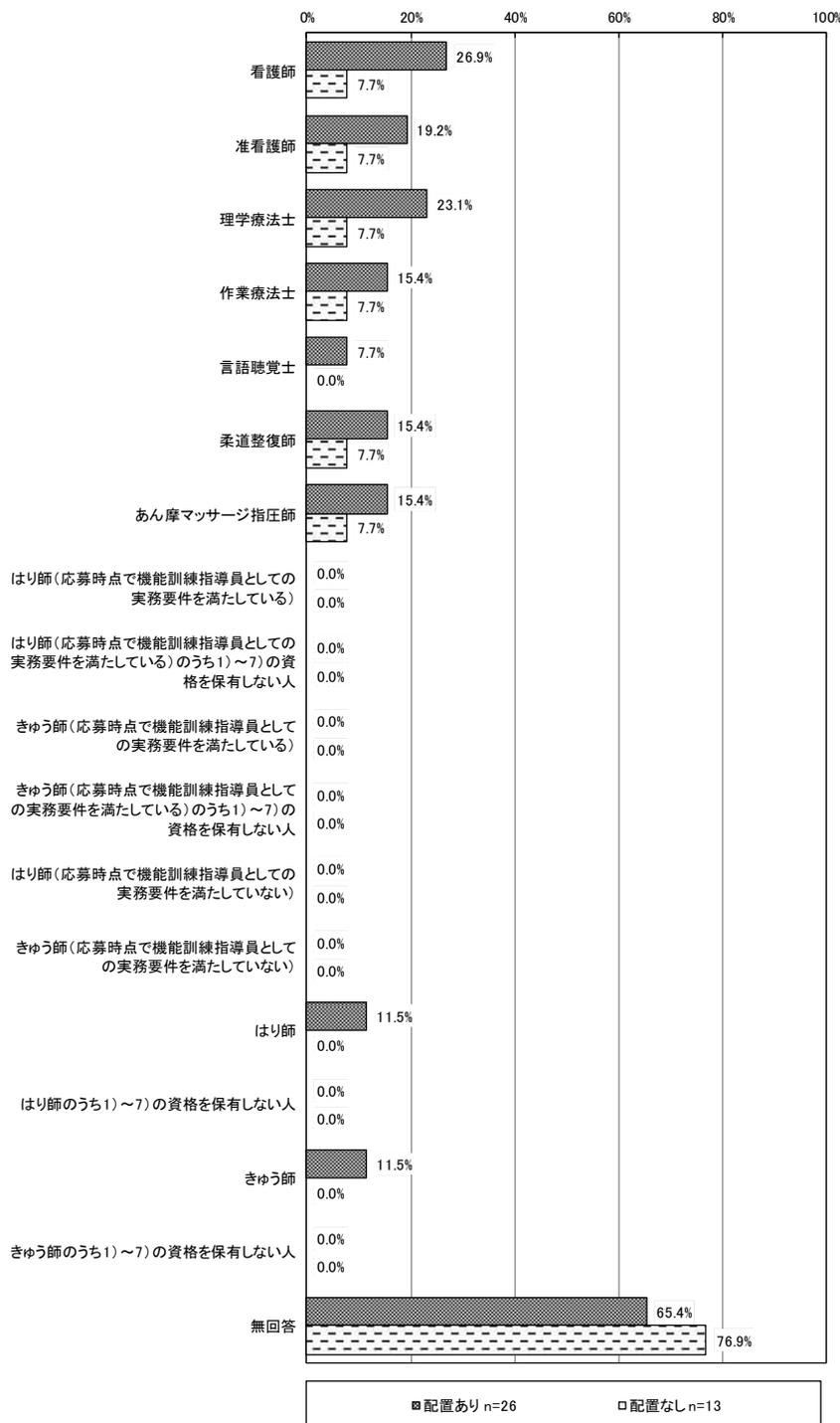
	調理	洗濯	掃除	起き上がり	座位	立ち上がり	立位	福祉用具の利用等による生活環境の改善	家族への介護方法の指導
配置あり n=28	-	7.1	3.6	67.9	71.4	78.6	89.3	64.3	10.7
配置なし n=10	10.0	10.0	-	40.0	70.0	90.0	80.0	60.0	10.0

※本設問の集計については、令和元年 9 月の 1 ヶ月間に個別機能訓練計画を作成した機能訓練指導員の人数を分母、その個別機能訓練計画の対象となった利用者の各課題の数を分子とし割合を算出した。

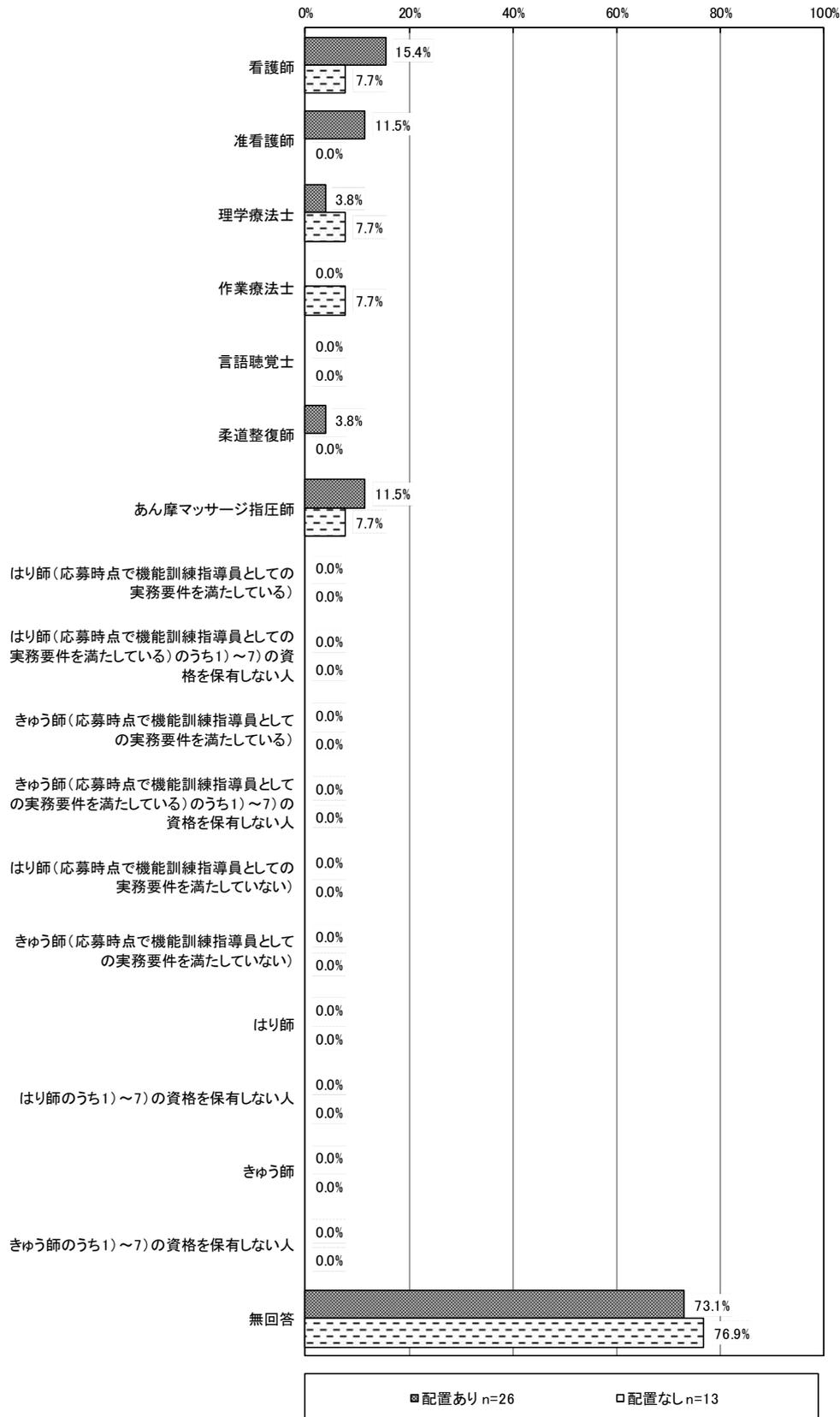
ウ) 機能訓練指導員または機能訓練指導員ではないはり師/きゅう師の募集の有無、応募の有無、および雇用人数(問14)

①平成28年10月～平成30年3月、②平成30年4月～令和元年9月

図表1434 機能訓練指導員またははり師/きゅう師の募集の有無 ①



図表 1435 機能訓練指導員またははり師/きゅう師の応募の有無 ①

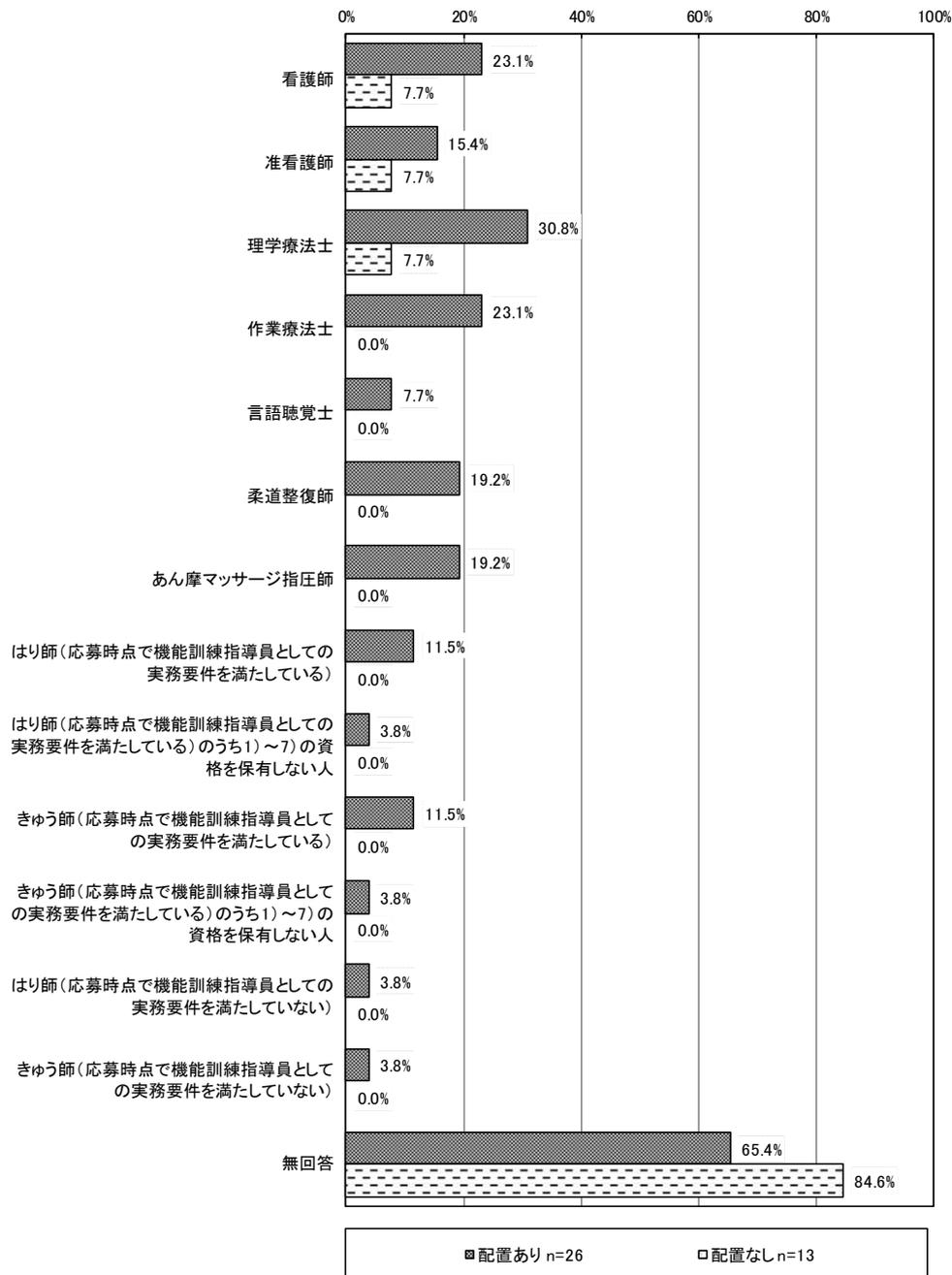


図表 1436 機能訓練指導員またははり師/きゅう師の雇用人数 ①

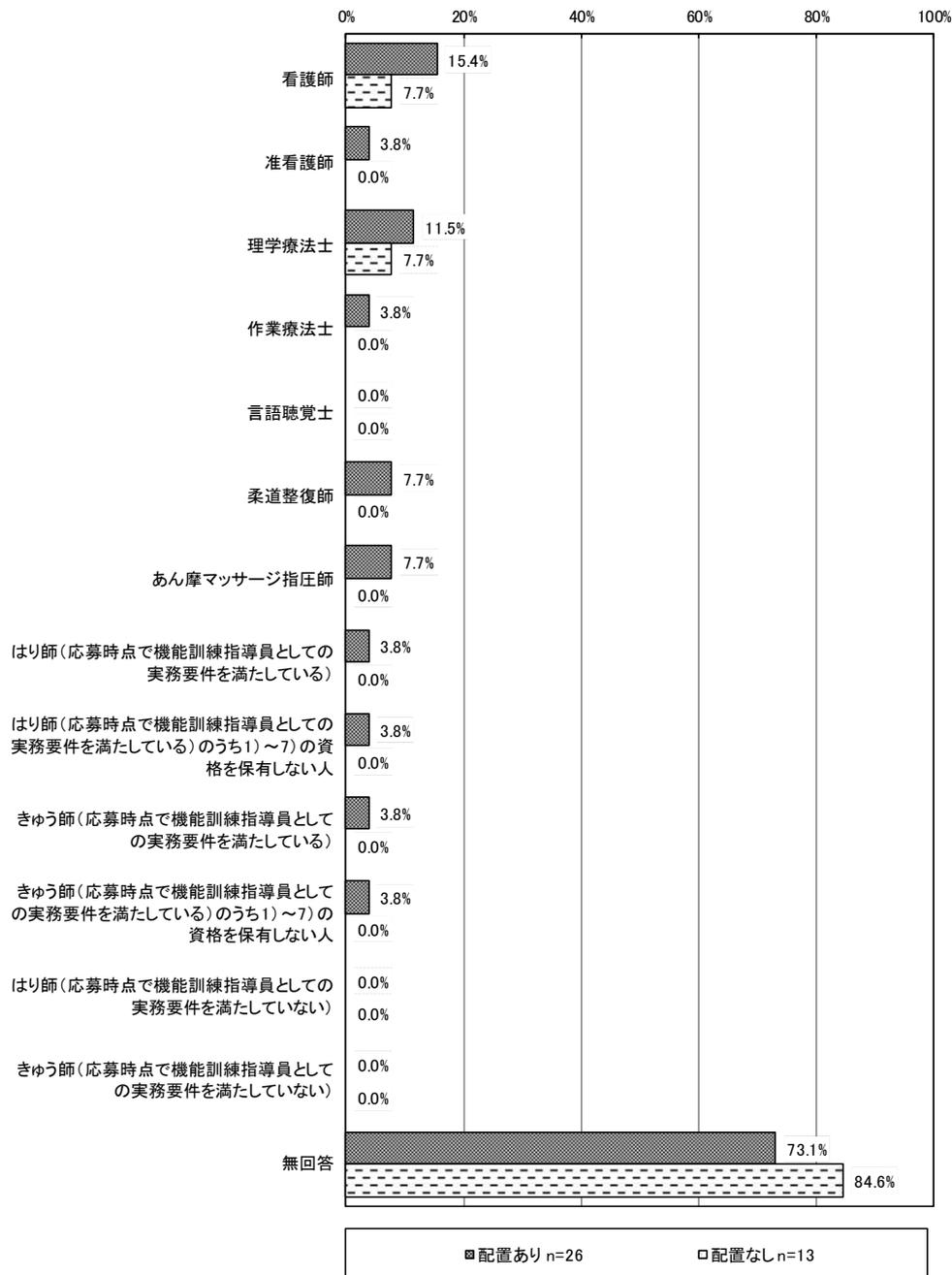
(単位:人)

件数		平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
1) 看護師	配置 n=3	2.0	1.4	1.0	4	1
	非配置 n=1	1.0	0.0	1.0	1	1
2) 准看護師	配置 n=2	2.0	0.0	2.0	2	2
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
3) 理学療法士	配置 n=1	2.0	0.0	2.0	2	2
	非配置 n=1	1.0	0.0	1.0	1	1
4) 作業療法士	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=1	1.0	0.0	1.0	1	1
5) 言語聴覚士	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
6) 柔道整復師	配置 n=1	1.0	0.0	1.0	1	1
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
7) あん摩マッサージ指圧師	配置 n=2	1.0	0.0	1.0	1	1
	非配置 n=1	1.0	0.0	1.0	1	1
14) はり師	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
15) はり師のうち1)～7)の資格を保有しない人	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
16) きゅう師	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
17) きゅう師のうち1)～7)の資格を保有しない人	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-

図表 1437 機能訓練指導員またははり師/きゅう師の募集の有無 ②



図表 1438 機能訓練指導員またははり師/きゅう師の応募の有無 ②



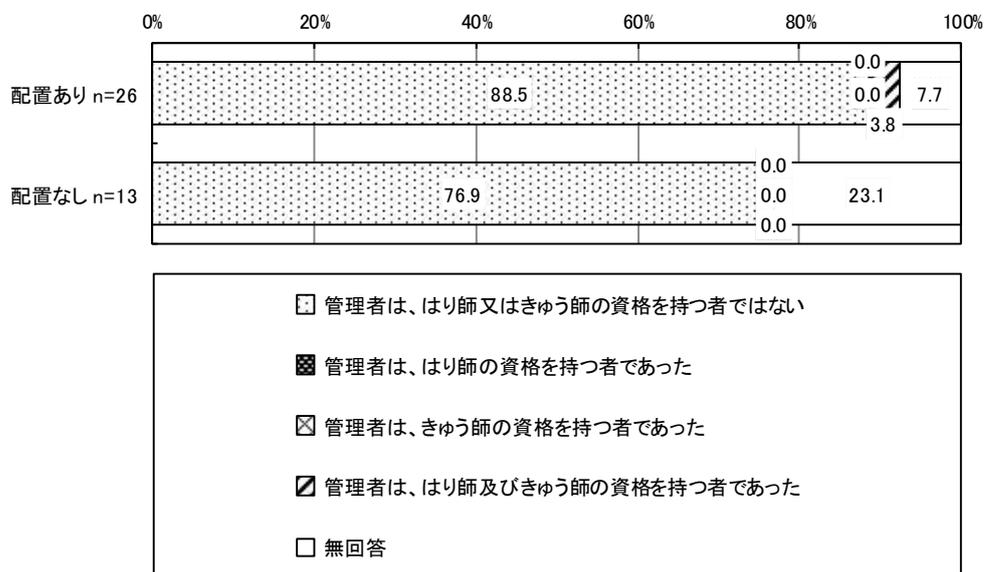
図表 1439 機能訓練指導員またははり師/きゅう師の雇用人数 ②

(単位:人)

件数		平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
1) 看護師	配置 n=3	2.0	0.0	2.0	2	2
	非配置 n=1	1.0	0.0	1.0	1	1
2) 准看護師	配置 n=1	1.0	0.0	1.0	1	1
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
3) 理学療法士	配置 n=3	1.0	0.0	1.0	1	1
	非配置 n=1	1.0	0.0	1.0	1	1
4) 作業療法士	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
5) 言語聴覚士	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
6) 柔道整復師	配置 n=1	0.0	0.0	0.0	0	0
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
7) あん摩マッサージ指圧師	配置 n=2	0.5	0.5	0.5	1	0
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
8) はり師(応募時点で機能訓練指導員としての実務要件を満たしている)	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
9) はり師(応募時点で機能訓練指導員としての実務要件を満たしている)のうち1)~7)の資格を保有しない人	配置 n=1	1.0	0.0	1.0	1	1
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
10) きゅう師(応募時点で機能訓練指導員としての実務要件を満たしている)	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
11) きゅう師(応募時点で機能訓練指導員としての実務要件を満たしている)のうち1)~7)の資格を保有しない人	配置 n=1	1.0	0.0	1.0	1	1
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
12) はり師(応募時点で機能訓練指導員としての実務要件を満たしていない)	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
13) きゅう師(応募時点で機能訓練指導員としての実務要件を満たしていない)	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-

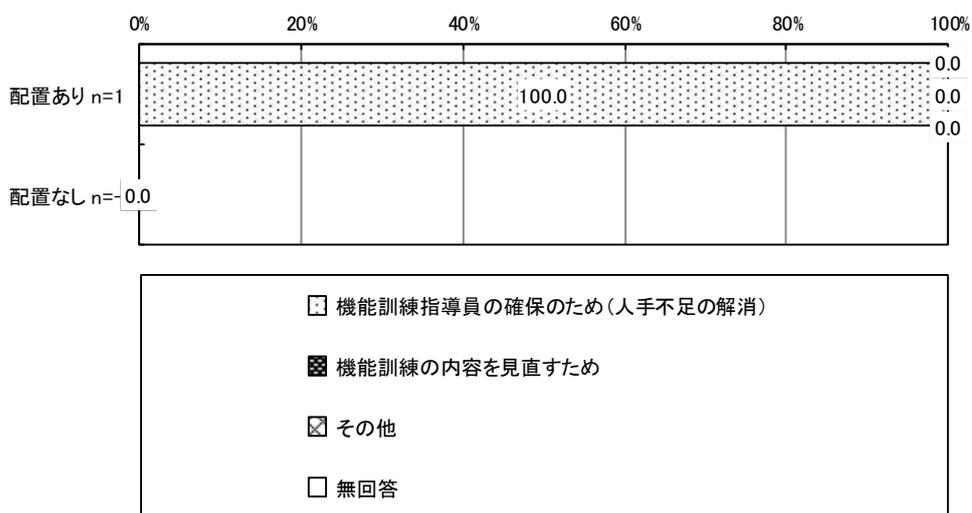
## エ) 平成 30 年 3 月時点の管理者のはり師/きゅう師資格 (問 15)

図表 1440 平成 30 年 3 月時点の管理者のはり師/きゅう師資格



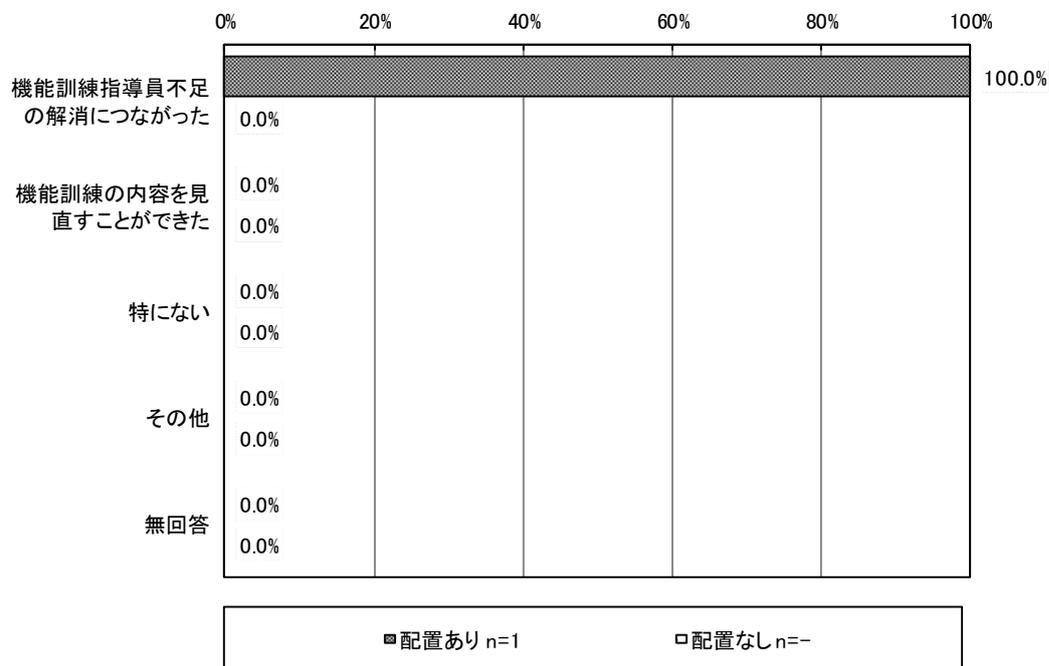
## オ) 機能訓練指導員の資格があるはり師/きゅう師を雇用した理由 (問 16)

図表 1441 機能訓練指導員の資格があるはり師/きゅう師を雇用した理由



## カ) はり師・きゅう師の追加によるメリット (問 17)

図表 1442 はり師・きゅう師の追加によるメリット



図表 1443 見直しで向上した内容

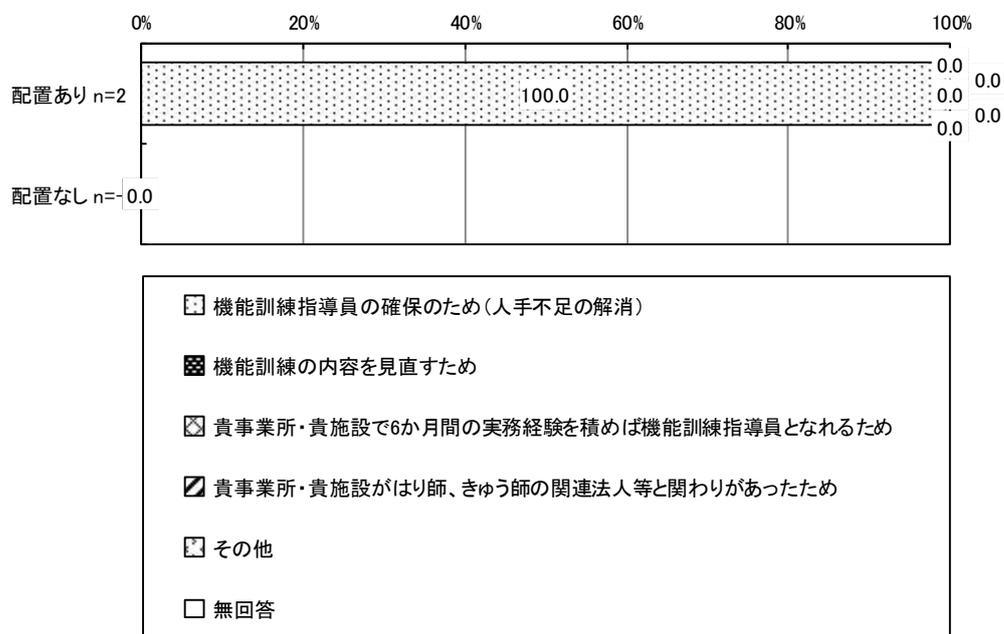
有効な回答は無し。

※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。(配置なしは有効な回答無し)

- ・(配置あり) 利用者が鍼灸サービスを受けることができた

キ) 機能訓練指導員としての実務要件を満たしていないはり師/きゅう師を雇用した理由 (問 18)

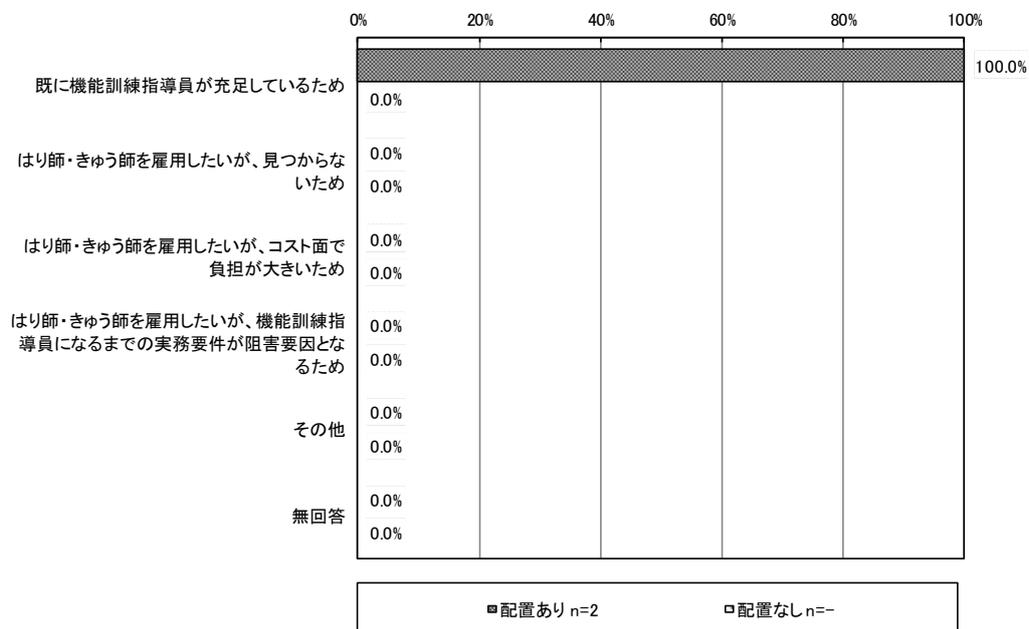
図表 1444 機能訓練指導員としての実務要件を満たしていないはり師/きゅう師を雇用した理由



※その他として挙げられた有効な回答は無し。

## ク) はり師/きゅう師の資格のみを有する者を雇用していない理由 (問 19)

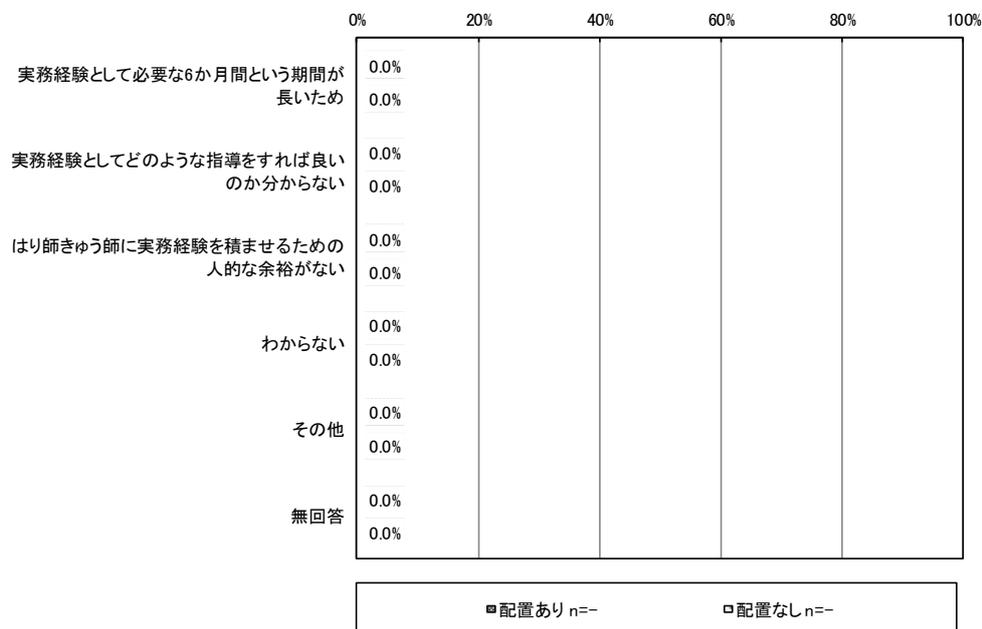
図表 1445 はり師/きゅう師の資格のみを有する者を雇用していない理由



※その他として挙げられた有効な回答は無し。

## ケ) 阻害要因となった実務要件 (問 20)

図表 1446 阻害要因となった実務要件

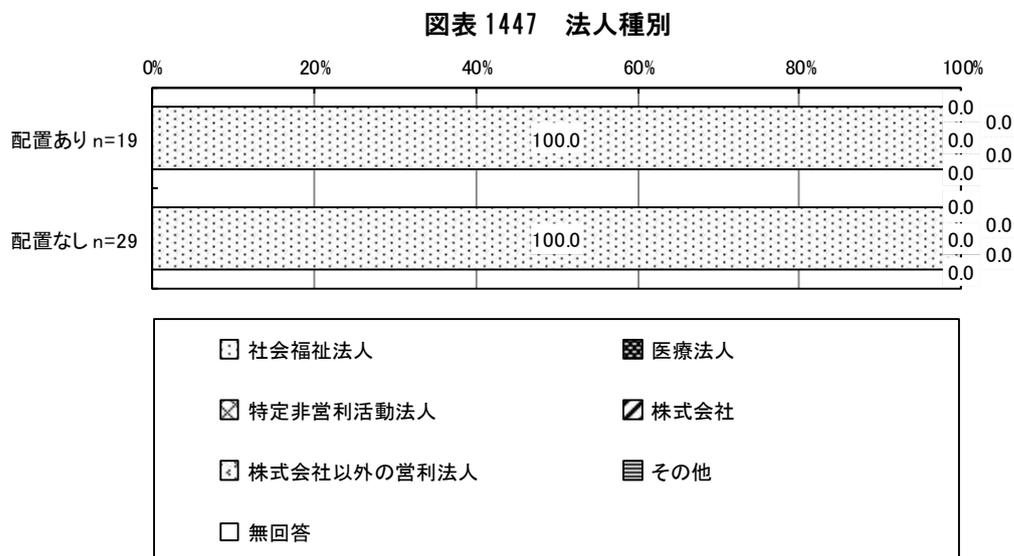


※その他として挙げられた有効な回答は無し。  
回答は無し。

## 5. 介護老人福祉施設

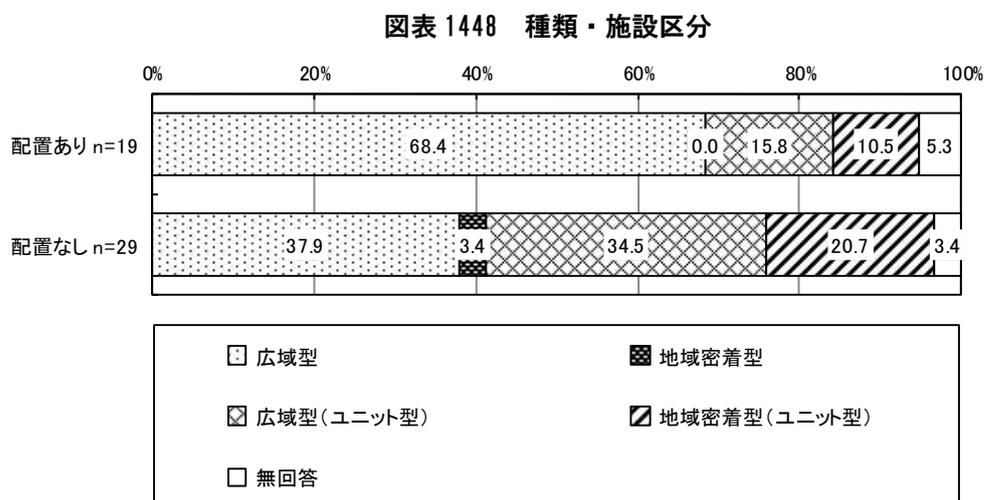
### I. 事業所・施設の基本属性

#### ア) 法人種別 (問1)



※その他として挙げられた有効な回答は無し。

#### イ) 種類・施設区分 (問2)



## ウ) 定員数 (問 5)

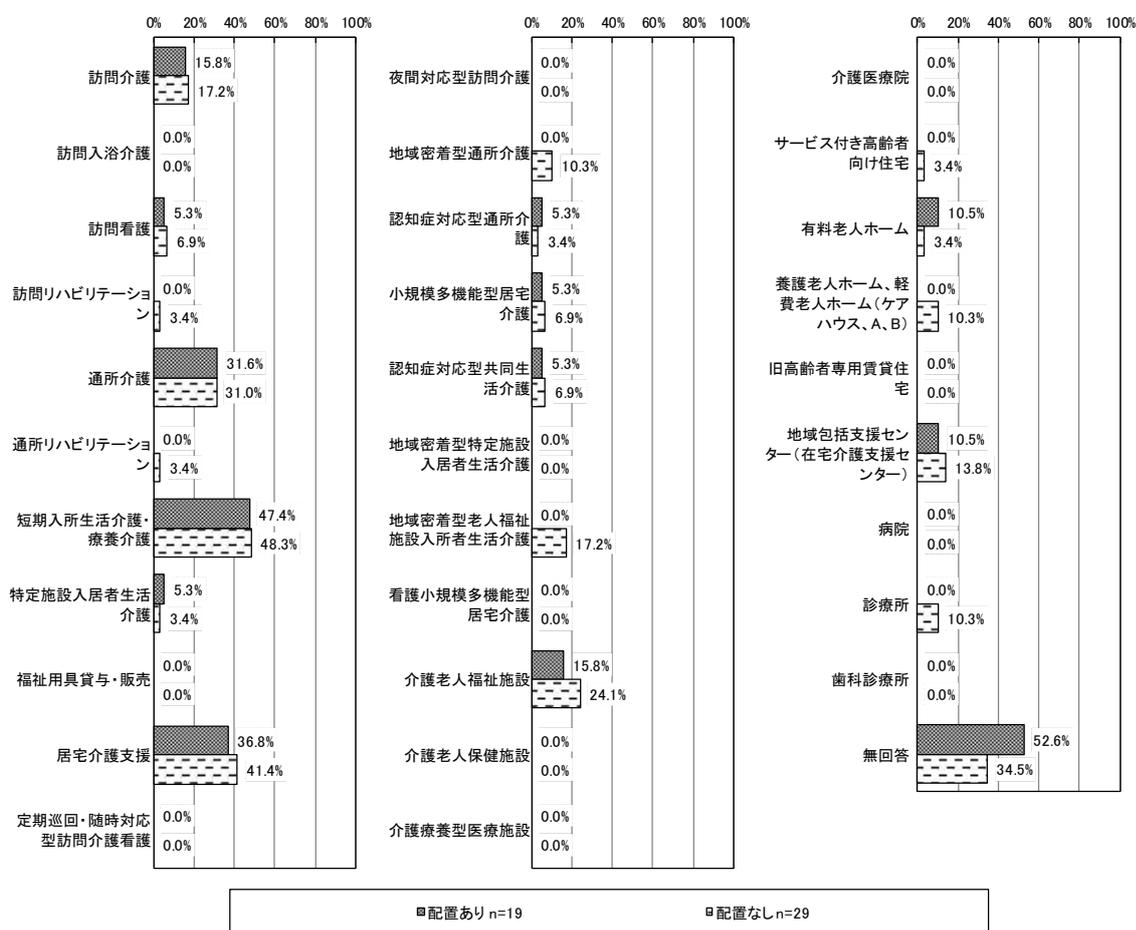
図表 1449 定員数

(単位:人)

件数	平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
配置あり n=8	68.1	26.8	66	110	36
配置なし n=16	56.8	23.6	60	100	29

## エ) 併設施設サービス (問 7)

図表 1450 併設施設サービス



才) 要介護度別利用者数 (問 8)

図表 1451 要介護度別利用者数

(単位:人)

件数		平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
合計	算定 n=18	63.1	26.5	52	114	28
	非算定 n=28	59.3	29.4	57.5	136	26
要介護1	算定 n=18	1.6	4.1	0	18	0
	非算定 n=28	1.6	5.2	0	28	0
要介護2	算定 n=18	2.9	3.7	2	13	0
	非算定 n=28	2.4	3.5	1	14	0
要介護3	算定 n=18	13.8	9.3	12	35	2
	非算定 n=28	16.7	12.5	12	51	2
要介護4	算定 n=18	24.2	10.6	23.5	39	3
	非算定 n=28	22.6	13.5	20.5	52	3
要介護5	算定 n=18	20.6	12.6	19.5	54	1
	非算定 n=28	16.1	8.3	16.5	32	0
申請中	算定 n=18	0.0	0.0	0	0	0
	非算定 n=28	0.0	0.0	0	0	0

力) 認知症高齢者の日常生活自立度別利用者数 (問 9)

図表 1452 認知症高齢者の日常生活自立度別利用者数

(単位:人)

件数		平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
合計	算定 n=13	60.4	22.4	52	98	28
	非算定 n=27	58.3	26.5	58	100	26
自立	算定 n=13	0.7	1.9	0	7	0
	非算定 n=27	1.1	3.0	0	15	0
I	算定 n=13	1.3	1.6	1	6	0
	非算定 n=27	3.7	7.6	1	40	0
II a	算定 n=13	1.9	1.7	1	6	0
	非算定 n=27	3.9	4.1	2	17	0
II b	算定 n=13	5.8	5.1	3	21	1
	非算定 n=27	7.0	5.3	6	20	0
III a	算定 n=13	25.1	12.3	23	46	5
	非算定 n=27	20.0	15.4	13	53	3
III b	算定 n=13	9.6	7.2	8	24	0
	非算定 n=27	7.2	5.7	6	30	1
IV	算定 n=13	14.9	9.1	15	33	2
	非算定 n=27	13.5	10.9	12	44	0
M	算定 n=13	1.2	1.4	0	4	0
	非算定 n=27	1.9	3.3	1	15	0

キ) 職員数 (問 10)

図表 1453 職員数

(単位:人)

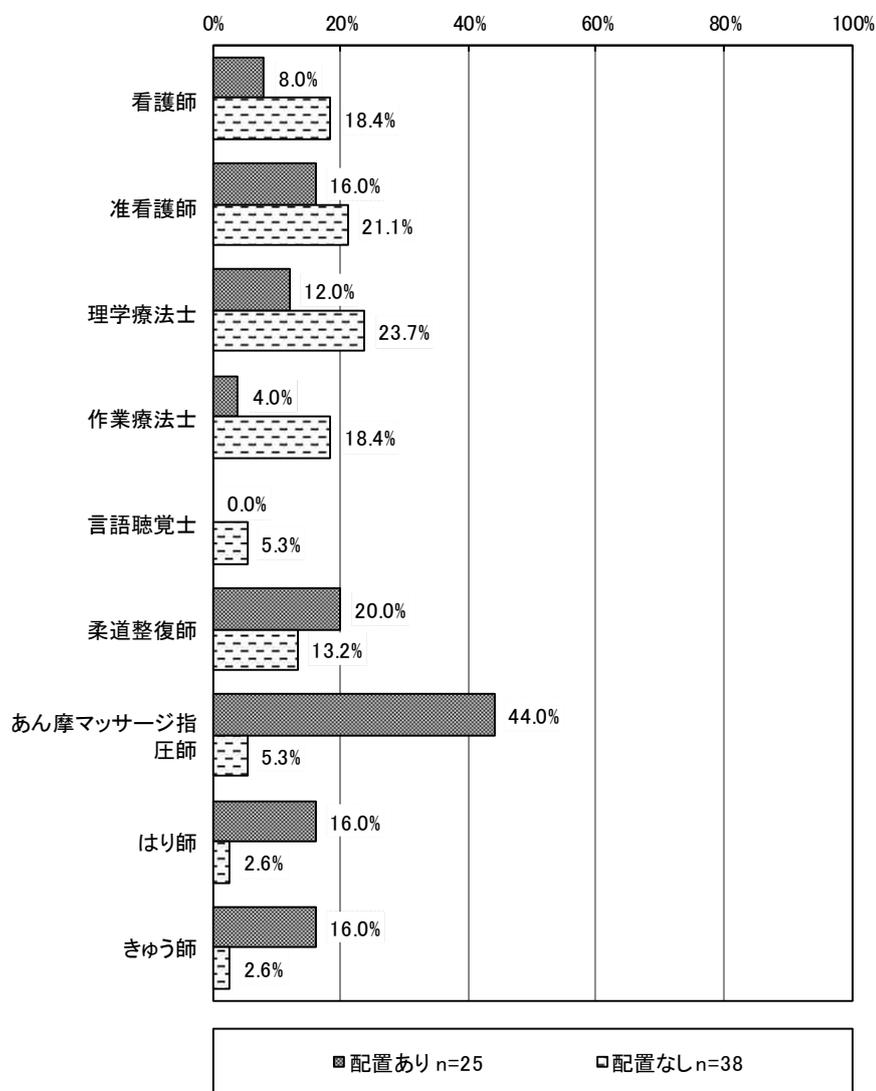
件数		平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値	
計画作成担当者	常勤職員	配置あり n=19	0.2	0.4	0	1	0
		配置なし n=28	0.3	0.6	0	2	0
	非常勤職員	配置あり n=17	0.0	0.0	0	0	0
		配置なし n=27	0.0	0.0	0	0	0
	常勤換算人数	配置あり n=17	0.2	0.4	0.0	1.0	0.0
		配置なし n=27	0.2	0.6	0.0	2.0	0.0
機能訓練指導員	常勤職員	配置あり n=19	1.1	0.6	1	3	0
		配置なし n=28	1.0	1.0	1	4	0
	非常勤職員	配置あり n=17	0.4	0.8	0	3	0
		配置なし n=27	0.3	0.5	0	1	0
	常勤換算人数	配置あり n=17	1.1	0.7	1.0	3.1	0.1
		配置なし n=27	0.9	1.0	1.0	4.7	0.0
生活相談員	常勤職員	配置あり n=19	1.3	0.6	1	2	0
		配置なし n=28	1.5	0.8	1	4	1
	非常勤職員	配置あり n=17	0.1	0.2	0	1	0
		配置なし n=27	0.0	0.0	0	0	0
	常勤換算人数	配置あり n=17	1.3	0.6	1.0	2.5	0.5
		配置なし n=27	1.2	0.6	1.0	3.0	0.3
サービス提供責任者	常勤職員	配置あり n=19	0.4	0.7	0	3	0
		配置なし n=28	0.1	0.3	0	1	0
	非常勤職員	配置あり n=17	0.1	0.2	0	1	0
		配置なし n=27	0.0	0.2	0	1	0
	常勤換算人数	配置あり n=17	0.2	0.4	0.0	1.0	0.0
		配置なし n=27	0.0	0.2	0.0	1.0	0.0
医師	常勤職員	配置あり n=19	0.0	0.0	0	0	0
		配置なし n=28	0.1	0.3	0	1	0
	非常勤職員	配置あり n=17	1.4	1.6	1	7	0
		配置なし n=27	0.9	0.8	1	3	0
	常勤換算人数	配置あり n=17	0.1	0.1	0.1	0.5	0.0
		配置なし n=27	0.1	0.1	0.1	0.7	0.0
看護職員	常勤職員	配置あり n=19	3.6	1.8	4	6	0
		配置なし n=28	3.5	1.7	3.5	6	1
	非常勤職員	配置あり n=17	1.9	2.6	1	10	0
		配置なし n=27	1.6	1.5	1	5	0
	常勤換算人数	配置あり n=17	4.7	2.7	4.2	14.0	1.0
		配置なし n=27	3.9	1.9	4.0	7.3	0.9

(単位:人)

件数		平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値	
介護支援専門員	常勤職員	配置あり n=19	1.8	1.5	1	6	0
		配置なし n=28	1.9	1.7	1.5	9	1
	非常勤職員	配置あり n=17	0.1	0.5	0	2	0
		配置なし n=27	0.2	0.4	0	1	0
	常勤換算人数	配置あり n=17	1.2	0.6	1.0	2.0	0.0
		配置なし n=27	1.5	1.2	1.0	6.8	0.0
介護職員	常勤職員	配置あり n=19	25.8	12.9	26	50	0
		配置なし n=28	23.0	14.3	25.5	59	0
	非常勤職員	配置あり n=17	8.4	8.5	6	37	1
		配置なし n=27	7.1	7.6	3	27	0
	常勤換算人数	配置あり n=17	27.8	15.0	26.5	64.0	0.0
		配置なし n=27	26.5	16.9	24.9	71.0	0.0
栄養士	常勤職員	配置あり n=19	1.3	0.7	1	3	0
		配置なし n=28	1.3	0.7	1	4	0
	非常勤職員	配置あり n=17	0.0	0.0	0	0	0
		配置なし n=27	0.0	0.2	0	1	0
	常勤換算人数	配置あり n=17	1.1	0.7	1.0	3.0	0.0
		配置なし n=27	1.3	0.8	1.0	4.0	0.0
調理員	常勤職員	配置あり n=19	1.8	3.1	0	8	0
		配置なし n=28	1.7	2.7	0	8	0
	非常勤職員	配置あり n=17	0.3	0.7	0	2	0
		配置なし n=27	0.6	1.2	0	5	0
	常勤換算人数	配置あり n=17	2.0	3.6	0.0	9.0	0.0
		配置なし n=27	2.1	3.1	0.0	8.9	0.0
オペレーター	常勤職員	配置あり n=19	0.3	1.0	0	4	0
		配置なし n=28	0.0	0.0	0	0	0
	非常勤職員	配置あり n=17	0.5	1.9	0	8	0
		配置なし n=27	0.0	0.0	0	0	0
	常勤換算人数	配置あり n=17	0.6	1.6	0.0	5.8	0.0
		配置なし n=27	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
全職員数	常勤職員	配置あり n=19	37.6	18.0	39	68	1
		配置なし n=28	34.3	16.1	37.5	70	5
	非常勤職員	配置あり n=17	13.0	11.4	9	50	1
		配置なし n=27	10.8	9.2	7	33	1
	常勤換算人数	配置あり n=17	40.3	19.3	35.9	85.9	11.6
		配置なし n=27	37.7	19.1	42.8	83.4	5.0

## ク) 機能訓練指導員の保有する資格（問 11）

図表 1454 機能訓練指導員の保有する資格



※本設問の集計については、事業所・施設に登録されている機能訓練指導員の数を分母、その機能訓練指導員が保有する各資格の数を分子とし割合を算出した。

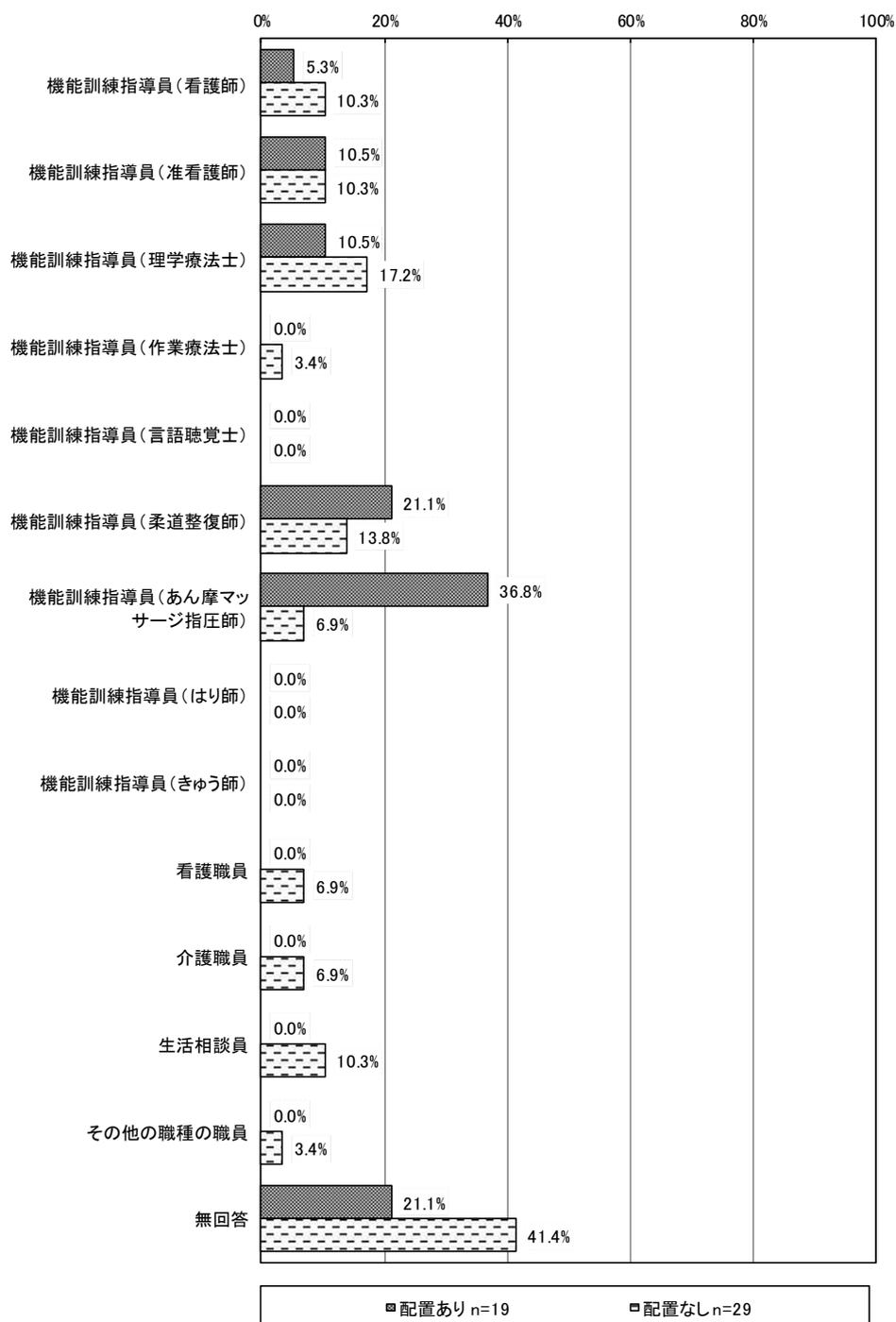
## ケ) 機能訓練指導員が過去に実務経験を積んだ事業所および職種(問 11-2)

回答は無し。

## Ⅱ. 機能訓練指導員の状況

### ア) 平成30年3月と令和元年9月に個別機能訓練計画等を作成したことがある職種(問12)

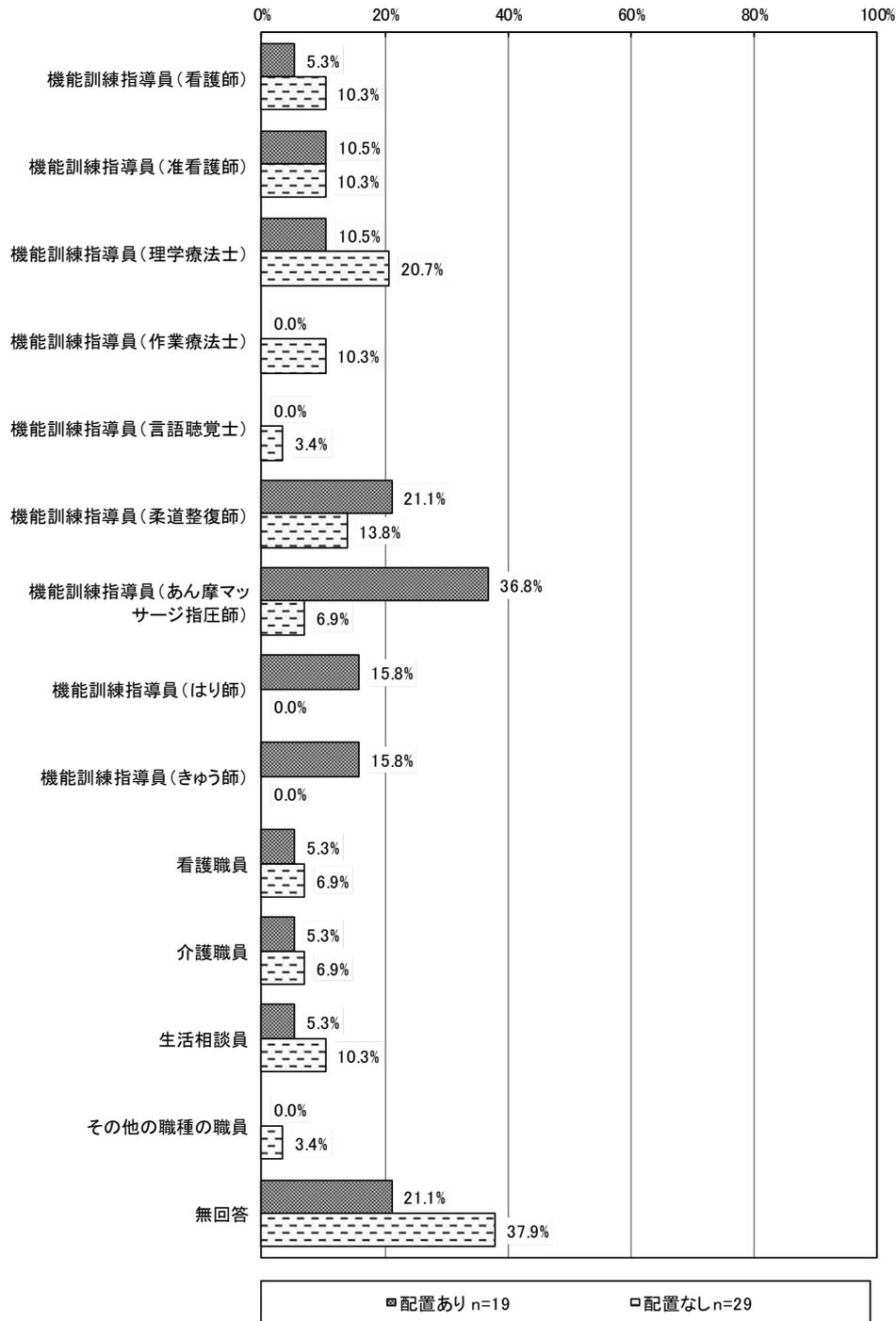
図表 1455 平成30年3月に個別機能訓練計画等を作成したことがある職種



※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。(配置ありは有効な回答無し)

- ・(配置なし) 介護支援専門員

図表 1456 令和元年9月に個別機能訓練計画等を作成したことがある職種



※その他として挙げられた主な回答は以下の通り。(配置ありは有効な回答無し)

- ・(配置なし) 介護支援専門員

イ) 令和元年 9 月に計画を作成した機能訓練指導員と利用者の課題の組み合わせ (問 13)

図表 1457 令和元年 9 月に計画を作成した機能訓練指導員と利用者の課題の組み合わせ

(%)

	食事	排泄	入浴	更衣	整容	移乗	屋内移動	階段昇降	屋外移動
配置あり n=17	70.6	64.7	47.1	41.2	47.1	76.5	88.2	11.8	23.5
配置なし n=26	61.5	53.8	50.0	50.0	42.3	73.1	65.4	15.4	7.7

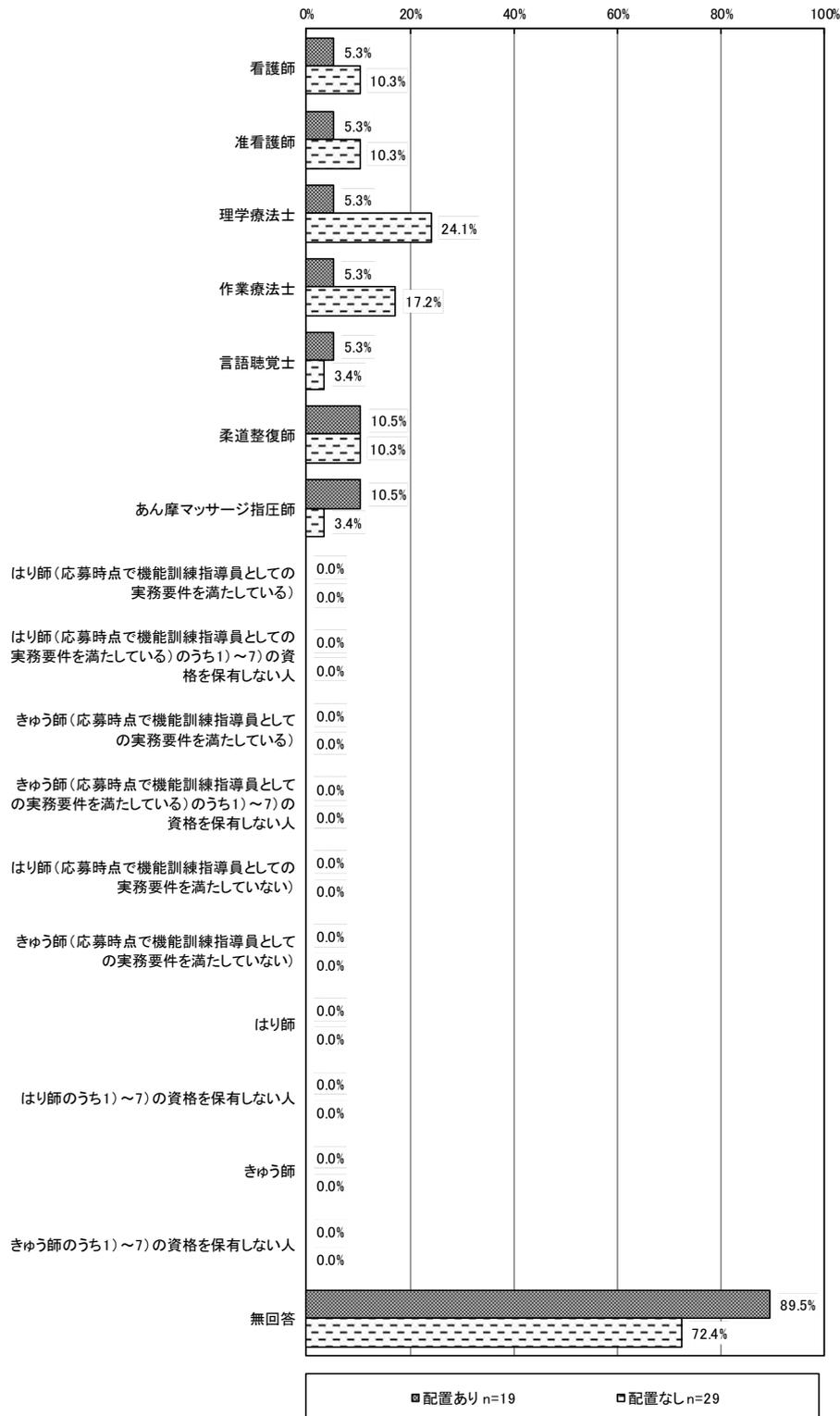
	調理	洗濯	掃除	起き上がり	座位	立ち上がり	立位	福祉用具の利用等による生活環境の改善	家族への介護方法の指導
配置あり n=17	-	5.9	-	76.5	100.0	100.0	94.1	58.8	5.9
配置なし n=26	-	-	3.8	61.5	73.1	73.1	69.2	61.5	-

※本設問の集計については、令和元年 9 月の 1 ヶ月間に個別機能訓練計画を作成した機能訓練指導員の人数を分母、その個別機能訓練計画の対象となった利用者の各課題の数を分子とし割合を算出した。

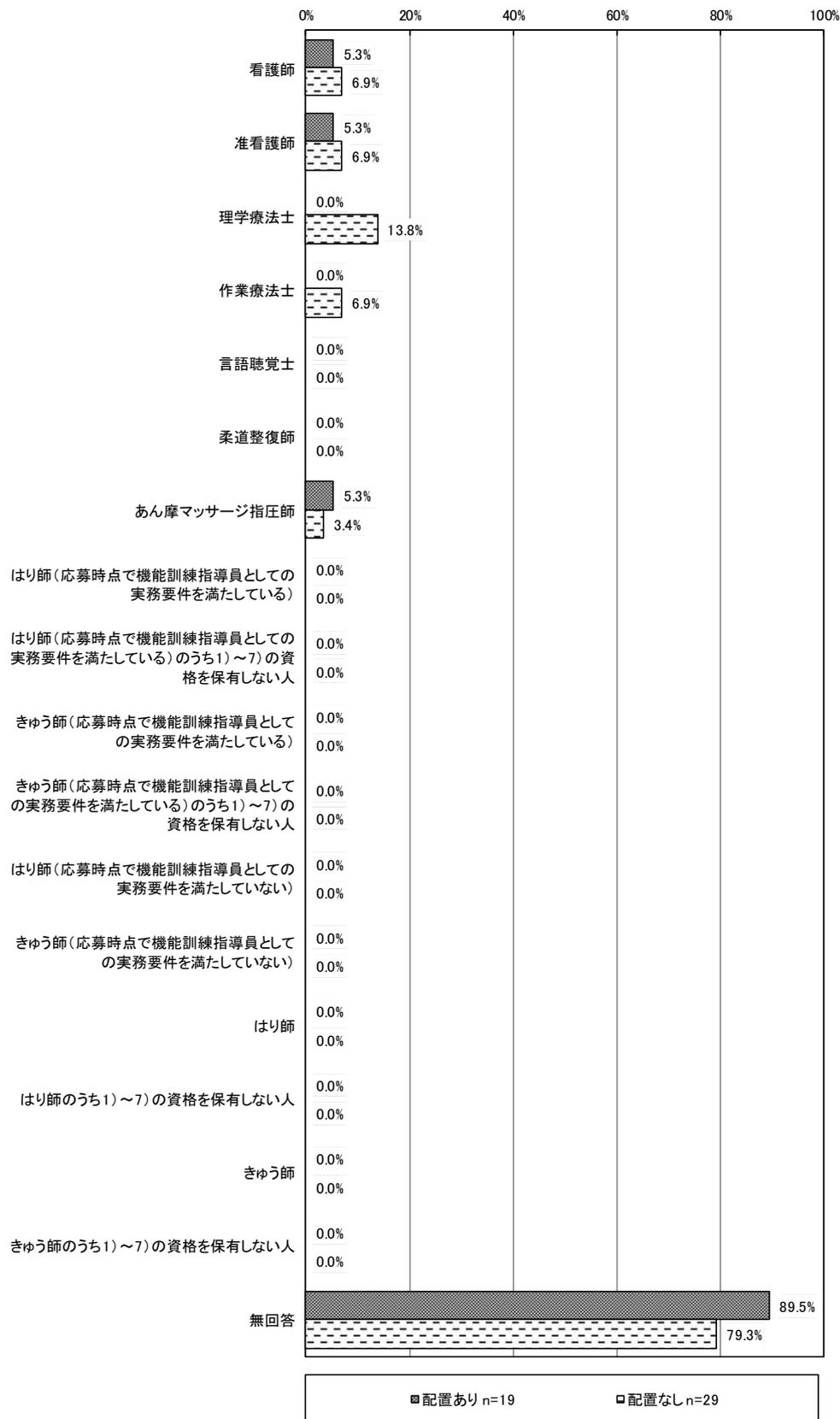
ウ) 機能訓練指導員または機能訓練指導員ではないはり師/きゅう師の募集の有無、応募の有無、および雇用人数(問14)

①平成28年10月～平成30年3月、②平成30年4月～令和元年9月

図表1458 機能訓練指導員またははり師/きゅう師の募集の有無 ①



図表 1459 機能訓練指導員またははり師/きゅう師の応募の有無 ①

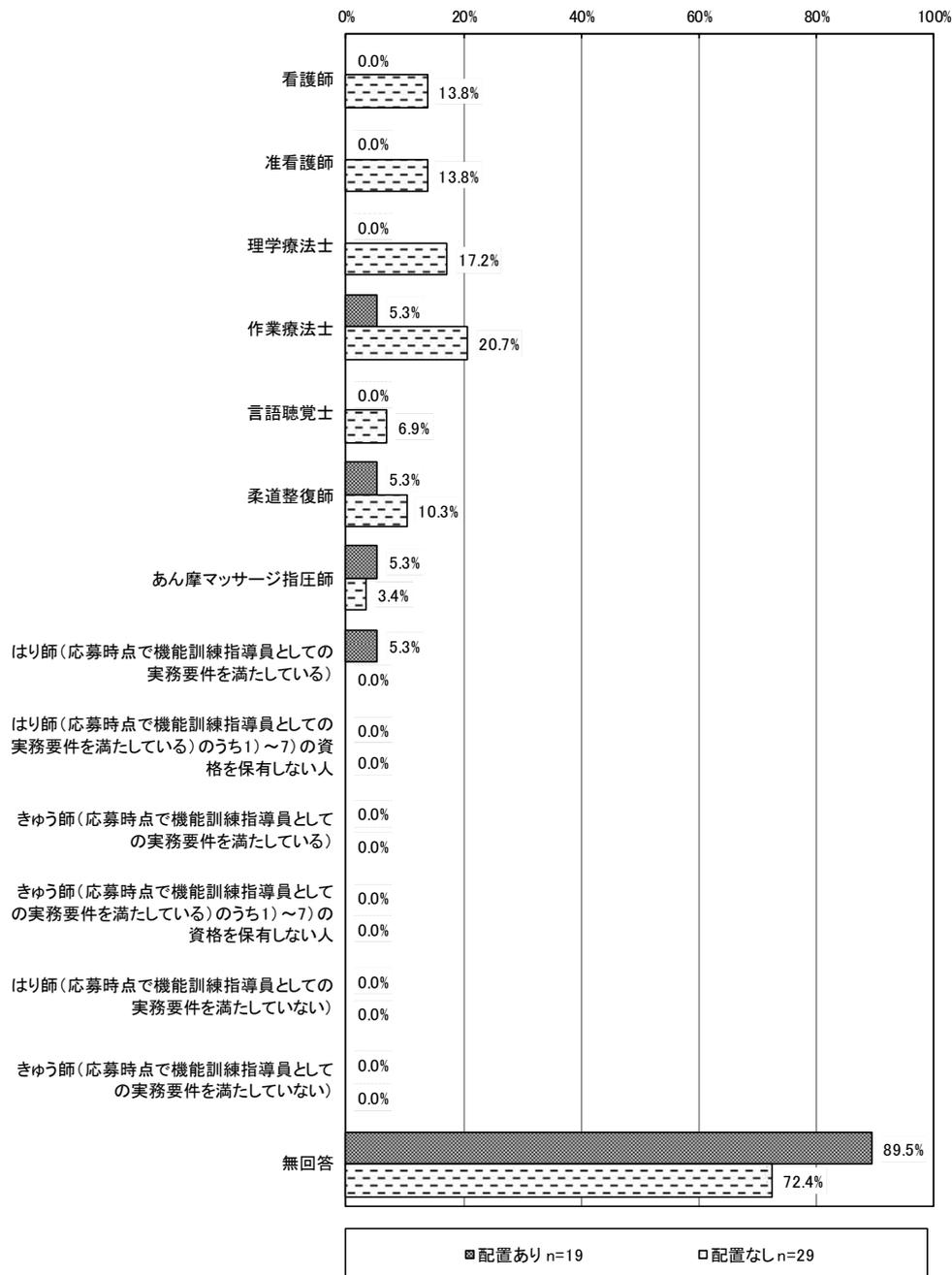


図表 1460 機能訓練指導員またははり師/きゅう師の雇用人数 ①

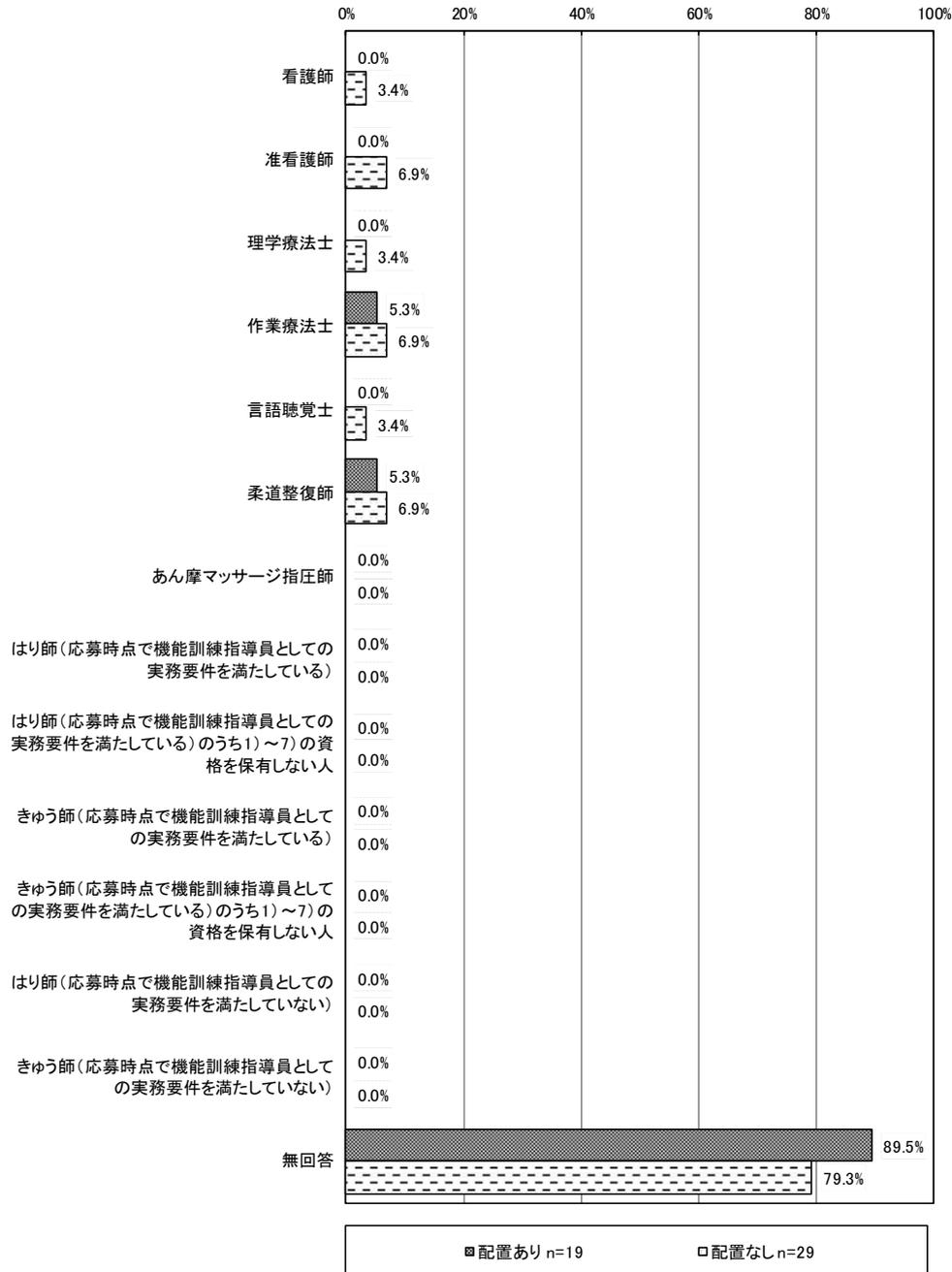
(単位:人)

件数		平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
1) 看護師	配置 n=1	2.0	0.0	2.0	2	2
	非配置 n=2	4.5	1.5	4.5	6	3
2) 准看護師	配置 n=1	2.0	0.0	2.0	2	2
	非配置 n=1	1.0	0.0	1.0	1	1
3) 理学療法士	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=4	1.3	1.3	1.0	3	0
4) 作業療法士	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=2	1.0	1.0	1.0	2	0
5) 言語聴覚士	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
6) 柔道整復師	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
7) あん摩マッサージ指圧師	配置 n=1	1.0	0.0	1.0	1	1
	非配置 n=1	1.0	0.0	1.0	1	1
14) はり師	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
15) はり師のうち1)～7)の資格を保有しない人	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
16) きゅう師	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
17) きゅう師のうち1)～7)の資格を保有しない人	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-

図表 1461 機能訓練指導員またははり師/きゅう師の募集の有無 ②



図表 1462 機能訓練指導員またははり師/きゅう師の応募の有無 ②



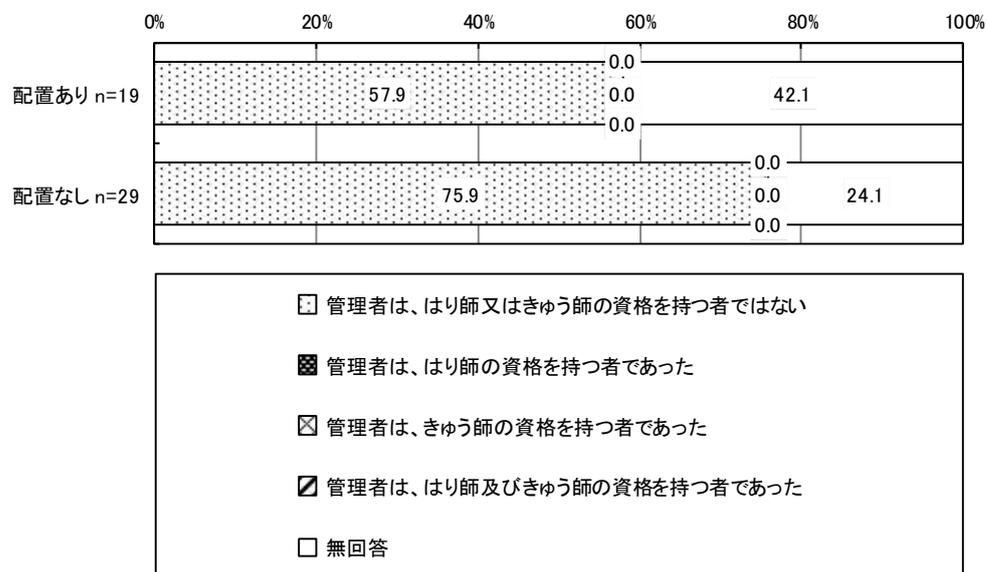
図表 1463 機能訓練指導員またははり師/きゅう師の雇用人数 ②

(単位:人)

件数		平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
1) 看護師	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=2	3.0	1.0	3.0	4	2
2) 准看護師	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=2	2.0	1.0	2.0	3	1
3) 理学療法士	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=3	0.7	0.5	1.0	1	0
4) 作業療法士	配置 n=1	1.0	0.0	1.0	1	1
	非配置 n=4	1.3	0.8	1.5	2	0
5) 言語聴覚士	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=1	1.0	0.0	1.0	1	1
6) 柔道整復師	配置 n=1	1.0	0.0	1.0	1	1
	非配置 n=3	1.0	0.0	1.0	1	1
7) あん摩マッサージ指圧師	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
8) はり師(応募時点で機能訓練指導員としての実務要件を満たしている)	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
9) はり師(応募時点で機能訓練指導員としての実務要件を満たしている)のうち1)~7)の資格を保有しない人	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
10) きゅう師(応募時点で機能訓練指導員としての実務要件を満たしている)	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
11) きゅう師(応募時点で機能訓練指導員としての実務要件を満たしている)のうち1)~7)の資格を保有しない人	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
12) はり師(応募時点で機能訓練指導員としての実務要件を満たしていない)	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-
13) きゅう師(応募時点で機能訓練指導員としての実務要件を満たしていない)	配置 n=0	-	-	-	-	-
	非配置 n=0	-	-	-	-	-

エ) 平成 30 年 3 月時点の管理者のはり師/きゅう師資格 (問 15)

図表 1464 平成 30 年 3 月時点の管理者のはり師/きゅう師資格



オ) 機能訓練指導員の資格があるはり師/きゅう師を雇用した理由 (問 16)

回答は無し。

カ) はり師・きゅう師の追加によるメリット (問 17)

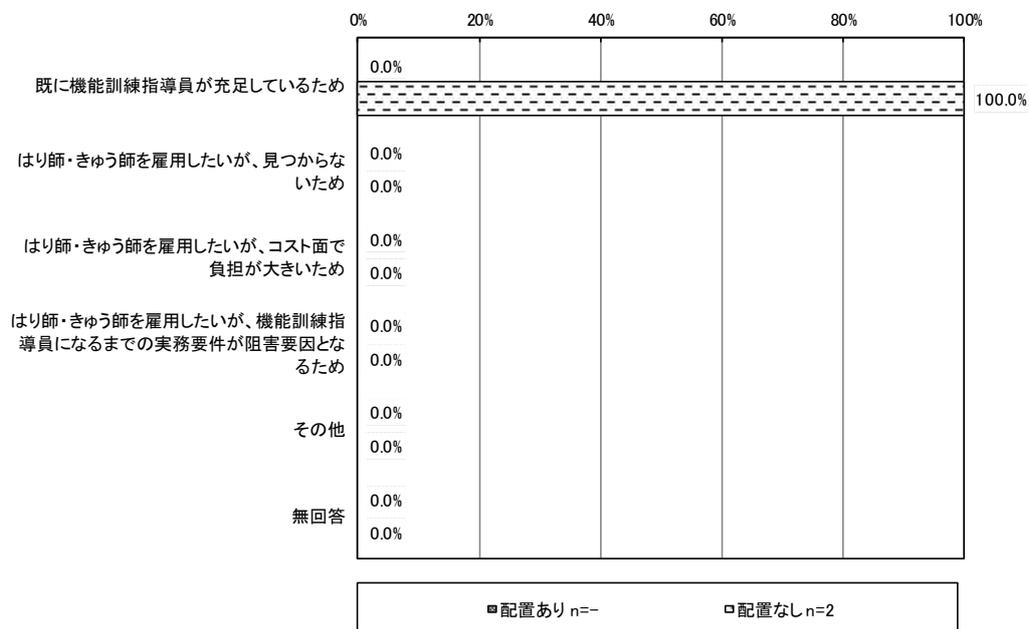
回答は無し。

キ) 機能訓練指導員としての実務要件を満たしていないはり師/きゅう師を雇用した理由 (問 18)

回答は無し。

## ク) はり師/きゅう師の資格のみを有する者を雇用していない理由 (問 19)

図表 1465 はり師/きゅう師の資格のみを有する者を雇用していない理由



※その他として挙げられた有効な回答は無し。

## ケ) 阻害要因となった実務要件 (問 20)

回答は無し。

## 第4章 介護保険総合データベース任意集計調査の調査結果

### 1. 全体の状況

図表 1466 事業所・施設数

		事業所・施設数（件）					
		全体	加算算定	加算Ⅰのみ算定	加算Ⅱのみ算定	加算Ⅰ、Ⅱ両方算定	非算定
①	通所介護	43,192	1,476	－	－	－	41,716
②	認知症対応型通所介護	3,899	162	－	－	－	3,737
③	短期入所生活介護	15,399	229	－	－	－	15,170
④	特定施設入居者生活介護	10,202	371	－	－	－	9,831
⑤	認知症対応型共同生活介護	14,842	1,130	－	－	－	13,712
⑥	介護老人福祉施設	10,491	656	－	－	－	9,835
⑦	訪問介護	33,053	130	31	92	7	32,793
⑧	小規模多機能型居宅介護	9,468	207	104	76	27	9,054
⑨	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	970	23	3	18	2	924
	全体	141,516	4,384	138	186	36	136,772

		構成比（％）					
		全体	加算算定	加算Ⅰのみ算定	加算Ⅱのみ算定	加算Ⅰ、Ⅱ両方算定	非算定
①	通所介護	100.0%	3.4%	－	－	－	96.6%
②	認知症対応型通所介護	100.0%	4.2%	－	－	－	95.8%
③	短期入所生活介護	100.0%	1.5%	－	－	－	98.5%
④	特定施設入居者生活介護	100.0%	3.6%	－	－	－	96.4%
⑤	認知症対応型共同生活介護	100.0%	7.6%	－	－	－	92.4%
⑥	介護老人福祉施設	100.0%	6.3%	－	－	－	93.7%
⑦	訪問介護	100.0%	0.4%	0.1%	0.3%	0.0%	99.2%
⑧	小規模多機能型居宅介護	100.0%	2.2%	1.1%	0.8%	0.3%	95.6%
⑨	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	100.0%	2.4%	0.3%	1.9%	0.2%	95.3%
	全体	100.0%	3.1%	0.1%	0.1%	0.0%	96.6%

図表 1467 事業所・施設数（個別機能訓練加算の算定有無別）

A：個別機能訓練加算の算定有無別の算定状況										
		事業所・施設数（件）					構成比（％）			
		全体	加算算定	① ② ではない	②個別 機能訓 練加算 を算定	①、② の両方 を算定	加算算 定	① ② ではない	②個別 機能訓 練加算 を算定	①、② の両方 を算定
①	通所介護	43,192	1,476	299	1,006	171	3.4%	0.7%	2.3%	0.4%
②	認知症対応型通所介護	3,899	162	75	76	11	4.2%	1.9%	1.9%	0.3%
③	短期入所生活介護	15,399	229	165	40	24	1.5%	1.1%	0.3%	0.2%
④	特定施設入居者生活介護	10,202	371	191	167	13	3.6%	1.9%	1.6%	0.1%
⑥	介護老人福祉施設	10,491	656	225	414	17	6.3%	2.1%	3.9%	0.2%
全体		83,183	2,894	955	1,703	236	3.5%	1.1%	2.0%	0.3%

図表 1468 事業所・施設数（事業所・施設が広域型か地域密着型か否かの違いによる算定状況）

B：事業所・施設が広域型か地域密着型かの違いによる算定状況									
		事業所・施設数（件）				構成比（％）			
		広域型の サービス (全体)	地域密着型 サービス (全体)	加算算定	広域型の サービス	地域密着型 サービス	加算算 定	広域型の サービス	地域密着型 サービス
①	通所介護	24,023	19,169	1,476	1,143	333	3.4%	2.6%	0.8%
②	認知症対応型通所介護	-	-	-	-	-	-	-	-
③	短期入所生活介護	-	-	-	-	-	-	-	-
④	特定施設入居者生活介護	9,849	353	371	346	25	3.6%	3.4%	0.2%
⑥	介護老人福祉施設	8,129	2,362	656	502	154	6.3%	4.8%	1.5%
全体		42,001	21,884	2,503	1,991	512	3.0%	2.4%	0.6%

## 2. 都道府県別の状況

図表 1469 ①通所介護

		事業所・施設数 (件)			構成比 (%)		
		全体	加算算定	非算定	全体	加算算定	非算定
1	北海道	1,583	49	1,534	100.0%	3.1%	96.9%
2	青森県	439	24	415	100.0%	5.5%	94.5%
3	岩手県	510	6	504	100.0%	1.2%	98.8%
4	宮城県	831	16	815	100.0%	1.9%	98.1%
5	秋田県	365	3	362	100.0%	0.8%	99.2%
6	山形県	396	12	384	100.0%	3.0%	97.0%
7	福島県	677	12	665	100.0%	1.8%	98.2%
8	茨城県	1,001	39	962	100.0%	3.9%	96.1%
9	栃木県	732	12	720	100.0%	1.6%	98.4%
10	群馬県	979	32	947	100.0%	3.3%	96.7%
11	埼玉県	1,933	52	1,881	100.0%	2.7%	97.3%
12	千葉県	1,840	31	1,809	100.0%	1.7%	98.3%
13	東京都	3,291	68	3,223	100.0%	2.1%	97.9%
14	神奈川県	2,415	40	2,375	100.0%	1.7%	98.3%
15	新潟県	703	8	695	100.0%	1.1%	98.9%
16	富山県	442	17	425	100.0%	3.8%	96.2%
17	石川県	389	16	373	100.0%	4.1%	95.9%
18	福井県	271	8	263	100.0%	3.0%	97.0%
19	山梨県	450	11	439	100.0%	2.4%	97.6%
20	長野県	844	36	808	100.0%	4.3%	95.7%
21	岐阜県	735	41	694	100.0%	5.6%	94.4%
22	静岡県	1,344	39	1,305	100.0%	2.9%	97.1%
23	愛知県	2,119	87	2,032	100.0%	4.1%	95.9%
24	三重県	830	28	802	100.0%	3.4%	96.6%
25	滋賀県	546	23	523	100.0%	4.2%	95.8%
26	京都府	656	36	620	100.0%	5.5%	94.5%
27	大阪府	3,049	145	2,904	100.0%	4.8%	95.2%
28	兵庫県	1,788	81	1,707	100.0%	4.5%	95.5%
29	奈良県	499	19	480	100.0%	3.8%	96.2%
30	和歌山県	512	20	492	100.0%	3.9%	96.1%
31	鳥取県	255	8	247	100.0%	3.1%	96.9%
32	島根県	338	7	331	100.0%	2.1%	97.9%
33	岡山県	764	37	727	100.0%	4.8%	95.2%
34	広島県	933	62	871	100.0%	6.6%	93.4%
35	山口県	695	16	679	100.0%	2.3%	97.7%
36	徳島県	322	28	294	100.0%	8.7%	91.3%
37	香川県	400	26	374	100.0%	6.5%	93.5%
38	愛媛県	616	24	592	100.0%	3.9%	96.1%
39	高知県	350	14	336	100.0%	4.0%	96.0%
40	福岡県	1,980	95	1,885	100.0%	4.8%	95.2%
41	佐賀県	471	14	457	100.0%	3.0%	97.0%
42	長崎県	590	33	557	100.0%	5.6%	94.4%
43	熊本県	786	31	755	100.0%	3.9%	96.1%
44	大分県	493	15	478	100.0%	3.0%	97.0%
45	宮崎県	630	12	618	100.0%	1.9%	98.1%
46	鹿児島県	689	28	661	100.0%	4.1%	95.9%
47	沖縄県	711	15	696	100.0%	2.1%	97.9%

図表 1470 ②認知症対応型通所介護

		事業所・施設数 (件)			構成比 (%)		
		全体	加算算定	非算定	全体	加算算定	非算定
1	北海道	181	10	171	100.0%	5.5%	94.5%
2	青森県	53	1	52	100.0%	1.9%	98.1%
3	岩手県	44	0	44	100.0%	0.0%	100.0%
4	宮城県	65	0	65	100.0%	0.0%	100.0%
5	秋田県	44	0	44	100.0%	0.0%	100.0%
6	山形県	64	5	59	100.0%	7.8%	92.2%
7	福島県	92	2	90	100.0%	2.2%	97.8%
8	茨城県	42	6	36	100.0%	14.3%	85.7%
9	栃木県	62	0	62	100.0%	0.0%	100.0%
10	群馬県	70	0	70	100.0%	0.0%	100.0%
11	埼玉県	92	4	88	100.0%	4.3%	95.7%
12	千葉県	87	5	82	100.0%	5.7%	94.3%
13	東京都	406	2	404	100.0%	0.5%	99.5%
14	神奈川県	243	3	240	100.0%	1.2%	98.8%
15	新潟県	96	1	95	100.0%	1.0%	99.0%
16	富山県	72	3	69	100.0%	4.2%	95.8%
17	石川県	41	1	40	100.0%	2.4%	97.6%
18	福井県	55	2	53	100.0%	3.6%	96.4%
19	山梨県	24	0	24	100.0%	0.0%	100.0%
20	長野県	92	1	91	100.0%	1.1%	98.9%
21	岐阜県	62	4	58	100.0%	6.5%	93.5%
22	静岡県	135	1	134	100.0%	0.7%	99.3%
23	愛知県	175	13	162	100.0%	7.4%	92.6%
24	三重県	40	0	40	100.0%	0.0%	100.0%
25	滋賀県	75	6	69	100.0%	8.0%	92.0%
26	京都府	89	3	86	100.0%	3.4%	96.6%
27	大阪府	223	14	209	100.0%	6.3%	93.7%
28	兵庫県	159	5	154	100.0%	3.1%	96.9%
29	奈良県	35	1	34	100.0%	2.9%	97.1%
30	和歌山県	29	0	29	100.0%	0.0%	100.0%
31	鳥取県	33	3	30	100.0%	9.1%	90.9%
32	島根県	50	1	49	100.0%	2.0%	98.0%
33	岡山県	63	4	59	100.0%	6.3%	93.7%
34	広島県	73	6	67	100.0%	8.2%	91.8%
35	山口県	68	17	51	100.0%	25.0%	75.0%
36	徳島県	26	3	23	100.0%	11.5%	88.5%
37	香川県	35	1	34	100.0%	2.9%	97.1%
38	愛媛県	47	2	45	100.0%	4.3%	95.7%
39	高知県	35	1	34	100.0%	2.9%	97.1%
40	福岡県	120	5	115	100.0%	4.2%	95.8%
41	佐賀県	49	1	48	100.0%	2.0%	98.0%
42	長崎県	85	10	75	100.0%	11.8%	88.2%
43	熊本県	85	4	81	100.0%	4.7%	95.3%
44	大分県	68	3	65	100.0%	4.4%	95.6%
45	宮崎県	21	1	20	100.0%	4.8%	95.2%
46	鹿児島県	61	6	55	100.0%	9.8%	90.2%
47	沖縄県	33	1	32	100.0%	3.0%	97.0%

図表 1471 ③短期入所生活介護

		事業所・施設数 (件)			構成比 (%)		
		全体	加算算定	非算定	全体	加算算定	非算定
1	北海道	601	8	593	100.0%	1.3%	98.7%
2	青森県	173	10	163	100.0%	5.8%	94.2%
3	岩手県	271	0	271	100.0%	0.0%	100.0%
4	宮城県	336	1	335	100.0%	0.3%	99.7%
5	秋田県	411	6	405	100.0%	1.5%	98.5%
6	山形県	243	4	239	100.0%	1.6%	98.4%
7	福島県	301	2	299	100.0%	0.7%	99.3%
8	茨城県	432	7	425	100.0%	1.6%	98.4%
9	栃木県	357	6	351	100.0%	1.7%	98.3%
10	群馬県	310	7	303	100.0%	2.3%	97.7%
11	埼玉県	668	10	658	100.0%	1.5%	98.5%
12	千葉県	625	11	614	100.0%	1.8%	98.2%
13	東京都	796	0	796	100.0%	0.0%	100.0%
14	神奈川県	644	5	639	100.0%	0.8%	99.2%
15	新潟県	547	3	544	100.0%	0.5%	99.5%
16	富山県	176	3	173	100.0%	1.7%	98.3%
17	石川県	164	2	162	100.0%	1.2%	98.8%
18	福井県	140	2	138	100.0%	1.4%	98.6%
19	山梨県	151	4	147	100.0%	2.6%	97.4%
20	長野県	350	3	347	100.0%	0.9%	99.1%
21	岐阜県	287	6	281	100.0%	2.1%	97.9%
22	静岡県	476	1	475	100.0%	0.2%	99.8%
23	愛知県	679	14	665	100.0%	2.1%	97.9%
24	三重県	292	2	290	100.0%	0.7%	99.3%
25	滋賀県	135	0	135	100.0%	0.0%	100.0%
26	京都府	262	1	261	100.0%	0.4%	99.6%
27	大阪府	693	11	682	100.0%	1.6%	98.4%
28	兵庫県	657	11	646	100.0%	1.7%	98.3%
29	奈良県	187	3	184	100.0%	1.6%	98.4%
30	和歌山県	170	2	168	100.0%	1.2%	98.8%
31	鳥取県	76	3	73	100.0%	3.9%	96.1%
32	島根県	157	0	157	100.0%	0.0%	100.0%
33	岡山県	319	8	311	100.0%	2.5%	97.5%
34	広島県	554	8	546	100.0%	1.4%	98.6%
35	山口県	226	8	218	100.0%	3.5%	96.5%
36	徳島県	122	5	117	100.0%	4.1%	95.9%
37	香川県	175	9	166	100.0%	5.1%	94.9%
38	愛媛県	257	8	249	100.0%	3.1%	96.9%
39	高知県	103	1	102	100.0%	1.0%	99.0%
40	福岡県	550	12	538	100.0%	2.2%	97.8%
41	佐賀県	116	0	116	100.0%	0.0%	100.0%
42	長崎県	281	9	272	100.0%	3.2%	96.8%
43	熊本県	230	4	226	100.0%	1.7%	98.3%
44	大分県	191	3	188	100.0%	1.6%	98.4%
45	宮崎県	156	1	155	100.0%	0.6%	99.4%
46	鹿児島県	251	5	246	100.0%	2.0%	98.0%
47	沖縄県	101	0	101	100.0%	0.0%	100.0%

図表 1472 ④特定施設入居者生活介護

		事業所・施設数 (件)			構成比 (%)		
		全体	加算算定	非算定	全体	加算算定	非算定
1	北海道	572	12	560	100.0%	2.1%	97.9%
2	青森県	28	0	28	100.0%	0.0%	100.0%
3	岩手県	50	0	50	100.0%	0.0%	100.0%
4	宮城県	130	1	129	100.0%	0.8%	99.2%
5	秋田県	117	2	115	100.0%	1.7%	98.3%
6	山形県	73	3	70	100.0%	4.1%	95.9%
7	福島県	113	3	110	100.0%	2.7%	97.3%
8	茨城県	113	4	109	100.0%	3.5%	96.5%
9	栃木県	129	9	120	100.0%	7.0%	93.0%
10	群馬県	129	11	118	100.0%	8.5%	91.5%
11	埼玉県	953	5	948	100.0%	0.5%	99.5%
12	千葉県	421	14	407	100.0%	3.3%	96.7%
13	東京都	1,428	22	1,406	100.0%	1.5%	98.5%
14	神奈川県	1,021	14	1,007	100.0%	1.4%	98.6%
15	新潟県	134	2	132	100.0%	1.5%	98.5%
16	富山県	10	1	9	100.0%	10.0%	90.0%
17	石川県	63	4	59	100.0%	6.3%	93.7%
18	福井県	55	4	51	100.0%	7.3%	92.7%
19	山梨県	19	3	16	100.0%	15.8%	84.2%
20	長野県	168	6	162	100.0%	3.6%	96.4%
21	岐阜県	80	7	73	100.0%	8.8%	91.3%
22	静岡県	277	5	272	100.0%	1.8%	98.2%
23	愛知県	461	20	441	100.0%	4.3%	95.7%
24	三重県	98	7	91	100.0%	7.1%	92.9%
25	滋賀県	20	1	19	100.0%	5.0%	95.0%
26	京都府	113	2	111	100.0%	1.8%	98.2%
27	大阪府	679	38	641	100.0%	5.6%	94.4%
28	兵庫県	467	22	445	100.0%	4.7%	95.3%
29	奈良県	117	13	104	100.0%	11.1%	88.9%
30	和歌山県	61	1	60	100.0%	1.6%	98.4%
31	鳥取県	35	4	31	100.0%	11.4%	88.6%
32	島根県	81	1	80	100.0%	1.2%	98.8%
33	岡山県	235	20	215	100.0%	8.5%	91.5%
34	広島県	233	13	220	100.0%	5.6%	94.4%
35	山口県	88	3	85	100.0%	3.4%	96.6%
36	徳島県	10	1	9	100.0%	10.0%	90.0%
37	香川県	75	13	62	100.0%	17.3%	82.7%
38	愛媛県	157	8	149	100.0%	5.1%	94.9%
39	高知県	60	3	57	100.0%	5.0%	95.0%
40	福岡県	447	26	421	100.0%	5.8%	94.2%
41	佐賀県	70	6	64	100.0%	8.6%	91.4%
42	長崎県	124	11	113	100.0%	8.9%	91.1%
43	熊本県	112	7	105	100.0%	6.3%	93.8%
44	大分県	92	3	89	100.0%	3.3%	96.7%
45	宮崎県	122	7	115	100.0%	5.7%	94.3%
46	鹿児島県	109	8	101	100.0%	7.3%	92.7%
47	沖縄県	53	1	52	100.0%	1.9%	98.1%

図表 1473 ⑤認知症対応型共同生活介護

		事業所・施設数 (件)			構成比 (%)		
		全体	加算算定	非算定	全体	加算算定	非算定
1	北海道	1,035	70	965	100.0%	6.8%	93.2%
2	青森県	344	16	328	100.0%	4.7%	95.3%
3	岩手県	220	7	213	100.0%	3.2%	96.8%
4	宮城県	320	5	315	100.0%	1.6%	98.4%
5	秋田県	212	6	206	100.0%	2.8%	97.2%
6	山形県	150	16	134	100.0%	10.7%	89.3%
7	福島県	253	19	234	100.0%	7.5%	92.5%
8	茨城県	326	9	317	100.0%	2.8%	97.2%
9	栃木県	204	14	190	100.0%	6.9%	93.1%
10	群馬県	278	21	257	100.0%	7.6%	92.4%
11	埼玉県	486	65	421	100.0%	13.4%	86.6%
12	千葉県	482	55	427	100.0%	11.4%	88.6%
13	東京都	683	56	627	100.0%	8.2%	91.8%
14	神奈川県	799	32	767	100.0%	4.0%	96.0%
15	新潟県	279	4	275	100.0%	1.4%	98.6%
16	富山県	193	12	181	100.0%	6.2%	93.8%
17	石川県	195	9	186	100.0%	4.6%	95.4%
18	福井県	96	6	90	100.0%	6.3%	93.8%
19	山梨県	73	8	65	100.0%	11.0%	89.0%
20	長野県	267	17	250	100.0%	6.4%	93.6%
21	岐阜県	309	43	266	100.0%	13.9%	86.1%
22	静岡県	429	16	413	100.0%	3.7%	96.3%
23	愛知県	636	40	596	100.0%	6.3%	93.7%
24	三重県	201	20	181	100.0%	10.0%	90.0%
25	滋賀県	142	21	121	100.0%	14.8%	85.2%
26	京都府	236	13	223	100.0%	5.5%	94.5%
27	大阪府	709	76	633	100.0%	10.7%	89.3%
28	兵庫県	471	48	423	100.0%	10.2%	89.8%
29	奈良県	162	14	148	100.0%	8.6%	91.4%
30	和歌山県	136	6	130	100.0%	4.4%	95.6%
31	鳥取県	97	19	78	100.0%	19.6%	80.4%
32	島根県	150	7	143	100.0%	4.7%	95.3%
33	岡山県	358	40	318	100.0%	11.2%	88.8%
34	広島県	401	18	383	100.0%	4.5%	95.5%
35	山口県	203	26	177	100.0%	12.8%	87.2%
36	徳島県	153	34	119	100.0%	22.2%	77.8%
37	香川県	118	11	107	100.0%	9.3%	90.7%
38	愛媛県	350	21	329	100.0%	6.0%	94.0%
39	高知県	154	12	142	100.0%	7.8%	92.2%
40	福岡県	741	70	671	100.0%	9.4%	90.6%
41	佐賀県	266	20	246	100.0%	7.5%	92.5%
42	長崎県	367	29	338	100.0%	7.9%	92.1%
43	熊本県	271	19	252	100.0%	7.0%	93.0%
44	大分県	155	13	142	100.0%	8.4%	91.6%
45	宮崎県	207	10	197	100.0%	4.8%	95.2%
46	鹿児島県	417	35	382	100.0%	8.4%	91.6%
47	沖縄県	108	2	106	100.0%	1.9%	98.1%

図表 1474 ⑥介護老人福祉施設

		事業所・施設数 (件)			構成比 (%)		
		全体	加算算定	非算定	全体	加算算定	非算定
1	北海道	485	38	447	100.0%	7.8%	92.2%
2	青森県	141	14	127	100.0%	9.9%	90.1%
3	岩手県	181	4	177	100.0%	2.2%	97.8%
4	宮城県	220	4	216	100.0%	1.8%	98.2%
5	秋田県	155	2	153	100.0%	1.3%	98.7%
6	山形県	159	9	150	100.0%	5.7%	94.3%
7	福島県	196	20	176	100.0%	10.2%	89.8%
8	茨城県	300	14	286	100.0%	4.7%	95.3%
9	栃木県	221	4	217	100.0%	1.8%	98.2%
10	群馬県	243	16	227	100.0%	6.6%	93.4%
11	埼玉県	463	23	440	100.0%	5.0%	95.0%
12	千葉県	471	19	452	100.0%	4.0%	96.0%
13	東京都	573	12	561	100.0%	2.1%	97.9%
14	神奈川県	454	39	415	100.0%	8.6%	91.4%
15	新潟県	318	2	316	100.0%	0.6%	99.4%
16	富山県	116	5	111	100.0%	4.3%	95.7%
17	石川県	115	11	104	100.0%	9.6%	90.4%
18	福井県	106	6	100	100.0%	5.7%	94.3%
19	山梨県	112	4	108	100.0%	3.6%	96.4%
20	長野県	233	19	214	100.0%	8.2%	91.8%
21	岐阜県	178	8	170	100.0%	4.5%	95.5%
22	静岡県	295	6	289	100.0%	2.0%	98.0%
23	愛知県	408	21	387	100.0%	5.1%	94.9%
24	三重県	203	11	192	100.0%	5.4%	94.6%
25	滋賀県	119	7	112	100.0%	5.9%	94.1%
26	京都府	203	10	193	100.0%	4.9%	95.1%
27	大阪府	547	46	501	100.0%	8.4%	91.6%
28	兵庫県	444	42	402	100.0%	9.5%	90.5%
29	奈良県	116	13	103	100.0%	11.2%	88.8%
30	和歌山県	115	13	102	100.0%	11.3%	88.7%
31	鳥取県	53	10	43	100.0%	18.9%	81.1%
32	島根県	113	5	108	100.0%	4.4%	95.6%
33	岡山県	233	19	214	100.0%	8.2%	91.8%
34	広島県	253	18	235	100.0%	7.1%	92.9%
35	山口県	154	10	144	100.0%	6.5%	93.5%
36	徳島県	81	7	74	100.0%	8.6%	91.4%
37	香川県	98	12	86	100.0%	12.2%	87.8%
38	愛媛県	153	15	138	100.0%	9.8%	90.2%
39	高知県	67	10	57	100.0%	14.9%	85.1%
40	福岡県	420	38	382	100.0%	9.0%	91.0%
41	佐賀県	64	0	64	100.0%	0.0%	100.0%
42	長崎県	160	20	140	100.0%	12.5%	87.5%
43	熊本県	229	14	215	100.0%	6.1%	93.9%
44	大分県	129	9	120	100.0%	7.0%	93.0%
45	宮崎県	108	8	100	100.0%	7.4%	92.6%
46	鹿児島県	210	18	192	100.0%	8.6%	91.4%
47	沖縄県	76	1	75	100.0%	1.3%	98.7%

図表 1475 ⑦訪問介護

		事業所・施設数 (件)					構成比 (%)				
		全体	加算Ⅰのみ 算定	加算Ⅱのみ 算定	加算Ⅰ、Ⅱ 両方算定	非算定	全体	加算Ⅰのみ 算定	加算Ⅱのみ 算定	加算Ⅰ、Ⅱ 両方算定	非算定
1	北海道	1,562	0	2	0	1,560	100.0%	0.0%	0.1%	0.0%	99.9%
2	青森県	502	2	3	0	497	100.0%	0.4%	0.6%	0.0%	99.0%
3	岩手県	333	0	1	0	332	100.0%	0.0%	0.3%	0.0%	99.7%
4	宮城県	495	0	0	0	495	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
5	秋田県	255	0	1	0	254	100.0%	0.0%	0.4%	0.0%	99.6%
6	山形県	212	0	1	0	211	100.0%	0.0%	0.5%	0.0%	99.5%
7	福島県	444	0	2	0	442	100.0%	0.0%	0.5%	0.0%	99.5%
8	茨城県	514	0	2	0	512	100.0%	0.0%	0.4%	0.0%	99.6%
9	栃木県	365	0	0	0	365	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
10	群馬県	465	1	1	0	463	100.0%	0.2%	0.2%	0.0%	99.6%
11	埼玉県	1,239	0	3	1	1,235	100.0%	0.0%	0.2%	0.1%	99.7%
12	千葉県	1,399	1	2	0	1,396	100.0%	0.1%	0.1%	0.0%	99.8%
13	東京都	2,985	1	4	0	2,980	100.0%	0.0%	0.1%	0.0%	99.8%
14	神奈川県	1,887	2	3	0	1,882	100.0%	0.1%	0.2%	0.0%	99.7%
15	新潟県	372	0	0	0	372	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
16	富山県	232	2	2	0	228	100.0%	0.9%	0.9%	0.0%	98.3%
17	石川県	235	0	2	0	233	100.0%	0.0%	0.9%	0.0%	99.1%
18	福井県	143	0	0	0	143	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
19	山梨県	172	0	4	0	168	100.0%	0.0%	2.3%	0.0%	97.7%
20	長野県	477	2	1	1	473	100.0%	0.4%	0.2%	0.2%	99.2%
21	岐阜県	425	1	4	0	420	100.0%	0.2%	0.9%	0.0%	98.8%
22	静岡県	662	1	2	0	659	100.0%	0.2%	0.3%	0.0%	99.5%
23	愛知県	1,609	1	9	0	1,599	100.0%	0.1%	0.6%	0.0%	99.4%
24	三重県	518	0	5	0	513	100.0%	0.0%	1.0%	0.0%	99.0%
25	滋賀県	309	0	1	1	307	100.0%	0.0%	0.3%	0.3%	99.4%
26	京都府	619	1	2	1	615	100.0%	0.2%	0.3%	0.2%	99.4%
27	大阪府	4,691	4	7	0	4,680	100.0%	0.1%	0.1%	0.0%	99.8%
28	兵庫県	1,735	2	5	0	1,728	100.0%	0.1%	0.3%	0.0%	99.6%
29	奈良県	501	0	1	0	500	100.0%	0.0%	0.2%	0.0%	99.8%
30	和歌山県	530	1	2	0	527	100.0%	0.2%	0.4%	0.0%	99.4%
31	鳥取県	112	0	3	0	109	100.0%	0.0%	2.7%	0.0%	97.3%
32	島根県	207	0	1	0	206	100.0%	0.0%	0.5%	0.0%	99.5%
33	岡山県	454	1	0	0	453	100.0%	0.2%	0.0%	0.0%	99.8%
34	広島県	685	1	4	1	679	100.0%	0.1%	0.6%	0.1%	99.1%
35	山口県	358	0	0	0	358	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
36	徳島県	335	1	1	0	333	100.0%	0.3%	0.3%	0.0%	99.4%
37	香川県	291	1	1	0	289	100.0%	0.3%	0.3%	0.0%	99.3%
38	愛媛県	446	0	1	0	445	100.0%	0.0%	0.2%	0.0%	99.8%
39	高知県	214	0	0	0	214	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
40	福岡県	1,406	1	2	0	1,403	100.0%	0.1%	0.1%	0.0%	99.8%
41	佐賀県	163	0	0	0	163	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
42	長崎県	353	2	2	0	349	100.0%	0.6%	0.6%	0.0%	98.9%
43	熊本県	593	0	2	1	590	100.0%	0.0%	0.3%	0.2%	99.5%
44	大分県	413	1	2	0	410	100.0%	0.2%	0.5%	0.0%	99.3%
45	宮崎県	424	0	1	1	422	100.0%	0.0%	0.2%	0.2%	99.5%
46	鹿児島県	413	1	0	0	412	100.0%	0.2%	0.0%	0.0%	99.8%
47	沖縄県	299	0	0	0	299	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

図表 1476 ⑧小規模多機能型居宅介護

		事業所・施設数 (件)					構成比 (%)				
		全体	加算Ⅰのみ 算定	加算Ⅱのみ 算定	加算Ⅰ、Ⅱ 両方算定	非算定	全体	加算Ⅰのみ 算定	加算Ⅱのみ 算定	加算Ⅰ、Ⅱ 両方算定	非算定
1	北海道	583	5	8	1	569	100.0%	0.9%	1.4%	0.2%	97.6%
2	青森県	83	3	0	0	80	100.0%	3.6%	0.0%	0.0%	96.4%
3	岩手県	146	1	2	0	143	100.0%	0.7%	1.4%	0.0%	97.9%
4	宮城県	129	1	0	0	128	100.0%	0.8%	0.0%	0.0%	99.2%
5	秋田県	132	1	0	0	131	100.0%	0.8%	0.0%	0.0%	99.2%
6	山形県	216	0	1	0	215	100.0%	0.0%	0.5%	0.0%	99.5%
7	福島県	181	2	1	1	177	100.0%	1.1%	0.6%	0.6%	97.8%
8	茨城県	146	2	1	5	138	100.0%	1.4%	0.7%	3.4%	94.5%
9	栃木県	182	0	0	0	182	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
10	群馬県	185	2	3	1	179	100.0%	1.1%	1.6%	0.5%	96.8%
11	埼玉県	203	0	1	0	202	100.0%	0.0%	0.5%	0.0%	99.5%
12	千葉県	234	3	0	1	230	100.0%	1.3%	0.0%	0.4%	98.3%
13	東京都	348	7	1	0	340	100.0%	2.0%	0.3%	0.0%	97.7%
14	神奈川県	501	1	0	0	500	100.0%	0.2%	0.0%	0.0%	99.8%
15	新潟県	344	2	0	0	342	100.0%	0.6%	0.0%	0.0%	99.4%
16	富山県	132	2	0	0	130	100.0%	1.5%	0.0%	0.0%	98.5%
17	石川県	146	3	1	0	142	100.0%	2.1%	0.7%	0.0%	97.3%
18	福井県	143	0	2	0	141	100.0%	0.0%	1.4%	0.0%	98.6%
19	山梨県	41	0	0	0	41	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
20	長野県	177	1	2	0	174	100.0%	0.6%	1.1%	0.0%	98.3%
21	岐阜県	146	4	1	0	141	100.0%	2.7%	0.7%	0.0%	96.6%
22	静岡県	238	2	0	3	233	100.0%	0.8%	0.0%	1.3%	97.9%
23	愛知県	323	6	4	0	313	100.0%	1.9%	1.2%	0.0%	96.9%
24	三重県	117	1	0	0	116	100.0%	0.9%	0.0%	0.0%	99.1%
25	滋賀県	130	3	1	2	124	100.0%	2.3%	0.8%	1.5%	95.4%
26	京都府	252	1	0	0	251	100.0%	0.4%	0.0%	0.0%	99.6%
27	大阪府	382	4	3	0	375	100.0%	1.0%	0.8%	0.0%	98.2%
28	兵庫県	413	5	2	1	405	100.0%	1.2%	0.5%	0.2%	98.1%
29	奈良県	81	3	2	0	76	100.0%	3.7%	2.5%	0.0%	93.8%
30	和歌山県	79	2	5	0	72	100.0%	2.5%	6.3%	0.0%	91.1%
31	鳥取県	110	1	2	1	106	100.0%	0.9%	1.8%	0.9%	96.4%
32	島根県	153	2	1	1	149	100.0%	1.3%	0.7%	0.7%	97.4%
33	岡山県	322	7	1	0	314	100.0%	2.2%	0.3%	0.0%	97.5%
34	広島県	397	1	3	1	392	100.0%	0.3%	0.8%	0.3%	98.7%
35	山口県	136	3	2	2	129	100.0%	2.2%	1.5%	1.5%	94.9%
36	徳島県	63	1	1	1	60	100.0%	1.6%	1.6%	1.6%	95.2%
37	香川県	79	2	0	0	77	100.0%	2.5%	0.0%	0.0%	97.5%
38	愛媛県	187	1	0	1	185	100.0%	0.5%	0.0%	0.5%	98.9%
39	高知県	49	0	2	0	47	100.0%	0.0%	4.1%	0.0%	95.9%
40	福岡県	483	4	4	0	475	100.0%	0.8%	0.8%	0.0%	98.3%
41	佐賀県	100	0	0	0	100	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
42	長崎県	217	3	7	4	203	100.0%	1.4%	3.2%	1.8%	93.5%
43	熊本県	258	10	4	1	243	100.0%	3.9%	1.6%	0.4%	94.2%
44	大分県	80	1	2	0	77	100.0%	1.3%	2.5%	0.0%	96.3%
45	宮崎県	92	0	0	0	92	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
46	鹿児島県	217	1	6	0	210	100.0%	0.5%	2.8%	0.0%	96.8%
47	沖縄県	112	0	0	0	112	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

図表 1477 ⑨定期巡回・随時対応型訪問介護看護

		事業所・施設数（件）					構成比（％）				
		全体	加算Ⅰのみ 算定	加算Ⅱのみ 算定	加算Ⅰ、Ⅱ 両方算定	非算定	全体	加算Ⅰのみ 算定	加算Ⅱのみ 算定	加算Ⅰ、Ⅱ 両方算定	非算定
1	北海道	104	0	2	0	102	100.0%	0.0%	1.9%	0.0%	98.1%
2	青森県	5	0	0	0	5	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
3	岩手県	8	0	0	0	8	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
4	宮城県	14	0	0	0	14	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
5	秋田県	11	0	0	0	11	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
6	山形県	8	0	0	0	8	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
7	福島県	24	0	1	0	23	100.0%	0.0%	4.2%	0.0%	95.8%
8	茨城県	10	0	0	0	10	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
9	栃木県	7	0	0	0	7	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
10	群馬県	11	0	0	0	11	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
11	埼玉県	55	0	0	0	55	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
12	千葉県	41	0	0	0	41	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
13	東京都	80	0	1	0	79	100.0%	0.0%	1.3%	0.0%	98.8%
14	神奈川県	83	0	1	0	82	100.0%	0.0%	1.2%	0.0%	98.8%
15	新潟県	18	0	0	0	18	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
16	富山県	12	0	0	0	12	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
17	石川県	5	0	0	0	5	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
18	福井県	8	0	0	0	8	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
19	山梨県	6	0	0	0	6	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
20	長野県	14	0	0	0	14	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
21	岐阜県	14	1	0	0	13	100.0%	7.1%	0.0%	0.0%	92.9%
22	静岡県	13	0	0	0	13	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
23	愛知県	31	0	3	0	28	100.0%	0.0%	9.7%	0.0%	90.3%
24	三重県	9	0	0	0	9	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
25	滋賀県	4	0	0	0	4	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
26	京都府	16	0	0	0	16	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
27	大阪府	54	1	3	0	50	100.0%	1.9%	5.6%	0.0%	92.6%
28	兵庫県	60	0	1	1	58	100.0%	0.0%	1.7%	1.7%	96.7%
29	奈良県	15	0	1	0	14	100.0%	0.0%	6.7%	0.0%	93.3%
30	和歌山県	5	0	0	0	5	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
31	鳥取県	8	1	0	1	6	100.0%	12.5%	0.0%	12.5%	75.0%
32	島根県	4	0	0	0	4	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
33	岡山県	12	0	0	0	12	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
34	広島県	41	0	1	0	40	100.0%	0.0%	2.4%	0.0%	97.6%
35	山口県	17	0	0	0	17	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
36	徳島県	1	0	0	0	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
37	香川県	6	0	0	0	6	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
38	愛媛県	14	0	0	0	14	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
39	高知県	6	0	0	0	6	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
40	福岡県	56	0	3	0	53	100.0%	0.0%	5.4%	0.0%	94.6%
41	佐賀県	3	0	0	0	3	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
42	長崎県	23	0	1	0	22	100.0%	0.0%	4.3%	0.0%	95.7%
43	熊本県	7	0	0	0	7	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
44	大分県	7	0	0	0	7	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
45	宮崎県	2	0	0	0	2	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
46	鹿児島県	17	0	0	0	17	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
47	沖縄県	1	0	0	0	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

### 3. 法人種別の状況

図表 1478 ①通所介護

		事業所・施設数 (件)			構成比 (%)		
		全体	加算	非加算	全体	加算	非加算
1	社会福祉法人 (社協以外)	9,091	440	8,651	100.0%	4.8%	95.2%
2	社会福祉法人 (社協)	1,488	33	1,455	100.0%	2.2%	97.8%
3	医療法人	2,447	510	1,937	100.0%	20.8%	79.2%
4	民法法人 (社団・財団)	302	12	290	100.0%	4.0%	96.0%
5	営利法人	27,145	410	26,735	100.0%	1.5%	98.5%
6	非営利法人 (NPO)	1,533	11	1,522	100.0%	0.7%	99.3%
7	農協	204	8	196	100.0%	3.9%	96.1%
8	生協	323	39	284	100.0%	12.1%	87.9%
9	その他法人	345	9	336	100.0%	2.6%	97.4%
10	地方公共団体 (都道府県)	0	0	0	-	-	-
11	地方公共団体 (市町村)	126	1	125	100.0%	0.8%	99.2%
12	地方公共団体 (広域連合・一部事務組合等)	44	1	43	100.0%	2.3%	97.7%
13	非法人 (個人)	10	0	10	100.0%	0.0%	100.0%
99	その他	134	2	132	100.0%	1.5%	98.5%

図表 1479 ②認知症対応型通所介護

		事業所・施設数 (件)			構成比 (%)		
		全体	加算	非加算	全体	加算	非加算
1	社会福祉法人 (社協以外)	1,583	44	1,539	100.0%	2.8%	97.2%
2	社会福祉法人 (社協)	113	1	112	100.0%	0.9%	99.1%
3	医療法人	467	87	380	100.0%	18.6%	81.4%
4	民法法人 (社団・財団)	48	4	44	100.0%	8.3%	91.7%
5	営利法人	1,348	26	1,322	100.0%	1.9%	98.1%
6	非営利法人 (NPO)	223	0	223	100.0%	0.0%	100.0%
7	農協	3	0	3	100.0%	0.0%	100.0%
8	生協	47	0	47	100.0%	0.0%	100.0%
9	その他法人	35	0	35	100.0%	0.0%	100.0%
10	地方公共団体 (都道府県)	0	0	0	-	-	-
11	地方公共団体 (市町村)	8	0	8	100.0%	0.0%	100.0%
12	地方公共団体 (広域連合・一部事務組合等)	3	0	3	100.0%	0.0%	100.0%
13	非法人 (個人)	3	0	3	100.0%	0.0%	100.0%
99	その他	18	0	18	100.0%	0.0%	100.0%

図表 1480 ③短期入所生活介護

		事業所・施設数 (件)			構成比 (%)		
		全体	加算	非加算	全体	加算	非加算
1	社会福祉法人 (社協以外)	12,138	150	11,988	100.0%	1.2%	98.8%
2	社会福祉法人 (社協)	186	1	185	100.0%	0.5%	99.5%
3	医療法人	551	52	499	100.0%	9.4%	90.6%
4	民法法人 (社団・財団)	23	2	21	100.0%	8.7%	91.3%
5	営利法人	2,121	18	2,103	100.0%	0.8%	99.2%
6	非営利法人 (NPO)	64	1	63	100.0%	1.6%	98.4%
7	農協	23	0	23	100.0%	0.0%	100.0%
8	生協	38	2	36	100.0%	5.3%	94.7%
9	その他法人	25	2	23	100.0%	8.0%	92.0%
10	地方公共団体 (都道府県)	0	0	0	-	-	-
11	地方公共団体 (市町村)	103	0	103	100.0%	0.0%	100.0%
12	地方公共団体 (広域連合・一部事務組合等)	113	1	112	100.0%	0.9%	99.1%
13	非法人 (個人)	1	0	1	100.0%	0.0%	100.0%
99	その他	13	0	13	100.0%	0.0%	100.0%

図表 1481 ④特定施設入居者生活介護

		事業所・施設数 (件)			構成比 (%)		
		全体	加算	非加算	全体	加算	非加算
1	社会福祉法人 (社協以外)	2,034	79	1,955	100.0%	3.9%	96.1%
2	社会福祉法人 (社協)	28	0	28	100.0%	0.0%	100.0%
3	医療法人	649	92	557	100.0%	14.2%	85.8%
4	民法法人 (社団・財団)	61	3	58	100.0%	4.9%	95.1%
5	営利法人	7,204	190	7,014	100.0%	2.6%	97.4%
6	非営利法人 (NPO)	41	0	41	100.0%	0.0%	100.0%
7	農協	6	0	6	100.0%	0.0%	100.0%
8	生協	28	2	26	100.0%	7.1%	92.9%
9	その他法人	64	2	62	100.0%	3.1%	96.9%
10	地方公共団体 (都道府県)	0	0	0	-	-	-
11	地方公共団体 (市町村)	24	0	24	100.0%	0.0%	100.0%
12	地方公共団体 (広域連合・一部事務組合等)	28	0	28	100.0%	0.0%	100.0%
13	非法人 (個人)	2	0	2	100.0%	0.0%	100.0%
99	その他	33	3	30	100.0%	9.1%	90.9%

図表 1482 ⑤認知症対応型共同生活介護

		事業所・施設数 (件)			構成比 (%)		
		全体	加算	非加算	全体	加算	非加算
1	社会福祉法人 (社協以外)	3,435	211	3,224	100.0%	6.1%	93.9%
2	社会福祉法人 (社協)	99	1	98	100.0%	1.0%	99.0%
3	医療法人	2,356	430	1,926	100.0%	18.3%	81.7%
4	民法法人 (社団・財団)	56	11	45	100.0%	19.6%	80.4%
5	営利法人	7,998	426	7,572	100.0%	5.3%	94.7%
6	非営利法人 (NPO)	603	14	589	100.0%	2.3%	97.7%
7	農協	14	1	13	100.0%	7.1%	92.9%
8	生協	77	17	60	100.0%	22.1%	77.9%
9	その他法人	118	12	106	100.0%	10.2%	89.8%
10	地方公共団体 (都道府県)	0	0	0	-	-	-
11	地方公共団体 (市町村)	11	1	10	100.0%	9.1%	90.9%
12	地方公共団体 (広域連合・一部事務組合等)	1	0	1	100.0%	0.0%	100.0%
13	非法人 (個人)	9	0	9	100.0%	0.0%	100.0%
99	その他	65	6	59	100.0%	9.2%	90.8%

図表 1483 ⑥介護老人福祉施設

		事業所・施設数 (件)			構成比 (%)		
		全体	加算	非加算	全体	加算	非加算
1	社会福祉法人 (社協以外)	10,081	639	9,442	100.0%	6.3%	93.7%
2	社会福祉法人 (社協)	92	3	89	100.0%	3.3%	96.7%
3	医療法人	1	0	1	100.0%	0.0%	100.0%
4	民法法人 (社団・財団)	0	0	0	-	-	-
5	営利法人	1	0	1	100.0%	0.0%	100.0%
6	非営利法人 (NPO)	0	0	0	-	-	-
7	農協	8	1	7	100.0%	12.5%	87.5%
8	生協	0	0	0	-	-	-
9	その他法人	14	1	13	100.0%	7.1%	92.9%
10	地方公共団体 (都道府県)	1	0	1	100.0%	0.0%	100.0%
11	地方公共団体 (市町村)	189	9	180	100.0%	4.8%	95.2%
12	地方公共団体 (広域連合・一部事務組合等)	98	3	95	100.0%	3.1%	96.9%
13	非法人 (個人)	0	0	0	-	-	-
99	その他	6	0	6	100.0%	0.0%	100.0%

図表 1484 ⑦訪問介護

		事業所・施設数 (件)				
		全体	加算Ⅰのみ 算定	加算Ⅱのみ 算定	加算Ⅰ、Ⅱ 両方算定	非算定
1	社会福祉法人 (社協以外)	3,504	10	17	2	3,475
2	社会福祉法人 (社協)	1,434	3	5	0	1,426
3	医療法人	1,785	6	24	3	1,752
4	民法法人 (社団・財団)	436	0	1	0	435
5	営利法人	23,410	10	35	1	23,364
6	非営利法人 (NPO)	1,529	0	1	0	1,528
7	農協	234	0	2	0	232
8	生協	402	1	6	1	394
9	その他法人	203	1	1	0	201
10	地方公共団体 (都道府県)	0	0	0	0	0
11	地方公共団体 (市町村)	35	0	0	0	35
12	地方公共団体 (広域連合・一部事務組合等)	9	0	0	0	9
13	非法人 (個人)	14	0	0	0	14
99	その他	58	0	0	0	58

		構成比 (%)				
		全体	加算Ⅰのみ 算定	加算Ⅱのみ 算定	加算Ⅰ、Ⅱ 両方算定	非算定
1	社会福祉法人 (社協以外)	100.0%	0.3%	0.5%	0.1%	99.2%
2	社会福祉法人 (社協)	100.0%	0.2%	0.3%	0.0%	99.4%
3	医療法人	100.0%	0.3%	1.3%	0.2%	98.2%
4	民法法人 (社団・財団)	100.0%	0.0%	0.2%	0.0%	99.8%
5	営利法人	100.0%	0.0%	0.1%	0.0%	99.8%
6	非営利法人 (NPO)	100.0%	0.0%	0.1%	0.0%	99.9%
7	農協	100.0%	0.0%	0.9%	0.0%	99.1%
8	生協	100.0%	0.2%	1.5%	0.2%	98.0%
9	その他法人	100.0%	0.5%	0.5%	0.0%	99.0%
10	地方公共団体 (都道府県)	-	-	-	-	-
11	地方公共団体 (市町村)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
12	地方公共団体 (広域連合・一部事務組合等)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
13	非法人 (個人)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
99	その他	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

図表 1485 ⑧小規模多機能型居宅介護

		事業所・施設数 (件)				
		全体	加算Ⅰのみ 算定	加算Ⅱのみ 算定	加算Ⅰ、Ⅱ 両方算定	非算定
1	社会福祉法人 (社協以外)	2,799	24	19	5	2,751
2	社会福祉法人 (社協)	194	1	0	1	192
3	医療法人	1,087	49	25	17	996
4	民法法人 (社団・財団)	57	1	0	0	56
5	営利法人	4,391	28	27	3	4,333
6	非営利法人 (NPO)	561	0	1	1	559
7	農協	54	0	0	0	54
8	生協	146	0	3	0	143
9	その他法人	109	0	1	0	108
10	地方公共団体 (都道府県)	1	0	0	0	1
11	地方公共団体 (市町村)	5	0	0	0	5
12	地方公共団体 (広域連合・一部事務組合等)	0	0	0	0	0
13	非法人 (個人)	12	0	0	0	12
99	その他	52	1	0	0	51

		構成比 (%)				
		全体	加算Ⅰのみ 算定	加算Ⅱのみ 算定	加算Ⅰ、Ⅱ 両方算定	非算定
1	社会福祉法人 (社協以外)	100.0%	0.9%	0.7%	0.2%	98.3%
2	社会福祉法人 (社協)	100.0%	0.5%	0.0%	0.5%	99.0%
3	医療法人	100.0%	4.5%	2.3%	1.6%	91.6%
4	民法法人 (社団・財団)	100.0%	1.8%	0.0%	0.0%	98.2%
5	営利法人	100.0%	0.6%	0.6%	0.1%	98.7%
6	非営利法人 (NPO)	100.0%	0.0%	0.2%	0.2%	99.6%
7	農協	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
8	生協	100.0%	0.0%	2.1%	0.0%	97.9%
9	その他法人	100.0%	0.0%	0.9%	0.0%	99.1%
10	地方公共団体 (都道府県)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
11	地方公共団体 (市町村)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
12	地方公共団体 (広域連合・一部事務組合等)	—	—	—	—	—
13	非法人 (個人)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
99	その他	100.0%	1.9%	0.0%	0.0%	98.1%

図表 1486 ⑨定期巡回・随時対応型訪問介護看護

		事業所・施設数 (件)				
		全体	加算Ⅰのみ 算定	加算Ⅱのみ 算定	加算Ⅰ、Ⅱ 両方算定	非算定
1	社会福祉法人 (社協以外)	260	1	2	1	256
2	社会福祉法人 (社協)	11	0	0	0	11
3	医療法人	160	2	9	0	149
4	民法法人 (社団・財団)	15	0	0	0	15
5	営利法人	441	0	3	1	437
6	非営利法人 (NPO)	12	0	0	0	12
7	農協	6	0	0	0	6
8	生協	32	0	3	0	29
9	その他法人	27	0	1	0	26
10	地方公共団体 (都道府県)	0	0	0	0	0
11	地方公共団体 (市町村)	0	0	0	0	0
12	地方公共団体 (広域連合・一部事務組合等)	0	0	0	0	0
13	非法人 (個人)	1	0	0	0	1
99	その他	5	0	0	0	5

		構成比 (%)				
		全体	加算Ⅰのみ 算定	加算Ⅱのみ 算定	加算Ⅰ、Ⅱ 両方算定	非算定
1	社会福祉法人 (社協以外)	100.0%	0.4%	0.8%	0.4%	98.5%
2	社会福祉法人 (社協)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
3	医療法人	100.0%	1.3%	5.6%	0.0%	93.1%
4	民法法人 (社団・財団)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
5	営利法人	100.0%	0.0%	0.7%	0.2%	99.1%
6	非営利法人 (NPO)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
7	農協	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
8	生協	100.0%	0.0%	9.4%	0.0%	90.6%
9	その他法人	100.0%	0.0%	3.7%	0.0%	96.3%
10	地方公共団体 (都道府県)	—	—	—	—	—
11	地方公共団体 (市町村)	—	—	—	—	—
12	地方公共団体 (広域連合・一部事務組合等)	—	—	—	—	—
13	非法人 (個人)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
99	その他	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%



## 第5章 ヒアリング調査結果

### 1. 調査対象

下記の事業所にヒアリング調査を行った。

以下では、生活機能向上連携加算を、「加算」と表す。

図表 1487 ヒアリング調査対象一覧表

事業所記号	加算の算定有無	サービス種別	事業所、事業所と連携している ケアマネジャーと医療施設の区分 (内)はヒアリング対象者の職位
A	算定	通所介護	・事業所（リハビリ職 20 年） ・利用者のケアプランを策定したケアマネジャー
B	算定	通所介護	・連携先のリハビリ施設（リハビリ職 8 年）
C	算定	訪問介護	・事業所（介護福祉士、管理者） ・利用者のケアプランを策定したケアマネジャー（8 年） ・連携先の病院（リハビリ職 8 年）
D	算定	訪問介護	・連携先のリハビリ施設（リハビリ職 8 年）
E	非算定	リハビリ事業所	・事業所（リハビリ職 10 年）
F	非算定	リハビリ事業所	・リハビリ施設（理学療法士、介護支援専門員、認定訪問療法士）

## 2. 加算算定事業所への調査結果

### A 通所介護事業所への調査

#### (1) 連携する医師への依頼方法

知り合いの整形外科の医師に直接依頼した。当事業所には PT、OT がおり他の事業所のリハビリ職から助言を受ける必要性はないことから医師の助言を得ている。また当地域にある通所リハビリ事業所、訪問リハビリ事業所は経験年数が浅い人が行っている。このため当事業所からみると何故、加算を算定するのに外部のリハビリ職の助言が必要なのかが分からない。この旨を行政に相談した結果、医師から助言を受けることとなった。

#### (2) 医師との連携による効果

当事業所にはリハビリ専門職がいるため、リハビリに関する計画は当事業所が作成した計画について医師から信頼を得ている。このため医師からは骨粗鬆症や、術後の予後予測などについての助言を受けている。

#### (3) 利用者への効果

圧迫骨折した人は一般的には寝たきりになると言われるが、利用者は、医師の助言に対し安心感を持ち、リハビリへのモチベーションが上がっている。また当事業所による指導の説得力が増し、利用者からの納得感が増していると事業所では考えている。

#### (4) 連携する際の課題

連携先が事業所の知り合いでないと連携先を探すのは難しいため、知り合いがない場合には連携先をどのように探すのかという問題が出てくる。

#### (5) 連携する医師への報酬の支払いについて

医師の訪問1回につき8000円を支払っている。8000円という金額の根拠はなく、また労働に対する報酬としての水準の金額ではなく気持ち程度という位置づけである。算定している単位数が利用者1人あたり100単位と多くはない単位数であるため、多くの費用を支払えない。このように少額しか支払えないため、法人内との連携であればよいが、法人外での金銭授受有りでの連携は難しいのではないかと。

## **A ケアマネジャー職への調査**

### **(1) 連携している事業所との関係**

加算が創設される前から、事業所とは付き合いがあり連携しやすかった。

### **(2) 加算算定によるケアプランの変化**

加算に関して、ケアマネジャーは利用者のケアプランの作成しか関与できないが、リハビリに関する計画が改善されたため、利用者の目標に沿ったケアプランとなった。事業所は加算を算定しているが、ケアマネジャー側から事業所やリハビリ事業所に加算算定を提案したことはない。

### **(3) 利用者への効果**

連携している事業所からは、リハビリ専門職が関わることで、利用者や家族が安心した、リハビリの指導が改善されたとの意見を聞いているため加算算定は生かされていると考えている。

### **(4) 加算算定が促進するために必要なこと**

加算を使い利用者に効果があれば、利用者が増えると考えている。

## **B 通所介護事業所のリハビリ職への調査**

### **(1) 事業所との関係について**

連携している通所介護とは、加算算定前から提携している。現在、利用者の約8割が加算を使っている。

### **(2) 利用者への効果**

加算算定により20人以上に対しリハビリ指導を行ったが、リハビリの訓練指導が入ることで介護士の介助も上達し、利用者の機能向上に改善が見られた。代表的な2利用者を挙げる。

- ① 利用者A（60代女性 要介護度4 脳卒中による片側麻痺）の歩行訓練を行った。指導前は、施設と自宅では車いすの生活であったが、リハビリ指導を行ったところ、半年後に4点杖で歩けるようになった。
- ② 利用者B（70代女性 要介護度5）の立ち上がりと移乗の介助を行った。指導前は、全介助であったが、通所介護の介助者々と利用者の家族の介助軽減を目的にリハビリ指導を行ったところ、9か月後に立ち上がりと移乗が部分介助になった。

### **(3) ICTの活用について**

利用者の状況は、口頭やメールなどで伝えられるが、動画などがあればより具体的な情報が増えるので、ICTによる情報提供は大変有用である。

### **(4) 同一法人か他法人かの違いによる加算算定のしやすさ**

これまでに付き合いのない事業所との連携についてはある程度、信頼関係ができないと連携が難しいのではないかと思う。

### **(5) 加算算定制度のメリット**

現在加算算定で連携している事業所とは、加算算定前から連携していたが、加算算定により、リハビリ指導の介入の目的、目標をはっきり明示し、通所介護のスタッフとより多くの情報共有ができるようになった点は良かったと考えている。

### **(6) 連携が促進するために検討が必要なこと**

現在は加算を取るのが事業所であるため、リハビリ施設を利用する利用者のために加算

を取りたくてもリハビリ施設の方から事業所に持ち掛けるのはハードルが高いと感じる。

事業所からの報酬は、介助指導の項目数などによっても準備時間や難易度が異なるため、訪問時間数でなく介助指導の項目なども加味したものを行政が提示してくれると事業所も助かると考えている。

## **(7) その他**

事業所からリハビリ施設への報酬についてルール化して欲しいと考えている。

## C 訪問介護事業所への調査

### (1) 加算算定を使ったきっかけ

算定要件を見て、当事業所でもできそうだと思ったことが加算算定につながった。

### (2) 加算算定に伴う連携による変化

事業所の職員としては、連携により精神的な負担が増えるというよりは、利用者の目標達成などの達成感が増えた。

### (3) 連携が上手くいった理由

リハビリ事業所とは元々顔が見える状況だったことも寄与している。この他、行政が事業所同士、連携しやすい体制を作っていたことも大きい。なお行政のネットワークに参加する前は、他の事業所の知り合いは少なかった。

### (4) 利用者への効果

加算の利用者への効果は大きかった。利用者が、自宅でトイレに行けるようになりたいという目標を持って通所リハビリでのリハビリを行っていたが、これに加え、加算により自宅でリハビリができたという点が大きかった。

### (5) ICTの活用について（機能訓練の実施方法への影響）

一般に訪問介護員のスキルでは訪問先に一人で行って利用者の状態像を把握してこることは難しい。しかしながら、携帯端末などで動画撮影をすることで、一人で訪問しても事業所内で利用者の情報をその場にいなかった職員と共有することで、利用者へのケアの検討を行うことができる。

### (6) 連携を促進するために検討すべきこと

加算が無かったら連携したリハビリは行わなかった。リハビリ職に費用を支払う場合、その金額を決めることに抵抗感を感じる。また事業所から資金を拠出することには、事務手続き等も必要となり抵抗感がある。

## C ケアマネジャーへの調査

### (1) 加算算定を使ったきっかけ

利用者 A の配偶者が、リハビリに積極的であり、加算を使った一番の推進者であった。推進のポイントはリハビリができることであり、この点が重要だった。

インタビューに回答したケアマネジャーは当初加算の存在を知らなかったが、訪問介護事業所の訪問介護員から加算の存在を知らされた。また、今回、調査対象となった訪問介護事業所以外では加算の算定を行っていない。

### (2) ケアプランの変化はあったか

目標がより細かく具体的になった。リハビリ職がより深く関わった。加算を算定する前段階で関係職種が集まって議論した結果をサービス計画書に反映した。

### (3) 利用者への効果

目標が具体化したことで、利用者本人のやる気が出た。

### (4) ICT の活用について

ICT を利用することにはメリット、デメリットがある。メリットは、利用者に会わなくても状態像が把握できることと、定期的にモニタリングできるという一面がある。デメリットは、動画では歩いている後ろ姿などが一方向からしか撮影できないため、どこに無理な力が入っているのかなど全身像の状態像は実際に触らないと分からないこともある。

### (5) 他の事業所から加算算定の相談はあったか

加算算定についての相談はヘルパーから要望も上がってこない。また、担当している 30 人程度の利用者の中に該当する人がいない。

### (6) 加算算定が促進するために必要なこと

加算算定が進まない理由として、認知度が低いことが考えられる。必要な対応策として、加算の周知が挙げられる。

### (7) 介護事業所からリハビリ事業所への報酬の支払いについて

リハビリ専門職は実際にリハビリを行うわけではなく、大きな方向性を決めるのみなので、介護事業所からリハビリ事業所への報酬の支払いは無くても良い。

## C リハビリ職への調査

### (1) 実施した業務

利用者の動作を介護士と一緒に見て情報を共有した。その上で、杖の高さなども含めた細かい指導を行った。

### (2) 利用者への効果

当事業所におけるリハビリテーションマネジメント加算3の算定によりある程度の改善が見られたので、利用者本人の意欲が高まり、加算算定につながった。リハビリテーションマネジメント加算3の算定と併せてリハビリを行った結果、目標として掲げていた排泄を上手に行うという目標が達成できた。また、リハビリ施設を利用し始めたときは上手く歩けなかったが、今は一本杖で歩けるようになり、自宅では4点杖を使えるようになった。

### (3) ICTの活用について

電子媒体による動画の提供は現場で見ている状況に比べたら情報量は劣るが、映している範囲（手すりや素材など）が的確であれば、動画でもかなりの情報を把握できる。

### (4) 同一法人か他法人かの違いによる加算算定のしやすさ

同一法人内で、月に1度、通所介護に訪問して何かあると電話のやりとりを行っているが、他法人の訪問介護事業所とのやりとりと基本的には同一法人内の事業所とのやり取りと変わらない。しっかりと電話でのやりとりが取り合えていれば連携できる。但し、金銭面でどう折り合いをつけるかという点について違いが出るか否かまでは分からない。

### (5) 訪問介護事業所から報酬を受け取らない事について

報酬の受け取りについては、リハビリテーションマネジメント加算3の算定を行っていないければ、受け取っていたかもしれないが、他の事業者には報酬が出ないので、そういう意味では加算と良い組み合わせになっている。

## D 訪問介護 リハビリ職への調査

### (1) 他法人との連携について

自法人内に、グループホーム、病院がある。また、加算算定前から他法人の通所リハビリ施設とも連携していた。通所リハビリ施設には 30 人の利用者がおり、その中で加算を算定している利用者が 2 人いる。この利用者 2 人のケアマネジャーは同じ人で、加算を知っている人である。

### (2) 実施した業務

- ① 利用者 A (女性 70 代後半 自宅で家族の介助と週 2 回通所リハを利用) は普段は車いすで生活しているが、ポータブルトイレもできるだけ自分でできるようにしたいことと車での外出を望んでいるので、そのために上半身の筋力を使って安全に移乗できるようにするためのリハビリを行った。自宅の軽自動車と施設にある送迎車ほぼ同じタイプであったので、施設にある車を使い、利用者 A の家族やヘルパーに移乗の際への上半身の力の入れ方の介助を指導した。
- ② 利用者 B (男性 80 代 有料老人ホームに入所し、通所リハを利用) は朝と夕方にヘルパーが入り、ベッド上での寝返り、起きる、おむつ替えの時のお尻の上げの介助を行っている。

利用者 A も利用者 B もリハビリ指導者の介助の様子を動画に撮影し、その日参加できなかった複数のヘルパーに見せたところ、これまでには介助にばらつきがあったのが、かなり改善され介助の負担が小さくなった。

### (3) 利用者への効果

- ① 利用者 A は、以前は外出に不安があったが、リハビリ指導が入ったことでヘルパーの介助が楽になり、ポータブルトイレに自力で行ける頻度が高くなったことから、外出頻度も以前は移乗で月に一回程度であったが、一週間に一度くらい買い物などに行けるようになった。
- ② 利用者 B は現在入院中であるが、良くなったら、次の目標を立てて別の加算を継続することを考えている。

### (4) ICT の活用について

利用者の介助の動作をスマホで撮影しているが、会議に出席できなかったヘルパーなどで情報共有することができ、動画があった方が介助の方法が伝わりやすい。リハビリ専門職もケアマネジャーも実際に利用者に会うのは 2 か月か 3 か月に一度になるので、その間

の利用者の状況経過を実際に見ることができないため、動画などで経過があればケアプランやリハビリ計画も立てやすくなると考えている。

## **(5) リハビリ施設との連携の効果**

加算算定前から自法人、他法人と連携してきたが、事業所にリハビリ指導が入るとヘルパーの介助の質が上がると考えている。またヘルパーの介助にはばらつきがあり、全員を同じ日に一度にリハビリ専門職が指導することは難しいが、介助の方法について動画などで撮影すれば、その日に参加できなかった人にも情報共有ができて参考になると考えている。

## **(6) 連携の課題と対応策**

リハビリ専門職が現場に行くことはあまりないので、利用者と関係するスタッフ全員と連絡を取ることは難しい。ケアマネジャーの目標とリハビリの目標が食い違うこともあるので、できるだけ同行し目標を確認するようにしている。

### 3. 加算非算定事業所への調査結果

#### E リハビリ事業所への調査

##### (1) 他法人と連携を行うことが困難な理由

大きな理由としては下記の3つが挙げられる。

- ① 当事業所からみて、地域における法人外の通所介護やグループホームが生活機能向上連携加算を知らないこと。
- ② 加算への理解が得られたとしても、通所介護側からみると登録者を取られるのではないかと不安があると考えられること。
- ③ リハビリ側のマンパワー不足であること。

以上の3つ理由の中で、重要性が高いものは1番目で、次に2番目になる。

また、ケアマネジャーは加算を知らない人の方が多いのではないかと考えている。

##### (2) 加算算定による効果

加算算定によりリハビリを行う理由を理解できるため、正しいリハビリを行える。

##### (3) 経営面への影響

契約書を作る事務作業が増えることが負担になる。この解決のために書式などのサンプルがあると良い。報酬はもらわない方針であるが場合により10割、5割、3割などのパターンなど決まっていると良い。現状では、報酬は割に合わない金額である。しかし加算を取ることで、通所介護から通所リハビリにつながりやすくなり、別の社会参加支援加算を取ることにつながっていく。この観点からやっていく価値があり、地域貢献になる。加算単体では採算が取れない前提で考えている。

##### (4) ICTの活用について

大きな理由は、費用面のハードルが一番高いこと。またICTの管理などの事務作業が増えると負担となる。

##### (5) 連携・派遣を促進するために必要なこと

メリットは地域の通所リハビリ、グループホームとの連携が取れば、リハビリ終了後に元気になった利用者をつなぎ、Win-Winの関係も構築できる。

地域内でリハビリ協議会を立ち上げたため、病院同士のつながりは強なったが、通所介護、グループホームと顔の見える関係はまだない。行政レベルでのつながりがあると連携

しやすくなるが、会議があっても、会議だけで終わり、連携は取れないのが現状である。

## **(6) 加算算定が促進されるために必要なこと**

報酬額が上がること、制度の周知を広めることが必要である。

## **F リハビリ事業所への調査**

### **(1) 他法人と連携を行うことが困難な理由**

当法人は、昭和 56 年から老人福祉施設協議会、通所介護と連携して支援をしてきたため、加算を利用することは考えていない。

### **(2) リハビリ施設との連携の効果**

リハビリ施設を持っていない法人は、外部からの支援があると、ケアの細やかな視点などはわかりやすくなって良いと思う。また、ケアプランの計画に厚みが出てくるのではないかと思う。

連携することで相手の動きが見えるので理解が深まり、このことで信頼関係が生まれるので良い関係が築けると思う。

利用者にとっても、ケアに多職種が関われば自身に関心を持ってくれると安心感が増し、効果が上がりやすい。このため、リハビリ職の指導が入れば、介助面でもリハビリは楽に行えるようになる。

### **(3) 連携する上での懸念事項**

これまで連携したことがない事業所から加算のために連携を持ちかけられたら、リハビリ施設は、利用者を取られてしまうのではないかと不安になるかもしれない。しかし、連携することで信頼関係ができれば、リハビリ終了後に事業所に安心して利用者を送り出すこともでき、逆に事業所からリハビリ施設を紹介してもらえ、利用者をシームレスにケアすることができる。

ケアマネジャーは、この加算について知らない人が多いと思う。

### **(4) 所属組織の経営面への影響**

事業所などと連携する場合、リハビリ施設のスタッフが十分いないと他法人への派遣は会議なども含め、マンパワー的に難しいと思う。加算費用の授受について、事業所がそれぞれ提携しているリハビリ施設ごとに異なるよりは、金額は場合により何割などと国で決めた方が公平性があり望ましいと思う。

### **(5) ICT の活用について**

ICT の活用があまり進まない理由は、補助金を使って請求のみしか使わない、ネットワークをコーディネートする人がいない、現場が使いこなせないなどの理由がある。

### **(6) 加算算定が促進するために必要なこと**

特に、ケアマネジャーに加算の制度の周知をすることが大切である。ケアマネジャーが加算算定を使って、リハビリ施設を入れてよかったという経験があれば、そのノウハウを生かしていろいろな事業所に紹介をして使いやすくなるのではないかと思う。また、加算算定を使って連携した良い事例を研修会などで紹介する機会があれば周知も進み、使ってみようという事業所も出てくるのではないかと思う。

# 調查票

D1	ID	調査票 1
平成 30 年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査(令和元年度調査) 介護サービスにおける機能訓練の状況等に係る調査研究一式 <b>生活機能向上連携加算に関する調査(通所介護)</b>		
○調査事務局よりお問い合わせをさせて頂く場合がございますのでご回答者様のご氏名等についてお伺いします。		
ご氏名	貴事業所・貴施設名	
電話番号	メールアドレス	

・以下では、特に断りのない限り、令和元年 10 月 1 日現在の状況についてお答えください。

**I. 貴事業所・貴施設の基本属性についてお伺いします**

問 1-1 法人種別	1. 社会福祉法人 2. 医療法人 3. 特定非営利活動法人 4. 株式会社 5. 株式会社以外の営利法人 6. その他 ( )
問 1-2 種類・施設区分	該当する選択肢をお選びください。(○は1つ) 1. 地域密着型 2. 通常規模型 3. 大規模型 (I) 4. 大規模型 (II) (月平均利用延人数 751 人以上 900 人以下)
問 1-3 定員数	人 18. 地域密着型老人福祉施設入所者生活介護 19. 看護小規模多機能型居宅介護 20. 介護老人福祉施設 21. 介護老人保健施設 22. 介護療養型医療施設 23. 介護医療院 24. サービス付き高齢者向け住宅 25. 有料老人ホーム 26. 養護老人ホーム、軽費老人ホーム (ケアハウス、A、B) 27. 旧高齢者専用賃貸住宅 28. 地域包括支援センター (在宅介護支援センター) 29. 病院 30. 診療所 31. 歯科診療所

問 1-4 併設施設サービス(同一敷地内もしくは隣接する敷地内で提供する)	1. 訪問介護 2. 訪問入浴介護 3. 訪問看護 4. 訪問リハビリテーション 5. 通所介護 6. 通所リハビリテーション 7. 短期入所生活介護・療養介護 8. 特定施設入居者生活介護 9. 福祉用具貸与・販売 10. 居宅介護支援 11. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 12. 夜間対応型訪問介護 13. 認知症対応型通所介護 14. 地域密着型通所介護 15. 小規模多機能型居宅介護 16. 認知症対応型共同生活介護 17. 地域密着型特定施設入居者生活介護
問 1-5 要介護度別の利用者数(実人数)(令和元年9月)	要介護 1 要介護 2 要介護 3 要介護 4 要介護 5 申請中 人 人 人 人 人 人
問 1-6 認知症高齢者の日常生活自立度別の利用者数(実人数)(令和元年9月)	合計 自立 I IIa IIb IIIa IIIb IV M 人 人 人 人 人 人 人 人

問 1-7 職員数(令和元年 10 月 1 日時点)	①常勤職員 ②非常勤職員 (常勤換算※2)
1) 管理者	人 人
2) 生活相談員	人 人
3) 看護職員	人 人
4) 介護職員	人 人
5) 機能訓練指導員	人
6) その他職員	人
7) 全職員数	人
8) 非常勤職員 (常勤換算※2)	人
9) 常勤職員 (常勤換算※2)	人

※1: 1人が複数の職種に該当する場合には、該当する全ての職種に計上ください。  
 ※2: 常勤換算数の算出: 「職員の一週間の労働時間÷貴事業所・貴施設の所定労働時間」にて算出し、小数点以下第二位を四捨五入して小数点第一位まで計上してください。

問 1-8 機能訓練指導員(常勤職員、非常勤職員のいずれも)として登録している職員の保有する全ての資格に○を付けてください(令和元年 10 月 1 日時点)。	1) 看護士 2) 准看護師 3) 理学療法士 4) 作業療法士 5) 言語聴覚士 6) 柔道整復師 7) あん摩マッサージ指圧師 8) はり師 9) きゆう師
回答例	○
1人目	
2人目	
3人目	
4人目	
5人目	
6人目	
7人目	
8人目	
9人目	
10人目	

問 1-9 同一法人内の他事業所にリハ専門職等<sup>※1</sup>は在籍していますか。また、それらのリハ専門職等は貴事業所・貴施設等、法人内において助言を行っていますか。(令和元年 10 月 1 日時点)(○は1つ)  
 ※1: リハ専門職等とは、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士又は医師のことを指します。  
 ※2: リハビリテーション専門医、病院や診療所のリハビリテーション科等に従事する医師のことを指します。

1) 理学療法士	①在籍していますか	②助言を行っていますか
2) 作業療法士	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ
3) 言語聴覚士	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ
4) 病院・診療所のリハビリテーション専門医 <sup>※2</sup>	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ
5) 病院・診療所の医師(リハビリテーション専門医 <sup>※2</sup> 以外)	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ
6) 訪問リハビリテーション又は通所リハビリテーションの医師	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ
問 1-10 利用者のADLやIADLをどのような指標を用いて定期的に評価していますか。(あてはまるものに○)	1. BI 2. FIM 3. その他 ( ) 4. 定期的な評価は行っていない	

**II. 加算の算定状況についてお伺いします**

○生活機能向上連携加算の算定状況  
 問 2-1 令和元年9月における生活機能向上連携加算の算定有無・生活機能向上連携加算の算定に合致する取組の実施状況、利用者の実人数、加算算定に合致する取組の実人数に合致する取組の実人数(○は1つ)  
 1. 算定している (利用者実人数: 人、リハ専門職等の実人数: 人)  
 2. 生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っているが、算定していない  
 3. 生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っていない

○生活機能向上連携加算の算定によるメリット等

＜問2-2は、問2-1で「1.算定している」、「2.生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っているが、算定していない」とご回答の場合に、ご回答ください＞

生活機能向上連携加算を適用する前の状態(要介護1、2)	① 要介護1、2の利用者		② 要介護3～5の利用者	
	全くあてはまらな い	あまりあてはまら ない	ある程度あてはま る	とてもあてはま る
1) 専門的な視点を踏まえ質の高い個別機能訓練計画を作成できた	1	2	3	4
2) 専門的な視点を踏まえた計画であるため、利用者に対し何故機能訓練を行うのかを自信を持って説明できるようになった。	1	2	3	4
3) 利用者の身体機能の維持・向上につながった	1	2	3	4
4) 利用者の ADL や IADL の維持・向上につながった	1	2	3	4
5) 利用者本人の役割の再獲得や社会参加につながった	1	2	3	4
6) 利用者の重度化防止につながった	1	2	3	4
7) 外部(※)のリハ専門職等が助言して作成した計画に基づき機能訓練を行うことで利用者の安心につながった	1	2	3	4
8) 外部(※)のリハ専門職等が助言して作成した計画に基づき機能訓練を行うことで介護職員等の安心につながった	1	2	3	4
9) その他( )	1	2	3	4

※：外部とは、貴事業所・貴施設以外の主体を指します。

問2-3 リハ事業所等(※1)との連携(※2)によって個別機能訓練計画はどの程度改善されたと感じますか。

※1：リハ事業所等とは、通所リハビリテーション事業所、訪問リハビリテーション事業所、リハビリテーションを実施している医療提供施設を指します。

※2：連携とは、生活機能向上連携加算の算定のために外部のリハ専門職等が調査対象事業所・施設への訪問等を行い、利用者のアセスメントや調査対象事業所・施設への助言を共同で行うことを指します。

<p>問2-4 連携の結果、職員の機能訓練やケア方法など貴事業所・貴施設にとってどのようなメリットがありましたか。(あてはまるもの全てに○)</p>	<p>1. 機能訓練指導員のケアの質が向上した</p> <p>2. 介護職員のケアの質が向上した</p> <p>3. 利用者の状態や希望に応じてケアの機会が増えた</p> <p>4. 介護職員等が安心して働けるようになった</p> <p>5. 貴事業所・貴施設が提供するケアの幅が広がった</p> <p>6. 介護職員等の業務負担の軽減につながった</p> <p>7. 介護職員等の教育につながった</p> <p>8. 経営上のメリットがあった</p> <p>9. ケアを行う際に多職種(連携先以外の職種も含む)で連携して対応する機会が増えた</p> <p>10. 機能訓練に関するデータ管理やデータの活用力が向上した</p> <p>11. その他( )</p>
--	---

＜問2-5は、問2-1で「1.算定している」とご回答の場合に、ご回答ください＞

問2-5 貴事業所・貴施設が令和元年9月1か月間の生活機能向上連携加算の算定にあたり連携した全てのリハ事業所等に支払うべき報酬の総額をご記入ください。

なお報酬の月額あたりを締結している場合には1か月分ごとに換算をご計ください。

円

○生活機能向上連携加算を算定しない理由等

＜問2-6は、問2-1で「2.生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っているが、算定していない」とご回答の場合に、ご回答ください＞

<p>問2-6 生活機能向上連携加算に該当する業務を行っているが、算定していない理由をお答えください(あてはまるもの全てに○)</p> <p>1. 加算の意義や必要性が感じられないため</p> <p>2. 加算の適用対象者としての利用者を選定して良いか分からないため</p> <p>3. 加算の適用を必要とする利用者がいないため</p> <p>4. 利用者・家族への説明の機会を作ることが難しいため</p> <p>5. 加算算定により利用者負担が増えるが、負担に見合う加算のメリットを説明するノウハウがないため</p> <p>6. 利用者・家族の理解が得られないため</p> <p>7. 個別機能訓練計画の作成が難しいため</p> <p>8. 加算の算定に必要な要件がわからないため</p> <p>9. 加算の算定に取組む余裕がないため</p> <p>10. かかるコスト・手間に比べて単位数が割に合わないため</p> <p>11. その他( )</p>	<p>＜問2-7は、問2-1で「3.生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っているが、算定していない」とご回答の場合に、ご回答ください＞</p> <p>問2-7 生活機能向上連携加算の存在をご存知でしたか。</p> <p>1. 知っている</p> <p>2. 知らなかった</p>
<p>＜問2-8は、問2-7で「1.知っている」とお答えになった場合にお答えください＞</p> <p>問2-8 生活機能向上連携加算を算定していない理由として該当するもの全てに○を付けてください。</p> <p>1) 自立支援や介護予防の重要性について十分に理解できないため</p> <p>2) 加算の意義や必要性が感じられないため</p> <p>3) 貴事業所・貴施設に既にリハ専門職等が在籍しており、連携する必要性がないため</p> <p>4) 貴事業所・貴施設が人手不足の状況にあり、利用者の生活の維持に注力すること以外のことを行う余裕がないため</p> <p>5) 加算の適用対象者としての利用者を選定して良いか分からないため</p> <p>6) 加算の適用を必要とする利用者がいないため</p> <p>7) 利用者・家族への説明の機会を作ることが難しいため</p> <p>8) 加算算定により利用者負担が増えるが、負担に見合う加算のメリットを説明するノウハウがないため</p> <p>9) 利用者・家族の理解が得られないため</p> <p>10) 個別機能訓練計画の作成が難しいため</p> <p>11) 外部のリハ事業所等との連携が難しいため</p> <p>12) 加算の算定に必要な要件がわからないため</p> <p>13) 加算の算定に取組む余裕がないため</p> <p>14) かかるコスト・手間に比べて単位数が割に合わないため</p> <p>15) その他( )</p>	

○個別機能訓練加算の算定状況

問2-9 令和元年9月における個別機能訓練加算の算定有無及び算定回数、利用者実人数についてお伺いします。

個別機能訓練加算(Ⅰ)	1. 算定している( )	回、利用者実人数: ( )	人	2. 算定していない
個別機能訓練加算(Ⅱ)	1. 算定している( )	回、利用者実人数: ( )	人	2. 算定していない

**○個別機能訓練加算を算定しない理由**

<問2-10は、問2-9で個別機能訓練加算の(Ⅰ)(Ⅱ)のいずれかに「2.算定していない」とご回答の場合に、ご回答ください>

問2-10 個別機能訓練加算を算定していない理由として該当するもの全てに○を付けてください。	個別機能訓練加算(Ⅰ)	個別機能訓練加算(Ⅱ)
1)加算の意義や必要性が感じられないため		
2)加算の適用を必要とする利用者がいないため		
3)利用者・家族への説明の機会を作ることが難しかったため		
4)利用者・家族の理解が得られなかったため		
5)個別機能訓練計画の作成が難しかったため		
6)機能訓練指導員を常勤又は専従により配置することが難しかったため		
7)加算の算定に必要な要件がわからなかったため		
8)加算の算定に限り組む余裕がなかったため		
9)かかるコスト・手間に比べて単位数が割に合わないため		
10)その他( )		

**Ⅲ. 外部との連携状況についてお伺いします**

問3-1 貴事業所・貴施設の近隣地域において、リハ専門職等を派遣しているリハ事業所等をご存じですか。(○は1つ)

1. 知っているリハ事業所等があり、連絡を取ったことがある
2. 知っているリハ事業所等があるが、連絡を取ったことはない
3. 知らない

<令和元年10月1日時点における状況をお伺い致します。該当する連携先が複数ある場合には、個別機能訓練計画等を作成する上で最も連携が多い連携先についてご記入ください>

問3-2 個別機能訓練が必要かを把握するため利用者の定期評価を行っていますか。	1. はい 2. いいえ
問3-3 現在、個別機能訓練計画を作成する上で外部のリハ事業所等と連携していますか。(○は1つ)	1. 連携している 2. 連携を試みたが断念した 3. 連携を試みていない

**○連携している理由等**

<問3-4~3-13は、問3-3で「1.連携している」とご回答の場合、ご回答ください>

問3-4 連携している理由についてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)	1. 専門的な視点を踏まえ個別機能訓練計画等を作成するため 2. 介護職員等の教育につながるため 3. 利用者のサービスマン向上につながるため 4. 経営上のメリットがあるため 5. その他( )
問3-5 貴事業所・貴施設が令和元年9月に連携している外部のリハ事業所等(以下、問3において連携先と呼称)の件数を記入下さい。	

問3-6 連携先は貴事業所・貴施設と同一法人かどうかについてご記入ください。(○は1つ)	1. 同一法人 2. 別法人(グループ法人) 3. 別法人(グループ法人以外)
--	---

問3-7 連携先となる事業所・施設(○は1つ)	1. 指定訪問リハビリテーション事業所 2. 指定通所リハビリテーション事業所 3. 病院 4. 診療所 5. 介護老人保健施設 6. 介護療養型医療施設 7. 介護医療院
-------------------------	--

<問3-8は、問3-7で「3. 病院」と答えられた方がお答えください>

問3-8 問3-7でご回答になられた病棟の許可病床数と周辺診療所の状況についてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)	1. 許可病床数が200床未満である 2. 許可病床数が200床以上である 3. 半径4キロメートル以内に診療所が存在しない 4. 半径4キロメートル以内に診療所が存在する
---	---

問3-9 連携している職種として該当するものについてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)	1. 理学療法士 2. 作業療法士 3. 言語聴覚士 4. 医師
--	---

問3-10 連携先による貴事業所・貴施設への訪問頻度についてお伺いします。(○は1つ)	1. 3ヶ月に1回 2. 2ヶ月に1回 3. 1ヶ月に1回 4. 1ヶ月に2回以上 5. その他( )
---	---

問3-11 連携先が貴事業所・貴施設へ訪問する曜日や日時(あらかじめ決まっていますか。(○は1つ))	1. 事前に決まった曜日・日付で訪問する。 2. 必要に応じて都度日程を調整し訪問する。 3. その他( )
--	--

問3-12 連携先と連携を継続する上での課題があれば、該当するものに○をつけてください。	1. 貴事業所・貴施設の職員に連携の必要性を理解させることが難しい 2. 連携先が3ヶ月に1回以上訪問する事が難しい 3. 職員が忙しく共同でアセスメントや計画等を見直すための時間が取れない 4. 貴事業所・貴施設として採算が取れない 5. 連携先に十分な対価を支払うことができない 6. その他( ) 7. 課題はない
問3-13 令和元年10月1日時点で連携している主なリハ事業所等は、平成30年4月以降に初めて連携を始めたか。(○は1つ)	1. はい 2. いいえ

**○連携していない理由等**

<問3-14、問3-15は、問3-3で「2.連携を試みていない」又は「3. 連携を試みていない」とお答えになった場合にお答えください>

問3-14 連携していない理由についてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)	1. 貴事業所・貴施設に個別機能訓練計画を作成できる職員がおり連携自体、不要と考えられているため 2. 利用者が拒否するため 3. 連携先候補となるリハ事業所等が地域に存在しないため 4. 連携先候補となるリハ事業所等が地域に存在するが分らないため 5. 連携先候補となるリハ事業所等に連携を依頼することに心理的な負担を感じるため 6. 連携先候補となるリハ事業所等への依頼の仕方が分らないため 7. 連携先候補への報酬の単価のように設定すれば良いかわからないため 8. 連携先候補と契約を締結することや、報酬単価を調整することに負担を感じるため 9. 連携先候補と報酬面の条件が折り合わないため 10. 連携先候補と連携頻度に関する条件が折り合わないため 11. 連携先候補と連携内容に関する条件が折り合わないため 12. 利用者の状態等の評価を共同で行うことが難しい 13. 個別機能訓練計画の作成が難しいため 14. その他( )
問3-15 外部のリハ専門職等との連携の必要性を感じていますか。(○は1つ)	1. はい 2. いいえ

<問3-16は、全ての方がお答えください>

問3-16 直近1年間(平成30年10月~令和元年9月)に、貴事業所・貴施設の利用を終えた者を訪問リハビリテーション・通所リハビリテーションの利用につなげた実績はありますか。(○は1つ)	1. ある 2. ない
---	-------------

<問3-17は、問3-16で「2. ない」とお答えになった場合にお答えください>

問3-17 問3-16で「2. ない」と回答した理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)	1. 対象となる利用者が存在しないため 2. 対象となる利用者が拒否するため 3. 対象となる利用者を選定することが難しいため 4. ケアマネジャーがケアプランに位置づけていないため 5. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所が地域に存在しないため 6. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所が地域に存在するが分からないため 7. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所に連携を依頼することに心理的な負担を感じるため 8. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所への依頼の仕方が分からないため
---	---

**IV. 機能訓練の実施状況についてお尋ねします。**

<問 4-1～問 4-4は、問 2-1 で生活機能向上連携加算に「算定している」とご回答の場合に、ご回答ください>

問 4-1 令和元年9月の1ヶ月間に生活機能向上連携加算の算定により連携したリハ専門職等の職種と、その対象となつた利用者の課題の組み合わせとして、該当するもの全てに○をつけてください。(あてはまるもの全てに○)	IADL										その他			
	食事	排泄	入浴	更衣	入浴	移動	昇降	階段移動	屋外移動	掃除	起き上がり	立ち上がり	福祉用具の利用等による生活環境の改善	家族への介護の方法の指導
職種														
1)理学療法士														
2)作業療法士														
3)言語聴覚士														

問 4-2 令和元年9月の1ヶ月間に生活機能向上連携加算の算定により連携したリハ専門職等の職種と、その対象となつた利用者の課題の組み合わせとして、該当するもの全てに○をつけてください。(あてはまるもの全てに○)	課題										
職種	口腔機能向上	栄養改善	医療処置	福祉用具の利用等による生活環境の改善	家族への介護の方法の指導						
1) 病院・診療所のリハビリテーション専門医											
2) 病院・診療所の医師(リハビリテーション専門医以外)											
3) 訪問リハビリテーション又は通所リハビリテーションの医師											

問 4-3 問 4-2 の内容の他に、令和元年9月の1ヶ月間に生活機能向上連携加算の算定により連携した医師が対応した利用者の課題についてお答えください。(自由記述)

問 4-4 問 4-1、問 4-2 で得られた助言は具体的にどのようなものですか。効果的とお考えの助言について、その助言者の職種と助言内容をお教えください。(自由記述)

質問は以上です。ご協力ありがとうございます。

D2

ID

調査票 1

平成 30 年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査(令和元年度調査)  
介護サービスにおける機能訓練の状況等に係る調査研究一式

**生活機能向上連携加算に関する調査(認知症対応型通所介護)**

○調査事務局よりお問い合わせをさせて頂く場合がございますのでご回答者様のご氏名等についてお伺いします。

ご氏名	貴事業所・貴施設名
電話番号	メールアドレス

・以下では、特に断りのない限り、令和元年 10 月 1 日現在の状況についてお答えください。

**I. 事業所・貴施設の基本属性についてお伺いします**

問 1-1 法人種別

1. 社会福祉法人	2. 医療法人	3. 特定非営利活動法人
4. 株式会社	5. 株式会社以外の営利法人	6. その他 ( )

<問 1-2～問 1-7は、それぞれ貴事業所・貴施設に該当するサービスがある設問についてのみお答えください>

問 1-2 種類・施設区分(○は1つ)

1. 単独型	2. 併設型	3. 共同型
--------	--------	--------

問 1-3 定員数

1. 訪問介護	18. 地域密着型老人福祉施設入所者生活介護
2. 訪問入浴介護	19. 看護小規模多機能型居宅介護
3. 訪問看護	20. 介護老人福祉施設
4. 訪問リハビリテーション	21. 介護老人保健施設
5. 通所介護	22. 介護療養型医療施設
6. 通所リハビリテーション	23. 介護医療院
7. 短期入所生活介護・療養介護	24. サービス付き高齢者向け住宅
8. 特定施設入居者生活介護	25. 有料老人ホーム
9. 福祉用具貸与・販売	26. 養護老人ホーム、軽費老人ホーム(ケアハウス、A、B)
10. 居宅介護支援	27. 高齢者専用賃貸住宅
11. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護	28. 地域包括支援センター(在宅介護支援センター)
12. 夜間対応型訪問介護	29. 病院
13. 地域密着型通所介護	30. 診療所
14. 認知症対応型通所介護	31. 歯科診療所
15. 小規模多機能型居宅介護	
16. 認知症対応型共同生活介護	
17. 地域密着型特定施設入居者生活介護	

問 1-5 要介護度別の利用者数(実人数)(令和元年9月)

合計	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	申請中
人	人	人	人	人	人	人

問 1-6 認知症高齢者の日常生活自立度別の利用者数(実人数)(令和元年9月)

合計	自立	I	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IV	M
人	人	人	人	人	人	人	人	人

問 1-7 職員数(令和元年 10 月 1 日時点)  
※1:1人が複数の職種に該当する場合は、該当する全ての職種に計上ください。

	①常勤職員 (常勤換算※2)	②非常勤職員 (常勤換算※2)	①常勤職員 (常勤換算※2)	②非常勤職員 (常勤換算※2)
1)管理者	人	人	5)機能訓練指導員	人
2)生活相談員	人	人	6)その他職員	人
3)看護職員	人	人	7)全職員数	人
4)介護職員	人	人		人

※2:常勤換算数の算出:「職員の一週間の労働時間÷貴事業所・貴施設の所定労働時間」にて算出し、小数点以下第二位を四捨五入して小数点第一位まで計上してください。

**問1-8 機能訓練指導員(常勤職員、非常勤職員、非登録している職員)の保有する全ての資格に○を付けてください(令和元年10月1日時点)。**

貴事業所・貴施設に機能訓練指導員が11人以上いる場合には、大変恐れ入りますが本設問(問1-8)と同様の表(様式自由)に11人目以降の状況をご記入頂き、本調査票に添付してご提出をお願いします。

回答例	1)看護師	2)准看護師	3)理学療法士	4)作業療法士	5)言語聴覚士	6)柔道整復師	7)あん摩マッサージ指圧師	8)はり師	9)きゆう師
1人目			○				○		
2人目									
3人目									
4人目									
5人目									
6人目									
7人目									
8人目									
9人目									
10人目									

**問1-9 同一法人内の他事業所にリハ専門職等<sup>※1</sup>は在籍していますか。また、それらのリハ専門職等は貴事業所・貴施設等、法人内において助言を行っていますか。(令和元年10月1日時点)(○は1つ)**

※1:リハ専門職等とは、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士又は医師のことを指します。  
 ※2:リハビリテーション専門医、病院や診療所のリハビリテーション科等に従事する医師のことを指します。

	①在籍していますか	②助言を行っていますか
1)理学療法士	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ
2)作業療法士	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ
3)言語聴覚士	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ
4)病院・診療所のリハビリテーション専門医 <sup>※2</sup>	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ
5)病院・診療所の医師(リハビリテーション専門医 <sup>※2</sup> 以外)	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ
6)訪問リハビリテーション又は通所リハビリテーションの医師	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ

**問1-10 利用者のADLやIADLをどのような指標を用いて定期的に評価していますか。(あてはまるもの全てに○)**

1. BI 2. FIM 3. その他( )  
 4. 定期的な評価は行っていない

**II. 加算の算定状況についてお伺いします**

**○生活機能向上連携加算の算定状況**

**問2-1 令和元年9月における生活機能向上連携加算の算定有無、生活機能向上連携加算の算定に合致する取組の実施状況、利用者の実人数、加算定に当たり連携したリハ専門職等の実人数についてお伺いします。(○は1つ)**

1. 算定している (利用者実人数: 人、リハ専門職等の実人数: 人)  
 2. 生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っているが、算定していない  
 3. 生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っていない

**○生活機能向上連携加算の算定によるメリット等**

問2-2は、問2-1で「1.算定している」、「2.生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っているが、算定していない」とご回答の場合に、ご回答ください

**問2-2 生活機能向上連携加算の算定による利用者のメリットとして考えられることは何ですか。対象とする利用者の生活機能向上連携加算を適用する前の状態(要介護1、2と要介護3～5)別にご回答ください。**

	①要介護1、2の利用者			②要介護3～5の利用者				
	全くあてはまらな	あまりあてはまらな	ある程度あてはまる	全くあてはまらな	あまりあてはまらな	ある程度あてはまる		
1)専門的な視点を踏まえ質の高い個別機能訓練計画を作成できた	1	2	3	4	1	2	3	4
2)専門的な視点を踏まえた計画であるため、利用者に対し何故機能訓練を行うのかを自信を持って説明できるようになった。	1	2	3	4	1	2	3	4
3)利用者の身体機能の維持・向上につながった	1	2	3	4	1	2	3	4
4)利用者のADLやIADLの維持・向上につながった	1	2	3	4	1	2	3	4
5)利用者本人の役割の再獲得や社会参加につながった	1	2	3	4	1	2	3	4
6)利用者の重度化防止につながった	1	2	3	4	1	2	3	4
7)外部(※)のリハ専門職等が助言して作成した計画に基づき機能訓練を行うことで利用者の安心につながった	1	2	3	4	1	2	3	4
8)外部(※)のリハ専門職等が助言して作成した計画に基づき機能訓練を行うことで介護職員等の安心につながった	1	2	3	4	1	2	3	4
9)その他( )	1	2	3	4	1	2	3	4

※：外部とは、貴事業所・貴施設以外の主体を指します。

**問2-3 リハ事業所等(※1)との連携(※2)によって個別機能訓練計画はどの程度改善されたと感じますか。**

※1：リハ事業所等とは、通所リハビリテーション事業所、訪問リハビリテーション事業所、リハビリテーションを実施している医療施設を指します。  
 ※2：連携とは、生活機能向上連携加算の算定のために外部のリハ専門職等が調査対象事業所・施設への訪問等を行い、利用者のアセスメントや調査対象事業所・施設への助言を共同で行うことを指します。

1. とも改善された  
 2. 少し改善された  
 3. 変わらない  
 4. 少し悪くなった  
 5. とも悪くなった

**問2-4 連携の結果、職員の機能訓練やケア方法など貴事業所・貴施設にとってどのようなメリットがありましたか。(あてはまるもの全てに○)**

1. 機能訓練指導員のケアの質が向上した  
 2. 介護職員のケアの質が向上した  
 3. 利用者の状態や希望に応じたケアの機会が増えた  
 4. 介護職員等が安心して働けるようになった  
 5. 貴事業所・貴施設が提供するケアの幅が広がった  
 6. 介護職員等の業務負担の軽減につながった  
 7. 介護職員等の教育につながった  
 8. 経営上のメリットがあった  
 9. ケアを行う際に多職種(連携先以外の職種も含む)で連携して対応する機会が増えた  
 10. 機能訓練に関するデータ管理やデータの活用力が向上した  
 11. その他( )

<問2-5は、問2-1で「1.算定している」とご回答の場合に、ご回答ください>

**問2-5 貴事業所・貴施設が令和元年9月1か月間の生活機能向上連携加算の算定に当たり連携した全てのリハ事業所等に支払うべき報酬の総額をご記入ください。**

なお複数の月数あたりの契約を継続している場合には1か月分に変換した金額をご記入ください。

円

**○生活機能向上連携加算を算定しない理由等**

<問2-6は、問2-1で、問2-1で、生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っているが、算定していない」とご回答の場合に、ご回答ください

問2-6 生活機能向上連携加算に該当する業務を行っているが、算定していない理由をお答えください(あてはまるもの全てに○)	
1. 加算の意義や必要性が感じられないため	
2. 加算の適用対象者としての利用者を選定して良いか分からないため	
3. 加算の適用を必要とする利用者がいないため	
4. 利用者・家族への説明の機会を作ることが難しいため	
5. 加算算定により利用者負担が増えるが、負担に見合う加算のメリットを説明するノウハウがないため	
6. 利用者・家族の理解が得られないため	
7. 個別機能訓練計画の作成が難しいため	
8. 加算の算定に必要な要件がわからないため	
9. 加算の算定に組み込む余裕がないため	
10. かかるコスト・手間に比べて単位数が割に合わないため	
11. その他( )	

<問2-7は、問2-1で、生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っている」とご回答の場合に、ご回答ください

問2-7 生活機能向上連携加算の存在をご存知でしたか。 1. 知っている 2. 知らなかった

<問2-8は、問2-7で「1. 知っている」とお答えになった場合にお答えください

問2-8 生活機能向上連携加算を算定していない理由として該当するもの全てに○を付けてください。	
1) 自立支援や介護予防の重要性について十分に理解できないため	
2) 加算の意義や必要性が感じられないため	
3) 貴事業所・貴施設に既にリハ専門職等が在籍しており、連携する必要性がないため	
4) 貴事業所・貴施設が人手不足の状況にあり、利用者の生活の維持に注力すること以外のことを行う余裕がないため	
5) 加算の適用対象者としての利用者を選定して良いか分からないため	
6) 加算の適用を必要とする利用者がいないため	
7) 利用者・家族への説明の機会を作ることが難しいため	
8) 加算算定により利用者負担が増えるが、負担に見合う加算のメリットを説明するノウハウがないため	
9) 利用者・家族の理解が得られないため	
10) 個別機能訓練計画の作成が難しいため	
11) 外部のリハ事業所等との連携が難しいため	
12) 加算の算定に必要な要件がわからないため	
13) 加算の算定に組み込む余裕がないため	
14) かかるコスト・手間に比べて単位数が割に合わないため	
15) その他( )	

**○個別機能訓練加算の算定状況**

問2-9 令和元年9月における個別機能訓練加算の算定有無及び算定回数、利用者実人数についてお伺いします。

個別機能訓練加算	1. 算定している( )	回、利用者実人数:	( )	人	2. 算定していない
----------	--------------	-----------	-----	---	------------

**○個別機能訓練加算を算定しない理由**

<問2-10は、問2-9で個別機能訓練加算に「2. 算定していない」とご回答の場合に、ご回答ください

問2-10 個別機能訓練加算を算定していない理由として該当するもの全てに○を付けてください。	
1) 加算の意義や必要性が感じられないため	
2) 加算の適用を必要とする利用者がいないため	
3) 利用者・家族への説明の機会を作ることが難しいため	
4) 利用者・家族の理解が得られないため	
5) 個別機能訓練計画の作成が難しいため	
6) 機能訓練指導員を常勤又は専従により配置することが難しいため	
7) 加算の算定に必要な要件がわからないため	
8) 加算の算定に組み込む余裕がないため	
9) かかるコスト・手間に比べて単位数が割に合わないため	
10) その他( )	

**Ⅲ. 外部との連携状況についてお伺いします**

問3-1 貴事業所・貴施設の近隣地域において、リハ専門職等を派遣しているリハ事業所等をご存じですか。(○は1つ)

1. 知っているリハ事業所等があり、連絡を取ったことがある
2. 知っているリハ事業所等があるが、連絡を取ったことはない
3. 知らない

<令和元年10月1日時点における状況をお伺い致します。該当する連携先が複数ある場合には、個別機能訓練計画等を作成する上で最も連携が多い連携先についてご記入ください>

問3-2 個別機能訓練が必要か否かを把握するため利用者の定期評価を行っていますか。 1. はい 2. いいえ	
問3-3 現在、個別機能訓練計画を作成する上で外部のリハ事業所等と連携していますか。(○は1つ)	1. 連携している 2. 連携を試みたが断念した 3. 連携を試みていない

**○連携している理由等**

<問3-4~3-13は、問3-3で「1. 連携している」とご回答の場合、ご回答ください>

問3-4 連携している理由についてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)	
1. 専門的な視点を踏まえ個別機能訓練計画を作成できるため	
2. 介護職員等の教育につながるため	
3. 利用者のサービス向上につながるため	
4. 経営上のメリットがあるため	
5. その他( )	
問3-5 貴事業所・貴施設が令和元年9月に連携している外部のリハ事業所等(以下、問3において連携先と呼称)の件数をご記入下さい。	件

<問3-6~問3-11は、令和元年9月において利用者数ベースで最も多く連携している1つの連携先を想定してご回答ください>

問3-6 連携先は貴事業所・貴施設と同一法人か 1. 同一法人 2. 別法人(グループ法人以外) 否かについてご記入ください。(○は1つ)

問3-7 連携先となる事業所・施設(○は1つ)	1. 指定訪問リハビリテーション事業所 2. 指定通所リハビリテーション事業所 3. 病院 4. 診療所 5. 介護老人保健施設 6. 介護療養型医療施設 7. 介護医療院
-------------------------	---

<問3-8は、問3-7で「3. 病院」と答えられた方がお答えください>

問3-8 問3-7でご回答になられた病棟の許可病床数と周辺の診療所の状況についてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)	1. 許可病床数が200床未満である 2. 許可病床数が200床以上である 3. 半径4キロメートル以内に診療所が存在しない 4. 半径4キロメートル以内に診療所が存在する
--	---

問3-9 連携している職種として該当するものについてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)

1. 理学療法士 2. 作業療法士 3. 言語聴覚士 4. 医師	
-------------------------------------	--

問3-10 連携先による貴事業所・貴施設への訪問頻度についてお伺いします。(○は1つ)

1. 3ヶ月に1回 2. 2ヶ月に1回 3. 1ヶ月に1回 4. 1ヶ月に2回以上 5. その他( )	
---	--

問3-11 連携先が貴事業所・貴施設へ訪問する曜日や日時はあらかじめ決まっていますか。(○は1つ)

1. 貴事業所・貴施設の職員に連携の必要性を理解させることが難しい
2. 連携先が3ヶ月に1回以上訪問する事が難しい
3. 職員が忙しく共同でアセスメントや計画等を見直すための時間が取れない
4. 貴事業所・貴施設として採算が取れない
5. 連携先に十分な対価を支払うことができない
6. その他( )
7. 課題はない

問3-13 令和元年10月1日時点で連携している主なリハ事業所等は、平成30年4月以降に初めて連携を始めましたか。(○は1つ)

1. はい
2. いいえ

**○連携していない理由等**

<問 3-14、問 3-15は、問 3-3 で「2. 連携を試みたら断念した」又は「3. 連携を試みていない」とお答えになった場合にお答えください>

問 3-14 連携していない理由についてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)

1. 貴事業所・貴施設に個別機能訓練計画を作成できない職員がおり連携自体、不要と考えているため

2. 利用者が拒否するため

3. 連携先候補となるリハ事業所等が地域に存在しないため

4. 連携先候補となるリハ事業所等が地域に存在するが分らないため

5. 連携先候補となるリハ事業所等に連携を依頼することに心理的な負担を感じるため

6. 連携先候補となるリハ事業所等への依頼の仕方が分らないため

7. 連携先候補への報酬の単価の基準をどのように設定すれば良いかわからないため

8. 連携先候補と契約を締結することや、報酬単価を調整することに負担を感じるため

9. 連携先候補と報酬面の条件が折り合わないため

10. 連携先候補と連携頻度に関する条件が折り合わないため

11. 連携先候補と連携内容に関する条件が折り合わないため

12. 利用者の状態等の評価を共同で行うことが難しい

13. 個別機能訓練計画の作成が難しいため

14. その他( )

問 3-15 外部のリハ専門職等との連携の必要性を感じていますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

<問 3-16は、全ての方がお答えください>

問 3-16 直近1年間(平成30年10月～令和元年9月)に、貴事業所・貴施設の利用を終えた者を訪問リハビリテーション・通所リハビリテーションの利用につなげた実績はありますか。(○は1つ)

1. ある 2. ない

<問 3-17は、問 3-16 で「2. ない」とお答えになった場合にお答えください>

問 3-17 問 3-16 で「2. ない」と回答した理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

1. 対象となる利用者が存在しないため

2. 対象となる利用者が拒否するため

3. 対象となる利用者を選定することが難しいため

4. ケアマネジャーがケアプランに位置づけていないため

5. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所が地域に存在しないため

6. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所が地域に存在するが分らないため

7. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所に連携を依頼することに心理的な負担を感じるため

8. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所への依頼の仕方が分らないため

**IV 機能訓練の実施状況についてお尋ねします。**

<問 4-1～問 4-4は、問 2-1 で生活機能向上連携加算に「1. 算定している」とご回答の場合に、ご回答ください>

問 4-1 令和元年9月の1ヶ月間に生活機能向上連携加算の算定により連携したリハ専門職等の職種と、その対象となつた利用者の課題の組み合わせとして、該当するもの全てに○をつけてください。(あてはまるもの全てに○)

課題	ADL										IADL			その他		
	食事	排泄	入浴	更衣	整容	移動	屋内移動	階段昇降	屋外移動	洗濯	掃除	起き上がり	立座		立ち上がり	福祉用具の利用等による生活環境の改善
職種																
1)理学療法士																
2)作業療法士																
3)言語聴覚士																

問 4-2 令和元年9月の1ヶ月間に生活機能向上連携加算の算定により連携したリハ専門職等の職種と、その対象となつた利用者の課題の組み合わせとして、該当するもの全てに○をつけてください。(あてはまるもの全てに○)

職種	課題										福祉用具の利用等による生活環境の改善	家族への介護の方法の指導
	病院・診療所の医師(リハビリテーション専門医以外)	訪問リハビリテーション又は通所リハビリテーションの医師	口腔機能向上	栄養改善	医療処置	福祉用具の活用による生活環境の改善						
1) 病院・診療所の医師(リハビリテーション専門医)												
2) 病院・診療所の医師(リハビリテーション専門医以外)												
3) 訪問リハビリテーション又は通所リハビリテーションの医師												

問 4-3 問 4-2 の内容の他に、令和元年9月の1ヶ月間に生活機能向上連携加算の算定により連携した医師が対応した利用者の課題についてお答えください。(自由記述)

問 4-4 問 4-1、問 4-2 で得られた助言は具体的にどのようなものですか。効果的とお考えの助言について、その助言者の職種と助言内容をお答えください。(自由記述)

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

**調査票 1**

平成 30 年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査(令和元年度調査)  
介護サービスにおける機能訓練の状況等に係る調査研究一式

**生活機能向上連携加算に関する調査(短期入所生活介護)**

○調査事務局よりお問い合わせをさせて頂く場合がございますのでご回答者様のご氏名等についてお伺いします。

ご氏名	貴事業所・貴施設名
電話番号	メールアドレス

・以下では、特に断りのない限り、令和元年 10 月 1 日現在の状況についてお答えください。

**I. 貴事業所・貴施設の基本属性についてお伺いします**

問 1-1 法人種別

1. 社会福祉法人      2. 医療法人      3. 特定非営利活動法人  
4. 株式会社      5. 株式会社以外の営利法人      6. その他 ( )

問 1-2 種類・施設区分 該当する選択肢をお選びください。(○は1つ)

1. 単独型      2. 併設型      3. 空床型  
4. 単独ユニット型      5. 併設ユニット型      6. 空床ユニット型

問 1-3 定員数 ※空床型の方は本体施設の定員数を記入

人

問 1-4 併設施設サービス(同一敷地内もしくは隣接する敷地内で提供しているサービス)に

1. 訪問介護      18. 地域密着型老人福祉施設入所者生活介護  
2. 訪問入浴介護      19. 看護小規模多機能型居宅介護  
3. 訪問看護      20. 介護老人福祉施設  
4. 訪問リハビリテーション      21. 介護老人保健施設  
5. 通所介護      22. 介護療養型医療施設  
6. 通所リハビリテーション      23. 介護医療院  
7. 短期入所生活介護・療養介護      24. サービス付き高齢者向け住宅  
8. 特定施設入居者生活介護      25. 有料老人ホーム  
9. 福祉用具貸与・販売      26. 養護老人ホーム、軽費老人ホーム(ケアハウス、A、B)  
10. 居宅介護支援      27. 高齢者専用賃貸住宅  
11. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護      28. 地域包括支援センター  
12. 夜間対応型訪問介護      29. 病院  
13. 地域密着型通所介護      30. 診療所  
14. 認知症対応型通所介護      31. 歯科診療所  
15. 小規模多機能型居宅介護  
16. 認知症対応型共同生活介護  
17. 地域密着型特定施設入居者生活介護

問 1-5 要介護度別の利用者数(実人数)(令和元年9月)

合計	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	申請中
人	人	人	人	人	人	人

問 1-6 認知症高齢者の日常生活自立度別の利用者数(実人数)(令和元年9月)

合計	I		IIa		IIb	IIIa	IIIb	IV	M
	人	人	人	人	人	人	人	人	人

問 1-7 令和元年9月1か月間の利用者数(実人数)

人

問 1-8 職員数(令和元年 10 月 1 日時点)

※1: 1人が複数の職種に該当する場合には、該当する全ての職種に計上ください。

①常勤職員 (常勤換算※2)	②非常勤職員 (常勤換算※2)	①常勤職員 (常勤換算※2)	②非常勤職員 (常勤換算※2)
1) 管理者	人	6) 栄養士	人
2) 医師	人	7) 機能訓練指導員	人
3) 生活相談員	人	8) 調理員	人
4) 看護職員	人	9) その他職員	人
5) 介護職員	人	10) 全職員数	人

※2: 常勤換算数の算出: 「職員の1週間の労働時間÷貴事業所・貴施設の所定労働時間」にて算出し、小数点以下第二位を四捨五入して小数点第一位まで計上してください。

問 1-9 機能訓練指導員(常勤職員、非常勤職員のいずれも)として登録している職員の保有する全ての資格に○を付けてください(令和元年 10 月 1 日時点)。

貴事業所・貴施設に機能訓練指導員が 11 人以上いる場合には、大変恐れ入りますが本設問(問 1-9)と同様の表(様式自由)に 11 人目以降の状況をご記入頂き、本調査票に添付してご提出をお願いします。

1) 看護師	2) 准看護師	3) 理学療法士	4) 作業療法士	5) 言語聴覚士	6) 柔道整復師	7) あん摩マッサージ指圧師	8) はり師	9) きゆう師
○						○		
1人目								
2人目								
3人目								
4人目								
5人目								
6人目								
7人目								
8人目								
9人目								
10人目								

問 1-10 同一法人内の他事業所にリハ専門職等<sup>※1</sup>は在籍していますか。また、それらのリハ専門職等は貴事業所・貴施設等、法人内において助言を行っていますか。(令和元年 10 月 1 日時点)(○は1つ)

※1: リハ専門職等とは、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士又は医師のことを指します。  
※2: リハビリテーション専門医、病院や診療所のリハビリテーション科等に従事する医師のことを指します。

①在籍していますか	②助言を行っていますか
1) 理学療法士	1. はい    2. いいえ    1. はい    2. いいえ
2) 作業療法士	1. はい    2. いいえ    1. はい    2. いいえ
3) 言語聴覚士	1. はい    2. いいえ    1. はい    2. いいえ
4) 病院・診療所のリハビリテーション専門医 <sup>※2</sup>	1. はい    2. いいえ    1. はい    2. いいえ
5) 病院・診療所の医師(リハビリテーション専門医 <sup>※2</sup> 以外)	1. はい    2. いいえ    1. はい    2. いいえ
6) 訪問リハビリテーション又は通所リハビリテーションの医師	1. はい    2. いいえ    1. はい    2. いいえ

問 1-11 利用者の ADL や IADL をどのような指標を用いて定期的に評価していますか。(あてはまるもので1つ)

1. BI      2. FIM      3. その他 ( )  
4. 定期的な評価は行っていない

**II. 加算の算定状況についてお伺いします**

**○生活機能向上連携加算の算定状況**

問 2-1 令和元年9月における生活機能向上連携加算の算定有無、生活機能向上連携加算の算定に合致する取組の実施状況、利用者の実人数、加算算定にあたり連携したリハ専門職等の実人数についてお伺いします。(○は1つ)

1. 算定している (利用者実人数:      人、リハ専門職等の実人数:      人)

2. 生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っているが、算定していない

3. 生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っていない

○生活機能向上連携加算の算定によるメリット等

<問2-2は、問2-1で「1.算定している」、2.生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っているが、算定していない」とご回答の場合に、ご回答ください>

問2-2 生活機能向上連携加算の算定による利用者のメリットとして考えられることは何ですか。対象とする利用者の生活機能向上連携加算を適用する前の状態(要介護1、2と要介護3～5)別にご回答ください。

	①要介護1、2の利用者			②要介護3～5の利用者				
	全くあてはまらな	あまりあてはまらな	ある程度あてはまる	とてもあてはまる	全くあてはまらな	あまりあてはまらな	ある程度あてはまる	とてもあてはまる
1) 専門的な視点を踏まえ質の高い個別機能訓練計画を作成できた	1	2	3	4	1	2	3	4
2) 専門的な視点を踏まえた計画であるため、利用者に対し何故機能訓練を行うのかを自信を持って説明できるようになった。	1	2	3	4	1	2	3	4
3) 利用者の身体機能の維持・向上につながった	1	2	3	4	1	2	3	4
4) 利用者の ADL や IADL の維持・向上につながった	1	2	3	4	1	2	3	4
5) 利用者本人の役割の再獲得や社会参加につながった	1	2	3	4	1	2	3	4
6) 利用者の重度化防止につながった	1	2	3	4	1	2	3	4
7) 外部(※)のリハ専門職等が助言して作成した計画に基づき機能訓練を行うことで利用者の安心につながった	1	2	3	4	1	2	3	4
8) 外部(※)のリハ専門職等が助言して作成した計画に基づき機能訓練を行うことで介護職員等の安心につながった	1	2	3	4	1	2	3	4
9) その他( )	1	2	3	4	1	2	3	4

※：外部とは、貴事業所・貴施設以外の主体を指します。

問2-3 リハ事業所等(※1)との連携(※2)によって個別機能訓練計画はどの程度改善されたと感じますか。  
 ※1：リハ事業所等とは、通所リハビリテーション事業所、訪問リハビリテーション事業所、リハビリテーションを実施している医療提供施設を指します。  
 ※2：連携とは、生活機能向上連携加算の算定のために外部のリハ専門職等が調査対象事業所・施設への訪問等を行い、利用者のアセスメントや調査対象事業所・施設への助言を共同で行うことを指します。

1. 機能訓練指導員のケアの質が向上した  
 2. 介護職員のケアの質が向上した  
 3. 利用者の状態や希望に応じたケアの機会が増えた  
 4. 介護職員等が安心して働けるようになった  
 5. 貴事業所・貴施設が提供するケアの幅が広がった  
 6. 介護職員等の業務負担の軽減につながった  
 7. 介護職員等の教育につながった  
 8. 経営上のメリットがあった  
 9. ケアを行う際に多職種(連携先以外の職種も含む)で連携して対応する機会が増えた  
 10. 機能訓練に関するデータ管理やデータの活用力が向上した  
 11. その他( )

<問2-5は、問2-1で「1.算定している」とご回答の場合に、ご回答ください>  
 問2-5 貴事業所・貴施設が令和元年9月1か月間の生活機能向上連携加算の算定にあたり連携した全てのリハ事業所等に支払うべき報酬の総額をご記入ください。  
 なお報酬の月額あたりの契約を継続している場合には1か月分に換算した金額をご記入ください。

○生活機能向上連携加算を算定しない理由等

<問2-6は、問2-1で「2.生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っているが、算定していない」とご回答の場合に、ご回答ください>

問2-6 生活機能向上連携加算に該当する業務を行っているが、算定しない理由をお答えください(あてはまるもの全てに○)

1. 加算の意義や必要性が感じられないため
2. 加算の適用対象者としての利用者を選定して良いか分からないため
3. 加算の適用を必要とする利用者がいないため
4. 利用者・家族への説明の機会を作ることが難しいため
5. 加算算定により利用者負担が増えるが、負担に見合う加算のメリットを説明するノウハウがないため
6. 利用者・家族の理解が得られないため
7. 個別機能訓練計画の作成が難しいため
8. 加算の算定に必要な要件がわからないため
9. 加算の算定に取り組み余裕がないため
10. かかるコスト・手間に比べて単位数が割に合わないため
11. その他( )

<問2-7は、問2-1で「3.生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っている」とご回答の場合に、ご回答ください>  
 問2-7 生活機能向上連携加算の存在をご存知ですか。  
 1. 知っている 2. 知らなかった

<問2-8は、問2-7で「1.知っている」とお答えになった場合にお答えください>  
 問2-8 生活機能向上連携加算を算定しない理由として該当するもの全てに○を付けてください。

- 1) 自立支援や介護予防の重要性について十分に理解できないため
- 2) 加算の意義や必要性が感じられないため
- 3) 貴事業所・貴施設に既にリハ専門職等が在籍しており、連携する必要性がないため
- 4) 貴事業所・貴施設が人手不足の状況にあり、利用者への生活の維持に注力すること以外のことを行う余裕がないため
- 5) 加算の適用対象者としての利用者を選定して良いか分からないため
- 6) 加算の適用を必要とする利用者がいないため
- 7) 利用者・家族への説明の機会を作ることが難しいため
- 8) 加算定により利用者負担が増えるが、負担に見合う加算のメリットを説明するノウハウがないため
- 9) 利用者・家族の理解が得られないため
- 10) 個別機能訓練計画の作成が難しいため
- 11) 外部のリハ事業所等との連携が難しいため
- 12) 加算の算定に必要な要件がわからないため
- 13) 加算の算定に必要余裕がないため
- 14) かかるコスト・手間に比べて単位数が割に合わないため
- 15) その他( )

○個別機能訓練加算の算定状況

問2-9 令和元年9月における個別機能訓練加算の算定有無及び算定回数、利用者実人数についてお聞かせください。  
 個別機能訓練加算 1. 算定している( )回、利用者実人数: ( )人 2. 算定していない

○個別機能訓練加算を算定しない理由

<問2-10は、問2-9で個別機能訓練加算に「2.算定していない」とご回答の場合に、ご回答ください>  
 問2-10 個別機能訓練加算を算定しない理由として該当するもの全てに○を付けてください。

- 1) 加算の意義や必要性が感じられないため
- 2) 加算の適用を必要とする利用者がいないため
- 3) 利用者・家族への説明の機会を作ることが難しいため
- 4) 利用者・家族の理解が得られないため
- 5) 個別機能訓練計画の作成が難しいため
- 6) 機能訓練指導員を常勤又は専従により配置することが難しいため
- 7) 加算の算定に必要な要件がわからないため
- 8) 加算の算定に取り組み余裕がないため
- 9) かかるコスト・手間に比べて単位数が割に合わないため
- 10) その他( )

**Ⅲ. 外部との連携状況についてお伺いします**

問 3-1 貴事業所・貴施設の近隣地域において、リハ専門職等を派遣しているリハ事業所等をご存じですか。(○は1つ)。
1. 知っているリハ事業所等があり、連絡を取ったことがある
2. 知っているリハ事業所等があるが、連絡を取ったことはない
3. 知らない

<令和元年10月1日時点における状況をお伺い致します。該当する連携先が複数ある場合には、個別機能訓練計画を作成する上で最も連携が多い連携先についてご記入ください>

問 3-2 個別機能訓練が必要か否かを把握するため利用者の定期評価を行っていますか。(○は1つ)	1. はい	2. いいえ	
問 3-3 現在、個別機能訓練計画を作成する上で外部のリハ事業所等と連携していますか。(○は1つ)	1. 連携している	2. 連携を試みたが断念した	3. 連携を試みていない

**○連携している理由等**

<問 3-4~3-13は、問 3-3 で「1. 連携している」とご回答の場合、ご回答ください>

問 3-4 連携している理由についてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)	1. 専門的な視点を踏まえ個別機能訓練計画を作成できるため
	2. 介護職員等の教育につながるため
	3. 利用者のサービス向上につながるため
	4. 経営上のメリットがあるため
	5. その他( )

問 3-5 貴事業所・貴施設が令和元年9月に連携している外部のリハ事業所等(以下、問3においで連携先と呼称)の件数をご記入下さい。	件
---	---

<問 3-6~問 3-11は、令和元年9月において利用者数ベースで最も多く連携している1つの連携先を想定してご回答ください>

問 3-6 連携先は貴事業所・貴施設と同一法人か否かについてご記入下さい。(○は1つ)	1. 同一法人	2. 別法人(グループ法人以外)					
問 3-7 連携先となる事業所・施設(○は1つ)	1. 指定訪問リハビリテーション事業所	2. 指定通所リハビリテーション事業所	3. 別法人(グループ法人以外)	4. 診療所	5. 介護老人保健施設	6. 介護療養型医療施設	7. 介護医療院

<問 3-8は、問 3-7 で「3. 病院」と答えた方がお答えください>

問 3-8 問 3-7 でご回答になられた病院の許可病床数と周辺の診療所の状況についてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)	1. 許可病床数が200床未満である	2. 許可病床数が200床以上である	3. 半径4キロメートル以内(診療所が存在しない)	4. 半径4キロメートル以内に診療所が存在する
問 3-9 連携している職種として該当するものについてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)	1. 理学療法士	2. 作業療法士	3. 言語聴覚士	4. 医師

問 3-10 連携先による貴事業所・貴施設への訪問頻度についてお伺いします。(○は1つ)	1. 3ヶ月に1回	2. 2ヶ月に1回	3. 1ヶ月に1回	4. 1ヶ月に2回以上	5. その他( )
--	-----------	-----------	-----------	-------------	-----------

問 3-11 連携先が貴事業所・貴施設へ訪問する曜日や日時はおかじめ決まっていますか。(○は1つ)	1. 事前に決まった曜日・日付で訪問する。	2. 必要に応じて都度日程を調整し訪問する。	3. その他( )
---	-----------------------	------------------------	-----------

問 3-12 連携先と連携を継続する上での課題があれば、該当するものに○をつけてください。	1. 貴事業所・貴施設の職員に連携の必要性を理解させることが難しい
	2. 連携先が3ヶ月に1回以上訪問する事が難しい
	3. 職員が忙しく共同でアセスメントや計画等を見直すための時間が取れない
	4. 貴事業所・貴施設として採算が取れない
	5. 連携先に十分な対価を支払うことができない
	6. その他( )
	7. 課題はない

問 3-13 令和元年10月1日時点で連携している主なリハ事業所等は、平成30年4月以降に初め連携を始めましたか。(○は1つ)	1. はい	2. いいえ
---	-------	--------

**○連携していない理由等**

<問 3-14、問 3-15は、問 3-3 で「2. 連携を試みたが断念した」又は「3. 連携を試みていない」とお答えになった場合にお答えください>

問 3-14 連携していない理由についてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)	1. 貴事業所・貴施設に個別機能訓練計画を作成できる職員がおり連携自体、不要と考えられているため
	2. 利用者が拒否するため
	3. 連携先候補となるリハ事業所等が地域に存在しないため
	4. 連携先候補となるリハ事業所等が地域に存在するが分らないため
	5. 連携先候補となるリハ事業所等に連携を依頼することに心理的な負担を感じるため
	6. 連携先候補となるリハ事業所等への依頼の仕方が分からないため
	7. 連携先候補への報酬の単価の基準どのように設定すれば良いかわからないため
	8. 連携先候補と契約を締結することや、報酬単価を調整することに負担を感じるため
	9. 連携先候補と報酬面の条件が折り合わないため
	10. 連携先候補と連携頻度に関する条件が折り合わないため
	11. 連携先候補と連携内容に関する条件が折り合わないため
	12. 利用者の状態等の評価を共同で行うことが難しい
	13. 個別機能訓練計画の作成が難しいため
	14. その他( )

<問 3-16は、全ての方がお答えください>

問 3-16 直近1年間(平成30年10月~令和元年9月)に、貴事業所・貴施設の利用を終えた者を訪問リハビリテーション・通所リハビリテーションの利用につないた実績はありますか。(○は1つ)	1. ある	2. ない
--	-------	-------

<問 3-17は、問 3-16 で「2. ない」とお答えになった場合にお答えください>

問 3-17 問 3-16 で「2. ない」と回答した理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)	1. 対象となる利用者が存在しないため
	2. 対象となる利用者が拒否するため
	3. 対象となる利用者を選定することが難しいため
	4. ケアマネジャーがケアプランに位置づけていないため
	5. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所が地域に存在しないため
	6. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所が地域に存在するが分からないため
	7. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所に連携を依頼することに心理的な負担を感じるため
	8. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所への依頼の仕方が分からないため

**IV. 機能訓練の実施状況についてお尋ねします。**

<問 4-1～問 4-4は、問 2-1で生活機能向上連携加算に「1.算定している」とご回答の場合に、ご回答ください>

問 4-1 令和元年9月の1ヶ月間に生活機能向上連携加算の算定により連携したリハ専門職等の職種と、その対象となつた利用者の課題の組み合わせとして、該当するもの全てに○をつけてください。(あてはまるもの全てに○)

課題	ADL					IADL			その他
	排泄	入浴	更衣	整理	掃除	起き上がり	立ち上がり	福祉用具の活用等による生活環境の改善	
職種									
1)理学療法士									
2)作業療法士									
3)言語聴覚士									

問 4-2 令和元年9月の1ヶ月間に生活機能向上連携加算の算定により連携したリハ専門職等の職種と、その対象となつた利用者の課題の組み合わせとして、該当するもの全てに○をつけてください。(あてはまるもの全てに○)

課題	口腔機能向上		医療処置		福祉用具の活用等による生活環境の改善		家族への介護方法の指導
	嚥下	嚥下	褥瘡	褥瘡	褥瘡	褥瘡	
職種							
1)病院・診療所のリハビリテーション専門医							
2)病院・診療所の医師(リハビリテーション専門医以外)							
3)訪問リハビリテーション又は通所リハビリテーションの医師							

問 4-3 問 4-2の内容の他に、令和元年9月の1ヶ月間に生活機能向上連携加算の算定により連携した医師が対応した利用者の課題についてお答えください。(自由記述)

問 4-4 問 4-1、問 4-2で得られた助言は具体的などのようなものですか。効果的とお考えの助言について、その助言者の職種と助言内容をお教えください。(自由記述)

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

D4

ID

調査票 1

平成 30 年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査(令和元年度調査)  
介護サービスにおける機能訓練の状況等に係る調査研究一式

**生活機能向上連携加算に関する調査(特定施設入居者生活介護)**

○調査事務局よりお問い合わせをさせて頂く場合がございますのでご回答者様のご氏名等についてお伺いします。

ご氏名	貴事業所・貴施設名
電話番号	メールアドレス

・以下では、特に断りのない限り、令和元年 10 月 1 日現在の状況についてお答えください。

**I. 事業所・貴施設の基本属性についてお伺いします**

問 1-1 法人種別

1. 社会福祉法人	2. 医療法人	3. 特定非営利活動法人
4. 株式会社	5. 株式会社以外の営利法人	6. その他 ( )

問 1-2 種類・施設区分 該当する選択肢をお選びください。(○は1つ)

1. 有料老人ホーム (2. 除く)	2. サービス付き高齢者向け住宅
3. 軽費老人ホーム	4. 養護老人ホーム

問 1-3 特定施設入居者生活介護の指定

1. 一般型 (介護)	2. 一般型 (介護予防)	3. 地域密着型
-------------	---------------	----------

問 1-4 サービスの提供形態

1. 一般型	2. 外部サービス利用型
--------	--------------

問 1-5 定員数

人	人
---	---

1. 訪問介護	18. 地域密着型老人福祉施設入所者生活介護
2. 訪問入浴介護	19. 看護小規模多機能型居宅介護
3. 訪問看護	20. 介護老人福祉施設
4. 訪問リハビリテーション	21. 介護老人保健施設
5. 通所介護	22. 介護療養型医療施設
6. 通所リハビリテーション	23. 介護医療院
7. 短期入所生活介護・療養介護	24. サービス付き高齢者向け住宅
8. 特定施設入居者生活介護	25. 有料老人ホーム
9. 福祉用具貸与・販売	26. 養護老人ホーム、軽費老人ホーム (ケアハウス、A、B)
10. 居宅介護支援	27. 旧高齢者専用賃貸住宅
11. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護	28. 地域包括支援センター (在宅介護支援センター)
12. 夜間対応型訪問介護	29. 病院
13. 地域密着型通所介護	30. 診療所
14. 認知症対応型通所介護	31. 歯科診療所
15. 小規模多機能型居宅介護	
16. 認知症対応型共同生活介護	
17. 地域密着型特定施設入居者生活介護	

問 1-7 要介護度別の利用者数(実人数)(令和元年9月)

合計	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	申請中
人	人	人	人	人	人	人

問 1-8 認知症高齢者の日常生活自立度別の利用者数(実人数)(令和元年9月)

合計	自立	I	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IV	M
人	人	人	人	人	人	人	人	人

問 1-9 令和元年9月1か月間の利用者数(実人数)

人
---

**○生活機能向上連携加算の算定によるメリット等**

＜問 2-1＞生活機能向上連携加算に「1.算定している、12.生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っているが、算定していない」と回答の場合に、ご回答ください＞

問 2-2 生活機能向上連携加算の算定による利用者のメリットとして考えられることとは何ですか。対象とする利用者の生活機能向上連携加算を適用する前の状態(要介護1、2と要介護3～5)別にご回答ください。

	①要介護1、2の利用者			②要介護3～5の利用者		
	全くあてはまらな	あまりあてはまらな	ある程度あてはまる	全くあてはまらな	あまりあてはまらな	ある程度あてはまる
1) 専門的な視点を踏まえ質の高い個別機能訓練計画を作成できた	1	2	3	4	1	2
2) 専門的な視点を踏まえた計画であるため、利用者に対し何故機能訓練を行うのかを自信を持って説明できるようになった。	1	2	3	4	1	2
3) 利用者の身体機能の維持・向上につながった	1	2	3	4	1	2
4) 利用者の ADL や IADL の維持・向上につながった	1	2	3	4	1	2
5) 利用者本人の役割の再獲得や社会参加につながった	1	2	3	4	1	2
6) 利用者の重度化防止につながった	1	2	3	4	1	2
7) 外部(※)のリハ専門職等が助言して作成した計画に基づき機能訓練を行うことで利用者の安心につながった	1	2	3	4	1	2
8) 外部(※)のリハ専門職等が助言して作成した計画に基づき機能訓練を行うことで介護職員等の安心につながった	1	2	3	4	1	2
9) その他( )	1	2	3	4	1	2

※1：外部とは、貴事業所・貴施設以外の主体を指します。

問 2-3 リハ事業所等(※1)との連携(※2)によって個別機能訓練計画はどの程度改善されたと感じますか。  
 ※1：リハ事業所等とは、通所リハビリテーション事業所、訪問リハビリテーション事業所、リハビリテーションを実施している医療提供施設を指します。  
 ※2：連携とは、生活機能向上連携加算の算定のために外部のリハ専門職等が調査対象事業所・施設への訪問等を行い、利用者のアセスメントや調査対象事業所・施設への助言を共同で行うことを指します。

1. とも改善された	2. 少し改善された	3. 変わらない	4. 少し悪くなった	5. とても悪くなった
1. 機能訓練指導員のケアの質が向上した	2. 介護職員のケアの質が向上した	3. 利用者の状態や希望に応じたケアの機会が増えた	4. 介護職員等が安心して働けるようになった	5. 貴事業所・貴施設が提供するケアの幅が広がった
6. 介護職員等の業務負担の軽減につながった	7. 介護職員等の教育につながった	8. 経営上のメリットがあった	9. ケアを行う際に多職種(連携先以外の職種も含む)で連携して対応する機会が増えた	10. 機能訓練に関するデータ管理やデータの活用力が向上した
11. その他( )				

＜問 2-4＞連携の結果、職員等の機能訓練やケア方法など貴事業所・貴施設にとつてどのようなメリットがありましたか。(あてはまるもの全てに○)

問 2-5 貴事業所・貴施設が令和元年9月1か月間の生活機能向上連携加算の算定に当たり連携した全てのリハ事業所等に支払うべき報酬の総額をご記入ください。  
 なお複数の月数あたりの契約を締結している場合には1か月分に換算した金額をご記入ください。

問 1-10 職員数(令和元年10月1日時点)  
 ※：1人が複数の職種に該当する場合は、該当する全ての職種に計上ください。

	①常勤職員(常勤換算※2)	②非常勤職員(常勤換算※2)
1) 管理者	人	人
2) 生活相談員	人	人
3) 看護職員	人	人
4) 介護職員	人	人
5) 機能訓練指導員	人	人
6) 計画作成担当者	人	人
7) その他職員	人	人
8) 全職員数	人	人

※2：常勤換算数の算出：「職員の一週間の労働時間÷貴事業所・貴施設の所定労働時間」にて算出し、小数点以下第二、三位を四捨五入して小数点第一位まで計上してください。

問 1-11 機能訓練指導員(常勤職員、非常勤職員のいずれも)として登録している職員の保有する全ての資格に○を付けてください(令和元年10月1日時点)。  
 貴事業所・貴施設に機能訓練指導員が11人以上いる場合には、大変恐れ入りますが本設問(問1-11)と同様の表(様式自由)に11人目以降の状況をご記入頂き、本調査票に添付してご提出をお願いします。

	1) 看護師	2) 准看護師	3) 理学療法士	4) 作業療法士	5) 言語聴覚士	6) 柔道整復師	7) あん摩マッサージ指圧師	8) はり師	9) きゆう師
回答例							○		
1人目									
2人目									
3人目									
4人目									
5人目									
6人目									
7人目									
8人目									
9人目									
10人目									

問 1-12 同一法人内の他事業所にリハ専門職等<sup>※1</sup>は在籍していますか。また、それらのリハ専門職等は貴事業所・貴施設等、法人内において助言を行っていますか。(令和元年10月1日時点)(○は1つ)

※1：リハ専門職等とは、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士又は医師のことを指します。

※2：リハビリテーション専門医、病院や診療所のリハビリテーション科等に従事する医師のことを指します。

	①在籍していますか	②助言を行っていますか
1) 理学療法士	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ
2) 作業療法士	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ
3) 言語聴覚士	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ
4) 病院・診療所の医師(リハビリテーション専門医 <sup>※2</sup> )	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ
5) 病院・診療所の医師(リハビリテーション専門医 <sup>※2</sup> 以外)	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ
6) 訪問リハビリテーション又は通所リハビリテーションの医師	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ

問 1-13 利用者のADLやIADLをどのような指標を用いて定期的に評価していますか。(あてはまるもの全てに○)

1. BI	2. FIM	3. その他( )
4. 定期的な評価は行っていません		

**II. 加算の算定状況についてお問い合わせ**

**○生活機能向上連携加算の算定状況**

問 2-1 令和元年9月における生活機能向上連携加算の算定有無、生活機能向上連携加算の算定に合致する取組の実施状況、利用者の実人数、加算に当たり連携したリハ専門職等の実人数についてお問い合わせ。(○は1つ)  
 1. 算定している (利用者実人数： 人、リハ専門職等の実人数 人)  
 2. 生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っているが、算定していない  
 3. 生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っていない

**○生活機能向上連携加算を算定しない理由等**

<問2-6は、問2-1で、問2-1で、生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っているが、算定していない>とご回答の場合に、ご回答ください

問2-6 生活機能向上連携加算に該当する業務を行っているが、算定していない理由をお答えください(あてはまるもの全てに○)	
1. 加算の意義や必要性が感じられないため	
2. 加算の適用対象としての利用者を選定して良いか分からないため	
3. 加算の適用を必要とする利用者がいないため	
4. 利用者・家族への説明の機会を作ることが難しいため	
5. 加算算定により利用者負担が増えるが、負担に見合う加算のメリットを説明するノウハウがないため	
6. 利用者・家族の理解が得られないため	
7. 個別機能訓練計画の作成が難しいため	
8. 加算の算定に必要な要件がわからないため	
9. 加算の算定に組み込む余裕がないため	
10. かかるコスト・手間に比べて単位数が割に合わないため	
11. その他( )	

<問2-7は、問2-1で、問2-1で、生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っている>とご回答の場合に、ご回答ください

問2-7 生活機能向上連携加算の存在をご存知でしたか。	1. 知っている	2. 知らなかった
<問2-8は、問2-7で「1. 知っている」とお答えになった場合にお答えください>		
問2-8 生活機能向上連携加算を算定していない理由として該当するもの全てに○を付けてください。		
1) 自立支援や介護予防の重要性について十分に理解できないため		
2) 加算の意義や必要性が感じられないため		
3) 事業所・貴施設に既にリハ専門職等が在籍しており、連携する必要性がないため		
4) 貴事業所・貴施設が人手不足の状況にあり、利用者の生活の維持に注力すること以外のことを行う余裕がないため		
5) 加算の適用対象者としての利用者を選定して良いか分からないため		
6) 加算の適用を必要とする利用者がいないため		
7) 利用者・家族への説明の機会を作ることが難しいため		
8) 加算算定により利用者負担が増えるが、負担に見合う加算のメリットを説明するノウハウがないため		
9) 利用者・家族の理解が得られないため		
10) 個別機能訓練計画の作成が難しいため		
11) 外部のリハ事業所等との連携が難しいため		
12) 加算の算定に必要な要件がわからないため		
13) 加算の算定に組み込む余裕がないため		
14) かかるコスト・手間に比べて単位数が割に合わないため		
15) その他( )		

**○個別機能訓練加算の算定状況**

問2-9 令和元年9月における個別機能訓練加算の算定有無及び算定回数、利用者実人数についてお伺いします。

個別機能訓練加算	1. 算定している( )	回、利用者実人数: ( )	人	2. 算定していない
----------	--------------	---------------	---	------------

**○個別機能訓練加算を算定しない理由**

<問2-10は、問2-9で個別機能訓練加算に「2. 算定していない」とご回答の場合に、ご回答ください>

問2-10 個別機能訓練加算を算定していない理由として該当するもの全てに○を付けてください。	
1) 加算の意義や必要性が感じられないため	
2) 加算の適用を必要とする利用者がいないため	
3) 利用者・家族への説明の機会を作ることが難しいため	
4) 利用者・家族の理解が得られないため	
5) 個別機能訓練計画の作成が難しいため	
6) 機能訓練指導員を常勤又は専従により配置することが難しいため	
7) 加算の算定に必要な要件がわからないため	
8) 加算の算定に組み込む余裕がないため	
9) かかるコスト・手間に比べて単位数が割に合わないため	
10) その他( )	

**皿、外部との連携状況についてお伺いします**

問3-1 貴事業所・貴施設の近隣地域において、リハ専門職等を派遣しているリハ事業所等をご存じですか。(○は1つ)。	
1. 知っているリハ事業所等があり、連絡を取ったことがある	
2. 知っているリハ事業所等があるが、連絡を取ったことはない	
3. 知らない	

<令和元年10月1日時点における状況をお伺い致します。該当する連携先が複数ある場合には、個別機能訓練計画を作成する上で最も連携が多い連携先についてご記入ください>

問3-2 個別機能訓練が必要か否かを把握するため利用者の定期評価を行っていますか。	1. はい	2. いいえ
問3-3 現在、個別機能訓練計画を作成する上で外部のリハ事業所等と連携していますか。(○は1つ)	1. 連携している	2. 連携を試みたが断念した
	3. 連携を試みていない	

**○連携している理由等**

<問3-4～3-13は、問3-3で「1. 連携している」とご回答の場合、ご回答ください>	
問3-4 連携している理由についてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)	1. 専門的な視点を踏まえ個別機能訓練計画を作成できるため
	2. 介護職員等の教育につながるため
	3. 利用者のサービス向上につながるため
	4. 経営上のメリットがあるため
	5. その他( )

問3-5 貴事業所・貴施設が令和元年9月に連携している外部のリハ事業所等(以下、問3において連携先と呼称)の件数を下記に記入下さい。	
--	--

<問3-6～問3-11は、令和元年9月において利用者数ベースで最も多く連携している1つの連携先を想定してご回答ください>

問3-6 連携先は貴事業所・貴施設と同一法人か否かについてご記入ください。(○は1つ)	1. 同一法人	2. 別法人(グループ法人)	3. 別法人(グループ法人以外)
---	---------	----------------	------------------

問3-7 連携先となる事業所・施設(○は1つ)	1. 指定訪問リハビリテーション事業所	2. 指定通所リハビリテーション事業所
	3. 病院	4. 診療所
	5. 介護老人保健施設	6. 介護療養型医療施設
	7. 介護医療院	

<問3-8は、問3-7で「3. 病院」と答えられた方がお答えください>

問3-8 問3-7でのご回答になられた病院的許可病床数と周辺の診療所の状況についてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)	1. 許可病床数が200床未満である
	2. 許可病床数が200床以上である
	3. 半径4キロメートル以内に診療所が存在しない
	4. 半径4キロメートル以内に診療所が存在する

問3-9 連携している職種として該当するものについてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)	1. 理学療法士	2. 作業療法士
	3. 言語聴覚士	4. 医師
	5. その他( )	

問3-10 連携先による貴事業所・貴施設への訪問頻度についてお伺いします。(○は1つ)	1. 3ヶ月に1回	2. 2ヶ月に1回
	3. 1ヶ月に1回	4. 1ヶ月に2回以上
	5. その他( )	

問3-11 連携先が貴事業所・貴施設へ訪問する曜日や日時はあらかじめ決まっていますか。(○は1つ)	1. 事前に決まった曜日・日付で訪問する。
	2. 必要に応じて都度日程を調整し訪問する。
	3. その他( )

問3-12 連携先と連携を継続する上での課題があれば、該当するものに○をつけてください。	1. 貴事業所・貴施設の職員に連携の必要性を理解させることが難しい
	2. 連携先が3ヶ月に1回以上訪問する事が難しい
	3. 職員が忙しく共同でアセスメントや計画等を見直すための時間が取れない
	4. 貴事業所・貴施設として採算が取れない
	5. 連携先に十分な対価を支払うことができない
	6. その他( )
	7. 課題はない

問3-13 令和元年10月1日時点で連携している主なリハ事業所等は、平成30年4月以降に初めて連携を始めたか。(○は1つ)	1. はい
	2. いいえ

**○連携していない理由等**

<問 3-14、問 3-15は、問 3-3 で「2. 連携を試みたが断念した」又は「3. 連携を試みていない」とお答えになった場合にお答えください>

問 3-14 連携していない理由についてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)	
1. 貴事業所・貴施設に個別機能訓練計画を作成できる職員がおり連携自体、不要と考えているため	
2. 利用者が拒否するため	
3. 連携先候補となるリハ事業所等が地域に存在しないため	
4. 連携先候補となるリハ事業所等が地域に存在するが分らないため	
5. 連携先候補となるリハ事業所等に連携を依頼することに心理的な負担を感じるため	
6. 連携先候補となるリハ事業所等への依頼の仕方が分らないため	
7. 連携先候補への報酬の単価の基準などのように設定すれば良いかわからないため	
8. 連携先候補と契約を締結することや、報酬単価を調整することに負担を感じるため	
9. 連携先候補と報酬面の条件が折り合わないため	
10. 連携先候補と連携頻度に関する条件が折り合わないため	
11. 連携先候補と連携内容に関する条件が折り合わないため	
12. 利用者の状態等の評価を共同で行うことが難しい	
13. 個別機能訓練計画の作成が難しいため	
14. その他( )	1. はい 2. いいえ

<問 3-16は、全ての方がお答えください>

問 3-16 直近 1 年間(平成 30 年 10 月～令和元年 9 月)に、貴事業所・貴施設の利用を終えた者を訪問リハビリテーション・通所リハビリテーションの利用につなげた実績はありますか。(○は1つ)	1. ある 2. ない
--	-------------

<問 3-17は、問 3-16 で「2. ない」とお答えになった場合にお答えください>

問 3-17 問 3-16 で「2. ない」と回答した理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象となる利用者が存在しないため</li> <li>2. 対象となる利用者が拒否するため</li> <li>3. 対象となる利用者を選定することが難しいため</li> <li>4. ケアマネジャーがケアプランに位置づけていないため</li> <li>5. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所が地域に存在しないため</li> <li>6. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所が地域に存在するが分らないため</li> <li>7. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所に連携を依頼することに心理的な負担を感じるため</li> <li>8. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所への依頼の仕方が分らないため</li> </ol>
--	---

**IV 機能訓練の実施状況についてお尋ねします。**

<問 4-1～問 4-4 は、問 2-1 で生活機能向上連携加算に「1. 算定している」とご回答の場合に、ご回答ください>

問 4-1 令和元年9月の1ヶ月間に生活機能向上連携加算の算定により連携したリハ専門職等の職種と、その対象となつた利用者の課題の組み合わせとして、該当するもの全てに○をつけてください。(あてはまるもの全てに○)	IADL										起居動作		その他			
	課題	食事	排泄	入浴	更衣	整容	移動	昇降	屋外移動	調理	洗濯	掃除	起き上がり	立上がり	福祉用具の活用等による生活環境の改善	家族への介護の方法の指導
職種	1)理学療法士															
	2)作業療法士															
	3)言語聴覚士															

問 4-2 令和元年9月の1ヶ月間に生活機能向上連携加算の算定により連携したリハ専門職等の職種と、その対象となつた利用者の課題の組み合わせとして、該当するもの全てに○をつけてください。(あてはまるもの全てに○)	課題										福祉用具の活用等による生活環境の改善		家族への介護の方法の指導			
職種	1) 病院・診療所の医師(リハビリテーション専門医)															
	2) 病院・診療所の医師(リハビリテーション専門医以外)															
	3) 訪問リハビリテーション又は通所リハビリテーションの医師															

問 4-3 問 4-2 の内容の他に、令和元年9月の1ヶ月間に生活機能向上連携加算の算定により連携した医師が対応した利用者の課題についてお答えください。(自由記述)

問 4-3 問 4-2 の内容の他に、令和元年9月の1ヶ月間に生活機能向上連携加算の算定により連携した医師が対応した利用者の課題についてお答えください。(自由記述)	
--	--

問 4-4 問 4-1、問 4-2 で得られた助言は具体的にどのようなものですか。効果的とお考えの助言について、その助言者の職種と助言内容をお答えください。(自由記述)

問 4-4 問 4-1、問 4-2 で得られた助言は具体的にどのようなものですか。効果的とお考えの助言について、その助言者の職種と助言内容をお答えください。(自由記述)	
--	--

質問は以上です。ご協力ありがとうございます。

D5	ID	調査票 1
<p>平成 30 年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査(令和元年度調査) 介護サービスにおける機能訓練の状況等に係る調査研究一式</p>		
<p><b>生活機能向上連携加算に関する調査(認知症対応型共同生活介護)</b></p>		
<p>○調査事務局よりお問い合わせさせて頂く場合がございますのでご回答者様のご氏名等についてお伺いします。</p>		
ご氏名	貴事業所・貴施設名	
電話番号	メールアドレス	

・以下では、特に断りのない限り、令和元年 10 月 1 日現在の状況についてお答えください。

**I. 事業所・貴施設の基本属性についてお伺いします**

問 1-1 法人種別	1. 社会福祉法人	2. 医療法人	3. 特定非営利活動法人	6. その他 ( )
問 1-2 定員数	4. 株式会社	人		
問 1-3 ユニット数	人			
	ユニット			

問 1-4 併設施設 設サービ (同一敷地内 もしくは隣接 する敷地内で 提供している サービ について、該当 するものに全 て○を付け てください。)	1. 訪問介護	18. 地域密着型老人福祉施設入所者生活介護
	2. 訪問入浴介護	19. 看護小規模多機能型居宅介護
	3. 訪問看護	20. 介護老人福祉施設
	4. 訪問リハビリテーション	21. 介護老人保健施設
	5. 通所介護	22. 介護療養型医療施設
	6. 通所リハビリテーション	23. 介護医療院
	7. 短期入所生活介護・療養介護	24. サービス付き高齢者向け住宅
	8. 特定施設入居者生活介護	25. 有料老人ホーム
	9. 福祉用具貸与・販売	26. 養護老人ホーム、軽費老人ホーム (ケアハウス、A、B)
	10. 居宅介護支援	27. 高齢者専用賃貸住宅
	11. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護	28. 地域包括支援センター (在宅介護支援センター)
	12. 夜間対応型訪問介護	29. 病院
	13. 地域密着型通所介護	30. 診療所
	14. 認知症対応型通所介護	31. 歯科診療所
	15. 小規模多機能型居宅介護	
	16. 認知症対応型共同生活介護	
	17. 地域密着型特定施設入居者生活介護	

問 1-5 要介護度別の利用者数(実人数)(令和元年9月)	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	申請中	
合計	人	人	人	人	人	人	
問 1-6 認知症高齢者の日常生活自立度別の利用者数(実人数)(令和元年9月)	I	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IV	M
合計	人	人	人	人	人	人	人

問 1-7 職員数(令和元年 10 月 1 日時点)	※: 1 人が複数の職種に該当する場合には、該当する全ての職種に計上ください。				
1) 管理者	①常勤職員 (常勤換算※2)	②非常勤職員 (常勤換算※2)	①常勤職員	②非常勤職員 (常勤換算※2)	
2) 介護従業者	人	人	4) その他職員	人	人
3) 計画作成担当者	人	人	5) 全職員数	人	人
	人	人			
※ 2: 常勤換算数の算出: 「職員の一週間の労働時間÷貴事業所・貴施設の所定労働時間」にて算出し、小数点以下第二位を四捨五入して小数点第一位まで計上してください。					

問 1-8 同一法人内の他事業所にリハ専門職等※1は在籍していますか、また、それらのリハ専門職等は貴事業所・貴施設等、法人内において助言を行っていますか。(令和元年 10 月 1 日時点)(○は1つ)	②助言を行っていますか		
※1: リハ専門職等とは、理学療法士、作業療法士、言語療法士又は医師のことを指します。 ※2: リハビリテーション専門医・病院や診療所のリハビリテーション科等に従事する医師のことを指します。	①在籍していますか		
1) 理学療法士	1. はい	2. いいえ	
2) 作業療法士	1. はい	2. いいえ	
3) 言語聴覚士	1. はい	2. いいえ	
4) 病院・診療所のリハビリテーション専門医※2	1. はい	2. いいえ	
5) 病院・診療所の医師(リハビリテーション専門医※2以外)	1. はい	2. いいえ	
6) 訪問リハビリテーション又は通所リハビリテーションの医師	1. はい	2. いいえ	
問 1-9 利用者のADLやIADLをどのような指標を用いて定期的に評価していますか。(あてはまるものを全てに○)	1. BI	2. FIM	3. その他 ( )
	4. 定期的な評価は行っていません		

**II. 加算の算定状況についてお伺いします**

**○生活機能向上連携加算の算定状況**

問 2-1 令和元年9月における生活機能向上連携加算の算定有無、生活機能向上連携加算の算定に合致する取組の実施状況、利用者の実人数、加算定にあたり連携したリハ専門職等の実人数についてお伺いします。(○は1つ)	1. 算定している (利用者実人数: 人、リハ専門職等の実人数: 人)
2. 生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っているが、算定していない	
3. 生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っていない	

**○生活機能向上連携加算の算定によるメリット等**

＜問2-2は、問2-1で「1.算定している」、「2.生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っているが、算定していない」とご回答の場合に、ご回答ください＞

問 2-2 生活機能向上連携加算の算定による利用者のメリットとして考えられることは何ですか。	全くあてはまらな	あまりあてはまらな	ある程度あてはまる	とてもあてはまる
1) 専門的な視点を踏まえ認知症対応型共同生活介護計画を作成できた	1	2	3	4
2) 一定時間座位の保持ができるようになり、使った食事ができるよくなるなど、利用者にとって良い効果につながった	1	2	3	4
3) 食事や清掃、洗濯、買物など利用者のできることが増えた	1	2	3	4
4) 椅子やテーブルの高さ、配置など、生活環境面での助言を受けることができた	1	2	3	4
5) その他 ( )	1	2	3	4

問 2-3 リハ事業所等(※1)との連携(※2)によって認知症対応型共同生活介護計画はどの程度改善されたと感じますか。	1. とても改善された	2. 少し改善された
	3. 変わらない	4. 少し悪くなった
	5. とても悪くなった	
※ 1: リハ事業所等とは、通所リハビリテーション事業所、訪問リハビリテーション事業所、リハビリテーションを実施している医療提供施設を指します。 ※ 2: 連携とは、生活機能向上連携加算の算定のために外部のリハ専門職等が調査対象事業所・施設への訪問等を行い、利用者のアセスメントや調査対象事業所・施設への助言を行うことを指します。		

**Ⅲ. 外部との連携状況についてお問い合わせします**

問 3-1 貴事業所・貴施設の近隣地域において、リハ専門職等を派遣しているリハ事業所等をご存じですか。(○は1つ)

1. 知っているリハ事業所等があり、連絡を取ったことがある  
 2. 知っているリハ事業所等があるが、連絡を取ったことはない  
 3. 知らない

＜令和元年 10 月 1 日時点における状況をお問い合わせください。該当する連携先が複数ある場合には、認知症対応型共同生活介護計画を作成する上で最も連携が多い連携先についてご記入ください＞

問 3-2 生活機能の向上を目指して利用者の定期評価を行っていますか。

問 3-3 現在、認知症対応型共同生活介護計画を作成する上で外部のリハ事業所等と連携していますか。(○は1つ)

1. 連携している  
 2. 連携を試みたが断念した  
 3. 連携を試みていない

**○連携している理由等**

＜問 3-4～3-13 は、問 3-3 で「1. 連携している」とご回答の場合、ご回答ください＞

問 3-4 連携している理由についてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)

1. 専門的な視点を踏まえ認知症対応型共同生活介護計画を作成できるため  
 2. 介護職員等の教育につながるため  
 3. 利用者のサービス向上につながるため  
 4. 経営上のメリットがあるため  
 5. その他( )

問 3-5 貴事業所・貴施設が令和元年9月に連携している外部のリハ事業所等(以下、問8)において連携先と呼称の件数を下記に入下し。

＜問 3-6～問 3-11 は、令和元年9月において利用者数ベースで最も多く連携している1つの連携先を想定してご回答ください＞

問 3-6 連携先は貴事業所・貴施設と同一法人か  
 1. 同一法人  
 2. 別法人(グループ法人)  
 3. 別法人(グループ法人以外)

問 3-7 連携先となる事業所・施設(○は1つ)

1. 指定訪問リハビリテーション事業所  
 2. 指定通所リハビリテーション事業所  
 3. 病院  
 4. 診療所  
 5. 介護老人保健施設  
 6. 介護療養型医療施設  
 7. 介護医療院

＜問 3-8 は、問 3-7 で「3. 病院」と答えた方がお答えください＞

問 3-8 問 3-7 でご回答になられた病院の許可病床数と周辺診療所の状況についてお問い合わせします。(あてはまるもの全てに○)

1. 許可病床数が 200 床未満である  
 2. 許可病床数が 200 床以上である  
 3. 半径 4 キロメートル以内に診療所が存在しない  
 4. 半径 4 キロメートル以内に診療所が存在する

問 3-9 連携している職種として該当するものについてお問い合わせします。(あてはまるもの全てに○)

1. 理学療法士  
 2. 作業療法士  
 3. 言語聴覚士  
 4. 医師

問 3-10 連携先による貴事業所・貴施設への訪問頻度についてお問い合わせします。(○は1つ)

1. 3ヶ月に1回  
 2. 2ヶ月に1回  
 3. 1ヶ月に1回  
 4. 1ヶ月に2回以上  
 5. その他( )

問 3-11 連携先が貴事業所・貴施設へ訪問する曜日や日時はあらかじめ決まっていますか。(○は1つ)

1. 事前に決まった曜日・日付で訪問する。  
 2. 必要に応じて都度日程を調整し訪問する。  
 3. その他( )

問 3-12 連携先と連携を継続する上で課題があれば、該当するものに○をつけてください。

1. 貴事業所・貴施設の職員に連携の必要性を理解させることが難しい  
 2. 連携先が3ヶ月に1回以上訪問する事が難しい  
 3. 職員が忙しく共同でアセスメントや計画等を見直すための時間が取れない  
 4. 貴事業所・貴施設として採算が取れない  
 5. 連携先に十分な対価を支払うことができない  
 6. その他( )  
 7. 課題はない

問 3-13 令和元年 10 月 1 日時点で連携している主なリハ事業所等は、平成 30 年 4 月以降に初めて連携を始めましたか。(○は1つ)

1. はい  
 2. いいえ

1. 介護職員のケアの質が向上した  
 2. 利用者の状態や希望に応じたケアの機会が増えた  
 3. 介護職員等が安心して働けるようになった  
 4. 貴事業所・貴施設が提供するケアの幅が広がった  
 5. 介護職員等の業務負担の軽減につながった  
 6. 介護職員等の教育につながった  
 7. 経営上のメリットがあった  
 8. ケアを行う際に多職種(連携先以外の職種も含む)で連携して対応する機会が増えた  
 9. 生活機能の向上に関するデータ管理やデータの活用力が向上した  
 10. その他( )

問 2-4 連携の結果、職員の機能訓練やケア方法など貴事業所・貴施設にとってどのようなメリットがありましたか。(あてはまるもの全てに○)

＜問 2-5 は、問 2-1 で「1. 算定している」とご回答の場合に、ご回答ください＞

問 2-5 貴事業所・貴施設が令和元年9月1か月間の生活機能向上連携加算の算定にあたり連携した全てのリハ事業所等に支払うべき報酬の総額をご記入ください。

円

**○生活機能向上連携加算を算定しない理由等**

＜問 2-6 は、問 2-1 で「2. 生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っているが、算定していない」とご回答の場合に、ご回答ください＞

問 2-6 生活機能向上連携加算に該当する業務を行っているが、算定していない理由をお答えください(あてはまるもの全てに○)

1. 加算の意義や必要性が感じられないため  
 2. 加算の適用対象者としての利用者を選定して良いか分らないため  
 3. 加算の適用を必要とする利用者がいないため  
 4. 利用者・家族への説明の機会を作ることが難しいため  
 5. 加算算定により利用者負担が増えるが、負担に見合う加算のメリットを説明するノウハウがないため  
 6. 利用者・家族の理解が得られないため  
 7. 認知症対応型共同生活介護計画の作成が難しいため  
 8. 加算の算定に必要な要件がわからないため  
 9. 加算の算定に取り組む余裕がないため  
 10. かかるコスト・手間に比べて単位数が割に合わないため  
 11. その他( )

＜問 2-7 は、問 2-1 で「3. 生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っている」とご回答の場合に、ご回答ください＞

問 2-7 生活機能向上連携加算の存在をご存知でしたか。

1. 知っている  
 2. 知らなかった

＜問 2-8 は、問 2-7 で「1. 知っている」とお答えになった場合にお答えください＞

問 2-8 生活機能向上連携加算を算定していない理由として該当するもの全てに○を付けてください。

1) 自立支援や介護予防の重要性について十分に理解できないため  
 2) 加算の意義や必要性が感じられないため  
 3) 貴事業所・貴施設に既にリハ専門職等が在籍しており、連携する必要性がないため  
 4) 貴事業所・貴施設が人手不足の状況にあり、利用者の生活の維持に注力することを余裕がないため  
 5) 加算の適用対象者としての利用者を選定して良いか分らないため  
 6) 加算の適用を必要とする利用者がいないため  
 7) 利用者・家族への説明の機会を作ることが難しいため  
 8) 加算算定により利用者負担が増えるが、負担に見合う加算のメリットを説明するノウハウがないため  
 9) 利用者・家族の理解が得られないため  
 10) 外部(※)のリハ事業所等との連携が難しいため  
 11) 加算の算定に必要な要件がわからないため  
 12) 加算の算定に取り組む余裕がないため  
 13) かかるコスト・手間に比べて単位数が割に合わないため  
 14) その他( )

※：外部とは、貴事業所・貴施設以外の主体を指します。

**○連携していない理由等**

<問 3-14、問 3-15は、問 3-3で「2. 連携を試みたら断念した」又は「3. 連携を試みていない」とお答えになった場合にお答えください>

問 3-14 連携していない理由についてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)

1. 貴事業所・貴施設に認知症対応型共同生活介護計画を作成できる職員がおり連携自体、不要と考えているため

2. 利用者が拒否するため

3. 連携先候補となるリハ事業所等が地域に存在しないため

4. 連携先候補となるリハ事業所等が地域に存在するが分らないため

5. 連携先候補となるリハ事業所等に連携を依頼することに心理的な負担を感じるため

6. 連携先候補となるリハ事業所等への依頼の仕方が分らないため

7. 連携先候補への報酬の単価の基準をどのように設定すれば良いかわからないため

8. 連携先候補と契約を締結することや、報酬単価を調整することに負担を感じるため

9. 連携先候補と報酬面の条件が折り合わないため

10. 連携先候補と連携頻度に関する条件が折り合わないため

11. 連携先候補と連携内容に関する条件が折り合わないため

12. 利用者の状態等の評価を共同で行うことが難しい

13. 認知症対応型共同生活介護計画の作成が難しいため

14. その他( )

問 3-15 外部のリハ専門職等との連携の必要性を感じていますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

<問 3-16は、全ての方がお答えください>

問 3-16 直近1年間(平成30年10月～令和元年9月)に、貴事業所・貴施設の利用を終えた者を訪問リハビリテーション・通所リハビリテーションの利用につないだ実績はありますか。(○は1つ)

1. ある 2. ない

<問 3-17は、問 3-16で「2. ない」とお答えになった場合にお答えください>

問 3-17 問 3-16で「2. ない」と回答した理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

1. 対象となる利用者が存在しないため

2. 対象となる利用者が拒否するため

3. 対象となる利用者を選定することが難しいため

4. ケアマネジャーがケアプランに位置づけていないため

5. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所が地域に存在しないため

6. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所が地域に存在するが分らないため

7. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所に連携を依頼することに心理的な負担を感じるため

8. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所への依頼の仕方が分らないため

**IV 生活機能の向上を目的とした取組の実施状況についてお尋ねします。**

<問 4-1～問 4-4は、問 2-1で生活機能向上連携加算に「1. 算定している」とご回答の場合に、ご回答ください>

問 4-1 令和元年9月の1ヶ月間に生活機能向上連携加算の算定により連携したリハ専門職等の職種と、その対象となつた利用者の課題の組み合わせとして、該当するもの全てに○をつけてください。(あてはまるもの全てに○)

課題	ADL										起居動作			その他		
	食事	排泄	入浴	更衣	整容	移動	昇降	屋外移動	調理	洗濯	掃除	起き上がり	座り上がり		立ち上がり	福祉用具の利用等による生活環境の改善
職種																
1)理学療法士																
2)作業療法士																
3)言語聴覚士																

問 4-2 令和元年9月の1ヶ月間に生活機能向上連携加算の算定により連携したリハ専門職等の職種と、その対象となつた利用者の課題の組み合わせとして、該当するもの全てに○をつけてください。(あてはまるもの全てに○)

職種	課題										福祉用具の利用等による生活環境の改善	家族への介護の方法の指導	
	口腔機能向上	栄養改善	医療処置	褥瘡	褥瘡改善	褥瘡改善	褥瘡改善	褥瘡改善	褥瘡改善	褥瘡改善			
1) 病院・診療所の医師(リハビリテーション専門医)													
2) 病院・診療所の医師(リハビリテーション専門医以外)													
3) 訪問リハビリテーション又は通所リハビリテーションの医師													

問 4-3 問 4-2の内容の他に、令和元年9月の1ヶ月間に生活機能向上連携加算の算定により連携した医師が対応した利用者の課題についてお答えください。(自由記述)

問 4-4 問 4-1、問 4-2で得られた助言は具体的にどのようなものですか。効果的とお考えの助言について、その助言者の職種と助言内容をお答えください。(自由記述)

質問は以上です。ご協力ありがとうございます。

D6	ID	調査票 1
<p>平成 30 年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査(令和元年度調査) 介護サービスにおける機能訓練の状況等に係る調査研究一式</p> <h3>生活機能向上連携加算に関する調査(介護老人福祉施設)</h3>		
○調査事務局よりお問い合わせをさせて頂く場合がございますのでご回答者様のご氏名等についてお伺いします。		
ご氏名	貴事業所・貴施設名	
電話番号	メールアドレス	

・以下では、特に断りのない限り、令和元年 10 月 1 日現在の状況についてお答えください。

#### I. 貴事業所・貴施設の基本属性についてお伺いします

問 1-1 法人種別	1. 社会福祉法人	2. その他 ( )				
問 1-2 種類・施設区分	該当する選択肢をお選びください。(○は1つ)					
1. 広域型	2. 地域密着型					
3. 広域型 (ユニット型)	4. 地域密着型 (ユニット型)					
問 1-3 定員数	人					
問 1-4 併設施設サービス	18. 地域密着型老人福祉施設入所者生活介護 19. 看護小規模多機能型居宅介護 20. 介護老人福祉施設 21. 介護老人保健施設 22. 介護療養型医療施設 23. 介護医療院 24. サービス付き高齢者向け住宅 25. 有料老人ホーム 26. 養護老人ホーム、軽費老人ホーム (ケアハウス、A、B) 27. 高齢者専用賃貸住宅 28. 地域包括支援センター (在宅介護支援センター) 29. 病院 30. 診療所 31. 歯科診療所					
問 1-5 要介護度別の利用者数(実人数)(令和元年9月)	1. 訪問介護 2. 訪問入浴介護 3. 訪問看護 4. 訪問リハビリテーション 5. 通所介護 6. 通所リハビリテーション 7. 短期入所生活介護・療養介護 8. 特定施設入居者生活介護 9. 福祉用具貸与・販売 10. 居宅介護支援 11. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 12. 夜間対応型訪問介護 13. 地域密着型通所介護 14. 認知症対応型通所介護 15. 小規模多機能型居宅介護 16. 認知症対応型共同生活介護 17. 地域密着型特定施設入居者生活介護					
合計	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	申請中
人	人	人	人	人	人	人
問 1-6 認知症高齢者の日常生活自立度別の利用者数(実人数)(令和元年9月)	自立 I IIa IIb IIIa IIIb IV M 人 人 人 人 人 人 人					
合計	人	人	人	人	人	人
問 1-7 令和元年9月1か月間の利用者数(実人数)	人					
問 1-8 職員数(令和元年 10 月 1 日時点)	人					

※1:1人が複数の職種に該当する場合には、該当する全ての職種に計上ください。

	①常勤職員	②非常勤職員(常勤換算※2)	①常勤職員	②非常勤職員(常勤換算※2)
1) 管理者	人	人	6) 栄養士	人
2) 医師	人	人	7) 機能訓練指導員	人
3) 生活相談員	人	人	8) 介護支援専門員	人
4) 看護職員	人	人	9) その他職員	人
5) 介護職員	人	人	10) 全職員数	人

※2: 常勤換算数の算出: 「職員の一週間の労働時間÷貴事業所・貴施設の所定労働時間」にて算出し、小数点以下第二位を四捨五入して小数点第一位まで計上してください。

問 1-9 機能訓練指導員(常勤職員、非常勤職員)のいずれも)として登録している職員の保有する全ての資格に○を付けてください(令和元年 10 月 1 日時点)。  
貴事業所・貴施設に機能訓練指導員が11人以上いる場合には、大雑烺な入りますますが本設問(問1-9)と同様の表(様式自由)に11人目以降の状況を下記記入頂き、本調査票に添付してご提出をお願いします。

1) 看護師	2) 准看護師	3) 理学療法士	4) 作業療法士	5) 言語聴覚士	6) 柔道整復師	7) あん摩マッサージ指圧師	8) はり師	9) きゆう師
○	○							
1人目								
2人目								
3人目								
4人目								
5人目								
6人目								
7人目								
8人目								
9人目								
10人目								

問 1-10 同一法人内の他事業所にリハビリ専門職等<sup>※1</sup>は在籍していますか。また、それらのリハビリ専門職等は貴事業所・貴施設等、法人内において助言を行っていますか。(令和元年 10 月 1 日時点)(○は1つ)

※1: リハビリ専門職等とは、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士又は医師のことを指します。  
※2: リハビリテーション専門医、病院や診療所のリハビリテーション科等に従事する医師のことを指します。

1) 理学療法士	2) 作業療法士	3) 言語聴覚士	4) 病院・診療所のリハビリテーション専門医 <sup>※2</sup>	5) 病院・診療所の医師(リハビリテーション専門医 <sup>※2</sup> 以外)	6) 訪問リハビリテーション又は通所リハビリテーションの医師
1. はい	1. はい	1. はい	1. はい	1. はい	1. はい
2. いいえ	2. いいえ	2. いいえ	2. いいえ	2. いいえ	2. いいえ
1. はい	1. はい	1. はい	1. はい	1. はい	1. はい
2. いいえ	2. いいえ	2. いいえ	2. いいえ	2. いいえ	2. いいえ
1. はい	1. はい	1. はい	1. はい	1. はい	1. はい
2. いいえ	2. いいえ	2. いいえ	2. いいえ	2. いいえ	2. いいえ
1. はい	1. はい	1. はい	1. はい	1. はい	1. はい
2. いいえ	2. いいえ	2. いいえ	2. いいえ	2. いいえ	2. いいえ

問 1-11 利用者のADLやIADLをどのような指標を用いて定期的に評価していますか。(あてはまるもので○)

1. BI	2. FIM	3. その他( )	4. 定期的な評価は行っていない

#### II. 加算の算定状況についてお伺いします

##### ○生活機能向上連携加算の算定状況

問 2-1 令和元年9月における生活機能向上連携加算の算定有無、生活機能向上連携加算の算定に合致する取組の実施状況、利用者の実人数、加算算定にあたり連携したリハビリ専門職等の実人数についてお伺いします。(○は1つ)

- 算定している(利用者実人数: 人、リハビリ専門職等の実人数: 人)
- 生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っているが、算定していない
- 生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っていない



**Ⅲ. 外部との連携状況についてお伺いします**

問 3-1 貴事業所・貴施設の近隣地域において、リハ専門職等を派遣しているリハ事業所等をご存じですか。(○は1つ)。
1. 知っているリハ事業所等があり、連絡を取ったことがある
2. 知っているリハ事業所等があるが、連絡を取ったことはない
3. 知らない
問 3-2 個別機能訓練が必要か否かを把握するため利用者の定期評価を行っていますか。1. はい 2. いいえ
問 3-3 現在、個別機能訓練計画を作成する上で外部のリハ事業所等と連携していますか。(○は1つ)
1. 連携している理由についてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)

**○連携している理由等**

問 3-4 連携している理由についてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)	1. 専門的な視点を踏まえ個別機能訓練計画を作成できるため
	2. 介護職員等の教育につながるため
	3. 利用者のサービス向上につながるため
	4. 経営上のメリットがあるため
	5. その他( )
問 3-5 貴事業所・貴施設が令和元年9月に連携している外部のリハ事業所等(以下、問3)において連携先と呼称)の件数を記入下さい。	件

<問 3-6～問 3-11は、令和元年9月において利用者数ベースで最も多く連携している1つの連携先を想定してご回答ください>

問 3-6 連携先は貴事業所・貴施設と同一法人か 1. 同一法人	2. 別法人(グループ法人以外)
問 3-7 連携先となる事業所・施設(○は1つ)	1. 指定訪問リハビリテーション事業所 2. 指定通所リハビリテーション事業所
	3. 病院 4. 診療所
	5. 介護老人保健施設 6. 介護療養型医療施設
	7. 介護医療院

<問 3-8は、問 3-7で「3. 病院」と答えた方がお答えください>

問 3-8 問 3-7でご回答なられた病院の許可病床数と周辺の診療所の状況についてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)	1. 許可病床数が200床未満である
	2. 許可病床数が200床以上である
	3. 半径4キロメートル以内に診療所が存在しない
	4. 半径4キロメートル以内に診療所が存在する

問 3-9 連携している職種として該当するものについてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)	1. 理学療法士 2. 作業療法士 3. 言語聴覚士 4. 医師
問 3-10 連携先による真事業所・貴施設への訪問頻度についてお伺いします。(○は1つ)	1. 3ヶ月に1回 2. 2ヶ月に1回 3. 1ヶ月に1回 4. 1ヶ月に2回以上 5. その他( )
問 3-11 連携先が貴事業所・貴施設へ訪問する曜日や日時をあらかじめ決まっていますか。(○は1つ)	1. 事前に決まった曜日・日付で訪問する。 2. 必要に応じて都度日程を調整し訪問する。 3. その他( )
問 3-12 連携先と連携を継続する上での課題があれば、該当するものに○をつけてください。	1. 貴事業所・貴施設の職員に連携の必要性を理解させることが難しい 2. 連携先が3ヶ月に1回以上訪問する事が難しい 3. 職員が忙しく共同でアセスメントや計画等を見直すための時間が取れない 4. 貴事業所・貴施設として採算が取れない 5. 連携先に十分な対価を支払うことができない 6. その他( ) 7. 課題はない
問 3-13 令和元年10月1日時点で連携している主なリハ事業所等は、平成30年4月以降に初めて連携を始めたか。(○は1つ)	1. はい 2. いいえ

**○連携していない理由等**

<問 3-14、問 3-15は、問 3-3で「2. 連携を試みていない」とお答えになった場合にお答えください>	
問 3-14 連携していない理由についてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)	
1. 貴事業所・貴施設に個別機能訓練計画を作成できる職員がおり連携自体、不要と考えているため	
2. 利用者が拒否するため	
3. 連携先候補となるリハ事業所等が地域に存在しないため	
4. 連携先候補となるリハ事業所等が地域に存在するから分らないため	
5. 連携先候補となるリハ事業所等に連携を依頼することに心理的な負担を感じるため	
6. 連携先候補となるリハ事業所等への依頼の仕方が分らないため	
7. 連携先候補への報酬の単価の基準どのように設定すれば良いかわからないため	
8. 連携先候補と契約を締結することや、報酬単価を調整することに負担を感じるため	
9. 連携先候補と報酬面の条件が折り合わないため	
10. 連携先候補と連携頻度に関する条件が折り合わないため	
11. 連携先候補と連携内容に関する条件が折り合わないため	
12. 利用者の状態等の評価を共同で行うことが難しい	
13. 個別機能訓練計画の作成が難しいため	
14. その他( )	
問 3-15 外部のリハ専門職等との連携の必要性を感じていますか。(○は1つ)	1. はい 2. いいえ

<問 3-16は、全ての方がお答えください>

問 3-16 直近1年間(平成30年10月～令和元年9月)に、貴事業所・貴施設の利用を離れた者を訪問リハビリテーション・通所リハビリテーションの利用につないだ実績はありますか。(○は1つ)	1. ある 2. ない
--	-------------

<問 3-17は、問 3-16で「2. ない」とお答えになった場合にお答えください>

問 3-17 問 3-16で「2. ない」と回答した理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)	1. 対象となる利用者が存在しないため 2. 対象となる利用者が拒否するため 3. 対象となる利用者を選定することが難しいため 4. ケアマネジャーがケアプランに位置づけていないため 5. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所が地域に存在しないため 6. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所が地域に存在するから分らないため 7. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所に連携を依頼することに心理的な負担を感じるため 8. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所への依頼の仕方が分らないため
---	--

**IV. 機能訓練の実施状況についてお尋ねします。**

<問 4-1～問 4-4 は、問 2-1 で生活機能向上連携加算に「1. 算定している」とご回答の場合に、ご回答ください>

問 4-1 令和元年9月の1ヶ月間に生活機能向上連携加算の算定により連携したリハビリ専門職等の職種と、その対象となつた利用者の課題の組み合わせとして、該当するもの全てに○をつけてください。(あてはまるもの全てに○)

課題	ADL					IADL					その他								
	食事	排泄	入浴	更衣	整容	移動	昇降	階段移動	屋外移動	屋		掃除	洗濯	起き上がり	立ち上がり	座位	立位	福祉用具の活用等による生活環境の改善	家族への介護の方法の指導
職種																			
1) 理学療法士																			
2) 作業療法士																			
3) 言語聴覚士																			

問 4-2 令和元年9月の1ヶ月間に生活機能向上連携加算の算定により連携したリハビリ専門職等の職種と、その対象となつた利用者の課題の組み合わせとして、該当するもの全てに○をつけてください。(あてはまるもの全てに○)

職種	課題			家族への介護の方法の指導
	口腔機能向上	医療処置	福祉用具の活用等による生活環境の改善	
1) 病院・診療所のリハビリテーション専門医				
2) 病院・診療所の医師(リハビリテーション専門医以外)				
3) 訪問リハビリテーション又は通所リハビリテーションの医師				

問 4-3 問 4-2 の内容の他に、令和元年9月の1ヶ月間に生活機能向上連携加算の算定により連携した医師が対応した利用者の課題についてお答えください。(自由記述)

問 4-4 問 4-1、問 4-2 で得られた助言は具体的にどのようなものですか。効果的とお考えの助言について、その助言者の職種と助言内容をお教えください。(自由記述)

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

平成 30 年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査(令和元年度調査)  
介護サービスにおける機能訓練の状況等に係る調査研究一式

**生活機能向上連携加算に関する調査(訪問介護)**

○調査事務局よりお問い合わせをさせて頂く場合がございますのでご回答者様のご氏名等についてお伺いします。

ご氏名	貴事業所・貴施設名
電話番号	メールアドレス

・以下では、特に断りのない限り、令和元年 10 月 1 日現在の状況についてお答えください。

**I. 事業所・貴施設の基本属性についてお伺いします**

問 1-1 法人種別

1. 社会福祉法人	2. 医療法人	3. 特定非営利活動法人
4. 株式会社	5. 株式会社以外の営利法人	6. その他( )

問 1-2 訪問介護の実施日数(令和元年9月)

問 1-3 登録者数

人

問 1-4 併設施設サービス(同一敷地内もしくは隣接する敷地内で提供する)に提供しているサービスについて、該当するものに全てに○を付けてください。

1. 訪問介護	18. 地域密着型老人福祉施設入所者生活介護
2. 訪問入浴介護	19. 看護小規模多機能型居宅介護
3. 訪問看護	20. 介護老人福祉施設
4. 訪問リハビリテーション	21. 介護老人保健施設
5. 通所介護	22. 介護療養型医療施設
6. 通所リハビリテーション	23. 介護医療院
7. 短期入所生活介護・療養介護	24. サービス付き高齢者向け住宅
8. 特定施設入居者生活介護	25. 有料老人ホーム
9. 福祉用具貸与・販売	26. 養護老人ホーム
10. 居宅介護支援	(ケアハウス、A、B)
11. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護	27. 旧高齢者専用賃貸住宅
12. 夜間対応型訪問介護	28. 地域包括支援センター(在宅介護支援センター)
13. 地域密着型通所介護	29. 病院
14. 認知症対応型通所介護	30. 診療所
15. 小規模多機能型居宅介護	31. 歯科診療所
16. 認知症対応型共同生活介護	
17. 地域密着型特定施設入居者生活介護	

問 1-5 要介護度別の利用者数(実人数)(令和元年9月)

要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中
人	人	人	人	人	人

問 1-6 認知症高齢者の日常生活自立度別の利用者数(実人数)(令和元年9月)

自立	I	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IV	M
人	人	人	人	人	人	人	人

問 1-7 令和元年9月1か月間の利用者数(実人数)

合計	①常勤職員	②非常勤職員(常勤換算※2)
人	人	人

問 1-8 職員数(令和元年 10 月 1 日時点)

合計	①常勤職員	②非常勤職員(常勤換算※2)
人	人	人

※1: 1人が複数の職種に該当する場合は、該当する全ての職種に計上ください。

1) 管理者

2) 訪問介護員等

3) サービス提供責任者

①常勤職員

②非常勤職員(常勤換算※2)

4) その他職員

5) 全職員数

※2: 常勤換算数の算出: 「職員の一週間の労働時間÷貴事業所・貴施設の所定労働時間」にて算出し、小数点以下第二位を四捨五入して小数点第一位まで計上してください。

問 1-9 同一法人内の他事業所にリハ専門職等 <sup>※1</sup> は在籍していますか。また、それらのリハ専門職等は貴事業所・貴施設等、法人内において助言を行っていますか。(令和元年10月1日時点)(○は1つ) ※1:リハ専門職等とは、理学療法士、作業療法士、言語療法士又は医師のことを指します。 ※2:リハビリテーション専門医、病院や診療所のリハビリテーション科等に従事することを指します。	②助言を行っていますか	①在籍していますか
1) 理学療法士	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ
2) 作業療法士	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ
3) 言語聴覚士	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ
4) 病院・診療所のリハビリテーション専門医 <sup>※2</sup>	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ
5) 病院・診療所の医師(リハビリテーション専門医 <sup>※2</sup> 以外)	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ
6) 訪問リハビリテーション又は通所リハビリテーションの医師	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ
問 1-10 利用者のADLやIADLをどのような指標を用いて定期的に評価していますか。(あてはまるもの全てに○)	1. BI 2. FIM 3. その他( ) 4. 定期的な評価は行っていない	

## II. 加算の算定状況についてお問い合わせ

### ○生活機能向上連携加算の算定状況

問 2-1 平成29年9月における生活機能向上連携加算の算定有無及び利用者実人数についてお問い合わせ。(○は1つ)	生活機能向上連携加算 1. 算定していた(利用者実人数: 人、リハ専門職等の実人数: 人) 2. 生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っていない 3. 生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っていない
問 2-2 令和元年9月における生活機能向上連携加算の算定有無、生活機能向上連携加算の算定に合致する取組の実施状況、利用者の実人数、加算算定にあたり連携したリハ専門職等の実人数についてお問い合わせ。(○は1つ)	生活機能向上連携加算 1. 算定している(利用者実人数: 人、リハ専門職等の実人数: 人) 2. 生活機能向上連携加算(Ⅰ)の算定に合致する取組を行っていないが、算定していない 3. 生活機能向上連携加算(Ⅰ)の算定に合致する取組を行っていない 生活機能向上連携加算(Ⅱ) 1. 算定している(利用者実人数: 人、リハ専門職等の実人数: 人) 2. 生活機能向上連携加算(Ⅱ)の算定に合致する取組を行っていないが、算定していない 3. 生活機能向上連携加算(Ⅱ)の算定に合致する取組を行っていない

### ○生活機能向上連携加算の算定によるメリット等

<問 2-3は、問 2-2 で生活機能向上連携加算(Ⅰ)(Ⅱ)のいずれかに「1. 算定している」、 「2. 生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っているが、算定していない」とご回答の場合に、ご回答ください>

問 2-3 生活機能向上連携加算の算定による利用者のメリットとして考えられることは何ですか。対象とする利用者の生活機能向上連携加算を適用する前の状態(要介護1、2と要介護3～5)別にご回答ください。	①要介護1、2の利用者	②要介護3～5の利用者
1) 専門的な視点を踏まえ訪問介護計画を作成できた	全くあてはまらない 1	あてはまる 2
2) 一定時間座位の保持ができるようになり、使った食事ができるようになった	あてはまる 1	あてはまる 2
3) 食事や清掃、洗濯、買物など利用者のできることが増えた	あてはまる 1	あてはまる 2
4) 椅子やテーブルの高さ、配置など、生活環境面での助言を受けられた	あてはまる 1	あてはまる 2
5) その他( )	あてはまる 1	あてはまる 2

問 2-4 リハ事業所等(※1)との連携(※2)によって訪問介護計画はどの程度改善されたと感じますか。 ※1: リハ事業所等とは、通所リハビリテーション事業所、訪問リハビリテーション事業所、リハビリテーションを実施している医療提供施設を指します。 ※2: 連携とは、生活機能向上連携加算の算定のために外部(※3)のリハ専門職等が調査対象事業所・施設への訪問等を行い、利用者へのサポートや調査対象事業所・施設への助言を共同で行うことを指します。 ※3: 外部とは、貴事業所・貴施設以外の主体を指します。	1. とても改善された 2. 少し改善された 3. 変わらない 4. 少し悪くなった 5. とても悪くなった
---	--

問 2-5 連携の結果、職員の機能訓練やケア方法など貴事業所・貴施設にとってどのようなメリットがありましたか。(あてはまるもの全てに○)	1. 職員のケアの質が向上した 2. 利用者の状態や希望に応じたケアの機会が増えた 3. 介護職員等が安心して働けるようになった 4. 貴事業所・貴施設が提供するケアの幅が広がった 5. 介護職員等の業務負担の軽減につながった 6. 介護職員等の教育につながった 7. 経営上のメリットがあった 8. 訪問介護計画の内容に見守りの援助が増えた 9. 生活機能の向上に関するデータ管理やデータの活用力が向上した 10. その他( )
--	--

<問 2-6-1は、問 2-1 で生活機能向上連携加算に「1. 算定していた」とご回答の場合に、ご回答ください>

問 2-6-1 貴事業所・貴施設が平成 29 年9月1か月間の生活機能向上連携加算の算定にあたり連携した全てのリハ事業所等に支払った報酬の総額をご記入ください。 なお複数の月数あたりの契約を締結している場合は1か月分を換算した金額をご計上ください。	円
---	---

<問 2-6-2は、問 2-2 で生活機能向上連携加算(Ⅰ)(Ⅱ)のいずれかに「1. 算定している」とご回答の場合に、ご回答ください>

問 2-6-2 貴事業所・貴施設が令和元年9月1か月間の生活機能向上連携加算の算定にあたり連携した全てのリハ事業所等に支払うべき報酬の総額をご記入ください。 なお複数の月数あたりの契約を締結している場合は1か月分を換算した金額をご計上ください。	生活機能向上連携加算(Ⅰ) 円
	生活機能向上連携加算(Ⅱ) 円

### ○生活機能向上連携加算を算定しない理由等

<問 2-7は、問 2-2 で生活機能向上連携加算(Ⅰ)(Ⅱ)のいずれかに「2. 生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っているが、算定していない」とご回答の場合に、ご回答ください>

問 2-7 生活機能向上連携加算に該当する業務を行っているが、算定していない理由をお答えください(あてはまるもの全てに○)	1. 加算の意義や必要性が感じられないため 2. 加算の適用対象者としてどの利用者を選定して良いかわからないため 3. 加算の適用を必要とする利用者がいないため 4. 利用者・家族への説明の機会を作ることが難しいため 5. 加算算定により利用者負担が増えるが、負担に見合う加算のメリットを説明するノウハウがないため 6. 訪問介護計画の作成が難しいため 7. 利用者・家族の理解が得られないため 8. 加算の算定に必要な要件がわからなかったため 9. 加算の算定に取組む余裕がないため 10. かかるコスト・手間に比べて単位数が割に合わないため 11. その他( )
---	---

<問 2-8は、問 2-2 で生活機能向上連携加算(Ⅰ)(Ⅱ)のいずれかに「3. 生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っていない」とご回答の場合に、ご回答ください>

問 2-8 生活機能向上連携加算の存在をご存知ですか。	1. 知っている 2. 知らなかった
-----------------------------	-----------------------

<問 2-9 は、問 2-8 で「1. 知っている」とお答えになった場合にお答えください>

問 2-9 生活機能向上連携加算(Ⅰ)(Ⅱ)を算定していない理由として該当するもの全てに○を付けてください。	①生活機能向上連携加算(Ⅰ)	②生活機能向上連携加算(Ⅱ)
1) 自立支援や介護予防の重要性について十分に理解できないため		
2) 加算の意義や必要性が感じられないため		
3) 貴事業所・貴施設に既にリハ専門職等が在籍しており、連携する必要性がないため		
4) 貴事業所・貴施設が人手不足の状況にあり、利用者の生活の維持に注力すること以外のことを行う余裕がないため		
5) 加算の適用対象者としてどの利用者を選定して良いかわからないため		
6) 加算の適用を必要とする利用者がいないため		
7) 利用者・家族への説明の機会を作ることが難しかったため		
8) 加算算定により利用者負担が増えるが、負担に見合う加算のメリットを説明するノウハウがないため		
9) 利用者・家族の理解が得られなかったため		
10) 外部のリハ事業所等との連携が難しかったため		
11) 加算の算定に必要な要件がわからなかったため		
12) 加算の算定に組み組む余裕がないため		
13) かかるコスト・手間に比べて単位数が割に合わないため		
14) その他( )		

<問 2-10 は、問 2-2 で生活機能向上連携加算(Ⅰ)に「2. 生活機能向上連携加算(Ⅰ)の算定に合致する取組を行っているが、算定していない」  
 1) F3. 生活機能向上連携加算(Ⅰ)の算定に合致する取組を行っていない」とご回答の場合に、ご回答ください>

問 2-10 ICT が活用できた場合、加算が算定できると思いますが。

1. 思う 2. 思わない

**○ICT の活用について**

<問 2-11 は、問 2-2 で生活機能向上連携加算(Ⅰ)の「1. 算定している」に○をつけ、算定人数が1人以上の場合にお答えください>

問 2-11 生活機能向上連携加算(Ⅰ)の算定にあたり ICT を活用しましたか。活用した場合は人数をお答えください。

1. はい( ) 人  
 2. いいえ( )

**○ICT を活用している場合**

<問 2-12~2-16 は、問 2-11 で「1. はい」とお答えになった方がお答えください>

問 2-12 ICT を活用した利用者の状態の把握方法として該当するもの全てに○を付けてください。

1. 動画 2. テレビ電話 3. その他( )

問 2-13 活用している ICT の機器として該当するもの全てに○を付けてください。

1. パソコン 2. スマートフォン 3. タブレット端末  
 4. その他( )

問 2-14 活用している ICT の機器は誰が購入していますか。該当するもの全てに○を付けてください。

1. 貴事業所・貴施設  
 2. リハ事業所等  
 3. その他( )

問 2-15 利用者一人に対して ICT を活用する平均的な頻度についてお答えください。

【計画作成時】：平均( ) 回  
 【計画作成後】：平均( ) 回

問 2-16 ICT を活用した影響についてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)

1. 利用者の自宅を訪問する必要があるため、リハ専門職等の協力が得やすくなった  
 2. 利用者の状態が気になったたびにすぐに確認ができるようになった  
 3. 訪問の回数が減って職員の負担が軽減された。  
 4. 利用者の状態を対面で評価する場と特に変更の場とで評価できる  
 5. 動画等では十分な確認ができなかった。  
 6. その他( )

**ICT を活用していない場合**

<問 2-17 は、問 2-11 で「2. いいえ」とお答えになった方がお答えください>

問 2-17 ICT を活用していない理由として該当するもの全てに○を付けてください。	1. 訪問による対応が可能であるため 2. 以前から生活機能向上連携加算(Ⅱ)を算定しているため 3. リハ専門職等の事前の調整が難しかったため 4. ICT の導入費用の負担が大きいため 5. ICT の維持費用の負担が大きいため 6. ICT の使用方法が難しかったため 7. 利用者に心理的負担がかかるため 8. 利用者の状態を十分に把握できないと思うため 9. 利用者の同意を得ることが難しかったため 10. 利用者の個人情報取扱いが難しかったため 11. ICT を利用してみましたが、利用者の状態を十分に確認することができなかったため 12. その他( )
---	---

**Ⅲ. 外部との連携状況についてお伺いします**

問 3-1 貴事業所・貴施設の近隣地域において、リハ専門職等を派遣しているリハ事業所等をご存じですか。(○は1つ)。

1. 知っているリハ事業所等があり、連絡を取ったことがある  
 2. 知っているリハ事業所等があるが、連絡を取ったことはない  
 3. 知らない

<令和元年 10 月 1 日時点における状況をお伺い致します。該当する連携先が複数ある場合には、訪問介護計画を作成する上で最も連携が多い連携先についてご記入ください>

問 3-2 生活機能の向上を目指して利用者の定期評価を行っていますか。

1. 連携している  
 2. 連携を試みたが断念した  
 3. 連携を試みていない

問 3-3 現在、訪問介護計画を作成する上で外部のリハ事業所等と連携していますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

**○連携している理由等**

<問 3-4~3-13 は、問 3-3 で「1. 連携している」とご回答の場合、ご回答ください>

問 3-4 連携している理由についてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)

1. 専門的な視点を踏まえ訪問介護計画を作成できるため  
 2. 介護職員等の教育につながるため  
 3. 利用者のサービス向上につながるため  
 4. 経営上のメリットがあるため  
 5. その他( )

問 3-5 貴事業所・貴施設が令和元年9月に連携している外部のリハ事業所等(以下、問3)において連携先と呼称)の件数をご記入下さい。

問 3-6 連携先は貴事業所・貴施設と同一法人か否かについてご記入ください。(○は1つ)

1. 同一法人  
 2. 別法人(グループ法人)  
 3. 別法人(グループ法人以外)

問 3-7 連携先となる事業所・施設(○は1つ)

1. 指定訪問リハビリテーション事業所 2. 指定通所リハビリテーション事業所  
 3. 病院 4. 診療所  
 5. 介護老人保健施設 6. 介護療養型医療施設  
 7. 介護医療院

問 3-8 連携している職種として該当するものについてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)

1. 許可病床数が 200 床未満である  
 2. 許可病床数が 200 床以上である  
 3. 半径 4 キロメートル以内に診療所が存在しない  
 4. 半径 4 キロメートル以内に診療所が存在する

問 3-9 連携している職種として該当するものについてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)

1. 理学療法士 2. 作業療法士  
 3. 言語聴覚士 4. 医師  
 1. 3ヶ月に1回 2. 2ヶ月に1回  
 3. 1ヶ月に1回 4. 1ヶ月に2回以上  
 5. その他( )

問 3-10 連携先による貴事業所・貴施設への訪問頻度についてお伺いします。(○は1つ)

問 3-11 連携先が貴事業所・貴施設へ訪問する曜日や日時はあらかじめ決まっていますか。(○は1つ)

1. 事前に決まった曜日・日付で訪問する。  
 2. 必要に応じて都度日程を調整し訪問する。  
 3. その他( )

**IV 生活機能の向上を目的とした取組の実施状況についてお尋ねします。**

<問 4-1～問 4-4 は、問 2-2 で生活機能向上連携加算 (1) (E) のいずれかに「1. 算定している」とご回答の場合に、ご回答ください>

問 4-1 令和元年9月の1ヶ月間に生活機能向上連携加算の算定により連携したリハ専門職等の職種と、その対象となつた利用者の課題の組み合わせとして、該当するものを全てに○をつけてください。(あてはまるもの全てに○)

課題	ADL							IADL			起居動作		その他				
	食事	排泄	入浴	更衣	整容	移動	屋内移動	階段昇降	屋外移動	屋	口腔機能向上	栄養改善		医療処置	起き上がり	立上がり	福祉用具の活用等による生活環境の改善
職種																	
1) 理学療法士																	
2) 作業療法士																	
3) 言語聴覚士																	

問 4-2 令和元年9月の1ヶ月間に生活機能向上連携加算の算定により連携したリハ専門職等の職種と、その対象となつた利用者の課題の組み合わせとして、該当するものを全てに○をつけてください。(あてはまるもの全てに○)

職種	課題	家族への介護の方法の指導
1) 病院・診療所の医師(リハビリテーション専門医)		
2) 病院・診療所の医師(リハビリテーション専門医以外)		
3) 訪問リハビリテーション又は通所リハビリテーションの医師		

問 4-3 問 4-2 の内容の他に、令和元年9月の1ヶ月間に生活機能向上連携加算の算定により連携した医師が対応した利用者の課題についてお答えください。(自由記述)

問 4-4 問 4-1、問 4-2 で得られた助言は具体的にどのようなものですか。効果的とお考えの助言について、その助言者の職種と助言内容をお答えください。(自由記述)

問 3-12 連携先と連携を継続する上で、該当するものに○をつけてください。

1. 貴事業所・貴施設の職員に連携の必要性を理解させることが難しい  
 2. 連携先が3ヶ月に1回以上訪問する事が難しい  
 3. 職員が忙しく共同でアセスメントや計画等を見直すための時間が取れない  
 4. 貴事業所・貴施設として採算が取れない  
 5. 連携先に十分な対価を支払うことができない  
 6. その他( )  
 7. 課題はない

問 3-13 令和元年 10月1日時点で連携している主なリハ事業所等は、平成 30年 4月以降に初めて連携を始めましたか。(○は1つ)

1. はい  
 2. いいえ

**○連携していない理由等**

<問 3-14、問 3-15 は、問 3-3 で「2. 連携を試みていない」又は「3. 連携を試みていない」とお答えになった場合にお答えください>

問 3-14 連携していない理由についてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)

1. 貴事業所・貴施設に訪問介護計画を作成できる職員がおり連携自体、不要と考えているため  
 2. 利用者が拒否するため  
 3. 連携先候補となるリハ事業所等が地域に存在しないため  
 4. 連携先候補となるリハ事業所等に地域に存在するから分らないため  
 5. 連携先候補となるリハ事業所等に連携を依頼することに心理的な負担を感じるため  
 6. 連携先候補となるリハ事業所等への依頼の仕方が分からないため  
 7. 連携先候補への報酬単価の基準をどのように設定すれば良いかわからないため  
 8. 連携先候補と契約を締結することや、報酬単価を調整することに負担を感じるため  
 9. 連携先候補と報酬面の条件が折り合わないため  
 10. 連携先候補と連携頻度に関する条件が折り合わないため  
 11. 連携先候補と連携内容に関する条件が折り合わないため  
 12. 利用者の状態等の評価を共同で行うことが難しい  
 13. 訪問介護計画の作成が難しいため  
 14. その他( )

問 3-15 外部のリハ専門職等との連携の必要性を感じていますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

<問 3-16 は、全ての方がお答えください>

問 3-16 直近 1年間(平成 30年 10月～令和元年 9月)に、貴事業所・貴施設の利用を終えた者を訪問リハビリテーション・通所リハビリテーションの利用につないだ実績はありますか。(○は1つ)

1. ある 2. ない

<問 3-17 は、問 3-16 で「2. ない」とお答えになった場合にお答えください>

問 3-17 問 3-16 で「2. ない」と回答した理由は、何ですか。(あてはまるもの全てに○)

1. 対象となる利用者が存在しないため  
 2. 対象となる利用者が拒否するため  
 3. 対象となる利用者を選定することが難しいため  
 4. ケアマネジャーがケアプランに位置づけていないため  
 5. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所が地域に存在しないため  
 6. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所が地域に存在するから分らないため  
 7. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所に連携を依頼することに心理的な負担を感じるため  
 8. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所への依頼の仕方が分らないため

D8	ID	調査票1
平成30年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査(令和元年度調査) 介護サービスにおける機能訓練の状況等に係る調査研究一式		
<b>生活機能向上連携加算に関する調査(小規模多機能型居宅介護)</b>		
○調査事務局よりお問い合わせさせて頂く場合がございますのでご回答者様のご氏名等についてお伺いします。		
ご氏名	貴事業所・貴施設名	
電話番号	メールアドレス	

・以下では、特に断りのない限り、令和元年10月1日現在の状況についてお答えください。

**I. 事業所・貴施設の基本属性についてお伺いします**

問1-1 法人種別	1. 社会福祉法人	2. 医療法人	3. 特定非営利活動法人	6. その他( )
問1-2 小規模多機能型居宅介護の実施日数(令和元年9月)	4. 株式会社	5. 株式会社以外の営利法人	6. その他( )	
問1-3 登録者数	人			
問1-4 併設施設サービス(同一敷地内もしくは隣接する敷地内で提供しているサービス)について、該当するものに全てに○を付けてください。	1. 訪問介護	18. 地域密着型老人福祉施設入所者生活介護	2. 訪問入浴介護	19. 看護小規模多機能型居宅介護
	3. 訪問看護	20. 介護老人福祉施設	21. 訪問リハビリテーション	22. 介護老人保健施設
	4. 訪問リハビリテーション	23. 介護療養型医療施設	24. 通所リハビリテーション	25. 介護医療院
	5. 通所介護	26. 短期入所生活介護・療養介護	27. 特定施設入居者生活介護	28. サービス付き高齢者向け住宅
	6. 通所リハビリテーション	29. 福祉用具貸与・販売	30. 福祉用具貸与・販売(ケアハウス、A、B)	29. 有料老人ホーム
	7. 短期入所生活介護・療養介護	31. 特定施設入居者生活介護	32. 介護老人ホーム	33. 養護老人ホーム
	8. 特定施設入居者生活介護	33. 特定施設入居者生活介護	34. 介護老人ホーム	35. 養護老人ホーム
	9. 福祉用具貸与・販売	34. 介護老人ホーム	35. 養護老人ホーム	36. 養護老人ホーム
	10. 福祉用具貸与・販売	35. 養護老人ホーム	36. 養護老人ホーム	37. 養護老人ホーム
	11. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護	36. 養護老人ホーム	37. 養護老人ホーム	38. 養護老人ホーム
	12. 夜間対応型訪問介護	37. 養護老人ホーム	38. 養護老人ホーム	39. 養護老人ホーム
	13. 地域密着型通所介護	38. 養護老人ホーム	39. 養護老人ホーム	40. 養護老人ホーム
	14. 認知症対応型通所介護	39. 養護老人ホーム	40. 養護老人ホーム	41. 養護老人ホーム
	15. 小規模多機能型居宅介護	40. 養護老人ホーム	41. 養護老人ホーム	42. 養護老人ホーム
	16. 認知症対応型共同生活介護	41. 養護老人ホーム	42. 養護老人ホーム	43. 養護老人ホーム
	17. 地域密着型特定施設入居者生活介護	42. 養護老人ホーム	43. 養護老人ホーム	44. 養護老人ホーム

問1-5 要介護度別の利用者数(実人数)(令和元年9月)	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中		
合計	人	人	人	人	人	人		
問1-6 認知症高齢者の日常生活自立度別の利用者数(実人数)(令和元年9月)	自立	I	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IV	M
合計	人	人	人	人	人	人	人	人

問1-7 職員数(令和元年10月1日時点) ※1:1人が複数の職種に該当する場合は、該当する全ての職種に計上ください。	①常勤職員	②非常勤職員(常勤換算※2)	①常勤職員	②非常勤職員(常勤換算※2)
1)管理者	人	人	人	人
2)小規模多機能型居宅介護従業者	人	人	人	人
3)介護支援専門員	人	人	人	人

※2:常勤換算数の算出:「職員の一週間の労働時間÷貴施設の前定労働時間」にて算出し、小数点以下第二位を四捨五入して小数点第一位まで計上してください。

問1-8 同一法人内の他事業所にリハ専門職等※1は在籍していますか。また、それらのリハ専門職等は貴事業所・貴施設等、法人内において助言を行っていますか。(令和元年10月1日時点)(○は1つ) ※1:リハ専門職等とは、理学療法士、作業療法士、言語療法士又は医師のことを指します。 ※2:リハビリテーション専門医・病院や診療所のリハビリテーション科等に従事する医師のことを指します。	①在籍していますか	②助言を行っていますか
1) 理学療法士	1. はい	1. はい
2) 作業療法士	2. いいえ	2. いいえ
3) 言語聴覚士	3. はい	3. はい
4) 病院・診療所のリハビリテーション専門医※2	4. はい	4. はい
5) 病院・診療所の医師(リハビリテーション専門医※2以外)	5. はい	5. はい
6) 訪問リハビリテーション又は通所リハビリテーションの医師	6. はい	6. はい

問1-9 利用者のADLやIADLをどのような指標を用いて定期的に評価していますか。(あてはまるもの全てに○)	1. BI	2. FIM	3. その他( )
	4. 定期的な評価は行っていません		

**II. 加算の算定状況についてお伺いします**

**○生活機能向上連携加算の算定状況**

問2-1 令和元年9月における生活機能向上連携加算の算定有無、生活機能向上連携加算の算定に合致する取組の実施状況、利用者の実人数、加算定にあたり連携したリハ専門職等の実人数についてお伺いします。(○は1つ)	生活機能向上連携加算(I)	1. 算定している(利用者実人数: )人、リハ専門職等の実人数( )人
	生活機能向上連携加算(II)	2. 生活機能向上連携加算(I)の算定に合致する取組を行っているが、算定していない( )人
		3. 生活機能向上連携加算(II)の算定に合致する取組を行っていない( )人

**○生活機能向上連携加算の算定によるメリット等**

<問2-2は、問2-1で生活機能向上連携加算(I)(II)のいずれかに「1.算定している」、「2.生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っているが、算定していない」とご回答の場合に、ご回答ください>

問2-2 生活機能向上連携加算の算定による利用者のメリットとして考えられることは何ですか。対象とする利用者の生活機能向上連携加算を適用する前の状態(要介護1、2と要介護3～5)別にご回答ください。	①要介護1、2の利用者			②要介護3～5の利用者		
	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ある程度あてはまる	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ある程度あてはまる
1) 専門的な視点を踏まえ小規模多機能型居宅介護計画を作成できた	1	2	3	4	1	2
2) 一定時間座位の保持ができるようになり、使って食事ができるようになるなど、利用者にとって良い効果につながった	1	2	3	4	1	2
3) 食事も清掃、洗濯、買物など利用者のできることが増えた	1	2	3	4	1	2
4) 椅子やテーブルの高さ、配置など、生活環境面での助言を受けられた	1	2	3	4	1	2
5) その他( )	1	2	3	4	1	2

問 2-3 リハ事業所等(※1)との連携(※2)によって小規模多機能型居宅介護計画はどの程度改善されたと感じますか。

※1：リハ事業所等とは、通所リハビリテーション事業所、訪問リハビリテーション事業所、リハビリテーションを実施している医療提供施設を指します。

※2：連携とは、生活機能向上連携加算の算定のために外部(※3)のリハ専門職等が調査対象事業所・施設への訪問等を行い、利用者のアセスメントや調査対象事業所・施設への助言を共同で行うことを指します。

※3：外部とは、貴事業所・貴施設以外の主体を指します。

1. 職員のケアの質が向上した  
 2. 利用者の状態や希望に応じたケアの機会が増えた  
 3. 介護職員等が安心して働けるようになった  
 4. 貴事業所・貴施設が提供するケアの幅が広がった  
 5. 介護職員等の業務負担の軽減につながった  
 6. 介護職員等の教育につながった  
 7. 経営上のメリットがあった  
 8. 小規模多機能型居宅介護計画の内容に見守りの援助が増えた  
 9. 生活機能の向上に関するデータ管理やデータの活用力が向上した  
 10. その他( )

<問 2-5は、問 2-1で生活機能向上連携加算(Ⅰ)(Ⅱ)のいずれかに「1.算定している」とご回答の場合に、ご回答ください>

問 2-5 貴事業所・貴施設が令和元年9月1か月間の生活機能向上連携加算の算定にあたり連携した全てのリハ事業所等に支払うべき報酬の総額をご記入ください。 なおお振込の月数あたりの契約を締結している場合には1か月分に変算した金額をご計上ください。	円
生活機能向上連携加算(Ⅰ)	円
生活機能向上連携加算(Ⅱ)	円

**○生活機能向上連携加算を算定しない理由等**

<問 2-6は、問 2-1で生活機能向上連携加算(Ⅰ)(Ⅱ)のいずれかに「2.生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っているが、算定していない」とご回答の場合に、ご回答ください>

問 2-6 生活機能向上連携加算に該当する業務を行っているが、算定していない理由をお答えください(あてはまるもの全てに○)

1. 加算の意義や必要性が感じられないため
2. 加算の適用対象者としての利用者を選定して良いか分らないため
3. 加算の適用を必要とする利用者がいないため
4. 利用者・家族への説明の機会を作ることが難しいため
5. 加算算定により利用者負担が増えるが、負担に見合う加算のメリットを説明するノウハウがないため
6. 利用者・家族の理解が得られないため
7. 小規模多機能型居宅介護計画の作成が難しいため
8. 加算の算定に必要な要件がわからないため
9. 加算の算定に取り組み余裕がないため
10. かかるコスト・手間に比べて単位数が割に合わないため
11. その他( )

<問 2-7は、問 2-1で生活機能向上連携加算(Ⅰ)(Ⅱ)のいずれかに「3.生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っている」とご回答の場合に、ご回答ください>

問 2-7 生活機能向上連携加算の存在をご存知でしたか。

1. 知っている 2. 知らなかった

<問 2-8は、問 2-7で「1. 知っている」とお答えになった場合にお答えください>

問 2-8 生活機能向上連携加算(Ⅰ)(Ⅱ)を算定していない理由として該当するもの全てに○を付けてください。

生活機能向上連携加算(Ⅰ)	生活機能向上連携加算(Ⅱ)
1) 自立支援や介護予防の重要性について十分に理解できないため	
2) 加算の意義や必要性が感じられないため	
3) 事業所・貴施設に既にリハ専門職等が在籍しており、連携する必要性がないため	
4) 貴事業所・貴施設が人手不足の状況にあり、利用者の生活の維持に注力すること以外のことを行う余裕がないため	
5) 加算の適用対象者としての利用者を選定して良いか分らないため	
6) 加算の適用を必要とする利用者がいないため	
7) 利用者・家族への説明の機会を作ることが難しいため	
8) 加算算定により利用者負担が増えるが、負担に見合う加算のメリットを説明するノウハウがないため	
9) 利用者・家族の理解が得られないため	
10) 外部のリハ事業所等との連携が難しいため	
11) 加算の算定に必要な要件がわからないため	
12) 加算の算定に取り組み余裕がないため	
13) かかるコスト・手間に比べて単位数が割に合わないため	
14) その他( )	

<問 2-9は、問 2-1で生活機能向上連携加算(Ⅰ)に「2.生活機能向上連携加算(Ⅰ)の算定に合致する取組を行っているが、算定していない」  
 1) 3.生活機能向上連携加算(Ⅰ)の算定に合致する取組を行っていない」とご回答の場合に、ご回答ください>

問 2-9 ICT が活用できた場合、加算が算定できると思いますか。

1. 思う 2. 思わない

**○ICTの活用について**

<問 2-10は、問 2-1で生活機能向上連携加算(Ⅰ)の「1.算定している」に○をつけ、算定人数が1人以上の場合にお答えください>

問 2-10 生活機能向上連携加算(Ⅰ)の算定にあたりICTを活用しましたか。活用した場合は人数をお答えください。

1. はい( )人  
 2. いいえ

**○ICTを活用している場合**

<問 2-11~2-15は、問 2-10で「1.はい」とお答えになった方がお答えください>

問 2-11 ICTを活用した利用者の状態の把握方法として該当するもの全てに○を付けてください。

1. 動画 2. テレビ電話 3. その他( )

問 2-12 活用しているICTの機器として該当するもの全てに○を付けてください。

1. パソコン 2. スマートフォン 3. タブレット端末  
 4. その他( )

問 2-13 活用しているICTの機器は誰が購入していますか。該当するもの全てに○を付けてください。

1. 貴事業所・貴施設  
 2. リハ事業所等  
 3. その他( )

問 2-14 利用者一人に対してICTを活用する平均的な頻度についてお答えください。

【計画作成時】：平均( )回  
 【計画作成後から3ヶ月後までの間】：平均( )回

問 2-15 ICTを活用した影響についてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)

1. 利用者の自宅を訪問する必要がないので、リハ専門職等の協力が得やすくなった
2. 利用者の状態が気になったたびにすぐに確認ができるようになった
3. 訪問の回数が減って職員の負担が軽減された。
4. 利用者の状態を対面で評価する場と特に変更がなくなり評価ができる
5. 動画等では十分な確認ができなかった。
6. その他( )

**○ICTを活用していない場合**

<問 2-16は、問 2-10 で「2. いいえ」とお答えになった方がお答えください>

問 2-16 ICT を活用していない理由として該当するもの全てに○を付けてください。	1. 訪問による対応が可能であるため 2. リハ専門職等の事前の調整が難しかったため 3. ICTの導入費用の負担が大きいため 4. ICTの維持費用の負担が大きいため 5. ICTの使用方法が難しかったため 6. 利用者に心理的負担が分かるため 7. 利用者の状態を十分に把握できないと思うため 8. 利用者の同意を得ることが難しかったため 9. 利用者の個人情報等の適切な取扱いが難しかったため 10. ICT を利用してみたが、利用者の状態を十分に確認することができなかったため 11. その他( )
---	---

**Ⅲ. 外部との連携状況についてお伺いします**

問 3-1 貴事業所・貴施設の近隣地域において、リハ専門職等を派遣しているリハ事業所等をご存じですか。(○は1つ)

1. 知っているリハ事業所等があり、連絡を取ったことがある  
2. 知っているリハ事業所等があるが、連絡を取ったことはない  
3. 知らない

<令和元年 10 月 1 日時点における状況をお伺い致します。該当する連携先が複数ある場合には、小規模多機能型居宅介護計画を作成する上で最も連携が多い連携先についてご記入ください>

問 3-2 生活機能の向上を目指して利用者の定期評価を行っていますか。

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問 3-3 現在、小規模多機能型居宅介護計画を作成する上で外部のリハ事業所等と連携していますか。(○は1つ)

1. 連携している	2. 連携を試みたが断念した	3. 連携を試みていない
-----------	----------------	--------------

**○連携している理由等**

<問 3-4～3-13は、問 3-3 で「1. 連携している」と回答の場合、ご回答ください>

問 3-4 連携している理由についてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)

1. 専門的な視点を踏まえ小規模多機能型居宅介護計画を作成できるため	2. 介護職員等の教育につながるため	3. 利用者のサービス向上につながるため	4. 経営上のメリットがあるため	5. その他( )
------------------------------------	--------------------	----------------------	------------------	-----------

問 3-5 貴事業所・貴施設が令和元年9月に連携している外部のリハ事業所等(以下、問3において連携先と呼称)の件数を下記入力下さい。

件	1. 同一法人	2. 別法人(グループ法人)	3. 別法人(グループ法人以外)
---	---------	----------------	------------------

<問 3-6～問 3-11は、令和元年9月において利用者数ベースで最も多く連携している1つの連携先を想定してご回答ください>

問 3-6 連携先は貴事業所・貴施設と同一法人か否かについてご記入ください。(○は1つ)

1. 指定訪問リハビリテーション事業所	2. 指定通所リハビリテーション事業所	3. 病院	4. 診療所	5. 介護老人保健施設	6. 介護療養型医療施設	7. 介護医療院	8. 小規模多機能型居宅介護計画の作成が難しいため
---------------------	---------------------	-------	--------	-------------	--------------	----------	---------------------------

問 3-7 連携先となる事業所・施設(○は1つ)

1. 理学療法士	2. 作業療法士	3. 言語聴覚士	4. 医師
----------	----------	----------	-------

<問 3-8は、問 3-7 で「3. 病院」と答えられた方がお答えください>

問 3-8 問 3-7 でご回答になられた病状の許可病床数と周辺の診療所の状況についてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)

1. 許可病床数が 200 床未満である	2. 許可病床数が 200 床以上である	3. 半径 4 キロメートル以内に診療所が存在しない	4. 半径 4 キロメートル以内に診療所が存在する
----------------------	----------------------	----------------------------	---------------------------

問 3-9 連携している職種として該当するものについてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)

1. 理学療法士	2. 作業療法士	3. 言語聴覚士	4. 医師
----------	----------	----------	-------

問 3-10 連携先による貴事業所・貴施設への訪問頻度についてお伺いします。(○は1つ)

1. 3ヶ月月に1回	2. 2ヶ月月に1回	3. 1ヶ月月に1回	4. 1ヶ月月に2回以上	5. その他( )
------------	------------	------------	--------------	-----------

問 3-11 連携先が貴事業所・貴施設へ訪問する曜日や日時をあらかじめ決まっていますか。(○は1つ)

1. 事前に決まった曜日・日付で訪問する。	2. 必要に応じて都度日程を調整し訪問する。	3. その他( )
-----------------------	------------------------	-----------

問 3-12 連携先と連携を継続する上で課題があれば、該当するものに○をつけてください。

1. 貴事業所・貴施設の職員に連携の必要性を理解させることが難しい	2. 連携先が3ヶ月に1回以上訪問する事が難しい	3. 職員が忙しく共同でアセスメントや計画等を見直すための時間が取れない	4. 貴事業所・貴施設として採算が取れない	5. 連携先に十分な対価を支払うことができない	6. その他( )	7. 課題はない
-----------------------------------	--------------------------	--------------------------------------	-----------------------	-------------------------	-----------	----------

問 3-13 令和元年 10 月 1 日時点で連携している主なリハ事業所等は、平成 30 年 4 月以降に初めて連携を始めましたか。(○は1つ)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

**○連携していない理由等**

<問 3-14、問 3-15は、問 3-3 で「2. 連携を試みていない」とお答えになった場合にお答えください>

問 3-14 連携していない理由についてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)

1. 貴事業所・貴施設に小規模多機能型居宅介護計画を作成できる職員がおり連携自体、不要と考えているため

2. 利用者が拒否するため

3. 連携先候補となるリハ事業所等が地域に存在しないため

4. 連携先候補となるリハ事業所等が地域に存在するが分らないため

5. 連携先候補となるリハ事業所等に連携を依頼することに心理的な負担を感じるため

6. 連携先候補となるリハ事業所等への依頼の仕方が分からないため

7. 連携先候補への報酬単価の基準をどのように設定すれば良いかわからないため

8. 連携先候補と契約を締結することや、報酬単価を調整することに負担を感じるため

9. 連携先候補と報酬面の条件が折り合わないため

10. 連携先候補と連携頻度に関する条件が折り合わないため

11. 連携先候補と連携内容に関する条件が折り合わないため

12. 利用者の状態等の評価を共同で行うことが難しい

13. 小規模多機能型居宅介護計画の作成が難しいため

14. その他( )

問 3-15 外部のリハ専門職等との連携の必要性を感じていますか。(○は1つ)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

<問 3-16は、全ての方がお答えください>

問 3-16 直近 1 年間(平成 30 年 10 月～令和元年 9 月)に、貴事業所・貴施設の利用を終えた者を訪問リハビリテーション・通所リハビリテーションの利用につないだ実績はありますか。(○は1つ)

1. ある	2. ない
-------	-------

<問 3-17は、問 3-16 で「2. ない」とお答えになった場合にお答えください>

1. 対象となる利用者が存在しないため	2. 対象となる利用者が拒否するため	3. 対象となる利用者を選定することが難しいため	4. ケアマネジャーがケアプランに位置づけていないため	5. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所が地域に存在しないため	6. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所が地域に存在するが分からないため	7. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所に連携を依頼することに心理的な負担を感じるため	8. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所への依頼の仕方が分からないため
---------------------	--------------------	--------------------------	-----------------------------	--	---	--	--

問 3-17 問 3-16 で「2. ない」と回答した理由は何かですか。(あてはまるもの全てに○)

**IV 生活機能の向上を目的とした取組の実施状況についてお尋ねします。**

<問 4-1～問 4-4は、問 2-1で生活機能向上連携加算（1）（Ⅱ）のいずれかに「1.算定している」とご回答の場合に、ご回答ください>

問 4-1 令和元年9月の1ヶ月間に生活機能向上連携加算の算定により連携したリハ専門職等の職種と、その対象となつた利用者の課題の組み合わせとして、該当するもの全てに○をつけてください。(あてはまるもの全てに○)

課題	ADL					IADL			起居動作		その他			
	排泄	入浴	更衣	整容	移動	屋内移動	階段昇降	屋外移動	調理	掃除		起き上がり	立ち上がり	福祉用具の利用等による生活環境の改善
職種														
1)理学療法士														
2)作業療法士														
3)言語聴覚士														

問 4-2 令和元年9月の1ヶ月間に生活機能向上連携加算の算定により連携したリハ専門職等の職種と、その対象となつた利用者の課題の組み合わせとして、該当するもの全てに○をつけてください。(あてはまるもの全てに○)

職種	課題			家族への介護方法の指導
	口腔機能向上	栄養改善	医療処置	
1) 病院・診療所のリハビリテーション専門医				
2) 病院・診療所の医師(リハビリテーション専門医以外)				
3) 訪問リハビリテーション又は通所リハビリテーションの医師				

問 4-3 問 4-2の内容の他に、令和元年9月の1ヶ月間に生活機能向上連携加算の算定により連携した医師が対応した利用者の課題についてお答えください。(自由記述)

問 4-4 問 4-1、問 4-2で得られた助言は具体的にどのようなものですか。効果的とお考えの助言について、その助言者の職種と助言内容をお教えください。(自由記述)

質問は以上です。ご協力ありがとうございます。

D9

ID

調査票 1

平成 30 年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査(令和元年度調査)  
介護サービスにおける機能訓練の状況等に係る調査研究一式

**生活機能向上連携加算に関する調査(定期巡回・随時対応型訪問介護看護)**

○調査事務局よりお問い合わせをさせて頂く場合がございますのでご回答者様のご氏名等についてお伺いします。

ご氏名	貴事業所・貴施設名
電話番号	メールアドレス

・以下では、特に断りのない限り、令和元年 10 月 1 日現在の状況についてお答えください。

**I. 事業所・貴施設の基本属性についてお伺いします**

問 1-1 法人種別	1. 社会福祉法人 2. 医療法人 3. 特定非営利活動法人
問 1-2 定期巡回・随時対応型訪問介護看護の実施日数(令和元年9月)	4. 株式会社 5. 株式会社以外の営利法人 6. その他( )
問 1-3 登録者数	人
問 1-4 併設施設サービス(同一敷地内もしくは隣接する敷地内で提供しているサービス)に ついて、該当するものに全てに○を付けてください。	18. 地域密着型老人福祉施設入所者生活介護 19. 看護小規模多機能型居宅介護 20. 介護老人福祉施設 21. 介護老人保健施設 22. 介護療養型医療施設 23. 介護医療院 24. サービス付き高齢者向け住宅 25. 有料老人ホーム 26. 養護老人ホーム、軽費老人ホーム(ケアハウス、A、B) 27. 旧高齢者専用賃貸住宅 28. 地域包括支援センター(在宅介護支援センター) 29. 病院 30. 診療所 31. 歯科診療所
問 1-5 要介護度別の利用者数(実人数)(令和元年9月)	

合計	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	申請中		
人	人	人	人	人	人	人		
問 1-6 認知症高齢者の日常生活自立度別の利用者数(実人数)(令和元年9月)								
合計	自立	I	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IV	M
人	人	人	人	人	人	人	人	人

問 1-7 令和元年9月1か月間の利用者数(実人数)  
問 1-8 職員数(令和元年 10 月 1 日時点)

※1:1人が複数の職種に該当する場合は、該当する全ての職種に計上ください。

①常勤職員	②非常勤職員(常勤換算※2)
1)管理者	2)非常勤職員(常勤換算※2)
人	人
3)訪問介護員等	4)看護職員
人	人
	5)その他職員
	人
	6)全職員数
	人

※2:常勤換算数の算出:「職員の一週間の労働時間÷貴事業所・貴施設の所定労働時間」にて算出し、小数点以下第二位を四捨五入して小数点第一位まで計上してください。

問1-9	同一法人内の他事業所にリハ専門職等 <sup>※1</sup> は在籍していますか。また、それらのリハ専門職等は貴事業所・貴施設等、法人内において助言を行っていますか。(令和元年10月1日時点)(○は1つ) ※1:リハ専門職等とは、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士又は医師のこと指します。 ※2:リハビリテーション専門医、病院や診療所のリハビリテーション科等に従事する医師のことを指します。	②助言を行っていますか	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ
1)	理学療法士	①在籍していますか	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ
2)	作業療法士	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ
3)	言語聴覚士	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ
4)	病院・診療所のリハビリテーション専門医 <sup>※2</sup>	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ
5)	病院・診療所の医師(リハビリテーション専門医 <sup>※2</sup> 以外)	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ
6)	訪問リハビリテーション又は通所リハビリテーションの医師	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ

問1-10	利用者のADLやIADL <sup>※</sup> をどのような指標を用いて定期的に評価していますか。(あてはまるもの全てに○)	1. BI 2. FIM 3. その他( ) 4. 定期的な評価は行っていない
-------	--	--

## II. 加算の算定状況についてお伺いします

### ○生活機能向上連携加算の算定状況

問2-1	令和元年9月における生活機能向上連携加算の算定有無、生活機能向上連携加算の算定に合致する取組の実施状況、利用者の実人数、加算算定にあたり連携したリハ専門職等の実人数についてお伺いします。(○は1つ)	生活機能向上連携加算(Ⅰ) 1. 算定している(利用者実人数: )人、リハ専門職等の実人数 2. 生活機能向上連携加算(Ⅰ)の算定に合致する取組を行っているが、算定していない 3. 生活機能向上連携加算(Ⅰ)の算定に合致する取組を行っていない
生活機能向上連携加算(Ⅱ) 1. 算定している(利用者実人数: )人、リハ専門職等の実人数 2. 生活機能向上連携加算(Ⅱ)の算定に合致する取組を行っているが、算定していない 3. 生活機能向上連携加算(Ⅱ)の算定に合致する取組を行っていない		

### ○生活機能向上連携加算の算定によるメリット等

<問2-2は、問2-1で生活機能向上連携加算(Ⅰ)(Ⅱ)のいずれかに「1. 算定している」、「2. 生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っているが、算定していない」とご回答の場合に、ご回答ください>

問2-2 生活機能向上連携加算の算定による利用者のメリットとして考えられることは何ですか。対象とする利用者の生活機能向上連携加算を適用する前の状態(要介護1、2と要介護3～5)別にご回答ください。

	①要介護1、2の利用者			②要介護3～5の利用者				
	全くあてはまらない	ある程度あてはまる	とてもあてはまる	全くあてはまらない	ある程度あてはまる	とてもあてはまる		
1) 専門的な視点を踏まえ定期巡回・随時対応型訪問介護看護計画を作成できた	1	2	3	4	1	2	3	4
2) 一定時間座位の保持ができるようになり、座って食事ができるようになるなど、利用者にとって良い効果につながった	1	2	3	4	1	2	3	4
3) 食事や清掃、洗濯、買物など利用者のできることが増えた	1	2	3	4	1	2	3	4
4) 椅子やテーブルの高さ、配置など、生活環境面での助言を受けることができた	1	2	3	4	1	2	3	4
5) その他( )	1	2	3	4	1	2	3	4

問2-3	リハ事業所等(※1)との連携(※2)によって定期巡回・随時対応型訪問介護看護計画はどの程度改善されたと感じますか。 ※1:リハ事業所等とは、通所リハビリテーション事業所、訪問リハビリテーション事業所、リハビリテーションを実施している医療提供施設を指します。 ※2:連携とは、生活機能向上連携加算の算定のために外部(※3)のリハ専門職等が調査対象事業所・施設への訪問等を行い、利用者へのアセスメントや調査対象事業所・施設への助言を共同で行うことを指します。 ※3:外部とは、貴事業所・貴施設以外の主体を指します。	1. とも改善された 2. 少し改善された 3. 変わらない 4. 少し悪くなった 5. とても悪くなった
------	--	---

問2-4	連携の結果、職員の機能訓練やケア方法など貴事業所・貴施設にとってどのようなメリットがありましたか。(あてはまるもの全てに○)	1. 職員のケアの質が向上した 2. 利用者の状態や希望に応じたケアの機会が増えた 3. 介護職員等が安心して働けるようになった 4. 貴事業所・貴施設が提供するケアの幅が広がった 5. 介護職員等の業務負担の軽減につながった 6. 介護職員等の教育につながった 7. 経営上のメリットがあった 8. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護計画の内容に見守りの援助が増えた 9. 生活機能の向上に関するデータ管理やデータの活用力が向上した 10. その他( )
------	--	--

<問2-5は、問2-1で生活機能向上連携加算(Ⅰ)(Ⅱ)のいずれかに「1. 算定している」とご回答の場合に、ご回答ください>

問2-5	貴事業所・貴施設が令和元年9月1か月間の生活機能向上連携加算の算定にあたり連携した全てのリハ事業所等に支払うべき報酬の総額をご記入ください。 なお複数の月額あたりの契約を締結している場合には1か月分に変算した金額をご計上ください。	生活機能向上連携加算(Ⅰ) 円	生活機能向上連携加算(Ⅱ) 円
------	--	--------------------	--------------------

### ○生活機能向上連携加算を算定しない理由等

<問2-6は、問2-1で生活機能向上連携加算(Ⅰ)(Ⅱ)のいずれかに「2. 生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っているが、算定していない」とご回答の場合に、ご回答ください>

問2-6 生活機能向上連携加算に該当する業務を行っているが、算定しない理由をお答えください(あてはまるもの全てに○)

1. 加算の意義や必要性が感じられないため
2. 加算の適用対象者としてどの利用者を選定して良いかわからないため
3. 加算の適用を必要とする利用者がいないため
4. 利用者・家族への説明の機会を作ることが難しいため
5. 加算算定により利用者負担が増えるが、負担に見合う加算のメリットを説明するノウハウがないため
6. 利用者・家族の理解が得られないため
7. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護計画の作成が難しいため
8. 加算の算定に必要な要件がわからないため
9. 加算の算定に取り組み余裕がないため
10. かかるコスト・手間に比べて単位数が割に合わないため
11. その他( )

<問2-7は、問2-1で生活機能向上連携加算(Ⅰ)(Ⅱ)のいずれかに「3. 生活機能向上連携加算の算定に合致する取組を行っていない」とご回答の場合に、ご回答ください>

問2-7 生活機能向上連携加算の存在をご存知でしたか。

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

<問2-8は、問2-7で「1. 知っている」とお答えになった場合にお答えください>

問2-8 生活機能向上連携加算(Ⅰ)(Ⅱ)を算定していない理由として該当するもの全てに○を付けてください。	①生活機能向上連携加算(Ⅰ)	②生活機能向上連携加算(Ⅱ)
1) 自立支援や介護予防の重要性について十分に理解できないため		
2) 加算の意義や必要性が感じられないため		
3) 事業所・貴施設に既にリハ専門職等が在籍しており、連携する必要性がないため		
4) 事業所・貴施設が人手不足の状況にあり、利用者の生活の維持に注力すること以外のことを行う余裕がないため		
5) 加算の適用対象としての利用者を選定して良いかわからないため		
6) 加算の適用を必要とする利用者がいないため		
7) 利用者・家族への説明の機会を作ることが難しかったため		
8) 加算定により利用者負担が増えるが、負担に見合う加算のメリットを説明するノウハウがないため		
9) 利用者・家族の理解が得られないため		
10) 外部のリハ事業所等との連携が難しかったため		
11) 加算の算定に必要な要件がわからなかったため		
12) 加算の算定に取り組み余裕がないため		
13) かかるコスト・手間に比べて単位数が割に合わないため		
14) その他( )		

<問2-9は、問2-1で生活機能向上連携加算(Ⅰ)に「2. 生活機能向上連携加算(Ⅰ)の算定に合致する取組を行っているが、算定していない」f3. 生活機能向上連携加算(Ⅰ)の算定に合致する取組を行っていない」とご回答の場合に、ご回答ください>

問2-9 ICTが活用できた場合、加算が算定できると思いますが。	1. 思う	2. 思わない
----------------------------------	-------	---------

### ○ICTの活用について

<問2-10は、問2-1で生活機能向上連携加算(Ⅰ)の「1. 算定している」に○をつけ、算定人数が1人以上の場合にお答えください>

問2-10 生活機能向上連携加算(Ⅰ)の算定にあたりICTを活用しましたか。活用した場合は人数をお答えください。

	1. はい( )	人
	2. いいえ	

### ○ICTを活用している場合

<問2-11~2-15は、問2-10で「1. はい」とお答えになった方がお答えください>

問2-11 ICTを活用した利用者の状態の把握方法として該当するもの全てに○を付けてください。	1. 動画	2. テレビ電話	3. その他( )
問2-12 活用しているICTの機器として該当するもの全てに○を付けてください。	1. パソコン	2. スマートフォン	3. タブレット端末
問2-13 活用しているICTの機器は誰が購入していますか。該当するもの全てに○を付けてください。	1. 貴事業所・貴施設	2. リハ事業所等	3. その他( )
問2-14 利用者一人に対してICTを活用する平均的な頻度についてお答えください。	【計画作成時】: 平均( )回	【計画作成後から3ヶ月後までの間】: 平均( )回	
問2-15 ICTを活用した影響についてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)	1. 利用者の自宅を訪問する必要がないので、リハ専門職等の協力が得やすくなった		
	2. 利用者の状態が気になったたびにすぐに確認ができるようになった		
	3. 訪問の回数が減って職員の負担が軽減された。		
	4. 利用者の状態を対面で評価する場合同时に変わりがなく評価できる		
	5. 動画等では十分な確認ができなかった。		
	6. その他( )		

### ○ICTを活用していない場合

<問2-16は、問2-10で「2. いいえ」とお答えになった方がお答えください>

問2-16 ICTを活用していない理由として該当するもの全てに○を付けてください。	1. 訪問による対応が可能であるため
	2. リハ専門職等の事前の調整が難しいため
	3. ICTの導入費用の負担が大きいため
	4. ICTの維持費用の負担が大きいため
	5. ICTの使用方法が難しいため
	6. 利用者に心理的負担がかかるため
	7. 利用者の状態を十分に把握できないと思うため
	8. 利用者の同意を得ることが難しいため
	9. 利用者の個人情報取扱いが難しいため
	10. ICTを利用してみたが、利用者の状態を十分に確認することができなかったため
	11. その他( )

### Ⅲ. 外部との連携状況についてお伺いします

問3-1 貴事業所・貴施設の近隣地域において、リハ専門職等を派遣しているリハ事業所等をご存じですか。(○は1つ)	1. 知っているリハ事業所等があり、連絡を取ったことがある
	2. 知っているリハ事業所等があるが、連絡を取ったことはない
	3. 知らない

<令和元年10月1日時点における状況をお伺い致します。該当する連携先が複数ある場合には、定期巡回・随時対応型訪問介護看護計画を作成する上で最も連携が多い連携先についてご記入ください>

問3-2 生活機能の向上を目指して利用者の定期評価を行っていますか。	1. はい	2. いいえ
------------------------------------	-------	--------

問3-3 現在、定期巡回・随時対応型訪問介護看護計画を作成する上で外部のリハ事業所等と連携していますか。(○は1つ)	1. 連携している
	2. 連携を試みたが断念した
	3. 連携を試みていない

### ○連携している理由等

<問3-4~3-13は、問3-3で「1. 連携している」とご回答の場合、ご回答ください>

問3-4 連携している理由についてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)	1. 専門的な視点を踏まえ定期巡回・随時対応型訪問介護看護計画を作成できるため
	2. 介護職員等の教育につながるため
	3. 利用者のサービス向上につながるため
	4. 経営上のメリットがあるため
	5. その他( )

問3-5 貴事業所・貴施設が令和元年9月に連携している外部のリハ事業所等(以下、問3において連携先と呼称)の件数をご記入下さい。	件
<問3-6~問3-12は、令和元年9月において利用者数ベースで最も多く連携している1つの連携先を想定してご回答ください>	
問3-6 連携先は貴事業所・貴施設と同一法人か否かについてご記入ください。(○は1つ)	1. 同一法人
	2. 別法人(グループ法人)
問3-7 連携先となる事業所・施設(○は1つ)	1. 指定訪問リハビリテーション事業所
	2. 指定通所リハビリテーション事業所
	3. 病院
	4. 診療所
	5. 介護老人保健施設
	6. 介護療養型医療施設
	7. 介護医療院

<問3-8は、問3-7で「3. 病院」と答えられた方がお答えください>

問3-8 問3-7でご回答になられた病院の許可病床数と周辺の診療所の状況についてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)	1. 許可病床数が200床未満である
	2. 許可病床数が200床以上である
	3. 半径4キロメートル以内に診療所が存在しない
	4. 半径4キロメートル以内に診療所が存在する

問3-9 連携している職種として該当するものについてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)	1. 理学療法士
	2. 作業療法士
	3. 言語聴覚士
	4. 医師

問3-10 連携先による貴事業所・貴施設への訪問頻度についてお伺いします。(○は1つ)	1. 3ヶ月に1回
	2. 2ヶ月に1回
	3. 1ヶ月に1回
	4. 1ヶ月に2回以上
	5. その他( )

問3-11 連携先が貴事業所・貴施設へ訪問する曜日・日付はあらかじめ決まっていますか。(○は1つ)	1. 事前に決まった曜日・日付で訪問する。
	2. 必要に応じて都度日程を調整し訪問する。
	3. その他( )

**IV 生活機能の向上を目的とした取組の実施状況についてお尋ねします。**

<問 4-1～問 4-4 は、問 2-1 で生活機能向上連携加算（1）（Ⅱ）のいずれかに「1. 算定している」とご回答の場合に、ご回答ください>

問 4-1 令和元年9月の1ヶ月間に生活機能向上連携加算の算定により連携したリハ専門職等の職種と、その対象となつた利用者の課題の組み合わせとして、該当するものを全てに○をつけてください。（あてはまるもの全てに○）

課題	ADL							IADL				その他			
	食事	排泄	入浴	更衣	整容	移動	屋内移動	階段昇降	屋外移動	洗濯	掃除		起き上がり	立ち上がり	福祉用具の活用等による生活環境の改善
職種															
1) 理学療法士															
2) 作業療法士															
3) 言語聴覚士															

問 4-2 令和元年9月の1ヶ月間に生活機能向上連携加算の算定により連携したリハ専門職等の職種と、その対象となつた利用者の課題の組み合わせとして、該当するものを全てに○をつけてください。（あてはまるもの全てに○）

職種	課題				福祉用具の活用等による生活環境の改善	家族への介護の方法の指導
	病院・診療所の医師（リハビリテーション専門医以外）	訪問リハビリテーション又は通所リハビリテーションの医師	口腔機能向上	栄養改善		
1) 病院・診療所のリハビリテーション専門医						
2) 病院・診療所の医師（リハビリテーション専門医以外）						
3) 訪問リハビリテーション又は通所リハビリテーションの医師						

問 4-3 問 4-2 の内容の他に、令和元年9月の1ヶ月間に生活機能向上連携加算の算定により連携した医師が対応した利用者の課題についてお答えください。（自由記述）

問 4-4 問 4-1、問 4-2 で得られた助言は具体的にどのようなものですか。効果的とお考えの助言について、その助言者の職種と助言内容をお答えください。（自由記述）

質問は以上です。ご協力ありがとうございます。ありがとうございました。

問 3-12 連携先と連携を継続する上で課題があれば、該当するものに○をつけてください。

1. 貴事業所・貴施設の職員に連携の必要性を理解させることが難しい  
 2. 連携先が3ヶ月に1回以上訪問する事が難しい  
 3. 職員が忙しく共同でアセスメントや計画等を見直すための時間が取れない  
 4. 貴事業所・貴施設として採算が取れない  
 5. 連携先に十分な対価を支払うことができない  
 6. その他（ ）  
 7. 課題はない

問 3-13 令和元年 10月1日時点で連携している主なリハ事業所等は、平成 30 年 4 月以降に初めて連携を始めましたか。(○は1つ)

1. はい  
 2. いいえ

**○連携していない理由等**

<問 3-14、問 3-15 は、問 3-3 で「2. 連携を試みていない」とお答えになった場合にお答えください>

問 3-14 連携していない理由についてお伺いします。（あてはまるもの全てに○）

1. 貴事業所・貴施設に定期巡回・随時対応型訪問介護看護計画を作成できる職員がおり連携自体、不要と考えているため
2. 利用者が拒否するため
3. 連携先候補となるリハ事業所等が地域に存在しないため
4. 連携先候補となるリハ事業所等が地域に存在するから分らないため
5. 連携先候補となるリハ事業所等に連携を依頼することに心理的な負担を感じるため
6. 連携先候補となるリハ事業所等への依頼の仕方が分からないため
7. 連携先候補への報酬単価の基準をどのように設定すれば良いかわからないため
8. 連携先候補と契約を締結することや、報酬単価を調整することに負担を感じるため
9. 連携先候補と報酬面の条件が折り合わないため
10. 連携先候補と連携頻度に関する条件が折り合わないため
11. 連携先候補と連携内容に関する条件が折り合わないため
12. 利用者の状態等の評価を共同で行うことが難しい
13. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護計画の作成が難しいため
14. その他（ ）
- 問 3-15 外部のリハ専門職等との連携の必要性を感じていますか。(○は1つ)
1. はい 2. いいえ

<問 3-16 は、全ての方がお答えください>

問 3-16 直近1年間(平成 30 年 10 月～令和元年 9 月)に、貴事業所・貴施設の利用を終えた者を訪問リハビリテーション・通所リハビリテーションの利用につなげた実績はありますか。(○は1つ)

1. ある 2. ない

<問 3-17 は、問 3-16 で「2. ない」とお答えになった場合にお答えください>

問 3-17 問 3-16 で「2. ない」と回答した理由は、何ですか。（あてはまるもの全てに○）

1. 対象となる利用者が存在しないため

2. 対象となる利用者が拒否するため

3. 対象となる利用者を選定することが難しいため

4. ケアマネジャーがケアプランに位置づけていないため

5. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所が地域に存在しないため

6. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所が地域に存在するから分らないため

7. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所に連携を依頼することに心理的な負担を感じるため

8. 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション事業所への依頼の仕方が分からないため

E	ID	調査票			
<p>平成30年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査(令和元年度調査) 介護サービスにおける機能訓練の状況等に係る調査研究一式 【機能訓練指導員の確保に関する調査 調査票】</p>					

○調査事務局よりお問い合わせをさせて頂く場合がございますのでご回答者様のご氏名等についてお伺いします。

ご氏名	貴事業所・貴施設名
電話番号	メールアドレス

・以下では、特に断りのない限り、令和元年10月1日現在の状況についてお答えください。

**I. 事業所の基本属性についてお尋ねします。**

問1 法人種別 1. 社会福祉法人 2. 医療法人 3. 特定非営利活動法人  
4. 株式会社 5. 株式会社以外の営利法人 6. その他 ( )

問2 種類・施設区分 以下の1)~6)に該当するサービス種別の場合、該当する選択肢をお選びください。(○は1つ)  
1. 地域密着型  
2. 通常規模型  
3. 大規模事業所 (I) (月平均利用延人数 750人以下)  
4. 大規模事業所 (II) (月平均利用延人数 901人以上)

1) 通所介護  
1. 単独型 2. 併設型 3. 空床型  
4. 単独ユニット型 5. 併設ユニット型 6. 空床ユニット型

2) 短期入所生活介護  
1. 単独型 2. 併設型 3. 共同型

3) 認知症対応型通所介護  
1. 有料老人ホーム (2. 除く) 2. サービス付き高齢者向け住宅  
3. 軽費老人ホーム 4. 養護老人ホーム

4) 特定施設入居者生活介護  
1. 広域型 (ユニット型) 2. 地域密着型  
3. 広域型 (ユニット型) 4. 地域密着型 (ユニット型)

5) 介護老人福祉施設

<問3、問4は特定施設入居者生活介護の場合にご回答ください>

問3 特定施設入居者生活介護の指定 1. 一般型 (介護) 2. 一般型 (介護予防) 3. 地域密着型

問4 サービスの提供形態 1. 一般型 2. 外部サービス利用型

問5 定員数 ※短期入所生活介護の空床型、空床ユニット型の方は回答不要 人

<問6は通所介護の場合にご回答ください>

問6 通所介護の実施日数(令和元年9月) 日

問7 併設・隣接事業所及び施設サービス(同一建物内もしくは隣接する敷地内で提供しているサービス)について、該当するものに全てに○を付けてください。

18. 訪問介護	地域密着型老人福祉施設入所者生活介護
19. 訪問入浴介護	看護小規模多機能型居宅介護
20. 訪問看護	介護老人福祉施設
21. 訪問リハビリテーション	介護老人保健施設
22. 通所介護	介護療養型医療施設
23. 通所リハビリテーション	介護医療院
24. 通所入所生活介護・療養介護	サービス付き高齢者向け住宅
25. 特定施設入居者生活介護	有料老人ホーム
26. 福祉用具貸与・販売	養護老人ホーム、軽費老人ホーム (ケアハウス、A、B)
27. 居宅介護支援	高齢者専用賃貸住宅
28. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護	地域包括支援センター (在宅介護支援センター)
29. 夜間対応型訪問介護	病院
30. 地域密着型通所介護	診療所
31. 認知症対応型通所介護	歯科診療所
32. 小規模多機能型居宅介護	
33. 認知症対応型共同生活介護	
34. 地域密着型特定施設入居者生活介護	

問8 要介護度別利用者数(実人数)(令和元年10月1日時点)

合計	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中
人	人	人	人	人	人	人

問9 認知症高齢者の日常生活自立度別利用者数(実人数)(令和元年10月1日時点)	I	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IV	M
合計	人	人	人	人	人	人	人

問10 職員数(令和元年10月1日時点) 1人が複数の職種に該当する場合は該当する全ての職種に計上してください。

	①常勤職員(実人数)	②非常勤職員(実人数)	③常勤換算人数(※)	④常勤職員(実人数)	⑤非常勤職員(実人数)	⑥常勤換算人数(※)
1)計画作成担当者	人	人	人	7)介護支援専門員	人	人
2)機能訓練指導員	人	人	人	8)介護職員	人	人
3)生活相談員	人	人	人	9)栄養士	人	人
4)サービス提供責任者	人	人	人	10)調理員	人	人
5)医師	人	人	人	11)オペレーター	人	人
6)看護職員	人	人	人	12)全職員数	人	人

※：常勤換算数の算出：「職員の1週間の労働時間÷貴事業所・貴施設の所定労働時間」にて算出し、小数点以下第二位を四捨五入して小数点第一位まで計上してください。常勤職員、非常勤職員を合算して下さい。

問11 機能訓練指導員(常勤職員、非常勤職員のいずれも)として登録している職員の保有する全ての資格に○を付けてください(令和元年10月1日時点)。

貴事業所・貴施設に機能訓練指導員が11人以上いる場合には、大変恐れ入りますが本設問(問11)と同様の表(様式自由)に11人以上以降の状況をご記入頂き、本調査票に添付してご提出をお願い致します。

	1) 看護師	2) 准看護師	3) 理学療法士	4) 作業療法士	5) 言語聴覚士	6) 柔道整復師	7) あん摩マッサージ指圧師	8) はり師	9) きゅう師
1) 人目									
2) 人目									
3) 人目									
4) 人目									
5) 人目									
6) 人目									
7) 人目									
8) 人目									
9) 人目									
10) 人目									

<問11-2は、問11で「1)看護師」から「7)あん摩マッサージ指圧師」に○を付けておらず「8)はり師」「9)きゅう師」の少なくとも1つに○を付けた機能訓練指導員(以下、該当する機能訓練指導員という)がいる場合にご回答ください>

問11-2 該当する機能訓練指導員が過去に実務経験を積んだ事業所(①)および実務経験を積んだ際の職種(②)についてお伺いします。

該当する機能訓練指導員が6人以上いる場合には、大変恐れ入りますが本設問(問11-2)と同様の表(様式自由)に6人目以降の状況をご記入頂き、本調査票に添付してご提出をお願い致します。

	①実務経験を積んだ事業所・施設(あてはまるもの全てに○)	②実務経験を積んだ際の職種(あてはまるもの全てに○)
1) 人目	1. 現在所属している事業所・施設 2. その他	1. 生活相談員 2. 介護職員 3. その他
2) 人目	1. 現在所属している事業所・施設 2. その他	1. 生活相談員 2. 介護職員 3. その他
3) 人目	1. 現在所属している事業所・施設 2. その他	1. 生活相談員 2. 介護職員 3. その他
4) 人目	1. 現在所属している事業所・施設 2. その他	1. 生活相談員 2. 介護職員 3. その他
5) 人目	1. 現在所属している事業所・施設 2. その他	1. 生活相談員 2. 介護職員 3. その他

**Ⅱ. 機能訓練指導員の状況についてお尋ねします。**

問12 真事業所・真施設において平成30年3月と令和元年9月のそれぞれ1か月間について、個別機能訓練計画等を1度でも作成したことがある職種をお答えください。(あてはまるもの全てに○)

	①平成30年3月	②令和元年9月
1) 機能訓練指導員(看護師)		8) 機能訓練指導員(はり師)
2) 機能訓練指導員(准看護師)		9) 機能訓練指導員(きゆう師)
3) 機能訓練指導員(理学療法士)		10) 看護職員
4) 機能訓練指導員(作業療法士)		11) 介護職員
5) 機能訓練指導員(言語聴覚士)		12) 生活相談員
6) 機能訓練指導員(柔道整復師)		13) その他の職種の職員
7) 機能訓練指導員(あん摩マッサージ指圧師)		

問13 令和元年9月の1ヶ月間に個別機能訓練計画を作成した機能訓練指導員と、その個別機能訓練計画の対象となった利用者の課題の組み合わせとして、該当するもの全てに○をつけてください。(あてはまるもの全てに○) ※機能訓練指導員欄の「1人目」～「10人目」の方は、問11でご回答された「1人目」～「10人目」と同一の方としてご回答ください。

貴事業所・貴施設に機能訓練指導員が11人以上いる場合には、大変恐れ入りますが本設問(問13)と同様の表をご準備頂き(様式自由)11人目以降の状況をご記入頂き、本調査票に添付してご提出をお願いします。

課題	ADL										起居動作				その他		
	食事	排泄	入浴	更衣	整容	移乗	屋内移動	階段昇降	屋外移動	調理	洗濯	掃除	起き上がり	立ち上がり	立位	福祉用具の 利用等に よる生活環境 の改善	家族への 介護方法 の指導
機能訓練指導員																	
1人目																	
2人目																	
3人目																	
4人目																	
5人目																	
6人目																	
7人目																	
8人目																	
9人目																	
10人目																	

問14 平成28年10月～平成30年3月(下表①)および平成30年4月～令和元年9月(下表②)の2つの期間における機能訓練指導員又は機能訓練指導員ではないはり師、きゆう師を雇用するための募集の有無(下表ア)、また募集に対する応募の有無(下表イ)について、該当する資格等に○を付けてください。また①、②に示す期間に雇用した人数(雇用後退職した人数もご計上下さい)を下表ウにご記入ください。

ア) 募集の有無(但し黒塗りは除く)。  
イ) 応募の有無(但し黒塗りは除く)。  
ウ) 雇用人数(計上ください)。

	①平成28年10月～平成30年3月			②平成30年4月～令和元年9月		
	ア) 募集の有無 ※該当がある場合に○	イ) 応募の有無 ※該当がある場合に○	ウ) 雇用人数 (人)	ア) 募集の有無 ※該当がある場合に○	イ) 応募の有無 ※該当がある場合に○	ウ) 雇用人数 (人)
1) 看護師						
2) 准看護師						
3) 理学療法士						
4) 作業療法士						
5) 言語聴覚士						
6) 柔道整復師						
7) あん摩マッサージ指圧師						
8) はり師(応募時点で機能訓練指導員としての実務要件を満たしている)						
9) 8のうち1～7)の資格を保有しない人						
10) きゆう師(応募時点で機能訓練指導員としての実務要件を満たしていない)						
11) 10のうち1～7)の資格を保有しない人						
12) はり師(応募時点で機能訓練指導員としての実務要件を満たしていない)						
13) きゆう師(応募時点で機能訓練指導員としての実務要件を満たしていない)						
14) はり師						
15) 14のうち1～7)の資格を保有しない人						
16) きゆう師						
17) 16のうち1～7)の資格を保有しない人						

問15 平成30年3月時点における管理者ははり師又はきゆう師でしたか。(○は1つ)

1. 管理者は、はり師又はきゆう師の資格を持つ者ではない  
2. 管理者は、はり師の資格を持つ者であった  
3. 管理者は、きゆう師の資格を持つ者であった  
4. 管理者は、はり師及びきゆう師の資格を持つ者であった

**○機能訓練指導員の資格を保有しているはり師、きゆう師を雇用した理由等**

問16、問17は問14の②(平成30年4月～令和元年9月)の「8」、「10」のいずれかのウ)の欄に1人以上の数字をご回答の場合に、ご回答ください。>

問16 機能訓練指導員の資格があるはり師又はきゆう師を雇用した理由について最も近い理由をお答えください。(○は1つ)

1. 機能訓練指導員の確保のため(人手不足の解消)。  
2. 機能訓練の内容を見直すため  
3. その他( )

問17 はり師・きゆう師が追加になった事で貴事業所がお感じになったメリットとして該当するもの全てに○をつけてください。

1. 機能訓練指導員不足の解消につながった  
2. 機能訓練の内容を見直すことができた  
[→具体的なことの上記に向上したかご記入ください]  
3. 特にない  
4. その他( )

○機能訓練指導員としての実務要件を満たしていないはり師、きゅう師を雇用した理由等

<問 18 は問 14 の②(平成 30 年 4 月～令和元年9月)の「12」、「13」のいずれかのウ)の欄に1人以上の数字をご回答の場合、ご回答ください>

<p>問 18 機能訓練指導員としての実務要件を満たしていないはり師又はきゅう師を雇用した理由について最も近い理由をお答えください。(○は1つ)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>機能訓練指導員の確保のため(人手不足の解消)。</li> <li>機能訓練の内容を見直すため</li> <li>貴事業所・貴施設で6か月間の実務経験を積み、機能訓練指導員となれるため</li> <li>貴事業所・貴施設がはり師、きゅう師の関連法人等と関わりがあったため</li> <li>その他( )</li> </ol>
--	--

○はり師、きゅう師を雇用していない理由等

<問 19 は、問 14 の②の「9」、「11」～「13」の全てのウ)の欄に0人とご回答の場合に、ご回答ください>

<p>問 19 はり師又はきゅう師の資格のみを有する者を雇用していない理由として該当するもの全てに○をつけてください。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>既に機能訓練指導員が充足しているため</li> <li>はり師・きゅう師を雇用したいが、見つからないため</li> <li>はり師・きゅう師を雇用したいが、コスト面で負担が大きいため</li> <li>はり師・きゅう師を雇用したいが、機能訓練指導員になるまでの実務要件が阻害要因となるため</li> <li>その他( )</li> </ol>
---	--

<問 20 は、問 19 で「4. はり師・きゅう師を雇用したいが、機能訓練指導員になるまでの実務要件が阻害要因となるため」とご回答の場合に、ご回答ください>

<p>問 20 阻害要因となった実務要件についてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>実務経験として必要な6か月間という期間が長い。</li> <li>実務経験としてどのような指導をすれば良いのかわからない。</li> <li>はり師きゅう師に実務経験を積ませるための人的な余裕がない。</li> <li>わからない</li> <li>その他( )</li> </ol>
--	---

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

F1

ID

調査票 2

平成 30 年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査(令和元年度調査)  
介護サービスにおける機能訓練の状況等に係る調査研究一式  
【生活機能向上連携加算の算定事業所・施設 利用者票】

利用者の状況について利用者票でお伺いしますが、ご記入頂きました内容について後日、調査事務局より問い合わせをさせて頂く場合がございますので、貴事業所・貴施設におかれまして利用者票に記入した利用者をご特定できるようにご留意下さいませよう宜しくお願い致します。

○調査事務局よりお問い合わせさせて頂く場合がございますのでご回答者様のご氏名等についてお伺いします。

ご氏名	貴事業所・貴施設名
電話番号	メールアドレス

・以下では、特に断りのない限り、令和元年 10 月 1 日現在の状況についてお答えください。

利用者の調査対象区分についてお伺いします。

問 0 本調査票で調査対象とする利用者の調査対象区分(※)をお伺いします。

- 調査対象区分 1
- 調査対象区分 2

※調査対象区分については、同封した調査要綱をご参照ください。

I. ご回答者様(あなた)についてお伺いします。

問 1 ご回答者様の職種についてお伺いします。(○は1つ) ※機能訓練指導員である看護職員である場合には選択肢 4 をお選びください	<ol style="list-style-type: none"> <li>医師</li> <li>計画作成担当者</li> <li>生活相談員</li> <li>機能訓練指導員</li> <li>看護職員(※)</li> <li>介護職員</li> <li>その他( )</li> </ol>
---	--

II. 利用者の基本情報についてお伺いします。

問 2 年齢 ( ) 歳	問 3 性別	1. 男	2. 女
問 4 傷病名 (あてはまるもの全てに○)	<ol style="list-style-type: none"> <li>高血圧</li> <li>脳卒中(脳出血・脳梗塞等)</li> <li>心臓病</li> <li>糖尿病</li> <li>高脂血症(脂質異常症)</li> <li>呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等)</li> <li>腎臓・前立腺の病気</li> <li>腎臓系(腎臓)の病気(慢性腎臓病)</li> <li>がん(外傷(転倒・骨折等)</li> <li>がん(前立腺)</li> <li>がん(脳腫瘍)</li> <li>認知症(アルツハイマー病等)</li> <li>血液・免疫の病気</li> <li>パーキンソン病</li> <li>耳の病気</li> <li>その他の(具体的な)病気</li> <li>21. ない</li> </ol>		

問 5 貴事業所・貴施設の利用開始時期 ( ) 年( ) 月

問 6 貴事業所・貴施設が生活機能向上連携加算の算定に伴う連携を開始した時期 ( ) 年( ) 月

問 7 平成 29 年以降の退院の有無と直近の入院期間  
1)退院有無 1.あり 2.なし 2)直近の入院期間 ( ) 年( ) 月～( ) 年( ) 月

問 8 ADL、IADL の状況 以下の各欄に、「1:自立」、「2:見守り」、「3:一部介助」、「4:全介助」の 1～4 のうちあてはまる数字をご記入ください。

①生活機能向上連携加算の算定に伴う連携の開始時点	食事		排泄		入浴		更衣		整容		移乗	
	食事 移行	食事 移行	排泄 移行	排泄 移行	入浴 移行	入浴 移行	更衣 移行	更衣 移行	整容 移行	整容 移行	掃除 移行	掃除 移行
②令和元年 10 月 1 日時点												

問 9 ケアプラン(居宅サービス計画又は特定施設サージス計画)の目標(あてはまるもの全てに○)	<ol style="list-style-type: none"> <li>生活機能向上連携加算の算定に伴う連携の開始時点</li> <li>健康管理</li> <li>意欲の向上</li> <li>ADL 向上</li> <li>閉じこもり予防</li> <li>その他( )</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>健康管理</li> <li>意欲の向上</li> <li>ADL 向上</li> <li>閉じこもり予防</li> <li>その他( )</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>健康機能の維持</li> <li>療養上のケアの提供</li> <li>IADL 維持</li> <li>社会参加支援</li> <li>心身機能の向上</li> <li>療養上のケアの提供</li> <li>IADL 維持</li> <li>社会参加支援</li> <li>心身機能の維持</li> <li>療養上のケアの提供</li> <li>IADL 維持</li> <li>社会参加支援</li> <li>心身機能の向上</li> <li>ADL 維持</li> <li>IADL 向上</li> <li>介護負担軽減</li> </ol>
---	---	--	---

**Ⅲ. 生活機能向上連携加算の算定状況等についてお問い合わせ**

問 10	生活機能向上連携加算の算定状況をお伺い致します。(あてはまるもの全てに○)	1) 訪問介護、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、小規模多機能型居宅介護の場合 2) 上記以外のサービス種別の場合	1. 生活機能向上連携加算(Ⅰ) 2. 生活機能向上連携加算(Ⅱ)
問 11	生活機能向上連携加算の算定を主に誰が提案しましたか。(○は1つ)	1. 計画作成担当者(担当のケアマネジャー) 2. 外部のリハ専門職等 3. 貴事業所・貴施設内部(1.計画作成担当者(担当のケアマネジャー)を除く) 4. 利用者本人・家族 5. その他( )	3. 生活機能向上連携加算
問 11-2	生活機能向上連携加算の算定を提案した理由(あてはまるもの全てに○) ※連携加算は訪問介護・小規模多機能型居宅介護・定期巡回・随時対応型訪問介護の方のみお答えください。	1. リハ専門職等が関わるため利用者・家族が安心してもらえると考えたこと 2. 利用者の身体機能の維持・向上につながると考えたこと 3. 利用者の意欲が向上する適切な目標設定ができたと考えたこと 4. 利用者の生活上の活動や家庭や社会への参加につながると考えたこと 5. 利用者の重度化防止につながるかと考えたこと 6. 利用者が希望した具体的な生活目標の達成に近づくと考えたこと 7. ICT を通じてこれまで以上に頻繁に状態を確認してもらい利用者・家族が安心して考えたこと 8. その他	
問 12	生活機能向上連携加算の算定により連携している外部の職種(あてはまるもの全てに○)	1. 理学療法士 2. 作業療法士 3. 言語聴覚士 4. 医師	
問 13	個別機能訓練計画等(※)の内容に対応する利用者の課題(あてはまるもの全てに○)	1. 食事 2. 排泄 3. 入浴 4. 更衣 5. 整容 6. 移乗 7. 屋内移動 8. 屋外移動 9. 階段昇降 10. 調理 11. 洗濯 12. 掃除	
※認知症対応型共同生活介護の場合は「認知症対応型生活介護計画」、訪問介護の場合は「訪問介護計画」、定期巡回・随時対応型訪問介護看護の場合は「定期巡回・随時対応型訪問介護看護計画」、小規模多機能型居宅介護の場合は「小規模多機能型居宅介護計画」と読み替えてお答えください(以下も同様)。			
問 14	外部のリハ専門職等の助言により個別機能訓練計画等に反映した主な内容について、具体的な課題(問 13の選択肢から1つ選び①に記入する)とその具体的な助言内容(②に記入)をご記載ください。また、その助言がどの程度参考になったかについて③でお答えください。	①課題 ②助言内容	
③どの程度参考になったか	1. 非常に参考になった 2. やや参考になった 3. あまり参考にならなかった 4. 全く参考にならなかった		
問 15	外部のリハ専門職等の助言により、助言を受ける前と比べ利用者の個別機能訓練計画等ほどの程度改善しましたか。(○は1つ)	1. 連携する前は利用者の個別機能訓練計画等は作成していませんでしたためどの程度改善したかは回答できません。 2. 全く改善していません 3. あまり改善していません 4. ある程度改善した 5. とても改善した	
問 15-2	具体的に助言を受ける前と比べどのように変わったのかについてご記入ください。(自由記述)		
問 16	生活機能向上連携加算の算定によりリハ専門職等と連携して個別機能訓練計画等を作成した事により利用者が享受したメリットについてお伺いします。(あてはまるもの全てに○) ※連携加算は訪問介護・小規模多機能型居宅介護・定期巡回・随時対応型訪問介護の方のみお答えください。	1. リハ専門職等が関わるため利用者・家族が安心したこと 2. 利用者の身体機能の維持・向上につながったこと 3. 利用者の意欲が向上する適切な目標設定ができたこと 4. 利用者の生活上の活動や家庭や社会への参加につながったこと 5. 利用者の重度化防止につながったこと 6. 利用者が希望した具体的な生活目標の達成に近づいたこと 7. ICT を通じてこれまで以上に頻繁に状態を確認してもらい利用者・家族が安心したこと 8. その他( )	
問 17	生活機能向上連携加算の適用による外部のリハ専門職等の助言により、認知症の利用者の方のBPSDの表出状況に変化はありましたか。(○は1つ)	1. 認知症ではない 2. BPSDの表出状況に変化はない 3. BPSDの表出が減少した 4. BPSDの表出が増加した 5. BPSDの表出状況に変化があったか否かわからない	

問 18	利用者が他に利用しているサービスをお答えください。ご存じの範囲で結構です。(あてはまるもの全てに○)	①生活機能向上連携加算の算定前 ②生活機能向上連携加算の算定以後
1)	訪問介護	
2)	訪問入浴介護	
3)	訪問看護	
4)	訪問リハビリテーション	
5)	居宅療養管理指導	
6)	通所介護	
7)	通所リハビリテーション	
8)	短期入所生活介護	
9)	短期入所療養介護	
10)	特定施設入居者生活介護	
11)	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	
12)	夜間対応型訪問介護	
13)	認知症対応型通所介護	
14)	小規模多機能型居宅介護	
15)	認知症対応型共同生活介護	
16)	複合型サービス	

質問は以上です。ご協力ありがとうございます。

F2	ID	調査票 2
<p>平成 30 年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査(令和元年度調査) 介護サービスにおける機能訓練の状況等に係る調査研究一式 【生活機能向上連携加算の非算定事業所・施設 利用者票】</p>		

利用者の状況について利用者票でお伺いしますが、ご記入頂きました内容について後日、調査事務局より問い合わせをさせて頂く場合がございますので、  
貴事業所・貴施設におかれましては利用者票に記入した利用者をご特定できるようにご留意下さいませますようお願い致します。

○調査事務局よりお問い合わせをさせて頂く場合がございますのでご回答者様のご氏名等についてお伺いします。

ご氏名	貴事業所・貴施設名
電話番号	メールアドレス

・以下では、特に断りのない限り、令和元年 10 月 1 日現在の状況についてお答えください。  
**利用者の調査対象区分についてお伺いします。**

問 0 本調査票で調査対象とする利用者の調査対象区分(※)をお伺いします。

1. 調査対象区分1
2. 調査対象区分2

※調査対象区分については、同封した調査要綱をご参照ください。

**I. ご回答者様(あなた)についてお伺いします。**

問 1 ご回答者様の職種についてお伺いします。(○は1つ)

※機能訓練指導員である看護職員である場合には選択肢 4 をお選びください

1. 医師	2. 計画作成担当者	3. 生活相談員
4. 機能訓練指導員	5. 看護職員(※)	6. 介護職員
7. その他		

**II. 利用者の基本情報についてお伺いします。**

問 2 年齢 ( ) 歳	問 3 性別	1. 男	2. 女
問 4 傷病名 (あてはまるものを全てに○)	1. 高血圧 2. 脳卒中(脳出血・脳梗塞等) 3. 心臓病 4. 糖尿病 5. 高脂血症(脂質異常症) 6. 呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等) 7. 胃腸・肝臓・胆のうの病気 8. 腎臓・前立腺の病気 9. 肺結核の病気(菌種は不明) 10. 外傷(転倒・骨折等) 11. がん(新生物) 12. 血液・免疫の病気 13. うつ病・精神疾患 14. 認知症(アルツハイマー病等) 15. パーキンソン病 16. 目の病気 17. 耳の病気 18. 歯科疾患 19. その他の難病 20. その他(具体的に ) 21. ない		

問 5 貴事業所・貴施設の利用開始時期 ( ) 年( ) 月

問 6 平成 29 年以降の退院の有無と直近の入院期間

1)退院有無	1.あり	2.なし
2)直近の入院期間	( ) 年( ) 月～( ) 年( ) 月	( ) 年( ) 月～( ) 年( ) 月

問 7 利用者の課題(あてはまるものを全てに○)

問 8 ADL、IADL の状況 以下の各欄に、「1:自立」、「2:見守り」、「3:一部介助」、「4:全介助」の 1～4 のうちあてはまる数字をご記入ください。

①平成 30 年 4 月 1 日時点	食事		排泄		入浴		更衣		整容		移乗	
	屋内移動											
②令和元年 10 月 1 日時点												

問 9 ケアプラン(居室サービス計画)又は特定施設サービス計画の目標(あてはまるものを全てに○)

①平成 30 年 4 月 1 日時点	1. 健康管理 4. 意欲の向上 7. ADL 向上 10. 閉じこもり予防 13. その他( )	2. 心身機能の維持 5. 療養上のケアの提供 8. IADL 維持 11. 社会参加支援	3. 心身機能の向上 6. ADL 維持 9. IADL 向上 12. 介護負担軽減
②令和元年 10 月 1 日時点	1. 健康管理 4. 意欲の向上 7. ADL 向上 10. 閉じこもり予防 13. その他( )	2. 心身機能の維持 5. 療養上のケアの提供 8. IADL 維持 11. 社会参加支援	3. 心身機能の向上 6. ADL 維持 9. IADL 向上 12. 介護負担軽減

問 10 利用者の ADL、IADL の状況や利用者の課題から判断して、リハ専門職等(※)との連携がどの程度必要だと思いますか。(○は1つ) ※リハ専門職等は、理学療法士、作業療法士、言語療法士又ははり/はり師/作業療法士、言語療法士、言語聴覚士をいう。

1. とても必要である  
 2. ある程度必要である  
 3. あまり必要ではない  
 4. 必要ではない

<問 11は、問 10 で「1. とても必要である」、「2. ある程度必要である」とご回答の場合に、ご回答ください>

問 11 同一法人内における、リハ専門職等の有無および本調査票の対象となる利用者に関わらず連携しているか否かについてお答えください。(○は1つ)

1. リハ専門職等がいて、連携している  
 2. リハ専門職等がいるが、連携していない  
 3. リハ専門職等がいない

問 12 利用者が他に利用しているサービスをお答えください。ご存じの範囲で結構です。(あてはまるものを全てに○)

1. 訪問介護	2. 訪問入浴介護	3. 訪問看護
4. 訪問リハビリテーション	5. 在宅療養管理指導	6. 通所介護
7. 通所リハビリテーション	8. 短期入所生活介護	9. 短期入所療養介護
10. 特定施設入居者生活介護	11. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護	12. 夜間対応型訪問介護
13. 認知症対応型通所介護	14. 小規模多機能型居宅介護	15. 認知症対応型共同生活介護
16. 複合型サービス		

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

G ID

調査票 3

平成 30 年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査(令和元年度調査)
介護サービスにおける機能訓練の状況等に係る調査研究一式

【ケアマネジャー一票】

調査票の記入欄: 氏名, 電話番号, 貴事業所・貴施設名, メールアドレス

以下では、特に断りのない限り、令和元年 10 月 1 日現在の状況についてお答えください。

1. 貴事業所・貴施設の基本属性についてお尋ねします。

問 1 法人種別, 問 2 貴事業所・貴施設は調査対象事業所・施設(※)とどのような関係ですか。(○は1つ)

※調査対象事業所・施設とは、本調査票をご回答者様へに渡し本調査への協力を依頼した事業所・施設のことを指します。

<問 2 で「1. 調査対象事業所・施設と同一事業所・施設」とご回答の場合、問 5 からご回答ください>

問 3 併設施設, 問 4 令和元年 10 月 1 日時点における貴事業所の職員体制についてお伺い致します。

職員体制表: 常勤職員(実人数), 非常勤職員(実人数), 常勤換算人数(※)

※常勤換算数の算出: 「職員の一週間の労働時間÷貴事業所の所定労働時間」にて算出し、小数点以下第二位を四捨五入して小数点第一位まで計上してください。

II. 外部機関との連携・調整の状況についてお伺いします。

<以下の設問は、調査対象事業所・施設の利用者のケアプランに生活機能向上連携加算を適用した最も主要なケアマネジャーの方がご回答ください>

問 5 ご回答者様のケアマネジャーとしての業務経験年数(通算年数) ( )年 ( )か月

<以下の設問は、調査対象事業所・施設の利用者のうち、令和元年9月の 1 か月間に生活機能向上連携加算を算定した全ての利用者をご回答下さい>

問 6 調査対象事業所・施設とリハ事業所等(※1)とが生活機能向上連携加算の算定に必要な連携(※2)をする前の時点から、貴事業所・貴施設(ご回答者様)は調査対象事業所・施設の連携先であるリハ事業所等をご存じでしたか(○は1つ)。

1. 連携する前より知っており、連絡を取ったことがある 2. 連携する前より知っていたが、連絡を取ったことはない

※1: リハ事業所等とは、通所リハビリテーション事業所、訪問リハビリテーション事業所、リハビリテーションを実施している医療提供施設を指します (以下においても同様)。

※2: 連携とは、生活機能向上連携加算の算定にあたりリハビリテーション事業所又は医療提供施設と共同でアセスメント・カンファレンスを指します (以下においても同様)。

問 7 調査対象事業所・施設が生活機能向上連携加算を算定する上で連携するリハ事業所等は、貴事業所・貴施設とどのような関係にありますか。(○は1つ)

1. 貴事業所・貴施設と同一法人である 2. 貴事業所・貴施設と異なる法人である

問 8 調査対象事業所・施設とリハ事業所等との連携にあたり、貴事業所・貴施設は事前に何らかの関与(※)をされましたか。

1. 関与した 2. 関与していない

※関与とは、調査対象事業所・施設やリハ事業所等に対する連携先に関する情報提供や、リハ事業所等の担当者が利用者を事前訪問する際の日程調整等を指します。

問 9 調査対象事業所・施設の利用者に対する生活機能向上連携加算の適用は、主にどの主体による働きかけにより行われることが多いですか。(あてはまるものを全てに○)

1. 貴事業所・貴施設 2. 調査対象事業所・施設 3. リハ事業所等 4. 利用者・家族 5. その他( )

問 10 調査対象事業所・施設とリハ事業所等とが連携することで機能訓練等に関する事項等、専門的な知見が新たに計画に反映されたと思えますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

<問 11 は、問 10 で「1. はい」とご回答の場合に、ご回答ください。>

問 11 専門的な知見が新たに計画に計画に反映されたことにより最も改善したと考える計画について、どのように改善されましたか。(あてはまるものを全てに○)

1. 見守りの援助に関する内容が増えた 2. ADL や IADL の維持向上に関する内容が増えた 3. 社会参加に関する内容が増えた 4. サービス全般の利用頻度が減少した 5. 他のサービスの利用に移行した 6. その他( )

問 12 リハ事業所等が携わった上で個別機能訓練計画等(※)を作成した事により利用者様が享受したメリットについてお伺いします。(あてはまるものを全てに○)

1. リハ専門職等が携わるため利用者・家族が安心したこと 2. 利用者の身体機能の維持・向上につながったこと 3. 利用者の意欲が向上する適切な目標設定ができたこと 4. 利用者の生活上の活動や家庭や社会への参加につながったこと 5. 利用者の重篤化防止につながったこと 6. 利用者が希望した具体的な生活目標の達成に近づいたこと 7. ICT を通じてこれまでに以上に頻繁に状態を確認してもらい利用者・家族が安心したこと 8. その他( )

※選択肢 7 は調査対象事業所・施設が訪問介護・小規模多機能型居宅介護、定期巡回・随時対応型訪問介護看護の方向のみお答えください。

※調査対象事業所・施設が、認知症対応型共同生活介護の場合は「認知症対応型共同生活介護計画」、訪問介護の場合は「訪問介護計画」、定期巡回・随時対応型訪問介護看護の場合は「定期巡回・随時対応型訪問介護看護計画」、小規模多機能型居宅介護の場合は「小規模多機能型居宅介護計画」と読み替えてお答えください。

問 13 調査対象事業所・施設がリハ事業所等と連携していることにより、貴事業所・貴施設が作成するケアプランの内容の見直しに何らかの良い影響があるとお考えですか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

H	ID	調査票 4
<p>平成30年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査(令和元年度調査) 介護サービスにおける機能訓練の状況等に係る調査研究一式 【リハビリテーション事業所・医療提供施設票】</p>		
<p>○調査事務局よりお問い合わせをさせて頂く場合がございますのでご回答者様のご氏名等についてお伺いします。</p>		
ご氏名	貴事業所・貴施設名	
電話番号	メールアドレス	

・以下では、特に断りのない限り、令和元年10月1日現在の状況についてお答えください。

**I. 貴事業所・貴施設の基本属性についてお尋ねします。**

問1 法人種別	1. 社会福祉法人	2. 医療法人	3. その他( )
問2 種類	1. 指定訪問リハビリテーション事業所 3. 病院 5. 介護老人保健施設 7. 介護医療院	2. 指定通所リハビリテーション事業所 4. 診療所 6. 介護療養型医療施設	
問3 貴事業所・貴施設は調査対象事業所・施設(※)とどのような関係ですか。(○は1つ)	1. 調査対象事業所・施設 (※)とどのような関係ですか。(○は1つ)	2. 調査対象事業所・施設とは別の法人	

※調査対象事業所・施設とは、本調査票をご回答者様に渡した調査への協力を依頼した事業所・施設のことを指します。

**II. 連携状況についてお尋ねします。**

<以下は生活機能向上連携加算の算定にあたり、リハビリテーション専門職や医師(以下、リハ専門職等と表す)を調査対象事業所・施設へ派遣する状況をご回答ください>

問4 調査対象事業所・施設と連携(※1)する動機となった事項についてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)	<p>1. 専門的な視点を踏まえ個別機能訓練計画等(※2)を作成できたため</p> <p>2. 利用者の安心につながるためと考えたため</p> <p>3. 経営上のメリットがあるためと考えたため</p> <p>4. 調査対象事業所・施設から要請があったため</p> <p>5. 地域ケア会議等の場で連携について議論したため</p> <p>6. 自団体から要請があったため</p> <p>7. その他( )</p>
--	--

※1:連携とは、生活機能向上連携加算の算定のために貴事業所・貴施設のリハ専門職等が調査対象事業所・施設への訪問等を行い、利用者やケアのニーズに合わせたケアの提供を行うことを指します。(以下も同様)

※2:認知症対応型共同生活介護の場合は「認知症対応型共同生活介護計画」、訪問介護の場合は「訪問介護計画」、定期巡回・随時対応型訪問介護看護の場合は「定期巡回・随時対応型訪問介護看護計画」、小規模多機能型居宅介護の場合は「小規模多機能型居宅介護計画」と読み替えてお答えください(以下も同様)。

問5 調査対象事業所・施設と連携する上で工夫した点についてご記入ください。(自由記述)	
問6 調査対象事業所・施設と連携する上で困難を感じた事項についてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)	<p>1. 外部に派遣するだけの人材がないこと</p> <p>2. 連携の意義や必要性について貴事業所・貴施設の管理者が十分に理解していないこと</p> <p>3. 調査対象事業所・施設のリハ専門職等の専門性について理解してもらおうこと</p> <p>4. 連携先候補と報酬面の条件を調整すること</p> <p>5. 連携先候補と連携頻度に関する条件を調整すること</p> <p>6. 連携先候補と業務内容に関する条件を調整すること</p> <p>7. 連携する上での課題はない</p> <p>8. その他( )</p>

問7 調査対象事業所・施設で実施した業務についてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)	<p>1. ADL・身体機能・認知機能等の評価を行った</p> <p>2. 機能訓練の内容への助言</p> <p>3. 日常生活における介護の留意点や工夫等について助言した</p> <p>4. その他( )</p>
問8 1人の利用者における1回の生活機能向上連携加算の算定に、貴事業所・貴施設では平均的にどの程度の時間を費やしていますか。移動時間も含まれてお答えください。	<p>1)リハ専門職等 合計( )時間</p> <p>2)その他事務職員 合計( )時間</p>
問9 連携先と連携したことによる貴事業所・貴施設のメリットとして考えられることは何ですか。(あてはまるもの全てに○)	<p>1. 専門的な視点を踏まえ個別機能訓練計画等を作成できたこと</p> <p>2. 経営上のメリットがあったこと</p> <p>3. 地域の事業所・施設とのつながりが確保できるようになったこと</p> <p>4. 地域の要請に応えられたこと</p> <p>5. その他( )</p>

<以下は、令和元年9月1か月間に調査対象事業所・施設と連携した際に関わった全ての利用者を想定してご回答ください>

問10 以下の①欄の1.~6.のうち、実際に助言した内容として当てはまるもの全てに○をつけてください。また①欄に○をつけたそれぞれ助言により、個別機能訓練計画等(※)はどの程度改善されたと感じますか。助言の内容ごとに②欄に○をつけてください。	①助言の内容	②個別機能訓練計画等の改善の状況
1. 動作アセスメントのポイントに関するもの		1. とても改善された 2. やや改善された 3. 変わらない 4. やや悪くなった 5. とても悪くなった
2. 運動メニューに関するもの		1. とても改善された 2. やや改善された 3. 変わらない 4. やや悪くなった 5. とても悪くなった
3. 食事、清掃、洗濯など日常生活上の留意点に関するもの		1. とても改善された 2. やや改善された 3. 変わらない 4. やや悪くなった 5. とても悪くなった
4. 椅子やテーブルの配置など生活環境面での助言		1. とても改善された 2. やや改善された 3. 変わらない 4. やや悪くなった 5. とても悪くなった
5. 社会参加活動の実施に関するもの		1. とても改善された 2. やや改善された 3. 変わらない 4. やや悪くなった 5. とても悪くなった
6. その他( )		1. とても改善された 2. やや改善された 3. 変わらない 4. やや悪くなった 5. とても悪くなった

問11 連携先の調査対象事業所・施設の職員の専門性は高まったと考えていますか(○は1つ)	<p>1. はい 2. いいえ 3. 変わらない 4. その他( )</p>
問12 連携の結果、調査対象事業所・施設の職員の機能訓練やケア方法にどのような変化がありましたか。(あてはまるもの全てに○)	<p>1. 職員のケアの技術が向上した</p> <p>2. 利用者の状態や希望に応じたケアの機会が増えた</p> <p>3. ケアを行う際に多職種(連携先以外の職種も含む)で連携して対応する機会が増えた</p> <p>4. その他( )</p>
問13 連携して個別機能訓練計画等を作成した事により利用者が享受したメリットについてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)	<p>1. リハ専門職等が携わるため利用者・家族が安心したこと</p> <p>2. 利用者の身体機能の維持・向上につながったこと</p> <p>3. 利用者の意欲が向上する適切な目標設定ができたこと</p> <p>4. 利用者の生活上の活動や家庭や社会への参加につながったこと</p> <p>5. 利用者の重度化防止につながったこと</p> <p>6. 利用者が希望していた具体的な生活目標の達成に近づいたこと</p> <p>7. ICTを通じてこれまで以上に頻りに状態を確認してもらい利用者・家族が安心したこと</p> <p>8. その他( )</p>
問14 今後も連携先との連携を継続していきたいと考えていますか。(○は1つ)	<p>1. はい 2. いいえ 3. わからない</p>

問15 同一法人・他法人の介護事業所や施設に対して、生活機能向上連携加算という報酬が存在することや報酬の内容について周知したことがありますか(①)。周知したことがありますか(②)。	①周知の経験	②前向きな反応の有無
1)同一法人に対して	1. ある 2. ない	1. ある 2. ない
2)他法人に対して	1. ある 2. ない	1. ある 2. ない

### ○ICTの活用について

<問 16 以降の設問は、調査対象事業所・施設が、訪問介護、小規模多機能型居宅介護、定期巡回・随時対応型訪問介護看護のいずれかである場合に、お答えください>

問 16 調査対象事業所・施設の利用者について生活機能向上連携加算(Ⅰ)を算定しましたか。	1. はい 2. いいえ
---	-----------------

<問 17は、問 16で「1. はい」とご回答の場合、ご回答ください>

問 17 生活機能向上連携加算(Ⅰ)の算定にあたり、調査対象事業所・施設の利用者の状態を把握するために ICT を活用しましたか。活用した場合は人数をお答えください。	1. はい( 人) 2. いいえ
---	---------------------

### ○ICTを活用している場合

<問 18～22は、問 17で「1. はい」とお答えになった方がお答えください>

問 18 ICTを活用した利用者の状態の把握方法として該当するもの全てに○を付けてください。	1. 動画 2. テレビ電話 3. その他( )
問 19 活用している ICT の機器として該当するもの全てに○を付けてください。	1. パソコン 2. スマートフォン 3. タブレット端末 4. その他( )
問 20 活用している ICT の機器は誰が購入していますか。該当するもの全てに○を付けてください。	1. 貴事業所・貴施設 2. 調査対象事業所・施設 3. その他( )
問 21 利用者一人に対して ICT を活用する平均的な頻度についてお答えください。	【計画作成時】: 平均( 回) 【計画作成後から3ヶ月後までの間】: 平均( 回)
問 22 ICT を活用した影響についてお伺いします。(あてはまるもの全てに○)	1. 利用者の自宅を訪問する必要がないので、調査対象事業所・施設との連携がしやすくなった 2. 利用者の状態が気になったたびにすぐに確認ができるようになった 3. 訪問の回数が減って貴事業所・貴施設の職員の負担が軽減された。 4. 利用者の状態を対面で評価する場合と特に関わりなく評価できる 5. 動画等では十分な確認ができなかった。 6. その他( )

### ○ICTを活用していない場合

<問 23は、問 17で「2. いいえ」とお答えになった方がお答えください>

問 23 ICT を活用していない理由として該当するもの全てに○を付けてください。	1. 訪問による対応が可能であるため 2. 以前から生活機能向上連携加算(Ⅰ)を算定しているため 3. 調査対象事業所・施設との事前の調整が確しいため 4. ICT の導入費用の負担が大きいため 5. ICT の維持費用の負担が大きいため 6. ICT の使用方法が難しいため 7. 利用者に関理的負担がかかるため 8. 利用者の状態を十分に把握できないと思うため 9. 利用者の同意を得ることが難しいため 10. 利用者の個人情報取扱いが難しいため 11. ICT を利用してみたが、利用者の状態を十分に確認することができなかったため 12. その他( )
---	--

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。